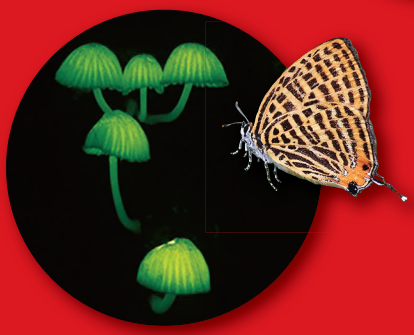
RED DATA BOOK













保全上重要なわかやまの自然

和歌山県レッドデータブック【2022年改訂版】













和歌山県



保全上重要なわかやまの自然

和歌山県レッドデータブック【2022年改訂版】

『和歌山県レッドデータブック』の改訂にあたって



和歌山県は、紀伊半島の南西部に位置しており、県土の大部分を占める山々は四季を通して変化に富んだ自然景観を映し出し、約650 km におよぶ海岸線には名所景勝地となる貴重な地形・地質が数多く残るなど、全国に誇る自然環境を有しています。また、気候にも恵まれ、黒潮の影響により、温暖で雨量が多く、森・川・里・海では学術的にも重要な動植物が数多く生息・生育するなど、豊かな生態系が形成されています。

我々は自然や生態系から多くの恩恵を享受して生活しております。県では、このような自然環境や生態系サービスを未来へ継承するため、「生物多様性和歌山戦略」を策定し、自然環境や生態系の保全・継承の指針を示すとともに、貴重な自然林の保護や自然公園の見直し、保全を担う次世代人材の育成、シンポジウムの開催など種々の施策を展開してきました。また、稀少生物保護に関しては、採集を規制するだけではなく、生息環境を一緒に守るようにしなければ効果がないため、県指定の天然記念物は、特別な場合を除き、県内全域を対象とした種指定ではなく、本当に守るべき生息・生育地域を限定指定し、生息環境ごと保護することとしています。私自身も昆虫少年として自然と深く関わりながら成長してきましたので、現場を知る者として、先頭に立って自然環境や生態系保全の政策を進めています。

レッドデータブックは、自然環境や稀少動植物に対する関心を高め、理解を深める資料として、平成 13 年に初めて『保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－』を、平成 24 年に『2012 年改訂版』を発刊し、多くの方々にご活用いただいております。その後、動植物の生息・生育状況の変化を確認するため、平成 28 年から現場に精通した自然愛好家の方々が専門調査員となって現地調査等を開始し、この度、調査結果や学術的知見等がまとまりましたので、『2022 年改訂版』を発刊するに至りました。

今回は、新たに「菌類」と「その他無脊椎動物」を追加し、10 分類群・1,655 種の稀少生物を掲載するとともに、その多くを写真付きで紹介するなど、更なる内容の充実と分かりやすさに努めました。加えて、貴重な動植物が多く生息・生育する生態系が連続する地域等を「生物多様性保全上注目すべき地域」として掲載・解説しております。

本書によって、和歌山県の稀少動植物や自然環境の現況が広く認識され、自然や生態系の保全に関する取組が加速することを期待しております。

最後に、本書の作成にあたり、7 年間の長きにわたって、調査活動や種の選定、原稿執筆等に御尽力いただきました 48 名の専門調査員の皆様には、心から感謝申し上げるとともに、生物情報や写真提供などに御協力いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げ、改訂にあたっての御挨拶といたします。

令和 4 年 11 月

和歌山県知事　仁　坂　吉　伸

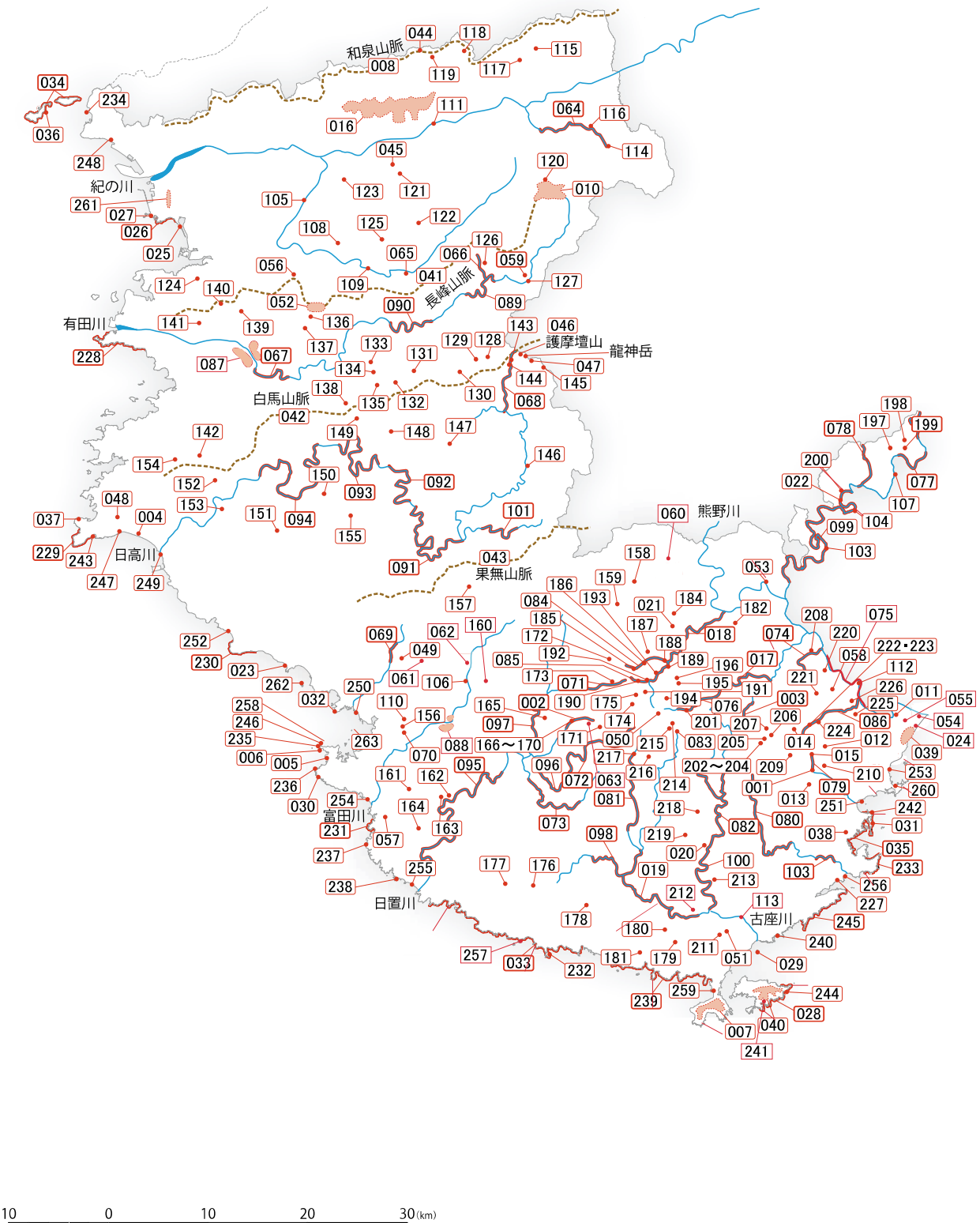
和歌山県の市町村



平成16年10月1日以降に合併した市町村		
18年 4月 1日	●岩出市誕生(単独市制施行)	
18年 3月 1日	●橋本市誕生	●白浜町誕生
18年 1月 1日	●紀美野町誕生	●有田川町誕生
17年11月 7日	●紀の川市誕生	
17年10月 1日	●新宮市誕生	●かつらぎ町誕生
17年 5月 1日	●田辺市誕生	●日高川町誕生
17年 4月 1日	●海南市誕生	●串本町誕生
16年10月 1日	●みなべ町誕生	

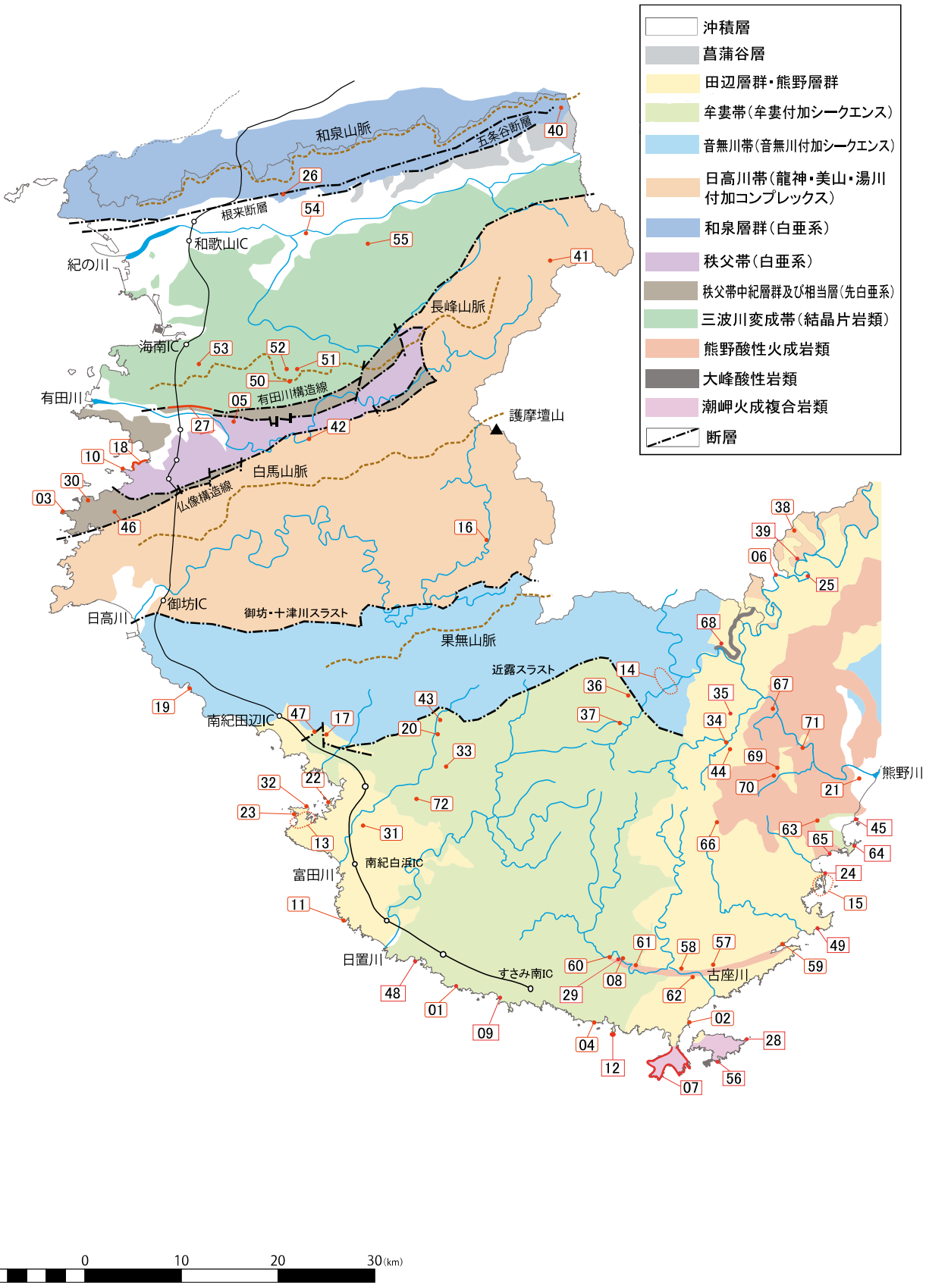
地形位置図

図中の番号は地形の選定結果一覧表の整理番号に対応する。



地質位置図

図中の番号は地質の選定結果一覧表の整理番号に対応する。



生物多様性保全上注目すべき地域



哺乳類



オオカミ（EX）
（和歌山大学教育学部所蔵標本）（桑原英文）



ヒメヒミズ（CR + EN）
（清水善吉）



ニホンウサギコウモリ（CR + EN）
（清水善吉）（県外撮影）



ノレンコウモリ（CR + EN）
（細田徹治）



テングコウモリ（VU）
（清水善吉）（県外撮影）



ヤチネズミ（VU）
（清水善吉）（県外撮影）



ニホンモモンガ（VU）
（西田安則）



ツキノワグマ（VU）
（林　育造）

鳥　類



ミゾゴイ（CR）
（沼野正博）



ヤマセミ（CR）
（沼野正博）



ブッポウソウ（CR）
（沼野正博）（県外撮影）



ヤイロチョウ（CR）
（沼野正博）



コマドリ（CR）
（沼野正博）



ヨシゴイ（EN）
（沼野正博）



タマシギ（EN）
（沼野正博）



クマタカ（EN）
（沼野正博）

鳥　類



アカショウビン（EN）
（沼野正博）



トモエガモ（VU）
（沼野正博）



クロサギ（VU）
（沼野正博）



ナベヅル（VU）
（沼野正博）



アオバズク（VU）
（沼野正博）



フクロウ（VU）
（沼野正博）



ハヤブサ（VU）
（沼野正博）



サンコウチョウ（VU）
（沼野正博）

鳥　類



ウチヤマセンニュウ（VU）
（沼野正博）



コルリ（VU）
（沼野正博）



オシドリ（NT）
（沼野正博）



カッコウ（NT）
（沼野正博）（県外撮影）



ミサゴ（NT）
（沼野正博）



ハチクマ（NT）
（沼野正博）



ハイタカ（NT）
（沼野正博）



サシバ（NT）
（沼野正博）

鳥　類



トラツグミ（NT）
（沼野正博）



ウミネコ（SI）
（沼野正博）

爬虫類



アオウミガメ（NT）
（平井厚志）



アカウミガメ（NT）
（平井厚志）



ニホンイシガメ（NT）
（竹中利明）



ニホンスッポン（DD）
（竹中利明）

両生類



オオダイガハラサンショウウオ
（CR + EN）（玉井済夫）



ニホンアカガエル（抱接）
（CR + EN）（玉井済夫）



セトウチサンショウウオ（VU）
（弓場武夫）



マホロバサンショウウオ（NT）
（玉井済夫）



ニホンイモリ（アカハライモリ）
（NT）（弓場武夫）



ニホンヒキガエル（抱接）
（NT）（玉井済夫）



ナガレヒキガエル（NT）
（玉井済夫）



ヤマアカガエル（NT）
（玉井済夫）

両生類



ツチガエル（NT）（抱接）
（玉井済夫）



トノサマガエル（NT）
（玉井済夫）



モリアオガエル（NT）（抱接）
（鈴木慶太）



カジカガエル（NT）
（玉井済夫）

魚　類



サツキマス（アマゴ）（CR + EN）
（國島大河）



カマキリ（アユカケ）（CR + EN）
（國島大河）



タビラクチ（CR + EN）
（國島大河）



アカメ（VU）
（揖　善継）



イドミミズハゼ（VU）
（平嶋健太郎）



オオウナギ（NT）
（揖　善継）



コマハゼ（NT）
（平嶋健太郎）



ゴマハゼ（NT）
（平嶋健太郎）

魚　類



ルリヨシノボリ（NT）
（平嶋健太郎）



イトヒゲモジャハゼ（NT）
（國島大河）



ホシキカイウツボ（DD）
（揖　善継）



カマツカ（DD）
（國島大河）



カワヨウジ（DD）
（平嶋健太郎）



アカウオ（DD）
（平嶋健太郎）



オオシマドジョウ（SI）
（國島大河）



シマヒレヨシノボリ（SI）
（平嶋健太郎）

昆虫類



オオヒョウタンゴミムシ（CR + EN）
（的場　績）



イッシキキモンカミキリ（CR + EN）
（的場　績）



ウラキンシジミ（CR + EN）
（大橋弘和）



クロツバメシジミ（CR + EN）
（大橋弘和）



セアカオサムシ（VU）
（梅本　実）



ダイミョウアトキリゴミムシ（VU）
（的場　績）



キンスジコガネ（VU）
（的場　績）



オオシロオビゾウムシ（VU）
（的場　績）

昆虫類



フジミドリシジミ（VU）
（大橋弘和）



オオウラギンスジヒョウモン（VU）
（大橋弘和）



カワラバッタ（NT）
（的場　績）



ハンミョウ（NT）
（金岡晃司）



シロスジコガネ（NT）
（的場　績）



コカブト（NT）
（的場　績）



キンイロネクイハムシ（NT）
（後藤雅則）



コカタビロゾウムシ（NT）
（的場　績）

昆虫類



ツマグロキチョウ（NT）
（大橋弘和）



ヒサマツミドリシジミ（NT）
（大橋弘和）



クロシジミ（NT）
（大橋弘和）



クモガタヒョウモン（NT）
（大橋弘和）



オオムラサキ（NT）
（大橋弘和）



シルビアシジミ（DD）
（大橋弘和）



ツシマキモンチラシ（DD）
（的場　績）



ウスグロボタル（SI）
（的場　績）

昆虫類



ナンキセダカコブヤハズカミキリ（SI）
（梅本　実）



ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ（SI）
（的場　績）



カスミゾウムシ（SI）
（的場　績）



ルーミスシジミ（SI）
（大橋弘和）



ウラナミアカシジミ
紀伊半島南部亜種（SI）（大橋弘和）

貝　類



オカミミガイ（EX）
（池辺進一）



ワカウラツボ（CR + EN）
（池辺進一）



ツブカワザンショウ（CR + EN）
（池辺進一）



カワネジガイ（CR + EN）
（池辺進一）



マルクチコギセル（CR + EN）
（湊　宏）



カスガコギセル（CR + EN）
（湊　宏）



シロモリサキギセル（CR + EN）
（湊　宏）



ヒロクチコギセル（CR + EN）
（湊　宏）

貝　類



ヒラマキビロウドマイマイ（CR + EN）
（湊　宏）



ナチマイマイ（CR + EN）
（湊　宏）



オウギウロコガイ（CR + EN）
（三長秀男）



スナウロコムシヤドリガイ（CR + EN）
（後藤龍太郎）



セムシマドアキガイ（VU）
（三長秀男）



フネアマガイ（VU）
（三長秀男）



サナギモツボ（VU）
（三長秀男）



タケノコカワニナ（VU）
（前岩　崇）

貝　類



スジウネリチョウジガイ（VU）
（三長秀男）



ゴマツボ（VU）
（三長秀男）



マルタニシ（VU）
（池辺進一）



ミツクリギセル（VU）
（湊　宏）



クロズギセル（VU）
（湊　宏）



イボイボナメクジ（VU）
（湊　宏）



サドヤマトガイ（VU）
（湊　宏）

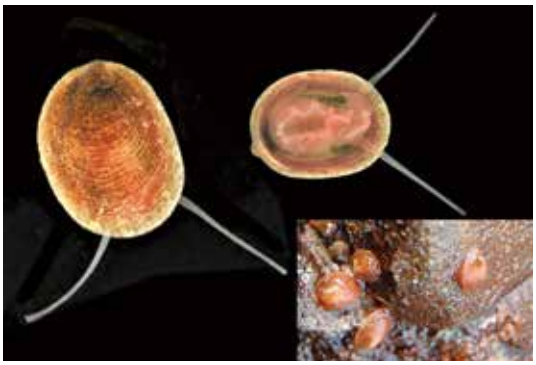


ヤマモトゴマオカチグサ（VU）
（和田太一）

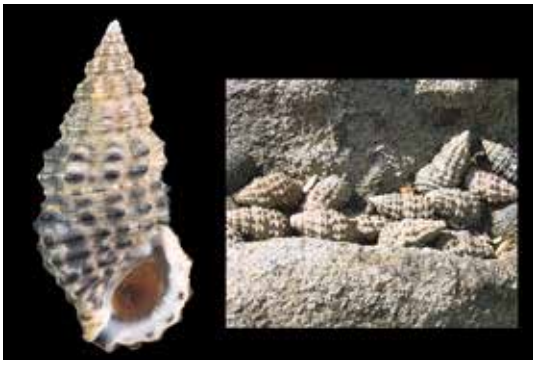
貝　類



セワケガイ（VU）
（三長秀男）



ヒナユキスズメ（NT）
（三長秀男）



カヤノミカニモリ（NT）
（三長秀男）



ナギツボ（NT）
（三長秀男）



クラエノハマイトカケギリ（NT）
（三長秀男）



ヒメタマゴマイマイ（NT）
（湊　宏）



ナガオカモノアラガイ（NT）
（湊　宏）



ニッポンマメアゲマキ（NT）
（三長秀男）

貝　類



マツモトウロコガイ（NT）
（三長秀男）



マゴコロガイ（NT）
（三長秀男）



ヒメヤカタ（SI）
（三長秀男）



イノウエヤマトガイ（SI）
（湊　宏）



イトカケギセル（SI）
（湊　宏）



シゲオマイマイ（SI）
（湊　宏）



マツカサガイ（SI）
（池辺進一）

その他無脊椎動物



カブトガニ（EX）
（県外産；和田恵次）



カネコトタテグモ（CR + EN）
（関根幹夫）



シオマネキ（CR + EN）
（和田恵次）



クシテガニ（VU）
（和田恵次）



ウメボシイソギンチャク（NT）
（和田恵次）



ムギワラムシ（NT）
（和田恵次）



ヒトハリザトウムシ（NT）
（県外産；鶴崎展巨）



コウヤスベザトウムシ（NT）
（県外産；鶴崎展巨）

その他無脊椎動物



マングローブテッポウエビ（NT）
（野村恵一）



ウチノミカニダマシ（NT）
（県外産；渡部哲也）



オキナワヤワラガニ（NT）
（渡部哲也）



マキトラノオガニ（NT）
（渡部哲也）



ミナミトラノオガニ（NT）
（渡部哲也）



ウモレベンケイガニ（NT）
（和田恵次）



マメアカイソガニ（NT）
（和田恵次）



ミナミアシハラガニ（NT）
（和田恵次）

その他無脊椎動物



カワスナガニ（NT）
（和田恵次）



オサガニ（NT）
（県外産；和田恵次）



スナガニ（NT）
（和田恵次）



ハクセンシオマネキ（NT）
（和田恵次）



ミドリシャミセンガイ類似種（DD）
（後藤龍太郎）



スズメガイダマシ（DD）
（渡部哲也）



タマシキゴカイ（DD）
（和田恵次）



クビレクガビル（DD）
（中野隆文）

その他無脊椎動物



サナダユムシ（DD）
（大城匡平）



スジホシムシモドキ（DD）
（和田恵次）



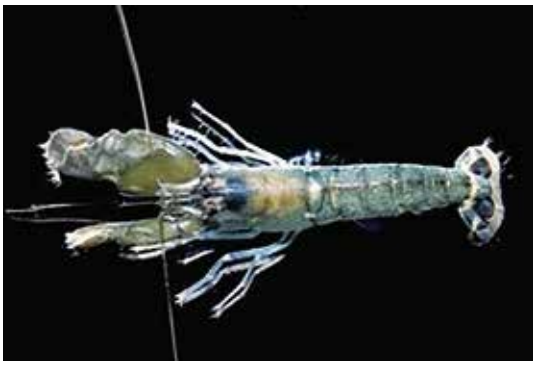
イソタナグモ（DD）
（関根幹夫）



クロヒメヤスデ（DD）
（石井　清）



シラタエビ（DD）
（平嶋健太郎）



カワテッポウエビ（DD）
（野村恵一）



コブシアナジャコ（DD）
（渡部哲也）



イザナミツノヤドカリ（DD）
（渡部哲也）

その他無脊椎動物



カクレイワガニ（DD）
（県外産；渡部哲也）



ハシリイワガニモドキ（DD）
（渡部哲也）



ウモレマメガニ（DD）
（県外産；渡部哲也）



ヒメケフサイソガニ（DD）
（県外産；渡部哲也）



ヒメカクオサガニ（DD）
（和田恵次）



ギボシマメガニ（DD）
（県外産；渡部哲也）



フタハピンノ（DD）
（県外産；渡部哲也）

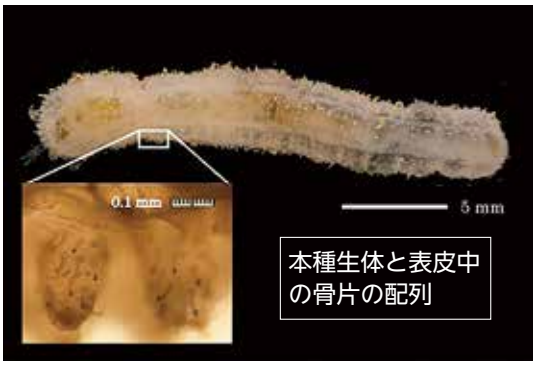


ヒメギボシムシ（DD）
（和田恵次）

その他無脊椎動物



ミサキギボシムシ（DD）
（和田恵次）



イボイボクルマカギナマコ（DD）
（山名裕介）



ヒコナミザトウムシ（SI）
（鶴崎展巨）



ムラサキオカヤドカリ（SI）
（和田恵次）



タカノケフサイソガニ類似種（SI）
（渡部哲也）



ミナミスナガニ（SI）
（和田恵次）

菌　類



マイタケ（CR + EN）
（菌類専門部会）



ホンシメジ（VU）
（菌類専門部会）



シイノトモシビタケ（VU）
（菌類専門部会）



コウボウフデ（VU）
（菌類専門部会）



キヌガサタケ（VU）
（菌類専門部会）



オオセミタケ（VU）
（菌類専門部会）



ウスキブナノミタケ（NT）
（菌類専門部会）



トキイロラッパタケ（NT）
（菌類専門部会）

菌　類



ドクササコ（DD）
（菌類専門部会）



ヒョウモンウラベニガサ（DD）
（菌類専門部会）



カワリコシワツバタケ（DD）
（菌類専門部会）



ソライロタケ（DD）
（菌類専門部会）



ヌメリアシナガイグチ（DD）
（菌類専門部会）



ルリハツタケ（DD）
（菌類専門部会）



カゴタケ（DD）
（菌類専門部会）



カエンタケ（DD）
（菌類専門部会）

菌　類



アオウツボホコリ（DD）
（菌類専門部会）

植物（維管束植物）



サクラソウ（EX）
（山本修平）



オチフジ（EX）
（山本修平）



ヘゴ（CR）
（瀧野秀二）



オニバス（CR）
（和歌山県立自然博物館）



ヤクシマアカシュスラン（CR）
（和歌山県立自然博物館）



コウヤハリスゲ（CR）
（和歌山県立自然博物館）



ヒメノボタン（CR）
（瀧野秀二）



ソハヤキミズ（CR）
（和歌山県立自然博物館）

植物（維管束植物）



アサノハカエデ（CR）
（和歌山県立自然博物館）



タチバナ（CR）
（瀧野秀二）



シマユキカズラ（CR）
（瀧野秀二）



リュウビンタイ（EN）
（和歌山県立自然博物館）



ユノミネシダ（EN）
（瀧野秀二）



テツホシダ（EN）
（瀧野秀二）



キクシノブ（EN）
（谷関俊男）



コウヤカンアオイ（EN）
（瀧野秀二）

植物（維管束植物）



キバナチゴユリ（EN）
（和歌山県立自然博物館）



キイイトラッキョウ（EN）
（瀧野秀二）



コウヤハンショウヅル（EN）
（和歌山県立自然博物館）



コウヤシロカネソウ（EN）
（瀧野秀二）



ハカマカズラ（EN）
（水野泰邦）



ハドノキ（EN）
（瀧野秀二）



シマヒメタデ（EN）
（北野一夫）



ノアサガオ（EN）
（瀧野秀二）

植物（維管束植物）



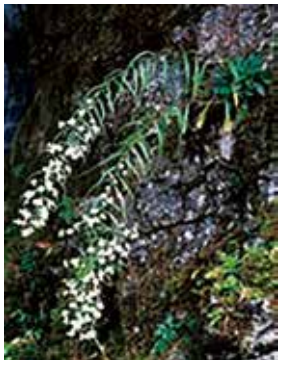
キノクニスズカケ（EN）
（瀧野秀二）



ヒメシロアサザ（EN）
（和歌山県立自然博物館）



ホソバノギク（EN）
（和歌山県立自然博物館）



クルマギク（EN）
（瀧野秀二）



オオハマグルマ（EN）
（和歌山県立自然博物館）



スジヒトツバ（VU）
（水野泰邦）



トガサワラ（VU）
（和歌山県立自然博物館）



ナンゴクウラシマソウ（VU）
（和歌山県立自然博物館）

植物（維管束植物）



キイジョウロウホトトギス（VU）
（瀧野秀二）



アオノクマタケラン（VU）
（瀧野秀二）



ツゲ（VU）
（和歌山県立自然博物館）



シマサルナシ 果実 花（左上）（VU）
（瀧野秀二）



シラタマカズラ（VU）
（瀧野秀二）



クマノギク（VU）
（瀧野秀二）



アオネカズラ（NT）
（水野泰邦）



キキョウラン（NT）
（和歌山県立自然博物館）

植物（維管束植物）



ウナズキギボウシ（NT）
（瀧野秀二）



キノクニスゲ（キシュウスゲ）（NT）
（土永浩史）



ドロノシモツケ（NT）
（瀧野秀二）



アコウ（NT）
（瀧野秀二）



ハマボウ（NT）
（瀧野秀二）



シチョウゲ（NT）
（瀧野秀二）



キノクニシオギク（キイシオギク）（NT）
（和歌山県立自然博物館）



ドロニガナ（NT）
（瀧野秀二）

植物（蘚苔類）



ウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）
（CR + EN）（土永浩史）



ヤリノホゴケ（CR + EN）
（土永浩史）



フロウソウ（CR + EN）
（土永浩史）



フガゴケ（CR + EN）
（土永浩史）



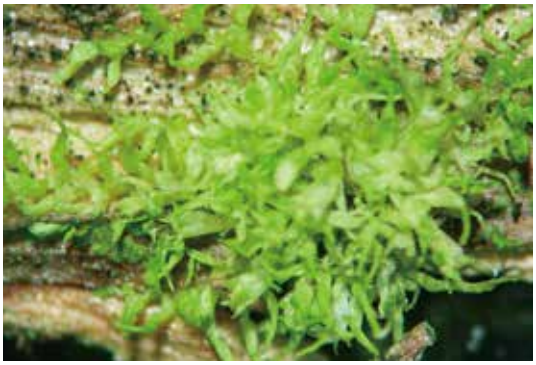
マムシゴケ（CR + EN）
（土永浩史）



ササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）
（CR + EN）（土永浩史）



シャクシゴケ（ミドリシャクシゴケ）
（CR + EN）（土永浩史）



ナガバムシトリゴケ（CR + EN）
（土永浩史）

植物（蘚苔類）



キノボリツノゴケ（CR + EN）
（土永浩史）



キジノオゴケ（VU）
（土永浩史）



オオミツヤゴケ（VU）
（土永浩史）



ハシボソゴケ（VU）
（土永浩史）



カワブチゴケ（NT）
（土永浩史）



コモチイチイゴケ（NT）
（土永浩史）



コバノホソベリミズゴケ（NT）
（土永浩史）



イサワゴケ（NT）
（土永浩史）

植物群落



友ヶ島の深蛇池湿地帯植物群落
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)



和歌山城公園の緑地
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)



紀伊風土記の丘のコナラ林
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)



紀の川市貴志川町のため池群
(③不良)
(和歌山県立自然博物館)



龍門山の蛇紋岩地植生
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)



高野山コウヤマキ希少個体群保護林
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)



高野山のツガ林
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)



黒沢山沼池の湿地及び蛇紋岩地植生
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)

植物群落



生石山の草地植生
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)



宮崎ノ鼻の海岸植生
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)



有田川河口の湿地植生
(③不良)
(和歌山県立自然博物館)



護摩壇山の自然林
(③不良)
(和歌山県立自然博物館)



西部海岸域のアコウ個体群
(③不良)
(和歌山県立自然博物館)



煙樹ヶ浜の松林
(③不良)
(和歌山県立自然博物館)



日高川河口の湿地植生
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)



御坊市・日高郡・田辺市のため池群
(③不良)
(和歌山県立自然博物館)

植物群落



神島の自然林
(②やや良)
(土永浩史)



日神社のコジイ林
(①良好)
(水野泰邦)



果無山脈の自然林
(②やや良)
(水野泰邦)



要害森山のトガサワラ林
(①良好)
(水野泰邦)



笠塔山の自然林
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)



大杉谷・黒蔵谷の自然林
(①良好)
(水野泰邦)



大塔山の自然林
(①良好)
(水野泰邦)



琴の滝の自然林
(③不良)
(和歌山県立自然博物館)

植物群落



江須崎の自然林
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)



樫野海岸のスダジイ林
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)



潮岬・紀伊大島の海岸植生
(①良好)
(和歌山県立自然博物館)



古座川峡の岩上・岩隙植生
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)



太地のリュウビンタイ群落
(②やや良)
(瀧野秀二)



ゆかし潟の湿地植生
(①良好)
(和田恵次)



那智原始林・那智山
国有林の自然林（①良好)
(水野泰邦)



宇久井半島の海岸植生
(②やや良)
(和歌山県立自然博物館)

植物群落



久嶋（孔島）鈴島植物群落
（①良好）
（和歌山県立自然博物館）



新宮藺沢の浮島植物群落
（①良好）
（和歌山県立自然博物館）



千穂ヶ峯の自然林
（①良好）
（瀧野秀二）



白見山民有林の自然林
（②やや良）
（瀧野秀二）



大雲取山のアカガシ林
（①良好）
（和歌山県立自然博物館）



静閑瀞の崖地植生
（①良好）
（和歌山県立自然博物館）



和田川峡の崖地植生
（①良好）
（水野泰邦）



瀞八丁のコジイ林
（①良好）
（水野泰邦）

地　形



那智大滝（A ランク）
（吉松敏隆）



煙樹ヶ浜（B ランク）
（吉松敏隆）



友ヶ島・虎島（C ランク）
（吉松敏隆）



片男波・砂州（C ランク）
（吉松敏隆）



滝尻の大規模地すべり跡（D ランク）
（中屋志津男）



塔島洞門（D ランク）
（吉松敏隆）

地　質



天鳥の褶曲（A ランク）
（吉松敏隆）



橋杭岩と津波石（A ランク）
（吉松敏隆）



白崎石灰岩（B ランク）
（吉松敏隆）



サラシ首層（B ランク）
（吉松敏隆）



瀞八丁（瀞峡）（B ランク）
（吉松敏隆）



蟾蜍岩（ひき岩群）（C ランク）
（吉松敏隆）

目　　次

はじめに ― レッドデータブックの意義と役割 ― …… 54
『和歌山県レッドデータブック』改訂の経緯 …… 55
選定対象分類群 …… 55
選定の体制 …… 55
　生物多様性和歌山戦略推進調査会会員 …… 55
　生物多様性和歌山戦略推進調査会専門調査員 …… 56
『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』の特徴 …… 58
【参考 1】『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』選定体制 …… 59
【参考 2】『和歌山県レッドデータブック 2001 年版』選定体制 …… 60
第 1 部　わかやまの貴重な動植物 …… 62
　1. 選定の考え方 …… 62
　2. カテゴリーの設定 …… 62
　3. 動植物分類群別の掲載数 …… 64
　4. 掲載種等の解説 …… 66
　　⑴ 哺乳類 …… 67
　　⑵ 鳥類 …… 85
　　⑶ 爬虫類 …… 117
　　⑷ 両生類 …… 125
　　⑸ 魚類 …… 137
　　⑹ 昆虫類 …… 183
　　⑺ 貝類 …… 275
　　⑻ その他無脊椎動物 …… 429
　　⑼ 菌類 …… 505
　　⑽ 植物（維管束植物及び蘚苔類） …… 537
第 2 部　保全上重要なわかやまの自然環境 …… 649
　1. 選定の考え方 …… 649
　2. カテゴリーの設定 …… 650
　3. 自然環境分類群別の掲載数 …… 650
　4. 掲載項目の解説 …… 652
　　⑾ 植物群落 …… 653
　　⑿ 地形・地質 …… 675
　　⒀ 生物多様性保全上注目すべき地域 …… 721
おわりに ― 生物多様性和歌山戦略推進調査会からの提言 ― …… 746
索　引 …… 749

はじめに ― レッドデータブックの意義と役割 ―

高須　英樹

和歌山県は本州最南端に位置し、日本最大の半島である紀伊半島南西部の大部分を占める。黒潮の影響とも関わって温暖な気候であり、時には大きな災害を引き起こす、温帯域としては世界的にもまれな降水量によって、豊かな自然が成立している。その特徴は、分布北限の生物種が多く存在するだけでなく、半島という地理的な特性とも関わって多くの固有種が分化していることにある。一方で、森林の 66 % がスギおよびヒノキの人工林で占められており、古くからヒトの手による自然の改変が進められてきた地でもある。

和歌山県版レッドデータブックは、2001 年に「保全上重要な和歌山の自然－和歌山県レッドデータブック－」として出版され、2012 年には改訂版も編纂された。また、2016 年に「生物多様性和歌山戦略」が策定されたことを受けて、同年「生物多様性和歌山戦略推進調査会」（以下、推進調査会と略記）が設置された。この推進調査会には 10 の専門部会が設けられ、以前のレッドデータブックでは取り上げられてこなかった分類群の専門家も参加することになった。このことによって、今回の改訂では「菌類」や「その他無脊椎動物」が新たに取り上げられただけでなく、海岸・浅海域の生物にまでその範囲を広げて選定を行うことができた。

しかし、取り上げられた希少種の具体的な保護・保全に役立つ、数量的な基準に基づいた評価はほとんど行うことができなかった。また、希少であることが明らかでありながらも、DD（情報不足）として絶滅の危険度を評価できなかった生物種もかなり多い。今回選定された生物は 1,655 種類に及び、前回、前々回と比較して大幅な増加となった。これは上述のように、扱う分類群が増加したことによる面も大きく単純な比較はできないが、従来取り上げてきた分類群に限ってみても、全て増加が認められるだけでなく、「絶滅危惧 I 類」に位置づけられた種数も大幅に増加している。

人類は生態系から様々な恩恵を受けて存在しているが、これは「生態系サービス」として認識されている。生態系を構成する多種多様な生物の絶滅は、直接的・間接的にこの「生態系サービス」の低下を招くものであり、人類にとって極めて大きな損失である。一方で、前回の改訂版でも指摘したように、レッドデータブックに記載されていないという理由から無視されたり、極端な場合には「記載されていないので保護・保全の必要がない」というようなレッドデータブックの情報の意味を履き違えたりする憂慮すべき事態が相変わらず認められる。しかし、「生物多様性」は多くの普通種に支えられて、希少種が存在しているのだということを忘れてはならない。

このたび改訂された本県のレッドデータブックが、様々な環境教育の教材として、また、野生動植物の保護・保全に係る条例等の制定や、官、民および事業の大小を問わず、環境の改変に関わる全ての営為の立案に際して、広汎に活用されることを望みます。

最後に、推進調査会委員各位および選定・執筆にご協力いただいた、多くの研究者の皆様に深甚の謝意を表します。

『和歌山県レッドデータブック』改訂の経緯

和歌山県では、貴重な自然の状況を把握し、県として保全の対象とすべきものを明らかにするため、平成 13 年（2001 年）に『保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－』を発行し、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、陸産・淡水産貝類、植物、植物群落、地形・地質について掲載した。

その後、およそ 10 年後となる平成 24 年（2012 年）には、自然環境の変化に伴い、新しい知見を加えて選定の見直しを行い、『2012 年改訂版』を発行した。

『2012 年改訂版』の発行後も自然環境は刻一刻と変化を続け、自然環境についての学術的知見の蓄積も進んできたことから、平成 28 年度（2016 年度）に「生物多様性和歌山戦略推進調査会」を設置し、第 2 回目の改訂事業を開始した。

選定対象分類群

選定対象分類群となる貴重な野生生物等は、以下のとおりとした。

- 動植物　①哺乳類　②鳥類　③爬虫類　④両生類　⑤魚類（淡水産、汽水・海岸産）⑥昆虫類　⑦貝類（陸産、淡水産、汽水・海岸産）　⑧その他無脊椎動物（刺胞動物、紐形動物、腕足動物、環形動物、鋏角類、多足類、甲殻類、半索動物、棘皮動物、尾索動物）　⑨菌類（変形菌を含む）　⑩植物（維管束植物、蘚苔類）
- 植物群落
- 地形・地質
- 生物多様性保全上注目すべき地域

選定の体制

平成 28 年度（2016 年度）に「生物多様性和歌山戦略推進調査会」を設置し、和歌山県レッドデータブック改訂の全体方針に関する事項について、各分類群の専門家による選定作業を進めた。

また、個々の分類群に関する事項について、選定作業をより円滑に進めていくため、推進調査会の設置と同時に、各分類群の専門家による 10 の専門部会を設けた。

生物多様性和歌山戦略推進調査会会員

座長	高須　英樹	和歌山大学名誉教授（植物・植物群落）
	細田　徹治	和歌山県自然環境研究会会長（哺乳類）
	沼野　正博	日本野鳥の会和歌山県支部事務局長（鳥類）
	玉井　済夫	日本爬虫両棲類学会会員（爬虫類・両生類）
	平嶋健太郎	和歌山県立自然博物館学芸課専門員（魚類）
	的場　　績	和歌山昆虫研究会事務局長（昆虫類）
	湊　　宏	日本貝類学会名誉会員（貝類）
	和田　恵次	和歌山県立自然博物館館長（その他無脊椎動物）
	山東　英幸	和歌山菌類研究会会員（菌類・変形菌類）
	吉松　敏隆	日本地質学会会員（地形・地質）

（会員氏名は分類群の順）

生物多様性和歌山戦略推進調査会専門調査員

〔哺乳類専門部会〕

部会長	細田　徹治	和歌山県自然環境研究会会長
	佐々木　歩	和歌山県立自然博物館学芸員
	芝田　史仁	和歌山信愛女子短期大学教授
	清水　善吉	三重自然誌の会事務局長
	鈴木　慶太	きのくに子どもの村中学校校長
	原田　正史	元大阪市立大学特任教授

〔鳥類専門部会〕

部会長	沼野　正博	日本野鳥の会和歌山県支部事務局長
	津村真由美	日本野鳥の会和歌山県支部幹事
	中村　　進	日本鳥学会会員

〔爬虫類・両生類専門部会〕

部会長	玉井　済夫	日本爬虫両棲類学会会員
	竹中　利明	元和歌山県立自然博物館学芸員
	平井　厚志	すさみ町立エビとカニの水族館館長
	弓場　武夫	自然保護調査会会員

〔魚類専門部会〕

部会長	平嶋健太郎	和歌山県立自然博物館学芸課専門員
	揖　　善継	和歌山県立自然博物館主査学芸員
	國島　大河	和歌山県立自然博物館学芸員
	山田　大貴	和歌山県立日高高等学校教諭

〔昆虫類専門部会〕

部会長	的場　　績	和歌山昆虫研究会事務局長
	小島　和也	日本鱗翅学会会員
	弘岡　拓人	和歌山県果樹試験場かき・もも研究所主査研究員
	松野　茂冨	和歌山県立自然博物館学芸員
	南　　敏行	熊野自然保護連絡協議会会長

〔貝類専門部会〕

部会長	湊　　宏	日本貝類学会名誉会員
	池辺　進一	日本貝類学会会員
	江川　和文	日本貝類学会会員
	吉田　　誠	元和歌山県立自然博物館館長

〔その他無脊椎動物専門部会〕

部会長	和田　恵次	和歌山県立自然博物館館長
	関根　幹夫	日本蜘蛛学会会員
	山名　裕介	和歌山県立自然博物館主査学芸員
	渡部　哲也	西宮市貝類館学芸員

〔菌類専門部会〕

部会長	山東　英幸	和歌山菌類研究会会員
	上谷　利明	和歌山菌類研究会会員
	川上　新一	和歌山県立自然博物館主査学芸員
	澤野　　誠	和歌山菌類研究会会員
	土井　　晃	和歌山菌類研究会会員

〔植物・植物群落専門部会〕

部会長	高須　英樹	和歌山大学名誉教授
	北野　一夫	南紀生物同好会会員
	瀧野　秀二	熊野自然保護連絡協議会副会長
	谷関　俊男	和歌山植物研究会会員
	土永　知子	和歌山県自然環境研究会会員
	土永　浩史	南紀生物同好会常任委員
	内藤　麻子	和歌山県立自然博物館主任学芸員
	中山　留美	海南市立北野上小学校
	松本比呂起	和歌山県農業試験場主査研究員
	水野　泰邦	南紀生物同好会常任委員
	山元　　晃	和歌山県生物同好会会員

〔地形・地質専門部会〕

部会長	吉松　敏隆	日本地質学会会員
	小泉奈緒子	和歌山県立自然博物館学芸員

（調査員氏名は部会長以外、専門部会ごとに五十音順）

選定・執筆における協力者

種の選定及び原稿執筆において、次の研究者の方々には特にご協力を賜った。

石井　清（その他無脊椎動物）、泉　貴人（その他無脊椎動物）、伊谷　行（その他無脊椎動物）、岡西政典（その他無脊椎動物）、柁原　宏（その他無脊椎動物）、河北　均（昆虫類）、後藤龍太郎（貝類、その他無脊椎動物）、佐藤英文（その他無脊椎動物）、鶴崎展巨（その他無脊椎動物）、中野隆文（その他無脊椎動物）、布村　昇（その他無脊椎動物）、野田圭典（貝類）、野村恵一（その他無脊椎動物）、平嶋健太郎（その他無脊椎動物）、山本佳範（その他無脊椎動物）

（敬称略、五十音順）

選定・執筆における情報及び写真提供者

原稿執筆において、次の方々に生物情報や写真の提供を賜った。

青木典司（昆虫類）、有本　智（昆虫類）、池辺進一（貝類）、石井　清（その他無脊椎動物）、伊谷　行（その他無脊椎動物）、一般財団法人 自然環境研究センター（昆虫類）、伊藤ふくお（昆虫類）、今原幸光（その他無脊椎動物）、入江正己（鳥類）、植田広行（昆虫類）、上野憲三（鳥類）、梅村有美（両生類）、梅本　実（昆虫類）、浦田　慎（その他無脊椎動物）、江川和文（貝類）、戎下秀史（爬虫類）、戎下有規子（爬虫類）、大川博志（両生類）、大城匡平（その他無脊椎動物）、大高明史（その他無脊椎動物）、大橋弘和（昆虫類）、岡西政典（その他無脊椎動物）、揖　善継（魚類）、柁原　宏（その他無脊椎動物）、片山雄史（昆虫類）、金岡晃司

（昆虫類）、紙谷聡志（昆虫類）、河北　均（昆虫類）、河辺敏夫（昆虫類）、河村真理子（その他無脊椎動物）、北野一夫（維管束植物）、木本朝美（両生類）、菌類専門部会（菌類）、國島大河（魚類）、久保田　信（その他無脊椎動物）、藏重麗子（鳥類）、古賀庸憲（その他無脊椎動物）、小島和也（昆虫類）、後藤雅則（昆虫類）、後藤龍太郎（貝類、その他無脊椎動物）、酒井雅博（昆虫類）、佐藤拓哉（魚類）、佐藤英文（その他無脊椎動物）、佐藤正典（その他無脊椎動物）、島根県環境生活部自然環境課（昆虫類）、清水善吉（哺乳類）、鈴木慶太（哺乳類、両生類）、関根幹夫（その他無脊椎動物）、瀧野秀二（維管束植物、植物群落）、武智礼央（昆虫類）、竹中利明（爬虫類）、田中薫子（その他無脊椎動物）、田中眞人（貝類）、田中　稔（昆虫類）、田名瀬英朋（その他無脊椎動物）、谷口真理（爬虫類）、谷関俊男（維管束植物）、玉井済夫（爬虫類、両生類）、鶴崎展巨（その他無脊椎動物）、土岐頼三郎（貝類）、豊田将大（魚類）、土永浩史（維管束植物、蘚苔類、植物群落）、内藤麻子（哺乳類）、中尾史郎（昆虫類）、中谷義信（魚類）、中野隆文（その他無脊椎動物）、中村公一（その他無脊椎動物）、中村　進（哺乳類、昆虫類）、中本博之（貝類）、中屋志津男（地形）、奈良女子大学（哺乳類）、南葉錬志郎（昆虫類）、西川完途（両生類）、西川輝昭（その他無脊椎動物）、西田安則（哺乳類）、布村　昇（その他無脊椎動物）、沼野正博（鳥類）、野村恵一（その他無脊椎動物）、野元彰人（その他無脊椎動物）、林　育造（哺乳類）、原田一夫（貝類）、原田正史（哺乳類）、平井厚志（爬虫類）、平嶋健太郎（魚類、その他無脊椎動物）、平林　勲（その他無脊椎動物）、平松広吉（昆虫類）、弘岡拓人（昆虫類）、広島大学総合博物館（昆虫類）、船橋智輝（昆虫類）、細田徹治（哺乳類）、前岩　崇（貝類）、松井正文（両生類）、松尾　怜（魚類）、松野茂富（両生類、昆虫類）、松宮裕秋（鳥類）、松村澄子（哺乳類）、松本伸次（維管束植物）、的場　績（昆虫類）、丸谷榮彦（哺乳類）、三重県総合博物館（哺乳類）、水野泰邦（維管束植物、植物群落）、南方啓司（貝類）、三長孝輔（貝類）、三長秀男（貝類）、湊　宏（貝類、その他無脊椎動物）、南　敏行（昆虫類）、村井貴史（昆虫類）、山名裕介（その他無脊椎動物）、山西良平（その他無脊椎動物）、山本修平（維管束植物）、山本哲央（昆虫類）、山本佳範（その他無脊椎動物）、有限会社 むし社（昆虫類）、弓場武夫（両生類）、吉富博之（昆虫類）、吉松敏隆（地形、地質）、淀　真理（その他無脊椎動物）、和歌山県立自然博物館（維管束植物、植物群落）、和歌山県立田辺高等学校・中学校生物部（昆虫類）、和歌山大学教育学部（哺乳類）、渡部晃平（昆虫類）、渡部哲也（その他無脊椎動物）、和田恵次（貝類、その他無脊椎動物、植物群落）、和田太一（貝類）

（敬称略、五十音順）

『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』の特徴

『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』は、平成 28 年度（2016 年度）から選定作業を開始した。

今回は、新たに「菌類（変形菌類を含む）」と「その他無脊椎動物」を追加し、10 分類群・1,655 種の稀少生物を掲載するとともに、その多くを写真付きで紹介するなど、更なる内容の充実と分かりやすさに努めた。加えて、貴重な動植物が多く生息・生育する生態系が連続する地域等を「生物多様性保全上注目すべき地域」として掲載・解説した。

【参考 1】

『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』選定体制

和歌山県レッドデータブック改訂委員会委員

委員長	高須　英樹	和歌山大学教育学部教授（植物・植物群落）
	細田　徹治	和歌山県立耐久高等学校教諭（哺乳類）
	沼野　正博	日本野鳥の会和歌山県支部事務局長（鳥類）
	玉井　済夫	和歌山県自然環境研究会会長（爬虫類・両生類）
	中谷　義信	和歌山県立自然博物館主任学芸員（淡水魚類）
	的場　　績	和歌山県立自然博物館専門員（昆虫類）
	湊　　宏	日本貝類学会評議員（陸産貝類・淡水産貝類）
	吉松　敏隆	日本地質学会会員（地形・地質）

（委員氏名は分類群の順）

和歌山県レッドデータブック改訂委員会専門部会専門委員

〔哺乳類部会〕

部会長	細田　徹治	和歌山県立耐久高等学校教諭
	芝田　史仁	和歌山信愛女子短期大学准教授

〔爬虫類、両生類部会〕

部会長	玉井　済夫	和歌山県自然環境研究会会長
	弓場　武夫	和歌山県自然保護調査会会員

〔淡水魚類部会〕

部会長	中谷　義信	和歌山県立自然博物館主任学芸員
	揖　　善継	和歌山県立自然博物館学芸員
	平嶋健太郎	和歌山県立自然博物館主査学芸員

〔昆虫類部会〕

部会長	的場　　績	和歌山県立自然博物館専門員
	小島　和也	日本鱗翅学会会員
	諏訪　隆司	日本鱗翅学会会員
	南　　敏行	熊野自然保護連絡協議会副会長
	吉田　元重	和歌山県立自然博物館協議会会長

〔陸産貝類・淡水産貝類部会〕

部会長	湊　　宏	日本貝類学会評議員
	池辺　進一	日本貝類学会評議員

〔植物、植物群落部会〕

部会長	高須　英樹	和歌山大学教育学部教授
	北野　一夫	南紀生物同好会会員
	酒井　俊英	和歌山県立南部高等学校教諭

瀧野　秀二　　熊野自然保護連絡協議会副会長
谷関　俊男　　和歌山植物研究会会員（平成 22 年度 ～）
内藤　麻子　　和歌山県立自然博物館学芸員
水野　泰邦　　南紀生物同好会副会長
山元　　晃　　和歌山県立自然博物館友の会会長
山本　修平　　和歌山植物研究会会長
（委員氏名の順、所属等は『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』による）

選定・執筆における協力者

改訂委員会及び専門部会の各委員の他に、現地調査・種の選定及び原稿執筆において、次の研究者の方々には特にご協力を賜った。

乾風　登（昆虫類）、有本　智（爬虫類・両生類・昆虫類）、今村芳功（植物・植物群落）、大槻国彦（爬虫類・両生類）、大洞浩一（植物・植物群落）、小島正明（植物・植物群落）、佐久間大輔（植物・植物群落）、志賀　隆（植物・植物群落）、鈴木慶太（爬虫類・両生類）、瀬戸剛（植物・植物群落）、田中昭太郎（昆虫類）、土永知子（植物・植物群落）、中尾史郎（昆虫類）、永益英敏（植物・植物群落）、平松広吉（昆虫類）、藤井伸二（植物・植物群落）、前岩崇（昆虫類）、山口和洋（昆虫類）

（敬称略、五十音順）

また、現地調査にあたり、熊野那智大社朝日芳英宮司をはじめ、現地の方々にも情報提供等のご配慮、ご協力を賜った。

【参考 2】
『和歌山県レッドデータブック 2001 年版』選定体制

貴重な野生生物等選定委員

朝日　　稔　兵庫医科大学名誉教授（哺乳類）
木下　慶二　和歌山県自然保護調査会事務局長（植物）
黒田　隆司　前日本野鳥の会和歌山県支部長（鳥類　平成 8 年 ～11 年度）
末松　四郎　和歌山大学名誉教授（植物　座長 平成 8 年度）
高須　英樹　和歌山大学教授（植物）
辰喜　　洸　元和歌山県立自然博物館館長（淡水魚類）
玉井　済夫　前和歌山県立熊野高等学校校長（爬虫類、両生類）
沼野　正博　日本野鳥の会和歌山県支部事務局長（鳥類　平成 12 年度）
原田　哲朗　和歌山大学教授（地形・地質　平成 8 年 ～9 年度）
牧　　岩男　大阪教育大学教授（淡水魚類　座長 平成 9～12 年度）
湊　　宏　前和歌山県立日高高等学校校長（陸産貝類・淡水産貝類）
宮武　頼夫　大阪青山短期大学教授（昆虫類）
吉松　敏隆　和歌山県教育庁学校教育課主幹（地形・地質　平成 10～12 年度）

貴重な野生生物等専門委員

〔哺乳類〕
朝日　　稔　兵庫医科大学名誉教授（座長）
細田　徹治　和歌山県立御坊商工高等学校教諭
前川　慎吾　和歌山県自然保護調査会会員

〔鳥類〕
黒田　隆司　前日本野鳥の会和歌山県支部長（座長 平成８年～11 年度）
沼野　正博　日本野鳥の会和歌山県支部事務局長（座長 平成 12 年度）
前田亥津二　和歌山県立自然博物館友の会副会長

〔淡水魚類〕
玉田　一晃　田辺市立高雄中学校教諭
中谷　義信　和歌山県立自然博物館学芸員
牧　　岩男　大阪教育大学教授（座長）

〔昆虫類〕
乾風　　登　南紀生物同好会会長
後藤　　伸　和歌山県自然保護調査会会員
的場　　績　和歌山県立自然博物館学芸員
宮武　頼夫　大阪青山短期大学教授（座長）
吉田　元重　和歌山県立自然博物館友の会会長

〔陸産貝類・淡水産貝類〕
池辺　進一　和歌山市立河北中学校教諭
湊　　宏　前和歌山県立日高高等学校校長（座長）

〔植物・植物群落〕
木下　慶二　和歌山県自然保護調査会事務局長（座長）
高須　英樹　和歌山大学教授
瀧野　秀二　和歌山県立新宮高等学校教諭
中嶌　章和　熊野自然保護連絡協議会会長
水野　泰邦　和歌山県立熊野高等学校教諭
山元　　晃　和歌山県立自然博物館次長
山本　修平　植物分類地理学会会員

〔地形・地質〕
原田　哲朗　和歌山大学教授（座長　平成８年～９年度）
吉松　敏隆　和歌山県教育庁学校教育課主幹（座長　平成 10 年～12 年度）
（委員氏名の順、所属等は『和歌山県レッドデータブック 2001 年版』による）

第１部　わかやまの貴重な動植物

１．選定の考え方

（1）対象種

県内域に生息・生育する陸産、淡水産及び汽水・海岸産の野生動植物とする。ただし、原則として外来種リストの掲載種及び評価対象となる種については除外する。

（2）選定基準

次の選定基準に基づき、候補種の抽出を行った。

① 環境省レッドデータブック・レッドリストに掲載されている種
② 人為的影響により絶滅の危機に瀕しているか、その危険が増大している種
（既に絶滅となった種も含む）
③ 和歌山県内で産地数、個体数が少ないと思われる種
④ 和歌山県が分布の限界となっている種
⑤ 紀伊半島の固有種
⑥ 全国的に見て特異な分布を示す種
⑧ ごく限られた生息環境に生息する種

２．カテゴリーの設定

原則的には環境省のレッドリストカテゴリー（2020）に準拠するが、前回改訂と同様に、和歌山県独自に「学術的重要」のカテゴリーを設け、学術的に貴重な種を掲載することとした。

なお、定量的要件は共通事項から除くこととしたが、鳥類及び植物において可能な種は、定量的な要件についても導入した。

選定基準により抽出された種のうち、次に示すカテゴリーの定義に基づき、「生物多様性和歌山戦略推進調査会」での検討を重ね、選定した結果を和歌山県における保全上重要な野生生物として位置づけた。

動植物のカテゴリー定義

●絶　　滅
県内ではすでに絶滅したと考えられる種（Extinct：EX）

過去に県内に生息、生育していたことが確認されているが、現在では既に絶滅したと考えられる種（野生絶滅（EW）を含む）

●絶滅危惧Ⅰ類
絶滅の危機に瀕している種（Critically Endangered：CR + EN）

現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの

★確実な情報があるもの

（1）既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している

（2）既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している

（3）既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている

（4）ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している

★情報量の少ないもの

（5）それほど遠くない過去（30 ～ 50 年）の生息記録以後、確認情報がなく、その後、信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの

●絶滅危惧ⅠA類
ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの（Critically Endangered：CR）

★鳥類

（1）県内に 10 羽未満しか生息しない

（2）個体数が概ね 1980 年代と比較して 10 分の 1 以下に減少した

（3）生息可能な面積が県内の極めて小面積にしかないと判断される

以上の要件のうち、2 つ以上該当する種及び個体数が急激に減少し、近年ほとんど生息確認ができていないもの

★植物

生育地が過度に分断されているか、ただ 1 箇所地点に限定されている

●絶滅危惧ⅠB類
ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの（Endangered：EN）

絶滅危惧Ⅰ類に該当するが、絶滅危惧ⅠA類の要件は満たさないもの

●絶滅危惧Ⅱ類
絶滅の危機が増大している種（Vulnerable：VU）

現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行すると考えられるもの

（1）大部分の個体群で、個体数が大幅に減少している

（2）大部分の生息地で、生息条件が明らかに悪化しつつある

（3）大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている

（4）分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している

●準絶滅危惧
存続基盤が脆弱な種（Near Threatened：NT）

現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの

●情報不足

評価するだけの情報が不足している種（Data Deficient：DD）

環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種

（1）どの生息地においても生息密度が低く希少である
（2）生息地が局限されている
（3）生息地理上、孤立した分布特性を有する
（4）生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている

●学術的重要

分布または生態等の特性において学術的に価値を有する種（Scientifically Important：SI）

次のいずれかに該当するもの

（1）和歌山県が分布の限界となっているもの
（2）紀伊半島に固有のもの
（3）他の生息域から地理的に隔離されているもの
（4）生態または形態が特異なもの
（5）保護すべき繁殖コロニー（鳥類）

3．動植物分類群別の掲載数

『和歌山県レッドデータブック』における動植物の掲載種数、カテゴリーの内訳を選定結果一覧表に示した。

『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー							
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	SI	合計
哺乳類	3	5		6	9	3		26
鳥類		7	8	17	22	2	2	58
爬虫類					3	2		5
両生類	1	2		1	9	2		15
魚類	3	15		10	15	30	5	78
昆虫類	13	24		40	102	27	37	243
貝類	6	43		65	117	8	40	279
その他無脊椎動物	1	2		3	33	80	17	136
菌類		3		10	18	37		68
植物（維管束植物）	22	151	207	116	85	14		595
植物（蘚苔類）		39		37	50	26		152
合計	49	506		305	463	231	101	1,655

【参考 1】『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』選定結果一覧表

分　類　群	カ　テ　ゴ　リ　ー							
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	SI	合計
哺 乳 類	2	4		5	7	4		22
鳥　　類		5	10	17	19		2	53
爬 虫 類					2	1		3
両 生 類	1	3		1	9	1		15
淡水魚類	1	10		11	12	9	5	48
昆 虫 類	14	22		44	92	11	31	214
陸産貝類・淡水産貝類		11		11	5	3	21	51
植　　物	21	144	205	111	83	4		568
合　　計	39	414		200	229	33	59	974

【参考 2】『和歌山県レッドデータブック 2001 年版』選定結果一覧表

分　類　群	カ　テ　ゴ　リ　ー								
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	SI	LP	合計
哺 乳 類	2	1		1	3	4	4		15
鳥　　類		5	7	15	23			2	52
爬 虫 類					1	1	1		3
両 生 類		1		2	7		1		11
淡水魚類	2	1		4	7	8	8		30
昆 虫 類	12	20		40	61	2	46		181
陸産貝類・淡水産貝類	1	3		2	6	2	24		38
植　　物	18	101	177	128	87	16			527
合　　計	35	316		192	195	33	84	2	857

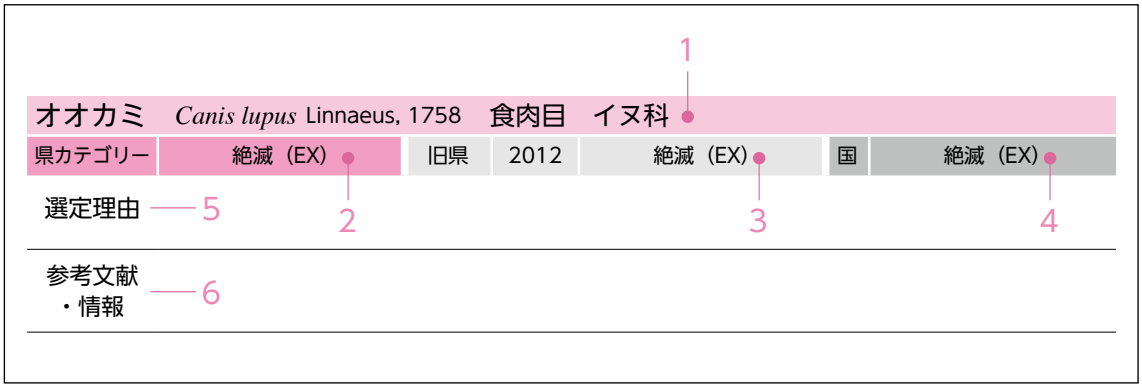
凡例）EX：絶　　滅　　NT：準絶滅危惧
CR：絶滅危惧ⅠA類　　DD：情報不足
EN：絶滅危惧ⅠB類　　SI　：学術的重要
VU：絶滅危惧Ⅱ類　　LP　：絶滅のおそれのある地域個体群

※ CR と EN を区分しない場合は、「CR ＋ EN：絶滅危惧Ⅰ類」というカテゴリーとする。

※『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』以降では、「絶滅のおそれのある地域個体群（LP)」のカテゴリーは廃止した。

４．掲載種等の解説

分類群ごとの掲載種の解説は次のとおりとした。



〈解説凡例〉

1	標準和名・学名	標準和名及び学名を記載した。動物の学名には命名者及び記載年、植物及び菌類の学名には命名者のみを記載した。
1	分　類	動物は目名及び科名、植物及び菌類は科名を記載した。ただし、その他無脊椎動物は門名から記載した。
	カテゴリー	次に該当するカテゴリーを記載した。
2	和歌山県カテゴリー	『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』でのカテゴリーを記載した。
3	旧県	『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』のカテゴリーを記載した。
4	国	環境省レッドリスト（2020）のカテゴリーを記載した。
5	選定理由	種の概要、分布状況（市町村単位を基本とする）、学術的価値等について記載した。
6	参考文献・情報	参考文献・情報について記載した。 【参考文献】 ＜論文＞ 著者名．発行年．論文名．論文の掲載誌名，巻数：ページ数. ＜書籍＞ 著者名．発行年．編集者名．書名．ページ数．発行社名，発行地名. 【情報】 情報発信者名．私信. 【写真】 提供者名あるいは撮影者名（注釈）

1 哺乳類

哺乳類の概要

細田　徹治

今回の改訂事業を進めるにあたって、特に、ネズミ類やモグラ類等、小型哺乳類の生息情報が不足していることが課題であった。2001 年に初版が、2012 年に改訂版が出版されたが、聞き取り調査による情報をもとに得られた資料に基づくところが大きかった。2012 年度の改訂版作成の際には、コウモリ類を中心に現地調査を試みた結果、クロホオヒゲコウモリやノレンコウモリの生息が確認されたが、モグラ類、ネズミ類等、小型哺乳類の情報は少なかった。その理由は、他の生物種とは異なりハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミの家鼠以外の野生哺乳類は全て環境省の捕獲許可が必要であることや、研究者が少ないことから、生息情報を収集することが難しいことにある。

そこで、モグラ・ネズミ類を含めた和歌山県の哺乳類について、レッドリスト作成の基礎資料を得る目的で、2016 年度から文献・標本調査及び現地調査を行い、得られた情報のデータベース化を図った（清水ら，2020）。なお、文献・標本調査は、クジラ類は除外した。文献調査は、論文、報告書、市町村史（誌）等を対象とし、それらの中から種が特定され、かつ確認場所の明らかなものを記録した。現地調査は、小型哺乳類の捕獲調査、中・大型哺乳類を対象に自動撮影カメラによる調査、これらの調査と併せて目撃や鳴き声、糞・食痕・足跡等の痕跡の確認を行った。

その結果、和歌山県では 7 目 20 科 52 種の記録が確認された。そのうち 3 種（オオカミ、ニホンカワウソ、ニホンアシカ）は絶滅種であり、10 種（タイワンザル、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ、ヌートリア、クリハラリス、アライグマ、シベリアイタチ、ハクビシン、タイワンジカ）は外来種である。これらの外来種のうち、和歌山県の外来種リスト（2019）では、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミの 3 種は国内への移入年代が明治時代以前にさかのぼるという理由で除外しているが、清水らは、環境省の外来種リストに準拠して記録している（2020）。

今回の改訂版において、オオカミ、ニホンカワウソの他に新たに海棲哺乳類のニホンアシカを絶滅種に加えた。その理由は各論に記しているが、和歌山県における人と野生動物の歴史的な関係を広く周知できると考えたからである。

和歌山県内に生息する陸棲哺乳類は 49 種である。そのうち、絶滅危惧種として選定されたのが 26 種であり、県内に生息する哺乳類の約 53 ％が危機的な状況にある。これら 26 種のうち、11 種（約 42 ％）がコウモリ類である。コウモリ類は昆虫類を餌とし、特に、森林性のコウモリは樹洞をねぐらや育仔の場としている。近年、森林内の下層植生がニホンジカに食害され、餌となる昆虫類が減少していることや、伐採等により森林環境の悪化が進んでいることが影響している。

ニホンカモシカは、国の特別天然記念物に指定されている。和歌山県では、2000 年以降に、148 個体の滅失個体が報告されている。これらの死亡原因は特定できない場合が多いが、防獣ネットに絡まって窒息死したと思われるものや皮膚病（疥癬症）等に罹患した個体も複数確認されていることから、今後、個体数が急激に減少する可能性は否定できない。また、激増しているニホンジカとの競合も懸案事項である。

アカギツネは、2001 年版及び 2012 年版レッドデータブック作成時には、聞き取り調査において特に取り上げなければならないような状況ではなかった。しかし、今回の聞き取り調査において、「かつては生息したが最近は見なくなった」という証言が多く得られた。また、自動撮影カメラでの撮影頻度もタヌキやアナグマに比べて極端に少ない。

紀伊半島のツキノワグマは、環境省では「絶滅のおそれのある地域個体群（LP）」、和歌山県では、2001 年版、2012 年版ともに絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）に選定していた。その背景として、1980 年代には紀伊半島 3 県で 180 頭というきわめて危機的な生息数が算出されたことに鑑み、1994 年から狩猟・捕獲自粛の措置を継続し、生息数の回復を待っていた。近年、ツキノワグマの目撃情報が増加傾向にあり、生息数の回復及び生息域の拡大が予想されるため、絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンとした。しかし、本種の生息数については 1994 年以降調査がなされていないことから、和歌山県、奈良県、三重県にまたがった紀伊半島における本種の生息状況を早急に把握する必要がある。

自然環境の悪化はいうまでもなく、外来種の増加にも注視しなければならない。アライグマ（特定外来生物）及びハクビシンは生息数が増加し、分布域も拡大している。両種は雑食性であり、農作物の食害、在来哺乳類との競合、小鳥の卵や幼鳥を捕食する等、多くの被害が報告されている。友ヶ島や和歌山市内に生息するクリハラリスの分布拡大によるニホンリスとの競合や、タイワンジカが本土へ生息域を拡大することによるニホンジカとの遺伝子汚染等も懸念されるところである。これらについては、被害範囲が少ない段階での迅速な対策が望まれる。

なお、今回の改訂にあたり、各種の解説において、標準和名・学名は川田ら（2021）に、目・科・属・種の配列は Ohdachi *et al*.（2015）に準拠した。また、各論であげた生息確認記録の箇所数は、実際の確認地点数ではなく、大字（おおあざ）単位で集計した数値である。

（参考文献）

1　川田伸一郎・岩佐真宏・福井　大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽　創・姉崎智子・鈴木　聡・押田龍夫・横畑泰志．2021．世界哺乳類標準和名リスト 2021 年度版．https://www.mammalogy.jp/list/index.html（2021 年 12 月 17 日参照）
2　Ohdachi S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Hukui & T. Saitoh. 2015. The Wild Mammals of Japan. Second Edition. 506pp. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
4　和歌山県．2019．和歌山県の外来種リスト．89pp．和歌山.

哺乳類の掲載種

●絶滅（EX）

オオカミ
ニホンカワウソ
ニホンアシカ

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

ヒメヒミズ
モリアブラコウモリ
ニホンウサギコウモリ
ノレンコウモリ
クロホオヒゲコウモリ

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

カワネズミ
ヒナコウモリ
テングコウモリ
ヤチネズミ
ニホンモモンガ
ツキノワグマ

●準絶滅危惧（NT）

キクガシラコウモリ
コキクガシラコウモリ
モモジロコウモリ
ユビナガコウモリ
ヤマネ
カヤネズミ
ニホンリス
アカギツネ
ニホンカモシカ

●情報不足（DD）

ミズラモグラ
コテングコウモリ
スミスネズミ

オオカミ　*Canis lupus* Linnaeus, 1758　食肉目　イヌ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅（EX）



選定理由

亜種ニホンオオカミ *C. l. hodophilax* は、本州、四国、九州に分布したが、1905 年の奈良県東吉野村での捕獲を最後に、100 年以上にわたって記録がない。和歌山県では、紀州藩時代（1730 年代）の産物帳に記録があり、また、1904 年か 1905 年に奈良県十津川村で捕獲されたとされる個体の剥製が県立自然博物館に、頭骨が和歌山大学教育学部に保管されている。1900 年代初頭までは紀伊山地に生存していたことは間違いない。

絶滅の原因としては、狩猟圧の増大や伝染病の蔓延、森林開発の影響等があげられている。その森林開発に関わる資料として、日本の人口推移をみると、1872 年に 3,480 万人であったのが、1920 年には 5,547 万人に、約 50 年で 1.5 倍強の増加であった。その間、多くの人が山間に田畑を開墾し、害獣となる猪鹿を駆除していったことは想像に難くない。これらの行為が、本種の生息地と餌の減少を招き、絶滅に至ったと思われる。

亜種ニホンオオカミは大陸に広く分布するオオカミに比べて小型・短肢とされる。なお、北海道産は亜種エゾオオカミ *C. l. hattai* に分類されている。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62（2）別冊：1–21.
3　総理府統計局. 1964. 第 15 回日本統計年鑑　1　人口の推移. https://www.nikkei.co.jp/needs/senzen/contents/pdf/001_1_1. pdf（2021 年 6 月 24 日参照）

写真：桑原英文撮影（和歌山大学教育学部所蔵標本）

ニホンカワウソ　*Lutra nippon* Imaizumi & Yoshiyuki, 1989　食肉目　イタチ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅（EX）



選定理由

本種は、本州、四国、九州、壱岐、対馬に分布したが、1979 年の高知県須崎市における目撃情報が最後の記録である。和歌山県では、1925 年に 15 頭捕獲の狩猟統計が残っており、また、和歌山市友ヶ島で 1955 年に死体 1 頭、1954 年と 1955 年に足跡の確認記録があり、本州では最も遅くまで生息が確認できた県である。

上述のように狩猟獣であったことから、毛皮採取を目的とした強い捕獲圧がかかっていた。1928 年以降は狩猟対象からは除外され、1965 年には国の特別天然記念物に指定されているが、個体数の回復は叶わなかった。その原因は、指定後も本種の生息環境の再生に取り組まなかったことに加え、漁網等による誤捕獲防止のための対策を講じなかったことによると思われる。

主生息域を山地とするオオカミと水辺である本種の絶滅は、どちらも各々の生態系において最大の肉食獣であったことを思うと、日本列島の自然環境の劣化を象徴していると言えよう。

本種を大陸産の亜種 *L. lutra nippon* とする見解もある。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊：1–21.
写真：清水善吉撮影（三重県総合博物館所蔵標本）

ニホンアシカ　*Zalophus japonicus* (Peter, 1866)　食肉目　アシカ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	–	国	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）



選定理由

本種は、千島列島から九州の沿岸部に分布したが、1975 年の島根県竹島における確認以降、全国的に記録がない。

和歌山県では、由良町海鹿島で 1709 年から 1878 年までの間に、多いときで 250 頭を数える目撃記録がある。このような状況を維持できたのは、同島が紀州藩主の御猟場として管理下に置かれていたためである。しかし、明治政府となり、藩体制の消滅にあわせて急減、絶滅した。おそらく、自由な渡島が可能になったことにより、強い狩猟圧が加わったものと思われる。

全国的にも、毛皮や油を目的とした乱獲により各地の生息地が消滅したとされる。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊：1–21.
写真：和田恵次提供（奈良女子大学所蔵標本）

ヒメヒミズ　*Dymecodon pilirostris* True, 1886　トガリネズミ形目　モグラ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	–



選定理由

本種は、本州、四国、九州に分布する日本固有種である。和歌山県では、新宮市、古座川町各 1、計 1 市 1 町 2 箇所で生息の記録があり、今回の改訂にともなう調査でもこの 2 箇所での生息を確認した。また、新たに田辺市の 1 箇所で生息が確認できた。しかしながら、新産地の確認は 30 年ぶりであり、今後も生息地が大幅に増加するとは考えにくい。

競合種ヒミズとの間で標高により棲み分けているケースもみられるが、最高地点が 1,400 m に届かない和歌山県では認められない。和歌山県既知 3 箇所の環境は、岩場やガレ場に限定されていることから、ヒミズとの競合の結果、土壌の発達の悪い環境に閉じこめられていると考えられる。和歌山県におけるヒメヒミズの生息状況は、ヒミズ生息域のなかにかろうじで残存している状況である。このような残存個体群の保護は、人為による影響での減少ではないだけに難しい面もあるが、まずは既知の生息地を厳重に守ることである。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　清水善吉. 2021. 和歌山県レッドデータブック 2021 調査の追加記録－とくに, ヒメヒミズとスミスネズミの生息環境－. 南紀生物, 63 (2)：159–163.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊：1–21.
写真：清水善吉撮影

モリアブラコウモリ　*Pipistrellus endoi* Imaizumi, 1959　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

本種は、本州と四国に分布する日本固有種であるが、確認記録はきわめて少ない。和歌山県でも、田辺市１箇所で１頭の生息記録があるに過ぎない。

日中のねぐらは樹洞であり、原生林に生息するとされていることから、樹洞のあるような大木の原生林を伐採してしまったことが減少の原因であろう。和歌山県唯一の生息確認地が大塔山黒蔵谷であることは、その考えと矛盾しない。

今後は、原生林伐採を行わないことはもちろん、人工林であっても樹洞があるような大木は一部を残置する等の施工方法が望まれる。また、ニホンジカの個体数増加に伴う林床植物の消滅は、餌となる昆虫類の減少を招いている可能性があり、コウモリ類の生息にも大きな影響を与えていると思われる。

ねぐらとして洞穴を利用しないことから生息確認はきわめて困難であり、調査にあたってはカスミ網等を用いた捕獲を地道に継続するしかない。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂２版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　福井　大. 2016. 和歌山県におけるコウモリ類の記録. 南紀生物, 58 (2)：162–171.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊：1–21.

写真：原田正史撮影

ニホンウサギコウモリ　*Plecotus sacrimontis* G. M. Allen, 1908　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）



選定理由

本種は、北海道、本州（中国地方を除く）、四国に分布する。和歌山県では、橋本市１・紀の川市２、高野町３、計２市１町６箇所で生息の記録がある。各箇所の確認個体数は、17 頭と５頭が各１、１頭が４箇所である。

日中のねぐらとして樹洞や洞穴、ときには家屋を利用することもある。和歌山県における生息確認は全て洞穴内であるので、奥山の隧道等を精査すれば新たな生息地が見つかる可能性がある。また、民家周辺に棲みついたコウモリ情報を収集し、現地調査を行って種の確定作業を実施することも必要と思われる。

洞穴をねぐらとするコウモリ類全般に当てはまるが、安全対策のための素堀隧道へのモルタル吹きつけや洞口の閉鎖にあたっては注意が必要である。工事の際には、計画立案時にコウモリ生息の調査を行い、生息が確認できた場合は計画の撤回を検討し、変更困難な時には適切な保全工法を採用しなければならない。また、既知産地の情報を事業部署に日頃から周知しておくことも大事である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂２版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　福井　大. 2016. 和歌山県におけるコウモリ類の記録. 南紀生物, 58 (2)：162–171.

参考文献・情報
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
写真：清水善吉撮影（県外撮影）

ノレンコウモリ　*Myotis bombinus* Thomas, 1906　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布するが、確認記録は少ない。和歌山県では、田辺市１・新宮市２、高野町２・古座川町１、計２市２町６箇所で生息の記録がある。各箇所の個体数は、１箇所で５頭、５箇所は１頭の確認である。確認箇所数及び確認個体数がきわめて少ない。

日中のねぐらは洞穴であるが、樹洞も利用する。樹洞を利用したねぐらの確認は困難であるが、洞穴のより詳細な調査は今後必要である。既知の６箇所のうち４箇所は洞穴での確認であり、奥山の林道や廃道に残された隧道を丹念に探せば新たな生息地が見つかる可能性がある。

また、既知産地については、生息情報の周知とともに、コウモリ類に悪影響を及ぼさない方法でモニタリングを実施していくことが望ましい。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野.
2　福井　大．2016．和歌山県におけるコウモリ類の記録．南紀生物，58（2）：162–171.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
写真：細田徹治撮影

クロホオヒゲコウモリ　*Myotis pruinosus* Yoshiyuki, 1971　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

本種は、本州、四国、九州に分布する日本固有種である。本県では、田辺市の２箇所でのみ生息の記録があり、確認個体数は５頭以下である。

ブナ林の下部から照葉樹林に生息するとされており、これらの原生林が伐採・人工林化されるのにともない、減少していったものと思われる。既知２箇所の生息地は、護摩壇山森林公園内及び大塔山黒蔵谷であり、和歌山県内においては比較的原生林が残存している地域である。これ以上の原生林伐採を避けることは、本種保全上も必須である。

昼間の休息場所は樹洞とされているが、洞穴内での確認例もあることから、原生林が残っている地域にある隧道等の調査を丹念に行えば新たな生息地が見つかる可能性がある。なお、本種の同定（種の特定）は難しく、調査にあたっては、いったんは捕獲して精査する必要がある。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野.
2　福井　大．2016．和歌山県におけるコウモリ類の記録．南紀生物，58（2）：162–171.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.

参考文献・情報
4　清水善吉・佐野　明．2021．三重県におけるクロホオヒゲコウモリの記録－清水（2007）でヒメホオヒゲコウモリとされた個体の再検討－．三重自然誌，(17)：72–73.
写真：原田正史撮影

カワネズミ　*Chimarrogale platycephalus* (Temminck, 1842)　トガリネズミ形目　トガリネズミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－



選定理由

本種は、本州、九州に分布する日本固有種である。橋本市１・新宮市１・田辺市３、紀美野町１・古座川町１、計３市２町７箇所で生息の記録がある。紀中地域での記録を欠くが、和歌山県の全域が分布域とみられる。

名前のとおり、河川の中上流域を生息環境としており、水辺から大きく離れることはない。そのため、河川環境の悪化は本種に甚大な影響を及ぼす。例えば、河川工事等の濁水により下流側の水生昆虫が減少することにより餌不足となり、本種は消滅してしまうという指摘もある。また、岸辺の土中や巨岩の下に巣をつくることから、コンクリート護岸や流路の直線化など、河川環境の単調化も本種の減少につながる。

河川工事等に際しては、適切な濁水対策を講じるとともに、河川内の岩石等の持ち出しを避けることが重要である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1　阿部　永．2003．カワネズミの捕獲，生息環境および活動．哺乳類科学，43：51–65.
2　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
写真：清水善吉撮影（県外撮影）

ヒナコウモリ　*Vespertilio sinensis* (Peters, 1880)　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	－



選定理由

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する。和歌山県では、橋本市１・田辺市１、九度山町１・有田川町１、計２市２町４箇所で生息の記録がある。直近の確認である有田川町の１箇所は、橋梁の隙間を日中のねぐらとしており、700 頭を超える大群となることもある。他の箇所は１ないしは２頭の確認である。

有田川町の生息地については、環境改変のないように留意する必要があり、定期的なモニタリングを実施していくことも重要である。最近は橋桁の耐震補強の工事が行われることも多いので、行政機関への情報提供は急務である。

日中のねぐらは樹洞が基本であるが、人工構造物を利用することも多いので、出巣時の目撃情報を募ることも生息状況の把握には効果的である。情報が得られたら、現地調査を行い、種の確定をする作業が必要となる。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野.
2　福井　大．2016．和歌山県におけるコウモリ類の記録．南紀生物，58（2）：162–171.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
写真：細田徹治撮影

テングコウモリ　*Murina hilgendorfi*（Peters, 1880）　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−



本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する日本固有種である。和歌山県では、御坊市 1・田辺市 2・新宮市 1、高野町 2・古座川町 1、計 3 市 2 町の 7 箇所で生息の記録がある。また、各箇所での確認個体数は 1 ないしは 2 頭であり、生息範囲は和歌山県の全域に及んでいるが、確認事例、確認個体数は少ない。

選定理由

日中のねぐらは樹洞や洞穴であるが、木の茂みや家屋内で見つかった例もある。和歌山県では、洞穴で確認された記録が多く、廃道となったトンネルがねぐらとなっていることもある。そのようなトンネルは、安全対策上の理由で閉鎖されるため、工事にあたっては本種を含めた洞穴棲コウモリの保全対策が求められる。人の侵入はできないが、コウモリの出入りが可能な柵（バット・ゲートと呼ばれる）の設置が各地で進んでおり、和歌山県においても採用していくべきである。また、ねぐらとなる樹洞のできるような大木は極力残すことも重要である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　福井　大. 2016. 和歌山県におけるコウモリ類の記録. 南紀生物, 58 (2) : 162–171.
3　コウモリの会（編）. 2011. コウモリ識別ハンドブック　改訂版. 88pp. 文一総合出版, 東京.
4　清水善吉. 2015. 御浜町の茶畑でテングコウモリを確認. 自然誌だより, (104) : 8.
5　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊 : 1–21.

写真：清水善吉撮影（県外撮影）

ヤチネズミ　*Craseomys andersoni*（Thomas, 1905）　齧歯目　キヌゲネズミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



本種は、本州中部以北および紀伊半島に分布する。両分布地間に位置する鈴鹿・布引山地には生息せず、紀伊山地は本種の隔離分布地である。和歌山県での生息は、田辺市 3・新宮市 4、白浜町 1・那智勝浦町 1・古座川町 2、計 2 市 3 町 11 箇所での記録がある。紀南の山地にのみ分布し、生息環境はきわめて限定的である。

選定理由

その生息環境は、優占樹種は問わないが、鬱蒼とした森林内の谷沿いの岩の多い場所である。しかしながら、このような場所であれば必ず生息するというわけではなく、他にも分布の限定要因があると思われる。狭い分布域の限られた環境に生息していることから、生息地の改変は即、地域絶滅につながる。

治山事業や林道敷設にあたっては事前調査を実施し、本種の生息が確認できた場合は計画の見直し等も必要である。また、和歌山県内における生息地の把握を継続的に進めていくべきである。

なお、本種の分類は阿部（2008）および Iwasa *et al.*（2022）に従った。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.

参考文献・情報
2 Iwasa, A. M., Kaneko, Y. & Kimura, Y. 2022. Evidence of late root formation of molars in Anderson's red-backed vole, *Eothenomys andersoni* (Thomas, 1905) (Cricetidae, Rodentia), and arguments for its genetic allocation. Zookeys, 1123 : 187–204.
3 清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
写真：清水善吉撮影（県外撮影）

ニホンモモンガ　*Pteromys momonga* Temminck, 1844　齧歯目　リス科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－



選定理由

本種は、本州、四国、九州に分布する日本固有種である。和歌山県では、橋本市 1・田辺市 3、紀美野町・高野町・古座川町で各 1、計 2 市 3 町 7 箇所で生息の記録がある。紀中地域での記録を欠くが、全県が分布域とみられる。

滑空しながら移動するので、それが可能な森林のみに生息する。植物食であるので、餌条件によって分布が制限されることはないが、日中のねぐらや出産のための巣を樹洞につくることから、大木のある環境が必要となってくる。大木のある場所として真っ先に思いつくのは社寺林であるが、和歌山県では生息の記録がない。社寺林に生息することの多いムササビと競合関係にあり、より小型であることから劣位であるのかもしれない。

最近、木材需要が好転の兆しをみせており、森林伐採の拡大が懸念される。天然林を伐採しないことはもちろん、人工林であっても大径木を一部残すなどの森林施業が望ましい。また、本種の分布・生態に関する記録はきわめて少なく、積極的に調査研究を進める必要がある。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報
1 阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂 2 版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2 清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
写真：鈴木慶太撮影

ツキノワグマ　*Ursus thibetanus* G. Cuvier, 1823　食肉目　クマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）



選定理由

本種は、本州と四国に分布し、九州では絶滅したとされる。和歌山県では、橋本市・田辺市、かつらぎ町・九度山町・有田川町・日高町・印南町・みなべ町・日高川町・古座川町、北山村の 2 市 8 町 1 村で生息の記録がある。

本種はかつて狩猟獣であり、また林業被害を発生することから檻罠による捕獲が積極的に行われていた。その結果、1980~1990 年代には紀伊半島 3 県で 180 頭というきわめて危機的な個体数が推定された。それを受けて、1994 年から狩猟・捕獲自粛の措置を継続しており、近年の目撃情報は個体数の増加及び生息域の拡大を示唆しているため、ランクダウンとなった。

更に、増加を示す情報として猪罠等による誤捕獲が 2014~2020 年度で計 26 頭あり（和歌山県資料）、すべて奥山放獣されている。また、人家付近に出没する事例も増えており、

選定理由

人身被害の発生も予想されることから、地域住民への啓発とともに、このようなケースにおける対応のルールを検討する必要がある。そのためには、紀伊半島３県が連携した個体数の把握が緊急の課題である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　環境省（編）．2014．レッドデータブック 2014 －日本の絶滅のおそれのある野生生物－ 1 哺乳類．132pp．ぎょうせい，東京．
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度（2018 年度）中大型哺乳類分布調査　調査報告書　クマ類（ヒグマ・ツキノワグマ）・カモシカ．67pp．＋資料（1–41）．富士吉田．
4　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21．

写真：細田徹治撮影

キクガシラコウモリ　*Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774)　翼手目　キクガシラコウモリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

本種は、北海道から屋久島まで分布する。和歌山県では、和歌山市１・橋本市２・田辺市６・新宮市２・紀の川市１、高野町４・由良町１・印南町１・みなべ町１・日高川町１・白浜町１・上富田町１・那智勝浦町１・古座川町２、計５市９町の 25 箇所で生息の記録がある。300 頭以上の記録が１箇所、10～100 頭が５箇所、その他は１～数頭の確認であり、確認箇所数の割に確認個体数は少ない。

日中のねぐらは洞穴であり、自然洞以外にも山間部の隧道や廃トンネル、廃坑、導水路、炭焼き窯跡等を利用する。更に、廃屋や民家の納屋等を休息場所に選ぶこともあり、ねぐら環境選択の幅は比較的広い。しかしながら、基本は洞穴であり、安全対策上の理由で洞口を閉鎖する場合には、コウモリの出入りが可能なバット・ゲートを設置することが必要である。また、防空壕のように戦争遺跡として観光資源化されている箇所もあるため、コウモリ類の生息壕については入壕規制が必要である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　福井　大．2016．和歌山県におけるコウモリ類の記録．南紀生物，58（2）：162–171．
3　コウモリの会（編）．2011．コウモリ識別ハンドブック　改訂版．88pp．文一総合出版，東京．
4　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21．

写真：細田徹治撮影

コキクガシラコウモリ　*Rhinolophus cornutus* Temminck, 1834　翼手目　キクガシラコウモリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

本種は、北海道から奄美諸島まで分布する。和歌山県では、橋本市１・田辺市２・新宮市１・紀の川市１、九度山町１・日高川町１・那智勝浦町２・古座川町２、計４市４町の 11 箇所で生息の記録がある。１箇所で 300 頭以上の記録があるが、他はすべて 10 頭以下である。

日中のねぐらは洞穴であるが、キクガシラコウモリに比べて外界の影響が及びにくい生息環境を選択

選定理由

する傾向が認められる。そのため、両端の開口した短い廃トンネルや導水路には生息しない。既知の生息地について、安全対策上の理由で洞口を閉鎖する場合には、コウモリの出入りが可能なバット・ゲートを設置することが必要である。また、保全対策を計画段階から立案することができるように、既知産地の周知を積極的に行うことが必要である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　福井　大．2016．和歌山県におけるコウモリ類の記録．南紀生物，58 (2)：162–171.
3　コウモリの会（編）．2011．コウモリ識別ハンドブック　改訂版．88pp．文一総合出版，東京．
4　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.
5　清水善吉・寺西敏夫・佐野　明・冨田靖男・前田喜四雄．2004．三重県のコウモリ洞と生息記録．三重自然誌，(8/9/10)：77–90.

写真：清水善吉撮影（県外撮影）

モモジロコウモリ　*Myotis macrodactylus*（Temminck, 1840）　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

本種は、北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬、徳之島に分布する。和歌山県では、橋本市１・田辺市３・新宮市３・紀の川市１、高野町４・上富田町１・すさみ町１・古座川町５、計４市４町の 19 箇所で生息の記録がある。各箇所の生息個体数は、１箇所で 2,000~3,000 頭の大群が記録されているが、他は 10 頭以上が４箇所あるだけであり、大部分は 1~数頭の記録である。生息域は和歌山県の全域に及び、確認箇所も比較的多いが、生息環境は脆弱である。

すなわち、日中のねぐらは洞穴であり、自然洞以外にも山間部の隧道や廃トンネル、廃坑、導水路等を利用するが、これらの環境は人為の影響を受けることが多い。安全対策上の理由により廃トンネル等を閉鎖する場合は、コウモリの出入りが可能なバット・ゲートを設置することが必要である。また、工事等の計画段階から保全対策を立案することができるように、既知産地の周知を積極的に行うことが必要である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　福井　大．2016．和歌山県におけるコウモリ類の記録．南紀生物，58 (2)：162–171.
3　コウモリの会（編）．2011．コウモリ識別ハンドブック　改訂版．88pp．文一総合出版，東京．
4　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.

写真：清水善吉撮影（県外撮影）

ユビナガコウモリ　*Miniopterus fuliginosus* (Hodgson, 1835)　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



本種は、本州、四国、九州、佐渡、対馬に分布する。和歌山県では御坊市 1・田辺市 2・新宮市 6・紀の川市 1、高野町 1・みなべ町 1・日高川町 1・白浜町 1・上富田町 1・那智勝浦町 1・古座川町 2、計 4 市 7 町の 18 箇所で生息の記録がある。各箇所の個体数は、一部に大群の記録があるが、ほとんどは 10 頭以下である。

選定理由

日中のねぐらは洞穴内であり、自然洞以外にも山間部の隧道や廃トンネル、廃坑、導水路等を利用することも多い。数百頭以上の大群を形成し、和歌山県においても約 5,000 頭のねぐら集団が知られている。また、白浜町の千畳敷海食洞は近畿地方における唯一の繁殖洞とされ、30,000 頭を超える数の出産・保育集団が確認されている。なお、出産は初夏で、一子である。

安全対策上の理由により廃トンネル等を閉鎖する場合は、コウモリの出入りが可能なバット・ゲートを設置することが必要である。また、千畳敷海食洞については、近畿地方のユビナガコウモリにとってきわめて重要であることから、「ユビナガコウモリの繁殖洞」として白浜町指定の天然記念物となっている。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　福井　大. 2016. 和歌山県におけるコウモリ類の記録. 南紀生物, 58 (2) : 162–171.
3　コウモリの会（編）. 2011. コウモリ識別ハンドブック　改訂版. 88pp. 文一総合出版, 東京.
4　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62（2）別冊 : 1–21.

写真：清水善吉撮影（県外撮影）

ヤマネ　*Glirulus japonicus* (Schinz, 1845)　齧歯目　ヤマネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



本種は、本州、四国、九州、隠岐の低山から亜高山帯の森林に生息する。日本固有種で、国の天然記念物に指定されている。夜行性で、主に樹上で活動し、体サイズの割に広い行動圏（メス 1.1 ha、オス 5.8 ha）を持つ。餌は、果実や昆虫、その他の小動物、小鳥の卵等。冬期に冬眠し、中部地方での冬眠期間は 6 ヶ月前後に及ぶ。温暖な本県では 11 月から翌年 2 月まで冬眠する。一方で、筆者らは、和歌山県内で 12 月に活動する個体を確認している。

選定理由

2009~2019 年の巣箱調査により、橋本市（巣材と個体）、白馬林道沿い山林（広川町（個体）・日高川町（個体））、日高川町（個体と巣材）、有田川町（個体と巣材）、田辺市黒蔵谷国有林（巣材）及び古座川町の北海道大学和歌山研究林（個体と巣材）にて恒常的な生息を確認した。この他、2016 年に田辺市で幼獣の保護記録がある。これらの結果は、本種が和歌山県内全域に安定的に生息していることを示しており、ランクダウンの根拠とした。

一方、紀南地方の高速道路の新設や拡幅工事に加え、紀中山岳地帯を中心に大規模風力

選定理由

発電施設の建設・計画が相次いでおり、生息条件の悪化が危惧される。

執筆者（芝田史仁・清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　芝田史仁・細田徹治・揚妻直樹・鈴木慶太・清水善吉．2020．和歌山県内におけるヤマネ *Glirulus japonicus* の生息状況．南紀生物，62（2）：98–102．
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21．

写真：清水善吉撮影（県外撮影）

カヤネズミ　*Micromys minutus*（Pallas, 1771）　齧歯目　ネズミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

本種は、本州（宮城・新潟以南）、四国、九州、対馬、隠岐島、淡路島等に分布する。和歌山県での生息は、和歌山市・海南市・橋本市各１、田辺市３・新宮市２・紀の川市１、高野町・有田川町・上富田町各１、計６市３町 12 箇所で記録がある。確認箇所は多くないが、分布域は和歌山県の全域に広がる。

本種の生態的特徴として、営巣植物としてオギ・ススキ等のイネ科植物を必要とすることであり、それらを組み込んで球状の巣をつくる。これらの植物は、川原や休耕田等に生育することが多く、河川敷の公園化や放棄水田の埋め立て、遷移の進行は本種の生息地を奪ってしまう。また、道路法面の植生に営巣する場合もあることから、その除草管理には配意し、区画を分けて実施するなどの対策が求められる。

なお、水田のイネに営巣するケースも多いことから、和歌山県内においてもその実態調査が必要である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　畠　佐代子．2015．すぐそこに、カヤネズミ 身近にくらす野生動物を守る方法．143pp．くもん出版，東京．
3　清水善吉．2014．三重県におけるカヤネズミの分布状況．三重自然誌，（14）：76–82．
4　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21．

写真：細田徹治撮影

ニホンリス　*Sciurus lis* Temminck, 1844　齧歯目　リス科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

本種は、本州、四国、九州に分布する日本固有種である。ただし、中国地方以西には少なく、九州からの確実な記録は近年ない。和歌山県では、和歌山市１・橋本市１・田辺市３、広川町１・有田川町３・日高町・由良町・印南町各１・日高川町４・白浜町１・古座川町１、北山村１、計３市８町１村 19 箇所で生息の記録がある。和歌山市における記録は直川地内で自動撮影されたものであり、紀の川以北にも分布することが判明した。

平野から亜高山帯にかけて分布するが、主たる生息地は低山～山地帯のアカマツ林であった。しかしながら、単一樹種による人工林化やマツノザイセンチュウによる大量枯死、遷

移の進行等によりアカマツ林は激減した。最近では、太陽光発電や風力発電施設の建設が相次いでおり、生息地をさらに減少させている。また、各地で見られる不必要なほど広い林・農道の敷設も本種の生息地を分断し、輪禍による個体数減少を誘発している。

選定理由　なお、クリハラリスが和歌山市で野生化していることから、分布拡大によりニホンリスの生活を圧迫することが懸念される。クリハラリスは特定外来生物でもあり、その駆除は緊急の課題である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62（2）別冊：1–21.

写真：内藤麻子提供

アカギツネ　*Vulpes vulpes*（Linnaeus, 1758）　食肉目　イヌ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



本種は、北海道、本州、四国、九州等に分布する。和歌山県では、橋本市 1・田辺市 3・紀の川市 1・岩出市 1、かつらぎ町 3・有田川町 4・日高川町 2・上富田町 1、計 4 市 4 町 16 箇所で生息の記録がある。なお、岩出市における記録は、中島地内の県道 134 号線付近においてメス 1 頭（死体）が拾得されたものであり（和歌山県立自然博物館資料）、紀の川以北にも分布することが判明した。

選定理由　一方、紀南地方での生息記録は確認できないことから、分布の空白域となっている可能性がある。新宮市熊野川町嶋津地内での聞き取りでは、かつてはいたが最近は見なくなったという証言も得られており、何らかの原因で急減したことを示唆している。その原因のひとつとして、疥癬症の蔓延が考えられる。タヌキが罹患して衰弱している例は多く確認されており、同じイヌ科に属する本種も少なからず影響を受けたと思われる。また、中山間地が主たる生息地である本種にとって、同地域の人口減少と耕作地の消滅も一因かもしれない。狩猟獣であるが、さして需要があるとも思えず、また減少傾向にあることから、狩猟獣指定を解除することが妥当である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62（2）別冊：1–21.

写真：中村　進提供

ニホンカモシカ　*Capricornis crispus*（Temminck, 1836）　偶蹄目　ウシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）



選定理由　本種は、本州、四国、九州に分布する日本固有種である。1955 年に国の特別天然記念物に指定され、5 年間隔で生息状況のモニタリング調査が行われている。それによると分布域は拡大傾向にあることが認められ、農林業被害が発生していることから、一部では特別捕獲も実施している。

和歌山県では、橋本市・田辺市・新宮市、紀美野町・かつらぎ町・九度山町・高野町・広川町・有田

川町・みなべ町・日高川町・白浜町・すさみ町・那智勝浦町・古座川町・串本町、北山村の 3 市 13 町 1 村で生息の記録がある。紀の川以北での確認はない。特別天然記念物指定動物であるので、衰弱個体が保護される機会も多いが、懸念されるのは滅失（死亡）個体発見の数である。2000 年以降だけでも 148 頭の確認があるのは、輪禍による死亡例をのぞけば、他の大型野生哺乳類では例がないであろう。

選定理由

死亡原因は不明な場合が多いが、疥癬症等の皮膚病等に罹患した個体も確認されていることから、今後、急激に減少する可能性も否定できない。また、激増しているニホンジカとの競合も懸案事項である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　三重県教育委員会・奈良県教育委員会・和歌山県教育委員会. 2010. 紀伊山地カモシカ保護地域第 4 回特別調査報告書. 219pp. 三重県教育委員会・奈良県教育委員会・和歌山県教育委員会.
3　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁. 2020. 和歌山県における哺乳類の記録. 南紀生物, 62（2）別冊：1–21.

写真：丸谷榮彦提供

ミズラモグラ　*Oreoscaptor mizura* (Günther, 1880)　トガリネズミ形目　モグラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	準絶滅危惧（NT）



本種は、本州のみに分布する日本固有種である。和歌山県では、1971 年に橋本市矢倉脇での記録が唯一であったが、2021 年に同市彦谷で 50 年ぶりに死体 1 頭が拾得された。

50 年前の確認地点の環境は不明であるが（現在はスギ人工林）、彦谷の拾得地点の植生はスギ・ヒノキの人工林であり、低木層・林床植物は貧弱である。本種は自然林や地形の複雑な山地に限定生息するという指摘もあるが、今回の確認地点はどちらにも該当せず、また、本州各地からの報告も限定環境下での生息には否定的な事例が多い。調査の進展によりランク外となる可能性もあることから、まずは生息状況を把握することが必要である。

選定理由

なお、本種はモグラであるが、地表での行動も比較的多く行うとされており、墜落缶を用いた調査が比較的有効である。また、モグラの死体を発見したときに「拾う人材」の確保も、本種の生息状況解明には不可欠である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）. 2008. 日本の哺乳類　改訂 2 版. 206pp. 東海大学出版会, 秦野.
2　逸見翔太・鈴木慶太・清水善吉. 2021. 和歌山県でミズラモグラを 50 年ぶりに確認. 南紀生物, 63 (2)：176–178.
3　環境省（編）. 2014. レッドデータブック 2014 − 日本の絶滅のおそれのある野生生物 − 1 哺乳類. 132pp. ぎょうせい, 東京.
4　相良直彦・上田俊穂・西田富士夫・正井俊郎. 2008. 滋賀県朽木におけるミズラモグラの存在, とくに低標高の地における生息について. 哺乳類科学, 48：31–38.
5　樽野博幸. 1978. 近畿地方にも, ミズラモグラがいた！ Natuer Study 7 号　6 ページの記事の訂正とおわび. Nature Study, 24 (12)：7–8.

写真：清水善吉撮影（県外撮影）

コテングコウモリ　*Murina ussuriensis* Ognev, 1913　翼手目　ヒナコウモリ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本種は、日本列島に広く分布するが、西日本における記録は少ない。本県においても由良町で１頭の記録があるだけであり、その標本は京都大学総合博物館に収蔵されている。

日中のねぐらは基本的に樹洞であるが、木の茂みや樹皮の隙間、洞穴内、家屋内でも発見例があることから、コウモリ相の調査が進めば、本種の生息記録も増加する可能性がある。ねぐらとなる樹洞のできるような大木は極力残すことが必要である。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.

写真：松村澄子提供（県外撮影）

スミスネズミ　*Craseomys smithii*（Thomas, 1905）　齧歯目　キヌゲネズミ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本種は、本州（新潟・福島県以南）、四国、九州に分布する。広い分布域をもつが、各地で分断化されており、生息数も多くない。本県では、田辺市と有田川町各２箇所、計１市１町４箇所で生息の記録があるのみであり、護摩壇山から白馬山にかけての白馬山脈に点在している。紀北地域の和泉山脈の大阪府側では本種も記録されているが、和歌山県側では未確認であるのは、高い人工林率によるのかも知れない。

護摩壇山一帯は、和歌山県最大のブナ天然林が残存しており、そのことが本種の生息を可能にしていると推測される。しかし近年、増加したニホンジカの採食により林床植生は壊滅的な影響を受けており、草食の本種にとって大きな脅威となっている。最新（清水，2021）の記録である有田川町の１箇所は、倒木が折り重なっていることによりシカが侵入できないため、草本植物の生育が認められる場所であった。

護摩壇山一帯では防鹿対策としてネットの設置が試験的に行われているが、動物の生息環境を保護するためには、更に広い範囲に対策を講じることが望まれる。

執筆者（清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁）

参考文献・情報

1　阿部　永（監）．2008．日本の哺乳類　改訂２版．206pp．東海大学出版会，秦野．
2　大阪府（編）．2000．哺乳類．in 大阪府野生生物目録．13–15．大阪．
3　清水善吉．2021．和歌山県レッドデータブック 2021 追加記録－とくに，ヒメヒミズとスミスネズミの生息環境－．南紀生物，63（2）：159–163.
4　清水善吉・細田徹治・鈴木慶太・原田正史・佐々木　歩・芝田史仁．2020．和歌山県における哺乳類の記録．南紀生物，62（2）別冊：1–21.

写真：細田徹治撮影

2 鳥類

鳥類の概要

沼野　正博

和歌山県内では、2018 年 3 月 1 日現在、362 種の野鳥が記録されている。(沼野，2018)。このうち、留鳥が 18 %、夏鳥が 9 %、冬鳥が 29 %、旅鳥が 21 %、迷鳥が 23 %である。また、繁殖が確認されているのは 100 種である。

和歌山県の鳥類の生息環境は、戦後 30 年ほどで大きく変化した。人工林化による自然林の減少、開発や河川改修等による湿地の減少、農薬の使用による生物の死滅等、多くの野鳥が生息環境を失い、また餌の減少に直面して、個体数を減少させた。その後、生息環境の悪化はそれほど進んでいるようには見えないが、回復も進んでいないため、多くの野鳥は個体数が減少した状態が続いている。また近年はニホンジカが増加し、落葉樹林帯の林床に生えていたササ類や灌木が激減し、そのような環境を生息場所にしていた種に大きな影響が出ている。

前回までに引き続き、レッドリスト掲載種の多くは、生態的上位種や、湿地等、生息環境が限られる種である。これは、このような種が、自然環境の悪化の影響を最も受けやすいことが最大の理由である。一方、身近な場所に生息する野鳥もいくつかランクインしている。このことは、身近な環境に生息する野鳥にも、生息環境の悪化の影響を受けている種があることを示唆している。

今回、レッドリストの改訂に当たり、初版の選定で用いた 8 つのカテゴリー、「季節性」、「繁殖状況」、「定期性」、「個体数」、「個体数の増減」、「生息環境」、「生息環境の面積」、「抑圧要因」の観点から、危険度ランクを再度検討した。更に、最終的にランクを決定する際には、全国版レッドリスト、近畿地区レッドデータブック及び近畿各府県のレッドリストを参考に用いた。

今回、新たにランクインしたのは 7 種である。ジュウイチ、カッコウ、ツツドリのカッコウ類は、個体数が減少しているだけでなく、託卵対象種であるコマドリやコルリ、落葉樹林帯のウグイス等が減少していることも考慮して、記載することにした。バンは近年の個体数の減少が著しいこと、ヒメアマツバメはいくつかのコロニーが消失していることを重視し、記載することにした。カンムリウミスズメは、繁殖期に海での観察例がいくつかあり、調査により巣の可能性がある穴も確認されたが、明確な繁殖確認ができず、情報不足として記載することにした。繁殖が確認されれば、その希少性から、絶滅危惧Ⅰ類に記載すべきと考えている。シマクイナは、調査により冬季に複数箇所で複数個体の生息が確認され、継続した越冬が強く示唆されるが、調査データが少ないため、情報不足として記載することにした。継続した調査によりデータが蓄積され、越冬地としての利用が確認されれば、絶滅危惧Ⅰ類に記載すべきと考えている。

ランクアップは、4 種である。コアジサシとコマドリは、観察例は通過個体のみで、15 年以上県内での繁殖が確認されていないことから、絶滅危惧ⅠＡ類とした。ヤマセミも確認例が非常に少なく、個体数の減少が著しいと判断して、絶滅危惧ⅠＡ類とした。ヨシゴイも 10 年以上繁殖確認がなく、観察例も激減していることから、絶滅危惧ⅠＢ類にアップさせた。

ランクダウンは 3 種である。ヨタカは、個体数はまだかなり少ないと考えられるが、繁殖例や確認例が以前よりも増えているため、絶滅危惧ⅠＢ類にダウンさせた。ヤマシギも、確認例が増えていることから、絶滅危惧Ⅱ類にダウンさせた。サンショウクイは、繁殖確認も増えていることから、準絶滅危惧にダウンさせた。

ランクアウトは 2 種である。ハイイロチュウヒは、近年の越冬例が激減しており、定期性なしと判断したので、記載から外した。キビタキは、個体数が回復し、各地で確認されるようになったことから、記載から外した。

2012 年改訂版で「学術的重要」として記載していたウミネコとアマツバメは、引き続きその価値を認め、継続して記載することにした。

一度失われた自然環境を回復することは、非常に難しい。高度経済成長期に著しく進行した自然環境の悪化は、現在その進行が止まった段階で、まだ回復には至らない。そのため多くの種では、個体数の回復が見られない状態である。渡り鳥にとっては、越冬地である東南アジア等の生息環境の悪化の影響もあるのではないかとも言われている。レッドリスト掲載種については、引き続き個体数の把握と生息環境の保全に取り組むとともに、和歌山県内だけでなく、他の地域の状況も注視していく必要がある。

（参考文献）

1　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．

鳥類の掲載種

●絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）
オオヨシゴイ
ミゾゴイ
コアジサシ
ヤマセミ
ブッポウソウ
ヤイロチョウ
コマドリ

●絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）
ウズラ
ヨシゴイ
タマシギ
ヨタカ
クマタカ
コミミズク
コノハズク
アカショウビン

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）
トモエガモ
ササゴイ
クロサギ
ナベヅル
ヒクイナ
ジュウイチ
ヤマシギ
チュウヒ
オオタカ
オオコノハズク
アオバズク
フクロウ
ハヤブサ
サンコウチョウ
ウチヤマセンニュウ
キバシリ
コルリ

●準絶滅危惧（NT）
ヤマドリ
オシドリ
チュウサギ
クイナ
バン
ツツドリ
カッコウ
ヒメアマツバメ
イカルチドリ
シロチドリ
ミサゴ
ハチクマ
ツミ
ハイタカ
サシバ
アカゲラ
オオアカゲラ
サンショウクイ
コシアカツバメ
トラツグミ
クロツグミ
コサメビタキ

●情報不足（DD）
カンムリウミスズメ
シマクイナ

●学術的重要（SI）
ウミネコ
アマツバメ

オオヨシゴイ　*Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe, 1873)　ペリカン目　サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）

選定理由

小型のサギで、夏鳥として本州中部以北に渡来する。湿地やヨシ原に生息し、和歌山県内では主に旅鳥として渡り途中の個体が通過していたと考えられるが、ここ 30 年以上観察例がない。全国的にも生息地や個体数が減少している。

これまで、和田不毛（美浜町）、日高川、富田川などで記録されている。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：藏重麗子提供（県外撮影）

ミゾゴイ　*Gorsachius goisagi* (Temminck, 1835)　ペリカン目　サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

低山の林に夏鳥として渡来し、繁殖するが、全国的にも個体数が減少している。繁殖期には、「ボォー、ボォー」と低い声で鳴き、樹上に営巣する。暖地では、越冬するものもある。

和歌山県内各地で、時々鳴き声の報告例はあるが、継続した確認例はほとんどなく、これらは渡り途中の通過個体と思われる。冬季の観察も 1 例あり、これは越冬個体と思われる。



和歌山県内では 20 年以上繁殖記録がなかったが、ここ数年で 2 例の繁殖記録が報告された。国ランクでも、準絶滅危惧から一時絶滅危惧Ⅰ B 類にランクアップされたが、現在は絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンされたので、個体数が回復傾向にあると考えられ、県内の状況も注視していきたい。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　佐々木　歩．2020．和歌山県紀美野町におけるミゾゴイの観察記録．南紀生物，62（1）：58–59．
6　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
7　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

コアジサシ　*Sterna albifrons* Pallas, 1764　チドリ目　カモメ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

夏鳥として渡来し、海岸やその付近の空き地、河川敷、中州等で繁殖するが、繁殖適地が激減しており、個体数も減少している。造成地などで一時的にコロニーが生じても、草が茂ると繁殖しなくなるので、繁殖適地の状況は、非常に不安定である。

和歌山県内では、渡り鳥として春と秋に観察されるが、観察例は多くない。繁殖は、ここ 30 年以上確認されていない。大阪湾内では、いくつかの大規模なコロニーが存在するので、そこから飛来する個体もあり、動向を注視していきたい。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：上野憲三提供

ヤマセミ　*Ceryle lugubris*（Temminck, 1834）　ブッポウソウ目　カワセミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	－



選定理由

九州以北の渓流に、留鳥として生息する。川岸やその近くの土の崖に横穴を掘り、その中で繁殖する。水辺の枝や岩等に止まってねらいを定め、ときには停空飛翔してから水中に飛び込み、魚を捕らえる。

和歌山県内では、主要河川の上流部に留鳥として生息するが、観察例が激減しており、個体数の減少が著しいと思われる。広い縄張りを必要とするので、もともと生息密度が低かったことに加え、河川整備や道路工事等の影響により、繁殖適地が減少したことも影響していると思われる。前回、絶滅危惧Ⅰ B 類にランクアップしたが、確認例が更に減少していることから、絶滅危惧Ⅰ A 類にランクアップさせた。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ブッポウソウ　*Eurystomus orientalis*（Linnaeus, 1766）　ブッポウソウ目　ブッポウソウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

九州から本州の山地の林に夏鳥として渡来する。大きな杉のある林の周辺に生息し、樹洞で繁殖するが、最近は橋などの建造物や巣箱で繁殖する個体も増えている。中国地方や本州中部では巣箱を設置し、保護した結果、個体数が回復している地域もある。

和歌山県内では、夏鳥として高野山や護摩壇山周辺などに局所的に生息していたが、全て 20 年以上前に生息確認が途絶え、近年は観察例もほとんどない。

国ランクでも、絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧Ⅰ B 類にランクアップしている。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影（県外撮影）

ヤイロチョウ　*Pitta brachyura*（Linnaeus, 1766）　スズメ目　ヤイロチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

西南日本の低山の林に夏鳥として渡来し、渓流沿いの自然度の高い常緑広葉樹林に生息する。湿った林床で、ミミズや昆虫などを餌とする。繁殖期の初期には、「ポポピー、ポポピー」と鳴く。全国的にも分布が局地的で、個体数の減少が著しい。

和歌山県内では、主に紀南地方の照葉樹林に局所的に生息していた。繁殖確認もされていたが、その後 20 年以上確認されなくなっていた。しかしここ数年、新たな繁殖確認や繁殖を示唆する行動（継続的なさえずり）が確認されたことから、生息密度は低いものの、県内での生息は、継続して保たれていると考えられる。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

コマドリ　*Erithacus akahige*（Temminck, 1835）　スズメ目　ヒタキ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

九州以北の山地帯から亜高山帯の落葉樹林や針葉樹林に、夏鳥として渡来する。特に、林床にササ類が生えた森林に生息する。「ヒンカラララ」とさえずり、日本三鳴鳥の一つとされる。

和歌山県内では、護摩壇山や果無山脈、大塔山等のブナ林で繁殖していたが、ニホンジカの食害によってササ類が壊滅状態になり、ここ 15 年以上繁殖が確認されていない。生息の回復には、林床の植生の回復が必要で、容易ではない。渡り途中の個体は、現在でも確認されており、低地で見られる。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ウズラ　*Coturnix japonica* Temminck & Schlegel, 1849　キジ目　キジ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

平地から山地の草原や農耕地に生息し、本州中部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する。全国的にも減少しており、国ランクでも情報不足から準絶滅危惧にランクインした後、絶滅危惧Ⅱ類にランクアップされた。

和歌山県内では、旅鳥または冬鳥として河川敷や農耕地で確認されているが、観察例は多くない。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：藏重麗子提供（県外撮影）

ヨシゴイ　*Ixobrychus sinensis*（Gmelin, 1789）　ペリカン目　サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

夏鳥として九州以北に渡来し、河川敷や湿地のヨシ原等で繁殖する。日本に生息するサギ類では最も小さい。河川改修や水田整備等により、生息適地が減少しており、全国的にも個体数が減少している。

和歌山県内では、主な河川の河川敷、阿尾不毛等の湿地、休耕田や用水路等のヨシ原で観察され、繁殖も確認されていたが、近年繁殖は確認されておらず、確認例も激減している。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

タマシギ　*Rostratula benghalensis*（Linnaeus, 1758）　チドリ目　タマシギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

本州中部以南に、留鳥として生息する。主に夜間に活発に活動し、繁殖期には雌が「コォー、コォー、コォー」と鳴く。一妻多夫の繁殖形態を持ち、雄が抱卵・育雛を行う。主に水田や休耕田で繁殖するが、水田の整備等で繁殖適地が減少しており、また餌となる昆虫や貝類、甲殻類の減少等もあり、全国的に個体数が減少している。

和歌山県内では、各地に留鳥として生息し、水田や湿地、水路等で見られる。繁殖例は非常に少なく、冬季の観察がほとんどであるが、近年は観察例も激減している。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ヨタカ　*Caprimulgus indicus* Latham, 1790　ヨタカ目　ヨタカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



夏鳥として九州以北に渡来し、平地から山地の林に生息する。夜行性で、夕方から活動し、林や草原の上を飛び回って昆虫を捕らえて餌とする。繁殖期には、「キョッキョッキョッ･･･」と長く続けて鳴く。全国的にも個体数が減少している。

40 年以上前は、和歌山県内各地に生息しており、人家近くでも確認されていたが、その後急減し、近年は自然度の高い山地周辺でのみ観察されている。最近は、繁殖確認や繁殖を示唆する行動（継続したさえずり）が増えており、以前よりは個体数が回復しているものと思われる。国ランクでも、ランク外から絶滅危惧Ⅱ類にランクインした後、準絶滅危惧にランクダウンされた。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：藏重麗子提供（県外撮影）

クマタカ　*Spizaetus nipalensis* (Hodgson, 1836)　タカ目　タカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）

選定理由



全国各地に、留鳥として生息する。山地の自然度の高い林で繁殖し、大きな縄張りを必要とするため、もともと生息密度が低い。警戒心が強く、人の近づきやすい場所では営巣しないため、営巣適地が少ない。ノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類などを主な餌としている。

和歌山県内では、各地の山地に生息するが、生息密度は高くない。和歌山県内に生息するタカの仲間では最も大きく、生態系の頂点に位置する種である。人工林の増加による繁殖適地が減少したことにより、個体数が減少し、近年は風力発電施設が尾根上に設置されることにより、繁殖地が消失する例があり、懸念される。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

コミミズク　*Asio flammeus*（Pontoppidan, 1763）　フクロウ目　フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−

選定理由

冬鳥として全国に渡来し、河川敷や埋め立て地、農耕地等に生息する。日中はあまり活動せず、夕方から活発に活動し、ネズミ等の小動物を餌とする。

和歌山県内では、広い河川敷や農耕地等、生息に適した場所がほとんど失われ、観察例が激減している。ここ 20 年の観察例は、渡り途中と思われる個体がほとんどで、越冬個体はほとんど確認されていない。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影（県外撮影）

コノハズク　*Otus scops*（Linnaeus, 1758）　フクロウ目　フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−

選定理由

小型のフクロウで、夏鳥として全国に渡来し、主に落葉樹林帯に生息する。夜行性で、主に昆虫を餌とする。「ブッキョッコー」という声で鳴き、仏法僧と聞きなしされる。

和歌山県内では、標高の高い落葉樹林帯に生息する。以前は、高野山にも生息していたが、ここ 20 年以上繁殖が確認されていない。人工林化の影響で、生息適地である自然度の高い森林が激減し、それに伴って個体数も激減した。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：藏重麗子提供（県外撮影）

アカショウビン　*Halcyon coromanda* (Latham, 1790)　ブッポウソウ目　カワセミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−

選定理由

夏鳥として全国に渡来し、渓流沿いのよく茂った林に生息する。魚やカエル、サワガニ、カタツムリ等を餌とし、朽ち木等に穴を掘って繁殖する。

和歌山県内では、渓流沿いの自然度の高い森林に生息する。以前は主要河川の上流部に広く生息していたが、人工林化の影響で生息適地が減少し、それに伴って個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

トモエガモ *Anas formosa* Georgi, 1775　カモ目　カモ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

小型のカモで、主に本州中部以南に冬鳥として渡来する。西南日本では、他のカモの群れに少数が混じるだけであるが、日本海側の地域では、大きな群れを見ることもある。

和歌山県内では、数少ない冬鳥として、各地の河川や湖沼に渡来する。

全国的に渡来数が激減しているだけでなく、アジア全体でも個体数の減少が著しく、国際的な希少種である。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ササゴイ　*Butorides striatus* (Linnaeus, 1758)　ペリカン目　サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

夏鳥として九州から本州に渡来し、海岸及び海岸近くの林で、集団で繁殖する。河口や河川で見られることが多く、魚を餌とする。暖地では越冬する。

和歌山県内では、紀南地方を中心に観察されるが、確認例が激減している。鹿島（みなべ町）や橋杭岩等で繁殖していたが、20年以上繁殖は確認されていない。近年は、繁殖期の確認はほとんどなく、確認例はほとんどが冬季である。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

クロサギ　*Egretta sacra* (Gmelin, 1789)　ペリカン目　サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

本州以南の海岸に、留鳥として生息する。主に外海に面した海岸で、魚等を捕らえる。和歌山県内で見られる個体は全身黒色であるが、奄美諸島以南では、全身白色の個体も見られる。

和歌山県内では、各地の海岸に留鳥として生息する。海岸や島の、岩棚や樹上に皿状の巣を作り繁殖する。円月島（白浜町）等で、繁殖が確認されているが、レジャー等による人間の立ち入りによって、繁殖環境が撹乱されている。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ナベヅル　*Grus monacha* Temminck, 1835　ツル目　ツル科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

日本には冬鳥として渡来するが、越冬地は限定的である。鹿児島県出水市周辺では１万羽近くが越冬し、これは世界のナベヅルの 80 ％以上になる。国ランクで絶滅危惧Ⅱ類に選定されているだけでなく、国際的な希少種でもある。

和歌山県内では、秋には各地で渡り途中の個体が観察されている。御坊市周辺や和歌山市周辺では、越冬することもある。越冬には、餌場となる広い水田地帯と、人が近づかない安心して過ごせるねぐらが必要であるが、そのような適地は限定される。特にねぐらは、紀の川と日高川の決まった場所がねぐらとして利用されており、その場所の環境を守ることが、越冬には重要である。疫病対策のため、越冬地の分散が国レベルで取り組まれており、この２箇所は、今後のナベヅル個体群のためにも、非常に重要であると思われる。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ヒクイナ　*Porzana fusca*（Linnaeus, 1766）　ツル目　クイナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

夏鳥として全国に渡来し、繁殖する。ヨシ原や湿地の草地で生活し、見通しの良い場所にはあまり出てこない。繁殖期に「キョッ、キョッ、キョッキョッキョキョキョキョ」と、初めゆっくりで次第にテンポの速くなる声で鳴く。

和歌山県内では、各地の水田や湿地に夏鳥として渡来する。かつては、各地で繁殖が確認されていたが、現在の繁殖場所は限定的であり、個体数の減少が著しい。渡り途中の個体や、冬季の確認例もある。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：藏重麗子提供（県外撮影）

ジュウイチ　*Hierococcyx hyperythrus* (Gould, 1856)　カッコウ目　カッコウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

九州以北に、夏鳥として渡来する。主にコルリに託卵し、オオルリやルリビタキ等にも託卵する。

和歌山県内では、護摩壇山や高野山周辺の落葉樹林帯に生息する。ニホンジカの食害でササ類が激減し、コルリの個体数も減少していることから、ジュウイチの個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影（県外撮影）

ヤマシギ　*Scolopax rusticola* Linnaeus, 1758　チドリ目　シギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

本州中部以北で繁殖し、北の個体は冬季に暖地に移動する。夜行性で、林に生息し、地中のミミズ等の小動物を餌とする。

和歌山県内では、各地の山地や海岸林に冬鳥として生息する。渡り途中の観察例もある。30 年以上前に比べて個体数が激減し、確認例も非常に少なかったことから前回は絶滅危惧Ⅰ B 類に選定されていたが、近年は観察例が若干増えており、個体数の回復も予想されるので、絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンさせた。なお、2001 年版で選定されていなかったのは、狩猟鳥であったためで、それ以前より個体数は激減していた。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：藏重麗子提供（県外撮影）

チュウヒ *Circus spilonotus* Kaup, 1847　タカ目　タカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

カラス大のタカで、湿地やヨシ原の上を低く飛び、ネズミ類や小鳥等を捕らえる。主に本州中部以北の、ヨシ原のある広い湿地で繁殖し、冬季は、大陸から飛来した個体も含め、本州中部以南で見られる。日本国内の繁殖地は非常に限定的で、国ランクでは絶滅危惧Ⅰ B 類に選定されている。

和歌山県内では、冬鳥として渡来し、大きな河川や湿地のヨシ原で見られる。紀の川では比較的多く観察されるが、他の地点の観察例は非常に少ない。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影（県外撮影）

オオタカ　*Accipiter gentilis* (Linnaeus, 1758)　タカ目　タカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

カラス大のタカで、本州から北海道の林で繁殖し、冬季は南下する。平地から山地の林に生息し、里山の生態系の頂点に位置する種である。中型の鳥類を主な餌としており、古来より鷹狩りのタカとして用いられてきた。

和歌山県内では、各地の里山に留鳥として生息する。紀南では少なく、紀北の方が生息密度が高い。生息適地が少なく、開発の影響も受けやすいため、引き続き生息状況を注視していく必要がある。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

オオコノハズク　*Otus lempiji*（Horsfield, 1821）　フクロウ目　フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

小型のフクロウで、留鳥として全国に生息するが、北の方の個体は暖地に移動する。平地から山地の林に生息し、昆虫や小動物等を餌とする。

和歌山県内では、各地で観察されたが、近年は観察例がほとんどない。もともと観察しづらい種であるが、以前は時々防風ネット等に掛かった個体が保護されたりしたが、近年はほとんどそのようなこともなく、個体数の減少が著しいと推定される。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

アオバズク　*Ninox scutulata*（Raffles, 1822）　フクロウ目　フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

夏鳥として全国に渡来し、平地から山地の林に生息する。夜行性で、主に夕方から活動し、大型の昆虫を餌とする。巣は、樹洞に作る。

和歌山県内では、各地の大木のある社寺林などに生息する。以前は、町中でも繁殖していたが、近年は繁殖が見られなくなった場所が多く、個体数がかなり減少していると推定される。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

フクロウ　*Strix uralensis* Pallas, 1771　フクロウ目　フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

平地から山地の林に、留鳥として生息する。樹洞で繁殖し、夜行性でネズミ等を餌とする。「ゴロスケホッホッ」という鳴き声で、里山のフクロウとして、古くから親しまれてきた種である。和歌山県内に生息するフクロウ類では、最も大きい。

和歌山県内では、各地に留鳥として生息する。繁殖に樹洞を必要とするため、大木の残る社寺林に生息することが多い。生息適地の減少や、餌となる小動物の減少で、個体数が激減した。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ハヤブサ　*Falco peregrinus* Tunstall, 1771　ハヤブサ目　ハヤブサ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

九州以北に留鳥として生息し、海岸及びその付近の崖で繁殖する。近年は、都市のビルで繁殖する個体も増えている。海岸や河川敷、農耕地など開けた場所でよく見られ、飛んでいる中型の鳥類を、急降下して足で捕らえる。

和歌山県内では、各地の海岸近くに留鳥として生息する。和歌山県内の海岸には崖地が多いが、ハヤブサの営巣に適している場所はそれほど多くなく、また繁殖適地であっても、人が近づく場所では繁殖できないため、繁殖場所が限定される。そのため、繁殖適地を保護することが、ハヤブサ保護のためには重要である。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

サンコウチョウ　*Terpsiphone atrocaudata* (Eyton, 1839)　スズメ目　カササギヒタキ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－

選定理由

本州以南の、平地から山地のよく茂った林に、夏鳥として渡来する。雄の尾が非常に長いのが特徴で、さえずりは「月・日・星・ホイホイ」と聞こえる。

和歌山県内では、各地の人里近くの照葉樹林に生息する。紀北に比較的多い。個体数は一時激減していたが、近年は若干回復傾向にある。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ウチヤマセンニュウ　*Locustella pleskei* Taczanowski, 1889　スズメ目　センニュウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧ⅠＢ類（EN）

選定理由

伊豆諸島以西の、島や海岸の林に、夏鳥として渡来する。分布は局地的で、生息環境も非常に限定的であるため、世界的にも個体数が少ない。国ランクでは、以前絶滅危惧Ⅱ類であったが、絶滅危惧ⅠＢ類にランクアップされた。

和歌山県内では、紀南の島や海岸に夏鳥として渡来する。孔島・鈴島（新宮市）、九龍島（串本町）、橋杭岩（串本町）、黒島（すさみ町）、畠島（田辺市）、鹿島（みなべ町）等で繁殖する。江須崎（すさみ町）のように、よく茂った照葉樹林には見られない。今のところ個体数は安定しているが、生息環境が限られるため、生息環境の保全には注意していかなければならない。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲･江崎保男･和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

キバシリ　*Certhia familiaris* Linnaeus, 1758　スズメ目　キバシリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

四国以北の、山地の針葉樹林帯に留鳥として生息する。木の幹に縦に止まり、餌を探しながら螺旋状に上る行動を繰り返す。

和歌山県内では、標高の高い、針葉樹が混じる森林に留鳥として生息する。高野山のスギやコウヤマキの林、護摩壇山周辺や果無山脈等のツガ林等が主な生息地だが、分布が局地的で個体数が少ない。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

コルリ　*Luscinia cyane* (Pallas, 1776)　スズメ目　ヒタキ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

本州中部以北の、山地帯から亜高山帯の林に、夏鳥として渡来する。主に林床にササ類や灌木のよく茂る、落葉樹林に生息する。

和歌山県内では、護摩壇山、果無山脈、大塔山等の落葉樹林帯に夏鳥として渡来する。ニホンジカの食害により、ササ類や灌木が激減しており、生息環境の悪化が著しく、個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ヤマドリ　*Syrmaticus soemmerringii* (Temminck, 1830)　キジ目　キジ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

日本固有種で、本州から九州の平地から山地のよく茂った林に、留鳥として生息する。

和歌山県内では、各地の山地の林に、留鳥として生息する。人工林化による生息適地の減少で、個体数が減少している。なお、2001 年版で選定されていなかったのは、狩猟鳥であったためで、それ以前より個体数は減少していた。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報
1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：入江正己提供

オシドリ　*Aix galericulata*（Linnaeus, 1758）　カモ目　カモ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	情報不足（DD）



選定理由

全国の山間部で繁殖し、冬季は南下する。巣は樹洞に作られる。警戒心が強く、開けた場所にはあまり出てこない。冬季は、ドングリなどを餌とする。日本で繁殖する数少ないカモの仲間で、全国的にもあまり個体数が多くない。国ランクでは、最初希少種に指定されていたのが、途中でランク外となり、現在は情報不足とされている。

和歌山県内では、高野山で繁殖記録はあるが、多くは冬鳥として渡来し、各地の河川や湖沼に生息する。主に山間地で見られ、ダム湖に大きな群れが見られることがある。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報
1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．6238pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

チュウサギ　*Egretta intermedia*（Wagler, 1829）　ペリカン目　サギ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

九州から本州に、夏鳥として渡来する。他のサギ類と一緒に繁殖コロニーを形成する。主に昆虫や小動物、魚などを餌とする。糞害等のために営巣地を追われる等、全国的に個体数が減少している。

和歌山県では、夏鳥または旅鳥として渡来する。繁殖個体は激減しており、稀である。渡りの時期には比較的多く観察されるが、以前に比べて個体数は減少している。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報
1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．

参考文献・情報
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

クイナ　*Rallus aquaticus* Linnaeus, 1758　ツル目　クイナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

本州北部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する。ヨシ原や草地に棲み、開けた場所にはあまり出てこない。昆虫や貝類、甲殻類などを主な餌とするが、植物の種子も食べる。

和歌山県内では、各地の河川や湿地に冬鳥として渡来する。開発や河川整備等の影響でヨシ原が減少し、それに伴って個体数も減少している。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報
1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

バン　*Gallinula chloropus*（Linnaeus, 1758）　ツル目　クイナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

各地で繁殖するが、本州北部以北の個体は、冬季暖地に移動する。河川や湖沼、湿地、水田等で繁殖する。

和歌山県内では、各地に留鳥として生息し、繁殖している。冬季には、個体数が増加する。以前はごく普通に観察されたが、近年は観察例が減少しており、かなり個体数が減少していると思われる。繁殖確認は激減している。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報
1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

ツツドリ *Cuculus optatus* Gould, 1845　カッコウ目　カッコウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

九州以北に、夏鳥として渡来する。主にセンダイムシクイに託卵する。

和歌山県内では、落葉樹林帯や、落葉樹の多い林に生息する。人工林化の影響で、宿主であるセンダイムシクイが減少しており、ツツドリの個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：藏重麗子提供（県外撮影）

カッコウ *Cuculus canorus* Linnaeus, 1758　カッコウ目　カッコウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

九州以北に、夏鳥として渡来する。主にモズ類、ホオジロ類等に托卵する。

和歌山県内では、護摩壇山や高野山周辺の落葉樹林帯とその周辺の林縁部に生息する。ニホンジカの食害でササ類や灌木が激減し、この地域の宿主の生息数が減少しており、カッコウの個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影（県外撮影）

ヒメアマツバメ *Apus nipalensis*（Hodgson, 1837）　アマツバメ目　アマツバメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本州中部以南に、留鳥として生息する。太平洋側に多い。建物の軒下や橋の下に、集団で巣をかける。

和歌山県内では、1980 年代より各地で繁殖が確認されるようになったが、近年は繁殖が確認できなくなった場所も多い。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

イカルチドリ　*Charadrius placidus* J. E. & G. R. Gray, 1863　チドリ目　チドリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

九州以北の、河川の中流域に留鳥として生息する。河川敷や中州などの砂礫地に巣を作り、繁殖する。

和歌山県内では、各河川の中流域に留鳥として生息し、繁殖する。河川敷や中州等で繁殖するが、河川改修や繁殖地への人間の立ち入り等により、繁殖適地が減少しており、個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

シロチドリ　*Charadrius alexandrinus* Linnaeus, 1758　チドリ目　チドリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

九州以北で繁殖し、冬季は本州以南の砂浜や干潟、埋め立て地等に大きな群れをつくる。ゴカイや甲殻類、貝類等を主な餌とする。

和歌山県内では、各地の海岸や干潟で見られる。海岸の砂浜や空き地で繁殖するが、開発やレジャー等による人間の立ち入りによって繁殖適地が激減しており、繁殖個体は非常に稀である。渡りの時期や冬季は、比較的普通に見られる。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

ミサゴ　*Pandion haliaetus*（Linnaeus, 1758）　タカ目　ミサゴ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

全国の海岸、河川、湖沼に生息し、魚を餌とする。海岸や山地の岩棚や樹上に営巣する。北の個体は、冬季に暖地に移動する。

和歌山県内では、各地の海岸や河川の下流域に、留鳥として生息する。冬季に数が多いので、多くは冬鳥として渡来していると思われる。繁殖期にも、各地で少数が観察されており、繁殖していると考えられるが、巣はほとんど見つかっていない。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ハチクマ　*Pernis apivorus*（Linnaeus, 1758）　タカ目　タカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

本州以北に夏鳥として渡来し、低山の林で繁殖する。昆虫、カエル類、ヘビ類等を餌とし、営巣中はハチの巣を持ち帰ることも多い。生態的上位種であり、森林の荒廃により、全国的に個体数が減少している。

和歌山県内では、各地に夏鳥として渡来し、繁殖する。紀南に比較的多いが、生息密度は高くない。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。



執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ツミ　*Accipiter gularis*（Temminck & Schlegel, 1844）　タカ目　タカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

日本に生息する最も小型のタカで、全国の平地から山地の林で繁殖する。近年は、都市公園で繁殖するものもある。冬季は暖地に移動し、西南日本では越冬する。主に小鳥を餌とする。生態的上位種であり、個体数が減少している。

和歌山県内では、主に旅鳥または冬鳥として観察される。夏季の観察例もあるが、繁殖は確認されていない。冬季には、各地の平地から山地の林で見られる。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

ハイタカ　*Accipiter nisus*（Linnaeus, 1758）　タカ目　タカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

本州以北の山地の林で繁殖し、冬季は全国的に見られる。林間や林縁、田畑等で、主に小鳥を餌とする。生態的上位種であり、全国的に個体数が減少している。

和歌山県内では、主に旅鳥または冬鳥として渡来する。繁殖期にも、標高の高い山地で何度か観察されているが、繁殖は確認されていない。冬季には、平地や山地の林で見られる。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

サシバ　*Butastur indicus*（Gmelin, 1788）　タカ目　タカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

九州から本州の平地から山地の林に、夏鳥として渡来する。冬は南方に渡り、沖縄では越冬する。湿地や谷地田、水田近くの林で繁殖し、主にカエル類、ヘビ類、昆虫等を餌とする。

生態的上位種で、里山の代表的なタカであるが、開発や里山の荒廃による営巣環境の減少、廃田や農薬等の影響による餌の減少で、全国的に個体数が減少している。国ランクでは、準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類にランクアップされた。

和歌山県内では、各地の山地の林に夏鳥として渡来し、繁殖する。他の地域とは異なり、里山ではなく、山地に生息する。紀中以南で、比較的多い。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

アカゲラ　*Dendrocopos major*（Linnaeus, 1758）　キツツキ目　キツツキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

九州以北に留鳥として生息するが、本州中部以北に多く、西南部では少ない。平地から山地の林に生息し、木の中の昆虫を餌とする。

森林環境の良い指標となるが、開発や人工林化の影響で、生息適地が減少している。

和歌山県内では、留鳥として生息するが、数が少ない。護摩壇山では繁殖も確認されているが、他の地域では繁殖期の観察は非常に少ない。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

オオアカゲラ　*Dendrocopos leucotos* (Bechstein, 1803)　キツツキ目　キツツキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

奄美大島以北に、留鳥として生息する。南方のものほど、色が濃い。

森林環境の良い指標となるが、開発や人工林化の影響で、生息適地が減少している。

和歌山県内では留鳥として生息し、標高の高い落葉樹林帯で見られることが多く、照葉樹林帯では少ない。人工林化の影響で生息適地が減少しており、個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮

サンショウクイ　*Pericrocotus divaricatus* (Raffles, 1822)　スズメ目　サンショウクイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

本州以南の平地から低山の林に、夏鳥として渡来する。主に落葉樹林に生息し、「ヒリリリ、ヒリリリ」と飛びながらよく鳴く。近年は、亜種リュウキュウサンショウクイが、南方から分布を広げている。

全国的に個体数の減少が著しく、国ランクでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

和歌山県内では、主に紀北地方の低山から山地の、落葉樹の多い林に夏鳥として渡来する。秋には、各地で渡り途中の群れを見ることもある。以前は普通に繁殖していたが、一時繁殖個体が非常に減少したため、これまで絶滅危惧Ⅱ類に選定していたが、近年回復傾向にあるため、準絶滅危惧にランクダウンさせた。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

コシアカツバメ　*Hirundo daurica* Linnaeus, 1771　スズメ目　ツバメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

九州以北に、夏鳥として渡来する。家屋等にとっくり型の巣を作り、繁殖する。

和歌山県内では、山間地のコンクリートの建物等に営巣している。以前は、もっと海岸近くの地域でも繁殖していたが、現在は山間地に限定されている。そのため、個体数が減少している。渡りの時期には、農耕地や海岸付近でも見られる。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

トラツグミ　*Zoothera dauma*（Latham, 1790）　スズメ目　ヒタキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

全国のよく茂った林に棲み、繁殖する。ミミズ等を餌とし、夜に「ヒョー、ヒョー」と口笛のような声で鳴く。北の個体は、冬季に暖地に移動する。

和歌山県内では、各地の平地から山地の林に、留鳥として生息するが、生息適地が減少しており、個体数も減少している。冬季には、人里近くでも見られる。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．

写真：沼野正博撮影

クロツグミ　*Turdus cardis* Temminck, 1831　スズメ目　ヒタキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

九州以北に夏鳥として渡来し、平地から山地の林に生息する。よく茂った、落葉樹の多い林で見られることが多く、ミミズ等を餌とする。

和歌山県内では、山地のよく茂った、落葉樹の多い林で繁殖するが、個体数が減少している。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報
1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：上野憲三提供

コサメビタキ　*Muscicapa dauurica* Pallas, 1811　スズメ目　ヒタキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

夏鳥として、全国に渡来する。主に山地の広葉樹林に生息し、昆虫やクモ等を餌とする。

和歌山県内では、山地の落葉樹の多い林に渡来し、繁殖する。近年、開発や人工林化等の影響で生息適地が減少しており、繁殖個体は激減している。渡りの時期には、各地で比較的普通に見られる。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報
1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

カンムリウミスズメ　*Synthliboramphus wumizusume*（Temminck, 1836）　チドリ目　ウミスズメ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

日本近海の島で繁殖し、冬季は本州中部以南の沖合で越冬する。繁殖地は、伊豆諸島、三重県、高知県、宮崎県、石川県、福岡県で確認されている。3月下旬に産卵し、抱卵期間は約 1 ヶ月、ふ化後すぐに海に移動する。

和歌山県内では、稀に海上で観察されるが、潮岬周辺での記録が多い。繁殖期の頃にも観察されていることから、繁殖調査を実施し、巣穴と思われる痕跡も確認したが、繁殖確認はできなかった。今後調査を続け、繁殖確認ができれば、絶滅危惧種への掲載が必要と思われる。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報
1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
4　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
5　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
6　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影（県外撮影）

シマクイナ　*Coturnicops exquisitus* (Swinhoe, 1873)　ツル目　クイナ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



選定理由

中国東北部やロシア沿海地方等で繁殖し、冬季は南方に移動する種とされているが、観察が非常に難しいため、詳細は不明であった。近年、北海道と青森県で繁殖が確認され、関東地方や九州北部で越冬が確認されるようになった。

和歌山県では迷行種とされていたが、今回、プレイバック法により調査したところ、串本町・太地町・那智勝浦町の５箇所で15個体以上の生息を確認した。継続して越冬している可能性が高いが、調査データが不足しているため、情報不足として記載する。調査データの蓄積により、継続して越冬していることが確認できれば、越冬環境保全のためにも、絶滅危惧種への掲載が必要と思われる。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類．278pp．財団法人 日本野生生物センター，東京．
2　環境省自然保護局野生生物課．2020．鳥類レッドリスト．環境省自然保護局野生生物課，東京．
3　北沢宗大・吉岡俊朗．2021．九州北部におけるシマクイナの越冬を示唆する記録．Bird Research，17：S13–S18.
4　松宮裕秋・沼野正博．2022．中部地方および近畿地方の太平洋岸地域におけるシマクイナの越冬状況．Bird Research 18，：A87–A97.
5　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
6　Senzaki, M., Kitazawa, M., Sadakuni, T. & Takahashi, M. 2021. Breeding evidence of the vulnerable Swinhoe's Rail（*Coturnicops exquisitus*）in Japan. Wilson Journal of Ornithology, 132 (3)：711–717
7　高橋雅雄・蛯名純一・宮　彰男・磯貝和秀・古山　隆・高田哲良・堀越雅晴・大江千尋・叶内拓哉．2018．関東地方におけるシマクイナ *Coturnicops exquisitus* の冬季の生息状況．日本鳥学会誌，67 (1)：109–116.
8　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．

写真：松宮裕秋提供

ウミネコ　*Larus crassirostris* Vieillot, 1818　チドリ目　カモメ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

日本とその周辺の地域でのみ繁殖するカモメの仲間で、冬季は本州以南の各地で越冬する。

和歌山県内では、冬季は県内全域に生息するが、繁殖は由良町と美浜町の島や海岸に限定される。現在、鹿尾菜島（由良町）のコロニーが最も大きく、白崎海岸付近でも少数が繁殖する。以前は蟹取島（美浜町）でも繁殖していたが、現在は見られない。西南日本の太平洋側では唯一の繁殖コロニーであり、学術的価値が非常に高い。個体数は安定しており、繁殖環境も今のところ安定している。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報

1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．

参考文献・情報
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

アマツバメ　*Apus pacificus*（Latham, 1801）　アマツバメ目　アマツバメ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	ー



選定理由

全国に夏鳥として渡来し、主に海岸や高山の崖に集団で営巣する。鎌状の細長い翼を持ち、飛翔力に優れており、繁殖期以外はほとんど止まらず飛び続ける。

和歌山県内では、紀南の島や海岸で繁殖している。主な繁殖コロニーは、臼島（串本町）、九龍島（串本町）、橋杭岩（串本町）、山成島（那智勝浦町）、沖の黒島（すさみ町）等が知られている。繁殖コロニーは全国に存在するが、非常に局所的であり、紀南地方の繁殖コロニーは貴重な存在である。

執筆者（沼野正博）

参考文献・情報
1　叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄．1998．山溪ハンディ図鑑７日本の野鳥．623pp．山と溪谷社，東京．
2　沼野正博．2018．和歌山県鳥類目録．21pp．和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部，御坊．
3　高野伸二．2007．フィールドガイド日本の野鳥　増補改訂版．374pp．財団法人 日本野鳥の会，東京．
4　山岸　哲・江崎保男・和田　岳．2002．近畿地区鳥類レッドデータブック．225pp．京都大学学術出版会，京都．
写真：沼野正博撮影

3 爬虫類

爬虫類の概要

玉井　済夫

和歌山県には８科 18 種の爬虫類（在来種）が生息する。外来種の生息も数種あるが、貴重な在来種については、その調査を続け、保全策を進めている。

紀伊半島沿岸部を北流する黒潮の分枝流の影響で、沿岸海域には暖流系の生物が多く生息している。この海域を回遊するウミガメ類は、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ、オサガメが知られていて、これらのストランディング（漂着死体）も見られ、アカウミガメとアオウミガメが多く記録され、日本ウミガメ協議会にも報告している。今回の本書には新たにアオウミガメも加えた。

アカウミガメの県内での産卵については、第２回自然環境保全基礎調査（1979 年，環境省）により初めて報告された。これを契機に、県内での産卵調査や保護活動をしている人々により、和歌山県ウミガメ情報交換会が結成され（1988 年)、２年後には、三重県における活動団体も加わって、紀伊半島ウミガメ情報交換会となった（1990 年)。それ以来、毎年、紀伊半島沿岸で上陸・産卵するアカウミガメについての情報交換会を開催している。また、紀伊半島ウミガメ情報交換会は日本ウミガメ協議会と連携しながら情報を共有している。

日高郡みなべ町千里の浜は、本州では最大のアカウミガメ産卵地で、和歌山県の名勝天然記念物に指定されている（1964 年)。この千里の浜のアカウミガメの上陸・産卵については、後藤 清氏が長年に亘り調査・研究・保全の活動を続けた。その後もみなべ町教育委員会及び地域の人々によって、その活動が引き継がれている。日本ウミガメ協議会としても、毎年、千里の浜に調査員を派遣して調査・研究を続けている。

千里の浜から南部の田辺市及び白浜町の海岸部は、かつては南部田辺白浜海岸県立自然公園であり、また、すさみ町から串本町までの海岸部は、熊野枯木灘海岸県立自然公園であった。この地域の海岸域は、暖流色の濃い生物相が非常に豊富であることから、2015 年に、環境省はこの二つの県立自然公園を吉野熊野国立公園に編入した。

淡水棲のカメ類の内、クサガメは近年の研究により、江戸期に移入されたとしているが、本書では明治時代から生息する種は在来種の扱いにしている。ニホンイシガメの生息は、近年、少なくなってきたため、準絶滅危惧種とし、ニホンスッポンについては情報不足とした。タワヤモリは、かつて和歌山市大川（大阪府との県境）の海岸林に生息していたが、この 10 年間の調査では発見できなかったため、情報不足とした。トカゲ類については、ニホントカゲに加えて、近年、ヒガシニホントカゲが近畿地方の各地にいることが分かり、本県にも分布している。しかし、その分布の詳細については今後の調査を待たねばならない。

なお、ウミヘビ類については、本県海岸においていくつかの発見例があるが、その生態や生息状況については不明である。ウミヘビ類の国内の主な生息及び繁殖地は琉球列島とされており、本県で確認されている個体は黒潮に乗って偶発的に流れ着いたものと考えられている。繁殖地以外の国内における実態はほとんどわかっていないことから、今後の情報の蓄積が望まれる。

（参考文献）

1　紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会．2019．紀伊半島のウミガメ情報交換会 ~30 年のあゆみ~．162pp．紀伊半島ウミガメ情報交換会，和歌山．

2　日本自然保護協会．1979．第２回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県（環境庁委託調査)．37pp．財団法人 日本自然保護協会，東京．

3　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.

爬虫類の掲載種

●準絶滅危惧（NT）

アオウミガメ
アカウミガメ
ニホンイシガメ

●情報不足（DD）

ニホンスッポン
タワヤモリ

アオウミガメ　*Chelonia mydas* (Linnaeus, 1758)　カメ目　ウミガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



成体は平均甲長 90 cm で、世界中の温帯域から熱帯域に分布する。国内では三陸海岸や日本海側の沿岸域を含め広く生息することが確認されているが、産卵は南西諸島や小笠原諸島の砂浜で行われる。国内の産卵期は 4 月から 9 月で、シーズン中に複数回産卵し、卵数は 1 回につき約 100 個。孵化した幼体は、海流に乗って外洋に広く分散するが、甲長が 30 cm 未満の個体についての生活はほとんどわかっていない。甲長が 30 cm を超えると沿岸での生活を始め、マクサ等の海藻やアマモ類等の海草を選択的に食べて成長すると考えられている。

選定理由

和歌山県南部を中心に亜成体及び成体が沿岸域で周年確認されているが、刺網漁や釣りによる混獲で死亡例が毎年報告されている。更に沿岸海域の磯焼けによる悪化で餌場となる藻場が消失している。

和歌山県南西部及び南東部の沿岸域では、ダイバーや漁業者、釣り人による目撃例も多く、漁港内への迷入や死亡及び衰弱した個体の漂着も確認されている。

本種は世界中で個体数が増加傾向にあり、近年、紀伊半島沿岸での目撃情報及び混獲、漂着についても増加している。和歌山県内全域を含めた混獲・漂着の実態把握が必要である。

日本沿岸は太平洋西部の様々な地域で生まれたアオウミガメの餌場となっている。和歌山県内沿岸も採餌海域として亜成体が周年を通して利用し、定着していると推定される個体も観察されることから重要な餌場となっていると考えられる。

執筆者（平井厚志）

参考文献・情報

1　亀田和成（編）．2013．日本のアオウミガメ．122pp．日本ウミガメ協議会，竹富．
2　亀田和成・石原　孝．2009．日本沿岸におけるアオウミガメの消化管内容物．ウミガメニュースレター．81．17-23．日本ウミガメ協議会，大阪．
3　亀崎直樹（監）．2012．ウミガメの自然誌　産卵と回遊の生物学．301pp．東京大学出版会，東京．
4　紀伊半島ウミガメ情報交換会．2021．紀伊半島ウミガメニュース 77．23pp．紀伊半島ウミガメ情報交換会，田辺．
5　日本爬虫両棲類学会．2021．日本爬虫両生類標準和名リスト（2021 年 4 月 22 日版）．http://herpetology.jp/wamei/（2021 年 7 月 18 日アクセス）．

写真：平井厚志撮影

アカウミガメ　*Caretta caretta* (Linnaeus, 1758)　カメ目　ウミガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



成体は平均甲長 85 cm で、世界中の温帯域から熱帯域に分布する。ウミガメ類の中では、最も高緯度地域で産卵し、北太平洋では 5 月から 8 月にかけて南日本沿岸の砂浜海岸で産卵を行う。卵数は 1 回につき 80 個~150 個。卵は 50~70 日で孵化するが、孵化までの日数は砂中温度によって変化する。孵化した幼体は海流に乗って外洋へ分散する。その後、北太平洋を大きく回遊しながら成長し、甲長が 60 cm を超えると日本周辺に回帰すると推定されている。

選定理由

和歌山県内ではみなべ町、白浜町、串本町、那智勝浦町、新宮市の砂浜海岸でほぼ毎年

選定理由

産卵が確認されている。特にみなべ町の千里の浜は和歌山県内でも離島以外ではほとんどない海岸林を含めた自然の状態が残された貴重な砂浜で、上陸産卵数においても本州では最大の産卵地として極めて重要である。この他、偶発的な産卵地を含めると、和歌山県内の多くの砂浜海岸で産卵が確認されている。

近年、和歌山県内主要産卵地では産卵数が減少しており、浸食による砂浜の後退、護岸工事や養浜、街路灯の設置等による環境の悪化が認められる。地域によっては野生動物による卵の食害や台風等の高波による卵の流失も確認されている。

定置網や底引き網による亜成体や成体の混獲が確認されているが、和歌山県内全域での混獲状況と個体群への影響については不明である。漁業による混獲実態の把握が必要である。

みなべ町の千里の浜は1964年に県の天然記念物に指定され、2015年に環境省は串本町からみなべ町（千里の浜）までを吉野熊野国立公園に編入し、また、2018年にはみなべ町においてウミガメ保護条例が制定されている。

執筆者（平井厚志）

参考文献・情報

1 後藤　清．2010．ウミガメの観察（みなべ町千里の浜）2010年度．31pp．みなべ町ウミガメ研究班，みなべ．
2 亀崎直樹（監）．2012．ウミガメの自然誌　産卵と回遊の生物学．301pp．東京大学出版会，東京．
3 紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会．1994．ウミガメは減っているか～その保護と未来～．120pp．紀伊半島ウミガメ情報交換会，田辺．
4 紀伊半島ウミガメ情報交換会．1998．紀伊半島のウミガメ～十年のあゆみ～．64pp．紀伊半島ウミガメ情報交換会，田辺．
5 紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会．2019．紀伊半島ウミガ情報交換会～30年のあゆみ～．162pp．紀伊半島ウミガメ情報交換会，田辺．
6 紀伊半島ウミガメ情報交換会．2021．紀伊半島ウミガメニュース77．23pp．紀伊半島ウミガメ情報交換会，田辺．

写真：平井厚志撮影

ニホンイシガメ　*Mauremys japonica*（Temminck & Schlegel, 1838）　カメ目　イシガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

日本の固有種で、山間部及び丘陵地帯の河川や湖沼、低湿地周辺に生息する。和歌山県では、上記の陸水環境に加えて、その他灌漑用ため池周辺等、県内全域に生息するが、宅地や道路開発等によって上記生息地が失われつつある。

執筆者（竹中利明）



参考文献・情報

1 Edward，O. M. 1987．両生・爬虫類　動物大百科　第12巻．84–99pp．平凡社，東京．
2 川添宣広．2018．日本の爬虫類・両生類生態図鑑．240pp．誠文堂新光社，東京．
3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
4 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．

写真：竹中利明撮影

ニホンスッポン　*Pelodiscus sinensis* (Wiegmann, 1834)　カメ目　スッポン科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

水生生活を送る種で、河川の中・下流域や池、湖沼等に生息する。和歌山県では紀の川流域、有田川流域、熊野川流域等、全県に広く生息しているが、養殖種苗の逸出等による遺伝子汚染等が懸念されている。

執筆者（竹中利明）



参考文献・情報

1　Edward, O. M. 1987. 両生・爬虫類. 動物大百科　第 12 巻. 84–99pp. 平凡社, 東京.
2　川添宣広. 2018. 日本の爬虫類・両生類生態図鑑. 240pp. 誠文堂新光社, 東京.
3　日本爬虫両棲類学会. 2021. 日本産爬虫両生類標準和名リスト（2021 年 9 月 19 日版）. http://herpetology.jp/wamei/（2021 年 9 月 25 日アクセス）
4　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62（2）別冊：22–34.
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.

写真：竹中利明撮影

タワヤモリ　*Gekko tawaensis* Okada, 1956　トカゲ目　ヤモリ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

タワヤモリは海岸林内に生息し、樹皮内や露岩の割れ目にすむ。この生息地に隣接する民家や農業施設には、同属のニホンヤモリが生息している。

和歌山県では、極めて限られた生息地のみが確認されていて、そこにおいても今回の調査では発見できなかったため、個体群の減少や消失が懸念される。

執筆者（竹中利明）



参考文献・情報

1　Edward, O. M. 1987. 両生・爬虫類　動物大百科　第 12 巻. 84–99pp. 平凡社, 東京.
2　川添宣広. 2018. 日本の爬虫類・両生類生態図鑑. 240pp. 誠文堂新光社, 東京.
3　柴田保彦. 1983. 和歌山県のタワヤモリ. Nature Study, 29（7）：76.
4　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62（2）別冊：22–34.
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.

写真：玉井済夫提供

4

両生類

両生類の概要

玉井　済夫

和歌山県には７科 18 種の両生類（在来種）が生息している。サンショウウオ類のオオサンショウウオは、かつては伊都郡高野町大滝に生息（自然分布）していた記録（大上，1955）があるが、豪雨による山崩れと水害（1953 年）により、生息地が破壊された。現在は、兵庫県生野から平井川（古座川支流）に移入された（1958 年）オオサンショウウオが生息・繁殖しているが、和歌山県におけるオオサンショウウオは絶滅の扱いとした。

この 10 年において、国内のサンショウウオ類の系等分類学的研究が大きく進んだ結果、一部の種名（和名）が変更された。オオダイガハラサンショウウオは、かつては、本州・四国・九州に産するとされていたが、５種に細分され（2014 年)、紀伊半島産のものは元の和名のままで、紀伊半島固有種となった。

また、カスミサンショウウオも、かつては、西日本に広く分布するとされていたが、９種に区分され、和歌山県のものはセトウチサンショウウオという和名に変わった（2019 年)。なお、奈良県のカスミサンショウウオはヤマトサンショウウオという和名に変わったが、これは和歌山県にも生息する可能性があり、今後の調査課題となっている。

これまでコガタブチサンショウウオとされていた種も分類が見直され、紀伊半島産のものはマホロバサンショウウオという和名に変わった（2019 年)。さらに、ハコネサンショウウオも、分類学的研究の結果、紀伊半島にはハコネサンショウウオとホムロハコネサンショウウオとが生息することになった。しかし、和歌山県における生息状況の詳細については、今後の課題となっている（2022 年)。

これらのサンショウウオのカテゴリーについては、これまでのカテゴリーを引き継いだものもあるが、生息環境の変化や個体数の減少傾向等から変更した種もある。カエル類については、生息環境の変化や個体数の減少傾向等があるが、カテゴリーはそのままにした。この 10 年の調査では、ハコネサンショウウオの生息の確認がなく、また、アズマヒキガエルについても、なおその生息が確認されなかったため、情報不足としている。

（参考文献）

1　Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y. & Tominaga, A. 2019. Systematics of the Widely Distributed Japanese Clouded Salamander, ***Hynobius nebulosus*** (Amphibia：Caudata：Hynobiidae), and Its Closest Relatives. Current Herpetology, 38 (1)：32-90.

2　Nishikawa, K. & Matsui, M. 2014. Three new species of The salamander genus ***Hynobius*** (Amphibia, Urodela, Hynobiidae) from Kyushu, Japan. Zootaxa, 3852 (2)：203-226.

3　大上常太郎．1955．趣味の紀州生物～その三　オオサンショウウオ～．28-29．月刊紀州社，和歌山.

4　玉井済夫・後藤　伸・池田博美．1976．平井川のオオサンショウウオの生息状況及び生息環境．和歌山県自然環境保全地幾候補地調査報告書　平井川．17pp．和歌山.

5　Yoshikawa, N. & Matsui, M. 2022. A New Salamander of The genus ***Onychodactylus*** from Central Honshu, Japan (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). Current Herpetology, 41 (1), 82-100.

両生類の掲載種

●絶滅（EX）

オオサンショウウオ

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

オオダイガハラサンショウウオ
ニホンアカガエル

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

セトウチサンショウウオ

●準絶滅危惧（NT）

マホロバサンショウウオ
ニホンイモリ（アカハライモリ）
ニホンヒキガエル
ナガレヒキガエル
ヤマアカガエル
ツチガエル
トノサマガエル
モリアオガエル
カジカガエル

●情報不足（DD）

ハコネサンショウウオ
アズマヒキガエル

オオサンショウウオ　*Andrias japonicus*（Temminck, 1836）　サンショウウオ目　オオサンショウウオ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

中国地方を中心に生息している日本の固有種で、国の特別天然記念物に指定されている。和歌山県では、かつて伊都郡高野町大滝で生息し、産卵していたが、1953 年の豪雨による水害のため、この谷川が埋没し、生息は見られなくなった、という記録がある（大上常太郎，1955）。

その後も、和歌山県内各地でオオサンショウウオの発見記録があるが、いずれも 1 個体のみの発見であり、自然分布とは認めがたい。現在、古座川町の平井川で生息・産卵しているが、これは、1958 年に兵庫県生野地方から複数個体を持ち帰ったものが、その後、平井川で生息・産卵するようになったことに由来する。こうした人為的な移入のないよう、今後は十分に注意すべきである。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報

1　環境庁自然保護局野生生物課．1991．日本の絶滅の恐れのある野生生物　爬虫類・両生類．331pp．財団法人 日本野生生物研究センター，東京．
2　環境庁自然保護局野生生物課．2000．改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物　爬虫類・両生類．120pp．財団法人 自然環境研究センター，東京．
3　中村健児・上野俊一．1963．原色日本両生爬虫類図鑑．214pp．保育社，大阪．
4　日本自然保護協会．1979．第 2 回自然環境基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県．37pp．財団法人日本自然保護協会，東京．
5　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京．
6　大上常太郎．1955．趣味の紀州生物～その三　オオサンショウウオ～．28–29．月刊紀州社，和歌山．
7　佐藤井岐雄．1943．日本産有尾類總説．520pp．日本出版社，東京．
8　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
9　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18．
10　玉井済夫．1985．和歌山県の両生類．和歌山県立熊野高等学校紀要，10：88–96．
11　玉井済夫・後藤　伸・池田博美．1976．平井川のオオサンショウウオの生息状況及び生息環境についての調査．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　平井川．17pp．和歌山．
12　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
13　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然 －和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．

写真：玉井済夫撮影（古座川町平井川；国内外来種）

オオダイガハラサンショウウオ　*Hynobius boulengeri*（Thompson, 1912）　サンショウウオ目　サンショウウオ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

1911 年（明治 44 年）に、トンプソン（米国）が奈良県大台ヶ原山で発見し、この種名となった。その後、紀伊半島だけでなく、四国、九州にも生息することが分かった。しかし、近年の研究（Nishikawa & Matsui，2014）により、本種は 5 種に区分されたが、紀伊半島産のものは元の種名のままとなった。紀伊半島（三重県・奈良県・和歌山県）の固有種として、学術的にも価値のある種である。

成体は 18 cm になり、全身が濃紺色で、自然林内の林床で生活し、1 月～3 月に源流域で産卵する。幼生は茶色でまだら模様があり、1 年余りの間、水中生活をする。そのため、

選定理由

源流域の水流が涸れないことが重要であり、その水流を維持するのが自然林である。

和歌山県内では、橋本市・有田川町・田辺市・古座川町・新宮市・那智勝浦町等の山間部で生息している。

和歌山県では、2018 年に県指定天然記念物（種指定）となり、今後の種の保全にも力を入れている。近年は、飼育や販売目的での採集があるようだが、貴重種として大事にしたい。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報

1 御勢久右衛門．1974．吉野熊野国立公園地域の水生生物の概要．吉野熊野国立公園学術調査報告．86pp．財団法人 日本自然保護協会関西支部，大阪．
2 Nishikawa, K. & Matsui, M. 2014. Three new species of the salamander genus *Hynobius* (Amphibia, Urodela, Hynobiidae) from Kyushu, Japan. Zootaxa, 3852 (2) : 203–226.
3 Nishikawa, K., Matsui, M., Tanabe, S. & Sato, S. 2007. Morphological and allozymic variation in *Hynobius boulengeri* and *H. stejnegeri* (Amphibia : Urodera : Hynobiidae). Zoological Science, 24 (7) : 752–766.
4 日本自然保護協会．1979．第 2 回自然環境基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県．37pp．財団法人日本自然保護協会，東京．
5 岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑 [下]．763pp．北隆館，東京．
6 佐藤井岐雄．1943．日本産有尾類總説．520pp．日本出版社，東京．
7 関　慎太郎・井上大輔（企画・編集）．2019．特盛山椒魚本．206pp．NPO 法人 北九州・魚部（ぎょぶる編集部），福岡．
8 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.
9 玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18.
10 玉井済夫．2002．大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，95–99pp．和歌山県自然環境研究会，田辺．
11 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002：決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
12 和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】442pp．和歌山．

写真：玉井済夫撮影

ニホンアカガエル　*Rana japonica* Boulenger, 1879　カエル目　アカガエル科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	－

選定理由



地形のなだらかな農耕地を中心に生息するアカガエルで、和歌山県では、紀北地方での生息はあるが、紀南地方での生息が見られなくなった。生息環境は、森林周辺に池・水田・湿地があることが必要である。本種の減少は、水田の減少とも関係があるように思われる。

ニホンアカガエルは地形のなだらかな平地に棲み、ヤマアカガエルは平地から山間部まで生息している。場所によっては、両種が混在する場合もあるが、この両種の生息環境の違いは今後の課題である。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報

1 前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2 岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑 [下]．763pp．北隆館，東京．
3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.
4 玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18.
5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002：決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
6 和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】442pp．和歌山．

写真：玉井済夫撮影

セトウチサンショウウオ　*Hynobius setouchi* Matsui, Okawa, Tanabe & Misawa, 2019　サンショウウオ目　サンショウウオ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

西日本に広く分布するとされていたカスミサンショウウオは近年の研究により細分化され、近畿地方西部・中国地方東部・四国東部の種はセトウチサンショウウオとして新種記載された（Matsui *et al.*, 2019）。

和歌山県内では紀北から紀南（白浜町）まで、主に海岸に沿う平地から丘陵地に生息している。成体は植生が豊かな林床で生活し、冬季に山裾の水湿地（止水域）に移動し、産卵する。

冬季に水がたまる水田やため池のような人工的な水域も繁殖地となっている。生息地となる平地・丘陵地の開発や、産卵地となる水域の開発・埋め立てや水田の耕作放棄等、繁殖地の乾燥化が生存の脅威である。近年は、販売目的の業者や愛好家による乱獲も脅威となっている。

執筆者（弓場武夫）

参考文献・情報

1　Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y. & Tominaga, A. 2019. Systematics of the Widely Distributed Japanese Clouded Salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia : Caudata : Hynobiidae), and Its Closest Relatives. Current Herpetology, 38 (1) : 32–90.
2　日本自然保護協会．1979．第 2 回自然環境基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県．37pp．財団法人日本自然保護協会，東京．
3　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑 [下]．763pp．北隆館，東京．
4　関　慎太郎・井上大輔（企画・編集）．2019．特盛山椒魚本．206pp．NPO 法人 北九州・魚部（ぎょぶる編集部），福岡．
5　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
6　玉井済夫．1984．カスミサンショウウオの生息環境．和歌山県立熊野高等学校紀要，9：16–23．
7　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18．
8　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
9　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．

写真：弓場武夫撮影

マホロバサンショウウオ　*Hynobius guttatus* Tominaga, Matsu, Tanabe & Nishikawa, 2019　サンショウウオ目　サンショウウオ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

マホロバサンショウウオは、かつてブチサンショウウオとされていたが、一時、コガタブチサンショウウオという種名に変更され、更に、研究の結果、マホロバサンショウウオという種名となった（Tominaga *et al.*, 2019）。岐阜県・三重県・奈良県・大阪府・和歌山県に生息する。

本種の和歌山県内の生息地は広く、海岸に近い森林から山間部にも生息する。成体は発見されることが多いが、産卵は源流域の伏流水中と思われ、その幼生も見ることはない。この意味で特異な生活史を持つサンショウウオである。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報
1　日本自然保護協会．1979．第 2 回自然環境基礎調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県．37pp．財団法人 日本自然保護協会，東京．
2　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑 [下]．763pp．北隆館，東京．
3　佐藤井岐雄．1943．日本産有尾類總説．520pp．日本出版社，東京．
4　関　慎太郎・井上大輔（企画・編集）．2019．特盛山椒魚本．206pp．NPO 法人 北九州・魚部（ぎょぶる編集部），福岡．
5　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.
6　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35．7–18.
7　玉井済夫．2002．大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．p. 95–99．和歌山県自然環境研究会，田辺.
8　Tominaga, A., Matsui, M., Nishikawa, K. & Sato, S. 2003. Occurrence of two types of *Hynobius naevius* in northern Kyushu, Japan (Amphibia : Urodela). Zoological Science, 20 (12) : 1467–1476.
9　Tominaga, A., Matsui, M., Nishikawa, K. & Sato, S. 2005. Genetic differenctiations of *Hynobius naevius* (Amphibia, Hynobiidae) as revealed by allozyme analysis. Biochemical Systematics and Ecology, 33 : 921–937.
10　Tominaga, A., Matsui, M., Nishikawa, K., Tanabe, S. & Sato, S. 2005. Morphological discrimination of two genetic groups of a Japanese salamander, *Hynobius naevius* (Amphibia, Caudata). Zoological Science, 22 : 1229–1244.
11　Tominaga, A., Matsui, M., Tanabe, S. & Nishikawa, K. 2019. A revision of *Hynobius stejnegeri*, a lotic breeding salamander from western Japan, with a description of three new species (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). Zootaxa, 4651 (3) : 401–433.
12　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
13　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山.

写真：玉井済夫撮影

ニホンイモリ（アカハライモリ）　*Cynops pyrrhogaster* (Boie, 1826)　サンショウウオ目　イモリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

日本の固有種であり、本州・四国・九州に広く分布し、谷川や河川・湿地・池・水田等、様々な水域に生息している。和歌山県内では全域に分布するが、紀南地方に多く生息する。特に山間部の谷川やその淀みに多く生息している。近年、市街地近郊や水田が広がる農村地域では減少し、山間部に見られることが多くなった。生息地となる水域の開発・埋め立て・水田の乾田化や耕作放棄等、繁殖地の乾燥化が減少の原因と考えられる。

交尾は行われず、雌が精包を受け取る形で体内受精する両生類である。卵は、水中の植物の葉や、水に沈んだ小枝や落葉に 1 個ずつ産み付けられる。本種の生息には、幼体が成長するための森林と、その中に河川や池などがあるという環境が必要である。

執筆者（弓場武夫）

参考文献・情報
1　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑 [下]．763pp．北隆館，東京．
2　佐藤井岐雄．1943．日本産有尾類總説．520pp．日本出版社，東京．
3　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.
4　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18.
5　玉井済夫．2002．大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．p. 95–99．和歌山県自然環境研究会，田辺.

参考文献・情報
6　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
7　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．
写真：弓場武夫撮影

ニホンヒキガエル　*Bufo japonicus* Temminck & Schlegel, 1838　カエル目　ヒキガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

近畿地方以西に分布する大型のカエルで、早春に浅い止水域で非常に長い卵塊を産む。かつては田園地帯に普通にいたが、近年は激減した。現在、和歌山県内各地にいるが、紀南地方の方が多い。しかし、過去に比べると個体数は少なくなった。主な生息環境は田園地帯であるが、近年は農薬使用や水田の減少等による影響で減少したと思われる。

ヒキガエル科の系統関係や、国内のヒキガエル科の分布を知る上で重要な存在である。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報
1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京．
3　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
4　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18．
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
6　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．
写真：玉井済夫撮影

ナガレヒキガエル　*Bufo torrenticola* Matsui, 1976　カエル目　ヒキガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

日本の中部以西に分布する。ニホンヒキガエルは主として田園地帯に棲み、止水域に産卵するが、ナガレヒキガエルは山間の渓流及びその周辺の森林に棲み、流水中に産卵する。

幼生の口器は幅広く、流水中では吸盤の役割を持ち、岩に吸い付くようにしている。

和歌山県では、紀南の山間部の渓流及びその周辺に生息地が多い。自然林に囲まれた渓流と流域の森林が生息環境であり、森林の伐採や林道工事等で、河川が荒廃すると、本種の生息環境がなくなる。流水中で産卵するヒキガエルとして特異な種である。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報
1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
3　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35．7–18．
4　玉井済夫．2002．大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．p．95–99．和歌山県自然環境研究会，田辺．

参考文献・情報
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
6　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．
写真：玉井済夫撮影

ヤマアカガエル　*Rana ornativentris* Werner, 1903　カエル目　アカガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

本州・四国・九州に分布するが、和歌山県の紀北では少なくなっている。山間地域の湿地や水田域を中心に生息するが、紀南では、海岸近くから山間部まで広く生息している。しかし、近年は各種の自然改変や農耕地（水田域）の変化等で、生息環境や産卵する環境（止水域）もなくなった。ニホンアカガエルと同じように、冬季に産卵する。

ニホンアカガエルは平地～丘陵地に棲むが、ヤマアカガエルは山間部に棲む。この両種の生息環境の違いをさらに詳しく調べることが課題である。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報
1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京．
3　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
4　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18．
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
6　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．
写真：玉井済夫撮影

ツチガエル　*Glandirana rugosa*（Temminck & Schlegel, 1838）　カエル目　アカガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

本州・四国・九州に分布するが、和歌山県の紀北では少なくなっている。古くから水田、湿地等にごく普通にいたカエルである。

形態や色彩はヌマガエルとよく似ている。ヌマガエルは水田の広い場所に多くいるが、ツチガエルは、水田域の日当たりを避けているのか、そばの溝等にいるのが目につく。むしろヌマガエルの方が多くなり、ツチガエルは少なくなった。水田など農耕地の環境や湿地が必要で、その場所が産卵地でもある。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報
1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京．
3　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
4　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18．
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．

参考文献・情報
6　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．
写真：玉井済夫撮影

トノサマガエル　*Pelophylax nigromaculatus*（Hallowell, 1861）　カエル目　アカガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

かつては水田の代表的なカエルで、どこの水田にも非常に多くの個体がいた。人々にも親しまれ、学校の教材や実験動物としてもよく利用された。

近年は、農薬の使用、農耕地の変化（水田の減少等）等の影響によると思われるが、全国的に減少している。場所によっては一時よりは増加した傾向にあるが、それでもなお少ない状況である。森林環境に囲まれた湿地、水田、止水域等の環境が必要である。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報
1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京．
3　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.
4　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7-18.
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
6　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．
写真：玉井済夫撮影

モリアオガエル　*Zhangixalus arboreus*（Okada & Kawano, 1924）　カエル目　アオガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

モリアオガエルは本州に生息し、樹上で産卵するという特異な習性があり、古くから人々の関心を集めてきた。通常は森林内や湿地周辺にいるが、繁殖期（6 月）になると、雌雄が樹上に登り、水面上に伸びた枝に集まり、1 匹のメスの周囲に複数のオスが抱接し、メスは卵とともに泡状の卵塊を産み、オスが精液をかける。樹枝に白い卵塊が付いたまま数週間が経過すると、卵塊の中から幼生（オタマジャクシ）が下の水面に落ち、水中での生活をする。

和歌山県では、高野山の湿地や、寺院の庭の池、人工池等で産卵している。樹枝についた白い卵塊は、人々の興味を引いている。橋本市の山中の湿地でも生息し、産卵している。また、白馬山脈の東谷山（有田川町）の周辺にも生息している。本種の産卵習性は特異なもので、古くから研究課題でもある。

執筆者（玉井済夫）

参考文献・情報
1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2　日本爬虫両棲類学会．2021．日本爬虫両生類標準和名リスト（2021 年 4 月 22 日版）．http://herpetology.jp/ wamei/（2021 年 7 月 18 日アクセス）．
3　日本自然保護協会．1979．第 2 回自然環境基礎調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県．37pp．財団法人日本自然保護協会，東京．

4　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京．
5　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.
6　清水善吉・弓場武夫・鈴木慶太・玉井済夫．2021．和歌山県におけるモリアオガエル生息の現況，南紀生物，63（2）：223–224.
7　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18.
8　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京.
9　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山.

参考文献・情報

写真：鈴木慶太提供

カジカガエル　*Buergeria buergeri*（Temminck & Schlegel, 1838）　カエル目　アオガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

カジカガエルは、古い時代からその鳴き声が楽しまれたようで、人々にもよく知られている。多くのカエルは、池や水田等の止水で産卵するが、カジカガエルは河川の岸辺に近い流れのゆるやかな場所で産卵する。

渓流の多い和歌山県では、山間部の上流から中流域に生息するが、紀南の森林環境が豊かな場所では、河口近くまで生息する。

河川流域の森林の伐採、林道工事や河川改修等で、河川環境が荒廃すると、本種の生息環境がなくなる。河川における本種の生息は、環境を知る上での指標ともなる生物である。

執筆者（玉井済夫）

1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京.
2　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京.
3　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34.
4　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18.
5　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京.
6　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山.

参考文献・情報

写真：玉井済夫撮影

ハコネサンショウウオ　*Onychodactylus japonicus*（Houttuyn, 1782）　サンショウウオ目　サンショウウオ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	－



選定理由

本州に広く分布するが、関東地方には多く生息する。春季に谷川の岩の隙間等に産卵し、幼生期間は約 2 年で、成体は体長 19 cm に達する。尾が頭胴長より長く、幼生や繁殖期の成体には指の先端に黒色の鉤爪が見られるのが特徴である。また、日本産のサンショウウオ科のなかでは肺のないことでも知られている。

和歌山県内では、田辺市（大塔山系・果無山脈）や新宮市（白見山・大雲取山）の一部に生息する。これまでの発見例では、単一個体の成体発見情報と幼生の生息場所が確認されているが、卵塊は発見されていない。

選定理由

幼生期間が長く、変態しても肺がない。深い森林内の湿潤な環境や、安定した渓流に強く依存するものと考えられ、自然度の高い森林の指標となる。和歌山県内では生息情報の少ないサンショウウオであり、近年発見例がなく、更なる調査が必要である。

執筆者（弓場武夫）

参考文献・情報

1　岡田　要・内田清之助・内田　亨．1959．新日本動物図鑑［下］．763pp．北隆館，東京．
2　佐藤井岐雄．1943．日本産有尾類總説．520pp．日本出版社，東京．
3　関　慎太郎・井上大輔（企画・編集）．2019．特盛山椒魚本．206pp．NPO 法人 北九州・魚部（ぎょぶる編集部），福岡．
4　清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦．2020．和歌山県における爬虫類および両生類の記録．南紀生物，62（2）別冊：22–34．
5　玉井済夫．1999．和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～．和歌山県高等学校理科研究会会誌，35：7–18．
6　玉井済夫．1994．紀伊半島におけるハコネサンショウウオの新産地について．南紀生物，36（2）：113．
7　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
8　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．

写真：玉井済夫提供

アズマヒキガエル　*Bufo japonicus formosus* Boulenger, 1883　カエル目　ヒキガエル科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	－



選定理由

近畿以東、東日本に広く分布する。生息場所は広く、低地から高山に及び、市街地やその郊外でも見られる。同属のニホンヒキガエルと同様に大型で、肉食性、夜行性である。

繁殖は春、池や湿地等、止水に集まり、ひも状の卵塊を生む。繁殖期以外は水域から離れ、周辺の森林や農耕地等で生活する。従って、生息環境としては、ニホンヒキガエルと同様で、産卵地（あるいは繁殖地）としての水域と田園地帯とが必要である。

和歌山県では新宮市熊野川町（飛地）に生息が確認されているが、近隣地域での詳しい調査が必要である。

和歌山県は、本種の分布域の西端に位置し、ニホンヒキガエルとアズマヒキガエルの分布の境界地と考えられる。ヒキガエル属の分布や種間の関係を知る上で重要な存在である。

近年、生息の確認ができておらず、産卵地等も不明のままで、更に調査の継続が必要である。

執筆者（弓場武夫）

参考文献・情報

1　前田憲男・松井正文．1999．改訂版・日本カエル図鑑．223pp．文一総合出版，東京．
2　内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関　慎太郎．2002．決定版・日本の両生爬虫類．335pp．平凡社，東京．
3　和歌山県．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012 年改訂版】．442pp．和歌山．

写真：梅村有美提供（県外産）

5 魚類

魚類の概要

平嶋　健太郎

ここで取り上げる「魚類」とは生活史の分類上で純淡水魚、通し回遊魚、周縁性淡水魚に該当するものであり、環境省レッドリスト「汽水・淡水魚類」（環境省，2020）の選定評価対象種の基準とほぼ一致する種に加え、今回の改訂から、海岸域（大潮最低潮位より 2 m 程度の水深まで）に生息する魚類を加えた。この「海岸域」という基準は非常に線引きが難しいが、「一般に沿岸で目にすることができる魚種」というように考えていただきたい。これは、和歌山県独自の基準に基づくものである。

前々回（和歌山県環境生活部，2001）及び前回（和歌山県環境生活部，2012）の県版レッドデータブック及び令和 4 年度公表の和歌山県版レッドリスト（和歌山県環境生活部，2022）を受けて、本レッドデータブックの改訂作業を行った。まず、県内でみられると考えられる魚類は、中坊（2013）や池田・中坊（2015）、その他多くの過去の記録や資料等を考慮して（福井，1999；細谷，2019；環境省，2017）、生息が予想される種まで含めると、約 47 目 297 科 2,020 種に上った（2020 年 10 月当時）。そのうち、国内外からの移入種を除き、今回の評価範囲（淡水・汽水・海岸）に該当する 21 目 116 科 688 種に絞り込んだ。更に、偶発的に確認された種を除いた結果、最新の情報も加味して、生息域が著しく縮小している種、県内における個体群が、元々非常に小さい種、県内では非常に限定的な地域のみに見られる種等を中心に（瀬能，2021；日本魚類学会，2021；鹿児島大学総合博物館，2021）、本報告の 9 目 20 科 78 種の選定に至った。

当然、種（種群）によって調査研究の進み具合や県内における個体群の大きさはまちまちであり、一律に正確で詳細な知見に基づいて今回のカテゴリーを判断したと言い難い点は、ご容赦いただきたい。また、対象とした文献記録は、前回の改訂に従い宇井（1924）以降を有効とした。また、印刷物以外に電子ジャーナル誌も文献資料に加え、更に正確性や客観性が認められればインターネットの情報（Fishes of Kii Peninsula 紀伊半島のさかな，2021；平嶋，2021；串本海中公園，2021；日本淡水魚類愛護会，2021）も参考にした。

特にヤマトイワナ（キリクチ）やサツキマス（アマゴ）、カジカは、現存する県内産の標本や正確な情報が極めて乏しい。また、実際に生息するとしてもその個体数は非常に少なく、人為的攪乱の影響が今なお続いていることから、遺伝学的研究に頼りつつ、現状の把握と個体群の維持を推し進めねばならない。また、アユは県の外来種リスト（和歌山県環境生活部，2019）にもあるように、国内移入が繰り返されている。その一方で、在来集団の産卵床を維持しようとする地域住民や漁協関係者の取り組みも見られる。本書がそのような活動の後押しとなれば幸いである。もちろん、河川には上記の希少な魚類以外の生き物が多数生息しており、それらの生息環境と個体群が維持できてこそ、希少魚類が生息でき得る環境が保たれることを忘れてはならない。

また、今回の改訂による対象基準の変更で、ハタ科、ヨウジウオ科、ハゼ科等の海岸域の魚類が追加された。このような変更は、和歌山県沿岸の自然環境の多様性と沿岸域における黒潮の影響を色濃く示す結果となった。更に、これまでと同様にアブラハヤやアカザ、シマヒレヨシノボリ等、和歌山県及び紀伊半島の地史的な特徴を示す種も掲載し、生物地理学的な学術面も重視した。一方で、希少性や学術的な意味合いが強いものの、生息環境が今回の「海岸域」の定義に一致しないために選定から漏れた種も多数存在していたことを断っておく。今後の改訂時には海域の定義の見直しと共に改めて検討される種も含まれるであろう。

いずれにせよ、本県の沿岸から汽水、河川（淡水域）、そして水源地域までのつながりは、決

して絶ってはいけない繋がりである。今回選定された 78 種のうち、およそ半数が海と川を行き来する生活（通し回遊）を送ることや、それらには水産的に重要な魚種も含まれることから、我々もその生態系の恩恵を受けて生活していることを改めて自覚する必要があるだろう。特に行政は災害対策の充実や住民サービス拡張、観光促進の面で、これら生態系の維持、保全こそが最も有効で持続的な利活用を行う手だてであることを認識しなければ、本県が従来持つ最大の利点を活用することなく衰退することは明白である。本報告が、その一助になることを祈る。

（参考文献）

1　Fishes of Kii Peninsula 紀伊半島のさかな.
https://nature-key-peninsula.hatenadiary.com/（2021. 06. 05. 参照）
2　福井正二郎．1999．紀州・熊野採集　日本魚類図譜．335pp．はる書房，東京.
3　平嶋健太郎．2021．ハゼの部屋，和歌山県立自然博物館ホームページ
https://www.shizenhaku.wakayama-c.ed.jp/reserch/hirashima/res-hirashima.html
（2021. 06. 05. 参照）
4　細谷和海（編・監修）．2019．増補改訂　日本の淡水魚．559pp．山と溪谷社，東京.
5　池田博美・中坊徹次．2015．南日本太平洋沿岸の魚類．597pp．東海大学出版部，秦野.
6　鹿児島大学総合研究博物館．2021．日本産魚類全種リスト.
https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html
（2021. 06. 05. 参照）
7　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水魚類．環境省ホームページ.
https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf （2021. 06. 05. 参照）
8　環境省．2017．魚類，海洋生物レッドリスト．環境省ホームページ.
https://www.env.go.jp/press/files/jp/106403.pdf（2021. 06. 05. 参照）
9　串本海中公園．2021．海中展望塔お魚図鑑.
http://www.kushimoto.co.jp/facilities_tower_zukan.php（2021. 07. 25. 参照）
10　中坊徹次（編）．2013．日本産魚類検索　全種の同定，第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
11　日本魚類学会．2021．日本産魚類追加種リスト.
http://www.fish-isj.jp/info/list_additon.html.（2021. 06. 05. 参照）
12　日本淡水魚類愛護会．2021．淡水魚写真図鑑.
https://tansuigyo.net/a/gao/a.html （2021. 07. 25. 参照）
13　瀬能　宏（編・監修）．2021．新版　日本のハゼ．584pp．平凡社，東京.
14　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪.
15　和歌山県環境生活部（編）．2001．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．428pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課，和歌山.
16　和歌山県環境生活部（編）．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室，和歌山.
17　和歌山県環境生活部（編）．2019．和歌山県の外来種リスト．89pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.
18　和歌山県環境生活部（編）．2022．和歌山県レッドリスト 2022．48pp．和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室，和歌山.

魚類の掲載種

●絶滅（EX）

ヤマトイワナ（キリクチ）
アオギス
カジカ

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

スナヤツメ（南方種）
ヤリタナゴ
アブラボテ
イチモンジタナゴ
カネヒラ
チュウガタスジシマドジョウ
ナガレホトケドジョウ
サツキマス（アマゴ）
カマキリ（アユカケ）
ウツセミカジカ
ユウスイミミズハゼ
シロウオ
タビラクチ
クボハゼ
エドハゼ

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

イトモロコ
アカザ
ミナミメダカ東瀬戸内集団
ミナミメダカ東日本集団
アカメ
イドミミズハゼ
チワラスボ（チワラスボＢ種）
コガネチワラスボ
トビハゼ
オオヨシノボリ

●準絶滅危惧（NT）

オオウナギ
ズナガニゴイ
ギギ
ドンコ
アマハゼ
コマハゼ
ダイダイイソミミズハゼ
オオミミズハゼ
ヒモハゼ
マサゴハゼ
ゴマハゼ
ルリヨシノボリ
ウキゴリ
チクゼンハゼ
イトヒゲモジャハゼ

●情報不足（DD）

ホシキカイウツボ
シロヒレタビラ
ニッポンバラタナゴ
カワバタモロコ
カマツカ
ナガレカマツカ
ドジョウ
アユ
カワヨウジ
イッセンヨウジ
テングヨウジ
ワニグチボラ
フウライボラ
オニボラ
カマヒレボラ
ナンヨウボラ

モンナシボラ
チャイロマルハタ
ナンセンハゼ
ナガミミズハゼ
ミズヒキナガミミズハゼ
イチモンジミミズハゼ
ヤリミミズハゼ
ハウチワヤリミミズハゼ
カマヒレミミズハゼ
アカウオ
ヒゲワラスボ種群
ニクハゼ
ビリンゴ
シラスウオ属の一種

●学術的重要（SI）

アブラハヤ
オオシマドジョウ
オカメハゼ
テンジクカワアナゴ
シマヒレヨシノボリ

ヤマトイワナ（キリクチ）　*Salvelinus leucomaenis japonicus* Oshima, 1961　サケ目　サケ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）



選定理由

紀伊半島のみに分布するヤマトイワナの地域個体群。眼及びその周辺が黒ずみ、尾鰭の基部が明るい色相を呈すること、側線部が全体的に暗紅色を帯びる個体が多いことが特徴。

現在では奈良県の熊野川水系のみでまとまった個体数が確認されており、その生息地は奈良県の天然記念物として保護されている。和歌山県内では日高川水系小森谷での生息が知られていたが、1953 年の水害以来生息数が激減し、1960 年代以降の正確な生息情報はなかった。その後、小森谷では他の水系からの移入や交雑個体群の移入が行われたため、純粋な在来のキリクチは失われたと考えられる。

今日に至るまで、この地域からキリクチの特徴を持つイワナ類が散発的に捕獲されている。また、和歌山県内の他水系からもイワナ類が確認されているが、これらがそれぞれの水系に在来の個体であるか否かは明らかになっていない。

このため、今回の改訂においても、カテゴリーは絶滅（EX）のままとした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　岩槻幸雄・関　伸吾・山本彰徳・森澤友博・稲野俊直・斉藤裕也・平嶋健太郎．2020．和歌山県における過去のイワナ（キリクチ）の自然分布の聞き込み調査，イワナの移入の実態，およびキリクチの背部の白斑について．Nature of Kagoshima，46：467–480.
2　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
3　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：佐藤拓哉提供（県外産）

アオギス　*Sillago parvisquamis* Gill, 1861　スズキ目　キス科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）	国	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）



選定理由

アオギスはキス科に属し、第 2 背鰭に明瞭な小黒点列があること、生時に腹鰭と臀鰭の起部が黄色いこと等の特徴を持つ。

国内では東京湾、伊勢湾、紀伊水道、豊後水道、鹿児島県に分布していたが、前浜干潟の消失、生息環境の悪化等により各地で個体数が激減した。現在、まとまった個体群が確認されているのは福岡県、大分県の豊前海、山口県の周防灘周辺のみである。

和歌山県内では、かつて和歌浦湾や田辺湾等に生息していたが、1972 年に田辺湾で採捕された標本を最後に、およそ 50 年間記録がなく、現在では絶滅したと考えられる。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎．2005．和歌山にもいたアオギス．和歌山県立自然博物館だより 23（3）：4.
2　平嶋健太郎．2006．和歌山県水産試験場から寄贈された魚類標本．和歌山県立自然博物館館報，24：39–44.
3　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
4　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：平嶋健太郎提供

カジカ　*Cottus pollux* Günther, 1873　スズキ目　カジカ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

かつてはカジカ大卵型と呼ばれ、卵径は 2.6~3.7 mm 程である。仔魚が海まで下りず、全ての生活史を純淡水域で送る。最大体長 15 cm 程になる。ウツセミカジカやカジカ中卵型と似るが、胸鰭軟条数（本種は 12~14）等で区別可能。河川の中・上流に生息し、河床の浮石下部のすき間に産卵床を作る。

現在でも吉野川上流域では生息が確認されており、その下流にあたる紀の川においてもかつては生息したとされるが、正式な記録はなく、標本も見つかっていない。そのため、紀の川においては既に絶滅したとみなした。

絶滅の詳しい原因は不明だが、人為的活動に伴う水質汚濁や産卵床となる礫底の減少といった生息環境の消失及び劣化の影響と推察される。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　揖　善継・平嶋健太郎．2010．和歌山県立伊都高等学校より寄贈された魚類標本目録．和歌山県立自然博物館館報，28：68–77.
2　牧　岩男．1987．紀伊半島の自然史－ 19 －紀の川の魚類．和歌山県立自然博物館だより，5（3）：2.
3　牧　岩男．1987．紀伊半島の自然史－ 20 －紀の川の魚類（2）．和歌山県立自然博物館だより，5（4）：2.
4　水野信彦．1963．カジカとヨシノボリの分布とくに陸封と分化の特異性に関連して．大阪学芸大学紀要，11：129–161.
5　水野信彦・丹羽　弥．1961．カジカ *Cottus pollux* Günther の生態的 2 型．動物学雑誌，70（8）：267–275.
6　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相（3）．和歌山県立自然博物館館報，11：33–60.
7　田辺知子．1970．吉野川の魚類と食性．奈良陸水生物学報，3：7–9.
8　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪.
9　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：平嶋健太郎提供

スナヤツメ（南方種）　*Lethenteron* sp. S.　ヤツメウナギ目　ヤツメウナギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

顎を持たない極めて原始的な脊椎動物。アンモシーテス幼生は眼が皮下に埋没し、口が漏斗状をなし、泥中の有機物等を摂餌する。変態後は餌を採らず、春に砂礫底で集団産卵し、その後死亡する。

本州、四国、九州に分布し、和歌山県内では紀の川、日高川、古座川、熊野川の各水系で確認されている。県内の分布は局地的で、河川改修や農薬の流入等による生息環境の悪化によって生息個体数の著しい減少が危惧されている。

形態的に酷似するが、遺伝的に分化したスナヤツメ北方種がおり、古座川への移入が確認されている。また、放流アユへの混入により、他地域のスナヤツメ南方種が県内の河川へ移入していることも確認されており、遺伝的多様性に配慮した保全策が求められる。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　東山憲行．1995．紀ノ川支流貴志川においてスナヤツメのアンモシーテス幼生を採集．南紀生物，37（1）：79–81.
2　京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所．2007．古座川合同調査報告書第 1 巻．189pp．京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所，串本.

参考文献・情報

3　京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所．2008．古座川合同調査報告書第 2 巻．146pp．京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所，串本．
4　京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所．2009．古座川合同調査報告書第 3 巻．241pp．京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所，串本．
5　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 22 －紀の川の魚類（4）．和歌山県立自然博物館だより，6（2）：2.
6　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野．
7　玉田一晃．1992．新宮川でスナヤツメを採集．南紀生物，34（2）：97-98.
8　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
9　和歌山県環境生活部 編．2019．和歌山県の外来種リスト．89pp．和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室，和歌山．
10　Yamazaki, Y. & Goto, A. 1996. Genetic differentitation of *Lethenteron reissneri* populations, with reference to the existence of discrete taxonomic entities. Ichthyological Research, 43（3）：283-299.

写真：平嶋健太郎提供（アンモシーテス幼生）

ヤリタナゴ　*Tanakia lanceolata*（Temminck & Schlegel, 1846）　コイ目　コイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

タナゴ類の中では体高が低く、細長い印象を持つ。比較的長い口髭を持ち、背鰭の鰭条間にアブラボテ属の特徴である紡錘型の黒色斑が見られる。流れの緩やかな水路や平野部の河川に生息する。繁殖期の３月から８月頃にメスは 20 mm 前後の産卵管を伸ばし、マツカサガイ等の流水性の二枚貝に産卵する。

日本産のタナゴの仲間としては最も広域に分布し、北海道、南九州を除く各地にみられる。和歌山県においては紀の川水系、有田川水系等に生息しているが、河川改修、外来魚による食害や産卵母貝をめぐる競争等によって、各地で生息が危ぶまれている。

近年、ミトコンドリア DNA の解析により、地域ごとに異なる特徴を持つことが示されたが、紀の川水系の個体群については、国内の別の生息地域から持ち込まれた同種による遺伝的撹乱が示唆されているため、和歌山県の他地域の個体群についても精査が必要である。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　Kitamura, J. 2007. Reproductive ecology and host utilization of four sympatric bitterling（Acheilognathus, Cyprinidae）in a lowland reach of the Harai River in Mie, Japan. Environmental Biology of Fishes, 78：37-55.
2　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 20 －紀の川の魚類（4）．和歌山県立自然博物館だより，6（2）：2.
3　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相（3）．和歌山県立自然博物館館報，11：33-60.
4　佐土哲也．2011．タナゴハンドブック．80pp．文一総合出版，東京.
5　Tominaga, K., Nagata, N., Kitamura, J., Watanabe, K. & Sota, T. 2020. Phylogeography of the bitterling *Tanakia lanceolata*（Teleostei：Cyprinidae）in Japan inferred from mitochondrial cytochrome *b* gene sequences. Ichthyological Research, 67：105-116.
6　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪.
7　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：中谷義信提供

アブラボテ　*Tanakia limbata*（Temminck & Schlegel, 1846）　コイ目　コイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

和歌山県の個体群は本州南限にあたると考えられる。産卵期は３月から８月頃まで続き、メスは 20 mm 前後の産卵管を伸ばし、流水性の二枚貝に産卵する。婚姻色を帯びたオスの体色は、重油色をベースに紫、青等の色が混ざり、腹部と腹鰭は黒くなり、臀鰭は橙色を基調として二本の黒いラインが走る。和歌山県のアブラボテは、主にマツカサガイを母貝としており、同所的に生息するタイリクバラタナゴはドブガイ類を母貝としているため、産卵母貝をめぐる競争はないものと思われる。和歌山県の個体群は、DNA が四国の個体群に近いという情報がある。

濃尾平野以西の本州、瀬戸内海流入河川、四国、九州に分布。河川だけでなく、用水路等にも生息している。

和歌山県では２河川から記録されているが、うち１河川では近年の記録がなく、絶滅したものと思われる。残存する１河川も産卵母貝の生息する地点は非常に限られており、現在も圃場整備や宅地化が進行している地域にあるため、生息基盤が極めて脆弱である。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　海南市史編さん委員会．1990．海南市史　第２巻　各説編，1027pp．海南．
2　奈良県教育委員会．1954．奈良県綜合文化調査報告書　吉野川流域．442pp．奈良．

写真：平嶋健太郎提供

イチモンジタナゴ　*Acheilognathus cyanostigma* Jordan & Fowler, 1903　コイ目　コイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧ⅠＡ類（CR）



選定理由

タナゴ類の中でも著しく体高が低く、鰓蓋のやや後方から尾柄部にかけて、１本の青緑色の縦条が伸びる。

ワンドや溜池等、流れの緩やかな場所に生息し、ドブガイ類に産卵する。繁殖期は３月下旬から７月頃で、産卵管の長さは 30 mm 前後。和歌山県では紀の川や有田川等から記録がある。インターネット上の情報等で、近年、和歌山県内で採取したとの情報があるが、詳細は不明。本種と同じ環境を好む外来種のオオクチバスによる食害の被害が大きい。この他、河川改修や溜池の放置等による産卵母貝であるドブガイ類の生息環境の悪化もあり、極めて危機的な状況である。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34（1）：33-46．
2　Kitamura, J. 2006. Reproductive ecology of the striped bitterling *Acheilognathus cyanostigma* (Cyprinidae：Acheilognathinae). Ichthyological Research, 53：216-222.
3　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相（3）．和歌山県立自然博物館館報，11：33-60．
4　佐土哲也．2011．タナゴハンドブック．80pp．文一総合出版，東京．
5　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪．
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：平嶋健太郎提供（県外産）

カネヒラ　*Acheilognathus rhombeus*（Temminck & Schlegel, 1846）　コイ目　コイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	−



選定理由

日本最大のタナゴの一種で、15 cm 程になる。7 月から 11 月に流水性の二枚貝に産卵する。濃尾平野以西の本州、九州北部、四国北東部に見られるが、大きな水域を好むため、分布は不連続である。和歌山県では紀の川水系や亀の川水系、和田川水系から記録がある。湖やワンド等、比較的流れの緩やかな場所に生息する種であるが、遊泳力があり、状況に合わせて河川本流と水路との間を活発に回遊する。

県内では、河川と水路が断絶されている地域が多いことや、河川本流では産卵母貝の好適な生息環境が失われていることに加え、生息環境がオオクチバスと一致することもあり、生息状況は極めて危機的である。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34（1）：33–46.
2　Kitamura, J. 2006. Reproductive ecology of the striped bitterling *Acheilognathus cyanostigma* (Cyprinidae：Acheilognathinae). Ichthyological Research, 53：216–222.
3　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 22 －紀の川の魚類（4）．和歌山県立自然博物館だより，6（2）：2.
4　佐土哲也．2011．タナゴハンドブック．80pp．文一総合出版，東京.
5　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪.
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：中谷義信提供

チュウガタスジシマドジョウ　*Cobitis striata striata* Ikeda, 1936　コイ目　ドジョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

和歌山県に分布する在来のシマドジョウ属 2 種のうちの 1 種。他方のオオシマドジョウとは同所的に生息するが、本種はオスの骨質盤が円形であること、シマドジョウ属に特徴的な 5 列の体側斑紋のうち、2 列が縦条であること等から区別できる。標準体長は 6~9 cm。

河川の中・上流域や河川に付随する農業用水路に生息し、流れのある砂礫底を好む。県内では、かつて紀の川水系に広く分布していたと考えられるが、近年は河川改修等によって本種の生息環境が減少しており、現在の生息地も局所的になっている。なお、近年、紀の川水系において新たな生息地が記録されているが、これらの個体群が在来のものであるか精査する必要がある。

従来、スジシマドジョウ中型種とされていたが、2012 年に正式に学名と和名が与えられた。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34（1）：33–46.
2　中島　淳・内山りゅう．2017．日本のドジョウ．pp223．山と溪谷社，東京.
3　Nakajima, J. 2012. Taxonomic study of the *Cobitis striata* complex (Cypriniformes, Cobitidae) in Japan. Zootaxa, 3586：103–130.
4　中島　淳．2012．日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱．魚類学雑誌，59（1）：86–95.
5　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 23 －紀の川の魚類（5）．和歌山県立自然博物館だより，6（3）：2.
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河提供

ナガレホトケドジョウ　*Lefua torrentis* Hosoya, Ito & Miyazaki, 2018　コイ目　ドジョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ B類（EN）



選定理由

４対８本のひげを持ち、体は太短い円筒形。和歌山県・福井県から岡山県までの本州と高知県以外の四国で生息が確認されている。遺伝的にいくつかの集団に分けられ、和歌山県の個体群は紀伊－四国集団と呼ばれる。

和歌山県内では河川上流域の支流や細流において、特に水深の浅い砂礫底に生息する。

一般的に本種の体表は無斑であるが、和歌山県内では全身に暗色斑の見られる個体群が紀北から紀中にかけて確認されている。森林伐採や砂防ダムの建築などの人為的活動の影響を受け、生息地の減少や劣化、分断が生じている。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　Hosoya, K., Ito, T. & Miyazaki, J. 2018. *Lefua torrentis*, a new species of loach from western Japan (Teleostei : Nemacheilidae). Ichthyological Exploration of Freshwaters, 1078 : 1–9.
2　Miyazaki, J., Nakao, K., Mihara, M., Sakai, T., Gunji, Y., Tojo, K. & Muraoka, K. 2007. Incongruence between mtDNA phylogeny and morphological and ecological characters in loaches of the genus *Lefua* (Balitoridae, Cypriniformes). Zoological Science, 24 : 666–675.
3　中谷義信・吉田　誠．1994．和歌山県におけるナガレホトケドジョウの分布現況（2）．和歌山県立自然博物館館報，12 : 27–30.
4　奈良県．2017．大切にしたい奈良県の野生動植物－奈良県版レッドデータブック－ 2016 改訂版．791pp. 奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課，奈良.
5　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河撮影

サツキマス（アマゴ）　*Oncorhynchus masou ishikawae* Jordan & McGregor, 1925　サケ目　サケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

和歌山県在来の個体群として、明らかな証拠がある生息地は、日高川水系の１箇所のみである。

在来個体群は、近年の山林の荒廃による土砂の流入と他地域の個体群の放流等によって脅かされている。

サツキマスは和歌山県内のいくつかの河川で遡上が見られ、産卵も確認されている。その一方で、釣り餌として利用された養殖アマゴが海洋に投棄されたり、逸脱して、河川に遡上したものも見られる。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　池田博美．1995．和歌山県下で初記録のサツキマス．南紀生物，37 (1) : 81.
2　久保喜計・細谷和海．2007．和歌山市磯ノ浦沖合で漁獲されたアマゴ．近畿大学農学部紀要，40 : 81–83.

写真：平嶋健太郎撮影

カマキリ（アユカケ）　*Rheopresbe kazika*（Jordan & Starks, 1904）　スズキ目　カジカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

前鰓蓋骨には４本の棘があり、最上棘が上方に強く曲がることが特徴。本州、四国、九州に分布する日本固有種である。標本や文献記録から、本種はかつて紀北地域を含む県内に広く分布していたと考えられるが、現在の分布は日高川以南の地域に限られており、分布域が著しく縮小している。

本種は、冬季に河口付近の沿岸で産卵を行う降河回遊魚であり、降河するオスは口内が橙色に変化する。春～夏季に稚魚が河川を遡上するが、遡上能力は低く、高低差がわずかでもあると遡上できなくなるため、堰やダムのない河川の中・下流域の礫底に見られる。

河川内の移動を妨げる人工構造物の増加、底面護岸や浚渫による河床礫底や浮石環境の減少、海域でのアユ漁に伴う仔稚魚の混獲等による個体数の減少が懸念される。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　Goto, A. 1990. Alternative life-history styles of Japanese sculpins revisited. Environmental Biology of Fishes, 28：101–112.
2　Goto, A., Yokoyama, R., Kinoshita, I. & Sakai, H. 2020. Japanese catadromous fourspine sculpin, *Rheopresbe kazika* (Jordan & Starks) (Pisces：Cottidae), transferred from the genus *Cottus*. Environmental Biology of Fishes, 103：213–220.
3　揖　善継・平嶋健太郎．2010．和歌山県立伊都高等学校より寄贈された魚類標本目録．和歌山県立自然博物館館報，28：68–77.
4　國島大河・揖 善継．2020．和歌山県周参見川で採集されたカマキリ（アユカケ）．南紀生物，62（1）：26–28.
5　牧　岩男．1987．紀伊半島の自然史－ 19 －紀の川の魚類．和歌山県立自然博物館だより，5（3）：2.
6　三輪一翔．2008．古座川河口およびその周辺海域における特別採捕許可申請の記録　添付資料 in 梅本信也 編　古座川合同調査報告書　第２巻．p. 40–46．京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所，串本.
7　水野信彦・丹羽　弥．1961．カジカ *Cottus pollux* Günther の生態的２型．動物学雑誌，70（8）：267–275.
8　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相（3）．和歌山県立自然博物館館報，11：33–60.
9　杉山秀樹．2014．カマキリ（アユカケ）in 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編．Red Data Book 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物　汽水・淡水魚類，p. 298–299．ぎょうせい，東京.
10　竹下直彦・鬼倉徳雄・松井誠一・木村清朗．2014．降河回遊型カジカ科魚類ヤマノカミとカマキリの初期生活史の比較．水産大学校研究報告，52（3）：83–92.
11　田原大輔・青木治男・中村圭吾．2019．九頭竜川におけるアラレガコ（カマキリ）の保全・再生に向けて．応用生態工学，22（1）：1–17.
12　玉田一晃．1993．富田川の魚類相．南紀生物，35（2）：125–132
13　玉田一晃．1995．会津川の魚類相．南紀生物，37（1）：8–14.
14　玉田一晃．1998．周参見川の魚類相．南紀生物，40（2）：167–170.
15　内山りゅう．2007．和歌山県南部地方の河川感潮域で見つけたアユカケの卵塊．兵庫陸水生物，59：129–132
16　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪.
17　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河撮影

ウツセミカジカ　*Cottus reinii* Hilgendorf, 1879　スズキ目　カジカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

北海道南部、本州、四国、九州北西部の太平洋側の河川に分布する日本固有種。産卵は冬から初春に河川の瀬にある転石下で行われ、孵化した仔魚が海へ流下後、春から初夏にかけて河川を遡上する両側回遊型の生活史を送る。本種は、類似するカジカ *Cottus pollux*（かつての大卵型）やカジカ中卵型と比べて、胸鰭軟条数が 13~17 本と多いことが特徴。

かつては和歌山県内に広く分布していたと考えられるが、紀の川や有田川水系等の紀北・紀中地方では、本種の生息が 30 年以上確認されておらず、生息環境の悪化によって分布の縮小が生じている。

ダムや河口堰の建設による海域と河川の分断化、河口域での浚渫や河川改修が減少の理由として挙げられる。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　揖　善継・平嶋健太郎．2010．和歌山県立伊都高等学校より寄贈された魚類標本目録．和歌山県立自然博物館館報，28：68–77.
2　水野信彦．1963．カジカとヨシノボリの分布とくに陸封と分化の特異性に関連して．大阪学芸大学紀要，11：129–161.
3　水野信彦・丹羽　弥．1961．カジカ *Cottus pollux* Günther の生態的 2 型．動物学雑誌，70（8）：267–275.
4　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相（3）．和歌山県立自然博物館館報，11：33–60.
5　田辺知子．1970．吉野川の魚類と食性．奈良陸水生物学報，3：7–9.
6　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪.
7　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河撮影（県外産）

ユウスイミミズハゼ　*Luciogobius fonticola* Kanagawa, Itai & Senou, 2011　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

和歌山県南部古座川の河口域から確認されている。

生息域は、地下からの湧水が豊富な場所に限られ、普段は地下水中で生活していると考えられる両側回遊性魚類。全国でも静岡県（2 河川）、三重県（1 河川）、徳島県（1 河川）が知られるのみ。

近年、和歌山県内唯一の生息地が河川改修等によって撹乱され、本種の生息が極めて危ぶまれている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎．2020．紀州の鯊 77　ユウスイミミズハゼ．和歌山県立自然博物館だより，38（3）：8.
2　平嶋健太郎・富川　光・平井厚志・内山りゅう・田上　至・川本康司・松野茂富．2019．古座川から採集されたユウスイミミズハゼ（脊索動物門：ハゼ科）の記録．南紀生物，61（2）：136–138.
3　井藤大樹・乾　隆帝・奥村大輝．2020．徳島県海部川から得られた地下水性ミミズハゼ属（Perciformes：Gobiidae）の形態と生息環境．日本生物地理学会誌，75，18–24.
4　Kanagawa, N., Itai, T. & Senou, H. 2011. Two new species of freshwater gobies of the genus *Luciogobius*（Perciformes：Gobiidae）from Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum.（Natural Science），40：67–74.

参考文献・情報
5　金川直幸・川嶋尚正・國領康弘・板井隆彦・渋川浩一．2020．伏流水性ミミズハゼ属魚類ナガレミミズハゼとユウスイミミズハゼの生活史－飼育下における仔稚魚の外部形態の変化を中心として－．東海自然誌，13：65–78.
写真：平嶋健太郎撮影

シロウオ　*Leucopsarion petersii* Hilgendorf, 1880　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

穏やかな内湾環境で成長し、春季に河川へ遡上後に産卵して死亡する、全身が無色透明の遡河回遊魚である。本種は古くから春の風物詩とされ、和歌山県内では湯浅町、広川町、那智勝浦町等で四手網を用いた漁業が行われている。

産卵床は河口域に多く、伏流水の多い河川を好み遡上する。海域では藻場や漁港内で群れを作って暮らすが、和歌山県内での情報は乏しい。日本海側と太平洋側では遺伝的、形態学的に異なることが知られる。

生息環境である良好な内湾環境が埋め立てや護岸工事によって消失している。また、本種の生息地では、河川改修や水質汚濁によって河口域の産卵床となる砂礫底の底質変化が生じており、産卵場や産卵個体数の減少も懸念される。

なお、和歌山県内でシラウオ *Salangichthys microdon* が採集されたことがあるという情報があるが、標本や写真などの確かな記録がなく、シロウオを誤同定したものと考えられる。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2000．紀州の鯊 1　シロウオ．和歌山県立自然博物館だより，18 (2)：8.
2　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
3　平嶋健太郎・丸山秀人．2012．和歌川河口干潟の魚類相．南紀生物，54 (1)：24–30.
4　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
5　瀬能　宏・北村利幸．1982．加茂川干潮域の魚類 I．南紀生物，24 (1)：12–18.
6　玉田一晃．1993．富田川の魚類相．南紀生物，35 (2)：125–132.
7　玉田一晃．1995．会津川の魚類相．南紀生物，37 (1)：8–14.
8　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.
写真：國島大河撮影

タビラクチ　*Apocryptodon punctatus* Tomiyama, 1934　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

主に西日本の河口や内湾に形成される軟泥底の干潟に分布する。目は背面に位置し口が大きく、カエルのような風貌をしている。

和歌山県における本種の生息は局所的であり、なおかつ、その個体数は多くない。本県での産卵期は不明だが、有明海では 5~7 月と推定されている。本種とテッポウエビ類との共生が示唆されており、宿主の生息も本種の重要な生息条件となる。

本種の減少の原因としては、干潟の埋め立てや河口域での浚渫、河口堰の建設による生息地の劣化及び消滅、河川改修に伴う河道の直線化や河床の平坦化、水質の悪化が挙げられる。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34（1）：33-46.
2　道津喜衛．1961．タビラクチの生態・生活史．長崎大学水産学部研究報告，10：133-139.
3　藤田昴己．2006．紀ノ川大堰周辺で確認できた生物．くろしお，25：22.
4　平嶋健太郎．2004．紀州の鯊 13　タビラクチ．和歌山県立自然博物館だより，22（1）：8.
5　平嶋健太郎．2012．和歌川河口干潟の魚類相．南紀生物，54（1）：24-30.
6　乾　隆帝・小山彰彦．2014．シリーズ・日本の希少魚類の現状と課題　本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類．魚類学雑誌，61（2）：105-109.
7　岸野　底・野本彰人．2000．和歌山県有田川で採集されたタビラクチ（ハゼ科）．南紀生物，42（2），143-144.
8　Koyama, A., Inui, R., Iyooka, H., Akamatsu, Y. & Onikura, N. 2015. Habitat suitability of eight threatened gobies inhabiting tidal flats in temperate estuaries : model developments in the estuary of the Kuma River in Kyushu Island, Japan. Ichthyological Research, 63 : 307-314.
9　Koyama, A., Inui, R., Sawa, K. & Onikura, N. 2016. Symbiotic partner specificity and dependency of two gobies (*Apocryptodon punctatus* and *Acentrogobius* sp. A) and four alpheid shrimps inhabiting the temperate estuary of southern Japan. Ichthyological Research, 64 : 131-138.
10　國島大河．2021．和歌山市内から得られたタビラクチ．和歌山県立自然博物館館報，39，49-53.
11　牧　岩男．1987．紀伊半島の自然史－ 19 －紀の川の魚類．和歌山県立自然博物館だより，5（3）：2.
12　松井彰子・上野正博・甲斐嘉晃・山下　洋．2011．絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境．魚類学雑誌，58（2）：209-211.
13　Murase. A., Inui. R., Miki. R. & Miyazaki. Y. 2017. Revising the distribution of a threatened goby, *Apocryptodon punctatus* (Perciformes, Oxudercidae), in Japan with the discovery of an isolated population. ZooKeys, 645 : 71-83.
14　佐藤陽一・藍澤正宏．1992．徳島県吉野川河口から採集されたタビラクチとその分布．徳島県立博物館研究報告，（2）：43-50.
15　瀬能　宏・北村利幸．1982．加茂川干潮域の魚類 I．南紀生物，24（1）：12-18.
16　鈴木寿之・和田恵次，1999．和歌山県田辺市内之浦で採集されたタビラクチ（ハゼ科）．南紀生物，41（1）：61-63.
17　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河撮影

クボハゼ　*Gymnogobius scrobiculatus*（Takagi, 1957）　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

三重県から宮崎県までの太平洋及び瀬戸内海、福井県から鹿児島県にかけての日本海および東シナ海に分布する。

アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴が数多く見られるような河口域や内湾の砂礫底や泥礫底に生息する。本種の体は細長く、アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に入り込むのに適した体形をしている。春頃には繁殖期を迎え腹部が青くなり、アナジャコ類の巣穴を利用して産卵すると考えられている。チクゼンハゼと似るが、顎の下にひげ状の突起がないことで区別できる。

和歌山県内では安定した汽水環境に見られるが、個体数は少ない。近年、良好な内湾環境や河口域が減少し、生息環境が悪化している。

なお、近畿地方の太平洋側では和歌山県の個体群が最大と思われる。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　道津喜衛．1961．クボハゼの生態・生活史．長崎大学水産学物研究報告，10：127-131.
2　橋本健一・内山りゅう．2006．三重県で採集されたクボハゼ（ハゼ科魚類）．南紀生物，48（2），105-108.
3　邉見由美・岩田洋輔・伊谷　行．2014．ヒモハゼとクボハゼによる干潮時のヨコヤアナジャコの巣穴利用．日本ベントス学会誌，69（2）：69-75.

4　平嶋健太郎．2011．紀州の鯊 39　クボハゼ．和歌山県立自然博物館だより，29（2）：8.
5　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33-40.
6　乾　隆帝・小山彰彦．2014．本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類．魚類学雑誌，61（2）：105-109.
7　Inui, R., Koyama, A. & Akamatsu, Y. 2018. Abiotic and biotic factors influence the habitat use of four species of *Gymnogobius*（Gobiidae）in riverine estuaries in the Seto Inland Sea. Ichthyological Research, 65（1）：1-11.
8　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
9　Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius*（Osteichthyes：Perciformes：Gobiidae），with the description of new species. Species Diversity, 7：251-312.
10　鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾．2021．新版日本のハゼ．584pp．平凡社，東京.
11　玉田一晃．1993．富田川の魚類相．南紀生物，35（2）：125-132.
12　玉田一晃．1993．日高川の魚類およびチチブ属魚類 2 種の種間関係．くろしお，12：51-53.
13　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

参考文献・情報

写真：國島大河撮影

エドハゼ　*Gymnogobius macrognathos*（Bleeker, 1860）　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

瀬戸内海及び本州、九州等の太平洋や日本海及び東シナ海沿岸に分布する。和歌山県における本種の確認例は近年乏しく、同様の環境に生息するチクゼンハゼやクボハゼと比べても個体数は少ないと考えられる。

体は細長く、アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に入り込むのに適した体形をしている。チクゼンハゼと似るが、顎の下にひげ状の突起がないことで区別できる。クボハゼとは体側の腹側に褐色縦帯がないことや尾鰭下部の軟条に黒点列がないことで区別できる。

本種の減少の原因としては、干潟や汽水域での浚渫や埋め立て、護岸工事に伴う生息地の劣化及び消滅、河川改修に伴う河道の直線化や河床の平坦化、水質の悪化が挙げられる。

執筆者（國島大河）

1　Henmi, Y., Eguchi, K., Inui, R., Nakajima, J., Onikura, N. & Itani, G. 2017. Field survey and resin casting of *Gymnogobius macrognathos* spawning nests in the Tatara River, Fukuoka Prefecture, Japan. Ichthyological Research, 65（1）：168-171.
2　平嶋健太郎．2014．紀州の鯊 50　エドハゼ．和歌山県立自然博物館だより，32（1）：6.
3　乾　隆帝・小山彰彦．2014．本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類．魚類学雑誌，61（2）：105-109.
4　Inui, R., Koyama, A. & Akamatsu, Y. 2018. Abiotic and biotic factors influence the habitat use of four species of *Gymnogobius*（Gobiidae）in riverine estuaries in the Seto Inland Sea. Ichthyological Research, 65（1）：1-11.
5　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
6　Koyama, A., Inui, R., Umemura, K., Wakabayashi, M., Kanno K. & Onikura, N. 2017. The first record of the spawning nest of *Gymnogobius cylindricus* and *Gymnogobius macrognathos*. Ichthyological Research, 64（2）：261-263.
7　Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius*（Osteichthyes：Perciformes：Gobiidae），with the description of new species. Species Diversity, 7：251-312.
8　鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾．2021．新版日本のハゼ．584pp．平凡社，東京.
9　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

参考文献・情報

写真：平嶋健太郎提供

イトモロコ　*Squalidus gracilis gracilis*（Temminck & Schlegel, 1846）　コイ目　コイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

和歌山県に分布する在来のスゴモロコ属２種のうちの１種。スゴモロコ属魚類の中では最も小さく、成魚の標準体長は 6~8 cm 程。側線鱗が上下の鱗より小さく、体側中央に暗色の縦帯が１列ある。本種は、国内での移入が確認されており、自然分布域は、本州濃尾平野以西、四国瀬戸内側、九州北部である。

和歌山県内では紀の川水系、亀の川水系、古座川水系、熊野川水系から記録があるが、古座川水系と熊野川水系での詳細は不明。

本種が生息する中流域では宅地化、河川改修等により好適環境が失われつつある。特に、亀の川水系では宅地が河川本流に近く、河川改修の影響を受けやすいためか、年々生息数が減少している。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　細谷和海・内山りゅう．2015．山溪ハンディ図鑑 15　日本の淡水魚．527pp．山と溪谷社，東京．
2　海南市史編さん委員会．1990．海南市史　第２巻　各説編．1027pp．海南．
3　牧　岩男・坂本泰造．1993．紀の川に生息するスゴモロコ属（*Squalidus*）の形態および分布．南紀生物，35（1）：1-8．
4　日本の淡水魚．建設省河川局河川環境課．1998．平成８年度（BOOK & CD-ROM）河川水辺の国勢調査年鑑（河川版）魚介類調査．底生動物調査編．71pp．山海堂，東京．
5　日本の淡水魚．建設省河川局河川環境課．1999．平成９年度（BOOK & CD-ROM）河川水辺の国勢調査年鑑（河川版）魚介類調査．底生動物調査編．73pp．山海堂，東京．
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：平嶋健太郎提供

アカザ　*Liobagrus reinii* Hilgendorf, 1878　ナマズ目　アカザ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

流れがあり、水の綺麗な河川に生息するナマズの仲間で、和歌山県では紀の川、有田川、広川、熊野川等の各水系から記録がある。日本固有種。標準体長は 10 cm 程で、日中は大きな浮石の下に隠れ、夜間に餌を探す夜行性。全体的に赤みがかっており、尾鰭は円形で切れ込みがない。背鰭と胸鰭に棘があり、刺されると痛む。河川本流だけでなく、支流河川にも遡上するため、砂防ダム建設による生息地の分断の影響が大きく、他にも河川改修による浮石の減少等も個体数の減少の要因になっている。

なお、近年の遺伝学的な研究によると、アカザは２つのクレードに分かれ、和歌山県のものはクレード１に含まれる。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34（1）：33-46．
2　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 21 －紀の川の魚類（3）．和歌山県立自然博物館だより，6（1）：2．
3　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 23 －紀の川の魚類（5）．和歌山県立自然博物館だより，6（3）：2．
4　Nakagawa, H., Seki, S., Ishikawa, T. & Watanabe, K. 2016. Genetic population structure of the Japanese torrent catfish *Liobagrus reinii* (Amblycipitidae) inferred from mitochondrial cytochrome *b* variations. Ichthyological Research, 63：333-346.
5　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相（3）．和歌山県立自然博物館館報，11：33-60．
6　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪．

参考文献・情報
7　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：國島大河提供

ミナミメダカ東瀬戸内集団　*Oryzias latipes*（Temminck & Schlegel, 1846）　ダツ目　メダカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

従来、メダカの南日本集団とされ、2012年にミナミメダカの名前を与えられた種であり、更に９つの地域集団を内包しているうちの１集団。和歌山県では紀北地域から紀伊半島西側の紀南地域まで幅広く生息している。

本種は、平野部の河川や水路、水田等、流れが緩やかで河畔に水生植物が繁茂する場所を好む。

近年は水路のコンクリート化、他地域個体群の放流による遺伝的撹乱、生態的ニッチが重なる外来種との競合、外来種による食害等を受け、極端に生息数が減少している。特に、紀の川水系や田辺市における本集団の分布は局所的で、競合により外来種に置き換わる状況が続いており、早急な対策が必要である。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報
1　Asai, T., Senou, H. & Hosoya, K. 2011. *Oryzias sakaizumii*, a new ricefish from northern Japan (Teleostei : Adrianichthyidae). Ichthyological Exploration of Freshwaters, 22 (4) : 289–299.
2　土井　浩．1992．和歌山市の池や水路に住む生物 2．紀州生物，25：17–22
3　竹花佑介・酒泉　満．2002．メダカの遺伝的多様性の危機．遺伝，56 (6)：66–67.
4　Takehana, Y., Nagai, N., Matsuda, M., Tsuchiya, K. & Sakaizumi, M. 2003. Geographic variation and diversity of the cytochrome *b* gene in Japanese wild populations of medaka, *Oryzias latipes*. Zoological Science, 20 : 1279–1291.
5　植田育男．1982．和歌山市におけるメダカとカダヤシの分布．南紀生物，24 (1)：64–69.
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：平嶋健太郎提供

ミナミメダカ東日本集団　*Oryzias latipes*（Temminck & Schlegel, 1846）　ダツ目　メダカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

従来のメダカ南日本集団が2012年にミナミメダカとなり、その中に内包される９つの地域集団のうちの１集団。和歌山県での分布は、那智勝浦町や新宮市等、限定的である。

本種は、平野部の河川や水路、水田等、流れが緩やかで河畔に水生植物が繁茂する場所を好む。近年は水路のコンクリート化、他地域個体群の放流による遺伝的撹乱、生態的ニッチが重なる外来種との競合、外来種による食害等を受け、極端に生息数が減少している。

特に和歌山県内は、本種の生息環境である平野部が少なく個体群が小さいため、人為的な影響を大きく受けていると思われる。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報
1　Asai, T., Senou, H. & Hosoya, K. 2011. *Oryzias sakaizumii*, a new ricefish from northern Japan (Teleostei : Adrianichthyidae). Ichthyological Exploration of Freshwaters, 22 (4) : 289–299.
2　土井　浩．1992．和歌山市の池や水路に住む生物 2．紀州生物，25：17–22.
3　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町のゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57.

参考文献・情報
4　竹花佑介・酒泉　満．2002．メダカの遺伝的多様性の危機．遺伝，56（6）：66–67.
5　Takehana, Y., Nagai, N., Matsuda, M., Tsuchiya, K. & Sakaizumi, M. 2003. Geographic variation and diversity of the cytochrome *b* gene in Japanese wild populations of medaka, *Oryzias latipes*. Zoological Science, 20：1279–1291.
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.
写真：國島大河提供（県外産）

アカメ　*Lates japonicus* Katayama & Taki, 1984　スズキ目　アカメ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



選定理由

静岡県から鹿児島県の太平洋側沿岸や河口域に生息する。瞳孔に血液の色が反射し、眼が赤く見えるためアカメ（赤眼）とよばれる。最大で 1.3 m を超える大型の肉食魚で、生息のためには餌である小型魚類や甲殻類が豊かな環境が必要。幼魚期はコアマモ・アマモ場を利用することが知られており、コアマモ・アマモ場の減少も本種の生息数に影響すると考えられる。

和歌山県内では和歌山市紀の川、湯浅湾、由良町、御坊市、みなべ町、田辺市、白浜町、すさみ町、太地町等の河口域及び沿岸域で散発的に記録されている。

上記以外の地域でも写真等で比較的信頼できる記録があり、和歌山県内全域に分布していると考えられるが、個体数は多くないと考えられる。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　荒賀忠一・田名瀬英明．1987．和歌山県沿岸におけるアカメの採捕記録．瀬戸臨海実験所年報，1：59–61.
2　平嶋健太郎・揖　善継．2009．和歌山県由良町から得られたアカメ．南紀生物，51（2）：154–155.
3　池田博美・中坊徹次 編．2015．南日本太平洋沿岸の魚類．597pp．東海大学出版会，秦野.
4　小阪　晃．1993．紀ノ川のアカメ．和歌山県立自然博物館だより，11（2）：7.
5　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山市
写真：國島大河提供

イドミミズハゼ　*Luciogobius pallidus* Regan, 1940　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

主に沿岸部や河川の伏流水や地下水に生息している標準体長 5 cm 程の両側回遊性魚類。

和歌山県内では、河川河口域の自然環境が良好に保たれた場所で見られるが、個体数は非常に少ない。

地下水性である本種は、生息数や生態に未だ不明な点が多いが、近年行われている和歌山県内の大規模な工事による土砂の流入等で地下水の分断や河川の底質の変化が起きており、本種の生息が危惧される。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2010．紀州の鯊 34　イドミミズハゼ．和歌山県立自然博物館だより，28（1）：8.
2　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
3　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57.
4　平嶋健太郎・高橋弘明．2008．和歌山県産イドミミズハゼの水槽内産卵および初期発育．魚類学雑誌，55（2）：121–126.

5　平嶋健太郎・富川　光・平井厚志・内山りゅう・田上　至・川本康司・松野茂富．2019．古座川から採集されたユウスイミミズハゼ（脊索動物門：ハゼ科）の記録．南紀生物，61（2）：136–138.
6　乾　隆帝・赤松良久・新谷哲也・小山彰彦．2015．希少種イドミミズハゼの生息環境と生息場の河床変動および塩分変動特性．土木学会論文集 B1（水工学），71（4）：949–954.
7　伊谷　行・相沢直宏・田名瀬英朋．1996．ヨコアナジャコの巣穴から採集されたイドミミズハゼ．南紀生物，38（1）：53–54.
8　前田知範・平嶋健太郎．2020．和歌山県印南町で採集された紀伊半島初記録のアマハゼと希少種のイドミミズハゼの記録．南紀生物，62（2）：128–130.
9　奥村大輝・井藤大樹・乾　隆帝．2021．徳島県南部の 3 河川から得られたイドミミズハゼ（スズキ目：ハゼ科）の記録．四国自然史科学研究，14，12–18.
10　芝口常楠．1965．ドウクツミミズハゼについて．南紀生物，7（1）：19.
11　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.

参考文献・情報

写真：平嶋健太郎撮影

チワラスボ（チワラスボ B 種）　*Taenioides snyderi* Jordan & Hubbs, 1925　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



体は長細く伸長し、最大 25 cm 程になる。目は小さく、頭部には感覚器官が著しく発達する。口には鋭い歯が並び、泥中の微小動物を捕食すると考えられる。下顎に 6 本のひげ状突起を持つことや、背鰭・臀鰭・胸鰭軟条数の組み合わせ等によって、他のチワラスボ種群と識別できる。ただし、下顎のひげ状突起には変異があることが示唆されている。

選定理由

和歌山県内では、和歌浦湾のような内湾域から、底曳網で多く採集され、海域の砂泥底にも生息することが示唆される。ただし、海域での詳しい生息状況は不明。干潟では、コガネチワラスボと比べて潮下帯の泥底から採集されることが多い。

本種の生息する干潟環境は、埋め立てや港湾工事による消失、流入河川での改修や隣接する陸域の改変により、著しく劣化の一途を辿っている。

従来、国内の“チワラスボ”は全て *Taenioides cirratus*（Blyth，1860）とされていたが、Kurita & Yoshino（2012）によって 4 種が含まれることが明らかになった。その後、Murdy（2018）はチワラスボの学名を *T. snyderi* に確定させた。

執筆者（國島大河）

1　道津喜衛．1958．アカウオおよびチワラスボの生態・幼期．九州大學農學部學藝雑誌，16（3）：371–380.
2　平嶋健太郎・揖　善継・平井厚志．2010．2005 年以降，紀伊半島で採集された興味ある海産魚類．和歌山県立自然博物館館報，28：61–67.
3　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
4　是枝怜旺・本村浩之．2021．コガネチワラスボ（新称）とチワラスボ（ハゼ科チワラスボ属）の鹿児島県における分布状況、および両種の標徴の再評価と生態学的新知見．Ichthy － Natural History of Fishes of Japan, 10：75–104.
5　Kurita, T. & Yoshino, T. 2012. Cryptic diversity of the eel goby, genus *Taenioides*（Gobiidae：Amblyopinae），in Japan. Zoological Science, 29（8）：538–545.
6　Murdy, E. O. 2018. A redescription of the gobiid fish *Taenioides purpurascens*（Gobiidae：Amblyopinae）with comments on, and a key to, species in the genus. Ichthyological Research, 65：454–461.
7　中谷義信．1988．海で投網を打って何がとれるの？和歌山県立自然博物館だより，6（2）：6.

参考文献・情報

写真：國島大河撮影

コガネチワラスボ　*Taenioides gracilis* (Valenciennes, in Cuvier & Valenciennes, 1837)　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



体は長細く伸長し、最大 25 cm 程になる。目は小さく、頭部には感覚器官が著しく発達する。口には鋭い歯が並び、泥中の微小動物を捕食すると考えられる。下顎に 7 本のひげ状突起を持つことや、背鰭・臀鰭・胸鰭軟条数の組み合わせ等によって、他のチワラスボ種群と識別できる。ただし、下顎のひげ状突起には変異があることが示唆されている。

選定理由

還元層の少ない泥干潟の底質中に生息する。ヤビーポンプと呼ばれる、スナモグリ類やアナジャコ類を採集する道具によって、アナジャコ類やテッポウエビ類等の海産甲殻類の巣穴から採集されることが多い。本種は、和歌山県内から散発的な記録があり、一定数の個体が生息しているものと推察されるが、その生息環境から採集されにくく、詳細な生息数や生態は不明である。

本種の生息する干潟環境は、埋め立てや港湾工事による消失、河川改修や河口堰建設に伴う干潟の底質変化、流入河川の水質汚濁によって著しく劣化の一途を辿っている。

これまで国内の“チワラスボ”は全て *Taenioides cirratus*（Blyth, 1860）とされていたが、Kurita and Yoshino（2012）によって 4 種が含まれることが明らかになった。その後、Murdy（2018）はチワラスボの学名を *T. snyderi* に確定させ、是枝・本村（2021）は *T. gracilis*（Valenciennes, in Cuvier and Valenciennes, 1837）にコガネチワラスボの和名を提唱した。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　道津喜衛．1958．アカウオおよびチワラスボの生態・幼期．九州大學農學部學藝雑誌，16（3）：371–380.
2　平嶋健太郎・揖　善継・平井厚志．2010．2005 年以降，紀伊半島で採集された興味ある海産魚類．和歌山県立自然博物館館報，28：61–67.
3　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
4　是枝怜旺・本村浩之．2021．コガネチワラスボ（新称）とチワラスボ（ハゼ科チワラスボ属）の鹿児島県における分布状況、および両種の標徴の再評価と生態学的新知見．Ichthy − Natural History of Fishes of Japan，10：75–104.
5　Kurita, T. & Yoshino, T. 2012. Cryptic diversity of the eel goby, genus *Taenioides* (Gobiidae : Amblyopinae), in Japan. Zoological Science, 29 (8) : 538–545.
6　Murdy, E. O. 2018. A redescription of the gobiid fish *Taenioides purpurascens* (Gobiidae : Amblyopinae) with comments on, and a key to, species in the genus. Ichthyological Research, 65 : 454–461.
7　中谷義信．1988．海で投網を打って何がとれるの？和歌山県立自然博物館だより，6（2）：6.
8　山下龍之丞・尾山大知・碧木健人・鎗田めぐ・山川宇宙．2022．関東地方沿岸におけるヒゲワラスボおよびコガネチワラスボの記録：2 種の出現記録の増加傾向とその要因．Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 20, 1–12.

写真：平嶋健太郎提供

トビハゼ　*Periophthalmus modestus* Cantor, 1842　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



眼は頭部上方に位置する。背鰭は丸く、模様はない。腹鰭は癒合し、蝶ネクタイのような形状。泥干潟の上を這い回り、飛び跳ねるように移動する。初夏になるとオスが干潟の底質を掘って産卵巣を作る。

選定理由

砂泥質の干潟やその周辺の塩性湿地に生息する。特に高潮位帯で見られることが多い。

和歌山県では紀の川や日高川河口、田辺湾周辺やゆかし潟等の攪乱の少ない安定した汽水域で見られ、特に紀伊水道沿岸の汽水域で多く見られる。

選定理由

河川河口域における干潟の埋め立てや塩性植物の伐採によって生息地の減少や消失が生じ、局所的な分布になっている。和歌山県内での生息地は限定的であり、地域個体群の維持が望まれる。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1 土井　浩．1992．紀ノ川の魚類Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34（1）：33–46.
2 藤田昴己．2006．紀ノ川大堰周辺で確認できた生物．くろしお，25：22.
3 平嶋健太郎．2002．和歌山県下津町加茂川の魚類Ⅲ－加茂川流程の魚類分布調査－．南紀生物，44（1）：4–11.
4 平嶋健太郎．2005．紀州の鯊 18　トビハゼ．和歌山県立自然博物館だより，23（2）：6.
5 平嶋健太郎・丸山秀人．2012．和歌川河口干潟の魚類相．南紀生物，54（1）：24-30.
6 環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
7 牧　岩男．1987．紀伊半島の自然史－ 19 －紀の川の魚類．和歌山県立自然博物館だより，5（3）：2.
8 牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 23 －紀の川の魚類（5）．和歌山県立自然博物館だより，6（3）：2.
9 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976–2001．南紀生物，43：102–108.
10 坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美貴．2016．和歌川河口妹背山周辺の干潟において 2010 年に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，66：25–29.
11 玉田一晃．1993．富田川の魚類相．南紀生物，35（2）：125–132
12 玉田一晃．1993．日高川の魚類およびチチブ属魚類 2 種の種間関係．くろしお，12：51–53.
13 和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河撮影

オオヨシノボリ　*Rhinogobius fluviatilis* Tanaka, 1925　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

比較的規模の大きな河川の早瀬等に生息する。標準体長 8 cm 程の両側回遊性魚類で、頬は無斑紋か赤小斑がある。胸鰭基部に三角形に近い黒斑があることが特徴。オスの第一背鰭は伸長する。

和歌山県内では流程 10 km 以上の河川の早瀬にみられる。また、ダムに陸封された個体群も確認されているが、他の両側回遊性ヨシノボリ類に比べて陸封例は少なく、生息河川へのダムの建設は非常に大きな悪影響を与える。

また、山林の荒廃による河川水の減少等で生息地が失われ、加えて、外来魚の侵入で被食の危機がある。

執筆者（平嶋健太郎）

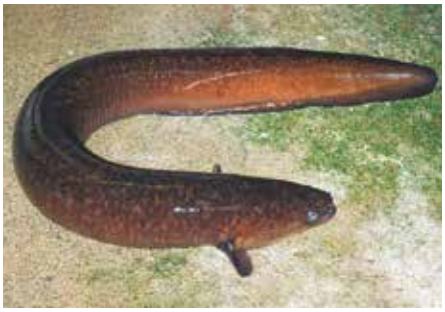
参考文献・情報

1 平嶋健太郎．2016．ヨシノボリ属魚類の生活史の多様性、その適応について．海洋と生物，225：363–369.
2 Sumizaki, Y., Kawanishi, R., Inoue, M., Takagi, M. & Omori, K. 2019. Contrasting effects of dams with and without reservoirs on the population density of an amphidromous goby in southwestern Japan. Ichthyological Research, 66 (3)：319–329.
3 高木基裕・関家一平・柴川涼平・清水孝昭・川西亮太・井上幹生．2012．愛媛県加茂川・中山川におけるヨシノボリ類個体群のダム隔離による遺伝的影響．応用生態工学，15（2）：161–170.
4 高木基裕・柴川涼平・清水孝昭・大森浩二・井上幹生．2013．吉野川におけるオオヨシノボリ個体群の遺伝的分化、および陸封化．応用生態工学，16（1）：13–22.
5 玉田一晃．2000．和歌山県会津川における両側回遊性ヨシノボリ属魚類 4 種の産卵場の分布．魚類学雑誌，47（1）：55–59.
6 玉田一晃．2001．同一河川に棲息する両側回遊性ヨシノボリ類 3 種の卵数および卵サイズ．魚類学雑誌，48（1）：49–52.

参考文献・情報
7 Tamada, K. & Iwata, K. 2005. Intra-specific variations of egg size, clutch size and larval survival related to maternal size in amphidromous *Rhinogobius* goby. Environmental Biology of Fishes, 73：379–389.
写真：國島大河提供（県外産）

オオウナギ　*Anguilla marmorata* Quoy & Gaimard, 1824　ウナギ目　ウナギ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

インド洋から太平洋の熱帯地方を中心に分布するウナギ科魚類。太平洋側では茨城県以南、東シナ海側では長崎県以南に分布する。全長２ｍ以上になる大型の肉食魚で、生息には餌となる多くの生物が必要。体に斑紋があること、背鰭起部から肛門までの距離が全長の約 16 ％であることなどが特徴。

和歌山県では海南市、由良町、印南町、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町、太地町、那智勝浦町から記録があり、紀南地方で多い。

本種のシラスウナギの来遊は、和歌山県でも毎年確認されているが、近年大型個体の記録が少なく、河川水位の低下による淵の消滅や、コンクリート護岸化に伴う空隙の減少による生息環境の悪化が生息数減少の要因と考えられる。

なお、富田川の河口より約 16 km の区間は、「オオウナギ生息地」として国の天然記念物に指定され、保護されている。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1 池田博美・中坊徹次 編．2015．南日本太平洋沿岸の魚類．597pp．東海大学出版会，秦野．
2 揖　善継．2014．和歌山県海南市下津町で採捕されたオオウナギ．南紀生物，56 (2)：139–141.
3 揖　善継・中田　稔．2013．和歌山県印南町切目川水系におけるオオウナギ *Anguilla marmorata* Quoy et Gaimard の県内北限記録．南紀生物，55 (1)：70–72.
4 中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野．
5 和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：平嶋健太郎提供

ズナガニゴイ　*Hemibarbus longirostris* (Regan, 1908)　コイ目　コイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	－



選定理由

ニゴイ類の中では小型で、標準体長 20 cm 程である。体形は細く、頭部と吻部が長いため、名前の通り「ズナガ」である。体側には小黒斑が見られ、成魚になっても消失しない。

本種の分布は近畿地方以西の本州のみに限られており、非常に興味深い。和歌山県では、広川町の広川に生息する個体群が県内における自然分布の南限となる。河川中流域の流れの緩やかな砂底を好むが、河川改修やダムの影響により、これらの生息環境は少なくなってきている。稚アユの放流に伴って移入したと思われる個体が広川以南の水系に認められる。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報
1 和歌山県．1978．第２回自然環境保全基礎調査　動物分布調査報告書（淡水魚類）．44pp．和歌山県．
2 和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：平嶋健太郎提供

ギギ　*Tachysurus nudiceps*（Sauvage, 1883）　ナマズ目　ギギ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



標準体長が 40 cm 近くになり、日本産ギギ科魚類としては最大種。日中は浮石等の下に隠れており、夜間に活発に泳いで餌を探す。肉食性が強い。5 月~7 月に岩の下や礫の間隙に産卵し、オスは巣内で卵を保護する。

選定理由

琵琶湖淀川水系以西の本州、四国（吉野川）、九州東部に自然分布する日本固有種である。和歌山県では紀の川、有田川、広川、熊野川等の水系に分布する。なお、広川より南側の自然分布は確認されておらず、日高川・日置川水系の個体群は、確認された状況や個体数等から移入由来と考えられる。

河川中流域の石の下や抽水植物の周辺に隠れるが、河川の護岸工事等により、これらの環境が減少している。

なお、宇井（1924）と牧（1988）のハゲギギは、本種と判断した。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類 Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34 (1)：33–46.
2　細谷和海・内山りゅう．2015．山溪ハンディ図鑑 15　日本の淡水魚．527pp．山と溪谷社，東京.
3　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 21 －　紀の川の魚類 (3)，和歌県立自然博物館だより．6 (1)：2.
4　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相 (3)．和歌山県立自然博物館館報，11：33–60.
5　宇井縫蔵．1924．紀州魚譜．281pp．紀元社，大阪.
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：平嶋健太郎提供

ドンコ　*Odontobutis obscura*（Temminck & Schlegel, 1845）　スズキ目　ドンコ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



主に本州から九州までに分布する日本固有種。遺伝的解析から 3 集団（東瀬戸・西瀬戸・西九州）に分けられており、和歌山県の紀北地域の個体群は、東瀬戸型に属す。なお、紀南からの記録もあるが、在来個体群かは不明である。

選定理由

一生を淡水域で過ごす純淡水魚で、体はずんぐりしており、褐色から暗色を呈す。初夏頃が繁殖期で、オスが巣の中で卵保護をする。河川中流域の淵や湿生植物の根元等、流れのゆるやかな場所に生息する。特に、餌となる小型の甲殻類が多く、浮石の多い環境を好む。

近年の河川での浚渫や護岸改修に伴う土砂堆積や水質汚濁等による生息地の環境悪化が懸念される。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類 Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34 (1)：33–46.
2　平嶋健太郎．2003．紀州の鯊 12　ドンコ．和歌山県立自然博物館だより，21 (4)：8.
3　岩田明久．2001．ドンコ．川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（編）山溪カラー名鑑 改訂版日本の淡水魚．p. 558–560．山と溪谷社，東京.
4　牧　岩男．1987．紀伊半島の自然史－ 19 －紀の川の魚類．和歌山県立自然博物館だより，5 (3)：2.
5　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 21 －紀の川の魚類 (3)．和歌山県立自然博物館だより，6 (1)：2.
6　牧　岩男．1988．紀伊半島の自然史－ 22 －紀の川の魚類 (4)．和歌山県立自然博物館だより，6 (2)：2.
7　向井貴彦・西田　睦．2003．日本産ドンコにおけるミトコンドリア DNA の系統と関東地方への人為移植の分子的証拠．魚類学雑誌，50 (1)：40–53.
8　中谷義信・田上伸治・吉田　誠．1991．有田川の魚類相 (1)．和歌山県立自然博物館館報，9：29–31.

参考文献・情報
9　中谷義信・吉田　誠．1992．有田川の魚類相（2）．和歌山県立自然博物館館報，10：49–52.
10　中谷義信・吉田　誠．1993．有田川の魚類相（3）．和歌山県立自然博物館館報，11：33–60.
11　Sakai, H., Iwata, A. & Byeon, H. -K. 2002. Genetic relationship between Japanese and Korean *Odontobutis obscura* (Pisces, Odontobutidae). Biogeography, 4：39–44.
12　Sakai, H., Yamamoto, C. & Iwata, A. 1998. Genetic divergence, variation and zoogeography of a freshwater goby, *Odontobutis obscura*. Ichthyological Research, 45 (4)：363–376.
13　鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾．2021．新版日本のハゼ．584pp．平凡社 , 東京.
14　玉田一晃．1993．富田川の魚類相．南紀生物，35 (2)：125–132.
15　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.
写真：國島大河撮影

アマハゼ　*Inu ama* Snyder, 1909　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

岩礁性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する標準体長 3 cm 程のハゼ科魚類。

和歌山県内では中南部の自然環境が良好に保たれた海岸に見られるが、生息場所も個体数も少ない。

沿岸域への土砂の流入や護岸工事等により、本種の生活の場である礫底の間隙が消滅し、危機的である。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　前田知範・平嶋健太郎．2020．和歌山県印南町で採集された紀伊半島初記録のアマハゼと希少種のイドミミズハゼの記録．南紀生物，62 (2)：128–130.
2　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之．2020．*Inu* Snyder，1909 とは何か？－コマハゼ属の再定義および関係する砂礫間隙性ハゼ類の放散に関する考察．東海自然誌，13：76–119.
3　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.
写真：平嶋健太郎撮影

コマハゼ　*Inu koma* Snyder, 1909　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

岩礁性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する標準体長 3 cm 程のハゼ科魚類。

和歌山県内では中南部の自然環境が良好に保たれた砂礫底の海岸に見られるが、生息場所も個体数も少ない。

沿岸部への土砂の流入や沿岸の護岸工事等により、本種の生活の場である砂礫の間隙が著しく消失し、危機的な状況である。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　前田知範・平嶋健太郎．2020．和歌山県印南町で採集された紀伊半島初記録のアマハゼと希少種のイドミミズハゼの記録．南紀生物，62 (2)：128–130.
2　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之．2020．*Inu* Snyder，1909 とは何か？－コマハゼ属の再定義および関係する砂礫間隙性ハゼ類の放散に関する考察．東海自然誌，13：76–119.
写真：平嶋健太郎撮影

ダイダイイソミミズハゼ　*Luciogobius yubai* Ikeda, Tamada & Hirashima, 2018　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸地からの淡水が染み出すような岩礁性海岸に生息する標準体長 5 cm 程のハゼ科魚類。

和歌山県内では自然環境が良好に保たれた岩礁性海岸に見られるが、生息場所が少なく、生態も不明な点が多い。

土砂の流入や沿岸域での護岸工事、山林の荒廃による地下水の減少等により、生息地が危機的な状況である。

和歌山県が模式産地となっている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎．2018．和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類．南紀生物，60 (1)：38–41.
2　平嶋健太郎．2020．紀州の鯊 75　アカツキミミズハゼ．和歌山県立自然博物館だより，38 (1)：8.
3　Ikeda, Y., Tamada, K. & Hirashima, K. 2018. *Luciogobius yubai*, a new species of gobioid fish (Teleostei：Gobiidae) from Japan. Zootaxa, 4657 (3)：565–572.
4　是枝伶旺・清水直人・本村浩之．2020．鹿児島湾から得られた南限記録となるダイダイイソミミズハゼの記録と本種の生態学的新知見．Ichthy − Natural History of Fishes of Japan，3：51–55.
5　斉藤洪成・難波拓登．2022．高知県大月町から得られた四国初記録のダイダイイソミミズハゼ．Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 21，27–30.
6　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.
7　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之．2020．*Inu* Snyder，1909 とは、何か？−コマハゼ属の再定義および関係する砂礫間隙性ハゼ類の放散に関する報告．東海自然誌，13：79–116.

写真：平嶋健太郎撮影

オオミミズハゼ　*Luciogobius grandis* Arai, 1970　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸地からの淡水が染み出すような岩礁性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する標準体長 8 cm 程のハゼ科魚類。

和歌山県内の北部から南部にかけて分布するが、波当たりが強く、シルトの堆積しない、淡水の影響のある海岸に見られる。

土砂の流入や沿岸域での護岸工事、山林の荒廃による地下水の減少や護岸による地下水の遮断等により、生息地が危機的な状況である。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎．2018．和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類．南紀生物，60 (1)：38–41.
2　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63 (1)：35–38.
3　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.

写真：平嶋健太郎撮影

ヒモハゼ　*Eutaeniichthys gilli* Jordan & Snyder, 1901　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口や前浜干潟の潮間帯から潮下帯までに生息し、砂礫や砂の底質を好む。和歌山県では、和歌山市や白浜町、田辺市、那智勝浦町等の汽水域で生息が確認されている。体は細長くひも状、吻端から尾部にかけて体側中央に暗色の縦帯がある。

ニホンスナモグリやアナジャコ、ヨコヤアナジャコの巣穴を生息場や産卵場として利用することが知られ、それらの生息状況も本種の出現に重要な要因と考えられる。

干潟域での埋め立てや、流入河川での浚渫や護岸工事等に伴う生息地の底質環境の変化が減少の原因に挙げられる。

なお、奄美大島および西表島の個体群は、九州以北のものと形態的にも遺伝的にも異なることが示唆されている。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　道津喜衛．1955．ヒモハゼの生活史．日本生物地理学会会報，16-19：338–344.
2　江口勝久・乾　隆帝・中島　淳・鬼倉徳雄・及川　信．2008．九州におけるヒモハゼの分布の現状．九州大学大学院農学研究院学芸雑誌，63（1）：27–33.
3　Henmi, Y. & Itani, G. 2014. Burrow utilization in the goby *Eutaeniichthys gilli* associated with the mud shrimp *Upogebia yokoyai*. Zoological Science, 31（8）：523–528.
4　邉見由美・岩田洋輔・伊谷　行．2014．ヒモハゼとクボハゼによる干潮時のヨコヤアナジャコの巣穴利用．日本ベントス学会誌，69（2）：69–75.
5　平嶋健太郎．2015．紀州の鯊 54　ヒモハゼ．和歌山県立自然博物館だより，33（1）：8.
6　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
7　平嶋健太郎・丸山秀人．2012．和歌川河口干潟の魚類相．南紀生物，54（1）：24–30.
8　乾　隆帝・小山彰彦．2014．本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類．魚類学雑誌，61（2）：105–109.
9　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
10　Mukai, T., Suzuki, T. & Nishida, M. 2003. Genetic differentiation of the brackish water goby, *Eutaeniichthys gilli*（Perciformes, Gobiidae）between the Japanese and Ryukyu Archipelagos. Biogeography, 5：49–53.
11　鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾．2021．新版日本のハゼ．584pp．平凡社，東京.
12　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河撮影（県外産）

マサゴハゼ　*Pseudogobius masago*（Tomiyama, 1936）　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

宮城県から沖縄県沖縄島までの汽水域に生息する。河口域や干潟域、その周辺の塩性湿地を主な生息地としており、地盤が高く、軟泥質の場所を好む。和歌山県では、和歌川河口や富田川河口、日高川河口等で生息が確認されている。

体長は最大でも 3 cm 程。吻部が丸く、体に暗色点が散在する。和歌浦干潟では、干潮時に澪筋やタイドプールに密集していることが多く、主な産卵期が 5~9 月と推定されている。寿命はおよそ 1 年。

和歌山県内での生息地では、個体密度は極めて高いが、分布が非常に局所的であることから、現在生息が確認されている場所の保全が重要である。特に、和歌浦干潟や日高川河

選定理由

口干潟では、人為的な攪乱や埋め立てによって本種の生息環境である軟泥底の硬化や縮小が確認されており、県内における本種の主な生息地について存続が危ぶまれている。

なお、沖縄島の個体群は、本州の個体群と遺伝的に異なることが示唆されている。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1 道津喜衛．1958．マサゴハゼの生活史．九州大學農學部學藝雑誌，16（3）：359–369.
2 藤田昴己．2006．紀ノ川大堰周辺で確認できた生物．くろしお，25：22.
3 平嶋健太郎．2002．和歌山県下津町加茂川の魚類 Ⅲ－加茂川流程の魚類分布調査－．南紀生物，44（1）：4–11.
4 平嶋健太郎．2008．紀州の鯊 27　マサゴハゼ．和歌山県立自然博物館だより，26（2）：8.
5 平嶋健太郎・丸山秀人．2012．和歌川河口干潟の魚類相．南紀生物，54（1）：24–30.
6 平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
7 乾　隆帝・小山彰彦．2014．本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類．魚類学雑誌，61：105–109.
8 伊藤　亮・向井貴彦．2007．三重県揖斐川下流域におけるマサゴハゼの生活史．南紀生物，49：103–107.
9 環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
10 國島大河．2021．和歌山県和歌浦干潟におけるマサゴハゼの繁殖期と寿命の推定．Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 15：17–21.
11 國島大河・西丸裕敏・立原一憲．2014．沖縄島佐敷干潟におけるスナゴハゼ *Pseudogobius javanicus* とマサゴハゼ *P. masago* の生息環境．魚類学雑誌，61（2）：59–67.
12 Okazaki, D., Kanou, K., Yokoo, T. & Kohno, H. 2012. Feeding ecology of the tidepool-dwelling goby *Pseudogobius masago* on an estuarine mudflat. Biogeography, 14：51–56.
13 西丸裕敏・國島大河・立原一憲．2018．沖縄島漫湖におけるマサゴハゼ *Pseudogobius masago* の生活史．魚類学雑誌，65（1）：59–66.
14 和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：平嶋健太郎提供

ゴマハゼ　*Pandaka* sp.　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

流れの緩やかな汽水域に生息する標準体長 1.5 cm 程のハゼ科魚類。

冬季は黒潮の影響を受けて水温の高い水域に集まり越冬する。和歌山県内では日高川以南の河口や潟湖、漁港周辺等で見られるが、過去の水害と護岸工事以降、御坊市周辺の個体群は消失したまま回復していない等、本種の安定した生息地は限られる。

和歌山県南東部は、紀伊半島における本種個体群の最大の生息地と思われ、人為的攪乱は避けるべきである。

護岸工事や河川改修等、生息地の改変等により、生息環境の悪化が危惧される。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1 平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
2 平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57.
3 Mukai, T., Suzuki, T. & Nishida, M. 2004. Genetic and geographical differentiation of *Pandaka* gobies in Japan. Ichthyological Research, 51：222–227.

写真：平嶋健太郎撮影

ルリヨシノボリ　*Rhinogobius mizunoi* Suzuki, Shibukawa & Aizawa, 2017　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

比較的規模の大きな河川の早瀬等に生息する標準体長 8 cm 程の両側回遊性魚類。

和歌山県内では流程 10 km 以上の比較的規模の大きな河川の早瀬に見られる。また、ダムによって陸封された個体群も確認されている。オオヨシノボリと似た生息環境で見られるが、本種の方がやや規模の小さな水域でも見られる。

山林の荒廃による河川水の減少やダムの建設等で生息地が失われている。また、外来魚による被食の危機がある。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎．2010．紀州の鯊 36　ルリヨシノボリ．和歌山県立自然博物館だより，28 (3)：8.
2　平嶋健太郎．2016．ヨシノボリ属魚類の生活史の多様性、その適応について．海洋と生物，225：363–369.
3　酒井治己・新井崇臣・今井千文・杉山秀樹・佐藤仁志・田　祥麟．2004．ルリヨシノボリ *Rhinogobius* sp. CO の自然陸封個体群．魚類学雑誌，51 (2)：175–180.
4　Suzuki, T., Shibukawa, K. & Aizawa, M. 2017. *Rhinogobius mizunoi*, a new species of freshwater goby (Teleostei：Gobiidae) from Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)，46：79–95.
5　高木基裕・久保田侑意子・伊藤　明・渋谷雅紀・高橋弘明・酒井治己．2012．四国におけるルリヨシノボリの遺伝的多様性、分化および陸封化．日本生物地理学会会報，67：93–102.
6　玉田一晃．2000．和歌山県会津川における両側回遊性ヨシノボリ属魚類 4 種の産卵場の分布．魚類学雑誌，47 (1)：55–59.
7　玉田一晃．2001．同一河川に棲息する両側回遊性ヨシノボリ類 3 種の卵数および卵サイズ．魚類学雑誌，48 (1)：49–52.
8　Tamada, K. & Iwata, K. 2005. Intra-specific variations of egg size, clutch size and larval survival related to maternal size in amphidromous *Rhinogobius* goby. Environmental Biology of Fishes, 73：379–389.

写真：國島大河提供

ウキゴリ　*Gymnogobius urotaenia* (Hilgendorf, 1879)　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－



選定理由

北海道から屋久島までの汽水域や淡水域に生息する。口が大きく、第一背鰭後部に明瞭な黒色斑が見られる。繁殖期の春頃になると、雌雄ともに婚姻色が現れ、腹鰭や臀鰭が黒ずみ、メスの腹部は黄色を呈する。

和歌山県における分布は、紀北地域に集中しており局所的。大規模な河川の下流域における流れのゆるやかな場所や、ため池等の一時的水域に生息する。特に抽水植物の繁茂する場所に見られる。

近年は、河川改修や護岸工事により、一時的水域や流れのゆるやかな場所（ため池やワンド等）が減少している。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34 (1)：33–46.
2　平嶋健太郎．2009．紀州の鯊 30　ウキゴリ．和歌山県立自然博物館だより，27 (1)：8.
3　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
4　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57.

参考文献・情報

5　石野健吾．2001．ウキゴリ．川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（編）．山溪カラー名鑑 日本の淡水魚．p. 618–620．山と溪谷社，東京．
6　Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes : Perciformes : Gobiidae), with the description of new species. Species Diversity, 7 : 251–312.
7　鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾．2021．新版日本のハゼ．584pp．平凡社，東京．
8　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：平嶋健太郎提供

チクゼンハゼ　*Gymnogobius uchidai* (Takagi, 1957)　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

北海道から九州までの汽水域に生息する。体は長細く、アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に入り込むのに適した体形をしている。顎下に２本のひげ状突起をもつことが特徴。

和歌山県では、和歌浦干潟や日高川河口干潟等の汽水域に生息し、特に砂泥底の前浜干潟や河口干潟の潮間帯から潮下帯に生息する。アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴を利用することが知られ、それらの生息状況も本種の出現に重要な要因と考えられる。

干潟域での埋め立てや、流入河川での浚渫や護岸工事等に伴う生息地の底質環境の変化によって個体数や生息地が減少している。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　道津喜衛．1957．チクゼンハゼの生態・生活史．魚類学雑誌，6 : 97–104.
2　平嶋健太郎．2003．紀州の鯊 11　チクゼンハゼ．和歌山県立自然博物館だより，21 (3) : 8.
3　平嶋健太郎・丸山秀人．2012．和歌川河口干潟の魚類相．南紀生物，54 (1) : 24–30.
4　乾　隆帝・小山彰彦．2014．本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類．魚類学雑誌，61 (2) : 105–109.
5　Inui, R., Koyama, A. & Akamatsu, Y. 2018. Abiotic and biotic factors influence the habitat use of four species of *Gymnogobius* (Gobiidae) in riverine estuaries in the Seto Inland Sea. Ichthyological Research, 65 : 1–11.
6　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
7　Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes : Perciformes : Gobiidae), with the description of new species. Species Diversity, 7 : 251–312.
8　鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾．2021．新版日本のハゼ．584pp．平凡社，東京．
9　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：國島大河撮影（県外産）

イトヒゲモジャハゼ　*Barbuligobius boehlkei* Lachner & McKinney, 1974　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



選定理由

琉球列島から本州まで記録があるが、奄美大島以北からのものは散発的である。和歌山県では、串本町やすさみ町等の水深の浅い砂浜で見られ、冬季にも潮間帯で見られることがある。

本種は、頬や顎下にひげ状の皮弁が多数見られることが特徴。体色は半透明で白色斑が散在する。浅所の砂地に埋もれていることが多い。潮通しのよい砂礫底や礫底に生息する。

本種の国内における分布は飛び地状であり、和歌山県の生息地も局所的で、本県の個体数が減少しているかは不明。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2011．紀州の鯊 38　イトヒゲモジャハゼ．和歌山県立自然博物館だより，29 (1)：8.
2　環境省．2017．海洋生物レッドリスト－魚類－．環境省ホームページ：https://www.env.go.jp/press/files/jp/106403.pdf（2022 年 11 月 1 日参照）
3　串本さかな.com．2021．ホームページ：https://kushimoto-sakana.com/（2022 年 8 月 6 日参照）
写真：國島大河撮影

ホシキカイウツボ　*Uropterygius* sp.　ウナギ目　ウツボ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

伊豆諸島、小笠原諸島、南硫黄島、静岡県、高知県、屋久島、奄美大島、台湾等から記録されている。和歌山県では串本町の転石海岸から記録があるが、県内での分布や個体数については不明である。

本種は、後鼻孔が眼の中央上方にあること、下顎の頭部側線管孔数が 6 個であること等が特徴。

本種の分類的な帰属は、まだ定まっておらず、和歌山県内の分布の詳細も不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野．
写真：平嶋健太郎提供

シロヒレタビラ　*Acheilognathus tabira tabira* Jordan & Thompson, 1914　コイ目　コイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



選定理由

日本固有亜種。1 対の口髭を持ち、婚姻色が出たオスは名前の通り臀鰭の外縁が白くなる。4 月~9 月頃に産卵期を迎え、20~40 mm の産卵管を伸ばす。流水性の二枚貝に産卵するが､地域によって利用する二枚貝に違いが見られる。

1992 年に紀の川でまとまった個体数が記録されているが、これ以外の記録がなく、またこの時の個体も精査されていないため、在来個体群かは不明である。亀の川水系からも 1 個体記録があるが、詳細は不明。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報
1　土井　浩．1992．紀ノ川の魚類 Ⅰ－下流域を中心にして－．南紀生物，34 (1)：33-46.
2　Kitamura, J. 2007. Reproductive ecology and host utilization of four sympatric bitterling (Acheilognathus, Cyprinidae) in a lowland reach of the Harai River in Mie, Japan. Environmental Biology of Fishes, 78：37-55.
3　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.
写真：中谷義信提供

ニッポンバラタナゴ　*Rhodeus ocellatus kurumeus* Jordan & Thompson, 1914　コイ目　コイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）



選定理由

日本固有亜種であり、琵琶湖淀川水系、山陰地方、四国北東部、九州北部に分布しているが、各地で外来種のタイリクバラタナゴとの交雑が進み、純粋な系統は一部の地域に残存するのみである。

和歌山県においては 1980 年に記録があるが、標本は残されていない。また、分布状況や個体群の状態等、不明な点が多いため、今後の調査が待たれる。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　環境庁．1980．第 2 回自然環境保全基礎調査　動物分布調査報告書（淡水魚類）．https://www.biodic.go.jp/reports/2-4/b000.html（2022 年 11 月 1 日参照）
2　財団法人 日本自然保護協会．1979．動物分布調査報告書（淡水魚類）．p. 3, 8, 18, 22, 24．和歌山．

写真：平嶋健太郎提供

カワバタモロコ　*Hemigrammocypris neglecta*（Stieler, 1907）　コイ目　コイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

氾濫原にできる湿地、ため池等を生息域とする標準体長 5 cm 程度の純淡水魚。

日本固有種で、静岡県瀬戸川水系以西の本州太平洋側、四国瀬戸内側、九州北西部に分布している。各地で生息地が減少しており、2020 年に環境省の特定第二種 国内希少野生動植物種に指定された。オスはメスより小さく、産卵期になると黄金色を呈する。和歌山県では亀の川水系にて 1 件報告があるのみで、自然分布か放流由来なのかも含めて詳細は不明である。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1　環境省．2020．絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令．環境省ホームページ：https://www.env.go.jp/press/107622-print.html（2021 年 12 月 13 日参照）
2　和歌山県．1978．第 2 回自然環境保全基礎調査　動物分布調査報告書（淡水魚類）．44pp．和歌山．
3　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：揖　善継提供（県外産）

カマツカ　*Pseudogobio esocinus*（Temminck & Schlegel, 1846）　コイ目　コイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−



選定理由

本種は西日本を中心に広く分布しており、和歌山県においては紀の川水系、亀の川水系、有田川水系、富田川水系、熊野川水系等から記録がある。

2019 年に 3 種に分類されたカマツカ種群の 1 種で、河川の中・下流域の砂礫底を好み、底生生物を餌としている。

和歌山県で同所的に見られるナガレカマツカとの種間関係や生息地の違いをはじめ、過去に「カマツカ」として記録された生息地も精査する必要があり、未だ不明な点が多い。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1 Tominaga, K. & Kawase, S. 2019. Two new species of *Pseudogobio* pike gudgeon (Cypriniformes : Cyprinidae : Gobioninae) from Japan, and redescription of *P. esocinus* (Temminck and Schlegel, 1846). Ichthyological Research, 66 : 488–508.
2 Tominaga, K., Nakajima, J. & Watanabe, K. 2016. Cryptic divergence and phylogeography of the pike gudgeon *Pseudogobio esocinus* (Teleostei : Cyprinidae) : a comprehensive case of freshwater phylogeography in Japan. Ichthyological Research, 63 : 79–93.
3 和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：國島大河提供

ナガレカマツカ　*Psedogobio agathonectris* Tominaga & Kawase, 2019　コイ目　コイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

2019 年に新種記載されたカマツカ種群の 1 種。カマツカと同じように砂礫底を好み、底生生物を食べているが、中層を泳いでいることも多い。主な分布域は山口県から静岡県までの太平洋側とされており、和歌山県紀の川水系に見られる個体群が南限と考えられている。詳細な分布域や生息状況、同所的に見られる別種のカマツカとの種間関係等、不明な点が多い。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1 Tominaga, K. & Kawase, S. 2019. Two new species of *Pseudogobio* pike gudgeon (Cypriniformes : Cyprinidae : Gobioninae) from Japan, and redescription of *P. esocinus* (Temminck and Schlegel, 1846). Ichthyological Research, 66 : 488–508.
2 Tominaga, K., Nakajima, J. & Watanabe, K. 2016. Cryptic divergence and phylogeography of the pike gudgeon *Pseudogobio esocinus* (Teleostei : Cyprinidae) : a comprehensive case of freshwater phylogeography in Japan. Ichthyological Research, 63 : 79–93.

写真：平嶋健太郎提供

ドジョウ　*Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor, 1842)　コイ目　ドジョウ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

本種は和歌山県各地の河川や水路の砂泥底、水田、池等に分布しているが、平野部の宅地化や河川改修等により、生息地が縮小している。近年の研究により、遺伝的に複数のクレードが存在することが判明した。和歌山県では、2012 年に発行されたレッドデータブックで準絶滅危惧種に選定されていたが、どのクレードが県内のどこに分布するか等の詳細は現状不明であり、情報不足とした。また、外来のドジョウ属が定着し、交雑やニッチの競合が進んでいることが予測されるが、現状ではこちらについても不明であり、DNA 解析による調査が求められる。

執筆者（山田大貴）

参考文献・情報

1 土井　浩．1996．和歌山市の池や水路に住む生物 2．紀州生物，25 : 17–22
2 平嶋健太郎・中谷義信．2006．釣り餌用生エビに混入する外来魚．南紀生物，48 （1）: 1–5.
3 小出水規行・竹村武士・渡部恵司・森　淳．2009．ミトコンドリア DNA によるドジョウの遺伝的特性．農業農村工学会論文集，259 : 7–16.
4 松井彰子・中島　淳．2020．大阪府におけるドジョウ在来および外来系統の分布と形態的特徴にもとづく系統判別法の検討．大阪市立自然史博物館研究報告，74 : 1–15.
5 和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

写真：國島大河提供

アユ　*Plecoglossus altivelis altivelis* (Temminck & Schlegel, 1846)　サケ目　アユ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

秋季に河川汽水域の上縁付近の砂礫底に産卵し、ふ化した仔魚は河口部や沿岸部で成長し、春季に再び河川を遡上する。淡水域では転石上に付く珪藻等を主食に成長する。稀に２年生きる個体も出現するが、基本的に１年で死亡する年魚。

本種は水産上重要な魚種であり、漁業権の設定されている河川では、他地域産の種苗が繰り返し放流されているため、在来集団の遺伝子汚染が危惧されている。

しかし、和歌山県における在来個体群の遺伝的な構成や、放流による遺伝的攪乱の程度が不明であり、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館報，30：39–57.
2　井口恵一朗・武島弘彦．2006．アユ個体群の構造解析における進展とその今日的意義．水産総合研究センター研究報告別冊，5：187–195.
3　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
4　和歌山県環境生活部 編．2019．和歌山県の外来種リスト．89pp．和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：國島大河提供

カワヨウジ　*Hippichthys spicifer* (Rüppell, 1838)　トゲウオ目　ヨウジウオ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

千葉県以南の太平洋沿岸、琉球列島、台湾等の太平洋、インド洋に分布する。

和歌山県では海南市、御坊市、白浜町、田辺市、串本町、那智勝浦町等の汽水域及び沿岸域で記録がある。

体は楊枝のように細長く、体躯幹部に白色横帯があり、他種との判別は容易である。

正確な分布状況等が不明のため、今回は情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
2　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館報，30：39–57.
3　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.

写真：平嶋健太郎提供

イッセンヨウジ　*Coelonotus leiaspis* (Bleeker, 1854)　トゲウオ目　ヨウジウオ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

国内では神奈川県、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県、沖縄県に分布。琉球列島で多い。

和歌山県では白浜町、すさみ町、串本町から標本に基づき記録されている。頭部から体側にかけて一本の暗色縦帯を持つことが特徴。

河川下流域に生息するヨウジウオ科魚類だが、純淡水域でもよく見られる。海と川を行

選定理由

き来する両側回遊を行うため、遡上を阻害する河川横断構造物等が生息数を制限すると考えられる。

詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
2　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館報，30：39–57.
3　川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 編．2001．山溪カラー名鑑改訂版　日本の淡水魚．720pp．山と溪谷社，東京.
4　Motomura, H. & Harazaki, S. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9：1–183.
5　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
6　武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海．2011．近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション．近畿大学農学部紀要，44：63–87.

写真：國島大河提供

テングヨウジ　*Microphis brachyurus brachyurus*（Bleeker, 1854）　トゲウオ目　ヨウジウオ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

国内では千葉県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布。和歌山県では、海南市、田辺市、すさみ町、串本町から記録がある。

吻が長いこと、体躯幹輪数が通常 21 であること等が特徴。

汽水域から淡水域にかけて生息し、海と川を行き来する通し回遊を行うため、遡上を阻害する河川横断構造物等が生息数を制限すると考えられる。

その詳細な分布や生息数が不明なため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 編．2001．山溪カラー名鑑改訂版　日本の淡水魚．720pp．山と溪谷社，東京.
2　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
3　瀬能　宏・北村利幸．1982．加茂川感潮域の魚類 I．南紀生物，24 (1)：36–42.
4　武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海．2011．近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション．近畿大学農学部紀要，44：63–87.

写真：國島大河提供

ワニグチボラ　*Oedalechilus labiosus*（Valenciennes, 1836）　ボラ目　ボラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	－



選定理由

国内では幼魚が茨城県以南、成魚は主に琉球列島で見られる。

和歌山県では、印南町、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町から幼魚の標本や情報が得られている。

主に沿岸域に生息するボラ科魚類で、上唇下部及び下唇前縁がヤスリ状をなすことが特徴。

詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎・揖　善継・平井厚志．2010．2005 年以降，紀伊半島で採集された興味ある海産魚類．和歌山県立自然博物館館報，28：61–67

参考文献・情報
2　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野．
3　外山太一郎・福地伊芙映・山崎和哉．2021．茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類４種の北限記録．Ichthy － Natural History of Fishes of Japan，6：54-65.
4　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：平嶋健太郎提供

フウライボラ　*Crenimugil crenilabis*（Forsskål, 1775）　ボラ目　ボラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

国内では幼魚が茨城県以南、成魚については主に琉球列島で見られる。和歌山県では、印南町、白浜町、すさみ町、串本町から幼魚の標本や情報が得られている。

主に沿岸浅所に生息するボラ科魚類で、上唇下部に乳頭状突起が密在することが特徴。

和歌山県内における詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎・揖　善継・平井厚志．2010．2005 年以降，紀伊半島で採集された興味ある海産魚類．和歌山県立自然博物館館報，28：61-67.
2　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野．
3　外山太一郎・福地伊芙映・山崎和哉．2021．茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類４種の北限記録．Ichthy － Natural History of Fishes of Japan, 6：54-65.
写真：平嶋健太郎提供

オニボラ　*Ellochelon vaigiensis*（Quoy & Gaimard, 1825）　ボラ目　ボラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	情報不足（DD）



選定理由

国内では三重県、和歌山県、鹿児島県、沖縄県で記録があるが、本州では稀。和歌山県内は、白浜町、すさみ町、串本町から幼魚の記録がある。

胸鰭が黒く尾鰭が黄色いため、他種との識別は容易。沿岸浅所及び河川汽水域に生息するボラ科魚類。

和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎・揖　善継・平井厚志．2010．2005 年以降，紀伊半島で採集された興味ある海産魚類．和歌山県立自然博物館館報，28：61-67.
2　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野．
3　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：平嶋健太郎提供

カマヒレボラ　*Moolgarda malabarica*（Shaw, 1804）　ボラ目　ボラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	情報不足（DD）

選定理由

国内では和歌山県、鹿児島県、沖縄県で記録があるが、本州では稀。和歌山県では、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町、那智勝浦町等、県南部から標本や情報が得られている。

内湾浅所及び河川汽水域に生息するボラ科魚類で、第２背鰭及び臀鰭の先が尖ること、幽門垂が複雑に分岐すること等が特徴。

和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　福地伊芙映・堀部　翔・立原一憲．2021．奄美大島初記録のボラ科タイワンメナダ属２種、カマヒレボラとモンナシボラ．Ichthy − Natural History of Fishes of Japan，7：15–22.
2　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
3　武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海．2011．近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション．近畿大学農学部紀要，44：63–87.
4　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然−和歌山県レッドデータブック−．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

ナンヨウボラ　*Moolgarda perusii*（Valenciennes, 1836）　ボラ目　ボラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

国内では瀬戸内海、和歌山県、沖縄県で記録があるが稀。和歌山県では、県南部沿岸域から標本が得られている。

上唇下部は滑らかで、眼を被う脂瞼は発達しており、分厚くて虹彩も被う。胸鰭基底の上端には暗色斑が見られること等が特徴。内湾の浅所や漁港周辺に生息するボラ科魚類。

和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
2　武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海．2011．近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション．近畿大学農学部紀要，44：63–87.

モンナシボラ　*Moolgarda engeli*（Bleeker, 1858）　ボラ目　ボラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

国内では茨城県以南で記録があるが稀。和歌山県では、県南部から標本が得られている。

脂瞼が発達すること、胸鰭基底上端に黒色斑がないこと等が特徴。内湾浅所及び河川汽水域に生息するボラ科魚類。

和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　福地伊芙映・堀部　翔・立原一憲．2021．奄美大島初記録のボラ科タイワンメナダ属２種、カマヒレボラとモンナシボラ．Ichthy − Natural History of Fishes of Japan，7：15–22.
2　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
3　武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海．2011．近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション．近畿大学農学部紀要，44：63–87.
4　外山太一郎・福地伊芙映・山崎和哉．2021．茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類４種の北限記録．Ichthy − Natural History of Fishes of Japan，6：54–65.

チャイロマルハタ　*Epinephelus coioides*（Hamilton, 1822）　スズキ目　ハタ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

国内では新潟県、和歌山県、高知県、愛媛県、鹿児島県、沖縄県に分布。和歌山県では、御坊市、みなべ町、田辺湾、串本町、那智勝浦町等で記録がある。

沿岸の岩礁から汽水域に生息するハタ科魚類で、特に幼魚や若魚は汽水域に現れる。大型で体高が低く、体側にある瞳孔大の赤褐色斑（固定後は暗褐色）が特徴。

和歌山県内における詳細な分布状況が不明なため、情報不足とした。



執筆者（揖　善継）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57.
2　池田博美・中坊徹次 編．2015．南日本太平洋沿岸の魚類．597pp．東海大学出版会，秦野.
3　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.
写真：平嶋健太郎提供

ナンセンハゼ　*Luciogobius parvulus* (Snyder, 1909)　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸からの淡水が流入するような岩礁性海岸の砂礫底に生息し、腹鰭を持たない標準体長４ cm 程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では自然環境の保たれた中北部の沿岸に見られる。生態は不明な点も多いが、和歌山県内で産卵床が確認されたことから、再生産を行っていると考える。

山林の荒廃による流入水の減少や沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2018．和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類．南紀生物，60 (1)：38–41.
2　平嶋健太郎．2021．紀州の鯊 79　ナンセンハゼ．和歌山県立自然博物館だより，39 (1)：8.
3　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63 (1)：35–38.
4　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.
写真：平嶋健太郎撮影

ナガミミズハゼ　*Luciogobius elongatus* Regan, 1905　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸からの淡水が流入するような岩礁性海岸の砂礫底に潜り込んで生息するのに適した、細長い体を持つ標準体長３ cm 程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では自然環境の保たれた沿岸に見られる。生態は不明な点も多く、計数形質の幅の広さから、複数種を内包していると考えられる。稚魚や熟卵を持つ個体が確認できていることから、和歌山県内で再生産を行っていると考えられる。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2018．和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類．南紀生物，60 (1)：38–41.
2　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63 (1)：35–38.
3　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.
写真：平嶋健太郎撮影

ミズヒキナガミミズハゼ　*Luciogobius* sp.　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸からの淡水が流入するような岩礁性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する、細長い体を持つ標準体長４cm程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では中部の自然環境の保たれた沿岸で見られる。生態は不明な点も多いが、婚姻色を呈した個体も見つかっており、和歌山県内で再生産を行っている可能性がある。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における12種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63（1）：35–38.

2　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.

写真：平嶋健太郎撮影

イチモンジミミズハゼ　*Luciogobius* sp.　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

細長い体を持つ標準体長４cm程のミミズハゼ属魚類。陸からの淡水が流入するような岩礁性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する。

和歌山県内では中部の自然環境の保たれた沿岸で見られる。生態は不明な点も多いが、婚姻色を呈した個体も見つかっていることから、和歌山県内で再生産を行っている可能性がある。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における12種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63（1）：35–38.

2　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.

写真：平嶋健太郎撮影

ヤリミミズハゼ　*Luciogobius platycephalus* Shiogaki & Dotsu, 1976　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸からの淡水が流入するような岩礁性海岸の礫底に多く見られる。頭部前方が特に扁平し、礫中に潜行しやすい形状になっており、細長い体を持つ標準体長６cm程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では紀北、紀中地域の礫の多い海岸にオオミミズハゼと同所的に見られる。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2018．和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類．南紀生物，60（1）：38–41.
2　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63（1）：35–38.
3　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.
写真：平嶋健太郎撮影

ハウチワヤリミミズハゼ　*Luciogobius* sp.　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸からの淡水が流入するような岩礁性海岸の礫底海岸で多く見られる。頭部前方が特に扁平し、膜鰭が切れ込んだ胸鰭を持つ、標準体長 6 cm 程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では紀中地域の礫の多い海岸にヤリミミズハゼやオオミミズハゼと同所的に見られる。詳しい生態は不明な点が多い。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63（1）：35–38.
2　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.
写真：平嶋健太郎撮影

カマヒレミミズハゼ　*Luciogobius* sp.　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

陸からの淡水が流入するような海岸の砂礫底に見られる。形状が三角形に近い胸鰭を持つ、標準体長 4 cm 程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では紀中、紀南地域の海岸にオオミミズハゼやナガミミズハゼ等と同所的に見られる。詳しい生態は不明な点が多い。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2018．和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類．南紀生物，60（1）：38–41.
2　前田知範・平嶋健太郎．2021．和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況．南紀生物，63（1）：35–38.
3　渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人．2019．静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討（予報）．東海自然誌，12：29–96.
写真：平嶋健太郎撮影

アカウオ　*Paratrypauchen microcephalus* (Bleeker, 1860)　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

沿岸部の泥底から軟泥底に生息し、眼や胸鰭等が退化した標準体長 10 cm 程のアカウオ属魚類。

和歌山県内では主に和歌浦湾や紀の川河口沖で生息が確認され、紀伊水道に生息していると思われるが、詳しい生態は不明な点が多い。



執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　道津喜衛．1957．アカウオおよびワラスボの生態・幼期．九州大學農學部學藝雑誌，16（3）：371–380.
2　平嶋健太郎．2012．紀州の鯊 41　アカウオ．和歌山県立自然博物館だより，29（4）：8.
3　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定，第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野.

写真：平嶋健太郎撮影

ヒゲワラスボ種群　*Trypauchenopsis* spp.　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由



和歌山県内では、串本町の 2 箇所で 2 個体の標本が採集されているが、他に記録がない。体は長細く伸長する。目は小さく、頭部はひげ状の突起で覆われるが、ひだ状突起はない。仔稚魚時には海域で分散するが、ほぼ一生を河川河口域の軟泥中で過ごす。

本種が本来生息する干潟環境は、和歌山県内においても、埋め立てや港湾工事による消失、流入河川での改修や隣接する陸域の改変によって著しく劣化の一途を辿っている。

Maeda and Tachihara（2014）は、砕波帯で採集された仔稚魚から、沖縄島のヒゲワラスボには 2 タイプがいることを示した。その後、Maeda *et al.*（2022）は、沖縄島から採集された仔魚を用いて、これまで 1 種とされてきたヒゲワラスボにはホシドメワラスボ *T. limicola*（Smith，1964）とマバラヒゲワラスボ *T. intermiedia* Volz，1903 の 2 種が含まれていることを示した。なお、Hayashi and Ito（1978）が「ヒゲワラスボ」という和名の基準とした標本には両種が混在し、そのどちらの学名も使用されたことがあることから、Maeda *et al.*（2022）は混乱をさけるため、両種の標準和名を新たに提唱している。

Maeda *et al.*（2022）は、仔魚のみならず稚魚や成魚についても各鰭の鰭条数の組み合わせで識別できるとしているが、実際のデータは示されておらず、その真偽は明らかでない。また、沖縄島以外における両種の分布については言及しておらず、現状で和歌山県における両種の分布は不明である。したがって、ここではヒゲワラスボ種群 *Trypauchenopsis* spp. として扱った。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　Hayashi, M. & Itoh, T. 1978. Gobioid fishes of Ryukyu Islands, southern Japan (I). Science Report of the Yokosuka City Museum, 24：59–82, pls 10–21.
2　平嶋健太郎・揖　善継・平井厚志．2010．2005 年以降，紀伊半島で採集された興味ある海産魚類．和歌山県立自然博物館館報，28：61–67.
3　環境省．2020．レッドリスト，汽水・淡水域．環境省ホームページ：https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf（2021 年 12 月 13 日参照）
4　Maeda, K., Hanahara, N., Uehara, M. & Tachihara, K. 2022. Larval study revealed diversity and life-history traits of crypto-benthic eel gobies. Journal of Fish Biology, 101（6）：1411–1427.
5　Maeda, K. & Tachihara, K. 2014. Larval fish fauna of a sandy beach and an estuary on Okinawa Island, focusing on larval habitat utilization by the suborder Gobioidei. Fisheries Science, 80（6）：1215–1229.

参考文献・情報
6　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
7　山下龍之丞・尾山大知・碧木健人・鎗田めぐ・山川宇宙．2022．関東地方沿岸におけるヒゲワラスボおよびコガネチワラスボの記録：2 種の出現記録の増加傾向とその要因．Ichthy - Natural History of Fishes of Japan，20，1–12．
写真：平嶋健太郎提供

ニクハゼ　*Gymnogobius heptacanthus* (Hilgendorf, 1879)　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

沿岸部の汽水域や藻場に生息する、標準体長 6 cm 程のウキゴリ属魚類。

和歌山県内では 1930 年代に和歌浦湾から記録があるが、近年確認できていない。近縁な類似種と混同されている可能性もあるが、詳細は不明。



執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　木下好治．1936．雌だけが婚姻色を現す特異なるニクハゼ．動物學雑誌，48：257–259．
写真：平嶋健太郎撮影（県外産）

ビリンゴ　*Gymnogobius breunigii* (Steindachner, 1880)　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	－

選定理由

汽水域や藻場に生息する、標準体長 6 cm 程のウキゴリ属魚類。和歌山県内ではいくつかの汽水域で記録されているが、分布がまばらであり、詳細な生態学的情報や個体群情報は不明。

執筆者（平嶋健太郎）



参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2010．紀州の鯊 34　ビリンゴ．和歌山県立自然博物館だより，28 (1)：8．
2　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40．
3　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57．
4　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：平嶋健太郎撮影

シラスウオ属の一種　*Schindleria* sp.　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

サンゴ礁あるいはサンゴ群落のある海域に生息し、幼形成熟するハゼ科魚類の一種で、体サイズや生殖突起の形状等に幅広い変異が見られることから、いくつかの隠蔽種が含まれると考えられる。

和歌山県内では串本町潮岬で数個体が確認されており、国内の北限記録である。詳細な生態は不明であるが、成熟卵を持った個体が採集されていることから、和歌山県内の沿岸でも再生産している可能性がある。



執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報
1　平嶋健太郎．2014．本州初記録のシラスウオ属の 1 種．南紀生物，56 (2)：129–130.
2　平嶋健太郎．2017．紀州の鯊 60　シラスウオ類．和歌山県立自然博物館だより，34 (2)：8.
写真：平嶋健太郎撮影

アブラハヤ　*Rhynchocypris lagowskii steindachneri* (Sauvage, 1883)　コイ目　コイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

本州北部から岡山県に分布し、河川上・中流域の流れが緩やかなところに生息する。和歌山県では、紀北及び紀中地域の河川で見られる。和歌山県の個体群は、本種の分布の南限にあたり、生息地も局所的である。

なお、国内において、人為的な移入（主に放流アユへの混入）によって、定着やタカハヤとの交雑を生じた例がある。和歌山県では在来個体群として両種が生息しており、生物地理学的に興味深い。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報
1　中坊徹次 編．2013．日本産魚類検索　全種の同定　第三版．2428pp．東海大学出版会，秦野．
2　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．
写真：平嶋健太郎提供

オオシマドジョウ　*Cobitis* sp. BIWAE type A　コイ目　ドジョウ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

かつて「シマドジョウ」とされた種群は、遺伝学的解析から少なくとも 4 集団に分けられ、本種はそのうちの 1 つである。本種は、本州西部や四国、九州における一部の瀬戸内海流入河川を中心に分布し、若狭湾周辺や中国地方西部からも記録がある。

和歌山県の「シマドジョウ」は全て本種とされ、紀伊半島東部はニシシマドジョウとの分布境界に当たる。ニシシマドジョウとは、外見からの区別が困難だが、赤血球数やミトコンドリア DNA のシトクロム *b* 領域の相違から判別できる。

河川上・中流域で、流れがあり岸辺の植生が豊富な砂礫底を好むが、流れの緩やかな場所にたまった落ち葉の中に潜むこともある。河川改修や護岸工事により、生息に適した淵やトロ場が減少している。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報
1　Hitotsumachi, S., Sasaki, M. & Ojima, Y. 1969. A comparative karyotype study in several species of Japanese loaches (Pisces, Cobitidae). Japanese Journal of Genetics, 44 (3)：157–161.
2　中島　淳・洲澤　譲・清水孝昭・斎藤憲治．2012．日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱．魚類学雑誌，59 (1)：86–95.
3　中島　淳・内山りゅう．2017．日本のドジョウ．223pp．山と溪谷社，東京．
写真：國島大河撮影（県外産）

オカメハゼ　*Eleotris melanosoma* Bleeker, 1853　スズキ目　カワアナゴ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

主に静岡県から琉球列島に分布し、小笠原諸島でも記録がある。本種の主な分布地は亜熱帯から熱帯域だと考えられるが、和歌山県では紀南地域にて成熟個体が採集されていることから、再生産していると推察される。

河口汽水域から感潮域最上部に生息し、落ち葉の堆積した流れのゆるやかな場所で見られる。

選定理由　和歌山県では、同属のカワアナゴやチチブモドキ、テンジクカワアナゴと同所的に生息する場所があり、種間関係がどのようになっているのか大変興味深い。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　明仁親王．1967．日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の 4 種について．魚類学雑誌，14 (4)：135–166.
2　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
3　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57.
4　玉田一晃．1995．会津川の魚類相．南紀生物，37 (1)：8–14.
5　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：平嶋健太郎提供

テンジクカワアナゴ　*Eleotris fusca* (Forster, 1801)　スズキ目　カワアナゴ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	－



選定理由　茨城県以南の和歌山県、高知県、宮崎県、大隈諸島、琉球列島に分布し、小笠原諸島でも記録がある。琉球列島では淡水域に生息する。

和歌山県では河口汽水域から淡水域にかけての特に落ち葉の堆積した流れのゆるやかな場所で見られる。

和歌山県では紀南で成熟個体が採集されており、再生産していると推察される。また、同属のカワアナゴやチチブモドキ、オカメハゼと同所的に生息する場所があり、種間関係がどのようになっているのか大変興味深い。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

1　明仁親王．1967．日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の 4 種について．魚類学雑誌，14 (4)：135–166.
2　平嶋健太郎・中谷義信．2001．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相（予報）．和歌山県立自然博物館館報，19：33–40.
3　平嶋健太郎・中谷義信．2012．和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相．和歌山県立自然博物館館報，30：39–57.
4　小林大純・山川宇宙・内田大貴・碧木健人・外山太一郎．2021．茨城県鹿島灘流入水域から得られたカワアナゴ属魚類 2 種，テンジクカワアナゴとチチブモドキ．Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 16，5–10.
5　和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：平嶋健太郎提供

シマヒレヨシノボリ　*Rhinogobius tyoni* Suzuki, Kimura & Shibukawa, 2019　スズキ目　ハゼ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧種（NT）



選定理由　瀬戸内海沿岸部の東側の淡水域に分布し、ため池等の止水域に生息する、標準体長 4 cm 程のヨシノボリ属魚類。

和歌山県では、広川水系以北が本種の自然分布と考えられる。一方で、紀南地域のダム等に人為的に放流（混入）された個体群が見られる。

かつては、トウヨシノボリ縞鰭型とされていた。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　平嶋健太郎．2011．紀ノ川および有田川流域におけるシマヒレヨシノボリの分布．南紀生物，53（1）：47–50.
2　平嶋健太郎．2014．紀伊半島におけるシマヒレヨシノボリの地理的分布．和歌山県立自然博物館報，32：41–62.
3　平嶋健太郎．2015．紀州の鯊 53　シマヒレヨシノボリ．和歌山県立自然博物館だより，32（4）：8.
4　平嶋健太郎．2016．トウカイヨシノボリ *Rhinogobius* sp．TO の仔稚魚の成長にともなう形態変化と塩分耐性およびシマヒレヨシノボリ *R.* sp. BF との比較．南紀生物，58（1）：1–6.
5　平嶋健太郎．2016．ヨシノボリ属魚類の生活史の多様性、その適応について．海洋と生物，225：363–369.
6　平嶋健太郎．2017．和歌山県北部小水域におけるシマヒレヨシノボリの産卵期と個体群年変動．南紀生物，59（1）：48–51.
7　平嶋健太郎・中村和矢．2014．シマヒレヨシノボリの水槽内産卵および成長にともなう外部形態の変化．魚類学雑誌，61（2）：53–58.
8　Suzuki, T., Kimura, S. & Shibukawa, K. 2019. Two new lentic, dwarf species of *Rhinogobius* Gill, 1859（Gobiidae）from Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum（Natural Science），48：21–36.

写真：平嶋健太郎撮影

6 昆虫類

昆虫類の概要

的場　績

和歌山県は紀伊半島の主要部を占め、海岸の照葉樹林から冷温帯のブナ林まで、自然環境の多様性を反映して、豊富な昆虫相を擁している。また、タイワントビナナフシやサツマニシキに代表される熱帯系の昆虫を多産し、本県の昆虫相の大きな特徴となっている。このことは本州最南端という地理的な要因に加え、黒潮による熱帯系昆虫の供給が大きな役割を果たしている。

また、地史的な要因として、最終氷期に南下してきた北方系昆虫は、氷期の終息と共に北上を開始したが、シモヤマミズギワゴミムシやミヤカワハナゾウムシ、フジキオビのような多くの北方系昆虫が北上せずに、現在の昆虫相の一員となっている。新宮市田長谷のキンキコルリクワガタや荒船海岸のクロオビアシナガゾウムシはこの一例で、照葉樹林に生活の場を獲得している。

昨今の地球温暖化の影響か、キョウチクトウスズメ、アカマダラヨトウ、クロメンガタスズメ等は、ほぼ定着の様相を示している。近年、ヨツモンカメノコハムシが県内に侵入し、2 年間でほぼ県内全域に分布を拡散している。また、タテスジヒメジンガサハムシも 2020 年に橋本市に侵入定着を果たしている。ヤシオオオサゾウムシも県内全域の沿岸部に定着し、カナリーヤシの重要な害虫となっている。アカギカメムシの分布も北上しており、有田地方でも発見報告が続いている。外来種の侵入定着により、在来種の存続にかなりの圧力になることの例として、クロメンガタスズメの分布拡散に伴い、メンガタスズメは絶滅に近いほど個体数を減らしている。近年ではチャイロスズメバチが県内の里山から自然林に分布を広げており、今後キイロスズメバチとの競合が心配される。

本県の昆虫相は、専門家による調査・研究よりも、地元のアマチュア研究家たちにより解明されてきた。従って、公表された昆虫相の多くは、カメムシ目、チョウ目、コウチュウ目、トンボ目に限られ、ハエ目やハチ目等アマチュア研究者の少ない分野では、未解明の要素を大きく残している。

前回のレッドデータブック改訂版を出版してから 10 年、相変わらず自然環境は悪化しており、野外に於ける昆虫類も減少の一途をたどっている。今回の改訂にあたっては、各専門家の意見を聞く中で、絶滅 13 種、絶滅危惧Ⅰ類 24 種、絶滅危惧Ⅱ類 40 種、準絶滅危惧 102 種、情報不足 27 種、学術的重要 37 種を選定した。

今回の改訂では、マダラナニワトンボが新たに絶滅種に加えられ、前回絶滅種としたシルビアシジミが再発見されたが、人的移入の疑いもあるため、次回までの研究課題として今回は情報不足種として扱った。同じく絶滅種のコガタノゲンゴロウも新宮市と田辺市で相次いで再発見されたが、これも同様に国内移入種の疑いがあるため、情報不足種として扱った。

絶滅危惧Ⅰ類以下では 30 種が新たに加えられ、ヒゲブトグンバイ、ウラナミアカシジミ、ミドリシジミ、トラフトンボは、生息状況もしくは個体数が安定していると判断し、今回は削除した。絶滅危惧Ⅱ類では前回選定されていたマダラコガシラミズムシは記録を精査した結果、県内には分布していないことが分かり削除した。アカマダラセンチコガネは、記録や標本の存在が不明瞭であるので、情報不足に移した。前回、学術的重要種に扱っていたカワセタマノミゾウムシとヤクシマヒメキシタバについても、紀伊半島が分布の北限ではないことが判明したので、学術的重要種から除外し、ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種とコサナエを準絶滅危惧種から学術的重要種へと変更し、コウヤナナフシ、ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ、オオトウカギバラヒゲナガゾウムシの 3 種を新たに学術的重要種に加えた。

全国的な稀少種は、もともと個体数が少ないので、生息基盤が脆弱であると言えるが、生態

や採集方法が判明すると、案外安定して生息していることがわかることもあり、今回も、珍種・稀少種よりは、減少の著しい種に焦点を当てた選定に努めた。その結果、半世紀近く発見されていない種や、昔はごく普通種であったのが、近年では絶滅に近い状態にある種がいくつも選定され、本県の自然度の低さを感じさせられた。特に水棲や湿地性昆虫については顕著であった。

地下浅層性のチビゴミムシ類も、環境省のレッドデータブックで選定されている種であっても、生息状況や生息数増減の判定が困難であることにより、今回も除外することにした。

前回は、昆虫類の模式産地種一覧を掲載したが、編集会議の結果、今回は省くことになった。しかし模式産地を保護することは、そのまま模式産地種の保護につながり、稀少種、普通種を問わず、その地域遺伝子を守ることに繋がり、生物多様性の観点に於いても重要であると考えている。

昆虫類の掲載種

●絶滅（EX）

マダラナニワトンボ
フサヒゲサシガメ
カワラハンミョウ
ハラビロハンミョウ
スジゲンゴロウ
マルコガタノゲンゴロウ
ギフチョウ
タイワンツバメシジミ
シータテハ
オオウラギンヒョウモン
ヒメヒカゲ
ウラナミジャノメ
キバネセセリ

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

コバネアオイトトンボ
アオヤンマ
ルリボシヤンマ
キイロヤマトンボ
オオキトンボ
タガメ
ヒメタイコウチ
コバンムシ
トゲナベブタムシ
オオクチブトカメムシ
オオウスバカゲロウ
ヨドシロヘリハンミョウ
カワラゴミムシ
シモヤマミズギワゴミムシ
オオヒョウタンゴミムシ
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ
ゲンゴロウ
コガタガムシ
シリグロナカボソタマムシ
ヤマトオサムシダマシ
イッシキキモンカミキリ
ウラキンシジミ
クロツバメシジミ
ウラギンスジヒョウモン

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

アオハダトンボ
ネアカヨシヤンマ
キイロサナエ
アカエゾゼミ
テングオオヨコバイ
エサキアメンボ
オオコオイムシ
ミヤケミズムシ
ハリサシガメ
ナカボシカメムシ
ツノアカツノカメムシ
セアカオサムシ
ウミホソチビゴミムシ
ダイミョウアトキリゴミムシ
ヨツボシヒラタシデムシ
ミヤマツヤハダクワガタ
ルイスツノヒョウタンクワガタ
ヒメオオクワガタ
ミヤマダイコクコガネ
キンスジコガネ
トラハナムグリ
アヤムネスジタマムシ
ミヤマナカボソタマムシ
ヨツコブサビコメツキ
クニミシモフリコメツキ
ヒゲブトハナカミキリ

タケウチホソハナカミキリ
クロソンホソハナカミキリ
カエデノヘリグロハナカミキリ
クロサワヒメコバネカミキリ
ニッポンモモブトコバネカミキリ
クロホソコバネカミキリ
エゾトラカミキリ
トラフカミキリ本土亜種
オオトラカミキリ
ヨツボシカミキリ
オオシロオビゾウムシ
ウマノオバチ
フジミドリシジミ
オオウラギンスジヒョウモン

●準絶滅危惧（NT）

オオハサミコムシ
オツネントンボ
ニホンカワトンボ
ベニイトトンボ
セスジイトトンボ
オオイトトンボ
モートンイトトンボ
オオルリボシヤンマ
アオサナエ
オグマサナエ
フタスジサナエ
ミヤマサナエ
エゾトンボ
ハネビロエゾトンボ
ナニワトンボ
マイコアカネ
ミヤマアカネ
キトンボ
ハッチョウトンボ
カヤキリ
タイワンクツワムシ
クツワムシ
クロツヤコオロギ
カワラバッタ
ヒサゴクサキリ
フタツトゲササキリ
クチナガコオロギ
コガタカンタン
セグロイナゴ
シダスケバモドキ
クワヤマハネナガウンカ
ミツハシテングスケバ
オヨギカタビロアメンボ
ハネナシアメンボ
トゲミズギワカメムシ
コオイムシ
タイコウチ
ナベブタムシ
キバネアシブトマキバサシガメ
クロバアカサシガメ
ハマベツチカメムシ
フタテンツノカメムシ
トゲツノカメムシ
ヤマトナガヒラタムシ
ハンミョウ
セグロホソクビゴミムシ
キボシケシゲンゴロウ
キベリクロヒメゲンゴロウ
ヒメミズスマシ
コガムシ
ガムシ
オオズウミハネカクシ
ルリクワガタ
ムネアカセンチコガネ
アカマダラハナムグリ（アカマダラコガネ）
オオサカスジコガネ

シロスジコガネ
アオアシナガハナムグリ
コカブト
クロマダラタマムシ
コガタノサビコメツキ
ツマグロコメツキ
ヒメクロナガコメツキ
ムネアカツヤケシコメツキ
ツヤヒラタコメツキ
オオダイルリヒラタコメツキ
イソジョウカイモドキ
ハラグロオオテントウ
アイヌテントウ
オカモトツヤアナハネムシ
フタコブルリハナカミキリ
イガブチヒゲハナカミキリ
ヒゲジロホソコバネカミキリ
オオホソコバネカミキリ
ヨコヤマヒゲナガカミキリ
ヒメビロウドカミキリ
キンイロネクイハムシ
ヒメゴマダラオトシブミ
ミツギリゾウムシ
モリモトシギゾウムシ
ヒメカツオゾウムシ
ハスジゾウムシ
タマヌキオニゾウムシ
コカタビロゾウムシ
マツムラハラブトハナアブ
ハチモドキハナアブ
ニトベベッコウハナアブ
ツマグロキチョウ
エゾミドリシジミ
オオミドリシジミ
ヒサマツミドリシジミ
キリシマミドリシジミ
クロシジミ
クモガタヒョウモン
オオムラサキ
クロヒカゲモドキ
ミヤマセセリ
オオチャバネセセリ
ミヤマチャバネセセリ
メンガタスズメ
サツマニシキ本土亜種
ムラサキシタバ

●情報不足（DD）

ムカシヤンマ
ホンサナエ
エゾエンマコオロギ
ハマスズ
オオアシナガサシガメ
フタボシツチカメムシ
ヒトツメアオゴミムシ
ウミミズギワゴミムシ
コガタノゲンゴロウ
ウスイロシマゲンゴロウ
マルチビゲンゴロウ
ヤマトモンシデムシ
アカマダラセンチコガネ
アカヘリミドリタマムシ
オオムツボシタマムシ
シロウズツヤケシコメツキ
トゲウスバカミキリ
アカジマトラカミキリ
ミヤカワハナゾウムシ
ニホンアミカモドキ
シロスジナガハナアブ
スズキナガハナアブ
ウスイロオナガシジミ
ウラミスジシジミ

シルビアシジミ
ツシマキモンチラシ
オオシロシタバ

●学術的重要（SI）

コサナエ
ウルシゴキブリ
キイフキバッタ
オガサワラクビキリギス
コウヤササキリモドキ
オオアリツカコオロギ
タイワンエンマコオロギ
クロヒバリモドキ
コウヤナナフシ
ゴトウヒサゴナガカメムシ
ミナミオオヘリカメムシ
ニシキキンカメムシ
シラハマナガゴミムシ
オオダイオオナガゴミムシ原名亜種
オオダイナガゴミムシ
コモリヒラタゴミムシ
ナガツヤヒラタゴミムシ
ナガホラアナヒラタゴミムシ
ナチセスジゲンゴロウ
（トモクニセスジゲンゴロウ）
ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種
マメクワガタ
ウスグロボタル
クロマドボタル
ナンキセダカコブヤハズカミキリ
アヤモンチビカミキリ
ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ
オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ
イチハシシギゾウムシ
ネジロツブゾウムシ
カスミゾウムシ
オチバアナアキゾウムシ
ルイスヒゲボソゾウムシ
クモマトラフバエ
ルーミスシジミ
ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種
ベニシタバ
ヒゴキンウワバ

マダラナニワトンボ　*Sympetrum maculatum* Oguma, 1915　トンボ目　トンボ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



選定理由

全長 40 mm 程。アカネ属ではあるが、成熟個体であっても体色に赤みがない。水生植物の繁茂する池沼や湿原に生息する。模式産地を “Kii” として記載されたが、その後、和歌山県における記録や、減少の過程を示す報告はない。開発による生息環境の改変や、遷移によって減少し、絶滅したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　小熊　捍．1915．日本産蜻蛉科各属各種の検索表．昆虫学雑誌，1（2）：1–8 & 49–54.
2　Oguma, K. 1922. The Japanese dragonfly-fauna of the family Libellulidae. Deutsche Entomologische Zeitschrift, 1：96–112.
3　尾園　暁・川島逸郎・二橋　亮．2013．ネイチャーガイド　日本のトンボ．531pp．文一総合出版，東京．

写真：青木典司提供（県外産）

フサヒゲサシガメ　*Ptilocerus immitis* Uhler, 1896　カメムシ目　サシガメ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

全身扁平で、体表及び触覚に長毛を密生する。体表から甘い液を分泌して、アリ類を誘引して捕食するという珍しい生態を持つ。マツの樹皮下で発見される。

和歌山県では、橋本市での記録 1 例のみで、70 年間再発見されておらず、本種の生息するようなマツの古木も減少しており、絶滅したものと思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1950．最近紀州より採集された異翅亜目（Heteroptera）種について．南紀生物，2（1）：95–97.
2　後藤　伸．1988．和歌山県産異翅半翅類追補 II Reduviidae サシガメ科．南紀生物，30（1）：36–44.

写真：酒井雅博提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

カワラハンミョウ　*Cicindela laetescripta* Motschulsky, 1860　コウチュウ目　ハンミョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



選定理由

上翅は暗緑灰色で、外縁の白色紋が様々に変化するため、特異な紋様を呈する。北海道から九州及び中国大陸に分布し、国内では総ての生息地で減少している。

和歌山県では、坂口・池田の目録に記録されており、発見地が紀の川であるとされているが、不明な点が多い。目録以降 90 年近く再発見されていないため、絶滅したものと思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　坂口総一郎・池田義郎．1932．和歌山県産昆虫目録．50pp．和歌山県師範学校郷土室，和歌山．

写真：中村　進提供（県外産）

ハラビロハンミョウ　*Cicindela sumatrensis niponensis* Bates, 1883　コウチュウ目　ハンミョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

雌の上翅両側が基部３分の１付近から明瞭に膨らむのが特徴。砂浜に生息する。本州中部～種子島に分布するが、生息地は少ない。

和歌山県では 1931 年に白浜町で発見された記録があるが、90 年間再発見されておらず、砂浜の改変等による環境悪化のため、絶滅したものと思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　中根猛彦．1954．ハラビロハンミョウ本州南岸に産す．新昆虫，７（10）：38.

写真：島根県環境生活部自然環境課提供（県外産）

スジゲンゴロウ　*Hydaticus satoi* Wewalka, 1975　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅（EX）



選定理由

中型のゲンゴロウで、上翅中央後方で合流する黄色の２縦条が特徴的。関東地方以西に分布するが、何れの産地でも稀である。全国的に減少が著しく、絶滅した産地も多い。

和歌山県では 1960 年に３頭採集された記録があるが、その後県内で発見された記録はない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　Sato, M. 1961. *Hydaticus vittatus* and its allied species. Transactions of the Shikoku Entomological Society, 7 (1/2)：54-64.

写真：渡部晃平提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

マルコガタノゲンゴロウ　*Cybister lewisianus* Sharp, 1873　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	－



選定理由

比較的大型のゲンゴロウで、黒い体に、体側が黄色く縁取られる。腹面は黄色。本種も全国的に減少傾向にあり、多くの府県で絶滅～絶滅危惧Ⅰ類に選定されている。大阪では絶滅と判定されている。

和歌山県では、和歌山市友ヶ島と湯浅町の記録があり、標本も現存しているが、60 年以上再発見されていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　林　成多・初宿成彦．2003．大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本　特に稀少種及び絶滅危惧種について．Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 57：11-20.
2　楠井善久．2008．和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫．KINOKUNI,（73）：14.
3　森　正人．2007．和歌山県のマルコガタノゲンゴロウ．月刊むし，（432）：38.

写真：松野茂富提供（県外産）

ギフチョウ　*Luehdorfia japonica* Leech, 1889　チョウ目　アゲハチョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

春、サクラの咲く頃に発生する日本固有のアゲハチョウ。雌雄とも色彩、斑紋はほとんど同じで交尾後の雌は受胎嚢をつける。幼虫の食草はウマノスズクサ科のカンアオイ属。

和歌山県では龍門山周辺と紀見峠から記録されていたが、農薬散布の影響やゴルフ場開発等により絶滅した。分布の南限の一つで龍門山の個体群は、特有の斑紋を持つ。紀見峠の個体群は、大阪府、奈良県境の金剛山や葛城山に産する個体群と共通し、龍門山に生息する個体群とは異なる。

なお、現在、龍門山周辺に生息しているものは、人為的な放蝶によるものである。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1996．蝶類雑記 16 龍門山のギフチョウについて．KINOKUNI，(49)：1–5.
2　橋本説朗．2001．ギフチョウ 500 市町村 2．53–54．105pp．セツロ一社，黒磯.
3　日浦　勇．1969．大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録，第 1 集：13.
4　河辺敏夫．2001．龍門山のギフチョウの衰亡．季刊ゆずりは，(9)：52–54.
5　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
6　的場　績．1998．ギフチョウ生息確認調査会の実施報告．KINOKUNI，(53)：33.
7　的場　績．2003．龍門山のギフチョウについて．KINOKUNI，(63)：9.

写真：小島和也標本

タイワンツバメシジミ　*Everes lacturnus*（Godart, 1824）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

本州（和歌山県）、四国、九州及び南西諸島に分布する。ツバメシジミに似るが、裏面の斑紋が、本種では第 7 室の 2 紋、中室内基部及び内縁の各 1 紋、外縁肛角部付近の 2 紋だけが、濃黒色である。食草は主にマメ科のシバハギ。

和歌山県では、すさみ町、那智勝浦町に記録があり、太地町、日高川町（旧川辺町）にも記録があるが、現在は草地の消滅等により絶滅したと考えられる。

和歌山県は、本州で唯一の産地であった。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　乾風　登．1957．本州にて初記録のタイワンツバメシジミ．新昆虫，10 (12)：36.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
3　岡崎裕一．1959．東牟婁地方の蝶に就いて．私たちの理科環境，9：67–74.
4　小路嘉明．1986．紀伊半島のタイワンツバメシジミは本当にいるか？．蝶研フィールド，1 (7)：14–20.

写真：船橋智輝提供（県外産）

シータテハ　*Polygonia c-album*（Linnaeus, 1758）　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	－

選定理由

北海道から九州まで広く産するが、好寒地性の種で暖地では山地性の稀種となる。キタテハと類似するが、翅縁の凹凸は本種の方が強い。食樹はニレ科のハルニレなど。

和歌山県では、和歌山市、有田市、龍門山、紀南地方の各地で稀に確認されていたが、広葉樹林の伐採、植林による生息環境の減少、温暖化等により、近年は全く見られず、絶滅したと思われる。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1984．蝶類雑記（7）シータテハの生息地はどこ？．KINOKUNI，（25）：21–23.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
3　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
4　吉田昌男．2016．紀の川市で過去に採集した蝶．KINOKUNI，（90）：12–13.
5　湯川淳一．1957．和歌山県産蝶類目録（2）．紀州昆虫，2：6–13.

写真：大橋弘和提供（県外産）

オオウラギンヒョウモン　*Fabriciana nerippe*（C. & R. Felder, 1862）　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

選定理由

本州、四国、九州に分布するが産地は局地的であり、近年での確実な生息地は、数箇所に過ぎない。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。食草は各種のスミレ属植物。

和歌山県では、旧大塔村等、紀南地方を中心に分布していたが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、農薬散布の影響等により、現在は絶滅したと思われる。

全国的にも絶滅寸前の種である。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報

1　乾風　登．1951．蝶類新産地一束．南紀生物，3（2/3）：92.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
3　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ヒメヒカゲ　*Coenonympha oedippus*（Fabricius, 1787）　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧ⅠＢ類（EN）

選定理由

日本では本州に分布するが、産地は局地的である。雄の翅表は暗褐色で無紋、雌は色彩が淡く、裏面の眼状紋が発達する。食草は、カヤツリグサ科、イネ科。

和歌山県では、葛城山にのみ記録があるが、拡大造林、草地の消滅等により絶滅した。分布南限の産地であった。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報

1　乾風　登．1951．蝶類新産地一束．南紀生物，3（2/3）：92.
2　青柳昌宏．1951．紀州で最初のヒメヒカゲ．新昆虫，4（13）：24.
3　有田　斉・前田善広．2016．珠玉の標本箱（14）ジャノメチョウ亜科①，15：17.

参考文献・情報　4　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
写真：大橋弘和提供（県外産）

ウラナミジャノメ　*Ypthima multistriata* Butler, 1883　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

関東地方以西に分布するが、産地は局地的である。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雌は雄に比べ翅形が丸く、翅表の地色は、やや淡色。翅裏面の眼状紋が３個で、近似種のヒメウラナミジャノメ（５個）と区別される。食草は、イネ科、カヤツリグサ科等。

かつては和歌山市、有田川町（旧吉備町）、那智勝浦町、新宮市（旧熊野川町）等、和歌山県内各地に分布していたが、拡大造林、草地の消滅、農薬散布の影響等により、現在は絶滅したと思われる。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報
1　後藤　伸．1961．友ヶ島の昆虫（Ⅱ）．紀州生物，2：19–20.
2　後藤　伸．2002．大杉谷・黒蔵谷の蝶類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，133–139，和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
4　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
5　岡崎裕一．1959．東牟婁地方の蝶に就いて．私たちの理科環境．9：67–74.
6　吉村輔倫．1984．有田地方のチョウの記録．KINOKUNI，(25)：24–27.
写真：大橋弘和提供（県外産）

キバネセセリ　*Burara aquilina* (Speyer, 1879)　チョウ目　セセリチョウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	－



選定理由

セセリチョウの中では大型種。斑紋は雌雄で異なり、雄の表面は黄褐色でほとんど無紋。雌は前翅中室の端に１個の灰黄色斑があり、その外側に曲線状に灰黄色斑が並んでいる。飛翔は極めて速い。幼虫はハリギリの葉を食べる。

和歌山県では、日高川町八斗蒔や護摩壇山周辺で数頭採集された記録があるが、その後、確実な採集記録がなく、森林の伐採、造林の拡大、温暖化等により、絶滅したと考えられる。日本での分布の中心は中部地方以北で、西南日本での分布は局限される。特に紀伊半島は分布の南限の一つで、僅かな産地が知られているに過ぎない。なお、確認できた現存する標本は１頭のみだが、近年、不確実であるが、護摩壇山周辺で目撃したとの情報もあり、注意を要する。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報
1　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
2　山田一男．1969．キバネセセリ龍神にて採集．南紀生物，11 (1)：12.
3　吉村雅行．1968．有田地方の蝶類報告．南紀生物，10 (1/2)：43–44.
写真：大橋弘和提供（県外産）

コバネアオイトトンボ　*Lestes japonicus* Selys, 1883　トンボ目　アオイトトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

全長 40 mm 程。雌雄ともに成熟しても胸部に青白い粉を生じない。抽水植物の生える池沼に生息し、和歌山市、有田川町（旧金屋町）、岩出市、紀の川市（旧貴志川町）、御坊市、日高町、由良町から記録されているが、現在の確実な生息地は極めて限られる。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登．1973．和歌山県のトンボ相．島孝夫教授退官記念論文集，29–36.
2　関西トンボ談話会．1977．近畿のトンボ第 4 部．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録，9：83–153.
3　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
4　南　敏行．2015．御坊市でのコバネアオイトトンボの記録．KINOKUNI，(88)：4–5.
5　尾園　暁・川島逸郎・二橋　亮．2013．ネイチャーガイド　日本のトンボ．531pp．文一総合出版，東京.

写真：南　敏行撮影

アオヤンマ　*Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883　トンボ目　ヤンマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

全長は最大で 80 mm 程。体色は黒を基調とし、鮮やかな緑色の模様が体側面において大きく拡がる。ヨシやガマ等の抽水植物が茂る池沼や湿地に生息し、和歌山市、海南市、紀の川市（旧那賀町・旧貴志川町）、日高町から記録されているが、確実な現在の生息地は確認されていない。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登．1975．県産新記録アオヤンマと稀種ハネビロエゾトンボ．南紀生物，17 (2)：59.
2　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本．KINOKUNI，(49)：15–19.
3　有本　智・南　敏行．2004．海南市孟子でアオヤンマを記録．KINOKUNI，(86)：1.
4　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
5　森光茂夫．1978．和歌山県におけるトンボ 3 種とその新分布地．南紀生物，20 (2)：92.
6　高松　勉．1982．那賀郡貴志川町でアオヤンマを目撃．KINOKUNI，(21)：17.

写真：山本哲央提供（県外産）

ルリボシヤンマ　*Aeschna juncea* (Linnaeus, 1758)　トンボ目　ヤンマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－



選定理由

全長 90 mm 程。体側面の黄色い模様は青みを帯びる。和歌山県においては山地の周囲に樹林のある止水域に生息し、有田川町（偶産と思われる）、高野町から記録されているが、生息環境及び個体数は元来少なかったと考えられ、現在の生息地は局地的である。生息環境の遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　有本　智．2000．1998~1999 年に生石山（和歌山県）で採集した特筆すべきトンボ類．南紀生物，42（1）：64.
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
3　南　敏行．2012．和歌山県北・中部での最近のトンボ記録．KINOKUNI，（81）：1–4.
写真：山本哲央提供（県外産）

キイロヤマトンボ　*Macromia daimoji* Okumura, 1949　トンボ目　ヤマトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

全長 80 mm 程。コヤマトンボに似るが、体型はより細長く、オスの腹部第 3 節の黄斑は体側面において途切れる。平地から丘陵地にかけての河川中流域に生息し、幼虫は砂泥底に生息する。和歌山市、紀の川市（旧貴志川町）、紀美野町から記録されているが、生息地は局地的である。生息環境の開発による改変が減少の原因であると考えられるが、成虫・幼虫共にコヤマトンボと誤認されている可能性があり、今後の調査が期待される。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
2　松野茂富．2021．和歌山県立紀伊風土記の丘におけるキイロヤマトンボ *Macromia daimoji* Okumura, 1949 の記録．和歌山県立紀伊風土記の丘研究紀要，8：52–53.
3　南　敏行．2012．和歌山県北・中部での最近のトンボ記録．KINOKUNI，（81）：1–4.
4　蜻蛉研究会．1988．キイロヤマトンボについて－第 2 報・水域における♂の行動－．月刊むし，（207）：26–29.
写真：松野茂富撮影

オオキトンボ　*Sympetrum uniforme* (Selys, 1883)　トンボ目　トンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

全長 50 mm 程。翅を含む全身が黄褐色。平地の、抽水植物の繁茂した明るい池沼に生息し、特に定期的に池干しを行うため池を好む。和歌山市、海南市、紀の川市から記録されているが、近年は認められない。生息環境の開発や管理放棄による環境の悪化によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
写真：山本哲央提供（県外産）

タガメ　*Kirkaldyia deyrolli*（Vuillefroy, 1864）　カメムシ目　コオイムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

日本最大の水生半翅類であり、メスの体長は65 mm程になる。メスは木の杭や草本に産卵し、オスが孵化まで保護する。和歌山県において、かつては水田などで普通に見られたが、最近の情報は極めて少ない。これまでに湯浅町、田辺市、串本町、那智勝浦町、古座川町から記録されている。沼地や湿地、水田にて見られる種であるが、水辺環境の区画整備や、農薬散布、街灯の普及によって減少したと考えられ、絶滅が危惧される。



執筆者（松野茂富）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1981．人里の水生昆虫　タガメ．南紀生物，23（1）：15.
2　南　敏行．2015．和歌山県南部のタガメ標本について．KINOKUNI，（88）：7.
3　弓塲武夫．1987．水生昆虫２題－ハッチョウトンボとタガメ－．南紀生物．29（2）：132.

写真：松野茂富撮影（県外産）

ヒメタイコウチ　*Nepa hoffmanni* Esaki, 1925　カメムシ目　タイコウチ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	－

選定理由

タイコウチより小型であり、体型はより幅広く、呼吸管は非常に短い。後翅は退化傾向であり、飛翔しないと考えられる。現在は橋本市において確認されるが、生息環境が極めて脆弱である。やや鬱閉した湿地や、ため池の縁、水田の周辺で見られるが、これら生息環境の開発による改変や、耕作放棄による環境の遷移によって個体群は容易に消滅すると考えられる。



執筆者（松野茂富）

参考文献・情報

1　中尾史郎・松本　功・井上和彦．2011．奈良県と和歌山県における最近10年間のヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esakiの生息場所の減少要因．京都府立大学学術報告．生命環境学，63：25–28.

写真：松野茂富撮影

コバンムシ　*Ilyocoris cimicoides exclamationis*（Scott, 1874）　カメムシ目　コバンムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）

選定理由

体長10 mm程で、頭部と胸部は鮮やかな緑色。前脚は鎌状であり、これで水生昆虫等を捕食する。産地が局所的であり、和歌山県における近年の記録がまったくなく、絶滅が危惧される。水生植物が豊富なため池などの止水域に生息し、これまでに和歌山市から1例のみが知られる。開発による環境の改変や、環境の遷移によって減少したと考えられる。



執筆者（松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登・後藤　伸・的場　績・宮武頼夫・吉田元重．2012．コバンムシ．保全上重要な和歌山の自然　和歌山県レッドデータブック．120．和歌山県環境生部環境政策局環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：松野茂富撮影（県外産，和歌山県立自然博物館所蔵標本）

トゲナベブタムシ　*Aphelocheirus nawae* Nawa, 1905　カメムシ目　ナベブタムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

体長 10 mm 程で、ナベブタムシに似る。胸部及び腹部の側部が尖り、後方に曲がる。和歌山県において古い記録はあるものの、最近の記録がまったくなく、生息状況は不明である。河川中流域や、農業用水路の砂礫底に生息し、田辺市（旧中辺路町）から記録されている。開発による環境の改変や、農薬の使用による水質の悪化によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



参考文献・情報

1　安田稔．1980．富田川水系の大型底生動物．南紀生物，22 (2)：101–108.

写真：松野茂富撮影（県外産，和歌山県立自然博物館所蔵標本）

オオクチブトカメムシ　*Picromerus fuscoannulatus* Stal, 1858　カメムシ目　カメムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	−

選定理由

クチブトカメムシに似るが、やや大型。前胸側縁が鋭く突出する。

主として北海道～本州北部に分布し、和歌山県が南限になる。

和歌山県では高野山で記録されているが、1950 年代以降発見されていない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1985．和歌山県産異翅半翅類昆虫追補（Ⅰ）．南紀生物，27 (1)：31–34.
2　後藤　伸．2001．和歌山県産カメムシ類の再録及び追補 5．KINOKUNI，(60)：5–9.

写真：松野茂富提供（県外産，和歌山県立自然博物館所蔵標本）

オオウスバカゲロウ　*Heoclisis japonica* (Hagen, 1866)　アミメカゲロウ目　ウスバカゲロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

日本産ウスバカゲロウ科の最大種である。幼虫はすり鉢状の巣を作らず、砂の表層に潜伏する。和歌山県においては笠塔山から 1 例の記録があるのみ。幼虫は海浜植物の生える砂浜、河川の砂礫地に生息し、成虫もその周辺で見られる。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



参考文献・情報

1　後藤　伸．2001．昆虫相（笠塔山森林公園）〔昆虫確認目録〕．くろしお，(20)：59–64.

写真：吉富博之提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

ヨドシロヘリハンミョウ　*Callytron inspecularis*（W. Horn, 1904）　コウチュウ目　ハンミョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

河口汽水域の干潟に生息する種で、幼虫も海水が冠水する汽水域に生息している。和歌山県では白浜町日置川河口にのみ生息し、本州での東限及び南限になる。

生息地での生息数は少なくないが、産地が限られること、生息地の改変の危機が高いこと等により、常に絶滅の危機にさらされている。なお、2016 年に本種の生息地は県の天然記念物に指定されているが、マニアの密猟もあり、注意を要する。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2011．和歌山県産甲虫類分布資料 24．KINOKUNI，(79)：11–13.
2　吉田元重．2011．後藤伸氏採集による甲虫類．KINOKUNI，(80)：19–28.
写真：南　敏行提供

カワラゴミムシ　*Omophron aequalis* Morawitz, 1863　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	–



選定理由

半球状の体型を持った特異な昆虫で、河原の砂地に生息し、灯火にもよく飛来する。生息地は改変されやすい環境にあり、紀の川（かつらぎ町）と有田川町（旧清水町）二川ダムで記録されているが、20 年以上再発見されていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．1996．紀の川河原の甲虫類数種の記録．KINOKUNI，(49)：24–25.
写真：松野茂富提供（県外産，和歌山県立自然博物館所蔵標本）

シモヤマミズギワゴミムシ　*Bembidion shimoyamai* Habu, 1978　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	–



選定理由

本州北部と本県にのみ分布する稀少種。上翅は瑠璃色に輝き、脚が黄色。青森県では湿地上に突き出た倒木上を徘徊しているそうである。

和歌山県では、1971 年に日高川町（旧美山村）西ノ河原生林の砂防ダム上方河原に堆積した倒木上を徘徊していた個体が多数採集された。

その後 50 年間、再発見されていない。周辺の森林環境及び本種の生息環境は悪化しており、再発見の可能性も低くなっている。

西ノ河以外の生息地も発見されていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2000．八斗蒔峠産キアシルリミズギワゴミムシの訂正．KINOKUNI，(58)：38.
2　的場　績．2001．和歌山の甲虫 51　シモヤマミズギワゴミムシ．自然博物館だより，19 (3)：5.
写真：的場　績撮影

オオヒョウタンゴミムシ　*Scarites sulcatus* Oliver, 1795　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

ヒョウタンゴミムシの仲間では最大の種。大あごが発達し、一見クワガタムシを想像させる。本県では和歌山市、有田市、美浜町などに生息しているが、海浜の整備や宅地化の影響のために、生息地が破壊され、個体数が激減している。

現在、和歌山市の砂丘地に残された墓地や公園緑地等で少数が発見されるが、他では再発見されていない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1957．和歌山市内のオオヒョウタンゴミムシ．紀州昆虫，1：36–37.
2　栗山　寛・桑原幸男．1972．ゴミの下で採集した甲虫．KINOKUNI，(3)：7.
写真：的場　績撮影

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ　*Canthydrus politus* (Sharp, 1873)　コウチュウ目　コツブゲンゴロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

小型のゲンゴロウで、黄褐色地に暗褐色紋を有し、光沢のある綺麗な種である。全国的にも産地は局所的で、和歌山県では和歌山市友ヶ島の深蛇池に生息していたが、水質汚濁が著しくなり、1990 年以降発見されていない。また、深蛇池以外の生息地も未だ発見されていない。本県では限りなく絶滅に近い種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　森　正人・北山　昭．1993．図説日本のゲンゴロウ．218pp．文一総合出版，東京.
写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ゲンゴロウ　*Cybister japonicus* Sharp, 1873　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

かつては県内全域に分布していたが、近年急速に生息地が減少し、1990 年頃には田辺市本宮町皆地が県内における唯一の確実な生息地になってしまった。その後同地の生息地の改修工事があり、環境が激変し絶滅した。

かつらぎ町にも新たに生息地が発見されたが、ここも圃場整備のための大規模な改修工事があり、工事以降の生息が確認されていない。

現在、和歌山県内においては限りなく絶滅に近い状態である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　楠井善久．2008．和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫．KINOKUNI，(73)：1–4.
写真：有本　智提供（県外産）

コガタガムシ　*Hydrophilus bilineatus cashimirensis* Redtenbacher, 1892　コウチュウ目　ガムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

ガムシに次ぐ大型種で、後胸突起は長く、腹部に細毛を有す。

湯浅町で 1960 年に採集された記録があるが、1 個体の標本が残存するのみ。

湯浅町以外では記録されておらず、標本も見ない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　楠井善久．2008．和歌山県湯浅町において近年見られなくなった水生昆虫．KINOKUNI，(73)：1-4.

写真：松野茂富提供（県外産，和歌山県立自然博物館所蔵標本）

シリグロナカボソタマムシ　*Coraebus nigromaculatus* Y. Kurosawa, 1953　コウチュウ目　タマムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	－

選定理由

緑色を帯びた唐金色で、上翅後半に帯紋を持つ美麗種。中国と朝鮮に近似種がいることから、日本産は亜種として扱われていたが、現在では独立種として扱われている。

和歌山県では護摩壇山が唯一の産地であり、1951 年にミズナラ葉上で採集された 1 頭のみで、その後の記録はなく、絶滅が危惧されている。なお、この標本がタイプ標本に指定されており、護摩壇山が本種の模式産地である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　Kurosawa, Y. 1953. Synomymies and identification of genus *Coraebus* from eastern Asia, with description of several new forms (Coleoptera, Buprestidae). Bulletin of the National Science Museum, 33：96-109.
2　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅．

写真：有限技社 むし社提供（県外産，日本産タマムシ大図鑑より転載）

ヤマトオサムシダマシ　*Blaps japonensis* Marseul, 1879　コウチュウ目　ゴミムシダマシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

本州～九州に分布し、古い家屋の床下や納屋等で発見される。乾燥した藁屑などの植物遺骸を食べると思われる。

和歌山県では田辺市、御坊市、由良町、橋本市などで発見されているが、1977 年に橋本市で少数発見されたのを最後に発見例がない。

農業形態の変化により、農家の納屋に稲わらの蓄積がなくなったことなどが、本種の減少の一因と思われる。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　青柳昌宏．1961．和歌山県に産するゴミムシダマシ．紀州生物，1：16-25.
2　楠井善久．1991．ヤマトオサムシダマシの古い記録．南紀生物，33 (1)：36.

写真：松野茂富提供（県外産）

イッシキキモンカミキリ　*Glenea centroguttata* Fairmaire, 1897　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



真っ黒な上翅に、縦に並ぶ大きな三黄紋が特徴的な美麗種。体下面も黄色微毛で覆われる。幼虫はヌルデの枯れ木を食べ、成虫はクワの葉を食べる。

選定理由　和歌山県では、70 年前に生石山で採集された 1 個体のみの記録しかない。成虫が後食するクワの木は、桑畑が壊滅的な状態にあり、野生のクワも年々少なくなっており、再発見の可能性も年々低くなっている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1951．イッシキキモンカミキリ本州にも産する．紀州昆虫，3（2/3）：68.

写真：的場　績撮影（県外産）

ウラキンシジミ　*Ussuriana stygiana*（Butler, 1881）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



雌雄の斑紋はほとんど同じで、雌は雄に比べ翅形が幅広く、翅表の色彩がやや淡く、裏面の色彩は明るい。日本固有種で、食樹は、モクセイ科のトネリコ、アオダモ類。

選定理由　和歌山県では護摩壇山や果無山系周辺に分布するが、造林や林道建設等による自然林の減少、生息環境の破壊等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1994．1993~1994 年紀伊半島南部の蝶界雑録．くろしお，（13）：29–32.
2　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料Ⅰ蝶類．南紀生物，37（1）：34–40.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
4　斎藤基樹．2019．和歌山のゼフィルス雑記　最終回　思いつくままあれこれ．KINOKUNI，（95）：13–23.
5　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：大橋弘和提供

クロツバメシジミ　*Tongeia fischeri*（Eversmann, 1843）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



関東・中部地方から南に局地的に分布する。翅表の色彩は、雌雄とも黒褐色で、雌は翅形がわずかに丸みが強いくらいで、外観による雌雄の判別は難しい。食草は主にベンケイソウ科のツメレンゲ。

選定理由　和歌山県では、和歌山市から御坊市にかけて記録があるが、食草の生育できる瓦屋根のある人家の減少、つる性植物等、他の植物の繁茂による食草の生育環境の悪化等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。

多肉植物に依存した特異な種である。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　小島和也．2008．クロツバメシジミとベニシジミの異常型の記録．KINOKUNI，（73）：16.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.

参考文献・情報
3　諏訪隆司 . 1998. 蝶三題 . KINOKUNI,（53）: 21.
4　竹井　一 . 1999. 日本産蝶類の採集データ集 . SPINDA, 14 : 106–125.
5　鷲尾恭助 . 1990. 和歌山県御坊市のクロツバメシジミ . 蝶研フィールド, 5（7）: 21–26.
写真：大橋弘和提供

ウラギンスジヒョウモン　*Argyronome laodice* (Pallas, 1771)　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

北海道から九州まで各地に広く分布する。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。オオウラギンスジヒョウモンに似るが、本種の方が前翅端の突出が弱く丸みがあり、裏面の斑紋も若干の差異がみられる。食草は各種のスミレ属植物。

和歌山県では、かつて、山間部の草原に比較的普通に生息し、龍門山、生石高原～海南市鏡石山付近等に記録があるが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、減少が著しく、近年の記録がない等、絶滅が危惧される。

全国的に見ても普通種的な存在であったが、最近は減少している。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報
1　的場　績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI,（51）: 17–43.
2　吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI,（25）: 24–27.
3　吉村輔倫. 2005. 和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノート－有田地方を中心に－. KINOKUNI,（67）: 14–16.
写真：金岡晃司提供（県外産）

アオハダトンボ　*Calopteryx japonica* Selys, 1869　トンボ目　カワトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

全長 60 mm 程。ハグロトンボに似るが、オスの翅は藍色の金属光沢を帯び、メスの翅は偽縁斑を備える。河川中流域の抽水植物が豊富な場所に生息する。2014 年にかつらぎ町から記録されて以降、安定して確認されているが、他の生息地はこれまでに見つかっていない。成虫・幼虫ともに前述のハグロトンボと誤認されている可能性があり、新たな生息地の発見が期待される。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　南　敏行. 2015. 紀の川支流穴伏川系でアオハダトンボが生息. KINOKUNI,（88）: 3.
2　宮崎俊行. 2015. アオハダトンボを和歌山県で発見. Gracile,（75）: 1–3.
3　尾園　暁・川島逸郎・二橋　亮. 2013. ネイチャーガイド　日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京.
写真：松野茂富撮影（県外産）

ネアカヨシヤンマ　*Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883　トンボ目　ヤンマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

全長 85 mm 程。腹部は太く、くびれがない。平地や丘陵地の湿地や放棄水田等の浅い止水に生息する。和歌山市、海南市、串本町、古座川町、太地町、那智勝浦町から記録されているが、生息地は局所的である。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）



参考文献・情報

1　有本　智．2001．孟子トンボ谷　孟子不動谷トンボ観察ハンドブック．48pp．自然回復を試みる会 ビオトープ孟子，海南．
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について．KINOKUNI，(76)：1–8.
4　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について（2）．KINOKUNI，(78)：1–7.

写真：松野茂富撮影

キイロサナエ　*Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)　トンボ目　サナエトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

全長 70 mm 程。ヤマサナエに似るが、雌雄ともに腹部末端の付属物で区別できる。河川中流域から下流域にかけての流れの緩やかな砂泥底に生息する。海南市、紀の川市（旧桃山町・旧粉河町）、串本町、御坊市、太地町、田辺市、日高川町（旧川辺町）、由良町から記録されているが、稀な種である。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）



参考文献・情報

1　南　敏行．2013．和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅱの追加種 新宮市浮島（浮島の森）．KINOKUNI，(83)：1–2.
2　南　敏行．2014．和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅴ太地町（河立）．KINOKUNI，(85)：1–8.

写真：金岡晃司提供（県外産）

アカエゾゼミ　*Tibicen flammatus* (Distant, 1892)　カメムシ目　セミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－

選定理由

エゾゼミに似るが、前胸背が赤褐色を呈する。ブナ林を中心とした山地帯に生息する。

和歌山県では護摩壇山から日高川町八斗蒔周辺に生息するが、鳴き声は年々少なくなっているように思われる。

和歌山県の産地は南限分布地に該当する。減少の理由は不明。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1998．1996 年以降のセミ類観察・採集記録．KINOKUNI，(53)：9.
2　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．［照葉樹林にすむ昆虫たち］．256pp．紀伊民報，田辺.

参考文献・情報　3　吉田元重・後藤　伸．1967．西ノ河原生林に見られた注目すべき昆虫類．南紀生物，9（1）：27.
写真：的場　績撮影

テングオオヨコバイ　*Tengirhinus tengu* Ishihara, 1953　カメムシ目　カンムリヨコバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－



選定理由　襲速紀要素の昆虫として知られており、産地は極めて局所的である。
生態はよく分かっていないが、オタカラコウに依存している。
静岡県以西に分布し、和歌山県では葛城山、三国山、護摩壇山、果無山脈、新宮市田長谷で記録されている。
オタカラコウの生育するような湿潤な環境は少なくなり、このような環境は、造林やワサビ畑等に改変されやすく、不安定である。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報　1　後藤　伸．1984．テングオオヨコバイについて．南紀生物，29（1）：58-60.
写真：的場　績撮影

エサキアメンボ　*Limnoporus esakii* (Miyamoto, 1958)　カメムシ目　アメンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由　体長 10 mm 程で、体側部は白銀色を帯び、生体ではこれがよく目立つ。和歌山県では紀の川流域と、和歌山市北部から記録がある。河川のワンドや植物が豊富な池沼で見られ、上空が鬱閉した水面を好む。しばしば集団で発見されるが、日光が直接当たる明るい水面ではほとんど見られない。開発による環境の改変や、環境の遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）

参考文献・情報　1　乾風　登・後藤　伸・吉田元重．1983．友ヶ島の昆虫綱目録　友ヶ島学術調査．259．296pp．関西自然保護機構，和歌山.
2　中尾史郎・江種伸之．2007．エサキアメンボ *Limnoporus esakii* のメタ個体群構造．環境情報科学論文集，21：99-104.
写真：的場　績提供

オオコオイムシ　*Appasus major* (Esaki, 1934)　カメムシ目　コオイムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－



選定理由　コオイムシに似るが、前胸背板中央の窪みはより深く、前脚腿節はより太い。産地がやや局所的な種であり、和歌山県における安定した産地は少なく、田辺市（旧本宮町）と高野町から記録がある。水草の豊富な池沼、湿地に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移、農薬の使用によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）

参考文献・情報　1　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．［照葉樹林にすむ昆虫たち］．256pp．紀伊民報，田辺.
写真：松野茂富撮影（県外産）

ミヤケミズムシ　*Xenocorixa vittipennis* (Horváth, 1879)　カメムシ目　ミズムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

最大で 10 mm 程であり、頭部の複眼間は黄色味が強い種である。かつては和歌山県において普通に見られたようであるが、現在では激減しており、和歌山市からのみ記録されている。水生植物が豊富な池沼に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



参考文献・情報

1　乾風　登・後藤　伸・吉田元重．1983．友ヶ島の昆虫綱目録　友ヶ島学術調査．260．296pp．関西自然保護機構，和歌山．

写真：松野茂富撮影（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ハリサシガメ　*Acanthaspis cincticrus* Stål, 1859　カメムシ目　サシガメ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

中型のカメムシ類。捕食性で前脚は鎌状を呈する。地表を歩行しアリ類を捕食するという特異な習性を持つ。

和歌山県では龍門山山麓で発見された記録があるのみで、現在では農地に改変されており、農薬の影響もあり、絶滅が危惧される。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1988．和歌山県産異翅半翅類追補Ⅱ Reduviidae　サシガメ科．南紀生物，30（1）：36–44.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ナカボシカメムシ　*Menida musiva* (Jakovlev, 1876)　カメムシ目　カメムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	–

選定理由

体は淡褐色、前胸背と小楯板に小黒斑を有するのが特徴。

照葉樹林からブナ帯まで分布し、ブナ科植物で生活している。北海道～九州まで広く分布するが、個体数は少ないようである。和歌山県では、橋本市三石山、護摩壇山、大塔山系から知られているが、近年は殆ど発見されていないようである。特に三石山では絶滅したと考えられている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1967．紀州の異翅半翅目昆虫 IV．南紀生物，9（2）：56–61.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ツノアカツノカメムシ　*Acanthosoma haemorrhoidale angulatum* Jakovlev, 1881　カメムシ目　ツノカメムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

革質部と膜質部の赤斑はミヤマツノカメムシに似るが、前胸背の側角は強く張り出し赤い。幼虫はナナカマドの実に寄生する。

全国的にも稀少種であるが、和歌山県では護摩壇山の標高 1000 m 以上の山頂付近のみから知られている。

1990 年以降の採集記録がない。

護摩壇山が本州における南限分布地の一つである。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1967．紀州の異翅半翅目昆虫 IV．南紀生物，9 (2)：56–61.
2　後藤　伸．1983．護摩壇山のツノカメムシ類．南紀生物，25 (2)：219–220.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

セアカオサムシ　*Carabus tuberculosus* (Dejean & Boisduval, 1829)　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

日本全土に分布する草原性のオサムシで、和歌山県では生石山、龍門山、紀の川河川敷で発見されている。ミミズや昆虫の幼虫を求め徘徊するようで、かつては、生石山自動車道の側溝に落下した個体を発見することが多かったが、近年は全く発見出来なくなった。しかし、ススキ草原には少ないながらも生息しているようである。

龍門山や紀の川河原では、近年の発見例は全くない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．1994．和歌山の甲虫 30　セアカオサムシ．和歌山県立自然博物館だより，12 (1)：3.
2　梅本　実．1973．和歌山県のオサムシ覚え書き．KINOKUNI，(22)：3–4.

写真：梅本　実提供

ウミホソチビゴミムシ　*Pelileptus morimotoi* S. Ueno, 1955　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

汽水域に生息する小型のゴミムシで、近似のホソチビゴミムシと混棲することが多いが、本種の方が色彩が濃く、扁平で、複眼の突出が弱いことにより区別できる。

和歌山県では白浜町富田川河口、那智勝浦町太田川河口で発見されているが、常に河川改修などの脅威にさらされており、存続が危ぶまれている。

河川汽水域の砂礫中に潜っているので、各河川の河口でも発見される可能性がある。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　田中昭太郎．1984．和歌山県とその周辺の歩行虫．KINOKUNI，(26)：18–20.
2　田中昭太郎．1993．紀伊半島のチビゴミムシ－特にキイメクラチビゴミムシ属の分布について－．くろしお，(12)：12–15.

写真：松野茂富提供（県外産）

ダイミョウアトキリゴミムシ　*Cymindis daimio* Bates, 1873　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

上翅が赤褐色で、中央後半から翅端にかけてU字型の青藍色紋を有する顕著な種類。通常は河原のヨシ原に生息する。

和歌山県では紀の川の小豆島に多産地があったが、紀の川大堰に伴う河川改修工事のため、生息地が破壊されてしまった。他にはかつらぎ町にかけて紀の川流域に小規模な生息地があるが、常に河川改修の脅威にさらされている。

2012年に生石山自動車道の側溝に落下している本種1個体が発見され、生石山ススキ草原にも生息していることが判明した。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．1996．紀の川河原の甲虫類の記録．KINOKUNI,（49）：24–25.
2　平松広吉．2001．ダイミョウアトキリゴミムシを伊都郡で採集．KINOKUNI,（60）：15.
3　的場　績．2012．和歌山県産甲虫類分布資料27．KINOKUNI,（82）：22–23.

写真：的場　績撮影

ヨツボシヒラタシデムシ　*Dendroxena sexcarinata* Motschulsky, 1862　コウチュウ目　シデムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本邦産シデムシ科の中では色彩的に最も綺麗な種で、樹上生活をし、鱗翅目の幼虫を捕食する。

和歌山県では、護摩壇山で2頭採集された記録と城ヶ森山で1頭採集された記録があるのみ。この2産地は昆虫愛好家が数多く訪れ、調査されているが、本種の発見はこれ以外にはなされていない。

和歌山県内では、かなり稀少な種であり、種の存続基盤は脆弱である。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2020．ヨツボシヒラタシデムシを城が森山で採集．KINOKUNI,（97）：25.
2　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：的場　績撮影

ミヤマツヤハダクワガタ　*Ceruchus lignarius monticola* Nakane, 1978　コウチュウ目　クワガタムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

ツヤハダクワガタの本州中部亜種。本州の関東以西の山地に分布する。本県では近年になって分布が確認された。

護摩壇山のごく限られた範囲で、多湿な赤色腐朽した倒木内に生息するが、乾燥化が進んだ護摩壇山ではこのような良好な腐朽倒木が少なくなっているので、本種の存続が厳しい状況にある。

護摩壇山が本種の分布南限にあたる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　小島和也．2021．ミヤマツヤハダクワガタの記録．KINOKUNI,（100）：26.
2　的場　績．2022．ミヤマツヤハダクワガタの生息調査．KINOKUNI,（101）：26.

写真：的場　績撮影

ルイスツノヒョウタンクワガタ　*Nigidius lewisi* Boilau, 1905　コウチュウ目　クワガタムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

小型のクワガタムシで、タブやシイなどの朽ち木内で生活する。南西諸島から紀伊半島にかけて分布し、和歌山県が北限の生息地である。

那智勝浦町の限られた場所にのみ生息し、生息範囲も狭小である。

収集家の乱獲に遭うと絶滅しかねない。早急な保護策が必要である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1987．ルイスツノヒョウタンクワガタ県下に産す．KINOKUNI，(31)：14.
2　的場　績．1997．和歌山の甲虫 44　ルイスツノヒョウタンクワガタ．和歌山県立自然博物館だより，15 (3)：3.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ヒメオオクワガタ　*Nipponodorcus montivagus montivagus* (Lewis, 1883)　コウチュウ目　クワガタムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

ブナ帯に生息する大型のクワガタムシで、成虫はヤナギの枝を傷つけ、樹液をなめる。幼虫は林内の多湿な朽ち木に生息する。

30 年ほど前までは、護摩壇山で少なからず見られたが、近年殆ど姿を見なくなった。

和歌山県では、主に護摩壇山で確認されており、城ヶ森山や果無山脈でも発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　梅本　実．1972．ヒメオオクワガタの採集例．KINOKUNI，(4)：5.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ミヤマダイコクコガネ　*Copris pecuarius* Lewis, 1884　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

大型の食糞性コガネムシで、幼虫は大型哺乳類の糞を食している。

成虫は灯火にも飛来し、和歌山県における採集記録は、全て灯火に飛来した個体である。紀伊半島では中部山地帯にわずかに生息するが、本県では護摩壇山系で採集された 2 個体のみである。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1989．和歌山県における糞虫数種．KINOKUNI，(35)：28.
2　的場　績．2000．和歌山県産甲虫類分布資料 7．KINOKUNI，(58)：17-18.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

キンスジコガネ　*Mimela holosericea* (Fabricius, 1789)　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	−



選定理由

中型のコガネムシで、体表面が皺状に印刻され、緑色金属光沢を帯びる美麗種。生態はよく分かっていないが、灯火に飛来することが多く、県内での採集記録は全て灯火採集によるものである。

和歌山県では高野山、護摩壇山、果無山脈、大塔山系等で採集されているが、護摩壇山山系以外の正式な記録はない。護摩壇山山系でも数頭の記録しかない。2022 年 8 月には城ヶ森山でも 1 個体が発見されている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　井賀　哲．2019．最近の採集記録より．KINOKUNI，(96)：30–31.
2　松林　寛．2022．私信.
3　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：的場　績撮影

トラハナムグリ　*Trichius japonicus* Janson, 1885　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

山地性のハナムグリで、高野山や護摩壇山等の 1000 m 級の山地で 1950 年代は見られたが、自然林伐採後は急速に個体数が減少し、現在では全く見られない。和歌山県南部の大塔山周辺や熊野川流域では現在でもわずかに見られる。

ノリウツギやリョウブの花に飛来するが、熊野川流域ではヒメジョオンの花に飛来する。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．1981．トラハナムグリを採集する．KINOKUNI，(19)：11.
2　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

アヤムネスジタマムシ　*Chrysodema lewisi* E. Saunders, 1873　コウチュウ目　タマムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	−



選定理由

南方系のタマムシで、和歌山県では串本町から和歌山市にかけての沿岸域のウバメガシ林で発見されていたが、40 年近く発見されていなかった。

2010 年頃から、串本町やすさみ町、和歌山市等で、少ないながらも再発見されるようになっている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　井賀　哲．2019．最近の採集記録より．KINOKUNI，(96)：30–31.
2　児玉　洋．2019．アヤムネスジタマムシの採集記録．KINOKUNI，(96)：25.
3　吉田元重．1952．和歌山県に於ける吉丁虫について（2）．南紀生物，4 (1/2)：43–46.

写真：松野茂富提供（県外産，和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ミヤマナカボソタマムシ　*Coroebus montanus* Miwa & Chûjô, 1940　コウチュウ目　タマムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

本州中部以西に分布する中型のタマムシで、和歌山県では高野山と護摩壇山で採集され、ブナ・ミズナラ帯に生息するものと思われていたが、近年、白浜町将軍川林道でも採集されているので、標高に関係なく、食樹の分布に影響されることが分かった。食樹はサワフタギとタンナサワフタギである。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．2014．高野山でミヤマナカボソタマムシを採集．KINOKUNI，(86)：15.
2　的場　績．2019．和歌山県産甲虫類分布資料 36．KINOKUNI，(96)：35–36.
3　梅本　実．1983．護摩壇山の甲虫類 7 種．KINOKUNI，(24)：13.
写真：中村　進提供（県外産）

ヨツコブサビコメツキ　*Lacon quadrinodatus* Lewis, 1894　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−



選定理由

中型のコメツキムシで、前胸背に瘤状突起を有する。全国的にも非常に稀少種で、本県では 50 年以上も前に、護摩壇山の日光神社近くで採集された 1 個体の記録しかない。現在では日光神社周辺はスギ林になっており、本種の再発見は期待できない。

護摩壇山山頂周辺のブナ林に生息している可能性はあるが、これまでの調査では再発見できていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績・平松広吉．1973．和歌山県産コメツキムシ科目録Ⅰ．南紀生物，15 (2)：45–48.
写真：平松広吉提供

クニミシモフリコメツキ　*Actenicerus kunimi* (Kishii, 1966)　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

大型のシモフリコメツキで、緑色金属光沢の翅鞘が特徴的。

全国的な稀少種あり、本県では生石山山麓で約 50 年前に 3 頭が採集されただけで、その後、全く再発見されていない。雑木林の減少が関係しているのではないかと思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　岸井　尚．1980．日本産シモフリコメツキ属の研究（2）．Bulletin of the Heian high school，(24)：59.
2　的場　績・平松広吉．1974．和歌山県産コメツキムシ科目録Ⅱ．南紀生物，16 (1)：18–22.
写真：岸井（1980）典拠（県外産）

ヒゲブトハナカミキリ　*Pachypidonia bodemeyeri* (Pic, 1934)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

北海道から九州まで広く分布するが、既知産地は少なく、全国的な稀少種である。幼虫は各種広葉樹の樹洞内の腐朽部を食し、成虫はその周辺を徘徊しているところを発見されることが多い。

和歌山県では護摩壇山、高野山、果無山脈等で少数が発見されているのみ。近年では、城ヶ森山でも発見されている。

森林の乾燥化に伴い、本種の発生に適した樹洞が少なくなっている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　井賀　哲．2014．ヒゲブトハナカミキリを城ヶ森山で採集．KINOKUNI，(86)：18.
2　奈良　一．1988．新和歌山県産天牛虫科目録（Ⅰ）．南紀生物，30 (2)：98–107.
写真：的場　績撮影

タケウチホソハナカミキリ　*Strangalia takeuchii* Matsushita & Tamanuki, 1935　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

コウヤホソハナカミキリに似ているが、前胸背の２本の黒縦線が特徴。７月から８月にノリウツギやリョウブ等の花に集まる。

1980 年代までは稀ながらも見られたが、1990 年以降は殆ど見られなくなった。和歌山県では護摩壇山や高野山等で見られたが、近年の採集記録はない。

なお、2019 年以降に白浜町将軍川や日高川町八斗蒔で発見されている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　井賀　哲．2019．最近の採集記録より．KINOKUNI，(96)：30–31.
2　小島和也．2019．タケウチホソハナカミキリを白浜町将軍川林道で採集．KINOKUNI，(96)：19.
3　奈良　一．1988．新和歌山県産天牛虫科目録（Ⅰ）．南紀生物，30 (2)：98–107.
写真：的場　績撮影

クロソンホソハナカミキリ　*Mimostrangalia kurosonensis* (Ohbayashi, 1936)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

本州～奄美大島までの各地に分布するが局地的であり、本州での生息地は本県と山口県のみである。成虫は夏期に出現し、ノリウツギやリョウブ等、白い花に集まる。幼虫はハイノキの枯れ木を食べる。

和歌山県では、将軍川林道周辺で少数が発見されていたが、近年すさみ町でも発見されている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　児玉　洋．2019．クロソンホソハナカミキリをすさみ町で採集．KINOKUNI，(96)：22.
2　杉原龍也．1981．和歌山県産カミキリムシ２種の記録．KINOKUNI，(20)：37.
写真：的場　績撮影

カエデノヘリグロハナカミキリ　*Eustrangalis distenioides* Bates, 1884　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

北海道～九州までの温帯林に生息する。成虫は春に出現し、カエデ等の花に集まるが極めて少ない。和歌山県では、これまで護摩壇山のブナ帯でのみ少数が発見されていたが、近年になり、日高川町城ヶ森山でも発見され、ハリギリの枯死部に産卵に飛来するのが確認されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　井賀　哲．2019．最近の採集記録より．KINOKUNI,（96）：30–31.
2　奈良　一．1977．和歌山県の天牛雑録（その 7）．KINOKUNI,（13）：1–3.

写真：的場　績撮影

クロサワヒメコバネカミキリ　*Epania septemtrionalis* Hayashi, 1950　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

成虫は夏期に出現し、クリやリョウブの花に飛来するが少ない。寄主植物はミズキと言われていたが、近年、関東地方でクリの枯れ枝に集まることが分かり、各地で発見されだした。

和歌山県では、高野山、護摩壇山、日高川町八斗蒔で各 1 頭採集されているのみで、近年の発見例はないが、クリの枯れ枝を丹念に探せば、各地のブナ・ミズナラ帯で発見できるかも知れない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　三木三徳．1991．クロサワヒメコバネカミキリの採集例．月刊むし，（250）：24.
2　奈良　一．1979．和歌山県の天牛雑録（その 9）．KINOKUNI,（20）：11–15.
3　奈良　一．1988．新和歌山県産天牛虫科目録（Ⅰ）．南紀生物，30（2）：98–107.

写真：的場　績撮影（県外産）

ニッポンモモブトコバネカミキリ　*Merionoedia formosanus septentrionalis* Tamu & Tsukamoto, 1952　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

雌雄で体色が異なる。上翅が短く、後腿節末端が強く膨らむ。成虫はリョウブやノリウツギなどの花に飛来し、幼虫はクスノキ科の枯れ木につく。

南方系の種で、県南部で少数が発見されていたが、1979 年以降全く発見されない時期があった。2013 年に将軍川のリョウブ花上で、2014 年に中辺路町水上のカゴノキの朽ち木から発生した個体が各 1 頭採集されている。

和歌山県では、田辺市（旧中辺路町、旧大塔村、旧本宮町、笠塔山、護摩壇山）で発見されるが、いずれも少数である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　小島和也．2014．ニッポンモモブトコバネカミキリがカゴノキから羽脱．KINOKUNI,（86）：13.
2　奈良　一．1988．新和歌山県産天牛虫科目録（I）．南紀生物，30（2）：98–107.

参考文献・情報　3　仁坂吉伸．2013．将軍川林道でニッポンモモブトコバネカミキリ．KINOKUNI，(83)：35.
写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

クロホソコバネカミキリ　*Necydalis harmandi* Pic, 1901　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

体色は通常黒色だが、変異が大きい。成虫は 7 月頃に現れ、ブナ科、カバノキ科の立ち枯れに飛来する。

和歌山県では護摩壇山で、1957 年と 1971 年に各 1 頭採集されていたのみであったが、2000 年頃にも 1 頭採集されている。2019 年に日高川町城ヶ森山でも灯火に飛来した 1 雄個体が採集されている。

新たな生息域が発見されたが、ブナ林の減少と共に、本種の残存は難しくなっている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報　1　的場　績．2019．和歌山県産甲虫類分布資料 36．KINOKUNI，(96)：35–36.
2　奈良　一．1988．新和歌山県産天牛虫科目録（Ⅰ）．南紀生物，30 (2)：98–107.
写真：的場　績撮影

エゾトラカミキリ　*Oligoenoplus rosti rosti* (Pic, 1911)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

初夏にカエデやミズキの花に飛来する。全国的な稀少種で、絶滅危惧種に選定している県も多い。上翅は灰色微毛に 3 本の黒色帯紋がある。

和歌山県では、1980 年代に有田川町白口峰周辺で採集されていたが、その後長い間再発見されずにいたが、2019 年に護摩壇山で 2 頭発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報　1　井賀　哲．2019．最近の採集記録より．KINOKUNI，(96)：30–31.
2　奈良　一．1988．新和歌山県産天牛虫科目録（Ⅰ）．南紀生物，30 (2)：98–107.
写真：的場　績撮影（県外産）

トラフカミキリ本土亜種　*Xylotrechus chinensis kurosawai* Fujita, 2010　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	−

選定理由

大型のカミキリムシで、スズメバチに擬態していると言われている。日本全国に分布し、クワの木を加害する。

昔は県内各地に分布していたように思われるが、養蚕業の衰退と共に、クワの木も少なくなり、特に幹の太い古木がなくなったことにより、本種も少なくなった。1981 年に紀美野町で採集されたのを最後に、その後の採集記録がなくなったが、近年再び少数ながら発見され始めている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報　1　井賀　哲．2019．最近の採集記録より．KINOKUNI，(96)：30–31.
2　的場　績．1984．和歌山県立自然博物館収蔵のカミキリムシ数種．KINOKUNI，(25)：29.
写真：松野茂富提供（県外産）

オオトラカミキリ　*Xylotrechus villioni* (Villard, 1892)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－

選定理由

トラカミキリの仲間では日本最大の種で、幼虫はモミやツガの生幹を食害し、特徴的な食痕を付けるので、本種の加害木は一見して分かる。

全国的な珍種で、発見例も少ない。和歌山県においても、これまでに2頭採集されているだけであるが、山地帯に広く分布しているものと思われる。しかし、モミ・ツガの伐採が進み、本種が食害する大木が少なくなっているので、本種の減少が見られる。

和歌山県では田辺市の龍神村と中辺路町で記録されているが、護摩壇山系や、果無山脈、新宮市（旧熊野川町）でも加害木が確認されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1998．オオトラカミキリの生息確認．くろしお，(17)：47.
2　岩田隆太郎・加藤敦史．1994．紀伊半島に於けるオオトラカミキリによる針葉樹の食害痕の発見．森林防疫，43 (5)：10–11.
3　奈良　一．1993．オオトラカミキリ和歌山県初記録．KINOKUNI，(43)：22.

写真：松野茂富提供（県外産，和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ヨツボシカミキリ　*Stenygrinum quadrinotatum* Bates, 1873　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）

選定理由

体長は 1 cm 程で、飴色の体に黄白色の円紋が 4 個ある。かつては和歌山県内全域の耕地や里山周辺で普通に見られ、灯火にもよく飛来したが、次第に数を減らし、近年では殆ど見られなくなった。

幼虫は各種広葉樹の乾燥した枯れ木を好むらしく、農家の軒に積んだ薪に多く見られた。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　奈良　一．1977．和歌山県の天牛雑録（その 8）．KINOKUNI，(14)：1–3.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

オオシロオビゾウムシ　*Cryptoderma fortunei* (Waterhouse, 1853)　コウチュウ目　オサゾウムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

大型のゾウムシで、薄茶色の体に白線状紋を有する。

和歌山県における採集記録は、約 90 年前に和歌山市墓ノ谷で採集された記録があるが、その後、全く再発見されていない。

30 年後の 1967 年に生石山で発見されているが、これもその後、約 50 年間、再発見されていない。しかも生石山では、近年の 20 年近く再調査しているが、発見には至っていない。

成虫は、ワラビを後食することが知られている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．2018．吉田元重コレクションのゾウムシ標本．KINOKUNI，(93)：17–41.
2　大野正男．1976．オオシロオビゾウムシ．昆虫と自然，11 (11)：15–18.

写真：的場　績撮影

ウマノオバチ　*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre, 1898　ハチ目　コマユバチ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

体長 20 mm 程。体色は明るい朱色を基調とする。メスの産卵管は極めて長く、個体によっては体長の９倍に達する。丘陵地の二次林から春季に得られており、和歌山市、海南市、田辺市、橋本市から記録されている。かつては極めて稀な種であったが、近年は相次いで記録されており、今後の知見の蓄積が期待される。

執筆者（松野茂富）



参考文献・情報

1　児玉　洋．2021．ウマノオバチを橋本市で採集．KINOKUNI，(99)：17–18.
2　松野茂富．2013．和歌山県海南市におけるウマノオバチ *Euurobracon yokohamae* Dalla Torre, 1898 の記録．和歌山県立自然博物館館報，31：39–40.
3　松野茂富．2016．和歌山県田辺市におけるウマノオバチ *Euurobracon yokohamae* Dalla Torre, 1898 の記録．和歌山県立自然博物館館報，34：51–52.
4　松野茂富．2021．衝撃！ウマノオバチ．自然博物館だより，39 (3)：6.

写真：松野茂富撮影

フジミドリシジミ　*Sibataniozephyrus fujisanus* (Matsumura, 1910)　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

日本固有種で北海道から九州まで広く分布するが個体数は少ない。裏面の斑紋は雌雄大差ないが、雄の翅表は金属光沢のある青色、雌は暗褐色。食樹はブナ科のブナ、イヌブナ。

和歌山県では、護摩壇山及びその周辺、果無山系等の山間部に分布し、最近、大塔山系でも確認されたが、落葉広葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。本州での南限分布地の一つ。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料Ⅰ蝶類．南紀生物，37 (1)：34–40.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
3　斎藤基樹．2019．和歌山のゼフィルス雑記　最終回　思いつくままあれこれ．KINOKUNI，(95)：13–23.
4　竹井　一．1999．日本産蝶類の採集データ集．SPINDA，14：106–125.
5　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
6　吉村輔倫．2005．護摩壇山で採集したミドリシジミ類．KINOKUNI，(67)：23.

写真：大橋弘和提供

オオウラギンスジヒョウモン　*Argyronome ruslana* (Motschulsky, 1866)　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

北海道から九州まで各地に広く分布するが、寒冷地に多く、暖地では少なく山地性となる。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。食草は各種のスミレ属植物。

和歌山県では、かつては山間部の草原に比較的普通に生息し、近年は高野山周辺、護摩壇山周辺、それを結ぶ高野龍神スカイライン周辺を中心に確認されているが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカなどの食害による食草の減少等により、減少が著しく絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報
1　小島和也．2004．高野龍神スカイラインでミドリヒョウモン暗色型を採集．KINOKUNI，(65)：8.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
3　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
4　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
5　吉村輔倫．1984．有田地方のチョウの記録．KINOKUNI，(25)：24–27.
6　吉村輔倫．2005．和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノートー有田地方を中心にー．KINOKUNI，(67)：14–16.
写真：大橋弘和提供

オオハサミコムシ　*Occasjapyx beneserratus* (Kuwayama,1927)　コムシ目　ハサミコムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

関東以西から九州にかけて分布する。体長 15~20 mm もある日本最大の種で、落葉中に棲み、小動物を捕食する。一見、ハサミムシのような形態をした原始的な昆虫。

和歌山県では紀南地方の海岸林に生息すると思われていたが、近年、より内陸部まで分布していることが判明した。

魚付林として保存されていた、腐葉土の多い湿った海岸林に本種が多く生息していたが、備長炭の用材としてウバメガシ林が伐採され、生息可能な森林が減少している。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報
1　浜際康太．2018．和歌山県南部のオオハサミコムシの記録．KINOKUNI，(94)：11.
写真：松野茂富提供

オツネントンボ　*Sympecma paedisca* (Brauer, 1877)　トンボ目　オツネントンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

全長 40 mm 程。雌雄ともに全身が褐色を基調としている。成虫で越冬する。平地から丘陵地の、抽水植物が多い池沼や湿地に生息する。和歌山市、海南市、串本町、紀の川市（旧貴志川町・旧打田町）、白浜町、田辺市（旧本宮町）、由良町から記録されているが、近年は和歌山県北部のみで確認される。開発による生息環境の改変や、管理放棄による遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　山本哲央（編）．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
写真：松野茂富撮影

ニホンカワトンボ　*Mnais costalis* Selys, 1869　トンボ目　カワトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

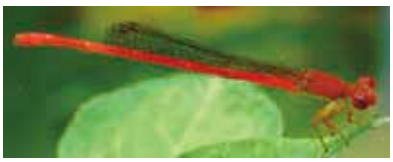
全長 65 mm 前後。アサヒナカワトンボに似るが、オスの前翅前縁に不透明斑が認められる。山地から平地の、樹林に囲まれた抽水植物の多い清流に生息する。海南市、橋本市、紀の川市（旧貴志川町）、九度山町、高野町から記録されており、紀美野町でも確認されるが、近年確認される生息地は少ない。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報　1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
写真：松野茂富撮影

ベニイトトンボ　*Ceriagrion nipponicum* Asahina, 1967　トンボ目　イトトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



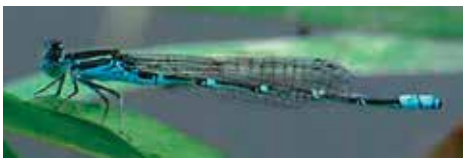
選定理由　全長 40 mm 前後。体色は雌雄ともに赤色を帯び、特にオスは顕著である。平地から丘陵地の抽水植物の多いため池で見られる。和歌山市、海南市、紀の川市（旧貴志川町・旧粉河町）から記録されているが、生息地は局所的である。開発による生息環境の改変や、管理放棄による遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報　1　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本．KINOKUNI，(49)：15-19.
2　南　敏行．2012．和歌山県北・中部での最近のトンボ記録．KINOKUNI，(81)：1-4.
写真：南　敏行撮影

セスジイトトンボ　*Paracercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865)　トンボ目　イトトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由　全長 35 mm 程。眼後紋は三角形状。平地から丘陵地の池沼や用水に生息する。和歌山市、有田川町（旧金屋町）、海南市、紀の川市（旧貴志川町）、九度山町、高野町、新宮市、田辺市（旧本宮町）、日高川町（旧川辺町）から記録されているが、多くの市町村で近年の記録がない。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報　1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　南　敏行．2011．和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅱ新宮市浮島（浮島の森）．KINOKUNI，(79)：1-5.
3　尾園　暁・川島逸郎・二橋　亮．2013．ネイチャーガイド　日本のトンボ．531pp．文一総合出版，東京．
写真：南　敏行撮影

オオイトトンボ　*Paracercion sieboldii* (Selys, 1876)　トンボ目　イトトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



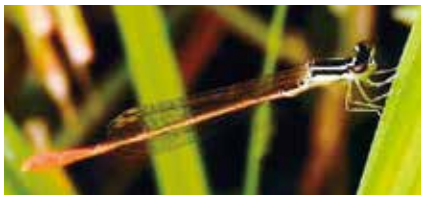
選定理由　全長 40 mm 程。眼後紋は大きく、後頭状を備える。平地から丘陵地の抽水植物の多い池沼や湿地、放棄水田で見られる。和歌山市、有田川町（旧金屋町）、海南市、紀の川市（旧貴志川町）、串本町、九度山町、高野町、古座川町、新宮市、太地町、田辺市（旧本宮町）、那智勝浦町、日高川町（旧川辺町）から記録されているが、減少している生息地が多い。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報　1　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ類標本．KINOKUNI，(49)：11-19.
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について．KINOKUNI，(76)：1-8.
4　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について(2)．KINOKUNI，(78)：1-7.
写真：南　敏行撮影

モートンイトトンボ　*Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)　トンボ目　イトトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

全長 30 mm 程。眼後紋は三日月状であり、成熟した雌雄の胸部は明緑色。平地から丘陵地の湿地や休耕田に生息する。和歌山市、串本町、高野町、古座川町、御坊市、白浜町、新宮市、田辺市（旧本宮町・旧中辺路町）、那智勝浦町、橋本市から記録されているが、近年の記録は和歌山県南部に限られる。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について．KINOKUNI，(76)：1–8.

写真：南　敏行撮影

オオルリボシヤンマ　*Aeshna crenata* Hagen, 1856　トンボ目　ヤンマ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	–



選定理由

全長 90 mm 前後。山地の抽水植物や浮葉植物の多い池沼で見られる。後胸気門の前方にある帯状の斑紋は、前翅基部でほぼ直角に曲がり、後方へ伸びる。和歌山市、有田川町（旧金屋町）、海南市、紀の川市、紀美野町（旧野上町）、高野町から記録されているが、生息地は局地的である。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　南　敏行．2012．和歌山県北・中部での最近のトンボ記録．KINOKUNI，(81)：1–4.

写真：松野茂富撮影

アオサナエ　*Nihonogomphus viridis* Oguma, 1926　トンボ目　サナエトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	–



選定理由

全長 60 mm 前後。雌雄ともに体側面の斑紋は緑黄色。幼虫は山地から丘陵地の河川砂底に生息する。紀美野町（旧美里町）、九度山町、新宮市、すさみ町、みなべ町（旧南部川村）から記録されているが、近年は紀美野町でのみ確認されている。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　南　敏行．1993．高田中学校の生物（4）トンボ類．みくまの，9：10–22.

写真：金岡晃司提供

オグマサナエ　*Trigomphus ogumai* Asahina, 1949　トンボ目　サナエトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

全長 50 mm 程。雌雄ともに胸部側面に黒条を 1 本備える。平地から丘陵地の、周囲に樹林のあるため池や湿地に生息する。和歌山市、岩出市、海南市、紀の川市（旧打田町・旧貴志川町）、橋本市から記録されているが、和歌山県北部に限られる。生息環境の開発による改変や、外来生物の捕食圧によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．

写真：松野茂富撮影

フタスジサナエ　*Trigomphus interruptus* (Selys, 1854)　トンボ目　サナエトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

全長 50 mm 程。胸部側面の黒条を 2 本備える個体が多い。平地から丘陵地の周囲に樹林のあるため池や湿地に生息する。和歌山市、岩出市、かつらぎ町、有田川町（旧金屋町）、紀の川市（旧貴志川町・旧那賀町）、御坊市、田辺市、橋本市（旧高野口町）から記録されているが、和歌山県南部からは発見されていない。生息環境の開発による改変や、外来生物の捕食圧によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　南　敏行．2012．和歌山県北・中部での最近のトンボ記録．KINOKUNI，(81)：1–4.

写真：松野茂富撮影

ミヤマサナエ　*Anisogomphus maacki* (Selys, 1872)　トンボ目　サナエトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

全長 60 mm 程。オスの腹部第 7~9 節は広がる。幼虫は山地から平地の河川砂泥底に生息する。海南市、紀の川市（旧貴志川町・旧那賀町・旧桃山町）、新宮市、田辺市、日高川町（旧川辺町）から記録されているが、確認される機会は少ない。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について．KINOKUNI，(76)：1–8.

写真：松野茂富撮影

エゾトンボ　*Somatochlora viridiaenea* (Uhler, 1858)　トンボ目　エゾトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

全長 70 mm 前後。雌雄ともに胸部は緑色の金属光沢を帯び、メスの成熟個体は胸部及び腹部に黄斑が認められる。平地から丘陵地の湿地や休耕田に生息する。和歌山市、有田川町（旧吉備町）、海南市、紀の川市（旧那賀町）、串本町、白浜町、太地町、田辺市（旧龍神村）、那智勝浦町、橋本市（旧高野口町）、日高町から記録されているが、近年は和歌山県南部のみで記録されている。生息環境の遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　有本　智．2001．孟子トンボ谷　孟子不動谷トンボ観察ハンドブック．48pp．自然回復を試みる会 ビオトープ孟子，海南．
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について（2）．KINOKUNI，（78）：1-7．
4　高松　勉．1978．和歌山県で小学生の採集したオオエゾトンボ．KINOKUNI，（31）：21．

写真：金岡晃司提供（県外産）

ハネビロエゾトンボ　*Somatochlora clavata* Oguma, 1913　トンボ目　エゾトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

全長 65 mm 程。雌雄ともに胸部は緑色の金属光沢を帯びる。平地から山地の樹林に囲まれた細流に生息する。和歌山市、串本町、古座川町、御坊市、白浜町、田辺市（旧本宮町、旧田辺市）、日高町、那智勝浦町から記録されているが、近年確認される生息地は少ない。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　松下　弘．1993．古座川町におけるトンボ 3 種の新産地．くろしお，（12）：47–48．
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について．KINOKUNI，（76）：1-8．

写真：南　敏行撮影

ナニワトンボ　*Sympetrum gracile* Oguma, 1915　トンボ目　トンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

全長 40 mm 程。成熟したオスは全身に青灰色の粉を吹く。平地から丘陵地の樹林に囲まれ、池干しや水位の低下によって岸辺が露出するため池に好んで生息する。和歌山市、岩出市、海南市、かつらぎ町、紀の川市（旧粉河町・旧桃山町・旧貴志川町）、紀美野町（旧美里町）、九度山町、高野町、日高川町（旧川辺町）から記録されているが、最近の記録は局所的である。ため池の管理放棄による生息環境の消失によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本．KINOKUNI，（49）：15–19．
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．

参考文献・情報
3　南　敏行．2012．和歌山県北・中部での最近のトンボ記録．KINOKUNI，(81)：1–4.
写真：南　敏行撮影

マイコアカネ　*Sympetrum kunckeli* (Selys, 1884)　トンボ目　トンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

全長 40 mm 程。オスの顔面は青白く、これが和名の由来である。平地から丘陵地の、抽水植物の多いため池や湿地に生息する。和歌山市、岩出市、海南市、紀の川市（旧粉河町・旧貴志川町）、串本町、御坊市、那智勝浦町、日高町から記録されているが、分布は局所的である。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。



執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　乾風　登．2006．日高町の阿尾湿地と周辺におけるトンボ類の記録．くろしお，(25)：35.
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について．KINOKUNI，(76)：1–8.
写真：松野茂富撮影

ミヤマアカネ　*Sympetrum pedemontanum elatum* (Selys, 1872)　トンボ目　トンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

全長 40 mm 程。雌雄ともに前・後翅に黒褐色の帯状斑を備える。平地から山地にかけての、流れの緩やかな河川や用水路に生息する。有田川町（旧金屋町・旧清水町）、海南市、紀美野町（旧野上町）、御坊市、高野町、新宮市、すさみ町、田辺市、橋本市、日高川町（旧川辺町・旧中津村）、広川町、那智勝浦町から記録されているが、近年の記録は少ない。生息環境の開発による改変や、耕作放棄による用水の消失によって減少したと考えられる。



執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本．KINOKUNI，(49)：15–19.
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
3　南　敏行．2012．和歌山県北・中部での最近のトンボ記録．KINOKUNI，(81)：1–4.
写真：松野茂富撮影（県外産）

キトンボ　*Sympetrum croceolum* (Selys, 1883)　トンボ目　トンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

全長 45 mm 程。全身が明るい黄褐色を帯びる。平地から丘陵地にかけての、明るく透明度の高いため池に生息する。和歌山市、海南市、紀の川市（旧貴志川町）、紀美野町（旧野上町）、串本町、古座川町、御坊市、白浜町、新宮市、田辺市、那智勝浦町、日高川町（旧中津村）、日高町から記録されているが、近年の記録は和歌山県南部に限られる。開発による生息環境の改変や、水質の悪化、外来生物の侵入によって減少したと考えられる。



執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　乾風　登．1991．田辺市で見つかったタイワンウチワヤンマとその生息地．くろしお，(10)：25–26.
2　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本．KINOKUNI，(49)：15–19.
3　乾風　登．2002．日高地方（和歌山県）の２つのビオトープでのトンボ分布．くろしお，(21)：12–13.
4　乾風　登．2006．日高町の阿尾湿地と周辺におけるトンボ類の記録．くろしお，(25)：35.
5　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
6　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について．KINOKUNI，(76)：1–8.
7　南　敏行．2010．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について(2)．KINOKUNI，(78)：1–7.
8　南　敏行．2013．和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅲの追加種 那智勝浦町下里天満（池の谷）．KINOKUNI，(83)：3–5.
写真：金岡晃司提供

ハッチョウトンボ　*Nannophya pygmaea* Rambur, 1842　トンボ目　トンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

全長 20 mm 程。トンボ科では日本最小種である。丘陵地の湿地や休耕田に生息する。和歌山市、有田川町（旧金屋町）、北山村、串本町、古座川町、新宮市、田辺市（旧本宮町）、橋本市から記録されているが、近年の記録は県南部に限られる。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（南　敏行・松野茂富）



参考文献・情報
1　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本．KINOKUNI，(49)：15–19.
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について．KINOKUNI，(76)：1–8.
4　南　敏行．2010．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について(2)．KINOKUNI，(78)：1–7.
写真：南　敏行撮影

カヤキリ　*Pseudorhynchus japonicus* Shiraki, 1930　バッタ目　キリギリス科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

ススキ草原に生息する日本産クサキリ亜科最大の種。

本種は和歌山県北部と串本町から記録されているだけだが、他県の状況から推測して普遍的に分布していると考えられる。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報
1　北尾陽左右．1941．和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類．関西昆虫学会会報，11（1）：49–54.
2　松野茂富．2016．串本町におけるカヤキリの記録．KINOKUNI，(90)：20.
写真：松野茂富提供

タイワンクツワムシ　*Mecopoda elongata*（Linnaeus, 1758）　バッタ目　クツワムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

和歌山県広川町以南の中南部から近年の記録がある大型のクツワムシ科昆虫。西南日本では局地的に分布する。

和歌山県内では岩出市、美浜町、田辺市、串本町、古座川町から記録があり、県内では広く分布するようではあるが、近年はソデ群落等の衰退により個体数、生息地とも減少しており、生息地の保全が必要である。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報

1　乾風　登．1951．紀州で得られた直翅類．紀州昆虫，3（1）：15–17.
2　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．［照葉樹林にすむ昆虫たち］．256pp．紀伊民報，田辺.
3　細井孝昭．1999．紀伊半島・古座川レポート．ばったりぎす，（120）：105.
4　北尾陽左右．1941．和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類．関西昆虫学会会報，11（1）：49–54.
5　小川忠宏．1989．紀北地方の鳴く虫展望　第1回．KINOKUNI，（36）：1–10.
6　大町文衛．1941．紀州に於いて発見せられたる亜熱帯性直翅類昆虫．兵庫県中等教育博物学雑誌，7：233–241.

写真：松野茂富提供

クツワムシ　*Mecopoda niponensis*（de Haan, 1843）　バッタ目　クツワムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

藪等に生息する大型のクツワムシ科昆虫。

和歌山県内では紀の川市、紀美野町、広川町、印南町、古座川町から記録があり、広く分布するようではあるが、近年はソデ群落等の衰退により個体数、生息地とも減少しており、生息地の保全が必要である。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報

1　乾風　登．1985．クツワムシを飼養して．KINOKUNI，（28）：15.
2　直翅類研究グループ．1983．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録　日本の直翅類，15：101.
3　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．［照葉樹林にすむ昆虫たち］．256pp．紀伊民報，田辺.
4　細井孝昭．1999．紀伊半島・古座川レポート．ばったりぎす，（120）：105.
5　北尾陽左右．1941．和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類．関西昆虫学会会報，11（1）：49–54.
6　日本直翅類学会．2006．バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑．687pp．北海道大学出版会，札幌.
7　小川忠宏．1989．紀北地方の鳴く虫展望　第1回．KINOKUNI，（36）：1–10.

写真：松野茂富提供

クロツヤコオロギ　*Phonarellus ritsemai*（Saussure, 1877）　バッタ目　コオロギ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

日当たりの良い草地斜面等で穴居生活をする中型のコオロギ。西南日本等に局地的に分布する。

和歌山県内では南部のみなべ町、田辺市、那智勝浦町、古座川町から記録があり、農耕地の南向き斜面等に生息している。しかし、農耕地の衰退により、減少しているものと考えられる。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報
1　細井孝昭．1999．紀伊半島・古座川レポート．ばったりぎす，(120)：105.
2　細井孝昭．1999．紀伊半島南部　古座川～大島直翅類リスト．ばったりぎす，(121)：16-17.
3　市川顕彦・村井貴史・本田恵理．2000．総説・日本のコオロギ．ホシザキグリーン財団研究報告，4：257-332.
4　村井貴史．2015．バッタ・コオロギ・キリギリス鳴き声図鑑．191pp．北海道大学出版会，札幌.
5　日本直翅類学会．2006．バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑．687pp．北海道大学出版会，札幌.
6　富永　修．1997．紀伊和歌山の直翅類へのお誘い－後藤　伸氏採集品－．ばったりぎす，(111)：3.
7　富永　修．1998．後藤コレクションⅡ＜南紀の直翅類＞．ばったりぎす，(119)：48-50.
写真：河北　均撮影（県外産）

カワラバッタ　*Eusphingonoyus japonicus* (Saussure, 1888)　バッタ目　バッタ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

日本固有種。中型のバッタで後翅の鮮やかな青色が美しい。河川敷の砂礫に生息する。

和歌山県では紀の川（かつらぎ町）と熊野川（田辺市）の各中流域から記録されている。河川改修、水害、植生遷移等により生息基盤が危ぶまれている。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報
1　村井貴史・伊藤ふくお．2011．バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑．449pp．北海道大学出版会，札幌.
2　富永　修．2019．和歌山県本宮町の熊野川河原でカワラバッタを確認．ばったりぎす，(162)：68.
写真：的場　績提供

ヒサゴクサキリ　*Palaeoagraecia lutea* (Matsumura & Shiraki, 1908)　バッタ目　キリギリス科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

竹林に生息する中型のクサキリ亜科。

西南日本に分布するが局所的であり、和歌山県からは白浜町より記録されているだけである。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報
1　北尾陽左右．1941．和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類．関西昆虫学会会報，11（1）：49-54.
2　村井貴史．2015．バッタ・コオロギ・キリギリス鳴き声図鑑．191pp．北海道大学出版会，札幌.
写真：松野茂富提供

フタツトゲササキリ　*Conocephalus bambusanus* Ingrisch, 1990　バッタ目　キリギリス科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

竹林に生息するササキリ亜科。

西南日本に分布するが局所的であり、和歌山県からは御坊市から記録されているだけである。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報
1　村井貴史．1990．和歌山御坊市でもフタツトゲササキリ（ヤマトササキリ）．ばったりぎす，(85)：60.
写真：村井貴史提供（県外産，バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

クチナガコオロギ　*Velarifictorus aspersus* (Walker, 1869)　バッタ目　コオロギ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

中型のコオロギ。ツヅレサセコオロギの近似種だが雄の大顎が長い。乾燥した草地に生息する。

西南日本に分布するが局所的であり、和歌山県からは岩出市から記録されているだけである。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報

1　小川忠宏．1990．紀北地方の鳴く虫展望　第２回．KINOKUNI，(38)：1-14.

写真：伊藤ふくお提供（県外産，バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

コガタカンタン　*Oecanthus similator* Ichikawa, 2001　バッタ目　マツムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

カンタン、ヒロバネカンタンの近似種だが、ひとまわり小さく、キイチゴ類上に生息する。

本州・四国に局所的分布し、和歌山県では高野山から記録されている。生息域が狭く、開発等により減少が危惧される。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報

1　Ichikawa, A. 2001. New species of Japanese crickets (Orthoptera : Grylloidea) with notes on certain taxa. Tettigonia, 3 : 45-58.
2　村井貴史・伊藤ふくお．2011．バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑．449pp．北海道大学出版会，札幌．

写真：村井貴史提供（バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

セグロイナゴ　*Shirakiacris shirakii* Bolívar, 1914　バッタ目　バッタ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

西南日本では局所的に分布し、和歌山県では高野山、岩出市及び印南町から記録されている。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報

1　市川顕彦．2017．高野山の直翅類の記録　コウヤナナフシのいるところ．ばったりぎす，(154)：30-31.
2　松野茂富．2014．和歌山県におけるセグロイナゴ *Shirakiacris shirakii* Bolívar，1914 の記録．和歌山県立自然博物館館報，(32)：63-64.

写真：松野茂富提供

シダスケバモドキ　*Ugyops vittatus* (Matsumura, 1906)　カメムシ目　ウンカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

やや大型の亜熱帯系森林性ウンカ類で、翅に縦走する暗褐色条がある。本県では串本町和深、すさみ町江須崎、田辺市神島で発見されているが、近年減少している。

紀伊半島が分布の北限である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1996．すさみ町里野付近の半翅目調査記録．KINOKUNI，(49)：26.
2　後藤　伸．1997．紀伊半島南部産のウンカ類（1）．南紀生物．39 (2)：112.
提供：有本　智提供

クワヤマハネナガウンカ　*Zoradia kuwayamae* (Matsumura, 1913)　カメムシ目　ハネナガウンカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

大型のウンカ類で、前翅が発達した形態的に特異な昆虫である。前翅前縁の黒い紋が特に太く山形を呈する。幼虫は朽ち木に生じた菌類に付くようである。灯火によく飛来し、灯火採集で採集されることが多いが、近年減少しているようである。

和歌山県では、田辺市、白浜町、護摩壇山、白馬山等で見られる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1987．和歌山県産ハネナガウンカ類．南紀生物，29（1）：58-60.
2　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．［照葉樹林にすむ昆虫たち］．256pp．紀伊民報，田辺.
写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ミツハシテングスケバ　*Tenguella mitsuhashii* Matsumura, 1910　カメムシ目　テングスケバ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

関東以西に見られる南方系の種。淡緑色で透明の翅を持つ大型同翅類で、頭部は著しく突出する。

和歌山県では有田市地ノ島、日高町阿尾、白浜町市江の海岸性草原で発見されているが、このような環境は消滅しつつある。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1997．紀伊半島南部のウンカ類（1）．南紀生物，39 (2)：112.
写真：紙谷聡志提供（県外産，福岡県レッドデータブックより転載）

オヨギカタビロアメンボ　*Xiphovelia japonica* Esaki & Miyamoto, 1959　カメムシ目　カタビロアメンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

体長 2 mm 程で、体型はひし形。基本的に無翅型であるが、稀に有翅型が出現する。和歌山市から記録があるが、既知の産地が非常に少なく、近年の新産地発見もない。樹林に囲まれた流れの緩やかな河川、池沼に生息するが、開発による環境の改変によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



参考文献・情報

1　中尾史郎．2005．和歌山県北部におけるケシミズカメムシとオヨギカタビロアメンボの記録と生息状況．KINOKUNI，(68)：1–2.

写真：中尾史郎提供（県外産，京都府レッドデータブックより転載）

ハネナシアメンボ　*Gerris nepalensis* Distant, 1910　カメムシ目　アメンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

体長は最大で 10 mm 程。無翅型が多く、腹部背面は白銀色を呈し、体型はひし形である。和歌山市、海南市、田辺市から記録されており、有田川町でも得られているが、既知の産地は局地的であり、他のアメンボ科よりも明らかに少ない。ヒシ等の浮葉植物が豊富な池沼に生息するが、開発による環境の改変や環境の遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



参考文献・情報

1　有本　智．2005．海南市孟子不動谷における動物相調査追加報告．くろしお，(23)：15–20.
2　米林憲市．1973．田辺に産するアメンボ（1）．KINOKUNI，(5)：16.
3　中尾史郎．2005．和歌山県北部におけるケシミズカメムシとオヨギカタビロアメンボの記録と生息状況．KINOKUNI，(68)：1–2.

写真：松野茂富撮影

トゲミズギワカメムシ　*Saldoida armata* Horváth, 1911　カメムシ目　ミズギワカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

体長 3 mm 前後。体型は細長く、複眼は著しく発達する。前胸部に一対の棘があり、後方へ曲がることが特徴的である。新宮市と串本町から記録されているが、和歌山県における記録は少なく、環境の変化によって容易に減少し得る種であると考えられる。池沼周辺の、植生のある湿った陸地に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



参考文献・情報

1　乾風　登・後藤　伸・的場　績・宮武頼夫・吉田元重．2012．トゲミズギワカメムシ．保全上重要な和歌山の自然　和歌山県レッドデータブック．153．442pp．和歌山県環境生部環境政策局環境生活総務課自然環境室，和歌山.

写真：渡部晃平提供（県外産）

コオイムシ　*Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864　カメムシ目　コオイムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

体長 20 mm 前後。和名の通り、オスが背面に卵を背負い、孵化するまで保持する習性がある。水田等で普通に見られる種であったが、減少が著しい。和歌山市から記録されており、橋本市、有田川町からも得られている。明るく水草が多い、水深の浅い止水域に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移、農薬の使用によって減少したと考えられる。



執筆者（松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登・後藤　伸・吉田元重．1983．友ヶ島の昆虫綱目録　友ヶ島学術調査．259．296pp．関西自然保護機構，和歌山．

写真：松野茂富撮影

タイコウチ　*Laccotrephes japonensis* Scott, 1874　カメムシ目　タイコウチ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

呼吸管を除いた体長は 35 mm 前後。前脚は鎌状であり、腿節基部に突起がある。水底の泥に半ば埋まるようにして潜伏する。和歌山市、古座川町から記録されているが、和歌山県における記録は少なく、近年の採集例も非常に少ない。水田や湿地等の浅い止水環境に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移、農薬の使用によって減少したと考えられる。



執筆者（松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登・後藤　伸・吉田元重．1983．友ヶ島の昆虫綱目録　友ヶ島学術調査．259．296pp．関西自然保護機構，和歌山．
2　藤田昂己．2004．古座川観察会で採集した昆虫類．くろしお，(23)：65-66．

写真：松野茂富撮影

ナベブタムシ　*Aphelocheirus vittatus* Matsumura, 1905　カメムシ目　ナベブタムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

体長は 10 mm 程。体型は円形、通常は無翅であるが、稀に有翅型が認められる。プラストロン呼吸を行うため、一生を水中で過ごすことができる。那智勝浦町、田辺市、新宮市（旧熊野川町）、橋本市から記録されているが、比較的稀な種であり、減少が懸念される。和歌山県においては、河川上流部の砂礫底の流水環境に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移によって減少したと考えられる。



執筆者（松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登．1974．大塔山系の水生昆虫（Ⅱ）大塔山系の自然Ⅳ 生物相調査記録．53-59pp．71pp．大塔山系生物調査グループ，田辺．
2　後藤　伸．1951．ナベブタムシ紀伊那智山にて採集する．紀州昆虫，3 (2/3)：34．
3　日浦　勇．1967．日本産水棲・半水棲半翅類の分布の研究 1 大阪市立自然史博物館所蔵標本の検討．Bulletin of the Osaka Museum of Natural History，20：65-81．
4　安田　稔．1980．安川水系の大型底生動物．南紀生物，22 (2)：101-108．

写真：松野茂富撮影

キバネアシブトマキバサシガメ　*Prostemma kiborti* (Jakovlev, 1899)　カメムシ目　マキバサシガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

光沢のある黒色で、粗い毛に覆われる。翅鞘は黄色で短い。河原の石の下で生活しているので、河川改修による生息地の破壊が顕著である。

和歌山県では紀の川と有田川で発見されていたが、その生息地はいずれも破壊されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1995．和歌山県産昆虫類分布資料Ⅰ．KINOKUNI，（47）：28.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

クロバアカサシガメ　*Labidocoris insignis* Distant, 1883　カメムシ目　サシガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

ビロードサシガメに似ているがやや小型で、赤と黒の色彩が鮮明である。初夏の早朝によく飛翔する性質がある。

和歌山県では照葉樹林に生息するが、今では稀少種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1988．和歌山県産異翅半翅類追補Ⅱ Reduviidae サシガメ科．南紀生物，30（1）：36–44.
2　後藤　伸．1996．すさみ町里野付近の半翅目調査記録．KINOKUNI，（50）：9–16.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ハマベツチカメムシ　*Byrsinus varians* (Fabricius, 1803)　カメムシ目　ツチカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

小型のツチカメムシで、球形に近い形態をし、光沢のある褐色。

海浜植物の根際に生息する。

かつては和歌山市から御坊市までの砂浜に多産していたが、砂浜の改修工事などにより生息域がダメージを受けるとともに、砂浜の消滅等により減少した。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1966．紀州の異翅半翅目昆虫Ⅲ．南紀生物，8（2）：58–64.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

フタテンツノカメムシ　*Elasmucha nipponica* (Esaki & Ishihara, 1950)　カメムシ目　ツノカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

やや小型のカメムシで、側角が鋭く突出し、腹部背面に１対の黒い斑紋がある。

和歌山県では古座川源流、果無山脈、那智山等で記録されているが、稀少種である。照葉樹林の減少で更に少なくなってきた。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1985．和歌山県産異翅半翅類追補Ⅰ．南紀生物，27（1）：31–34.
2　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．［照葉樹林にすむ昆虫たち］．256pp．紀伊民報，田辺.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

トゲツノカメムシ　*Lindbetgicoris gramineus* (Distant, 1883)　カメムシ目　ツノカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

鮮緑色で側角が特に鋭く突出する。側角先端部は黒い。

和歌山県では護摩壇山のみから記録されており、かつては多産していたが、現在では少なくなっている。ウドの果実に寄生する。

和歌山県は南限分布地に当たる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1983．護摩壇山のツノカメムシ類．南紀生物，25（2）：219–220.
2　後藤　伸．2001．和歌山県産カメムシ類の再録及び追補５．KINOKUNI，（60）：5–9.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ヤマトナガヒラタムシ　*Tenomerga yamato* Miyatake, 1985　コウチュウ目　ナガヒラタムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

ナガヒラタムシに酷似するが、上翅第８と９点刻列の間の基部から約１／３の所に短い点刻列があることにより区別できる。四国と九州では局所的に分布するが、本州では殆ど知られていない。

和歌山県においても和歌山市、護摩壇山、大塔山系大杉谷で各１頭の記録があるのみであったが、近年、新宮市大倉畑山でも１頭発見されている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．1991．和歌山県産甲虫目録１ ナガヒラタムシ科・セスジムシ科．和歌山県立自然博物館館報，9：51–55.
2　的場　績．2018．和歌山県産甲虫類分布資料 34．KINOKUNI，（94）：24–28.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ハンミョウ　*Sophiodela japonica*（Thunberg, 1781）　コウチュウ目　ハンミョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

最も綺麗な甲虫の一つで、里地の農道や神社の境内等に生息する。「みちおしえ」の俗称があるほど親しまれている昆虫である。

かつては、各地で最も普通に見られたが、近年急速に生息地が減少し、確実に発見できる生息地は僅かになった。

本種の幼虫は道端の裸地に巣穴を掘って潜み、巣の近くを通った小昆虫を捕食するので、農道の舗装や開発による生息地の減少の他にも、除草剤の散布による影響により減少したと思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2005．和歌山の甲虫 65　ハンミョウ．自然博物館だより，23 (1)：3.
2　吉村輔倫．2016．ハンミョウを広川町の山間部で採集．KINOKUNI，(89)：16.
写真：金岡晃司提供

セグロホソクビゴミムシ　*Brachinus nigridorsis* Nakane, 1962　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

とっくり型をした特異なグループ。体の背面が黒いので他種と容易に区別できる。

和歌山県では護摩壇山と果無山脈にかけてのブナ帯林床に生息する。生息域が限られており、環境も悪化しているので少なくなっている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　田中昭太郎．1984．紀伊半島とその周辺の歩行虫．KINOKUNI，(26)：18-20.
写真：松野茂富提供（県外産）

キボシケシゲンゴロウ　*Allopachria flavomaculatus*（Kamiya, 1938）　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

体長約 3 mm の小型種で、黒色の体に黄色の大紋を有する。清流のよどみの石や落ち葉の下に生息している。黄色大紋は 2 紋型 ～6 紋型、無紋型等、変異に富む。

熊野川、日置川、有田川、紀の川の上流に分布しているが、近年個体数が激減している。清流に棲むゲンゴロウなので、源流部の砂防ダム設置工事等による水質の悪化が原因と思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　森　正人・北山　昭．1993．図説日本のゲンゴロウ．218pp．文一総合出版，東京.
2　中根猛彦．1969．紀州の虫と私．南紀生物，11 (1)：2-3.
写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

キベリクロヒメゲンゴロウ　*Ilybius apicalis* Sharp, 1873　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

中型のゲンゴロウで、前胸背側縁と上翅側縁が黄褐色に縁取られる。日本全国に分布するがやや局所的で、各地で減少傾向にある。

和歌山県でも和泉山脈、白浜町、串本町に生息地があるが、近年激減しており、発見が難しくなっている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　森　正人・北山　昭．1993．図説日本のゲンゴロウ．218pp．文一総合出版，東京．
2　中野東男．1989．和泉山脈の昆虫（2）．Nature Study，35（2）：8．
写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ヒメミズスマシ　*Gyrinus gestroi* Regimbart, 1883　コウチュウ目　ミズスマシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

ミズスマシに似るが、小型でやや細型。腹部第2、3節の基部は後基節に沿って強く窪む。

和歌山県内各地に分布していたが、近年急速に生息地が減少し、現在では串本町周辺で観察される程度。個体数も激減している。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　南　敏行．2009．和歌山県南部の甲虫記録．KINOKUNI，（76）：26–27．
写真：渡部晃平提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

コガムシ　*Hydrochara affinis*（Sharp, 1873）　コウチュウ目　ガムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	情報不足（DD）

選定理由

コガタガムシに次ぐ大型のガムシで、脚が赤褐色であることにより区別できる。

和歌山県内各地の池沼で見られ、個体数も多かったが、近年急速に減少し、ほとんど発見できなくなった。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　北畑雅弘．1991．和歌山市和歌浦で採集した水生甲虫数種，KINOKUNI，（39）：13．
2　楠井善久．2008．和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫．KINOKUNI，（73）：1–4．
写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ガムシ　*Hydorophilus acuminatus* Motschulsky, 1854　コウチュウ目　ガムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

ガムシ科最大の種で、他種とは容易に区別できる。腹部は無毛。

和歌山県内全域の湿地及び池沼に生息していたが、生息地・個体数共に激減し、県内では危機的な状態である。特に近年では全く発見されていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　楠井善久．2008．和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫．KINOKUNI，（73）：1–4.
2　南　敏行．2009．和歌山県南部の甲虫記録．KINOKUNI，（76）：26–27.

写真：中村　進提供（県外産）

オオズウミハネカクシ　*Liparocephalus tokunagai* Sakaguti, 1944　コウチュウ目　ハネカクシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



選定理由

潮間帯の岩礁に生息する。後翅が退化していて、飛ぶことができない。潮間帯に棲む小動物を捕食する。

和歌山県と神奈川県、愛媛県で発見されている。和歌山県では田辺市と白浜町で発見されているが、近年の発見記録はない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2002．和歌山県産ハネカクシ科の採集記録 4．KINOKUNI，（61）：16–18.
2　渡辺泰明．1974．ハネカクシ漫歩（4）潮間帯に生息するハネカクシ．甲虫ニュース，（21/22）：3–5.

写真：片山雄史提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

ルリクワガタ　*Platycerus delicatulus delicatulus* Lewis, 1883　コウチュウ目　クワガタムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－



選定理由

小型のクワガタムシで、雄は青藍色をした美麗種。新芽が開き始める５月頃に成虫が出現し始め、６月中頃まで見られる。近似種のコルリクワガタはミズナラの開き始めの新芽に集まるが、本種は新芽には集まらない。飛翔中のものや、朽ち木に産卵に来たものが採集される。

和歌山県では護摩壇山にのみ生息するものと思われていたが、近年になり、大塔山や果無山脈等でも生息が確認された。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2017．和歌山県産甲虫類分布資料 32．KINOKUNI，（91）：17–19.
2　南　敏行．2015．古座川町大塔山でルリクワガタを採集．KINOKUNI，（87）：7.
3　梅本　実．1972．護摩壇山で採集されている特筆すべき甲虫類．KINOKUNI，（4）：3.

写真：的場　績撮影

ムネアカセンチコガネ　*Bolbochrodema nigroplagiatum* (Waterhouse, 1875)　コウチュウ目　センチコガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

上翅に赤褐色紋を有する特徴的なセンチコガネである。全国各地に分布する。古い牛糞に集まると言われているが、観察例は少なく、灯火に飛来する個体が採集されることの方が多い。

和歌山県では、生石山周辺が比較的数多く観察されているが、かつらぎ町、田辺市、串本町、新宮市からも記録されている。しかし、いずれも 1、2 頭の記録しかない。

通常、放牧場に生息するが、このような特殊な環境は減少しており、本種の生息基盤は危機的な状況にある。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2005．糞虫の記録４種．KINOKUNI，(66)：24.
2　南　敏行．2009．和歌山県南部の甲虫記録．KINOKUNI，(76)：26–27.
3　巽　和政．1976．生石山のムネアカセンチコガネについて．KINOKUNI，(12)：11.

写真：松野茂富提供（県外産）

アカマダラハナムグリ（アカマダラコガネ）　*Poecilophilides rusticola* (Burmeister, 1842)　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	情報不足（DD）

選定理由

やや小ぶりのハナムグリで、体の背面は赤褐色地に黒斑を散在し、ロウ状の鈍い光沢がある。体下面は黒色。大型鳥類の巣内で幼虫が発見される。成虫はクヌギの樹液に集まる。

里山のクヌギ林で他のハナムグリに混じって少数が発見されていたが、年々減少し、最近ではほとんど見られなくなっている。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　有本　智．2001．海南市孟子不動谷における動物相調査追加報告．くろしお，(23)：15–20.
2　土井邦江．2020．アカマダラハナムグリを拾う．KINOKUNI，(98)：27.
3　平松広吉．1994．アカマダラコガネの採集例．KINOKUNI，(45)：8.
4　井賀　哲．2001．アカマダラコガネの採集例．KINOKUNI，(60)：25.

写真：有本　智提供

オオサカスジコガネ　*Anomala osakana* Sawada, 1942　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

中型のコガネムシ。上翅は光沢のある褐色で、前胸背は暗緑色。

都市周辺に生息するコガネムシで、和歌山県では和歌山市と御坊市で発見されている。畑地や河川敷等の草地で発生していると思われるが、近年の発見例がない。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　和歌山大学教育学部生物学教室生物同好会．1973．和歌山城動物調査中間報告．42pp，和歌山.

写真：田中　稔提供（県外産）

シロスジコガネ　*Polyphylla albolineata* (Motschulsky, 1861)　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

大型のコガネムシで、褐色の体に白い縦線紋を有する。雄の触角片状部は著しく長い。以前は沿岸部の松林周辺で普通に見られたが、近年急速に減少し、ほとんど見られなくなった。海岸の防風林の減少及びマツ食い虫防除のための農薬散布が原因と思われる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　乾風　登．1992．松食い虫防除のための農薬散布と昆虫類．南紀生物，34（82）：108.
2　井賀　哲．2001．シロスジコガネの採集例．KINOKUNI，（60）：52.
3　的場　績．1998．松食い虫防除の被害に遭った甲虫．KINOKUNI，（53）：22–23.

写真：的場　績撮影

アオアシナガハナムグリ　*Gnorimus subopacus* Motschulsky, 1860　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

比較的大型のハナムグリで、夏季に出現してノリウツギやリョウブの花に飛来する。和歌山県では主に山地に分布し、幼虫は林内の腐朽木等で生活する。局所的に多産することもあるが、和歌山県における採集記録は少なく、特に近年では極めて少なくなっている。

和歌山県では、北山村、田辺市（旧本宮町）、古座川町、護摩壇山、有田川町（旧清水町）、高野山等で発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1949．護摩壇山の珍昆虫．南紀生物，1（2）：73–76.
2　井賀　哲．2001．アオアシナガハナムグリを熊野古道で採集．KINOKUNI，（60）：40.
3　的場　績．1988．アオアシナガハナムグリの採集例．KINOKUNI，（32）：10.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

コカブト　*Eophileurus chinensis chinensis* (Feldermann, 1835)　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

小型のカブトムシで、サクラやエノキ等の古木の樹洞内で生活する。幼虫は腐朽部を食べる。日中はほとんど外に出ず、夜間に灯火に飛来する。

社寺林や都市近郊の灯火に飛来した個体が時々発見されていたが、近年は殆ど見られなくなった。

和歌山県では、笠塔山、みなべ町、湯浅町、有田川町（旧吉備町）、海南市、和歌山市等、各地で発見されているが、市街地周辺の記録が多く、山間部での記録は少ない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　土井邦江・的場　績．2019．みなべ町東本庄の甲虫（その 1）．KINOKUNI，（95）：7–8.
2　楠井善久．1990．コカブトムシの生息する樹種と若干の知見．SAIKAKU，9：1–2.
3　和歌山大学教育学部生物学教室生物同好会．1973．和歌山城動物調査中間報告．42pp，和歌山.

写真：的場　績撮影

クロマダラタマムシ　*Nipponobuprestis querceti* (E. Saunders, 1873)　コウチュウ目　タマムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

大型の美麗種で、成虫はエノキの葉を食べ、幼虫はエノキの衰弱部や枯死枝に付く。平地から里山に至る河畔林や社寺林等で見られる。

和歌山市周辺で比較的安定して見られるが、他では殆ど見られなくなった。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　土井邦江・的場　績．2019．みなべ町東本庄の甲虫（その 1）．KINOKUNI，(95)：7–8.
2　平松広吉．2001．クロマダラタマムシの採集例．KINOKUNI，(60)：53.
3　的場　績．1993．和歌山の甲虫 26　クロマダラタマムシ．自然博物館だより，11 (1)：2.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

コガタノサビコメツキ　*Lacon parallelus parallelus* (Lewis, 1894)　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

本科の中では古い形質を残していると言われている。全国的にも採集記録は少なく、和歌山県では橋本市、和歌山市、護摩壇山、広川町、新宮市等で記録されているが、調査が進めばもっと広く分布しているものと思われる。

比較的乾燥したマツの立ち枯れ樹皮下に潜んでいることが多く、このような環境は、マツ枯れの多い今日では丹念に探せばもっと発見されるものと思われる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　平松広吉．1994．和歌山県のコメツキムシ追加記録．KINOKUNI，(45)：9–12.
2　平松広吉．2010．的場績氏採集（2009 年）のコメツキムシ．KINOKUNI，(77)：18.
3　的場　績・平松広吉．1973．和歌山県産コメツキムシ科目録Ⅰ．南紀生物，15 (2)：45–48.

写真：平松広吉提供

ツマグロコメツキ　*Ampedus niponicus* (Lewis, 1894)　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

翅鞘が黄色で、翅端部が黒い特徴的な美しい種である。全国的にも少なく、生息地が限られている。本県では田辺市大塔山、古座川町、護摩壇山でわずかに採集されているのみである。しかも 2000 年以降、全く採集されていない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　秋田勝巳．1998．和歌山県古座川町平井で得た甲虫．南紀生物，40 (2)：195–197.
2　的場　績・平松広吉．1974．和歌山県産コメツキムシ科目録Ⅱ．南紀生物，16 (1)：18–22.
3　大平仁夫・平松広吉．1995．ツマグロコメツキの黒化型．月刊むし，(294)：37–38.

写真：平松広吉提供

ヒメクロナガコメツキ　*Parallelostethus georgelewisi* (W. Suzuki, 1985)　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

日中での観察記録はなく、稀に灯火に飛来する。強い自然林依存種であり、豊かな自然林の環境指標種と言える。

全国的にも記録が少なく、和歌山県では高野山、護摩壇山、田辺市大杉谷、那智勝浦町那智山で記録されているが、近年ほとんど発見できない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．2001．高野山で採集した数種のコメツキムシ．KINOKUNI，(60)：9.

写真：平松広吉提供

ムネアカツヤケシコメツキ　*Megapenthes opacus* Candeze, 1873　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

背面は黒色の短毛で覆われ、つや消し状。胸が赤い。全国的な稀少種であるが、本県では高野山、護摩壇山、白浜町将軍川で発見されている。

成虫はブナ等の樹洞内で生活し、稀に樹洞の外に出てきた個体が発見されることが多い。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．2007．和歌山県立自然博物館所蔵の和歌山県産コメツキムシ．KINOKUNI，(72)：12–13.
2　大平仁夫・平松広吉．2001．和歌山県産コメツキムシ類の記録（12）．南紀生物，43 (2)：94–97.

写真：平松広吉提供

ツヤヒラタコメツキ　*Aganohypoganus mirabilis* (Miwa, 1934)　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

黒色光沢のある中型のコメツキムシ。全国的には非常に稀な種であるが、生石山のススキ草原には比較的多産していた。2000 年頃までは多かったが、近年減少傾向にある。

和歌山県では生石山にしか生息していないと思われていたが、古くは北山村でも発見されており、近年は、護摩壇山や有田川町白馬山でも発見されている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．1973．和歌山県のツヤヒラタコメツキ．昆虫学評論，25 (1/2)：62.
2　平松広吉．2012．和歌山県レッドデータブック記載のコメツキムシ 3 種．KINOKUNI，(82)：25.
3　大平仁夫．1973．コメツキ雑記 (1)．昆虫と自然，8 (9)：20–21.

写真：平松広吉提供

オオダイルリヒラタコメツキ　*Actenicerus odaisanus* (Miwa, 1928)　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

緑銅色の金属光沢を持つ美しい種。体は細長く脚は黄色。紀伊半島固有種。本県では護摩壇山周辺と日高川町八斗蒔のブナ帯に生息する。近年採集報告がなかったが、2~3 年前より、護摩壇山から日高川町城ヶ森山にかけて、毎年発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　平松広吉．1994．和歌山県のコメツキムシ追加記録．KINOKUNI，(45)：9-12.

写真：的場　績撮影

イソジョウカイモドキ　*Laius asahinai* Nakane, 1955　コウチュウ目　ジョウカイモドキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	情報不足（DD）

選定理由

自然海岸の岩礁に生息する種で、岩礁性の微小動物を食している。本県では白浜町、由良町、広川町で記録されているが、自然海岸の減少と共に本種の生息環境も減少し、全国的にも減少傾向にあり、和歌山県でも、近年ほとんど観察できなくなっている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　平松広吉．1999．イソジョウカイモドキを日高郡で採集．KINOKUNI，(56)：25.
2　梅本　実．1971．岩礁より採集した甲虫．KINOKUNI，(1)：4.

写真：的場　績撮影

ハラグロオオテントウ　*Collicaria superba* (Mulsant, 1853)　コウチュウ目　テントウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

大型のテントウムシで、前胸背に 1 対、上翅に、1-3-3 に並んだ 7 対の黒紋を有する。腹部中央は黒色。キジラミ類を捕食する。和歌山県における発見例は少なく、古い記録ばかりで、ごく少数の標本しか残っていない。特に近年の発見報告はない。クワの古木にいることが多い。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1986．和歌山県のテントウムシ科．南紀生物，28 (2)：89-92.

写真：金岡晃司提供

アイヌテントウ　*Coccoinella ainu* Lewis, 1896　コウチュウ目　テントウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

形態・色彩共にナナホシテントウに似るが少し小型で、上翅の黒い星は 11 個ある。北方系の種で、北海道や本州東部では少なくないが、近畿地方では稀少種である。和歌山県では有田川町（旧清水町）と新宮市で発見されているが、発見は散発的で継続的な発見例はない。特に近年の発見例はない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1988．アイヌテントウ県下に産す．KINOKUNI，（33）：25.

写真：松野茂富提供

オカモトツヤアナハネムシ　*Pedilus okamotoi*（Kôno, 1935）　コウチュウ目　アカハネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

雄の上翅後方に特異な彫刻があり、触角は櫛状、山地の谷間や、湿った林床の植物上にいることが多い。

和歌山県では山地性の稀少種であり、護摩壇山と果無山脈で発見されているが、極めて少数である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　平松広吉．2000．紀伊半島のオカモトツヤアナハネムシの記録．甲虫ニュース，（127/128）：14.

写真：中村　進提供

フタコブルリハナカミキリ　*Stenocorus caeruleipennis*（Bates, 1873）　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

全国各地に広く分布するが、近畿以西では稀少種である。6 月から 8 月にクリ、タンナサワフタギ、ノリウツギ、リョウブ等の花に飛来する。本県では高野山から護摩壇山にかけての 1000 m 級の山々で採集されている。那智勝浦町那智山と生石山でも記録されているが、いずれも 1 例のみの記録で、再発見はされていない。

護摩壇山周辺では、少ないながらも毎年発見されている。2021 年には日高川町白馬山でも発見された。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　平松広吉．1994．生石山のカミキリムシ 2 種．KINOKUNI，（45）：8.
2　的場　績．2019．和歌山県産甲虫類分布資料 36．KINOKUNI，（96）：35–36.

写真：的場　績撮影

イガブチヒゲハナカミキリ　*Stictoleptura igai* (Tamanuki, 1942)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

赤褐色の上翅に触角は黒色と淡黄色のまだら状。成虫は夏に出現してノリウツギの花に集まる。護摩壇山から高野山に分布していたが、近年護摩壇山ではほとんど見られなくなり、現在では高野山で安定して発見される。

2019 年以降に日高川町八斗蒔でも少ないながら発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　井賀　哲．2019．最近の採集記録より．KINOKUNI，(96)：30–31．
2　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅．
写真：的場　績撮影

ヒゲジロホソコバネカミキリ　*Necydalis odai* Hayashi, 1951　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

ブナ帯の昆虫で、成虫は夏期にミズナラの立ち枯れに飛来するが、個体数は少ない。

和歌山県では高野山と護摩壇山で記録されており、護摩壇山が模式産地になっている。もともと数が少なく、ブナ林の減少が本種の生存に大きな影響を与えている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　奈良　一．1977．和歌山県の天牛雑録（その 7）．KINOKUNI，(13)：1–3．
写真：的場　績撮影

オオホソコバネカミキリ　*Necydalis solida* Bates, 1884　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

ブナ帯の昆虫で、成虫は夏季に各種広葉樹の立ち枯れに飛来し、産卵する。和歌山県では護摩壇山と日高川町八斗蒔で採集されているが、個体数は極めて少なく、特に近年の採集例は聞かない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　奈良　一．1977．和歌山県の天牛雑録（その 7）．KINOKUNI，(13)：1–3．
写真：的場　績撮影

ヨコヤマヒゲナガカミキリ　*Dolichoprosopus yokoyamai* (Gressitt, 1937) コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

大型のカミキリムシで、本州～九州のブナ帯に生息する。成虫は夏期にブナの生木に集まるが、個体数は少ない。灯火に飛来する性質があり、本県における採集例のほとんどは、灯火採集によるものである。

和歌山県では、高野山、護摩壇山、大塔山、果無山脈、新宮市熊野川町等で記録されている。個体数は少ないが、比較的安定して発生しているようである。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．1984．和歌山県立自然博物館収蔵のカミキリムシ数種．KINOKUNI，(25)：29.
2　仁坂吉伸．2015．大塔山系のヨコヤマヒゲナガカミキリ．KINOKUNI，(87)：2.

写真：中村　進提供（県外産）

ヒメビロウドカミキリ　*Acalolepta degener* (Bates, 1873)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

小型のビロウドカミキリで、成虫は夏季に出現する。オトコヨモギに集まり、その枯葉内に潜む。

和歌山県では 1992 年に有田川町（旧清水町楠本）で 1 頭採集されているのみであったが、その後、生石高原に比較的安定して生息していることが判明した。しかし、生息域は極めて限られており、生息基盤は脆弱である。

今のところ、和歌山県での生息地は、生石高原周辺のみである。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　加藤敦史．1993．和歌山県におけるヒメビロウドカミキリの分布記録．月刊むし，(265)：40.
2　的場　績．2007．和歌山県産甲虫類分布資料 17．KINOKUNI，(72)：19–21.

写真：的場　績撮影

キンイロネクイハムシ　*Donacia japana* Chûjô & Geocke, 1956　コウチュウ目　ハムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

金属光沢を帯びた緑銅色の綺麗なハムシ。幼虫及び成虫はミクリを食害する。1958 年に高野山霊宝館前の池で採集されている。現在、霊宝館前の池の環境は悪化しているが、本種は生存している。また近年、かつらぎ町や橋本市でも新たな生息地が発見され、本種の存続が一安心の状況であるが、楽観は出来ない。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　Kimoto, S. & Hiura I. 1964. A list of the chrysomelid specimens preserved in the Osaka Museum of Natural History I. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 17：5018.
2　的場　績．2008．キンイロネクイハムシの新産地を発見．自然博物館だより，26 (3)：6.
3　鈴木慶太・的場　績．2012．キンイロネクイハムシが橋本市にも生息する．KINOKUNI，(81)：14–15.

写真：後藤雅則提供

ヒメゴマダラオトシブミ　*Paroplapoderus vanvolxemi* (Roelofs, 1875)　コウチュウ目　オトシブミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

ゴマダラオトシブミの黒化型に似ているが少し小型で、上翅に 1 対の瘤がある。北海道～九州まで各地に分布する普通種である。成虫は 5 月中旬頃に現れ、エノキの葉を巻いて揺籃を作る。

和歌山県では有田川町楠本及び生石山で、1990 年頃まで生息していたが、2000 年以降は毎年調査しているにも関わらず、全く発見できなくなった。

近年、橋本市と高野町で発見されたが合計 3 頭であり、再調査をしているが発見はできていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　児玉　洋．2021．橋本市の造成地における興味ある甲虫類の記録（2021 年）．KINOKUNI，（100）：5–9.
2　的場　績．1975．和歌山県産ゾウムシ雑録 1．KINOKUNI，（9）：10–11.
3　的場　績．1983．和歌山県のオトシブミ類．南紀生物，24（1）：53–57.

写真：的場　績撮影

ミツギリゾウムシ　*Baryrhynchus poweri* (Roelofs, 1879)　コウチュウ目　ミツギリゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

暗赤褐色の体で、各上翅には 6~7 個の黄橙色の紋がある。雄は口吻の前方が広がり、大あごが発達する。雌の口吻は細長い。沖縄から本州まで各地に分布するが、本州では稀。夜行性で、広葉樹の伐採材に集まる。和歌山県では紀南地方の山間部で見られるが、広葉樹の伐採がなくなった現在では、ほとんど見られなくなった。2021 年には比較的沿岸に近いすさみ町琴の滝でも発見された。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．1974．和歌山県のミツギリゾウムシ類覚え書き．KINOKUNI，（8）：8–9.
2　的場　績．2018．吉田元重コレクションのゾウムシ標本．KINOKUNI，（93）：17–41.
3　的場　績．2021．ゾウムシ雑記 49　和歌山県では記録の少ないゾウムシの記録．KINOKUNI，（100）：34–35.

写真：的場　績撮影

モリモトシギゾウムシ　*Curculio morimotoi* Notsu, 1994　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

成虫は 6~7 月頃に現れ、ハンノキ類の葉及び果実上に見られる。和歌山県では新宮市の河原に生育するカワラハンノキに限って見られると思われていたが、1973 年に有田川町熊井にて採集された体色の白っぽい不明種のシギゾウムシが本種と同一種であることが判明し、河原以外のハンノキ類にもいることが判明した。今後、各地のハンノキ類を精査すれば、新たな生息地が発見されるものと思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報
1　的場　績．1999．和歌山県産ゾウムシ科目録．和歌山県立自然博物館館報，17：29–51.
2　野津　裕・山迫淳介．2021．モリモトシギゾウムシの背面鱗毛による斑紋変異について（形態ならびにDNA バーコーディングに基づく解析）．さやばねニューシリーズ，(44)：31–35.
写真：的場　績撮影

ヒメカツオゾウムシ　*Lixus subtilis* Boheman, 1836　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

体長 1 cm ほどの小型種で、アイノカツオゾウムシの小形個体と紛らわしいが、前胸両側が平行状であり、吻が太く短い。本種は全国的にも稀少種で、分布は九州と紀伊半島のみである。

和歌山県では有田市宮崎ノ鼻と生石山の 2 箇所しか産地が知られていない。宮崎ノ鼻ではたった 1 頭の記録で、生石山では 2000 年以降、毎年生息調査をしているが、少数が確認されているだけで、2011 年以降は全く発見されていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報
1　的場　績．2015．ゾウムシ雑記 38　アイノカツオゾウムシ近似種 3 種の区別法．KINOKUNI，(87)：13–15.
写真：的場　績撮影

ハスジゾウムシ　*Cleonus japonicus* Faust, 1907　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

普通種のハスジカツオゾウムシに似ているが、大型で、吻背面に 4 隆起条があることにより区別できる。アザミ類の茎先端部につき、茎や葉を加害する。

和歌山県では紀の川市、岩出市、和歌山市、有田市で採集されているが、産地は局所的であり、岩出市及び有田市の産地以外ではその後の発見例がない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報
1　的場　績．1999．和歌山県産ゾウムシ科目録．和歌山県立自然博物館館報，17：29–51.
2　的場　績．2003．ゾウムシ雑記 22 短報 5 題．KINOKUNI，(64)：9–10.
3　的場　績．2003．和歌山の甲虫 53　ハスジゾウムシ．自然博物館だより，21 (3)：4.
写真：的場　績撮影

タマヌキオニゾウムシ　*Gasterocerucus tamanukii* Kôno, 1932　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

北海道と本州に分布するが、既知産地は極めて少なく、個体数も極めて少ない。北方系の種で、和歌山県が分布の南限になる。

生態は不明で、灯火に飛来した個体が採集されているだけである。

和歌山県では大塔山系と果無山脈で採集されている。個体数は少なく、これまでに採集された個体は 10 頭以下であり、生態も分かっていないので、本種の生息している自然林を保護しないと絶滅する危険性がある。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1995．和歌山の甲虫 35　アシナガオニゾウムシとその近似種．自然博物館だより，13 (2)：3.
2　的場　績．2018．吉田元重コレクションのゾウムシ標本．KINOKUNI，(93)：17–41.

写真：的場　績撮影

コカタビロゾウムシ　*Trigonocolus sulcatus* Roelofs, 1874　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

体長 3 mm 程の小型種で、上翅基部から前後に急速に狭まり菱形になる。黒色で上翅には灰色毛による縦条がある。成虫はハギを加害する。幼虫の生態は不明であるが、成虫はハギ類の根際につき、幹をゆらすとすぐに落下し、発見は困難である。

本州中部地方では比較的見られるが、他では稀少種である。和歌山県では、御坊市丸山、有田川町上湯川、生石山で各 1 頭採集されているのみで、40 年以上再発見されていないが、2021 年に生石山で複数個体が再発見された。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1999．和歌山県産ゾウムシ科目録．和歌山県立自然博物館館報，17：29–51.
2　的場　績．2021．ゾウムシ雑記 49　和歌山県では記録の少ないゾウムシの記録．KINOKUNI，(100)：34–35.

写真：的場　績撮影

マツムラハラブトハナアブ　*Mallota rubripes* Matsumura, 1916　ハエ目　ハナアブ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

森林性の種で環境指標性が高い。産地が局地的で個体数も少ない。成虫はクマノミズキやノリウツギ等の花に飛来する。幼虫は水生で、大木の樹洞内に生息する。和歌山県では護摩壇山で採集されている。成虫はマルハナバチに擬態していると考えられ、学術的にも貴重。

執筆者（弘岡拓人）



参考文献・情報

1　Hirooka, T., Maruyama, M. & Thompson, F. C. 2015. Revision of the flower fly genus *Mallota* Meigen, 1822 (Diptera : Syrphidae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 21 (2)：241–258.

写真：弘岡拓人撮影

ハチモドキハナアブ　*Monoceromyia pleuralis* (Coquillett, 1898)　ハエ目　ハナアブ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

低地から台地・丘陵地のクヌギを主とした樹林地に生息し、環境指標性が高い。成虫はクヌギ等の樹液やカラスザンショウ、タラなどの花に飛来する。和歌山県内では紀北地域で確認されているが、産地が局地的で個体数も少ない。成虫はドロバチに擬態していると考えられ、学術的にも貴重。

執筆者（弘岡拓人）



参考文献・情報

1　伊藤憲正．1999．関東地方におけるハチモドキハナアブ属 3 種の記録．はなあぶ，(8)：55–56.
2　岩井大輔．2002．埼玉県におけるハチモドキハナアブに関する知見．はなあぶ，(14)：11.

写真：弘岡拓人撮影

ニトベベッコウハナアブ　*Volucella linearis* Walker, 1849　ハエ目　ハナアブ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

和歌山県はもとより近隣府県でも発見例が少ない。 大型のハナアブで、ベッコウハナアブに似るが、前翅に縦走する暗色部がある。幼虫はスズメバチ類に寄生し、ハチの幼虫の死体を食す。和歌山県では御坊市で採集された標本がある。

執筆者（弘岡拓人）



参考文献・情報

特になし。

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ツマグロキチョウ　*Eurema laeta* (Boisduval, 1836)　チョウ目　シロチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）

選定理由

本州、四国、九州にやや局地的に分布。キタキチョウに似るが、翅裏に帯状の褐色班があり、前翅端がとがる。また、黒縁の現れ方に差がある。季節的差異は顕著で、夏型は雌雄とも小型。食草は、マメ科のカワラケツメイ。

和歌山県では紀南地方を中心にして県内各地に局地的に分布しているが、河川改修や水湿地の埋立て、また大雨の増水による生息地の破壊、農薬散布の影響等により近年の減少が著しく絶滅が危惧される。



執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1997．紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その 1》．KINOKUNI，(52)：8–11.
2　小島和也．2006．和歌山市田野でツマグロキチョウを採集．KINOKUNI，(69)：19.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
4　吉村輔倫．2005．和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノート－有田地方を中心に－．KINOKUNI，(67)：14–16.

写真：大橋弘和提供

エゾミドリシジミ　*Favonius jezoensis*（Matsumura, 1915）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

北海道から九州まで分布し、本州中部以北の山地には、やや広く分布するが、本州南西部では山地性の傾向が強くなり、個体数も少ない。四国、九州ではこの傾向が著しい。翅頂は *Favonius* 亜属中、最もとがり、雄の尾状突起は最も短い。裏面は雄は灰白色、雌は淡灰色。食樹はブナ科のミズナラ、コナラ等。

和歌山県では、護摩壇山及びその周辺の局限された地域にのみ確認されているが、広葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。なお、果無山系での確認情報もあり、今後注意する必要がある。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1994．1993~1994 年紀伊半島南部の蝶界雑録．くろしお，(13)：29–32.
2　後藤　伸．2001．エゾミドリシジミの斑紋異常型．くろしお，(20)：12.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
4　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
5　吉村輔倫．2005．護摩壇山で採集したミドリシジミ類．KINOKUNI，(67)：23.

写真：金岡晃司提供（県外産）

オオミドリシジミ　*Favonius orientalis*（Murray, 1875）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

北海道から九州まで広く分布するが個体数は一般にあまり多くない。雄翅表外縁の黒帯は *Favonius* 亜属中、最も細い。裏面の地色は灰白色～暗灰色。食樹はブナ科のコナラ、カシワ、クヌギ、アラカシ等。

和歌山県では、県内各地の低山地から護摩壇山山頂や果無山系などの山地帯にまで広く記録があるが、広葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、生息地、個体数とも近年の減少が著しく絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　小島和也．2006．清水町で帯の広いオオミドリシジミを採集．KINOKUNI，(69)：18.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
3　斎藤基樹．2019．和歌山のゼフィルス雑記　最終回　思いつくままあれこれ．KINOKUNI，(95)：13–23.
4　吉田昌男．2016．紀の川市で過去に採集した蝶．KINOKUNI，(90)：12–13.
5　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
6　吉村輔倫．1984．有田地方のチョウの記録．KINOKUNI，(25)：24–27.
7　吉村輔倫．2005．和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノート－有田地方を中心に－．KINOKUNI，(67)：14–16.

写真：金岡晃司提供

ヒサマツミドリシジミ　*Chrysozephyrus hisamatsusanus*（Nagami & Ishiga, 1935）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

本州（中部から西南部）、四国、九州に分布するが、産地は局限される。日本固有種で後翅裏面の白帯は直線状で、その後端はＶ字状。近似種のようなＷ状をなさない。食樹はブナ科のウラジロガシ、イチイガシなど。

和歌山県では、護摩壇山、大塔山系、果無山系等、県中南部を中心に分布するが、産地は局限され、照葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、個体数が減少しており絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料Ⅰ蝶類．南紀生物，37（1）：34–40.
2　後藤　伸．2002．大杉谷・黒蔵谷の蝶類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，133–139，和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　小島和也．2014．ヒサマツミドリシジミを生石高原で採集．KINOKUNI，（86）：11.
4　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
5　的場　績．2005．ヒサマツミドリシジミを採集．KINOKUNI，（68）：12.
6　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
7　斎藤基樹．2015．高標高地におけるヒサマツミドリシジミの記録．KINOKUNI，（88）：9–10.
8　斎藤基樹．2019．和歌山のゼフィルス雑記　最終回　思いつくままあれこれ．KINOKUNI，（95）：13–23.
9　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：大橋弘和提供

キリシマミドリシジミ　*Chrysozephyrus ataxus*（Westwood, 1851）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

本州（中部から西南部）、四国、九州に分布するが、産地は局限される。雄の翅裏は銀白色の地色に褐色の弱い斑紋があり、雌の斑紋は独特で近似のものがない。食樹は主にブナ科のアカガシ。

和歌山県では、護摩壇山、大塔山系、果無山系等、県中南部を中心に分布するが、産地は局限され、照葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により個体数が減少しており絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料Ⅰ蝶類．南紀生物，37（1）：34–40.
2　後藤　伸．2002．大杉谷・黒蔵谷の蝶類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，133–139，和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　後藤　伸・乾風　登・吉田元重．1971．大塔山系の昆虫相．大塔山系の自然，29–30．69pp．大塔山系生物調査グループ，田辺.
4　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
5　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
6　斎藤基樹．2016．和歌山のゼフィルス雑記　第２回　キリシマミドリシジミ．KINOKUNI，（89）：24–38.
7　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：金岡晃司提供（県外産）

クロシジミ　*Niphanda fusca* (Bremer & Grey, 1852)　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

本州、四国、九州にかけて分布するが、産地は局地的である。雄の翅表は暗紫色、雌は暗褐色がふつう。アブラムシやアリと密接な関係をもつ生活史に特色がある。

和歌山県では、県内各地に広く記録があるが、その生息地は極めて局地的で、造林の拡大、農薬散布、また、生息環境が極めて不安定な環境で変遷しやすいこと等から、近年の減少が著しく、絶滅したと思われる産地もある。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料Ⅰ蝶類．南紀生物，37（1）：34–40.
2　後藤　伸．2002．大杉谷・黒蔵谷の蝶類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，133–139，和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
4　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
5　吉田昌男．2016．紀の川市で過去に採集した蝶．KINOKUNI，（90）：12–13.
6　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
7　吉村輔倫．2008．クロシジミの和歌山県、奈良県での最近の記録．KINOKUNI，（74）：29.

写真：大橋弘和提供

クモガタヒョウモン　*Nephargynnis anadyomene* (C. & R. Felder, 1862)　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	–



選定理由

北海道から九州まで各地に広く分布する。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。年１化の大型ヒョウモン類の中では、その出現時期が最も早い。食草は各種のスミレ属植物。

和歌山県では、県内各地に比較的普通に広く分布していたが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、近年は減少が著しく、絶滅したと思われる産地もある。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料Ⅰ蝶類．南紀生物，37（1）：34–40.
2　後藤　伸．1996．すさみ町里野付近の蝶蛾類調査記録．KINOKUNI，（49）：26–31.
3　後藤　伸．1997．紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その 1》．KINOKUNI，（52）：8–11.
4　後藤　伸．2002．大杉谷・黒蔵谷の蝶類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，133–139，和歌山県自然環境研究会，田辺.
5　後藤　伸・乾風　登・吉田元重．1971．大塔山系の昆虫相．大塔山系の自然：29–30．69pp．大塔山系生物調査グループ，田辺.
6　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
7　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
8　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
9　吉村輔倫．2006．クモガタヒョウモンを日高川町で採集．KINOKUNI，（69）：19.
10　吉村輔倫．2020．ヒョウモンチョウ類５種の記録（有田地方 2020 年６月）．KINOKUNI，（97）：12–13.

写真：大橋弘和提供

オオムラサキ　*Sasakia charonda charonda* (Hewitson, 1863)　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



北海道から九州まで広く分布するが、産地は各地で開発等により減少している。雄は前後翅の基半部が紫色に輝くが、雌にはこれがない。日本の国蝶に指定されている。食樹はアサ科のエノキ等。

選定理由　かつては和歌山県内各地に生息していたが、果樹園の開発、都市化、農薬散布の影響等により、減少が著しく、近年は主に紀北地域の限られた場所にのみに生息し、絶滅したと思われる地域も多い。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1994．1993~1994 年紀伊半島南部の蝶界雑録．くろしお，(13)：29–32.
2　秀野義男．1998．オオムラサキの目撃例．KINOKUNI，(53)：24.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
4　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
5　南　敏行．1992．高田中学校校庭の生物（3）蝶類とその成虫の季節消長．みくまの，8：3–11.
6　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
7　吉村輔倫．1984．有田地方のチョウの記録．KINOKUNI，(25)：24–27.

写真：大橋弘和提供

クロヒカゲモドキ　*Lethe marginalis* (Motschulsky, 1860)　チョウ目　タテハチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）



本州、四国、九州に分布。いずれの産地も局地的である。雌雄とも斑紋はほとんど同じであるが、雌は雄に比べ翅形が幅広く地色は淡色、前翅の斜白帯はより明瞭である。クロヒカゲ、ヒカゲチョウに類似するが、前翅裏面亜外縁の 1 列に並ぶ 3 個（場合によっては 4 個）の眼状紋列は大型で、第 3 室の眼状紋が最大となる。類似 2 種は通常第 5 室の紋が最大となる。幼虫の食草はイネ科、カヤツリグサ科。

選定理由

和歌山県では局地的ではあるが、各地に広く分布していた。拡大造林や果樹園開発、農薬散布等による生息環境の悪化、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、近年は産地、個体数とも減少が著しく、絶滅したと思われる産地もある。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料Ⅰ蝶類．南紀生物，37 (1)：34–40.
2　後藤　伸・乾風　登・吉田元重．1971．大塔山系の昆虫相．大塔山系の自然，29–30．69pp．大塔山系生物調査グループ，田辺.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
4　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
5　吉田元重．2010．護摩壇山山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.
6　吉村輔倫．2005．和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノート－有田地方を中心に－．KINOKUNI，(67)：14–16.

写真：金岡晃司提供（県外産）

ミヤマセセリ　*Erynnis montanus*（Bremer, 1861）　チョウ目　セセリチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

北海道から九州まで、ほぼ日本全土に分布する。雌雄とも斑紋はほとんど同じであるが、雄には前翅前縁基半に反り返った性標がある。年１回、春の訪れとともに出現する。食樹はブナ科のコナラ、クヌギ等。

和歌山県では、全県内、低山地から護摩壇山等の山間地域まで広く分布するが、森林の伐採、造林の拡大等により、近年は産地、個体数とも減少が著しい。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　乾風　登．1986．日高郡南部町で 1984 年に観察した蝶類．KINOKUNI，(30)：6–9.
2　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料 I 蝶類．南紀生物，37 (1)：34–40.
3　後藤　伸．1996．すさみ町里野付近の蝶蛾類調査記録．KINOKUNI，(49)：26–31.
4　後藤　伸・乾風　登・吉田元重．1971．大塔山系の昆虫相．大塔山系の自然：29–30．69pp．大塔山系生物調査グループ，田辺.
5　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
6　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.
7　吉田昌男．2016．紀の川市で過去に採集した蝶．KINOKUNI，(90)：12–13.
8　吉村輔倫．1984．有田地方のチョウの記録．KINOKUNI，(25)：24–27.

写真：大橋弘和提供（県外産）

オオチャバネセセリ　*Polytremis pellucida*（Murray, 1875）　チョウ目　セセリチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

全国的に見て東北日本に多く、西南日本には個体数の少ない種であるが、最近は、全国的に減少傾向にある。雌雄とも色彩、斑紋はほとんど同じで前後翅表面の地色は黒味をおびた茶褐色、裏面は赤みをおびた黄土色となり、白斑がある。飛翔は敏速で、幼虫の食草はタケ類等のイネ科植物。

かつては、和歌山県内に広く採集記録があったが、最近まで確認されていた岩出市周辺でも見かけることが難しくなってきた。なお、ごく最近、有田川町で確認された。ただ、ここ数年は山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、生息が確認できない地域も多い等、生息地、個体数とも減少しており、絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料 I 蝶類．南紀生物，37 (1)：34–40.
2　後藤　伸．1997．紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その 1》．KINOKUNI，(52)：8–11.
3　秀野義男．1989．和歌山市周辺のオオチャバネセセリ．KINOKUNI，(36)：29.
4　北畑雅弘．1987．海南市小野田の蝶．KINOKUNI，(31)：29–30.
5　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
6　吉村輔倫．2020．有田地方で確認したチョウ類９種．KINOKUNI，(97)：10.

写真：大橋弘和提供（県外産）

ミヤマチャバネセセリ　*Pelopidas jansonis* (Butler, 1878)　チョウ目　セセリチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

全国的には、本州、四国、九州に広く産するが稀な種。雌雄とも色彩、斑紋はほとんど同じで前後翅表面の地色は黒褐色、裏面は赤みをおびた褐色となり、白斑がある。また、後翅裏面中室に顕著な銀白色の紋がある。飛翔は活発で、幼虫の食草は主にイネ科のススキ。

和歌山県では県内に広く分布しているが、局地的で、近年は山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカなどの食害による食草の減少等により、生息地、個体数とも減少が著しく、絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1995．果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料 I 蝶類．南紀生物，37 (1)：34–40.
2　後藤　伸．1997．紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その 1》．KINOKUNI，(52)：8–11.
3　北畑雅弘．1987．海南市小野田の蝶．KINOKUNI，(31)：29–30.
4　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
5　吉村輔倫．2008．有田地方のミヤマチャバネセセリ．KINOKUNI，(74)：28.
6　吉村輔倫．2020．有田地方で確認したチョウ類 9 種．KINOKUNI，(97)：10.

写真：金岡晃司提供

メンガタスズメ　*Acherontia styx medusa* Moore, 1858　チョウ目　スズメガ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

胸背に人面模様がある。前翅の黒と後翅の黄色のコントラストが美しい大型のガである。以前はナス科作物の害虫として畑地でよく見られたが、近年は近似種のクロメンガタスズメの侵入により駆逐されたのか、全く見られなくなった。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　坂口勝彦．1949．紀北の一隅橋本高校付近の鱗翅目について．紀州昆虫，1 (4)：69–75.

写真：小島和也提供

サツマニシキ本土亜種　*Erasmia pulchella nipponica* Inoue, 1976　チョウ目　マダラガ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

昼行性の美しい蛾。成虫は年 2 化性で 6 月と 9 月に現れる。幼虫はヤマモガシの葉を食べる。

紀伊半島が分布の北限で、和歌山県では紀南地方の照葉樹林で普通に見られるが、近年減少しているようである。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　村瀬ますみ・的場　績．1998．和歌山県産蛾既報の整理．KINOKUNI，Suppl. 1，120pp．和歌山昆虫研究会，湯浅．

写真：大橋弘和提供

ムラサキシタバ　*Catocala fraxini jezoensis* Matsumura, 1931　チョウ目　ヤガ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

Catocala 属で後翅が紫青色の横帯になる唯一の種。幼虫はヤマナラシを食う。

和歌山県では護摩壇山と高野山で発見されているが、高野山では 1 例のみ。護摩壇山では数例の発見がある。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．2009．高野山に於けるムラサキシタバの記録．KINOKUNI,（75）：13.
2　植田広行．1999．和歌山県でムラサキシタバを採集．KINOKUNI,（12）：11.

写真：有本　智提供

ムカシヤンマ　*Tanypteryx pryeri*（Selys, 1889）　トンボ目　ムカシヤンマ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

全長 80 mm 程。雌雄ともに腹部に黄色の小さな斑紋を備える。幼虫の生息環境が特異であり、丘陵地や山地の樹林内の、水が染み出し、コケで覆われた崖の穴の中で生活する。和歌山市、海南市、紀の川市（旧貴志川町・旧桃山町）、紀美野町（旧野上町・旧美里町）、串本町、九度山町、高野町、古座川町、新宮市、田辺市、那智勝浦町、橋本市、みなべ町（旧南部川村）から記録があり、白浜町からも得られているが、生息地は局地的で個体数は少ない。開発による生息環境の改変によって減少していると考えられるが、和歌山県における分布は広いため、新たな生息地の発見が期待される。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良．
2　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息状況　レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について．KINOKUNI,（76）：1-8.
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について（2）．KINOKUNI,（78）：1-7.

写真：金岡晃司提供

ホンサナエ　*Shaogomphus postocularis postocularis*（Selys, 1869）　トンボ目　サナエトンボ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

全長 55 mm 程。雌雄ともに体形は太短い。幼虫は河川中流域の砂泥底に生息する。橋本市において、2010 年代に目撃記録が 1 例あるのみ。開発による生息環境の改変によって減少している可能性があるものの、紀の川および貴志川で幼虫が、橋本市で成虫が記録されている。

執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報

1　国土交通省河川水辺の国勢調査　河川環境データベースシステム　近畿地方．http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_86_index.html（2022 年 10 月 1 日参照）
2　南　敏行．2017．橋本市でホンサナエを撮影記録．KINOKUNI,（92）：4.
3　尾園　暁・川島逸郎・二橋　亮．2013．ネイチャーガイド　日本のトンボ．531pp．文一総合出版，東京．

写真：山本哲央提供（県外産）

エゾエンマコオロギ　*Teleogryllus inferalis* (Saussure, 1877)　バッタ目　コオロギ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

エンマコオロギに近似の大型のコオロギ。本州では河川敷の草地に生息する。

滋賀県・福井県以北に生息し、飛び石的にかつらぎ町紀の川から、採集されたのみである。かつらぎ町の記録は本種の南限にあたるが、雄１個体が採集されただけなので、再発見が望まれる。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報

1　市川顕彦・村井貴史・本田恵理．2000．総説・日本のコオロギ．ホシザキグリーン財団研究報告，4：257–332.

写真：村井貴史提供（県外産，バッタ・コオロギ・キリギリス鳴き声図鑑より転載）

ハマスズ　*Dianemobius csikii* (Bolívar, 1901)　バッタ目　ヒバリモドキ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

砂に隠蔽擬態するヒバリモドキ科昆虫。

東アジア～日本列島の海岸、大河川の砂地に生息し、日本列島では近年各地で激減・絶滅している。和歌山県では和歌山市、岩出市、田辺市から古い記録がある。古い記録のなかには同定に疑わしいと考えられるものもある。再調査が望まれる種である。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報

1　北尾陽左右．1941．和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類．関西昆虫学会会報，11（1）：49–54.
2　小川忠宏．1991．紀北地方の鳴く虫展望　第４回．KINOKUNI，（40）：1–7.
3　富永　修．1998．後藤コレクションⅡ＜南紀の直翅類＞．ばったりぎす，（119）：48–50.

写真：酒井雅博提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

オオアシナガサシガメ　*Gardena malinarthrum* Dohrn, 1860　カメムシ目　サシガメ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

体は細長く、脚も極めて細長い。前脚は鎌状に変化している。

和歌山県ではかつらぎ町（旧花園村）で採集された１例のみで、その後の記録はなく、近似のセスジアシナガサシガメの誤認の可能性もある。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

特になし。

フタボシツチカメムシ　*Adomerus biguttulus* (Motschulsky, 1860)　カメムシ目　ツチカメムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−

選定理由

小型種で、ミツボシツチカメムシに類似するが、小楯板の白斑は２個のみである。土壌性のカメムシで、東日本に分布するが、和歌山県では由良町黒島で採集された１例があるのみである。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1999．和歌山県産カメムシの再録及び追補２［マルカメムシ科、ツチカメムシ科］．KINOKUNI，（56）：1–6.

写真：南葉錬志郎提供（県外産）

ヒトツメアオゴミムシ　*Callistoides deliciolus* (Bates, 1873)　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

小型のアオゴミムシ類で、前胸は褐色。翅端近くに褐色の紋が一つある。本県では新宮市とみなべ町、湯浅町で発見されており、湯浅町では集団越冬していた。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　土井邦江・的場　績．2019．みなべ町の甲虫（その 2）．KINOKUNI，(96)：33–34.
2　南　敏行．1985．新宮・東牟婁地方のアオゴミムシについて．みくまの，8：3–11.

写真：武智礼央提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

ウミミズギワゴミムシ　*Sakagutia marina* S. Ueno, 1955　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

体は平たく、潮間帯砂利浜に棲み、砂礫中に潜っている。

白浜町の海岸で記録されているが、この産地では絶滅したと言われている。採集方法が分かり、各地で採れるようになり、本県でもすさみ町で新たな生息地が発見された。調査が進めば他でも発見されるものと思われる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　初宿成彦．2012．大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録（2）ゴミムシ科、カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属、ハムシ科．372pp．大阪市立自然史博物館所蔵資料目録 第 44 集，大阪.
2　田中昭太郎．1984．和歌山県とその周辺の歩行虫（1）．KINOKUNI，(26)：18–20.

写真：酒井雅博提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

コガタノゲンゴロウ　*Cybister tripunctayus orientaris* Gschwendtner, 1931　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

図鑑では和歌山県産の標本の存在が示唆されているが、確実な記録はなく、過去の分布はよく分かっていないので、絶滅したものと判断したが、近年新宮市と田辺市で発見された。

近年、和歌山県外でも本種の分布が急速に拡大しており、その影響で県内に侵入してきたのか、県内で残存していた個体なのか判断が難しい。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　浜際康太．2016．県内絶滅のコガタノゲンゴロウを新宮市で記録．KINOKUNI，(90)：1.
2　森　正人・北山　昭．1993．図説日本のゲンゴロウ．28．217pp．文一総合出版，東京.

写真：和歌山県立田辺高等学校・中学校生物部提供

ウスイロシマゲンゴロウ　*Hydaticus rhantoides* Sharp, 1882　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−



選定理由

体長 1 cm 程の種で、体背面は赤褐色。上翅には一面に黒点を有するが、目立った斑紋はない。主に和歌山県南部の池沼に見られるが、近年生息地が少なくなっている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　土井邦江・的場　績．2019．みなべ町の甲虫（その 2）．KINOKUNI，(96)：33–34.
2　的場　績．2011．和歌山県産甲虫類分布資料 24．KINOKUNI，(79)：11–13.
3　的場　績．2019．和歌山県産甲虫類分布資料 36．KINOKUNI，(96)：35–36.

写真：松野茂富提供

マルチビゲンゴロウ　*Leiodytes frontalis* (Sharp, 1884)　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

体長 2 mm 程の微小ゲンゴロウで、短卵形、黄赤褐色で光沢がある。前胸後縁にはハの字状の溝があり、そのまま上翅前縁の逆ハの字状の溝につながる。田辺市、白浜町、日高町、有田川町（旧金屋町）、和歌山市友ヶ島で採集されているが、確実な記録が少ない。特に近年の採集例が少なくなっている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　御勢久右衛門．1955．友が島の水生昆虫．Nature Study．臨時増刊：19–21.
2　的場　績．1992．ベルレーゼ法で採集した甲虫類 I．KINOKUNI，(42)：28.
3　田中昭太郎．2004．白浜町しらさぎ橋付近のゲンゴロウ 2 種の記録．KINOKUNI，(51)：15.

写真：渡部晃平提供（県外産，愛媛県レッドデータブックより転載）

ヤマトモンシデムシ　*Nicrophorus japonicus* Harold, 1877　コウチュウ目　シデムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

大型のシデムシで、黒色、上翅には赤橙色の紋が前方に 2 紋、後方に 2 紋ある。人里の虫と言われ、市街地や、畑地周辺に見られ、山間部には見られない。全国的に減少傾向にあり、多くの府県で絶滅危惧種に選定されている。

和歌山県には分布記録がなく、生息状況が不明であったが、大阪市立自然史博物館所蔵標本の中に、高野山産の標本がある。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　初宿成彦．2014．大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録（3）シデムシ科 1、コガネムシ上科、食糞群、ヨーロッパ東部産オサムシ科、コメツキムシ科 1．200pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第 46 集，大阪.

写真：田中　稔提供（県外産）

アカマダラセンチコガネ　*Netochodaeus maculatus maculatus* (Waterhouse, 1875)　コウチュウ目　コガネムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

林縁を低く飛翔することが多く、糞には誘引されない。近年採集方法が明らかになり、各地で採集されているが、和歌山県内では殆ど採れていない。しかも、和歌山県内における正式な記録は見当たらない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

特になし。

写真：的場　績撮影

アカヘリミドリタマムシ　*Bprestis splendens niponica* Hoscheck, 1931　コウチュウ目　タマムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

金属光沢の緑色の体で銅赤色に縁取られる美麗種。アカマツやヒメコマツに寄生する。全国的な稀少種で、近畿地方では、京都府と兵庫県、奈良県で発見されており、京都府では絶滅、兵庫県では要調査種、奈良県では稀少種に選定されている。

2018 年に田辺市（旧本宮町皆瀬川）林道で 1 頭が発見されているのみで、和歌山県内における分布の様子や生息数の多寡等、全く分かっていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．2018．田辺市でアカヘリミドリタマムシを採集．KINOKUNI，(94)：13.

写真：平松広吉提供

オオムツボシタマムシ　*Chrysobothris ohbayashii* Y. Kurosawa, 1948　コウチュウ目　タマムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

日本産ムツボシタマムシ属では最大の種。紫銅色で、鈍い金属光沢があり、上翅には 3 対の金緑色紋を持つ。

和歌山県では、2014 年に田辺市（旧本宮町）で発見され、2020 年に橋本市で多数発見されている。本種はクヌギやコナラの伐採木に飛来するが、伐採 1 年目の材に限り、2 年目にはほとんど飛来しない。従って継続的に本種の発生を確認することは難しい。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　平松広吉．2014．田辺市でオオムツボシタマムシを採集．KINOKUNI，(85)：18.

2　児玉　洋．2020．和歌山県橋本市の宅地造成地で採集された興味ある甲虫類．KINOKUNI，(98)：1–4.

写真：的場　績撮影

シロウズツヤケシコメツキ　*Megapenthes shirozui shirozui* Kishii, 1959　コウチュウ目　コメツキムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−



選定理由

屋久島から北海道まで各地で記録されているが稀少種である。多くの亜種に分けられ、本土産は本土亜種として区別されている。

和歌山県では 1972 年に護摩壇山で採集されて以降、全く採集されていない。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績・平松広吉．1974．和歌山県産コメツキムシ科目録 Ⅱ．南紀生物，16 (1)：18–22.
2　大平仁夫．1973．コメツキ雑記（Ⅰ）．昆虫と自然，8 (9)：20–21.
写真：平松広吉提供（県外産）

トゲウスバカミキリ　*Spinimegopis nipponica nipponica* (Matsushita, 1934)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

比較的大型のカミキリムシ。体は赤褐色で、上翅は前胸よりも黄色が強い。前胸背側縁には前方と後方に顕著なトゲ状突起がある。

琉球列島から九州、四国、八丈島に分布し、本州では那智勝浦町で採集された 1 頭のみが知られている。その後も何度か調査しているが、追加採集は出来ていない。

幼虫はソヨゴ、モチノキ、ツゲモチ等の枯れ木に付く。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　小島和也．2017．トゲウスバカミキリを那智勝浦町で採集．KINOKUNI，(92)：11.
写真：小島和也提供

アカジマトラカミキリ　*Anaglyptus bellus* (Matsumura & Matsushita, 1933)　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−



選定理由

赤色と黒色の帯模様の美しい種で、8 月下旬から 9 月末にかけて出現する。ケヤキの枯れ枝や伐採木上に飛来するが、ケヤキのそばのイタドリの花に来ることも知られている。

和歌山県では高野山で採集された記録があるのみ。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　奈良　一．1981．和歌山県の天牛雑録（その 13）．KINOKUNI，(20)：11–15.
写真：的場　績撮影（県外産）

ミヤカワハナゾウムシ　*Anthonomus miyakawai* Kojima & Morimoto, 1994　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

褐色の体に白色紋の目立つ綺麗なゾウムシで、日本で３頭しか記録の無い極めて稀少なハナゾウムシである。３頭のうち１頭が田辺市（旧本宮町）で 2013 年に採集されている。その後も何度か調査しているが、再発見できていない。

生態は全く不明で、寄主植物も不明である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．2014．ゾウムシ雑記 36 ハナゾウムシ三題．KINOKUNI，（85）：19–21.

写真：的場　績撮影

ニホンアミカモドキ　*Deuterophlebia nipponica* Kitakami, 1938　ハエ目　アミカモドキ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

全国的に減少傾向にある種で、和歌山県における確認例は少ない。体長 2~3 mm、体は淡暗褐色、口器は退化消失し、翅には網状に発達したしわ状の線がある。雄成虫の触角は非常に長くなる。田辺市（旧本宮町）から記録されているが、和歌山県における発見例は少なく、知見の蓄積が少ないため、分布の状況は不明である。山間部の清流中に幼虫が生息する。和歌山県の記録は成虫の確認ではないので、マルハナノミ科コウチュウの幼虫を誤同定した可能性がある。

執筆者（弘岡拓人・松野茂富）

参考文献・情報

1　乾風　登．1972．大塔山系の水生昆虫．大塔山系の自然Ⅲ，49–62．86pp．大塔山系生物調査グループ，田辺.
2　乾風　登・弓場武夫．2002．大杉谷・黒蔵谷の水生昆虫目録大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告書．119–122pp．和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　竹本和哉．1972．黒蔵谷（中・下流）の水生昆虫とその現存量．大塔山系の自然Ⅲ，65–69．86pp．大塔山系生物調査グループ，田辺.

シロスジナガハナアブ　*Milesia undulata* Vollenhoven, 1863　ハエ目　ハナアブ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

丘陵地から山地まで広く分布するが、和歌山県内における個体数は多くはない。幼虫は樹木の腐朽部に生息するものと考えられる。個体群の今後の動向に注意を払う必要がある。

執筆者（弘岡拓人）



参考文献・情報

1　林　成多．2004．シロスジナガハナアブを有馬富士山頂で観察．はなあぶ，（17）：93.
2　飯嶋一浩．2000．シロスジナガハナアブの擬態について．はなあぶ，（11）：79.

写真：弘岡拓人撮影

スズキナガハナアブ　*Spilomyia suzukii* Matsumura, 1916　ハエ目　ハナアブ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

やや稀な種であり、生態に関する情報が少ない。成虫はアカメガシワ等の花に飛来する。また、典型的なハチ擬態の種として学術的にも貴重である。個体群の今後の動向に注意を払う必要がある。

執筆者（弘岡拓人）



参考文献・情報

1　桂　考次郎．1999．蜂が刺すように腹部を曲げるスズキナガハナアブ．はなあぶ，(7)：52.
2　大原賢二．1997．コガタスズメバチに捕らえられたスズキナガハナアブ．はなあぶ，(4)：21-23.

写真：弘岡拓人撮影

ウスイロオナガシジミ　*Antigius butleri*（Fenton, 1882）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

北海道、本州、九州に分布。多産する地域もあるが、一般に個体数は少ない。食樹は主にブナ科のミズナラ、コナラ等。アラカシやウラジロガシより幼虫が採集された記録もある。

和歌山県では、1954 年に護摩壇山で採集されてから長らく記録がなかったが、最近、古座川町で記録された。本州での分布南限地の一つで、特に古座川町では落葉広葉樹の少ない地域に生息している。記録された個体数が少なく、減少しているかどうかは不明である。



執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　磯崎立之．2015．和歌山県南部でウスイロオナガシジミ♂を採集．季刊ゆずりは，(64)：63.
2　吉田昌男．2005．和歌山県における蝶類の採集記録 2 種．KINOKUNI，(66)：11.

写真：金岡晃司提供（県外産）

ウラミスジシジミ　*Wagimo signatus*（Butler, 1882）　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

北海道から九州まで全国的に分布は広いが産地は局地的で一般に少ない種である。食樹はブナ科のカシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワ、ウラジロガシ等。

和歌山県では、2006 年にかつらぎ町で採集されてから記録がなかったが、最近、和歌山市、海南市、紀の川市で記録された。記録された個体数が少なく、減少しているかどうかは不明である。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報

1　船本雅治．2007．和歌山県でウラミスジシジミを採集．蝶研フィールド，22 (3)：38.
2　金岡晃司．2020．和歌山県内でウラミスジシジミを撮影．KINOKUNI，(97)：9.
3　小島和也．2016．ウラミスジシジミを和歌山市で採集．KINOKUNI，(90)：8.

写真：金岡晃司提供

シルビアシジミ　*Zizina otis* (Fabricius, 1787)　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

関東地方以南に分布する。ヤマトシジミに似るが、一般的により小型で、雄の翅表の色調はさらに紫色を帯び、裏面の斑紋の配列が異なる。食草は主にマメ科のミヤコグサ。

和歌山県では、かつては県内各地に広く分布していたが30年近く採集記録が途絶え、絶滅したと考えられてきた。2010年頃から県中部の一部地域で確認されはじめ、現在も発生している。現在発生している個体が他地域の個体の人為的な放蝶によるものか、自然状態で細々と残存していたものが復活してきたのか判断が難しい。

なお、全国的には絶滅した産地も多く、近年減少の著しい種の一つである。

執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1950．昆虫界短報．南紀生物，2（2）：78.
2　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，（51）：17–43.
3　吉村輔倫．1984．有田地方のチョウの記録．KINOKUNI，（25）：24–27.

写真：大橋弘和提供

ツシマキモンチラシ　*Eterusia watanabei* Inoue, 1982　チョウ目　マダラガ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

オキナワルリチラシに似るが斑紋が異なる。幼虫はヒサカキを食し、成虫は6月中旬から7月上旬に出現する。成虫はクリの花やアカメガシワの花に吸蜜に飛来する。

高野山で唯1頭採集されている。本種は、高野山で発見されるまでは、対馬特産種と考えられていた。的場（1996）は偶産種ではないかと報告しているが、大和田（1998）は本種は飛翔力が弱く、和歌山県で発生している可能性が高いと報告している。その後、広島県で連続して発見されている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報

1　的場　績．1996．ツシマキモンチラシを高野山で採集．KINOKUNI，（49）：10.
2　大和田　守．1998．ツシマキモンチラシとその仲間たちの斑紋　小蛾類の生物学．102–108．233pp．日本文教出版，東京.

写真：的場　績撮影

オオシロシタバ　*Catocala lara* Bremer, 1861　チョウ目　ヤガ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本属では大型の種で、後翅に白い帯があるのが特徴。北海道から九州に生息し、近畿地方以西では極めて少ない。

和歌山県に於いても、2016年8月に護摩壇山で採集された標本が1個体知られているのみである。その後も何度か調査されているが、再発見されていない。

幼虫はシナノキ属を食べる。護摩壇山にも少ないながらシナノキが生育しているので、遇産種ではないと思われる。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報　1　小島和也．2016．オオシロシタバの記録．KINOKUNI，(90)：10.
写真：小島和也標本

コサナエ　*Trigomphus melampus* (Selys, 1869)　トンボ目　サナエトンボ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

全長 45 mm 程。胸部側面の黒条は 1 本。平地から丘陵地にかけての湿地やため池に生息する。串本町、田辺市（旧本宮町）、古座川町、那智勝浦町、太地町から記録されているが、和歌山県南部に限られる。串本町が本種の分布南限及び太平洋側での分布西限である。



執筆者（南　敏行・松野茂富）

参考文献・情報
1　乾風　登．1996．和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本．KINOKUNI，(49)：15-19.
2　関西トンボ談話会．2006．近畿のトンボ（データ編）．102pp．関西トンボ談話会，奈良.
3　南　敏行．2009．和歌山県南部のトンボ生息近況　レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について(2)．KINOKUNI，(78)：1-7.
4　尾園　暁・川島逸郎・二橋　亮．2013．ネイチャーガイド　日本のトンボ．531pp．文一総合出版，東京.
写真：松野茂富撮影

ウルシゴキブリ　*Periplaneta japanna* Asahina, 1969　ゴキブリ目　ゴキブリ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

日本固有種で、紀伊半島から南西諸島まで分布する。クロゴキブリに似るが、漆のような黒色で区別できる。野外性の種で、冬期は乾燥した朽ち木内で越冬する。和歌山県ではみなべ町鹿島と由良町黒島に生息することが知られている。本州における生息地は和歌山県のみである。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報
1　的場　績．1987．ウルシゴキブリの発見．南紀生物，29 (2)：83.
2　的場　績．1990．和歌山県のゴキブリ．自然博物館だより，8 (2)：6.
写真：的場　績撮影

キイフキバッタ　*Parapodisma hiurai* Tominaga & Kanô, 1987　バッタ目　バッタ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

紀伊半島固有（和歌山県・三重県・奈良県のみに分布）の短翅型バッタ。近似種が多く、腹部末端の交尾器等で識別できる。森林のソデ群落、マント群落に生息する。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報
1　加納康嗣．1987．名張市周辺のミヤマフキバッタ (4)．ひらくら，31 (1)：1-5.
2　中尾史郎・小林怜史・谷川寛樹・神吉紀世子．2010．紀伊半島北部におけるミヤマフキバッタ属とダイリフキバッタ属（バッタ目、フキバッタ亜科）の分布．南紀生物，52 (1)：66-69.

参考文献・情報
3　富永　修・加納康嗣．1981．近畿地方から発見されたミヤマフキバッタ属の一新種．越佐昆虫同好会会報，(64)：29–38.
写真：伊藤ふくお提供（県外産，バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

オガサワラクビキリギス　*Euconocephalus nasutus* (Thunberg, 1815)　バッタ目　キリギリス科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

クビキリギスに近縁。日本列島～東南アジアに広く分布、南西諸島には比較的多いが本州で確実に定着しているのは、和歌山県のみである。

和歌山県では広川町、印南町、田辺市、白浜町、串本町及び古座川町から記録がある。



執筆者（河北　均）

参考文献・情報
1　細井孝昭．1999．紀伊半島南部　古座川～大島直翅類リスト．ばったりぎす，(121)：16–17.
2　河北　均．2007．田辺市元島 11 月の直翅目 2 種．KINOKUNI，(72)：22–23.
3　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．[照葉樹林にすむ昆虫たち]．256pp．紀伊民報，田辺.
4　松野茂富．2016．あ！オガサワラクビキリギス．自然博物館だより，39 (1)．6.
5　松野茂富．2022．オサガワラクビキリギスを探せ！．自然博物館だより，40 (1)．2.
6　富永　修．1998．後藤コレクション II ＜南紀の直翅類＞．ばったりぎす，(119)：48–50.
写真：松野茂富提供

コウヤササキリモドキ　*Kinkiconocephalopsis koyasanensis* (Kanô, 1987)　バッタ目　ササキリモドキ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

温帯林上部～ブナ帯に生息する。近似種が多く雄の交尾器等で識別される。

紀伊半島西部（和歌山県・奈良県）の固有種。和歌山県では模式産地の高野山周辺から記録されている。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報
1　細井孝昭．1999．紀伊半島中央部の直翅類の記録．ばったりぎす，(121)：15.
2　市川顕彦．2019．鳴く虫の記録 2018 前半．ばったりぎす，(162)：59–60.
3　Kanô, Y. 1987. A new species of the genus *Tettigoniopsis* (Orthoptera, Tettigoniidae) from Japan. Akitu, New Series, 84：1–5.
4　加納康嗣・富永　修・田畑郁夫・別府隆守・石川　均・村井貴史・三時輝久・河北　均・豊嶋　弘・高橋耕司．1999．日本の短翅ササキリモドキ類（直翅目，キリギリス科，ヒメツユムシ亜科）．Tettigonia，1 (2)：1–81.
5　村井貴史・伊藤ふくお．2011．バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑．449pp．北海道大学出版会，札幌.
6　日本直翅類学会．2006．バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑．687pp．北海道大学出版会，札幌.
写真：村井貴史提供（バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

オオアリツカコオロギ　*Myrmecophilus gigas* Ichikawa, 2001　バッタ目　アリツカコオロギ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

ムネアカオオアリの巣中に寄生する種。

海草郡紀美野町を模式産地として新種記載された。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報
1　Ichikawa, A. 2001. New species of Japanese crickets (Orthoptera：Grylloidea) with notes on certain taxa. Tettigonia, 3：45–58.
写真：村井貴史提供（県外産，バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

タイワンエンマコオロギ　*Teleogryllus occipitalis* (Audinet-Serville, 1839)　バッタ目　コオロギ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

エンマコオロギに近似の大型のコオロギ。西南日本にも分布するが、紀伊半島が北限。和歌山県南部に広く分布する。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報

1　柳原浩良．2000．周参見駅付近のタイワンエンマコオロギ．ばったりぎす，(123)：51–52.

写真：松野茂富提供

クロヒバリモドキ　*Trigonidium cicindeloides* Rambur, 1839　バッタ目　ヒバリモドキ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

キアシヒバリモドキと混同されることが多い。海岸等の疎らな草地に生息する。

本種は南西諸島～台湾に生息し、飛び石的に本州の和歌山県と大阪府に分布記録がある。和歌山県内では、御坊市、美浜町から記録されている。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報

1　市川顕彦．1995．和歌山県でクロヒバリモドキがとれている．ばったりぎす，(105)：29.
2　市川顕彦．2016．和歌山県美浜町でもヤマトマダラバッタは見つからなかった．ばったりぎす，(153)：9–10.
3　市川顕彦．2020．大阪府大正区千島公園でクロヒバリモドキを採集．ばったりぎす，(163)：9–35.

写真：村井貴史提供（県外産，バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

コウヤナナフシ　*Phraortes koyasanensis* Shiraki, 1935　ナナフシ目　トビナナフシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

エダナナフシ、クマモトナナフシ及び未記載の近似種が多く、区別は難しい。

高野山が模式産地。和歌山県の他、奈良県及び徳島県から記録されている。

執筆者（河北　均）



参考文献・情報

1　日本直翅類学会．2016．日本産直翅類標準図鑑．384pp．学研プラス，東京.

写真：中村　進提供

ゴトウヒサゴナガカメムシ　*Mizaldus gotoi* (Hidaka, 1960)　カメムシ目　ナガカメムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

体長３ mm 程の微少種。捕食性のカメムシで、紀伊半島南部と四国に分布する。枯れ木や落葉層の中に生息する。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1964．紀州の異翅半翅目昆虫Ⅱ（2）ナガカメムシ科．南紀生物，6（2）：46–51.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ミナミオオヘリカメムシ　*Molipteryx asahinai* Kikuhara, 2006　カメムシ目　ヘリカメムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

オオヘリカメムシに似るが生殖器及び体型・触角第４節は第３節よりも短いことにより区別できる。紀伊半島が分布の北限になり、ホウロクイチゴに寄生する。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．2000．虫たちの熊野．［照葉樹林にすむ動物たち］．256pp．紀伊民報，田辺.
2　Kikuhara, Y. 2006. A new species of the genus *Molipteryx* from Japan (Hemiptera, Coreidae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 12 (2)：231–238.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ニシキキンカメムシ　*Poecilocoris splendidulus* Esaki, 1935　カメムシ目　キンカメムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

キンカメムシ科の中でも最も美しい種で、生息地は少なく、全国に数カ所が知られているのみ。食餌植物はツゲで、石灰岩、蛇紋岩など塩基性岩石地帯に生息している。年による発生個体の増減が著しく、生息地でも毎年発見できるとは限らない。

和歌山県では紀美野町黒沢山、広川町霊巌寺、和歌山市加太で発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　後藤　伸．1966．紀州の異翅半翅目昆虫Ⅲ．南紀生物，8（2）：58–64.
2　後藤　伸．1971．ニシキキンカメムシの再発見．南紀生物．13（1）：19.
3　的場　績．2001．ニシキキンカメムシの新産地．KINOKUNI，（60）：16.
4　吉田元重．1975．再びニシキキンカメムシについて．南紀生物，17（1）：33.

写真：的場　績撮影

シラハマナガゴミムシ　*Pterostichus kiiensis* Morita & Ohkura, 1988　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

白浜町行徳山を模式産地に記載された種で、県南部の低山地から山地にかけて広く分布する。ナガゴミムシのグループはよく似た種が多く、区別は困難。紀伊半島固有種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　Morita, S. & Ohkura, M. 1988. Two new pterostichine carabids from the Kii Peninsula, central Japan (Coleoptera, Carabidae). Entomological Review of Japan, 43 (1) : 25-32.

写真：松野茂富提供

オオダイオオナガゴミムシ原名亜種　*Pterostichus biexcisus biexcisus* Straneo, 1955　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

体長 2 cm 以上もある大型のナガゴミムシ。護摩壇山から那智山にかけての山地帯のガレ場に生息している。近年減少傾向にある。紀伊半島固有亜種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　田中昭太郎．1984．和歌山県とその周辺の歩行虫（1）．KINOKUNI，（26）：18-20.

写真：松野茂富提供（県外産）

オオダイナガゴミムシ　*Pterostichus ohdaisanus* Nakane, 1963　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

体長 1.5 cm 程の黒色のゴミムシ。前胸背の側縁は強く弧状。紀伊半島固有種で、護摩壇山や果無山脈の森林林床で発見される。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　初宿成彦．2012．大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録（2）　ゴミムシ類、カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属、ハムシ科．372pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第 44 集，大阪.

写真：松野茂富提供

コモリヒラタゴミムシ　*Nipponagonum amphinomum* (Bates, 1883)　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

紀伊半島固有種で、体長は 1 cm 程。後翅が退化した種で、湿潤な落葉層から発見される。高野山、護摩壇山、大塔山等で発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　秋田勝巳．1996．和歌山県古座川町平井で得た甲虫類．南紀生物．40 (2)：195–197.
2　吉田元重．2010．護摩壇山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：一般財団法人 自然環境研究センター提供

ナガツヤヒラタゴミムシ　*Synuchus picicolor* Lindroth, 1956　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

紀伊半島固有種で、ホソツヤヒラタゴミムシに似るが、上翅端は尖らず、第 3 間室孔点が 1 個であるため、同属の他種と区別できる。立ち枯れ樹の間隙に潜んでいることが多い。高野山、護摩壇山、日高川町白馬山等、標高の高い山地に多いが、低山地でも見られる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．2007．和歌山県産甲虫類分布資料 16．KINOKUNI，(71)：22–24.
2　吉田元重．2010．護摩壇山系の昆虫．KINOKUNI，Suppl. 2, 83pp．和歌山昆虫研究会，湯浅.

写真：一般財団法人 自然環境研究センター提供

ナガホラアナヒラタゴミムシ　*Jujiroa elongata* S. Ueno, 1955　コウチュウ目　オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

地中性のゴミムシで、体長は 1.1～1.2 mm 程。複眼は小さく体は扁平。分布状況は不明。紀伊半島固有種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　田中昭太郎．1981．ナガホラアナヒラタゴミムシ発見さる．KINOKUNI，(19)：18.

写真：松野茂富提供（県外産）

ナチセスジゲンゴロウ（トモクニセスジゲンゴロウ） *Copelatus tomokunii* M. Satô, 1985　コウチュウ目　ゲンゴロウ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	－

選定理由

那智妙法山を模式産地として記載された種で、原記載以降、白浜町以南、那智山周辺にかけて記録され、個体数も多い。当初は紀伊半島固有種と考えられていたが、九州でも発見されている。

本種は林道脇の水たまりや側溝等の不安定な水域に生息し、イノシシのぬた場等でも発見される。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1996．和歌山県産甲虫類分布資料 2．KINOKUNI，(49)：10.
2　Satô, M. 1985. The genus *Copelatus* of Japan (Coleoptera, Dytiscidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 17 (1/2)：57–67.
3　田中昭太郎・深見訓士・松野茂富．2021．ナチセスジゲンゴロウとヒコサンセスジゲンゴロウの簡易同定法．月刊むし，(604)：41–46.

写真：松野茂富提供

ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種 *Necrophila jakowlew simulator* (Shibata, 1969)　コウチュウ目　シデムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	－

選定理由

オオヒラタシデムシに似るが、触角が異なる。河川敷や低地の草原に生息する。本亜種は大阪平野周辺に限り分布し、和歌山県が分布の南限に当たる。紀の川周辺と有田川周辺に分布する。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1991．和歌山の甲虫 21 ツシマヒラタシデムシ．自然博物館だより，9 (4)：5.
2　的場　績．1994．和歌山県産甲虫目録（2）シデムシ科．和歌山県立自然博物館館報，12：55–59.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

マメクワガタ *Figulus punctatus* Waterhouse, 1873　コウチュウ目　クワガタムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	－

選定理由

小型のクワガタムシで、黒潮により分布を広げた種。和歌山県では県南部の海岸林にのみ生息する。本州では紀伊半島にのみ分布する。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　青柳昌宏．1949．本州のマメクワガタ．新昆虫．4 (13)：24.
2　的場　績．1984．和歌山の甲虫 11　マメクワガタとチビクワガタ．自然博物館だより，7 (2)：5.
3　吉田元重．1975．マメクワガタ本州からの記録．甲虫ニュース，(31/32)：15.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ウスグロボタル　*Cyphonocerus inelegans* Nakane, 1967　コウチュウ目　ホタル科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

体全体黒褐色。林床湿度の高い良好な森林に棲む。ホタル科であるが発光せずフェロモンによるコミュニケーションをする。

紀伊半島固有種であり、良好な森林の指標種となる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1997．和歌山の甲虫 45　ウスグロボタル．自然博物館だより，15（4）：3.

写真：的場　績撮影

クロマドボタル　*Pyrocoelia fumosa*（Gorham, 1883）　コウチュウ目　ホタル科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

前胸背は全体黒色で、前縁に 2 個の透明な窓状部がある。前胸背に赤色部のあるオオマドボタルとの関係が問題になっていて、和歌山県が両種の分布境界になり、橋本市周辺ではクロマドボタル、橋本市よりも南ではオオマドボタルが分布する。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1999．和歌山県産甲虫類分布資料 5．KINOKUNI，（56）：26–27.

写真：的場　績撮影

ナンキセダカコブヤハズカミキリ　*Parechthistatus gibber nankiensis* Yokoyama, 1968　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

セダカコブヤハズカミキリの紀伊半島亜種。原亜種と比べ上翅端の棘状突起が著しく発達している。本県南部に固有の亜種で、紀伊半島南部の照葉樹林を代表する種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　奈良　一．1989．新和歌山県産天牛虫科目録（Ⅱ）．南紀生物，31（1）：53–59.

写真：梅本　実提供

アヤモンチビカミキリ　*Sybra ordinata ordinata* Bates, 1873　コウチュウ目　カミキリムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	－

選定理由

体は黒褐色で、不明瞭な縦条紋を持つ。琉球列島では多くの亜種に分かれ、原名亜種は本州～屋久島に分布する。本州では紀伊半島のみに分布する。

和歌山県ではすさみ町～那智勝浦町の海岸林に生息し、各種枯れ枝にいるが、イヌビワの枯れ枝に多い。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1991．和歌山の甲虫 10　アヤモンチビカミキリ．自然博物館だより，7（1）：4.

写真：松野茂富提供（和歌山県立自然博物館所蔵標本）

ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ　*Xanthoderopygus kasaharai* Senoh & Matoba, 2002　コウチュウ目　ヒゲナガゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

小型のヒゲナガゾウムシで、近似種が多く、同定は困難であるが、雄の尾節板が鋭三角形になることにより、他種と区別できる。

護摩壇山～日高川町白馬山にかけての固有種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．2010．ゾウムシ雑記 32．KINOKUNI，（78）：19–21.
2　Senoh, T. & Matoba, I. 2002. A new species of the genus *Xanthoderopygus* (Coleoptera, Anthribidae) from the Kii Peninsula, central Japan. Elytra Tokyo, 10 (2)：358–362.

写真：的場　績撮影

オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ　*Xanthoderopygus matobai* Senoh, 1984　コウチュウ目　ヒゲナガゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシに似るが、尾節板は長方形。上翅後方の白色毛斑は W 字状になる。大塔山系の固有種である。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　Senoh, T. 1984. A revision of the genus *Deropygus* Sharp in Japan, with description of a new genus and five species. Transactions of the Shikoku Entomological Society, 16 (39)：25–40.

写真：的場　績撮影

イチハシシギゾウムシ　*Curculio ichihashii* Morimoto, 1962　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

体長 2.3 mm 程の小型のシギゾウムシ。最近まで紀伊半島固有種と思われていたが、広島県と四国でも発見されている。照葉樹林に棲み、和歌山県ではシイで発見されている。日高郡以南で発見される。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1999．和歌山県産ゾウムシ科目録．和歌山県立自然博物館館報，17，29–51.
2　的場　績．2017．ゾウムシ雑記 41．KINOKUNI，（91）：16.

写真：的場　績撮影

ネジロツブゾウムシ　*Sphinxis pubescens* Roelofs, 1875　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

暖地系の種で、九州と紀伊半島に分布する。本種の近似種は琉球列島に分布し、両種ともホルトノキにつく。紀伊半島が分布の北限並びに東限になる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1995．春日の森の昆虫　春日の森調査報告書．100–123．海南市教育委員会，海南.
2　的場　績．1999．和歌山県産ゾウムシ科目録．和歌山県立自然博物館館報．17：29–51.

写真：的場　績撮影

カスミゾウムシ　*Lignyodes japonicus* Kojima & Morimoto, 2003　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

和歌山県と三重県で僅かな標本が採集されているのみ。近似種は北アメリカとヨーロッパに分布し、トネリコに依存しているらしいが、日本産の種についての生態や寄主植物は全く分かっていない。紀伊半島固有種と思われる。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　Kojima, H. & Morimoto, K. 2003. A new *Lignyodes* Dejean, a new representative of the genus and the tribe *Lignyodini* from the eastern Palaearctic region (Coleoptera, Curculionidae). The Coleopterists Bulletin, 57 (4)：383–389.

写真：的場　績撮影

オチバアナアキゾウムシ　*Pentaparopion costatum* Morimoto, 1982　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

落葉中に棲み後翅が退化している。腐葉土の豊富な海岸林に見られる。八丈島と紀伊半島、岡山県でしか発見されていない。海流により分布を広げた好事例種。

和歌山県では、有田市宮崎ノ鼻から白浜町にかけての海岸林で発見されている。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1986．オチバアナアキゾウムシ和歌山県に産する．KINOKUNI，(30)：14.
2　的場　績・吉田元重．2005．和歌山県に於ける土壌性ゾウムシの分布調査．KINOKUNI，(66)：1–10.
写真：的場　績撮影

ルイスヒゲボソゾウムシ　*Phyllobius lewisi* (Sharp, 1896)　コウチュウ目　ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

紀伊半島固有種であり、和歌山県内外を問わず生息地は局所的である。和歌山県では高野山と、果無山脈、大塔山で発見されている。広食性で、ブナ科、カバノキ科、バラ科、ツツジ科等から発見される。

執筆者（的場　績）



参考文献・情報

1　的場　績．1999．ルイスヒゲボソゾウムシを多数採集．KINOKUNI，(55)：26.
2　的場　績．1999．和歌山県産ゾウムシ科目録．和歌山県立自然博物館館報，17：29–51.
写真：的場　績撮影

クモマトラフバエ　*Xanthotryxus mongol* Aldrichi, 1930　ハエ目　クロバエ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

高山性のハエであるが、本県では 1000 m 以下の低標高に生息し、分布の南限にあたる。大型で黄金色の美しい種。通常は本州の高山帯に分布する。和歌山県では高野山と護摩壇山に分布する。

執筆者（弘岡拓人）



参考文献・情報

1　春沢圭太郎．2007．近畿地方のクモマトラフバエの記録．はなあぶ，(24)：63.
写真：的場　績提供

ルーミスシジミ　*Panchala ganesa* (Moore, 1858)　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

関東地方以南の暖地に産するが、分布は局地的。雌雄の斑紋はほとんど同じ。ムラサキシジミと類似するが、小型で翅表の青藍色班は紫色を帯びることはなく、裏面の斑紋も鮮明。食樹は、主にブナ科のイチイガシ、ウラジロガシで、生息には安定した照葉樹林が必要な種である。

和歌山県は、数少ない生息地の一つで、紀南地方の大塔山系、古座川流域、那智勝浦町那智山、新宮市瀞八丁等の常緑広葉樹林帯に局地的に分布する。古座川町では町の天然記念物に指定されている。



執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
2　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.

写真：大橋弘和提供

ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種　*Japonica saepestriata gotohi* Saigusa, 1993　チョウ目　シジミチョウ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

紀伊半島南部のみに分布する亜種で、斑紋は名義タイプ亜種と比べ、前翅長が短く、裏面の黒条が発達し、尾状突起が長い。食樹は、名義タイプ亜種が主にクヌギ等のブナ科落葉樹であるのに対し、本亜種はブナ科常緑樹のウバメガシである。

なお、和歌山県での分布は、従来から田辺市以南とされてきたが、最近になって日高郡や有田郡内で採集されたとの情報がある。



執筆者（小島和也）

参考文献・情報

1　後藤　伸．1994．紀伊半島におけるウバメガシ林の注目すべき昆虫Ⅰ　ウラナミアカシジミ紀伊半島亜種と野外調査記録．南紀生物，36 (1)：31–38.
2　後藤　伸．2002．大杉谷・黒蔵谷の蝶類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，133–139，和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　的場　績．1997．和歌山県産蝶類既報の整理．KINOKUNI，(51)：17–43.
4　松下　弘・後藤　伸・谷　幸子．1993．古座川町の自然Ⅲ．78pp．古座川町教育委員会，古座川.

写真：大橋弘和提供

ベニシタバ　*Catocala electa zalmunna* (Butler, 1877)　チョウ目　ヤガ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

大型の美麗種で後翅に鮮やかな紅赤色紋を有す。長い間、本県に生息するのか疑問視されていたが、護摩壇山から幾つか採集されている。



執筆者（的場　績）

参考文献・情報	1　植田広行．1999．和歌山県におけるベニシタバの記録．KINOKUNI,（55）：13. 写真：小島和也標本（県外産）

ヒゴキンウワバ　*Chrysodeixis taiwani* Dufay, 1974　チョウ目　ヤガ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	ー

選定理由　南方系の種で、主に九州各地に分布している。四国にも分布するが、紀伊半島が分布の東限になる。和歌山県では大塔山系で発見されている。

執筆者（的場　績）

参考文献・情報	1　嵯峨昭仁．1991．和歌山県未記録の蛾類．KINOKUNI,（40）：18.

貝類の概要

海産貝類：江川和文、陸産貝類：湊　宏、淡水産貝類：池辺進一

和歌山県のレッドデータブック刊行は、2001 年、2012 年に続いて今回で 3 回目になる事業である。当初においては、陸産貝類、淡水産貝類（汽水域を含む）の選定だけであったが、開発等による環境破壊によっては、その生育状況が大変な状態になってきているのが現状である。環境省（2012）のレッドデータブックでも、評価対象種が陸域・淡水域から汽水域に生息する種類に加えて内湾等の干潟等に生息する種類を選定種に掲載されるようになってきた。地方団体のレッドデータブックにおいても、例えば、三重県（2015）、岡山県（2020）、愛知県（2020）等ではその傾向が踏襲されていて、汽水域の種類、内湾性の種類、干潟の種類、更に浅い潮下帯の種類の貝類を扱うようになってきているのが実情である。それらの現状を踏まえて、和歌山県でもレッドデータブック改訂等を行う「生物多様性和歌山戦略推進調査会」を 2016 年 3 月に発足させてこれまで検討してきたところである。2012 年版では貝類（陸・淡水産）において総計 51 種を選定することができたが、2022 年版では汽水域、内湾性域、干潟域、潮下帯域までの種類が加わったために総計 279 種類（汽水域～潮下帯域等の海産域の種類が 219 種、淡水域の種類が 4 種、陸域の種類が 56 種）と増加させて種類を選定したことが特徴である。それをまとめると下記のようになる。

絶滅（EX）：6 種（海産：5 種、陸産：1 種）、絶滅危惧 I 類（CR ＋ EN）：43 種（海産：29 種、陸産：11 種、淡水産：3 種）、絶滅危惧Ⅱ類（VU）：65 種（海産：47 種、陸産：15 種、淡水産：3 種）、準絶滅危惧（NT）：117 種（海産：108 種、陸産：8 種、淡水産：1 種）、情報不足（DD）：8 種（海産：5 種、陸産：3 種、淡水産：0 種）、学術的重要（SI）：40 種（海産：22 種、陸産：16 種、淡水産：2 種）として選定した。中でも海産種の未掲載種が 216 種であった。

海産貝類（汽水域～内湾性域～干潟域～潮下帯域）

・和歌山の貝類に関する歴史的経緯について

和歌山は古くより貝類でも著名な地で、近世以来、多くの記録が残されてきた。江戸中期のは「貝盡浦之錦（かいづくしうらのにしき）」二巻本（1749）は、大坂（現・大阪）の香道の大家、大枝流芳の著作で『和歌浦の真図』として当時の風景が示され、片男波海岸に貝を扱う店があること、個々の記述に『和歌浦では』という表現が頻出し、さらに『紀州和歌浦、荒浜、加太の粟島（現・淡島神社）の北辺』が好産地だといった記述も示される。巻末には自身の母が紀州、和歌山の出身で、また自身も和歌山に 20 年間住んだという。白浜町の貝寺、本覚寺には同書が藩主からの拝領品として所蔵され、江戸末期にはシーボルト P．F．B．Siebold が、明治初期にはスウェーデンの探検調査船ヴェガ号のノルデンショルド A．E．Nordenskiold が故国に持ち帰った。

平賀源内は 1760 年（宝暦 10 年）6 月、高松侯の命により和歌山で貝類採集を行ない、「紀州産物志」をまとめた。加太から田部（田辺）までの 12 産地が記録され、和歌山は『天下第一之名産と奉存候』だと述べ、田辺には 30 日以上滞在した。

紀州藩と貝類との関係も深く、第 8 代藩主重倫の母、清信院は当時、著名な貝類収集家で江戸藩邸に約 3,000 個体を保存し、「若山江戸蔵物貝品並石類調帳」や図録「六百介品絵図並御序跋」がまとめられた。また第 10 代藩主治宝（はるとみ）は文教政策に力を入れ、医学館を創設し、本草局を併設され、小原桃洞や畔田翠山が採薬とともに貝類採集が命じられている。畔田翠山には「三千介図」5 巻（稿本）の著作がある。

幕末期、1862 年には英国海軍調査船アクテオン号 H．M．S．Actaeon が上海を起点に第 3 次調査では日本沿岸を幕府の役人ともに周航した。同船に船医として乗船していたのが、著名な貝類研究者アダムズ A．Adams で、紀伊大島や田辺沖で貝類を採集している（黒田，1941）。彼は採集した貝類をロンドンの博物関係の会報に寄稿し、和歌山の地名がこれらに記録され、また晩年には旅行記をまとめ（Adams，1870）、紀伊水道の北上の記述として、紀南の海岸の風景とともに和歌山平野の奥に和歌山城を記録している。

(参考文献)

1 Adams, A. 1863. On the Japanese species of *Leiostraca*. Journal of the Proceeding of the Linnean Society of London (Zoology)，7：89–91.
2 Adams, A. 1870. Travals of a naturalist in Japan and Manchuria. 334pp. Hurst & Blackett, London.
3 黒田徳米．1941．紀伊大島にてアダムスの採集せし陸産貝類．貝類学雑誌，10（3，4）：157–166.
4 知野光雄・江川和文．2019．紀州貝類研究史－近世以前の記録について－．かいなかま，52（1-2）：27–42.

明治維新により諸外国からの民間人の訪日が可能になった。かつて攘夷の対象であった外国人も英国女性旅行家、イザベラ・バード I．Bird は通訳を伴っただけで単身、東北地方奥部から北海道を旅している。

維新後の 1875 年 4 月、英国海軍調査船チャレンジャー号 H．M．S．Challenger が横浜に入港した。3 年半の世界的規模の深海生物の調査を目的とした地球規模の調査航海で、日本では房総沖、相模湾、明石沖でのトロール採集が行われた。和歌山での活動は意外と知られていないが、航海日誌（Thomson & Murry，1882）によれば 1875 年 5 月 14 日に紀伊大島港に投錨、翌 15 日早朝抜錨し、紀伊水道を北上した。この短時間にオオシマチグサカニモリ他の海岸の微小種が記録されている。 外国人研究者による日本最初の貝類図譜はドイツのヅンケル R．W．Dunker（1809–1885）により作成された（Dunker，1861）。同書の表題には「日本の」とあるが、謝辞に長崎出島のオランダ商館医師、ヌーン Nuhn の名があり、実質、長崎の貝類の図説と見られる。20 年余の後、第二の図譜（Dunker，1882）には、多数の美麗な彩色図とともに、“Wakayama” の地名が最初に記録された。県下の種ではヒメヤカタがその一例である。

米国のスターンズ F．Stearns（1832–1907）は明治初期、1889–90 年（明治 22–23 年）、1891（明治 24 年）の 2 度に亘って来日し、青年漁師モリゾウ・セタを通訳兼助手として、2 年余に本土全域、更には沖縄を巡った。彼は東京湾や相模（原文 “Sagama”）や紀伊地区、阿波、土佐にも精通していたという（Pilsbry，1895）。この採集物は著名な米国貝類学者ピルスブリー H．A．Pilsbry（1862–1957）に託され、また未記載種も多く、新種記載や標本の図示が行われ（Pilsbry，1895）、和歌山産の採集物は産地が “Coast of Kii”、“Province of Kii” と表記されている。なお、この報告書の刊行費用もスターンズ F．Stearns が負担している。

明治期、和歌山県下の邦人研究者に南方熊楠がいる。彼は粘菌や民俗学で著名であるが、貝類にも関心を持っていた。ロンドン滞在時（1892–1900）、大英博物館（当時）の蔵書を筆写し「ロンドン抜書帖」全 52 巻を作成したが、この第 31 巻には江戸中期の貝類書「貝盡浦之錦」が含まれる。また彼はモースで著名な大森貝塚にも訪れ貝類を採集し、江ノ島では貝類を購入し、熊野ではカタツムリの生態図を多く記録した。1907 年 3 月には田辺で長者貝（高価で売買されたため、この呼称がある）が採捕され、地元の歯科医、矢野平次郎のもとで飼育され、この個体を熊楠や家族、用人が見学に訪れている。後日、この貝は京都の標本商平瀬与一

郎に 80 円で購入された。今日のベニオキナエビスで、彼を記念して米国で *"hirasei"* の種名が与えられた種でもある（Pilsbry，1903）。

（参考文献）

1 Dunker, R. W. 1861. Mollusca Japonica descripta et tabulis tribus iconum. 36pp. E. Schweizerbart, Stuttgart.
2 Dunker, R. W. 1882. Index molluscorum maris Japonici. 301pp. Sumptibus Theodori Fischer, Kassel.
3 西村三郎．1992．チャレンジャー号探検．中公新書 1101．264pp．中央公論社，東京．
4 Pilsbry, H. A. 1895. Catalogue of Marine Mollusks of Japan. 196pp. 11pls., Detroit.
5 Pilsbry, H. A. 1903. A new Japanese *Pleurotomaria*. Proceedings of Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 55：496. pl. 22.
6 Thomson, C. W. & Murry, J. 1882. Report on the Scientific Result of the Voyage of H. M. S. Challenger during the year 1873–76. Narrative. Vol. Ⅱ. 744pp. Her Majesty's Government, London.

昭和初期には日本にも日本貝類学会が創設され、明治期、欧米の研究者に標本を送付し同定や新種記載を託していたが、邦人にも可能となった。この時期、特記したいのが「和歌山県産貝類目録」の存在である（西宮市貝類館所蔵）。著者は黒田徳米、後の日本貝類学会名誉会長で、当時は白浜の京大臨海実験所の嘱託・助手で、昭和 4 年、昭和天皇の行幸の折、貝類に関する御進講も行なっている。南方熊楠の有名な御進講もこの折である。この年、和歌山県産貝類の調査・編纂が着手され、昭和 16 年の刊行の予定であった。原稿は英文と一部、日本語で記録され、原記載の出典や異名表が掲げられ、その膨大さや時代状況から刊行に至らなかったが、当時の貝類相を知ることができる。現在、生息が見られないオカミミガイやチャイロフタナシシャジクが記録され、後種は明治期、来日したスターンズが鎌倉から記録した種で、近年、全国的に生息が危惧され、現在、和歌山県下には確認できないが、当時、生息していたことが分かり、また希少種とされるゴゲツノブエが田辺の文里港に多産したことも記録される。その他、ムラサキガイの種名が『（本邦の貝の種名は）adamsii と見られる（英文）』とあり、これは Honda *et al*.（2001）になって初めて指摘された事項である。

（参考文献）

Honda, J., Willan, R. C., Suzukida, K., Mizoguti, K. & Hori, H. 2001. Discovery of healthy populations of the endangered bivalve *Soletellina adamsii* Reeve 1857：（Tellinoidea：Psammobiidae）on the Suo-nada Sea（western Seto Inland Sea）coast of Yamaguti Prefecture, western Japan, with taxonomic remarks. The Yuriyagai, 8（1）：23–33.

・絶滅危惧種発生の要因

（1）造成・護岸工事等による影響

和歌山市は紀の川による砂の堆積が形成した土地で、かつて、紀の川の南岸から雑賀崎に至る和歌山市西岸、約 2 km に水軒浜という遠浅海岸があった（地域によって、荒浜、吹上浜の呼称もある）。1960 年代、造成工事により消失した地である。当時、著名な図鑑にもこの地名と標本図が掲げられ（鹿間・堀越，1963）、更にはごく近年も現存する地かのように記録される（日本ベントス学会編，2012）。近世、「紀州名所図会」にも描かれた地で、全国的にも知られた貝類産地であった。同地の貝類は 574 種が記録され（土岐頼三郎氏記録ノート［未公表］）、更に根拠となった標本が現存する。かつて普通に見られたマキモノガイやコヅツガイは、現在、

ごく稀に名草ノ浜で確認できる貝である。造成工事は、当然ながら、その地の生物相全体が絶滅する。和歌山県下各地で同様な造成工事が行われたが、記録や標本が残された例はごく稀である。

護岸工事も同様で河川の多くは両側面と底面がコンクリート舗装される。和歌山市亀の川には河口護岸にウスコミミガイの生息が見られたが、この工事により姿を消した。

(参考文献)

1　日本ベントス学会 編．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　鹿間時夫・堀越増興．1963．世界の貝．154pp．102 pls．北隆館，東京．

(2) 富栄養化による影響

和歌川河口の和歌浦湾は万葉期以来の名勝であったが、昭和初期には既に家庭廃水や工場廃水が集積した異臭の放つヘドロの堆積地で、ウミニナの個体群以外の生物の存在は考えられなかった。実際、和歌浦湾を模式産地とするワカウラツボは当時、絶滅の状況であり（和田ら，1996)、その後、廃水の浄化措置で、奇跡的に同種が復活し、多数個体が確認された(Kobayashi & Wada，2004)。一般に環境悪化の要因には下水等による富栄養化が挙げられるが、近年では浄化措置により、一部地域では、この逆の貧栄養化の影響も生じている。

(参考文献)

1　Kobayashi, Y. & Wada, K. 2004. Growth, reproduction and recruitment of the endangered brackish water snail *Iravadia* (*Fairbankia*) *sakaguchii* (Gastropoda : Iravadiidae). Molluscan Research, 34 : 33–42.
2　和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤　真・島村賢正・福田 宏．1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF サイエンスレポート，3 : 182.

(3) 河川の浚渫による影響

紀の川河口の北島橋南岸にはウミゴマツボ、ガタヅキ、カワグチツボ他が、大量に打寄せられていた。ガタヅキは、かつて 1 m 四方に 3 万個体という異常な個体数が確認された種でもある。これらが 2008 年以降、全ての種が確認できなかった。従来、ごく普通に見られた貝類が一斉に姿を消した要因には、河川の浚渫が想定される。河川は上流からの砂泥により川底が堆積上昇する。このため、浚渫工事により川底の堆積物が除去され、その際、これら貝類の生息域も除去されたと考えられる。

(4) 船底防汚塗料による影響

船底に着生するフジツボ等、種々の生物は船舶の航行を阻害し、燃費等に影響を与えてきた。この対策として有機スズ化合物を含有する船底塗料が開発されたが、これによりバイ *Babylonia japonica* をはじめ、肉食性の貝類が一斉に姿を消した。有機スズ化合物による貝類の生殖能力の阻害である。一時、食用貝のバイの代替品としてインド洋産のベンガルバイの加工品や冷凍品が輸入された。和歌山では紀南域のウツボ籠漁に普通に見られたキンシバイ他が姿を消した。その後、堀口（1998）により巻貝への生殖活動への影響が確認され、以後、1991 年、この化合物が規制された。バイは 2000 年頃、復活が見られ、その後、徐々に個体数を増し、現在に至っている。

(参考文献)

堀口敏広．1998．インポセックス　巻貝類における雌の雄化現象．海洋と生物，117 : 283–287.

(5) 地球温暖化による分布域の拡大

1970 年代、有田川河口にはイシマキガイがごく普通で、同科の他種は存在しなかった。実際、九州以北のカノコガイの記録はイシマキガイの誤認ではとの疑義が呈された例もあった（福田，1996）。近年、気候の温暖化や黒潮の流れの変動にともない、紀伊半島沿岸の貝類相に変化が見られる。従来、奄美、沖縄に見られた貝が意外に和歌山でも確認されている。現在、先のカノコガイは紀の川、和歌川では普通に見られ、ヒメカノコも同様で、稀にニセヒロクチカノコも確認でき、更に海産種でもハブタエセキモリは以前、奄美・加計呂麻島で目にした貝であったが、近年、大阪湾に近い加太から 1 個体、確認している。これらの諸種の多くは主生息域でも、造成工事等生息環境が危惧される種である。

(参考文献)

福田　宏．1996．(6) 軟体動物　腹足綱　WWF サイエンスレポート　第 3 巻．11–52，pls. 1–11pp.

(6) その他

現在、マルテンスマツムシ、ヒメエガイ他は、和歌山県で 50 年以上、原因不明なまま、生息が確認できない。他にもハイガイ、ヒメアカガイ等、徐々に生息が見られなくなった貝も存在する。類種のクイチガイサルボウが健在であるだけに、残念なことである。

陸産貝類

和歌山県の陸産貝類の研究は、明治時代末期に平瀬與一郎らの採集人らによって比較的によく調査をされてきており、本県は全国的にも著名な地域でもある。地勢的にも山地が多く、温暖多雨地域であるために豊かな自然環境が保たれてきている。陸産貝類として今回は 54 種を選定（2012 年版：51 種）した。上述したように、タイプ産地になっている地域が多く、石灰岩地の露頭で見られたベニゴマオカタニシは由良町白崎で和歌山県唯一の生息地あったが、宅地造成のためにその環境が破壊されて、生息地が消えてしまった。絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）では新規に 2 種（箕六、岩坂観音のシロモリサキギセルと日ノ岬からシイボルトコギセル）が追加されて 11 種を選定した。キセルガイ科貝類はこの他に、マルクチコギセル、カスガコギセル、ヒロクチコギセル等、樹上性の種類が選定されたことが特異である。ナチマイマイは那智山周辺の狭い範囲にしか生息していなくて、収集家の乱獲によって個体数が激減している。絶滅危惧Ⅱ類（VU）では新規にコシボソギセル、イボイボナメクジ、ヤマキサゴ、ヤマモトゴマオカチグサが加わって 15 種となった。準絶滅危惧（NT）はゴマオカタニシ、ナガオカモノアラガイ、ミジンマイマイ、ウスコミミガイが新規に加わり、8 種と増えた。情報不足（DD）としては、紀伊山地から新たにナガナタネガイと微小貝の 2 種が加わって 3 種となった。学術的参考（SI）としては、和歌山県で採取されてタイプ産地となっている種や学術的価値を有する種等で、イノウエヤマトガイ、ソウジマミジンマイマイ、イトカケギセル、キイオオベソマイマイ、シゲオマイマイ等、16 種を選定した。いずれもが固有種であって、和歌山県がタイプ産地になっている稀少種である。

(参考文献)

和歌山県環境生活部 編．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．442pp．和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室，和歌山．

淡水産貝類

和歌山県の淡水産貝類相は、紀伊山地から流れる河川とその河口域、池や沼が主な生息環境であるが、全体的には貧弱な淡水産貝類相である。2012 年版には、絶滅危惧Ⅰ類（CR +

EN）にはワカウラツボ、ツブカワザンショウガイ、カワネジガイの３種を選定しているが、2022 年版でもその選定には変更がなかった。和歌浦の地名を種に関しているワカウラツボは、河口域の汽水地域、内湾干潟の砂や泥等に埋まる小岩や堆積物の下部域が生息地であることが確認されてから、本種の生態学的な知見が分かり、西日本の伊勢湾、三河湾、瀬戸内海、有明海等からも再発見されるようになってきた。和歌浦では巷に「幻の貝」とされていたが、和歌川河口域から 1999 年に再確認されるとともに、同年の 10 月には広川町の江上川河口域からも朗報が届いた（大古場・三長，2001）。本種は環境省（2019）のレッドリストで、絶滅危惧Ⅱ類として指定されている。ツブカワザンショウガイは那智勝浦町浦神がタイプ産地であるが、河口域の環境が悪化して絶滅が危惧されているものの、近年は和歌山県の中部でも確認された。カワネジガイは過去に有田市地蔵堂、かつらぎ町笠田で記録されていたが、各地における水害で生息地域が消えてしまった。しかし、近年において岩出市のため池で確認されていることは朗報である（Marui，2002）。絶滅危惧Ⅱ類（VU）として、汽水域からのフネアマガイ、タケノコカワニナ、ミジンゴマツボと淡水域のマルタニシを、準絶滅危惧（NT）としてエドガワミズゴマツボと、新規にクリイロカワザンショウとヨシダカワザンショウを選定したが、大半は汽水域産である。学術的重要（Sl）としてはホラアナミジンニナ（タニガワミジンニナ）と二枚貝のマツカサガイは 2012 年版とは変更がないが、その生息地は極めて少ない。

（参考文献）

1　木邑聡美・能本彰人・中西夕香・杉野伸義．2001．和歌浦で再発見されたワカウラツボ（腹足綱）．南紀生物，41（1）：38–49.
2　Marui, H. 2002. A new locality of the endangered freshwater snail ***Cameroceras hirasei*** (Gastropoda：Pulmonata：Planorbidae) in Wakayama Prefecture, Japan. The Yuriyagai, 8 (2)：83–85.
3　大古場　正・三長秀男．2001．ワカウラツボ和歌山県で発見．かいなかま，35（1）：1–3.
4　和田恵次．2018．汽水域に生きる巻貝たち．144pp．東海大学出版部，平塚.

●絶滅（EX）

ヒナイソマイマイ
ベニゴマオカタニシ
オカミミガイ
ハイガイ
ヒメアカガイ
ヒメエガイ

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

ホソコオロギ
イリエツボ
ワカウラツボ
ツブカワザンショウ
ハツカネズミ
カネコスズカゴ
ゴマフダマ
マルテンスマツムシ
オガイ
ウネボラ
ヒラドサンゴヤドリ
ウネムシロ
トカシオリイレ
イソチドリ
マキモノガイ
カワネジガイ
サナギガイ
ニクイロギセル
マルクチコギセル
カスガコギセル
シロモリサキギセル
シイボルトコギセル
ヒロクチコギセル
ケハダビロウドマイマイ
ヒラマキビロウドマイマイ
カタマメマイマイ
ナチマイマイ
ハンレイヒバリガイ（カラスノマクラ）
イタボガキ
ヤミノニシキ（アワジチヒロ）
イセシラガイ
イチョウシラトリ
オガタザラ（オガタザクラ）
フジナミガイ
ヤチヨノハナガイ
ウスハマグリ
アツカガミ
ウラカガミ
イソカゼガイ
ハナビラガイ
オウギウロコガイ
スナウロコムシヤドリガイ
コオキナガイ

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

セムシマドアキガイ
ウミヒメカノコ
ウミヒメカノコ近似種
フネアマガイ
ツバサコハクカノコ
サナギモツボ
イボウミニナ
カワアイ
タケノコカワニナ
スジウネリチョウジガイ
ゴマツボ
ウチノミツボ
ミジンゴマツボ
アラウズマキ

イソマイマイ
ウミコハクガイ
オオネズミガイ
フロガイダマシ
カハタレカワザンショウ
ウネナシイトカケ
ヒモイカリナマコツマミガイ
ヤセフタオビツマミガイ
ゴマフホラダマシ（ナガゴマフホラダマシ）
オマセムシロ
オリイレボラ
イワカワトクサ
ベッコウイモ（キラベッコウ）
ヌノメホソクチキレ
ドロアワモチ
コメツブツララ
シグマクダタマ
カミスジカイコガイダマシ
マルタニシ
ベニゴマガイ
ノミガイ
ミツクリギセル
クロズギセル
シリブトギセル
コシボソギセル
コンゴウクリイロベッコウ
パツラマイマイ
イボイボナメクジ
ヤマキサゴ
サドヤマトガイ
ヤマモトゴマオカチグサ
アナナシマイマイ
ツヤマイマイ
ヒメビロウドマイマイ
アサヒキヌタレガイ
ヒシガイ
テリザクラ
ムラサキガイ
ハナグモリ
アリソガイ
ヒナミルクイ（ヒナミルガイ）
ミルクイ
ハマグリ
イオウハマグリ
ヤタノカガミ
セワケガイ
フジタニコハクノツユ
チゴマテ
ウミタケ
ヒメマスオガイ
オフクマスオガイ

●準絶滅危惧（NT）

ツボミ
スカシエビス
イボキサゴ
キサゴ
タイワンキサゴ
ヒメカノコ
レモンカノコ
ヒロクチカノコ
ニセヒロクチカノコ
キンランカノコ
ミヤコドリ
ヒナユキスズメ
カヤノミカニモリ
コゲツノブエ
ウミニナ
フトヘナタリ
ヘナタリ
モロハタマキビ
ヌノメチョウジガイ

タニシツボ
ジーコンボツボ
ニセゴマツボ
カワグチツボ
サザナミツボ
シラギク
ナギツボ
エドガワミズゴマツボ（ウミゴマツボ）
クリイロカワザンショウ
ヨシダカワザンショウ
アダムスタマガイ
ネコガイ
ツツミガイ
ツガイ
オリイレシラタマ
オダマキ
セキモリ
クレハガイ
キヌイトカケ
ハブタエセキモリ
カシパンヤドリニナ
トクナガヤドリニナ
テングニシ
オニサザエ
カニノテムシロ
ムシロガイ
バイ
マクラガイ
クリイロマンジ
チャイロフタナシシャジク
シチクガイ
シロヒメゴウナ
ヒメゴウナ
イトカケゴウナ
エドイトカケギリ
クラエノハマイトカケギリ
カキウラクチキレモドキ
ヌカルミクチキレ
シゲヤスイトカケギリ
ドウンケルクチキレ（エバラクチキレ）
ウネイトカケギリ
オオシイノミガイ
ムラクモキジビキガイ
コヤスツララ
ホソタマゴガイ
ヤマトキバサナギガイ
ホソヒメギセル
キヌツヤベッコウ
ヒメタマゴマイマイ
クチマガリマイマイ
ゴマオカタニシ
ナガオカモノアラガイ
ミジンマイマイ
ウスコミミガイ
キヌタレガイ
ヤマホトトギス
サザナミマクラ
リシケタイラギ（タイラギ）
ズベタイラギ
ハボウキガイ
サクラガイ
ヒラザクラガイ
ユウシオガイ
ウズザクラ
モモノハナ
オオモモノハナ
フジノハナガイ
ナミノコ
キュウシュウナミノコ
アシガイ
オチバガイ
ハザクラ

キヌタアゲマキ
タガソデモドキ
ウネナシトマヤガイ
カモジガイ
オオトリガイ
ワカミルガイ
ユキガイ
クチバガイ
イソハマグリ
シオヤガイ
シラオガイ
ケマンガイ
スダレハマグリ
ガンギハマグリ
コヅツガイ
ニッポンマメアゲマキ
ウロコガイ
スジホシムシヤドリガイ
マツモトウロコガイ
マゴコロガイ
オサガニヤドリガイ
オオノガイ
クシケマスホガイ
バラフマテ
リュウキュウマテ
ヤマトシジミ

●情報不足（DD）

トゲトゲツボ
チクチクツボ
ヒガタヨコイトカケギリ
ハベキビ
キイキビ
ナガナタネガイ
アシベマスオ
コハギガイ（ガタヅキ）

●学術的重要（SI）

カノコガイ
ハナガスミカノコ
コオロギガイ（コベルトカニモリ）
カニモリガイ
ヒメカニモリ
ヒナツボ
ナガエンドウガイ
ヒメヤカタ
ウツセミガイ
ウズマキキセワタ
ホラアナミジンニナ
イノウエヤマトガイ
キイゴマガイ
ソウジマミジンマイマイ
キイツムガタギセル
コハゲギセル
コスジギセル
ジェイギセル
シロバリギセル
カギヒダギセル
イトカケギセル
オオヒラベッコウ
ムロマイマイ
アラハダヒロベソマイマイ
キイオオベソマイマイ
タシナミオトメマイマイ
シゲオマイマイ
ノジホトトギス
ツヤガラス
アワジチガイ
アオサギガイ
ハチザクラ
ナガヒナミルクイ
チドリマスオガイ
ハマチドリ

オカメブンブクヤドリガイ
マツイガイ
オキナガイ
ソトオリガイ
マツカサガイ

ヒナイソマイマイ　*Adeorbis carinata* A. Adams, 1863　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

砂泥底が生息地と推測される種。殻は白色、薄質で扁平、螺層上面は平滑、丸みを帯び、下面は平坦で臍孔が開き、周縁は鋭角、殻口外唇に外方に板状の突起を持つ。殻径 2 mm。瀬戸内海東域（兵庫県明石沖［模式産地］）、広島県竹原市、同・三原市に分布。和歌山県内では、和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、名草ノ浜、有田市初島町、那智勝浦町粉白に分布。

和歌山県では水軒浜（造成工事で消失）産の未整理標本（1964 年 3 月採集）から確認、更に近年、初島町から死殻が記録され、他に粉白（玉の浦海水浴場）からも記録されるが、これは養浜工事による海砂（島根県隠岐の島）からの混入個体と見られる。幕末期来航の英国海軍測量船の船医 A. Adams により本種が記載されたが、本種の再発見は 127 年後のことで、これは竹原市沖の海砂に混入した個体である。生貝は現在まで確認されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　Adams, A. 1863. On the genera and species of Liotiidae found in Japan. Proceedings of the Zoological Society of London：71–76.
2　江川和文．1990．A. Adams 記載の瀬戸内海産イソマイマイ科二種．ちりぼたん，22（1・2）：22–23.
3　池辺進一．2010．和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝．かたをなみ，6：4–9.
4　池辺進一．2015．和歌山県那智勝浦町粉白の貝類．かたをなみ，10：7–9.
5　土岐頼三郎・江川和文．2013．和歌山市水軒浜産ヒナイソマイマイ（軟体動物門、腹足綱、イソコハクガイ科）の記録．南紀生物，55（1）：1–2.

写真：江川和文撮影

ベニゴマオカタニシ　*Georissa shikokuensis* Amano, 1939　アマオブネ目　ゴマオカタニシ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

生息地が石灰岩地という環境。和歌山県では由良町白崎石灰岩地の露頭で生息していたが、附近の環境整備で破壊され、近畿地方で唯一の生息地が消えた。

貝殻は微小（殻長 2.0 mm）、円錐形状。殻表は紅赤色、滑らかで、その螺状彫刻が乏しい。臍孔は閉じる。

白崎石灰岩地帯の一部の露頭に群棲していた。近畿では本県が唯一の生息地であった。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1972 a．白崎石灰岩地とその周辺の陸産貝類相．南紀生物，14（1）：6–8.
2　湊　宏．1972 b．石灰岩地帯の陸産貝類とその保護．Nature Study，18（7）：7–9.
3　湊　宏．1980．日本産ゴマオカタニシ科の種類．ちりぼたん，11（1）：3–5.
4　波部忠重．1951．日本産コゴメガヒ科及びゴマオカタニシ科．日本貝類図録．101–109.

写真：湊　宏標本

オカミミガイ　*Ellobium chinense* (Pfeiffer, 1854)　オカミミガイ目　オカミミガイ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

和歌山県では田辺市滝内（田辺湾湾奥）で 1983 年 8 月 24 日、池辺進一によって死殻 1 個体（和歌山県立自然博物館所蔵）が採取されたが、その後その環境が改変され、個体群は絶滅した。

殻長は 35 mm 前後、堅固、殻表は栗色から淡い黄褐色であるが、田辺の資料は老成個体で殻表は剥げ落ちて、白い個体であった。殻口には内唇に 1 歯、軸唇に 1 歯がある。

伊勢湾、瀬戸内海、有明海沿岸の内湾、干潟に分布する。かつては東京湾にも生息したが、絶滅して伊勢湾（三河湾）が分布の東限である。

河口域、干潟のヨシ原湿地に生育するが、全国的に生息地域、個体数も著しく減少している。

中国大陸系の遺存的種で、オカミミガイ科としては最大種。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報

1　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水貝類図鑑②　汽水域を含む全国の淡水貝類．240pp．ピーシーズ，東京．

2　湊　宏・池辺進一・吉田　誠．2009．和歌山県で新しく記録された稀少有肺類 3 種．南紀生物，51（2）：105–111．

写真：池辺進一撮影

ハイガイ　*Tegillarca granosa* (Linnaeus, 1758)　フネガイ目　フネガイ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

かつては日本全域の生息種で、その後、生息域を縮小し、現在は有明海周辺に安定した個体群が存在する。貝殻は殻表に 17~18 本の放射肋があり、この肋は顕著な疣を持つ。殻長 50 mm。日本、朝鮮半島以南、インド・太平洋に分布。和歌山県内では、和歌山市加太、名草ノ浜、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）に分布。

和歌山県では現在、生貝の確認例はない。水軒浜から記録されるが、生息状況は不明。これは 1970 年代以前に消滅した瀬戸内海の個体群の可能性もある。加太、名草ノ浜で半化石状個体を確認。近隣地域の三重県では明治以降の生息例は不明とされ、また、愛知県では 1960 年代、知多湾奥部や汐川干潟で普通に生息が見られたが、その後造成工事等で産地が消失し、ともに絶滅の可能性があるという。更に、かつての分布域、岡山県でも同様に生息環境が喪失し、絶滅したという。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．

2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383．三重県農林水産部，津．

3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．愛知県．名古屋．489–726pp．

4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草ノ浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142．

5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78．

6　山下博由．2012．ハイガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会）．p．110．東海大学出版会，秦野．

写真：池辺進一標本

ヒメアカガイ　*Anadara troscheli* (Dunker, 1882)　フネガイ目　フネガイ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾干潟の泥底、砂泥底、アマモ場に生息。サルボウに近似するが、殻表の肋数が 27 本（サルボウ 32 本）と少ない。殻長 40 mm。本州から九州、中国大陸南部、ベトナムに分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、みなべ町堺、白浜町畠島に分布。

和歌山県では名草ノ浜で古い死殻が、生貝は白浜町畠島で 1969 年に、また、みなべ町堺で 1979 年に記録されている。これ以降、生貝の記録はなく絶滅の可能性も考えられる。近隣地域で三重県では 2005 年に英虞湾 1 地点から記録されるが、他には死殻の確認例はなく絶滅の可能性がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp，自刊，和歌山．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類 295–383pp．三重県農林水産部，津．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
5　山下博由．2012．ヒメアカガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．109．東海大学出版会，秦野．

写真：田中眞人提供

ヒメエガイ　*Mescocibota bistrigata* (Dunker, 1866)　フネガイ目　フネガイ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

内湾の中潮帯以深の岩礫地に生息。貝殻はやや堅固、エガイに近似するが、2 本の放射肋が殻頂から伸びる。殻長 35 mm。日本、朝鮮半島以南の東アジアに分布。和歌山県内では、和歌山市和歌川河口（和歌浦湾観海閣）、名草ノ浜、田辺市に分布。

本種は、かつて普通に見られ、和歌山県では田辺市での記録が最初で、近年では 2006 年に観海閣からの確認例（死殻）があり、これが最後の記録となる。なお、近隣地域では神戸市須磨から 1979 年に記録され、三重県、愛知県では記述がなく、また岡山県ではごく最近まで生息が未確認であったが、近年、復活傾向にある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部．岡山．
2　波部忠重・小菅貞男．1967．標準原色図鑑全集　3　貝．xviii．223pp．64 pls．
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8pls．和歌山県立自然博物館，海南．
4　池辺進一．2017．和歌山市・観海閣の貝．がんがら，12：1–5．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
6　山下博由．2012．ヒメエガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．110．東海大学出版会，秦野．

写真：池辺進一標本

ホソコオロギ　*Cerithium torresi* E. A. Smith, 1884　オニノツノガイ目　オニノツノガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

干潟の潮下帯のアマモ場周辺の泥礫底に生息。貝殻はコオロギガイ（コベルトカニモリ）に近似し、やや小型、細型で赤みを帯び、他に黄色や黒色、色帯となる個体もあり、殻表の彫刻がより細かい。相模湾以南、九州、インド・太平洋・亜熱帯域、オーストラリアに分布。

和歌山県では田辺湾奥部からのみ、新鮮な死殻が確認される。他地域では三重県英虞湾、鳥羽市南部、佐賀県唐津市の3地点のみ生貝が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　木村昭一・山下博由．2012．ホソコオロギ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．27．285pp．東海大学出版会，秦野．
3　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1-23．

写真：三長秀男提供

イリエツボ　*Pseudonoba yendoi*（Yokoyama, 1927）　エゾタマキビ目　ワカウラツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾奥部の潮下帯 5~10 m の軟泥底の還元的な環境に生息。貝殻は微小、細長な塔型、白色で殻表は平滑。殻高 4.5 mm。東京・能登半島以南～九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では、海南市船尾、有田市初島町に分布。

和歌山県では、近年、船尾や初島町から死殻が確認されたが、生貝の確認には至っていない。全国的にも産出例は極めて少ないが、朝鮮半島（韓国南部）では健全な個体群が知られている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．イリエツボ．干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．39．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309-812pp．岡山県環境文化部．岡山．
3　池辺進一．2010．和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝．かたをなみ，6：4-9．
4　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．

写真：池辺進一標本

ワカウラツボ　*Wakauraia sakaguchii*（Kuroda & Habe, 1954）　エゾタマキビ目　ワカウラツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

1954 年に和歌浦（三葛）産として記載されたが、長い間確認されなかった。しかし、熱心な研究者によって近年、同地において再確認された。

貝殻は小型（殻高 5 mm）紡錘形状、堅固、殻皮は小豆色や橙褐色、時には黄白色、黒褐色等、変異がある。体層は殻高の 60 %を占める。伊勢湾から瀬戸内海、有明海の干潟内湾、河口に生息する。

模式産地は和歌浦であり、和歌山県内では紀の川河口、日高川河口及び広川町広川で確認されている。

内湾干潟、河口域（汽水域）の泥や砂地に半ば埋まる岩、または堆積したゴミの下等に付着している。

選定理由

記載された当時は新亜属 *Wakauraia*（ワカウラツボ科）が使用され、これまで学名の変更等には紆余曲折があった。

最初の発見地「和歌浦」を和名に冠する和歌山県を代表する汽水域貝類である。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報

1　福田　宏・前田和俊・河辺訓受．1990．ワカウラツボの瀬戸内海での産出と種名．南紀生物，32（2）：103–108.
2　大古場　正・三長秀男．2001．ワカウラツボ和歌山県で発見．かいなかま，35（1）：1–3.
3　池辺進一．1975．和歌山市の陸産貝　橙藻．末松四郎教授退官記念誌：138–141．和歌山.
4　池辺進一．2004．和歌山県の貝類．72pp．自刊，和歌山.
5　環境省．2020．環境省レッドリスト 2020 の公表．環境省，東京.
https://www.env.go.jp/press/107905.html
6　木邑聡美・野元彰人・中西夕香・杉野伸義．2001．和歌浦で再発見されたワカウラツボ（腹足綱）．南紀生物，43（1）：38–40.
7　木邑聡美・野元彰人・杉野伸義・和田恵次．2003．和歌浦干潟で確認された希少貝類．南紀生物，45：7–12.
8　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（Ⅰ）．南紀生物，46（2）：31–36.
9　黒田徳米・波部忠重．1954．日本産水棲新巻貝．Venus，18（2）：71–79.
10　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水産貝類図鑑②　汽水域を含む全国の淡水貝類．240pp．ピーシーズ，東京.
11　和田恵次．2018．汽水域に生きる巻貝たち．144pp．東海大学出版部，平塚.
12　和田恵次・大畠麻里・古賀庸憲．2011．和歌川河口域における汽水性希少巻貝ワカウラツボ個体群の変動－ 2000~2010 年－．日本ベントス学会誌，66：22–25.

写真：池辺進一撮影

ツブカワザンショウ　*Angustassiminea estuarina*（Habe, 1946）　エゾタマキビ目　カワザンショウガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	－

選定理由

和歌山県の那智勝浦町浦神の湾奥が模式産地であるが、その狭い生息地が著しく変わり、生息地が破壊されてしまった。また、他の生息地でも河口域の環境が悪化して本種の絶滅が危惧される。

貝殻は微小（殻高 2 mm）、カワザンショウガイの幼貝と混同されるが、本種は明らかに臍孔があることで、識別される。

模式産地（那智勝浦町浦神）の他、和歌川河口、広川町和田、有田市箕島、那智勝浦町ゆかし潟から記録がある。

本種は最初に和歌山県で見つかった種（模式産地）であるが、生息地が多くなく、絶滅に瀕している汽水域の貝類である。



執筆者（池辺進一）

参考文献・情報

1　波部忠重．1946．汽水産貝類 7 新種 *Assiminea estuarina* ツブカワザンショウ．Venus，14（5–8）：217–218.
2　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水産貝類図鑑②　汽水域を含む全国の淡水貝類．240pp．ピーシーズ，東京.
3　湊　宏・池辺進一．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－．陸産貝類・淡水産貝類　202–221pp．和歌山.
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（Ⅰ）．南紀生物，46（2）：31–36.
5　和田恵次．私信.

写真：池辺進一撮影

ハツカネズミ　*Macromphalus tornatilis* (Gould, 1859)　エゾタマキビ目　シロネズミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾湾口部の礫地砂泥底に生息。貝殻は微小、白色で堅固、殻表に明瞭な 7~8 本の細く隆起した螺肋をめぐらす。殻高 4.5 mm。房総半島から九州、瀬戸内海、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、日高町小浦、御坊市上祓井戸、名田、印南町切目崎、田辺市元島、文里湾、白浜町対ノ浦、串本に分布。

和歌山県では死殻のみを確認。各記録地点での個体は少数である。近隣地域では、三重県は過去（1979 年以前）に伊勢湾湾口部での記録があるが、現状は不明で、愛知県では死殻の採集例自体が稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
2　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
3　小山安生．2011．和歌山県のソデボラ上科・シロネズミ上科貝類目録．南紀生物，53 (2)：131–136．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53 (2)：155–160．

写真：三長秀男提供

カネコスズカゴ　*Conradia doliaris* A. Adams, 1863　エゾタマキビ目　フロリダツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

細砂底に生息が推定される。貝殻は微小、白色で薄質、やや長い紡錘形、殻表に螺肋をめぐらす。殻高 5 mm。和歌山県、瀬戸内海、九州から中国南部に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市初島に分布。

和歌山県では 4 地点で確認されるが、いずれも死殻である。近年、淡路島洲本沖（水深 9 m）から全国でも初めて生貝が採集され、動物体の検討結果から所属が従来のツキヨシタダミ科からフロリダツボ科に変更された。本種は幕末期、来航した英国海軍調査船の船医 A. Adams により新種記載され、更に生貝の発見は 2018 年であった。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　Adams, A. 1863. On the genera and species of Fossaridae found in Japan. Proceedings of the Zoological Society of London：110–113.
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020　動物編．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
3　池辺進一．2010．和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝．かたをなみ，6：4–9．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草ノ浜の貝類 1．南紀生物，48 (1)：21–26．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2014．和歌山市加太周辺の貝類相 Ⅶ．南紀生物，56 (1)：66–71．

写真：三長秀男提供

ゴマフダマ　*Paratectonatica tigrina* (Röding, 1798)　エゾタマキビ目　タマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の泥底・砂泥底に生息、食用にも利用、肉食性の貝で他の貝を穿孔して動物体を摂食する。貝殻は小型、白色、球形で堅固、殻表に黒褐色の斑点をめぐらす。殻高 30 mm。瀬戸内海、有明海、八代海、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市塩津、有田市初島に分布。

和歌山県では紀北域を主に古い記録があり、水軒浜は 1960 年代の確認例である。近年、名草ノ浜での採集例は、中国産アサリに混入した個体の可能性がある。近隣地域でも過去に三河湾、三重県の内湾でも記録があるが、現在、生貝は確認されていない。本種は過去、広域に分布したが、年々、生息域が縮小し、瀬戸内海は現在、笠岡市（岡山県）他 4 地点のみが知られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
2　小山安生．2001．和歌山県のタマガイ科貝類．南紀生物，43 (2)：147–153.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2　腹足綱②．南紀生物，48 (2)：159–164.
4　寺町昭文．1958．寺町昭文（収集家）[自身プロフィール]．Venus，20 (2)．Pl．18.
5　山下博由．2012．ゴマフダマ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．60．東海大学出版会，秦野.

写真：三長秀男提供

マルテンスマツムシ　*Mitrella martensi* (Lischke, 1871)　新腹足目　タモトガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾奥部の砂泥質干潟で転石隙間や海藻上に生息。貝殻は堅固、塔型、成個体では外唇が肥厚する。殻表は黄褐色の地に褐色の縦帯をめぐらすが変異が多い。殻高 15 mm。北海道から九州沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市大川、住吉崎、加太、水軒浜（1960 年代に造成工事で消失）、御坊市上祓井戸、白浜町臨海、椿、那智勝浦町に分布。

本種は、かつて和歌山県全域から確認されたが、近年、全国的に激減が認識されている。採集時期は上祓井戸では 1964 年、他にも佐賀県では 2003 年で、現在、生貝の採集例はないと見られる。近隣区域でも愛知県では 1970 年、三重県では 1979 年の生貝の採集例が最後である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・久保弘文・木村昭一．2012．マルテンスマツムシ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．65．東海大学出版会，秦野.
2　波部忠重・小菅貞男．1967．標準原色図鑑全集　3　貝．xviii．223pp．64 pls．保育社，大阪.
3　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
4　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
5　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.

参考文献・情報
6　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
7　小山安生．2005．和歌山県のフトコロガイ科・ムシロガイ科貝類目録．南紀生物，47 (2)：127–136.
写真：池辺進一標本

オガイ　*Cantharus cecillei* (Philippi, 1844)　新腹足目　エゾバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

内湾域の潮下帯から水深 35 m の岩礫底、砂泥底に生息。貝殻は堅固、白色、紡錘形で螺塔はくびれ肩部が隆起する。殻表はビロード状の黄褐色の殻皮をもつ。殻高 40 mm。房総半島・富山湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、有田市初島、白浜町に分布。

本種は 1960 年代まで普通に見られ、その後、激減した種である。和歌山県では 1965 年に加太で確認され、近年、3 個体を確認したが、殻皮の剥離した古い死殻である。船底塗料の有機スズ化合物（TBB）による生殖不能が要因で激減したと見られる。近隣地域で三重県では 1980 年には少数個体の生貝が採集され、愛知県では 1994 年に死殻 1 例が確認されたのみである。1991 年、船底塗料の有機スズ化合物が規制され、兵庫県では顕著な個体群の回復が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020　動物編．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋.
4　堀口敏広．1998．インポセックス　巻貝類における雌の雄化現象．海洋と生物，117：283–287.
5　増田　修．2017．姫路市家島諸島周辺（播磨灘北部）で採集されたオガイ．かいなかま，51 (1)：25–28.
写真：池辺進一標本

ウネボラ　*Gyrineum natator* (Röding, 1798)　ヤツシロガイ目　フジツガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

岩礁の潮間帯から潮下帯に生息。貝殻は黄褐色、堅固、背腹方向に扁平でオキニシ科に似る。殻高 25 mm、瀬戸内海、紀伊半島以南のインド～太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾（新和歌浦）、片男波、名草ノ浜、海南市塩津、日高町小浦、串本町に分布。

和歌山県では日高郡小浦海岸、和歌山市加太から少数例が確認されていたが、2019 年、海南市塩津から 100 個体以上を確認。全国に稀な種で近隣地域のうち三重県、愛知県では記録されず、一方、岡山県では長らく生息不明であったが、近年増加が認められ、オガイやヒメエガイ同様、突如、増加傾向となることが示唆される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．1996．日高郡小浦海岸で観察した貝類．くろしお，(15)：35–36.
2　江川和文・野田圭典．2014．和歌山市産ウネボラの知見（軟体動物門、腹足綱、フジツガイ科）．南紀生物，56 (2)：113–116.
3　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山.
4　波部忠重・小菅貞男．1967．標準原色図鑑全集　3　貝．xviii．223pp．64 pls．保育社，大阪.
写真：江川和文撮影

ヒラドサンゴヤドリ　*Coralliophila jeffreysii* E. A. Smith, 1879　新腹足目　アッキガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

殻長 25 mm 前後。東京湾口、相模湾、八丈島、三河湾、伊勢湾、熊野灘、瀬戸内海、玄界灘、九州西岸、韓国に分布。本属で唯一内湾域の潮下帯から水深 50 m の岩礁に生息し、オノミチキサンゴやムツサンゴ等に着生し食害する。

和歌山県では和歌山市（加太、和歌浦湾）、有田市（矢櫃）、日高郡（美浜町）から記録があり、和歌浦湾では 1970 年代後半に潮間帯のタイドプールからも確認された。近年でも、2014 年 4 月に有田市沖の水深 30 m から生貝が確認される等、今すぐに危険な状況に陥るとは考えにくい一方、内湾の浅域に生息すること、宿主選択の幅が小さいこと等、危険な要素を多く抱える種であるとも考えられる。

執筆者（野田圭典）

参考文献・情報

1　福田宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–706pp．岡山県環境文化部，岡山．
2　濱村陽一．2004．芸南の海産貝類図鑑．蘭島文化振興財団，呉．
3　堀川安市．1964．長崎県産貝類目録．長崎生物研究会，長崎．
4　池辺進一・吉田誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8pls．和歌山県立自然博物館，海南．
5　稲葉明彦．1982．瀬戸内海の貝類．広島貝類談話会，向島．
6　Kim, S. J. 2017. National list of marine species 2017. I. Marine animals, Ⅱ .Marine plants, Ⅳ . Marine fungi, V. Marine bacteria.National Marine Biodiversity Insutitue of Korea, Seocheon (in Korean with English title) .
7　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020 −動物編−．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
8　小山安生．私信（熊本県牛深からの記録）．
9　小山安生．1987．和歌山県のサンゴヤドリガイ科．南紀生物，29 (1)：51–57.
10　松本幸雄．1979．三重の貝類（三重県産貝類目録）．179pp．鳥羽水族館．鳥羽．
11　西村和久．1999．伊豆・小笠原諸島海域における貝類分布．東京都水産試験場調査研究報告，211：1–124.

写真：池辺進一標本

ウネムシロ　*Hima hiradoensis* (Pilsbry, 1904)　新腹足目　オリイレヨフバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾の砂泥底から岩礫底の潮間帯下に生息。腐肉食性。貝殻は堅固、紡錘形、螺層は膨らみ、螺肋と縦肋が交差する。殻高 15 mm。北海道以南、九州、朝鮮半島北部、中国大陸北部に分布。和歌山県内では和歌山市大川、加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、白浜町臨海、串本町潮岬に分布。

和歌山県では加太から死殻を確認。従来、普通に見られた種であるが、1970 年代、急激に個体数が激減し、近年、生貝の採集例はない。近隣地域で三重県では 1979 年を最後に生息が確認できず、また愛知県では 3 地点での生息が確認されているに過ぎない。なお、本種は従来、クロスジムシロ、アオモリムシロとの類似性が示唆されていたが、ミトコンドリア DNA の解析によって独立種と確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　波部忠重・小菅貞男．1967．標準原色図鑑全集　3　貝．xviii．223pp．64 pls．保育社，大阪．
2　花木勇太・香取祥人・林　誠司・木村昭一．2004．ミトコンドリア DNA によるクロスジムシロ種群の予察的系統解析．Venus，72 (1–4)：148.

3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
5　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
6　小山安生．2005．和歌山県のフトコロガイ科・ムシロガイ科貝類目録．南紀生物，47（2）：127–136．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54（1）：61–66．

参考文献・情報

写真：三長秀男提供

トカシオリイレ　*Cancellaria* (*Habesolatia*) *nodulifera* (Sowerby, 1825)　新腹足目　コロモガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

殻長 50 mm 前後。東北以南の浅海の砂底に生息。和歌山県では 1960 年代に和歌山市加太から記録があるが、近年の記録がほとんどなく、激減あるいは消滅に近い状態にあるものと思われる。

1960 年～1970 年代前半頃、和歌浦湾内で操業する小型の刺し網漁船の漁屑から、オニサザエ、バイ、ミクリガイ、オリイレボラ、コロモガイ等と共に採集され、生個体も確認できた。これらの種と同様、トリブチルスズの影響による減少の可能性も考えられる。千葉県でも減少傾向が示され、2011 年及び 2019 年とも重要保護生物にランクされている。一方、日本海側では能登産個体の生態写真が示され、健全な生息地が維持されていることが示唆された。

執筆者（野田圭典）

1　池辺進一・吉田誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．和歌山県立自然博物館，海南．
2　黒住耐二．2011．トカシオリイレ　千葉県の保護上重要な野生生物　千葉県レッドデータブック動物編　貝類．463pp．千葉．
3　黒住耐二．2019．トカシオリイレ　千葉県の保護上重要な野生生物　千葉県レッドリスト動物編　貝類．29pp．千葉．
4　高重　博．2019．日本の貝 温帯域・浅海でみられる種の生態写真＋貝殻標本 629 種 ネイチャーウォッチングガイドブック．誠文堂新光社，東京．

参考文献・情報

写真：三長秀男提供

イソチドリ　*Amathina tricarinata* (Linnaeus, 1767)　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

砂泥質干潟低潮帯から潮下帯のタイラギ等の二枚貝上に着生、口吻で体液を吸引する。貝殻は傘型、堅固、殻頂からの 3 本の顕著な肋を持つ。房総半島・男鹿半島以南、九州、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾（新和歌浦）、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、有田市矢櫃に分布。

和歌山県では確認例はごく少なく、近年は加太海岸の打上砂から古い死殻を確認しているのみである。近隣地域では三重県で生貝は英虞湾の 1 地点でのみ知られ、愛知県では長年、生貝が確認されなかったが、近年、知多半島から生貝が確認され、また、広島県ではイタヤガイ、ニシキガイ、ハボウキ他の殻上から生貝が確認され、瀬戸内海では回復の傾向が見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　濱村陽一・木村昭一．2012．広島県で近年生息が確認されたイソチドリとホスト．かきつばた，37：36–38.
2　福田　宏・木村昭一．2012．イソチドリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．83．東海大学出版会，秦野.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154.
写真：三長秀男提供

マキモノガイ　*Leucotina dianae*（A. Adams in H. Adams, 1854）　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN



選定理由

内湾の干潟潮間帯下の細砂底に生息、大型二枚貝に寄生する習性が推定される。貝殻はやや堅固、乳白色、淡黄色の薄い殻皮をもち殻表全体に平滑な螺肋をめぐらし、螺肋間に微細な縦脈を持つ。殻高 35 mm。岩手県大槌湾・新潟県以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では名草ノ浜で生貝が確認され、この記録以外には死殻の確認例のみである。かつて水軒浜では普通に見られた種で、ハボウキ等、他の二枚貝の体液を吸引する習性が知られている。名草ノ浜の採集例は鋤簾によるもので、採集時、周辺にはクイチガイサルボウとバカガイの 2 種が確認されており、いずれかが宿主であった可能性も考えられる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．マキノモガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．86．東海大学出版会．秦野.
2　三長秀男・三長孝輔・三長敬昌．2004．和歌山県名草ノ浜で採集されたマキモノガイ生個体．南紀生物，46（1）：73–74.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154.
写真：三長秀男提供

カワネジガイ　*Camptoceras hirasei* Walker, 1919　モノアラガイ目　ヒラマキガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）



選定理由

和歌山県では有田市およびかつらぎ町で記録された。過去の洪水等による環境悪化で、その後確認ができず、「絶滅」と認定していたが、2002 年に新しい生息地が見付かった。

貝殻は左巻き、細長く、半透明。淡黄色、殻高 10 mm、殻径 3 mm で、螺層が捻じれ離れている。螺管の肩部は角ばっている。各地における生息地では生息環境が極めて悪化してきて、絶滅が危惧される。

全国的には 19 都府県からの記録があるが、絶滅に瀕し、個体群の消長が激しい種である。止水域に生育する植物の枯死体や落ち葉に付着している。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報
1　福田　宏・森　生枝．2016．岡山県自然保護センター敷地内の田尻大池で 21 年ぶりで確認された絶滅危惧種カワネジガイ（腹足綱：汎有肺類：ヒラマキガイ科），ならびに同種の棲息環境と水陸両棲生活に関する考察．岡山県自然保護センター研究報告，23：1–12.

参考文献・情報
2　Marui, H., 2002. A new locality of the endangered freshwater snail *Camptoceras hirasei* (Gastropoda : Pulmonata : Planorbidae) in Wakayama Prefectute, Japan. Yuriyagai, 8 (2) : 83–85.
3　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水産貝類図鑑②　汽水域を含む全国の淡水産貝類．240pp．ピーシーズ，東京．
4　湊　宏．1993．文献でみるカワネジガイの記録．南紀生物，35 (2) : 154–156.
写真：池辺進一撮影

サナギガイ　*Pupilla cryptodona* (Heude, 1882)　マイマイ目　サナギガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

中国（模式産地：江蘇省）、朝鮮半島等の大陸にも分布する。わが国では西日本の約 14~15 県から記録があるが、その生息地は環境の変化で絶滅に瀕している。

貝殻はこの仲間としてやや大きく（殻長 3.5 mm）、円筒形状。殻口内には円形状の小突起（歯）が複数存在する。臍孔は開くが、狭い。

和歌山県では 2 箇所（由良町白崎、白浜町瀬戸）から記録がある。採取された個体数はそれぞれ極めて少なく、白崎では死殻が大半で、生貝が僅少である。

本種は大陸遺存型で、西日本から 14~15 県から知られているのみで、本県ではわずか 2 箇所から記録された。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏・池辺進一・吉田　誠．2009．和歌山県で新しく記録された稀少有肺類 3 種．南紀生物，51 (2) : 116–112.
2　山下博由・福田　宏．1995．サナギガイの殻形態と分布（腹足綱・柄眼目・サナギガイ科）．ユリヤガイ，4 (1-2) : 169–177.
3　矢野重文．2022．キバサナギガイ属の分類についての再検討．まいご（四国貝類談話会会誌），(29) : 1–7.
写真：矢野（2022）典拠

ニクイロギセル　*Megalophaedusa expansilabris carnea* (Kuroda & Abe, 1980)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	－



選定理由

従来から和歌山県ではチビギセルの小型種として取り扱われていたが、近年に再検討された結果、徳島県山岳地帯から記載された本種であることが報告された（湊，2009）。紀伊山地に広く生息しているが、個体数は極めて少ない。

貝殻は小形（殻長 10~11 mm）、比較的堅固な紡錘形状。新鮮な個体では和名のように赤褐色（肉色）。貝殻の内部は主壁のほかに、傾いた月状壁は上腔壁と下腔壁とを連結して「エ」字形となる。

高野山、護摩壇山系、果無山系、大塔山系等の山岳地帯のブナ林に生息する。紀伊水道を挟んで、タイプ産地（徳島県：剣山）の他に、紀伊山地（和歌山県、奈良県）に広く生息し、ブナ林下の朽ち木等に付着している。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．1995．那智山の陸産貝類．南紀生物，37 (2) : 87–93.
2　湊　宏．2009．紀伊山地におけるニクイロギセル．ちりぼたん，40 (1) : 1–7.
3　湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系の陸産貝類相．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，285–188pp．和歌山県自然環境研究会，田辺.
写真：湊（2009）典拠

マルクチコギセル　*Reinia holotrema* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

本県の那智を模式産地とする樹上性のキセルガイ。生息地が限定される。かつては山岳地帯のブナ林に生息していたが、伐採等の環境悪化、人為的攪乱等によってその生息地が破壊されて絶滅に瀕している。

貝殻は小形（殻長 13~14 mm）、その殻表には細かい成長脈が走るが、螺層の上部は淡黄白色の縞模様をめぐらして、下部の褐色の部分と対比して美麗である。殻口の上板が欠如しているので、和名（マルクチ）のように殻口は円い。

那智山系（模式産地）、大塔山系、果無山系、護摩壇山系から記録がある。主に紀伊半島、九州中部の山岳地帯に生息。最近は静岡県からも記録されて、まさに襲速紀要素型分布をする典型的な種類である（佐藤ら，2016）。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1983．日本産陸棲貝類の生殖器の研究　－ XXI，キセルガイ科（7）：マルクチコギセル属．Venus，42（4）：331-343.
2　湊　宏．1982．襲速紀要素型分布をするキセルガイ科貝類．南紀生物，24（1）：8-11.
3　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．253．世界文化社，東京.
4　湊　宏．2017．陸産貝類研究備忘録（16），カスガコギセルとマルクチコギセル．かいなかま，51（1）：1-13.
5　佐藤拓也・大貫貴清・早瀬善正．2016．静岡県におけるマルクチコギセルの新分布記録．ちりぼたん，46（3-4）：144-148.

写真：湊　宏撮影

カスガコギセル　*Reinia hungerfordiana hungerfordiana* (Moellendorff, 1882)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

奈良県春日山をタイプ産地とするが、関西地方でも各地で点々と生息地が知られている。樹上性でブナやカツラなどに生息する。各地で絶滅に瀕しており、和歌山県では唯1箇所しか確認されていない。

貝殻は小形（殻長 11~13.5 mm）、殻表は黄褐色で、各螺層の上部は淡黄色系の縞模様をめぐらす。殻口の上板は不完全で、わずかに膨れる。

和歌山県では紀北の 1 箇所しか、生息が確認されていない。生息地が極端に少ない上に、和歌山県の生息地の森林は環境の悪化で荒廃。

和泉山系の岩湧山、和泉葛城山等のブナ林にはかつて生息していたが、近年は確認できず、絶滅の可能性が高い。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus，Supplement 2：1-212 + tab．5 + pls．74.
2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．253．世界文化社，東京.
3　湊　宏・池辺進一．2012．保全上重要なわかやまの自然　－和歌山県レッドデータブック－（2012 年改訂版）208-232pp．和歌山.

写真：湊　宏撮影

シロモリサキギセル　*Megalophaedusa matsumurai* (Minato, 2014)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

近年になって記載された紀伊山地の固有種。本県では今のところ３箇所しか確認されていない。タイプ産地は大阪市の金剛山。奈良県では３箇所で確認されている。

貝殻は小形（殻長 12～13 mm）、殻色は淡黄白色～クリーム系白色、殻口の上板の右側に切れ込みが存在する。側面に位置する月状壁の上部は弧状に曲がって、その下部では短い下腔壁に連結する。

和歌山県の紀北地方（3 箇所）から記録がある。採取される個体も非常に少ない。

本種は 2012 年の和歌山県のレッドデータブック改訂版で「ホソヒメギセル」の類似種としていたモリサキギセル近似種 B（シロモリサキギセル）のグループで、紀伊山地北部から記録されている。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏・室原誠司．2011．鶴見岳（大分県）から採取されたモリサキギセルの近似種 A と他の近似種について．南紀生物，53 (1)：15–18.

2　Minato, H. 2014. A new clausiliid, *Tyrannophaedusa* (*Aulacophaedusa*) *matsumurai* n. sp. (Gasrtopoda : Pulmonata) from Northern Area of the Mountainous Region of the Kii Range, Japan. Venus, 72 (1–4)：131–134, figs. 2. A.

3　湊　宏．2007．室生寺（奈良県）で確認されたキセルガイ科貝類．南紀生物，49 (2)：151–156.

写真：湊　宏撮影

シイボルトコギセル　*Reinia sieboldtii* (Pfeiffer, 1848)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本種は九州、四国西部、本州では山陰地方、新潟県南部、静岡県東部、神奈川県南部等、点々と生息地が知られていた樹上性のキセルガイ。和歌山県では 2020 年 9 月に紀伊半島西部の日ノ御崎で初めて発見された。

貝殻は中形（殻長 約 18 mm）、殻表は茶褐色で生息地の林内では見つけにくい。殻口はやや黄白色で、口縁は厚く外側に反曲する。

美浜町の日ノ御崎の海岸の林内に生息している。和歌山県では他の地域からは発見されていない。

九州や四国の西部では、普通に見られる種類であるが、分布の間を埋めるように紀伊半島西岸で生息が確認されたのは極めて貴重である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1989．総説　シイボルトコギセルガイ．日本の生物，3 (5)：48–54.

2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p. 253．世界文化社，東京.

3　湊　宏・中島良典・竹内智毅．2020．シイボルトコギセルに関する分布学的知見と本種の右巻き個体の報告．九州の貝，(95)：17–22.

写真：湊（2004）典拠

ヒロクチコギセル　*Reinia variegate*（A. Adams, 1868）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

宮城県北部（南三陸町以南）から本州西部の太平洋側、四国、九州の海岸地帯に分布する。樹上性の種類で人為的な攪乱等によって生息環境が悪化し、絶滅が危惧される。

貝殻は小形（殻長 8.5~9.5 mm）、紡錘形状。殻表は茶褐色の地に不透明な縞模様が表れる。殻の内部に壁を欠く。貝殻の内部に閉板がない。

和歌山県南部の串本町九龍島、双島、田辺市神島、みなべ町鹿島の他、白浜町、田辺市、みなべ町から生息が確認されている。

全国的に分布地が少ないこと、樹上性の種類であること、人為的な攪乱による個体数の減少のゆえ、大変貴重である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1988．田辺湾神島の陸産貝類．In：神島の生物（和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書），49–52pp．89pp．田辺市教育員会，田辺．

2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．253．世界文化社，東京．

2　湊　宏・川名美佐男．2002．金華山の陸産貝類，特にヒロクチコギセルの分布について．ちりぼたん，32（3）：75–81．

写真：湊　宏撮影

ケハダビロウドマイマイ　*Nipponocloritis fragilis*（Gude, 1900）　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

本県での生息域が北部の山岳地帯のみであること、個体数が極めて少ないことが本種の特徴。森林環境の変化によって生息環境が少なくなってきている。

貝殻は中形（殻長 16 mm、殻径 20 mm）、螺塔は低く、殻質は薄い。殻表は短毛に覆われ、毛間は比較的に粗い。生殖器の鞭状器は極めて小さい。

近畿地方では広く分布するが、本県では和泉山系、高野～護摩壇山系、果無山系の山岳地帯でのみ記録されている。広く近畿地方に生息しているが、どの地域でも個体数が少ない。森林下の湿った朽ち木等に付着している。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．2003．和歌山県に分布するビロウドマイマイ属貝類．南紀生物，45（2）：110–114．

2　黒田徳米・波部忠重．1949．かたつむり．p．60．三明社，大阪．

写真：湊　宏標本

ヒラマキビロウドマイマイ　*Nipponocholoritis hirasei*（Pilsbry, 1902）　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

古座川町蔵土をタイプ産地とする本種は、もともと生息地域が極めて限られる上に個体数が多くはない。

貝殻は中形（殻長 9 mm、殻径 18 mm）、低平で薄質、平巻き状に螺層が巻く。殻頂部はかすかに窪む。殻表には殻毛が規則的に配列し、その間隔が広いために殻毛の密度の状態は粗い。殻口縁は薄くてかすかに反曲する。臍孔は完全に開き、殻長径の１／５を占める。

選定理由

和歌山県の南部に限って分布しているが、どの生息地でも個体数は多くはない。

低平な貝殻をもつこと、広い臍孔をもつことで日本産ビロウドマイマイ属では特異な種である。学名は黎明期の日本貝類学会を推進した平瀬與一郎に献名されている。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1980．日本産陸棲貝類の生殖器の研究－ XV，ビロウドマイマイ属の４種．Venus，39（2）：123–129.

2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．261．世界文化社，東京.

3　湊　宏．2015．陸産貝類研究備忘録（15），ヒラマキビロウドマイマイとクロズギセル．かいなかま，49（2）：1–14.

写真：湊　宏撮影

カタマメマイマイ　*Lepidopoisum conospira*（Pfeiffer, 1851）　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

全国的に情報の少ない種で、その生息地は飛び飛びで、湊ら（2009）の調査では 18 都県から記録されている。個体数が少ないこと、生息環境が草地であることが特徴。和歌山県では有田市初島町・地ノ島で死殻１個体しか確認されていない。

貝殻は小形（殻長 5.2 mm、殻径 5.9 mm）、球状の円錐形。新鮮な個体では、殻表では鱗片状の殻皮で覆われるが、その多くははげ落ちていることが多い。

有田市初島町・地ノ島の放置された農地の周辺しか確認されていない。

貝殻に鱗片状の殻毛をもつこと、生殖器に矢嚢を欠くことで、この種を基に新属が設けられている（波部，1958）。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　波部忠重．1958．日本産陸産貝類の解剖学的研究（8），ツシマケマイマイとカタマメマイマイ．Venus，19（3-4）：165–166.

2　湊　宏・池辺進一・吉田　誠．2009．和歌山県で新しく記録された稀少有肺類３種．南紀生物，51（2）：106–112.

写真：湊・池辺・吉田（2009）典拠

ナチマイマイ　*Euhadra nachicola* Kuroda, 1920　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

那智をタイプ産地とする本種は、那智山とその周辺域だけに分布する和歌山県の代表的な種。そのために収集家による採取等によってその生息状況が脅かされており、かつ個体数が激減傾向にある。

貝殻は大形（殻長 20~21 mm、殻径 48~51 mm）、濃褐色。殻表の成長脈と螺状脈とも極めて弱く、ほとんど平滑で光沢があって滑らかである。1234 型や 0204 型の色帯を持つ個体の他に、時には無帯個体もある。臍孔は殻径の１／４を占める。

那智山とその周辺（熊野川町、現 新宮市）のみでしか確認がされていない。那智をタイプ産地とする極めて分布域の狭い地域に生息する日本代表するマイマイ属である。夜行性の陸産貝類で、近年は生息数が著しく減少の傾向にある。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．1995．那智山の陸産貝類．南紀生物，37（2）：87-93.
2　湊　宏・池辺進一．2001．陸産貝類・淡水産貝類．保全上重要なわかやまの自然　－和歌山県レッドデータブック－（2012 年改訂版）．208-232pp．和歌山.
写真：湊　宏撮影

ハンレイヒバリガイ（カラスノマクラ）　*Modiolus hanleyi*（Dunker, 1882）　イガイ目　イガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

選定理由



内湾湾口部干潟低潮帯から潮下帯に生息。貝殻はやや薄質、茶褐色、長方形で後方が広がる。殻長 15 mm。東京湾以南、九州、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では、水軒浜での 1963 年の採集例 、名草ノ浜での 1987 年確認のやや若い合弁個体 3 例以上の確認例があるが、以降の記録は不明。近隣地域では三重県では近年、伊勢湾、英虞湾で生息が確認されたが、個体数は稀とされ、岡山県では、現状、絶滅と想定される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．ハンレイヒバリガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．108．東海大学出版会，秦野.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137-142.
写真：池辺進一標本

イタボガキ　*Ostrea denselamellosa* Lischke, 1869　カキ目　イタボガキ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

選定理由



内湾の浅海域の砂泥底に生息。食用種。貝殻はほぼ方形、左殻は不規則な分岐肋をもち、右殻は扁平で檜皮葺き状。殻長 120 mm。日本（陸奥湾から九州）、朝鮮半島、中国大陸からインドネシアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、御坊市上祓井戸、田辺市内之浦、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では近年、和歌山市から白浜町にかけ死殻が確認されるが、個体数は稀である。国内での生息域は能登半島七尾湾、瀬戸内海、有明海に限定され、近隣地域では、かつて大阪市湾南部の泉佐野では漁港市場に並び、愛知県では 1960 年代、底引き網漁で大量に採捕されていたが、1992 年を最後に採集されなくなり、また三重県でも 1990 年代、急激に激減し、現在、生貝は未確認である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文・中本博之．2014．白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類．くろしお，（33）：1-7.
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137-142.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73-78.

参考文献・情報
5　岡村親一郎・児島　格．1984．大阪市湾の貝類相　Ⅰ－二枚貝類の生息記録－．南紀生物，26（2）：121–126.
6　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種．南紀生物，43（2）：102–108.
7　山下博由．2012．イタボガキ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．113．東海大学出版会，秦野.
写真：池辺進一標本

ヤミノニシキ（アワジチヒロ）　*Volachlamys hirasei*（Bavay, 1904）　イタヤガイ目　イタヤガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾の低潮帯から水深 60 m の砂泥・泥底に生息。貝殻は放射肋の種内変異が顕著で、肋が微弱な個体をヤミノニシキ、肋が顕著な個体をアワジチヒロと称する。日本（紀伊水道・瀬戸内海・有明海）、朝鮮半島、中国大陸沿岸（渤海、黄海）に分布。和歌山県内では和歌山市加太、雑賀崎、有田市宮崎町（矢櫃）に分布し、加太では 1964 年の記録例がある。

近隣地域で大阪市湾湾口（泉佐野）では 1980 年代、本種は比較的、普通に採取され、95 個体（1983 年 3 月採集）の種内変異がヤミノニシキ型 53 例、アワジチヒロ型が 42 例であると記録される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　黒田徳米．1945．和歌山県貝類目録（未定稿）．西宮市貝類館所蔵.
3　岡村親一郎・児島　格．1984a．大阪市湾の貝類（予報）．南紀生物，26（1）：42–44.
4　岡村親一郎・児島　格．1984b．大阪市湾の貝類相　Ⅰ－二枚貝類の生息記録－．南紀生物，26（2）：121–126.
5　佐藤勝義．1975．有明海のアワジチヒロとヤミノニシキ．ちりぼたん，10（2）：169–171.
6　山下博由．2012．ヤミノニシキ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．116．東海大学出版会．秦野.
写真：池辺進一標本

イセシラガイ　*Anodontia bialata*（Pilsbry, 1895）　ツキガイ目　ツキガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾の中・低潮帯から水深 20 m の泥底・砂泥底に生息。かつては普通種で、貝殻は白色で薄質、球状によく膨らみ、殻表には薄い黄褐色の殻皮をもつ。殻高 60 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸、アンダマン海、インドに分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田川河口、みなべ町堺、白浜町江津良、富田対ノ浦に分布。

和歌山県では各地から確認できるが、少数の死殻例が多く合弁個体も稀である。近年、激減し、近隣地域でも三重県では古い死殻が広範囲で採集されるものの生貝は殻長 20 mm 以下の幼個体が 1 地点からのみ確認され、また愛知県では 2008 年に名古屋市港で生貝が採集されたのが最後である。また岡山県ではかつての生息記録があるものの、現状、絶滅あるいはそれに近いとされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　池辺進一．2012：和歌山市・毛見崎の貝類．かたをなみ，8：15–19.

参考文献・情報
3　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物．49（2）：137–142.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.
7　山下博由．2012：イセシラガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．116．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

イチョウシラトリ　*Serratina diaphana*（Deshayes, 1856）　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾干潟の中潮帯泥底に生息。貝殻は楕円形で白色、薄質、膨らみは弱く扁平。殻長 45 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、和歌川河口（和歌浦湾観海閣）、片男波、田辺市内之浦、白浜町に分布。

和歌山県では死殻が少数個体、確認され、近年では和歌浦観海閣での採集例がある。本種は全国的に生息地が激減、分布域も縮小した。近隣地域で三重県では伊勢湾では生息が確認できず、2004 年に英虞湾で生貝が初めて確認され、また愛知県では絶滅、岡山県では 1 産地のみ生息地が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
3　池辺進一．2017．和歌山市・観海閣の貝．がんがら，12：1–5.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
5　野田圭典．1999．田辺湾内之浦～鳥ノ巣海岸で観察された貝類．くろしお，18：46–48.
6　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2010．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅲ．南紀生物，52（1）：27–32.
7　山下博由・木村昭一．2012．イチョウシラトリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．129．285pp．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

オガタザラ（オガタザクラ）　*Aeretica tomlini*（E. A. Smith, 1915）　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

リーフの河口域、潮間帯の細砂底に生息。貝殻は殻長 22 mm。和歌山県、高知県、沖縄東岸、東南アジア、フィリピンに分布。

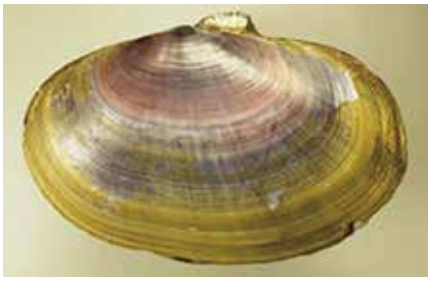
和歌山県では、串本町上浦が唯一の確認地点である。南西諸島が主分布域で和歌山での記録は偶因分布と見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　久保弘文．2012．オガタザクラ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．119．東海大学出版会，秦野．
写真：三長秀男提供

フジナミガイ　*Hiatula boeddinghausi*（Lischke, 1870）　ドブシジミ目　シオサザナミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾の砂、砂泥質干潟の低潮帯に生息し、約 30 cm まで埋入する。貝殻は大型、堅固で楕円形、膨らみは弱く、外面には薄い褐色の殻皮をもち、内面は紫色を帯びる。殻長 100 mm。日本固有種。岩手県三陸海岸・秋田県男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広海岸に分布。

和歌山県では西広海岸で大潮干潮時時に数例の死殻が確認されていたが、近年、一度に生貝を含む 60 個体余が確認された。近隣地域では三重県では 4 地点が記録されたが、1982 年に新鮮な死殻が確認された以降、記録がなく、また愛知県では近年、死殻さえ全く確認できておらず、岡山県では現存産地が 1 地点のみである。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文・南方啓司．2015．和歌山県西広海岸に台風により打ち上げられたフジナミガイ（軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミガイ科）．南紀生物，57（1）：63–65．
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
4　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158．
7　山下博由．2012．フジナミガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．135．東海大学出版会，秦野．
写真：江川和文撮影

ヤチヨノハナガイ　*Raeta pellicula*（Deshayes, 1854）　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾湾口の低潮帯から潮下帯の泥底に生息。貝殻は薄質で脆く、白色、殻頂付近に皺状の隆起をもつ。殻長 40 mm。福島県・兵庫県から九州、朝鮮半島、中国大陸、台湾、フィリピン、東南アジア、紅海に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では紀北域の細砂海岸の打ち上げで採集されるが、個体数はごく稀である。近隣地域では大阪市湾南部の男里海岸で打ち上げ個体が記録された。三重県では伊勢湾中部で新鮮な死殻が採集されるが生息が確認できず、また愛知県では名古屋市港沖で、2016 年に 1 個体の生貝が採集されたが、これが唯一の例で、他は死殻さえ稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ヤチヨノハナガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．143．東海大学出版会，秦野．
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383．三重県農林水産部，津．
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
4　児島　格．2006．大阪市湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153–158．

写真：江川和文撮影

ウスハマグリ　*Pitar kurodai* Matsubara, 2007　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

選定理由

内湾の低潮帯から潮下帯の砂底に生息。貝殻はやや薄質、白色、ハマグリ型で、殻表は平滑、砂粒を付着する。殻長 30 mm。房総半島以南、兵庫県、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市宮崎町（矢櫃）、みなべ町堺に分布。

和歌山県では紀北域の細砂海岸からの打ち上げ個体が少数得られ、名草ノ浜では 2000 年に生貝を確認、また 1970 年代まで矢櫃の底引網に半片の混入が見られた。近隣地域では三重県で鳥羽市生浦湾のみで生貝が確認されるが、個体数は非常に少ない。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ウスハマグリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．151．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50 (1)：134–139．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153–158．

写真：三長秀男提供

アツカガミ　*Dosinia biscocta* (Reeve, 1850)　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

選定理由

内湾の中・低潮下帯から水深 20 m の砂泥底に生息。貝殻は堅固、縦方向にやや長い類円形。殻長 36 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太 、名草ノ浜、有田川河口に分布。

和歌山県では有田川で死殻の合弁個体を、加太でやや古い半片個体を、名草ノ浜で半化石状個体を採集、以降、再確認例はない。日本では 60 年以上、生貝の記録がない。近隣地域でも大阪市南部、岡山県、三重県、愛知県の近年の生貝の確認記録はない。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
4　山下博由．2012．アツカガミ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．148．東海大学出版会，秦野.
写真：江川和文撮影

ウラカガミ　*Dosinia corrugata*（Reeve, 1850）　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾奥部の低潮帯から水深 20 m の泥底に生息。貝殻は円盤状、やや薄質、後端が裁断状となり、殻表には極めて密な輪肋をもつ。殻長 65 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜、和歌川（和歌浦湾）、片男波、名草ノ浜、有田市初島に分布。

和歌山県では紀北域から死殻が少数確認され、片男波では合弁個体の採集例が、また近年では 2009 年に有田市初島での死殻の採集例がある。全国的に個体数が激減した種であるが、大阪湾南部の男里、二色海岸で打ち上げで両殻揃いの個体が確認される。三重県では紀伊長島の汽水湖から新鮮な死殻が確認され、愛知県では 2008 年に名古屋市港沖から生貝 2 個体が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2010．和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝．かたをなみ，6：4–9.
2　木村昭一．2012．ウラカガミ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．149．東海大学出版会，秦野.
3　児島　格．2006．大阪市湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会．岸和田.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139.
5　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2010．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅲ．南紀生物，52（1）：27–32.
写真：三長秀男提供

イソカゼガイ　*Basterotia gouldi*（A. Adams, 1864）　ウロコガイ目　イソカゼ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾の砂泥干潟に生息するミドリユムシ類の巣穴に生息。貝殻の殻頂は丸まり、全体に丸みを帯びた四角状。殻長 10 mm。房総半島以南、日本海、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では、近年では和歌山市 2 地点で確認。古い死殻で個体数も稀である。瀬戸内海（広島）では埋もれた石の側面からの生息が確認されているが、近隣地域では絶滅に近い状態で、三重県では伊勢湾湾口部より新鮮な死殻（半片）が採集されているが、生貝は未確認であり、また岡山県では生息が確認できない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　木村昭一．2012．イソカゼガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．153．東海大学出版会，秦野.

参考文献・情報
2　濱村陽一．2004．芸南の海産貝類図鑑．223pp．蘭島文化振興財団，呉．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
写真：三長秀男提供

ハナビラガイ　*Fronsella ohshimai* Habe, 1958　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

従来、スジホシムシに着生するとされてきたが、近年、オオブンブクの体表にも共生することが明らかになった。貝殻は白色、卵形、殻表は平滑。殻長 9 mm。相模湾・男鹿半島以南、九州に分布。

和歌山県では近年、和歌山市加太（田倉崎）のタイドプールで確認され、近年ではこれが唯一の例と見られる。古くは御坊市名田、みなべ町岩代の記録があるが、詳細は不明である。近隣地域（岡山県、大阪市府、三重県、愛知県）等での記述はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　波部忠重．1958．日本産二枚貝類 5 新種．貝類学雑誌（Venus）．20（2）：173–180．ext-figs．1–5.
2　池辺進一．2016．和歌山県の珍しい二枚貝．がんがら，11：18.
3　久保弘文・福田　宏・松隈明彦．2017．ブンブクヤドリガイ科．日本近海産貝類図鑑（第二版）．解説編．715–1375pp．東海大学出版会，秦野.
4　黒田徳米．1945．和歌山県貝類目録（未定稿）．西宮市貝類館所蔵.
5　山下博由．2012．ハナビラガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．158．東海大学出版会，秦野.
写真：池辺進一提供

オウギウロコガイ　*Galeommella utinomii* Habe, 1958　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾の干潟から潮下帯のアマモ場周辺の砂泥底に埋没した転石下に生息。貝殻は薄質で脆く、白色半透明、殻表の腹縁部に 25 肋内外の放射肋をもつ。殻長 5~7 mm。東京湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、和歌川河口、名草ノ浜、広川町西広海岸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では生貝は和歌川干潟、田辺湾奥部から各 1 個体が確認され、他に死殻が少数、確認されているが、本種は全国的にも稀少な種である。近隣地域で三重県では、従来、未記録の英虞湾湾口部の潮下帯から生貝 1 個体を採集したものの以後、確認例はなく、また愛知県では三河湾や知多湾から 4 地点の生息地が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2017．和歌山市観海閣の貝．がんがら．（12）．1–5.
2　木村昭一・福田　宏．2012．オウギウロコガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．159．東海大学出版会，秦野.
3　三長秀男・三長孝輔．2006．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して（2）．かたをなみ，3：5–11.
4　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，（32）：1–14.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.

参考文献・情報
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78.
8　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2010．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅲ．南紀生物，52（1）：27–32.
9　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市紀の川河口域の貝類相（補遺）．南紀生物，53（1）：91–94.
写真：三長秀男提供

スナウロコムシヤドリガイ　*Montacutona sigalionidcola* Goto & Tanaka, 2019　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本種は小型の二枚貝で、殻長は最大で 4.9 mm 程である。貝殻はやや黄土色がかった白色で楕円形、殻頂はほぼ中央に位置し、前方へ傾く。左右の殻が閉じた際、腹縁中央より前側に隙間ができ、そこから足および足糸を出す。潮間帯から潮下帯の細かい砂中に生息するスナウロコムシ（別名：フタコブウロコムシ）という多毛類に片利共生し、背側の前端部に足糸で強く付着する。宿主 1 個体に対し複数個体が付着する場合もある。串本町から得られた標本をタイプとして 2019 年に新種記載された。これまでに紀伊半島南部（串本町、白浜町椿）および房総半島南部（鴨川市）からしか報告されておらず、産地記録は極めて少ない。宿主のスナウロコムシの生息密度は低いため、生息環境の減少や悪化によって更に宿主が減少した場合、スナウロコムシヤドリガイの生息にも大きな影響を及ぼすと予想される。そのため、宿主及びその生息環境を含めた保護が必要だと考えられる。

執筆者（後藤龍太郎）

参考文献・情報
1　Goto, R. & Tanaka, M. 2019. Worm-riding clam：description of *Montacutona sigalionidcola* sp. nov.（Bivalvia：Heterodonta：Galeommatidae）from Japan and its phylogenetic position. Zootaxa, 4652：473–486.
2　大谷洋子・大原健司・高田良二．2005．西宮市貝類館収蔵標本目録 第 1 号．西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士標本目録（2）二枚貝綱，田中勉氏寄贈二枚貝標本目録．100 + 5 pls. + 索引 21．西宮市貝類館，西宮．
3　柳　研介【編集・執筆】，多留聖典・田中正敦・自見直人【監修】．2018．海の生き物観察ノート⑭ ゴカイのなかまを観察しよう．32pp．千葉県立中央博物館分館海の博物館，勝浦．
写真：後藤龍太郎撮影

コオキナガイ　*Laternula boschasina* (Reeve, 1864)　ネリガイ目　オキナガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

内湾干潟の泥質干潟の中潮線付近に生息。貝殻は薄質で脆く、白色、半透明、殻表に微細な顆粒突起をもつ。殻長 40 mm。房総半島以南、南西諸島、中国大陸に分布。和歌山県内では田辺市内之浦干潟、田辺湾；白浜町白良浜、藤島、堅田に分布。

和歌山県では田辺、白浜の紀伊水道中域より確認されるが、個体数は非常に稀である。近隣地域で三重県では 2004 年に英虞湾 1 地点より生息が確認され、愛知県では現在、生息が確認できず、絶滅の可能性がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．

参考文献・情報

3　環境省自然環境局生物多様性センター．2009．平成 30 年度モニタリングサイト 1000　磯・干潟調査報告書．72pp．環境省自然環境局生物多様性センター，富士吉田．
4　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種　1976–2001．南紀生物，43（2）：102–108．
5　木村昭一．2012．コオキナガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．168．東海大学出版会，秦野．

写真：和田恵次提供

セムシマドアキガイ　*Rimula cumingii* A. Adams, 1853　スカシガイ目　スカシガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の礫干潟潮間帯下にある転石下の還元環境に生息。貝殻は微小、傘型で薄質、白色。殻頂はやや後方に寄り、前方中央にはスリット状の穴をもち、殻表には淡褐色の放射状肋と成長脈が交差する。殻長 5 mm。茨城県北部・新潟県佐渡から九州西岸、小笠原に分布。和歌山県内では和歌山市加太、広川町西広海岸、御坊市上祓井戸、みなべ町、田辺湾奥部、白浜町対ノ浦、すさみ町江須崎、串本町上浦、潮岬、那智勝浦町宇久井から記録。

和歌山県全域から確認例があるが、生貝の確認例は加太と田辺湾奥部の 2 例のみである。近隣地域で淡路島洲本や山口、香川等での生息記録があるが、愛知県では生息記録がなく、岡山県、三重県では絶滅相当とされている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020　動物編．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部．津．
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．名古屋．
4　小山安生．2008．和歌山県の古腹足目貝類目録（1）　クチキレエビスガイ科・オキナエビスガイ科・ミミガイ科・スカシガイ科．南紀生物，50（2）：253–260．
5　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53（1）：41–46．

写真：三長秀男提供

ウミヒメカノコ　*Smaragdia* sp.　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の細砂底潮下帯から水深 40 m のアマモ場に生息し、アマモ類を摂食する。貝殻は微小、堅固で半透明、平滑な球型、淡黄色の殻地に 2 本の白い色帯と褐色の細い縦線があり、この線は色帯上で稲妻状に曲がる。殻長 5 mm。千葉県館山湾以南から四国、九州、南西諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、田辺湾奥部、目良、元島、串本町上浦、橋杭に分布。

和歌山県では田辺湾奥部では新鮮な死殻が多数確認されるが、生貝は未確認で、これは調査域が潮下帯以深にあるアマモ場に及ばないためという。近隣地域では三重県では 2013 年に死殻が確認され、愛知県では生息記録はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489-726pp．名古屋．
2　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1-14.
3　三長秀男・三長孝輔．2006．和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類．かたをなみ，3：12-23.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48 (1)：21-26.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相 I．南紀生物，53 (1)：41-46.
6　山下博由・久保弘文．2012．ウミヒメカノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．24．285pp．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

ウミヒメカノコ近似種　*Smaragdia* cf.*bryanae* (Pilsbry, 1917)　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

生息域はウミヒメカノコ同様、アマモ場周辺と想定される。貝殻はウミヒメカノコに形状が近似するが、殻はより丸みを帯び、殻地は白色、細い黒色でやや直線状の縦線をめぐらすが、体層上で３線に断続する。和歌山県以外に沖縄県・西表島から確認。和歌山県内では和歌山市加太、串本町上浦、那智勝浦町宇久井に分布。

本種は和歌山市加太海岸から新鮮な死殻２個体を確認。当初、ハワイの特産種、*Neritina bryana* に同定し、この原図とともに標本を図示した。その後、沖縄県石垣島、西表島からも同種を確認した。ただ本邦産個体では縦線が黒線なのに対し、ハワイ産個体は赤褐色と微細な差異が認められ、今後の検討を要する。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　小山安生．1988．日本初記録の海産貝類 2．南紀生物，30 (1)：64-66.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2014．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅶ．南紀生物，56 (1)：66-71.
3　Pilsbry, H. A. 1917. Marine Mollusca of Hawaii Ⅳ - Ⅶ. Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 69：309-333. pls. 20-22.
写真：三長秀男提供

フネアマガイ　*Septaria porcellarina* (Linnaeus, 1758)　フネアマガイ目　フネアマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－



選定理由

本種は屋久島以南では多く分布し、普通に見られるが、本州では記録は少ない。和歌山県でも偶発的に見つかるが、極めて少ない。

貝殻は笠形、殻径 20~25 mm。黄褐色の殻皮には黒褐色の網目や放射帯がある。貝殻は扁平で、その殻口は大きい。蓋は足の中に埋没している。

和歌山県内では有田川、広川町唐尾、日高川、南部川、会津川、富田川、日置川、粉白川・那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県は本種の北限分布域でもある。南方系の種であるために、冬季の低温時には死滅する時がある。

日高川河口域では類似種・ベッコウフネアマガイが記録されたことがある。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報
1　黒田徳米．1932．標本同定余録（1）［紀伊産（？）のフネアマガイ類］．Venus，3（2）：115–117.
2　湊　宏．1971．南紀貝信（Ⅱ）紀伊半島でフネアマガイ類の分布を再確認する．ちりぼたん，6（6）：130–132.
3　湊　宏．1978．南紀貝信（Ⅴ）トグロコウイカの漂着とフネアマガイの記録．ちりぼたん，10（2）：38–39.
4　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：（2）115–121.
5　和田恵次．私信.
6　吉田卯太郎．1967．フネアマガイ富田川に棲息．南紀生物，9（2）：55.
写真：三長秀男提供

ツバサコハクカノコ　*Neritilia mimotoi* Kano, Sasaki & Ishikawa, 2001　アマオブネ目　コハクカノコ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

汽水湖や海水の滲出する環境下に生息。貝殻は微小、やや薄質で淡褐色、殻長 3 mm。鹿児島県上甑島、宮崎県、愛媛県、高知県、和歌山県、三重県に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、有田川河口、串本町古座川に分布。

本種は鹿児島県上甑島の貝池（汽水湖）を模式産地とするが模式産地以外の確認例は極めて少ない。和歌山県では紀の川河口の打ち上げ砂からの 1 個体、有田川からの幼個体 1 個体の 2 例、その他古座川産個体数例が知られ、環境変化に極めて鋭敏な種と見られる。近隣地域で三重県では南部の小河川 1 地点でのみ確認され、個体数は稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2013．採集記録．かたをなみ，（9）：31–32.
2　Kano, Y., Sasaki, T. & Ishikawa, H. 2001. *Neritia mimotoi*, a new neritiliid species from an anchialine lake and estuaries in southwest Japan. Venus, 60：129–140.
3　木村昭一．20 09．三重県南部の小河川に生息するツバサコハクカノコ．ちりぼたん，39（3/4）：142–145.
4　木村昭一．2012．ツバサコハクカノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．25．東海大学出版会，秦野.
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196.
写真：三長秀男提供（田中眞人採集）

サナギモツボ　*Eufenella pupoides*（A. Adsms, 1860）　オニノツノガイ目　スナモチモツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾奥部の水深 5~30 m の軟泥底や砂底に生息。貝殻は微小でやや薄質、淡黄褐色の紡錘形で殻高 4 mm。三陸海岸、佐渡島から南西諸島、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、広川町西広海岸、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では死殻が普通に見られるが、生貝は現在、田辺湾奥部で確認されているのみである。近隣地域では、三重県で 1980 年代以降激減し、また愛知県でも近年、生貝は採集されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．サナギモツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．28．東海大学出版会，秦野.

2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．名古屋．
4　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類　Ⅱ．かきつばた，(40)：2–16．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53 (1)：41–46．

参考文献・情報

写真：三長秀男提供

イボウミニナ　*Batillaria zonalis* (Bruguière, 1792)　オニノツノガイ目　ウミニナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

河口域や内湾泥干潟の潮下帯に生息。貝殻は堅固、高い塔型で黒灰色。殻高 40 mm。ウミニナ、ヘナタリが干潮時、露出した干潟上にも見られるのに対し、本種は澪筋や潮下帯の水中に見られる。ウミニナ、ホソウミニナに近似するが、殻口外唇後方が湾曲する。宮城県から南西諸島、中国大陸、朝鮮半島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、布引海岸、名草ノ浜、海南市琴ノ浦、有田市、広川町西広海岸、御坊市日高川、田辺市内之浦に分布。

和歌山県では現在、和歌浦湾で常時、潮下帯からまとまった個体群が確認されるが、県内全域で個体数は少ない。ウミニナ科の諸種のうち本種が最も環境の変化の影響を受けやすく、次がウミニナ、更にホソウミニナの順である。実際、有田川河口では 2007 年、ホソウミニナ、ウミニナが普通に見られたのに対し、本種は死殻のみが見られ、更に広川町江上川では本種のみが確認できなかった。三重県では英虞湾のみで生息が知られ、愛知県ではこれが 2 地点のみで、更に相模湾では消滅にランクされる。

執筆者（江川和文）

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46 (2)：167–172．
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
3　池田　等・倉持卓司・渡辺政美．2001．相模湾レッドデータ－貝類－．104pp．葉山しおさい博物館．葉山．
4　木村昭一・福田　宏．2012．イボウミニナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．31．東海大学出版会，秦野．
5　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
6　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．名古屋．
7　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1)．南紀生物，46 (1)：31–36．
8　三長秀男．2004．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して．かたをなみ，2：7–35．
9　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7．
10　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，(24)：44–46．
11　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48 (1)：21–26．
12　中本博之・野田圭典・土岐頼三郎・江川和文．2007．有田川河口で観察した貝類．くろしお，(26)：52–54．
13　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51 (1)：59–63．
14　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種．南紀生物，43 (2)：102–108．

参考文献・情報

写真：三長秀男提供

カワアイ　*Pirenella pupiformis* Ozazwa in Reid & Ozawa, 2016　オニノツノガイ目　キバウミニナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

河口域や潮間帯の泥底やアマモ帯に生息。貝殻は堅固で黒褐色、螺塔は高い塔型、殻表は弱い縦肋と螺肋が交差し顆粒状となる。殻高 35 mm。かつては房総以南の普通種とされていた。

和歌山県内では和歌山市、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田川、日高川、御坊市北塩屋、田辺市、田辺湾内之浦に分布。

本種は和歌山県内では和歌山市から串本町まで、県内全域に見られた種であるが、近年、紀の川、有田川からの記録はなく、2000 年以降は日高川河口の南岸側溝、御坊市北塩屋から確認されているに過ぎない。近隣域でも愛知県では 2014 年以降生貝の採集例はなく、三重県では 10 地点以上で生息が確認されているものの個体数は減少している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172.
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2009．平成 30 年度モニタリングサイト 1000　磯・干潟調査報告書．72pp．環境省自然環境局生物多様性センター，富士吉田.
3　波部忠重・小菅貞男．1967．標準原色図鑑全集　3　貝類 xviii．223pp．64 pls．保育社，大阪.
4　木村昭一・福田　宏．2012．カワアイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．30．東海大学出版会，秦野.
5　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（1）．南紀生物，46（1）：31–36.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26.
7　中本博之・野田圭典・土岐頼三郎・江川和文．2007．有田川河口で観察した貝類．くろしお，（26）：52–54.

写真：三長秀男提供

タケノコカワニナ　*Stenomelania torulosa*（Bruguiére, 1789）　オニノツノガイ目　トゲカワニナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

和歌山県では生息河川は多くはない。河口の汽水域附近の泥底に生息して泥の上を這っていることが多い。汽水域の全体に生息することはなく、局所的である。

貝殻は大形（殻高 50 mm 前後）、殻頂部は浸食によって欠落していることが多い。殻色は濃褐色～赤褐色で鈍い光沢がある。

和歌山県内では紀の川、有田川、広川町西広、富田川、白浜町袋川、日置川の河口域で生息が確認されている。

南方系の種で、和歌山県では限定された地域にしか確認されていない。流れの緩やかな泥底が生息域である。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報

1　湊　宏．1992．富田川・川口付近の貝．くろしお，（11）：31.
2　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水産貝類図鑑②　汽水域を含む全国の淡水貝類．240pp．ピーシーズ，東京.
3　和田恵次．私信.

写真：前岩　崇提供

スジウネリチョウジガイ　*Rissoina costulata* Dunker, 1860　エゾタマキビ目　リソツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由



内湾干潟のやや還元環境の礫地に生息。貝殻は微小、堅固で白色、高い塔型、殻表にはやや傾斜した縦肋をめぐらし、殻底に２つの細い螺肋をもつ、殻長４ mm。房総以南九州、南西諸島、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町対ノ浦に分布。

上祓井戸、田辺湾奥部では生貝を確認、新鮮な死殻は和歌山市加太から白浜町までの各地から採集される。従来は、普通に見られた種である。近隣地域では三重県では１地点から稀に生貝が確認されるのみで、また愛知県では一時、生貝が確認されていなかった。なお、広島県では生貝の採集例がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文・中本博之．2014．白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類．くろしお，(33)：1-7.
2　濱村陽一．2004．芸南の海産貝類図鑑．223pp．蘭島文化振興財団．呉.
3　池辺進一．2017．和歌山県御坊市名田町野島・高座の貝．がんがら，12：6-9.
4　木村昭一．2009．レッドデータブックあいち 2009．(8) 貝類．451-606pp．愛知県．名古屋.
5　三長秀男．2004．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して．かたをなみ，2：7-35.
6　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類（Ⅱ）．かきつばた，(40)：2-16.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48 (1)：21-26.
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53 (1)：41-46.

写真：三長秀男提供

ゴマツボ　*Stosicia annulata*（Dunker, 1860）　エゾタマキビ目　リソツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由



小規模な内湾における海岸礫地の低潮帯から潮下帯の半ば埋没した転石下に生息。貝殻は微小で堅固、白色、新鮮な個体は黒褐色、細い紡錘形、太い螺肋をめぐらし、肋間は深い溝状となり、殻口は縦張肋状に肥厚する。殻高４ mm。房総・能登半島以南、九州、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾、名草ノ浜、和歌川、御坊市上祓井戸、海南市冷水、田辺市新庄町滝内に分布。

和歌山県では加太海岸から黒褐色の新鮮な個体を確認した他、紀伊水道西岸の北域から中部域で普通に死殻が確認でき、生貝は、現在、田辺湾奥部で確認される。近隣地域では三重県では古い死殻が確認できるのみで、愛知県でも生貝は未確認である。かつて普通に見られた種で、広島県では生貝が記録され、瀬戸内海や九州西岸に健全な個体群が記録されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ゴマツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．36．東海大学出版会，秦野.
2　濱村陽一．2004．芸南の海産貝類図鑑．223pp．蘭島文化振興財団，呉.
3　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1-14.
4　三長孝輔・三長秀男．2006．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類．かたをなみ，2：12-35.

参考文献・情報
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53（1）：41–46.
7　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51（1）：59–63.
写真：三長秀男提供

ウチノミツボ　*Pellamora aff. densilabrum* (Melvill, 1912)　エゾタマキビ目　ワカウラツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾、河口域等のやや還元環境の転石下に生息。貝殻は微小、やや薄質、白色半透明、細長い紡錘形、殻表は螺塔では微細な螺肋をめぐらし、体層中央では平滑となる。殻高 3 mm。瀬戸内海中央部、有明海、九州西岸に分布。和歌山市加太、名草ノ浜、有田市河口に分布。

加太、名草ノ浜等で古い死殻を確認するのみで、全国的に産出例は極めて少ない。近隣地域にも確認例はない。なお、瀬戸内海中央部の一部には多産地がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172.
2　福田　宏．2012．ウチノミツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．39．東海大学出版会，秦野.
3　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2014．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅶ．南紀生物，56（1）：66–71.
写真：江川（2004）典拠

ミジンゴマツボ　*Liroceratia sulcata* (Böttger, 1893)　エゾタマキビ目　リソツボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾湾口部の砂泥質干潟の砂泥に埋没した転石下に生息。貝殻は微小、やや堅固、ゴマツボを更に小型化した形状で白色から淡褐色、殻高 2.2 mm。殻表には明瞭な等大の螺肋を持ち、次体層で 5 肋、体層で 10 肋を数える。和歌山県（田辺市）、南西諸島に分布。

和歌山県では田辺湾奥部の 1 地点のみで確認され、1995~2006 年には多数個体が確認された。同地は細砂底と岩礫の内湾で、沖合にはアマモ帯が形成される。ただ、2007 年以降に同地で本種は確認できなかった。本種は奄美大島産個体を基に最初に記録された。南西諸島では今日でも比較的普通に見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．1993．奄美大島産リソツボ科 Rissoidae 貝類の図説．九州の貝，40/41：75–117.
2　福田　宏．2012．ミジンゴマツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．40．東海大学出版会，秦野.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8pls．和歌山県立自然博物館，海南.
4　Laseron, C. F. 1956. The families Rissoinidae and Rissoidae（Mollusca）from the Solanderian and Dampierian Zoogeographical Provinces. Australian Journal of Marine and Freshwater Research, 7（3）：384–484.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，（32）：1–14.
写真：三長秀男提供

アラウズマキ　*Circulus duplicatus* (Lischke, 1872)　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾干潟や河口域で潮間帯の転石下の還元環境域に生息。貝殻は微小で堅固、白色、扁平な円盤形、殻径４mm。周縁に２本の螺肋が結合した角張った１肋をもち、新鮮な個体は硫化鉄に覆われ黒色となる。房総・男鹿半島以南から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、御坊市上祓井戸、田辺市新庄町滝内で分布。

和歌山県では生貝は和歌川河口奥部の転石下から確認されるが、生貝の採集例は稀である。近年、生貝の採集例は極めて少なく、近隣地域では三重県、愛知県では近年、稀に生貝が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46 (2)：167–172.
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋.
4　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23.
5　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159–164.
7　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅰ．南紀生物，51 (1)：59–63.

写真：三長秀男提供

イソマイマイ　*Sigaretornus* aff. *planus* (A. Adams, 1850)　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の砂泥底でユムシ類の穿孔巣孔に生息すると推察される。貝殻はやや堅固、白色の円盤状、背面の殻表はほぼ平滑で微細な螺溝をめぐらし、腹面には大きく丸い臍孔をもつ。殻長 10 mm。房総・能登半島以南から九州に分布。従来、用いられてきた *Sigaretornus planus* は香港からフィリピンに分布する別種と見られる。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、名草ノ浜、御坊市上祓井戸に分布。

和歌山県では名草ノ浜から 1985 年に生貝 1 個体が確認されたが、1990 年以降、死殻でさえ稀である。三重県では稀に生貝が確認され、愛知県では絶滅し、死殻さえ稀で、また岡山県でも絶滅と見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．イソマイマイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．42．東海大学出版会，秦野.
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山.

参考文献・情報
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
4　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
5　野田圭典．1999．和歌山市におけるイソマイマイ生個体の採集記録．南紀生物，41 (1)：4.
写真：三長秀男提供

ウミコハクガイ　*Teinostoma lucidum* A. Adams, 1860　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾湾口部のやや還元環境の転石下に生息。貝殻は微小、半透明の白色、扁平な平巻状で背面は平滑、腹面には内唇の滑層が伸び臍孔部を塞ぐ。殻長 2 mm。岩手県大槌湾・能登半島から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、串本町串本、潮岬に分布。

和歌山県での記録は極めて少なく、5 地点から確認されているが、いずれも死殻のみである。近隣地域でも三重県では死殻の採集例があるものの現状不明であり、愛知県では記述がなく、また岡山県では絶滅に近い状態にある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．ウミコハクガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．43．東海大学出版会，秦野．
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
5　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020．－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
6　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類 2　腹足綱②．南紀生物，48 (2)：159–164.
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53 (1)：41–46.
写真：三長秀男提供

オオネズミガイ　*Mammilla kurodai* (Iw. Taki, 1943)　エゾタマキビ目　タマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

細砂底の水深 20~50 m に生息。貝殻はやや薄質、ネズミガイに近似し、殻表に 3 列の暗褐色の斑列をもつ。相模湾以南、九州に分布。殻長 40 mm。和歌山県内では和歌山市加太、片男波、和歌川、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市冷水、有田市、矢櫃、有田郡西広海岸、印南町印南、田辺湾奥部、天神崎に分布。

和歌山県では古くは田辺から記録され、後年、生貝が田辺湾奥部で確認されている。近年、和歌山県内では個体数の増加が確認されている。本種は広島県尾道沖から新種記載された種で、かつて稀な種で、近隣地域（三重県、愛知県、岡山県）でも記述はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文・土岐頼三郎．2011．和歌山市名草浜産オオネズミガイ（軟体動物門、腹足綱、タマガイ科）の動物体残存個体の知見．南紀生物，53 (2)：124–126.
2　稲葉明彦．1963．瀬戸内海の生物相－向島臨海実験所創立 30 周年記念出版－．352pp．6 pls．広島大学向島実験所，尾道.
3　小山安生．2001．和歌山県のタマガイ科貝類．南紀生物，43 (2)：147–153.
4　黒田徳米．1945．和歌山県貝類目録（未定稿）．西宮市貝類館所蔵.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1–14.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・三長孝輔・江川和文．2006．紀伊水道周辺におけるオオネズミガイの産出状況（軟体動物門、腹足綱、タマガイ科）．南紀生物，48 (2)：153–156.
7　瀧　巌．1943．瀬戸内海産軟動物 (2)．貝類学雑誌（Venus），13 (1–4)：111–118．Text-figs．1–14.
8　瀧　巌．1950．貝類雑記帖 (1)．ゆめ蛤 [謄写]，46：290–293.
写真：三長秀男提供

フロガイダマシ　*Naticarius concinnus* (Dunker, 1860)　エゾタマキビ目　タマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

干潟や流れの速い海岸の低潮帯に生息。貝殻は堅固、ほぼ球形、クリーム色の殻地に 2 本の褐色の色帯をめぐらす。殻長 15 mm。房総半島から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代の造成工事で消滅）、和歌浦湾、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、名田、みなべ町堺、田辺市新庄町滝内、白浜町対ノ浦、串本町串本、橋杭に分布。

和歌山県では生貝は加太から、唯一、確認、死殻は各地から記録されている。本科諸種で本種のみが著しい減少が知られ、和歌山県でも今後、同様な傾向が考えられる。近隣地域で三重県では伊勢湾湾口部から生貝が確認されるが個体数は非常に稀で、また愛知県でも生貝の確認例は稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文・中本博之．2014．白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類．くろしお，(33)：1–7.
2　福田　宏・木村昭一．2012．フロガイダマシ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．59．東海大学出版会，秦野.
3　小山安生．2001．和歌山県のタマガイ科貝類．南紀生物，43 (2)：147–153.
4　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23.
5　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159–164.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53 (2)：155–160.
写真：江川和文撮影

カハタレカワザンショウ　"*Nanivitrea*" sp.　エゾタマキビ目　カワザンショウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

内湾や河口の汽水でイソミミズの巣穴に生息すると見られるが詳細は不明。貝殻は微小、薄質でガラス質、褐色、螺塔は低く平巻に近い。殻径 1.5 mm。本科諸種は螺塔が円錐状に高まるが、本種は平巻に近い特異な形状をもつ未記載種で、今後、新たな属名が提唱されると見られる。和名は古語の「彼（カ）は誰（タレ）」に由来する。和歌山県内では有田市河口、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では 2 例のみが確認され、有田川産個体は岸の打ち上げ砂からの確認個体である。近隣地域で三重県では英虞湾から 2000 年に最初の記録が確認される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．カハタレカワザンショウ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．53．東海大学出版会，秦野．
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．

ウネナシイトカケ　*Acrilla acuminata* (Sowerby, 1844)　エゾタマキビ目　イトカケガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

内湾干潟や河口域の低潮帯から潮下帯の砂泥底や細砂底に生息。貝殻はやや薄質、高い螺塔をもち、淡褐色、螺層に 2 帯の色帯をめぐらす。殻表には細く微細な縦肋を密にもち、螺層は丸く縫合は弱く、殻口は肥厚しない。殻高 45 mm。房総半島から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、水軒浜（1960 年代、造成工事のため消失）、有田市河口に分布。

和歌山県内では、近年、やや新鮮な死殻が得られているものの、生貝の確認例はない。近隣地域でも三重県、愛知県でも生貝は確認されておらず、また岡山県でも絶滅あるいはそれに近い状況にある。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172．
2　福田　宏・木村昭一．2012．ウネナシイトカケ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．61．東海大学出版会，秦野．
3　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
4　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山自然博物館，海南．
5　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
6　木村昭一．2020．（8）貝類．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　−動物編−．489–726pp．愛知県．名古屋．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164．

写真：三長秀男提供

ヒモイカリナマコツマミガイ　*Hypemastus lacteus*（A. Adams, 1863）　エゾタマキビ目　ハナゴウナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

ハナゴウナ科諸種は棘皮動物を宿主とし、本種はヒモイカリナマコに寄生する。貝殻は薄質、半透明白色でガラス質状、殻表は平滑、殻頂先端は細く針状に突き出す。殻高４ mm。宿主ヒモイカリナマコは干潟や河口域等、やや低塩度の泥底の転石下に生息。三浦半島以南、瀬戸内海、九州沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市和歌川、有田市、有田郡西広海岸、白浜町対ノ浦に分布。

本種は幕末期に“Tanabe”（田辺湾畠島［行政区分は白浜町］）から記録された種で、宿主はミミズ状のナマコで、宿主体内に寄生する。和歌山県内では和歌川、白浜町対ノ浦から生貝が確認されているが、個体数は稀で、さらに近年、宿主の確認例自体が稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　Adams, A. 1863. On the Japanese species of Leuiostraca. Jour. Proceedings of the Linnean Society of London（Zoology）, 7：89–91.
2　江川和文・坂下泰典．2011．鹿児島県におけるヒモイカリナマコツマミガイの記録．九州の貝，77：23–29.
3　江川和文・中本博之．2014．白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類．くろしお，（33）：1–7.
4　Habe, T. 1952. Parasitic gastropods found in Echinodermus from Japan. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, Ⅱ（2）：73–85. Pl. VI.
5　遠藤広光．2018．カクレウオ科 165p.（日本魚類館　小学館の図鑑 Z（中坊徹次編・監修）．528pp．小学館，東京.
6　福田　宏・木村昭一．2012．ヒモイカリナマコツマミガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．63．東海大学出版会，秦野.

写真：三長秀男提供

ヤセフタオビツマミガイ　*Mucronalia exilis* A. Adams, 1862　エゾタマキビ目　ハナゴウナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の砂泥質干潟の低潮帯から潮下帯に生息。貝殻は微小、薄質、半透明白色、螺塔は細長く高く、殻表は平滑、光沢を持つ。殻高 2.4 mm。クモヒトデ類の一種に外部寄生する。房総半島、山口県三島から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事のため消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山市から死殻が稀に記録される。近年、近隣地区からの記録例はなく、瀬戸内海中央部の広島県三原市、竹原市の２地点が記録されるのみである。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ヤセフタオビツマミガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．64．285pp．東海大学出版会，秦野.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53（2）：155–160.

写真：三長秀男提供

ゴマフホラダマシ（ナガゴマフホラダマシ） *Engina menkeana* (Dunker, 1860) 新腹足目 エゾバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾湾口部で潮間帯から潮下帯岩礁や転石下に生息。貝殻は小形、堅固、縦肋間は深い溝となり、肋上は黒色の顆粒列が並ぶ。ナガゴマフホラダマシは種内変異と見られる。殻高 10 mm。房総半島以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代の造成工事で消失）、和歌川、新和歌浦、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺市田辺湾、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では和歌川奥部、新和歌浦、田辺湾奥部から普通に生息が見られるが、他での採集例は少なく、全く確認できない地域もある。近隣地域では三重県に記述はなく、愛知県では５地点で生貝が確認されたが個体数は多くない。一方、岡山県ではかつて多産しており、近年、ウネボラ、オガイ、ヒメエガイ等に回復傾向が見られるのに本種は稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1 江川和文・中本博之．2014．白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類．くろしお，(33)：1–7.
2 池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
3 三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
4 三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35.

写真：三長秀男提供

オマセムシロ *Hima praematurata* (Kuroda & Habe in Habe, 1961) 新腹足目 オリイレヨフバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

アマモ場周辺の低潮帯から潮下帯の砂泥底に生息。貝殻は小型、やや薄質、淡褐色、縦肋は顕著であるが、体層では消失し、平滑となる。殻高５mm。駿河湾、瀬戸内海、九州西岸に分布、日本固有種。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜に分布。

和歌山県内では加太の堆積砂から新鮮な死殻を確認したが、生貝の確認には至っていない。元々、稀な種で、近隣地域では三重県での死殻の記録があるに過ぎない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1 木村昭一．2012．オマセムシロ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．67．東海大学出版会，秦野.
2 木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～ 三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
3 中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54（1）：61–66.

写真：江川和文撮影

オリイレボラ　*Trigonostoma scalariformis* (Lamarck, 1822)　新腹足目　コロモガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

大規模な内湾の干潟の潮下帯に生息。貝殻は非常に堅固、顕著な縦肋をめぐらし、肋間は平滑、臍孔は狭く開く。殻高 25 mm。房総半島以南から九州、中国大陸、朝鮮半島沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代の造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜に分布。

和歌山県では和歌浦湾で 1970 年代まで、生貝が確認され、その後、死殻さえ稀であったが、近年、2003 年、新鮮な死殻が確認されている。本種は、江戸湾（東京湾）から最初に図説・記録された種で、この当時、全国の内湾干潟に分布していたと推測される。本邦では有明海以外の生息記録は途絶え、また近隣地域で三重県では 1979 年以前に 2 地点の生息地が確認され、近年、生貝が採集された。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
2　木村昭一・福田　宏．2012．オリイレボラ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．74．東海大学出版会，秦野．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78．

写真：三長秀男提供（池辺進一採集）

イワカワトクサ　*Duplicaria evoluta* (Deshayes, 1859)　新腹足目　タケノコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

開放的な湾や外洋の低潮帯から水深 20 m の砂底に生息。貝殻は堅固、縦肋は顕著でクリーム色、肋間は褐色、縫合下は結節する。殻高 50 mm。茨城・山形県以南、九州、奄美大島、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では有田市宮崎町（辰ケ浜）、御坊市塩屋、みなべ町一本松、すさみ町周参見、串本町、那智勝浦町宇久井に分布。

宇久井では 1970 年代、港湾工事の浚渫砂に多数の本種が含まれていたが、近年、急激に激減した。近隣地域でも三重県では湾口部からの記録があるが、死殻も非常に少なく、また愛知県では外洋から死殻が確認されているが、内湾域では不明で情報不足である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　小山安生．1996．和歌山県のタケノコ科貝類．南紀生物，38（1）：65–71．
3　山下博由．2012．イワカワトクサ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．77．東海大学出版会，秦野．

ベッコウイモ（キラベッコウ）　*Conus fulmen* Reeve, 1843　新腹足目　イモガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

礫の多い砂泥質の中に生息、肉食性でハゼ類の幼魚を毒矢で捕食する。倒円錐形の貝で堅固、褐色の殻皮を持つ。キラベッコウは黒褐色の斑紋のない型。殻高 65 mm。房総半島以南、瀬戸内海、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、有田市宮崎町矢櫃、御坊市上祓井戸、印南町津市井、白浜町対ノ浦に分布。

本種は和歌山県ではほぼ全域に分布が見られ、特に有田市ではエビ刺網漁で得られ、北米原産の外来種シマメノウフネガイが着生した個体が確認されていた。近年、和歌山県北部ではオニサザエとともに顕著に激減した。本種は瀬戸内海西域の山口県でも減少が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山自然博物館，海南．
3　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35.
4　三長孝輔・三長秀男．2012．和歌山県西牟婁郡白浜町「対ノ浦」に生息する貝類Ⅱ．かきつばた，37：2–27.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54（1）：61–66.
6　杉村智幸．2021．山口県の貝類　角島周辺の海産貝類相．110pp．豊北町自然観察指導員会，豊北.

写真：三長秀男提供

ヌノメホソクチキレ　*Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872)　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

貝殻は堅固、非常に高い塔型で殻頂は尖り、褐色、殻表は微細な布目状であるが一見、平滑に見える。殻高 13 mm。房総半島から九州、内湾干潟域の潮下帯に生息。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜に分布。

和歌山県内では紀伊水道北部から確認され、生貝は和歌川河口からに記録された。全国的には三重県では死殻の採集例も非常に少なく、近年、生貝の確認例は 1 地点のみで、また岡山県では僅かな個体群が残存するのみである。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山.
2　堀　成夫．2002．和歌川河口干潟のトウガタガイ類．うみうし通信，36：10–11.
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～ 三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
4　三長秀男・三長孝輔．2006．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して（2）．かたをなみ，3：5–11.
5　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類 3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154.
8　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅱ．南紀生物，51（2）：83–88.

写真：三長秀男提供

ドロアワモチ　*Onchidium* sp.　ドロアワモチ目　ドロアワモチ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

内湾奥部の平坦な砂泥質干潟やマングローブに生息。体長 30 mm。英虞湾・対馬以南、南西諸島に分布。和歌山県内では田辺湾内之浦、立ケ谷、白浜町に分布。

和歌山県では田辺市内之浦の干潟域での確認例が唯一で、同地でも 1981 年以降、確認には至っていない。

執筆者（江川和文）



参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ドロアワモチ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．90．東海大学出版会，秦野．
2　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種、1976–2001．南紀生物，43（2）：102–108.
3　和田恵次．2000．干潟の自然史－砂と泥に生きる動物たち．185pp．京都大学学術出版会，京都.

写真：和田恵次提供

コメツブツララ　*Acteocina decoratoides*（Habe, 1955）　頭楯目　クダタマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

内湾奥の軟泥・砂泥干潟中から下部表層に生息。貝殻は薄質で白色、黄色の殻皮を持ち、螺塔は平ら、殻表の上下に螺溝を持つ。殻高 3 mm。田辺湾、瀬戸内海（愛媛県西条市）、久々子湖、有明海、種子島、東シナ海に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口に分布。

和歌山県では和歌川河口で生貝を確認、他に県内での確認例はない。また、近隣地域でも本種は確認には至っていない。

執筆者（江川和文）



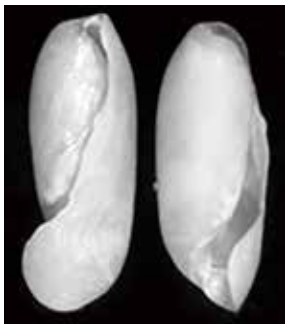
参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
2　福田　宏．2012．コメツブツララ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．81．東海大学出版会，秦野.
3　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
4　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅱ．南紀生物，51（2）：83–88.
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市紀の川河口域の貝類相（補遺）．南紀生物，53（1）：91–94.
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196.

写真：三長秀男提供

シグマクダタマ　*Eocylichna sigmolabris* Habe & Ando, 1985　頭楯目　クダタマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

アマモ類の繁茂する前浜干潟の潮間帯砂底に生息。貝殻は微小、薄質で白色、円筒状で殻頂および殻底は少し細くなり、殻口はS字状に著しく湾協する。殻高5 mm。瀬戸内海域に分布。和歌山県内では和歌山市加太（単一産地）に分布。

和歌山県内では加太から死殻約20例を確認。国内での産出例は非常に稀。瀬戸内海以外では、唯一、愛知県から死殻1個体が確認されたのみである。ただ、模式標本は明石海岸に搬入された広島県三原市の海砂混入の個体であった。近年、大阪府阪南市から生貝1個体が確認され、これが唯一の確認例である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・柏尾　翔．2020．岡山県レッドデータブック2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
2　波部忠重・安藤保二．1987．日本産有殻後鰓類セキヒツクダマキガイ属の一新種．Venus，46（4）：179–181．
3　河合秀高．2018．南知多町内海海岸において打ち上げ採集で得られた貝類．かきつばた，43：30–34．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78．

写真：江川和文撮影

カミスジカイコガイダマシ　*Cyclichnatys yamakawai*（Yokoya, 1920）　頭楯目　ブドウガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾奥部干潟の中・低潮下帯の砂泥底、軟泥底の表層、アマモ場周辺に生息。貝殻は微小、薄質、円筒形、白色半透明で、殻表全体に細い波状の螺溝をめぐらす。殻長8 mm。北海道南部以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960年代、造成工事のため消失）、和歌川、名草ノ浜に分布。

和歌山県では和歌山市周辺の汽水域で確認され、死殻は名草ノ浜で普通に見られたが、現在、生個体の確認例は和歌浦干潟での泥中、田辺湾奥部から確認されている。なお、近隣地域で三重県では生浦湾、英虞湾で生貝が確認され、比較的、個体数も多いとされ、一方、愛知県では三河湾や伊勢湾の湾口部より生貝が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・久保弘文・木村昭一．2012．カミスジカイコガイダマシ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．81．東海大学出版会，秦野．
2　三長秀男．2004．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して（2）．かたをなみ，3：5–11．
3　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類（Ⅱ）．かきつばた，（49）：2–16．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78．
5　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅱ．南紀生物，51（2）：83–88．
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196．

写真：三長秀男提供

マルタニシ　*Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860)　タニシ目　タニシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

生息地は各地に点在するが、串本町“田原湿地”等、消滅している産地が多い。和歌山市の生息地でも絶滅している箇所がある。これは、冬季に田を放置している産地がなくなったからである。

貝殻は殻高 40 mm 前後、各螺層は膨らみが強くて、縫合も深い。北海道から沖縄にかけて分布し、水田、水路、湿地等、極端に乾燥しない場所に生息する。和歌山県内では和歌山市永山・大池遊園、紀の川市打田町・海神池、岩出市相谷、有田川町下津野、田辺市中辺路町近露等に分布。

山間部等では、食料にされたことがあったが、近年は急速に生息環境の悪化が進み、各地で絶滅に瀕している。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報

1　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水産貝類図鑑②．汽水域を含む全国に淡水貝類．240pp．ピーシーズ，東京．

写真：池辺進一撮影

ベニゴマガイ　*Diplommatina pudica* Pilsbry, 1902　ヤマタニシ目　ゴマガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

タイプ産地は那智。本種は広く紀伊山地に分布するものの、いずれの地域においても生息密度が低く、個体数も著しく少ない。

貝殻は微小（殻長 3 mm）、殻色は赤褐色（紅色）を呈する。螺層には細かい成長脈が走るが、次体層から上部の 2~3 層ではその間隔は広い。貝殻の内部には本科の特徴となる腔壁を欠く。

和歌山県を中心とする紀伊山地には広く生息するが、県内的には分布域は広くはない。

貝殻の内部に腔壁を欠くので、分類学的にはベニゴマガイ亜属 *Benigoma* を形成するが、本亜属は紀伊半島～伊豆半島、奄美諸島～沖縄諸島に飛び地的に分布し、種分化の過程からも興味深い。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　東　正雄．1960．北山峡陸産貝類について．Venus，21 (1)：4–10.
2　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：91–95.
3　中野　環．2011．三重県におけるベニゴマガイの分布．ちりぼたん，41 (3–4)：98–102.

写真：湊　宏標本

ノミガイ　*Tornatellides boeningi* (Schmacker & Boettger, 1891)　マイマイ目　ハワイマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

ノミガイ属は太平洋の島々に広く分布する熱帯系の微小な陸貝。本県では離島（九龍島、双島、神島、鹿島）の４箇所、最近になって由良町白崎石灰岩地から死殻が確認された（湊，2010）。

貝殻は微小（殻長 3 mm）、円錐形状。淡褐色で体層は大きい。殻口の外唇は単純で鋭い。内唇の内部に螺状板がある。

熱帯性の陸貝であるが、和歌山県の分布は本種の北限分布としても重要である。海岸地帯のみで生息する。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　黒田徳米．1944．田辺湾神島産陸貝．Venus，13 (5-8)：313-316.
2　湊　宏．1972．南紀産ノミガイの生殖腺と地理的分布．南紀生物，14 (2)：38-41.
3　湊　宏．2007．九龍島（和歌山県）の陸産貝類，特に西日本におけるノミガイの分布について．南紀生物，49 (1)：61-66.
4　湊　宏．2010．ノミガイの白崎石灰岩地（和歌山県由良町）からの記録．南紀生物，52 (1)：37-38.

写真：湊　宏標本

ミツクリギセル　*Megalophaedusa mitsukurii* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

田辺市富里をタイプ産地とする大型のキセルガイ科で、本県の固有種。和歌山県の南部に限って生息し、現在までに 20 箇所しか生息地が確認されていない。

キセルガイ科貝類の中では大形（殻長 27~34 mm）。新鮮な個体では紫褐色を呈するが、主として礫等の堆積中に生息するため、老成すると殻皮が剥げ落ちている個体が多い。近似種のオオギセルと混棲している地域もあるが、それよりも小形であること、生殖器の形態が相違することで識別される（湊，1966）。

田辺市以南の紀南の地に点々と生息地が知られる。同所的にオオギセルと混棲することもあるが、この場合ミツクリギセルはオオギセルより個体数が多い。

本種は主としてスギ林下の斜面の礫堆積中の落ち葉や下草に生息している。和名は東大教授の箕作佳吉（1857-1909）を記念としている。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1966．ミツクリギセルの解剖知見と地理的分布．南紀生物，8 (1)：23-27.
2　湊　宏．1980．日本産陸棲貝類の分布資料 2，オオギセル．南紀生物，22 (1)：49-54.
3　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p. 251．世界文化社，東京.
4　湊　宏．2009．陸産貝類研究備忘録 (3)，“紀伊富里”のミツクリギセルとその他の４種．かいなかま，43 (1)：23-33.
5　玉木　存．1998．動物学者 箕作佳吉とその時代．415pp．三一書房，東京.

写真：湊　宏撮影

クロズギセル　*Megalophaedusa kurozuensis*（Pilsbry, 1902）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

和歌山県南部の固有種で、分布域が狭く、更にその生息環境が礫間に限定されるために、そのような生息環境は極めて少なく、個体数も多くはない。

貝殻は中形（殻長 17~20 mm）、紡錘形状、その殻頂は鈍くて短大である。殻色は灰白色、生息環境（礫間）のため、殻表が腐食していることが多い。

主として古座川流域を中心にして、串本町、古座川町の約 10 箇所で確認された。

本種はタイプ産地である古座川中流域の蔵土（くろず）を記念して学名と和名が付けられている。日本産キセルガイ科貝類の中でも、生息・分布域が狭く、しかも礫間堆積中に生息する特異なキセルガイである。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1974．クロズギセルの採集史とその関連文献．ちりぼたん，8 (1)：20–22.
2　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus Supplement 2, 1–212 + tab 5 + pls. 74pp．日本貝類学会，東京.
3　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．249．世界文化社，東京.
4　湊　宏．2014．レッドデータブック 2014 －日本の絶滅のおそれのある野生生物－ 6　貝類．455pp．ぎょうせい，東京.
5　湊　宏．2015．陸産貝類研究備忘録（15），ヒラマキビロウドマイマイとクロズギセル．かいなかま，49 (2)：1–14.

写真：湊　宏撮影

シリブトギセル　*Megalophaedusa pachyspira*（Pilsbry, 1902）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

和歌山県では熊野川流域、奈良県の南部、三重県の南部（一部）にのみしか生息していない。生息地が礫堆積地という環境で、このような環境は多くはなく、その分布域も限られる。

貝殻小形（殻長 13~15 mm）、棍棒形状。殻頂は多少大きく、鈍いので「シリブト」の和名になっている。殻色は淡黄白色を呈するが、礫間に生息しているので、殻表は剥げ落ちていることが多い。

紀伊山地の南部地域に生息地が集中している。タイプ産地は新宮市熊野川町宮井地区。クロズギセルによく似た生息環境であり、紀伊半島の固有種である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：9–95.
2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p.249．世界文化社，東京.
3　湊　宏・池辺進一．2012．保全上重要なわかやまの自然　－和歌山県レッドデータブック－（2012 年改訂版）．442pp．和歌山県，和歌山.

写真：湊（2004）典拠

コシボソギセル　*Megalophaedusa nankaidoensis nankaidoensis* (Kuroda, 1955)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

学名のように紀伊水道を挟んで、紀伊山地、淡路島、四国（徳島県、香川県）に広く分布する。礫の混じる斜面等に生息するが、個体数は多くはない。

貝殻は小形～中形（殻長 11~14 mm）、螺層は 11.5~12.5 層と多く、細長い棍棒形状、濁った白色を呈する。本種の閉弁は四辺形状で弁状部の凸面に小さな一本の棘状突起が見られる。これが本種の特徴である。

和歌山県の全域に生息地があるが、それぞれの生息域では個体数が極めて少ない。

本亜種は和名のごとく、紡錘形状だが、相対的に殻形は細くて長い。本亜種は小豆島に生息する別亜種・ショウドシマギセル *M. nankaidoensis yanoi* とは貝殻が大きいこと、下腔壁が長いこと、閉弁の形状、生殖器の盲管が極端に短いことで識別が容易である（湊, 1978）。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1978．コシボソギセルと近縁の小豆島産の 1 新亜種．Venus，37 (1)：16-21.
2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．247．世界文化社，東京．

写真：湊（2004）典拠

コンゴウクリイロベッコウ　*Japanochlamys crenata* Kuroda & Azuma, 1982　マイマイ目　シタラ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

和名のごとく、大阪市府の金剛山をタイプ産地されたやや中形の陸貝。本県では護摩壇山系、果無山系からも生息を確認しているが、分布情報の少ない種で、調査に行っても採取できるとは限らない。

貝殻は中形（殻長 7 mm）、低い円錐形状。殻表は平滑で光沢が強い。殻色は角褐色。臍孔は小さく、外に拡がった軸唇によって半分程度が覆われる。

タイプ産地は大阪府の金剛山のブナ林。6 種類がいるクイロベッコウ属の 1 種として記載されているが、今後において近似種との再検討が必要と思われる。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　黒田徳米・東　正雄．1982．日本産陸産貝類 3 新種 1 新亜種．Venus，41 (1)：10-19.

写真：黒田・東（1982）典拠

パツラマイマイ　*Discus pauper* (Gould, 1859)　マイマイ目　パツラマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）



選定理由

北方系（シベリア～千島列島）の陸産貝類。本州の中部以北に広く分布するが、近畿地方の山岳地帯に点々と分布が知られ、本県標高の高い 2 箇所らの記録がある（湊，2007）。

貝殻は小形（殻長 3.5~4 mm、殻径 6.5~8 mm）、低い円錐形状、殻表に細かい縦肋の成長脈が顕著。体層周縁は多少角張る。殻口縁は薄くて反曲しない。臍孔は広く開き、殻径の 1 ／ 3 を占める。

近畿地方にも分布する本種は、環境省では「絶滅のおそれのある地域個体群（近畿地方以西のパツラマイマイ）」として指定されている。紀伊

山地では大阪府：金剛山、奈良県：荒神岳、釈迦ケ岳、大台ケ原山、玉置山、和歌山県：高野山、大塔山から記録がある（湊，2007）。

選定理由　和歌山県の生息地を含めて近畿地方以西の個体群は、北方系の本種の南限個体として極めて貴重である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系の陸産貝類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，185–188pp．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　湊　宏．2007．紀伊山地におけるパツラマイマイの分布・生息状況．南紀生物，49 (2)：186–188，図 1．
3　南　敏行．1986．熊野の陸貝（かたつむり）．熊野記念館研究紀要（みくまの），2：3–13．

写真：湊（2007）典拠

イボイボナメクジ　*Granulilimax fuscicornis* Minato, 1989　アシヒダナメクジ目　ホソアシヒダナメクジ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由　ナメクジの仲間としては、珍しい肉食性種。新種記載されて 30 年も経過しているが、現在まで 25 都府県から記録されている。しかし、それぞれの生息地では同所からの複数個体の確認が極めて少ない。

極端に採取される個体数が少ない。基本的な軟体部の外部形質は外套膜が黒褐色の縦線によって細長い楕円形状に縁どられていること、外套膜が微細な顆粒（イボイボ）で覆われること、触角が灰黒色であることが特徴。

和歌山県では白浜町瀬戸 ①（湊，2000：矢野重文採集）、串本町古座・荒船 ①（湊，2009）、串本町大島（かしわ谷）①（湊，2009）、日高町日ノ御崎（西斜面）②（湊，2012）、日高町日ノ御崎 ①（湊，2009）、日高町田杭 ②（湊，2009）、由良町戸津市井 ①（平野，2013）等から記録があるが、その生息確認は散発的である。

採取される個体数の少ないナメクジ類であるが、基本的な外部形質を持つグループの他に、この仲間には複数個体の未記載種が存在しており、現在も資料収集をして研究の途上にあり、今後は種類が増加すると思われる。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　平野尚浩．2013．大阪府および和歌山県北部から新たに記録されたイボイボナメクジ．ちりぼたん，42 (1–4)：44–47．
2　湊　宏．1989．日本産ナメクジ科の新属新種，　イボイボナメクジの記載．Venus，48 (1)：255–258．
3　湊　宏．2009．大島（和歌山県）の陸産貝類．南紀生物，51 (1)：24–32．
4　湊　宏．2012．日ノ御崎（美浜町・日高町）の陸産貝類相．南紀生物，54 (2)：107–113．
5　湊　宏．2015．陸産貝類研究備忘録 (14)，イボイボナメクジ種群（ホソアシヒダナメクジ科）の分布とその文献抄．かいなかま，49 (1)：1–12．

写真：湊　宏撮影

ヤマキサゴ　*Waldemaria japonica*（A. Adams, 1861）　アマオブネ目　ヤマキサゴ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由　本種は本州以南に広く分布する種類であるが、本県の産出は極めて少ない。紀南の大塔山系が主産地だったが、近年になって和泉山系の岩出市境谷から記録された（田中，2012）。

貝殻は小形（殻長 5.5 mm、殻径 7~8 mm）、螺層はよく膨らむ。殻色は黄褐色（モミジヤマキサゴ型）だが、生息地によっては変異がある。

紀南の大塔山系の法師山、富里地区（ミノ谷、野山谷、フケン谷）、上富田町生馬篠原等から記録されているが、県内的には稀な種類である。

選定理由　和歌山県内的には稀少種とされ、大塔山系のほかに和泉山系・和泉葛城山からも記録されたが、分布地の確認作業が必要な種群である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系の陸産貝類相．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集，185–188pp．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．65．世界文化社，東京．
2　田中博美．2012．阪南市山中渓附近の陸産貝類相．かいなかま，51（1）：15–23．

写真：湊（2004）典拠

サドヤマトガイ　*Japonia sadoensis* Pilsbry & Hirase, 1903　ヤマタニシ目　ヤマタニシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由　本種と同じ仲間のイノウエヤマトガイは少ないながらも、和歌山県内一円から記録されているが、本種は熊野川の中流域から記録されているだけで生息範囲は極めて狭いと思われる。

イノウエヤマトガイは殻表にスプーン状の殻毛を有するが、本種は先の尖った殻毛が体層に２列にわたって配列していることで異なる。

2011 年５月 13 日、熊野川中流域の瀞八丁で東（1960）以来、長年採取されなかった本種を採取することができた。一部に古座川上流部からもそれらしき個体が採取されているというが、殻毛が剥げ落ちて正確には確認されていない。

個体数の少ない種類であるが、紀南地方に生息している可能性が高い。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　東　正雄．1960．北山峡陸産貝類について．Venus，21（1）：4–10．
2　湊　宏．1985．日本産ヤマトガイ属の２新種．Venus，44（2）：81–86．
3　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．65．世界文化社，東京．
4　湊　宏．2012．陸産貝類研究備忘録（10），紀伊半島のイノウエヤマトガイとサドヤマトガイ．かいなかま，46（2）：1–11．

写真：湊　宏撮影

ヤマモトゴマオカチグサ　*Cavernacmella yamamotonis* (Minato, 1973)　エゾタマキビ目　カワザンショウガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由　太平洋岸の海岸線の飛沫帯の転石下に生息するカワザンショウガイ科の微小種。

貝殻は微小（殻長 1.4~1.6 mm）、円錐形状で淡黄白色。海岸性植物群の繁茂する転石下の落ち葉等に付着しているが、微小なために採取は困難である。

本種が最初に採取された所は、すさみ町江住・江須崎であるが、現在ではすさみ町三崎、和歌山市友ヶ島（沖ノ島）等からも少数確認されている。

本種は最初の採集者・山本虎夫（1912–1993）に献名された。本種によく似た石灰岩洞窟産のホラアナゴマオカチグサに比較されるが、後種の軟体部の眼点が退化していることで、本種には眼点があることで識別される。これらは姉妹種と考えられ、進化の過程を推測できる腹足類である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　増田　修．2014．ヤマモトゴマオカチグサ．レッドデータブック　2014．6 貝類．286pp．ぎょうせい，東京．
2　湊　宏．2018．陸産貝類研究備忘録（17），ヤマモトゴマオカチグサ（カワザンショウガイ科）の採集と研究過程の前後．かいなかま，51（2）：1–10.
写真：和田太一提供

アナナシマイマイ　*Satsuma cristata* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

那智をタイプ産地とする本種は、紀南地方に広く分布するものの、生息密度が低く、個体数も少ない。紀伊半島南部の固有種。

貝殻は中形（殻径 16 mm 程度）、殻底の臍孔は完全に閉じるので、和名の由来になっている。体層周縁は円くて淡褐色の色帯を巡らしている。

紀南地方の海岸地域から内陸部まで広く分布するが、その個体数は多くはない。

ニッポンマイマイ属の中では、本県の南部に限って生息する臍孔が閉じる固有種である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24（2）：91–95.
2　湊　宏．1996．那智山の陸産貝類．南紀生物，37（2）：87–93.
写真：湊（1996）典拠

ツヤマイマイ　*Satsuma selasia* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

アナナシマイマイとともに、本県を代表する固有種だが、生息地のスギ林等の伐採等によって生息環境が悪化しており、個体数も減少の傾向にある。

貝殻は中形（殻径 17 mm 前後）で、低い円錐形状である。貝殻に色帯が認められない。アナナシマイマイに比べて臍孔が開き、琥珀色の殻表には光沢（ツヤ）がある。

分布域はアナナシマイマイに比べて、紀南地方の海岸地域よりも内陸部に生息していることが多い。

タイプ産地は那智。臍孔が明瞭に開くので、アナナシマイマイとは識別される。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24（2）：91–95.
2　湊　宏．1996．那智山の陸産貝類．南紀生物，37（2）：87–93.
写真：湊（1996）典拠

ヒメビロウドマイマイ　*Nipponochloritis perpunctatus* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

生息密度が低く、個体数が少ない。本県でも広く生息しているが、これまでも 10 箇所程度しか確認されていない。

貝殻は小形～中形（殻長 8.0 mm、殻径 13.7 mm）、薄くて脆い。殻表に殻毛が短く密生すること、臍孔がほとんど閉じられていること、生殖器の鞭状器の形態が極めて小さく痕跡的であることが本種の特徴である。

和歌山県内的には広く生息するが、個体数が少ない。近畿地方から中部地方に分布する。

タイプ産地は奈良県十津川。本属の他種に比べて、殻毛が細くて短く密生すること、臍孔が閉じること、生殖器の鞭状器が小形であることによって相違する。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．2003．和歌山県に分布するビロウドマイマイ属貝類．南紀生物，45 (2)：110–114.
2　湊　宏．1996．那智山の陸産貝類．南紀生物，37 (2)：87–97.

写真：湊（1996）典拠

アサヒキヌタレガイ　*Acharax japonica* (Dunker, 1882)　キヌタレガイ目　キヌタレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の潮間帯から水深 20 m 程度の砂泥底に生息。貝殻は非常に薄く、褐色、長い楕円形、殻表は平滑。殻長 20 mm。北海道以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、串本町橋杭、潮岬に分布。

和歌山県での確認地点のうち、加太産の個体は合弁の新鮮個体である。近隣地域では三重県で生浦湾、英虞湾のアマモ場で生貝が採集され、愛知県では三河湾湾口部で新鮮な死殻が採集されたに過ぎない。浜名湖や瀬戸内海では現在もアマモ場で生貝が確認されていることから、和歌山県内の産出状況は今後も注視される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　木村昭一．2012．アサヒキヌタレガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．106．東海大学出版会，秦野.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78.

写真：池辺進一標本

ヒシガイ　*Fragum bannoi* (Otsuka, 1937)　ザルガイ目　ザルガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の砂質干潟から水深 10 m の潮下帯に生息。貝殻は堅固、四角形、瘤状突起がある 20 肋の放射肋をもつ。殻長 10 mm。房総半島以南、九州、台湾、タイに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、田辺市新庄町滝内、白浜町臨海、富田対ノ浦に分布。

和歌山県では近年、滝内、対ノ浦で死殻が確認されるが、個体数は少なく、和歌山県田辺湾では「かつては採集されていたが現在は全く認められない」とされる。全国的に生貝の採集例は少なくなっており、三重県では英虞湾の狭い範囲で生息が確認されるものの、同地が北・東の限界とされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　Kuroda, T. & Habe, T. 1981. A catalogue of Mollusca of Wakayama Prefecture of Kii-I. Bivalvia, Scaphopoda and Cephalopoda. Publications from the Seto Marine Biological Laboratory, Special Publication Series 7：1–303.
3　木村昭一・山下博由．2012．ヒシガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．118．東海大学出版会，秦野．
4　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23．
5　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．

写真：三長秀男提供

テリザクラ　*Moerella iridescens* (Benson, 1842)　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾奥部の中・低帯の泥底に生息。貝殻は薄質、細長い卵形、膨らみは弱く、橙色から黄褐色。殻長 20 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、オーストラリア北部に分布。和歌山県内では有田市河口に分布。

和歌山県では有田川河口の死殻 1 例のみを確認し、その後の記録はない。近隣地域では三重県に記述はなく、また愛知県では 1969 年、三河湾で 1 個体が確認されたのみで、以後、確認されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50．
2　河辺訓受・山下博由．2015．愛知県に生息していたテリザクラ－かつての汐川干潟の貝類相－．かきつばた，40：31–33．
3　山下博由．2012．テリザクラ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．125．東海大学出版会，秦野．

写真：池辺進一標本

ムラサキガイ　*Hiatula adamsii*（Reeve, 1857）　ドブシジミ目　シオサザナミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾干潟や河口域付近の潮間帯下の砂泥底に生息、一部地域では食用とされていた。貝殻はやや薄質、長い楕円形、褐色の薄い殻皮をもち、内面は濃い紫色。成貝では 50 cm 以上の深さに潜る。房総半島以南、九州、台湾、インドネシアに分布。和歌山県内では和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市河口、有田郡広川町西広海岸、那智勝浦町粉白に分布。

和歌山県では、かつて生貝の確認例は極めて少なく、過去 20 年間に 1 例のみとされていた。ただ西広海岸では 1997 年に新鮮な死殻が、更に 2007 年、生個体 1 例が確認され、その後も 2015 年には同海岸で 138 例が、2019 年には 2,000 例以上と徐々に回復の傾向が確認されている。近隣地域でも三重県では 2012 年頃から復活傾向が見られ、愛知県でも 2010 年から同様な回復傾向が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2009．和歌山県広川町西広海岸から採集したムラサキガイ生個体（軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミガイ科）．南紀生物，51（1）：53–55.
2　江川和文・南方啓司．2016．和歌山県西広海岸により大風で打ち寄せられたムラサキガイ（軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミガイ科）．南紀生物，58（1）：82–86.
3　Honda, J., Willan, R. C., Suzukida, K., Mizoguti, K. & Hori, H. 2001. Discovery of healthy populations of the endangered bivalve Soletellina adamsii Reeve 1857：(Tellinoidea：Psammobiidae) on the Suo-nada Sea (western Seto Inland Sea) coast of Yamaguti Prefecture, western Japan, with taxonomic remarks. The Yuriyagai, 8 (1)：23–33.
4　池辺進一．2015．和歌山県那智勝浦町粉白の貝類．かたをなみ，10：7–9.
5　木村昭一・山下博由．2012．ムラサキガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．134．東海大学出版会，秦野.

写真：三長秀男提供

ハナグモリ　*Glauconome angulata* Reeve, 1844　マルスダレガイ目　ハナグモリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾奥部や河口汽水域に生息。貝殻は薄質、長い楕円形、膨らみは強く、黄緑色の厚い殻皮を持つ。殻長 25 mm。日本（房総半島以南、瀬戸内海、有明海・八代海、沖縄、西表島）、朝鮮半島、中国大陸、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌川河口奥部、有田川河口、有田郡広川町西広海岸に分布。

和歌山県での確認地点のうち、和歌川河口奥部では合弁個体（生貝？）が確認され、他 2 地点では少数個体を確認。確認個体は残肉個体や殻皮が保存された合弁個体である。本種は近年、東京湾や瀬戸内海沿岸では激減している。近隣地域では三重県での記録はなく、また愛知県でも生息が確認できず、死殻さえ採集できない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　山下博由．2012．ハナグモリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．139．東海大学出版会，秦野.
3　和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤　真・島村賢正・福田　宏．1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF サイエンスレポート，3：182.

写真：三長秀男提供

アリソガイ　*Coelomactra antiquata* (Spengler, 1802)　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

外洋に面した潮下帯から水深 10 m の細砂底に生息。貝殻は亜三角形で紫色、よく膨らみ、やや薄質、新鮮な個体では成長脈状に隆起した殻皮を持つ。殻長 120 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、東南アジアに分布。和歌山県内では和歌山市磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、片男波、名草ノ浜に分布。

和歌山県では名草ノ浜から新鮮な死殻が確認されている。本種は 1990 年以降、全国的に激減した。近隣地域では、底引き網で採取されていた三河湾、伊勢湾からは近年、ほとんど姿を消し、三重県では、伊勢湾中部で稀に新鮮な死殻が確認されるものの生貝が確認されず、また愛知県では、1960 年代、三河湾湾口部から渥美外海で普通に採集されていたが、現在、生息が確認できない。ただ、和歌山市対岸の徳島県吉野川南部の海岸からは近年、多数の生きた個体が確認されており、回復傾向にあると見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．アリソガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．139．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.

写真：三長秀男提供

ヒナミルクイ（ヒナミルガイ）　*Mactrotoma depressa* (Spengler, 1802)　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の低潮帯下の砂泥底に生息。貝殻は薄質、前後に長い楕円形、殻頂は背縁のほぼ中央にあり、殻頂から後原隅へ弱い稜が走る。殻長 45 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、小笠原、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、有田市有田川、白浜町対ノ浦に分布。

和歌山県では現状、死殻のみが確認される。近隣地域でも生息情報はほとんどなく、三重県では伊勢湾湾口部から死殻の確認例があるものの情報不足で高い絶滅危惧種ランクにあり、これは岡山県でも同様である。また、愛知県では記録がない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相 2．二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153–158.
5　山下博由．2012．ヒナミルクイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．142．東海大学出版会，秦野．

写真：三長秀男提供

ミルクイ　*Tresus keenae*（Kuroda & Habe, 1950）　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾及び湾口部の低潮帯から水深 40 m までの泥底・砂泥底に生息。本種は高級食材の食用種。貝殻は楕円形、堅固、厚く膨らみ、黒褐色の厚い殻皮をもち、後端は広く開き、動物体の水管は長大で食用にされる。殻長 140 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、日高郡由良に分布。

和歌山県では主に紀北域から記録され加太で生貝を確認している。本種は高級食材としての需要から採捕されてきた種で、近隣地域では三重県では 1980 年代、大量に水揚げされたが現在、資源量は減少している。愛知県では漁業対象種であるが、採捕個体が減少しているとされ、岡山県では文献記録があるものの、現状不明で絶滅の可能性ある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　池辺進一．2012．和歌山市・毛見崎の貝類．かたをなみ，8：15–19．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158．
5　山下博由・木村昭一．2012．ミルクイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．144．東海大学出版会，秦野．

写真：池辺進一標本

ハマグリ　*Meretrix lusoria*（Röding, 1798）　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の遠浅海岸の中・低潮帯に生息。貝殻は丸みを帯びた三角形で、殻はやや薄質、殻表は平滑で多様な色彩、模様変異を持つ。殻長 85 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島に分布するが、ほぼ日本固有種と見られる。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦・布引）、名草ノ浜、有田市河口、有田郡広川町西広海岸に分布。

和歌山県では和歌山市の砂泥質海岸と広川町西広海岸から少数個体が確認される。近隣地域では、県カテゴリーが三重県では絶滅危惧Ⅱ類（VU）から準絶滅危惧種（NT）に、愛知県でも絶滅危惧ⅠA類（CR）から絶滅危惧Ⅱ類（VU）、更に準絶滅危惧種（NT）に変更されている。

なお、生鮮食品売場に「ハマグリ」として並ぶ個体は、そのほとんどが中国大陸産のシナハマグリ、あるいは千葉県、茨城県産のチョウセンハマグリであり、ともに別種である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（Ⅰ）．南紀生物，46：31–36．
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．

参考文献・情報
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.
6　山下博由．2012．ハマグリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．150．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

イオウハマグリ　*Pitar sulfreum* Pilsbry, 1904　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾奥の泥質干潟の中・高潮線に生息。貝殻は堅固、膨らみが強く、殻表は平滑で黄色を帯びる。殻長30 mm。房総半島・男鹿半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌浦湾、田辺湾奥部、白浜町臨海に分布。

和歌山県では田辺、白浜の 2 地点のほか、古い死殻が和歌浦で確認され、また個体数も稀であるが、田辺湾奥部ではアマモ場の砂泥底での生息例が記録される。近隣地域では三重県では英虞湾、五ヶ所湾に健全な個体群があるが、伊勢湾以北では絶滅状態とされ、岡山県では過去の記録があるものの以後不明で、絶滅状態と見られるという。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　木村昭一．2012．イオウハマグリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．152．東海大学出版会，秦野.
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
4　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
写真：田中眞人提供

ヤタノカガミ　*Dosinia troscheli* Lischke, 1873　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾砂泥底の低潮線から潮下線に生息。貝殻はマルヒナガイに近似するが、輪肋がより細かい。殻長 50 mm。遠州灘以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市片男波、名草ノ浜に分布。

和歌山県では、片男波で合弁個体が養浜工事以前に確認されていたが、現在は名草ノ浜での死殻の記録が唯一で、その後も記録はない。近隣地域でも同様で三重県では過去の記録があるが現状不明であり、また岡山県では死殻のみが確認され、絶滅に近いとされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．ヤタノカガミ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．148．東海大学出版会，秦野.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139.
写真：江川和文撮影

セワケガイ　*Byssobornia adamsi* (Yokoyama, 1924)　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の中・低潮帯の泥礫底、ユムシ類の巣穴に見られ、共生関係が考えられる。貝殻はやや厚く扁平、白色。殻長 15 mm。房総半島以南の太平洋岸、奄美大島、沖縄、先島諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、田辺市新庄町滝内、白浜町富田対ノ浦、串本町田並に分布。

和歌山では 5 地点から確認しており、田辺湾奥部では半ば埋もれた転石下に生息が見られる。近隣地域（岡山県、大阪市府、三重県、愛知県）でも記述はなく、現在の主分布域は南西諸島と見られ、この地域でも環境悪化により生息地、個体数が減少している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　久保弘文．2012．セワケガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．156．東海大学出版会，秦野．
3　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
4　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14．
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55 (1)：73–78．

写真：三長秀男提供

フジタニコハクノツユ　*Tellimya fujitaniana* (Yokoyama, 1924)　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾奥部の砂泥質干潟の低潮帯表層から潮下帯に生息。殻長 7 mm。貝殻は長楕円形、薄質、白色の半透明、殻表は平滑で光沢を帯びる。陸奥湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜に分布。

和歌山県では 2 地点でのみ確認。かつて名草ノ浜で新鮮な合弁個体 10 数例を採集しているが、近年の確認例は、いずれも死殻（半片）で単一個体であり、加太産の個体は 1977 年の採集である。本種の確認例は全国的に極めて少なく、近隣地域（岡山県、大阪市府、三重県、愛知県）でも記述はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　福田　宏．2012．フジタニコハクノツユ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．157．東海大学出版会，秦野．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物．49 (2)：137–142．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物．55 (2)：153–158．

写真：江川和文撮影

チゴマテ　*Solen kikuchii* Cosel, 2002　マテガイ目　マテガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



内湾の低潮帯からに生息。水深 90 m までの泥底・砂泥底に生息。貝殻は小型で薄質、殻長 23 mm。瀬戸内海、有明海、八代海北部、中国大陸（渤海から南シナ海）に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜（単一産地）に分布。

選定理由　和歌山県では名草ノ浜から合弁個体 3 例、半片数個体を確認。周辺地域では兵庫、広島、愛媛各県で確認されているが、個体数は限定的である。ただし、アサリ等に混在した移入種の可能性も否定できない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　倉持卓司・厚井昌子・永沼　毅．2013．瀬戸内海備讃瀬戸から採集されたチゴマテ（軟体動物門、二枚貝綱．マテガイ科）．南紀生物，55 (2)：128–129.
2　土岐頼三郎・野田圭典．2004．和歌山県から記録されたチゴマテ（軟体動物門、二枚貝綱、マテガイ科）．南紀生物，46 (2)：123–125.
3　山下博由．2012．チゴマテ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 170．東海大学出版会，秦野.

写真：三長秀男提供

ウミタケ　*Barnea japonica* (Yokoyama, 1920)　オオノガイ目　ニオガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



内湾の干潟、中潮帯から水深 20 m までの泥・砂泥底に生息。食用種。貝殻は薄質、白色、殻の膨らみは強く、殻表は前方に粗い成長脈が、後方にはやや強い刺が並ぶ。殻長 120 mm。日本（北海道南部から九州）、ロシア日本海沿岸、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市初島町に分布。

選定理由　和歌山県では名草ノ浜で新鮮な死殻が確認されているが、個体数は少なく、殻長 50 mm 程度の幼貝である。また近年、初島町から殻長 68 mm の個体が確認された。近隣地域では、大阪市湾岩屋沖の水深 20~30 m で生貝が記録されたが、現在では情報不足（DD）に区分される。また三重県では、かつて伊勢湾 2 地点の潮下帯からの記録があったが、現在、新しい死殻が確認されるものの生貝は未確認である。なお愛知県では近年、汐川干潟で生貝 2 例が確認されている。かつて本種は有明海の有名な食用貝で福岡県大牟田の魚店に並べられていたが、近年は目にしない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2010．和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝．かたをなみ，6：4–9.
2　岡村親一郎・児島　格．1986．大阪市湾の貝類　Ⅲ．巻貝類の生息記録（その 2）．南紀生物，28 (1)：59–65.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50 (1)：134–139.
4　山下博由・木村昭一．2012．ウミタケ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 166．東海大学出版会，秦野.

写真：江川和文撮影

ヒメマスオガイ　*Cryptomya busoensis* Yokoyama, 1922　オオノガイ目　オオノガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾の干潟から水深 50 m の泥底に生息。貝殻は薄質、卵形、白色、膨らみはやや強く後端は開く。殻長 20 mm。北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、串本町潮岬に分布。

和歌山での近年の確認例は名草ノ浜での 1984 年の採集個体（死殻、新鮮な合弁個体）で、産地や個体数は非常に稀。近隣地域でも三重県では既知生息地が 5 地点以下で伊勢湾内の水深 10 m 以深に生息が確認されるものの、生息場所、生息数減少し生貝の確認例は僅かである。また、愛知県では 1990 年から 2005 年頃まで生息が確認できなかったが、近年、伊勢湾、三河湾で生貝確認。ただ、生息地、個体数とも非常に少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　木村昭一．2012．ウミタケ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．166．東海大学出版会，秦野．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）．134–139．

写真：三長秀男提供

オフクマスオガイ　*Distugonia decuevata*（A. Adams, 1851）　オオノガイ目　オオノガイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

河口域や上部浅海帯の水深 10 m 付近の泥底に生息。貝殻は薄質、よく膨らみ、殻頂から後腹隅に稜をもつ。殻長 25 mm。紀伊半島以南、南西諸島、中国大陸南部、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、串本町橋杭に分布。

和歌山県では近年では橋杭からの記録が唯一の確認地で、1975 年の採集例である。本来の生息地が奄美大島以南であり、和歌山県での記録は本州最南端の地であり偶因分布の一例と見られる。近隣地域での確認例はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　久保弘文．2012．オフクマスオガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．167．東海大学出版会，秦野．

写真：池辺進一標本

ツボミ　*Patelloida conulus*（Dunker, 1861）　ヨメガカサ目　コガモガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の砂泥干潟や河口汽水域に生息する。ウミニナ類の殻に着生する生態を持つ。貝殻は小形、笠形、殻頂が顕著に隆起した高円錐形となる。陸奥湾北部・山口県北長門海岸以南、九州、沖縄、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、白浜町番所崎に分布。

本種の特異な形状は、かつて着生部位の狭小さから殻頂が隆起したヒメコザラの生態型とされてきた。最近、本種は遺伝子解析から独立した別種とされた。なお、近隣地域の愛知県では産地や個体数が多く確認できることから、準絶滅危惧種から除外されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．ツボミ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．16．東海大学出版会，秦野．
2　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172
3　波部忠重・小菅貞男．1967．標準原色図鑑全集　3　貝類．xviii，223pp.，64 pls．保育社，大阪．
4　三長秀男・三長孝輔．2017：和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
5　Nakano, T. & Ozawa, T . 2005. Systematic revision of *Patelloida pygmaea*（Dunker, 1860）（Gastropoda, Lottidae）, with a description a new species. Journal of Molluscan Studies, 71：357–370.
6　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51（1）：59–63.

写真：江川和文撮影（ウミニナの殻上に着生）

スカシエビス　*Sukashitrochus carinatus*（A. Adams, 1862）　スカシガイ目　クチキレエビス科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

内湾湾口部等の海岸礫地の高潮帯から潮下帯で転石下に生息。貝殻は微小、半透明、体層に３本の太い螺肋を持ち、肩部に切れ込みがあり、臍孔は狭く開く。殻高 1.8 mm。北海道南部以南、熱帯西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、有田郡広川町西広海岸、御坊市名田、田辺市、白浜町、串本町、那智勝浦町宇久井に分布。

和歌山県では各地から死殻が少数例、確認できるが、生貝は未確認。ただ、加太では海岸礫地の転石下といった環境は残されており、今後、新たな生貝の確認が可能と考えられる。近隣地域で三重県では確認個体が稀で情報不足とされ、愛知県では記述がなく、また岡山県では現状不明で絶滅それに近い状態である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．スカシエビス　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．16．東海大学出版会，秦野．
2　小山安生．2008．和歌山県の古腹足目貝類目録（1）　クチキレエビスガイ科・オキナエビスガイ科・ミミガイ科・スカシガイ科．南紀生物，50（2）：253–260.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53（1）：41–46.

写真：三長秀男提供

イボキサゴ　*Umbonium moniliferum*（Lamarck, 1822）　ニシキウズ目　ニシキウズ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



河口域や内湾干潟の砂泥底に生息。貝殻は堅固、そろばん玉状、淡褐色から淡緑色、白色まで色彩変異が多く、殻表背面には螺肋をめぐらし縫合付近に疣状突起を持ち、腹面中央には重厚な臍盤をもつ。殻長 15 mm。東北地方から九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、和歌川（和歌浦）、片男波、名草ノ浜、海南市琴ノ浦、有田市、有田郡広川町西広、白浜町番所崎に分布。

選定理由

和歌山県では一時、片男波や名草ノ浜では波打際の砂中に重なるほどに生貝が確認できた。本種には消長があり、和歌川河口奥部（和歌浦湾）では 2004 年、幼貝が少数例、確認されたが、2016 年、成貝が普通に確認できた。また、磯ノ浦では 1970 年代、浜辺に帯状となる死殻の打ち上げがあり、西広では 2005 年頃まで多数の死殻が見られたが、ともに近年では死殻さえ稀である。大阪湾南岸の男里海岸では古い死殻のみが確認される。三重県では生息地、個体数が減少し、良好な干潟でも生息が確認できない。また、愛知県の汐川干潟では生貝が 1990 年代半ばから 2010 年前後まで確認されず、2015 年頃に生貝が再確認されるようになった。原因が不明なまま、生息状況に消長が確認できる例である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46 (2)：167–172.
2　木村昭一・山下博由．2012．イボキサゴ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．17．東海大学出版会，秦野.
3　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田.
4　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48 (1)：21–26.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53 (1)：41–46.
7　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51 (1)：59–63.

写真：三長秀男提供

キサゴ　*Umbonium costatum*（Valenciennes, 1838）　ニシキウズ目　ニシキウズ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



潮間帯から水深 10 m の砂底に生息。貝殻はイボキサゴに酷似し、背面の螺肋は黒色と黄色の交互の模様となり、腹面中央に肉色の臍盤をもち、臍盤はイボキサゴより小さい。殻長 15 mm、個体によっては 30 mm の老成個体もある。北海道南部以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、和歌浦湾（片男波）、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、白浜町番所崎、畠島に分布。

選定理由

和歌山県ではイボキサゴが多産した地域でも本種の確認例は少ない。環境省カテゴリーではイボキサゴが準絶滅危惧種であるのに対し、本種は対象外であり、和歌山県内の産出状況からは疑問を感じる。イボキサゴ同様、海水中の懸濁物を水管で濾して摂食する習性をもつが、生息範囲がイボキサゴより限られている可能性もある。なお、岡山県では本種は絶滅危惧Ⅰ類に区分されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
2　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26．
写真：三長秀男提供

タイワンキサゴ　*Umbonium suturale* (Lamarck, 1822)　ニシキウズ目　ニシキウズ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

細砂底の潮間帯下から水深 10 m に生息。貝殻はキサゴ状、堅固、背面は平滑、稀に縫合下に小さな疣状突起をもち、灰色と白色のジグザグ模様を密に繰り返し、腹面の臍盤は赤みを帯びる。殻径 20 mm。和歌山県以南から南西諸島、台湾に分布。和歌山県内では有田郡広川町西広、白浜町江津良、番所崎、白良浜、串本町上浦、那智勝浦町湯川に分布。

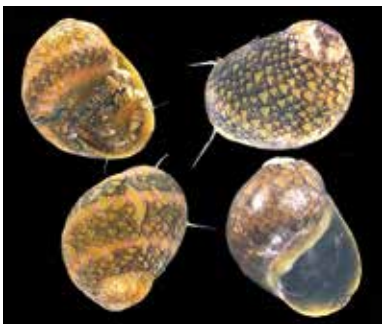
和歌山県では西広を北限に 2005 年に多数個体を確認。本種の模様変異は少ないが、西広産個体には従来、確認されない変異例があり、イボキサゴとの交雑が生じた可能性もある。本種は奄美、台湾等が主生息域であり、かつて和歌山県では産出さえ否定されていた。現在、和歌山県内では上浦で打ち上げ個体が確認されるが、個体数は少なく、また現在、西広では稀である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2012．和歌山県北部産タイワンキサゴに見られた色彩変異．かきつばた，37：12–16．
2　久保弘文．2012．タイワンキサゴ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．18．東海大学出版会，秦野．
3　宗方　浩．1958．タイワンキサゴ採集余談－台湾基隆産と串本産キサゴの比較図－．ゆめ蛤（謄写），94：25．
写真：三長秀男提供

ヒメカノコ　*Clithon oualaniensis* (Lesson, 1831)　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾、河口域の汽水環境の砂泥上に生息。貝殻は小型で堅固、ほぼ球形の卵形、殻表は平滑、模様変異は多様で三角形が組み合わさった模様が多い。殻径 10 mm。房総半島以南、東南アジア、インド洋、オーストラリア北部に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、和歌川（和歌浦）、名草ノ浜、有田郡広川町西広海岸、御坊市日高川、田辺湾奥部に分布。

本邦本土での本種の産出状況は稀少とされ、実際、和歌山県でも 2000 年に初めて 2 例の死殻が確認できたのみであった。その後、和歌浦、紀の川河口では多数個体の生貝が確認され、コゲツノブエの殻上には本種のものと見られる卵嚢が産卵されていた。近隣地域では、三重県で死殻は確認できるが、生息は見られない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．1996．6　軟体動物　腹足綱　WWF Japan Science report 3．（和田恵次編）：11–52．
2　木村昭一・福田　宏．2012．ヒメカノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．18．東海大学出版会，秦野．

参考文献・情報
3　小菅丈治．2012．ベトナム南部ビントアン省フックテーの転石海岸におけるヒメカノコ個体群の季節的消長（軟体動物門：腹足綱：アマオブネ科）．南紀生物，54 (2)：120–124.
4　小山安生．2008．和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録　アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科．南紀生物，50 (1)：91–95.
5　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類　Ⅱ．かきつばた，40：2–16.
6　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山で採集したアマオブネガイ科、フネアマガイ科の貝類．かたをなみ，3：12–23.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48 (1)：21–26.
8　野田圭典．2006．和歌山市におけるヒメカノコの生息記録（軟体動物門、腹足綱、アマオブネガイ科）．南紀生物，48 (2)：165–167.
9　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市紀の川河口域の貝類相（補遺）．南紀生物，53 (1)：91–94.
写真：三長秀男提供

レモンカノコ　*Clithon souverbiana* (Montrouzier, 1866)　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

奄美大島、沖縄、先島諸島、南太平洋に分布する種で、全体の形状はヒメカノコに近似するが、螺塔は高まり、蓋がレモン色を呈する。殻高 9 mm。湧水や伏流水が染み出す渚付近の礫砂底に生息。和歌山県内では串本町に分布。

和歌山県からの記録は唯一、本州最南端の串本町からの産出例が記録される。本種は奄美大島等が主生息域と見られ、偶因分布の可能性が強い。ただ、本種の主生息域は生息条件の悪化から、激減の傾向が示されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　小山安生．2008．和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録　アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科．南紀生物，50 (1)：91–95.
2　久保弘文．2012．レモンカノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 18. 285pp. 東海大学出版会，秦野.
写真：池辺進一標本

ヒロクチカノコ　*Neripteron* sp. A　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾や河口汽水域のヨシ原湿地周辺に生息。貝殻は堅固、黄褐色から黒色、半球形で殻口は内外唇とも外縁が連続して外方に広がる。殻径 20 mm。東京湾・山口県北長門以南、九州、中国大陸に分布。なお従来、本種に *Neripteron cornucopia* Benson, 1791 の学名があてられてきたが、この種はフィリピン方面から沖縄に分布する種で、本土産の個体とは遺伝的に異なる。和歌山県内では和歌山市紀の川、名草ノ浜、和歌浦湾、すさみ町日置川に分布。

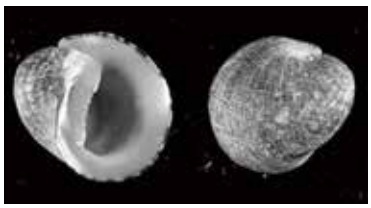
和歌山県では名草ノ浜で死殻を約 50 個体、確認。近年、生貝の採集例は和歌浦干潟、日置川河口で各 1 個体が記録されるに過ぎない。近隣地域では大阪で絶滅、三重県では伊勢湾沿岸に 10 地点に生息地が確認された。また、愛知県では庄内川、矢作川河口域で健全な個体群が残るものの、生息地域は著しく減少した。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏・木村昭一．2012．ヒロクチカノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．20．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　木邑聡美・野元彰人・杉野伸義・和田恵次．2003．和歌浦干潟で確認された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12．
3　小山安生．2008．和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録　アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科．南紀生物，50（1）：91–95．
4　三長秀男・三長孝輔．2006．和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類．かたをなみ，3：12–23．
5　三浦知之．2008．干潟の生きもの図鑑．198pp．南方新社，鹿児島．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類 1．南紀生物，48（1）：21–26．
写真：三長秀男提供

ニセヒロクチカノコ　*Neripteron siquijorensis* (Récluz. 1843)　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

干潟のアマモ場の葉上、マングローブ周辺の泥礫干潟に生息。貝殻はヒロクチカノコに近似して小型で、殻口内に刻み状の溝を持つ。殻径 10 mm。奄美、沖縄からインド、太平洋等の熱帯域を主分布域とし、和歌山県での記録は偶因分布と見られる。和歌山県内では和歌山市和歌浦湾；有田市河口に分布。

和歌山県からは和歌川河口域（和歌浦湾）から生貝 1 個体を採集し動物体、歯舌を記録した。他に有田川から幼個体の死殻を確認しており、現在、和歌山県内の確認例はこの 2 例のみである。既知の分布域は奄美、沖縄、先島諸島、台湾、インド、太平洋であり、本種もレモンカノコ同様、偶因分布の可能性もある。なお、沖縄中南部では生息域が消失し、減少の傾向がある種とされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文・野田圭典．2010．和歌川河口奥部におけるニセヒロクチカノコの産出記録（軟体動物門、腹足綱、アマオブネ科）．南紀生物，52（1）：72–74．
2　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51（1）：59–63．
3　久保弘文．2012．ニセヒロクチカノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．22．285pp．東海大学出版会，秦野．
写真：江川和文撮影

キンランカノコ　*Smaragdia paulucciana* Gassies, 1870　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の干潟で潮下帯のアマモ場の葉上に生息。貝殻は微小、堅固、ウミヒメカノコに近似するが、細長でレモン色の細い色帯をめぐらす。殻径 5 mm。三浦半島以南から南西諸島、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、有田郡西広海岸、田辺湾奥部、元島、串本町上浦、橋杭に分布。

和歌山県では、各地から新鮮な死殻が確認される。田辺湾奥部や橋杭ではアマモ場が形成され、この葉上に生息すると見られる。本土での確認例は稀少であり、三浦半島では生貝 1 個体の採集例が、三重県では死殻の記録がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　木村昭一．2012．キンランカノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．24．285pp．東海大学出版会，秦野．

参考文献・情報
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
3　小山安生．2008．和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録　アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科．南紀生物，50（1）：91–95．
4　三長秀男・三長孝輔．2006．和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類．かたをなみ，3：12–23．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158．
写真：三長秀男提供

ミヤコドリ　*Phenacolepas pulchella*（Lischke, 1871）　アマオブネ目　ユキスズメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾や河口域で還元環境の低酸素状態の深く埋没した転石下に着生。貝殻は薄質、傘形で、貝殻の後方が隆起し、殻頂から微細な顆粒をもつ放射状が伸びる。殻長 10 mm、殻高 5 mm。関東地方から沖縄、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌浦湾、名草ノ浜、海南市琴の浦湾、有田市、有田郡江上川、田辺湾、鳥ノ巣、白浜町袋、串本町上浦、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

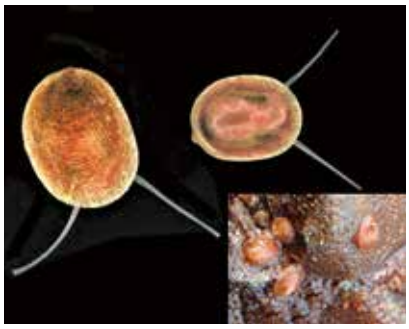
和歌山県ではほぼ全域から生息が確認され、生息地では転石下に複数個体が集合することが多い。ただ、本種の生息例は全国的に少ない。三重県では 10 地点が確認されているが、愛知県では 2 地点のみが、更に相模湾では絶滅し、岡山県では過去、数個体が確認されているのみである。内湾、河口域は人為的に改変されやすく、常に絶滅の危惧がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏・木村昭一．2012．ミヤコドリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．26．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46：167–172．
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2009．平成 30 年度モニタリングサイト 1000　磯・干潟調査報告書．環境省自然環境局生物多様性センター，富士吉田．
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（1）．南紀生物，46（1）：31–36．
5　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
6　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7．
7　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51（1）：59–63．
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26．
9　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2011．田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類．くろしお，（30）：50–54．
10　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196．
11　渡部哲也．2001．和歌山県白浜町から得られたミヤコドリ（ユキスズメ科貝類）．南紀生物，43（1）：61–62．
写真：三長秀男提供

ヒナユキスズメ　*Phenacolepas* sp.　アマオブネ目　ユキスズメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟や河口等、汽水域の還元環境の深く埋もれた転石下に生息する。山口県産個体をもとに和名のみが提唱された未記載種。貝殻はミヤコドリに近似するが、やや小型で放射肋は顕著ではなく、同心円状の成長脈が明瞭となる。殻長 5 mm。三浦半島以南、瀬戸内海から九州に分布。和歌山県内では和歌山市和歌川（和歌浦干潟）、海南市琴ノ浦、冷水、有田郡江上川、田辺市田辺湾、田辺湾奥部、串本町上浦、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では生貝は有田郡江上川河口を最初に、新庄町滝内等、ほぼ全域から確認されている。全国的には個体数、産地例が少ないが、三重県では 10 地点が確認されている。愛知県では 3 地点が、岡山県では 1 地点のみが記録される。

執筆者（江川和文）

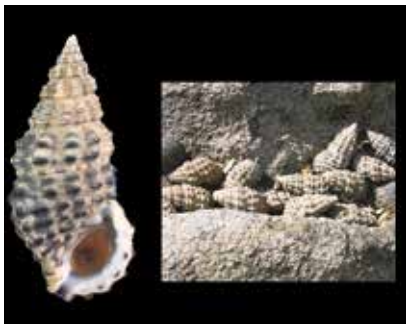
参考文献・情報

1　Hosaka, K. & Fukuda, H. 1996. Discoerry of a population of an endangered brakish-water snail *Stenothyra japonica* (Gastropoda Neotaenioglossa Stenothyridae) and characteristics of the accompanied molluscan fauna in Onoda City, Yamaguti Prefecture, western Japan, with a comment on the conservation value. The Yumehamaguri, 4：65–95.
2　木邑聡美・野元彰人・杉野伸義・和田恵次．2003．和歌浦干潟で確認された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12.
3　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（1）．南紀生物，46（1）：31–36.
4　木村昭一．2012．ヒナユキスズメ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．27．285pp．東海大学出版会，秦野.
5　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
6　大古場　正・三長秀男．2002．ヒナユキスズメの新産地．かいなかま，36（1）：13–14.
7　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
8　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
9　三長孝輔・三長秀男．2012：和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類　Ⅱ．かきつばた，37：22–27.
10　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅰ．南紀生物，51（1）：59–63.

写真：三長秀男提供

カヤノミカニモリ　*Clypeomorus bifasciata* (Sowerby, 1885)　オニノツノガイ目　オニノツノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

岩礁の高・中潮帯に見られ、岩盤や砂礫底に生息。貝殻は太い紡錘形、堅固、殻表には黒い疣状の突起が並ぶ。殻高 20 mm。房総半島・山口県北長門以南、南西諸島、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、御坊市上祓井戸、南塩屋、田辺湾天神崎、白浜町袋川、富田対ノ浦、串本町潮岬、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県ではかつて、紀南では普通種であった。現在でも対ノ浦では潮間帯上部の岩礁や間隙の窪みに多産する。他に上祓井戸でも記録される。一方で同様な海岸でも確認できない地もあり、局地的に生息のない地域が生じている可能性もある。近隣地域では三重県では従来県南部の 3 地点に生息記録があり、近年では生貝

選定理由　の記録がなく、また岡山県では古い記録があるものの以後、確認できず、絶滅したと考えられる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．カヤノミカニモリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．28．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　福田　宏・柏尾　翔．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53（1）：41–46．
5　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2011．田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類．くろしお，（30）：50–54．
6　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35．
7　三長孝輔・三長秀男．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類．かきつばた，36：15–23．
8　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類　II．かきつばた，40：2–16．
9　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録、1949–1983 その 1．南紀生物，26（1）：56–61．

写真：三長秀男提供

コゲツノブエ　*Cerithium coralium* Kiener, 1841　オニノツノガイ目　オニノツノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	–	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由　内湾干潟や河口汽水域に生息。貝殻は堅固、塔型で黒褐色、螺層は 3 本の螺肋をめぐらし、縦肋と交差し疣状突起となる。殻高 25 mm。房総半島から南西諸島、インド、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦）、片男波、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、御坊市日高川、田辺湾に分布。

本種は本土でほぼ絶滅とされ、このため稀少種とされるが、和歌山県では田辺市文里湾での多産が記録されている。近年でも有田川、江上川等、確認地点では多産が確認される。鹿児島県揖宿郡の愛宕川では河口護岸に夥しい個体が確認され、黒潮の接近、海水温等、環境の影響も考慮される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172．
2　福田　宏．1996．WWF サイエンスレポート 3．6．軟体動物　腹足綱．11–52 pls．1–11．
3　福田　宏・木村昭一．2012．コゲツノブエ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．27．285pp．東海大学出版会，秦野．
4　黒田徳米．1945．和歌山県貝類目録（未定稿）．西宮市貝類館所蔵．
5　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51（1）：59–63．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物．48（1）：21–26．
7　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．（春の自然観察会）日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，（24）：44–46．
8　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7．
9　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196．

写真：三長秀男提供

ウミニナ　*Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)　オニノツノガイ目　ウミニナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾、河口域の汽水域で砂泥表層に生息。多数の個体群を形成する。貝殻は堅固、塔型、黒褐色、ごく稀に白色、殻口内唇に滑層瘤をもつ。殻高 35 mm。北海道南部から九州までに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川（和歌浦干潟）、海南市琴の浦湾、有田市、有田郡広川町江上川、西広海岸、御坊市日高川、田辺湾、那智勝浦町湯川ゆかし潟に分布。

和歌山県では和歌浦の干潟域に多数の個体群が確認される。同科のホソウミニナに次ぐ多数の個体群を形成する。しかし、生息地は人為的な影響を受けやすく、従来、普通に見られた有田川河口域では、近年、生息例はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　Adachi, N. & Wada, K. 1998. Distribution of two intertidal gastropods, *Batillaria multiformis* and *B. cumingi*（Batillaridae）at a co-occuring area. Venus, 57：115–120.
2　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱 . 南紀生物，46（2）：167–172.
3　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（Ⅰ）．南紀生物，46（1）：31–36.
4　木村昭一・福田　宏．2012．ウミニナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．31．285pp．東海大学出版会，秦野.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物．48（1）：21–26.
6　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．（春の自然観察会）日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，（24）：44–46.
7　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅰ．南紀生物，51（1）：59–63.
8　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市紀の川河口域の貝類相（補遺）．南紀生物，53（1）：91–94.

写真：三長秀男提供

フトヘナタリ　*Cerithidea moerchii*（A. Adams in Sowerby. Ⅱ, 1855）　オニノツノガイ目　キバウミニナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の奥部や河口干潟の汽水域、ヨシ原周辺に生息。貝殻は堅固、多くの個体では殻頂が欠落し、先端を欠いた塔型となる。殻高 30 mm。殻表には白色の殻地に黒灰色の色帯をめぐらし、螺層に 7 本の螺肋をもち縦肋と交差する。満潮時、護岸壁やヨシの茎に這い上がる。東京湾以南から九州に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川、名草ノ浜、有田市、広川町江上川、御坊市日高川に分布。

和歌山県では江上川（有田郡）に安定した個体群を確認。和歌川では 2004 年に多数の個体群あったが、2016 年には顕著に減少していた。日高川では河口域のヨシ原に少数個体が見られ、更に紀の川及び有田川では稀に確認されたものの、現在、生息は不明である。本種は、かつて全国的に普通に見られたが、東京湾、三浦半島では絶滅に近い状況である。なお、日高川河口からシマヘナタリの記録があるが、これは本種の殻表摩滅個体の誤認と見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46 (2)：167–172.
2　江川和文．2010．日高川産「シマヘナタリ」はフトヘナタリの摩滅個体．くろしお，(29)：23–25.
3　江川和文・坂下泰典．2003．鹿児島県揖宿郡愛宕川河口域の貝類相．九州の貝，61：13–28.
4　福田　宏・木村昭一．2012．フトヘナタリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．29．285pp．東海大学出版会，秦野.
5　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
6　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
7　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，(24)：44–46.
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48 (1)：21–26.
9　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　I．南紀生物，51 (1)：59–63.
10　田中直・佐々木賢太郎．1993．日高川河口の貝類調査．くろしお，(12)：57.
11　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47 (2)：191–196.
写真：三長秀男提供

ヘナタリ　*Pirenella nipponica* Ozawa & Reid in Reid & Ozawa, 2016　オニノツノガイ目　キバウミニナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟や河口域、汽水域の潮間帯下の泥砂底に生息。貝殻は塔型で淡褐色、高い円錐形で堅固、殻高 30 mm。殻表には螺肋をめぐらし、この螺肋は縦肋と交差し、顆粒状となる。殻口外唇は強く張り出し、外唇下端は牙状となる。房総半島以南から九州、中国北部、朝鮮半島、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事のため消失）、和歌川河口（和歌浦）、名草ノ浜、海南市琴の浦、有田市、広川町江上川、御坊市日高川、田辺市内之浦、田辺湾奥部、那智勝浦町湯川ゆかし潟に分布。

和歌山県では和歌川河口に安定した個体群が見られ、他に海南市琴の浦、田辺市内之浦が記録される。一方、有田川河口域では 2000 年代初めで既に稀で、広川町江上川、日高川も稀な状況であった。かつては全国的な普通種であった。生息域は減少し、東京湾、瀬戸内海中央部では絶滅状態である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46 (2)：167–172.
2　福田　宏・木村昭一．2012．ヘナタリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．29．285pp．東海大学出版会，秦野.
3　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1)．南紀生物，46 (1)：31–36.
4　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
5　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
6　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，(24)：44–46.
7　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種．南紀生物，43 (2)：102–108.
8　和田恵次．私信.
写真：三長秀男提供

モロハタマキビ　*Lacuna carinifera*（A. Adams, 1853）　エゾタマキビ目　タマキビ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾砂泥底のアマモ、コアマモ等の藻場に生息。貝殻は微小、薄質、半透明、黄褐色の殻皮を持ち、体層の周縁と臍孔の周りに強い角をもつ。殻高 5 mm。セトウチヘソカドタマキビは臍孔の狭い地方型。北海道南西部から九州北部、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市布引、名草ノ浜、広川町西広に分布。

和歌山では西広でセトウチヘソカドタマキビ型の個体が確認されているが、県内での個体数は稀で、多くは打ち上げ砂に混入した死殻が確認される。近年、瀬戸内海で個体群の著しい減少が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　波部忠重．1958．巻貝類　10 新種．貝類学雑誌，20（1）：32–42，Text-figs．1–14．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
4　福田　宏．2012．モロハタマキビ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．34．285pp．東海大学出版会，秦野．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26．

写真：池辺進一標本

ヌノメチョウジガイ　*Rissoina pura*（Gould, 1861）　エゾタマキビ目　リソツボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾から外洋の中・低潮帯から水深 20 m の砂底や岩礫裏に生息。貝殻は微小、堅固、白色の殻地に極めて薄い淡黄色の殻皮を持つ。殻表には螺肋と縦肋が交差し布目模様を呈する。殻高 5.5 mm。北海道南部から九州、奄美大島、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌浦湾、名草ノ浜、水軒浜（1960 年代。造成工事のため消失）、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、鳥ノ巣、白浜町対ノ浦、すさみ町江須崎に分布。

和歌山県では近年、生貝は、鳥ノ巣で転石上の岩裏から 20 個体以上が、また田辺湾奥部、富田対ノ浦で普通に見られる。従来、普通に見られた貝で死殻は紀伊半島各地から確認される。周辺地域でも生貝は、三重県では 1979 年以降、現状不明の状況であり、愛知県では三河湾での生貝 3 個体が近年の唯一の採集記録である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文・中本博之．2014．白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類．くろしお，（33）：1–7．
2　早瀬善正・木村昭一・西　浩孝・守谷茂樹・岩田明久．2019．日間賀島（三河湾）の潮間帯貝類相．かきつばた，44：1–15．
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
4　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．8．貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
5　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35．
6　三長孝輔・三長秀男．2012．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類　Ⅱ．かきつばた，37：22–27．
7　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類（Ⅱ）．かきつばた，（40）：2–16．
8　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2010．田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類．くろしお，（30）：50–54．

参考文献・情報
9　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26.
10　山下博由・久保弘文．2012．ヌノメチョウジガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．35．285pp．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

タニシツボ　*Voorwindia* cf. *paludinoides* (Yokoyama, 1927)　エゾタマキビ目　リソツボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



内湾潮下帯の水深 2~10 m の細砂底や泥底に生息。貝殻は微小、タニシ型、薄質、半透明、螺層は膨らむが縫合が浅い。殻高 2 mm。東京湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広、すさみ町江須崎に分布。

和歌山県では加太から砂礫の堆積中より新鮮な死殻を確認、他の確認地とも確認個体は少数である。近隣地域で三重県では記録例が少数で現状不明である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．タニシツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．36．285pp．東海大学出版会，秦野.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53（1）：41–46.
4　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196.
写真：三長秀男提供

ジーコンボツボ　*Chevallieria* sp.　エゾタマキビ目　ワカウラツボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



内湾干潟の潮間帯の礫の堆積下に生息。山口県日本海沖、見島からの未記載種、和名は同島の古墳遺跡名に由来。貝殻は微小、塔型で半透明のガラス質状。殻高 2 mm。三浦半島以南、瀬戸内海湾口部（大阪湾、豊後水道北端）、九州西岸、南西諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、白浜町対ノ浦、すさみ町江須崎、串本町潮岬に分布。

和歌山県は和歌山市から串本までの 4 地点から確認され、串本町潮岬では潮間帯上部転石裏から生貝を確認、他に対ノ浦では死殻が比較的、普通に見られる。周辺地域では愛知県、三重県、岡山県からの記録はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤　真・島村賢正・福田　宏．1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF サイエンスレポート，3：182.
2　福田　宏．2012．ジーコンボツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．37．東海大学出版会，秦野.
3　江川和文・中本博之．2014．白浜町富田対ノ浦海岸から得た微小貝類．くろしお，(33)：1–7.
4　三長孝輔・三長秀男．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類．かきつばた，36：15–23.
5　三長孝輔・三長秀男．2013．和歌山県におけるジーコンボツボの生息記録．かきつばた，38：5.

参考文献・情報
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2014．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅶ．南紀生物，56（1）：66–71.
7　中本博之・野田圭典・三長秀男・江川和文．2017．すさみ町江須崎で観察した貝類．くろしお，（36）：49–60.
写真：三長秀男提供

ニセゴマツボ　*Iravadia reflecta*（Laseron, 1956）　エゾタマキビ目　ワカウラツボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾奥部や河口汽水域に生息。貝殻はやや堅固、新鮮個体は黒褐色、細長く、殻表には多数の螺肋をもつ。殻高 3 mm。紀伊半島（田辺市）、南西諸島、北オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、有田郡西広海岸、御坊市上祓井戸、田辺市田辺湾、白浜町対ノ浦に分布。

和歌山県では田辺湾奥部から生貝を確認。本種は初産出例として奄美大島から記録した種で、原記載は北オーストラリア産の種である。偶因分布の可能性が高く、近隣地域での記録はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．1993．奄美大島産リソツボ科 Rissoidae 貝類の図説．九州の貝，40/41：75–117.
2　福田　宏・久保弘文．2012．ニセゴマツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．38．東海大学出版会，秦野.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
4　Laseron, C. F. 1956. The families Rissoinidae and Rissoidae（Mollusca）from the Solanderian and Dampierian Zoogeographical Provinces. Australian Journal of Marine and Freshwater Research, 7（3）：384–484.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2014．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅶ．南紀生物，56（1）：66–71.
写真：三長秀男提供

カワグチツボ　*Iravadia elegantula*（A. Adams, 1861）　エゾタマキビ目　ワカウラツボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口奥部や河川下流域の軟泥底表面に生息、貝殻は微小、薄質、淡褐色。殻高 4 mm。北海道以南から九州、朝鮮半島、中国大陸、ロシア沿海州。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦干潟）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では紀の川河口域で 2008 年頃まで死殻が普通に見られたが、近年、河底の浚渫の影響か確認できていない。他地域で江戸川河口（千葉県）では、エドガワミズゴマツボとともに河口泥層上に多産する。注目されるのは寄生虫の存在で、ほとんど個体が吸虫に寄生されており、中腸腺全体がこの吸虫に置き代わり、個体の生息維持にも影響すると見られる。なお、東京湾の河口からの採取水には多数のセルカリア幼生が含まれていた。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．カワグチツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．38．285pp．東海大学出版会，秦野.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26.

参考文献・情報
3　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2010．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅲ．南紀生物，52（1）：27–32.
4　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196.
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2015．和歌山市紀の川産コハギガイについて．くろしお，(34)：43–46.
写真：三長秀男提供

サザナミツボ　*Nozeba ziczac* (Fukuda & Ekawa, 1997)　エゾタマキビ目　ワカウラツボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口域の泥質干潟上の転石下に生息。貝殻は微小、半透明のガラス質状で紡錘形、殻表に鋸歯状の螺溝をめぐらす。殻高 2 mm。陸奥湾・男鹿半島から南西諸島、韓国、中国（浙江省）、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川河口、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川に分布。

和歌山県では紀北域の河口等、汽水域から確認。和歌山市名草ノ浜を模式産地とする種で、記載当時、生息地は不明であったが、江上川で潮間帯の泥に深く埋没した転石下から生貝が確認されている。近隣地域で三重県では英虞湾等、数箇所で死殻が採集され、また愛知県では三河湾等、4地点で死殻が確認されるが、ともに生貝は非常に稀という。なお記載当時、本種はサザナミツボ科とされたが、現在、ワカウラツボ科に改められている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172.
2　福田　宏．2012．サザナミツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 40．東海大学出版会，秦野.
3　Fukuda, H. & Ekawa, K., 1997. Description and anatomy of a new species of the Elachisinidae (Caenogastropoda：Rissoidea) from Japan. The Yuriyagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi, 5 (1/2)：69–88.
4　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53（1）：41–46.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26.
7　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196.
写真：三長秀男提供

シラギク　*Pseudoliotia pulchella* (Dunker, 1860)　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾河口域で砂泥表面の還元環境の転石下に生息。貝殻は微小、円盤状で堅固、白色、背面は太い螺肋と縦肋が交差して格子状となり、臍孔は広く、殻表には黒い硫化鉄が沈着する。殻径 3 mm。三陸海岸・男鹿半島以南九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、名草ノ浜、和歌川（和歌浦湾）、海南市琴ノ浦、有田市、広川町江上川、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では和歌山市から白浜町までの内湾河口域から確認。有田川河口域の確認例で

選定理由

は干潮時の露出域の泥底に半ば埋没した古タイヤの下面に密集した着生個体群があり、持ち上げると『蜘蛛の子を散らす』といったように、素早く移動する様子が認められた。近隣地域では三重県では 1979 年以前に 4 地点が確認され、また愛知県では以前、生貝の採集例は未確認であったが、近年、三河湾沿岸で回復傾向が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46 (2)：167–172.
2　福田　宏．2012．シラギク　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．42．東海大学出版会，秦野.
3　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相 (1)．南紀生物，46 (1)：31–36
4　木村昭一．2009．愛知県の絶滅のおそれがある野生生物．デッドデータブックあいち　2009．貝類．456–606pp．愛知県．名古屋.
5　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
6　木村昭一．2020．(8) 貝類　愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020 －動物編－．489–726pp．愛知県．名古屋.
7　三長秀男．2004．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して．かたをなみ，2：7–11.
8　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35.
9　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
10　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　I．南紀生物，53 (1)：41–46.
11　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：154–167.
12　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47 (2)：191–196.

写真：三長秀男提供

ナギツボ　*Vitrinella* sp.　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



内湾湾口部、岩礫地の潮間帯下の転石に着生。貝殻は微小、紡錘形、ガラス状で薄質、透明、殻表に螺溝はなく平滑。和名のみが提唱された未記載種。殻高 1.5 mm。和名は近似種のサザナミツボが殻表にさざ波状の螺溝を持つのに対し、本種はこれを欠き平滑で凪状なことに由来する。伊豆半島、浜名湖、英虞湾、紀伊水道、瀬戸内海、九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事により消滅）、名草ノ浜、田辺市田辺湾奥部に分布。

和歌山県では田辺湾奥部で生貝 5 個体を確認、他の産地でも新鮮な死殻を採集。近隣地域では三重県では英虞湾より生息を確認、愛知県では 2013 年に三河湾で初めて確認、その後、知多湾他でも知られている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ナギツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．43．東海大学出版会，秦野.
2　早瀬善正・大貫貴清・吉川　尚・松永育之・社家間太郎．2015．前島（三河湾）の転石地潮間帯の貝類相．ちりぼたん，45 (3)：105–122.
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
4　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1–14.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48 (1)：21–26.

参考文献・情報
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
写真：三長秀男提供

エドガワミズゴマツボ（ウミゴマツボ）　*Stenothyra edogawaensis* (Yokoyama, 1927)　エゾタマキビ目　ミズゴマツボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口、内湾干潟に広く分布するが、環境悪化により、和歌山県では生息しなくなったところもある。

貝殻は微小（殻高 2 mm）、殻口は狭まって小さくなる。殻邸に微細な刻点状の螺溝がある。

和歌山県内では和歌山市中之島、紀の川、三葛、和歌川、和歌の浦、海南市船尾、有田市、田辺市文理湾から記録がある。

河口域の汽水域、干潟の泥地に見られるが、従来、多産した紀の川河口域では浚渫工事のためか、近年、確認できない。

田辺湾種は小型で、ミジンウミゴマツボ *S. tanabeensis* Kuroda，1962 として記載されたが、本種と同種、他にミヤジウミゴマツボ、ミヤジマウミゴマツボも本種の異名と見られる。

日本産の本類では最も小型である。別名にウミゴマツボ、ミヤヂエドガワミズゴマツボがある。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報
1　黒田徳米．1962．日本並びに隣接地域産ミズゴマツボ類に就いて．Venus，22（1）：59–89．pl．4.
2　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物（2），44：115–121.
写真：三長秀男提供

クリイロカワザンショウ　*Angustassiminea castanea* (Westerlund, 1883)　エゾタマキビ目　カワザンショウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	–	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾奥部河口汽水域のヨシ原周辺の泥底表面や転石下に生息。貝殻は微小、螺塔が高く、濃い栗色、殻表は平滑。殻高 5 mm。日本固有種、陸奥湾以南、種子島に分布。

和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川河口、御坊市日高川、塩屋に分布。

和歌山県では江上川では群生個体が記録され、これは有田川でもかつて同様であったが、近年、同所的に生息していたカワザンショウとともに確認できない。近隣地域では大阪湾南部では男里、落合海岸で河口感潮域の転石や流木に着生が確認されている。また、愛知県では約 20 地点の生息地があるが、護岸工事等で生息地、個体数とも著しく減少している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172.
2　福田　宏．2012．クリイロカワザンショウ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．46．東海大学出版会，秦野.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県自然博物館，海南.
4　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田.
5　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
6　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，（24）：44–46.

参考文献・情報

7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159–164.
8　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47 (2)：191–196.
写真：三長秀男提供

ヨシダカワザンショウ　*Angustassiminea yoshidayukioi* (Kuroda, 1959)　エゾタマキビ目　カワザンショウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口域の葦原の礫下に生息。貝殻はやや薄質、淡褐色、螺塔は高く、クリイロカワザンショウに近似するが、臍孔が狭く開き螺層の膨らみは弱い。殻高 3 mm。東京湾から九州に分布、日本固有種。和歌山県内では和歌山市紀の川、粟、有田市箕島、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では生貝を紀の川のヨシ原から 1 個体を確認、以後、同地では再確認できない。近年では 2020 年 7 月、那智勝浦町ゆかし潟の確認例がある。本科の諸種は群生する傾向があるが、本種にはその傾向はなく、また個体数も少ない。隣接地域で三重県では 1999 年に伊勢湾沿岸の 6 地点で記録され、現在、伊勢湾、英虞湾に分布が知られる。また愛知県では、生息地、個体数とも著しく減少し、本科で最も絶滅の可能性が高い。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ヨシダカワザンショウ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．46．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．77pp．自刊．和歌山．
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
4　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
5　黒田徳米．1959．カワザンショウガイ新種今一種．貝類学雑誌，20 (4)：335–338.
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47 (2)：191–196.
写真：三長秀男提供

アダムズタマガイ　*Cryptonatica adamsiana* (Dunker, 1860)　エゾタマキビ目　タマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟の潮間帯下、アマモ場周辺に生息。貝殻は小型、淡褐色、堅固で球形、蓋は石灰質で平滑、臍盤は小さい。殻高 20 mm。房総半島・能登半島以南、九州、日本固有種に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代の造成工事により消滅）、和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、辰ケ浜、湯浅町栖原、広川町西広、御坊市日高川、名田町上祓井戸、田辺湾奥部に分布。

このうち生個体は加太、上祓井戸、西広海岸で確認、死殻は各地から採集されている。近隣地域では三重県では現状、生貝の確認例はなく、過去、伊勢湾からの 1 例が知られ、また愛知県では、過去、三河湾奥部で普通であったが、近年、少数個体のみの生息が確認されている。

なお、本種の和名は一部にアダムスタマガイの表記が用いられるが、本稿では慣用名を用いている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46 (2)：167–172.
2　早瀬善正・木村昭一・西　浩孝・守谷茂樹・岩田明久．2019．日間賀島（三河湾）の潮間帯貝類相．かきつばた，44：1–15.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県自然博物館，海南.
4　木村昭一．2012．アダムスタマガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．57．東海大学出版会，秦野.
5　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
6　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35.
7　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1–14.
8　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，(24)：44–46.
9　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159–164.
10　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53 (2)：155–160.
11　中山　清．1980．知多湾南部海域の貝類相．かきつばた，6：10–12.
12　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅱ．南紀生物，51 (2)：83–88.
写真：江川和文撮影

ネコガイ　*Eunaticina papilla*（Gmelin, 1791）　タマガイ目　タマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

湾干潟の潮間帯下、水深 20 m までの細砂泥上に生息。貝殻は洋梨型、やや薄質、白色で生貝は薄い殻皮に覆われ、殻表には浅い螺溝を全体にめぐらす。殻高 30 mm。本科諸種は二枚貝等、他の貝類に丸孔を穿ち摂食する習性をもつ。房総・男鹿半島以南から南西諸島、朝鮮半島、中国大陸、インド、太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、雑賀崎、水軒浜（1960 年代、造成工事により消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、片男波、名草ノ浜、有田市宮崎町（辰ケ浜）、御坊市上祓井戸、塩屋、田辺湾奥部、白浜町臨海、富田町対ノ浦、串本町串本に分布。

和歌山県ではかつて水軒浜では普通であったが、近年、生貝は田辺湾奥部、名草ノ浜、毛見崎等の少数例が知られる。隣接地域で三重県では 1979 年以前、3 地点が記録されているが、近年、生貝の確認例は限られる。また愛知県では、1960 年代に普通に見られたが、その後、生貝は稀とされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文・野田圭典・土岐頼三郎．2010．和歌山市産ネコガイ（軟体動物門、腹足綱、タマガイ科）の歯舌の観察例．南紀生物，52 (2)：151–152.
2　江川和文．2011．ネコガイと「タマネコガイ」．かいなかま，45 (1)：7–13.
3　池辺進一．2012．和歌山市・毛見崎の貝類．かたをなみ，8：15–19.
4　木村昭一．2000．伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類（予報）．かきつばた，26：18–20.
5　木村昭一．2005．蒲生市三谷町人工干潟の貝類相　続報．かきつばた，31：29–31.
6　木村昭一．2012．ネコガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．57．東海大学出版会，秦野.
7　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
8　小山安生．2001．和歌山県のタマガイ科貝類．南紀生物，43 (2)：147–153.
9　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35.

10　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1–14.
11　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53 (2)：155–160.
12　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159–164.

参考文献・情報

写真：三長秀男提供

ツツミガイ　*Sinum planulatum* (Récluz, 1845)　エゾタマキビ目　タマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の潮下帯から水深 20 m の砂泥底に生息。動物体は大きく、貝殻内に収容されない。貝殻は白色、淡黄褐色の殻皮を持ち、平巻状で扁平、殻表には浅い螺溝を密にめぐらす。殻径 30 mm。房総半島以南沖縄、中国大陸、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市毛見崎、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、御坊市上祓井戸、みなべ町堺、田辺市新庄町跡之浦、白浜町、串本町串本・橋杭に分布。

和歌山県では近年、生貝は田辺市新庄町からの記録が唯一と見られる。細砂海岸で死殻が打ち上げ個体として記録される。他地域での記録は少なく、三重県では同県南部、3 地点の潮下帯から記録があり、現在、生貝の採集記録は非常に稀である。また、愛知県では採集記録があるものの、個体数は稀で、情報不足である。

執筆者（江川和文）

1　池辺進一．2012．2011 年に和歌山県立自然博物館に収蔵された貝．かたをなみ，8：41–42.
2　池辺進一．2013．ツガイについて．かたをなみ，9：4–5.
3　木村昭一．2012．ツツミガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．61．東海大学出版会，秦野.
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
5　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．　489–726pp．愛知県．名古屋.
6　小山安生．2001．和歌山県のタマガイ科貝類．南紀生物，43 (2)：147–153.
7　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35.
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159–164.

参考文献・情報

写真：三長秀男提供（池辺進一採集）

ツガイ　*Sinum incisum* (Sowerby Ⅰ in Reeve, 1864)　エゾタマキビ目　タマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT



選定理由

内湾の潮間帯下から水深 20 m の砂泥底に生息。動物体はツツミガイ同様、大きく、貝殻内に収納されない。貝殻は白色、平巻状で扁平、殻表には浅い螺溝を密にめぐらす。殻径 25 mm。房総半島以南沖縄、中国大陸、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦湾）、田野、名草ノ浜、有田市宮崎町（辰ケ浜）、由良町白崎、御坊市塩屋町、御坊市上祓井戸、串本町大水崎、橋杭に分布。

このうち生貝は、近年、和歌山市田野、由良町白崎、串本町大水崎から知られる。本種の採集例は他県では稀で、三重県では 2 地点、水深 30 m からの記録があり、近年では伊

選定理由

勢湾中央部より生貝が記録されるが、個体数は非常に稀である。また、愛知県では採集記録があるものの、個体数が非常に稀で情報不足である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2013．ツガイについて．かたをなみ，9：4-5.
2　木村昭一．2012．ツガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．61．東海大学出版会，秦野.
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295-383pp．三重県農林水産部，津.
4　小山安生．2001．和歌山県のタマガイ科貝類．南紀生物，43 (2)：147-153.
5　松本幸雄．1979．三重の貝類（三重県産貝類目録）．179pp．鳥羽水族館，鳥羽.
6　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12-35.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53 (2)：155-160.

写真：三長秀男提供

オリイレシラタマガイ　*Sigatica bathyraphe*（Pilsbry, 1911）　エゾタマキビ目　タマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



内湾干潟域の細砂底の潮間帯下に生息。貝殻は小型、堅固、球形で白色。殻高 8 mm。駿河湾・秋田県から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市宮崎町辰ケ浜、広川町西広、御坊市上祓井戸、みなべ町堺、田辺湾奥部、白浜町江津良、串本町に分布。

和歌山県での生貝の確認例は田辺湾奥部の 1 例が記録される。西広はじめ、確認地点では打ち上げ個体（死殻）が確認されるが、個体数は少ない。隣接地域でも三重県では死殻さえほとんど採集されておらず、愛知県では記録がなく、岡山県では絶滅したとされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・柏尾　朔．2020．岡山県レッドデータブック 2020．動物編 7．軟体動物．309-812pp．岡山県環境文化部．岡山.
2　福田　宏・久保弘文．2012．オリイレシラタマ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．60．285pp．東海大学出版会，秦野.
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295-383pp．三重県農林水産部，津.
4　小山安生．2001．和歌山県のタマガイ科貝類．南紀生物，43 (2)：147-153.
5　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12-35.
6　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1-14.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159-164.
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅰ．南紀生物，53 (1)：41-46.

写真：三長秀男提供

オダマキ　*Depressiscala aurita* (Sowerby Ⅱ, 1844)　エゾタマキビ目　イトカケガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

水深 20 m までの砂泥底に生息。貝殻は高い塔型、淡褐色、3 本の褐色帯をもち、細い縦肋に混じり部分的に太い縦肋をもつ。殻高 20 mm。房総半島・佐渡島以南、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では近年、生貝は田辺湾奥部の 1 個体が記録され、他に各地から死殻が確認されるが個体数は少ない。1970 年代、磯ノ浦では海岸にイボキサゴの夥しい打ち上げ個体中に普通に確認できたが、近年、死殻さえ稀である。隣接地域でも三重県では 1970 年代、伊勢湾で死殻が多数確認されたが、近年は死殻も稀で、湾口で稀に生貝が確認される程度である。また、愛知県では三河湾の湾口部、知多半島沖で生貝が採集されているが、個体数は非常に稀で、絶滅の可能性が高い。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2000．伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類．かきつばた，26：18–20.
2　木村昭一．2012．オダマキ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．62．東海大学出版会，秦野.
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
4　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1–14.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48 (2)：159–164.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53 (2)：155–160.

写真：三長秀男提供

セキモリ　*Papyriscala yokoyamai* (Suzuki & Ichikawa, 1936)　エゾタマキビ目　イトカケガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾奥部の潮間帯下の砂泥底に生息。貝殻は低い塔型、灰白色で褐色の 2 本の色帯をめぐらし、縦肋をめぐらす。殻高 15 mm。房総半島・佐渡島以南、九州、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では、かつて水軒浜で普通に見られたが、近年、本種の確認例はごく稀である。隣接地域で三重県では 1979 年以前に 5 地点から生息例が確認されていたが、近年、伊勢湾から少数例の生貝が記録されるのみである。また、愛知県では豊川河口域、三河湾奥で生貝が採集されているが個体数は非常に少なく生息場所、個体数とも明らかに減少している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2012．セキモリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．63．東海大学出版会，秦野.
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.

参考文献・情報
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53（2）：155–160.
写真：三長秀男提供

クレハガイ　*Papyriscala clementia*（Grateloup, 1940）　エゾタマキビ目　イトカケガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾奥部の干潟、水深 10 m の砂泥底に生息。貝殻は低い塔型、3 本の褐色の色帯をめぐらし、細い縦肋をもつ。殻高 15 mm。房総半島・佐渡島以南、九州、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、有田市、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では近年、死殻が少数個体、確認地できる程度で、生貝は唯一、田辺湾奥部での確認例のみである。近隣地域では伊勢湾沿岸の河口域等で生貝が確認されるものの、生息地、個体数は非常に少ない。また、愛知県でも生息地、個体数の状況は同様である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1．腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　木村昭一．2012．クレハガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．62．東海大学出版会，秦野.
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，（32）：1–14.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53（2）：155–160.
写真：三長秀男提供

キヌイトカケ　*Epitonium ummaculatum*（Sowerby, 1844）　エゾタマキビ目　イトカケガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

水深 10～40 m の砂底に生息。殻高 20 mm。紀伊半島以南、九州、フィリピン、オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広に分布。

和歌山県では名草ノ浜、西広の 2 地点のみが記録され、近隣の三重県、愛知県にも記録がない。偶因分布の可能性がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
写真：中本・土岐・野田・江川（2006）典拠

ハブタエセキモリ　*Epitonium lyra* (Sowerby Ⅱ, 1844)　エゾタマキビ目　イトカケガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

南西諸島ではサンゴ礁周辺の干潟の渚線付近の砂泥底に生息。貝殻は一見、クレハガイに近似し、やや薄質、低い塔型で淡褐色、2本の褐色の色帯をめぐらし、密になった細い縦肋と交差する。殻高15 mm。奄美大島、沖縄、先島諸島、インド、太平洋に分布。

和歌山県では、加太海岸の堆積砂から1個体のみを確認、これが和歌山県、あるいは本土最初の確認例と見られる。本来、奄美以南に分布する種で、1980年代、奄美・加計呂麻島の真珠養殖場周辺で確認したが、近年、同地でも未確認である。加太は紀伊水道北端に位置し、黒潮の影響が少ない地であるが、ヒメカノコ、ニセヒロクチカノコ等、南方域が主生息地の種が確認されるようになっている。沖縄周辺の干潟でも本種の確認が困難な状況にあり、和歌山県での本種は偶因分布の1例と考えられる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53（2）：155–160.
2　久保弘文．2012．ハブタエセキモリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．62．東海大学出版会，秦野.

写真：三長秀男提供

カシパンヤドリニナ　*Hypermastus peronellicola* (Kuroda & Habe, 1950)　エゾタマキビ目　ハナゴウナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

潮間帯～潮下帯の砂底に生息するヨツアナカシパンを宿主として外部寄生する。貝殻は光沢があり半透明白色、真っすぐでやや薄質、外唇縁やや上方が腹側に突出する。殻高4.3 mm。鹿島灘・能登半島以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、田辺市江川、串本町橋杭に分布。

和歌山県ではかつて田辺市江川の底曳網漁で確認され、ヨツアナカシパンを宿主とし、腹面側の口側面の周辺に3~4個が着生し、この着生部位周辺は宿主の短棘が脱落し、表皮粘膜を食害した結果と見られる。和歌山県内では加太から死殻を確認しているが、近年、ヨツアナカシパン自体の個体数が少なく、本種を確認する機会も少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．カシパンヤドリニナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．63．東海大学出版会，秦野.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53（2）：155–160.
3　山本虎夫．1963．田辺湾産生物メモ〔Ⅱ〕．田辺文化財，7：80–92.

写真：江川和文撮影

トクナガヤドリニナ　*Hypermastus tokunagai*（Yokoyama, 1922）　エゾタマキビ目　ハナゴウナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

ハスノハカシパンを宿主とし外部寄生する。貝殻はカシパンヤドニナに近似するが、縫合のくびれが弱く、螺層の側面がほぼ平らとなる。殻高 6.5 mm。能登半島、瀬戸内海西部に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）に分布。

本種は長らくカシパンヤドリニナと混同され、田辺江川産のカシパンヤドリニナの宿主ヨツアナカシパンは水軒浜では稀で、逆にハスノハカシパンが多産した。このため、かつて産地によって、貝が宿主を代えているとの疑問が呈されていた。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．トクナガヤドリニナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．64．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　山本虎夫．1963．田辺湾産生物メモ〔Ⅱ〕．田辺文化財，7：80–92．

写真：池辺進一標本

テングニシ　*Pugilina tuba*（Gmelin, 1791）　新腹足目　テングニシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

外洋・内湾干潟の潮間帯下の砂泥底、水深 50 m までに生息。貝殻は堅固、紡錘形、褐色の厚い殻皮をもち、殻口は大きい。かつて食用貝として全国で大量捕獲されていた。殻高 150 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾名草ノ浜、有田市宮崎町（辰ケ浜）、御坊市名田町上楠井、下楠井、印南町津井、みなべ町一本松、堺、串本町串本、古座町津荷に分布。

かつてバイ同様、全国的に食用貝として採捕され、一部地域では「甲貝」の名で流通していた。和歌山県ではほぼ全域から確認されるが、生貝は和歌浦湾では 1960 年代以降、生息記録はない。日本海側では現在も食用貝として採捕される。隣接地域では、三重県で 1979 年以前に 6 地点の生息が記録されたものの、個体数は激減した。また、愛知県では干潟域での生貝の採集例はなく、将来的に絶滅危惧の危険性がある。本種の激減には船底の防汚塗料に含まれる有機スズによる生殖不能が要因と見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．テングニシ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．72．東海大学出版会，秦野．
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．動物編 7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
5　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
6　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49 (1)：73–78．

参考文献・情報

8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54（1）：61–66.

写真：池辺進一標本

オニサザエ　*Chicoreus asianus* Kuroda, 1942　新腹足目　アッキガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟や潮間帯下の岩礁に生息。他の貝類等を摂食する肉食性で、貝殻は堅固、120°ごとに縦張肋をめぐらし、刺状の突起をもつ。殻高 100 mm。房総半島・能登半島以南、九州、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事のため消失）、和歌浦湾、名草ノ浜、有田市宮崎町、御坊市名田町に分布。

和歌山県では、かつて海老刺網漁で普通に得られたが、近年、有田市等、北部域では激減、和歌浦湾では 1970 年代以降、生貝が確認されていない。近隣地域でも愛知県では本来、個体数が少なく、高ランクの絶滅危惧種とされている。岡山県では現在、生息の確認例はない。更に山口県西部でも本種は激減している。本種の個体数の激減の要因は、テングニシ同様、船底塗料による生殖不能によると見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．オニサザエ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．65．東海大学出版会，秦野.
2　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．動物編 7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山.
3　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
5　杉村智幸．2021．山口県の貝類 角島周辺の海産貝類相．110pp．豊北町自然観察指導員会，豊北.

写真：三長秀男提供

カニノテムシロ　*Nassarius bellulus*（A. Adams, 1852）　新腹足目　オリイレヨフバイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の中・低潮帯の泥底・砂泥底に生息。魚類等の腐肉摂食性。貝殻は堅固、太い紡錘形、褐色、殻口は滑層が発達し、カニの鋏脚を連想する。殻高 15 mm。紀伊半島以南、九州、奄美大島、沖縄、インド、太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、海南市船尾、御坊市名田町、田辺市内之浦、田辺湾、白浜町白浜、串本町潮岬、那智勝浦町浦上・湯川に分布。

和歌山県では和歌浦湾で生貝が潮間帯下から確認され、卵嚢内で卵から幼貝まで成長する様子が観察される。近隣地域で三重県では現在、1 地点から生息地が確認され、愛知県では記述がないことから、この地が本種の分布の北限、東限と見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文・野田圭典．2007．和歌川河口におけるカニノテムシロの採集記録と個体の状況（軟体動物門、腹足綱、オリイレヨフバイ科）．南紀生物，49（1）：23–26.
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション　貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.

参考文献・情報
4　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物．45（1）：7–12.
5　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類（Ⅱ）．かきつばた，（40）：2–16.
6　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
8　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅱ．南紀生物，51（2）：83–88.
9　山下博由．2012．カニノテムシロ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．69．285pp．東海大学出版会，秦野.
10　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種．南紀生物，43（2）：102–108.
写真：三長秀男提供

ムシロガイ　*Niotha livescens* (Philippi, 1849)　新腹足目　オリイレヨフバイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾・外洋の潮間帯下の砂泥底に生息、腐肉食性の種。貝殻は卵形、貝殻は堅固、褐色、太い縦肋をめぐらし、これと交差する螺溝で殻表は石畳状となる。殻高 20 mm。大槌湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、熱帯インド、西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、御坊市日高川、塩屋、田辺湾奥部、みなべ町堺、白浜町臨、富田町対ノ浦、串本町潮岬、那智勝浦町宇久井に分布。

和歌山県では、本種の生貝の確認例は対ノ浦他、少数であったが、かつてはごく普通種であった。全国的に生息域、個体数が激減し、これは船底塗料の有機スズによる生殖不能が要因とされ、1991 年、有機スズ化合物が規制されたことで、一部地域では回復も確認される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．ムシロガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．68．東海大学出版会，秦野.
2　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12.
3　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23.
4　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
6　三長孝輔・三長秀男．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」に生息する貝類．かきつばた，36：15–23.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54（1）：61–66.
写真：三長秀男提供

バイ　*Babylonia japonica*（Reeve, 1843）　新腹足目　バイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

食用貝として古くから知られた貝で、腐肉を摂食する習性を持つ。貝殻は堅固、厚い褐色の殻皮を持ち、褐色の斑紋をめぐらす。殻高 70 mm。北海道南部以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌浦湾、名草ノ浜、御坊市上祓井戸、みなべ町堺に分布。

本種は古くから盛んに採捕されてきた食用種で、和歌山県では和歌浦湾で 1970 年代を最後に生貝の記録はない。全国的な本種の激減は船底塗料含有の有機スズが要因とみられる。本種は、1970 年代まで全国的に多産し、その後、1980 年半ばから激減した。隣接地域では、三重県において 1979 年以前、3 地点から生息が記録された。現在、干潟での生息はなく、伊勢湾中部と湾口部で生貝が採集されており、回復傾向が見られ、本種を対象とした漁業も回復傾向にあるという。また、愛知県では 1960 年代に多産したものの、三河湾、伊勢湾沖では死殻さえ稀で、2000 年代半ば、渥美外海で生貝が確認された。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
2　木村昭一．2000．伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類（予報）．かきつばた，26：18–20．
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　−動物編−．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
4　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49 (1)：73–78．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54 (1)：61–66．
7　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47 (2)：191–196．
8　山下博由．2012．バイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．72．東海大学出版会，秦野．

写真：三長秀男提供

マクラガイ　*Oliva mustelina* Lamarck, 1811　新腹足目　マクラガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟、外洋の潮間帯下から水深 30 m の砂泥底に生息。肉食性。貝殻は堅固、円筒形で殻表は平滑。殻高 35 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島、に分布。中国大陸、インド・太平洋に分布。和歌山県では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代に消失）、和歌浦湾、広川町西広、御坊市上祓井戸、印南町に分布。

和歌山県では 1970 年代、遊泳中、西広海岸で細砂底に多数の匍匐跡を確認し、その先端の砂中から本種を確認した。1980 年代以降、本種の生息跡や死殻の打ち上げ個体も激減した。本科マクラガイ科はバイ科とは近縁で、バイ科同様、有機スズによる生殖不能が生じたと見られる。近隣地域では、三重県で現在、生貝が伊勢湾口部や熊野灘で確認されるが、個体数は非常に少ない。また、愛知県では渥美外海で生貝が確認されているが、内湾干潟での採集例はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　木村昭一．2005．蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相　続報．かきつばた，(31)：29–31．
3　木村昭一．2012．マクラガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．73．東海大学出版会，秦野．
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
5　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
6　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類 (1)．かたをなみ，2：12–35．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54 (1)：61–66．

写真：三長秀男提供

クリイロマンジ　*Phibertia leuckarti* (Dunker, 1860)　新腹足目　フデシャジク科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾から外洋の中・低潮帯から水深 20 m の砂底・砂礫底に生息。肉食性の摂食習性をもち、貝殻は微小、堅固、褐色で紡錘形、殻表は縦肋と螺肋が交差し格子状目状となる。殻高 7 mm。岩手県・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太に分布。

現在、加太海岸から少数個体、死殻の確認例がある。本科諸種はイモガイ上科に属し、他の動物を摂食する習性を持ち、餌の動物が生息状況に影響すると見られる。本科のチャイロフタナシシャジクはかつて北海道西南部以南に普通に見られる種であったが、現在、和歌山県では未確認である。近隣地域では、三重県で 1979 年以前に 3 地点からの分布記録があるものの、現在、伊勢湾中部から南部で死殻が確認されるが、生貝の生息例は限られる。一方、愛知県では 4 地点から生貝が採集され、健全な個体群が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
2　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅲ．南紀生物，54 (1)：61–66．
4　山下博由．2012．クリイロマンジ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．76．東海大学出版会，秦野．

写真：三長秀男提供

チャイロフタナシシャジク　*Etremopa gainesii* (Pilsbry, 1895)　新腹足目　コシボソクチキレツブ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

内湾、外洋の中・低潮帯から水深 20 m の砂底・砂礫底・岩礫底に生息。貝殻は微小、堅固、褐色で、塔型、太い縦肋に細い螺肋が横切る。殻高 8 mm。北海道西南部以南、九州、朝鮮半島に分布。

和歌山県では近年、死殻さえ確認されていない。和歌山県では「和歌山県貝類目録」に本種が記録されるが、具体的な産地の記録はない。本種は明治中期、鎌倉から記載された種で、かつては瀬戸内海・博多湾等の内湾で普通に見られた。しかし、本種を含むイモガイ上科は肉食性の種で、餌動物相の影響を強く受け、東京湾周辺では本上科の諸種が姿を消している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　黒田徳米．1945．和歌山県貝類目録（未定稿）．西宮市貝類館所蔵．
2　山下博由．2012．チャイロフタナシシャジク　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．76．東海大学出版会，秦野．
3　Pilsbry, H. A. 1895. Catalogue of Marine Mollusks of Japan. 196pp. 11pls. Detroit.

シチクガイ　*Hastula rufopunctata*（E. A. Smith, 1877）　新腹足目　タケノコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

砂底の水深 40 m に生息。ハワイ産の同属種は多毛類を捕食する習性が知られ、本種も同様な生態を持つと考えられる。貝殻は細長い塔型、堅固、淡紫色、殻表は平滑、縫合下に褐色の斑紋をめぐらす。殻高 35 mm。房総半島・男鹿半島以南、種子島、沖縄、小笠原、朝鮮半島に分布。和歌山県内では日高郡由良町大引、御坊市上祓井戸、串本町田原、那智勝浦町宇久井に分布。

かつて普通に見られた種であるが、全国的に産地、個体数の激減が知られている。房総半島では産地が著しく減少し、相模湾では 1980 年代以降、消滅、熊本県天草下島では現在、確認されていない。和歌山県では県中域から南部にかけて少数の産地が確認されているが、生貝は未確認である。隣接地域では、三重県南部に分布記録があるものの、現状は不明であり、愛知県、岡山県での記述はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
2　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35．
3　山下博由．2012．シチクガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．77．東海大学出版会，秦野．
写真：三長秀男提供

チビマキギヌ（シロヒメゴウナ）　*Leucotina digitalis*（Dall & Bartsch, 1906）　トウガタガイ目　イソチドリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

潮間帯から水深 150 m の砂泥底に生息しハボウキに外部寄生。貝殻は堅固で白色、殻表全体に強い螺肋をめぐらし、明瞭な縦肋を持つ。殻高 15 mm。房総半島以南、九州に分布。殻高 15 mm。房総半島以南、九州に分布。和歌山県内では串本町潮岬に分布している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
写真：池辺進一標本

ヒメゴウナ　*Monotygma eximia*（Lischke, 1872）　トウガタガイ目　イソチドリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

潮間帯下部から潮下帯の細砂底に生息。細長い高円錐形で堅固、白色から黒色、殻表に細い等間隔の螺溝をめぐらす。殻高 20 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、名草ノ浜に分布。

和歌山県では 1970 年代、磯ノ浦海岸で死殻が普通に見られた。近年、全国的に生貝の採集例は少なく、和歌山市でも生貝の採集例は確認できない。隣接地域でも同様で、三重県では生貝が確認されるのは英虞湾を東限とし、個体数は非常に稀である。また、愛知県では 1980 年以降、生貝は確認されておらず、絶滅の危険性が非常に高い。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．ヒメゴウナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．87．東海大学出版会，秦野．
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154．

写真：三長秀男提供

イトカケゴウナ　*Bacteridium vittatum*（A. Adams, 1861）　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の中・低潮帯から水深 20 m の砂泥底に生息。貝殻は微小、やや薄質、塔型で螺層には 2 本の褐色の細い色帯をめぐらす。殻高 7 mm。房総半島・響灘から九州、中国大陸に分布。

和歌山県では本種は、加太海岸と潮岬の 2 地点でのみ確認され、特に加太産個体は新鮮な死殻である。本邦では生息情報はほとんどない。わずかに淡路島洲本沖、熊本県天草、有明海南部で確認されるのみで、死殻も極めて稀である。近隣地域（三重県、愛知県、岡山県）での確認例もない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154．
3　山下博由．2012．イトカケゴウナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．83．東海大学出版会，秦野．

写真：江川和文撮影

エドイトカケギリ　*Turbonilla teganumana* Yokoyama, 1927　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

潮間帯下の砂泥底に生息。貝殻は堅固、白色、高い塔型でほぼ垂直の縦肋が溝状に取り巻く。殻高 5 mm。本科諸種は他の無脊椎動物を宿主として体液を摂取するが、本種の宿主は不明。東京湾・能登半島以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、那智勝浦町宇久井に分布。

和歌山県では前記 3 地点から確認され、加太からは新鮮な死殻が多数得られ、生貝が存在する可能性が考えられる。ただ全国的に個体数は少ない。近隣地域でも三重県では採集記録があるものの、現状は不明であり、愛知県や岡山県では記述そのものがない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．エドイトカケギリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．89．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊．和歌山．
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154．

写真：三長秀男提供

クラエノハマイトカケギリ　*Turbonilla kuraenohamana* Hori & Fukuda, 1999　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾や河口域の砂泥質干潟の中・潮帯域に生息。和歌川から最初に確認された種であるが、和名は山口県萩市倉江ノ浜に由来する。貝殻は微小、やや薄質、針状に近い高い塔型、殻高 8 mm。紀伊水道、瀬戸内海、山口県北長門海岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜、広川町和田、江上川、田辺湾奥部に分布。

近隣地域では、三重県の英虞湾で生貝の採集例が確認されているが、愛知県、岡山県での記述はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．クラエノハマイトカケギリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．89．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
3　三長秀男・三長孝輔．2006．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して（2）．かたをなみ，3：5–11．
4　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23．
5　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7．
6　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78．
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154．
9　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅱ．南紀生物，51（2）：83–88．

参考文献・情報
10　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市紀の川河口域の貝類相（補遺）．南紀生物，53（1）：91–94.
写真：三長秀男提供

カキウラクチキレモドキ　*Brachystomia bipyramidata*（Nomura, 1936）　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾干潟、河口域のマガキの間隙に生息する種で、マガキの体液を摂取する。貝殻は微小、堅固、塔型で乳白色、淡い黄褐色の殻皮を持ち、殻表は平滑で殻口には１本の襞を持つ。殻高４ mm。三陸から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川河口（和歌浦）、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、那智勝浦町湯川に分布。

和歌山県では紀伊半島西岸から東岸の湯川まで確認される。マガキの堆積下に見られ、顕微鏡観察ではマガキの外套膜の外套触手の間に口吻を押し当て、体液を摂取することを確認。マガキは水質汚濁が進行した場所でも生息可能であるが、本種が確認されない場合もある。近隣地域では、愛知県で汐川干潟に健全な生息地が確認されているが、三重県や岡山県からは本種の記述はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．1994．有田川河口産クチキレガイモドキ類１種の諸知見．南紀生物，36（1）：39–42.
2　江川和文．2015．カキウラクチキレモドキの摂食行動．かいなかま，48（2）：25–28.
3　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154.
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196.
写真：三長秀男提供

ヌカルミクチキレ　"*Sayella*" sp.　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾奥部から河口汽水域の軟泥底の潮間帯下に生息。近年、確認された未記載種で、貝殻は微小、やや薄質で長い紡錘形、褐色。殻高 3.5 mm。陸奥湾から九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川（和歌浦湾）、広川町江上川に分布。

和歌山県では県北部から確認され、紀の川からは比較的新鮮な死殻が得られる。また、江上川や和歌川河口域からは生息が確認されている。隣接地域では、三重県で伊勢湾沿岸や県南部の河口域等で生貝が確認されているが、生息場所や個体数は少ない。また、愛知県では汐川干潟でのみ生息が確認され、岡山県では現存産地が１地点のみ確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　藤岡えり子・木村妙子．2000．三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における低生動物相．豊橋市自然史博物館研究報告，10：31–39.
2　福田　宏．1996．WWF サイエンスレポート，3.（和田恵次編）．（6）軟体動物　腹足綱．：11–52pp.
3　福田　宏・久保弘文．2012．ヌカルミクチキレ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．88．285pp．東海大学出版会，秦野.

参考文献・情報

4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
5　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23．
6　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154．

写真：三長秀男提供

シゲヤスイトカケギリ　*Pyrgulina shigeyasui*（Yokoyama, 1927）　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口汽水域や内湾奥部の低潮帯の砂泥底に生息。貝殻は微小、堅固、高い塔型で白色、殻表には縦肋をめぐらし、縦肋間には細い螺肋を密にめぐらす。殻高７mm。宿主は不明。宮城県万石浦以南、九州、沖縄、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、田辺湾奥部に分布。

主に河口汽水域の生息種で、特に有田川河口域で多数の死殻を確認。近隣地地域では三重県では死殻の確認例があるものの、現状は不明である。また、愛知県では情報不足であり、全国的に減少傾向にあるとみられる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172．
2　福田　宏・久保弘文．2012．シゲヤスイトカケギリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．85．285pp．東海大学出版会，秦野．
3　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12．
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
5　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．愛知県．名古屋．
6　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，（32）：1–14．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78．
8　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154．
9　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2009．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅱ．南紀生物，51（2）：83–88．
10　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196．

写真：三長秀男提供

ドウンケルクチキレ（エバラクチキレ） *Orinella ebarana* (Yokoyama, 1927)　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟の前浜干潟低潮帯から潮下帯の砂泥底に生息。貝殻は堅固、高い塔型、クチキレガイより殻がやや太く、殻表は平滑で光沢をもち、螺層下部に赤褐色の色帯をめぐらす。殻高 8 mm。三陸海岸・若狭湾以南、九州に分布。潮間帯から水深 90 m に生息。和歌山県内では和歌山市加太、和歌川（和歌浦湾）、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では 3 地点から生息が確認できるが、個体数は少ない。近隣地域では、三重県で死殻の採集例があるが、現状は不明である。また、愛知県、岡山県では記述がない。全国的には瀬戸内海沿岸や有明海に点在するものの、産地は少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．エバラクチキレ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．88．東海大学出版会，秦野．
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
3　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154．

写真：江川和文撮影

ウネイトカケギリ *Paramormula scrobiculata* (Yokoyama, 1922)　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の前浜干潟の潮間帯下の砂泥底に生息。貝殻は微小、堅固で白色、非常に高い塔型で僅かに傾斜した縦肋をめぐらす。殻高 7 mm。房総半島・兵庫県但馬地方以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川（和歌浦湾）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では県北部、和歌山市の細砂海岸で確認。特に水軒浜（現在、消失）からは多数の個体を確認。近隣地域（三重県、愛知県）からの記述はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2017．和歌山市周辺のトウガタガイ科貝類　(3)．かきつばた，42：12–29．
2　福田　宏．2012．ウネイトカケギリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．88．東海大学出版会，秦野．
3　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物．54（2）：149–154．

写真：三長秀男提供

オオシイノミガイ　*Japonacteon siebaldii* (Reeve, 1842)　オオシイノミガイ目　オオシイノミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾、湾口部の砂質干潟低潮帯に生息。貝殻は小型、長卵形、薄質で殻表に細い螺溝と２本の褐色の色帯をめぐらす。殻高 20 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、和歌川河口（和歌浦）、串本町串本に分布。

和歌山県では和歌山市、串本町の２地点から確認。個体数は稀で、加太からは新鮮な死殻が、和歌川河口では幼個体が、それぞれ確認されている。近隣地域では三重県では伊勢湾の２地点の潮下帯に分布記録があるが、分布域の縮小傾向が見られる。また、愛知県では知多半島沖で少数の生貝が確認されている。本種は年によって個体数の増減が顕著で、相模湾では一時、多数個体の産出が確認され、愛知県でもカテゴリーが絶滅から絶滅危惧Ⅱ類に変更されている。なお、本種の種名は幕末期のドイツ人医師シーボルト Siebold に由来するが、種名 *siebaldii* は、新種記載時の誤綴りである。ただ、学名は仮に誤綴りであっても修正されず、今日に継承される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12.
3　木村昭一．2012．オオシイノミガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．80．東海大学出版会，秦野.
4　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
5　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2012．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅳ．南紀生物，54（2）：149–154.

写真：三長秀男提供

ムラクモキジビキガイ　*Japanacteon nipponensis* (Yamakawa, 1911)　オオシイノミガイ目　オオシイノミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の砂質干潟表面に生息。貝殻は長い卵形、螺層肩部に黒色の火災彩状模様をもち、殻表には微細な螺溝をめぐらす。殻高 10 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市和歌川河口（和歌浦）、名草ノ浜、広川町西広海岸、御坊市上祓井戸に分布。

和歌山県では、生貝が和歌川河口域で確認されている。近隣地域では、三重県で従来、１地点から確認されていたが、近年、志摩市大王町の河口域から確認された。また、愛知県では三河湾の１例のみ記録されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．ムラクモキジビキガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．80．285pp．東海大学出版会，秦野.
2　石川　裕．2009．ムラクモキジビキガイやコシイノミガイと混同されていた貝．まいご（四国貝類談話会会誌），19：6–7.

参考文献・情報
3　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12.
4　木村昭一．2015．9　貝類　三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．295–383pp．三重県農林水産部，津.
5　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
6　三長孝輔・三長秀男．2006．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類．かたをなみ，2：12–35.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78.
8　野田圭典・土岐頼三郎・中本博之・三長秀男・江川和文．2016．和歌山市和歌浦・和歌浦干潟で観察した貝類．くろしお，（35）：40–45.
写真：三長秀男提供

コヤスツララ　*Acteocina koyasensis* (Yokoyama, 1927)　頭楯目　クダタマガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟や河口域の中、低潮帯の砂泥底、軟泥底に生息。貝殻は微小、細長い円筒形、褐色の殻皮を持ち、殻表は平滑。殻高 3.5 mm。陸奥湾以南、九州、南西諸島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川河口（和歌浦）、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では紀の川河口域の岸から新鮮な死殻が普通に確認され、また生貝は和歌浦干潟より確認されている。近年、生貝の確認地は多くない。隣接地域でも、三重県では志摩市の 1 地点から生息が確認されるのみで、愛知県、岡山県では記述がない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏・久保弘文．2012．コヤスツララ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．81．285pp．東海大学出版会，秦野.
2　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12.
3　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
4　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
6　野田圭典・土岐頼三郎・中本博之・三長秀男・江川和文．2016．和歌山市和歌浦・和歌浦干潟で観察した貝類．くろしお，35：40–45.
7　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市紀の川河口域の貝類相（補遺）．南紀生物，53（1）：91–94.
写真：三長秀男提供

ホソタマゴガイ　*Limulatys ooformis* Habe, 1952　頭楯目　ブドウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾湾口部の砂質干潟の砂底表層に生息。貝殻は微小、白色、薄質、光沢を帯び、上下端に螺溝をめぐらす。殻高 10 mm。相模湾・北長門海岸以南、九州、南西諸島、小笠原諸島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜に分布。

和歌山県では加太、名草ノ浜で死殻が確認されているが稀で、生貝は未確認。隣接地域（三重県、愛知県、岡山県）での記録はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．ホソタマゴガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．82．東海大学出版会，秦野．
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78.
写真：三長秀男提供

ヤマトキバサナギガイ　*Vertigo japonica* Pilsbry & Hirase, 1904　マイマイ目　キバサナギガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

全国的に報告された例が少ない。これは本種が微小種であって、採取することの困難さが要因と思われる。本県では海岸地域を中心にして３箇所から記録がある。

貝殻は微小（殻長２ mm、殻径１ mm）、円筒形状、淡褐色。螺層は５層・殻口内に４歯（内唇に１、軸唇に１、外唇に２）がある。

串本町田子・双島、由良町白崎、新宮市熊野川町鎌塚の３箇所しか和歌山県内には知られていないが、おそらくは調査の不足が原因と考える。

北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、生息地はそう多くはない。近似種のキバサナギガイと混同されていて、再検討が必要である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．2005．双島（串本町）の陸産貝類，　特にミジンマイマイ類の分類について．南紀生物，47（1）：37–42.
2　矢野重文．2022．ヤマトキバサナギガイ属の分類についての再検討．まいご（四国貝類談話会），（29）：1–7.
写真：矢野（2022）典拠

ホソヒメギセル　*Megalophaedusa gracilispira*（Moellendorff, 1882）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

キセルガイ科貝類の中では、小形の貝類。殻口の上部右側に小さな切れ込みがあるのを特徴として、本種をタイプとして亜属名が提唱されている。

貝殻は小形（殻長 8~11 mm）、殻口の上部右側に切れ込みが認められる。

本種は那智勝浦町色川、新宮市高田、美浜町日ノ御崎、護摩壇山から少数確認されているだけである。本種のシノニムとして、那智から記載されたユウビギセル *“Clausilia” graciae* がある。

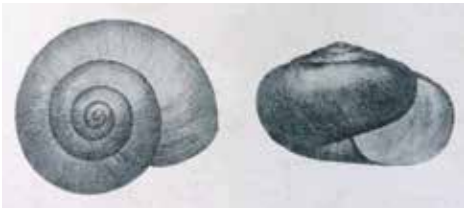
本種は古木の根元や朽ち木の割れ目、洞等に生息するが、相対的に個体数の少ない種類である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus, Supplement 2，pl 10.
2　湊　宏．1995．那智山の陸産貝類．南紀生物，37（2）：87–93.
3　湊　宏．2007．室生寺（奈良県）で確認されたキセルガイ科貝類．南紀生物，49（2）：151–156.
写真：湊（1994）典拠

キヌツヤベッコウ　*Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1900)　マイマイ目　シタラ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	情報不足（DD）



選定理由

本種のタイプ産地は古座川町蔵土（くろず）。本種を基にしてハクサンベツコウ属（*Nipponochlamys*）が設立された。広葉樹や杉林の朽ち木や厚く積もった落ち葉の中等に生息する。

貝殻は小形（殻径 5 mm）、赤褐色で絹肌のような光沢がある（和名の由来）。螺塔はやや低く、体層の周縁は円い。殻底に明瞭な臍孔が開く。殻口の唇縁は薄い。

タイプ産地の古座川町蔵土はじめ、那智勝浦町等から少数が確認されている。しかし、小さい個体のために採取は難しい。

本種はハクサンベッコウ属の模式種として重要。本州（西部）と四国から分布の記録がある。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　平瀬与一郎．1907．日本陸産貝類図説（七），キヌツヤベッコウ，*Macrochlamys semisericata*（Pilsbry, 1900）．介類雑誌，1 (2)．pl. 12.

2　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：91–95.

写真：平瀬（1907）典拠

ヒメタマゴマイマイ　*Satsuma pagodula* (Ehrmann, 1900)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

近畿南部（主として和歌山県、奈良県）に分布。田畑、人家の周辺をめぐる林縁地域に生息するが、近年は人家周辺の環境整備等で生息地が失われている所が多くなってきた。

貝殻は中形（殻長 14~18 mm）で円錐形状、淡黄褐色で殻表に常に色帯を欠く。体層の周縁は円い。臍孔は閉じる。

タイプ産地は奈良県五條市野原町。和歌山県中・北部に生息地が確認されている。自然度の高い地域の人家、田畑の周辺の低木、草木の林床等で生息する。

本州・中部地方、近畿地方、中国東部地方に生息するヤマタカマイマイに類似するが、それよりも小形で、その殻表に色帯が欠如するから識別は容易である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．2019．陸産貝類研究備忘録（21）．“タマゴマイマイ”（ヤマタカマイマイ無帯型）とヒメタマゴマイマイ．かいなかま，53 (1)：1–12.

写真：湊　宏撮影

クチマガリマイマイ　*Aegista cavicollis* (Pilsbry, 1900)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

小形で殻口が下降し、オナジマイマイ科の中ではその形態が特異である。本県では田辺市以北で点々とその生息地が知られるが、その生息地は局限される。

貝殻は小形（殻径 6~7 mm）、黄褐色、円錐形状。螺管は密に巻く。殻表は細い殻毛がビロード状に覆う。殻口は下降し、臍孔は広くて深い。

分布の中心は北近畿と紀南地方を除く、近畿地方に広く生息するが、和歌山城は最も代表的な生息地である。

本種の所属するクチマガリマイマイ亜属４種は西日本に分布するが、後の３種は四国東南部、九州中部、五島列島でしか確認されていない。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　黒田徳米・波部忠重．1949．かたつむり，74，図 47．三明社，大阪．
2　湊　宏．1985．西日本産クチマガリマイマイ亜属の４種．ちりばたん，16（2）：56–61．
写真：黒田・波部（1949）典拠

ゴマオカタニシ　*Georissa japonica* (Pilsbry, 1900)　アマオブネ目　ゴマオカタニシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

微小（殻長 2 mm）な本種は和歌山県内でも確認は極めて少なく、通常は落ち葉層に生息するが、好条件の湿潤性であれば、草本等に登っていることがある。

貝殻は微小（殻長 2 mm）で円錐形状、殻色は紅朱色を呈する。本種の蓋には突起があることも特徴。白崎石灰岩地帯では環境が破壊されて絶滅してしまったベニゴマオカタニシとは、体層に螺状脈が認められるので識別できる。

和歌山県内では広く分布すると考えられるが微小のために記録が少ない。比較的に多く記録のあるのは、すさみ町市原、由良町黒島である。

和歌山県では白崎石灰岩地に生息していて絶滅したベニゴマオカタニシとともに記録されているが、本種だけが生存している。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1980．日本産ゴマオカタニシ科の種類．ちりばたん，11（1）：3–5．
写真：湊　宏標本

ナガオカモノアラガイ　*Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1900)　マイマイ目　オカモノアラガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

湿潤環境を好む本種は、和歌山県内での生息地の確認は少ない。本科の貝類には、触角が異常に太くなるロイコクロリディウム属のスポロキスト（袋状の幼虫）吸虫が寄生しているが、串本町田原では初めて本種が確認された。

貝殻の殻長 12 mm 程度、体層が特に大きく、貝殻は不透明で薄い。

和歌山県での確認地は、新宮市、串本町田原、白浜町平、富田川河口、和歌山市、紀の川市等であるが、湿潤環境は他にも存在するので今後は記録が増えると思われる。

選定理由

オカモノアラガイの仲間には、ロイコクロリディウム属の吸虫が寄生するが、串本町田原でナガオカモノアラガイからもこの吸虫が確認された（後藤，1997）ことの事実は重要である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　後藤岳志．1997．珍しい寄生虫のこと．くろしお，(16)：36.
2　湊　宏．1993．オカモノアラガイに寄生する奇妙な寄生虫．みたまき，(27)：10–11．相模貝類同好会会報，横須賀．
3　湊　宏．2004．ナガオカモノアラガイの“田原湿地”（古座町）からの記録と日本産オカモノアラガイ科貝類の検索表．南紀生物，46 (2)：115–118.
4　湊　宏・内山りゅう．2007．富田川河口域のナガオカモノアラガイの生息記録．南紀生物，49 (2)：119.

写真：湊　宏撮影

ミジンマイマイ　*Vallonia costata* (O. F. Műller, 1774)　マイマイ目　ミジンマイマイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和名の「ミジン」とは、細かいほこりを意味する。貝殻は微小であるが、日本産ミジンマイマイ科は 1 属 3 種類が知られ、和歌山県では 2 種類が記録されている。

貝殻は極めて微小（殻長 1 mm、殻径 2 mm），灰白色、円盤状で、殻表には規則的に成長脈をめぐらす。臍孔は開口している。

白浜町、みなべ町、由良町等の海岸地域の落ち葉と砂の混じった中に生息するが、生息地は局限する。

微小種のために採取は容易ではない。本県では 2 種が記録されている（湊，2003）が、本種のほかに、串本町田子・双島では殻表が極めて微細で、ほとんど平滑な“ソウジマミジンマイマイ”が見つかっている（湊，1970，2005）。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1970．*Vallonia* 属の日本未記録種ソウジマミジンマイマイ（新称）について．南紀生物，12 (1)：16.

写真：湊　宏標本

ウスコミミガイ　*Laemodonta exaratoides* Kawabe,1992　オカミミガイ目　オカミミガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾のやや潮上帯転石地の埋没した石の下面や間隙に生息。貝殻は卵形、殻表には微細な螺肋を密にめぐらし、短い針状突起の殻皮でおおわれ、殻口内唇には歯状突起を 2 個持つ。殻高 5 mm。東北地方以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜（亀ノ川）、広川町西広、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では生貝が加太、和歌浦湾周辺等で確認されているが、個体数は少ない。生息域が陸地に隣接する地域が多く、護岸工事の影響を受けやすく、実際、名草ノ浜に流入する亀ノ川では河口壁の石垣がコンクリート舗装され、生息が見られなくなった。

近隣地域では、愛知県で 2001 年に最初に記録、以後、三河湾島嶼域で確認されたが、全体に個体数は非常に少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　木村昭一．2012．ウスコミミガイ．干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．96．東海大学出版会，秦野．
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　3　腹足綱③．南紀生物，49（1）：73–78.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅴ．南紀生物，55（1）：73–78.
4　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典．1998．和歌浦市産ウスコミミガイの観察例．南紀生物，40（2）：183–184.
5　和田恵次．私信.
写真：三長秀男提供

キヌタレガイ　*Petrasma pusilla*（Gould, 1861）　キヌタレガイ目　キヌタレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の潮間帯から水深 20 m 程度のアマモ場の砂泥底に生息。貝殻は薄質、殻長 15 mm。北海道以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、広川町西広に分布。

和歌山県では近年、西広が唯一の確認地であり、個体数も稀である。アサヒキヌタレと同様な環境下に生息する種とされるが、生息域も狭いと見られる。近隣地域では、三重県伊勢湾中部で死殻が得られるが、生貝は確認されていない。また、岡山県では倉崎市から半片の確認例があるが、以降は再発見されず、消滅した可能性がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　木村昭一．2012：キヌタレガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．106．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

ヤマホトトギス　*Arcuatula japonica*（Dunker, 1857）　イガイ目　イガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾湾口部の低潮帯から水深 40 m 程度の泥底・砂泥底に生息し、足糸で泥マットを作る。貝殻は薄質、扁平、後方に広がる長円形。殻長 20 mm。日本、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では紀北域の細砂海岸から確認され、1980 年代には一時、生貝 100 個以上の産出も見られたが、近年、個体数は少ない。和歌浦湾には近似種のホトトギスが確認され、複数個体が足糸で結合されたホトトギス・マットの形成が本種にも確認される。近隣地域では、大阪湾南部の男里海岸で 1950 年代に採集できたが、一度、姿を消し、2003 年に再発見された。三重県では、生浦湾、英虞湾のアマモ場より生貝を確認したが、個体数は非常に稀とされている。また、愛知県では三河湾湾口部より 1995 年、生貝が採集されたが、個体数は非常に少なく、以降、死殻も確認されない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田．
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55 (1)：73–78.
4　山下博由・木村昭一．2012．ヤマホトトギス　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．106．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

サザナミマクラ　*Modiolus flavidus* (Dunker, 1857)　イガイ目　イガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	–	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

低潮線から水深 10 m 程度のアマモ場の砂場に埋没し生息。貝殻は薄質、膨らみ、細長い亜方形となる。殻長 25 mm。紀伊半島以南、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、みなべ町堺、田辺湾奥部、白浜町臨海、串本町潮岬に分布。

和歌山県では、田辺湾奥部でアマモ場の砂泥底に少数個体の生息を確認、他は死殻の確認例が多い。近隣地域では、大阪府、三重県、愛知県には記述されず、岡山県では 2018 年に倉敷市高洲の細砂底アマモ場で 1 個体が確認され、これが唯一の記録である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　久保弘文．2012．サザナミマクラ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．107．東海大学出版会，秦野.
2　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55 (1)：73–78.
写真：三長秀男提供

リシケタイラギ（タイラギ）　*Atrina lischkeana* (Clessin, 1891)　ウグイスガイ目　ハボウキガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	–	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の低潮帯から水深 30 m の泥底、粗泥底に生息。「タイラギの有鱗型」で、かつては無鱗型のズベタイラギの種内変異とされ、近年、遺伝子解析により別種とされた。海底に後端を露出した状態で埋没する。貝殻は大きく長い三角形、茶褐色、やや薄質で脆く、殻表の彫刻は小さい。殻長 250 mm。本州から九州に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、みなべ町堺、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では田辺湾奥部で少数個体の生息が確認されている。和歌山県内では各地から他に死殻が確認されるが、その産地はズベタイラギより多数である。本種は、かつて水軒浜（造成工事で消失）で多数個体が採集されていた。近年は和歌浦干潟で少数例見られ、露出した貝殻後端にアカニシが着生している例も確認している。近隣地域では、三重県伊勢湾で新鮮な死殻や生貝が採集されているが、個体数は減少している。また、愛知県では現在も三河湾、伊勢湾知多半島南部で漁獲対象とされている。

執筆者（江川和文）

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50.
2　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.
4　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69–74.
5　山下博由・木村昭一．2012．ズベタイラギ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．114．285pp．東海大学出版会，秦野.
6　横川浩治．1996．タイラギ２型の遺伝的分化．Venus，55：25–39.

参考文献・情報

写真：三長秀男提供

ズベタイラギ　*Atrina japonica* (Reeve, 1858)　ウグイスガイ目　ハボウキガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

内湾の低潮帯から水深 30 m の泥底、砂泥底に生息。重要な漁獲対象種、かつて貝柱が缶詰にも加工されていた。貝殻は大きく長い三角形、茶褐色、やや薄質で脆く、殻表の彫刻は小さい。殻長 300 mm。本州から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市河口に分布。

和歌山県では和歌山市を中心とした紀北域から少数、確認される。かつてタイラギには２型があり、殻表が平滑な型と鱗状突起を持つ型である。従来、種内変異と扱われ、後者には特にリシケタイラギの名称があった。近年、遺伝子解析からこの２型は別種で、「無鱗型」は新たにズベタイラギと称されるようになった。近隣地域では、三重県では現在も伊勢湾中部で生貝や新鮮な死殻が採集されるが、個体数は著しく減少している。また、愛知県では 1960 年代、三河湾奥部で多産していたが、近年、死殻の採集例もない。三河湾湾口部では現在も漁業対象種であるが、個体数は年々、減少している。

執筆者（江川和文）

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.
3　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69–74.
4　山下博由・木村昭一．2012．ズベタイラギ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．114．東海大学出版会，秦野.
5　横川浩治．1996．タイラギ２型の遺伝的分化．Venus，55：25–39.

参考文献・情報

ハボウキガイ　*Pinna attenuata* Reeve, 1858　ウグイスガイ目　ハボウキガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

内湾湾口部からやや外洋の低潮帯から水深 30 m の砂泥底、砂礫底、アマモ場周辺に生息。殻の後端を出し、海底に埋没。貝殻は細長い三角形。殻長 300 mm。房総半島・男鹿半島以南、中国大陸、東南アジアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田川河口、田辺湾奥部、白浜町畠島、富田対ノ浦、串本町須江に分布。



和歌山県では、田辺湾奥部のアマモ場で生息が普通に確認され、かつては県内各地でも普通に見られた種である。近年、確認地点での再採集例は少なく、減少傾向にあると見られる。近隣地域では、三重県英虞湾で生貝が確認されたものの個体は数少なく、伊勢湾内

選定理由　で生貝は確認されない。また、愛知県では渥美半島太平洋岸で死殻を少数確認したのみである。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50
2　池辺進一．2012．和歌山市・毛見崎の貝類．かたをなみ，8：15–19.
3　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78.
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.
7　山下博由・久保弘文・木村昭一．2012．ハボウキ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．115．285pp．東海大学出版会，秦野.

写真：三長秀男提供

サクラガイ　*Nitidotellina hokkaidoensis*（Habe, 1961）　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由　内湾奥部から湾口部の細砂底、アマモ場に生息。貝殻は長い卵形、薄質、膨らみは弱く扁平、桃色。殻長 20 mm。北海道南部以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市、広川町江上川、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では江上川では潮下帯の泥底から、田辺湾奥部ではアマモ場で生息が確認されている。多くは死殻で、個体数は多くない。かつて貝細工の材料としても知られていた貝である。近隣地域の三重県では、伊勢湾湾口で死殻が少数、確認されている。また、愛知県でも生息場所や個体数が著しく減少している。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　木村昭一．2012．サクラガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．126．東海大学出版会，秦野.
3　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
4　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78.
7　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2010．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅲ．南紀生物，52（1）：27–32.
8　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.

写真：三長秀男提供

ヒラザクラガイ　*Tellinides ovalis* (Sowerby Ⅰ, 1825)　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾のアマモ場周辺の潮間帯から水深 20 m 付近の細砂底に生息。貝殻は薄質、紅色、楕円形、打ち上げ個体では殻が非常に脆くなる。殻長 40 mm。房総半島・能登半島以南、南西諸島、中国大陸南部、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

近年では、加太、名草ノ浜から死殻が数例、確認されているに過ぎない。近隣地域も同様で、三重県では伊勢湾から死殻の採集記録あるものの、現状は不明。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006：池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　久保弘文．2012．ヒラザクラ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．130．東海大学出版会，秦野．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．

写真：三長秀男提供

ユウシオガイ　*Moerella rutila* (Dunker, 1860)　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾奥部の砂質干潟の中潮帯付近に生息。貝殻は薄質、紅、黄、白色の変異があり、殻表は平滑に近い。殻長 20 mm。陸奥湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田川河口、広川町西広、白浜町富田対ノ浦、那智勝浦町湯川に分布。

和歌山県では紀の川ほか各地から見られるが、死殻の確認例が多い。なお、近隣地域では、愛知県の三河湾奥部で健全な個体群が確認されるが、奥部に位置することから、人為的な改変の影響を受けやすい。また、岡山県では 1 生息地があるものの、危機的状況である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50．
4　木村昭一．2012．ユウシオガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．126．東海大学出版会，秦野．
5　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
7　野田圭典・中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2010．和歌川河口奥部の貝類相　Ⅲ．南紀生物，52 (1)：27–32．
8　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69–74．

写真：三長秀男提供

ウズザクラ　*Nitidotellina minuta*（Lischke, 1872）　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の潮間帯から潮下帯の泥底に生息。貝殻は小形で扁平、薄質、細長い卵形、殻頂に薄紅色の色帯をもつ個体もある。殻長 10 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、広川町江上川、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦、串本町に分布。

和歌山県では和歌浦湾や江上川、対ノ浦等で潮下帯の砂泥底から生貝が確認されるが、個体数は少ない。周辺地域でも、三重県では英虞湾のアマモ場周辺で生貝が採集されているが、生息地、個体数とも減少している。また、愛知県でも内湾域で生息地、個体数とも明らかに減少し、例外的に三河湾で健全な個体が残っている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　木村昭一．2012．ウズザクラガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．126．東海大学出版会，秦野．
3　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
4　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7．
5　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類　Ⅱ．かきつばた，40：2–16．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142．

写真：三長秀男提供

モモノハナ　*Moerella jedoensis*（Lischke, 1872）　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾から外洋の潮間帯から水深 10 m の砂泥底に生息。貝殻は亜三角形、薄質、膨らみは弱い殻長 20 mm。三陸海岸・男鹿半島以南、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、串本町に分布。

和歌山県では近年 2 地点のみから確認されている。現在、多くの生息域で個体数が激減している。近隣地域でも三重県では伊勢湾から死殻の記録があるものの、現状は不明とされている。また、愛知県では情報不足とされているが、今後、高ランクの絶滅危惧種として検討されるようである。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　木村昭一．2012．モモノハナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．125．東海大学出版会，秦野．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142．

写真：三長秀男提供

オオモモノハナ　*Praetextellina praetexta*（Martens,1865）　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾～外洋の潮間帯下から水深 10 m の砂泥底、アマモ場周辺に生息。貝殻は薄質、楕円形、薄紅色から白色。殻長 40 mm。北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では、名草ノ浜から新鮮な合弁個体が、また田辺湾奥部では幼個体の生貝の確認例がある。ただ現状、産出例は和歌山市周辺からの少数例の死殻が主である。生貝は 1963 年の水軒浜の他、近年では田辺湾奥部干潟から確認されている。周辺地域では大阪湾では 1980 年代まで洲本沖で生貝が確認でき、三重県では 2009 年に伊勢湾で少数の死殻を確認したが、生息は未確認である。また、愛知県では死殻が稀に採集されるものの、生貝はなく、絶滅の可能性が非常に高い。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　木村昭一．2000．伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類（予報）．かきつばた，26：18–20．
3　木村昭一．2012．オオモモノハナ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．123．東海大学出版会，秦野．
4　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ．かきつばた，(40)：2–16．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153–158．
7　岡村親一郎・児島　格，1984．大阪湾の貝類相　Ⅰ－二枚貝類の生息記録－．南紀生物，26 (2)：121–126．

写真：三長秀男提供

フジノハナガイ　*Chion semigranosus*（Dunker,1877）　マルスダレガイ目　フジノハナガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾から外洋の高潮帯の砂底に生息。貝殻は小形、堅固、亜三角形、白色から稀に淡褐色、薄紫色となる。ナミノコガイ同様、潮汐に連動した垂直移動をとる。殻長 20 mm。房総半島以南、九州、中国大陸、タイに分布。和歌山県内では和歌山市加太、磯ノ浦、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広に分布。

和歌山県では和歌山市の細砂海岸で確認されるが、個体数は少数である。かつて水軒浜（造成工事で消失）では、本種が波浪で移動する波乗り運動が見られたという。また、磯ノ浦では 1970 年代、イボキサゴに混在して本種の打ち上げ個体が見られた。近隣地域では、三重県で従来、既知の産地 5 地点が知られ、その後 20 余年、生息状況は未確認であったが、近年、再確認された。また、愛知県では 1980 年代、伊勢湾、三河湾の内湾域で激減し、生息が未確認の状況であったが、一部、外洋域で回復傾向にある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2012．フジノハナガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．130．東海大学出版会，秦野．
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．

参考文献・情報
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
写真：三長秀男提供

ナミノコ　*Latona cuneatus*（Linnaeus, 1758）　ドブシジミ目　フジノハナガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

外洋や開放的な湾の細砂底の中・低潮帯の浪打際に生息、波浪により移動する習性を持ち、一部、地域では食用貝とされる。貝殻は小形で堅固、三角形状、殻表は平滑。殻長 25 mm 内外。房総半島・男鹿半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広、串本町上浦、古座町田原に分布。

和名「ナミノコ（波の子）」は、波打ち際で潮の動きに合わせ、波に浮遊して移動する様を表現している。和歌山県ではかつて、水軒浜、近年では西広海岸で本種が確認できるが、年によって個体数に差がある。近隣地域では、三重県で 5 地点の生息地があり、全体に生息範囲が狭く、個体数も多くない。また、愛知県では情報不足の段階で、高ランクの絶滅危惧種の可能性もある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津.
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．愛知県．名古屋.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
6　山下博由・久保弘文．2012．ナミノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．131．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

キュウシュウナミノコ　*Donax kiusiuensis* Pilsbry, 1901　ドブシジミ目　フジノハナガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾や外洋に面した細砂底の潮間帯の汀線付近に生息。貝殻は前後に長い三角形で、殻は薄質で膨らみも弱い。殻長 8 mm。北海道南部以南、南西諸島、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、広川町西広、串本町橋杭に分布。

和歌山県では、近年、4 地点から確認され、ナミノコガイ、フジノハナガイと同所的に見られるが、各産地とも個体数は稀で、生貝は確認していない。本土での分布は南西諸島が主分布域の種の偶因分布とも考えられる。近隣地域でも三重県では志摩市において生息を確認しているが、情報不足で現状は不明とされている。また、岡山県では死殻の確認例のみで生息、生貝は未確認である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏・久保弘文．2012．キュウシュウナミノコ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 131．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158．
写真：三長秀男提供

アシガイ　*Gari maculosa* (Lamarck, 1818)　ドブシジミ目　シオサザナミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

内湾の礫地の砂質干潟低潮帯から潮下帯に生息。殻長 60 mm。房総半島・北長門海岸以南、南西諸島、中国大陸、フィリピン、北オーストラリア、熱帯インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、白浜町富田対ノ浦、白浜に分布。

和歌山県では、対ノ浦で新鮮な合弁個体が波浪後にしばしば採集され、加太では半片が少数確認される。近隣地域では、三重県で県南部の潮下帯より記録があるものの、現状は不明とされており、愛知県では記述がない。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．2012．アシガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 132．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
3　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158．
写真：三長秀男提供

オチバガイ　*Gari chinensis* (Deshayes, 1855)　ドブシジミ目　シオサザナミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

河口汽水域流水中の粗砂底から砂泥底に 5~30 cm に潜る。貝殻は薄質、長方形で殻表は黄褐色の殻皮をもつ。殻長 40 mm。東京湾・若狭湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸（広東省）、海南島、台湾、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市河口、広川町西広、那智勝浦町粉白に分布。

和歌山県では紀の川河口や有田川で合弁個体が確認でき、他では死殻半片が得られているが、個体数は多くない。近隣地域では、大阪湾南部で男里海岸の潮間帯の泥底に生息が確認された。三重県では 1980 年代に姿を消したが、1990 年後半から生貝が再確認された。また、愛知県では 知多市、矢作川、蒲郡市で生息が確認されているが、生息地点、個体数とも著しく少ない。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50．
2　福田　宏・久保弘文．2012．オチバガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 134．東海大学出版会，秦野．
3　池辺進一．2015．和歌山県那智勝浦町粉白の貝類．かたをなみ，10：7–9．
4　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田．

参考文献・情報
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.
写真：三長秀男提供

ハザクラ　*Gari minor*（Deshayes, 1855）　ドブシジミ目　シオサザナミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口汽水域や内湾干潟の砂泥底に生息。貝殻は楕円形で殻は薄く。殻表には緑黄色の殻皮を持ち、放射状の色斑を持つ。殻長 30 mm。房総半島・能登半島以南、南西諸島、海南島、フィリピン、タイに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、西広、田辺市内之浦、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では江上川で砂泥中での生息を確認、また、紀の川や西広他で合弁個体を採集したが、個体数は多くない。地域によってはオチバガイと棲み分けが見られる場所もある。近隣地域では、大坂湾南部で男里海岸に生息し、同地ではオチバガイと同所的に見られる。また、三重県では既知の生息地は 5 箇所以下で生息面積も狭い。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　福田　宏・木村昭一．2012．ハザクラ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．133．東海大学出版会，秦野.
3　池辺進一．2015．和歌山県那智勝浦町粉白の貝類．かたをなみ，10：7–9.
4　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
6　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種．南紀生物，43（2）：102–108.
7　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.
写真：三長秀男提供

キヌタアゲマキ　*Solecurtus divaricatus*（Lischke, 1869）　ドブシジミ目　キヌタアゲマキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾から外洋の潮間帯から水深 30 m の砂泥底に生息。貝殻は堅固、前後に長い長方形、両端は大きく開き、殻表に鱗状の彫刻を持つ。殻長 70 mm。房総半島以南、九州、中国大陸、台湾に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市河口、白浜町臨海、串本町に分布。

和歌山県では各地の細砂海岸で打ち上げ個体が確認できるが、個体数は稀である。近隣地域では、三重県で伊勢湾湾口部から熊野灘までの潮下帯で生貝が採集されるが、個体数は少ない。また、愛知県では元々希少種で情報不足であり、高ランクの絶滅危惧種に推定されると言われている。なお、和歌山の対岸、徳島県吉野川河口では、本種は普通に確認される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　木村昭一．2012．キヌタアゲマキ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．137．東海大学出版会，秦野．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158．
写真：三長秀男提供

タガソデモドキ　*Trapezium sublaevigatum*（Lamarck, 1819）　マルスダレガイ目　フナガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の礫干潟や岩礁地の高・中潮帯に生息。ウネナシトマヤに似るが海域種、殻表は平滑、足糸で固着する。殻長 30 mm。房総半島・兵庫県北部以南、九州、南西諸島、中国大陸、香港、フィリピン、オーストラリア、熱帯インド・西太平洋に分布。

和歌山県では和歌山市加太、田辺湾奥部、那智勝浦町ゆかし潟、太地町森浦湾から生貝が確認されている。南西諸島以南では多産するとされるが、和歌山県では少産である。近隣地域では、三重県で古くは賢島の 1 地点のみが記録されていたが、近年では英虞湾、五ケ所湾、南部内湾域の 4 地点に生息が確認される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏・木村昭一．2012．タガソデモドキ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．138．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ．かきつばた，（40）：2–16．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158．
写真：三長秀男提供

ウネナシトマヤガイ　*Trapezium liratum*（Reeve, 1843）　マルスダレガイ目　フナガタガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

河口域や内湾域のマガキや護岸の隙間に生息。貝殻は堅固で長円形、膨らみは弱く、背縁部で成長脈が隆起し、足糸で固着する。殻長 40 mm。津軽半島以南、台湾、中国大陸南部に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、中之島、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川に分布。

和歌山県では汽水域の護岸間隙に見られ、紀の川支流の土入川ではマガキ群の間隙に多数個体が、また和歌川河口域では少数個体が確認されている。比較的、汚染に強い貝で、大阪湾南部では生息が確認されるものの、大阪市近郊では絶滅とされる。環境省カテゴリーで準絶滅危惧種と区分される一方、三重県では生息地、個体数も多いとして、絶滅危惧対象種から除外されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50 (1)：134–139.
5　三長秀男．2004．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して．かたをなみ，2：7–35.
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69–74.
写真：三長秀男提供

カモジガイ　*Lutraria arcuata* Reeve, 1854　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾干潟の潮間帯から水深 20 m 付近までの礫砂底に生息。貝殻は堅固、長楕円形で背側はやや反り、後端は開き、殻表に茶褐色の殻皮をもつ。殻長 120 mm。房総半島・能登半島以南、南西諸島、中国大陸南部、インド・太平洋に分布。和歌山県内では有田郡広川町西広、白浜町畠島に分布。

和歌山県では近年、西広からのみ主に波浪時の後、確認され、軟体部が残存した個体も見られるが稀である。近隣地域で三重県では伊勢湾湾口部、英虞湾で生貝が確認されているが、個体数は少なく、また、愛知県では情報不足である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　久保弘文．2012．カモジガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．140．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

オオトリガイ　*Lutraria maxima* Jonas, 1844　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾から外洋の潮間帯下から水深 10 m の砂泥底に生息。貝殻は大型、長楕円形で白色、生貝では淡緑褐色の殻皮を持つ。殻長 120 mm。房総半島銚子市以南、九州、台湾、ベトナムに分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市、有田郡広川町西広海岸に分布。

和歌山県では近年、軟体部が残存した個体は西広干潟から波浪後の打ち上げ個体として確認される。軟体部には寄生カニのピンノ類が残存する。元々、個体数の少ない種で、近隣地域では、三重県でも希少種で、情報不足とされており、愛知県でも同様である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物．47 (1)：45–50.
2　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015　～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9　貝類．295–383pp．三重県農林水部，津.
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋.
4　久保弘文．2012．オオトリガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．140．東海大学出版会，秦野.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.

参考文献・情報
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
写真：三長秀男提供

ワカミルガイ　*Mactrotoma angulifera*（Reeve, 1854）　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾湾口部の潮間帯下部から潮下帯に生息。貝殻は薄質、殻頂から後腹隅に稜角を持つ。殻長 40 mm。房総半島・但馬以南、九州、中国大陸、東南アジア、オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では名草ノ浜、対ノ浦から新鮮な合弁個体が確認されている。元々、確認例の少ない種である。近隣地域でも三重県では古い死殻の記録あるものの、現状は不明である。また、愛知県では記述がなく、香川県では新鮮な死殻が採集されたが、生貝は未確認である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
4　瀬尾友樹・Tanangonan．2014．2009~2013 年における香川沿岸の海産貝類相について．近畿大学農学部紀要，47：87–124.
5　山下博由．2012．ワカミルガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．142．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

ユキガイ　*Meropesta nicobarica*（Gmelin, 1791）　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾奥部の干潟で水深 20 m のアマモ場周辺の砂泥底に深く穿孔し生息。貝殻は薄質、白色で卵形、殻表には微細な放射肋状の彫刻を持つ。殻長 50 mm。房総半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌川布引干潟、有田川河口、広川町西広海岸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では各地から新鮮な死殻が確認されるが、個体数は少数である。従来、大阪湾南部で未記録であったが、2000 年に最初に記録された。三重県では英虞湾の 1 地点で生息が確認されたが、個体数は非常に稀とされる。本種は南西諸島が主生息域で、近年、海水温暖化で生息域が北上した種と見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　木村昭一・山下博由．2012．ユキガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．142．東海大学出版会，秦野.
3　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田.

参考文献・情報
4　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
写真：三長秀男提供

クチバガイ　*Coecella chinensis* Deshayes, 1855　マルスダレガイ目　チドリマスオ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の潮間帯上部の砂礫中に生息。貝殻は堅固、長楕円形、膨らみは弱く、殻表に黄褐色の殻皮を持つ。殻長 25 mm。北海道西部以南、九州、台湾、中国大陸、フィリピンに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜、名草ノ浜、有田市河口、広川町西広、白浜町富田対ノ浦、串本田子に分布。

和歌山県では河口汽水域や内湾に確認され、打ち上げ個体の多くは両殻が閉じた状態で見られ、対ノ浦では合弁個体が記録されている。近隣地域では、大阪湾南部で男里、近木に多産する。これらの地域では食用とされている。三重県では生息地、個体数が多いことから、絶滅危惧種の対象外とされており、愛知県でも同様である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田.
4　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142.
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相　2．二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.
写真：三長秀男提供

イソハマグリ　*Atactodea striata*（Gmelin, 1791）　マルスダレガイ目　チドリマスオ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

粗砂・サンゴ砂礫の海浜の中潮上部に生息。貝殻は堅固、亜三角形、前縁は丸く、後縁は細くやや尖り、殻表は低い同心円肋を持つ。殻長 35 mm。紀伊半島以南、南西諸島、小笠原、中国大陸南部、インド・太平洋、地中海に分布。和歌山県内では白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県での本種の分布は現在、白浜町周辺で確認され、対ノ浦では合弁個体を確認。南西諸島が主生息域で、現地では味噌汁の具として採取される。ただ、これらの地の多くは、近年、陸土流入や造成工事等で環境が悪化しており、今後、和歌山県内にも影響が懸念される。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
2　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.

参考文献・情報
3　山下博由．2012．イソハマグリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．144．東海大学出版会，秦野．
写真：三長秀男提供

シオヤガイ　*Anomalodiscus squamosus* (Linnaeus, 1758)　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



内湾干潟の泥底、砂泥礫底に生息。貝殻は亜三角形、堅固、黄白色、殻表に粗い布目状の彫刻を持つ。殻長 30 mm。日本、中国大陸南部から東アジア、オーストラリア西部の西太平洋域、アンダマン海からインド西部のインド洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、水軒浜、名草ノ浜、和歌川河口、海南市琴の浦、有田川河口、広川町江上川、田辺湾奥部、内之浦、白浜町富田対ノ浦、堅田、那智勝浦町湯川に分布。

選定理由

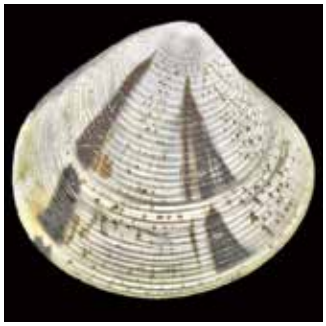
和歌山県では、ほぼ全域の河口域や内湾から確認される。本種の国内での生息状況は「絶滅寸前」とされていたが（福田，1996）、県内の産地でも田辺湾奥部では、本種の生貝の多産が確認される。本種の国内での分布は、三重県英虞湾を北限とし、和歌山県、淡路島、四国南部、九州に産地が限定されている。逆に沖縄や先島諸島では化石が出るものの、生貝は確認されない。これは本土の現生種は、縄文海進の温暖期に熱帯域から北上した個体群の遺存と見られる。周辺地域では、三重県英虞湾、五ケ所湾で比較的多く生息。ただ、10 年前と比較すると個体数は少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　福田　宏．1996．WWF サイエンスレポート，3．(6) 軟体動物　腹足綱．：11–52pls．1–11pp．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（Ⅰ）．南紀生物，46：31–36．
3　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1–14．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153–158．
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69–74．
6　山下博由・木村昭一．2012．シオヤガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．145．東海大学出版会，秦野．
写真：三長秀男提供

シラオガイ　*Circe undatina* (Lamarck, 1813)　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



内湾や湾口部の低潮帯から水深 10 m の砂底、砂泥礫底、アマモ場に生息。貝殻は堅固、黄白色、殻表に粗い布目状彫刻を持つ。殻長 10 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、中国大陸南部からシンガポールに分布。和歌山県内では水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、みなべ町鹿島、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦、畠島、臨海に分布。

選定理由

本種の生息状況は本土では「絶滅寸前」と定義される（和田ら，1996）。全国的に古い死殻が確認され、かつては広範囲に分布したと見られる。和歌山県では田辺湾奥部に生貝が普通に見られ、三重県の英虞湾、熊本県天草の温暖干潟とともに健全な個体群の保存が確認される地域である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
2　和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤　真・島村賢正・福田　宏．1996．日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状．WWF サイエンスレポート，3：182.
3　山下博由・木村昭一．2012．シラオガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．146pp．東海大学出版会，秦野.

写真：三長秀男提供

ケマンガイ　*Gafrarium divaricatum*（Gmelin, 1791）　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾湾口部に近接した岩礫地の砂中や転石に生息。地域によっては食用貝。貝殻は堅固、殻長 40 mm。房総半島・能登半島以南、九州、東南アジア、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌浦湾、田辺湾内之浦、元島、白浜町富田対ノ浦、堅田に分布。

和歌山県ではほぼ全域から確認でき、特に田辺湾では、田辺湾内之浦、元島等で多数個体が確認される。著しく個体数が減少した地域がある一方、全国的には、田辺湾は三重県英虞湾、五ケ所湾、山口県深川湾他と並ぶ健全な個体群の存在が確認できる地域であり、今後、カテゴリーの検討を要する。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．ケマンガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．149．285pp．東海大学出版会，秦野.
2　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2011．田辺市干潟公園・鳥ノ巣海岸で観察した貝類．くろしお，(30)：50–54.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153–158.
4　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976–2001．南紀生物，43 (2)：102–108.

写真：三長秀男提供

スダレハマグリ　*Marcia japonica*（Gmelin, 1791）　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾や河口域の礫混じりの泥質底に生息。貝殻は堅固、褐色で三角形、殻表は顕著な成長脈を持つ。殻長 45 mm。紀伊半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、有田市河口、田辺湾奥部、内之浦、白浜町富田対ノ浦、白浜町日置、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では全域から採集されているが、各産地とも、多くは数個体の確認のみである。これは近年の海水温上昇による分布域の拡大と見られる。ただ、主生息域の奄美、沖縄で生息環境が悪化しており、今後、和歌山県内の生息状況に影響する可能性がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50.
2　木村昭一．2012．スダレハマグリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．149．東海大学出版会，秦野.

参考文献・情報
3　久保弘文．2017．スダレハマグリ　改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物　第３版．647pp．沖縄県環境部自然保護課，那覇．
4　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74.
6　久保田　信．2015．和歌山県の干潟で死亡したスダレハマグリ（二枚貝綱：マルスダレガイ科）．くろしお，(34)：52–53.
写真：三長秀男提供

ガンギハマグリ　*Pitar lineolatum* (Sowerby Ⅱ, 1854)　マルスダレガイ目　マルスダレガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾湾口部の細砂干潟の低潮帯から潮下帯のアマモ場付近の礫混じりの砂泥底に生息。貝殻はやや薄質、ハマグリ型でよく膨らみ、淡黄白色で殻表に折れ線状の模様を持つ。殻長 25 mm。房総半島・佐渡から九州、南西諸島、中国大陸、台湾に分布。なお、山口県北部から九州西岸で生息域や個体数は激減している。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市河口、田辺湾奥部、元島、白浜町富田対ノ浦、串本町橋杭に分布。

和歌山県では田辺湾奥部では比較的、生貝が見られ、他に加太では幼貝が、名草ノ浜では 1987 年に軟体部が残存した個体が、対ノ浦からは合弁の死殻が、それぞれ確認されている。近隣地域では、三重県で 2 地点の生息地が確認されているが、採集例は非常に少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50.
2　福田　宏・木村昭一．2012．ガンギハマグリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．151．東海大学出版会，秦野.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
4　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.
写真：三長秀男提供

コヅツガイ　*Eufistualana grandis* (Deshayes, 1855)　ツクエガイ目　ツクエガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の潮間帯から潮下帯の砂泥底に石灰質の 100 mm を超す細長い生棲管を分泌し、この生棲管は底質に、ほぼ垂直に埋没し、その中に生息する。貝殻は薄質、長方形、殻長 40 mm。房総半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、磯ノ浦、名草ノ浜に分布。

和歌山県では和歌山市のみで記録され、かつて水軒浜からは棲管と貝殻が保存された生貝が確認されている。近年では名草ノ浜から生棲管のみが記録される。現在、本土での本種は生貝の採集例はない。近隣地域でも、三重県では 2014 年、伊勢湾湾口部から新鮮な死殻が採集され、愛知県では三河湾湾口部

選定理由　で、稀に棲管や貝殻の死殻が確認されているが、生貝は未確認である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　木村昭一・久保弘文．2012．コヅツツガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．153．東海大学出版会，秦野．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139．

写真：江川和文撮影（左：貝殻、右：棲管）

ニッポンマメアゲマキ　*Galeomma* sp.　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由　内湾や湾口部の干潟や岩礫地の中・低潮帯の泥・砂泥に埋もれた岩の隙間に着生して生息。貝殻は薄質で長い楕円形、白色から黄白色、埋没した岩に固着する。殻長 10 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州、朝鮮半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、和歌川（和歌浦湾）、有田郡広川町江上川、日高郡由良町吹井、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦、串本町江田、袋、上浦、田並、那智勝浦町ゆかし潟に分布。

和歌山県では、田辺湾奥部で砂泥に埋没した岩礫下に生貝が多産し、両殻を開いた状態で岩に着生する状態が確認される。同産地以外の生息例は少数である。近隣地域では、三重県の生浦湾、英虞湾他で健全な個体群が確認され、愛知県では、三河湾と知多湾で生息が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
2　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16–23．
3　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物，55（1）：73–78．
5　山下博由．2012．ニッポンマメアゲマキ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．159．東海大学出版会，秦野．

写真：三長秀男提供

ウロコガイ　*Lepirodes takii* (Kuroda, 1945)　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由　内湾や外洋に面した湾口部等の低潮帯から水深 20 m の埋没した岩礫下に生息。貝殻は薄く半透明、殻表には放射状の多数の微小顆粒を持つ。殻長 17 mm。駿河湾、紀伊半島、瀬戸内海、高知県、九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太（田倉崎）、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、海南市冷水、田辺湾奥部、みなべ町堺に分布。

和歌山県内での確認例は稀であるが、加太（田倉崎）で採集され、田辺湾奥部では、潮間帯下の転石下のヒドロ虫類と思われる群体中で生息状況が確認されている。近隣地域では、淡路島成ケ島や三重県伊勢湾湾口部等で生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2015．和歌山市加太・田倉埼の貝．かたをなみ，10：4-6.
2　池辺進一．2016．和歌山県の珍しい二枚貝．がんがら，11：18.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
4　久保弘文．2012．ウロコガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．160．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

スジホシムシヤドリガイ　*Nipponomysella subtruncata* (Yokoyama, 1922)　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の干潟から潮下帯の砂泥底で、スジホシムシモドキの体表に寄生して生息。貝殻は微小、白色、長卵形で膨らみは弱い。殻長 5 mm。浜名湖以南、九州、南西諸島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、毛見崎、名草ノ浜、田辺湾奥部に分布。

和歌山県では田辺湾奥部のアマモ帯でスジホシムシモドキに寄生する本種が確認されているが、個体数は少ない。近隣地域では、三重県で伊勢湾中部の干潟 5 地点に生息が確認された。また、愛知県では従来、三河湾で 2 地点が確認されていたが、2004 年以降、生息は不明である。なお、本種の宿主は従来のスジホシムシではなく、近似種のスジホシムシモドキに改められた。このため、貝の和名が「スジホシムシモドキヤドリガイ」と変更されているが、ここでは慣用の和名を採用した。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2012．和歌山市・毛見崎の貝類．かたをなみ，8：15-19.
2　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1-14.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137-142.
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153-158.
5　木村昭一・久保弘文．2012．スジホシムシモドキヤドリガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．161．東海大学出版会，秦野.
写真：三長秀男提供

マツモトウロコガイ　*Paraborniola matsumotoi* Habe,1958　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾・湾口部の干潟・岩礫地の転石下、低潮帯に生息。貝殻は薄質、半透明で白色、殻頂部は褐色を帯びる。殻長 7.5 mm。房総半島・男鹿半島以南、九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太（田倉崎）、名草ノ浜、海南市冷水に分布。

和歌山県では加太（田倉崎）、田辺湾奥部で生息が確認され、また、名草ノ浜では死殻が確認されているが、県内では個体数は稀である。近隣地域では、三重県で伊勢湾湾口部周辺から生貝が確認された。また、愛知県では近年、県内 3 地点で生息が確認されたが、個体数は少ない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2015．和歌山市加太・田倉埼の貝．かたをなみ，10：4-6.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　木村昭一・山下博由．2012．マツモトウロコガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．161．干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．161．285pp．東海大学出版会，秦野.
4　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，(32)：1-14.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137-142.
写真：三長秀男提供

マゴコロガイ　*Peregrinamor ohshimai* Shoji, 1938　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の潮間帯から水深 10 m 程度の砂泥底に生息。アナジャコ類の頭胸部腹面に足糸で着生する習性を持つ。貝殻は両殻の合体状態がハート形となり、この和名がある。東京湾以南、九州に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口（和歌浦）、名草ノ浜、片男波、海南市船尾、冷水、有田市宮崎町に分布。

和歌山県では和歌浦湾でアナジャコ類に着生する生貝を確認、他に有田市宮崎町での確認例（宿主不明）が、また、死殻半片は紀の川、名草ノ浜で見られるが稀である。全国的にも個体数が減少している。近隣地期で三重県では 1990 年に津市で最初に確認され、その後、伊勢湾奥部でも生息が確認された。また、愛知県では 2008 年、名古屋市沖から 1 個体を採集したに過ぎない。なお、宿主（ホスト）のアナジャコ類は三重県、愛知県とも普通に見られることから、本種の減少の要因との確認は不明である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
2　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45 (1)：7-12.
3　木村昭一・山本妙子．1990．マゴコロガイを伊勢湾で採集．ちりぼたん，21 (1．2)：12-13.
4　木村昭一・山下博由．2012．マゴコロガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．162．285pp．東海大学出版会，秦野.
5　三長秀男．2004．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して．かたをなみ，2：7-35.
6　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16-23.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50 (1)：134-139.
8　庄司幸八．1938．珍しき共棲二枚貝マゴコロガヒ．貝類学雑誌，8 (3・4)：119-128．pls．3-4.
9　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69-74.
写真：三長秀男提供

オサガニヤドリガイ　*Pseudopythina macrophthalmensis* Morton & Scott, 1989　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

内湾の泥質干潟から水深 10 m の泥礫底、オサガニ類の脚や巣穴に生息。殻は微小、やや硬質、紫褐色から淡褐色膨らみのある亜三角形。殻長 3 mm。駿河湾以南、沖縄、先島諸島、香港に分布。

選定理由　和歌山県では田辺湾内之浦で 2010 年に確認され、県内ではこれが唯一の確認例と見られる。近隣地域でも情報は少なく、三重県では英虞湾湾口部の潮下帯よりメナガオサガニ類に着生した生貝の採集記録のみである。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　木村昭一．2015．三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～．9．貝類．295–383pp．三重県農林水産部，津．
2　久保弘文・木村昭一．2012．オサガニヤドリガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．163．285pp．東海大学出版会，秦野．

オオノガイ　*Mya japonica* Makiyama, 1935　オオノガイ目　オオノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



内湾干潟や河口域から外洋の水深 80 m までの砂泥底に生息。食用種。貝殻は薄質、白色、長い卵形、後端は細く開き、殻表は平滑。殻長 90 mm。北海道以南、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川河口、布引、片男波、名草ノ浜、有田市河口、広川町江上川、田辺湾奥部に分布。

選定理由　和歌山県では田辺湾奥部ではアマモ場の泥砂底に生息が確認される。また、江上川では潮間帯下部から幼個体 1 例が採集されているが、個体数は少ない。なお、他地域で福岡県和白干潟や江戸川河口（千葉県）では普通に見られ、食用の対象種である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物．47（1）：45–50．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
3　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（Ⅰ）．南紀生物，46：31–36．
4　木村昭一・山下博由．2012．オオノガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．167．東海大学出版会，秦野．
5　三長孝輔・三長秀男．2005．江上川（和歌山県有田郡広川町）河口汽水域の貝類．かきつばた，31：1–7．
6　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14．
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139．
8　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74．

写真：池辺進一標本

クシケマスオガイ　*Cryptomya elliptica* (A. Adams, 1851)　オオノガイ目　オオノガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

内湾の干潟から水深 30 m に生息。アナジャコ類の巣穴を利用していることが知られている。貝殻は薄質、白色、長円形、殻表に細かい放射肋を持ち、後端は開く。殻長 20 mm。伊勢湾以南、九州、インド・太平洋、紅海に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川河口、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、串本町和深、那智勝浦町湯川に分布。

和歌山県では、名草ノ浜など細砂海岸で新鮮な合弁個体を確認しているが、個体数は少なく、生貝の確認例は不明である。近隣地域でも、三重県では記述がなく、愛知県では 1980 年代に大量に打ち上げがあったが、1990 年代に激減した。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
3　木村昭一．2012．クシケマスオガイ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．166．東海大学出版会，秦野．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50 (1)：134–139．
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69–74．

写真：三長秀男提供

バラフマテ　*Solen roseomaculatus* Pilsbry, 1901　マテガイ目　マテガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

潮間帯下部から潮下帯に生息。貝殻は長く伸びた長方形、背中側に反る。殻長 50 mm。房総・能登半島以南、中国大陸、台湾、アフリカ東岸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では、近年、名草ノ浜からの死殻のみが採集された。現在まで他の産地での確認はない。近隣地域では、大阪湾南部の男里海岸で 2004 年に最初に確認され、三重県では伊勢湾湾口で死殻半片が確認されたが、生貝の採集例はない。また、愛知県でも近年、生貝の採集例はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．バラフマテ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．170．東海大学出版会，秦野．
2　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
4　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50 (1)：134–139．

写真：三長秀男提供

リュウキュウマテ　*Solen sloanii* Hanley, 1843　マテガイ目　マテガイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

潮通しのよいアマモ場で水深 20 m 付近までの細砂や砂礫底に生息。貝殻はマテガイより太短く、直線的な筒形、殻表に小斑点が散在する。殻長 80 mm。串本町潮岬周辺、高知県土佐沖ノ島以南、南西諸島に分布。

和歌山県では、串本町のみが確認地である。本種は南西諸島以南が主生息地で、和歌山県での産出は土佐沖ノ島と同様、偶因分布に近いものと見られる。主生息域では、造成工事等で生息地や個体数が激減しており、今後、和歌山県内にも影響があると見られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　久保弘文．2012．リュウキュウマテ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．170．東海大学出版会，秦野．

写真：田中眞人提供

ヤマトシジミ　*Corbicula japonica* Prime, 1864　マルスダレガイ目　シジミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

汽水湖、河口汽水域では緩い流水中の砂礫底、砂泥底に生息。貝殻は丸みを帯びた三角形、殻頂は高まり、黒色の光沢を帯びた殻皮を持つ。殻長 40 mm。北海道北部以南、九州に分布。

和歌山県では紀の川河口、有田川、日高川河口、富田川で生息を確認されている。紀の川では紀の川大堰南岸から北島橋上流間、また、日高川では南岸の北島の東に位置する水路に生息が見られる。ともに春の大潮時期には地元の人々による採捕が行われる。古来、食用貝として知られる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏・木村昭一．2012．ヤマトシジミ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．138．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　中本博之・土岐頼三郎・江川和文．2005．日高川河口周辺で観察した貝類．くろしお，(24)：44-46．
3　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44 (2)：115-121．
4　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69-74．
5　和田恵次．私信．

写真：和田恵次提供

トゲトゲツボ　Tornidae gen. & sp. A　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

砂泥干潟表層の水深 5~20 cm のタイドプールのアオアオサ上に生息。貝殻は微小、極めて薄質、無色半透明、タマガイ状で臍孔は広い。殻高 1 mm。宮城県万石浦、三重県志摩市英虞湾、和歌浦に分布。

和歌山県では和歌浦が唯一の産地で、以降、再確認例はない。科名以外（イソコハクガイ科）は不明、今後、属名、種名の検討の必要がある。　執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．トゲトゲツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．44．東海大学出版会，秦野．

チクチクツボ　Tornidae gen. & sp. B　エゾタマキビ目　イソコハクガイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

砂泥質干潟表層面の水深 5~20 cm のタイドプールのアオアオサ上に生息。貝殻はトゲトゲツボに近似し、殻表に細い明瞭なジグザグの螺脈をめぐらす。殻高 1 mm。

和歌山県では和歌浦が唯一の産地で、以降、再確認例はない。科名以外（イソコハクガイ科）他は不明で、今後、属名、種名の検討の必要がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．チクチクツボ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．44．東海大学出版会，秦野．

ヒガタヨコイトカケギリ　*Cingulina* sp. (Dunker, 1860)　トウガタガイ目　トウガタガイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

内湾や河口干潟に生息。海産種のヨコイトカケギリに酷似する。貝殻の形状からの区分は困難で、動物体の形状で種の差異が判別される。ヨコイトカケギリが海岸の岩礁潮間帯下の砂泥底に生息するのに対し、本種は内湾干潟域に見られる。殻高 8 mm。陸奥湾から九州に分布。

和歌山県では和歌川河口での記録が最初で、唯一である。動物体の形状以外、貝殻に差異は少ないことから、将来、新たな産出記録があると考えられる。



執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2012．ヒガタヨコイトカケギリ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．184．東海大学出版会，秦野．
2　三長秀男．2004．和歌浦の干潟の生物観察会に参加して．かたをなみ，2：7-35．
3　三長秀男・三長孝輔．2017．和歌川河口奥部干潟に生息する貝類の近況．かきつばた，42：16-23．
4　三浦知之．2008．干潟の生きもの図鑑．198pp．南方新社，鹿児島．
写真：三長秀男提供

ハベキビ　*Parakaliella habei* (Kuroda, 1944)　マイマイ目　シタラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	−

選定理由

田辺湾神島産で記載されたハリマキビ属の種で、他地域からの報告の少ない。学名・和名の「ハベ」は波部忠重に献名されているが、今後、更に生殖器を明らかにする必要がある。



貝殻は微小（殻長 1.9 mm、殻径 2.7 mm）、円錐形状。殻表は絹光沢で、体層の周縁は明瞭である。

和歌山県田辺市神島の他、串本町田子・双島からの死殻が確認されているものの、他の地域からの情報は全くなく、情報不足である。

本種の所属は類似種の解剖によって、ハリマキビ属 *Parakaliella* が創設されて、所属はここに変更されたが、解剖知見が未見のために再検討が必要である。

執筆者（湊　宏）

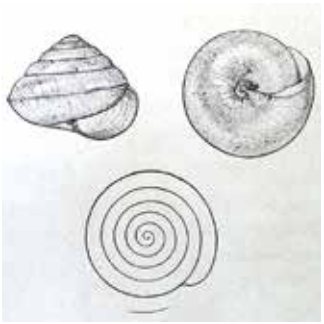
参考文献・情報

1　波部忠重・稲葉明彦．1996．ハベキビガイ．西宮市所蔵　黒田徳米博士記載貝類模式標本目録．38．pl. 26．西宮．

参考文献・情報
2　黒田徳米．1944．田辺湾神島産陸貝．Venus，13 (5-8)：313-316.
3　湊　宏．1988．田辺湾神島の陸産貝類．神島の生物（和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書）．49-52 pp．田辺市教育委員会，田辺.
4　湊　宏．2005．双島（串本町）の陸産貝類，特にミジンマイマイ類の分類について．南紀生物，47 (1)：37-42.
写真：西宮市（1996）典拠

キイキビ　*Trochochlamys kiiensis*（Azuma, 1960）　マイマイ目　シタラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	情報不足（DD）	国	情報不足（DD）



選定理由

本種は原記載時（東，1960）にはキイヒメベッコウと称されていたが、その後の検討によってカサキビ属に所属が変更された。個体数の少ない種で生殖器の検討等、研究の課題が残されている種である。

貝殻の小形（殻径 5 mm 前後）で、円錐形状を呈し、体層周縁の角は鋭くて明瞭である。

模式産地は新宮市熊野川町田戸（瀞八丁）であるが、紀伊山地の山岳地帯に広く生息していると考えられる。夏季に樹上採集で微小な昆虫とともに採集される時がある

学名と和名に「キイ」を冠している本種は、紀伊山地の固有種である。今後において生殖器の検討等、課題は多い。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　東　正雄．1960．北山峡陸産貝類について．Venus，21 (1)：4-10.
2　東　正雄．1982．原色日本陸産貝類図鑑．169．302pp．保育社，大阪.
写真：東（1960）典拠

ナガナタネガイ　*Columella edentula*（Draparnaud, 1805）　マイマイ目　キバサナギガイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)



選定理由

北方系の種類であるが、本県では高野山でしか生息が確認されていない。標高の高い地域に残存的に生息している種類であること、微小種であることで生息を確認することが難しい。

貝殻は微小（殻長 2.5~3 mm、殻径 1.5 mm)、円筒形状、6 層。殻表は光沢があり、黄褐色を呈する。殻口縁は薄くて鋭い。殻口内には歯を欠く。臍孔は狭い。

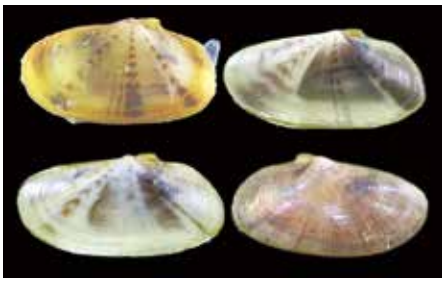
わが国では北海道、本州の高山地帯に分布。一部は本州を南下して分布するが、本州では中国地方の大山を西限として記録がある。北海道～本州北部に分布する種であるが、和歌山県では高野山の標高の高い地域しか、生息が確認されていない。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．2005．日本産陸棲貝類の分布資料 4，キバサナギガイ科：ナガナタネガイ．しぶきつぼ，(25)：5-9.
2　湊　宏・中島良典．2014．大山周辺地域（鳥取県・岡山県）を中心とするナガナタネガイの分布西限記録とその生息状況．ちりぼたん，45 (2)：72-77.
3　上島　励．2014．東北地方以南のナガナタネガイ．レッドデータブック 2014　−日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 貝類．434pp．ぎょうせい，東京.
写真：湊・中島（2014）典拠

アシベマスオ　*Hiatula petalina* (Deshayes, 1885)　トブシジミ目　シオサザナミ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）



選定理由

内湾奥部の干潟で、細砂底、砂泥底に生息。貝殻はオチバガイに近似するが、小型、薄質、色彩は白色から紫褐色で、更に放射帯を持つ個体等、変異に富む。殻長 20 mm。紀伊半島、豊後水道北部、九州西岸以南、北オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市加太、紀の川、名草ノ浜、有田市河口、広川町西広海岸、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。

本種は、1980 年代頃から不明種とされていた種で、和歌山県でも 2003 年に和歌川河口南岸で多産が確認された。国内の既知種に該当はなく、オーストラリア北岸を模式産地とする一種であることが確認され、赤人の万葉歌をもとに和名が新称された。その後、西日本各地から産地が確認されるが、個体数が時期により一定しないため、注視を要する。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50.
2　福田　宏．2012．アシベマスオ　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p. 135．東海大学出版会，秦野.
3　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23.
4　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9.
5　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.
7　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55 (2)：153–158.
8　野田圭典．2001．日本におけるアシベマスオガイ（新称）の生息分布記録．ちりばたん，31 (4)：91–97.
9　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48 (1)：69–74.
10　土岐頼三郎・野田圭典．2004．和歌山県におけるアシベマスオの現状（軟体動物門、二枚貝綱、シオサザナミ科）．南紀生物，46 (2)：152–153.

写真：三長秀男提供

コハギガイ（ガタヅキ）　*Artritica reikoae* (Suzuki & Kosuge, 2010)　ウロコガイ目　ウロコガイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）



選定理由

内湾河口域の砂泥干潟底に生息。貝殻は微小、殻表は平滑で多くは硫化鉄に覆われる。殻長 1.5 mm。東京湾奥江戸川河口、陸奥湾、多摩川河口、伊勢湾、瀬戸内海西部、種子島、西表島等に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川河口（和歌浦湾）、名草ノ浜に分布。

和歌山県では和歌山市周辺の河口域に見られる。国内最初の確認地が和歌浦湾で、産出状況が 1 m 四方に 3 万個体以上という異常なものであった。当初、外来種の可能性も懸念されたが、江戸川河口を模式産地に新種記載された。その後、和歌浦湾から高密度の生息はなく、紀の川河口岸から多数個体が確認されていたが、2008 年以降、激減した。これは同所的に多産していたウミゴマツボ、カワグチツボも姿を消していることから、河底の浚渫等で生息域が除去された可能性がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

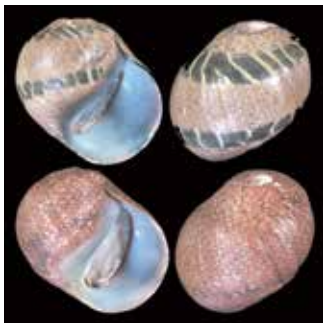
1　福田　宏．2012．ガタヅキ（コハギガイ）　干潟の絶滅危惧動物図鑑（日本ベントス学会編）．p．154．東海大学出版会，秦野．
2　平井　肇．1982．和歌浦産新種二枚貝の個体群動態　昭和 56 年度研究発表要旨．南紀生物，24（1）：71．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49（2）：137–142．
4　Suzuki, T. & Kosuge, S. 2010. Description of a new species of Laseana reikoae Suzuki & Kosuge, from estuary area of Edogawa River, Tokyo Bay (Bivalvia, Erycinidae). Bulletin of the Institute of Malacology, Tokyo. 3 (10)：147–148 pls. 46–47.
5　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市紀の川河口域の貝類相（補遺）．南紀生物，53（1）：91–94．
6　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2015．和歌山市紀の川産コハギガイについて．くろしお，（34）：43–46．

写真：三長秀男提供（江川和文採集）

カノコガイ　*Clithon faba* (Sowerby, 1836)　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	－	国	－

選定理由



河口の汽水域に生息する種で、貝殻はほぼ球形、貝殻の模様は変異が大きく、太い縦縞模様から多数の微小な白い三角斑を持つ個体まであり、後者は一見、同所的に生息するイシマキガイに酷似する。殻高 10 mm。紀伊半島以南に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、和歌川河口（和歌浦）、名草ノ浜、海南市琴ノ浦、有田市、有田郡広川町江上川、御坊市日高川、田辺湾奥部、那智勝浦町ゆかし潟、湯川に分布。

和歌山県では現在、各地から確認される種であるが、かつて県内での産出は疑問視され、九州以北での本種の記録はイシマキガイの誤認ではとの指摘もあった。和歌山県内での確実な産出例は紀の川河口各地での記録で、現地で多数の個体が確認されており、以後、県内各地から記録されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　江川和文．2004．和歌山県有田川河口域の貝類相　1　腹足綱．南紀生物，46（2）：167–172．
2　福田　宏．1996．WWF サイエンスレポート，3．（6）軟体動物　腹足綱．1–11．11–52 pls．
3　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
4　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12．
5　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2004．和歌山県北中部の河口・干潟域における大型底生動物相（1）．南紀生物，46（1）：31–36．
6　小菅丈治・野田圭典．2000．カノコガイの生息環境Ⅱ　和歌山県紀の川からの産出と異なる地域間での生息場所の比較．南紀生物，42（2）：105–108．
7　小山安生．2008．和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録　アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科．南紀生物，50（1）：91–95．
8　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14．
9　中本博之・野田圭典・土岐頼三郎・江川和文．2003．江須崎で観察した貝類．くろしお，（22）：43–49．
10　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26．
11　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2005．和歌山県紀の川河口域の貝類相 1　腹足綱．南紀生物，47（2）：191–196．

写真：三長秀男提供

ハナガスミカノコ　*Clithon chlorostoma* (Broderipi, 1832)　アマオブネ目　アマオブネ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾干潟、河口域に生息。貝殻は小型、堅固、縫合がくびれ螺層が高まり、殻表は平滑で、微小な三角形の斑紋をめぐらす。殻高 10 mm。紀伊半島以南に分布。和歌山県内では広川町小浦、西広海岸、白浜町西谷・稼谷・見草・笠甫・中芝に分布。

従来、九州以南が主な分布域の種で、近年、四国、紀伊半島まで分布域が北上した種である。和歌山県内では、汽水域の潮間帯の転石上で多数見られる。確認時期は 1998 年から 2000 年の一時期であることから、偶因分布の可能性もある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　小山安生．2008．和歌山県のアマオブネガイ目貝類目録　アマオブネガイ科・コハクカノコ科・フネアマガイ科・ユキスズメガイ科・ゴマオカタニシ科・ヤマキサゴ科．南紀生物，50（1）：91–95.
2　三長秀男・三長孝輔．2004．和歌山県におけるハナガスミカノコの採集記録．南紀生物，46（1）：23–24.
3　三長秀男・三長孝輔．2006．和歌山県で採集したアマオブネ科、フネアマガイ科の貝類．かたをなみ，3：12–23.

写真：三長秀男提供

コオロギガイ（コベルトカニモリ）　*Cerithium dialeucum* Philippi, 1849　オニノツノガイ目　オニノツノガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾干潟や岩礁域の潮間帯の生息種。貝殻は堅固、細長い円錐形で暗褐色から黄色、殻表は縦張肋が不規則にあり、疣状突起をもつ。殻高 30 mm。房総半島・男鹿半島以南、熱帯インド－西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、海南市冷水、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町番所崎に分布。

本種は全国的に普通に見られる種で、県北部では和歌浦湾から生貝が、県中部では田辺湾奥部で安定した個体群が確認されている。ただ、本種は環境省の絶滅危惧種カテゴリーの対象外で、愛知県カテゴリーでも 2009 年には対象外であった。その後、2020 年の改定版では、1980 年から 2000 年にかけ生貝が確認されないことから、準絶滅危惧種に変更されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8pls．和歌山県立自然博物館，海南.
2　木村昭一．2009．愛知県の絶滅のおそれがある野生生物．レッドデータブックあいち　2009．貝類．456–606pp．名古屋.
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．（8）貝類．489–726pp．愛知県．名古屋.
4　久保田　信・小山安生．2002．番所崎、特に“北浜”（和歌山県白浜町）へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録（1）．南紀生物，44（1）：69–76.
5　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35.
6　三長孝輔・三長秀男．2006．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類．かきつばた，32：1–14.

写真：三長秀男提供

カニモリガイ　*Rhinoclavis koch* (Philippi, 1848)　オニノツノガイ目　オニノツノガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

潮間帯から水深 62 m の細砂底に生息。貝殻は堅固、細長く、殻表には光沢を帯び、顆粒列を持つ多数の螺肋をめぐらす。殻高 40 mm。房総半島・男鹿半島以南、インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、広川町西広、御坊市上祓井戸、田辺湾奥部、白浜町番所崎、畠島に分布。

和歌山県ではかつて、細砂海岸に普通に見られた貝で、現在も各地で確認されている。しかし、本種は生息状況の消長が顕著で、相模湾では消滅寸前にランクされ、愛知県では 1990~2000 年の 10 年間、生貝が確認できない時期が示されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　久保田　信・小山安生．2002．番所崎、特に“北浜”（和歌山県白浜町）へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録（1）．南紀生物，44（1）：69–76．
3　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23．
4　三長秀男・三長孝輔．2004．上祓井戸の浜（和歌山県御坊市名田町野島）の貝類（1）．かたをなみ，2：12–35．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田　圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26．

写真：三長秀男提供

ヒメカニモリ　*Rhinoclavis sordidula* (Gould, 1849)　オニノツノガイ目　オニノツノガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

細砂底の潮下帯で水深 44 m までに生息。貝殻は細長く、堅固、殻表は細い螺肋と縦肋が交差し顆粒状となる。殻高 25 mm。相模湾・能登半島以南、熱帯太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代に造成工事で消滅）、名草ノ浜、和歌浦湾（野田）、田辺市田辺湾に分布。

和歌山県では名草ノ浜で確認されており、当時、産出は少数例であったが、特に稀な種との認識はなかった。また、かつて田辺湾の生物相調査では最優占種でもあったが、原因不明なまま激減し、確認個体のほとんどが死殻で、ホシムシ類の棲家となっていた。現在、田辺湾では本種は確認されていない。近隣地域（三重県、愛知県、岡山県）でも記録されず、愛媛県では絶滅とされる。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　波部忠重．1949．田辺湾の底棲動物群聚　貝類遺骸の堆積．日本水産学会誌，15（5）：238–244．
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　1．南紀生物，48（1）：21–26．
3　大垣俊一．2010．浅海生物相の長期変動－紀州田辺湾の自然史．136pp．南紀沿岸生態研究室，田辺．

写真：三長秀男提供

ヒナツボ　*Berthais egregia*（A. Adams, 1863）　エゾタマキビ目　シロネズミ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾の水深 40 m の砂底に生息。貝殻は微小、白色、薄質、高い紡錘形、臍孔は閉じる。殻高 4 mm。伊豆半島から九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、片男波、有田市初島に分布。

本種は、幕末期に来航した英国海軍測量船により採集・記載された種で、原記載は記載文のみである。後年、模式標本が図示され、種の概要が明らかになった。和歌山県では和歌山市の 3 地点、有田市の 1 地点から死殻のみが確認されたが、個体数は少ない。近隣地域では、大阪湾南部の細砂底から 3 例が、また、愛知県では、名古屋港のサンドポンプからの 1 個体が確認されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　Adams, A. 1863. On Microstelma and Onoba, two forms of rissoid gastropods; with latter from Japan. Annals and Magazine of Natural History, Series 3. 11 (65) : 350–351.
2　波部忠重．1978．ヒナツボ（雛小螺）*Berthais egregia*（A．Adams，1863）．ちりぼたん，10（2）：26. pl．8.
3　池辺進一．2010．和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝．かたをなみ，6：4–9.
4　河合秀高．2009．名古屋港のサンドポンプで得られた貝．かきつばた，34：20.
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2011．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅱ．南紀生物，53（2）：155–160.
7　岡村親一郎・児島　格．1984．大阪湾の貝類（予報）．南紀生物，26（1）：42–44.
8　岡村親一郎・児島　格．1985．大阪湾の貝類相Ⅱ　掘足類・巻貝類の生息記録（その 1）．南紀生物，27（1）：47–51.

写真：江川和文撮影

ナガエンドウガイ　*Amamiconcha okamotoi* Habe, 1962　エゾタマキビ目　シロネズミ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

生態不明、水深 100 m 以浅の砂底に生息すると見られる。貝殻は薄質で脆く、淡褐色半透明から濃褐色、殻表はほぼ平滑で多数の微細な螺状脈をめぐらす。殻高 10 mm。紀伊半島・若狭湾以西、九州まで分布。和歌山県内では和歌山市名草ノ浜、みなべ町堺、那智勝浦町宇久井に分布。

和歌山県での確認個体は死殻のみで非常に稀、産地も 3 地点のみである。模式標本自体、螺塔の欠損した破損個体である。国内での確認例は模式産地の福岡県津屋崎海岸の他、近隣地域では伊勢湾答志島から不明種（*Amamiconcha* sp.）として本種が記録された例がある。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　松本幸雄．1977．伊勢湾答志島のキス網の貝類．ちりぼたん，9（5）：91–92，Pl．10.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2006．和歌山市名草浜の貝類　2．南紀生物，48（2）：159–164.
3　野田圭典・江川和文．1990．和歌山市名草浜産ナガエンドウガイについて．くろしお，（8）：18.

写真：中本・土岐・野田・江川（2006）典拠

ヒメヤカタ　*Hydatina zonata*（Lightfoot, 1786）　オオシイノミガイ目　ミスガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾や河口域、海域の潮間帯から水深 50 m の細砂底に生息。貝殻は薄質、球形、殻表には 2 本の幅広い淡黄褐色螺帯を持つ。殻高 25 mm。房総半島以南、熱帯インド・西太平洋に分布。和歌山県内では有田市河口、田辺市新庄町に分布。

和歌山県では 2 地点から確認され、個体数は非常に少なく、生貝は新庄町のみで見られた。他に、有田川河口での確認個体は全て新鮮な死殻である。主生息域が熱帯インド・西太平洋であり、和歌山県産個体は偶因分布の一例かも知れない。本種は Dunker（1882）の図譜で最初に Wakayama の地名が記録された種でもある。本種は当時のドイツの貝類雑誌に寄稿され、これには表題の「日本」以外、産地の記述や謝辞はない。一方、図譜の方には協力者への謝辞が掲げられ、この中に J. Rein の名があった。彼は維新後 2 年間、産業調査のために来日し、職務の傍ら、大量の動植物を採集した。幕末期の英国外交官 A. サトウの日記には、ドイツの Rein 訪問時、図譜の著者 Dunker との面談を記録している。

執筆者（江川和文）

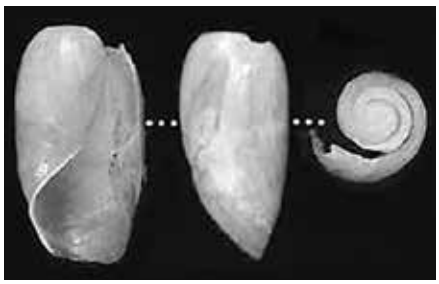
参考文献・情報

1　Dunker, W. 1877. Mollusca nonnulla nova maris Japonici. Malakozoologische Blätter, 24：67–75.
2　Dunker, W. 1882. Index Molluscorum Maris Japonici. 301pp. 16 pls. Sumptibus Theodori Fisher, Kassel.
3　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類（Ⅱ）．かきつばた，(40)：2–16.

写真：三長秀男提供

ウツセミガイ　*Alkera soluta*（Gmelin, 1791）　アメフラシ目　ウツセミガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾から外洋にかけての藻場、アマモ場周辺、潮下帯の砂泥底に生息。貝殻は薄質で脆く、樽形、淡黄褐色、縫合部は深く切れ込み、蓋はない。殻高 40 mm。房総半島以南、インド洋、オーストラリアに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事により消滅）、名草ノ浜、広川町西広海岸に分布。

和歌山県では、かつて水軒浜（造成工事により消滅）で普通に見られた種である。1999 年、約 40 年ぶりに名草ノ浜に 28 例の動物体残存個体が確認され、この個体を基に歯舌の顕微鏡観察、動物体を観察した。環境省のカテゴリーに含まれないが、愛知県では県内では死殻さえ確認できず、絶滅（EX）と定義される。なお、本種は和歌山市を模式産地として新学名 *Akera constricta* が提唱された。原種 *A. soluta* に比べ、より小型で螺塔の隆起がないとの根拠であるが、1999 年の確認個体には高螺塔型と低螺塔型（平巻形）が混在し、種内変異と見られる。なお、原記載は当時の図譜を参照に学名を提唱したのみと推察され、この個体が偶然、高螺塔型であったことに起因する。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　Gmelin, J. F. 1791. Caroli a Linne Systema naturae per regna tria naturae. Editio decima tertia. “Vermes”, Vol.1 (6)：3021–3910.
2　江川和文・土岐頼三郎．2005．和歌山市におけるウツセミガイの採集記録（アメフラシ、ウツセミガイ科）．南紀生物，47 (2)：170–172.
3　黒田徳米．1947．うつせみがひ（みなはがひ）　改訂増補　日本動物図鑑．1085pp．北隆館，東京.

写真：江川・土岐（2005）典拠（土岐瀬三郎採集）

ウズマキキセワタ　*Nakamigawaia spiralis* Kuroda & Habe, 1961　頭楯目　カノコキセワタ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

アマモ場から水深 30 m の砂礫中に生息。貝殻は白色 2~3 回転の平巻で、一見、蚊取り線香を連想させる。本州、九州に分布。

和歌山県では加太から 2 個体を確認、個体数は非常に少なく、砂礫中に死殻のみが採集される。近隣地域に生息例はない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　V．南紀生物．55（1）：73-78.

写真：江川和文撮影

ホラアナミジンニナ　*Moria nipponica* Mori, 1937　エゾタマキビ目　ヌマツボ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

洞窟や渓流等に生息するが、和歌山県では渓流から確認され、亜種 *B.*（*M.*）*n. minatoi* Habe，1965 として記載された。

貝殻は微小（殻高 1.5 mm）、黄白色、和歌山県の亜種は基亜種に比べてやや大きいので識別されたが、今では基亜種のシノニムとされ、現在に至っている。

和歌山県内では、富田川の支流・白浜町高瀬川の奥地（タニガワミジンニナの模式産地）、田辺市深谷、五味、冨里、有田川町上湯川で記録されている。山間地の小さな流れや湿地のコケの間（石の裏）等に棲息している。

ヒコサンミジンニナのように、本種は紀伊半島の渓流で初めて採取された記念すべき微小淡水貝である。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報

1　波部忠重．1965．微小淡水産貝類 1 新種 1 新亜種．Venus，23（4）：205-209.
2　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水産貝類図鑑②　汽水域を含む全国の淡水　貝類．240pp．ピーシーズ，東京.
3　湊　宏・中　優・中野　環．2017．ホラアナミジンニナが対馬島南部（長崎県）に生息する．ちりぼたん，47（1-4）：80-87.

写真：湊・中・中野（2017）典拠

イノウエヤマトガイ　*Japonia inouei* Kuroda & Habe, 1961　ヤマタニシ目　ヤマタニシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

ヤマトガイ属の中で、スプーン状の殻皮付属物を持つこと、本県では分布域が広いにも関わらず、その生息密度が極めて低いことで稀産種に数えることができる。

貝殻は小形（殻径 4~4.8 mm）、円錐形状で螺層は 6 層。体層では殻皮質の板状壁が走り、その周縁に先端が広がったスプーン状の殻皮付属物を 2 列めぐらす。

模式産地は県境の大阪府阪南市山中渓だが、広く県内に生息する。個体数は多くはない。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1975．イノウエヤマトガイ－その研究経過・形態・分布－．南紀生物，17（2）：40-41.
2　湊　宏．1985．日本産ヤマトガイ属の 2 新種．Venus，44（2）：81-86.
3　湊　宏．2012．陸産貝類研究備忘録（10），紀伊半島のイノウエヤマトガイとサドヤマトガイ．かいなかま，46（2）：1-11.

写真：湊　宏撮影

キイゴマガイ　*Diplommatina kiiensis* Pilsbry, 1902　ヤマタニシ目　ゴマガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

豊かな自然環境を持つ森林に生息している「キイ」を冠する本県を代表する微小なゴマガイ科の陸貝で、模式産地は那智である。

貝殻は微小（殻高 3.3 mm）、円筒形状。螺層は 6.5 層、体層の内部にある腔壁は非常に長い。

那智を中心にして、九龍島（湊，2007）、紀伊大島（湊，2009）等の南紀の離島にも広く生息する。

和歌山県を代表するゴマガイ科貝類で、微小種だがこの仲間としては大きい。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　早瀬善正．2015．三重県産キイゴマガイ及び近似種との比較．かきつばた，(40)：34–38.
2　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：91–95.
3　湊　宏．1995．那智山の陸産貝類．南紀生物，37 (2)：87–93.

写真：早瀬（2015）典拠

ソウジマミジンマイマイ　*Vallonia excentrica* Sterki, 1893　マイマイ目　ミジンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

1965 年 10 月に串本町田子・双島からミンジンマイマイ類 *Vallonia excentrica* Sterki，1893 が確認され、ソウジマミジンマイマイと新称された。殻表の平滑な日本初のミジンマイマイである。

貝殻は微小（殻長 1 mm、殻径 2 mm）、殻質は薄質半透明、殻表の成長脈は極めて弱く、平滑である。殻は低平、螺層は 3~3.5 層。臍孔は開き、殻径の 1／3 を占める。

双島で初めて確認されたが、他の地域からは記録がない。

わが国ではミジンマイマイ科は 1 属 3 種が知られ、本県では他に殻表に明瞭な糸掛け状の成長脈をもつミジンマイマイが確認されて 2 種が記録されている。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1970．*Vallonia* 属の日本未記録種ソウジマミジンマイマイ（新称）について．南紀生物，12 (1)：16.

写真：湊（2005）典拠

キイツムガタギセル　*Megalophaedusa pinguis infausta* (Pilsbry, 1868)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

タイプ産地は紀伊大島。1868 年に A. Adams が、大島で採集したキセルガイで、殻長、殻径とも極めて小形。その生殖器の盲管が異常に長いことで、本土側の別亜種（ツムガタギセル）とは明らかに相違を有する。

タイプ標本は殻長 13.2 mm、殻径 4.0 mm で、極めて小形。生殖器の盲管が本土側産のツムガタギセルとは著しく相違することが特徴。

大島でもその生息地域は狭い。大島固有の基亜種。

大島産の本基亜種・キイツムガタギセルは小形であること、生殖器の盲管が長いことを特徴とする。本土側の別亜種・ツムガタギセルは、殻長が長く、しかも生殖器の形態が若干相違するからこれとは容易に識別される（湊，2009）。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　黒田徳米．1941．紀伊大島にてアダムスの採集せし陸産貝類．貝類雑誌（Venus），10（3/4）：157–166.
2　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus，Supplement 2．1–212 + tab 5 + pls．74.
3　湊　宏．2009．大島（和歌山県）の陸産貝類．南紀生物，51（1）：26–32.
写真：湊（2009）典拠

コハゲギセル　*Megalophaedusa attrita infausta*（Pilsbry, 1902）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

基亜種であるハゲギセル *M. attrita attrita* に近似するが、貝殻と生殖器の形態等から識別される。模式産地は那智で、紀伊半島南部の固有亜種。

貝殻は中形（殻長 23~31 mm）、基亜種に比べて小形であること、殻口の唇縁に下軸板が出現しないことで異なる。

紀伊半島南部に広く分布する。基亜種に比べて小形で、紀伊半島の南部で分化した亜種である。串本町産として記載されたカンダギセルは本亜種のシノニム（異名）である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24（2）：91–95.

コスジギセル　*Megalophaedusa plicilabris*（A. Adams, 1868）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

模式産地の田辺湾神島から記載された種である。神島では比較的多く生息するが、他の地域では個体数は少ない。

貝殻は小形～中形（殻長 14~16 mm）、紡錘形状。和名のごとく、殻表の成長脈は顕著で淡黄褐色を呈する。上・下腔壁は月状壁と連結して「エ」字形となる。

田辺市、白浜町等、和歌山県内的には点々と分布しているが、タイプ産地以外では個体数は多くはない。

Adams の東洋航海の時に採集された種で、現在では国の天然記念物に指定されている田辺湾神島が模式産地である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報
1　黒田徳米．1944．田辺湾神島産陸貝．Venus，13．（5-8）：313–316.
2　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24（2）：91–95.
3　湊　宏．1988．田辺湾神島の陸産貝類．神島の生物（和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書）49–52．田辺市教育委員会，田辺.
4　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus，Supplement 2，pl．9.
写真：湊（1994）典拠

ジェイギセル　*Megalophaedusa proba*（A. Adams, 1868）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

タイプ産地は紀伊大島。本種は腔壁に変異性がり、典型的な型（基本型）は大島に分布する。夏季には樹に登る習性がある。

貝殻は小形（殻長 12~16 mm）、紡錘形状で光沢のある黄褐色から褐色を呈する。貝殻の内部に主壁の下に、2~3 個の腔壁がそれぞれ並行して並ぶ。しかし、腔壁の変異が著しい。

近畿南部に分布する。生息地は限定される。紀南地方では海岸地域の樹林に生息する。

選定理由　ジェイとは Adams の友人で、Jay, J. C（1808-1891）を記念している。紀南地方の代表的なキセルガイ科貝類である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：91–95.
2　湊　宏．2009．大島（和歌山県）の陸産貝類．南紀生物，51 (1)：24–32.
3　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus，Supplement 2，pl. 9.
写真：湊（1994）典拠

シロバリギセル　*Megalophaedusa stenospira*（A. Adams, 1868）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由　タイプ産地が紀伊大島で、紀伊半島に広く分布するが、それぞれの生息地では生息密度が低い上に、個体数が極めて少ない。

貝殻は小形（殻長 14~20 mm）、円筒形状で堅固。殻表に極微細な成長脈をめぐらすが、大半の個体では礫等で摩耗していることが多い。上腔壁と月状壁が連結する。

紀伊半島に広く分布するものの、生息密度は低く、個体数も少ない。

Adams が紀伊大島の立ち寄った際に採集された種で、礫交じりの林床で落ち葉の堆積中に生息する。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　黒田徳米．1941．紀伊大島にてアダムスの採集せし陸産貝類．貝類雑誌（Venus），10 (3・4)：157–166.
2　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus，Supplement 2，pl. 9，pl. 12.
3　湊　宏．2009．大島（和歌山県）の陸産貝類．南紀生物，51 (1)：24–32.
写真：湊（1994）典拠

カギヒダギセル　*Megalophaedusa pilsbryi*（Nordsieck, 1997）　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由　田辺市冨里をタイプ産地とする本種は、本県の山地に生息する代表的なキセルガイ。貝殻の内部には月状壁を有する。

貝殻は腹太で紡錘形状、堅固、中形（殻長 24~26 mm）。殻表は新鮮な個体では淡黄褐色で光沢があるが、普通は殻表が剥げ落ちていることが多い。

和歌山県を中心とする山岳地帯のブナ帯に分布。護摩壇山系、大塔山系、那智山系等に生息する。

ブナ帯の林床等に生息する。主として倒木や朽ち木に依存している。朽ち木等の堆積が好条件である。かつての種名は *heteroptyx* だったが、この学名は先取されていたために、1997 年に改名された。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：91–95.
2　湊　宏．1994．日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究．Venus，Supplement 2，pl. 12.
3　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p. 249．世界文化社，東京.
4　湊　宏．2009．陸産貝類研究備忘録（3），“紀伊冨里”のミツクリギセルとその他の 4 種．かいなかま，43 (1)：23–33.
写真：湊（1994）典拠

イトカケギセル　*Stereophaedusa goniopoma* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　キセルガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

和歌山県由良町を模式産地とする本種は、同町の白崎石灰岩地に特に多産したが、石灰岩の採掘等により生息環境が変化してきている。

貝殻は中形（殻長 20 mm）、淡黄褐色の殻表に糸掛け状の縦肋が顕著である。やや短い主壁の下に上・下の腔壁があり、上腔壁の方が多少は長い。

和歌山県北西部の海岸地帯（御坊市亀山、美浜町松原、由良町白崎、有田市宮崎ノ鼻、和歌山城）等に点々と分布している。産地によっては個体数が多い。

ナミギセルにも類似するが、殻表の際立った縦肋を有する。多産した白崎石灰岩地帯では石灰岩の採掘により、生息環境が悪化したが、和歌山県を代表する陸産貝類である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：91–95.
2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．251．世界文化社，東京．
写真：湊　宏撮影

オオヒラベッコウ　*Bekkochlamys dulcis* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　ベッコウマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	情報不足（DD）



選定理由

和歌山県を代表する中形のベッコウマイマイ科貝類で、タイプ産地は那智勝浦町。湿った森林の林床に生息し、生きた個体は極めて少ない。

貝殻は薄くて低平、中形（殻径 15 mm）、黄褐色を呈し、殻表は光沢がある。殻口縁は単純で肥厚せずに薄い。臍孔は狭く開く。

和歌山県南部の湿潤な森林地帯の林床に生息し、朽ち木や落ち葉堆積中に生息する。

ベッコウマイマイ科の中では中形の本種は、もともと個体数の少ない種で、特に生きた個体は滅多に取れない。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24 (2)：91–95.
写真：湊　宏撮影

ムロマイマイ　*Satsuma japonica peculiaris* (A. Adams, 1868)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

ニッポンマイマイの南紀における矮小型亜種。県南部の離島等 4～5 箇所から知られるのみで、分布域は狭い。模式産地は “Tanabe” とあるが、おそらくは田辺湾神島だと思われる。

貝殻は小形（殻径 17 mm 前後）、円みをもった円錐形状を呈する。殻色は黄褐色で周縁に不規則な色帯を巡らす。臍孔は明らかに開く。

田辺市神島、みなべ町鹿島、すさみ町江須崎、白浜町瀬戸等に分布するが、他の分布地は少ない。

ニッポンマイマイは全国的に分布するが、南紀の個体群は小形で識別は容易である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　黒田徳米．1944．田辺湾神島産陸貝．Venus，13 (5-8)：313–316.
写真：湊　宏撮影

アラハダヒロベソマイマイ　*Aegista proba proba* (A. Adams, 1868)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−

選定理由

紀伊大島をタイプ産地とする固有基亜種で、地理的変異の多い本類としては基準となる基亜種として重要である。

貝殻は中形（殻径 15 mm 前後）、低平な螺塔をもち、微細な鱗片状に殻表が覆われる。殻口唇縁は多少反曲する。臍孔は広く開く。

和歌山県の南部を中心に分布するが、それぞれの分布地において個体数は多くはない。

本類は地理的変異が著しく、分類はかなり難しい。

本亜種は基亜種として分類上重要である。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　黒田徳米．1941．紀伊大島にてアダムスの採集せし陸産貝類．貝類雑誌（Venus），10（3・4）：157–166.
2　湊　宏．2009．大島（和歌山県）の陸産貝類．南紀生物，51（1）：24–32.

キイオオベソマイマイ　*Aegista tumida cavata* (Pilsbry, 1902)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

基亜種はフチマルオオベソマイマイ *Aegista tumida tumida* (Gude, 1901) で、奈良県五條市をタイプ産地とするが、本亜種は紀南地方に生息する。基亜種との違いは殻口の唇縁の反曲した白色で肥厚していることで識別される。



貝殻は中形（殻径 15 mm 前後）で、低い円錐形状。臍孔は広く開く。殻口唇縁は白色で肥厚して多少は外に向かって反曲する。

本亜種は「キイ」と冠されているように、和歌山県の南部地方に生息する。一方、基亜種は紀北地方から点々と分布が報告されている。礫混じりの落ち葉堆積中に生息する。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　湊　宏．1982．和歌山県を模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24（2）：91–95.
2　湊　宏．2004．改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類，p．263．世界文化社，東京.
3　湊　宏．2009．“紀伊富里”のミツクリギセルとその他の４種．かいなかま，43（1）：23–33.
4　湊　宏．2009．大島（和歌山県）の陸産貝類．南紀生物，51（1）：24–32.

写真：湊　宏標本

タシナミオトメマイマイ　*Aegista collinsoni collinsoni* (A. Adams, 1868)　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

串本町“田子”をタイプ産地とする体層に褐色帯を巡らす美しい種。比較的に和歌山県南部の海岸地帯に生息し、樹幹に登る習性がある。

貝殻は比較的に小形（殻径 10~12 mm）、円みをおびた円錐形状。殻口唇縁は反曲する。体層周縁の上部と縫合上に褐色帯を巡らす。臍孔が開く。

Adams（1870）の東洋航海時に、“田子”で採集されたもので、今日では串本町田子ではないかと推測されている。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　Adams, A. 1870. Travals of a naturalist in Japan and Manchuria. 334pp. Hurst & Blackett, London.
2　湊　宏．1982．模式産地とする陸産貝類．南紀生物，24（2）：49–54.

シゲオマイマイ　*Euhadra sigeonis* Kuroda, 1944　マイマイ目　ナンバンマイマイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	−



選定理由

田辺湾神島をタイプ産地とする紀南を代表するマイマイ属で、江村重雄（1901–1982）に献名されている。神島産は離島のため、個体がやや小形であるが、那智山の個体等は本種としてはやや大きい。

貝殻は中形～大形（貝殻の殻径 約 16 mm）、黄褐色で色帯を欠く個体、色帯を持つ個体、赤褐色や黄褐色の火炎彩をもつ個体等変異が多い。

和歌山県南部に生息し、樹上性。相対的に海岸地域の方が内陸部よりも生息密度が高い。

執筆者（湊　宏）

参考文献・情報

1　黒田徳米．1944．田辺湾神島産陸貝．Venus，13（5–8）：313–316.
2　湊　宏．1988．田辺湾神島の陸産貝類．神島の生物（和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書）．49–52. 田辺市教育委員会，田辺.
3　湊　宏．2014．西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士記載の田辺湾神島産シゲオマイマイのタイプ標本の図示．南紀生物，56（1）：8–10.

写真：湊　宏撮影

ノジホトトギス　*Arcuatula* sp.　イガイ目　イガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾域の水深 20~100 m の泥底に生息。貝殻は薄質、細長く扁平で半透明、殻表は平滑、光沢を帯び、薄紫色の羽状の模様を持つ。殻長 12 mm。房総以南、九州に分布。和歌山県内では由良白崎、みなべ町堺、串本町潮岬に分布。

和歌山県では、紀伊水道中部の白崎沖から紀伊半島南端で確認される。本種は環境省の絶滅危惧カテゴリーの対象外であるが、現在では少ない種で、加藤・福田（1996）では「危険」に区分されている。また、近隣地域（三重県、愛知県、岡山県）での状況は記録されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　池辺進一．2011．和歌山由良町白崎沖の貝．かたをなみ，7：18- 20.
3　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
4　加藤　真・福田　宏．1996．二枚貝綱　WWF サイエンスレポート，3：65–73.

写真：田中眞人提供

ツヤガラス　*Modiolus nitidus*（Reeve, 1857）　イガイ目　イガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾から湾口部の潮下帯の泥底、水深 5~20 m に生息。貝殻は薄質、栗色、強い光沢を持ち、後方に広がる長方形。殻長 80 mm。陸奥湾以南、九州、熱帯インド、西太平洋の分布。和歌山県内では有田市河口、日高町日ノ御埼に分布。

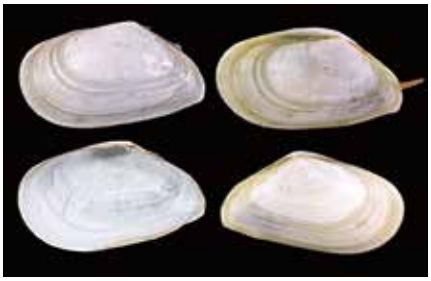
和歌山県では、有田川河口から死殻半片の幼貝（殻長 22.6 mm）を確認。以降、再確認例はない。近隣地域では、大阪湾南部の男里海岸で確認されるが、幼個体である。愛知県では従来、絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）であったが、一部で回復傾向も見られ、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に変更されている。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47 (1)：45–50.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　木村昭一．2020．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2020　－動物編－．(8) 貝類．489–726pp．愛知県．名古屋.
4　児島　格．2006．大阪湾　男里川・近木川河口周辺に生きる貝．63pp．きしわだ自然友の会，岸和田.
写真：三長秀男提供（池辺進一採集）

アワジチガイ　*Sylvanus lilium* (Hanley, 1844)　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

湾口部から外洋の潮間帯から水深 50 m の砂泥底に生息。貝殻はやや薄質、鈍いクリーム色、前後に長い楕円形、殻頂は後端側に寄り、後端は尖る。殻長 40 mm。房総半島以南、九州、中国大陸沿岸に分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦湾、有田市宮崎町（矢櫃）、日高町日ノ御埼に分布。

和歌山県では、水軒浜を除けば、3 地点が記録されるが、矢櫃の採集例は 1967 年、また日ノ御埼では 2005 年であり、近年では田辺湾奥部の水深 1 m の泥底から生貝が採集され、三長・三長（2015）に不詳種 "*Macoma* sp." として記録されるのは本種であるが、極めて稀である。広島県では死殻ばかりで、生貝が採集できないとされ、岡山県では過去の記録があるが、現状、生息が確認できない。また、愛知県では 1999 年以降、知多半島、三河湾沖から死殻も確認できない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南.
3　濱村陽一．2004．芸南の海産貝類図鑑．223 pp．蘭島文化振興財団，呉.
4　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ．かきつばた，(40)：2–16.
写真：三長秀男提供

アオサギガイ　*Psammotreta praerupta* (Salisbury, 1934)　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	－	国	－



選定理由

内湾域の潮下帯の水深 10~50 m の砂泥底に生息。貝殻は白色で殻頂はやや青みを帯び、薄質、長い卵形、膨らみは弱く扁平、後背縁は短く直線的。殻長 45 mm。房総半島・能登半島以南、東南アジアに分布。和歌山県内では和歌山市水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、名草ノ浜、有田市矢櫃に分布。

和歌山県では近年、2 地点から確認し、名草ノ浜での個体は古い死殻の半片である。近隣地域でも三重県では記述がなく、愛知県では生息場所、個体数ともに減少し、知多湾南部、名古屋港沖より死殻の採集記録あったものの、以降、確認できない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報
1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山.
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142.
写真：三長秀男提供

ハチザクラ　*Nitidotellina hachiensis* Fukuda, Ishikawa, Ito & Haga, 2022　ドブシジミ目　ニッコウガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

2022 年、広島県から新種記載された種で、生貝は瀬戸内海沿岸 4 県（山口、広島、岡山、愛媛）の潮下帯付近の砂泥底から確認される。また愛知県からは更新統千葉階豊橋層から化石の産出が知られる。本種はウズザクラ *Nitidotellina minuta*（Lischke，1872）に近似するが、殻長が同種の 8 mm に対し本種は 13 mm と大きく、また貝殻の後背部には一対の稜角が伸び、後端が明瞭に凹むことで区分される。和名は本種の模式産地、ハチの干潟（竹原市）に由来する。

和歌山県では和歌山市名草ノ浜で靱帯をもつ新鮮な死殻が少数、採集されており、生貝の採集が期待される。なお県下では名草ノ浜以外では、現在、確認されていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　Fukuda, H., Ishikawa, H., Ito, S. & Haga, T.（2022） *Nitidotellina hachiensis* n. sp.（Bivalvia：Tellinidae）from the Seto Inland Sea, between Honshu and Shikoku, western Japan. Molluscan Reserch, 42 (2)，115–127.

2　福田　宏・石川　裕・近藤裕介（2022）ハチザクラ（新称）ハチの干潟の生きものたち－広島県竹原市に残る瀬戸内海の原風景－（近藤裕介・大塚　攻・佐藤正則編），112，PUBFUN ネクパブ・オーサーズプレス.

写真：三長秀男提供

ナガヒナミルクイ　*Mactrotoma* sp.　マルスダレガイ目　バカガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

殻幅 40 mm 前後、ヒナミルクイ（ヒナミルガイ）*M. depressa*（Spengler，1802）近似の未定種で、横長で楕円形の殻形から、三角形に近い後種と区別できる。これまで福岡県、長崎県以外から記録がなく、希少な種と思われる。和歌山県からは、和歌山市和歌川河口の砂干潟から 2000 年に新鮮な合弁死殻が、同河口に形成される砂州（片男波海岸）から 1970 年代（同海岸の養浜工事前）に打ち上げで半片 2 個体が、各々確認されている（野田，未発表）。近年田辺湾奥部干潟コアマモが生育する砂泥底より生貝が確認された。2003 年と 2015 年にヒナミルガイとして報告された貝は、その形状からナガヒナミルクイと同定できる（写真個体）。

執筆者（野田圭典）

参考文献・情報

1　福田宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–706pp．岡山県環境文化部，岡山．

2　松隈明彦・石橋 猛・川岸 寛・山下博由．2014．福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック 2014．貝類 ．173–242pp．福岡県環境部自然環境課，福岡．

3　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23.

4　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類Ⅱ．かきつばた，40：2–16.

5　佐藤勝義・岡本正豊．1978．ヒナミルクイの 2 型とワカミルガイについて．ちりぼたん，10：27–31．pl. 6–7.

写真：三長秀男提供

チドリマスオガイ　*Donacilla pocta* Dunker, 1877　マルスダレガイ目　チドリマスオ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

潮間帯の砂底に生息。貝殻は小形、亜三角形で周縁は緑色。殻長 10 mm。房総半島以南、九州、インド、マレー半島に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、有田市宮崎町、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では対ノ浦で合弁個体を確認。和歌山県内での産出数は明らかに少数であるが、あえて準絶滅危惧種とするのにはやや疑義があり、近隣地域では対象にもなっていない。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南．
2　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　VI．南紀生物，55 (2)：153–158．

写真：三長秀男提供

ハマチドリ　*Spondervilia bisculpta* (Gould, 1861)　ドブシジミ目　アサジガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾湾口部の潮下帯砂底・砂泥底の潮間帯から水深 20 m に生息。貝殻は薄質、やや横長のハマグリ型、殻表には前後に放射状の条線を持つ。殻長 7 mm。房総半島、日本海以南、インド・西太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、田辺湾奥部、白浜町富田対ノ浦に分布。

和歌山県では、田辺湾奥部干潟域でアマモ場の泥底に稀に生息、また、対ノ浦でも潮下帯より生貝が確認されている。なお、名草ノ浜では 2007 年頃から死殻が確認され、加太では少数個体を確認している。本種は環境省カテゴリーの対象外であり、近隣地域の三重県、愛知県でも言及はない。ただ、福田（2020）は従来、記録のなかった生貝 1 個体を記録するとともに、鹿児島県山川港沖の大規模なサンドポンプによる海砂採取の浚渫により、数億個体以上が斃死したことを指摘した。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
2　三長秀男・三長孝輔．2011．和歌山県西牟婁郡白浜町富田「対ノ浦」で採集した二枚貝．かたをなみ，7：1–9．
3　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類　II．かきつばた，40：2–16．
4　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2007．和歌山市名草浜の貝類　4　掘足綱・二枚貝綱①．南紀生物，49 (2)：137–142．
5　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　VI．南紀生物，55 (2)：153–158．

写真：三長秀男提供

オカメブンブクヤドリガイ　*Montacuta echinocardiophila* Habe,1964　ウロコガイ目　ブンブクヤドリガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

オカメブンブクの棘の間に生息。貝殻は薄質、半透明、楕円形、殻表に数本の放射肋を持つ。殻長 10 mm。瀬戸内海から九州に分布。

和歌山県では和歌山市加太のみで確認。死殻半片のみで個体数も少ない。近隣地域では、愛知県で従来の分布域外の三河湾で確認され、情報不足とされた。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　池辺進一．2004．和歌山の貝類．72pp．自刊，和歌山．
2　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.

写真：江川和文撮影

マツイガイ　*Callomysia matsuii* Habe,1951　ウロコガイ目　ブンブクヤドリガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾奥部の潮下帯（水深 5~20 m）の砂泥底に見られる。貝殻は小形、楕円形、白色不透明、殻の周縁部に強い放射肋が明瞭に刻まれる。殻長 8 mm。志摩から九州西岸に分布。和歌山県内では和歌山市加太、名草ノ浜、有田市初島町に分布。

和歌山県では 3 地点で確認されるが、名草ノ浜では生貝 1 例（幼個体）を確認、同時にオカメブンブクの打ち上げも確認され、オカメブンブクヤドリガイ同様、共棲が想定される。他の確認例は、いずれも古い死殻のみである。近隣地域では三重県、愛知県に記述はなく、岡山県では死殻のみが確認され、絶滅に近い状況である。

執筆者（江川和文）

参考文献・情報

1　福田　宏．2020．岡山県レッドデータブック 2020．7．軟体動物．309–812pp．岡山県環境文化部，岡山．
2　池辺進一．2010．和歌山県有田市初島町から美浜町・日の岬にかけて生息する貝．かたをなみ，6：4–9.
3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2013．和歌山市加太周辺の貝類相　Ⅵ．南紀生物，55（2）：153–158.

写真：三長秀男提供

オキナガイ　*Laternula anatina*（Linnaeus, 1758）　ネリガイ目　オキナガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

内湾から湾口部の干潟砂泥底に生息。貝殻は長楕円形、非常に薄質、白色半透明、殻表に微小な顆粒状突起を持つ。殻長 50 mm。東北地方以南、九州、中国大陸、インド・太平洋に分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌川奥部、名草ノ浜、日高町日ノ御埼、田辺湾奥部、串本町橋杭に分布。

和歌山県では名草ノ浜が多産地で、1980 年代、オカメブンブクとともに、動物体残存個体を一度に数百例を確認。なお、和歌川奥部では生貝の採集例がある。和歌山県内ではこの産地以外は数例のみの確認である。本種は環境省カテゴリーの対象外であるが、近年、名草ノ浜ですら採集例がない。近隣地域では、三重県の広い範囲で生息が確認され、また、愛知県では外海の

選定理由	底引き網漁で採集されているが、内湾域では生息が確認できない。 執筆者（江川和文）
参考文献・情報	1　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南． 2　三長秀男・三長孝輔．2003．和歌山県田辺市新庄町滝内の貝類相．かたをなみ，1：1–23． 3　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139． 4　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74． 写真：三長秀男提供

ソトオリガイ　*Exolaternula liautaudi* Mittre, 1844　ネリガイ目　オキナガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由	内湾奥部や河口域の泥干潟に生息。貝殻は薄質、白色、長楕円形で膨らみは強い。殻長 45 mm。北海道以南、南九州、中国、東アジアに分布。和歌山県内では和歌山市紀の川、水軒浜（1960 年代、造成工事で消失）、和歌浦、名草ノ浜、海南市船尾、有田市、広川町江上川、御坊市日高川、田辺湾内之浦に分布。 和歌山県では、和歌山市等、紀北の河口域に動物体が残存した個体が確認される。名草ノ浜では 2000 年、幼個体のまとまった打ち上げが確認された。ただ、全般に個体数は少なく、確認例は単一個体がほとんどである。環境省絶滅危惧種の対象外であるが、河口奥部は護岸工事等で生息環境の影響を受けやすい地域であり、今後も生息状況が注視される。 執筆者（江川和文）
参考文献・情報	1　江川和文．2005．和歌山県有田川河口域の貝類相　2　二枚貝綱．南紀生物，47（1）：45–50． 2　池辺進一・吉田　誠．2006．池辺進一コレクション貝類標本目録．164pp．8 pls．和歌山県立自然博物館，海南． 3　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000　磯・干潟調査報告書．288pp．環境省生物多様性センター，富士吉田． 4　木邑聡美・野元彰人・杉野伸儀・和田恵次．2003．和歌浦干潟で観察された希少貝類．南紀生物，45（1）：7–12． 5　三長孝輔・三長秀男．2015．和歌山県田辺湾奥部干潟に生息する貝類（Ⅱ）．かきつばた，（40）：2–16． 6　中本博之・土岐頼三郎・野田圭典・江川和文．2008．和歌山市名草浜の貝類　5　二枚貝綱②・頭足綱および追補．南紀生物，50（1）：134–139． 7　土岐頼三郎・中本博之・野田圭典・江川和文．2006．和歌山県紀の川河口域の貝類相 2　二枚貝綱．南紀生物，48（1）：69–74． 写真：三長秀男提供

マツカサガイ　*Inversidens japanensis*（Lea, 1859）　イシガイ目　イシガイ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	学術的重要（SI）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

全国的に分布する淡水二枚貝であるが、和歌山県では分布域は狭く、記録された河川（用水路）も少ない。

殻長 40~60 mm、殻幅は多少は小さく、殻長との比は 30~40 %程度。貝殻が細長い個体もあり、かなり変異するため、多くの異名がある。殻頂付近から後部に漣波状の模様がある。

北海道から本州、九州にかけて分布。和歌山県では和歌山市、海南市でのみ記録された。

近年は、用水路の改修等による環境の改変が著しい。生息環境の良好な小川（用水路）が少なく、即知の生息地は貴重である。

本種は淡水魚類のタナゴ類の産卵に利用されている。

執筆者（池辺進一）

参考文献・情報

1　土井　浩．1994．田や用水にすむ動物と自然保護２　－和歌山市，かつらぎ町－．紀州生物，23：11–15.
2　土井　浩．1996．和歌山市の池や水路にすむ生物 2．紀州生物，25：17–22.
3　波部忠重．1973．軟体動物　Mollusca　日本淡水生物学（川村多實二・上野益三 著）．309–341．760pp. 北隆館，東京.
4　増田　修・内山りゅう．2004．日本産淡水産貝類図鑑②，汽水域を含む全国の淡水貝類．240pp．ピーシーズ，東京.

写真：池辺進一撮影

8 その他無脊椎動物

その他無脊椎動物の概要

和田　恵次

和歌山県のレッドデータブックでは、これまで無脊椎動物からは昆虫類と陸産淡水産貝類だけしか取り上げられてこなかった。しかし近年、昆虫類や貝類以外の無脊椎動物それに海産の無脊椎動物も国や他府県のレッドデータブックで取り上げられるようになった。特に最近発表された岡山県のレッドデータブックではほとんどの動物門からレッドリスト種が上げられている。和歌山県は陸域環境、海域環境とも多様で、生物相も豊富かつ特徴的であることから、昆虫類・貝類以外の動物群や海域に見られる動物群も注視していくべきと考え、今回これらのグループを取り上げることにした。ただし、海域の動物群についてはその生息状況が把握しやすい海岸部や河口域の潮間帯を主たる生息場所としているものに限定した。

レッドリスト種として上げられたのは、刺胞動物 5 種、紐形動物 2 種、腕足動物 2 種、環形動物 15 種、節足動物 104 種（節口綱 1 種、クモ形綱 20 種、ムカデ綱 3 種、ヤスデ綱 6 種、軟甲綱 74 種)、半索動物 3 種、棘皮動物 5 種、尾索動物 1 種となった。和歌山県の海岸生物には紀南の海岸に特徴的な造礁サンゴ類があるが、これらも生息圏が潮下帯のためリストには上げられなかった。当然サンゴ類に共生する甲殻類等も入っていない。海綿動物、外肛動物（コケムシ類)、頭索動物（ナメクジウオ類）も同様に主分布域が潮下帯とみて取り上げなかった。ただし海産・淡水産の扁形動物や海産・陸産の線形動物、淡水性の海綿動物・刺胞動物・外肛動物は、県内の状況を把握するのが困難とみて取り上げていない。また陸産・淡水産の類線形動物（ハリガネムシ類）や鰓尾類（甲殻類）も、県内の状況がいまだに把握されていないとみて取り上げていない。さらに節足動物軟甲綱の中で種数の多いフクロエビ類は、陸産の等脚類だけしか取り上げていないが、これも生息状況の確定的な把握が困難とみたためである。これらの動物群については専門家による今後の分類学的生態学的研究に期待するしかない。

各種に対する評価は、絶滅が 1 種、絶滅危惧Ⅰ類が 2 種、絶滅危惧Ⅱ類が 3 種、準絶滅危惧が 33 種、情報不足が 80 種、学術的重要が 17 種となった。無脊椎動物は、実際の生息個体数を把握するのが困難なものが多いため、基本的には記録の頻度をみて評価するようにしている。結果的には情報不足が際立って多くなっているが、これは近年の記録の趨勢が把握できないものが多いからである。また生息可能域の調査自体がまだ不十分とみられるものも情報不足としている。そんな中にあって、生息個体数が長年モニタリングされていてその趨勢が明らかな種があることを特筆しておく。それは紀の川河口域で国土交通省が 1998 年から実施しているシオマネキ、ハクセンシオマネキ、タイワンヒライソモドキの個体数調査による成果である。海産のベントス種で、これだけ長期に亘ってその個体群サイズの変遷を追った調査は日本で他には知られていない。

評価ランクの高い絶滅と絶滅危惧Ⅰ類に挙げられたのは、わずか 3 種である。このうち絶滅とされたカブトガニは個体群の回復は期待しにくいが、絶滅危惧Ⅰ類のカネコトタテグモとシオマネキは、現在残されている個体群が今後も維持できるよう、生息地への人為的改変事業は避けつつ、その地の環境保全に配慮していくことが肝要である。

以下に主要分類群について概要説明を行う。

ササラダニ類の概要

山本　佳範

本県の位置として、黒潮が海岸線近くを流れていることから、温暖・多湿な環境が維持されており、ササラダニ類においても南方系の種が多く出現しているが、一方で紀伊山地には1,000 m を越す山々が連なり、北方系の種も多く生息している。また、急峻な地形がより多くのササラダニ類の生息を可能としている。

島嶼におけるササラダニ類についても特徴的であり、島の面積が大きいほど、多くの種数が生息可能とされるが、和歌山県の友ヶ島の場合、面積は西表島の約 200 分の 1 でありながら、種類は 98 種と西表島とほぼ同じ種数である。田辺湾の神島でも、面積は西表島の 9,642 分の 1 であるものの、ササラダニ類の種数は 118 種と西表島を上回っている。また、それぞれの島嶼からは、南方系の種が多く出現している。

ザトウムシ類の概要

鶴崎　展巨

ザトウムシはクモ形綱の 1 つの目を形成する動物群で、ずんどうの体に 4 対の長い歩脚をもつのが特徴である。乾燥に弱く通常は森林内にのみ生息する。小昆虫やミミズ等を捕食するが、地面に落ちた漿果やおむすび等も摂食する。乾燥に弱く移動性が低いため地域的な形質分化が発達しやすい。日本には約 80 種、和歌山県では 3 亜目 17 種が記録されている（鶴崎・湊, 2000)。カイキザトウムシ亜目のカワザトウムシ科には染色体数が地理的に変異する種が多いが、和歌山県内でも 2 種で染色体数が地理的に変異することがわかっており、交雑帯と考えられる染色体数が多型となる集団も知られている（鶴崎ら，未発表)。このような交雑帯は生物学的に貴重である。

鶴崎展巨・湊　宏．2000．和歌山県のザトウムシ類．南紀生物，42（1）：3–8.

クモ類の概要

関根　幹夫

クモ類（クモ目）は、クモ形綱の中ではダニ目に次いで種数が多く、日本では 60 科約 1,700 種が記録されている（谷川，2020)。クモ類は陸上生態系を代表する捕食者で、食物網の中間的な栄養段階という重要な地位にあるが、近年の環境の変化はクモ類の生息状況にも影響をおよぼしている。クモ類は、住み場所の要件が種によって大きく異なること、また種によって分散能力が異なることから、周辺景観まで含めた生息場所の状況を色濃く反映するとされている。

和歌山県におけるクモ類の研究は、和歌山師範学校（現和歌山大学教育学部）の専攻科卒業論文を基に出版された湯原清次（1931）の「蜘蛛の研究」（第 3 章真正蜘蛛類の分類及び記載に 146 種が掲載）と、同じく和歌山師範学校出身の植村利夫（1936）による「和歌山県産蜘蛛目録（28 科 178 種)」に始まる。湯原清次の著作単行本は、日本のクモ類図鑑の先駆であり、植村利夫の目録は、日本のクモ類リストの代用として利用されたこともあり、この二人は、日本のクモ学発展の礎を築いたと言っても過言ではない。1996 年には、その後の採集記録を含め 38 科 316 種をまとめた「和歌山県産クモ類目録」が東條 清により作成され、東條 清と米田 宏を中心とした「和歌山クモの会」（1991 年結成）により旺盛な調査研究が行われた。

現在、和歌山県で報告されているクモ類は、44 科 351 種であり、これは、隣接する大阪府の 50 科 454 種、奈良県の 48 科 373 種と三重県の 50 科 608 種よりかなり少ない（新海ら,

2020)。その理由は、和歌山県における調査が、近年滞っているためであり、今後の調査が進めば、和歌山県のクモ類はさらに増加すると考えられる。

和歌山県のレッドデータブック作成にあたり、環境省のレッドリストに掲載されている種、生息条件の悪化等で個体数が減少傾向にある種、和歌山県が種の模式産地である種、全国的に見て特異な分布を示す種を評価対象種とし、絶滅危惧Ⅰ類（CR+ER）1種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）1種、準絶滅危惧（NT）2種、情報不足（DD）3種を選定した。カネコトタテグモは、県内の生息地が限定されていて、生息地も減少しているので絶滅危惧Ⅰ類とした。ワスレナグモは、個体数が少なく、生息条件が明らかに悪化しつつあると考えられるので絶滅危惧Ⅱ類とした。キノボリトタテグモ、キシノウエトタテグモの2種は、生息条件の悪化により減少する可能性が高いと考えられるので準絶滅危惧とした。和歌山県には、海浜性のクモ類が生息する。ヤマトウシオグモは、白浜町湯崎が種の模式産地であり、イソタナグモは、白浜町白浜が種の模式産地である。いずれの種も生息条件の悪化により、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得るが、生息情報が十分ではないので情報不足とした。全国的に見て特異な分布を示し、希少性が高いヒトエグモは、生息情報が十分ではないので情報不足とした。

新海　明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生．2020．CD 日本のクモ ver．2020．CD，著者自刊．
谷川明男．2020．日本産クモ類目録 ver．2020R3．Kishidaia，117：162–238.

多足類（ヤスデ類・ムカデ類）の概要

石井　清

多足類は、節足動物門、多足亜門に属するヤスデ類、ムカデ類、コムカデ類、エダヒゲムシ類の4類である。ここでは、ヤスデ類とムカデ類を対象とした。

和歌山県産のヤスデ類は、Verhoeff（1937）が那智を模式産地としてブチババヤスデ *Parafontaria marmorata*（Verhoeff，1937）、三好（1954，1959）が東牟婁郡北山村（北山峡）を模式産地としてキイオビヤスデ *Epanerchodus aculeatus* Miyosi，1954 とキタヤマタカクワヤスデ *Xystodesmus serralatus*（Miyosi，1952）を記載したのが最初の記録である。県内でのファウナ解明の調査は、1960 年代になって湊 宏博士により南紀のヤスデ類を中心に行われ、その結果がおもに「南紀生物」（1968，1969，1970，1971，1987，2000）や和歌山県自然環境研究会による「大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告書」（2002）においてリストの形で報告された。また、地理的分布上注目すべき熱帯・亜熱帯系のギボウシヤスデ類の未記載種 *Siphonophora* sp.、ヨシダヒメヤスデ類の未記載種 *Yosidaiulus* sp.、生息域が限られるネンジュヤスデ *Sinostemmiulus japonicus* Murakami，1980 等を発見し、未記載種にはそれぞれキイギボウシヤスデおよびクロゾウヨシダヒメヤスデという仮称名を与えた。その他、Tanabe & Shinohara（1996）はキタヤマタカクワヤスデ、Tanabe，Katakura & Mawatari（2001）および Tanabe（2002）はミドリババヤスデ *Parafontaria tonominea*（Attems，1899）、西川・村上（1991，1993，1994）はヒラタヤスデ *Brachycybe nodulosa*（Verhoeff，1935）、フトケミコシヤスデ *Diplomaragna takakuwai*（Verhoeff，1929）、アカヤスデ属の数種 *Nedyopus* spp．とヤケヤスデ属の数種 *Oxidus* spp.、イボオビヤスデ *Epanerchodus gibbosus* Takakuwa，1954、ヤマトオビヤスデ *Epanerchodus japonicus*（Carl，1902）、ケナガシロハダヤスデ *Kiusiunum longisetum* Miyosi，1958、ブチババヤスデを県内から記録した。これら既知種を整理したところ、分類上再検討を要する種を除いて 8 目 16 科 25 属 34 種となった。また、レッドデータブック 2022 版の発刊にともなう現地調査が 2017 年から行われて 2

科４属８種が新たに追加され、県内には８目 18 科 29 属 42 種が生息していた。また、少なくとも９種が未記載種と判断され、いずれリストに加わることになる。

一方、ムカデ類は、断片的な報告として高桑（1940）がヤマトベニジムカデ *Strigamia maritima japonica*（Verhoeff，1935）を那智、カシマセスジアカムカデ *Scolopocryptops rubiginosus kasimensis*（Miyosi，1957）を田辺市新庄町神島、ニホンメナシムカデ *Cryptops japonicus* Takakuwa，1934 を高野山、Jonishi & Nakano（2022）がケアカムカデ *Scolopocryptops elegans*（Takakuwa，1937）を東牟婁郡（詳細産地不明）、Uliana，Bonato & Minelli（2007）がニホンナガズジムカデ *Mecistocephalus japonicus* Meinert，1886 を那智から記録している。県内のムカデ類のファウナに関する報告は、和歌山市加太町沖の島で調査を行った湊（1984）が最初である。その後、吉田（2007）は各地で採集された標本に基づいてリストを作成した。これらの報告では４目 13 科 15 属 31 種が記録されている。2017 年から行われた現地調査において新たに１科５属 11 種の生息が確認され、既記録種とあわせて４目 14 科 20 属 42 種が県内に生息する。また、現地調査でおよそ９種の未記載と思われる種が見出された。

和歌山県は気候的に温暖で年降水量も多く、地形も複雑で入り組んでおり、照葉樹林や大塔山系に見られるブナ林が発達し、ヒブリアカヤスデ *Nedyopus hiburizimensis* Miyosi，1955、キイギボウシヤスデ、アマビコヤスデ *Riukiaria semicircularis*（Takakuwa，1941）、タカクワヤスデ類 *Xystodesmus* sp.、キレコミヤスデ *Prosopodesmus sinuata*（Miyosi，1958）、ケナガシロハダヤスデ、オカツクシヤスデ *Kiusiozonium okai*（Takakuwa & Miyosi，1949）、トビズムカデ *Scolopendra mutilams* L. Koch，1878、アオズムカデ *Scolopendra japonica* L. Koch，1878、ブチナガズジムカデ *Mecistocephalus marmoratus* Verhoeff，1934、ゴシチナガズジムカデ *Mecistocephalus diversisternus*（Silvestri，1919）、ニホンナガズジムカデ、ニホンメナシムカデ、ヒロズジムカデ *Dicellophilus pulcher*（Kishida，1928）、サキブトジムカデ等、多くの南方系種やクロヒメヤスデ *Karteroiulus niger* Attems，1909、ダテイッスンムカデ *Bothropolys actidens* Takakuwa，1941 等の北方系種も生息する。多足類は一般に安定した生息環境を好み、気候変動、土地開発による生息域改変等の影響を強く受ける。『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』では、多くの地点の調査にもかかわらず生息地域や生息場所が極めて限定的と判断されるカシマセスジアカムカデ、モモジムカデ、カチベニジムカデ、クロゾウヨシダヒメヤスデ、クロヒメヤスデ、キイギボウシヤスデ、ヤケヤスデ属の１種、キイオビヤスデ、ネンジュヤスデを選定した。

Jonishi, T. & Nakano, T. 2022. Taxonomic accounts and phylogenetic positions of the Far East Asian centipedes *Scolopocryptops elegans* and S. *curtus*（Chilopoda：Scolopendromorpha）. Zoological Science, 39：1–13.

湊　宏．1968．紀伊半島南部の倍脚類について．南紀生物，10（1 & 2）：19–25.

湊　宏．1969．紀伊半島南部の倍脚類について（II）．南紀生物，11（1）：3–6.

湊　宏．1970．高野山・荒神ガ岳のヤスデ類．南紀生物，12（2）：39–40.

湊　宏．1971．紀伊半島南部の倍脚類について（Ⅲ）．南紀生物，13（2）：45–47.

湊　宏．1983．友ケ島の大形土壌節足動物．友ヶ島学術調査，p．167–171．和歌山.

湊　宏．1987．紀伊半島のヤスデ類相（1）．南紀生物，29（2）：127–128.

湊　宏．2000．紀伊半島のヤスデ類相（2）－マクラギヤスデ白浜に産す－．南紀生物，42（2）：141–142.

湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系のヤスデ類（倍足類）相．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．p．189–194．和歌山県自然環境研究会，田辺.

三好保徳．1954．日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究 X．オビヤスデ属の２新種．動物

学雑誌，63 (7)：288–291.
三好保徳．1957．日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究 20．ヤスデの 1 新属とムカデの 1 新種及び 1 新亜種．動物学雑誌，66 (6)：264–267.
三好保徳．1959．日本の倍足類．223 + 19pls．東亜蜘蛛学会，大阪.
西川喜朗・村上好央．1991．日本産倍脚類の分布記録（Ⅰ）．追手門学院大学文学部紀要，(25)：291–313.
西川喜朗・村上好央．1993．日本産倍脚類の分布記録（Ⅱ）．追手門学院大学文学部紀要，(27)：261–275.
西川喜朗・村上好央．1994．日本産倍脚類の分布記録（Ⅲ）．追手門学院大学文学部紀要，(29)：207–225.
高桑良興．1940．ジムカデ目（唇足綱－整形類）．日本動物分類．9 (1)．156pp．三省堂，東京.
高桑良興．1940．オオムカデ目（唇足綱－整形類）．日本動物分類．9 (2)．88pp．三省堂，東京.
高桑良興．1954．日本産倍足類総説．241pp．日本学術振興会，東京.
Tanabe, T. & Shinohara, K. 1996. Revision of the millopede genus *Xystodesmus*, with reference to the status of the tribe Xystodesmini (Diplopoda：Xystodesmidae). Journal of Natural History, 30：1459–1494.
Tanabe, T., Katakura, H. & Mawatari, S. F. 2001. Morphological difference and reproductive isolation：morphometrics in the millipede *Parafontaria tonominea* and its allied forms. Biological Journal of the Linnean Society, 72：249–264.
Tanabe, T. 2002. Revision of the millipede genus *Parafontaria* Verhoeff, 1936 (Diplopoda, Xystodesmidae). Journal of Natural History, 36：2139–2183.
Uliana, M., Bonato, L. & Minelli, A. 2007. The Mecistocephalidae of the Japanese and Taiwanese islands (Chilopoda：Geophilomorpha). Zootaxa, 1396：1–84.
Verhoeff, K. W. 1935. Über Scolioplanes (Chilopoda). Zoologischer Anzeiger, 111：10–23.
Verhoeff, K. W. 1937. Zur Kenntnis Ostasiatischer Diplopoden. Zoologischer Anzeiger, 117：309–321.
吉田元重．2007．和歌山県のムカデ類．南紀生物，49 (2)：135–136.

カニ類の概要

和田　恵次

和歌山県からのカニ類の記録には、尾崎光之助、永井誠二、丸村眞弘といった紀南在住の研究者の貢献が大きい。彼らにより記録された種の多くは、浅海から深海までの潮下帯のものであるが、記録された種の多さには驚くべきものがある。例えば、現在日本産のカニ類は 1,500 種以上に及ぶが、永井誠二氏が和歌山県近海から記録した（丸村・小阪，2003）種は 554 種にもなっており、それだけでも日本産の種の 3 割以上を占めている。これは和歌山県が黒潮の近接する位置にあって熱帯・亜熱帯性の種の集積するところになっていることと、多様で広い海岸線が多様な種の生息場所を提供しているためとみられる。

今回レッドリストに取り上げられた種は、このうちで淡水域あるいは潮間帯から潮上帯を主な生息場所としているものの中で、記録頻度や生息個体数が少ないものとした。絶滅危惧Ⅰ類が 1 種、絶滅危惧Ⅱ類が 2 種、準絶滅危惧が 22 種、情報不足が 19 種、学術的重要が 6 種の

計 50 種である。記録頻度が極めて少ないものや記録頻度や生息地での個体数が明らかに減少しつつあるものを絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧のランクに入れたが、記録が少ないながら、調査自体がいまだ不十分とみられるものは情報不足のランクに入れた。学術的重要としたのは、記録が少ないだけでなく、和歌山県からの記録がその種の地理的分布情報として重要とみなせるもの（タイワンオオヒライソガニ、ヒメシオマネキ、ベニシオマネキ等）、あるいは和歌山県以外からの記録がほとんどないもの（ミナミアカイソガニ、タカノケフサイソガニ類似種等）である。

ランクの高い絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類に評価されたシオマネキとクシテガニはいずれも河口域塩性湿地とその周辺域を生息場所としている種である。このような環境は護岸工事等で破壊されやすいところであり、そのため和歌山県に限らず全国的に個体群の衰退が見られるものである。海岸整備事業等ではこれらの種への配慮が今後ますます重要となろう。同様に礫浜海岸の高潮帯から潮上帯に住み、和歌山県が基産地となっているマメアカイソガニも護岸工事や埋め立ての犠牲になりうる種である。

地理的分布特性の観点からは、南方系の種で和歌山県が分布域の北限近くになっていて記録が少ないもの（ミナミトラノオガニ、アゴヒロカワガニ、タイワンオオヒライソガニ等）と、反対に温帯性で和歌山県が地理的分布域内に入っているものの、県内での記録が少ないもの（ムツハアリアケガニ、マメコブシガニ、オサガニ、ウモレマメガニ、フタハピンノ等）がある。これらの種が記録される地域では、保全上これらの生息状況を注視してゆく必要があろう。

丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南．

その他無脊椎動物の掲載種

●絶　滅（EX）

カブトガニ

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

カネコトタテグモ
シオマネキ

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

ワスレナグモ
クシテガニ
ムツハアリアケガニ

●準絶滅危惧（NT）

ウメボシイソギンチャク
ツバサゴカイ
ムギワラムシ
ヒトハリザトウムシ
コウヤスベザトウムシ
キノボリトタテグモ
キシノウエトタテグモ
マングローブテッポウエビ
ヤドリカニダマシ
ウチノミカニダマシ
オキナワヤワラガニ
マキトラノオガニ
ミナミトラノオガニ
マメコブシガニ
フジテガニ
ウモレベンケイガニ
ユビアカベンケイガニ
ハマガニ
マメアカイソガニ
ヒメアシハラガニ
ミナミアシハラガニ
トリウミアカイソモドキ
トゲアシヒライソガニモドキ
タイワンヒライソモドキ
ヒメヒライソモドキ
オオヒライソガニ
アリアケモドキ
カワスナガニ
チゴイワガニ
オサガニ
スナガニ
ハクセンシオマネキ
ワダツミギボシムシ

●情報不足（DD）

カイウミヒドラ
コマイハナゴケ
ホソイソギンチャク属の 1 種
ムシモドキギンチャク属の 1 種
オロチヒモムシ
ムラサキヒモムシ
ミドリシャミセンガイ類似種
スズメガイダマシ
ニッポンオフェリア
タマシキゴカイ
シダレイトゴカイ
チリメンイトゴカイ
イトメ
クロブチボウセキウロコムシ
ニッポンフサゴカイ
クビレクガビル
サナダユムシ
スジホシムシモドキ
ムラクモスジホシムシモドキ

アンチラサメハダホシムシ
キイコナダニモドキ
アラゲコナダニモドキ
ツノコナダニモドキ
オオギホソダニ
ケタスケチビイブシダニ
チビハネアシダニ
エボシダニ
イソタナグモ
ヤマトウシオグモ
ヒトエグモ
カシマセスジアカムカデ
モモジムカデ
クロヒメヤスデ
キイギボウシヤスデ
ネンジュヤスデ
シマトラフヒメシャコ
Phreatoasellus minatoi（和名なし）
ツノホラワラジムシ
キイホラワラジムシ
ミナカタハヤシワラジムシ
イシダコシビロダンゴムシ
ケナガコシビロダンゴムシ
オニヌマエビ
ザラテテナガエビ
コンジンテナガエビ
シラタエビ
ハシボソテッポウエビ
カワテッポウエビ
クボミテッポウエビ
アナジャコ
コブシアナジャコ
イザナミツノヤドカリ
ヨモギホンヤドカリ
アリアケヤワラガニ
ヒメテナガオウギガニ
ミナミオカガニ
ヘリトリオカガニ
カクレイワガニ
ハシリイワガニモドキ
ウモレマメガニ
ヒメアカイソモドキ
シタゴコロガニ
スネナガイソガニ
ヒメケフサイソガニ
アゴヒロカワガニ
ケフサヒライソモドキ
ヒメカクオサガニ
メナガオサガニ
ギボシマメガニ
アカホシマメガニ
ホンコンマメガニ
フタハピンノ
ヒメギボシムシ
ミサキギボシムシ
イツツメクモヒトデ
ウチノミクモヒトデ
ジンガサウニ
モトシマクルマカギナマコモドキ
イボイボクルマカギナマコ
ヒトエシモフリボヤ

●学術的重要（SI）

エビヤドリミミズ
ヒコナミザトウムシ
アカサビザトウムシ
コシビロザトウムシ
カシマイボテカニムシ
カチベニジムカデ
クロゾウヨシダヒメヤスデ
ヤケヤスデ属の 1 種
キイオビヤスデ

ムラサキオカヤドカリ
ナキオカヤドカリ
ミナミアカイソガニ
タカノケフサイソガニ類似種
タイワンオオヒライソガニ
ミナミスナガニ
ヒメシオマネキ
ベニシオマネキ

カブトガニ　*Tachypleus tridentatus* (Leach, 1819)　節足動物門　節口綱　剣尾目　カブトガニ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

和歌山県における本種の最も古い記録は有田市誌（1974）上の報告で、有田市で昭和初期に多く捕獲されていたとされている。他の和歌山県町誌でも、1974 年に広川町から記録されている（広川町誌, 1974）ほか、美浜町の本ノ脇海岸、日高川河口及び日高町北井で、1977 年に記録されている（美浜町史, 1988）。1977 年には白浜町で記録があり（田名瀬, 1977）、1978 年には湯浅町から記録がある（楠井, 1978）が、それ以降記録はない。和歌山県北中部は、瀬戸内海沿岸を中心に分布していた本種の貴重な分布東限であったが、当地域からは 1978 年以降に絶滅したものとみられる。本種は卵期や幼体期に干潟・砂浜域を生息場所とするため、戦後盛んに行われてきた干潟や砂浜の埋め立てが本種幼期の生活場を奪ったことで再生産を失い絶滅したのであろう。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　有田市誌編集委員会．1974．有田市誌．有田．
2　広川町誌編集委員会．1974．広川町誌 下巻．広川．
3　楠井善久．1978．和歌山県湯浅町におけるカブトガニの記録．南紀生物，20：42.
4　美浜町史編集委員会．1988．美浜町史 上巻．美浜．
5　田名瀬英朋．1977．和歌山県白浜町でカブトガニ採集される．南紀生物，19：58.

写真：和田恵次撮影（県外産）

カネコトタテグモ　*Antrodiaetus roretzi* (L. Koch, 1878)　節足動物門　クモ形綱　クモ目　カネコトタテグモ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

腹部背面は濃い茶褐色、頭胸部は黒褐色。メスは 12~15 mm、オスは 10~13 mm。崖地に深さ 10~20 cm の横穴を掘り、入口に糸で裏打ちされた両開きの扉（観音開き戸）をつけている。地中の住居内に居ることから、メスはほとんど移動せず、繁殖期にはオス成体のみが徘徊する。成長が極めて遅いので、繁殖力が弱い。山形県、岩手県以南から兵庫県、岡山県までの間で局地的に生息。和歌山県では、橋本市 2、高野町 1、海南市 4、紀美野町 3、有田川町 2、有田市 1、由良町 1、田辺市 1、すさみ町 1 の計 16 ヶ所での生息が確認されていたが（2001 年）、この報告から 20 年余を経過し、確実な生息情報は有田川町の 1 ヶ所にとどまっている。北米および日本に 2 属 30 種が知られ、日本産の種以外はすべてアメリカ合衆国産であり、動物地理学的に重要な種である。

住宅建設・道路工事等による崖地の破壊やコンクリート化により生息場所が減少していると考えられることから絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）に選定した。　執筆者（関根幹夫）

参考文献・情報

1　稲垣成二．1996．最近採集したクモ数種について．和歌山クモの会会報，6：5.
2　関根幹夫．2016．和歌山県有田川町で確認したクモ．くものいと，49：7-8.
3　東條　清．1991．海南市藤白神社～藤白峠観察会クモ類リスト．和歌山クモの会会報，1：10-11.
4　東條　清．1993．1992 年度「和歌山クモの会」総会と観察会報告．和歌山クモの会会報，3：3-8.
5　東條　清．1998．春日の森のクモ類．和歌山クモの会会報，8：1-4.
6　東條　清．2001．和歌山のクモ．242pp．著者自刊.

写真：関根幹夫撮影

シオマネキ　*Tubuca arcuata*（De Haan, 1835）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　スナガニ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

東京湾以南沖縄島までに分布する大型のシオマネキ類の 1 種である。塩性湿地周辺の泥干潟に穴居するが、記録される地域の大半で生息数は少ない。和歌山県沿岸では紀の川、有田川、日高川、切目川、田辺湾、富田川からの記録があるが、いずれの地域でもその生息数は近年減少傾向にある。和歌川河口では戦前にはいたという情報があるが、埋め立てによるヨシ原の消滅により絶滅したものと思われる。生息数が県内で最も多いとみられる紀の川の河口域では国土交通省による生息数調査が 1998 年以降定期的に行われており、推定生息数は 100~700 個体を上下しているが、2015 年以降は 100 個体以下と減少傾向にある。有田川河口や日高川河口でも近年個体数が 10 個体を下回り、数年前に比べて明らかに減りつつある。切目川河口、田辺湾も見られる個体数は 10 個体を下回り、富田川河口では近年 1 個体も見つかっていない。

本種の繁殖期は 6~7 月で、この期間には雄は片方の巨大はさみ脚を上下させる waving display を行う。また本種の巣穴はその開口部に筒状の泥の塚（chimney）が造られることが多く、その特徴から本種の生息を確認することができる。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　藤川八郎．1989．和歌浦のシオマネキ類について．紀州生物，18：11–14.
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書.
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
5　切目川ダム環境委員会．2009．切目川ダムにおける環境評価について．和歌山.
6　古賀庸憲．私信（切目川河口から記録）.
7　国土交通省近畿地方整備局．2021．令和 2 年度紀の川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書.
8　丸村眞弘．2000．内之浦干潟でシオマネキ類 2 種の生息を確認．くろしお，(19)：62.
9　丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南.
10　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
11　野元彰人・木邑聡美・田中義之・黒田美紀・内野　透・唐澤恒夫．2005．和歌山県富田川河口域で確認されたシオマネキ（スナガニ科）．南紀生物，47：179–181.
12　大阪市立自然史博物館所蔵標本（白浜町安久川河口、田辺市滝内、田辺市内之浦、日高川河口から記録）
13　和田恵次．1978．和歌山県産スナガニ類とその分布について．南紀生物，20：18–22.
14　和田恵次専門調査員現地調査記録（有田川、日高川、切目川、田辺湾から記録）.
15　和歌山県立自然博物館所蔵標本（日高川、富田川から記録）.

写真：和田恵次撮影

ワスレナグモ　*Calommata signata* Karsch, 1879　節足動物門　クモ形綱　クモ目　ジグモ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

メスの腹部背面、頭胸部は茶褐色をしているが、オスは全体が黒色で体型が細く非常に小型であるため別種のように見える。メスは 13~18 mm、オスは 5~8 mm。畑、草原、庭、社寺の境内等の比較的乾燥した明るい場所に 10~30 cm の縦穴を掘り、管状の住居をつくる。住居には蓋がないが、入口を糸で塞いでいる場合もある。夜間、住居から前足を出し、獲物を待つ。オスは秋に成熟しメスを探して徘徊する。子グモは、8 月頃にバルーニング（空中移動）により分散する。本州・四国・九州に分布。本属のクモ類で日本に生息するのは本種 1 種のみである。和歌山県では、県下全域で生息確認されていたが個体数は少ない。社寺境内では、石灯篭や敷石の際等、土壌の比較的安定した場所で発見されることが多い。

土地造成、草地の開発、社寺の改修による地表面のコンクリート化や境内の過度の清掃により生息場所が消失していると考えられる。また、殺虫剤散布により生息条件が明らかに悪化しつつあると考えられることから絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定した。

執筆者（関根幹夫）

参考文献・情報

1　東條　清．2001．和歌山のクモ．242pp．著者自刊．

写真：関根幹夫撮影（県外産）

クシテガニ　*Parasesarma affine* (De Haan, 1837)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ベンケイガニ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

東京湾から九州までの広い範囲に分布域を持っているが、その中でも大河川の河口域塩性湿地に限定的に出現する種である（日本ベントス学会，2012）。和歌山県沿岸では和歌山市内原（亀の川）、日高川河口、富田川河口の 3 地域から記録があるが、これらの地域でも近年は本種を見ることが困難で、分布域、生息数とも減少していることは間違いない。対岸の徳島県や高知県でも近年本種の記録は少なくなっている。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137-141．
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
3　和歌山県立自然博物館所蔵標本．
4　大和茂之・丸村眞弘．1992．富田川河口域の甲殻類．くろしお，（11）：28．

写真：和田恵次撮影

ムツハアリアケガニ　*Camptandrium sexdentatum* Stimpson, 1858　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ムツハアリアケガニ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

日本では宮城県松島湾から長崎までの範囲に分布するが、記録される地域は少ない（日本ベントス学会，2012）。和歌山県では田辺湾からの記録しかなかったが、近年太地町森浦湾から記録された。なお田辺湾の記録は本種に類似のチゴイワガニ *Ilyograpsus nodulosus* の可能性がある。いずれにしても和歌山県では記録情報が極めて乏しい稀少種であることは間違いない。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119.
2　日本ベントス学会．2012 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.
3　和田恵次・渡部哲也専門調査員現地調査記録.

写真：和田恵次撮影（県外産）

ウメボシイソギンチャク　*Actinia equina* (Linnaeus, 1758)　刺胞動物門　花虫綱　イソギンチャク目　ウメボシイソギンチャク科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県沿岸での本種の記録は和歌山市加太周辺、日高町小浦・阿尾、田辺湾畠島、太地町灯明崎から知られる。他には白浜町臨海周辺からも知られる。ただ近年は、和歌山市加太周辺の海岸で多数の生息が見られるが、それ以外の地域で本種を見ることは困難である。田辺湾の畠島では 1969 年以降 1983 年まで記録が続いていたが、その後、記録が途絶え、現在は当地で見ることはない。本種は岩礁潮間帯の中上部を生息場所としているので容易に見つけることができる。それにもかかわらず、現在は加太周辺や日高町阿尾以外では、本種を見ることはできず、県内の分布域は明らかに減少しているとみて準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　河村真理子．私信.
2　古賀庸憲．私信.
3　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その 1．南紀生物，26：56–61.
4　岡西政典．私信.
5　大阪湾海岸生物研究会．2018．大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 -2011～2015 年の調査結果．自然史研究，4：17–38.
6　内田紘臣．1983．太地町灯明崎付近の潮間帯の動物．くろしお，(2)：21.
7　内田紘臣．1996．日高町小浦海岸で観察された刺胞動物と環形動物．くろしお，(15)：37–38.
8　上出貴士．私信.
9　和田恵次専門調査員現地調査記録.

写真：和田恵次撮影

ツバサゴカイ　*Chaetopterus cautus* Marenzeller, 1879　環形動物門　溝副触手綱　ツバサゴカイ目　ツバサゴカイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

北海道から九州までの砂泥性干潟に穴居するが、特徴的な棲管が干潟上に突出するので本種の生息は確認可能である。しかし、全国的には減少傾向にあり（日本ベントス学会，2012）、和歌山県でも和歌川河口、広川町西広海岸、田辺湾内之浦、田辺湾畠島から知られるに過ぎない。田辺湾の畠島では 1967~1977 年まで記録されたが、それ以後、記録は途絶えた。1990 年代になって田辺湾の内之浦や鳥の巣海岸で見つかり、内之浦では現在も少数ながら見つかる。現在見つかる地域（和歌川河口、西広海岸、田辺湾）での生息数はそれほど多くないため、個体群として絶滅する可能性は高い。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書．
2　古賀庸憲私信（和歌川河口から記録）
3　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その 2．南紀生物，26：105–111．
4　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（広川町西広海岸から記録）

写真：佐藤正典提供（県外産）

ムギワラムシ　*Mesochaetopterus japonicus* Fujiwara, 1934　環形動物門　溝副触手綱　ツバサゴカイ目　ツバサゴカイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

三河湾以南九州までの砂質から砂泥質の干潟に生息し、和歌山県では和歌川河口から西広海岸までに分布する。分泌物と砂粒で深さ 400 mm 程度の I 字型の棲菅を作る。地表から 20 mm 程突出し、底にはシャワーの先端のような多数の小孔が開く。棲菅内にはヤドリカニダマシが共生することがある。本種は保全された良好な環境の干潟にしか生息せず、和歌山県内においてもそのような環境は決して多くないため、準絶滅危惧種とした。

執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　関西総合環境センター．2003．紀の川河口をフィールドにした生態系等の調査・研究（干潟調査報告書）．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（I）．南紀生物，46：31–36．
3　和田恵次専門調査員現地調査記録（和歌山市名草ノ浜、有田市矢櫃海岸から記録）．

写真：和田恵次提供

ヒトハリザトウムシ　*Psathyropus tenuipes* L. Koch, 1878　節足動物門　クモ形綱　ザトウムシ目　カワザトウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

体長 6 mm 内外。背の腹部第 2 背板に 1 本の針状突起がある。ザトウムシでは唯一の海浜性種で、砂浜をともなうような海食崖、河川感潮域の岸辺の空隙等に生息する。年 1 化卵越冬で、成体は 7~11 月頃に見られる。日中は海食崖の窪みや岩陰に体を寄せ合い密な集合をつくる。海岸のコンクリート護岸化が進んでいる瀬戸内海沿岸では生息地が消失傾向で、環境省版レッドリストにおいて準絶滅危惧に指定されている。和歌山の海岸では北部を中心にこれまで数度探索しているが、生息地は現在のところ白浜町の京大瀬戸臨海実験所とその近辺の海岸で確認されているのみである。染色体の異数性（同一集団内および同一個体内で染色体数がばらつく現象）の原因となる B 染色体の数に地理的変異があり、瀬戸内海沿岸の集団では平均値が 2 以下であるが、白浜の集団では多く、平均 6.6 である。

執筆者（鶴崎展巨）

参考文献・情報

1　久保田　信．2007．ヒトハリザトウムシの瀬戸臨海実験所北浜への規則的な出現．くろしお，26：19–20.
2　Tsurusaki, N. 1993. Geographic variation of the number of B- chromosomes in *Metagagrella tenuipes* (Opiliones, Phalangiidae, Gagrellinae). Memoirs of the Queensland Museum, 33 (2) : 659–665.
3　鶴崎展巨．2021．海浜性ザトウムシの外部形態と B 色体数の地理的分化．海洋と生物，43（1）：43–49.
4　鶴崎展巨・湊　宏．2000．和歌山県のザトウムシ類．南紀生物，42（1）：3–8.
5　Tsurusaki, N. & Shimada, T. 2004. Geographic and seasonal variations of the number of B chromosomes and external morphology in *Psathyropus tenuipes* (Arachnida : Opiliones). Cytogenetic and Genome Research, 106 : 365–375.

写真：鶴崎展巨撮影（県外産）

コウヤスベザトウムシ　*Leiobunum kohyai* Suzuki, 1953　節足動物門　クモ形綱　ザトウムシ目　カワザトウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

体長 7 mm 内外。紀伊半島のブナ帯の固有種で、和歌山県高野山がタイプ産地。雄の交尾器形態の差により高野型（高野山・護摩壇山と大阪府金剛山）、大台ヶ原型（白浜町将軍山、田辺市果無山系、大塔山系、狼屹山周辺と奈良県大台ヶ原山）の 2 地理品種が識別される。生息が高標高域に限定されるため県内ではもともと生息域が狭いが、近年はシカ害による林床の乾燥等によりいずれの地域でも個体数の減少が顕著である。年 1 化卵越冬で成体は 7~9 月に樹幹上で見られる。他のザトウムシの生息にもシカ害影響が顕著と思われる護摩壇山～龍神山周辺では、早急のシカ害防除が望まれる。

執筆者（鶴崎展巨）

参考文献・情報

1　Suzuki, S. 1953. Studies on the Japanese harvesters. VI. Some new and little known species of the genus *Liobunum* C. L. Koch from Japan, with special reference to the comparative study of penis. Journal of Science of the Hiroshima University (B-1), 14 : 173–200.
2　Tsurusaki, N. 1985. Taxonomic revision of the *Leiobunum curvipalpe*-group (Arachnida, Opilones, Phalangiidae). I. *hikocola*-, *hiasai*-. *kohyai*-, and *platypenis*-subgroups. Journal of the Faculty of Science of Hokkaido University, VI. Zoology, 24 : 1–42.
3　鶴崎展巨・湊　宏．2000．和歌山県のザトウムシ類．南紀生物，42（1）：3–8.

写真：鶴崎展巨撮影（県外産）

キノボリトタテグモ　*Conothele fragaria* (Dönitz, 1887)　節足動物門　クモ形綱　クモ目　トタテグモ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

暗紫色で、腹部に斑紋がない。メス 10~12 mm、オス 8~10 mm。日光の直射しない適度な湿度が保たれている岩上や古木の樹皮上に、コケや樹皮をはりつけた長さ 2~3 cm の落花生の殻によく似た袋状住居をつくり、入口に糸で裏打ちされた片開きの扉をつける。メスはほとんど移動せず、繁殖期にはオス成体のみが徘徊する。成長が極めて遅いので、繁殖力が弱い。本州・四国・九州、南西諸島に分布。本属のクモ類で日本に生息するのは本種 1 種のみである。

和歌山県では県下全域で生息確認されていたが、近年、本種の生息が確認されず、古い住居跡のみられることが多い。乾燥化とコケの生えた古木の減少により生息条件が悪化していると考えられることから準絶滅危惧（NT）に選定した。

執筆者（関根幹夫）

参考文献・情報

1　稲垣成二．1998．和歌山クモの会　総会と観察会（1997 年度）．和歌山クモの会会報，8：7-9.
2　稲垣成二．1999．雲取温泉でクモを採る．和歌山クモの会会報，9：12-14.
3　関根幹夫．2022．和歌山県北部のキノボリトタテグモの新産地．くものいと，55：6-7.
4　東條　清．1991．海南市藤白神社～藤白峠観察会クモ類リスト．和歌山クモの会会報，1：10-11.
5　東條　清．1992．1991 年度「和歌山クモの会」総会と観察会．和歌山クモの会会報，2：3-5.
6　東條　清．1998．春日の森のクモ類．和歌山クモの会会報，8：1-4.
7　東條　清．2001．和歌山のクモ．242pp．著者自刊.
8　和歌山クモの会事務局．1997．和歌山クモの会　総会と観察会（1996 年度）．和歌山クモの会会報，7：11-12.
9　八木沼健夫．1955．友ヶ島のクモ．In 友ヶ島の自然．Nature Study 臨時号：20-21.

写真：関根幹夫撮影（県外産）

キシノウエトタテグモ　*Latouchia typica* (Kishida, 1913)　節足動物門　クモ形綱　クモ目　トタテグモ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

腹部背面は茶褐色で、4~7 対の灰白色の帯が左右斜めに走っている。メスは 12~20 mm、オスは 10~15 mm。社寺の境内、人家近くの崖地や石垣の目地土等の比較的明るい場所に、5~20 cm の住居を掘り生息している。住居入口には、糸で裏打ちされた片開きの扉をつけている。地中の住居内に居るため、メスはほとんど移動せず、9~10 月にかけてメスの住居に移動する途中のオスを発見することが多い。成長が極めて遅いので、繁殖力が弱い。本州・四国・九州に分布。和歌山県では和歌山市、海南市、白浜町、那智勝浦町の 4 市町で生息が確認されている。

現時点での生息地では安定しているものと思われるが、都市またはその周辺部に生息するので、都市部での開発や社寺の改修等によって、減少する可能性が高いと考えられることから、準絶滅危惧（NT）に選定した。

なお、6 月末 ~7 月初旬にかけて、冬虫夏草のクモタケが生えていることで、住居を見つけることができる。

執筆者（関根幹夫）

参考文献・情報

1　青木大和．2019．キシノウエトタテグモは営巣場所としてどのような石垣を好むか？（和歌山城における調査）．くものいと，52：13–14.
2　日本蜘蛛学会．クモ類生息地点情報データベース．http://www.arachnology.jp/DDBSJ.php（参照 2021年6月）.
3　須賀瑛文．2006．和歌山県白浜町にキシノウエトタテグモ．蜘蛛，39：904.
4　東條　清．1995．海南市で発見されたクモタケ（冬虫夏草）について（第2報）．和歌山クモの会会報，5：1–2.
5　東條　清．2001．和歌山のクモ．242pp．著者自刊.
写真：関根幹夫撮影（県外産）

マングローブテッポウエビ　*Alpheus nomurai* Anaker, 2023　節足動物門　軟甲綱　十脚目　テッポウエビ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧種（NT）



選定理由

和歌山県から沖縄本島にかけての泥干潟に生息する中型のテッポウエビ類で、体長は30 mmほどになる。マングローブの名が付いているが、マングローブ環境との強い生態的な繋がりはない。本種は有明海から *Alpheus euphrosyne richardsoni* として報告されているが（Miya，1995）、ニュージーランドがタイプ産地であるこの亜種とは形態的相違点が認められ、近縁の別種（未記載種）と思われる。県内では田辺市内之浦と御坊市日高川河口から記録されている。

県内では産地が限られた希少種であり、県外においても少産種であることと干潟の衰退に伴う生息環境の悪化に基づき環境省レッドリストにおいて準絶滅危惧種に指定されている。また、本種は日本もしくは東アジア海域の固有種である可能性が持たれる。

執筆者（野村恵一）

参考文献・情報

1　林　健一．1998．日本産エビ類の分類と生態（101），テッポウエビ科－テッ ポウエビ属⑩．海洋と生物，117：289–293.
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
3　Miya, Y. 1995. Four species of *Alpheus* from intertidal and shallow water mudflats in the Sea of Ariake, Kyushu, Japan. Bulletin of the Faculty of Liberal Arts, Nagasaki University, Natural Science, 35：271–288, figures 1–4.
4　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976-2001．南紀生物，43：102–108.
5　大阪市立自然史博物館所蔵標本（田辺市内之浦産）
6　諸喜田茂充・武田正倫．1991．汽水・淡水十脚甲殻類．環境庁（編），日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－無脊椎動物編．213–230．自然環境研究センター，東京.
7　錆浦海中公園研究所所蔵標本（海南市、有田市有田川河口、田辺市内之浦産）.
8　和歌山県立自然博物館所蔵標本（日高川産）.
9　和田恵次所蔵標本（田辺市内之浦産）.
10　吉郷英範．2009．日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類（甲殻類：エビ目）．比和科学博物館研究報告，20：221–273.
写真：野村恵一撮影

ヤドリカニダマシ　*Polyonyx sinensis* Stimpson, 1858　節足動物門　軟甲綱　十脚目　カニダマシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

三河湾以南九州までに分布する。和歌山県では和歌川河口から知られている。本種は砂泥質の潮間帯に生息する多毛類であるムギワラムシの棲管内に共生することが知られている。記録が和歌川周辺に限られること及び宿主のムギワラムシの分布域も県北部から中部に限られていることからも、準絶滅危惧とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　関西総合環境センター．2003．紀の川河口をフィールドにした生態系等の調査・研究（干潟調査）報告書．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．（和歌川河口から記録）
3　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
4　大阪市立自然史博物館所蔵標本（和歌川河口から記録）
5　和歌山県立自然博物館所蔵標本（和歌川河口名草ノ浜から記録）

写真：渡部哲也撮影（県外産）

ウチノミカニダマシ　*Polyonyx utinomii*（Miyake, 1943）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　カニダマシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）

選定理由

別名ウチノミヤドリカニダマシ。国内では伊豆半島以南九州有明海までに分布し、基産地は和歌山県白浜町。潮間帯に生息するツバサゴカイの棲管内に共生する。ツバサゴカイの多い地域では 10 %近い共生率であるが、和歌山県ではツバサゴカイの生息数が多くなく、近年の採集記録もないが、紀伊半島で確認されていることから準絶滅危惧種とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　Miyake, S. 1943. Studies on the crab-shaped Anumura of Nippon and adjacent waters. Journal of the Department of Agriculture, Kyushu Imperial University, 7：49–158.
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
3　締次美穂．2017．ウチノミカニダマシの再発見と生態観察の記録．南紀生物，59：35–39.

写真：渡部哲也撮影（県外産）

マメコブシガニ　*Pyrhila pisum*（De Haan, 1841）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　コブシガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

青森県陸奥湾から奄美大島までの範囲に分布するが、生息数は少ないところが多い。干潟の澪筋でよく観察されるが、和歌山県沿岸では北部地域に限られる。これまでの記録は紀の川河口、和歌川河口、有田川河口からである。和歌川河口では近年見られる個体数が減少するとともに、体サイズも小型化する傾向がみられる。

執筆者（和田恵次）



参考文献・情報
1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
3　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
4　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121．
5　大阪市立自然史博物館所蔵標本．
6　坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美樹．2016．和歌川河口妹背山周辺の干潟において 2010 年に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，66：25–29．
7　坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美樹．2017．和歌川河口干潟の妹背山観海閣周辺において 2011 年の春と秋に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，67：31–39．
8　和歌山県立自然博物館所蔵標本．
9　和田恵次専門調査員現地調査記録．
写真：和田恵次撮影

オキナワヤワラガニ　*Neorynchoplax okinawaensis* (Nakasone & Takeda, 1994)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ヤワラガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

静岡県以南、沖縄諸島までに分布する。潮間帯中部から下部に生息し、泥に浅く埋まった石の下等に生息する。同所的にミヤコドリ（貝類）が見られることがある。

和歌山県では田辺湾や那智勝浦町等、県南部に記録が偏る。生息数は多くなく、生息環境がやや特殊であるため準絶滅危惧種とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報
1　乾　直人・山川宇宙・碧木健人．2020．神奈川県田越川および静岡県青野川から採集された注目すべきカニ類 4 種．神奈川自然誌資料．41：27–31．
2　Ng, P. K. L. & Chuang, C. T. N. 1996. The Hymenosomatidae（Crustacea：Decapoda：Brachyura）of Southeast Asia, with notes on other species. The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, 3：1–82.
3　環境省．2020 年度磯・干潟報告書データファイル http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/
4　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31．
5　和歌山県立自然博物館所蔵標本（田辺湾から記録）
6　渡部哲也専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）
写真：渡部哲也撮影

マキトラノオガニ　*Pilumnopeus makianus*（Rathbun, 1931）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ケブカガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

愛知県以南、瀬戸内海から九州までに分布する。潮間帯中部から下部に生息し、干潟のカキ群集の間隙を好む。

和歌山県では北部から南部まで比較的広範囲から記録があるが生息数は多くなく、生息環境がやや特殊であるため準絶滅危惧種とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　伊勢田真嗣・大谷道夫・木村妙子．2007．外来種 *Rhithropanopeus harrisii* ミナトオウギガニ（和名新称）（甲殻亜門：カニ下目：Panopeidae 科）の日本における初記録．日本ベントス学会誌，62：39–44.
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書.
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
5　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
6　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
7　渡部哲也専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）.
写真：渡部哲也撮影

ミナミトラノオガニ　*Pilumnopeus marginatus* (Stimpson, 1858)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ケブカガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

紀伊半島以南沖縄諸島までに分布する。潮間帯下部に生息し、潟湖や河口部の比較的大きな転石下に見られる。

本州における記録は限定的で、紀伊半島南部から三重県を含めた東部までのみである。和歌山県では串本町、那智勝浦町から記録があるが、生息数は多くない。



執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　岸野底・米沢俊彦・野元彰人・木邑聡美・和田恵次．2001．奄美大島から記録された汽水産希少カニ類 12 種．南紀生物，43：15–22.
2　締次美穂．2015．三重県で初記録のミナミトラノオガニ．南紀生物，57：25–26.
3　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
4　渡部哲也．2002．和歌山県で得られたミナミトラノオガニ *Pilumnopeus marginatus*（Stimpson，1858）（オウギガニ科）．南紀生物，44：173.
5　渡部哲也専門調査員現地調査記録（闇野川から記録）.
写真：渡部哲也撮影

フジテガニ　*Clistocoeloma nobile* Lee, Ng & Ng, 2023　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ベンケイガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

本種の国内からの記録は、1998 年に紀の川河口で見つかったのが最初で、その後千葉県、静岡県、島根県、徳島県、愛媛県、福岡県、熊本県、沖縄県から記録されているが産地は限られている。和歌山県では、紀の川河口で発見されて以降、和歌川河口と那智勝浦町のゆかし潟から見つかっている。本種は河口域の潮上帯付近の転石またはゴミの下に生息するため、護岸工事等で破壊されやすい潮上帯付近の環境の維持が、本種の保全上重要である。



県内で記録される 3 地域ともその生息数は少なく、個体群としての存続性が危惧されるため、準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　唐澤恒夫・木邑聡美・黒田美紀・野元彰人．2006．和歌山県和歌川河口域で記録されたフジテガニ（ベンケイガニ科）．南紀生物，48：60–62.
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285 pp．東海大学出版会，秦野.
3　野元彰人・淀　真理・木邑聡美・岸野　底・酒野光世・和田恵次．1999．紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の 6 稀種．南紀生物，41：5–9.
4　大澤正幸・桑原友春・倉田健悟．2017．日本海沿岸からのフジテガニの初記録．ホシザキグリーン財団研究報告，(20)：213–218.
5　高倉仁史・駒井智幸．2019．フジテガニ *Clistocoeloma villosum*（A．Milne-Edwards，1869）（十脚目：短尾下目：イワガニ上科・ベンケイガニ科）の伊豆半島及び房総半島からの新たな記録．Cancer，28：25–31.
6　和歌山県立自然博物館所蔵標本（和歌川河口から記録）.
7　和田恵次専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）.
8　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
9　Yuhara, T., Yokooka, H. & Taru, M. 2017. Range extension of the sesarmid crab *Clistocoeloma villosum* along the eastern Pacific coast of the Izu Peninsula, Japan. Marine Biodiversity Records, 10：19.

写真：和田恵次撮影

ウモレベンケイガニ　*Clistocoeloma sinense* Shen, 1933　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ベンケイガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

新潟県と東京湾以南沖縄までの塩性湿地に分布する希少種。塩性湿地内の高レベルにある打ち上げ物の下から見つかる。記録される地域は限られているが、東京湾では比較的数多く分布している。沖縄の集団は本土産のものとは別種の可能性が高い。集団サイズが小さいことは、本種集団の遺伝的な多様度が低いこと、さらに地域間での遺伝的な分化が顕著にみられることからうかがえる（Yuhara *et al.* 2014）。和歌山県ではこれまで紀の川河口、和歌川河口、有田川河口、日高川河口、田辺湾周辺、ゆかし潟といった地域からの記録が知られている。ただしいずれの地域でも生息数は少ない。塩性湿地内でも高いレベルに生息することから、護岸等の工事によって生息場所が破壊されるおそれの高い種でもある。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　伊藤正一・本間義治．2001．新潟県の沿岸・沖合に産するカニ類．Cancer，10：25–34.
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書.
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
5　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119.
6　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
7　大阪市立自然史博物館所蔵標本.
8　和田恵次専門調査員現地調査記録.
9　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
10　和歌山県立自然博物館所蔵標本.
11　Yuhara, T., Kawane, M. & Furota, T. 2014. Genetic population structure of local populations of the endangered saltmarsh sesarmid crab *Clistocoeloma sinense* in Japan. PLOS ONE, 9：e84720.

写真：和田恵次撮影

ユビアカベンケイガニ　*Parasesarma tripectinis* (Shen, 1940)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ベンケイガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

神奈川県以南沖縄諸島までの広い分布域をもつが、個体数が数多く見られる地域は限られる。河口域塩性湿地の上部付近を、巣穴をもたず徘徊する。和歌山県では紀の川河口、亀の川、有田川河口、日高川河口、田辺湾、富田川河口、那智勝浦町浦神、ゆかし潟から記録されているが、いずれの地域でも生息数は多くはない。塩性湿地内でも特に高いレベルのところを好むため、護岸工事等で生息地が破壊されやすい。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　福井康雄・和田恵次．1983．田辺湾南岸の異尾類・短尾類とその分布．南紀生物，25：159–167.
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書.
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
5　丸村眞弘．1993．日高川河口域のカニ．くろしお，(12)：54–55.
6　丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南.
7　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119.
8　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
9　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976-2001．南紀生物，43：102–108.
10　和田恵次専門調査員現地調査記録（富田川河口、日高川河口、ゆかし潟から記録）
11　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
12　和歌山県立自然博物館所蔵標本（亀の川、紀の川、日高川から記録）.
13　大和茂之・丸村眞弘．1992．富田川河口域の甲殻類．くろしお，(11)：28.

写真：和田恵次撮影

ハマガニ　*Chasmagnathus convexus* (De Haan, 1833)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

宮城県以南沖縄までの広い範囲に分布するが、各地で生息数が減る傾向がみられる。河口域塩性湿地の上部から潮上帯にかけて深い巣穴を掘って生息している。ヨシ等を食す植食者で、夜間摂餌活動がみられる。和歌山県では、紀の川河口、有田川河口、日高川河口、田辺湾、富田川河口、ゆかし潟から記録される。塩性湿地上部に樹林帯を擁する日高川河口やゆかし潟では樹林帯下部で比較的多く生息している。護岸工事で破壊されやすい潮間帯上部から潮上帯が生息地になっているため、このような高レベルの岸辺の保全が本種の保全上重要である。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書.

参考文献・情報

3　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
4　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
5　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976–2001．南紀生物，43：102–108.
6　和田恵次専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）.
7　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
8　大和茂之・丸村眞弘．1992．富田川河口域の甲殻類．くろしお，（11）：28.
写真：和田恵次撮影（県外産）

マメアカイソガニ　*Cyclograpsus pumilio* Hangai & Fukui, 2009　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	–	国	情報不足（DD）



選定理由

礫浜の高潮帯から潮上帯にかけて分布する日本固有種で、和歌山県白浜町の海岸（田辺湾）がタイプ産地である。同属の大型種アカイソガニ *Cyclograpsus intermedius* と混生することがあるが、アカイソガニの生息レベルよりもさらに上部の礫層下部に潜んでいるためアカイソガニよりも見つかりにくい。餌となる打ち上げ海藻が堆積する礫浜に偏って分布する。本種が新種として報告されて以降、各地で調査が進められ、現在は、太平洋岸では房総半島以南種子島まで、日本海岸では石川県以南長崎県までに分布することがわかっている。和歌山県沿岸では、田辺湾の他に、加太周辺、広川町以南すさみ町までの海岸、さらに太地町等から見つかっている。しかし生息数はいずれの地域でも少なく、生息地が護岸等により破壊されるおそれが強いため、準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　Hangai, R., Kitaura, J., Wada, K. & Fukui, Y. 2009. A new species of *Cyclograpsus* (Brachyura : Varunidae) from Japan, co-occurring with *C. intermedius* Ortmann, 1894. Crustacean Research, 38 : 21–27.
2　大阪湾海岸生物研究会．2018．大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 - 2011～2015 年の調査結果．自然史研究，4：17–38.
3　中岡由紀子・和田恵次．2014．礫浜の希少カニ類マメアカイソガニの地理的分布と生息場所特性．地域自然史と保全，36：109–114.
4　和歌山県立自然博物館所蔵標本（和歌山市加太、広川町西広海岸、由良町小引、由良町三尾川から記録）.
写真：和田恵次撮影

ヒメアシハラガニ　*Helicana japonica* (K. Sakai & Yatsuzuka, 1980)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	–	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

砂泥性の干潟に穴居する肉食性のカニである。房総半島以南に広く分布するが、生息密度はどこでも低い。イワガニ類の中では珍しく、鉗脚を垂直に振り回す waving display を示す。和歌山県沿岸では、紀の川河口、和歌川河口、琴の浦、有田川河口、日高川河口、南部、田辺湾、那智勝浦町浦神といった地域から記録があるが、いずれの地域でも生息数は少ない。特に、和歌川河口や田辺湾では、近年目撃

選定理由　例が減っているため、準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
2　丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南．（那智勝浦町浦神から記録）
3　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119.
4　Nara, Y., Kitaura, J. & Wada, K. 2006. Comparison of social behaviors among six grapsoid species (Brachyura) of different habitat conditions. Crustacean Research, 35：56–66.
5　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.
6　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
7　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976–2001．南紀生物，43：102–108.
8　大阪市立自然史博物館所蔵標本（日高川河口から記録）
9　坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美樹．2016．和歌川河口妹背山周辺において 2010 年に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，66：25–29.
10　坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美樹．2017．和歌川河口干潟の妹背山観海閣周辺において 2011 年の春と秋に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，67：31–39.
11　和歌山県立自然博物館所蔵標本（日高川河口、海南市船尾から記録）

写真：和田恵次撮影（県外産）

ミナミアシハラガニ　*Pseudohelice subquadrata* (Dana, 1851)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由　神奈川県以南沖縄までの広い範囲に分布するが、本土では記録される地域は限られている。沖縄諸島ではマングローブの落葉の重要な分解者となっており、生息数も多い。和歌山県沿岸では日高川河口、日置川河口、ゆかし潟、熊野川河口から記録があるに過ぎない。ハマボウ等の水際樹林の下部を好んで生息するため、護岸工事による生息地の破壊が危惧される。和歌山県内の生息地では、いずれも生息数が極めて少ないため、準絶滅危惧と評価した。



執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　唐澤恒夫・野元彰人．2007．和歌山県日置川河口域で採集されたミナミアシハラガニ（ベンケイガニ科）．南紀生物，49：71–72.
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
3　和田恵次専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）.
4　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
5　和歌山県立自然博物館所蔵標本（日高川河口から記録）.

写真：和田恵次撮影

トリウミアカイソモドキ　*Sestrostoma toriumii* (Takeda, 1974)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

砂泥性干潟に穴居するアナジャコ類・スナモグリ類の巣穴に共生する小型種。青森県以南沖縄諸島までの広い範囲に分布するが、生息数はそれほど多くはない。和歌山県では、紀の川河口、和歌川河口、有田川河口、西広海岸、日高川河口、田辺湾、ゆかし潟から記録があるが、生息数は少ないことから準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第７回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
3　丸村眞弘．1993．日高川河口域のカニ．くろしお，(12)：54–55．
4　丸村眞弘．1994．イワガニ科２稀種の新産地．南紀生物，36（1）：65–66．
5　丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南．（日高川河口から記録）．
6　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121．
7　大阪市立自然史博物館所蔵標本（和歌川河口、内之浦から記録）．
8　上出貴士・高橋芳明．2008．和歌山県田辺湾滝内及び内之浦の潮間帯のコアマモ群落におけるベントス群集．日本ベントス学会誌，63：42–55．
9　和田恵次専門調査委員現地調査（ゆかし潟から記録）．
10　和歌山県立自然博物館所蔵標本（和歌川河口、西広海岸から記録）．

写真：渡部哲也提供（県外産）

トゲアシヒライソガニモドキ　*Parapyxidognathus deianira* (De Man, 1888)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

千葉県以南の河川汽水域上流部の転石下に分布する。和歌山県では、紀の川、有田川、日高川、切目川、芳養川、富田川、ゆかし潟、熊野川から記録されているが、いずれも生息数は少ない。その分布特性から、河口堰設置により生息場所を失うおそれの大きい種であり、その点から準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　浜崎健児・山田　誠・青木美鈴・田中薫子・遊佐陽一・保智巳・和田恵次．2014．紀伊半島河川群における十脚甲殻類・水生昆虫・魚類の生息と流域環境との関連性評価．和田恵次（編），源流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造－紀伊半島の河川群の比較より－，75–101．奈良女子大学共生科学研究センター，奈良．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
3　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121．
4　野元彰人・淀　真理・木邑聡美・岸野　底・酒野光世・和田恵次．1999．紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の６稀種．南紀生物，41：5–9．
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（富田川河口、ゆかし潟から記録）．
6　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31．

参考文献・情報

7　和歌山県立自然博物館所蔵標本（日高川河口、芳養川河口から記録）.

写真：渡部哲也提供（県外産）

タイワンヒライソモドキ　*Ptychognathus ishii* Sakai, 1939　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

房総半島以南沖縄諸島までの河川汽水域上流部の転石下に分布する。近年記録される地域が増えてきたが、汽水域の上流部に限られるため、河口堰による生息場所破壊が危惧される種である。和歌山県では全県的にほとんどの河川河口域から記録されており、生息地は数多いが、生息数はそれほど多くはない。紀の川河口域では、河口堰の建設に伴って本種の移植が堰下流部になされ、移植先を含む堰下流部の生息数が 2001 年以降定期的に調べられている（国土交通省近畿地方整備局，2021）。それによると近年は当初の生息数のおよそ 1 ／ 3 くらいに減少している。紀の川河口域での近年の傾向を考慮し、準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　Fukui, Y. & Wada, K. 1986. Distribution and reproduction of four intertidal crabs (Crustacea, Brachyura) in the Tonda River Estuary, Japan. Marine Ecology Progress Series, 30：229–241.
2　浜崎健児・山田　誠・青木美鈴・田中薫子・遊佐陽一・保智巳・和田恵次．2014．紀伊半島河川群における十脚甲殻類・水生昆虫・魚類の生息と流域環境との関連性評価．和田恵次（編），源流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造－紀伊半島の河川群の比較より－，75–101．奈良女子大学共生科学研究センター，奈良.
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
5　国土交通省近畿地方整備局．2021．令和 2 年度紀の川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書.
6　丸村眞弘．1993．日高川河口域のカニ．くろしお，(12)：54–55.
7　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
8　野元彰人・淀　真理・木邑聡美・岸野　底・酒野光世・和田恵次．1999．紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の 6 稀種．南紀生物，41：5–9.
9　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976–2001．南紀生物，43：102–108.
10　大阪市立自然史博物館所蔵標本（日高川河口、串本町袋より記録）.
11　和田恵次専門調査員現地調査記録（富田川河口、ゆかし潟から記録）.
12　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
13　和歌山県立自然博物館所蔵標本（紀の川、西広海岸、亀ノ川河口、日高川河口、白浜町阪田から記録）.
14　大和茂之・丸村眞弘．1992．富田川河口域の甲殻類．くろしお，(11)：28.

写真：和田恵次撮影

ヒメヒライソモドキ　*Ptychognathus capillidigitatus* Takeda, 1984　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

房総半島以南沖縄諸島までの河川河口域の転石地に分布する。本土の生息地では生息数は多くない。和歌山県の富田川河口がタイプ産地であり、本種の生活史も当地で調べられている。県内では、紀の川河口、有田川河口、日高川河口、芳養川河口、会津川河口、富田川河口、日置川河口、鬮野川河口、串本町、田原川河口、太田川河口、ゆかし潟等から記録があるが、生息数はいずれの地域でも多くはない。河川の汽水域に分布するが、近縁種のタイワンヒライドモドキよりは塩分濃度の高い下流部に分布が偏る。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　Fukui, Y. & Wada, K. 1986. Distribution and reproduction of four intertidal crabs (Crustacea, Brachyura) in the Tonda River Estuary, Japan. Marine Ecology Progress Series, 30：229–241.
2　浜崎健児・山田　誠・青木美鈴・田中薫子・遊佐陽一・保智巳・和田恵次．2014．紀伊半島河川群における十脚甲殻類・水生昆虫・魚類の生息と流域環境との関連性評価．和田恵次（編），源流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造－紀伊半島の河川群の比較より－，75–101．奈良女子大学共生科学研究センター，奈良．
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第７回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書．
4　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
5　丸村眞弘．1993．日高川河口域のカニ．くろしお，(12)：54–55.
6　丸村眞弘．1994．イワガニ科２稀種の新産地．南紀生物，36（1）：65–66.
7　丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南.
8　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
9　野元彰人・淀　真理・木邑聡美・岸野　底・酒野光世・和田恵次．1999．紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の６稀種．南紀生物，41：5–9.
10　大阪市立自然史博物館所蔵標本（有田川河口、日高川河口、串本町袋より記録）.
11　Takeda, M. 1984. A new crab of the family Grapsidae from Japan. Bulletin of the national Science Museum, Tokyo, Series A, 10：117–120.
12　和田恵次専門調査員現地調査記録（富田川河口、ゆかし潟から記録）.
13　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
14　和歌山県立自然博物館所蔵標本（有田川、日高川河口、日置川から記録）.

写真：和田恵次撮影

オオヒライソガニ　*Varuna litterata* (Fabricius, 1798)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

甲幅が最大で 50 mm 近くになる比較的大型の種。河川汽水域から淡水域まで幅広い塩分環境下に分布する。遊泳に適した歩脚をもち、海域でも河川域でも高い分散力をもつとみられる。日本の沿岸では太平洋岸では福島県付近以南、日本海沿岸では新潟県以南と広い分布域をもっている。一方、和歌山県ではこれまで日高川、印南川、太田川、ゆかし潟、熊野川といった紀南地方に限って記録があるが、記録

選定理由　される個体数は多くない。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　浜崎健児・山田　誠・青木美鈴・田中薫子・遊佐陽一・保智巳・和田恵次．2014．紀伊半島河川群における十脚甲殻類・水生昆虫・魚類の生息と流域環境との関連性評価．和田恵次（編），源流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造－紀伊半島の河川群の比較より－，75–101．奈良女子大学共生科学研究センター，奈良．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
3　和田恵次専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）．
4　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31．
5　和歌山県立自然博物館所蔵標本（日高川河口から記録）．

写真：和田恵次撮影

アリアケモドキ　*Deiratonotus cristatus* (De Man, 1895)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ムツハアリアケガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	－	国	－

選定理由



北海道から沖縄島までの河川汽水域上流部に分布する。生息基質は主に泥質であるが、干潟上の転石下やヨシ原内、さらには潮下帯の泥質地まで幅広い。大量に見つかるところもあるが、生息数が少ない地域がほとんどで、最近では減少傾向にあるところが多い。そのため日本ベントス学会（2012）では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。和歌山県では中南部に分布が限られ（日高川、芳養川、富田川、浦神、熊野川）、いずれの地域でも確認できる個体数は少ない。本種の日本沿岸の集団は遺伝的に大きく３つのグループに分かれるが、和歌山県の集団は、そのうちの太平洋沿岸グループに入る（Kawamoto *et al*.，2012）。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　Kawamoto, M., Wada, K., Kawane, M. & Kamada, M. 2012. Population subdivision of the brackish-water crab *Deiratonotus cristatus* on the Japanese coast. Zoological Science, 29：21-29.
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
3　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119．
4　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
5　大阪市立自然史博物館所蔵標本（芳養川から記録）．
6　和田恵次．1983．和歌山県におけるアリアケモドキの記録．南紀生物，25：190．
7　和田恵次専門調査員現地調査記録（熊野川から記録）．

写真：和田恵次撮影

カワスナガニ　*Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ムツハアリアケガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

房総半島以南沖縄諸島までに分布する日本固有種。清浄な河川河口域の上流部の転石下に生息する。河口堰等で破壊されやすい生息地をもつため、各地で生息数を減らしつつある。地域集団間の遺伝的な相違が顕著であり、和歌山県内に限っても、地域間での遺伝的な分化が認められる。そのため個々の地域集団を保全する意義は大きい。和歌山県では、日高川以南熊野川までの多くの河川河口域から記録されているが、いずれの地域でも確認できる個体数は少なく、近年は見つからない河川もある。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　Fukui, Y. & Wada, K. 1986. Distribution and reproduction of four intertidal crabs (Crustacea, Brachyura) in the Tonda River Estuary, Japan. Marine Ecology Progress Series, 30：229–241.
2　浜崎健児・山田　誠・青木美鈴・田中薫子・遊佐陽一・保智巳・和田恵次．2014．紀伊半島河川群における十脚甲殻類・水生昆虫・魚類の生息と流域環境との関連性評価．和田恵次（編），源流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造－紀伊半島の河川群の比較より－，75–101．奈良女子大学共生科学研究センター，奈良．
3　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第７回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書．
4　Kawane, M., Wada, K., Kitaura, J. & Watanabe, K. 2005. Taxonomic re-examination of the two camptandriid crab species *Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934) and *D. tondensis* Sakai, 1983, and genetic differentiation among their local populations. Journal of Natural History, 39：3903–3918.
5　Kawane, M., Wada, K. & Watanabe, K. 2008. Comparisons of genetic population structures in four intertidal brachyuran species of contrasting habitat characteristics. Marine Biology, 156：193–203.
6　丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南．
7　和田恵次専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）．
8　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31．

写真：和田恵次撮影

チゴイワガニ　*Ilyograpsus nodulosus* Sakai, 1983　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オサガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

神奈川県以南沖縄諸島までに分布する日本固有種。泥質干潟の低潮部付近に分布するが、記録される地域は限られ、生息数も少ないところがほとんどである。和歌山県では、紀の川河口、和歌川河口、琴の浦、有田川河口、日高川河口、田辺湾、ゆかし潟から記録があるが、いずれの地域でも生息数は少ない。田辺湾の個体群については生活史が調べられている（Nakayama & Wada, 2015）。カニ類の中では珍しく雌が雄よりも大きくなる性的二型を示す。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
2　Nakayama, M. & Wada, K. 2015. Life history and behavior of a rare brackish-water crab, *Ilyograpsus nodulosus* (Sakai, 1983) (Macrophthalmidae). Crustacean Research, 44：11–19.

参考文献・情報
3　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
4　大阪市立自然史博物館所蔵標本（白浜町池田浦から記録）.
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（太地町森浦湾、ゆかし潟から記録）.
6　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
7　和歌山県立自然博物館所蔵標本（田辺市内之浦、有田川河口から記録）.
写真：渡部哲也提供

オサガニ　*Macrophthalmus abbreviatus* Manning & Holthuis, 1981　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オサガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

宮城県以南九州までの河川河口部や内湾の干潟低潮帯に生息するが、多くの地域でその個体数は少ない。同属のヤマトオサガニやヒメヤマトオサガニの生息地よりも海寄りの砂質性の干潟に穴居する。和歌山県では、紀の川河口、和歌川河口、海南市船尾、西広海岸、日高川河口、みなべ、田辺湾から記録があるが、その生息数は多くない。比較的多く見られた和歌川河口でも、近年は少なくなっており、また西広海岸や田辺湾では近年見ることができない。



執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
3　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119.
4　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121.
5　大阪市立自然史博物館所蔵標本（紀の川河口、和歌川河口、西広海岸から記録）
6　坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美樹．2016．和歌川河口妹背山周辺において 2010 年に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，66：25–29.
7　和田恵次．1978．和歌山県産スナガニ類とその分布について．南紀生物，20：18–22.
8　和田恵次専門調査員現地調査記録（田辺市内之浦から記録）.
9　和歌山県立自然博物館所蔵標本（紀の川、和歌川、船尾、西広海岸、日高川河口から記録）.
写真：和田恵次撮影（県外産）

スナガニ　*Ocypode stimpsoni* Ortmann, 1897　節足動物門　軟甲綱　十脚目　スナガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

北海道函館湾から種子島までの砂浜海岸に分布する。近年同属の南方系種のツノメガニやナンヨウスナガニが各地の海岸で増えており、その影響で本種が個体数を減らしたり、消滅したりする地域が西南日本沿岸から知られるようになった。田辺湾でも1970年代には広範にみられた本種が、近年は畠島でごく稀に見つかるに過ぎない。和歌山市の名草ノ浜や琴の浦でも明らかに生息数が減っている。現在和歌山県内では、和歌山市から日高町までの海岸と田辺湾、それに那智勝浦町周辺の海岸が本種の生息地である。本種の全国的な減少傾向を考慮し、和歌山県内の本種集団を準絶滅危惧と評価した。

なお、本種は夜行性であるが、人気の少ない砂浜では昼間活発に地上活動しているのが観察され、特に6月頃の繁殖期には体色が赤くなって活発にwavingと発音行動をしているのが見られる。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
3　中島東夫．1988．スナガニの摂食集団とwaving集団について．南紀生物，30：45–50．
4　Nakano, T., Kawamura, M., Kobayashi, G., Koizumi, K., Nakayama, R., Sugiyama, T., Shimomura, M. & Asakura, K. 2021. The intertidal microbenthic fauna of the Hatakejima Experimental Field, Wakayama Prefecture, Japan, in 2019. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 46：1– 41.
5　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121．
6　野元彰人・渡部哲也・徳丸直輝・酒井　卓・石村理知・香田唯・和田恵次．2020．近畿地方における砂浜性スナガニ属4種の18年間にわたる分布の変容－2002年・2010年・2019年の比較－．地域自然史と保全，42：45–59．
7　大阪市立自然史博物館所蔵標本（和歌川河口、田辺湾池田浦、那智勝浦町粉白海岸から記録）．
8　和田恵次．1978．和歌山県産スナガニ類とその分布について．南紀生物，20：18–22．
9　和田恵次専門調査員現地調査記録（名草の浜、西広海岸、小浦、玉之浦、那智浜から記録）．
10　和田恵次・渡部哲也．2019．和歌山県田辺湾におけるスナガニ属4種の記録（2010年）．わだつみ，1：11–12．
11　和歌山県立自然博物館所蔵標本（和歌山市毛見から記録）．
12　渡部哲也・淀　真理・木邑聡美・野元彰人・和田恵次．2012．近畿地方中南部沿岸域におけるスナガニ属4種の分布－2002年と2010年の比較－．地域自然史と保全，34：27–36．
13　淀　真理・渡部哲也・中西夕香・酒野光世・木邑聡美・野元彰人・和田恵次．2006．南方系種を含むスナガニ属3種の和歌山市における生息状況：2000–2003年．日本ベントス学会誌，61：2–7．
14　淀　真理・渡部哲也・野元彰人・木邑聡美・和田恵次．2020．西日本の砂浜海岸におけるスナガニ属カニ類の記録（2000–2002年）．わだつみ，2：18–23．

写真：和田恵次撮影

ハクセンシオマネキ　*Austruca lactea*（De Haan, 1835）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　スナガニ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

東京湾から種子島までの広い範囲に分布するが、記録される地域は限られる。やや礫混じりの砂泥性干潟の高潮部付近に穴居し、繁殖期の夏季にはダイナミックな雄の waving が見られる。和歌山県では紀の川河口、和歌川河口、琴の浦、有田川河口、江上川河口、比井川河口、日高川河口、切目川河口、田辺湾、ゆかし潟から記録がある。このうち比較的まとまった個体数が見られるのは、紀の川河口、和歌川河口、日高川河口くらいで、他の地域は生息数が少ない。和歌川河口では 1970 年代にごくわずかしか見られなかったが、1990 年代になって大幅に密度が増えた。しかし最近はまた減少傾向にある。紀の川河口域では、平成 11 年からほぼ毎年生息個体数のモニタリングが国土交通省近畿地方整備局により行われている。それによれば、全域の個体数は 1,000 個体から 8,000 個体の間を推移しているが、紀の川大堰運用以降は減少傾向がみられており、2019 年には 2,000 個体前後の低い値となっている。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書．
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書．
3　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
4　切目川ダム環境委員会．2009．切目川ダムにおける環境評価について．和歌山．
5　国土交通省近畿地方整備局．2021．令和 2 年度紀の川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書．
6　丸村眞弘．1993．日高川河口域のカニ．くろしお，（12）：54–55．
7　丸村眞弘．2000．内之浦干潟でシオマネキ類 2 種の生息を確認．くろしお，（19）：62．
8　野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115–121．
9　大阪市立自然史博物館所蔵標本（田辺市内之浦から記録）
10　坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美樹．2016．和歌川河口妹背山周辺において 2010 年に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，66：25–29．
11　坂田直彦・古賀庸憲・柚原　剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美樹．2017．和歌川河口干潟の妹背山観海閣周辺において 2011 年の春と秋に実施した「干潟生物の市民調査」の結果．和歌山大学教育学部紀要自然科学，67：31–39．
12　和田恵次．1978．和歌山県産スナガニ類とその分布について．南紀生物，20：18–22．
13　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31．
14　和歌山県立自然博物館所蔵標本（片男波、紀の川、和歌川、船尾、日高川から記録）．
15　山本靖子・和田恵次．2017．ハクセンシオマネキとチゴガニの間には生息場所利用・個体間関係において競争的関係がみられるか？ 日本ベントス学会誌，71：78–82．

写真：和田恵次撮影

ワダツミギボシムシ　*Balanoglossus carnosus* (Wiley, 1899)　半索動物門　ギボシムシ綱　ギボシムシ目　ギボシムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

千葉県館山以南の太平洋岸、瀬戸内海、能登半島沿岸から知られる。潮間帯から潮下帯の砂泥底にU字型の巣穴を掘り、その一端に太い紐状の糞塊を積み上げることで生息が確認できる。潮間帯で本種の糞塊が見られるのは国内では田辺湾の畠島くらいしか知られていない。田辺湾からの本種の記録は古くは1911年の標本記録（奈良女子大学所蔵標本）に遡る。田辺湾内の畠島における本種の糞塊記録は1949年以降知られており、特に1973年から1988年までは生息域の広さと糞塊数のデータが得られている。それによれば1970年代には糞塊数は250~450個であったが、1980年代には100個を下回り、しかも年を追って減少し、1988年には13個まで落ち込んだ。近年でも10~15個しか見られていない。このようにかつての生息数から大幅に減少していることから、準絶滅危惧と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　奈良女子大学所蔵標本.
2　西川輝昭．2018．桑野久任教授が1911年に採集した奈良女子大学所蔵和歌山県田辺産ギボシムシ類標本．南紀生物，60：154–159.
3　西川輝昭．2020．和歌山県田辺湾の畠島干潟におけるワダツミギボシムシ糞塊の数と分布 -1970年代の調査から -．南紀生物，62：13–18.
4　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949-1983 その2．南紀生物，26：105–111.
5　和田恵次・山本善万．1989．畠島実験地におけるワダツミギボシムシ糞塊数の記録－ 1981–1988．瀬戸臨海実験所年報，(3)：47–50.
6　和田恵次専門調査員現地調査記録.

写真：和田恵次撮影

カイウミヒドラ　*Scuchertinia epiconcha* (Stechow, 1908)　刺胞動物門　ヒドロ虫綱　刺糸目　ウミヒドラ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

房総半島以南の岩礁潮間帯のタイドプールに見られる巻貝シワホラダマシ *Cantharus mollis* の殻表上に群体ポリプとして共生する。和歌山県沿岸では、御坊市名田海岸、田辺湾、白浜町番所崎、白浜町見草海岸等から知られる。ただし白浜町番所崎の海岸では近年見られなくなった。田辺湾の畠島においても1949年から1970年まで、たびたび記録が上がっているが、それ以降は見られていない。記録地が限られており、他の岩礁海岸を詳細に調査する必要があるとみて、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

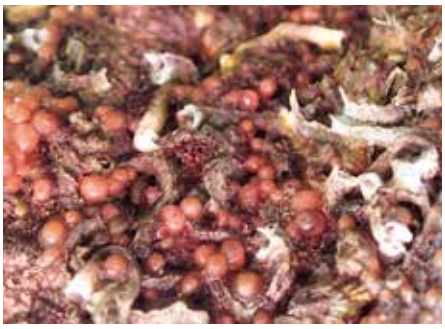
参考文献・情報

1　今原幸光．私信.
2　石田　惣．私信.
3　河村真理子．私信.
4　京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 / 白浜水族館．2018．白浜の海岸生物観察ガイド－動物・海藻・陸上植物－．94pp，白浜.
5　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その1．南紀生物，26：56–61.
6　内田紘臣．1998．白浜町見草海岸で観察された刺胞動物と環形動物．くろしお，(17)：56–58.
7　和田恵次・渡部哲也専門調査員現地調査記録（御坊市名田海岸から記録）

写真：渡部哲也提供

コマイハナゴケ　*Cervera komaii* (Utinomi, 1950)　刺胞動物門　花虫綱　ウミトサカ目　ウミヅタ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

原始的な八方サンゴ類で、岩礁潮間帯上部の遮蔽された岩棚下面にポリプの群体として付着している。個虫はきれいな淡紅色を呈する。紀伊半島沿岸と三浦半島沿岸から知られ、田辺湾の畠島は基産地である。畠島では 1972 年以降近年まで記録があるが、年によっては見られないこともある。他には和歌山市加太の田倉崎と城ケ崎で記録があるが、記録は限られている。なかなか目につきにくい環境にいるため、調査が不十分とみて情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　今原幸光．私信．
2　京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 / 白浜水族館．2018．白浜の海岸生物観察ガイド - 動物・海藻・陸上植物 -．94pp，白浜．
3　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その 1．南紀生物，26：56–61．
4　大阪湾海岸生物研究会．2018．大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 -2011 ～ 2015 年の調査結果．自然史研究，4：17–38．
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（田辺湾畠島から記録）

写真：河村真理子提供

ホソイソギンチャク属の 1 種　*Metedwardsia* sp.　刺胞動物門　花虫綱　イソギンチャク目　ムシモドキギンチャク科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本イソギンチャクはその形態から、ムシモドキギンチャク科のホソイソギンチャク属に属すると考えられる。本属はタイプ種ホソイソギンチャク *Metedwardsia akkeshi* をタイプ種とする単型属である。タイプ種の模式産地は厚岸（厚岸湖と推定される）であり、和歌山県とはかなりの距離が離れている上、水温や水質も異なるため、本種はホソイソギンチャクとは別種である可能性が高い。しかし、標本を用いての検証がなされていないことから種を同定するには尚早である。

本イソギンチャクは和歌山県においてはイソギンチャクガイドブックのみの記録となり、執筆者も生体を採取できていないため、「情報不足」と評価した。

執筆者（泉　貴人）

参考文献・情報

1　泉　貴人．私信．
2　Izumi, T., Yanagi, K. & Fujita, T. 2018. Re-description of *Metedwardsia akkeshi* (Cnidaria : Anthozoa : Actiniaria : Edwardsiidae), discovered in Akkeshi, Hokkaido, almost 80 years after original description, with a revision of the diagnosis of genus *Metedwardsia*. Species Diversity, 23 : 135–142.
3　内田紘臣・楚山勇．2001．イソギンチャクガイドブック．157pp．TBS ブリタニカ，東京．

ムシモドキギンチャク属の 1 種　*Edwardsia* sp.　刺胞動物門　花虫綱　イソギンチャク目　ムシモドキギンチャク科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山市の名草ノ浜で採集された本イソギンチャクは体が前後方向に細長いこと、体壁に刺胞をため込むためのカプセル状の構造である刺胞弾があることから、ムシモドキギンチャク科のムシモドキギンチャク属と判断される。

日本産の同属においては形態が近い種が存在しないため、本種は未記載種である可能性があるが、ムシモドキギンチャク属は 60 種以上の有効種を含んでいるため種同定が難しく、現状では断定はできない。

ムシモドキギンチャク科は砂泥底に埋没して生息するため、個体数の評価が極めて難しい。よって、今回は情報不足（DD）とした。

執筆者（泉　貴人）

参考文献・情報

1　泉　貴人．私信．
2　内田紘臣・楚山　勇．2001．イソギンチャクガイドブック．157pp．TBS ブリタニカ，東京．
3　和田恵次専門調査員現地調査記録（和歌山市名草ノ浜から記録）

オロチヒモムシ　*Cerebratulus* cf. *orochi* Kajihara, 2020　紐形動物門　担帽綱　異紐虫目　リネウス科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

Cerebratulus marginatus Renier，1804 という名で呼ばれるヒモムシは、イタリアのアドリア海北部から原記載されて以降、世界各地から報告されており、国内では「オロチヒモムシ」という和名が当てられてきた。しかし、タイプ産地であるアドリア海以外の場所に棲む「*Cerebratulus marginatus*」は真の *C. marginatus* とは異なる別種であることが 2010 年以降、次第に明らかとなっている。日本に生息する「オロチヒモムシ」に関しては、北海道の厚岸をタイプ産地とする *Cerebratulus orochi* という学名が提唱されている。和歌山県からは 1954 年に紀伊半島の沖からトロールによって得られた標本が *C. marginatus* として報告されている。これが *C. orochi* と同種であるかどうかはゲノム情報や内部形態を比較してみないと分からないものの、未記載種である可能性は低くないと思われる。

執筆者（柁原　宏）

参考文献・情報

1　Iwata, F. 1954. Some nemerteans from the coasts of the Kii Peninsula. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 4：33–42.
2　Kajihara, H. 2020. Redescription of *Cerebratulus marginatus* auct.（Nemertea：Pilidiophora）from Kokkaido, Japan, as a new species. Zootaxa, 4819：295–315.
3　奥田四郎・岩田文男．1965．おろちひもむし．In 岡田要（編），新日本動物図鑑［上］，p．395．北隆館，東京．

ムラサキヒモムシ　*Corsoua takakurai* Hookabe & Kajihara, 2020　紐形動物門　担帽綱　異紐虫目　リネウス科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由



本種は 1898 年に神奈川県三崎で発見されてから長い間 *Lineus longifissus*（Hubrecht，1887）という学名で呼ばれ、ムラサキヒモムシという和名が当てられていた（実際の体色は紫色というよりは黒色に近い）。しかし *Lineus longifissus* のタイプ産地は南アフリカ共和国沖のインド洋マリオン島であり、分布域の違いだけでなく形態的な特徴からも誤同定の可能性が指摘されていた。2020 年に神奈川県三崎をタイプ産地として原記載された *Corsoua takakurai* は、和名で「ムラサキヒモムシ」と

選定理由

呼ばれていた種を表す有効名である。2019 年に和歌山県名草ノ浜から得られた標本は *C. takakurai* の原記載論文中で比較観察対象とされ、塩基配列の情報から確実に同種とみなすことのできる記録のうち、これまで知られている中では最も南方のものである。ただし、ムラサキヒモムシは形態的特徴に基づいて熊本県富岡湾からも 1952 年に報告されているため、潜在的な分布域は本州だけでなく九州あるいはそれよりも南西に広がっている可能性は高い。

執筆者（柁原　宏）

参考文献・情報

1 Hookabe, N. & Kajihara, H. 2020. Taxonomic reappraisal of *Lineus longifissus* auct. (Nemertea : Pilidiophora) from Japan for the first time in 122 years. Zoological Science, 37 : 467–475.
2 Iwata, F. 1952. Nemertini from the coasts of Kyusyu. Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Series VI, 11 : 126–148.
3 岩田文男．1965．むらさきひもむし．In 岡田要（編），新日本動物図鑑 [上]，p．394．北隆館，東京．
4 高倉卯三麿．1898．三崎近傍産紐蟲（Nemertinie）ノ分類．動物学雑誌 10 : 38–44，116–120，184–187，331–337，424–429.

写真：柁原　宏撮影

ミドリシャミセンガイ類似種　*Lingula lepidula* A. Adams, 1863　腕足動物門　舌殻綱　舌殻目　シャミセンガイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）



選定理由

背腹二枚の薄い殻と細長い肉茎を持つ腕足動物。潮間帯から潮下帯の砂泥に潜って生息する。小さい個体は薄茶色で、半透明の楕円形の殻を持つが、成長とともに殻は分厚く不透明になり、角張り、長方形に近くなる。大きい個体の殻は濃い茶色で殻の辺縁部等がしばしば緑色を呈する。田辺湾では、コアマモ帯や細かい砂泥の干潟において時々採集されるが、生息密度は低い。県内のシャミセンガイ類の生息数は、国内全体での傾向と同様に、干潟環境の減少・悪化によって急速に減少している可能性が高い。ミドリシャミセンガイは、国内では下北半島から南西諸島まで広く分布するとされてきたが、DNA 解析によって遺伝的に分化した複数種に分かれることが示唆されている。隠蔽種各種は比較的限られた地域にのみ生息する可能性があり、効果的な保護のために早急な分類の整理と分布域の把握が必要である。最新の系統分類学的研究によって、少なくとも田辺湾の干潟の個体群は、明石をタイプ産地として記載された *Lingula lepidula* であることが示唆されている。

執筆者（後藤龍太郎）

参考文献・情報

1 Endo, K., Osawa, T. & Kojima, S. 2001. Nuclear and mitochondrial gene sequences reveal unexpected genetic heterogeneity among northern Pacific populations of the brachiopod *Lingula anatina*. Marine Biology, 139 : 105–112.
2 Goto, R., Takano, T., Seike, K., Yamashita, M., Paulay, G., Rodgers, K.S., Hunter, C.L., Tongkerd, P., Sato, S., Hong, J.S. & Endo, K. 2022. Stasis and diversity in living fossils : Species delimitation and evolution of lingulid brachiopods. Molecular Phylogenetics and Evolution, 175 : 107460.
3 広瀬雅人・大塚　攻・近藤裕介・平林丈嗣・富川　光・清水則雄．2012．瀬戸内海中央部で発見された腕足類 2 種について．広島大学総合博物館研究報告 4 : 43–48.
4 環境省自然環境局生物多様性センター．2021．2020 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書．332 pp．環境省自然環境局生物多様性センター，富士吉田．
5 Nishizawa, A., Sarashina, I., Tsujimoto, Y., Iijima, M. & Endo, K. 2010. Artificial fertilization, early development and chromosome numbers in the brachiopod *Lingula anatina*. Evolution and Development of the Brachiopod Shell : Special Papers in Paleontology, 84 : 309–316.

写真：後藤龍太郎撮影

スズメガイダマシ　*Discradisca stella* (Gould, 1862)　腕足動物門　舌殻綱　舌殻目　盤殻科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

腕足動物の一種。東京湾以南の太平洋岸に分布する。和歌山県では北部の岩礁潮間帯から記録がある。平たい腹殻で基質に付着し、カサガイ様の背殻で背部を覆う。殻周からは棘毛が放射状に生える。継続的に記録はあるが採集箇所が少なく、生息状況の把握が不十分と判断し情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　今原幸光　編著．2016．新装改訂　フィールド版　写真でわかる磯の生き物図鑑．279pp．トンボ出版，大阪．
2　大阪湾海岸生物研究会．2018．大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 − 2011~2015 年の調査結果．自然史研究，4：17–38.
3　大谷道夫．2019．大阪湾潮間帯で記録されたスズメガイダマシ *Discradisca stella*（Gould，1860）（腕足動物門，盤殻科）．わだつみ，（1）：7–10.

写真：渡部哲也撮影

ニッポンオフェリア　*Travisia japonica* Fujiwara, 1933　環形動物門　頭節綱　オフェリアゴカイ目　オフェリアゴカイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

日本各地に分布するが、潮間帯から記録があるのは和歌山県以南の西南日本。和歌山県内では和歌川河口や西広海岸から記録がある。保全状態の良好な前浜干潟に生息する。比較的大型かつ独特の強いガス臭を発するため、掘り返すとすぐにわかる。採集地点数が限られており、生息状況の把握が不十分と判断し、情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（I）．南紀生物，46：31–36.
3　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.
4　内田紘臣．1994．広川町唐尾干潟の多毛類．くろしお，（13）：49–50.
5　和田恵次・渡部哲也専門調査員現地調査記録（西広海岸から記録）.

タマシキゴカイ　*Arenicola brasiliensis* Nonato, 1958　環形動物門　頭節綱　イトゴカイ目　タマシキゴカイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

日本各地に分布するが、東北や関東に比べると瀬戸内海、九州での記録は少ないとされる。和歌山県内では広川町や白浜町、串本町で記録がある。砂質から砂泥質の干潟に生息し、巣穴から特徴的な糞塊を出す。また繁殖期には吹き出しのようなゼラチン状卵塊を地表に形成する。採集地点数は比較的あるものの、近年の情報が少ないため、情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.

参考文献・情報
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（I）．南紀生物，46：31–36.
3　西村三郎 編著．1992 原色検索日本海岸動物図鑑 I．425pp．72pls．保育社．大阪.
4　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その 2．南紀生物，26：105–111.
5　内田紘臣．1994．広川町唐尾干潟の多毛類．くろしお，(13)：49–50.
6　和田恵次・渡部哲也専門調査員現地調査記録（串本町橋杭岩から記録）
写真：和田恵次提供

シダレイトゴカイ　*Notomastus latericeus* Sars, 1851　環形動物門　頭節綱　イトゴカイ目　イトゴカイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

赤褐色の細長い紐状のゴカイ。日本全国の砂泥質干潟に分布するが、各地で個体群が減少傾向にある（日本ベントス学会，2012）。和歌山県では、これまで日高川河口、田辺湾内之浦、ゆかし潟から記録があるだけである。産地が少ないが、埋在性のものなので調査が不十分の可能性が高く、また分類学的検討を要する種ともされているため、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1　環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
2　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書.
3　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，泰野.
4　内田紘臣．1993．御坊市日高川河口干潟の多毛類．くろしお，(12)：56.
5　山西良平．私信.

チリメンイトゴカイ　*Dasybranchus caducus* (Grube, 1846)　環形動物門　頭節綱　イトゴカイ目　イトゴカイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

日本産のイトゴカイ科では最大の種で、本州中部以南南西諸島までの広い範囲の砂泥質干潟に分布するが、東海から四国・中国地方までの地域からの記録はほとんどない（日本ベントス学会，2012）。和歌山県では、串本町錆浦から記録があるだけである。干潟に埋在して生息するため、見つけにくいこともあり、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1　内田紘臣．2008．和歌山県沿岸の潮間帯における多毛類の近年の推移－ I．岩礁海岸．南紀生物，50：175–184.

イトメ　*Tylorrhynchus osawai* (Izuka, 1903)　環形動物門　足刺綱　サシバゴカイ目　ゴカイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

北海道から沖縄までの汽水域の干潟に普通の種で、汽水域上流部（低塩分濃度地域）の指標ベントス種とされてきた。主にヨシ原の根元付近の泥場に穴居するが、近年各地で生息場所が減少しつつある（日本ベントス学会，2012）。10~11 月の大潮の日没後満潮直後に生殖群泳することが知られている。和歌山県沿岸では元々記録が少なく、日高川河口と熊野川河口から知られているに過ぎない。ヨシ原周辺の泥地に埋没して生息するため、見つけにくいこともあり、調査不十分とみて情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　国土交通省．2021．河川環境データベース http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，泰野．
3　内田紘臣．1993．御坊市日高川河口干潟の多毛類．くろしお，(12)：56.
4　内田紘臣．2009．和歌山県沿岸の潮間帯における多毛類相の近年の推移―Ⅱ．河口干潟．南紀生物，51：99–104.
写真：佐藤正典提供（県外産）

クロブチボウセキウロコムシ *Polyodontes kuroshio* Jimi, Tomioka, Orita & Kajihara, 2019　環形動物門　足刺綱　サシバゴカイ目　ボウセキウロコムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

2019 年に高知県沖と和歌山県田辺湾畠島から採れた標本に基づいて新種として報告された。高知県沖は水深 12 m の岩底であるのに対し、畠島では潮間帯の砂底から得られている。比較的大型のウロコムシ類で、背面にある背鱗はきれいな黒ぶち模様を呈する。畠島の記録は 1966 年で、それ以降は見つかってはいない。古い記録だけなので、今後見つかる可能性はあるため情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　Jimi, N., Tomioka, S., Orita, R. & Kajihara, H. 2019. A new species of *Polyodontes*（Annelida：Acoetidae）from western Japan. Species Diversity, 24：275–279.

ニッポンフサゴカイ *Thelepus* cf. *setosus*（Quatrefages, 1866）　環形動物門　溝副触手綱　フサゴカイ目　フサゴカイ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

多数の口触手をもつゴカイで、本州中部から九州までの潮間帯転石下に砂粒を付けた棲管に入って生息する。全国的には個体群の減少傾向が見られる（日本ベントス学会，2012）。和歌山県では海南市琴の浦、田辺湾、すさみ町里野海岸等から記録があるに過ぎない。砂泥中に埋在するため見つけにくいことと、分類学的検討が必要な種であることから、情報不足と評価した。



執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（I）．南紀生物，46：31–36.
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
3　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その 2．南紀生物，26：105–111.
4　大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976–2001．南紀生物，43：102–108.
5　内田紘臣．1995．すさみ町里野海岸の花虫類および多毛類．くろしお，(14)：34–36.
6　内田紘臣．2011．春の観察会で鳥ノ巣半島沿岸で見られた環形動物多毛類その他．くろしお，(30)：41–49.
写真：渡部哲也提供（県外産）

クビレクガビル　*Orobdella angustata* Nakano, 2018　環形動物門　環帯綱　ヒル目　クガビル科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

2012 年に和歌山県田辺市護摩壇山より採集された 4 個体の標本に基づいて新種として記載された。採集地点の標高は約 1280 m で、護摩壇山山頂付近に位置する。性成熟時のサイズは不明だが、恐らく 5 cm 以上、10 cm 以下の中型種だと考えられている。生きている時の体色は青黒色を呈する。紀伊半島を含む近畿地方に生息する同属他種よりも、中国・四国・九州地方に生息する種と近縁であることが明らかになっている。現在確認されている生息地は、2012 年に発見された田辺市護摩壇山山頂付近のみであるが、より低標高地点を含む周辺の森林環境にも生息している可能性があるため、情報不足と評価した。

執筆者（中野隆文）

参考文献・情報

1　Nakano, T. 2018. A new quadrannulate species of *Orobdella*（Hirudinida：Arhynchobdellida：Orobdellidae）from Kii Peninsula, Japan. Species Diversity, 23：43–49.

写真：中野隆文撮影

サナダユムシ　*Ikeda taenioides*（Ikeda, 1904）　環形動物門　ミドリユムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）



選定理由

濃褐色の横縞模様のあるテープ状の長い口吻と濃赤褐色のソーセージ状の細長い体幹を持つユムシ類。日本固有種。口吻は 2 m 以上、体幹は 65 cm 以上になり、おそらくユムシ類最大種。潮間帯から潮下帯の砂泥に垂直の深い巣穴を掘り、その中に生息する。海底の砂泥面に伸ばした口吻が時々観察されることがあるが、体幹部は常に巣穴深部に留まるため本体の採集は至難である。実際本体の採集記録は長く途絶えていたが、2019 年に 88 年ぶりに瀬戸内海の干潟において採集された。陸奥湾以南の太平洋、日本海、瀬戸内海等日本各地から報告があるが、その多くの産地で個体群の減少が指摘されている。和歌山県では、1949 年出版の書籍に西牟婁郡白浜町からの記録があるのみで、その後報告はなかったが、2018 年に田辺湾の干潟から口吻 1 個体分が採集された。本種は自然度の高い砂泥干潟やアマモ場にしか生息しないため、干潟環境の減少や悪化の影響を強く受けると予想される。大型種だが、砂泥に深く潜る生態ゆえに生息情報は限られている。

執筆者（後藤龍太郎）

参考文献・情報

1　Goto, R., Henmi, Y., Shiozaki, Y. & Itani, G. 2021. Giant spoon worms pumped out of their deep burrows：First collection of the main bodies of *Ikeda taeniodes*（Annelida：Thalassematidae：Bonelliinae）in 88 years. Plankton and Benthos Research, 16：155–164.
2　Goto, R., Monnington, J., Sciberras, M., Hirabayashi, I. & Rouse, G.W. 2020. Phylogeny of Echiura updated, with a revised taxonomy to reflect their placement in Annelida as sister group to Capitellidae. Invertebrate Systematics, 34：101–111.
3　Goto, R., Sakamoto, S., Hayakawa, J. & Seike, K. 2017. Underwater observations of the giant spoon worm *Ikeda taenioides*（Annelida：Echiura：Ikedidae）in a subtidal soft- bottom environment in northeastern Japan, which survived tsunamis of the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake. Journal of Oceanography, 73：103–113.
4　駒井卓．1949．動物学上著名な日本産動物．212 pp．甲文社，京都．
5　西川輝昭．2012．サナダユムシ．In 日本ベントス学会（編），干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．238pp．東海大学出版会，秦野．

参考文献・情報
6　大城匡平・平林勲・邉見由美・後藤龍太郎．2019．サナダユムシ（環形動物門：ユムシ綱：サナダユムシ科）の紀伊半島，日本海及び奄美大島からの記録．日本ベントス学会誌，74：93–97.
7　田中正敦・多留聖典．2021．写真および標本に基づくサナダユムシ（環形動物門ユムシ類）の駿河湾からの初記録．みちのくベントス，4：36–40.
写真：大城匡平提供

スジホシムシモドキ *Siphonosoma cumanense* (Keferstein, 1867)　環形動物門　ホシムシ綱　スジホシムシ目　スジホシムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

陸奥湾以南沖縄までの砂泥質干潟の中下部に生息する。かつて釣り餌用に漁獲されていたこともあるが、現在は各地で減少傾向にあるとされる（日本ベントス学会，2012）。和歌山県沿岸では、和歌山市加太、田辺湾、ゆかし潟から記録がある。特に田辺湾の内之浦のアマモ場では多産し、その生息密度が 15~30 ／㎡と報じられている（上出，2013）。砂泥中に埋没して生息するため、生息状況の把握は不十分とみて情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）



参考文献・情報
1　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書.
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.
3　大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その 2．南紀生物，26：105–111.
4　大阪湾海岸生物研究会．2018．大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 - 2011~2015 年の調査結果．自然史研究，4：17–38.
5　上出貴士．2013．和歌山県田辺湾内之浦の潮間帯におけるスジホシムシモドキ *Siphonosoma cumanense* とイケダホシムシ *Golfingia margaritacea margaritacea*（星口動物門，スジホシムシ綱）の分布と生息環境．南紀生物，55：145–151.
6　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
写真：和田恵次撮影

ムラクモスジホシムシモドキ *Siphonosoma vastum* (Selenka & Bulow, 1883)　環形動物門　ホシムシ綱　スジホシムシ目　スジホシムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

日本からは、三宅島、和歌山県串本町、沖縄県瀬底島からのみ記録がある希少種。和歌山県串本町の記録では潮間帯から得られたとされている。記録がこのように極めて限定的で、和歌山県沿岸での生息状況も不明であるため、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1　Cutler, E.B., Cutler, N.J. & Nishikawa, T. 1984. The Sipuncula of Japan：their systematics and distribution. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 29：249–322.
2　大城匡平．私信.
3　佐藤正典．私信.

アンチラサメハダホシムシ *Antilllesoma antillarum* (Grübe & Oersted, 1858)　環形動物門　ホシムシ綱　サメハダホシムシ目　サメハダホシムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

瀬戸内海、有明海、奄美大島、それに和歌山県から記録される（日本ベントス学会，2012）。ただし和歌山県内の産地は不明。潮間帯から潮下帯の砂泥底や礫底から得られる。メキシコのカリブ海側と太平洋側、それに西部太平洋のタイの集団間で分子系統解析が行われた結果（Siva-Morales *et al.*，2019）によるとこれら 3 つの集団は互いに遺伝的に異なっており、西部太平洋産のものは別種になる可能性が高い。そのため日本産の本種は分

選定理由　類学的課題を残すものである。県内における記録が不明な点があるとともに、本種の分類学的課題も考慮し、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　大城匡平．私信．
3　Silva-Morales, I., López-Aquino, M. J., Islas-Villanueva, V., Ruiz-Escobar, F. & Bastida-Zavala, J. R. 2019. Morphological and molecular differences between the Amphiamerican populations of *Antillesoma*（Sipuncula：Antillesomatidae），with the description of a new species. Revista de Biologia Tropical, 67（SS）Supplemento：S101–S109.

キイコナダニモドキ　*Malaconothrus kiiensis* Yamamoto, 1996　節足動物門　クモ形綱　ダニ目　コナダニモドキ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由　すさみ町・琴の滝周辺のかなり湿った森林腐植土壌から新種として報告されたもので、体長は 0.45 mm と中型の種である。以後、美里町の高城谷からも報告されている。新種として報告されて以来、20 数年が経つが、他地域からの報告はなく、生息は限られた場所と思われる。本種に似た種としては、神奈川県箱根の湿原からヨシノリコナダニモドキ、沖縄県西表島カンピレーの滝付近の腐植からイリオモテコナダニモドキが報告されている。本種は紀伊半島から採集されたので、キイコナダニモドキと命名された。頭部先端の毛の形状で、近縁他種から区別される。今までに採集されている場所をみると、滝や渓谷等といった高湿な環境であり、この科に含まれる多くの種は、その生息に同じような特徴を持っている。そのため、森林が伐採されたりして河川の環境に変化が起こったり、腐植が乾燥したりするようなことがあると生息していけない種と思われる。

執筆者（山本佳範）

参考文献・情報

1　Yamamoto,Y. 1996. Two new oribatid mites of the family Malaconothridae in Wakayama Prefecture, central Japan（Acari：Oribatei）．Acta Arachnologica, 45（2）：119–124.
2　山本佳範．2005．美里町誌・自然編　私たちの町．第３章　土壌動物－特にササラダニ類相について．127–144．美里．

写真：山本佳範撮影

アラゲコナダニモドキ　*Trimalaconothrus barbatus* Yamamoto, 1977　節足動物門　クモ形綱　ダニ目　コナダニモドキ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



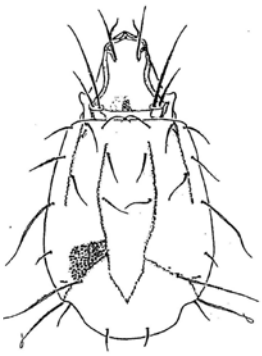
選定理由　神奈川県箱根畑宿の沢にある岩上のコケから新種として報告された種で、体長は 0.53 mm と中型の種である。胴体部背面の毛が非常に荒々しいため、この名前を付けられた。紀の川市・龍門山山頂付近に広がるイワシモツケ群落のコケ類から採集され、田辺市本宮町の大杉谷・黒蔵谷からも報告されている。和歌山県外の分布としては、愛媛県小田町本谷から記録があるのみである。本種の生息にも高湿な環境が不可欠であり、森林伐採等で林床が乾燥すると生息できなくなるおそれがある。

執筆者（山本佳範）

参考文献・情報
1　Yamamoto,Y. 1977. Oribatid fauna of the experimental forest of Tamagawa University in Hakone, central Japan. 1. *Oribatei inferiores*. Bulletin of Biogeographical Society of Japan, 32（4）: 33–42.
2　山本佳範．1981．龍門山（蛇紋岩地帯）における土壌小形節足動物相，特にササラダニ類について．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書，92–117.
3　山本佳範．2002．大杉谷・黒蔵谷におけるササラダニ類．大塔山系大杉大小屋国有林自然環境調査報告集．195–207．和歌山県自然環境研究会，田辺.
4　山本佳範・山本栄治．2000．小田深山とその周辺地域におけるサラダニ類．小田深山の自然　I，725–800．小田.
写真：山本佳範撮影

ツノコナダニモドキ　*Trimalaconothrus wuyanensis* Yamamoto, Aoki, Wang & Hu, 1993　節足動物門　クモ形綱　ダニ目　コナダニモドキ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

中国浙江省烏岩嶺の照葉樹林内にある、滝壺近くの腐植から新種として報告された種で、田辺市本宮町の黒蔵谷から出現したものが、日本新記録として報告されている。体長は 0.57 mm と中型のササラダニ類である。最初の発見は、神奈川県箱根畑宿であったが、1 個体のみの出現であったため、新種記載が出来ていなかった。和歌山県外では滋賀県高島市朽木生杉のブナ林から出現しており、滋賀県のレッドデータ種としても掲載されている。また、青木が日本列島 2,900 地点を調査した標本を検鏡し、長崎県の対馬から 1 個体を確認した。また、筆者が全国調査をした際、鹿児島県の霧島町からも採集している。本種の生息にも高湿な環境が不可欠で有り、森林伐採等により腐植が乾燥すると生息できない。

執筆者（山本佳範）

参考文献・情報
1　滋賀県生きもの総合調査委員会編．2020．滋賀県で大切にすべき野生生物　滋賀県レッドデータブック 2020 年版．滋賀県自然環境保全課，大津.
2　山本佳範，2002．大杉谷・黒蔵谷におけるササラダニ類．大塔山系大杉大小屋国有林自然環境調査報告集，195–207．和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　Yamamoto, Y., Aoki, J., Wang, X. & Hu, S. 1993. Oribatid mites from subtropical forest of Wu-yan-ling, East China.（1）Two new species of the family Malaconothridae（Acari：Oribatei）. Edaphologia, 49：25–31.
図：山本佳範原図

オオギホソダニ　*Licnodamaeus pulcherrimus*（Paoli, 1908）　節足動物門　クモ形綱　ダニ目　オオギホソダニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

ハンガリー、オーストリア、ポーランド、スペイン、チェコ等、ヨーロッパ各地に分布する種である。体長は 0.3 mm と小型の種であり、体型は細長い。この仲間は体表面全体が顆粒状の構造を持つグループと、網目状の構造を持つグループに別れ、本種は後者に当たる。頭部の両側にある胴感毛が、扇のように広がっていることから、この名前が付けられた。国内では 3 種が知られており、1 種は樹上環境からである。天神崎から日本新記録種として報告され、その後、鹿児島県徳之島、伊丁島、伊江島、渡名島等の南西諸島からも報告されているものの、発見から 40 数年を経過しても報告例が少ない。

執筆者（山本佳範）

参考文献・情報
1　青木淳一．2009．南西諸島のササラダニ類．222pp．東海大学出版会，秦野.
2　山本佳範．1979．天神崎自然観察地域設置調査報告書（7）ササラダニ類．日本自然保護協会調査報告書，59：43–50，99–101，写真 :84–88.
3　山本佳範．1979．ササラダニ類の日本新記録種 2 種について．南紀生物，21（2）：78–80.
写真：山本佳範撮影

ケタスケチビイブシダニ　*Microtegeus asiaticus* Aoki & Yamamoto, 2000　節足動物門　クモ形綱　ダニ目　チビイブシダニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

中国雲南省にある玉龍雪山の、標高 2,800 m 付近のマツ林から新種として報告された種で、和歌山県下では田辺市の大杉谷、黒蔵谷から日本新記録種として報告されている。ササラダニ類の中では 0.27 mm と小型の種である。日本でチビイブシダニ科の種は、本種以外は 2 種知られているが、いずれも南西諸島からの報告である。頭部の桁が幅広く発達しており、網目状に透けていることからこの名前が付けられた。国内では、和歌山県のみからの出現で、他地域からの報告はない。

執筆者（山本佳範）



参考文献・情報

1　青木淳一．2009．南西諸島のササラダニ類．222pp．東海大学出版会，秦野．
2　Aoki, J. & Yamamoto,Y. 2000. Three new species of oribatid mites from Mt. Yulongxueshan, Yunnan Province in China（Acari：Oribatida）. Taxonomical studies on the soil fauna Province in southwest China. 7–12. Tokai University Press, Hadano.
3　山本佳範．2002．大杉谷・黒蔵谷におけるササラダニ類．大塔山系大杉大小屋国有林自然環境調査報告集．195–207．和歌山県自然環境研究会，田辺．

写真：山本佳範撮影

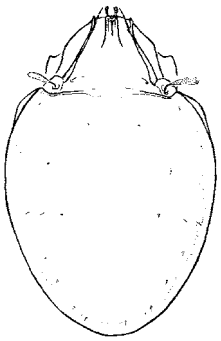
チビハネアシダニ　*Microzetorchestes emeryi*（Coggi, 1989）　節足動物門　クモ形綱　ダニ目　ハネアシダニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

この種はイタリアで新種記載されたもので、ハンガリー、チェコ等、ヨーロッパの各地とロシアから報告されている。田辺市天神崎の丸山において、ウバメガシ林の腐植土壌から見つかり、日本新記録種として報告された。ハネアシダニ科の中では、体長が 0.36 mm と小さいので、新たに属が設けられ、和名もチビハネアシダニと名付けられた。世界で本属は 1 種のみである。天神崎で見つかった当時、アジアでも初めての記録であったが、その後、韓国からも見つかっている。国内での分布は天神崎の他、東京都渋谷区にある常陸松御用邸の竹林から見つかっているだけで、非常に分布の限られた種である。

執筆者（山本佳範）



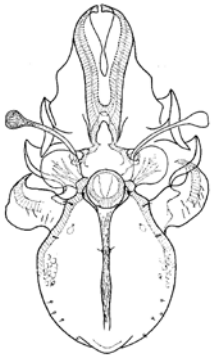
参考文献・情報

1　青木淳一．2005．常陸松御用邸のササラダニ類．国立科学博物館専報，（39）：479–483.
2　Choi, S. S. 1986. The oribatid mites（Acari：Cryptostigmata）of Korea（6）. Thesis Collection Won Kwang University, 20：109–127.
3　山本佳範．1979．天神崎自然観察地域設置調査報告書（7）ササラダニ類．日本自然保護協会調査報告書，59：43–50，99–101，84–88.
4　山本佳範．1979．ササラダニ類の日本新記録種 2 種について．南紀生物，21（2）：78–80.

図：山本佳範原図

エボシダニ　*Idiozetes erectus* Aoki, 1976　節足動物門　クモ形綱　ダニ目　エボシダニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

西マレーシアから新科・新属・新種として報告された熱帯系の種で、体長が 0.29 mm と、ササラダニ類の中では小型である。体型が特異で、烏帽子に似ていることからこの名前を付けられた。和歌山市の友ヶ島（沖ノ島）から日本新記録種として報告されたもので、和歌山県下で見つかっているのは友ヶ島のスダジイ林のみであり、県外では福岡県の姫島、鹿児島県の悪石島、中之島、沖縄県の久米島、石垣島、西表島等の南西諸島から報告がある。1983 年の友ヶ島での発見当時、スダジイ林から多くの個体が採集されたが、タイワンジカ（交雑種）が、当時よりもかなり増加していることに起因してか、下草がなくなり、低木も育たないことから林床が乾燥し、森林も荒廃し、エボシダニにおいては、30 数年を経て個体数を減じており、2020 年 10 月の調査では、1 個体も採集されなかった。

執筆者（山本佳範）

参考文献・情報

1　Aoki, J. 1976. Oribatid mites from the IBP study area, Pasoh Forest Reserve, West Malaysia. Nature and Life in South East Asia, 7, 39–59.
2　青木淳一．2010．南西諸島のササラダニ類．222pp．東海大学出版会，秦野．
3　久保田直．1987．姫島（福岡県）におけるササラダニ類の群集構造．生物福岡，27：9–16.
4　山本佳範．1983．友ヶ島における土壌小形節足動物相，特にササラダニ類相について．友ケ島学術調査，133–160．和歌山.

図：Aoki（1976）典拠

イソタナグモ　*Paratheuma shirahamaensis*（Oi, 1960）　節足動物門　クモ形綱　クモ目　ハグモ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

頭胸部は幅広く、黄褐色。腹部は長卵形で腹部背面の黒褐色の地に、かすかに山形斑紋が見える。メスは 6~8 mm、オスは 7~8 mm。海浜性のクモで、潮上帯の転石のすき間やくぼみ、砂浜海岸の石下等に管状の住居をつくり、入口に棚網を張る。満潮時に海面下になるような場所にも営巣することがある。コンクリート護岸には見られない。日本全土に分布。和歌山県（白浜町白浜）が種の模式産地。友ヶ島および紀南地方で記録があるが採集例は少ない。海浜という生息環境に適応したクモとして重要な種である。

本種の生息に適した転石の多い干潟や岩場のある自然海岸が減っており、愛媛県松山市では、近縁な外来種であるシマイソタナグモが確認され、生息環境が競合する可能性が指摘されている。今後の生息状況の動向に注意が必要であることから情報不足（DD）に選定した。

執筆者（関根幹夫）

参考文献・情報

1　大井良次．1960．京都瀬戸臨海実験所附近に産する海浜性の蜘蛛について．Acta Arachnologica，17（1）：3–8.
2　東條　清．2001．和歌山のクモ．242pp．著者自刊.
3　八木沼健夫．1990．イソタナグモの学名と分布．南紀生物，32（1）：1–6.

写真：関根幹夫撮影

ヤマトウシオグモ　*Desis japonica* Yaginuma, 1956　節足動物門　クモ形綱　クモ目　ウシオグモ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

体全体黒褐色。頭部と胸部の境界は不明瞭。腹部に長毛が見られる。サイズはメス及びオスともに 6 mm 前後で、上顎を加えると体長は 8 mm に達する。海岸の岩場、サンゴ礁、干潟等の潮間帯に生息し、岩のすき間やくぼみ、石の下等に住居を作り中に潜む。満潮時には住居は海水中に没するが、海水は住居の中までは侵入しない。潮が引くと、岩の上を歩き回って海浜性の等脚類や昆虫類等の小さな節足動物を捕食する。和歌山県（白浜町湯崎）が本種の模式産地である。日本固有種。和歌山県・長崎県・熊本県・式根島・宝島・沖縄島で生息が確認されているものの、分布は極めて局所的である。潮間帯という特異な生息環境に適応したクモで、ミズグモ等とともにクモ類の水環境への適応進化を研究する上で重要な種である。

和歌山県では、1954 年の採取記録以降の情報がないことから、情報不足（DD）に選定した。

執筆者（関根幹夫）

参考文献・情報

1　東條　清．2001．和歌山のクモ．242pp．著者自刊．
2　Yaginuma, T. 1956. A new species of marine spider *Desis* from Japan. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 5：363-366.

ヒトエグモ　*Plator nipponicus*（Kishida, 1914）　節足動物門　クモ形綱　クモ目　ヒトエグモ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

日本のクモ類の内、最も体が扁平なクモである。頭胸部と歩脚は黄褐色ないし明赤褐色、腹部は灰褐色。メス 6~8 mm、オス 5~8 mm。旧家や古い社寺の屋内外の柱と敷居のすき間、石灯籠のすき間や大木の樹皮下等に身を潜めている。隙間から外に眼を向けて待ち伏せ、近づいた獲物（アリ類やダンゴムシ・ヤスデ）を左右の第 1 脚・2 脚で抱え込み挟んで捕え咬みついて食べる。静岡県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県でのみ生息が確認されており、全国的にみて特異な分布をしている。

和歌山県では、湯浅町の 1 ヶ所での記録（2007 年、2008 年）があるのみで希少である。この記録以降の情報がないため、情報不足（DD）に選定した。

執筆者（関根幹夫）

参考文献・情報

1　楠井善久．2008．ヒトエグモの和歌山県湯浅町における分布記録．南紀生物，50（1）：163-164.

写真：関根幹夫撮影（県外産）

カシマセスジアカムカデ　*Scolopocryptops rubiginosus kashimensis*（Miyosi, 1957）　節足動物門　ムカデ綱　オオムカデ目　アカムカデ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本亜種は、1956 年に田辺市新庄町神島で採集され、同属のセスジアカムカデの亜種として 1957 年に記載された。体長は約 40~50 mm、体は紅褐色あるいは暗褐色をする。セスジアカムカデに似て胴節背面の背板に並行する 2 縦溝があるが、最後の 2 対の歩肢（第 22・23 番目）の前腿節後端部、腿節、脛節、第 1・第 2 付節に短刺毛が密生する点で区別される。和歌山県の他に東京や伊豆諸島から記録される。平地の人家周辺や森林の土壌中、石の下、倒木下や樹皮下に生息する。晩冬から初夏にかけて産卵期を迎え、産み付けた卵を体の腹側で卵塊にして歩肢で包み、幼虫が孵化して独立行動ができるまで保護する。

選定理由

これまで、県内各地で現地調査が行われたが田辺市の神島にのみ生息が確認されている。本亜種の生息域が限定的な可能性があり、その場合土地開発や森林伐採等が個体群維持に直接影響することが考えられる。今後の詳細な調査が求められる。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　三好保徳．1957．日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究，20．ヤスデの 1 新属とムカデの 1 新種及び 1 新亜種．動物学雑誌，66 (6)：264–267.
2　吉田元重．1997．和歌山県のムカデ類．南紀生物，49 (2)：135–136.

モモジムカデ　*Momophilus serratus* Takakuwa, 1937　節足動物門　ムカデ綱　ジムカデ目　マツジムカデ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本種は、体長が約 35 mm、体は黄色を呈し、歩肢は 45~49 対を有する細長いジムカデ類の一種である。1935 年に三重県鳥羽市答志島西端の桃取の海岸で波打ち際から 2 匹が採集され、1937 年に新属新種として記載された。本属のムカデは本種のみである。その後、高知県高知市の桂浜から記録され、和歌山県においては和歌山市の友ヶ島に生息することが報告された。日本においてはこれらの産地以外に発見されていない。和歌山県においても詳細な分布や生態等の情報が乏しく、また海岸という限られた生息域の改変による個体群へのダメージも懸念される。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　Takakuwa, Y. 1937. Über eine neue Gattung und eine neue Art von Schendylidae aus Japan. Zoological Magazine, 49 (1)：1–4.
2　吉田元重．1997．和歌山県のムカデ類．南紀生物，49 (2)：135–136.

クロヒメヤスデ　*Karteroiulus niger* Attems, 1909　節足動物門　ヤスデ綱　ヒメヤスデ目　クロヒメヤスデ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



本種は、体が黒褐色で丸紐状をなし、胴部が 56–62 節からなり、体長約 65 mm に達する大型のヤスデである。雄の第 1 歩肢は肥厚しており、その第 4 節が膨大となって内側に長毛束が生える。眼は約 70 個の単眼が約 8 列に並ぶ。本州、四国、九州に分布する。和歌山県では護摩壇山、東牟婁郡那智勝浦町の那智大滝付近の森林地帯や、大塔山ブナ林から記録されている。自然度の高い森林に生息する代表種である。倒木や立ち枯れ木の樹皮下に集中して生息することが多く、個体数が必ずしも多くない。森林伐採等の環境改変は生息に直接的な影響をもたらすと考えられるが、本種の詳細な分布や生態に関する情報が不足している。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　湊　宏．1968．紀伊半島南部の倍脚類について．南紀生物，10 (1 & 2)：19–25.
2　湊　宏．1982．6．ヤスデ類．白浜の自然．白浜町誌（自然編）．p.139．白浜町誌編さん委員会，白浜.
3　湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系のヤスデ類（倍脚類）相．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．p．189–194．和歌山県自然環境研究会，田辺.

写真：石井　清撮影

キイギボウシヤスデ　*Siphonophora* sp.　節足動物門　ヤスデ綱　ギボウシヤスデ目　ギボウシヤスデ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

ギボウシヤスデ類は熱帯、亜熱帯地方に分布する。日本では沖縄、九州（執筆者採集）、本州に生息する。和歌山県での発見は、1969 年に旧西牟婁郡大塔村冨里大塔山ブナ林（標高 1,000 m）で湊　宏博士によってなされ、更に田辺市中辺路町大内川（春日神社）での生息も確認された。同博士は、1987 年にギボウシヤスデ属に関する論文（南紀生物，29 (2)：127–128）の中でキイギボウシヤスデの仮称名を与えた。本種の新種としての記載はまだ行われていない。本種は、体長約 10 mm、体は黄白色を呈する。触覚は頭部に対して太く大きい。口器構造は、一般的なヤスデ類の構造とは異なり頭部前方が吻状に突出し、退化した顎唇と一体化する。詳細な分布と生態についての情報は少なく、また種属の分類学上の再検討が必要である。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　湊　宏．1973．南紀における南方系のヤスデについて．TAKAKUWAIA，(6)：1–2.
2　湊　宏．1987．紀伊半島のヤスデ類相（Ⅰ）―ギボウシヤスデ属．南紀生物，29 (2)：127–128.
3　湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系のヤスデ類（倍足類）相．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．p．189–194．和歌山県自然環境研究会，田辺.

ネンジュヤスデ　*Sinostemmiulus japonicus* Murakami, 1980　節足動物門　ヤスデ綱　ヒメヤスデ目　カザアナヤスデ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本種は体長約 17 mm、頭部と第 1~4 胴節が白色、それ以降が褐色を呈する。頭部ははっきりとした単眼をもつ。胴部は約 40 節からなり毛が生えず、節間のくびれは明らかである。後環節の背面正中に縫合隆起線がある。日本では本州（奈良県、和歌山県、岡山県）と九州（大分県、熊本県）に分布する。県内では大塔山山頂ブナ林、西牟婁郡白浜町庄川、那智勝浦町から記録される。調査地点数が少ないながらも、他県での生息地を参考にすると自然植生を代表する指標種と考えられる。今後、更に県内の分布状況を明らかにし、生息地の改変等の影響について調べる必要がある。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系のヤスデ類（倍足類）相．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．p．189–194．和歌山県自然環境研究会，田辺.
2　西川喜朗・村上好央．1991．日本産倍脚類の分布記録（Ⅰ）．追手門学院大学文学部紀要，(25)：291–313.

シマトラフヒメシャコ　*Bigelowina phalangium* (Fabricius, 1798)　節足動物門　軟甲綱　口脚目　ヒメシャコ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

国内では神奈川県から瀬戸内海、九州と沖縄で記録があるが、和歌山県内では 1930 年代に箕島で記録があるのみ。潮間帯下部から浅海域の砂底や砂泥底に生息する。和歌山県内では古い記録しかないが、近年になって近隣海域での報告もあるため情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　Komai, T., 1938. Stomatopoda occurring in the vicinity of Kii Peninsula. Annotationes Zoologicae Japonenses, 17：264–275.
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.
3　塩﨑祐斗・邉見由美・後藤龍太郎・伊谷 行・有山啓之．2020．瀬戸内海四国沿岸からのシマトラフヒメシャコの記録．Cancer，29：e130–e135.

和名なし *Phreatoasellus minatoi* (Matsumoto, 1978)　節足動物門　軟甲綱　等脚目　ミズムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本種は色素がなく、本属の中ではやや小型で体長 6.3 mm まで。体長は体幅の 5.3 倍。腹尾節は長方形で幅は長さの 4 分の 3。第 1 触角の鞭部は 7 節、第 2 触角は体長とほぼ同長で、鞭部は 42 節まで。第 1 小顎底節内葉に 5 本の剛毛がある。雄第 1 腹肢原節に 2 本の鉤がある。雄第 2 腹肢内肢は豆型で強く膨らむ。腹尾節は丸みを帯びた長方形で長さは幅の 1.35 倍。尾肢は腹尾節とほぼ同長で、内肢は原節とほぼ同長で、外肢は内肢よりやや短い。

本種は旧西牟婁郡大塔村鮎川下平の遮蔽された横坑道からみつかっている。地下水生ミズムシ類の分布は断続的であることが多く、その後の発見例がないと思われるが、地下種の調査は困難であるのでその状況は不明。

執筆者（布村　昇）

参考文献・情報

1　Matsumoto, K. 1978. Three new species of subterranean aselids from southern Kyushu and the Kii Peninsula, Japan. Journal of the Speleological Society of Japan, 3：20–34.

ツノホラワラジムシ *Nippononethes cornutus* (Nunomura, 1983)　節足動物門　軟甲綱　等脚目　ナガワラジムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

体長 4.7 mm までで最大幅の 2.1 倍。黄白色で無眼。第 1 触角の第 3 節に 2 本の剛毛がある。第 2 触角鞭部は 3 節あるが、分節が不明瞭。頭部前側縁に突起が明瞭。頭部や胸部背面には微小な顆粒が見られる。雄第 1 小顎基節内葉に 12 本の歯がある。腹尾節は短く、その後端は截形。雄第 1 腹肢内肢末節は細く短い剛毛が疎らにみられる。雄第 2 腹肢内肢先端は腎臓形で歯状の刺がない。今まで旧龍神村や旧大塔村の廃坑だけから知られている。既知の産地が人工的な環境であることから、近隣の土壌中にも生息している可能性が高いと思われるので、このような環境の調査が必要である。

執筆者（布村　昇）

参考文献・情報

1　Nunomura, N. 1983. Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan I. Taxonomy of the families Ligiidae, Trichoniscidae and Olbrinidae. Bulletin of the Toyama Science Museum, 5：23–68.

キイホラワラジムシ *Nippononethes kiiensis* (Nunomura, 1990)　節足動物門　軟甲綱　等脚目　ナガワラジムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

体長 4.5 mm までで体幅の 2.2 倍。白色で眼がない。頭部前側縁の突起が明瞭。第 1 触角の第 3 節に 3 本の剛毛がある。第 2 触角の 3 節は明瞭。頭部や胸部の背面は平滑。第 1 小顎基節内葉に 10 本の歯がある。腹尾節は短く、その後端は低い台形。雄第 1 腹肢の内肢末節は細い。雄第 2 腹肢内肢の先端はふくらみ、細かい剛毛が生えている。

従来、川辺町や白浜町の洞穴だけから知られている。この科には洞穴種とされていたもので近隣土壌の中にも生息している例があり、本種もその可能性があるため、このような環境の調査が必要である。

執筆者（布村　昇）

参考文献・情報

1　Nunomura, N. 1990. Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan V. Taxonomy of the families Armadillidiidae, Armadillidae and Tylidae, with taxonomic supplements to some other families. Bulletin of Toyama Science Museum, 13：1–58.

ミナカタハヤシワラジムシ *Lucasioides minakatai* Nunomura, 2003　節足動物門　軟甲綱　等脚目　ハヤシワラジムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

体長 8.2 mm までで最大幅の 2.1 倍。褐色胸部背面各節に丸い濃色部がある。第 2 触角鞭節第 2 節の長さは第 1 節の 2.5 倍。第 1 胸脚長節と腕節に剛毛が密生する。雄第 1 腹肢の内肢先端は外側に曲がり、外肢の外側基部付近に小さなくぼみがある。雄の第 2 腹肢の内肢はまっすぐで、外肢は台形。腹尾節は三角形。

今までタイプ産地の田辺市の神島だけから知られている。原記載に関連した調査以来、神島での調査が行われていないので現状は不明。

執筆者（布村　昇）

参考文献・情報

1　Nunomura, N. 2003. Four new terrestrial isopod crustaceans from Kashima Islet and its neighboring, Tanabe Bay. Bulletin of the Toyama Science Museum, 26：13–24.

イシダコシビロダンゴムシ *Spherillo ishidai* Nunomura, 2011　節足動物門　軟甲綱　等脚目　コシビロダンゴムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



体長 7.6 mm まで。背面は黄色っぽいが不規則な濃色部があり、色彩の差が明瞭。第 2 触角鞭節第 2 節の長さは第 1 節の 3 倍。第 1、2 胸脚腕節に剛毛が密に生える。雄第 1 腹肢内肢は、先端がいくぶん尖り、外側に反っている。外肢は長方型。雄の第 2 腹肢内肢は長く、外肢末端を明瞭に超える。外肢はごく浅くくぼんでいる。腹尾節は砂時計型でやや長く、基部の長さの 4 分の 3 以上。

みなべ町の西岩代海岸がタイプ産地であるが、他に愛媛県愛南町の海岸に近い公園からも報告されており、きわめて限られた海浜域に生息するもののようである。和歌山県や他府県の他の海岸でも生息している可能性があり、このような環境の調査が必要である。

執筆者（布村　昇）

参考文献・情報

1　Nunomura, N. 2011. A new species of the terrestrial isopod genus *Spherillo*（Crustacea：Isopoda：Armadillidae）from Kii Peninsula, Japan. Bulletin of the Toyama Science Museum, 34：67–71.

写真：布村　昇撮影

ケナガコシビロダンゴムシ *Spherillo longispinus*（Nunomura, 2003）　節足動物門　軟甲綱　等脚目　コシビロダンゴムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



体長 8.0 mm まで。背面は黒っぽいが、不規則な淡色部がある。第 2 触角の鞭節第 2 節の長さは第 1 節の 3 倍。全体に胸節の剛毛は長いが特に第 1 胸脚の腕節に特に長い剛毛がある。雄第 1 腹肢内肢はやや太く、外肢は低い扇型。雄の第 2 腹肢内肢はまっすぐで、外肢は深くくびれている。腹尾節は砂時計型。

今までタイプ産地の田辺市の神島から知られているだけである。原記載に関連した調査以来、神島での調査は行われていないので、最近の状況は不明。

執筆者（布村　昇）

参考文献・情報

1　Nunomura, N. 2003. Four new terrestrial isopod crustaceans from Kashima Islet and its neighboring, Tanabe Bay. Bulletin of the Toyama Science Museum, 26：13–24.

写真：布村　昇撮影

オニヌマエビ　*Atyopsis spinipes*（Newport, 1847）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ヌマエビ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



淡水域に棲み、体長は 5 cm 程度になるヌマエビ科の種。本種の顎角は短く、下縁にのみ 1~8 本の鋸歯がある。第一、第二胸脚に多数の剛毛をもち、この毛を広げて水中の懸濁物等を濾し取って食べる。体側部には赤褐色の縦筋模様が多数ある個体が多い。両側回遊型の生活史を送る。

選定理由

本種は、2000 年代初期から和歌山県内での目撃情報があったものの、確実な画像資料や標本は採取されることはなかった。2018 年に正式に報告され、その後も確認できる地点は多くない。また、県内淡水域での越冬もできていないと思われる。

和歌山県内では、いまだに 2018 年以降の報告がなく、本種の再生産の状況や加入状況について不明な点が多いため、情報不足とした。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　阿久沢拓生．2018．和歌山県におけるオニヌマエビの記録．南紀生物，60（1）：123-125.
2　日淡こぼれ話，2015．オニヌマエビ in 日本淡水魚愛護会，https://tansuigyo.net/m/diary.cgi?no=1125（2021 年 6 月参照）
3　西村俊明．私信.
4　豊田幸詞．2019．日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑．339pp．緑書房，東京.

写真：渡部哲也提供（県外産）

ザラテテナガエビ　*Macrobrachium australe*（Guérin-Ménevill, 1838）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　テナガエビ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

主に淡水域に棲み、体長は 8 cm 近くになるテナガエビ科の種。本種のオスの第二胸脚（ハサミ脚）は左右で大きさが異なり、大きい方は小突起が多く、小さい方の掌節には軟毛が密生する。また、頭胸部の側面に黒筋模様が 3 本あり、ミナミテナガエビに似るが、顎角は上向きであることで区別できる。両側回遊型の生活史を送る。

選定理由

本種は、2000 年代初期から和歌山県内での目撃情報があったものの、確実な画像資料や標本は採取されることはなかった。2013 年に正式に報告され、その後は紀南地域の小河川で認められることがあるが、出現状況は安定していないことから、和歌山県内淡水域での越冬はできていないと思われる。

和歌山県内では、本種の再生産の状況や加入状況について不明な点が多いため、情報不足とした。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　今井　正・大貫貴清．2013．紀伊半島南西部の河川で採集されたザラテテナガエビとコンジンテナガエビの未成体．南紀生物，55（1）：11-14.
2　丸山智朗．2017．神奈川県および伊豆半島の河川から採集された注目すべき熱帯性コエビ類 5 種．神奈川自然誌資料，38：29-35.
3　豊田幸詞．2019．日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑．339pp．緑書房，東京.

コンジンテナガエビ　*Macrobrachium lar* (Fabricius, 1798)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　テナガエビ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

淡水域に棲み、体長は 15 cm 以上になるテナガエビ科の種。本種のオスの第二胸脚（ハサミ脚）は左右同じ大きさで長く伸び、ハサミの部分基部が橙色になる。また、成熟したオスのハサミ部分が外側に湾曲することが特徴。両側回遊型の生活史を送る。

本種は、2000 年代初期から和歌山県内紀南地域で和歌山県立自然博物館の調査によって採取されていたが、報告がなされていなかった。2013 年に正式に報告され、その後も紀南地域の小河川で認められるが、出現状況は安定していないことから、県内淡水域での越冬はできていないと思われる。

和歌山県内では、いまだに 2013 年以降の報告は少なく、本種の再生産の状況や加入状況について不明な点が多いため、情報不足とした。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

1　今井　正・大貫貴清．2013．紀伊半島南西部の河川で採集されたザラテテナガエビとコンジンテナガエビの未成体．南紀生物，55（1）：11–14.
2　丸山智朗．2017．神奈川県および伊豆半島の河川から採集された注目すべき熱帯性コエビ類 5 種．神奈川自然誌資料，38：29–35.
3　豊田幸詞．2019．日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑．339pp．緑書房，東京.

写真：平嶋健太郎撮影

シラタエビ　*Exopalaemon orientis* Holthuis, 1951　節足動物門　軟甲綱　十脚目　テナガエビ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

河口等の安定した汽水環境に生息している体長 7 cm 程度の小型のテナガエビ科の種。顎角は細長く、眼の前方付近でとさか状に盛り上がる。

近年、本種が生息するような汽水環境が人為的攪乱により危機的状況にある。

本種はこれまで、紀の川、和歌浦干潟、日高川河口干潟、内之浦干潟等で和歌山県立自然博物館の調査によって確認されているが、近年は減少傾向にあると推測される。ただ、本種の減少要因や隣接する府県の生息状況が不明であるため、今回は情報不足とした。

執筆者（平嶋健太郎）

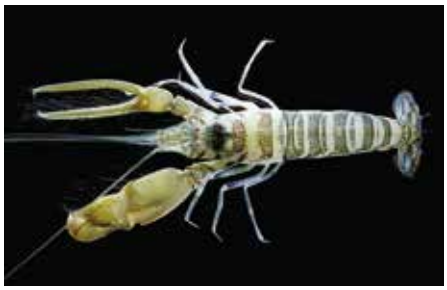
参考文献・情報

1　国土交通省．2021．河川環境データベース http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/（2021 年 6 月参照）
2　三浦知之．2008．干潟の生きもの図鑑．197pp．南方新社，鹿児島.
3　和歌山県立自然博物館における画像資料等（平嶋健太郎．私信）.

写真：平嶋健太郎撮影

ハシボソテッポウエビ　*Alpheus dolichodactylus* (Ortmann, 1890)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　テッポウエビ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧種（NT）



選定理由

国内温帯域の軟泥干潟に生息する固有種で、体長は 50 mm 程になる。東京湾をタイプ産地とするが、関東域では原記載以後 100 年以上にわたって採集記録はない。現在の生息地は和歌山県と、福岡県（大川市、柳川市、大和町）、佐賀県江北町の有明海に限られる。汚染の少ないシルト質の軟泥干潟を好むが、このような環境は開発によって国内から失われつつある。そのため、環境省レッドリストでは準絶滅危惧種に、日本ベントス学会の海岸ベントスレッドデータブックでは絶滅危惧 II 類にそれぞれランクされている。

県内では御坊市日高川河口と海南市船尾から記録されているが、十分な情報は得られていない。

執筆者（野村恵一）

参考文献・情報

1　林　健一．1998．日本産エビ類の分類と生態（102），テッポウエビ科－テッポウエビ属⑪．海洋と生物，118：390–395.
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
3　小山彰彦・乾竜帝・菅野一輝・鬼倉徳雄．2018．希少種ハシボソテッポウエビ *Alpheus dolichodactylus* の九州における分布記録．日本生物地理学会会報，72：89–92.
4　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック，285pp．東海大学出版会，秦野.
5　Ortmann, A. 1890. Die unterrordnung Natantia Boas. Theil. I. Die Decapoden-Krebse des Strassburger Museums, mit besonderer Berücksichtigung der von Herrn Dr. Döderlein bei Japan und bei den Liu-Kiu-Inseln gesammelten und z. Z. im Strassburger Museum aufbewahrten Formen, I. Zoologishe Jahbücher Abteilung fur Systematik, Geographie und Biologie der Tiere, 5：437–542.
6　錆浦海中公園研究所所蔵標本（御坊市日高川河口産、海南市船尾産）.
7　和歌山県立自然博物館所蔵標本（海南市船尾から記録）.
8　吉郷英範．2009．日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類（甲殻類：エビ目）．比和科学博物館研究報告，20：221–273.

写真：野村恵一撮影

カワテッポウエビ　*Alpheus* sp.　節足動物門　軟甲綱　十脚目　テッポウエビ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県から八重山諸島にかけての砂礫質河口に生息する中型のテッポウエビ類で、体長は 30 mm ほどになる。国内に産するテッポウエビ類の中では最も塩分濃度の低い環境に適応した種で、河川感潮域に限産する。

県内では、串本町ならびに那智勝浦町から記録があり、これらは本種の北限域の産地とみなされる。未記載種と考えられるが、分類学的・生態学的情報が不十分である。

執筆者（野村恵一）

参考文献・情報

1　野村恵一．1996．カワテッポウエビ（仮称）*Alpheus* sp．マリンパビリオン，25：43.
2　錆浦海中公園研究所所蔵標本（串本町有田川河口産、串本町鬮野川河口産）.
3　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.

参考文献・情報
4　吉郷英範．2009．日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類（甲殻類：エビ目）．比和科学博物館研究報告，20：221–273.
写真：野村恵一撮影

クボミテッポウエビ　*Stenalpheops anacanthus*（Miya, 1997）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　テッポウエビ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧種（NT）



選定理由

国内温帯域ならびに韓国の干潟に生息する中型のテッポウエビ類で、体長は 20 mm ほどになる。泥底もしくは砂泥底干潟に生息するアナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に同居する特異な生態を持ち、環境省レッドリストならびに日本ベントス学会海岸ベントスレッドデータブックにおいて共に準絶滅危惧種にランクされている。

県内では御坊市日高川河口のみから記録されているが、十分な情報は得られていない。

執筆者（野村恵一）

参考文献・情報
1　林　健一．1999．日本産エビ類の分類と生態（104），テッポウエビ科－クボミテッポウエビ属・ミカワエビ科－ミカワエビ属．海洋と生物，120：52–55.
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック，285pp．東海大学出版会，秦野.
3　Miya, Y. 1997. *Stenalpheops anacanthus*, new genus, new species（Crustacea, Decapoda, Alpheidae）from the Seto Inland Sea and the Sea of Ariake, south Japan. Bulletin of the Faculty of Liberal Arts, Natural Science, Nagasaki University, 38：145–161, figures 1–4.
4　鏑浦海中公園研究所所蔵標本（御坊市日高川河口産）.
5　吉郷英範．2009．日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類（甲殻類：エビ目）．比和科学博物館研究報告，20：221–273.
写真：野村恵一撮影

アナジャコ　*Upogebia major*（De Haan, 1841）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　アナジャコ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

甲長 30 mm に達する大型のアナジャコ類で、砂泥質の干潟に深さ 2 m を超える深い巣穴を形成して生息する。北海道から熊本県に至る全国各地の干潟に生息するが、温帯性であり、沖縄県、鹿児島県には分布が確認されていない。高知県では、黒潮の影響を受けにくい浦ノ内湾の湾奥部にのみ生息が確認されている。和歌山県では、和歌山市や海南市では近年の生息も確認されているが、県南部では 1982 年に田辺湾内之浦での記録以降、確実な生息記録は得られていない。本種の古い記録は、ヨコヤアナジャコやバルスアナジャコと混同されている可能性があるため、和歌山県においても標本に基づく再調査が必要である。そのため、情報不足と評価した。

執筆者（伊谷　行）

参考文献・情報
1　Itani, G. 2002. Ecology of crustaceans and bivalves symbiotic with thalassinidean shrimps. Doctoral Thesis, Kyoto University, 103pp.
2　Itani, G. 2004. Distribution of intertidal upogebiid shrimp in Japan. Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University. 29：383–399.

参考文献・情報
3 Itani, G. 2004. Host specialization in symbiotic animals associated with thalassinidean shrimps in Japan. Tamaki, A. (ed), Proceedings of the symposium on "Ecology of large bioturbators in tidal flats and shallow sublittoral sediments - from individual behavior to their role as ecosystem engineers." Nagasaki University, pp. 33–43.
4 環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書.
5 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
6 高知県林業振興・環境部環境共生課編．2018．高知県レッドデータブック 2018 動物編．279pp．高知.
7 野村恵一．1993．日高川河口のエビ類及びエビ類類似甲殻類．くろしお，(12)：55–56
8 大垣俊一・田名瀬英朋．1984．畠島磯観察記録，1949–1983 その 2．南紀生物，26：105–111.
9 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次．2001．和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976–2001．南紀生物，43：102–108.
10 大和茂之・丸村眞弘．1992．富田川河口域の甲殻類．くろしお，(11)：28.
写真：伊谷　行撮影（県外産，マゴコロガイの寄生を受けている）

コブシアナジャコ　*Upogebia sakaii* Ngoc-Ho, 1994　節足動物門　軟甲綱　十脚目　アナジャコ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由



甲長 15 mm 程度の小型のアナジャコ類で、砂質から砂泥質の干潟に巣穴を形成して生息する。これまで、和歌山県、徳島県、高知県、奄美大島、宮古島から記録が得られている。宮古島では普通種であるが、他の生息域では減少傾向にあり、特に奄美大島では個体数が激減している。和歌山県では、和歌山市、御坊市、那智勝浦町および田辺湾内の小湾にて生息が確認されていたが、田辺湾の生息地では護岸工事に伴い干潟域が減少してしまった。そのため、情報不足と評価した。

執筆者（伊谷　行）

参考文献・情報
1 Itani, G. 2002. Ecology of crustaceans and bivalves symbiotic with thalassinidean shrimps. Doctoral Thesis, Kyoto University, 103pp.
2 Itani, G. 2004. Distribution of intertidal upogebiid shrimp in Japan. Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University, 29：383–399.
3 Itani, G. 2004. Host specialization in symbiotic animals associated with thalassinidean shrimps in Japan. Tamaki, A. (ed), Proceedings of the symposium on "Ecology of large bioturbators in tidal flats and shallow sublittoral sediments - from individual behavior to their role as ecosystem engineers." Nagasaki University, pp. 33–43.
4 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141.
5 高知県林業振興・環境部環境共生課編．2018．高知県レッドデータブック 2018 動物編．279pp．高知.
6 日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.
7 和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.
写真：渡部哲也提供

イザナミツノヤドカリ　*Diogenes izanamiae* Asakura, 2006　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ヤドカリ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

比較的近年に石川県産の標本を基に記載された種で、大阪湾でも記録がある。和歌山県内では田辺湾から記録がある。同属のトゲツノヤドカリと同所的に見られるが、本種はやや小さく、第２触角が比較的小さい。現時点では生息地が限定されているため、情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2019．平成 30 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書．
2　山田浩二・和田太一．2018．二色の浜のアマモ場の生物調査（2015 年）．貝塚の自然，19：35–38.

写真：渡部哲也撮影

ヨモギホンヤドカリ　*Pagurus nigrofascia* Komai, 1996　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ヤドカリ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

国内では函館湾以南九州まで分布する。和歌山県内では北部の岩礁域や那智勝浦町から記録があり、和歌山市産の標本がパラタイプに指定されている。本種は本州等の暖温帯域では夏眠することが知られており、水温が高い時期に記録されることが少なく、このため記録が断片的であり情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　Komai, T. 1996. *Pagurus nigrofascia*, a new species of hermit crab（Decapoda：Anomura：Paguridae）from Japan. Crustacean Research, 25：59–72.
2　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.
3　大阪湾海岸生物研究会．2018．大阪湾南東部の岩礁海岸生物相 - 2011 ～ 2015 年の調査結果．自然史研究，4：17–38.
4　和歌山県立自然博物館所蔵標本（那智勝浦町から記録）.

写真：渡部哲也撮影（県外産）

アリアケヤワラガニ　*Elamenopsis ariakensis*（Sakai, 1969）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　ヤワラガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

国内では大阪湾から瀬戸内海、有明海、八代海と沖縄で記録があり、和歌山県内では田辺湾から記録がある。潮間帯下部から浅海域の砂底や砂泥底に生息する。本種はトゲイカリナマコの棲管に共生することが知られている。和歌山県内では非常に記録に乏しいことから情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）



参考文献・情報

1　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野.

参考文献・情報
2　上出貴士・高橋芳明．2008．和歌山県田辺湾滝内及び内之浦の潮間帯のコアマモ群落におけるベントス群集．日本ベントス学会誌，63：42–55.
写真：渡部哲也撮影（県外産）

ヒメテナガオウギガニ　*Chlorodiella cytherea*（Dana, 1852）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オウギガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

主として奄美大島以南のサンゴ礁に分布するカニだが、和歌山県の潮岬の潮間帯転石地から複数個体採集されている。潮岬の記録は、南方の主分布域からの一時的な遇来ともみられているが、記録個体は明らかに成体の体サイズをしており、かつ抱卵雌も得られていることから当地で個体群が維持されている可能性が高い。しかしこれ以降、和歌山県沿岸では本種の記録は知られていない。記録が 1 例だけであり、転石海岸の調査が不十分であることも考慮し、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1　山本妙子・木村昭一．1987．三重県および和歌山県産初記録のテナガオウギガニ属（*Chlorodiella*）の 2 種．南紀生物，29：121–125.
写真：渡部哲也提供（県外産）

ミナミオカガニ　*Cardisoma carnifex*（Herbst, 1796）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オカガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

海岸林や海岸の草地に巣穴を掘って生息する大型の陸生ガニで、主分布域は小笠原諸島や琉球列島であるが、静岡県や和歌山県からも記録がある。和歌山県の記録としては白浜町で成体サイズの個体が採集されたという情報がある https://mainichi.jp/articles/20161006/ddl/k30/040/427000c（2021 年 6 月参照）。記録個体が成体サイズなので、繁殖している可能性もある。海岸の陸域に深い巣穴を掘って生息しており、昼間活動することがほとんどないため見つけにくいことを考慮し、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1　豊田幸詞．2019．日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑．339pp．緑書房，東京.

ヘリトリオカガニ　*Tuerkayana rotundum*（Quoy & Gaimard, 1824）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オカガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

琉球列島・小笠原諸島を主分布域として海岸付近の岩場・草地等で見られる陸ガニである。日本本土からは和歌山県串本町からの記録しか知られていない。串本での記録は、成体サイズの雄 1 個体と雌 1 個体であることから、当地で繁殖している可能性もある。記録が 1 例しかないことと、夜行性で深い巣穴を掘って生息するため見つけにくいことを考慮して、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1　野村恵一．2014．串本海中公園センター施設内で採集されたヘリトリオカガニ．マリンパビリオン，43(5)：35.
2　豊田幸詞．2019．日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑．339pp．緑書房，東京.

カクレイワガニ　*Geograpsus grayi* (H. Milne Edwards, 1853)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　イワガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県、高知県、鹿児島県、八丈島、小笠原諸島、南西諸島から記録される大型の陸生ガニ。体色はきれいな紫色を呈する。海岸の草地灌木の根元や堤防等に穴居する。和歌山県からは白浜町からの記録が２例あるだけである。夜行性のため見つけにくいことと、記録が限られていることを考慮し、情報不足と評価した。



執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119．
2　豊田幸詞．2019．日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑．339pp．緑書房，東京．
3　和田恵次．1978．本州産新記録のカニ、カクレイワガニ．南紀生物，20：62．

写真：渡部哲也提供（県外産）

ハシリイワガニモドキ　*Metopograpsus thukuhar* (Owen, 1839)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　イワガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

神奈川県以南の岩礁・転石海岸に生息する。本土から記録される地域は多くなく、和歌山県でもこれまで記録があるのは、和歌川河口、田辺湾、串本町、ゆかし潟と限られており、かつ確認個体数も多くない。南方系の種であるが、和歌山県では成体サイズのものが採集されており、繁殖して個体群が維持されているとみられる。行動がかなり敏速で採集しにくいことと、生息場所が岩場の隙間や転石下と見つけにくい環境であることを考慮し、情報不足と評価した。



執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　福井康雄・和田恵次．1983．田辺湾南岸の異尾類・短尾類とその分布．南紀生物，25：159–167．
2　木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137–141．
3　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119．
4　和田恵次専門調査員現地調査記録（ゆかし潟から記録）．
5　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31．
6　和歌山県立自然博物館所蔵標本（和歌川河口から記録）．

写真：渡部哲也提供

ウモレマメガニ　*Pseudopinnixa carinata* Ortmann, 1894　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

千葉県、東京都、神奈川県、紀伊半島沿岸から瀬戸内海にかけての地域から記録がある日本固有属種である。砂泥質干潟から砂泥質の潮下帯までに生息するが記録は限られている。和歌山県沿岸では、和歌川河口と田辺湾から記録があるだけで、そこの生息数も少ない。アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴を利用する場合もあるが、砂中に埋も



選定理由

れたままで生息する場合もある。県内の記録がごくわずかであることと、砂上で活動することがないため見つかりにくいことを考慮し、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1 古賀庸憲・溝口和子・栗田剛史・池田幸右・池田三智子・上水流裕司・北山貴巳・小山貴子・里中美哉・出口弘美・根ヶ山　亮・和田恵次．2003．和歌川河口干潟で採集されたウモレマメガニ *Pseudopinnixa carinata*（Ortmann，1894）（カクレガニ科）．南紀生物，45：145–146.

2 日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．

3 上出貴士・高橋芳明．2008．和歌山県田辺湾滝内及び内之浦の潮間帯のコアマモ群落におけるベントス群集．日本ベントス学会誌，63：42–55.

写真：渡部哲也提供（県外産）

ヒメアカイソモドキ　*Sestrostoma depressum*（Sakai, 1965）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

小型のモクズガニ科のカニで、転石干潟に生息するバルスアナジャコやスナモグリの巣穴内で生活する。これまで、千葉県以西の太平洋岸、瀬戸内海、沖縄県での生息が確認されている。和歌山県では、白浜町と串本町からのみ記録がある。本種は、その生息環境の特殊性と採集が難しいため、採集例は極めて少ない。しかし、内湾の転石干潟や、外洋の磯のれきの下等にバルスアナジャコやスナモグリが生息していれば、本種も生息している可能性がある。和歌山県における近年の生息状況は分かっていないため、情報不足と評価した。

執筆者（伊谷　行）

参考文献・情報

1 Itani, G. 2002. Ecology of crustaceans and bivalves symbiotic with thalassinidean shrimps. Doctoral Thesis, Kyoto University, 103pp.

2 Itani, G. 2004. Host specialization in symbiotic animals associated with thalassinidean shrimps in Japan. Tamaki, A.（ed），Proceedings of the symposium on "Ecology of large bioturbators in tidal flats and shallow sublittoral sediments - from individual behavior to their role as ecosystem engineers." Nagasaki University, pp. 33–43.

3 高知県林業振興・環境部環境共生課編．2018．高知県レッドデータブック 2018 動物編．279pp．高知．

4 丸村眞弘・小阪　晃．2003．永井誠二コレクション　カニ類標本目録．73pp．和歌山県立自然博物館，海南．

5 Naruse, T. 2015. Description of a new genus and a new species of gaeticine crab（Crustacea：Brachyura：Varunidae）from the Ryukyu Islands, and a review of *Acmaeopleura* Stimpson, 1858, and *Sestrostoma* Davie & N. K. Ng, 2007. Zootaxa, 3925：211–228.

シタゴコロガニ　*Sestrostoma* sp.　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧ⅠB類（EN）

選定理由

小型のモクズガニ科のカニで、干潟域に生息するアナジャコ類の腹部にしがみついて生活する未記載種である。これまで、瀬戸内海、紀伊半島、四国太平洋岸、奄美大島での生息が確認されている。和歌山県では約 20 年前に、田辺湾内の池田浦において、コブシアナジャコに共生する個体が採集されたことがある。本種がしがみついたアナジャコ類には、腹部に食痕として、黒いかさぶた状の傷が形成される。そのために、本種の生息を宿主の傷の有無により判別することができるが、富田川や日高川等の干潟において、傷を有するアナジャコ類は得られていない。和歌山県における近年の生息状況は分かっていないため、情報不足と評価した。

執筆者（伊谷　行）

参考文献・情報

1 Itani, G. 2002. Ecology of crustaceans and bivalves symbiotic with thalassinidean shrimps. Doctoral Thesis, Kyoto University, 103pp.

参考文献・情報
2 Itani, G. 2004. Host specialization in symbiotic animals associated with thalassinidean shrimps in Japan. Tamaki, A. (ed), Proceedings of the symposium on "Ecology of large bioturbators in tidal flats and shallow sublittoral sediments - from individual behavior to their role as ecosystem engineers." Nagasaki University, pp. 33-43.
3 高知県林業振興・環境部環境共生課編．2018．高知県レッドデータブック 2018 動物編．279pp．高知．
4 日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．

スネナガイソガニ *Hemigrapsus longitarsis* (Miers, 1879) 節足動物門 軟甲綱 十脚目 モクズガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

北海道から九州までの潮間帯中下部から潮下帯の砂泥底に分布する。比較的よく見つかるのはアマモ場からである。和歌山県沿岸からは和歌川河口と田辺湾からしか記録がない。同属の他種に比べて歩脚が細長いのと、雄の鉗脚が華奢である点が特徴的である。記録が少ないのと、潮間帯下部から潮下帯にかけてが主分布域であるため、これまでの踏査が不十分な点があるとみて情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1 環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書．
2 上出貴士・高橋芳明・山内 信．2011．和歌山県田辺湾の潮間帯におけるコアマモ群落の甲殻類群集構造．水産増殖，59：351-361．
3 和歌山県立自然博物館所蔵標本（浜の宮ビーチから記録）．
写真：渡部哲也提供（県外産）

ヒメケフサイソガニ *Hemigrapsus sinensis* Rathbun, 1929 節足動物門 軟甲綱 十脚目 モクズガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

紀伊半島沿岸、瀬戸内海沿岸、有明海沿岸に分布する。潮間帯中下部のカキ礁や転石下から見つかるが、記録される地域は限られている。動きが緩慢で、はさみには雄雌ともに毛の房を具えるほか、最大サイズが雌の方が雄よりも大きいという同属他種とは違った特徴をもっている。繁殖期は 3~6 月で、これも夏～秋が繁殖期である同属他種とは大きく異なる。和歌山県沿岸では、紀の川河口、和歌川河口、有田川河口、ゆかし潟から記録があるが、いずれもその記録個体数は少ない。記録地が少ないだけでなく、カキ礁や転石の隙間に住むため見つけにくいことも考慮し、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1 環境省自然環境局生物多様性センター．2007．第 7 回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（干潟調査）報告書
2 木邑聡美・野元彰人・和田恵次・杉野伸義．2004．和歌山県北中部の河口・干潟における大型底生動物相（II）．南紀生物，46：137-141．
3 Miyajima, A. & Wada, K. 2017. Relationships between life history traits and sexual dimorphisms in two varunid crabs, *Hemigrapsus takanoi* Asakura & Watanabe, 2005 and *H. sinensis* Rathbun, 1931 (Brachyura：Varunidae). Journal of Crustacean Biology, 37：21-28.
4 野元彰人・木邑聡美・唐澤恒夫・杉野伸義．2002．有田川河口汽水域の大型底生動物相．南紀生物，44：115-121．

参考文献・情報

5　野元彰人・淀　真理・木邑聡美・岸野　底・酒野光世・和田恵次．1999．紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の６稀種．南紀生物，41：5-9.
6　和歌山県立自然博物館所蔵標本（和歌川河口から記録）.

写真：渡部哲也提供（県外産）

アゴヒロカワガニ　*Ptychognathus altimanus* (Rathbun, 1915)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

紀伊半島以南の河川汽水域に生息する。和歌山県では、紀の川河口、芳養川河口、太田川河口、熊野川河口から記録があるものの、いずれもその記録個体数は少ない。生息場所が潮間帯から潮下帯の砂礫下であるため、見つかりにくいことを考慮し、情報不足と評価した。雄のはさみ上には、同属他種でよく見られる毛の房がないのが特徴的である。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　浜崎健児・山田　誠・青木美鈴・田中薫子・遊佐陽一・保智巳・和田恵次．2014．紀伊半島河川群における十脚甲殻類・水生昆虫・魚類の生息と流域環境との関連性評価．和田恵次（編），源流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造―紀伊半島の河川群の比較より―，75-101．奈良女子大学共生科学研究センター，奈良.
2　岸野　底・野元彰人・木邑聡美．2008．和歌山県太田川河口域で採集されたアゴヒロカワガニ（モクズガニ科）．南紀生物，50：233-234.
3　国土交通省．2021．河川環境データベース http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/
4　野元彰人・淀　真理・木邑聡美・岸野　底・酒野光世・和田恵次．1999．紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の６稀種．南紀生物，41：5-9.
5　豊田幸詞．2019．日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑．339pp．緑書房，東京.
6　和歌山県立自然博物館所蔵標本（芳養川から記録）.

ケフサヒライソモドキ　*Ptychognathus barbatus* (A. Milne Edwards, 1873)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

神奈川県以南南西諸島までに分布するが、本州での記録は極めて少ない。同属のタイワンヒライソモドキに似るが、甲面が平坦な点と前側縁に３歯ある点等から識別できる。和歌山県では、芳養川、富田川、田並川からしか記録がなく、そこでの記録個体数も少ない。これまでの記録地がごくわずかであることと、河川汽水域の転石下に生息するため見つかりにくいことを考慮し、情報不足と評価した。



執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　浜崎健児・山田　誠・青木美鈴・田中薫子・遊佐陽一・保智巳・和田恵次．2014．紀伊半島河川群における十脚甲殻類・水生昆虫・魚類の生息と流域環境との関連性評価．和田恵次（編），源流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造―紀伊半島の河川群の比較より―，75-101．奈良女子大学共生科学研究センター，奈良.
2　野元彰人．2004．和歌山県串本町で採集された本州初記録のケフサヒライソモドキ（モクズガニ科）．南紀生物，46：159-160.
3　大和茂之・丸村眞弘．1992．富田川河口域の甲殻類．くろしお，(11)：28.

写真：渡部哲也提供（県外産）

ヒメカクオサガニ　*Chaenostoma crassimanus* Stimpson, 1858　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オサガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

小型のオサガニ科のカニで、岩礁潮間帯に生息する。これまで神奈川県、和歌山県、沖縄島から *Macrophthalmus boscii* として記録がある。和歌山県では白浜町と串本町からのみ記録がある。白浜町沿岸では、本種は初夏の頃に定着し、その後、生長して繁殖もするが、冬季に死滅するものとされていた。しかし近年、明らかに越冬したとみられる大型個体が夏季に見つかっている。小型種であるが、雄個体は、岩上ではさみ脚を上下させる waving display をすることも観察されている。白浜町沿岸では比較的生息個体数は多いが、他に生息する地域が串本以外知られておらず、小型個体で見つけにくいことも考慮し、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　Kitaura, J. & Wada, K. 2004. Allocleaning, fighting, waving and mating behavior in sentinel crabs (Brachyura : Ocypodidae : *Macrophthalmus*). Crustacean Research, 33 : 72–91.
2　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32 : 115–119.
3　大阪市立自然史博物館所蔵標本（白浜町臨海、串本町袋から記録）.
4　和田恵次．1985．白浜沿岸におけるヒメカクオサガニの季節的消長．南紀生物，27 : 27–29.
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（白浜町臨海から記録）.

写真：和田恵次撮影

メナガオサガニ　*Macrophthalmus serenei* Takeda & Komai, 1991　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オサガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

眼柄が甲から大きく突出する特徴をもつオサガニ属のカニである。以前は *Macrophthalmus verreauxi* とされていた。潮間帯砂泥底から潮下帯砂泥底に分布し、日本沿岸では、伊豆半島以南沖縄諸島までに分布するが記録される地域は多くない。和歌山県では和歌山市の水軒浜と田辺湾の内之浦からの記録が知られているに過ぎない。記録が極めて稀であることと、潮下帯まで分布する特徴からこれまでの踏査が不十分とみて情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　酒井　恒．1976．日本産蟹類．461pp．講談社，東京.
2　和田恵次．1978．和歌山県産スナガニ類とその分布について．南紀生物，20 : 18–22.
3　上出貴士・高橋芳明．2008．和歌山県田辺湾滝内及び内之浦の潮間帯のコアマモ群落におけるベントス群集．日本ベントス学会誌，63 : 42–55.

写真：渡部哲也提供（県外産）

ギボシマメガニ　*Pinnixa balanoglossana* Sakai, 1934　節足動物門　軟甲綱　十脚目　カクレガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

本種は腸鰓類ミサキギボシムシの巣穴内に共生することが知られている。国内では千葉県・石川県以南有明海までに分布。和歌山県内では田辺湾で記録がある。田辺湾には古くから宿主ミサキギボシムシが生息することが知られているが、本種についての情報はほとんどなく、記録例が少ないため情報不足とした。



執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
2　西川輝昭．2018．桑野久任教授が 1911 年に採集した奈良女子大学所蔵和歌山県田辺産ギボシムシ類標本．南紀生物，60：154–159．
3　上出貴士・高橋芳明．2008．和歌山県田辺湾滝内及び内之浦の潮間帯のコアマモ群落におけるベントス群集．日本ベントス学会誌，63：42–55．

写真：渡部哲也撮影（県外産）

アカホシマメガニ　*Indopinnixa haematosticta*（Sakai, 1934）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　カクレガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

国内では神奈川県以種子島までに分布。和歌山県内では田辺湾で記録がある。本種については Komai *et al.*（2022）により詳細な再記載が行われたが、それによると別の未記載種を本種として掲載している図鑑等もあり（三宅，1983；日本ベントス学会，2012）、現状では正確な分布は不明である。しかしながら、本種としての報告が数例あることから情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　環境省自然環境局生物多様性センター．2020．2020 年度モニタリングサイト 1000 磯・干潟調査報告書データファイル．http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/（2021 年 6 月閲覧）
2　Komai, T., Naruse, T., Yokooka, H., Taru, M., Shimetsugu, M. & Watanabe, T. 2022. Redescription of *Pinnixa haematosticta* Sakai, 1934, its transfer to *Indopinnixa* Manning & Morton, 1987, and a reappraisal of *Indopinnixa kumejima* Naruse & Maenosono, 2012（Decapoda：Brachyura：Pinnnotheridae）．Zootaxa, 5100：361–389．
3　三宅貞祥．1983．原色日本大型甲殻類図鑑 II．277pp．保育社，大阪．
4　日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．

ホンコンマメガニ　*Pinnixa* aff. *penultipedalis* Stimpson, 1858　節足動物門　軟甲綱　十脚目　カクレガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

瀬戸内海、隠岐諸島、九州で記録があり、和歌山県では田辺湾からの記録がある。従来国内で報告されていたホンコンマメガニ *Pinnixa penultipedalis* Stimpson，1858 とされる種は *Indopinnixa* 属の未記載種の可能性が高いとされている（Komai *et al.*，2022）。和歌山県における記録は極めて少なく、情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　Komai, T., Naruse, T., Yokooka, H., Taru, M., Shimetsugu, M. & Watanabe, T. 2022. Redescription of *Pinnixa haematosticta* Sakai, 1934, its transfer to *Indopinnixa* Manning & Morton, 1987, and a reappraisal of *Indopinnixa kumejima* Naruse & Maenosono, 2012（Decapoda：Brachyura：Pinnnotheridae）．Zootaxa, 5100：361–389．

参考文献・情報
2 Naruse, T. & Maenosono, T. 2012. Two new species of *Indopinnixa* Manning & Morton, 1987 (Decapoda : Brachyura : Pinnotheridae) from the Ryukyu Islands, Japan. Zootaxa, 3367 : 222–231.
3 日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
4 上出貴士・高橋芳明．2008．和歌山県田辺湾滝内及び内之浦の潮間帯のコアマモ群落におけるベントス群集．日本ベントス学会誌，63 : 42–55.
5 Yamauchi, T. & Konishi, K. 2005. Notes on rare *Pinnixa* crabs (Decapoda, Brachyura, Pinnotheridae) of Japan. Crustaceana, 77 : 1237–1243.

フタハピンノ *Pinnotheres bidentatus* Sakai, 1939　節足動物門　軟甲綱　十脚目　カクレガニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

比較的大きな河川河口域の砂底から砂泥底に生息する。イソシジミやソトオリガイ等の二枚貝外套膜内部に寄生することが知られている。静岡県、和歌山県、徳島県及び九州で記録があり、和歌山市が基産地である。和歌山県下からは原記載以来長らく記録はないが、対岸の徳島県からは比較的多数の個体が記録されているため、今後、和歌山県でも再発見される可能性があることから情報不足とした。

執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報
1 日本ベントス学会．2012．干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック．285pp．東海大学出版会，秦野．
2 Sakai, K. 2000. On the occurrence of three species of crabs on Shikoku Island, Japan, and a new species, *Pinnotheres taichungae* nov. spec., from Taiwan (Decapoda, Brachyura). Crustaceana, 73 : 1155–1162, figs 1–3.
3 Sakai, T. 1976. 日本産カニ類．461pp.（日本語版），773pp.（英語版），251pp.（図版），講談社，東京.
写真：渡部哲也撮影（県外産）

ヒメギボシムシ *Ptychodera flava* Eschscholtz, 1825　半索動物門　ギボシムシ綱　ギボシムシ目　ギボシムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

体長 10 cm 以下の小型のギボシムシ。トカラ列島以南のサンゴ礁の潮間帯には比較的普通に見られるが、本土では稀で、和歌山県の串本が数少ない本種生息地である。串本の生息地は潮間帯の中位にある平坦な岩礁の間に溜まった砂地で、そこに小さな糞塊を出している。生時の体色はきれいな黄色で目立つ。和歌山県では他に和歌山市加太の田倉崎からの記録が知られている。記録情報がこのように限られているのと、なかなか見つけにくい種でもあるので情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報
1 Nishikawa, T. 1977. Preliminary report on the biology of the enteropneust, *Ptychodera flava* Eschscholtz, in the vicinity of Kushimoto, Japan. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 23 : 393–419.
2 和田恵次・渡部哲也専門調査員現地調査記録（串本町見草浜から記録）
3 山西良平．2009．関西自然保護機構会誌．31 (2)．表紙説明（和歌山市田倉崎海岸から記録）.
写真：和田恵次撮影

ミサキギボシムシ　*Balanoglossus misakiensis* Kuwano, 1902　半索動物門　ギボシムシ綱　ギボシムシ目　ギボシムシ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

同属のワダツミギボシムシと同じように、潮間帯から潮下帯の砂泥底に巣穴を掘って生息する紐状の動物。陸奥湾から九州までの地域から記録されるが、知られる地域は限られている。ワダツミギボシムシのような糞塊を出すことはないので本種の生息確認は困難である。和歌山県における記録は、本種の命名者である桑野久任氏による 1911 年の田辺湾からの標本記録（奈良女子大学所蔵標本）が最も古い。しかしこれ以外には田辺湾からの本種の記録は知られていない。他には和歌山市の和歌浦と毛見浦にいるらしい情報があったが、近年名草ノ浜の干潟に比較的数多く生息していることが判明した。生息するところでは、巣穴口のへこみがわずかに認められ、そこを掘り返すと本体が見つかる。希少種であることは間違いないが、糞塊を出さないため、生息を把握しにくいことを考慮し、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

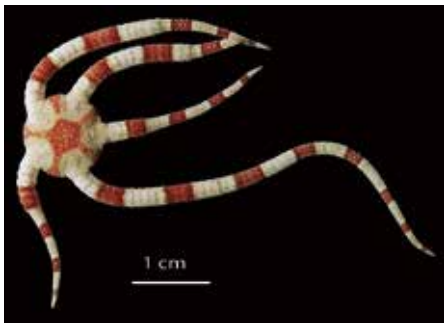
参考文献・情報

1　奈良女子大学所蔵標本.
2　西川輝昭．2018．桑野久任教授が 1911 年に採集した奈良女子大学所蔵和歌山県田辺産ギボシムシ類標本．南紀生物，60：154–159.
3　西川輝昭・浦田慎．私信（名草ノ浜から採集された標本の DNA 鑑定結果）.
4　大阪市立自然史博物館所蔵標本（名草ノ浜から記録）
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（名草ノ浜から記録）

写真：和田恵次撮影

イツツメクモヒトデ　*Ophiarachnella differens* Murakami, 1944　棘皮動物門　クモヒトデ綱　トゲナガクモヒトデ目　アワハダクモヒトデ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本種は、熊本県天草市富岡半島東部の巴崎にある砂地転石下（水深不明）から得られた 1 個体を基にして、1944 年に記載された種である。その後、1969 年に富岡半島南西部の白岩崎の潮間帯転石下から 1 個体が記録され、1981 年に和歌山県白浜町の畠島、並びに瀬戸の潮間帯転石下から 1 個体ずつが記録された。それ以後、1980 年、1987 年、1989 年に串本町から 1 個体ずつ採集された記録があるが、それ以降の和歌山県からの公表記録はない。本種は、盤の表面の顆粒が粗であること、その顆粒の下には細かく密な鱗が並ぶこと、輻楯は小さく、互いに離れること、といった特徴から、他種と区別される。記録が限定的なため、情報不足と評価した。なお、沖縄から得られた本種の生時の写真は、オープンアクセスで閲覧ができる（Fujita *et al.*, 2015）。

執筆者（岡西政典）

参考文献・情報

1　Fujita, Y., Irimura, S., Kogure, Y., Okanishi, M., Michonneau F. & Naruse, T. 2015. Catalogue of Echinodermata specimens deposited in the University Museum (Fujukan), University of the Ryukyus. Okinawa, pp. 106. Available at http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/30915/1/ No10p09.pdf (2021 June 22)
2　Irimura, S. 1969. Supplemental report of Dr. Murakami's paper on the ophiurans of Amakusa, Kyushu. Publications from the Amakusa Marine Biological Laboratory, Kyushu University, 2 (1) : 37–43.

参考文献・情報
3 Irimura, S. 1981. Ophiurans from Tanabe Bay and its vicinity, with the description of a new species of *Ophiocentrus*. Publications of the Seto Maine Biological Laboratory, 26（1/3）：15–49.
4 Irimura, S., Kubodera, T. & Ishida, Y. 1995. Catalogue of the specimens of the class Ophiuroidea（Echinodermata）donated by Dr. Seiichi Irimura in the National Science Museum, Tokyo. National Science Museum, Tokyo, pp. 181.
5 Murakami, S. 1944. Notes on the ophiurans of Amakusa, Kyusyu. Journal of the Department of Agriculture, Kyusyu Imperial University,（8）：259–280.
写真：岡西政典撮影

ウチノミクモヒトデ *Ophioteichus utinomii*（Irimura, 1967） 棘皮動物門 クモヒトデ綱 ハナビラクモヒトデ目 ニホンクモヒトデ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本種は、和歌山県田辺湾の畠島の潮間帯から得られた 1 個体を基に、1968 年に記載された種である。その後、2014 年にこの個体が再記載されたものの、原記載以外で本種の公表記録はない。本種は、盤の表面を大小二つの大きさの鱗が覆う、輻楯の外側に特徴的な突起が二つ並ぶ、といった特徴から、他種と区別される。記録が極めて限定的なため、情報不足と評価した。

執筆者（岡西政典）

参考文献・情報
1 Irimura, S. 1968. A new species of Ophiuroidea from the coast of Kii Peninsula, Japan. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 15（5）：353–356.
2 Pineda-Eriquez, T., Solis-Marin, F. & Laguarda-Figueras, A. 2014. Revision of the genus *Ophioteichus* H.L. Clark, 1938（Ophiuroidea：Ophiolepididae）. Zootaxa, 3784：241–250.

ジンガサウニ *Colobocentrotus mertensii* Brandt, 1835 棘皮動物門 ウニ綱 カマロドント目 ナガウニ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

陣笠に似た特異な外形の南方系のウニ。小笠原諸島や沖縄諸島が主分布域で、本土からの記録は極めて少ない。和歌山県沿岸ではこれまで白浜町、すさみ町、串本町の海岸から記録があるだけで、当地で経常的に見られるわけではない。波当たりの強い岩礁転石潮間帯に生息する。南方系種だが、見つかっている個体は成体サイズに達しており、和歌山県沿岸でも越冬して個体群が維持されているものと思われる。記録が極めて少ないことと、生息地（波当たりの強い岩礁転石海岸）の踏査が不十分とみて情報不足と評価した。



執筆者（和田恵次）

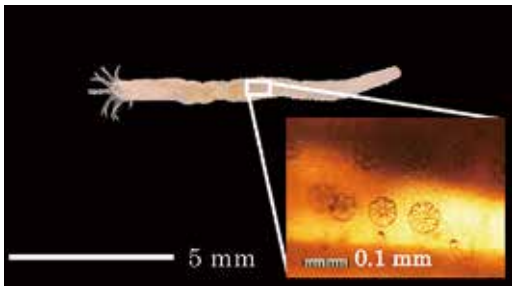
参考文献・情報
1 荒賀忠一．1972．ジンガサウニの採集記録．南紀生物，14：59.
2 久保田　信．2009．和歌山県白浜町で発見された大型のジンガサウニ（ナガウニ科）．くろしお，（28）：1–2.
3 前岩　崇．2012．潮岬のジンガサウニ．本覺寺杼貝，（66）：20.
4 田名瀬英朋．私信.
5 田名瀬英朋・土井紳吾・久保田　信．2007．和歌山県中部地域の海岸におけるジンガサウニ（ナガウニ科）の記録．南紀生物，49：175–176.
写真：中村公一提供

モトシマクルマカギナマコモドキ *Rowedota motoshimaensis* (Yamana, Tanaka & Nakachi, 2017)　棘皮動物門　ナマコ綱　無足目　クルマナマコ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本県の田辺市天神崎元島内港側だけで発見されている砂礫間隙性のナマコ類であり、生物地理学的に貴重な存在である。触手が４指であること、表皮中の車輪状骨片の外輪内縁が六芒星形に彫り込まれること等から容易に識別される。本種を含む *Rowedota* は国内では本種を含む２種しか発見されていないことから、分類学的にも貴重な存在である。広範囲で普遍的な種組成が観察されやすい砂礫間隙性の海浜生物であるにもかかわらず、2017 年の新種発表以来、県内外問わず、いまだに２例目の産地報告がないことから、本種の生息環境が相当に限定された状況であることが推測され、本種を情報不足とした。



執筆者（山名裕介）

参考文献・情報

1　山名裕介．2020．日本産ナマコ類の水産学的・分類学的研究における最近の動向．日本ベントス学会誌，75：6–18.
2　Yamana, Y., Tanaka, H. & Nakachi, S. 2017. Three new shallow species of *Taeniogyrus* and *Rowedota* (Echinodermata：Holothuroidea：Apodida：Chiridotidae：Taeniogyrinae) from southern Japan. Species Diversity, 22：53–68.

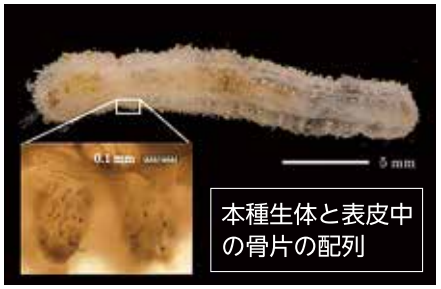
写真：山名裕介撮影

イボイボクルマカギナマコ *Taeniogyrus verruculosus* (Yamana & Tanaka, 2017)　棘皮動物門　ナマコ綱　無足目　クルマナマコ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本県の田辺市天神崎元島内港側の狭い範囲から４個体だけが発見されている間隙性のナマコ類であり、小形の疣への鉤状骨片の特異な集合を有することから容易に識別される。近縁種は沖縄から１種が見つかっているだけである。生物地理学的に貴重な存在であるのみならず、分類学的にも貴重な存在である。2017 年の新種発表以来、県内外問わず、いまだに２例目の産地報告がないことから、本種の生息地・生息個体数ともに少ない状況であると推測され、本種を情報不足とした。



執筆者（山名裕介）

参考文献・情報

1　山名裕介．2020．日本産ナマコ類の水産学的・分類学的研究における最近の動向．日本ベントス学会誌．75：6–18.
2　Yamana, Y. & Tanaka, H. 2017. Two new species of *Taeniogyrus* and *Scoliorhapis* (Echinodermata：Holothuroidea：Apodida：Chiridotidae：Taeniogyrinae) from Wakayama and Okinawa, Japan. Plankton & Benthos Research, 12 (2)：83–94.

写真：山名裕介撮影

ヒトエシモフリボヤ　*Apilidium monotonicum* (Tokioka, 1954)　尾索動物門　ホヤ綱　マンジュウボヤ目　マンジュウホヤ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

潮間帯転石地の転石下面に付着して生息する群体性のホヤである。タイプ産地のトカラ列島宝島以外には生息が知られていなかったが、1978~1979 年に田辺湾の畠島に付随する小丸島の転石潮間帯で見つかった。ただし、現在の状況は不明。群体ボヤの専門家が少なく、同様の環境での調査が不十分であるとみて、情報不足と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　西川輝昭．2019．和歌山県田辺湾の子丸島岩礁海岸転石帯におけるホヤ類の季節的消長－ 1978~79 年の月別調査から－．南紀生物．61：77–80.

エビヤドリミミズ　*Holtodrilus truncatus* (Liang, 1963)　環形動物門　環帯綱　ヒルミミズ目　ヒルミミズ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



ヌマエビ等の淡水エビ類に共生する体長 5 mm 以下のヒルミミズ類である。これまで日本からは兵庫県、和歌山県、三重県、そして沖縄県宮古島から記録があるが、このうち、兵庫県のものは中国から輸入されたミナミヌマエビに随伴した外来個体群で、他の集団は日本在来の個体群であろうとされている。和歌山県では富田川以南太田川までの河川のヌマエビ、ミゾレヌマエビ、トゲナシヌマエビ、ミナミヌマエビから見つかっている。最も共生率が高い宿主はヌマエビである。塩分条件に極めて弱いため、宿主の分布域の中でもより上流側に偏って出現する。ヒルミミズ類の多くがザリガニ類に共生するのに対してエビ類への共生種は稀であることと、紀伊半島南部地域に限定された分布は進化史を探る上で興味深いことから、学術的重要と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　北藪順弥・大高明史・大和茂之．2016．紀伊半島南部におけるエビヤドリミミズ（環形動物門．環帯綱．ヒルミミズ目．ヒルミミズ科）の共生生態．南紀生物．58：190–196.
2　田中薫子・浜崎健児・和田恵次．2014．ヌマエビ類に共生するヒルミミズ類の紀伊半島における分布．In 和田恵次（編）．流から河口域までの河川生態系と流域環境との連環構造－紀伊半島の河川群の比較より－．pp. 122–128．奈良女子大学共生科学研究センター．奈良.
3　Tanaka, K., Wada, K. & Hamasaki, K. 2016. Distribution of *Holtodrilus truncatus*, a branchiobdellidan ectosymbiotic on atyid shrimps in the Kii Peninsular, western Japan, with reference to salinity tolerance and host preference. Zoological Science, 33：154–161.
4　和歌山県立自然博物館所蔵標本（古座川、田原川から記録）.
写真：田中薫子提供

ヒコナミザトウムシ　*Nelima nigricoxa* Sato & Suzuki, 1939　節足動物門　クモ形綱　ザトウムシ目　カワザトウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



体長 8 mm 内外。年 1 化卵越冬で、成体は 8~10 月に樹幹上、湿った崖地、灌木上で普通に見られる。染色体数は県内で北から南に向かって、2n=18 から 22 にまで地理的に分化している：北部（和泉山脈および高野山）では 2n=18、紀美野町生石高原では集団内多型で 2n=16/18、護摩壇山、有田川町和田尾山、鮎返の滝では 2n=20、南部（田辺市狼屹山、百間渓谷、那智勝浦町妙法山阿弥陀寺では 2n=22）。

選定理由

有田川町や田辺市龍神村周辺では 18/19/20、20/21/22 あるいは 18/19/20/21/22 で多型となる集団も見つかっており、貴重である（浦﨑 2014，鶴崎 未発表）。

2020 年 9 月の調査では、本種はザトウムシ中最普通種で、かつ本種の最盛期であるにも関わらず、護摩壇山～龍神岳では本種を 1 個体も発見できなかった。シカによる林床植物の食害で林内の乾燥が進行しているためと思われる。

執筆者（鶴崎展巨）

参考文献・情報

1　鶴崎展巨・湊　宏．2000．和歌山県のザトウムシ類．南紀生物，42（1）：3-8.
2　浦﨑智小．2014．和歌山県におけるヒコナミザトウムシの染色体数の地理的分化．鳥取大学地域学部卒業論文.

写真：鶴崎展巨撮影

アカサビザトウムシ　*Gagrellula ferruginea* (Loman, 1902)　節足動物門　クモ形綱　ザトウムシ目　カワザトウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

体長 5 mm 内外。腹部背甲第 2 背板に 1 本の棘がある（和歌山県内で背に 1 本の棘がある種は他にはヒトハリザトウムシのみなので、山地森林内で棘のある種がいればまず本種と考えて間違いない）。ヒコナミザトウムシとならぶ普通種で、和歌山県各地の森林に生息するが、染色体数が和歌山県内で変化する。北部（和泉葛城山、紀美野町生石高原）では 2n=16、護摩壇山以南では 2n=14。護摩壇山と生石高原の間におそらく 2n=14/15/16 で集団内多型となる交雑帯があると推測されるが未調査である。卵越冬年 1 化で成体は 7~9 月に樹幹や草本上で見つかる。護摩壇山周辺ではシカ害が進行しているため、今後、要注意である。

執筆者（鶴崎展巨）

参考文献・情報

1　明石　香．2008．紀伊半島におけるザトウムシ数種の染色体数の地理的分化．鳥取大学地域学部卒業論文.
2　鶴崎展巨・湊　宏．2000．和歌山県のザトウムシ類．南紀生物，42（1）：3-8.

写真：鶴崎展巨撮影（県外産）

コシビロザトウムシ　*Parabeloniscus nipponicus* Suzuki, 1967　節足動物門　クモ形綱　ザトウムシ目　カマアカザトウムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

短脚のアカザトウムシ亜目の種で、体長は 5 mm 内外、第 2 歩脚長は 13 mm 程度。雄は第 4 脚基節が太い。森林の地表の朽木や石下、リター中に生息。大阪府河内長野市の岩湧山がタイプ産地。紀伊半島の固有種で、和歌山県では那智勝浦町、古座川町、日高川町（旧 川辺町）で確認されているが、同じ科で同様の環境に生息するニホンアカザトウムシ *Pseudobiantes japonicus* 等と比べ、個体数ははるかに少ない。生活史不明であるが、アカザトウムシ亜目の種は普通、成体が周年見られるため、成体で 1 年以上生きると考えられる。

執筆者（鶴崎展巨）

参考文献・情報

1　Suzuki, S.1967. A remarkable new phalangodid, *Parabeloniscus nipponicus* (Phalangodidae, Opiliones, Arachnida) from Japan. Annotationes Zoologicae Japonensis, 40：194-199.
2　Suzuki, S. 1973. Opiliones from the South-west Islands, Japan. Journal of Science of the Hiroshima University, Ser. B, Div. 1 (Zoology), 24：205-279.
3　鶴崎展巨・湊　宏．2000．和歌山県のザトウムシ類．南紀生物，42（1）：3-8.

写真：鶴崎展巨撮影（県外産）

カシマイボテカニムシ　*Kashimachelifer cinnamomeus* Morikawa, 1957　節足動物門　クモ形綱　カニムシ目　カニムシ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本種は昭和 32 年（1957 年）に和歌山県神島のクスノキ樹皮下より採集され、森川国康博士によって記載された。その後、1960 年に愛媛県南宇和郡御荘町および和歌山県西牟婁郡上富田町生馬の熊野高校芦谷演習林にてスギの倒木樹皮下から採集されている。本種は樹皮下で発見されているが、その生態は不明である。分布や生態の詳細は今後の調査に期待されるが、日本固有の属および種であり、これまで同属のカニムシ種は発見されていない。分類学的な特徴およびその個体数の少なさ等から、学術上きわめて貴重であると考えられる。

執筆者（佐藤英文）

参考文献・情報

1　湊　宏．1972．カシマイボテカニムシの採集記録．南紀生物，14（1）：2.
2　湊　宏．1988．カシマイボテカニムシとカシマセスジアカムカデ．田辺市文化財審議会（編），神島の生物 和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書，66．田辺市教育委員会，田辺.
3　森川国康．1957．Cheliferidae の一真擬蠍 *Kashimachelifer cinnamomeus*．動物学雑誌，66（10）：399–402.
4　Morikawa, K. 1960. Systematic studies of Japanese pseudoscorpions. Memoirs of the Ehime University. Sect.II（Sci.），Ser. B（Biol），4（1）：85–172.
5　佐藤英文．1993．カニムシ目．環境庁（編），日本産野生生物目録，79–81．自然環境研究センター，東京.

写真：佐藤英文撮影

カチベニジムカデ　*Strigamia transsilvanica*（Verhoeff, 1928）　節足動物門　ムカデ綱　ジムカデ目　ベニジムカデ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本種は体長が約 55 mm、体は紅褐色を呈する。頭は円形で小さく、胴部は後方に向かって体幅が次第に広くなり、中央部で最大幅、以降で次第に細くなる。歩肢は 43~57 対。日本産ベニジムカデ属は約 8 種知られるが、最終歩肢節の基側板前方にある側板を欠く点で他種と区別できる。日本における記録地点は少なく、東京都（三宅島）、千葉県（那古船形）、伊豆半島（下田）、三重県（答志島）および和歌山県から記録される。海岸地域の森林の落葉・腐植土中、倒木樹皮下等に生息する。和歌山県の場合はやや内陸寄りの有田郡広川町前田（霊厳寺）で得られている。一般に本種を含むジムカデ類は、環境の変化に極めて敏感で改変によって種数と個体数を著しく減少させる。そのため環境評価指標種の 1 つとなっている。本種の県内で詳細な分布や生態がほぼ未知な状態にあるため、学術的調査が求められる。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　石井　清．2000．皇居における多足類の生息密度．国立科学博物館専報，（50）：49–58.
2　吉田元重．1997．和歌山県のムカデ類．南紀生物，49（2）：135–136.

クロゾウヨシダヒメヤスデ　*Yosidaiulus* sp.　節足動物門　ヤスデ綱　ヒメヤスデ目　ヒロウミヤスデ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

ヨシダヒメヤスデ属は、ヨシダヒメヤスデとヨシダヒメヤスデモドキが知られ、前種が富士山麓の吉田浅間神社（模式産地）と房総半島（清澄山）、後種が富士西湖付近（模式産地）と三宅島（坪田）から記録されている。1971 年、湊 宏博士により既知種と異なる別種が大塔山系の黒蔵谷から発見され、新種記載されていないが、クロゾウヨシダヒメヤスデの和名（仮称）が与えられた。本種は体長 13～16 mm、体が淡褐色で背部の正中縫合線を欠き、頭部に 20 個ほどの単眼が三角形状に配列する。県内では最初の発見地以外から生息が確認されておらず、分布や生態の詳細を解明する必要がある。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　湊　宏．1971．紀伊半島南部の倍脚類について（Ⅲ）．南紀生物，13 (2)：45–47.
2　湊　宏．2002．黒蔵谷を中心とする大塔山系のヤスデ類（倍脚類）相．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．pp．189–194．和歌山県自然環境研究会，田辺.

ヤケヤスデ属の 1 種　*Oxidus* sp.　節足動物門　ヤスデ綱　オビヤスデ目　ヤケヤスデ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県のヤケヤスデ属は、これまでヤケヤスデ（産地：西牟婁郡白浜町白浜、同鹿島神社）、キリシマヤケヤスデ（産地：紀州）およびヤケヤスデ属の 1 種（産地：西牟婁郡白浜町庄川郷地谷）が記録された。また、現地調査からは、ヤケヤスデ属の 1 種が御坊市明神川、有田郡有田川町の千葉山、田辺市の護摩壇山の樹洞から採集された。前 2 地点で採集された個体は、すべて幼体のため種の確定に至らなかったが、護摩壇山の 1 個体の標本が成体♂であった。本個体は、同属のヤケヤスデに似るが、体色や形態的特徴が異なること、一般にヤケヤスデが平地を主な生息域とするのに対し、護摩壇山の個体は自然植生に生息していたことから別種の新種として分類学的な検討することおよび生態的な視点から自然植生の指標種の可能性を調べる必要がある。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　現地調査プラパラート標本．（執筆者作製・保存）.
2　湊　宏．1968．紀伊半島南部の倍脚類について．南紀生物，10 (1/2)：19–25.

キイオビヤスデ　*Epanerchodus aculeatus* Miyosi, 1954　節足動物門　ヤスデ綱　オビヤスデ目　オビヤスデ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本種は東牟婁郡北山村（北山峡）を模式産地として記載され、紀伊の和名を持つ体長約 22 mm、黄褐色をしたヤスデである。日本では、和歌山県以外に愛媛県から記録され、地理的分布において重要な種である。これまで和歌山県では、白浜町（旧 日置川町安居）、大塔山山頂ブナ林、東牟婁郡那智勝浦町那智山原生林および田辺市本宮町静川（黒蔵谷・中小屋谷）から記録されている。これらの産地は自然植生が発達しており、県内全域での生息状況の把握とともに、自然植生の指標種になるかどうかの検討が求められる。

執筆者（石井　清）

参考文献・情報

1　湊　宏．1968．紀伊半島南部の倍脚類について．南紀生物，10 (1/2)：19–25.
2　三好保徳．1954．日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究 X．オビヤスデ属の 2 新種．動物学雑誌，63 (7)：288–291.

ムラサキオカヤドカリ　*Coenobita purpureus* Stimpson, 1858　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オカヤドカリ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

小笠原諸島や南西諸島を主分布域とする熱帯性のオカヤドカリ類であるが、神奈川県以南鹿児島県までの海岸域からも見つかっている。大型個体はきれいな紫青色をしており、夜行性のため夜間に見つかることが多い。和歌山県ではこれまで御坊市、印南町、田辺市、白浜町、すさみ町等の海岸陸上部から記録されている。成体サイズの個体も見つかっており、白浜町の海岸では幼生放出も確認されており、一部の個体は越冬して繁殖活動も行っているとみられる。国の天然記念物に指定されていることと、和歌山県の生息状況は北限近くの個体群の特性を見る上で重要であることから学術的重要と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　今福道夫・池田久和．1987．紀州産オカヤドカリ類について．南紀生物，29（2）：81–83.
2　久保田　信．2011．ムラサキオカヤドカリ（甲殻類，異尾類）の海岸での本州初の幼生の放出の確認．日本生物地理学会会報，66：253–256.
3　久保田　信．2013．ムラサキオカヤドカリ（甲殻類，異尾類）の和歌山県白浜町海岸での幼生放出．日本生物地理学会会報，68：121–123.
4　豊田幸詞・関　慎太郎．2014．日本の淡水性エビ・カニ．254pp．誠文堂新光社，東京.
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（白浜町臨海から記録）
6　和歌山県立自然博物館所蔵標本（御坊市名田町から記録）

写真：和田恵次撮影

ナキオカヤドカリ　*Coenobita rugosus* H. Milne Edwards, 1837　節足動物門　軟甲綱　十脚目　オカヤドカリ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

神奈川県以南に分布するが、主分布域は小笠原諸島や南西諸島の南方系のオカヤドカリ類である。体色は茶褐色ないし灰色で、前甲部の盛り上がりは小さい。和歌山県沿岸では名田、印南、田辺、白浜、椿、串本からの記録が知られている。海岸部の林地や草地で見つかる。越冬して個体群が維持されているかは不明。国の天然記念物であることと、分布の北限近くの個体群特性を見る上で重要とみて学術的重要（SI）と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　池田久和・今福道夫．1985．白浜でナキオカヤドカリ採集．南紀生物，27：112.
2　今福道夫・池田久和．1987．紀州産オカヤドカリ類について．南紀生物，29（2）：81–83.（白浜町湯崎から記録）.
3　三宅貞祥・今福道夫．1980．紀州産ヤドカリ類 I．南紀生物，22：1–7.
4　豊田幸詞・関　慎太郎．2014．日本の淡水性エビ・カニ．254pp．誠文堂新光社，東京.
5　和田恵次専門調査員現地調査記録（白浜町臨海から記録）.
6　和歌山県立自然博物館所蔵標本（串本町から記録）.

写真：渡部哲也提供（県外産）

ミナミアカイソガニ　*Cyclograpsus integer* H. Milne Edwards, 1837　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

与論島、琉球列島を主分布域とする転石潮間帯高潮部を生息場所とするアカイソガニ属の１種である。日本本土からの記録としては、和歌山県串本町潮岬からの採集記録があるに過ぎない。近縁のアカイソガニに比べて小型で、体表には斑紋がないことで区別できる。ただし同属のマメアカイソガニとはよく似ており、和歌山県の記録もその点の検討を残すものとみて学術的重要と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　永井誠二．1990．和歌山県沿岸のカニ類相 IV．南紀生物，32：115–119.

タカノケフサイソガニ類似種　*Hemigrapsus* aff. *takanoi* Asakura & Watanabe, 2005　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



未記載種。外洋に面した岩礁の潮間帯上部にできる潮だまりに生息する。現在までに和歌山県串本町のみで記録がある。本種は同属のタカノケフサイソガニと酷似するが、メスの鉗脚の外面に毛房束が見られる点で異なる。また、紀伊半島から有明海の内湾カキ礁に生息し、本種同様にメスの鉗脚にも毛房を持つ同属のヒメケフサイソガニとは、生息環境の違いに加え、はるかに大型になる点で容易に区別できる。本種は夜間のみ活動が確認され、気温の低い２月の夜間にも活発に活動していたことから、南方系種が偶然辿り着いたものでもないと考えられる。

執筆者（渡部哲也）

参考文献・情報

1　Asakura, A. & Watanabe, S. 2005. ***Hemigrapsus takanoi***, new species, a sibling species of the common Japanese intertidal crab ***H. penicillatus*** (Decapoda : Brachyura : Grapsoidea). Journal of Crustacean Biology, 25 : 279–292.

写真：渡部哲也撮影

タイワンオオヒライソガニ　*Varuna yui* Hwang & Takeda, 1986　節足動物門　軟甲綱　十脚目　モクズガニ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

神奈川県以南南西諸島までの河川河口域から記録されるが、記録自体多くない。同属のオオヒライソガニと同じように河川の転石下から見つかるが、オオヒライソガニより稀である。オオヒライソガニに比べて甲の前側縁の丸みが弱いことと、雄の第１腹肢の切れ込みが深いことで区別されるが、非常によく似ているため、オオヒライソガニと査定されている標本もあると思われる。和歌山県では、ゆかし潟から記録されている。熊野川河口からオオヒライソガニ属の１種として報告されているものも本種の可能性があり、この点を検討する余地があるため学術的重要と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　国土交通省．2021．河川環境データベース http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/
2　和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之．2022．ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物，64：26–31.

ミナミスナガニ　*Ocypode cordimana* Latreille, 1818　節足動物門　軟甲綱　十脚目　スナガニ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

砂浜海岸の潮上帯に穴居する南方系のスナガニ属の 1 種である。形態的に類似している近縁のナンヨウスナガニ *Ocypode sinensis* と混同されやすく、1998 年以前にミナミスナガニ *Ocypode cordimana* として日本各地から報告されていたものはほとんどがナンヨウスナガニとみられる。両種間の形態的相違としては、ミナミスナガニには眼窩下縁に切れ込みがあるのに対し、ナンヨウスナガニには切れ込みがないという点が上げられる。確実に本種と同定できる記録は、和歌山県沿岸、兵庫県淡路島、四国沿岸、それに南西諸島からのもので、このうち和歌山県を含む本土からの記録は幼ガニに限定される。つまり本土産の本種の分布は、南方からの幼生供給により成り立っているとみられる。和歌山県における記録は、白浜町、串本町、那智勝浦町からで、いずれも海浜潮上部の草地から見つかっている。他の砂浜性スナガニ属の種に比べて、記録が極めて少ないことと、海岸のかなり陸寄りに深い穴を掘って生息するため調査が不十分な点を残すことから、学術的重要と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　野元彰人・渡部哲也・徳丸直輝・酒井　卓・石村理知・香田　唯・和田恵次．2020．近畿地方における砂浜性スナガニ属 4 種の 18 年間にわたる分布の変容－ 2002 年・2010 年・2019 年の比較－．地域自然史と保全，42：45–59.
2　和田恵次・渡部哲也．2019．和歌山県田辺湾におけるスナガニ属 4 種の記録（2010 年）．わだつみ，1：11–12.
3　渡部哲也・淀　真理・木邑聡美・野元彰人・和田恵次．2012．近畿地方中南部沿岸域におけるスナガニ属 4 種の分布－ 2002 年と 2010 年の比較－．地域自然史と保全，34：27–36.

写真：和田恵次撮影

ヒメシオマネキ　*Gelasimus vocans* (Linnaeus, 1758)　節足動物門　軟甲綱　十脚目　スナガニ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

南西諸島が主分布域の南方系のシオマネキ類である。近年、静岡県、和歌山県、大阪府、宮崎県といった本土の地域からも記録されるようになった。本土で記録されるのは幼ガニがほとんどなので、それらは南方からの幼生供給により成り立っているとみられるが、宮崎県や和歌山県では繁殖可能サイズのものが見つかっており、越冬して個体群が維持されている可能性がある。砂泥干潟の中潮帯付近から見つかり、和歌山県沿岸では、広川町、田辺市、白浜町から記録がある。和歌山県の記録地は本土の他の地域に比べて際立って多いため、熱帯・亜熱帯性の本種と温帯性のシオマネキ類との競争関係が想定される点から、学術的重要と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　大阪市立自然史博物館所蔵標本（田辺市目良、白浜町垣谷から記録）
2　田名瀬英朋・和田恵次．2019．田辺市・白浜町（和歌山県）の沿岸で確認された南方系シオマネキ類の 25 年間の記録．南紀生物，61：1–6.
3　山下隆司・山西良平．1999．淀川，男里川河口および西広海岸における注目すべきカニの記録．Nature Study，45：3–5.

写真：田名瀬英朋提供

ベニシオマネキ　*Paraleptuca crassipes*（White, 1847）　節足動物門　軟甲綱　十脚目　スナガニ科

県カテゴリー	学術的重要（SI）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

屋久島以南を主分布域とする南方系のシオマネキ類で、砂泥性干潟の高潮部を生息場所としている。甲やはさみ脚がきれいな紅色のため、目立ちやすい。本土から記録があるのは和歌山県だけで、これまで田辺市と白浜町の砂泥性の干潟から 1994 年～1998 年に見つかっている。いずれも幼ガニサイズであることから、越冬も繁殖もできていないとみられる。和歌山県の分布は、南方からの幼生供給だけで成り立っているものの、本土からの記録は和歌山県に限定されることを考慮し、学術的重要と評価した。

執筆者（和田恵次）

参考文献・情報

1　田名瀬英朋・和田恵次．2019．田辺市・白浜町（和歌山県）の沿岸で確認された南方系シオマネキ類の 25 年間の記録．南紀生物，61：1-6.

写真：和田恵次撮影（県外産）

菌類（変形菌類を含む）の概要

菌類専門部会

今回、レッドデータブックの改訂版において、新たに菌類と変形菌類を加えることになった。

菌類は、菌界に分類され、動物界や植物界と共に多細胞性の真核生物である。一般には、カビ、キノコなどと呼ばれている。キノコという言葉は、菌類の特定の分類群を表す言葉ではなく、比較的大型の子実体そのものを指す一般名である。その特徴は、肉眼で同定できるものからルーペや顕微鏡を使って同定するものまである。キノコの種類は国内で 6,000 種以上あると推察されている。そのうち、学術論文に記載されているのは 2,000 種程度である。一方、変形菌類は近年まで菌類の中の一群とされてきたが、現在では、アメーバ動物類（Amoebozoa）に属する仲間とされている。子実体は 1~2 mm 程度のものが多い微小な生物で、同定にはルーペや顕微鏡が必要である。世界では 1,000 種程度で、そのうち日本では 600 種程度見つかっている。

菌類や変形菌類の生存は、植生や地形、気候などの自然環境と密接に関連している。和歌山県では北部と南部で自然環境の相違が見られる。北部地域は、一部が瀬戸内式気候で比較的降水量が少なく、主にアカマツ・コナラなどが多く、一部の人手の入らなくなった里山林のシイ林化が進んでいる。南部地域は、温暖多雨な気候であり、主にシイ・カシ類の常緑広葉樹林が広く見られる。ただし、標高の高い山頂付近や渓谷は夏でも涼しくシャクナゲなども見られる。また、特異な植物分布も見られ、海岸性のタブノキやウバメガシが海岸から奥地の山々にまで生育している。こうした植生の違いによって、菌類や変形菌類の種の構成も変わってくる。

今回、レッドデータブックに菌類および変形菌類を追加することに合わせて、和歌山県に関する過去の文献調査を行ったところ、菌類（いわゆるキノコ）や変形菌類に関する文献が非常に少ないことが明らかとなった。

キノコの記録は、古くは江戸時代末期に活躍した紀州藩の草本学者、畔田翠山（くろだすいざん）が著した『熊野物産初志』や、明治から昭和にかけて活躍した博物学者、南方熊楠の菌誌図譜が残されている。それら以外に、近畿大学農学部紀要や市町村史などに地域を限定して記録されている。一方、和歌山県内の変形菌類の発生記録については、南方熊楠が『植物研究雑誌』に 1908 年や 1913 年、1915 年、1927 年に和歌山県産を含む日本産変形菌類のリストを発表した論文に加え、小野新平が神島の変形菌相を 1988 年に発表した論文などわずかである。このように文献が少なく、和歌山県の菌類および変形菌相はまだ詳しく明らかになっていない状況である。

このような状況のなか、和歌山県内を中心に活動している和歌山菌類研究会（木の子 Club 和歌山）は、1988 年頃から現在に至る調査記録を有し、加えて調査不足を補うべく、新たな調査やキノコ愛好家の個人的記録の聞き取り調査などを行った。その結果、今までに同定された菌類は 500 種程度で、変形菌類は 250 種程度であった。しかし、未同定のものが数多くあり、今後さらに種数が増加するのは確実である。

菌類および変形菌類の絶滅危惧種の選定には、『和歌山県レッドデータブック』のカテゴリーの定義を参考にした。その結果、菌類では絶滅危惧 I 類（CR + EN）3 種、絶滅危惧 II 類（VU）10 種、準絶滅危惧（NT）18 種、情報不足（DD）35 種を選定した。変形菌類では情報不足（DD）2 種を選定した。

選定した内で、絶滅危惧 I 類（CR + EN）として記載しているスナジクズタケ（*Psathyrella ammophila*（Durieu & Lév.）P. D. Orton）は環境の変化が大きく不安定な砂浜海岸に依存する種で、1990 年に海南市で確認されて以来、県内では発生を確認していない。今では発生場

所も護岸工事で消滅しており、同地点での再発見は不可能となっている。今後、他の場所での発見を期待している。

また、絶滅危惧 II 類（VU）として記載しているシイノトモシビタケ（*Mycena lux-coeli* Corner）は照葉樹林の特にシイの枯れ枝や倒木に発生する発光性のキノコで、1950 年に八丈島で羽根田弥太によって発見され、E. J. H. Corner が 1954 年に新種として発表した。長い間、八丈島特産種と考えられていたが、1995 年に本県のすさみ町で、八丈島以外で初めて発生が確認された。その後、近畿、四国、九州・沖縄地方等で確認されているが、全国的にみても発生地が限定されている。県内でも紀南地方に点在しているに過ぎない。発生地の環境変化、人為的干渉も加わり、発見当時から減少傾向が続いていたが、特にここ数年激減している。

変形菌類は今後さらに調査が進むと記載種が増加すると考えられるが、今回は 2 種を情報不足（DD）とした。

1 種はアオウツボホコリ（*Arcyria glauca* Lister ex G. Lister）で、1911 年に A. H. Lister が新種として発表した種で、南方熊楠が田辺市で発見して以来、県内では数箇所でしか発見されていない。もう 1 種はミナカタホコリ（*Minakatella longifila* G. Lister）で、1921 年に G. Lister が新種として発表した。南方熊楠が田辺市で発見してから 100 年経っているが、県内では再発見されていない。しかし他県では発見例があるので、今後、県内で再発見が期待される。2 種とも和歌山県がタイプ産地になっている。

自然環境が多様で、調査の必要な地点も多く存在し、かつ調査員が少ないため、県内をくまなく定期的に調査するのは困難である。その上、キノコや変形菌の子実体は短命なため、見逃してしまうことが多々ある。よって、調査を粘り強く継続することが必要であると考える。

近年、生物の分類に形態形質だけでなく、DNA 解析に基づく系統分類が取り入れられ、菌類および変形菌類の分類体系も変わりつつある。よって、将来学名が変更になることもありうるが、最新の知見に基づいた学名を掲載する。

菌類（変形菌類を含む）の掲載種

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

スナジクズタケ
マイタケ
ケシボウズタケ

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

ホンシメジ
ブナシメジ
バカマツタケ
ヌメリツバタケ
シイノトモシビタケ
コウボウフデ
キヌガサタケ
セミタケ
オオセミタケ
ヌメリタンポタケ

●準絶滅危惧（NT）

マツタケ
ニセマツタケ
モミタケ
オソムキタケ
ムキタケ
ウスキブナノミタケ
シロテングタケ
ナメコ
クリフウセンタケ
アケボノアワタケ
アヤメイグチ
ショウロ
アカモミタケ
トキイロラッパタケ
コウタケ
クロカワ
ブクリョウ
クモタケ

●情報不足（DD）

フユヤマタケ
アオイヌシメジ
ドクササコ
キヒダマツシメジ
シロツルタケ
キタマゴタケ
ニオイドクツルタケ
コトヒラシロテングタケ
ヒョウモンウラベニガサ
マントカラカサタケ
スジチャダイゴケ
ヒメヒガサヒトヨタケ
カワリコシワツバタケ
ムレオオフウセンタケ
オオワライタケ
ソライロタケ
クギタケ
アメリカウラベニイロガワリ
サザナミイグチ
ムラサキヤマドリタケ
オオヤシャイグチ
セイタカイグチ
ヌメリアシナガイグチ
ヤシャイグチ
トガサワラショウロ
ルリハツタケ
カゴタケ
アカイカタケ
イカタケ
ヒメスッポンタケ

ミミブサタケ
アミガサタケ
ウツロイモタケ
クルミタケ

カエンタケ
ミナカタホコリ
アオウツボホコリ

スナジクズタケ　*Psathyrella ammophila* (Durieu & Lév.) P. D. Orton　ハラタケ目　ナヨタケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

環境変化が大きく不安定な砂浜海岸に依存する種で、和歌山県内では 1990 年に発生が確認されている。その後、護岸工事等によって発生場所の砂浜海岸は消滅し、本種の発生が見られなくなった。

海南市で発生が確認されている。

傘は径 2~4 cm。半球形～釣鐘形で表面は灰褐色～赤褐色、中央部はややくぼむ。ひだは湾入上生、灰色、のちに灰褐色～黒色。柄は管状～円筒状で下方に向かって太くなり、根元でやや膨らみ、白色のち明るい黒褐色。1 ／ 2~1 ／ 3 は砂地に埋まる。単生または数本束生する。

初夏から秋に、海浜植物が生育する場所で、埋もれている植物遺体や木片から発生する。砂浜海岸の汀線近くにも発生することが知られている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　竹橋誠司・星野　保・糟谷大河．2012．石狩砂丘と砂浜のきのこ．216pp．NPO 法人 北方菌類フォーラム，札幌．

マイタケ　*Grifola frondosa* (Dicks.) Gray　タマチョレイ目　トンビマイタケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



本種は冷涼な気候を好むため、気候変動などにより生育に適した場所が減少している。和歌山県内では 1 箇所、田辺市で発生が確認されている。宿主であるミズナラ林の伐採や衰退も一因と考えられる。

子実体は無数に分岐する柄と、柄の先端に形成される無数の傘の集団からなり、全体の直径は 30 cm にも達する。傘は扇形～へら形～半円形など、幅 2~5 cm、厚さ 2~4 mm ほどで、表面はほとんど黒～黒褐色、しだいに色は淡くなって灰褐色～白色となる。放射状の繊維紋とやや不鮮明な環紋を示す。下面の管口は白色、長さ 1~3 mm、柄に垂生、孔の口は円形～不正円形、1~3 個／ mm。

9 月中旬頃に、主にミズナラの大木の根際に発生するが、クリ、シイ、タブノキに発生することもある。美味なキノコで物語などにも登場する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315 pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

ケシボウズタケ　*Tulostoma brumale* Pers.　ハラタケ目　ケシボウズタケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）



選定理由

環境変化が大きく不安定な砂浜海岸に依存する種で、和歌山県内では 1 箇所、和歌山市で発生が確認されている。砂浜の減少や護岸工事などで急速に生育場所が減少し、唯一の生育地も著しく悪化している。

子実体は径 1~1.5 cm。幼菌の間は地中性で、球形または類球形で最初は白色、のちに褐色になる。成熟すると頭部は地表に出る。殻外皮は剥落し、頭部の下や柄の基部に残る。内皮は成熟すると孔口は乳頭状に突出する。柄部は赤褐色から暗茶褐色、肉は白色で中空か中実。頭部は暗褐色の粉状胞子塊となる。

夏から秋に、砂浜海岸でコウボウシバ、ヒゲスゲなどが生育する植生に発生する。海岸植生がある程度良好に保たれている場所に限定して発生している。

海浜に依存するキノコは和歌山県内では、本種とスナジクズタケの 2 種が確認されている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315 pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

ホンシメジ　*Lyophyllum shimeji* (Kawam.) Hongo　ハラタケ目　シメジ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

里山に見られるキノコで、アカマツ林やクヌギ・コナラなどの広葉樹林の放置による下草の繁茂や土壌の富栄養化によって生育に適した場所が減少している。また過去に発生した場所も生育が確認できなくなっている。

岩出市、田辺市、高野町で発生が確認されている。

傘は径 2~8 cm。半球形～まんじゅう形、のちに平らになる。表面はねずみ色から淡灰褐色になる。縁部は内側に巻く。ひだは湾生または垂生する。通常柄の基部は徳利状に膨らむが、成長すると上下同大になる。

10 月中旬頃に、アカマツ交じりの雑木林などで比較的腐植土の少ない場所に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325 pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639 pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ブナシメジ　*Hypsizygus marmoreus* (Peck) H. E. Bigelow　ハラタケ目　シメジ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県内では標高の高い一部の地域でしか発生を確認できない。

生育地では、気候の変動や伐採によるブナ林の衰退が進み、生育環境が明らかに悪化しつつある。

田辺市、高野町、日高川町で確認されている。

傘は径 4.5~15 cm。円形または一方に片寄った不正形、表面は類白色～帯褐クリーム色、周辺部は淡色、しばしば不明瞭なやや濃色の大理石模様を表す。ひだは類白色、柄に丸く直生し、密～やや疎。柄は長さ 3~10 cm、太さ 0.6~2 cm、中心生または偏心生で曲がることが多く、上下同大または下方が紡錘形となり、傘とほぼ同色か、ほとんど白色。

秋に、ブナその他の広葉樹の枯れ木に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325 pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

バカマツタケ　*Tricholoma bakamatsutake* Hongo　ハラタケ目　キシメジ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

和歌山県内では今のところ海南市、田辺市、有田川町の数箇所でしか発生が確認されていない。里山のウバメガシ、コナラなどの広葉樹林の放置により生育環境が悪化し、発生数が減少している。

傘は径 4~10 cm。はじめ球状、のちにまんじゅう形から平らになり、ついには縁部が反り返る。中央部は褐色、繊維状。柄も褐色、繊維状や鱗片状で上下同大、基部は細まらない。マツタケによく似ているが、より小型で香りがより強い。肉質はマツタケよりも多少柔らかい。

夏から秋に、ウバメガシ、コナラなどの広葉樹の林地に菌輪を作って発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325 pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639 pp．山と溪谷社，東京．
3　工藤伸一．2017．青森県産きのこ図鑑．535pp．アクセス 21 出版，青森．

写真：菌類専門部会撮影

ヌメリツバタケ　*Mucidula mucida* (Schrad.) Pat.　ハラタケ目　タマバリタケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内では、主にブナ林に発生するが、伐採による減少や衰退などにより発生数が大幅に減少している。

田辺市、高野町で発生が確認されている。

傘は径 3~8 cm。淡い灰色を帯びた褐色から白色、強い粘性。ひだは幅広く、白色。柄は細く、白色、上部につばを有する。

夏から秋に、広葉樹（和歌山県では特にブナ）の枯れ木に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

シイノトモシビタケ　*Mycena lux-coeli* Corner　ハラタケ目　クヌギタケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県内の発生地はスダジイを主とした海岸部の照葉樹林帯に複数あるが、どれも規模が小さい。また、森林の遷移などによる発生地の環境変化により、発生数が明らかに減少している。

すさみ町、串本町、那智勝浦町で発生が確認されている。

傘は径 8~15 mm。円錐形～丸山形で溝状の条線がある。表面はオリーブ色～黄褐色。ひだは直生～わずかに垂生し、淡橙灰色で縁部は黄褐色に縁どられる。柄は円柱形で上下同大、基部に白色毛がある。表面は平滑で、淡橙褐色。子実体全体に強い発光性がある。

梅雨から初秋にかけて、スダジイが優占する照葉樹林内の朽木や落枝上に群生または散生する。

日本固有種で八丈島で発見されたが、1995 年に本県でも見つかった。その後、沖縄県、高知県、鹿児島県、宮崎県、大分県、長崎県、兵庫県、三重県で発生が確認されている。

近年、本種の生育地が知られるようになり、そのため人為的攪乱・採取圧などにより生育環境がさらに悪化している。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報
1　伊藤誠哉．1959．日本菌類誌第 2 巻 第 5 号．658pp．養賢堂，東京．
2　黒木秀一・服部真由美・服部　力．2004．宮崎県産「シイノトモシビタケ」．宮崎県総合博物館研究紀要，25：26–24．
3　幼菌の会．2001．きのこ図鑑．334pp．家の光協会，東京．
写真：菌類専門部会撮影

コウボウフデ　*Pseudotulostoma japonicum* (Kawam. ex Otani) I. Asai, H. Sato & Nara　エウロチウム目　ツチダンゴ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）



選定理由

発生地が局限されている上に、発生密度が低いため、希少である。また、里山のウバメガシ林の放置などにより生育に適した場所が減少している。

海南市、田辺市で発生が確認されている。

幼菌は地中性で長径 3~4 cm、短径 2~2.5 cm で長卵形、成熟すると裂開し、柄部が伸長して長頭状またはこん棒状の頭部をもちあげ、高さ 5~12 cm となる。頭部は径 1~3 cm、しだいに細まり柄となる。全体的にねずみ色～灰褐色ときに緑青色や黄白色が混じる。頭部の上半分の殻皮は不規則な破片となって剥離し、青色を帯びた灰色の古綿状の胞子塊を露出する。柄部は円筒形で繊維状の縦条を表し、中実、根もとに黄褐色の袋がある。

秋に、ブナ科の広葉樹林（ウバメガシ、コナラ、クヌギ）の地上に単生または群生する。和歌山県内では、特にウバメガシ林に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報
1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315 pp．保育社，大阪．
写真：菌類専門部会撮影

キヌガサタケ　*Phallus indusiatus* (Vent.) Dasy.　スッポンタケ目　スッポンタケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

竹林内の地上に発生するが、発生地は限られている。更に竹林の放置等により、発生場所の悪化が進み、発生数が減少している。

和歌山市、橋本市、九度山町、高野町で発生が確認されている。

幼菌は白色の卵形、径 3~4 cm ほど。成熟すると裂開し、白色の柄と菌膜（マント）を伸ばし、高さ 15~18 cm になり、柄部は 2~3 cm の太さになる。傘の表面は白色で網目状の隆起があり、暗緑色のグレバと呼ばれる粘液化した胞子塊が強い臭気を放ち、頂端は白色環状で孔口を開く。柄部は白色円筒形、中空で多数の小孔がある。菌網は白色の繊細な網目状となる。

梅雨期と秋の年 2 回、竹林内に群生または散生する。

本種は 1 分間に 2~4 mm もの速さで成長し、わずか数時間で幼菌から成菌に成長する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315 pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

セミタケ　*Ophiocordyceps sobolifera* (Hill ex Watson) G. H. Sung, J. M. Sung, Hywel-Jones & Spatafora　ニクザキン目　オフィオコルジケプス科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

発生場所が局所的である。また、ニイニイゼミの幼虫に限定して寄生し発生するため、宿主の発生数の減少に合わせて本種も減少している。1995 年頃から減少が著しく、過去の発生場所も現在では消滅している。

和歌山市、すさみ町で発生が確認されている。

子実体は地上部の高さ 2~8 cm、頭部と柄からなる。こん棒状で地中のニイニイゼミの幼虫の頭部から発生する。頭部は円筒形で細点状、淡褐色か淡橙褐色。柄は円柱状で頭部よりも淡色。ときに基部にコブ状の塊を生じる。肉は白色で硬い。栃木県以南に分布する。

5 月から 8 月に、人家の庭や寺社・公園などの比較的手入れがされている場所や、里山の林内に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　池田良幸．2013．新版 北陸のきのこ図鑑．396pp．橋本確文堂，金沢．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　清水大典．1997．冬虫夏草図鑑．446pp．家の光協会，東京．
4　幼菌の会．2001．きのこ図鑑．334pp．家の光協会，東京．

写真：菌類専門部会撮影

オオセミタケ　*Ophiocordyceps heteropoda* (Kobayasi) G. H. Sung, J. M. Sung, Hywel-Jones & Spatafora　ニクザキン目　オフィオコルジケプス科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

本種は全国的に分布しているが、生育場所が局所的である。また、宿主であるアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシなどの幼虫に寄生して発生するため、宿主の発生数の減少に合わせて本種の発生も減少している。その上、過去の発生場所が現在では消滅している。

紀の川市、岩出市で発生が確認されている。

子実体は地上部の高さ 2~4 cm、頭部と柄からなる。地中のアブラゼミなどの幼虫から発生する。頭部は卵形～楕円形で細点状、淡褐色～暗褐色。柄は下方が太いもの、細いもの、屈曲するものがあり、淡黄褐色。肉は白色で硬い。地中の宿主より根状の菌糸束が地表に向けて伸びる。

早春に、寺社や公園などの比較的手入れがされて下草が少なく、湿度が高い場所に発生する傾向がある。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　池田良幸．2013．新版 北陸のきのこ図鑑．396pp．橋本確文堂，金沢．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　清水大典．1997．冬虫夏草図鑑．446pp．家の光協会，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

ヌメリタンポタケ　*Tolypocladium longisegmentum* (Ginns) Quandt, Kepler & Spatafora　ニクザキン目　オフィオコルジケプス科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

里山林の放置により、ブナ科の木に菌根をつくるツチダンゴが減少し、それを唯一の宿主とする本種の減少につながっている。和歌山県内での発生確認は岩出市と紀の川市の 2 箇所であるが、生育適地は悪化しつつある。

子座は球形～類球形で茶褐色～黒褐色。粘性を持ち、光沢がある。被子器は埋生で、子座の表面でやや隆起して見える。黄色の柄はツチダンゴ類から直出し、太くて丈夫で、黒点を密布することが多い。

ツチダンゴ類に寄生し、初春から秋に、広葉樹林内地上に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　本郷次雄．2001．幼菌の会 カラー版 きのこ図鑑．335pp．社団法人 家の光協会，東京．

写真：菌類専門部会撮影

マツタケ　*Tricholoma matsutake* (S. Ito & S. Imai) Singer　ハラタケ目　キシメジ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



アカマツ林の代表的なキノコで外生菌根を作る。過去には発生場所が和歌山県内に広がっていたが、落葉や薪の利用が衰退した結果、土壌が富栄養化し、痩せた土壌を好む本種が減少したと考えられる。また、マツノザイセンチュウによるマツ枯れも本種に大きく影響を与え、発生量が極端に少なくなっている。

橋本市、紀の川市、田辺市、高野町、かつらぎ町、紀美野町、有田川町で発生が確認されている。

選定理由

傘は径 8~20 cm。はじめ球形、のちにまんじゅう形～平らになる。表面は淡黄褐色～クリ褐色で繊維状の鱗片でおおわれる。縁部は幼菌時内側に巻く。ひだは湾生で白色。柄は上下同大か上部あるいは下部が細いものもある。肉は白色で特有の香気がある。

秋に、主としてアカマツ林に発生するが、ツガ、クロマツにも発生する。また、梅雨の頃にも発生する。

1940 年頃には全国で 1 万 2 千トンの収穫が記録されているが、近年では 100 トン前後で推移している。多方面で人工栽培に向けた取り組みもされているが、まだ確立されていない。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　池田良幸．2013．新版 北陸のきのこ図鑑．396pp．橋本確文堂，金沢．
2　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
3　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ニセマツタケ　*Tricholoma fulvocastaneum* Hongo　ハラタケ目　キシメジ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



里山に見られるキノコであるが、和歌山県内では 1 箇所、田辺市でしか発生が確認されておらず、個体数も減少傾向にある。里山の薪炭林としての利用が衰退し、それに伴う雑木林の放置や森林遷移により生育適地が減少していると考えられる。

シイ・カシ・ウバメガシなどの広葉樹と外生菌根を作る。

選定理由

傘は径 6~10 cm。はじめ球形、のちにまんじゅう形～平らになる。表面は帯黄土褐色～クリ褐色で繊維状、多少の鱗片を生じ、縁部は内側に巻く。ひだは湾生で白～乳白色。柄は下部が細くなる。肉はマツタケより多少柔らかく、匂いは微弱。

秋に、落葉性ブナ科や常緑のブナ科の林に発生する。県内ではウバメガシ林に発生することが多い。

田辺地域ではサマツと呼ばれ、食用キノコとして珍重されている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　池田良幸．2013．新版 北陸のきのこ図鑑．396pp．橋本確文堂，金沢．
2　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
3　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

モミタケ　*Catathelasma ventricosum* (Peck) Singer　ハラタケ目　オオモミタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

生育条件であるモミ林の環境が著しく変化し、発生に適した場所が減少している。また、発生地も少なく個体数が減少しつつある。和歌山県内では田辺市、有田川町の２箇所のモミ林で確認しているが、それ以外のモミ林では確認できていない。

傘は径 8~20 cm で大型。はじめ半球状で縁部が深く内側に巻き、白色の被膜がある。のちに平らに開き、縁部は反り返る。表面は平滑で湿時粘性があり、灰白色のち灰褐色。柄は太く充実、下方で急に細まり、つばは二重になっている。

夏から秋に、モミ、エゾマツ、アカマツなどの針葉樹の林地に群生、時に菌輪を描く。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　工藤伸一．2009．東北きのこ図鑑．269pp．家の光協会，東京．

オソムキタケ　*Sarcomyxa serotina* (Pers.) V. Papp　ハラタケ目　ガマノホタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

生育適地の悪化や伐採によるブナ林の減少により、発生数が減少している。この状況が続けば、絶滅の危機が増大する可能性がある。

田辺市で発生が確認されている。

子実体は側生する。傘は肝臓形～扇形、縁が内屈し、径 3~8 cm、厚さは最大で 1.5 cm。傘表面は全体としてオリーブ褐色～暗褐色、紫白色～暗紫色、微細毛で覆われ、下層にゼラチン層があるが、やや剥がれにくい。ひだは直生もしくはやや垂生し、密で、白色～橙白色。柄は短いが太く、中実、淡黄色～橙色だが、表面にはオリーブ褐色～黄褐色または灰緑色～暗緑色の細鱗片、基部付近には白くて短い綿毛がある。

秋から初冬にかけて、ブナの朽木に、ムキタケより少し遅れて群生～重生する。

ムキタケとされていたものが、2014 年にムキタケとオソムキタケに分類された。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　斎藤輝明・殿内暁夫・原田幸雄．2014．ムキタケ *Sarcomyxa edulis* comb. nov．とオソムキタケ（新称）*S. serotina* の生物学的特徴と分子系統解析．日本菌学会会報，55 (2)：19–28.

ムキタケ　*Sarcomyxa edulis* (Y. C. Dai, Niemelä & G. F. Qin) T. Saito, A. Tonouchi & Y. Harada　ハラタケ目　ガマノホタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

生育適地の悪化や伐採によるブナ林の減少により、発生数が減少している。この状況が続けば、絶滅の危機が増大する可能性がある。

田辺市で発生が確認されている。

子実体は側生する。傘は肝臓形から扇形、径 3~11 cm、厚さ最大で 1.5 cm。傘表面は灰黄色～オリーブ褐色、明褐色～褐色、微細毛で覆われ、下層にゼラチン層があるため剥がれ易い。ひだは直生し、密で、白色～橙灰色。柄は短いが太く、中実、黄白色～黄橙色で表面には白色～浅橙色の短い綿毛を帯びる。

秋から初冬にかけて、ブナの朽ち木にオソムキタケより少し早く群生～重生する。

選定理由　ムキタケとされていたものが、2014 年にムキタケとオソムキタケに分類された。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報
1　斎藤輝明・殿内暁夫・原田幸雄．2014．ムキタケ *Sarcomyxa edulis* comb. nov．とオソムキタケ（新称）*S. serotina* の生物学的特徴と分子系統解析．日本菌学会会報，55（2）：19–28.

ウスキブナノミタケ　*Mycena luteopallens* Peck　ハラタケ目　クヌギタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由　ニホンジカによる植物の食害やササ類の枯死によりブナ林内の乾燥化が進み、生育適地の悪化によって発生が減少しつつある。

田辺市、有田川町、日高川町で発生が確認されている。

傘は径 5~7 mm。はじめ卵形や円錐形で、のちに幅広い円錐形、釣鐘形からまんじゅう形または平らとなる。色は黄色から淡黄色、のちに退色して淡黄土色から白色となる。ひだは直生から垂生状、やや疎で淡黄土色。柄は長さ 5~7 cm、太さ 1 mm 程度で、中空。基部は黄白色で根状に伸び淡黄色の長軟毛をつける。

秋に、埋もれたブナの堅果上に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報
1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪.
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京.
写真：菌類専門部会撮影

シロテングタケ　*Amanita neo-ovoidea* Hongo　ハラタケ目　テングタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由　発生地が限られており、その上、人的干渉の減少により里山の荒廃が進行し、生育適地の悪化が進んでいる。

和歌山市で発生が確認されている。

傘は径 7~10 cm。はじめ半球形、のちにまんじゅう形から平らに開き、さらに中央部がやや窪む。表面は白色で粉質物におおわれ、淡黄土色の大きなつぼの破片が残存し、縁部にしばしばつぼの残片が垂れ下がる。ひだは離生し白色から淡クリーム色で密。柄は長さ 11~13 cm、太さ 12~15 mm になり、根元はこん棒状または紡錘状で白色。

夏から秋に、アラカシ、ツブラジイなどのブナ科の樹下に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報
1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪.
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京.
写真：菌類専門部会撮影

ナメコ　*Pholiota microspora* (Berk.) Sacc.　ハラタケ目　モエギタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県内では標高の高い一部の地域でしか生育していない。

発生地ではブナ林内の乾燥化や伐採による衰退が進み、生育環境が明らかに悪化しつつある。

田辺市で発生が確認されている。

傘は径 3~8 cm。はじめ半球形～やや円錐形、のちにまんじゅう形からほとんど平らに開く。表面は著しい粘液で厚くおおわれ、中央部は明るい褐色、周辺部は黄褐色。ひだは柄に直生し密、広幅、はじめゼラチン質の薄い皮膜におおわれている。柄は長さ 2.5~8 cm、太さ 3~13 mm、上下ほぼ同幅、上部にゼラチン様の隆起帯として認められるつばをもつ。つばより上部はほぼ白色、下部は淡黄色～褐色で、傘と同様粘液におおわれる。

秋に、落葉広葉樹、おもにブナの倒木や切り株上に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

クリフウセンタケ　*Cortinarius claricolor* (Fr.) Fr.　ハラタケ目　フウセンタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

広葉樹林、アカマツ林の放置や植生の遷移などにより、生育適地が減少している。

田辺市、高野町、かつらぎ町で発生が確認されている。

傘は径 4~8 cm。まんじゅう形からやや中高の平らに開き、表面は帯黄土橙色、中央部は帯褐色、周辺には白色絹糸状の被膜の破片を付着するが消失しやすい。ひだは直生または上生して密、幅 3~4 mm、類白色のち粘土色からニッケイ褐色となる。柄は長さ 6~10 cm、太さ 7~11 mm、上下同大または下方に向かってやや細まり、白色のち多少粘土色をおびる。傘が開いたのちに綿毛状のつばが柄の上部に付着する。

秋に、クヌギ・コナラ林、アカマツ林などの地上に群生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

アケボノアワタケ　*Harrya chromipes* (Frost) Halling, Nuhn, Osmundson & Manfr. Binder　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

森林の荒廃により、本種の生育に適した場所が減少し、本種の発生数も減少している。

紀の川市、和歌山市、田辺市、高野町、かつらぎ町、有田川町、日高川町、古座川町、那智勝浦町で発生が確認されている。

傘は径 4.5~6 cm。まんじゅう形～ほぼ平らになり、表面は帯緑色で中央は暗色、湿るとやや粘性を帯びる。管孔は上生～ほぼ離生で淡紅色。柄は淡黄色で特に根元付近は鮮やかな黄色を呈し、上に向かってやや細くなる。

夏から秋に、アカマツ、モミなどの針葉樹林やコナラ、ブナなどの広葉樹林の地上に発生する。

ただし、本種とされているものには複数の種が含まれていることが指摘されている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　工藤伸一．2017．青森県産きのこ図鑑．535pp．アクセス 21 出版，青森．

アヤメイグチ　*Boletellus chrysenteroides* (Snell) Snell　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



発生地が限定されており、生育条件であるコナラ、シイ、カシなどの広葉樹林の放置により環境が著しく変化し、生育適地が減少している。生育条件の変化によっては絶滅危惧種のカテゴリーが変わる可能性がある。

高野町、かつらぎ町、有田川町で確認されている。

傘は径 3.5~7 cm。まんじゅう形～ほぼ平らで、表面は褐色～暗褐色または暗褐紫色でビロード状、不規則にひび割れる。管孔は、はじめ直生、のちに柄の周囲で陥没しほぼ離生状となりレモン色で、のちに帯オリーブ色となる。触れると速やかに青変する。柄はしばしば一方に曲がり、上部が黄色で下に向かって暗紅色～暗褐色になる。

夏から初秋に、ブナ科樹下の地上の腐植土または腐朽の進んだ材上に単生する。

外観的に酷似したものが数種あることが指摘されている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　工藤伸一．2017．青森県産きのこ図鑑．535pp．アクセス 21 出版，青森．

写真：菌類専門部会撮影

ショウロ　*Rhizopogon rozeolus* (Corda) Th. Fr.　イグチ目　ショウロ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内の発生確認は和歌山市、岩出市、海南市、美浜町、上富田町の５箇所である。また、生育地であるマツ林の放置や、マツノザイセンチュウの被害によるマツ林の減少などにより、本種の発生数が減少している。今後も生育適地が減少していくと考えられる。

子実体は径 1.5~3 cm で地中性、ときに半地中性。殻皮は薄く、白色～淡紫褐色であるが、地表に出ると黄褐色～赤色をおび、こすったり、傷つけたりすると淡赤色に変わる。

秋から次年の春にかけて、海岸や庭園などのマツの樹下に発生する。



執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

アカモミタケ　*Lactarius laeticolor* (S. Imai) Imazeki & Hongo　ベニタケ目　ベニタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

モミ林に特有のキノコであり、伐採によるモミ林の減少により発生数も減少している。

高野町、有田川町で発生が確認されている。

傘は径 5~15 cm。まんじゅう形から開いてややじょうご状になる。色は淡橙黄色でやや不明瞭な環紋がある。ひだは直生または垂生し密で、傘より濃色。柄は長さ 3~10 cm、太さ 8~17 mm で中空、傘と同色、通常大小のクレーター状の浅いくぼみがあり、その内側は濃色。傷つけると橙朱色の乳液を多量に分泌する。

夏から秋、特に秋に、モミの樹下に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

トキイロラッパタケ　*Cantharellus luteocomus* (Fr.) Fr.　アンズタケ目　アンズタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

マツ枯れや伐採によるマツ林の減少をはじめ、マツと広葉樹による腐植質の堆積などにより、生育に適した場所が減少し、発生数も減少している。

紀の川市、かつらぎ町、高野町、有田川町で発生が確認されている。

傘は径 1~3 cm。淡いバラ色から朱橙色、時には淡黄から白色のものもある。柄は傘と同色で中空。子実層はしわ状で平滑。乾燥するとバターの香りがする。

秋に、マツ林内の地上に点々と群生～リング状に発生する。



執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

コウタケ　*Sarcodon aspratus* (Berk.) S. Ito　イボタケ目　マツバハリタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

発生地が田辺市、かつらぎ町、日高川町の３箇所に局限されており、クヌギ・コナラなどの広葉樹林、アカマツ林の放置や植生の遷移などにより、生育に適した場所が減少し、本種の発生も減少している。

傘は径 10~20 cm に達する。アサガオの花のように開いたろうと形、肉質。傘の中央は深くくぼみ、穴は根元まで達する。表面には粗大で強くそり返った角状の鱗片が密生する。若いときは全体が桃色を帯びた淡褐色であるが、しだいに紅褐色から黒褐色になる。針状の下面は長さ 1 cm あまり、柄の下の方まで短い針状のトゲがある。柄は長さ 3~6 cm、太さ 1~2 cm。

秋に、広葉樹林内の地上に列をつくって群生する。

日本固有種で、乾くと強い香りを放ち食用として珍重される。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．

クロカワ　*Boletopsis grisea* (Peck) Bondartsev & Singer　イボタケ目　マツバハリタケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

マツ林の放置やマツノザイセンチュウの被害によるマツ林の減少、植生の遷移などにより生育に適した場所が減少している。

田辺市、高野町で発生が確認されている。

傘は径 5~20 cm。ほぼ円形、はじめ丸山形でのち扁平に開き、やがてそり返る。上面ははじめ灰白色、しだいにねずみ色から黒くなり、少し赤紫色をおびることがある。微細な毛をおびて、なめし皮状の触感がある。肉は厚く、1 cm 以上。子実層托は管口状、孔口は初め円形で小さいがしだいに大きくなり、形もくずれ、深さ 1~2 mm。柄は円柱状で、長さ 2~10 cm、太さ 1~2.5 cm、堅く、充実。表面は傘と同色。

秋に針葉樹林、特にマツ林の地上に群生する。

味はやや苦いが各地で好んで食用にされている。和歌山ではウシビタイと呼ばれている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．

ブクリョウ　*Wolfiporia extensa* (Perck) Ginns　タマチョレイタケ目　ツガサルノコシカケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

マツの根を囲うように菌核をつくるが、子実体の発生は極めてまれである。マツ林の減少により、本種の発生も減少している。

岩出市、田辺市、有田川町で菌核の発生が確認されている。

子実体は背着性、管孔面は汚白色から桃色を帯びた淡褐色。孔口は多角形からやや乱れ、マツ類などの針葉樹の枯木上に形成される。菌核はマツの根周辺に形成し、大きさはサツマイモ大から人頭大で、表面は灰褐色でシワを帯びる。内部は類白色で乾けばかたく砕けやすくなる。

菌核はごく偶然にみつかるが、子実体を確認できる機会がほとんど無い。

菌核は、茯苓と呼ばれ漢方薬として重用される。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

クモタケ　*Purpureocillium atypicola* (Yasuda) Spatafora, Hywel-Jones & Luangsa-ard　ニクザキン目　オフィオコルジケプス科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

宿主はキシノウエトタテグモに限定されており、宿主の個体数が減少傾向にあるため、発生数が減少している。今後、宿主のさらなる減少により、絶滅の危機が増大する可能性がある。

和歌山市、海南市で発生が確認されている。

アナモルフ子実体は高さ 2~4 cm 程度。こん棒状で、上部に淡い紫色の粉状の分生子を形成する。石垣や土の切通しなどといった限られた場所に生息するキシノウエトタテグモに寄生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
写真：菌類専門部会撮影

フユヤマタケ　*Hygrophorus hypothejus* (Fr.：Fr.) Fr. f. *pinetorum* (Hongo) Hongo　ハラタケ目　ヌメリガサ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

マツが若く、林床の腐植質の少ない所が生育適地である。近年、マツ枯れや植生の遷移により、マツ林が減少するとともに発生適地が限られている。

有田川町で発生が確認されている。

傘は径 1~3 cm。色はオリーブ色、のちに黄、橙、赤色を帯びる。粘性がある柄は長さは 3~4 cm、太さ 2~4 mm。

晩秋から初冬にかけて、マツ林内に群生する。

本種はシモフリヌメリガサの小型品種とされている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
写真：菌類専門部会撮影

アオイヌシメジ　*Clitocybe odora* (Bull.) P. Kumm.　ハラタケ目　キシメジ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

発生地がかつらぎ町、高野町の 2 箇所に局限されている。里山の広葉樹林の放置などにより生育に適した場所が減少している。

傘は径 3~8 cm。まんじゅう形から中高の平らとなり、ついには多少くぼむことがある。表面は平滑、灰緑～淡青緑色、縁部は幼時内側に巻く。ひだは直生～垂生。密またはやや疎。白色のち淡黄色または淡緑色を帯びる。柄は長さ 3~8 cm、太さ 4~6 mm、淡緑色、繊維状、基部はしばしば湾曲し、白色の綿毛におおわれる。さくら餅のような芳香がある。

秋に、広葉樹林内の地上に単生または少数が群生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．

ドクササコ　*Paralepistopsis acromelalga* (Ichimura) Vizzini　ハラタケ目　キシメジ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

発生地が限定されており、和歌山県内では高野町、紀美野町の２箇所でしか確認されていない。また、発生数も著しく少ない。生育適地がタケ藪、ササ藪などで、容易に放棄地になりうる場所のため、林床の環境変化により生育に適した場所が失われていると考えられる。

傘は径 5~10 cm。中央が窪んだまんじゅう形、後にじょうご形となり、縁部は内側に巻き込む。表面は橙褐色～黄赤褐色で粘性はない。ひだは長く垂生し淡黄白色～淡黄褐色。柄は繊維質で中空、傘とほぼ同色、上部は白色、基部は膨らむものが多い。

秋から初冬に、タケ藪、ササ藪、雑木林、ときにスギ林などの腐葉土上に群生または束生する。

国内では日本海側に分布の偏りがみられ、太平洋側の県内での発生は地理的にみても特異的と考えられる。最近まで日本固有種とされていたが、韓国からも報告があるという。

有毒種で摂食後、数日から１週間を経たのちに、手足の末端などが激痛を発症し、１ヶ月ほど症状が続くことが知られている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　池田良幸．2013．新版 北陸のきのこ図鑑．396pp．橋本確文堂，金沢．
2　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
3　幼菌の会．2001．きのこ図鑑．335pp．家の光協会，東京．
写真：菌類専門部会撮影

キヒダマツシメジ　*Tricholoma fulvum* (DC.) Bigerd & H. Guill.　ハラタケ目　キシメジ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

生育地が局限されており、和歌山県内では高野町、すさみ町の２箇所でしか発生が確認されていない。クヌギ・コナラなどの里山の広葉樹林の放置などにより生育に適した場所が減少している。

傘は径 3~8 cm。はじめ丸みのある円錐形～まんじゅう形、後に開いて中高平らとなり、ついには中央部がやや くぼむ。表面は湿っているとき粘性があり、平滑、クリ褐色。ひだは深く湾入し、淡黄色、幅 2~9 mm、やや密。柄は長さ 2.5~6 cm、太さ 6~20 mm、上下同大または中ほどが紡錘形にふくらみ、やや繊維状、上部は淡黄色、下部は傘と同色。

秋に、広葉樹林内に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
写真：菌類専門部会撮影

シロツルタケ　*Amanita vaginata* (Bull.) Lam. f. *alba* (Sacc.) Romagn.　ハラタケ目　テングタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内ではかつらぎ町、日高川町の２箇所でしか発生が確認されていない。森林環境の変化や雑木林の放置により生育に適した環境が減少している。

傘は径 5~7 cm。はじめ釣鐘形からまんじゅう形になり、更に平らになる。表面は白色で中央部は淡黄色を呈することもあり、周辺には放射状の溝線がある。ひだは離性し白色。柄は円柱状で基部にさや状のつぼがある。上部につばを欠く。肉は白色。

夏から秋に、マツをまじえたクヌギ・コナラ林内に単生または群生する。

形態的には全体が白色である以外はツルタケと同じで、品種として扱っているが、独立種とみなされることもある。

本種は食用とされているが、同属の致命的な毒きのこ、ドクツルタケやシロタマゴテングタケに酷似しているので注意を要する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　幼菌の会．2001．きのこ図鑑．335pp．家の光協会，東京．

キタマゴタケ　*Amanita kitamagotake* N. Endo & A. Yamada　ハラタケ目　テングタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内では岩出市の１箇所でしか発生が確認されていない。シイ、カシやマツなどが混生する雑木林の伐採や放置などにより生育に適した場所が減少している。

傘は径 5~10 cm。橙黄色～黄土色で縁に条線がある。中～大型でタマゴタケに形態が似ているが、全体的に色が異なる。

柄は黄色の地に橙色または帯褐色のだんだら模様を有する。

夏から秋に、針葉樹や広葉樹下の地上に発生する。

外形はタマゴタケとほとんど同様であることから、最近までタマゴタケの亜種とみなされていた。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

ニオイドクツルタケ　*Amanita oberwinkleriana* Zhu. L. Yang & Yoshim. Doi　ハラタケ目　テングタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内では岩出市の１箇所でしか発生が確認されていない。生育場所である雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少している。

傘は径 6~11 cm。はじめ釣鐘形、のちに中高の平らになる。表面は白色で中央はわずかに淡黄色を帯び、水酸化カリウム溶液で黄変しない。ひだは離生し白色。柄は円柱状で膜質のつばがあり、目立つささくれがある。基部は袋状のつぼがあり、肉は白色で特有の塩素臭がある。

夏から秋、主として夏に、シイやコナラの雑木林の樹下に単生する。

近縁種は有毒のものが多く、本種も有毒の可能性が高い。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　青木　実・日本きのこ同好会．2008．日本きのこ図版 第二巻．740pp．日本きのこ同好会 2，神戸．

コトヒラシロテングタケ　*Amanita kotohiraensis* Nagas. & Mitani　ハラタケ目　テングタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少傾向にあり、本種の発生数も減少している。

紀の川市、和歌山市、かつらぎ町、有田川町で発生が確認されている。

傘は径 6~15 cm。はじめ釣鐘形、のちに中高の平らになる。脱落しやすい圧着された白色のカサブタ状の外被膜の名残が散在し、湿時多少粘性を帯びる。表面は白色。ひだは離性し淡黄色。柄は円柱状で基部がカブ状に膨らむ。上部に脱落しやすいつばがある。肉は白色で特有の塩素臭がある。

夏から秋、主として夏に雑木林のクヌギ、コナラ、コジイなどの樹下に発生する。

食毒不明であるが近縁種に有毒のものが多く、本種も有毒の可能性が高い。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ヒョウモンウラベニガサ　*Pluteus pantherinus* Courtec. & M. Uchida　ハラタケ目　ウラベニガサ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

広葉樹林の腐朽木に発生するウラベニガサ属の中では発生数が極めて少ない。

和歌山市、日高川町で発生が確認されている。

傘は径 5~6 cm。黄土色から暗褐色の地に大小の白い斑紋が多数点在し、ヒョウ紋が見られる。ひだは離生し密で、はじめ白色からのちに肉色となる。柄は淡黄色で繊維状、絹状のつやがあり、基部はやや膨らむ。

夏から秋に、広葉樹林の腐朽が進んだ倒木や切り株上、放置されたシイタケのほだ木に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　本郷次雄（監）．1994．きのこ．383pp．山と溪谷社，東京．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　工藤伸一．2017．青森県産きのこ図鑑．535pp．アクセス 21 出版，青森．

写真：菌類専門部会撮影

マントカラカサタケ　*Macrolepiota detersa* Z. W. Ge, Zhu L, Yang & Vellinga　ハラタケ目　ハラタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県内での発生の確認は和歌山市、岩出市の 2 箇所に限られている。雑木林の放置や森林の遷移により生育地が少なくなっている。

傘は径 8~20 cm。はじめ球形～卵型、のちに中高の平らに開く。表面は褐色～灰褐色で傘が開くにしたがって亀裂ができ、著しい鱗片におおわれ、地肌は白色。ひだは白色で密、離生する。柄は長さ 15~30 cm、太さ 1.2~2 cm、中空で基部は著しくふくらみ、表面は横ならびの小鱗片におおわれている。つばは大きくて垂れ下がりマント状である。

夏から秋に、針葉樹や広葉樹の林内、タケ林内の地上または草地に単生あるいは散生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

スジチャダイゴケ　*Cyathus striatus* (Huds.) Willd.　ハラタケ目　ハラタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

発生の確認例が極めて少ない。有機質の多い地上に発生するが、放置された里山林では腐植質の過度の堆積により生育適地が限定されている。

田辺市で発生が確認されている。

子実体は径 5~8 mm、高さ 5~8 mm ほどの倒円錐形で、基部に小短柄のあるコップ形をしている。外皮は褐色から暗褐色の粗毛が密生する。成熟すると頂口が広がり粗毛は脱落し赤褐色から黒褐色となる。内側には上部に 30 本ほどの縦の条溝がある。中にはレンズ型で径 1.5 mm ほどの小塊粒がある。

夏から秋に、有機質の多い地上や朽木に群生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

ヒメヒガサヒトヨタケ　*Parasola plicatilis* (Curtis) Redhead, Vilgalys & Hopple　ハラタケ目　ナヨタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県内では和歌山市と高野町の 2 箇所でしか発生が確認されていない。里山林や公園林の放置などで生育適地が減少している。また発生数も少ない。

傘は径 5~10 mm。はじめは卵形のちほとんど扁平に開く。中央部は肉桂色。ひだは疎ではじめ灰色で、のちに灰黒色。液化はしないが薄い紙のようになる。柄は長さ 4~7 cm、太さ 2mm 以下、白色。春から秋に、芝生、道端に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

カワリコシワツバタケ　*Psilocybe merdaria* (Fr.) Ricken　ハラタケ目　モエギタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

和歌山県内では和歌山市の 1 箇所で発生して以来 30 年程度経過するが、再発見されていない。生育適地の消滅や環境変化が考えられる。

傘は径 2.5~5 cm。円錐状釣鐘形、表面は赤褐色乾けば黄土色で多少粘性がある。ひだは直生で柴褐色～黒色。柄に膜質のつばがあり、上部は白色、下部は黄褐色～赤褐色。つばより下は繊維状のささくれがある。

春から秋に腐木や植物の遺骸、腐葉土などの肥沃な場所から発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．

写真：菌類専門部会撮影

ムレオオフウセンタケ　*Cortinarius praestans* (Cordier) Gillet　ハラタケ目　フウセンタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

発生地であるコナラを交える落葉広葉樹林が常緑樹林へと遷移することにより、生育適地が限られ、本種の発生もそれに伴って減少していく状況にある。

海南市、かつらぎ町で発生が確認されている。

傘は径 7~20 cm。まんじゅう形から平らに開くが、縁部は長く内側に巻いている。色は暗褐色、灰褐色、茶褐色などで周辺部は紫色を帯び、粘性が著しい。ひだは直生または上生し密、ニッケイ色。柄は長さ 10~20 cm、太さ 3~6 cm、白色であるが下半部は淡紫色でほとんど白色の外被膜におおわれる。

秋に、コナラを交える落葉広葉樹林内に群生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

オオワライタケ　*Gymnopilus junonius* (Fr.) P. D. Orton　ハラタケ目　所属科未確定

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内での発生確認は 1 箇所田辺市のみで限定されている。里山の広葉樹林の放置や伐採などにより生育に適した場所が減少している。

傘は径 5~15 cm。半球状～まんじゅう形のちほとんど平らに開き、表面はこがね色～帯褐橙黄色で細かい繊維紋を表す。ひだは直生あるいはわずかに垂生し、はじめ帯黄色、のち明るいさび色となる。柄は長さ 5~15 cm、太さ 0.6~3 cm、根元はやや紡錘形となり、表面は傘より淡色で繊維状、上部に淡黄色膜質のつばがある。

夏から秋に、コナラ、シイなどの広葉樹、まれに針葉樹の生木や枯れ木に多数束生し、ときに大きな株を作る。

有毒種で神経系統を異常に刺激して、中毒患者はしばしば意識が混濁し、幻覚を見ることがあるというが、致命的ではなく正常に回復する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．

ソライロタケ　*Entoloma virescens* (Sacc.) E. Horak ex Courtec.　ハラタケ目　イッポンシメジ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

いずれの発生地においても密度が低く、また里山林の荒廃が進んでいるため、発生数が減少している。

岩出市、和歌山市、海南市において発生が確認されている。

傘は径 2~3.5 cm。はじめ円錐形、のちにまんじゅう形からほぼ平らになる。しばしば中央に乳頭状の突起がある。傘表面には細かい繊維状鱗片あり。ひだは上生からほぼ離生。柄は長さ 4~7 cm、太さ 3~4mm、上部は空色、下部は白から褐色。

全体が空色の美しいキノコで、秋に林内の地上に単生または少数群生する。



執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
写真：菌類専門部会撮影

クギタケ　*Chroogomphus rutilus* (Schaeff.) O. K. Mill.　イグチ目　オウギタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

生育場所であるマツ林の植生遷移により、生育適地が減少している。

田辺市、高野町、有田川町で発生が確認されている。

傘は径 1.5~6.5 cm。はじめ円錐形、のちにまんじゅう形となり、しばしば中央部が尖ったまたは丸みのある山形に突出している。表面は湿時粘性があり、光沢がある。はじめ粘土褐色のち帯赤褐色となる。ひだは垂生し少なく、淡褐色のちに暗赤褐色から黒褐色となる。柄は長さ 3~8 cm、太さ 0.5~2 cm で上下同大または基部が細まる。表面は繊維状、淡黄褐色、淡赤褐色または上部が紫褐色。つばは綿毛状で消失しやすい。

夏から秋に、マツ林内の地上に単生または群生する。



執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報　1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
写真：菌類専門部会撮影

アメリカウラベニイロガワリ　*Boletus subvelutipes* Peck　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

生育場所である雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少傾向にあり、本種の発生数も減少している。

和歌山市、高野町で発生が確認されている。

傘は径 5~14 cm。表面はビロード状、赤褐色から暗褐色。管孔は黄色のち緑黄色。孔口は血のような赤色。どちらも傷つけると、濃い青色に変色する。柄は長さ 5~14 cm、太さ 1~1.5 cm。表面は黄色で、赤色の細かい点がおおう。

選定理由

夏から秋に、広葉樹林内の地上に発生する。
本種は北アメリカ東部にて初めて報告された種で、その後日本でも発生が確認された。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
2　幼菌の会．2001．きのこ図鑑．335pp．家の光協会，東京．

サザナミイグチ　*Boletus subcinnamomeus* Hongo　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

生育場所である雑木林の放置や森林の遷移により生育に適した環境が減少傾向にあり、発生数も減少している。

和歌山市、紀の川市、海南市、広川町で発生が確認されている。

傘は径 7~13 cm。明るい褐色。柄は淡黄色で、表面は無毛平滑またはわずかに細かい粉状。肉は傷つけるとゆるやかに濃黄色になるが青変はしない。

夏から秋に、コナラ・クヌギ林の地上から発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，東京．
2　幼菌の会．2001．きのこ図鑑．335pp．家の光協会，東京．
写真：菌類専門部会撮影

ムラサキヤマドリタケ　*Boletus violaceofuscus* W. F. Chiu　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

近年、本種の生育適地であるシイ・カシ林の伐採などで発生数が減少している。

田辺市、九度山町、日高川町、古座川町で発生が確認されている。

傘は径 5~10 cm。暗紫色を帯び、平滑無毛で湿時多少粘性を帯びる。成熟したものでは黄色、オリーブ色、褐色などの斑紋を生じる。管孔は、はじめ白色、のちに淡黄色から汚黄褐色となる。孔口は小型円形。柄は長さ 7~9 cm、太さ 1~1.5 cm、暗紫色を帯び、全体に白色の網目模様がある。

夏から秋に、シイ・カシ林内またはシイ・カシを交えたマツ林内にしばしば群生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
写真：菌類専門部会撮影

オオヤシャイグチ　*Austroboletus subvirens* (Hongo) Wolfe　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生数が減少している。

田辺市で発生が確認されている。

傘は径 4~9 cm。表面はビロード状、湿れば多少粘性あり、オリーブ緑色、のちに黄土色。しばしば亀甲状にひび割れる。管孔は白色、後に赤みを帯びた紫褐色。柄は淡黄色の地にオリーブ緑色の網目がある。

夏から秋に、主にシイ・カシ林内の地上に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

セイタカイグチ　*Aureoboletus russellii* (Frost) G. Wu & Zhu L. Yang　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生数が減少している。

かつらぎ町で発生が確認されている。

傘は径 4~10 cm。表面は湿れば粘性あり、うすい茶色から淡黄土色。管孔は淡黄色のちオリーブ褐色。柄は長さ 8~16 cm、太さ 1~2cm、赤茶色の地に淡色から白色の大きい網目状の隆起があり、粘性がある。

夏から秋に、コナラなどの樹下に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ヌメリアシナガイグチ　*Aureoboletus longicollis* (Ces.) N. K. Zeng & Ming Zhang　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）



選定理由

和歌山県内で 2017 年に田辺市で初めて確認された。発育適地はシイ林内と推定される

傘は径 3~9 cm。半球形からまんじゅう形、色は赤褐色で多くのしわがある。管孔は上生から湾生し、淡黄色のち暗オリーブ色、孔口も同色。柄は長さ 9~23 cm、太さ 6~12 mm、色は傘より淡色で縦条があり、柄の上部には白色の粘性膜質のつばがある。傘と柄は粘液におおわれている。

夏から秋に、シイ林内の地上にまれに発生する。

本種はアキノアシナガイグチの和名で呼ばれていたが、別種であることが判明し、和名が変更された。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ヤシャイグチ　*Austroboletus fusisporus* (Kawam. ex Imazeki & Hongo) Wolfe.　イグチ目　イグチ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

発生地が限られ発生量も極めて少ない。更に、生育適地のシイ・カシ林が伐採などで減少している。

和歌山市、海南市で発生が確認されている。

傘は径 2.5~4 cm。まんじゅう形で時に中央部がやや突出する。表面に粘性があり、色は黄褐色からニッケイ色で多少鱗片状。管孔は白色のちに紅紫褐色。柄は細長く表面は白色から淡黄褐色で、褐色の細長く粗い網目がある。

夏から秋に、シイ・カシ林内の地上に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

トガサワラショウロ　*Rhizopogon togasawariana* A. B. Mujic, K. Hosaka & J. W. Spatafora　イグチ目　ショウロ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

日本固有種のマツ科のトガサワラと共生していると推察されるが、トガサワラ自体が少なく、生育密度も低い。

田辺市で発生が確認されている。

子実体は径 1.5 cm 程度で、表面は汚れた白色から灰褐色で、傷つけると赤く変色する。外皮は平滑だが、根状菌糸束をまとうことがある。梅雨時、トガサワラ樹下に発生する。

三重県と和歌山県で発見されている。2014 年に新種記載され、和歌山県では 2017 年に発見されている。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　折原貴道．2019．トガサワラショウロ *Rhizopogon togasawariana* の和歌山県における初記録．Truffology, 2 (1)：18-19.

ルリハツタケ　*Lactarius subindigo* Verbeken & E. Horak　ベニタケ目　ベニタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



シイ、コナラ、マツなどの林内の地上に発生するが、発生密度は低い。また、発生場所が 2、3 年で消滅してしまう傾向がみられる。

岩出市、和歌山市、海南市、紀美野町で発生が確認されている。

傘は径 5~10 cm。表面は藍青色、濃色の環紋がある。ひだはやや密で藍青色、傷がつくと緑色に変化する。柄は傘とほぼ同色、濃色の浅いあばたがみられる。

夏から秋に、マツやブナ科などの林内に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
写真：菌類専門部会撮影

カゴタケ　*Ileodictyon gracile* Berk.　スッポンタケ目　アカカゴタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生数が減少している。

岩出市で発生が確認されている。

幼菌は径 2~4 cm。球形から扁球形、白色から淡い灰褐色。成熟すると裂開して白色の托枝が膨張し、広がると径 3~12 cm の中空丸かご形になる。カゴ目は類球形から多角形で腕の内側に粘液状で暗緑褐色のグレバが付き、甘い匂いを放つ。

梅雨時から晩秋に、広葉樹または針葉樹の林地地上に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
2　幼菌の会．2001．きのこ図鑑．334pp．家の光協会，東京．

写真：菌類専門部会撮影

アカイカタケ　*Aseroe rubra* Labill.　スッポンタケ目　アカカゴタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内での発生確認は現在のところ紀の川市、有田川町の 2 箇所である。全国的に発生確認が極めて少ない。

各種林内地上に発生する。幼菌は径 1.5~2.5 cm。球状～卵形、熟すと高さ 10 cm 程の柄を伸ばし、赤紅色の腕を 14~24 本伸ばす。腕はやがて放射状に広がり先細のひも状となる。グレバは柄の上部の皿状部に生じ、黒褐色粘液となり、強烈な悪臭を放つ。

夏から秋に、林内やタケ林、もみ殻上などに発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

イカタケ　*Lysurus arachnoideus* (E. Fisch.) Trierv.-Per. & K. Hosaka　スッポンタケ目　アカカゴタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内での発生確認は有田川町の 1 箇所で発生地が局限されている。

幼菌は径 1~1.5 cm。球形で白色。裂開して中から白い腕を 6~16 本直立に伸ばして、やがて放射状水平に広がる。その基部に粘液状で黒褐色のグレバがあり、強い腐肉臭を放つ。

初夏と秋の間に二度、わら、おがくずなどに群生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

ヒメスッポンタケ　*Phallus tenuis* (E. Fisch.) Kuntze　スッポンタケ目　スッポンタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内での発生確認は田辺市の 1 箇所で局限されている。

幼菌は径 1.5~2 cm。卵型で白色。熟すと裂開して柄を伸ばし、高さ 7~10 cm。傘は長釣鐘形。鮮黄色で表面に網目状隆起、暗緑色の粘液化したグレバをつけ悪臭を放つ。頂孔は中空の柄に連なり、孔縁はドーナツ形、白色～黄色。柄は円筒形で中空、径 4~5 mm で鮮黄色を呈する。

夏から秋に、林内の腐朽材に群生する。



執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　本郷次雄・伊沢正名．1994．山溪フィールドブックス きのこ．383pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ミミブサタケ　*Wynnea gigantea* Berk. & M. A. Curtis　チャワンタケ目　ベニチャワンタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

極めてまれにしか発生を確認できない。発生環境が様々で、発生適地の条件が不明。

紀の川市、岩出市、田辺市、有田川町において発生が確認されている。

子実体は高さ 5~7 cm。共通の茎から生じる 10~20 個のうさぎの耳状の子嚢盤よりなる。茎は短円柱形で高さ 1~1.5 cm、太さ 1~1.5 cm。下部は幾分細まり数本に枝分かれしてそれぞれの末端は塊状の菌核に連なる。子嚢盤は高さ 3~6 cm、幅 1~2 cm で、鹿革色から琥珀色、のちに暗色となる。

春から秋に、林内の地上に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1989．原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．315pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

アミガサタケ　*Morchella esculenta* (L.) Pers.　チャワンタケ目　アミガサタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。更に、里山林の伐採や手入れ放棄により発生適地が減少している。

紀美野町で発生が確認されている。

子実体の高さ 5~12 cm。頭部は卵形から卵状円錐形で、灰褐色。表面には淡色の肋状の脈が多角形や不定形の網目を形成する。柄は円筒形で、白色から淡黄色。



春に、林内地上あるいは路傍に発生。

和歌山県内では、近縁種のトガリアミガサタケが多く見られ、本種の発生は少ない。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ウツロイモタケ　*Hydnocystis japonica* (Kobayasi) Trappe　チャワンタケ目　ピロネマキン科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



全国的にみても発生が少なく、和歌山県内でも発生確認は和歌山市の 1 箇所のみで生育地が局限されている。本種は腐生菌と推察されており、腐植物の分解が終了すると消滅すると考えられる。

子実体は径 1~1.5 cm。多少歪みのある偏球形の塊状で、淡黄褐色～肌色を呈す。皮状構造物におおわれ、異臭がある。内部は空洞。子実体層は汚白色で粉毛状。

秋から冬に、スギ林の林縁のやや裸地化した雑草地に散生する。半地下生でキノコの一部が地上に露出している。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・本郷次雄．1987．原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）．325pp．保育社，大阪．
2　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
3　佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀．2016．地下生菌識別図鑑．143pp．誠文堂新光社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

クルミタケ　*Hydnotrya tulasnei* (Berk.) Berk. & Broome　チャワンタケ目　フクロシトネタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

発生場所が少なく、かつ発生密度も低く、広葉樹の伐採により発生数が減少している。1997 年に紀の川市で確認して以来、再確認はされていない。

子嚢果は径 3 cm まで。塊状、表面は赤褐色、外皮がやや粉状。内部は迷路状になって隙間があり、その表面に子実層がある。

春から夏に、広葉樹の樹下に発生する。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．
2　佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀．2016．地下生菌識別図鑑．143pp．誠文堂新光社，東京．

カエンタケ　*Trichoderma cornu-damae* (Pat.) Z. X. Zhu & W. Y. Zhuang　イボタケ目　ボタンタケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



発生場所が少なく、かつ発生密度も低い。ナラ枯れ被害木の周辺で発生しやすいと言われている。

岩出市、和歌山市、田辺市で発生が確認されている。

子座は高さ 3~8 cm。円筒形に枝分かれして、ときに手の指のようになる。先端が丸いか尖る。朱色や橙色を帯びた赤色など。肉は白色。

主に夏、林内地上、特に森林のギャップによく発生する。

猛毒キノコであり、手で触れることも危険であり、注意喚起が必要である。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　今関六也・大谷吉雄・本郷次雄．2011．増補改訂版 日本のきのこ．639pp．山と溪谷社，東京．

写真：菌類専門部会撮影

ミナカタホコリ　*Minakatella longifila* G. Lister　コホコリ目　所属科未確定

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

和歌山県内では、南方熊楠が発見して以来、誰も見つけていない。全国的にも発見例が非常に少ない。子実体の高さ 2 mm 程度までと非常に小さい上に、発生密度がかなり低いため、発見されにくいことが考えられる。

田辺市で発生が確認されている。

子実体は単子嚢体型で密生し、しばしば累積するか擬着合子嚢体型になる。直径 2 mm 程度まで。ふつう柄がない。子嚢は直径 0.5 mm まで。子嚢壁は膜質で光沢がある。

夏から秋に、生木の樹皮に発生する。

1916 年に、南方熊楠が自宅庭の柿の樹皮上に本種をはじめて発見し、学名に献名された。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　山本幸憲．2021．日本変形菌誌．1135pp．日本変形菌誌製作委員会，つくばみらい．

アオウツボホコリ　*Arcyria glauca* Lister ex G. Lister　ケホコリ目　ケホコリ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

本種は発生頻度が低い上に、発生密度も低い。また、主に広葉樹の朽ち木に発生するが、県内では、スギ、ヒノキによる人工林化が進み、広葉樹が数多く伐採された。こうした要因で本種の発生が減少してきたものと思われる。



和歌山市、岩出市、紀の川市、田辺市、那智勝浦町で発生が確認されている。

子実体は単子嚢体型で群生または密生する。細毛体が伸びて高さ 6 mm までで、直径 1 mm まで。淡い青緑色で美しいが、退色して緑褐色や暗褐色になる。子嚢壁の上部は早くなくなり、下部のみ杯状体として残る。柄は淡緑色や灰褐色で、高さ 0.5 mm まで。

春から秋、特に夏に、主に広葉樹の朽ち木に発生する。

南方熊楠が、1906 年に田辺市で初めて発見した。

執筆者（菌類専門部会）

参考文献・情報

1　山本幸憲．2021．日本変形菌誌．1135pp．日本変形菌誌製作委員会，つくばみらい．

写真：菌類専門部会撮影

Red Data Book of Wakayama Prefecture

10

植物（維管束植物及び蘚苔類）

植物（維管束植物及び蘚苔類）の概要

植物・植物群落専門部会

紀伊半島西部に位置する和歌山県は、植物の生育に適した気候に恵まれ、紀北地域の沿岸域は瀬戸内気候区に、紀南地域は南海気候区に属する。黒潮の影響を直接受ける沿岸域では、亜熱帯性の植物も生育している。一方、標高 1,000 m 前後の山々が連なる紀伊山地では、冷温帯性の植物がみられ、場所によっては日本海要素の植物もみられる。これら分布域の異なる植物の分布限界が重なるとともに、遺存的な固有種が残された結果、複雑で多様な植物相が成立している。この概要では、主に植物の生育環境に注目してその特徴と現状について解説する。

（1）森林

和歌山県の森林は古くから人の利用に供されてきたことから、森林の多くが自然植生から代償植生や人工林に置き換わっている。自然植生は、島嶼や社寺林、植林不適地等、限られた場所にわずかに残されるばかりで、これらの貴重な森林は自然公園等の制度により保護下にあるものが多い。

自然植生のうち、海岸林や沿岸域の林内には亜熱帯に分布する植物もみられる。特筆すべきものとして、シダ植物にはオオタニワタリ、クサマルハチがある。木本植物では、ヒロハコンロンカ、ハマセンダン等があり、林縁部にはハカマカズラ等のつる植物が生育する。これらの植物は分布の限界にあたることから自生地が天然記念物指定を受けている場所もある。高標高域に成立するブナ林は本州南限域に位置することからアサノハカエデなど本州南限となる植物も生育する。極相に達した森林においては、樹幹がキクシノブやヤシャビシャクといった着生植物の生育場所となっているが、それらの多くが園芸目的の採取等の影響で絶滅の危機に瀕している。蘚類では、高標高域や稜線沿いのブナ等の樹幹にオオミツヤゴケが着生し、地上にはウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）等の希少種が生育している。

代償植生にはコナラ、アカマツ等の二次林や人の手によって維持されてきた草地等がある。これらはヒメノボタン等草原性植物の貴重な生育地であるが、管理放棄や盗掘等により絶滅寸前のものもある。スギの人工林であっても適切に管理された林分では野生植物の生育に適した環境が保たれており、特に高野山周辺ではオチフジやサクラソウといった植物が既に絶滅とされる一方、コウヤハンショウヅルやコウヤハリスゲなど林内に残存する植物が数多く存在する。全国的には希少とされている蘚類のコモチイチイゴケは、スギ植林内の倒木や切り株以外では生育がみられないが、紀南では比較的普通に分布している。海岸近くの人工林においてはリュウビンタイやヘゴ等といった大形のシダ植物の生育も報告されている。

（2）岩角地・特殊岩石地

隆起と浸食を続ける紀伊山地においては、峡谷や渓谷に面した岩崖、巨岩が露出した岩角地といった独特な地形がみられる。これらの岩上・岩隙のうち、水分条件に恵まれた湿崖や凹地にはソハヤキミズ、キイイトラッキョウ、ウナズキギボウシ、シチョウゲ等の植物が生育し、岩棚等には蘚類のコバノホソベリミズゴケが群落をつくり、キイジョウロウホトトギスやクルマギクなど下垂した茎葉をもつ植物がみられる。特に、紀南地域では、高湿度の渓流沿いの樹枝や灌木からは、下垂性のキヨスミイトゴケ、トサノタスキゴケやヒロハシノブイトゴケなどを含むハイヒモゴケ科の蘚類が独特の景観をつくり、生葉上にはカビゴケを始めとするヨウジョウゴケ、希少なナガバムシトリゴケなど微小なクサリゴケ科の苔類が多く着生している。さらに樹幹や灌木にも希少種である蘚類のキジノオゴケやハシボソゴケに加えて、ツノゴケ類

のキノボリツノゴケなどが生育している。増水時に冠水するような渓流沿いには、ホソバノギク、ドロノシモツケ等、水流に対する適応として葉が狭葉化した特殊な生育型を持つものも現れる。このような場所には、蘚類のカワブチゴケがサツキ等の枝等に強く着生している。

県内には蛇紋岩や石灰岩といった特殊岩石地も点在している。これらの地域では植物の生育基盤となる土壌が乏しく森林が発達しないことから草地や疎林が保たれ、ツゲやイワシモツケ（キイシモツケ）といった低木とともに多様な草本植物が生育している。

なお、*Spiraea nipponica* Maxim.（イワシモツケ）は、従来３変種からなる種と考えられてきた。しかし、最近の DNA を用いた系統解析から、変種イワシモツケと変種キイシモツケは、識別できないことが明らかになり、キイシモツケの和名は母変種（基準変種）であるイワシモツケになった。

(3) 湿地

平野部の少ない和歌山県においては古くから谷間や斜面を利用した水田で稲作が行われ、灌漑用のため池や水路が数多く残っている。草地や水辺環境が良好な状態で保たれた場所では、シマヒメタデ、ヒメシロアサザ等の多様な生育型をもった水草や草本植物が生育しているが、近年は管理放棄による環境の変化が著しい。放棄された水田でも、水の供給や日当たりが十分な場所では希少種のヤリノホゴケやササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）等の蘚類が生育するところもみられる。

沿岸域には海跡湖、潟湖由来の池沼があり、友ヶ島の深蛇池（和歌山市）にはオオクグ、テツホシダ、サンショウモといった希少種がみられることから県の天然記念物指定を受けているが、近年は生育が確認されていないものもある。

(4) 海岸

河口部の塩性湿地では、ヨシ群落とともにウラギク、フクド、ハマサジ、ハママツナ、シバナといった塩分耐性をもった草本植物がみられる。陸域との間にはハマボウやハマナツメ等の木本植物が生育するほか、湾奥の干潟にはコアマモが生育する。これらの塩性湿地は住環境に隣接することから地域住民等に認識されないまま開発によって絶滅の危機にさらされる懸念がある。

本事業においては、和歌山県内に自生する植物（維管束植物、蘚苔類）を対象に標本及び文献調査を実施し、一覧を掲載した。分類群毎の内訳としては、蘚類が 77 種、苔類が 74 種、ツノゴケ類が 1 種、維管束植物が 595 種である。蘚苔類の内訳としては、絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）39 種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）37 種、準絶滅危惧（NT）50 種、情報不足（DD）26 種である。維管束植物の内訳としては、絶滅（EX）22 種、絶滅危惧ⅠA類（CR）151 種、絶滅危惧ⅠB類（EN）207 種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）116 種、準絶滅危惧（NT）85 種、情報不足（DD）14 種である。

植物相の全体像を一元的にまとめた文献は未刊であるものの、蘚苔類においては、まとまった資料として、蘚類では太田耕二郎が本県を中心に採集した標本から発表された報文（1970～1980 年代）がいくつかあり、苔類では児玉努が近畿地方の苔類を中心として精力的に活動され、本県も訪れて、大阪市立自然史博物館の収蔵目録として発表されたものなど（1960～1970 年代）がある。近年では、土永浩史によって、継続的に調査と記録が行われてきた。維管束植物では、和歌山県立自然博物館を中心に継続的な調査が行われており、証拠標本の確認が終了したものから報文がまとめられている（2019～2021 年）。これらのうち、特に本県の植物相を特徴づける種について解説を加えた。

植物（維管束植物）の掲載種

●絶滅（EX）

ヒモヅル※
ヤマソテツ
エビガラシダ
ミヤマワラビ
ミヤマメシダ
シラネワラビ
ギボウシラン
ミズアオイ
ムギガラガヤツリ
ヒキノカサ
ヒメノハギ
ヒナノカンザシ
ナガバイラクサ
サクラソウ※
スナビキソウ
ムラサキ
オオアブノメ
ウンラン
ナンゴククガイソウ
オチフジ※
フサタヌキモ
オナモミ

●絶滅危惧ⅠA類（CR）

ヒモラン
ナガホノナツノハナワラビ
トネハナヤスリ
チャボハナヤスリ
リュウキュウコケシノブ
デンジソウ
ヘゴ※
サイゴクホングウシダ
セイタカイワヒメワラビ
タキミシダ
ヒメウラジロ
オオタニワタリ
カミガモシダ
オクタマシダ
ホソバショリマ
オオカグマ
ヒメホウビシダ
シマイヌワラビ
ウスゲミヤマシケシダ
ミドリワラビ
ヒロハノコギリシダ
ニセヒロハノコギリシダ
シマシロヤマシダ
シノブカグマ
オシダ
マルバヌカイタチシダモドキ
クラガリシダ
ヒロハヒメウラボシ
ヤクシマウラボシ
オニバス※
オグラコウホネ
キビヒトリシズカ
ホロテンナンショウ
ユキモチソウ
コバノヒルムシロ
カワツルモ
シロシャクジョウ
エンレイソウ
キバナノアマナ
ヒメユリ
タキユリ※
キリシマエビネ
キエビネ

サルメンエビネ
アキザキナギラン
カンラン
マヤラン
ナギラン
イチヨウラン
ユウコクラン
カシノキラン
マツラン
モミラン
クロヤツシロラン
サギソウ
ヒナチドリ
ムカゴソウ
キイムヨウラン
ウスギムヨウラン
クロムヨウラン
アワムヨウラン
エンシュウムヨウラン
ボウラン
ニラバラン
ムカゴサイシン
ガンゼキラン
ムカデラン
ムカゴトンボ
イイヌマムカゴ
ツレサギソウ
ナガバノキソチドリ
トキソウ
ヤクシマアカシュスラン※
ナゴラン
コオロギラン
キバナノショウキラン
カゲロウラン
ヒメニラ
タマムラサキ
オヒガンギボウシ
マイヅルソウ
イセウキヤガラ
ベンケイヤワラスゲ
アワボスゲ
コハリスゲ
コウヤハリスゲ※
センダイスゲ
ヤガミスゲ
カタスゲ
ミコシガヤ
ヒメスゲ
オオクグ
カガシラ
ミスミイ
ミクリガヤ
ツクシカンガレイ
ミチシバ
ハイキビ※
ヤチマタイカリソウ
コウライブシ
エンコウソウ
カザグルマ
オキナグサ
センダイソウ
アオベンケイ
ミズキカシグサ
ヒメビシ
ヒメノボタン※
ハマビシ
フジキ
レンリソウ
ズミ
ヨコグラノキ
ハマナツメ
ソハヤキミズ※

ツルマオ
ヒトツバハギ
ナガバノスミレサイシン
アサノハカエデ※
カジカエデ
メグスリノキ
タチバナ※
シナノキ
ヤナギヌカボ
サデクサ
マダイオウ
ヒメハマナデシコ
イソフサギ※
シマユキカズラ※
ヒコサンヒメシャラ
ヒメナエ
サワルリソウ
マルバハダカホオズキ
シシンラン
イワギリソウ
ホソバヒメトラノオ※
ゴマノハグサ
ヒメハッカ
コナミキ
オオママコナ
アサザ
フクド
ホソバニガナ
マルバダケブキ
ヒメコウモリソウ
アキノハハコグサ
イワツクバネウツギ
ミシマサイコ
ボタンボウフウ
キイウマノミツバ※
カノツメソウ

●絶滅危惧ⅠB類（EN）

スギラン
ナンカクラン
アカハナワラビ（ウスイハナワラビ）
リュウビンタイ※
シロヤマゼンマイ
ヤマドリゼンマイ
ツルホラゴケ
オオハイホラゴケ
オオアカウキクサ
アカウキクサ
サンショウモ
クサマルハチ
シンエダウチホングウシダ
ユノミネシダ※
ナカミシシラン
ハチジョウシダ
クモノスシダ
コタニワタリ
トキワシダ
ヤクシマホウビシダ
イワヤシダ
オオハシゴシダ
アミシダ
テツホシダ※
ミゾシダモドキ
オキナワコクモウクジャク
ヒュウガシダ
オトコシダ
イズヤブソテツ
メヤブソテツ
ヒメオニヤブソテツ
ツクシヤブソテツ
ムラサキベニシダ
アツギノヌカイタチシダマガイ
ヒロハアツイタ

アツイタ
オリヅルシダ
キクシノブ※
オオクボシダ
カラクサシダ
オシャグジデンダ
イワオモダカ
スエヒロアオイ
コウヤカンアオイ※
ハナゼキショウ
アギナシ
マルミスブタ
オオウミヒルモ
ヤマトウミヒルモ
トチカガミ
イトトリゲモ
コアマモ
リュウノヒゲモ※
ホンゴウソウ
ウエマツソウ
チャボシライトソウ
ミヤマエンレイソウ
バイケイソウ
キバナチゴユリ※
サルマメ
エビネ
ギンラン
クマガイソウ
セッコク
タシロラン
オサラン
ハルザキヤツシロラン※
ベニシュスラン
アケボノシュスラン
ツリシュスラン
ダイサギソウ
ヒナラン
ウチョウラン
イワチドリ
ムヨウラン
コフタバラン
ヒメフタバラン
アオフタバラン
ヨウラクラン
コケイラン
ヤマサギソウ
オオヤマサギソウ
ヤマトキソウ
ヒトツボクロ
キンバイザサ
コキンバイザサ
ヒメシャガ
ユウスゲ
キイイトラッキョウ※
ハマオモト
オオミクリ
ヤマトミクリ※
ヒメミクリ
ツクシクロイヌノヒゲ
ミヤマジュズスゲ
ゲンカイモエギスゲ
サツマスゲ
ジングウスゲ
ツクシナルコ
オオシロガヤツリ
セイタカハリイ
オオヌマハリイ
タイワンヒデリコ
ナガボテンツキ
ヤリテンツキ
ヒメカンガレイ
シズイ

コマツカサススキ
マツカサススキ
コウボウ
コゴメカゼクサ
タイワンカモノハシ
ヒロハノハネガヤ
ムカゴツヅリ
オニシバ
ルイヨウボタン
シコクフクジュソウ
ニリンソウ
コウヤハンショウヅル※
コウヤシロカネソウ※
ツルシロカネソウ
ミスミソウ
ヤマシャクヤク
ヤシャビシャク
ヤブサンザシ
ミツバベンケイソウ
オグラノフサモ
サイカチ
シマエンジュ
ハカマカズラ※
ハスノハイチゴ
イブキシモツケ
アリマグミ
カツラギグミ
クロカンバ
ハルニレ
コバノチョウセンエノキ
ハドノキ※
オオカラスウリ
マツバニンジン
アゼオトギリ
ホソバシロスミレ※
シコクスミレ
カワチスズシロソウ
ミツバコンロンソウ
ユリワサビ
キガンピ
ツチトリモチ
ミヤマツチトリモチ
ヌカボタデ
シマヒメタデ※
イシモチソウ
モウセンゴケ
ワチガイソウ
ウシオツメクサ
ハママツナ
クリンソウ
イワナシ
シャクジョウソウ
レンゲツツジ
ヤマトグサ
チョウジソウ
チョウジカズラ
クサナギオゴケ
ノアサガオ※
アオホオズキ
マルバノサワトウガラシ
ハマクワガタ
キノクニスズカケ※
ジュウニヒトエ
ツルカコソウ（ケブカツルカコソウ）
ニシキゴロモ
トサムラサキ
シモバシラ
ヒメシロネ
ヤマジソ
トラノオジソ
ヒメナミキ
ヤマタツナミソウ

スズメノハコベ
ゴマクサ
ハマウツボ
キヨスミウツボ
ヒキヨモギ
ノタヌキモ
ホザキノミミカキグサ
ミカワタヌキモ（イトタヌキモ）
イワダレソウ
ツルギキョウ
ヒメシロアサザ※
ヒロハテイショウソウ
ホソバノギク※
クルマギク※
オケラ
モリアザミ
ヨツバヒヨドリ
オグルマ
ノニガナ
ハマニガナ
ミヤコアザミ
ヒメヒゴタイ
キクアザミ
ハバヤマボクチ
オオハマグルマ※
キンレイカ
マツムシソウ
ミヤマウコギ

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

マツバラン
スジヒトツバ
ホングウシダ
ヒメミズワラビ
アイコハチジョウシダ
ヤワラハチジョウシダ
コウヤワラビ
オオバミヤマノコギリシダ
ミドリカナワラビ
ナガサキシダ
ヌカボシクリハラン
トガサワラ※
ナンゴクウラシマソウ※
スブタ
シバナ
ヒナノシャクジョウ
マルバサンキライ
キイジョウロウホトトギス※
シラン
マメヅタラン
ムギラン
ミヤマムギラン
ナツエビネ
キンラン
アキザキヤツシロラン
オニノヤガラ
ミズトンボ
フウラン
カヤラン
キツネノカミソリ
スダレギボウシ
アオノクマタケラン※
クロホシクサ
イヌクログワイ（シログワイ）
トラノハナヒゲ
シンジュガヤ
カリマタガヤ
イトスズメガヤ
タキキビ
モロコシガヤ
カワチブシ
ルイヨウショウマ

ユキワリイチゲ
ヤマオダマキ
ツゲ※
コウヤミズキ
マンサク
キイハナネコノメ
キシュウネコノメ
コガネネコノメソウ
ツメレンゲ
タコノアシ
オニビシ
ミヤマトベラ
イヌハギ
カワラサイコ
テリハキンバイ
コウヤグミ
クロウメモドキ
ケグワ
ミヤコミズ
ウメバチソウ
ミズタガラシ
オオバヤドリギ
ハマサジ
ナンバンハコベ
ミヤマハコベ
ギンバイソウ
カラタチバナ
ルリハコベ
モロコシソウ
ナツツバキ
ハイノキ
ヒメイワカガミ
ハクウンボク
シマサルナシ※
ホツツジ
キヌタソウ
アイナエ
ヒロハコンロンカ
サツマイナモリ
シラタマカズラ※
オオキヌタソウ
ムラサキセンブリ
イヌセンブリ
フナバラソウ
ヤマホオズキ
メジロホオズキ
シオジ
シソクサ
クワガタソウ（コクワガタ）
オオヒナノウスツボ
カワミドリ
タニジャコウソウ
ジャコウソウ
マネキグサ
ラショウモンカズラ
スズコウジュ
ミゾコウジュ
ミヤマナミキ
オオナンバンギセル
シオガマギク
ミミカキグサ
キキョウ
ガガブタ
ミヤマヨメナ
カセンソウ
タカサゴソウ
タムラソウ
クマノギク※
サワオグルマ
ウラギク
ナベナ
カワゼンゴ※

カワラボウフウ
ムカゴニンジン

●準絶滅危惧（NT）

ミズニラ
オワセベニシダ
ホオノカワシダ
アオネカズラ
イブキ
コウホネ
サイコクヒメコウホネ
ヒツジグサ
ヒトリシズカ
ヤナギスブタ
トリゲモ
ミズオオバコ
セキショウモ
イトモ
ササバモ
ヤマカシュウ
チャボホトトギス
カキラン
ヤクシマヒメアリドオシラン
キキョウラン※
ハマカンゾウ
ウナズキギボウシ※
ノシラン
オオバジャノヒゲ
ナガエミクリ
キノクニスゲ（キシュウスゲ）※
キシュウナキリスゲ※
ヒメコヌカグサ
ミギワトダシバ
ウンヌケモドキ
トウササクサ
ウキシバ
ビロードキビ
タカネハンショウヅル
キイセンニンソウ
シロバナハンショウヅル
トウゴクサバノオ
カツラ
タチモ
フサモ
ウドカズラ
ミズマツバ
ユクノキ
タヌキマメ
マキエハギ
ハチジョウイチゴ
コバナノワレモコウ
ドロノシモツケ※
イワシモツケ（キイシモツケ）
アコウ※
ハマセンダン
ハマボウ※
コショウノキ
サイコクヌカボ
コモウセンゴケ
ハガクレツリフネ
ミヤマコナスビ
アケボノツツジ
シチョウゲ※
クルマバアカネ
イケマ
キジョラン
タチカモメヅル
スズサイコ
マルバチシャノキ
ハシリドコロ
カワヂシャ
シソバウリクサ

オウギカズラ
ミズネコノオ
シソバタツナミ（ホナガタツナミソウ、イガタツナミ）
オオヒキヨモギ
クマツヅラ
ツゲモチ※
ホソバノヤマハハコ
キノクニシオギク（キイシオギク）※
イズハハコ
スイラン
ドロニガナ※
テバコモミジガサ
カシワバハグマ
タイキンギク
ウスバヒョウタンボク
オミナエシ
ノダケ

●情報不足（DD）

サンカクホングウシダ
ケホシダ
トゲカラクサイヌワラビ
ヌカイタチシダマガイ
キナンカンアオイ
サガミトリゲモ（ヒロハトリゲモ）
イセアオスゲ
ヨコグラブドウ
ヤマナシ
ミヤコオトギリ
ヤマヒヨドリバナ
イヌノフグリ
タニウツギ
アシタバ

植物（維管束植物）の一覧表の凡例

1. **学名については、主に以下のデータベースを参照した。**
米倉浩司・梶田忠（2003-）「BG Plants 和名－学名インデックス」（YList）
http://ylist.info（2021 年 12 月 16 日参照）

2. **和名の後に※印を示した種については「主な植物の解説」に詳細を掲載した。**

3. **カテゴリー（評価区分）については以下の通りである。**
和歌山県（2022）：和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版のカテゴリー
和歌山県（2012）：和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版のカテゴリー
国（2020）：環境省レッドリスト 2020 のカテゴリー
EX：絶滅または野生絶滅　　CR：絶滅危惧ⅠA類
EN：絶滅危惧ⅠB類　　VU：絶滅危惧Ⅱ類
NT：準絶滅危惧　　DD：情報不足

4. **選定理由については以下の通りである。**
環境悪化：人為による直接的な環境破壊（森林伐採、開発工事、水質汚濁等）により生育環境が著しく悪化しているもの。
採取伐採：人為による選択的な採取・伐採（園芸、薬用等）により個体数の減少が著しいもの。
特殊環境：草地、湿地、塩性湿地、海崖、海浜、岩上・岩隙地（特殊岩石地、湿崖）等の特殊な生育環境で、環境変化の影響を受けやすいもの。
特殊生態：菌従属栄養植物、寄生植物等、周囲の自然環境に依存性の高い生活史を持つ生態のため、環境変化の影響を受けやすいもの。
特殊分布：和歌山県内の自生地が隔離分布（個体の移動や遺伝子の交流が不可能なほど複数の地域に分かれた不連続的な分布域をいう）や、分布の限界（東限、南限、北限等）になっているもの。
●：隔離分布　　○：分布の限界
固 有 性：和歌山県、紀伊半島に限定的に分布するもの。
●：和歌山県固有　　○：紀伊半島固有
希 少 性：自生地における個体数が極めて少ないもの。

5. **生育環境、国内分布、県内分布について示した。なお、紀北地域と紀南地域の地理的区分は白馬山脈を境界とした。**
紀北：和歌山市、海南市、橋本市、有田市、紀の川市、岩出市、海草郡、伊都郡、有田郡
紀南：御坊市、田辺市、新宮市、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ヒカゲノカズラ	ナンカクラン	*Huperzia fordii* (Baker) Dixit	EN	EN		○	○					○	岩上・樹上着生	本州・伊豆諸島・小笠原・四国・九州・琉球		○
ヒカゲノカズラ	ヒモヅル※	*Lycopodium casuarinoides* Spring	EX	EX	VU	○	○			○		○	樹上着生	本州（近畿地方以西）・九州・屋久島	○	
ヒカゲノカズラ	スギラン	*Lycopodium cryptomerina* (Maxim.) Dixit	EN	EN	VU	○	○					○	岩上・樹上着生	北海道・本州・四国・九州	○	○
ヒカゲノカズラ	ヒモラン	*Lycopodium sieboldii* (Miq.) Holub var. *sieboldii*	CR	CR	EN	○	○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ミズニラ	ミズニラ	*Isoetes japonica* A. Braun	NT	NT	NT	○		○				○	池沼	本州・四国	○	○
ハナヤスリ	アカハナワラビ（ウスイハナワラビ）	*Botrychium nipponicum* Makino	EN	EN		○	○					○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ハナヤスリ	ナガホノナツノハナワラビ	*Botrychium strictum* Underw.	CR	CR		○	○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ハナヤスリ	トネハナヤスリ	*Ophioglossum namegatae* M. Nishida & Kurita	CR	CR	VU							○	草地	本州	○	
ハナヤスリ	チャボハナヤスリ	*Ophioglossum parvum* M. Nishida & Kurita	CR	DD	VU	○						○	草地	本州・九州		○
マツバラン	マツバラン	*Psilotum nudum* (L.) P. Beauv.	VU	VU	NT	○	○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・小笠原・琉球	○	○
リュウビンタイ	リュウビンタイ※	*Angiopteris lygodiifolia* Rosenst.	EN	EN		○	○					○	林内	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
ゼンマイ	シロヤマゼンマイ	*Osmunda banksiifolia* (C. Presl) Kuhn	EN	EN		○	○					○	林内	本州・四国・九州・小笠原・琉球		○
ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	*Osmundastrum cinnamomeum* (L.) C. Presl var. *fokiense* (Copel.) Tagawa	EN	EN		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州・屋久島	○	○
コケシノブ	リュウキュウコケシノブ	*Hymenophyllum riukiuense* H. Christ	CR	CR		○	○			○		○	岩上・樹上着生	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球		○
コケシノブ	ツルホラゴケ	*Vandenboschia auriculata* (Blume) Copel.	EN	EN		○	○					○	岩上・樹上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
コケシノブ	オオハイホラゴケ	*Vandenboschia striata* (D. Don) Ebihara	EN	EN			○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球	○	○
ヤブレガサウラボシ	スジヒトツバ	*Cheiropleuria integrifolia* (D. C. Eaton ex Hook.) M. Kato, Y. Yatabe, Sahashi & N. Murak.	VU	VU		○	○					○	岩上着生	本州・四国・九州・琉球		○
デンジソウ	デンジソウ	*Marsilea quadrifolia* L.	CR	CR	VU	○		○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
サンショウモ	アカウキクサ	*Azolla imbricata* R. Br. ssp. *asiatica* R. M. K. Saunders & K. Fowler	EN	EN	EN	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
サンショウモ	オオアカウキクサ	*Azolla japonica* (Franch. & Sav.) Franch. & Sav. ex Nakai	EN	EN	EN	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州	○	○
サンショウモ	サンショウモ	*Salvinia natans* (L.) All.	EN	EN	VU	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州	○	○
キジノオシダ	ヤマソテツ	*Plagiogyria matsumureana* Makino	EX	EX		○						○	林内	北海道・本州・四国・屋久島		○
ヘゴ	クサマルハチ	*Cyathea hancockii* Copel.	EN	EN		○	○			○		○	林内	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球		○
ヘゴ	ヘゴ※	*Cyathea spinulosa* Wall. ex Hook.	CR	CR		○				○		○	林内	本州・伊豆諸島・小笠原・四国・九州・琉球		○
ホングウシダ	サンカクホングウシダ	*Lindsaea javanensis* Blume	DD	EX		○	○			○		○	林内	本州（和歌山県）・九州・琉球		○
ホングウシダ	シンエダウチホングウシダ	*Lindsaea orbiculata* (Lam.) Mett. ex Kuhn var. *commixta* (Tagawa) K. U. Kramer	EN	CR		○	○			○		○	林内	本州（和歌山県）・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
ホングウシダ	サイゴクホングウシダ	*Osmolindsaea japonica* (Baker) Lehtonen & Christenh.	CR	CR		○	○					○	林内・岩上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
ホングウシダ	ホングウシダ	*Osmolindsaea odorata* (Roxb.) Lehtonen & Christenh.	VU	VU		○	○			○		○	林内・岩上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州		○
コバノイシカグマ	ユノミネシダ※	*Histiopteris incisa* (Thunb.) J. Sm.	EN	EN		○	○			○		○	林内	本州（和歌山県）・伊豆諸島・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
コバノイシカグマ	セイタカイワヒメワラビ	*Hypolepis alpina* (Blume) Hook.	CR	CR								○	林内	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
イノモトソウ	タキミシダ	*Antrophyum obovatum* Baker	CR	CR	EN	○	○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・屋久島		○
イノモトソウ	ヒメミズワラビ	*Ceratopteris gaudichaudii* Brongn. var. *vulgaris* Masuyama & Watano	VU	VU		○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
イノモトソウ	ヒメウラジロ	*Cheilanthes argentea* (S. G. Gmel.) Kunze	CR	CR	VU	○	○					○	岩上着生	本州・四国・九州・琉球	○	
イノモトソウ	エビガラシダ	*Cheilanthes chusana* Hook.	EX	CR	VU	○	○					○	岩上着生	本州・四国・九州	○	
イノモトソウ	ナカミシシラン	*Haplopteris fudzinoi* (Makino) E. H. Crane	EN	EN		○	○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・屋久島	○	○
イノモトソウ	ハチジョウシダ	*Pteris fauriei* Hieron.	EN	EN		○						○	林内	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
イノモトソウ	アイコハチジョウシダ	*Pteris laurisilvicola* Sa. Kurata	VU	VU		○	○					○	林内	本州・四国・九州・種子島・屋久島		○
イノモトソウ	ヤワラハチジョウシダ	*Pteris natiensis* Tagawa	VU	VU	EN	○	○			○		○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
チャセンシダ	オオタニワタリ	*Asplenium antiquum* Makino	CR	CR	VU	○	○			○		○	岩上・樹上着生	本州（紀伊半島）・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
チャセンシダ	カミガモシダ	*Asplenium oligophlebium* Baker	CR	CR		○	○					○	岩上着生	本州・四国・九州・屋久島	○	
チャセンシダ	オクタマシダ	*Asplenium pseudowilfordii* Tagawa	CR	CR	VU	○	○					○	岩上着生	本州・四国	○	○
チャセンシダ	クモノスシダ	*Asplenium ruprechtii* Sa. Kurata	EN	EN		○	○	○				○	特殊岩石地	北海道・本州・四国・九州	○	○
チャセンシダ	コタニワタリ	*Asplenium scolopendrium* L. ssp. *japonicum* (Kom.) Rasbach, Reichst. & Viane	EN	EN		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
チャセンシダ	トキワシダ	*Asplenium yoshinagae* Makino	EN	EN		○	○					○	岩上着生	本州・四国・九州・屋久島	○	○
チャセンシダ	ヤクシマホウビシダ	*Hymenasplenium obliquissimum* (Hayata) Sugim.	EN	EN		○	○					○	岩上着生	本州・九州・屋久島		○
イワヤシダ	イワヤシダ	*Diplaziopsis cavaleriana* (H. Christ) C. Chr.	EN	EN		○						○	林内	本州・四国・九州	○	○
ヒメシダ	オオハシゴシダ	*Thelypteris angulariloba* Ching	EN	EN		○				○		○	林内	本州（紀伊半島）・四国・琉球		○
ヒメシダ	ホソバショリマ	*Thelypteris beddomei* (Baker) Ching	CR	CR								○	林内	本州・四国・九州・屋久島		○
ヒメシダ	アミシダ	*Thelypteris griffithii* (Hook. f. & Thomson) C. F. Reed var. *wilfordii* (Hook.) C. M. Kuo	EN	EN		○	○			○		○	岩上着生	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球		○
ヒメシダ	テツホシダ※	*Thelypteris interrupta* (Willd.) K. Iwats.	EN	EN		○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
ヒメシダ	ミゾシダモドキ	*Thelypteris leveillei* (H. Christ) C. M. Kuo	EN	EN		○						○	林内	本州・四国・九州		○
ヒメシダ	ケホシダ	*Thelypteris parasitica* (L.) Tardieu	DD	EN		○						○	林内	本州・小笠原・四国・九州・琉球	○	
ヒメシダ	ミヤマワラビ	*Thelypteris phegopteris* (L.) Sloss. ex Rydb.	EX	EX								○	草地	北海道・本州・四国・九州・屋久島	○	
コウヤワラビ	コウヤワラビ	*Onoclea sensibilis* L. var. *interrupta* Maxim.	VU	VU		○	○					○	湿地・草地	北海道・本州・九州	○	○
シシガシラ	オオカグマ	*Woodwardia japonica* (L. f.) J. Sm.	CR	CR		○	○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
メシダ	ミヤマメシダ	*Athyrium melanolepis* (Franch. & Sav.) H. Christ	EX	EX		○				○		○	林内	北海道・本州	○	
メシダ	ヒメホウビシダ	*Athyrium nakanoi* Makino	CR		VU				○				林内	本州（和歌山県）・屋久島		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
メシダ	トゲカラクサイヌワラビ	*Athyrium setuligerum* Sa. Kurata	DD									○	林内	本州・四国・九州		○
メシダ	シマイヌワラビ	*Athyrium tozanense*（Hayata）Hayata	CR	CR	CR							○	林内	本州・四国・九州・屋久島		○
メシダ	ウスゲミヤマシケシダ	*Deparia mucilagina*（M. Kato）Nakaike	CR									○	林内	北海道・本州		○
メシダ	ミドリワラビ	*Deparia viridifrons*（Makino）M. Kato	CR	CR								○	林内	本州・四国・九州	○	○
メシダ	ヒロハノコギリシダ	*Diplazium dilatatum* Blume	CR	CR						○		○	林内	本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
メシダ	ニセヒロハノコギリシダ	*Diplazium dilatatum* Blume var. *heterolepis* Seriz.	CR									○	林内	本州・九州・種子島・屋久島		○
メシダ	シマシロヤマシダ	*Diplazium doederleinii*（Luerss.）Makino	CR	CR								○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
メシダ	オオバミヤマノコギリシダ	*Diplazium hayatamae* N. Ohta & M.Takamiya	VU									○	林内	本州・四国・九州・種子島・屋久島		○
メシダ	ヒュウガシダ	*Diplazium takii* Sa. Kurata	EN									○	林内	本州・四国・九州・屋久島		○
メシダ	オキナワコクモウクジャク	*Diplazium virescens* var. *okinawaensis* Tagawa	EN		NT							○	林内	伊豆諸島・本州・四国・九州・琉球		○
オシダ	シノブカグマ	*Arachniodes mutica*（Franch. & Sav.）Ohwi	CR	CR		○						○	林内	北海道・本州・四国・屋久島	○	
オシダ	ミドリカナワラビ	*Arachniodes nipponica*（Rosenst.）Ohwi	VU	VU		○	○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
オシダ	オトコシダ	*Arachniodes yoshinagae*（Makino）Ching	EN	EN		○	○					○	林内	本州・四国・九州		○
オシダ	イズヤブソテツ	*Cyrtomium atropunctatum* Sa. Kurata	EN									○	林内	本州・四国・九州	○	
オシダ	メヤブソテツ	*Cyrtomium caryotideum*（Wall. ex Hook. & Grev.）C. Presl	EN	EN		○	○	○				○	林内	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
オシダ	ヒメオニヤブソテツ	*Cyrtomium falcatum*（L. f.）C. Presl ssp. *littorale* S. Matsumoto	EN									○	林内	北海道・本州・四国・九州		○
オシダ	ツクシヤブソテツ	*Cyrtomium macrophyllum*（Makino）Tagawa var. *tukusicola*（Tagawa）Tagawa	EN	EN		○						○	林内	本州・四国・九州	○	○
オシダ	オシダ	*Dryopteris crassirhizoma* Nakai	CR	CR		○				○		○	林内	北海道・本州・四国	○	
オシダ	シラネワラビ	*Dryopteris expansa*（C. Presl）Fraser-Jenk. & Jermy	EX	EX		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
オシダ	ムラサキベニシダ	*Dryopteris labordei*（Christ）C. Chr. var. *purpurascens*（H. Itô）Seriz.	EN	EN	CR	○	○					○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
オシダ	アツギノヌカイタチシダマガイ	*Dryopteris paomowanensis* Ching & Z. Y. Liu	EN	EN								○	林内	本州・四国・九州	○	○
オシダ	オワセベニシダ	*Dryopteris ryoitoana* Sa. Kurata	NT									○	林内	本州・四国・九州		○
オシダ	ホオノカワシダ	*Dryopteris shikokiana*（Makino）C. Chr.	NT									○	林内	本州・四国・九州・屋久島		○
オシダ	ナガサキシダ	*Dryopteris sieboldii*（Van Houtte ex Mett.）Kuntze	VU	VU		○	○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
オシダ	ヌカイタチシダマガイ	*Dryopteris simasakii*（H. Itô）Sa. Kurata	DD									○	林内	本州・四国・九州		○
オシダ	マルバヌカイタチシダモドキ	*Dryopteris tsugiwoi* Sa. Kurata	CR		CR							○	林内	本州・四国・九州		○
オシダ	ヒロハアツイタ	*Elaphoglossum tosaense*（Yatabe）Makino	EN	EN	VU	○	○					○	岩上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州・屋久島		○
オシダ	アツイタ	*Elaphoglossum yoshinagae*（Yatabe）Makino	EN	EN	VU	○	○			○		○	岩上着生	本州（紀伊半島）・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
オシダ	オリヅルシダ	*Polystichum lepidocaulon*（Hook.）J. Sm.	EN	EN		○						○	林内	本州・四国・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
シノブ	キクシノブ※	*Humata repens* (L. f.) Kuhn	EN	EN	VU	○	○			○		○	岩上着生	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球	○	○
ウラボシ	アオネカズラ	*Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.	NT	NT		○	○						岩上・樹上着生	本州・四国・九州	○	○
ウラボシ	クラガリシダ	*Lepisorus miyoshianus* (Makino) Fraser-Jenk. & Subh. Chandra	CR	CR	EN	○	○					○	樹上着生	本州・四国・九州	○	
ウラボシ	オオクボシダ	*Micropolypodium okuboi* (Yatabe) Hayata	EN	EN		○	○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・屋久島		○
ウラボシ	ヌカボシクリハラン	*Neocheiropteris ningpoensis* (Baker) Bosman	VU	VU		○						○	岩上・樹上着生	本州・小笠原・四国・九州・琉球	○	○
ウラボシ	ヒロハヒメウラボシ	*Oreogrammitis nipponica* (Tagawa & K. Iwats.) B. S. Parris	CR	CR	CR	○	○					○	岩上着生	本州・伊豆諸島・四国・九州・屋久島		○
ウラボシ	カラクサシダ	*Pleurosoriopsis makinoi* (Maxim. ex Makino) Fomin	EN	EN		○	○					○	岩上・樹上着生	北海道・本州・四国・九州・屋久島	○	○
ウラボシ	オシャグジデンダ	*Polypodium fauriei* H. Christ	EN	EN		○	○					○	岩上・樹上着生	北海道・本州・四国・九州	○	○
ウラボシ	イワオモダカ	*Pyrrosia hastata* (Houtt.) Ching	EN	EN			○					○	岩上・樹上着生	北海道・本州・四国・九州	○	○
ウラボシ	ヤクシマウラボシ	*Selliguea yakuinsularis* (Masam.) H. Ohashi & K. Ohashi	CR	CR	EN	○	○			○		○	岩上着生	本州（紀伊半島）・四国・屋久島		○
マツ	トガサワラ※	*Pseudotsuga japonica* (Shiras.) Beissn.	VU	VU	VU	○				●		○	山地	本州（紀伊半島）・四国（高知県）	○	○
ヒノキ	イブキ	*Juniperus chinensis* L. var. *chinensis*	NT	NT		○	○						海岸	本州・四国・九州・屋久島	○	○
スイレン	オニバス※	*Euryale ferox* Salisb.	CR	CR	VU	○	○	○				○	池沼	本州・四国・九州	○	○
スイレン	コウホネ	*Nuphar japonica* DC.	NT	NT		○		○					池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
スイレン	オグラコウホネ	*Nuphar oguraense* Miki	CR	CR	VU	○	○	○				○	池沼	本州・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
スイレン	サイコクヒメコウホネ	*Nuphar saikokuensis* Shiga & Kadono	NT					○					池沼	本州・四国・九州		○
スイレン	ヒツジグサ	*Nymphaea tetragona* Georgi	NT	NT			○	○					池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
センリョウ	キビヒトリシズカ	*Chloranthus fortunei*（A. Gray）Solms	CR	CR	VU		○			○		○	林内	本州・四国・九州	○	
センリョウ	ヒトリシズカ	*Chloranthus quadrifolius*（A. Gray）H. Ohba & S. Akiyama	NT	NT			○						林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ウマノスズクサ	スエヒロアオイ	*Asarum dilatatum*（F. Maek.）T. Sugaw.	EN	EN	CR		○				○	○	林内	本州	○	○
ウマノスズクサ	コウヤカンアオイ※	*Asarum kooyanum* Makino var. *kooyanum*	EN	EN	EN		○				○	○	林内	本州	○	○
ウマノスズクサ	キナンカンアオイ	*Asarum fauriei* F. Maek. var. *austrokiiensie*（Kinoshita）Yonek.	DD	VU	VU		○				●	○	林内	本州（紀伊半島南部）		○
サトイモ	ホロテンナンショウ	*Arisaema cucullatum* M. Hotta	CR	CR	CR		○				○	○	林内	本州		○
サトイモ	ユキモチソウ	*Arisaema sikokianum* Franch. & Sav.	CR	CR	VU	○	○					○	林内	本州・四国	○	
サトイモ	ナンゴクウラシマソウ※	*Arisaema thunbergii* Blume ssp. *thunbergii*	VU	VU		○	○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
チシマゼキショウ	ハナゼキショウ	*Tofieldia nuda* Maxim. var. *nuda*	EN	EN			○					○	岩上・岩隙地	本州・九州		○
オモダカ	アギナシ	*Sagittaria aginashi* Makino	EN	EN	NT	○		○				○	湿地・池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
トチカガミ	マルミスブタ	*Blyxa aubertii* Rich.	EN	EN	VU	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
トチカガミ	スブタ	*Blyxa echinosperma*（C. B. Clarke）Hook. f.	VU	VU	VU	○		○				○	湿地・池沼・水田	本州・四国・九州・琉球	○	○
トチカガミ	ヤナギスブタ	*Blyxa japonica*（Miq.）Maxim. ex Asch. & Gürke	NT	NT		○		○				○	湿地・池沼・水田	本州・四国・九州・琉球	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
トチカガミ	オオウミヒルモ	*Halophila major*（Zoll.）Miq.	EN	EN				○				○	塩性湿地	本州・四国・九州・琉球		○
トチカガミ	ヤマトウミヒルモ	*Halophila nipponica* John Kuo	EN	EN				○				○	塩性湿地	本州・四国・九州		○
トチカガミ	トチカガミ	*Hydrocharis dubia*（Blume）Backer	EN	EN	NT	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
トチカガミ	サガミトリゲモ （ヒロハトリゲモ）	*Najas chinensis* N. Z. Wang	DD	DD	VU	○		○				○	池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
トチカガミ	イトトリゲモ	*Najas gracillima*（A. Braun ex Engelm.）Magnus	EN	EN	NT	○		○				○	池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
トチカガミ	トリゲモ	*Najas minor* All.	NT	NT	VU	○		○					池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
トチカガミ	ミズオオバコ	*Ottelia alismoides*（L.）Pers.	NT	NT	VU	○		○					湿地・池沼	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
トチカガミ	セキショウモ	*Vallisneria natans*（Lour.）H. Hara var. *natans*	NT	NT		○		○					池沼・河川	北海道・本州・四国・九州	○	○
シバナ	シバナ	*Triglochin maritima* L. ssp. *asiatica* Kitag.	VU	VU	NT	○		○				○	塩性湿地	北海道・本州・四国・九州		○
アマモ	コアマモ	*Zostera japonica* Asch. & Graebn.	EN	EN		○		○				○	塩性湿地	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
ヒルムシロ	イトモ	*Potamogeton berchtoldii* Fieber	NT	NT	NT	○		○					池沼	北海道・本州・九州・琉球	○	○
ヒルムシロ	コバノヒルムシロ	*Potamogeton cristatus* Regel & Maack	CR	CR	VU	○		○				○	池沼	本州	○	○
ヒルムシロ	リュウノヒゲモ※	*Potamogeton pectinatus* L.	EN	EN	NT	○		○				○	池沼・河川	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	
ヒルムシロ	ササバモ	*Potamogeton wrightii* Morong	NT	NT		○		○					池沼・河川	本州・四国・九州・琉球	○	○
カワツルモ	カワツルモ	*Ruppia maritima* L.	CR	CR	NT	○	○	○				○	池沼	北海道・本州・小笠原・四国・九州・琉球	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ	*Burmannia championii* Thwaites	VU	VU		○			○			○	林内	本州・四国・九州・屋久島・琉球		○
ヒナノシャクジョウ	シロシャクジョウ	*Burmannia cryptopetala* Makino	CR	CR		○			○			○	林内	本州（近畿地方）・四国・九州・屋久島・種子島・琉球		○
ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	*Sciaphila nana* Blume	EN	EN	VU	○			○			○	林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
ホンゴウソウ	ウエマツソウ	*Sciaphila secundiflora* Thwaites ex Benth.	EN	EN	VU	○			○			○	林内	本州・伊豆諸島・小笠原・四国・九州・琉球		○
シュロソウ	チャボシライトソウ	*Chionographis koidzumiana* Ohwi	EN	EN	VU		○					○	林内	本州・四国・九州		○
シュロソウ	エンレイソウ	*Trillium apetalon* Makino	CR	CR		○	○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
シュロソウ	ミヤマエンレイソウ	*Trillium tschonoskii* Maxim.	EN	EN			○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
シュロソウ	バイケイソウ	*Veratrum oxysepalum* Turcz. var. *oxysepalum*	EN	EN		○						○	林内	北海道・本州	○	○
イヌサフラン	キバナチゴユリ※	*Disporum lutescens*（Maxim.）Koidz.	EN	EN		○	○			●		○	林内	本州（和歌山県）・四国・九州	○	○
サルトリイバラ	サルマメ	*Smilax biflora* Siebold ex Miq. var. *trinervula*（Miq.）Hatus. ex T. Koyama	EN	EN		○						○	草地	本州・奄美大島	○	
サルトリイバラ	ヤマカシュウ	*Smilax sieboldii* Miq.	NT	NT		○		○					特殊岩石地	本州・四国・九州	○	
サルトリイバラ	マルバサンキライ	*Smilax stans* Maxim.	VU	VU		○						○	林縁	本州・四国・九州	○	
ユリ	キバナノアマナ	*Gagea nakaiana* Kitag.	CR	CR			○					○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
ユリ	ヒメユリ	*Lilium concolor* Salisb.	CR	CR	EN	○	○					○	草地	本州・四国・九州	○	
ユリ	タキユリ※	*Lilium speciosum* Thunb. var. *clivorum* S. Abe & Teruo Tamura	CR	CR	VU		○			○		○	岩上・岩隙地	本州（和歌山県）・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ユリ	キイジョウロウホトトギス※	*Tricyrtis macranthopsis* Masam.	VU	VU	VU	○	○				○	○	岩上・岩隙地	本州（紀伊半島南部）		○
ユリ	チャボホトトギス	*Tricyrtis nana* Yatabe	NT	NT			○						林内	本州・四国・九州・屋久島	○	○
ラン	ヒナラン	*Amitostigma gracile*（Blume）Schltr.	EN	EN	EN		○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
ラン	イワチドリ	*Amitostigma keiskei*（Maxim. ex Franch. & Sav.）Schltr.	EN	EN	EN		○					○	岩上・岩隙地	本州・伊豆諸島・四国	○	○
ラン	シラン	*Bletilla striata*（Thunb.）Rchb. f.	VU	VU	NT		○					○	草地	本州・四国・九州		○
ラン	マメヅタラン	*Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo	VU	VU	NT	○						○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ムギラン	*Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.	VU	VU	NT		○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州	○	○
ラン	ミヤマムギラン	*Bulbophyllum japonicum*（Makino）Makino	VU	VU	NT		○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州	○	○
ラン	キリシマエビネ	*Calanthe aristulifera* Rchb. f.	CR	CR	EN		○			○		○	林内	本州（近畿地方南部）・四国・九州		○
ラン	キエビネ	*Calanthe sieboldii* Scheidw.	CR	CR	EN		○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
ラン	エビネ	*Calanthe discolor* Lindl.	EN	EN	NT		○					○	林内	北海道・四国・九州・琉球	○	○
ラン	ナツエビネ	*Calanthe puberula* Lindl. var. *puberula*（Maxim.）M. Hiroe	VU	VU	VU		○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
ラン	サルメンエビネ	*Calanthe tricarinata* Lindl.	CR	CR	VU		○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ギンラン	*Cephalanthera erecta*（Thunb.）Blume	EN	EN			○					○	林縁	本州・四国・九州	○	○
ラン	キンラン	*Cephalanthera falcata*（Thunb.）Blume	VU	VU	VU		○					○	林縁	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ラン	ムカデラン	*Cleisostoma scolopendrifolium* (Makino) Garay	CR	CR	VU		○					○	樹上着生	本州・四国・九州		○
ラン	カンラン	*Cymbidium kanran* Makino	CR	CR	EN	○	○					○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	アキザキナギラン	*Cymbidium lancifolium* Hook.	CR	CR	EN	○				○		○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	マヤラン	*Cymbidium macrorhizon* Lindl.	CR	CR	VU		○		○			○	林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	ナギラン	*Cymbidium nagifolium* Masam.	CR	CR	VU		○					○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	クマガイソウ	*Cypripedium japonicum* Thunb.	EN	EN	VU		○					○	林内	北海道・四国・九州	○	○
ラン	イチヨウラン	*Dactylostalix ringens* Rchb. f.	CR	CR		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
ラン	セッコク	*Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.	EN	EN			○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	ユウコクラン	*Empusa formosana* (Rchb. f.) T. C. Hsu	CR	CR			○			○		○	林内	本州（紀伊半島）・伊豆諸島・九州・琉球		○
ラン	カキラン	*Epipactis thunbergii* A. Gray	NT				○					○	湿地	本州・四国・九州	○	○
ラン	タシロラン	*Epipogium roseum* (D. Don) Lindl.	EN	EN	NT	○			○			○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	オサラン	*Eria japonica* Maxim.	EN	EN	VU		○					○	樹上着生	本州（紀伊半島）・伊豆諸島・四国・九州・琉球		○
ラン	カシノキラン	*Gastrochilus japonicus* (Makino) Schltr.	CR	CR	VU		○					○	樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	マツラン	*Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr.	CR	CR	VU		○					○	樹上着生	本州・四国・九州	○	○
ラン	モミラン	*Gastrochilus toramanus* (Makino) Schltr.	CR	CR	VU		○					○	樹上着生	本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ラン	アキザキヤツシロラン	*Gastrodia confusa* Honda & Tuyama	VU	VU		○			○			○	林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	オニノヤガラ	*Gastrodia elata* Blume	VU	VU		○			○			○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ハルザキヤツシロラン※	*Gastrodia nipponica*（Honda）Tuyama	EN	EN	VU	○			○	○		○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	クロヤツシロラン	*Gastrodia pubilabiata* Y. Sawa	CR	CR					○			○	林内	本州・伊豆諸島・四国・九州		○
ラン	ベニシュスラン	*Goodyera biflora*（Lindl.）Hook. f.	EN	EN			○					○	岩上・樹上着生	北海道・本州・四国・九州		○
ラン	アケボノシュスラン	*Goodyera foliosa*（Lindl.）Benth. ex C. B. Clarke var. *laevis* Finet	EN	EN			○					○	林内	北海道・本州	○	○
ラン	ツリシュスラン	*Goodyera pendula* Maxim.	EN	EN		○	○					○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ダイサギソウ	*Habenaria dentata*（Sw.）Schltr.	EN	EN	EN		○					○	草地	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ミズトンボ	*Habenaria sagittifera* Rchb. f.	VU	VU	VU	○		○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ヤクシマアカシュスラン※	*Hataeria yakusimensis*（Masam.）Ormerod	CR	CR	VU		○			○		○	林内	本州・四国・九州・琉球・屋久島・種子島		○
ラン	ムカゴソウ	*Herminium lanceum*（Thunb. ex Sw.）J. Vuijk	CR	CR	EN	○						○	草地	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	ヤクシマヒメアリドオシラン	*Kuhlhasseltia yakushimensis*（Yamam.）Ormerod.	NT		NT		○					○	林内	本州・四国・九州・屋久島・琉球	○	○
ラン	キイムヨウラン	*Lecanorchis hokurikuensis* Masam. var. *kiiensis*（Murata）T. Hashim.	CR	CR		○			○	●		○	林内	本州・四国		○
ラン	ムヨウラン	*Lecanorchis japonica* Blume	EN	EN		○			○			○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ウスギムヨウラン	*Lecanorchis kiusiana* Tuyama	CR	CR	NT	○			○			○	林内	本州・四国・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ラン	クロムヨウラン	*Lecanorchis nigricans* Honda var. *nigricans*	CR	CR		○			○			○	林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	アワムヨウラン	*Lecanorchis trachycaula* Ohwi	CR	CR	CR	○			○	○		○	林内	本州（和歌山県）・四国・九州・琉球		○
ラン	エンシュウムヨウラン	*Lecanorchis suginoana*（Tuyama）Seriz.	CR			○			○	○		○	林内	本州・四国・九州	○	
ラン	ギボウシラン	*Liparis auriculata* Blume ex Miq.	EX	EX	EN		○					○	林内	北海道・本州・四国・屋久島	○	
ラン	ボウラン	*Luisia teres*（Thunb.）Blume	CR	CR	NT		○			○		○	樹上着生	本州（近畿地方南部）・四国・九州・琉球		○
ラン	ニラバラン	*Microtis unifolia*（G. Forst.）Rchb.f.	CR	CR		○						○	草地	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	フウラン	*Neofinetia falcata*（Thunb.）Hu	VU	VU	VU		○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球	○	○
ラン	コフタバラン	*Neottia cordata*（L.）Rich.	EN	EN			○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
ラン	ヒメフタバラン	*Neottia japonica*（Blume）Szlach.	EN	EN			○					○	林内	本州・四国・九州・琉球	○	
ラン	アオフタバラン	*Neottia makinoana*（Ohwi）Szlach.	EN	EN		○						○	林内	本州・四国・九州	○	○
ラン	ムカゴサイシン	*Nervilia nipponica* Makino	CR	CR	EN	○						○	林内	本州・九州・四国・琉球		○
ラン	ヨウラクラン	*Oberonia japonica*（Maxim.）Makino	EN	EN			○					○	岩上・樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ヒナチドリ	*Orchis chidori*（Makino）Y. Tang, H. Peng & T. Yukawa	CR	CR	VU		○					○	岩上・樹上着生	北海道・本州・四国		○
ラン	ウチョウラン	*Orchis graminifolia*（Rchb. f.）Y. Tang, H. Peng & T. Yukawa var. *graminifolia*	EN	EN	VU		○					○	岩上・岩隙地	本州・四国・九州	○	○
ラン	コケイラン	*Oreorchis patens*（Lindl.）Lindl.	EN	EN		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ラン	サギソウ	*Pecteilis radiata*（Thunb.）Raf.	CR	CR	NT	○	○	○				○	湿地	本州・四国・九州	○	
ラン	ムカゴトンボ	*Peristylus flagellifer*（Makino）Ohwi ex K. Y. Lang	CR	CR	EN			○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	ガンゼキラン	*Phaius flavus*（Blume）J. W. Zhai, Z. J. Liu & F. W. Xing	CR	CR	VU		○					○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	イイヌマムカゴ	*Platanthera iinumae*（Makino）Makino	CR	CR	EN	○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
ラン	ツレサギソウ	*Platanthera japonica*（Thunb.）Lindl.	CR	CR		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ヤマサギソウ	*Platanthera mandarinorum* Rchb. f. ssp. *mandarinorum* var. *oreades*（Franch. & Sav.）Koidz.	EN	EN		○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ナガバノキソチドリ	*Platanthera ophrydioides* F. Schmidt var. *australis* Ohwi	CR	CR		○						○	林内	本州・四国・九州	○	○
ラン	オオヤマサギソウ	*Platanthera sachalinensis* F. Schmidt	EN	EN		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	トキソウ	*Pogonia japonica* Rchb. f.	CR	CR	NT	○	○	○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ヤマトキソウ	*Pogonia minor*（Makino）Makino	EN	EN		○	○	○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ラン	ナゴラン	*Sedirea japonica*（Lindenb. & Rchb. f.）Garay & H. R. Sweet	CR	CR	EN		○					○	樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
ラン	コオロギラン	*Stigmatodactylus sikokianus* Maxim. ex Makino	CR	CR	VU		○		○	○		○	林内	本州（和歌山県）・伊豆諸島・四国・九州		○
ラン	カヤラン	*Thrixspermum japonicum*（Miq.）Rchb. f.	VU	VU			○					○	樹上着生	本州・四国・九州	○	○
ラン	ヒトツボクロ	*Tipularia japonica* Matsum.	EN	EN			○					○	林内	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ラン	キバナノショウキラン	*Yoania amagiensis* Nakai & F. Maek.	CR	CR	EN	○	○		○			○	林内	本州・四国・九州	○	
ラン	カゲロウラン	*Zeuxine agyokuana* Fukuy.	CR	CR	NT	○						○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
キンバイザサ	キンバイザサ	*Curculigo orchioides* Gaertn.	EN	EN		○						○	草地	本州・四国・九州・琉球		○
キンバイザサ	コキンバイザサ	*Hypoxis aurea* Lour.	EN	EN			○					○	草地	本州・四国・九州・琉球	○	○
アヤメ	ヒメシャガ	*Iris gracilipes* A. Gray	EN	EN	NT		○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
ススキノキ	キキョウラン※	*Dianella ensifolia*（L.）DC.	NT	NT		○				○		○	海岸・草地	本州・四国・九州・琉球・小笠原	○	○
ススキノキ	ユウスゲ	*Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina*（H. Hara）M. Hotta	EN	EN		○	○					○	海岸・草地	本州・四国・九州	○	○
ススキノキ	ハマカンゾウ	*Hemerocallis fulva* L. var. *littorea*（Makino）M. Hotta	NT	NT		○							海岸・草地	本州・四国・九州		○
ヒガンバナ	キイイトラッキョウ※	*Allium kiiense*（Murata）Hir. Takah. & M. Hotta	EN	EN	VU		○			●		○	岩上・岩隙地	本州		○
ヒガンバナ	ヒメニラ	*Allium monanthum* Maxim.	CR	CR		○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
ヒガンバナ	タマムラサキ	*Allium pseudojaponicum* Makino	CR	CR						●		○	岩上・岩隙地	本州・四国・九州		○
ヒガンバナ	ハマオモト	*Crinum asiaticum* L. var. *japonicum* Baker	EN	EN			○					○	海岸	本州・四国・九州・琉球	○	○
ヒガンバナ	キツネノカミソリ	*Lycoris sanguinea* Maxim. var. *sanguinea*	VU	VU			○					○	草地	本州・四国・九州	○	○
クサスギカズラ	ウナズキギボウシ※	*Hosta kikutii* F. Maek. var. *tosana*（F. Maek.）F. Maek.	NT	NT			○			●			岩上・岩隙地	本州（近畿地方南東部・四国		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
クサスギカズラ	オヒガンギボウシ	*Hosta longipes*（Franch. & Sav.）Matsum. var. *aequinoctiiantha*（Koidz. ex Araki）Kitam.	CR	CR			○					○	岩上・岩隙地	本州	○	
クサスギカズラ	スダレギボウシ	*Hosta polyneuron* F. Maek.	VU	VU		○	○			●		○	岩上・岩隙地	本州（近畿地方南部）・四国		○
クサスギカズラ	マイヅルソウ	*Maianthemum dilatatum*（Alph. Wood）A. Nelson & J. F. Macbr.	CR	CR		○	○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
クサスギカズラ	ノシラン	*Ophiopogon jaburan*（Siebold）G. Lodd.	NT	NT			○						海岸・林内	本州・四国・九州・琉球		○
クサスギカズラ	オオバジャノヒゲ	*Ophiopogon planiscapus* Nakai	CR									○	林内	本州・九州	○	
ミズアオイ	ミズアオイ	*Monochoria korsakowii* Regel & Maack	EX	EX	NT	○	○	○				○	湿地・池沼	北海道・本州・四国・九州	○	
ショウガ	アオノクマタケラン※	*Alpinia intermedia* Gagnep.	VU	VU			○			○		○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ミクリ	オオミクリ	*Sparganium coreanum* H. Lév.	EN	EN	VU	○		○				○	池沼	本州	○	○
ミクリ	ヤマトミクリ※	*Sparganium fallax* Graebn.	EN	EN	NT	○		○				○	池沼	本州・四国・九州	○	
ミクリ	ナガエミクリ	*Sparganium japonicum* Rothert	NT	NT	NT	○		○					池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
ミクリ	ヒメミクリ	*Sparganium subglobosum* Morong	EN	EN	VU	○		○				○	池沼	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	*Eriocaulon kiusianum* Maxim.	EN	EN	VU			○				○	湿地	本州・四国・九州・屋久島	○	
ホシクサ	クロホシクサ	*Eriocaulon parvum* Körn.	VU	VU	VU	○		○				○	湿地	本州・四国・九州・沖縄	○	○
カヤツリグサ	イセウキヤガラ	*Bolboschoenus planiculmis*（F. Schmidt）T. V. Egorova	CR	CR				○				○	塩性湿地	本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
カヤツリグサ	ベンケイヤワラスゲ	*Carex benkei* Tak. Shimizu	CR	CR		○		○					湿地	本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	アワボスゲ	*Carex brownii* Tuck.	CR	CR								○	林縁・草地	北海道・本州・四国・九州	○	
カヤツリグサ	ミヤマジュズスゲ	*Carex dissitiflora* Franch.	EN	EN		○						○	林縁	北海道・本州・四国・九州	○	○
カヤツリグサ	ゲンカイモエギスゲ	*Carex genkaiensis* Ohwi	EN	EN	EN							○	林内・草地	本州（近畿地方）・小笠原・九州	○	
カヤツリグサ	コハリスゲ	*Carex hakonensis* Franch. & Sav.	CR	CR								○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
カヤツリグサ	イセアオスゲ	*Carex karashidaniensis* Akiyama	EN									○	林内	本州		○
カヤツリグサ	コウヤハリスゲ※	*Carex koyaensis* J. Oda & Nagam.	CR	CR		○						○	林内	本州	○	
カヤツリグサ	センダイスゲ	*Carex lenta* D. Don var. *sendaica* (Franch.) T. Koyama	CR	CR		○						○	林内	本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	サツマスゲ	*Carex ligulata* Nees	EN	EN		○						○	林縁	本州・四国・九州	○	
カヤツリグサ	ヤガミスゲ	*Carex maackii* Maxim.	CR	CR								○	草地	北海道・本州・九州	○	
カヤツリグサ	カタスゲ	*Carex macrandrolepis* H. Lév.	CR	CR								○	林縁	本州・伊豆諸島・四国・九州		○
カヤツリグサ	キノクニスゲ（キシュウスゲ）※	*Carex matsumurae* Franch.	NT	NT	NT	○							海岸・林内	本州・伊豆諸島・四国・九州		○
カヤツリグサ	キシュウナキリスゲ※	*Carex nachiana* Ohwi	NT	NT	VU	○							海岸・林内	本州・四国・九州	○	○
カヤツリグサ	ミコシガヤ	*Carex neurocarpa* Maxim.	CR	CR								○	草地	本州・伊豆諸島	○	
カヤツリグサ	ヒメスゲ	*Carex oxyandra* (Franch. & Sav.) Kudô	CR	CR		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
カヤツリグサ	オオクグ	*Carex rugulosa* Kük.	CR	CR	NT	○		○				○	湿地・池沼	北海道・本州・九州	○	
カヤツリグサ	ジングウスゲ	*Carex sacrosancta* Honda	EN	EN	NT							○	林内	本州・伊豆諸島・四国・九州		○
カヤツリグサ	ツクシナルコ	*Carex subcernua* Ohwi	EN	EN	EN			○				○	湿地	本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	オオシロガヤツリ	*Cyperus nipponicus* Franch. & Sav. var. *spiralis* Ohwi	EN	EN		○		○				○	湿地	本州・四国	○	
カヤツリグサ	ムギガラガヤツリ	*Cyperus unioloides* R. Br.	EX	EX	CR	○		○				○	湿地	本州・四国・九州	○	
カヤツリグサ	カガシラ	*Diplacrum caricinum* R. Br.	CR	CR	VU			○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	
カヤツリグサ	ミスミイ	*Eleocharis acutangula*（Roxb.）Schult.	CR	CR	EN	○		○				○	池沼	本州・九州・琉球		○
カヤツリグサ	セイタカハリイ	*Eleocharis attenuata*（Franch. & Sav.）Palla	EN	EN		○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球		○
カヤツリグサ	イヌクログワイ（シログワイ）	*Eleocharis dulcis*（Burm. f.）Trin. ex Hensch	VU	VU		○		○				○	湿地	本州・九州・琉球	○	
カヤツリグサ	オオヌマハリイ	*Eleocharis mamillata* H. Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.	EN	EN				○				○	池沼	北海道・本州・九州	○	
カヤツリグサ	タイワンヒデリコ	*Fimbristylis littoralis* Gaudich. var. *koidzumiana*（Ohwi）T. Koyama	EN	EN				○		○		○	池沼	本州（紀伊半島）・琉球	○	
カヤツリグサ	ナガボテンツキ	*Fimbristylis longispica* Steud.	EN	EN								○	海岸・草地	本州・伊豆諸島・四国・九州	○	○
カヤツリグサ	ヤリテンツキ	*Fimbristylis ovata*（Burm. f.）J. Kern	EN	EN	NT	○						○	草地	本州・九州・琉球		○
カヤツリグサ	トラノハナヒゲ	*Rhynchospora brownii* Roem. & Schult.	VU	VU		○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
カヤツリグサ	ミクリガヤ	*Rhynchospora malasica* C. B. Clarke	CR	CR	EN	○		○				○	湿地	本州・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
カヤツリグサ	ヒメカンガレイ	*Schoenoplectus mucronatus* (L.) Palla var. *mucronatus*	EN	EN	VU	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州		○
カヤツリグサ	ツクシカンガレイ	*Schoenoplectus multiseta* (Hayasaka & C. Sato) Hayasaka	CR	CR				○				○	湿地	本州・九州・琉球		○
カヤツリグサ	シズイ	*Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják	EN	EN		○		○				○	池沼	北海道・本州・四国・九州	○	
カヤツリグサ	コマツカサススキ	*Scirpus fuirenoides* Maxim.	EN	EN		○						○	湿地	本州・四国・九州	○	
カヤツリグサ	マツカサススキ	*Scirpus mitsukurianus* Makino	EN									○	湿地	本州・四国・九州	○	
カヤツリグサ	シンジュガヤ	*Scleria levis* Retz.	VU	VU		○						○	草地	本州・四国・九州・琉球	○	○
イネ	ヒメコヌカグサ	*Agrostis valvata* Steud.	NT	NT	NT	○		○					湿地	本州・四国・九州	○	
イネ	コウボウ	*Anthoxanthum nitens* (Weber) Y. Schouten & Veldkamp var. *sachalinense* (Printz) Yonek.	EN	EN		○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
イネ	ミギワトダシバ	*Arundinella riparia* Honda ssp. *riparia*	NT	NT	VU	○							岩上・岩隙地	本州・四国		○
イネ	カリマタガヤ	*Dimeria ornithopoda* Trin. var. *tenera* (Trin.) Hack.	VU	VU				○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
イネ	イトスズメガヤ	*Eragrostis brownii* (Kunth) Nees	VU	VU		○						○	草地	本州・小笠原・四国・九州・琉球		○
イネ	コゴメカゼクサ	*Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.	EN	EN								○	草地	本州・四国・九州・琉球	○	○
イネ	ウンヌケモドキ	*Eulalia quadrinervis* (Hack.) O. Kuntze	NT	NT	NT	○							草地・痩地	本州・四国・九州・琉球	○	○
イネ	タイワンカモノハシ	*Ischaemum aristatum* L. var. *aristatum*	EN	EN		○				○		○	草地	本州（紀伊半島以南）・四国・九州・琉球		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
イネ	トウササクサ	*Lophatherum sinense* Rendle	NT	NT		○							草地	本州・四国・九州		○
イネ	ミチシバ	*Melica onoei* Franch. & Sav.	CR	CR								○	林内・林縁	本州・四国・九州		○
イネ	ハイキビ※	*Panicum repens* L.	CR	CR						○		○	海岸・湿地	本州（和歌山県）・四国・九州・琉球	○	○
イネ	ヒロハノハネガヤ	*Patis coreana*（Honda）Ohwi	EN	EN		○						○	林内・林縁	北海道・本州・四国・九州		○
イネ	タキキビ	*Phaenosperma globosum* Munro ex Benth.	VU	VU		○						○	海岸・林内	本州・四国・九州	○	○
イネ	ムカゴツヅリ	*Poa tuberifera* Faurie ex Hack.	EN	EN								○	林内	本州・四国・九州	○	
イネ	ウキシバ	*Pseudoraphis sordida*（Thwaites）S. M. Phillips & S. L. Chen	NT	NT		○		○				○	池沼	本州・四国・九州	○	
イネ	モロコシガヤ	*Sorghum nitidum*（Vahl）Pers. var. *dichroanthum*（Steud.）Ohwi	VU	VU		○				○		○	草地	本州（紀伊半島以西）・四国・九州	○	○
イネ	ビロードキビ	*Urochloa villosa*（Lam.）T. Q. Nguyen	NT	NT	EN	○							草地	本州・四国・九州・琉球		○
イネ	オニシバ	*Zoysia macrostachya* Franch. & Sav.	EN	EN								○	塩性湿地	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
メギ	ルイヨウボタン	*Caulophyllum robustum* Maxim.	EN	EN			○					○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
メギ	ヤチマタイカリソウ	*Epimedium grandiflorum* C. Morren var. *grandiflorum*	CR	CR	NT		○					○	林内	本州（近畿地方）・四国	○	
キンポウゲ	カワチブシ	*Aconitum grossdentatum*（Nakai）Nakai	VU	VU		○	○					○	林縁	本州・四国	○	○
キンポウゲ	コウライブシ	*Aconitum jaluense* Kom. ssp. *jaluense*	CR	CR	CR		○					○	林縁	本州・四国・九州	○	
キンポウゲ	ルイヨウショウマ	*Actaea asiatica* H. Hara	VU	VU		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
キンポウゲ	シコクフクジュソウ	*Adonis shikokuensis* Nishikawa & Koji Ito	EN	EN	VU		○					○	林縁	本州（近畿地方南部）・四国・九州	○	
キンポウゲ	ニリンソウ	*Anemone flaccida* F. Schmidt	EN	EN			○					○	林縁	北海道・本州・四国・九州	○	
キンポウゲ	ユキワリイチゲ	*Anemone keiskeana* T. Itô ex Maxim.	VU	VU			○					○	草地	本州・四国・九州	○	
キンポウゲ	ヤマオダマキ	*Aquilegia buergeriana* Siebold & Zucc. var. *buergeriana*	VU	VU			○					○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
キンポウゲ	エンコウソウ	*Caltha palustris* L. var. *enkoso* H. Hara	CR	CR			○	○				○	湿地	北海道・本州	○	
キンポウゲ	タカネハンショウヅル	*Clematis lasiandra* Maxim.	NT	NT			○						林縁	本州・四国・九州・琉球	○	
キンポウゲ	コウヤハンショウヅル※	*Clematis obvallata* (Ohwi) Tamura var. *obvallata*	EN	EN	CR		○			○		○	林縁	本州（紀伊山地）・四国	○	
キンポウゲ	カザグルマ	*Clematis patens* C. Morren & Decne.	CR	CR	NT		○					○	林縁	本州・四国・九州	○	
キンポウゲ	キイセンニンソウ	*Clematis uncinata* Champ. ex Benth. var. *ovatifolia* (T. Itô ex Maxim.) Ohwi ex Tamura	NT	NT			○			●			林縁	本州（紀伊半島南部）・九州	○	○
キンポウゲ	シロバナハンショウヅル	*Clematis williamsii* A. Gray	NT	NT			○						林縁	本州・四国・九州	○	○
キンポウゲ	コウヤシロカネソウ※	*Dichocarpum numajirianum* (Makino) W. T. Wang & P. K. Hsiao	EN	EN	EN	○	○			○		○	林内	本州・四国	○	○
キンポウゲ	ツルシロカネソウ	*Dichocarpum stoloniferum* (Maxim.) W. T. Wang & P. K. Hsiao	EN	EN		○	○					○	林内	本州		○
キンポウゲ	トウゴクサバノオ	*Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W. T. Wang & P. K. Hsiao	NT	NT		○						○	林内	本州・四国・九州	○	○
キンポウゲ	ミスミソウ	*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai	EN	EN	NT		○					○	林縁	本州・四国	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
キンポウゲ	オキナグサ	*Pulsatilla cernua*（Thunb.）Berchtold & J. Presl	CR	CR	VU	○	○					○	草地	本州・四国・九州	○	
キンポウゲ	ヒキノカサ	*Ranunculus ternatus* Thunb.	EX	EX	VU		○	○				○	湿地	本州・四国・九州	○	
ツゲ	ツゲ※	*Buxus microphylla* Siebold & Zucc. var. *japonica*（Müll. Arg. ex Miq.）Rehder & E. H. Wilson	VU	VU		○		○				○	特殊岩石地	本州・四国・九州・屋久島	○	
マンサク	コウヤミズキ	*Corylopsis gotoana* Makino	VU	NT		○							山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
マンサク	マンサク	*Hamamelis japonica* Siebold & Zucc.	VU	NT		○							山地・渓谷	本州・四国・九州	○	
カツラ	カツラ	*Cercidiphyllum japonicum* Siebold & Zucc. ex Hoffm. & Schult.	NT	NT		○							山地・渓谷	北海道・本州・四国・九州	○	○
ボタン	ヤマシャクヤク	*Paeonia japonica*（Makino）Miyabe & Takeda	EN	EN	NT		○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
スグリ	ヤシャビシャク	*Ribes ambiguum* Maxim.	EN	EN	NT		○					○	樹上着生	本州・四国・九州	○	○
スグリ	ヤブサンザシ	*Ribes fasciculatum* Siebold & Zucc.	EN	EN			○	○				○	山地・林縁	本州・四国・九州	○	○
ユキノシタ	キイハナネコノメ	*Chrysosplenium album* Maxim. var. *nachiense* H. Hara	VU	VU		○					○	○	山地・渓谷	本州（紀伊半島）		○
ユキノシタ	キシュウネコノメ	*Chrysosplenium macrostemon* Maxim. var. *calicitrapa*（Franch.）H. Hara	VU	VU		○					○	○	山地・渓谷	本州（紀伊半島）	○	
ユキノシタ	コガネネコノメソウ	*Chrysosplenium pilosum* Maxim. var. *sphaerospermum*（Maxim.）H. Hara	VU	VU		○						○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
ユキノシタ	センダイソウ	*Saxifraga sendaica* Maxim.	CR	CR	NT	○	○			○		○	岩上・岩隙地	本州（紀伊半島）・四国・九州		○
ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ	*Hylotelephium verticillatum*（L.）H. Ohba	EN	EN		○						○	岩上・岩隙地	北海道・本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ベンケイソウ	アオベンケイ	*Hylotelephium viride*（Makino）H. Ohba	CR	CR		○	○					○	岩上・岩隙地	本州・四国・九州	○	○
ベンケイソウ	ツメレンゲ	*Orostachys japonica* var. *bitchuensis*（Maxim.）A. Berger	VU	VU	NT	○	○					○	岩上・岩隙地	本州・四国・九州	○	○
タコノアシ	タコノアシ	*Penthorum chinense* Pursh	VU	VU	NT	○		○				○	湿地・河川敷	本州・四国・九州・奄美	○	○
アリノトウグサ	オグラノフサモ	*Myriophyllum oguraense* Miki	EN	VU	VU			○					池沼	本州・四国	○	
アリノトウグサ	タチモ	*Myriophyllum ussuriense*（Regel）Maxim.	NT	NT	NT	○		○					池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
アリノトウグサ	フサモ	*Myriophyllum verticillatum* L.	NT	NT				○					池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
ブドウ	ウドカズラ	*Nekemias cantoniensis*（Hook. & Arn.）J. Wen & Z. L. Nie	NT	NT		○							山地・林縁	本州・四国・九州		○
ブドウ	ヨコグラブドウ	*Vitis saccharifera* Makino var. *yokogurana*（Makino）Ohwi	DD									○	山地・林縁	本州・四国・九州		○
ミソハギ	ミズマツバ	*Rotala mexicana* Cham. & Schltdl.	NT	NT	VU	○		○					湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
ミソハギ	ミズキカシグサ	*Rotala rosea*（Poir.）C. D. K. Cook	CR	CR	VU	○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
ミソハギ	ヒメビシ	*Trapa incisa* Siebold & Zucc.	CR	EN	VU	○		○				○	池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
ミソハギ	オニビシ	*Trapa natans* L.	VU	VU		○		○				○	池沼	本州・四国・九州	○	
ノボタン	ヒメノボタン※	*Osbeckia chinensis* L.	CR	CR	VU		○			○		○	草地	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球		○
ハマビシ	ハマビシ	*Tribulus terrestris* L.	CR	CR	EN	○	○					○	海浜	本州・四国・九州		○
マメ	フジキ	*Cladrastis platycarpa*（Maxim.）Makino	CR	CR								○	山地	本州・四国	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
マメ	ユクノキ	*Cladrastis sikokiana*（Makino）Makino	NT	NT			○						山地	本州・四国・九州	○	○
マメ	タヌキマメ	*Crotalaria sessiliflora* L.	NT	NT		○							草地	本州・四国・九州・琉球	○	○
マメ	ミヤマトベラ	*Euchresta japonica* Hook. f. ex Maxim.	VU	VU		○						○	林内	本州・四国・九州	○	○
マメ	サイカチ	*Gleditsia japonica* Miq.	EN	EN								○	林縁	本州・四国・九州		○
マメ	レンリソウ	*Lathyrus quinquenervius*（Miq.）Litv.	CR	CR		○						○	草地	本州・九州		○
マメ	ヒメノハギ	*Leptodesmia microphylla*（Thunb.）H. Ohashi & K. Ohashi	EX	EX		○						○	草地	本州・四国・九州・琉球		○
マメ	イヌハギ	*Lespedeza tomentosa*（Thunb.）Siebold ex Maxim.	VU	VU	VU	○						○	河川・海岸	本州・四国・九州・琉球	○	○
マメ	マキエハギ	*Lespedeza virgata*（Thunb.）DC.	NT	NT		○							林縁・草地	本州・四国・九州・琉球	○	○
マメ	シマエンジュ	*Maackia tashiroi*（Yatabe）Makino	EN	EN		○				○		○	海岸	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球		○
マメ	ハカマカズラ※	*Phanera japonica*（Maxim.）H. Ohashi	EN	EN		○				○		○	林縁	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球	○	○
ヒメハギ	ヒナノカンザシ	*Salomonia ciliata*（L.）DC.	EX	EX		○		○				○	湿地	本州・四国・九州		○
バラ	ズミ	*Malus toringo*（Siebold）Siebold ex de Vriese	CR	CR			○					○	岩上・岩隙地	北海道・本州・四国・九州	○	
バラ	カワラサイコ	*Potentilla chinensis* Ser.	VU	VU		○	○					○	河川	本州・四国・九州	○	○
バラ	テリハキンバイ	*Potentilla riparia* Murata	VU	VU		○	○					○	河川	本州・四国		○
バラ	ヤマナシ	*Pyrus pyrifolia*（Burm. f.）Nakai	DD	NT			○						山地・林縁	本州・四国・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
バラ	ハスノハイチゴ	*Rubus peltatus* Maxim.	EN	EN	NT	○						○	林縁	本州・四国・九州		○
バラ	ハチジョウイチゴ	*Rubus ribisoideus* Matsum.	NT	NT		○							海岸・林縁	本州・伊豆諸島・四国・九州	○	○
バラ	コバナノワレモコウ	*Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link var. *parviflora* Maxim.	NT	NT		○	○						草地	本州・四国・九州	○	○
バラ	イブキシモツケ	*Spiraea dasyantha* Bunge	EN	EN		○	○	○				○	岩上・岩隙地	本州・四国・九州	○	○
バラ	ドロノシモツケ※	*Spiraea japonica* L. f. var. *ripensis* Kitam.	NT	NT		○	○			●		○	岩上・岩隙地	本州（紀伊半島・山口県・広島県）		○
バラ	イワシモツケ（キイシモツケ）	*Spiraea nipponica* Maxim. var. *nipponica*	NT	NT	NT		○	○				○	特殊岩石地	本州	○	
グミ	アリマグミ	*Elaeagnus murakamiana* Makino	EN	EN		○						○	林内	本州・四国	○	
グミ	コウヤグミ	*Elaeagnus numajiriana* Makino	VU	VU		○				○		○	林内	本州・四国	○	○
グミ	カツラギグミ	*Elaeagnus takeshitae* Makino	EN	EN	EN	○						○	林内	本州（近畿地方）	○	
クロウメモドキ	ヨコグラノキ	*Berchemiella berchemiifolia*（Makino）Nakai	CR	CR								○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	
クロウメモドキ	ハマナツメ	*Paliurus ramosissimus*（Lour.）Poir.	CR	CR	VU	○		○				○	海岸・塩性湿地	本州・四国・九州・琉球		○
クロウメモドキ	クロカンバ	*Rhamnus costata* Maxim.	EN	EN								○	山地・林内	本州・四国・九州		○
クロウメモドキ	クロウメモドキ	*Rhamnus japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim.	VU	VU		○						○	山地・林内	本州・四国・九州	○	○
ニレ	ハルニレ	*Ulmus davidiana* Planch. var. *japonica*（Rehder）Nakai	EN	EN		○							山地	北海道・本州・四国・九州	○	
アサ	コバノチョウセンエノキ	*Celtis biondii* Pamp.	EN	EN								○	山地	本州・四国・九州・琉球	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
クワ	アコウ※	*Ficus superba* (Miq.) Miq. var. *japonica* Miq.	NT	NT			○			○			海岸	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球	○	○
クワ	ケグワ	*Morus cathayana* Hemsl.	VU	VU		○						○	山地	本州・四国・九州	○	○
イラクサ	ハドノキ※	*Oreocnide pedunculata* (Shirai) Masam.	EN	EN		○				○			海岸	本州・四国・九州・琉球		○
イラクサ	ミヤコミズ	*Pilea kiotensis* Ohwi	VU	VU		○						○	林縁	本州・九州	○	
イラクサ	ソハヤキミズ※	*Pilea swinglei* Merr.	CR	CR	VU	○				●		○	岩上・岩隙地	本州（和歌山県）・四国・九州		○
イラクサ	ツルマオ	*Pouzolzia hirta* Blume ex Hassk.	CR	CR								○	路傍	本州・屋久島・種子島・琉球		○
イラクサ	ナガバイラクサ	*Urtica angustifolia* Fisch. ex Hornem. var. *sikokiana* (Makino) Ohwi	EX	EX								○	林内	本州・四国	○	
ウリ	オオカラスウリ	*Trichosanthes laceribractea* Hayata	EN	EN						○		○	海岸・林縁	本州（近畿地方）・四国・九州・琉球	○	○
ニシキギ	ウメバチソウ	*Parnassia palustris* L. var. *palustris*	VU	VU			○	○					湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
コミカンソウ	ヒトツバハギ	*Flueggea suffruticosa* (Pall.) Baill.	CR	CR		○						○	海岸	本州・四国・九州		○
アマ	マツバニンジン	*Linum stelleroides* Planch.	EN	EN	CR	○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
オトギリソウ	ミヤコオトギリ	*Hypericum kinashianum* Koidz.	DD									○	山地・渓谷	本州	○	○
オトギリソウ	アゼオトギリ	*Hypericum oliganthum* Franch. & Sav.	EN	EN	EN	○		○				○	湿地	本州・四国・九州	○	
スミレ	ナガバノスミレサイシン	*Viola bissetii* Maxim.	CR	CR			○			○		○	山地・渓谷	本州・四国・九州		○
スミレ	ホソバシロスミレ※	*Viola patrinii* DC. var. *angustifolia* Regel	EN	EN	VU		○					○	草地	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
スミレ	シコクスミレ	*Viola shikokiana* Makino	EN	EN			○					○	山地・渓谷	本州・四国・九州		○
アブラナ	カワチスズシロソウ	*Arabis flagellosa* Miq. var. *kawachiensis* S. Fujii	EN	EN	VU	○				○		○	山地・渓谷	本州（大阪府南部･和歌山県）	○	
アブラナ	ミツバコンロンソウ	*Cardamine anemonoides* O. E. Schulz	EN	EN								○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
アブラナ	ミズタガラシ	*Cardamine lyrata* Bunge	VU	VU		○		○				○	湿地	本州・四国・九州	○	
アブラナ	ユリワサビ	*Eutrema tenue*（Miq.）Makino	EN	EN		○						○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
ムクロジ	アサノハカエデ※	*Acer argutum* Maxim.	CR									○	山地	本州・四国	○	○
ムクロジ	カジカエデ	*Acer diabolicum* Blume ex K. Koch	CR	CR								○	林内	本州・四国・九州	○	
ムクロジ	メグスリノキ	*Acer maximowiczianum* Miq.	CR	CR								○	林内	本州・四国・九州	○	
ミカン	タチバナ※	*Citrus tachibana*（Makino）Tanaka	CR	CR	NT	○						○	林内	本州・四国・九州・琉球		○
ミカン	ハマセンダン	*Tetradium glabrifolium*（Champ. ex Benth.）T. G. Hartley var. *glaucum*（Miq.）T. Yamaz.	NT	NT		○							海岸	本州・四国・九州・琉球		○
アオイ	ハマボウ※	*Hibiscus hamabo* Siebold & Zucc.	NT	NT		○		○					塩性湿地	本州・四国・九州・奄美	○	○
アオイ	シナノキ	*Tilia japonica*（Miq.）Simonk.	CR	CR								○	林縁	北海道・本州・九州	○	○
ジンチョウゲ	コショウノキ	*Daphne kiusiana* Miq.	NT	NT		○							山地・林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
ジンチョウゲ	キガンピ	*Diplomorpha trichotoma*（Thunb.）Nakai	EN	EN								○	林内	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ツチトリモチ	ツチトリモチ	*Balanophora japonica* Makino	EN	EN		○	○		○			○	林内	本州・四国・九州・屋久島・琉球		○
ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	*Balanophora nipponica* Makino	EN	EN	VU		○		○			○	林内	本州・四国・九州	○	
オオバヤドリギ	オオバヤドリギ	*Taxillus yadoriki* (Siebold ex Maxim.) Danser	VU	VU			○		○			○	樹上着生	本州・四国・九州・琉球		○
イソマツ	ハマサジ	*Limonium tetragonum* (Thunb.) A. A. Bullock	VU	VU	NT	○		○				○	塩性湿地	本州・四国・九州		○
タデ	サイコクヌカボ	*Persicaria foliosa* (H. Lindb.) Kitag. var. *nikaii* (Makino) H. Hara	NT	NT	VU	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州	○	○
タデ	ヤナギヌカボ	*Persicaria foliosa* (H. Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H. Hara	CR	EN	VU	○		○				○	湿地・池沼	北海道・本州・四国・九州	○	○
タデ	サデクサ	*Persicaria maackiana* (Regel) Nakai	CR	CR		○		○				○	湿地	本州・四国・九州		○
タデ	ヌカボタデ	*Persicaria taquetii* (H. Lév.) Koidz.	EN	EN	VU	○		○				○	湿地・池沼	本州・四国・九州	○	○
タデ	シマヒメタデ※	*Persicaria tenella* (Blume) H. Hara	EN	EN				○		○		○	湿地・池沼	本州・九州・琉球		○
タデ	マダイオウ	*Rumex madaio* Makino	CR	CR								○	湿地	本州・四国・九州	○	
モウセンゴケ	イシモチソウ	*Drosera peltata* var. *nipponica* Buch. -Ham. ex DC.	EN	EN	NT	○	○	○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
モウセンゴケ	モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia* L.	EN	EN		○	○	○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
モウセンゴケ	コモウセンゴケ	*Drosera spatulata* Labill.	NT	NT		○	○	○					湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
ナデシコ	ヒメハマナデシコ	*Dianthus kiusianus* Makino	CR	CR		○				○		○	海岸	本州（和歌山県）・四国・九州・琉球		○
ナデシコ	ワチガイソウ	*Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax	EN	EN		○						○	林内	本州・四国・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ナデシコ	ナンバンハコベ	*Silene baccifera* (L.) Roth var. *japonica* (Miq.) H. Ohashi & H. Nakai	VU			○							草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ナデシコ	ウシオツメクサ	*Spergularia marina* (L.) Griseb.	EN	EN		○		○				○	塩性湿地	北海道・本州・九州		○
ナデシコ	ミヤマハコベ	*Stellaria sessiliflora* Y. Yabe	VU	VU		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ヒユ	イソフサギ※	*Blutaparon wrightii* (Hook. f. ex Maxim.) Mears	CR	CR		○				○		○	海岸	本州（和歌山県）・九州・種子島・屋久島・琉球		○
ヒユ	ハママツナ	*Suaeda maritima* (L.) Dumort. ssp. *asiatica* H. Hara	EN	EN		○		○				○	塩性湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
アジサイ	ギンバイソウ	*Hydrangea bifida* (Maxim.) Y. De Smet & Granados	VU	VU		○						○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	
アジサイ	シマユキカズラ※	*Hydrangea viburnoides* (Hook. f. & Thomson) Y. De Smet & Granados	CR	EN		○	○			●		○	林内・林縁	本州（和歌山県）・琉球		○
ツリフネソウ	ハガクレツリフネ	*Impatiens hypophylla* Makino	NT	NT		○				○		○	林内	本州（紀伊半島）・四国・九州	○	
サクラソウ	カラタチバナ	*Ardisia crispa* (Thunb.) A. DC.	VU	VU			○					○	山地・林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
サクラソウ	ルリハコベ	*Lysimachia arvensis* (L.) U. Manns & Anderb. var. *caerulea* (L.) Ryrland & Bergmeier	VU	VU						○		○	海岸	本州（紀伊半島）・伊豆諸島・四国・九州		○
サクラソウ	モロコシソウ	*Lysimachia sikokiana* Miq.	VU	VU		○						○	林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
サクラソウ	ミヤマコナスビ	*Lysimachia tanakae* Maxim.	NT	NT		○				○		○	山地・渓谷	本州（紀伊半島）・四国・九州		○
サクラソウ	クリンソウ	*Primula japonica* A. Gray	EN	EN			○					○	山地・渓谷	北海道・本州・四国	○	
サクラソウ	サクラソウ※	*Primula sieboldii* E. Morren	EX	EX	NT		○	○				○	湿地	北海道・本州・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ツバキ	ナツツバキ	*Stewartia pseudocamellia* Maxim.	VU	VU			○					○	林内	本州・四国・九州	○	○
ツバキ	ヒコサンヒメシャラ	*Stewartia serrata* Maxim.	CR	CR								○	林内	本州・四国・九州		○
ハイノキ	ハイノキ	*Symplocos myrtacea* Siebold & Zucc.	VU	VU								○	山地・林内	本州・四国・九州	○	○
イワウメ	ヒメイワカガミ	*Schizocodon ilicifolius* Maxim.	VU	VU			○	○				○	岩上・岩隙地	本州		○
エゴノキ	ハクウンボク	*Styrax obassia* Siebold & Zucc.	VU	VU								○	山地	北海道・本州・四国・九州	○	
マタタビ	シマサルナシ※	*Actinidia rufa*（Siebold & Zucc.）Planch. ex Miq.	VU	VU		○						○	海岸・林縁	本州・四国・九州・琉球		○
ツツジ	ホツツジ	*Elliottia paniculata*（Siebold & Zucc.）Hook. f.	VU	VU			○					○	山地	北海道・本州・四国・九州		○
ツツジ	イワナシ	*Epigaea asiatica* Maxim.	EN	EN		○	○			○		○	山地・林縁	北海道・本州	○	○
ツツジ	シャクジョウソウ	*Hypopitys monotropa* Crantz	EN	DD								○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
ツツジ	レンゲツツジ	*Rhododendron molle*（Blume）G. Don ssp. *japonicum*（A. Gray）K. Kron	EN	EN								○	山地	本州・四国・九州	○	○
ツツジ	アケボノツツジ	*Rhododendron pentaphyllum* Maxim. var. *shikokianum* T. Yamaz.	NT	NT			○			○		○	山地	本州（紀伊半島）・四国		○
マチン	ヒメナエ	*Mitrasacme indica* Wight	CR	CR	VU			○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球		○
マチン	アイナエ	*Mitrasacme pygmaea* R. Br.	VU	VU				○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
アカネ	キヌタソウ	*Galium kinuta* Nakai & H. Hara	VU	VU		○						○	林内	本州・四国・九州	○	
アカネ	シチョウゲ※	*Leptodermis pulchella* Yatabe	NT	NT	NT	○	○			○		○	山地・渓谷	本州（紀伊半島）・四国		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
アカネ	ヒロハコンロンカ	*Mussaenda shikokiana* Makino	VU	VU		○	○					○	林内	本州・四国・九州		○
アカネ	サツマイナモリ	*Ophiorrhiza japonica* Blume	VU	VU			○					○	山地・渓谷	本州・四国・九州・琉球	○	○
アカネ	シラタマカズラ※	*Psychotria serpens* L.	VU	VU						○		○	林内	本州（和歌山県）・四国・九州・琉球		○
アカネ	オオキヌタソウ	*Rubia chinensis* Regel & Maack	VU	VU								○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
アカネ	クルマバアカネ	*Rubia cordifolia* L. var. *lancifolia* Regel	NT	NT						○			林縁	本州・四国・九州	○	○
アカネ	ヤマトグサ	*Theligonum japonicum* Okubo & Makino	EN	EN		○						○	林内	本州・四国・九州	○	
リンドウ	ムラサキセンブリ	*Swertia pseudochinensis* H. Hara	VU	VU	NT	○						○	草地	本州・四国・九州	○	○
リンドウ	イヌセンブリ	*Swertia tosaensis* Makino	VU	VU	VU	○		○				○	湿地	本州・四国・九州	○	○
キョウチクトウ	チョウジソウ	*Amsonia elliptica*（Thunb.）Roem. & Schult.	EN	EN	NT	○		○				○	湿地	北海道・本州・九州	○	○
キョウチクトウ	イケマ	*Cynanchum caudatum*（Miq.）Maxim.	NT	NT		○							林縁	北海道・本州・四国・九州	○	○
キョウチクトウ	キジョラン	*Marsdenia tomentosa* C. Morren & Decne.	NT	NT		○							林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
キョウチクトウ	チョウジカズラ	*Trachelospermum asiaticum*（Siebold & Zucc.）Nakai var. *majus*（Nakai）Ohwi	EN	EN		○						○	海岸	本州・四国・九州		○
キョウチクトウ	フナバラソウ	*Vincetoxicum atratum*（Bunge）C. Morren & Decne.	VU	VU	VU	○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
キョウチクトウ	タチカモメヅル	*Vincetoxicum glabrum*（Nakai）Kitag.	NT	NT		○							草地	本州・四国・九州	○	○
キョウチクトウ	クサナギオゴケ	*Vincetoxicum katoi*（Ohwi）Kitag.	EN	EN	VU	○						○	林縁	本州・四国		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
キョウチクトウ	スズサイコ	*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.	NT	NT	NT	○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
ムラサキ	サワルリソウ	*Ancystrocarya japonica* Maxim.	CR	CR		○						○	山地	本州・四国・九州	○	
ムラサキ	マルバチシャノキ	*Ehretia dicksonii* Hance	NT	NT		○						○	海岸・林縁	本州・四国・九州・琉球		○
ムラサキ	スナビキソウ	*Heliotropium japonicum* A. Gray	EX	EX		○						○	海浜	北海道・本州・九州	○	
ムラサキ	ムラサキ	*Lithospermum erythrorhizon* Siebold & Zucc.	EX	EX	EN		○					○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
ヒルガオ	ノアサガオ※	*Ipomoea indica*（Burm.）Merr.	EN	EN		○				○		○	海岸	本州・四国・九州・琉球		○
ナス	メジロホオズキ	*Lycianthes biflora*（Lour.）Bitter	VU	VU		○						○	海岸・林縁	本州・四国・九州・琉球	○	○
ナス	ヤマホオズキ	*Physaliastrum chamaesarachoides*（Makino）Makino	VU	VU	EN	○						○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	
ナス	アオホオズキ	*Physaliastrum japonicum*（Franch. & Sav.）Honda	EN	EN	VU	○						○	山地・林内	本州・四国・九州	○	
ナス	ハシリドコロ	*Scopolia japonica* Maxim.	NT	NT		○							林内	本州・四国・九州	○	
ナス	マルバハダカホオズキ	*Tubocapsicum anomalum*（Franch. & Sav.）Makino var. *obtusum* Makino	CR	CR		○						○	海岸	本州・四国・九州・琉球	○	○
モクセイ	シオジ	*Fraxinus platypodo* Oliv.	VU	VU		○						○	山地	本州・四国・九州		○
イワタバコ	シシンラン	*Lysionotus pauciflorus* Maxim.	CR	CR	VU	○	○					○	樹上着生	本州・四国・九州		○
イワタバコ	イワギリソウ	*Opithandra primuloides*（Miq.）B. L. Burtt	CR	CR	VU	○	○					○	樹上着生	本州・四国・九州	○	
オオバコ	マルバノサワトウガラシ	*Deinostema adenocaulum*（Maxim.）T. Yamaz.	EN	EN	VU	○		○				○	湿地	本州・四国・九州		○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
オオバコ	オオアブノメ	*Gratiola japonica* Miq.	EX	EX	VU	○		○				○	湿地	本州・九州	○	
オオバコ	シソクサ	*Limnophila chinensis* (Osbeck) Merr. ssp. *aromatica* (Lam.) T. Yamaz.	VU	VU		○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
オオバコ	ウンラン	*Linaria japonica* Miq.	EX	EX		○						○	海浜	北海道・本州	○	
オオバコ	ハマクワガタ	*Veronica javanica* Blume	EN	EN	VU	○						○	海浜	本州・四国・九州・琉球		○
オオバコ	ホソバヒメトラノオ※	*Veronica linariifolia* Pall. ex Link	CR	CR	EN	○						○	草地	本州・四国・九州	○	
オオバコ	クワガタソウ（コクワガタ）	*Veronica miqueliana* Nakai	VU	VU		○						○	林内	本州・四国・九州	○	
オオバコ	イヌノフグリ	*Veronica polita* Fr. ssp. *lilacina* (T. Yamaz.) T. Yamaz.	DD	VU	VU	○						○	路傍	本州・四国・九州・琉球	○	○
オオバコ	カワヂシャ	*Veronica undulata* Wall.	NT	NT	NT	○		○					湿地・河川敷	本州・四国・九州・琉球	○	○
オオバコ	ナンゴククガイソウ	*Veronicastrum japonicum* (Nakai) T. Yamaz. var. *australe* (T. Yamaz.) T. Yamaz.	EX	EX	VU							○	草地	本州・四国・九州	○	
オオバコ	キノクニスズカケ※	*Veronicastrum tagawae* (Ohwi) T. Yamaz.	EN	EN	VU	○					●	○	林内・林縁	紀伊半島南部（和歌山県）		○
ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	*Scrophularia buergeriana* Miq.	CR	CR	VU	○						○	草地	本州・四国・九州	○	
ゴマノハグサ	オオヒナノウスツボ	*Scrophularia kakudensis* Franch.	VU	VU		○						○	山地・林縁	北海道・本州・四国・九州	○	○
アゼナ	シソバウリクサ	*Vandellia setulosa* (Maxim.) T. Yamaz.	NT	NT		○				○			草地	本州（紀伊半島）・四国・奄美		○
シソ	カワミドリ	*Agastache rugosa* (Fisch. & C. A. Mey.) Kuntze	VU			○							草地・林縁	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
シソ	オウギカズラ	*Ajuga japonica* Miq.	NT	NT		○						○	山地・林縁	本州・四国・九州	○	○
シソ	ジュウニヒトエ	*Ajuga nipponensis* Makino	EN	EN		○						○	林縁・林内	本州・四国	○	
シソ	ツルカコソウ（ケブカツルカコソウ）	*Ajuga shikotanensis* Miyabe & Tatew.	EN	EN	VU	○						○	海岸・草地	本州		○
シソ	ニシキゴロモ	*Ajuga yezoensis* Maxim. ex Franch. & Sav.	EN	EN		○						○	山地・林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	トサムラサキ	*Callicarpa shikokiana* Makino	EN	EN	VU					○		○	林内	本州・四国・九州	○	○
シソ	タニジャコウソウ	*Chelonopsis longipes* Makino	VU	VU	NT	○						○	山地・林内	本州・四国・九州	○	○
シソ	ジャコウソウ	*Chelonopsis moschata* Miq.	VU	NT		○						○	山地・林内	北海道・本州・四国・九州		○
シソ	シモバシラ	*Keiskea japonica* Miq.	EN	EN		○						○	林縁	本州・四国・九州		○
シソ	マネキグサ	*Loxocalyx ambiguus*（Makino）Makino	VU	VU	NT	○						○	林内	本州・四国・九州	○	
シソ	ヒメシロネ	*Lycopus maackianus*（Maxim. ex Herder）Makino	EN			○							湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	オチフジ※	*Meehania montis-koyae* Ohwi	EX	CR	VU	○	○			●		○	林内	本州（近畿地方）	○	
シソ	ラショウモンカズラ	*Meehania urticifolia*（Miq.）Makino	VU	VU		○	○					○	林内	本州・四国・九州	○	
シソ	ヒメハッカ	*Mentha japonica*（Miq.）Makino	CR	CR	NT	○		○				○	湿地	北海道・本州		○
シソ	ヤマジソ	*Mosla japonica*（Benth. ex Oliv.）Maxim. var. *japonica*	EN	EN	NT	○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	
シソ	トラノオジソ	*Perilla hirtella* Nakai	EN	EN		○						○	海岸・林縁	本州・四国・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
シソ	スズコウジュ	*Perillula reptans* Maxim.	VU	VU		○						○	山地	本州・四国・九州・琉球		○
シソ	ミズネコノオ	*Pogostemon stellatus*（Lour.）Kuntze	NT	NT	NT	○		○					湿地	本州・四国・九州・奄美諸島	○	○
シソ	ミゾコウジュ	*Salvia plebeia* R. Br.	VU	VU	NT	○		○				○	湿地・河川	本州・四国・九州・琉球	○	
シソ	ヒメナミキ	*Scutellaria dependens* Maxim.	EN	EN		○		○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	コナミキ	*Scutellaria guilielmii* A. Gray	CR	CR	VU	○						○	林内	本州・四国・九州・琉球	○	○
シソ	シソバタツナミ	*Scutellaria laeteviolacea* Koidz.	NT			○							林縁	本州・四国・九州	○	○
シソ	ヤマタツナミソウ	*Scutellaria pekinensis* Maxim. var. *transitra*（Makino）H. Hara	EN	EN		○						○	林内	北海道・本州・四国・九州	○	○
シソ	ミヤマナミキ	*Scutellaria shikokiana* Makino	VU	VU		○						○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
ハエドクソウ	スズメノハコベ	*Microcarpaea minima*（K. D. Koenig ex Retz.）Merr.	EN	EN		○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
ハマウツボ	オオナンバンギセル	*Aeginetia sinensis* G. Beck.	VU	VU		○			○			○	草地	本州・四国・九州	○	○
ハマウツボ	ゴマクサ	*Centranthera cochinchinensis*（Lour.）Merr. ssp. *lutea*（H. Hara）H. Hara	EN	EN	VU	○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
ハマウツボ	オオママコナ	*Melampyrum macranthum* Murata	CR	CR		○					●	○	林内	本州（和歌山県）		○
ハマウツボ	ハマウツボ	*Orobanche coerulescens* Stephan ex Willd.	EN	EN	VU	○			○			○	海浜	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
ハマウツボ	シオガマギク	*Pedicularis resupinata* L. ssp. *oppositifolia*（Miq.）T. Yamaz.	VU			○							草地	北海道・本州・四国・九州	○	
ハマウツボ	キヨスミウツボ	*Phacellanthus tubiflorus* Siebold & Zucc.	EN	EN		○			○			○	山地・林内	北海道・本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ハマウツボ	ヒキヨモギ	*Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook. & Arn.	EN	EN								○	林縁	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
ハマウツボ	オオヒキヨモギ	*Siphonostegia laeta* S. Moore	NT	NT	VU	○							林縁	本州・四国	○	○
タヌキモ	ノタヌキモ	*Utricularia aurea* Lour.	EN	EN	VU	○		○				○	池沼	本州・四国・九州・琉球	○	○
タヌキモ	ミミカキグサ	*Utricularia bifida* L.	VU	VU		○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
タヌキモ	ホザキノミミカキグサ	*Utricularia caerulea* L.	EN	EN		○		○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
タヌキモ	フサタヌキモ	*Utricularia dimorphantha* Makino	EX	EX	EN	○		○				○	池沼	本州		○
タヌキモ	ミカワタヌキモ（イトタヌキモ）	*Utricularia exoleta* R. Br.	EN	EN	VU	○		○				○	池沼	本州・九州・琉球	○	○
クマツヅラ	イワダレソウ	*Phyla nodiflora* (L.) Greene	EN	EN		○						○	海浜	本州・四国・九州・琉球		○
クマツヅラ	クマツヅラ	*Verbena officinalis* L.	NT			○							路傍	本州・九州・琉球	○	○
モチノキ	ツゲモチ※	*Ilex goshiensis* Hayata	NT	NT						○		○	林内	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球	○	○
キキョウ	ツルギキョウ	*Campanumoea javanica* (Blume) Hook. f. & Thomson var. *japonica* (Makino) Lammers	EN	VU	VU	○	○					○	山地・渓谷	本州・四国・九州	○	○
キキョウ	キキョウ	*Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A. DC.	VU	NT	VU	○	○						草地	北海道・本州・四国・九州・奄美	○	○
ミツガシワ	ヒメシロアサザ※	*Nymphoides coreana* (H. Lév.) H. Hara	EN	EN	VU	○		○				○	池沼	本州・四国・九州・琉球		○
ミツガシワ	ガガブタ	*Nymphoides indica* (L.) Kuntze.	VU	VU	NT	○		○				○	池沼	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
ミツガシワ	アサザ	*Nymphoides peltata*（S. G. Gmel.）Kuntze	CR	EN	NT	○		○				○	池沼	本州・四国・九州	○	
キク	ヒロハテイショウソウ	*Ainsliaea cordifolia* Franch. & Sav. var. *maruoi*（Makino）Makino ex Kitam.	EN	EN								○	草地	本州・四国		○
キク	ホソバノヤマハハコ	*Anaphalis margaritacea*（L.）Benth. & Hook. f. var. *angustifolia*（Franch. & Sav.）Hayata	NT	NT		○	○						草地	本州・四国・九州	○	○
キク	フクド	*Artemisia fukudo* Makino	CR	EN	NT	○		○				○	塩性湿地	本州・四国・九州	○	○
キク	ミヤマヨメナ	*Aster savatieri* Makino	VU	VU		○						○	林内	本州・四国・九州	○	
キク	ホソバノギク※	*Aster sohayakiensis* Koidz.	EN	EN	VU	○	○	○			○	○	岩上・岩隙地	本州（紀伊半島南部）		○
キク	クルマギク※	*Aster tenuipes* Makino	EN	EN	EN	○	○				●	○	岩上・岩隙地	本州（和歌山県南部）		○
キク	オケラ	*Atractylodes ovata*（Thunb.）DC.	EN	EN		○	○					○	林縁	本州・四国・九州	○	○
キク	キノクニシオギク（キイシオギク）※	*Chrysanthemum kinokuniense*（Shimot. & Kitam.）H. Ohashi & Yonek.	NT	NT		○					○		海岸	本州（紀伊半島南部）		○
キク	モリアザミ	*Cirsium dipsacolepis*（Maxim.）Matsum.	EN	EN		○						○	草地	本州・四国・九州	○	
キク	イズハハコ	*Conyza japonica*（Thunb.）Less.	NT	NT	VU	○							岩上・岩隙地	本州・四国・九州・琉球		○
キク	ヨツバヒヨドリ	*Eupatorium glehnii* F. Schmidt ex Trautv.	EN	EN		○						○	林縁	北海道・本州・四国・九州	○	○
キク	ヤマヒヨドリバナ	*Eupatorium variabile* Makino	EN									○	林縁	本州・四国・九州・琉球	○	○
キク	アキノハハコグサ	*Graphalium hypoleucum*（DC.）Hilliard & B. L. Burtt	CR	DD	EN	○						○	山地	本州・四国・九州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
キク	スイラン	*Hololeion krameri* (Franch. & Sav.) Kitam.	NT	NT		○		○					湿地	本州・四国・九州	○	○
キク	オグルマ	*Inula britannica* L. ssp. *japonica* (Thunb.) Kitam.	EN	EN		○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
キク	カセンソウ	*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.	VU	VU		○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
キク	ホソバニガナ	*Ixeridium beauverdianum* (H. Lév.) Springate	CR	CR	EN	○						○	草地	本州・四国・九州		○
キク	ドロニガナ※	*Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev ssp. *kitayamense* (Murata) Pak & Kawano	NT	NT	VU	○					○		岩上・岩隙地	本州（紀伊半島南部）		○
キク	タカサゴソウ	*Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai ssp. *strigosa* (H. Lév. & Vaniot) Kitam.	VU	VU	VU	○						○	草地	本州・四国・九州	○	○
キク	ノニガナ	*Ixeris polycephala* Cass.	EN	EN		○						○	草地	本州・四国・九州	○	
キク	ハマニガナ	*Ixeris repens* (L.) A. Gray	EN	EN		○						○	海浜	北海道・本州・四国・九州・琉球		○
キク	テバコモミジガサ	*Japonicalia tebakoensis* (Makino) C. Ren & Q. E. Yang	NT	NT		○							山地・林内	本州・四国・九州	○	○
キク	マルバダケブキ	*Ligularia dentata* (A. Gray) H. Hara	CR	CR		○						○	林内	本州・四国		○
キク	オオハマグルマ※	*Melanthera robusta* (Makino) K. Ohashi & H. Ohashi	EN	EN		○				○		○	海岸	本州（紀伊半島）・四国・九州・琉球		○
キク	ヒメコウモリソウ	*Parasenecio shikokianus* (Makino) H. Koyama	CR	CR	VU	○				○		○	山地	本州（紀伊半島）・四国		○
キク	カシワバハグマ	*Pertya robusta* (Maxim.) Makino	NT	NT		○							林縁	本州・四国・九州	○	
キク	ミヤコアザミ	*Saussurea maximowiczii* Herder	EN	EN		○						○	草地	本州・四国・九州	○	

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
キク	ヒメヒゴタイ	*Saussurea pulchella*（Fisch. ex Hornem.）Fisch.	EN	EN	VU	○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
キク	キクアザミ	*Saussurea ussuriensis* Maxim.	EN	EN		○						○	草地	本州・九州	○	
キク	タイキンギク	*Senecio scandens* Buch. -Ham. ex D. Don	NT	NT	NT		○			○			海岸・草地	本州（紀伊半島南部）・四国	○	○
キク	タムラソウ	*Serratula coronata* L. ssp. *insularis*（Iljin）Kitam.	VU	VU		○						○	山地・草地	本州・四国・九州	○	○
キク	クマノギク※	*Sphagneticola calendulacea*（L.）Pruski	VU	VU		○						○	草地	本州・四国・九州・琉球		○
キク	ハバヤマボクチ	*Synurus excelsus*（Makino）Kitam.	EN	EN								○	草地	本州・四国・九州	○	
キク	サワオグルマ	*Tephroseris pierotii*（Miq.）Holub	VU	VU		○		○				○	湿地	本州・四国・九州・琉球	○	○
キク	ウラギク	*Tripolium pannonicum*（Jacq.）Dobrocz.	VU	VU	NT	○		○				○	塩性湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
キク	オナモミ	*Xanthium strumarium* L. ssb. *sibiricum*（Patrin ex Widder）Greuter	EX	EX	VU	○						○	路傍	北海道・本州・四国・九州・琉球	○	○
スイカズラ	ナベナ	*Dipsacus japonicus* Miq.	VU			○							山地	本州・四国・九州	○	
スイカズラ	ウスバヒョウタンボク	*Lonicera cerasina* Maxim.	NT	NT	VU	○							林内・林縁	本州・四国・九州	○	
スイカズラ	オミナエシ	*Patrinia scabiosaefolia* Link	NT	NT		○	○						草地	北海道・本州・四国・九州	○	○
スイカズラ	キンレイカ	*Patrinia triloba*（Miq.）Miq. var. *palmata*（Maxim.）H. Hara	EN	EN		○						○	山地	本州・九州		○
スイカズラ	マツムシソウ	*Scabiosa japonica* Miq. var. *japonica*	EN	EN		○	○					○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
スイカズラ	タニウツギ	*Weigela hortensis*（Siebold & Zucc.）K. Koch	DD	CR								○	山地・林縁	北海道・本州	○	○

植物（維管束植物）の一覧表

科　名	和　名	学　　名	和歌山県		国	選定理由							生育環境	国内分布	県内分布	
			2022	2012	2020	環境悪化	採取伐採	特殊環境	特殊生態	特殊分布	固有性	希少性			紀北	紀南
スイカズラ	イワツクバネウツギ	*Zabelia integrifolia* (Koidz.) Makino ex Ikuse & S. Kuros.	CR	CR	VU	○		○				○	特殊岩石地	本州・四国・九州	○	
ウコギ	ミヤマウコギ	*Eleutherococcus trichodon* (Franch. & Sav.) H. Ohashi	EN	EN		○						○	山地・林内	本州・四国	○	○
セリ	ノダケ	*Angelica decursiva* (Miq.) Franch. & Sav.	NT	NT		○						○	林縁	本州・四国・九州	○	○
セリ	アシタバ	*Angelica keiskei* (Miq.) Koidz.	DD	NT			○						海岸・林縁	本州・伊豆諸島・小笠原		○
セリ	カワゼンゴ※	*Angelica tenuisecta* (Makino) Makino var. *tenuisecta*	VU	VU	VU		○				○	○	岩上・岩隙地	本州（紀伊半島南部）		○
セリ	ミシマサイコ	*Bupleurum stenophyllum* (Nakai) Kitag.	CR	CR	VU		○					○	草地	本州・四国・九州	○	○
セリ	カワラボウフウ	*Kitagawia terebinthacea* (Fisch. ex Trevir.) Pimenov	VU	VU		○						○	草地	北海道・本州・四国・九州	○	
セリ	ボタンボウフウ	*Peucedanum japonicum* Thunb. var. *japonicum*	CR	CR		○						○	海岸	本州・四国・九州・琉球		○
セリ	キイウマノミツバ※	*Sanicula lamelligera* Hance var. *wakayamensis* (Masam.) Murata	CR	CR	CR		○				●	○	林内	本州（和歌山県）	○	
セリ	ムカゴニンジン	*Sium ninsi* L.	VU	VU				○				○	湿地	北海道・本州・四国・九州	○	○
セリ	カノツメソウ	*Spuriopimpinella calycina* (Maxim.) Kitag.	CR									○	林内	本州・四国・九州	○	

主な植物（維管束植物）の解説

ヒモヅル　*Lycopodium casuarinoides* Spring　ヒカゲノカズラ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

主茎が伸びてつる状となり樹幹や枝に絡みついて生育する常緑のシダ植物。山地の明るい林内や林縁部に生育する。葉は先端が糸状に伸び、茎に圧着する。胞子のう穂は枝端につく。有田川町に記録がある。絶滅要因として、元々、産地が局限されており、生育地の環境変化によって絶滅したと考えられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　海老原淳．2016．日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ．475pp．学研プラス，東京．
2　中嶌章和・瀬戸　剛・佐久間大輔 編．1997．真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録．118pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集．大阪市立自然史博物館，大阪．
3　小川由一．1952．ヒモヅルは紀州にも産する．植物分類・地理．14 (5)：163–164.
4　山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会．2010．和歌山県絶滅危惧植物目録（1）シダ植物門．和歌山県立自然博物館館報，(28)：41–55.

サクラソウ　*Primula sieboldii* E. Morren　サクラソウ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅（EX）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

山地の湿った草地に生育する多年草。全体に白色の長い縮毛が生える。葉身は長卵形～卵状長楕円形で長い葉柄がある。花は 4~5 月、花茎の先に散形状につける。がくは筒状、花冠は紅紫色で花喉部は白い。高野町に記録がある。絶滅要因として、産地が局限されていたことに加えて、園芸目的の採取の他、乾燥化による生育環境の変化や他種の植物との競合が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）



参考文献・情報

1　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．

写真：山本修平提供

オチフジ　*Meehania montis-koyae* Ohwi　シソ科

県カテゴリー	絶滅（EX）	旧県	2012	絶滅危惧ⅠA類（CR）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

和歌山県北部と兵庫県に分布域が限られる小形の多年生草本。全体にカメムシ様の臭いがある。葉は小さく、長さ 2~4 cm、三角状心形。4~5 月、葉の上部に数個の赤紫色の花をつける。高野町に記録がある。絶滅要因として、極めて個体数が少なく、園芸用採取及び森林環境の改変が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）



参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．

写真：山本修平提供

ヘゴ　*Cyathea spinulosa* Wall. ex Hook.　ヘゴ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	−



選定理由

海岸近くの湿度の高い林内に生育する木生のシダ植物。直立する茎は高さ 4 m に達する。葉身は 3 回羽状深裂。茎の上部に枯れた葉柄の基部が残る。茎は保水性があり、ヘゴ板として山野草栽培に用いられることから採取の対象となる。和歌山県は分布の限界にあたり、田辺市、那智勝浦町及びすさみ町に記録があるが、かつては新宮市にも分布していた。減少要因として、産地が局限されていることに加え、園芸目的の採取が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　海老原淳．2016．日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ．475pp．学研プラス，東京．
2　中嶌章和・瀬戸　剛・佐久間大輔 編．1997．真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録．118pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集．大阪市立自然史博物館，大阪．
3　山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会．2010．和歌山県絶滅危惧植物目録（1）シダ植物門．和歌山県立自然博物館館報，（28）：41–55．

写真：瀧野秀二提供

オニバス　*Euryale ferox* Salisb.　スイレン科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

水面に葉を広げて生活する一年生の浮葉植物。やや富栄養化した湖沼、ため池に生育する。鋭い刺が全体にあり、特に葉の両面脈上の刺は顕著。茎は塊状、葉は根生し、浮葉の直径は 0.3~1.5 m に達する。開花期は 8~9 月で、水中で自家受粉する閉鎖花と水面上で頂生する開放花とがある。種子は長期にわたり休眠するため発生する個体数の年変動が激しい。和歌山市、紀の川市及び田辺市に記録がある。減少要因として、ため池や池沼の管理の変化や放棄、水質汚濁が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　後藤岳志．2008．オニバスの新産地．くろしお，（27），13．
2　山元　晃．1995．和歌山県北部に見られるため池の水草．和歌山県立自然博物館館報，（13）：33–48．

写真：和歌山県立自然博物館提供

タキユリ　*Lilium speciosum* Thunb. var. *clivorum* S. Abe & T. Tamura　ユリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

山地の岩崖に下垂して生育する多年生草本。葉は卵状披針形で長さ 10~18 cm、短い葉柄がある。花期は 8~9 月、白地に紅色の鹿の子状の斑点を持つ花被片が著しく反り返る。これまで長崎県及び四国からのみ記録されており、和歌山県は分布の東限にあたる。古座川町から記録があるが、産地が局限されており、個体数も極めて少なく、園芸目的の採取の恐れが非常に大きい。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　大橋広好・門田裕一・木原　浩・邑田　仁・米倉浩司．2015．改訂新版　日本の野生植物 1　ソテツ科～カヤツリグサ科．666pp．平凡社，東京．
2　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158．

ヤクシマアカシュスラン　*Hetaeria yakusimensis* (Masam.) Ormerod　ラン科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

常緑樹林内に生える多年生草本。地下茎の節から発根し、地表面を匍匐する。花茎を合わせた草丈は10~25 cm、全体無毛、葉は倒卵形、互生するが放射状に集まってつく。表面に微突起がありビロード状で乾くと赤変する。白浜町及び新宮市に記録がある。減少要因として、園芸を目的とした採取が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）



参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　山本修平．2013．和歌山県絶滅危惧植物（2）種子植物予報．南紀生物，55（2）：131–136.

写真：和歌山県立自然博物館提供

コウヤハリスゲ　*Carex koyaensis* J. Oda & Nagam.　カヤツリグサ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	−

選定理由

林内または林縁部の陽湿地に生育する。根茎が長く横走する小形の草本で、草丈 10~20 cm、葉はやわらかく反曲し、幅 1~2 mm、横断面はＶ字形または鋭３稜形。ハリガネスゲより少数花で、果実表皮細胞の構造が特徴的である。高野町に記録があるが、生育地及び個体数が極めて少ない。

執筆者（植物・植物群落専門部会）



参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　Oda, J. & Nagamasu, H. 2008. Two new species of *Carex* sect. Capitellatae (Cyperaceae) from Japan. Acta Phytotax. Geobot. 59 (1)：55–66.
3　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158.
4　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山.

写真：和歌山県立自然博物館提供

ハイキビ　*Panicum repens* L.　イネ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	−

選定理由

海岸近くの砂地に長い地下茎を伸長させて群落状に生育する多年草。全体的に硬質で淡緑色、葉は線形、葉縁はゆるく内曲する。花序は長さ 15~25 cm、小穂は淡緑白色で長さ約 3 mm、狭卵状長楕円形で先が鋭頭になる。美浜町及び那智勝浦町に記録がある。産地が極めて少なく、海岸域の改変や護岸工事等によって、容易に絶滅の恐れがある。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　藤井伸二．2007．近畿地方におけるハイキビ２例目の産地．分類，7（1）：39–42.
2　村田　源・山本修平．2002．ハイキビ（イネ科）を和歌山県に記録する．南紀生物，44（2）：123–124.

ヒメノボタン　*Osbeckia chinensis* L.　ノボタン科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

日当たりの良い草地に生える多年生草本または半低木。茎は直立し、高さ 10~60 cm、4 稜があり、伏剛毛を持つ。葉は対生、短い葉柄があり、線形～披針形、全縁で先は鈍形か鋭形、長さ 2~6 cm、幅 3~15 cm、よく目立つ 3~5 本の平行脈がある。花期は 8~9 月、紅紫色、稀に白色の花を 2~10 個つける。新宮市に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取及び草地の管理放棄に伴う植生遷移が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　内藤麻子．2019．和歌山県産野生植物分布資料（1）．和歌山県立自然博物館館報，（37）：75–85．

写真：瀧野秀二提供

ソハヤキミズ　*Pilea swinglei* Merr.　イラクサ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

湿った岩上等に生育する小形で軟弱な一年生草本。草丈は 4~12 cm、葉は広卵形で 3 脈が目立つ。葉身の基部は円形～やや心形、鈍鋸歯がある。5~10 mm の花柄を持つ点が類似種のコケミズとの区別点である。新宮市に記録がある。産地が局限されており、個体数も極めて少ない。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　内藤麻子・瀧野秀二・谷関俊男・高須英樹・藤井伸二．2015．和歌山県におけるソハヤキミズ（イラクサ科）の再発見と新産地．南紀生物，57（2）：115–116．

写真：和歌山県立自然博物館提供

アサノハカエデ　*Acer argutum* Maxim.　ムクロジ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

渓谷林に生育する落葉小高木。凹んだ葉脈の様子がアサの葉に似ることから和名がある。葉は対生で掌状、春に開花し、秋に翼果をつけるが、大形個体が少なく、開花する成熟個体を確認することができていない。日本固有種で、和歌山県の分布は本州南限となる。有田川町及び田辺市に記録があるが、産地が局限されている上、個体数が極めて少ない。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　内藤麻子．2021．和歌山県産野生植物分布資料（3）．和歌山県立自然博物館館報，（39）：67–74．
2　岡本省吾．1941．和歌山演習林植物誌．京都帝国大學演習林報告，（14）：1–220．

写真：和歌山県立自然博物館提供

タチバナ　*Citrus tachibana* (Makino) Tanaka　ミカン科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



高さ 3~5 m の常緑小高木で、栽培種のミカンに似る。沿海地の林縁等に生育する。若枝は緑色で 2~3 稜があり、鋭い棘を持つ。葉は互生、複葉であるが側小葉が退化し、単葉状となる。花期は 5~6 月、花は両性で花弁は 5 枚、白色で芳香がある。秋に黄熟する果実は扁平な球形で長さ 2~2.5 cm、直径 2.5~3 cm で、多汁であるが生食は不可。みなべ町及び白浜町の記録の他、県内数箇所から分布情報があるが、本来の自生かどうか定かではない。減少要因として、園芸用採取及び森林伐採が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　内藤麻子．2020．和歌山県産野生植物分布資料（2）．和歌山県立自然博物館館報，（38）：51-62．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
写真：瀧野秀二提供

イソフサギ　*Blutaparon wrightii* (Hook. f. ex Maxim.) Mears　ヒユ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	−

選定理由

海岸の岩場に生える多肉植物で、茎が分枝してマット状になる。満潮時には波をかぶるような岩上の隙間に生育する。葉は小さく、多肉質で対生し、長さ約 6 mm、幅約 3 mm の楕円形。花は 10~12 月に開花し、淡紅色を帯び、花床は海綿状に膨れる。胞果は楕円形で裂開せず、宿存するがくに包まれたまま花床と共に落ちる。すさみ町に記録がある。生育地が局限されている上、個体数が少なく、海岸の改変による個体数の減少が著しい。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．

シマユキカズラ　*Hydrangea viburnoides* (Hook. f. & Thomson) Y. De Smet & Granados　アジサイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−

選定理由



樹幹に巻きついて生育する、つる性常緑の木本で、葉は対生し、長さ 10~15 cm、幅 3.5~6 cm で革質、長楕円形から倒卵形で全縁。花は 8~9 月に咲き、両性で装飾花はない。田辺市 1 箇所に記録があるが、和歌山県以外では奄美大島以南に分布しており、著しい隔離分布を示す。個体数も極めて少ない。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　瀬戸　剛・山元　晃．1981．紀伊半島のシマユキカズラ．南紀生物，23（1）：1-4．
写真：瀧野秀二提供

ホソバヒメトラノオ　*Veronica linariifolia* Pall. ex Link　オオバコ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

火入れや採草によって植生管理された山地の草地に生育する多年生草本。茎は直立して高さ 30~70 cm に達し、短い毛が散生する。下部の葉は対生し、上部の葉は互生する。広線形または線状披針形で先は尖る。花期は 8~10 月、細い穂状花序に青紫の花を密につける。近畿地方では紀美野町・有田川町以外、大阪府のごく一部に生育するのみである。産地が局限されており、草地管理の変化も個体数の減少に大きく影響を与えている。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
3　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物（5）種子植物予報．南紀生物，57（1）：57-62．

写真：松本伸次提供

キイウマノミツバ　*Sanicula lamelligera* Hance var. *wakayamensis* (Masam.) Murata　セリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）	国	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）



選定理由

小形の多年生草本で、高さ約 10 cm。湿度と照度が保たれた常緑樹林内の林床に生育する。葉は 3 小葉で、側小葉は深裂しない。花期は 4~5 月、茎の先に暗紫色の花を 2~3 個つける。ヒメウマノミツバは側小葉が深裂するので識別される。海南市及び紀の川市に記録がある。産地が局限されており、園芸目的の採取も個体数の減少に大きく影響している。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　谷口丈夫．1971．キイウマノミツバ．南紀生物，13（1）：20-22．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．

写真：松本伸次提供

リュウビンタイ　*Angiopteris lygodiifolia* Rosenst.　リュウビンタイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

葉は長さ 2 m に達する大形のシダ植物。沿岸域の湿度・照度が保たれた林内に生育する。根茎は太い塊状、葉柄基部の托葉から増殖が可能。葉身は 2 回羽状複葉、小羽片は 15~25 対、披針形、浅い鋸歯縁があり、縁のくぼみから偽脈がのびる。5~15 個から成る胞子のう群が葉縁近くに一列に並ぶ。紀南地域（白浜町、すさみ町、串本町、那智勝浦町、太地町及び新宮市）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取及び森林伐採が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　海老原淳．2016．日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ．475pp．学研プラス，東京．
2　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
3　内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改訂委員会植物部会．2012．那智山維管束植物目録（予報）．和歌山県立自然博物館館報，(30)：58–70.
4　中嶌章和・瀬戸　剛・佐久間大輔 編．1997．真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録．118pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集．大阪市立自然史博物館，大阪．
5　山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会．2010．和歌山県絶滅危惧植物目録（1）シダ植物門．和歌山県立自然博物館館報，(28)：41–55.
写真：和歌山県立自然博物館提供

ユノミネシダ　*Histiopteris incisa* (Thunb.) J. Sm.　コバノイシカグマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

やや明るい林内又は林縁部に生育する。源泉地や鉱山跡等に特異的に見られることが多い。1 対の羽片が伸長した後、基部の新芽が成長を繰り返し、大形になる常緑のシダ植物である。葉身は 2 回羽状複葉、鮮緑色、裏面は粉白色、葉縁はわずかに裏面に巻く。胞子のう群は葉縁について長く伸びる。和名は田辺市本宮町湯峯で発見されたことによるもので、発見地は国指定天然記念物「ユノミネシダ自生地」となっている。紀南地域（由良町、田辺市、上富田町、那智勝浦町及び新宮市）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　海老原淳．2016．日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ．475pp．学研プラス，東京．
2　中嶌章和・瀬戸　剛・佐久間大輔 編．1997．真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録．118pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集．大阪市立自然史博物館，大阪．
3　山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会．2010．和歌山県絶滅危惧植物目録（1）シダ植物門．和歌山県立自然博物館館報，(28)：41–55.
写真：瀧野秀二提供

テツホシダ　*Thelypteris interrupta* (Willd.) K. Iwats.　ヒメシダ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

湿地に群生する亜熱帯性のシダ植物。根茎は黒色で長く這う。葉身は 1 回羽状複葉、羽片は硬い草質で羽状に浅～中裂する。鱗片は葉柄の基部にまばらにつく。胞子のう群は辺縁につき、包膜は円腎形で縁に毛がある。和歌山県では夏緑性で分布の限界にあたる。和歌山市（友ヶ島）の自生地は県指定天然記念物「深蛇池湿地帯植物群落」、新宮市（浮島の森）の自生地は国指定天然記念物「新宮藺沢浮島植物群落」である。和歌山市、串本町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。減少要因として、水質汚濁や湿地の乾燥化に伴う植生遷移が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　海老原淳．2016．日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ．475pp．学研プラス，東京．
2　中嶌章和・瀬戸　剛・佐久間大輔 編．1997．真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録．118pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集．大阪市立自然史博物館，大阪．

参考文献・情報
3　山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会．2010．和歌山県絶滅危惧植物目録（1）シダ植物門．和歌山県立自然博物館館報，(28)：41–55.
写真：瀧野秀二提供

キクシノブ　*Humata repens* (L. f.) Kuhn　シノブ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

小形で常緑性のシダ植物。岩上や樹上に着生する。根茎は長く這い、鱗片が密生する。葉身は硬質で長三角形、無毛で２回羽状に深裂する。葉縁の胞子のう群は裂片凹部につき、ほぼ円形の包膜を持つ。紀南地域（日高川町、田辺市、古座川町及び新宮市）に記録がある。園芸目的の採取によって産地及び個体数の減少が著しい。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　海老原淳．2017．日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ．507pp．学研プラス，東京．
2　中嶌章和・瀬戸　剛・佐久間大輔 編．1997．真砂久哉氏採集和歌山県産シダ植物標本目録．118pp．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 29 集．大阪市立自然史博物館，大阪．
3　山本修平・内藤麻子・和歌山県レッドデータブック改定委員会植物部会．2010．和歌山県絶滅危惧植物目録（1）シダ植物門．和歌山県立自然博物館館報，(28)：41–55.
写真：谷関俊男提供

コウヤカンアオイ　*Asarum kooyanum* Makino var. *kooyanum*　ウマノスズクサ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B類（EN）	国	絶滅危惧Ⅰ B類（EN）

選定理由

小形の多年生草本。山地の林下や林縁の日陰等に生育する。葉は楕円状卵形で先は広く尖り、葉の斑紋は通常見られない。花期は 4~5 月で花筒は鐘形、花被片は短く筒部の１／２、やや薄質で、筒内の縦線は 9~11 程度。筒の開口部は大きいが、口環の発達は著しくない。高野山を模式産地とする紀伊半島固有種である。かつらぎ町、高野町及び田辺市に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取や森林伐採が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　木下慶二．1970．和歌山県におけるカンアオイ属とその分布についてⅡ．南紀生物，12 (2)：45–46.
3　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
4　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
5　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．
写真：瀧野秀二提供

リュウノヒゲモ　*Potamogeton pectinatus* L.　ヒルムシロ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

流れのある水路に生育する沈水植物。水中茎は上部で分枝し、沈水葉は長さ約 15 cm、幅約 1 mm、全縁で、先は鋭頭または鈍頭である。夏に小さな塊茎（4~8 mm）を土中に形成する。紀北地域（和歌山市、紀の川市及び岩出市）に記録がある。減少要因として、水路の改修及び水質汚濁が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158．

キバナチゴユリ　*Disporum lutescens* (Maxim.) Koidz.　イヌサフラン科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	–

選定理由

小形の多年草で、高さ 20~30 cm、全体無毛、下部は膜質の葉鞘で包まれ、上部はしばしば分枝する。葉は長楕円形で長さ約 10 cm、両面無毛、短柄の基部に毛状突起がある。初夏に淡黄色の花が斜め下向きに咲く。花期以外にはチゴユリとの区別が困難である。土壌の発達した森林内部もしくは林縁部に生育する。かつらぎ町、高野町、有田川町及び田辺市に記録がある。園芸目的の採取により、生育地及び個体数が減少している。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
3　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（3）種子植物予報，南紀生物，56（1）：86–91．
4　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．

写真：和歌山県立自然博物館提供

ハルザキヤツシロラン　*Gastrodia nipponica* (Honda) Tuyama　ラン科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

特殊な生態を持つ菌従属栄養植物。社叢等の常緑樹林下やその林縁部に見られる。塊茎は紡錘状で斜上、5 月頃、紫褐色の花を開花させ、花後著しく伸長した花柄から出る糸状の根から新個体を生ずる。果実は直立し、長さ約 2.5 cm。紀南地域（田辺市、上富田町、すさみ町及び古座川町）に記録がある。減少要因として、森林の伐採や植生遷移による環境の変化が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物，紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
3　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
4　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
5　山本修平．2013．和歌山県絶滅危惧植物（2）種子植物予報．南紀生物，55（2）：131–136．

キイイトラッキョウ　*Allium kiiense* (Murata) Hir. Takahashi & M. Hotta　ヒガンバナ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

川岸の適湿な岩上・岩隙地に生育する。葉は細くて長さ 10~20 cm、直径約 1 mm。11 月初旬に長さ 20~30 cm の花茎の先に紅紫色の花をつける。和名は和歌山県（古座川町）で初めて発見されたことによる。紀南地域（田辺市、古座川町、新宮市及び北山村）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、道路工事等が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（3）種子植物予報．南紀生物，56（1）：86-91．

写真：瀧野秀二提供

ヤマトミクリ　*Sparganium fallax* Graebn.　ミクリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

河川・湖沼・ため池等に群生する多年生の抽水植物。全高約 1 m、葉の幅は 10~20 mm、断面は三角形。花期は 5~9 月、雌性頭花（3~6 個）は、やや離れあって付き、上部には 4~8 個の雄性頭花が付く。果実は紡錘形、両端に狭くなり、長さは 5~6 mm。紀の川市、岩出市、かつらぎ町、高野町、海南市、有田川町、印南町及び新宮市に記録がある。減少要因として、河川改修及び池沼の管理の変化や水質汚濁等が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
3　山元　晃．1995．和歌山県北部に見られるため池の水草．和歌山県立自然博物館館報，（13）：33-48．
4　山本修平．2013．和歌山県絶滅危惧植物（2）種子植物予報．南紀生物，55（2）：131-136．
5　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．

コウヤハンショウヅル　*Clematis obvallata* (Ohwi) Tamura var. *obvallata*　キンポウゲ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）

選定理由

多年生のつる植物。林縁に生育する。茎は木化して細く、暗紫色を帯び、本年枝には軟毛があるが、後に落ちる。葉は長柄のある 3 出複葉、小葉は卵形、葉縁、葉脈上は有毛。開花は 5~7 月、花は鐘形で下向き、暗紫色。がくに接した 1 対の小苞が花柄につく。小苞は暗紫色か緑色で先に鋸歯がある。そう果は多数、長卵形、長さ約 6 mm、まばらに毛がある。紀北地域（高野町及び有田川町）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採等が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　内藤麻子．2020．和歌山県産野生植物分布資料（2）．和歌山県立自然博物館館報，（38）：51-62．
4　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
5　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．

写真：和歌山県立自然博物館提供

コウヤシロカネソウ　*Dichocarpum numajirianum* (Makino) W. T. Wang & P. K. Hsiao　キンポウゲ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）



選定理由

谷間の岩上や砂上に生える小形の多年生草本。地下茎は短く、茎は高さ 15 cm、基部に広い鱗片葉に包まれた芽がある。根出葉はある場合とない場合がある。茎葉は 2 回 3 出葉、茎の下部は互生、上部は対生する。花は 4~5 月、横向きに開き黄白色で直径 8 mm。学名の種小名 *numajirianum* は高野山中学校教諭、沼尻　好氏に因む。高野町、有田川町、日高川町及び田辺市に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採、植生遷移が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　土永知子．2002．大杉谷・黒蔵谷の種子植物．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．72–82．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
3　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
4　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
5　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．

写真：瀧野秀二提供

ハカマカズラ　*Phanera japonica* (Maxim.) H. Ohashi　マメ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	－



選定理由

亜熱帯～暖帯にかけて分布する常緑のつる性木本。海岸近くの林内や林縁部に生育する。葉の先が切れ込み、基部は円心形。花期は 8 月、頂生する総状花序に淡黄緑色の花をつける。熟した豆果には硬い黒褐色の種子があり、古くから数珠に用いられている。和歌山県が分布域の北限で、由良町（黒島）に県指定天然記念物「ハカマカズラ自生北限地」がある。由良町、田辺市、すさみ町及び串本町に記録がある。産地が局限されており、森林伐採等により個体数が減少している。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　内藤麻子．2020．和歌山県産野生植物分布資料（2）．和歌山県立自然博物館館報，（38）：51–62．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．

写真：水野泰邦提供

ハドノキ　*Oreocnide pedunculata* (Shirai) Masam.　イラクサ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

亜熱帯～暖帯にかけて分布する雌雄異株の常緑低木で、高さ 4~5 m になる。林内や林縁に生育する。葉は長楕円状披針形で互生し、長さ 5~15 cm、幅 2~4 cm で、先は尖り、3 行脈性で、葉柄は紅色を帯びる。花期は 2~4 月、雌花、雄花ともに団集花序をなし、痩果は卵形で多肉質の花被に合着する。串本町に記録がある。森林伐採や道路工事等による環境改変によって、個体数が減少している。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．

写真：瀧野秀二提供

ホソバシロスミレ　*Viola patrinii* DC. var. *angustifolia* Regel　スミレ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

日当たりの良い草地に生育する。花期は 5 月、葉はシロスミレよりも細く、葉の基部はくさび形で、翼となって葉柄に流れる。花弁は白色で細長い。紀美野町、有田川町、日高川町及び田辺市に記録がある。草地管理の変化に伴う植生遷移等によって、産地、個体数ともに減少している。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　山元　晃．1992．和歌山県のスミレ．和歌山県立自然博物館館報，（10）：69–104．

写真：松本伸次提供

シマヒメタデ　*Persicaria tenella* (Blume) H. Hara　タデ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

ため池等の湿草地に生育する。本来一年生草本であるが、和歌山県では多年生草本となる。葉は異形葉性で、水中に展開する葉（水中葉）と地上に展開する葉（気中葉）で形態が著しく異なる。水中葉は葉質が薄く、気中葉の先は尖り、基部は円形、長さ 5~8 cm。開花期は 9~12 月、花序は 1.5~2.5 cm で、密に穂状につく。果実はレンズ形、長さ約 1 mm、黒色で光沢がある。印南町及びみなべ町に記録がある。産地が局限されていることに加えて、ため池や湿地の改変により、減少している。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　山本修平・北野一夫．2011．シマヒメタデ（タデ科）を和歌山県から記録する．南紀生物，53（1）：35–37．

写真：北野一夫提供

ノアサガオ　*Ipomoea indica* (Burm.) Merr.　ヒルガオ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	−



選定理由

亜熱帯性のつる植物。日当たりの良い海岸の砂地や岩崖地に生育する。生育条件の良好な所では群落を形成し、地上部は冬にも枯れず、越年する多年生草本。葉は心形で、長い柄がある。6 月から 10 月頃にかけて、紫色で漏斗状の直径 6~7 cm の大形の美花を開く。孔島・鈴島（新宮市）の群落は市指定天然記念物である。美浜町及び串本町にも記録がある。産地が局限されている上、アサガオに非常に似ているために地元住民に希少性の認識が欠けている場合も多く、草刈り等で除去される可能性が高い。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　内藤麻子．2019．和歌山県産野生植物分布資料（1）．和歌山県立自然博物館館報，（37）：75–85．

写真：瀧野秀二提供

キノクニスズカケ　*Veronicastrum tagawae* (Ohwi) T. Yamaz.　オオバコ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

茎の先端に殖芽を作って群生する多年生草本。適湿で腐植の多い林内に群生する。茎はややつる状に伸び、長さ 1~1.5 m、先端が着床すると発根する。葉は互生、卵形で先は尾状に伸びて尖り、長さ約 15 cm、幅約 5 cm。表面は無毛で、裏面の脈上に短毛がある。開花は 9~10 月、葉腋に白い筒状の花が穂状につき、花冠は約 5 mm。さく果は卵円形。和歌山県南部の固有種で、すさみ町、串本町及び古座川町に記録がある。減少要因として、森林伐採、道路及び河川改修が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
4　山本修平．1993．キノクニスズカケについて．南紀生物，35（1）：24–26．
5　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物（5）種子植物予報．南紀生物，57（1）：57–62．

写真：瀧野秀二提供

ヒメシロアサザ　*Nymphoides coreana* (H. Lév.) H. Hara　ミツガシワ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

湖沼やため池等の水面に葉を広げて生活する浮葉植物である。葉は長さ 2~6 cm、幅は 2~4 cm、花は径 8 mm 程で白色、花冠の内側は毛がなく、縁のみ有毛。花期は 7~9 月、果実は長楕円形。葉の表面に紫褐色の模様が見られることが多い。紀南地域（印南町、田辺市、串本町）に記録がある。産地が局限されていることに加えて、池沼の改変、水質汚濁、植生遷移等によって個体数が減少している。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　内藤麻子．2019．和歌山県産野生植物分布資料（1）．和歌山県立自然博物館館報，（37）：75–85.
2　山元　晃．1995．和歌山県北部に見られるため池の水草．和歌山県立自然博物館館報，（13）：33–48.

写真：和歌山県立自然博物館提供

ホソバノギク　*Aster sohayakiensis* Koidz.　キク科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

川岸の岩上に地下茎を這わせて生育する多年生草本。茎の高さ 30~60 cm、無毛、分枝は少数。葉は線状披針形で表面に光沢があり、葉脈が凹む。花期は 7~9 月、白色の頭花を少数つける。花柄は短く苞があり、冠毛はやや少ない。キシュウギクの別名を持つ。紀伊半島南部の固有種で、田辺市、古座川町、那智勝浦町、新宮市及び北山村に記録がある。産地が局限されており、個体群サイズも小さい。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
4　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物（5）種子植物予報．南紀生物，57（1）：57–62.

写真：和歌山県立自然博物館提供

クルマギク　*Aster tenuipes* Makino　キク科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）	国	絶滅危惧Ⅰ B 類（EN）

選定理由

やや湿り気のある岩壁に垂れ下がるように生育する多年生草本。茎の高さ 30~60 cm。茎葉は細長く、長さ約 4 cm、幅約 4 mm で、根生葉はやや幅広い。開花は 10~11 月、上部で短い枝を多数出して、枝先に 1 個の頭花をつける。舌状花は白色でイナカギクに似ているが、それより細い。和歌山県南部の固有種で、田辺市、那智勝浦町、古座川町及び新宮市に記録がある。園芸目的の採取や道路工事、河川改修等によって個体群、個体数ともに減少している。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　土永知子．2002．大杉谷・黒蔵谷の種子植物．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．72-82．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
3　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
4　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物（5）種子植物予報．南紀生物，57（1），57-62．
5　山本修平・大谷雄一・松下　弘．1992．クルマギクの分布．南紀生物，34（1）：8-10．
写真：瀧野秀二提供

オオハマグルマ　*Melanthera robusta* (Makino) K. Ohashi & H. Ohashi　キク科

県カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類（EN）	旧県	2012	絶滅危惧ⅠB類（EN）	国	－

選定理由

海岸の砂地に生育する多年生草本。つる状の茎の節より発根し群落状となって生育する。葉は厚く対生し、長さ3~5 cm、鈍鋸歯を持つ。花は4~9月。頭花は3個、稀に1個、黄花で、直径2~2.5 cm。花の形状はネコノシタに似るが、葉がより大きく、頭花の数で区別できる。和歌山県が分布の北限で、美浜町及び串本町に記録がある。減少要因として、海岸域の改変が挙げられる。希少性が認識されることなく、海岸整備等で除去される可能性がある。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物（5）種子植物予報．南紀生物，57（1）：57-62．
写真：和歌山県立自然博物館提供

トガサワラ　*Pseudotsuga japonica* (Shiras.) Beissn.　マツ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

限られた地域に遺存的に分布する常緑針葉高木。標高400~800 mの山地の急傾斜地や尾根筋の陽地に生育する。四国東南部（魚梁瀬）と紀伊半島にのみ分布する。樹皮は灰褐色で厚く、縦裂、葉は線形で20~25 mm、裏面に白色の気孔帯が2条ある。球花は4月、球果は10月に熟し、苞鱗が種鱗より長く突出して反曲し、先が三裂する。暖温帯・冷温帯移行部の森林植生における遺存種として重要である。印南町の自生地（川又観音社寺林）は、県自然環境保全地域に指定されている。高野町、日高川町、印南町、田辺市、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として森林伐採が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　土永知子．2002．大杉谷・黒蔵谷の種子植物．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．72-82．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
3　木下慶二．1996．和歌山県におけるトガサワラの自生状況について．御坊文化財研究会創立三十周年記論集「紀州の歴史と風土」．267-281．御坊文化財研究会，御坊．
4　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
5　山本修平・中野玖美．2007．高野山植物目録．77pp．ウイング，和歌山．
写真：和歌山県立自然博物館提供

ナンゴクウラシマソウ　*Arisaema thunbergii* Blume subsp. *thunbergii*　サトイモ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	－

選定理由

土壌の腐植層が発達した森林内に生える多年生草本。地下茎は小さく、扁球形、径約 2 cm。葉鞘は長さ 4~14 cm、葉柄は長さ 17~40 cm、葉身は鳥足状に深裂し、小葉は披針形、ウラシマソウとは小葉がより細長く中央脈沿いに斑が入り、付属体基部に皺がある点で区別する。和歌山市、紀の川市、有田川町、日高川町、日高町及び田辺市に記録がある。園芸目的の採取や森林伐採によって減少している。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　山本修平．1990．和歌山県産植物分布資料補遺．南紀生物，32（2）：129．
3　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（3）種子植物予報．南紀生物，56（1）：86–91．
4　山本修平・大谷雄一．1988．和歌山県産テンナンショウの分布Ⅰ．南紀生物，30（2）：135–138．

写真：和歌山県立自然博物館提供

キイジョウロウホトトギス　*Tricyrtis macranthopsis* Masam.　ユリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

川沿いの岩上・岩隙地に下垂して生育する多年生草本。茎の長さ 40~80 cm、茎の左右に並ぶ葉の基部は茎を抱き、長さ約 15 cm、下面脈上に粗毛を散生する。花は 9~10 月に上部の各葉腋から黄色の 1 花を斜下向きに出す。花被の長さ約 4 cm、外花被片の基部に距がある。紀伊半島南部の固有種で、紀南地域（田辺市、古座川町及び新宮市）に記録がある。園芸目的の採取や道路工事等によって個体数が減少している。一方で、各地で野生個体から増やした株の栽培が行われている。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　土永知子．2002．大杉谷・黒蔵谷の種子植物．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．72–82．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
3　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
4　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
5　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158．

写真：瀧野秀二提供

アオノクマタケラン　*Alpinia intermedia* Gagnep.　ショウガ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

大形の常緑多年生草本で、高さ 50~150 cm に達する。海岸近くの湿潤な林内に生育する。葉は狭長楕円形、長さ 30~50 cm、幅 6~12 cm。花期は 7 月、花序は総状円錐状花序で直立、花は白色で唇弁は紅色の筋がある。果実は球形無毛で冬に赤く熟し、径 10~12 mm。近縁種のクマタケランに似るが、全体に赤味が少ない。紀伊大島では半野生状に栽培され、花卉として出荷されている。紀南地域（串本町及び那智勝浦町）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、森林伐採が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（3）種子植物予報．南紀生物，56（1）：86–91．

写真：瀧野秀二提供

ツゲ　*Buxus microphylla* Siebold & Zucc. var. *japonica* (Müll. Arg. ex Miq.) Rehder & E. H. Wilson　ツゲ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−



選定理由

暖地に生育する常緑低木。山地の中腹斜面、尾根筋、岩崖等に見られる。樹高は 2~4 m 程度で、密に分枝し、葉は小形で革質、表面に光沢を持つ。花は淡黄色の小花で、3~4 月頃開き、枝先や上部の葉腋に束生する。蒴果は楕円形または球形で長さ約 1 cm。庭園樹や街路樹として利用される。蛇紋岩地や石灰岩地といった特殊岩石地植生の指標として重要である。海南市、広川町、田辺市、古座川町及び北山村に記録がある。園芸を目的とした採取により、個体数が減少している。また、変種コツゲ var. *riparia* が古座川、北山川の岩上で見られる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　内藤麻子．2019．和歌山県産野生植物分布資料（1）．和歌山県立自然博物館館報，（37）：75–85．

写真：和歌山県立自然博物館提供

シマサルナシ　*Actinidia rufa* (Siebold & Zucc.) Planch. ex Miq.　マタタビ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

暖帯南部から亜熱帯にかけて分布する落葉つる性木本。海岸付近から沿海地の林縁または林内に生育する。葉はやや厚くてかたく、楕円形または卵形。雌雄異株で、花は5~6月に咲き白色。葉腋から集散花序を出す。果実は漿果で楕円形、長さ2~4 cm、緑黄色で褐色の斑点がある。由良町、日高町、みなべ町、田辺市、すさみ町、串本町、那智勝浦町、太地町及び新宮市に記録がある。減少要因として、道路造成や森林伐採が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　藤井伸二・狩山俊悟・榎本　敬．2003．1999年版紀伊大島植物目録（高等植物）の補遺およびカンアオイ属に関する分類学的ノート．南紀生物，45 (2)：115–117．
3　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
4　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．

写真：瀧野秀二提供（果実，花：左上）

シラタマカズラ　*Psychotria serpens* L.　アカネ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由

海岸近くの常緑樹林内または林縁部に生育する常緑つる性木本で、付着根を出して樹幹や岩上を這い上る。葉は対生し、葉身は革質で倒卵状楕円形、長さ2~4 cm。花期は5~7月、枝先の集散花序に白色小形の漏斗状の花をまばらにつける。果実は液果で、球状楕円形で白色、長さ4~5 mmである。本州では和歌山県のみに分布し、串本町及び那智勝浦町に記録がある。産地が局限されており、道路改修や森林伐採によって、個体数が減少している。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．

写真：瀧野秀二提供

クマノギク　*Sphagneticola calendulacea* (L.) Pruski　キク科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	−

選定理由



海岸近くのやや湿った草地に生育する多年生草本で、茎の節から発根し、地上を這って生育する。葉は対生、披針形～長楕円形、長さ 2~7 cm、幅 6~12 mm、葉に 2~3 個の低鋸歯があり、表面はざらつく。花期は 5~9 月で茎の先に頭花を 1 つ頂生する。美浜町、日高町、御坊市、田辺市、串本町及び那智勝浦町に記録がある。産地が局限されていることに加えて、草地の管理の変化に伴う環境の変化や管理放棄による植生の遷移によって、生育地、個体数ともに減少している。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
3　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物（5）種子植物予報．南紀生物，57（1）：57–62．

写真：瀧野秀二提供

カワゼンゴ　*Angelica tenuisecta* (Makino) Makino var. *tenuisecta*　セリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

川岸の岩上に生える大形草本で高さ 1 m に達する。葉は 3 出羽状複葉。細長く鮮緑色で、光沢のある小葉と葉脈上の毛が、近縁種イヌトウキとの区別点。花は 8~9 月、複散形花序に白い小さな花をつける。果実は楕円形、長さ 6~7 mm、幅 3~4 mm、基部は凹入しない。紀伊半島南部の固有種で、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として、河川や道路の改修、植生遷移が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
4　山本修平・大谷雄一．1999．紀伊半島における襲速紀要素植物の分布Ⅲイヌトウキとカワゼンゴ（セリ科）．南紀生物，41（2）：125–127．
5　山本修平・大谷雄一．2009．紀伊半島におけるカワゼンゴ（セリ科）の分布．南紀生物，51（1）：43–45．

キキョウラン　*Dianella ensifolia* (L.) DC.　ススキノキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由



海岸に近い草地に生育する。葉は線形で長さ 40~60 cm、幅 15~20 mm、皮質で厚く基部は互いに重なり合う。花は 5~7 月、高さ 50~100 cm の花茎の先に横向きまたは下向きに青色の花を咲かせる。和歌山県は分布の北限にあたる。和歌山市、海南市、有田市、湯浅町、由良町、白浜町及び串本町に記録がある。減少要因として、草地の樹林化等、植生の遷移が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．

参考文献・情報
3　山本修平．1988．紀伊半島におけるキキョウランの分布．南紀生物，30（1）：51–53.
4　山本修平．1990．和歌山県産植物分布資料補遺．南紀生物，32（2）：129.
5　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158.
写真：和歌山県立自然博物館提供

ウナズキギボウシ　*Hosta kikutii* F. Maek. var. *tosana*（F. Maek.）F. Maek.　クサスギカズラ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

紀伊半島南部並びに四国の東部に分布し、河川や渓流の岩崖地に群生する多年性草本。地際で屈曲した花茎が側方に伸長し、下垂した花序を持つ。花被は白色で 8~9 月頃開花する。紀南地域（田辺市、古座川町及び新宮市）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、道路工事や河川改修が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　土永知子．2002．大杉谷・黒蔵谷の種子植物．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．72–82．和歌山県自然環境研究会，田辺.
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪.
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山.
4　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158.
写真：瀧野秀二提供

キノクニスゲ（キシュウスゲ）　*Carex matsumurae* Franch.　カヤツリグサ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

暖地の海岸近くの湿潤な林内に生育する多年生草本。叢生し、大きな株を作る。茎は高さ 30~40 cm、葉は厚く光沢があり、幅 8~12 mm、基部の鞘に褐色の条線がある。花期は 3~5 月、小穂は 4~5 個、頂小穂は雄性、側小穂は雌性、密に多数の花がつく。キシュウスゲ、クロシマスゲの別名を持つ。博物学者・南方熊楠の高等植物研究史をたどる上で重要である。由良町、みなべ町、田辺市及び串本町に記録がある。産地が局限されており、環境の変化によって急激に個体数を減らす可能性がある。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本.
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪.
3　山本修平．2005．キノクニスゲ（カヤツリグサ科）について．近畿植物同好会会誌，（28）：27–30.
4　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158.
写真：土永浩史提供

キシュウナキリスゲ　*Carex nachiana* Ohwi　カヤツリグサ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

沿岸域の林内に生育する。他のナキリスゲ類に比べて、桿の高さは約 1 m に達する大形の多年生草本。葉は幅 3~4 mm、果期は 9~10 月で頂小穂は一節に 2~3 個、全て雌雄性で雄花部は短い。果胞も大きく、長さは 3.5~4.5 mm、幅も広く約 1.5 mm。両面はほとんど平滑である。ふちに短い毛がある。和名、学名ともに和歌山県那智山で発見されたことによる。和歌山市、由良町、御坊市、美浜町、印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、上富田町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。植生遷移に伴う個体数減少の恐れがある。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　山本修平．2014．和歌山県絶滅危惧植物（4）種子植物予報．南紀生物，56（2）：153–158．

ドロノシモツケ　*Spiraea japonica* L. f. var. *ripensis* Kitam.　バラ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

川岸の岩上に生える小低木。母種のシモツケと草丈 30~50 cm（シモツケは 60~100 cm）、全体無毛、茎に稜がない点で変種として区別される。葉は細長く、長さ約 5 cm、幅約 1 cm。開花は 6 月、淡紅色の花が散房花序につく。紀南地域（新宮市及び北山村）に記録がある。減少要因として、園芸目的の採取、河川改修に伴う環境の変化が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
4　山本修平．1997．和歌山県産のキイシモツケとドロノシモツケについて．南紀生物，39（2）：135–138．

写真：瀧野秀二提供

アコウ　*Ficus superba*（Miq.）Miq. var. *japonica* Miq.　クワ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	－

選定理由

主に海岸の向陽の低地や林縁部に生育する亜熱帯性の常緑高木。幹の周囲から気根を垂らして成長し、高さ 10 m 以上の大木となる。葉腋または葉の落ちた跡の周囲に雄花・雌花・虫えい花が混在した花のうを束生する。美浜町龍王神社のアコウ巨木は県指定天然記念物、日高町産湯のアコウ巨木、日高町比井の群生地は町指定天然記念物である。



有田郡から串本町にかけての沿岸域に記録があるが、防風・防潮林として植栽されたものと区別が困難。減少要因として、道路改修が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11–71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　山本修平．2000．和歌山県のアコウ（クワ科）は植栽起源か．南紀生物，42（2）：149–152．

参考文献・情報　4　吉田元重．1983．和歌山県におけるアコウの知見［Ⅰ］．南紀生物，25（1）：130–131．
写真：瀧野秀二提供

ハマボウ　*Hibiscus hamabo* Siebold & Zucc.　アオイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−



選定理由

本州（三浦半島以西）、四国、九州、奄美大島等に分布する落葉低木で、高さ 3~4 m に達する。河口部の塩性湿地に群生する。葉は倒卵状円形で、花期は 7~8 月、直径約 5 cm の黄色の一日花をつける。蒴果は卵形で先が尖り、後に裂開する。日高川河口（御坊市）の群落は市指定天然記念物、みなべ町西岩代川河口の群落は町指定天然記念物である。和歌山市、御坊市、印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。港湾開発や河川改修等に伴う生育地の消失や伐採による個体数の減少が懸念される。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
4　山本修平．1990．和歌山県産植物分布資料補遺．南紀生物，32（2）：129．
5　山本修平・農本章子．1990．和歌山県におけるハマボウの分布．南紀生物，32（1）：27–30．
写真：瀧野秀二提供

シチョウゲ　*Leptodermis pulchella* Yatabe　アカネ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

川岸の岩上に生える落葉小低木。若枝は淡紫黒色で短毛を密生、古くなると樹皮は縦裂する。葉は対生で狭長楕円形または披針形、長さ 2~4 cm、裏面の中肋に短毛がある。花は 7~8 月、花冠は淡紫色で、長い漏斗状の花を葉腋または枝の先につける。花柱に長短がある。蒴果は長楕円形、宿存するがくを含めて長さ約 5 mm。紀伊半島南部と四国に分布し、田辺市、古座川町、那智勝浦町、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として、道路工事や川岸の改変、園芸目的の採取が挙げられる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報
1　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
写真：瀧野秀二提供

ツゲモチ　*Ilex goshiensis* Hayata　モチノキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

常緑樹林内に生える高さ 5~10 m の常緑高木で、紀伊半島を北限として、四国、九州、琉球、台湾に分布する。和歌山県では 3~4 m 程度の小高木が多いが、ときに高木のものが見られる。雌雄異株でモチノキにやや似るが、葉・果実ともにより小形である。有田川町、由良町、日高川町、印南町、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町、古座川町及び新宮市に記録がある。際立った特徴の少ない種であり、認識されないまま伐採される恐れがある他、道路工事に伴う環境の改変や園芸目的の採取による個体数の減少が認められる。

執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
2　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
3　山本修平．2010．近畿地方におけるツゲモチ（モチノキ科）の分布．南紀生物，52 (2)：155-156．

キノクニシオギク（キイシオギク）　*Chrysanthemum kinokuniense* (Shimot. & Kitam.) H. Ohashi & Yonek.　キク科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	−

選定理由

海岸に生える小形の多年生草本。海岸の波が直接被らない岩崖地等に群生する。茎の下部はやや匍匐し、高さ 20~30 cm。葉は長さ 2~5 cm、幅 1~3 cm で、全縁または上半は羽状に浅裂する。裏は銀白色。花期は 11~12 月、直径 8 mm 内外の多数の筒状花をつける。キイシオギクの別名を持つ。美浜町、日高町、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町、太地町、那智勝浦町及び新宮市に記録がある。減少要因として、海岸の改変が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　榎本　敬・狩山俊悟．1999．高等植物．紀伊大島植物目録．11-71．京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所，串本．
2　加藤雅啓・海老原淳．2011．日本の固有植物．503pp．東海大学出版会，秦野．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
4　山本修平．1984．和歌山県産野生キク属の分布 I．南紀生物，26 (1)：53-55．
5　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物 (5) 種子植物予報．南紀生物，57 (1)：57-62．

写真：和歌山県立自然博物館提供

ドロニガナ　*Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev ssp. *kitayamense* (Murata) Pak & Kawano　キク科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	準絶滅危惧（NT）	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

川岸の岩の割れ目に根茎を這わせて生育する多年生草本。根生葉は小さく、葉柄を含めて長さ 3~5 cm で、ほとんど全縁。花期は 3~5 月、径約 1.5 cm。舌状花は約 10 個、痩果の長さが 2.5~3 mm という点でニガナと区別される。北山村の瀞峡で発見されたので和名がつけられた。田辺市、古座川町、那智勝浦町、新宮市及び北山村に記録がある。減少要因として、河川改修が挙げられる。



執筆者（植物・植物群落専門部会）

参考文献・情報

1　土永知子．2002．大杉谷・黒蔵谷の種子植物．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．72–82．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　村田　源．2004．近畿地方植物誌．257pp．特定非営利活動法人 大阪自然史センター，大阪．
3　和歌山県立自然博物館．2004．小川植物コレクション標本目録．292pp．第一製版印刷，和歌山．
4　山本修平．2015．和歌山県絶滅危惧植物（5）種子植物予報．南紀生物，57（1）：57–62．
5　山本修平・大谷雄一．1994．ドロニガナについて．南紀生物，36（2）：130–132．

写真：瀧野秀二提供

植物（蘚苔類）の掲載種

●絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

イヌカメゴケ
フウリンゴケ※
ウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）※
クマノチョウジゴケ※
ヤリノホゴケ※
ヒロスジツリバリゴケ
フロウソウ※
ヒメソテツゴケ
ミギワイクビゴケ
カシミールクマノゴケ※
フガゴケ※
マムシゴケ※
ヤクシマナワゴケ※
ナミカワスナゴケ
ササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）※
タマゴバムチゴケ
シャクシゴケ（ミドリシャクシゴケ）※
ツクシシゲリゴケ
ムチハネゴケ
イボケクサリゴケ
オオスミヨウジョウゴケ
ヨシナガキララゴケ
ボウズムシトリゴケ※
ナガバムシトリゴケ※
オキナワヤスデゴケ※
ヤマトクロウロコゴケ
オオサワラゴケ※
コクサリゴケモドキ
コオイフタマタゴケ
サワラゴケ
キウロコゴケ※
オオハネゴケ
マキノハネゴケ
アツメハネゴケ
タマゴバヒシャクゴケ
ホリカワツボミゴケ
オオツボミゴケ
ゴマダラツボミゴケ
キノボリツノゴケ※

●絶滅危惧Ⅱ類（VU）

ミヤマハリゴケ
キジノオゴケ※
ヘリトリシッポゴケ
オオミツヤゴケ※
ビルマホウオウゴケ
イリオモテホウオウゴケ
ジョウレンホウオウゴケ
ハネホウオウゴケ
ニセタマウケゴケ（シバゴケ）
イバラヤエゴケ
ケサガリゴケ
オオキヌタゴケ
タチチョウチンゴケ※
ハシボソゴケ※
ヤマトキンチャクゴケ
フタバムチゴケ
フォーリームチゴケ
ヤマムチゴケ
ホリカワキララゴケ
ミヤジマヨウジョウゴケ
サンカクゴケ※
サカワヤスデゴケ
タラダケヤスデゴケ
エゾヤバネゴケ
エゾヤハズゴケ
コダマクサリゴケ

ナカジマトサカゴケ
カギフタマタゴケ
チチブハネゴケ
ヤハズハネゴケ
ヒメハネゴケ
トゲアイバゴケ※
オカムラケビラゴケ
ムラサキヒシャクゴケ
オチツボミゴケ
ハネツボミゴケ
アカツボミゴケ

●準絶滅危惧（NT）

コキジノオゴケ※
カワブチゴケ※
ヤクシマツガゴケ
アオシマヒメシワゴケ
オウギホウオウゴケ
ヒロハチャイロホウオウゴケ
ニセチャイロホウオウゴケ
ミヤマクサゴケ
ホンダゴケ（コアオギヌゴケ）
シナクジャクゴケ（ヒナクジャクゴケ）
コモチイチイゴケ※
トサヒラゴケ※
キノクニオカムラゴケ
コゴメタチヒダゴケ
キノクニキヌタゴケ
カトウゴケ
トサノタスキゴケ※
ヒゴイチイゴケ
コフサゴケ
コバノホソベリミズゴケ※
オオミズゴケ
イサワゴケ※
ユガミタチヒラゴケ
リュウキュウホソエゴケ
ヒログチキンモウゴケ
ヨシナガクロウロコゴケ
ヨシナガムチゴケ
ヒメシロクサリゴケ
キタガワシロクサリゴケ
スケバウロコゴケ
シロコオイゴケ
マルバコオイゴケモドキ
カミムラヤスデゴケ
オニヤスデゴケ
オンタケヤスデゴケ
コアミメミゾゴケ
タカサゴソコマメゴケ
ヒメコミミゴケ
ホリカワトサカゴケ
フォーリーイチョウウロコゴケ
チャボミゾゴケ
ヒメマルバハネゴケ
アイバゴケ
ケクラマゴケモドキ
タカキクラマゴケモドキ
ヨウジョウケビラゴケ
シゲリケビラゴケ
イチョウウキゴケ※
オヤコゴケ※
タチツボミゴケ

●情報不足（DD）

ヒカゲノカズラモドキ※
ヒロハフサゴケ
ナヨナヨカガミゴケ
マキハハリゴケ
ホソハリゴケ
キヌヒバゴケ
ナスシッポゴケ

コカモジゴケ
マルバホウオウゴケ
ホンコンホウオウゴケ
ヒメスズゴケ
ケアサゴケ
イトクサゴケ
イワダレゴケ
ヨコグライタチゴケ
オオミミゴケ
タチハイゴケ※

ホソヘチマゴケ
ナメハヤスジゴケ
ホソバミズゴケ
キツネノオゴケ
ハナシセンボンゴケ
ヒメテングサゴケ
ミヤケハタケゴケ
ムカシヒシャクゴケ※
ホウキゴケ

植物（蘚苔類）の一覧表の凡例

1. 配列は蘚類・苔類・ツノゴケ類の順で、それぞれ学名のアルファベット順とした。

2. 蘚類・苔類の和名および学名は、それぞれ主に以下の文献に従った。
   蘚類：Suzuki（2016）、苔類及びツノゴケ類：片桐・古木（2018）
   片桐知之・古木達郎．2018．日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト，2018. Hattoria, 9：53–102.
   Suzuki, T. 2016. A revised new catalog of the mosses of Japan. Hattoria, 7：9–223.

3. 和名の後に※印を示した種については「主な植物（蘚苔類）の解説」に詳細を掲載した。

4. カテゴリー（評価区分）は以下の通りである。
   和歌山県（2022）：和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版のカテゴリー
   CR ＋ EN：絶滅危惧Ⅰ A 類＋絶滅危惧Ⅰ B 類
   VU：絶滅危惧Ⅱ類　　NT：準絶滅危惧　　DD：情報不足
   近隣府県および国のカテゴリー
   奈良県（2016）：蘚苔類．in 大切にしたい奈良県の野生動植物 －奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版－．613–675．奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課，奈良．
   三重県（2015）：三重県レッドデータブック 2015．13 センダイ類・タイ類．
   https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000401562.pdf（2021 年 7 月 1 日参照）
   大阪府（2014）：大阪府における保護上重要な野生生物 レッドリスト．コケ植物．
   https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/12.kokeshokubutsu.pdf
   （2021 年 7 月 1 日参照）
   国（2020）：環境省レッドリスト 2020．レッドリスト（植物Ⅱ）蘚苔類．
   http://www.env.go.jp/press/files/jp/9948.pdf（2021 年 7 月 1 日参照）

5. 選定理由は以下の通りである。
   環境悪化：人為による直接的な環境破壊（森林伐採，道路開発工事等）により生育環境が悪化しているもの
   採　　取：人為による選択的な採取（園芸用等）により群落の減少が著しいもの
   特殊環境：湿地、渓谷（樹枝からの下垂，生葉上）等
   希 少 性：自生地における群落が小さいものや産地が極めて少ないもの

6. 生育環境及び生育基物は以下の通りである。
   生育環境：森林内、渓谷、山地、低地等
   生育基物：樹幹（枝）、倒木、腐木、岩上、土上、葉上等

7. 国内分布について示した。

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
蘚類	ハイヒモゴケ科	ヒカゲノカズラモドキ※	*Aerobryopsis parisii* (Card.) Broth.	DD				VU	○			○	渓谷	樹枝	四国・琉球
蘚類	タチヒダゴケ科	イヌカメゴケ	*Amphidium mougeotii* (Bruch & Schimp.) Schimp.	CR+EN	NT				○			○	林内	岩上	本州・四国
蘚類	スギゴケ科	フウリンゴケ※	*Bartramiopsis lescurii* (James) Kindb.	CR+EN					○			○	林内	土上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	アオギヌゴケ科	ヒロハフサゴケ	*Brachythecium salebrosum* (F. Weber & Mohr) Bruch & Schimp. in Bruch et al.	DD			CR+EN		○			○	林内	土上、岩上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	ナガハシゴケ科	ナヨナヨカガミゴケ	*Brotherella herbacea* Sakurai ex Oti	DD					○			○	渓谷	樹枝	本州・四国・九州
蘚類	キセルゴケ科	ウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）※	*Buxbaumia aphylla* Hedw.	CR+EN	CR+EN	CR+EN	VU		○			○	林内	土上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	キセルゴケ科	クマノチョウジゴケ※	*Buxbaumia minakatae* S. Okam.	CR+EN	CR+EN	CR+EN	EX		○			○	林内	倒木、腐木	北海道・本州・四国・九州
蘚類	ハイゴケ科	ヤリノホゴケ※	*Calliergonella cuspidata* (Hedw.) Loeske	CR+EN			VU		○		○	○	湿地	湿土上	北海道・本州
蘚類	シッポゴケ科	ヒロスジツリバリゴケ	*Campylopus gracilis* (Mitt.) A. Jaeger.	CR+EN	CR+EN			CR+EN	○			○	林外	岩上、土上	本州・九州
蘚類	シノブゴケ科	マキハハリゴケ	*Claopodium assurgens* (Sull. & Lesq.) Cardot	DD	EX		CR+EN		○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
蘚類	シノブゴケ科	ミヤマハリゴケ	*Claopodium crispifolium* (Hook.) Ren. & Card.	VU					○			○	林内	岩上、腐木	北海道・本州
蘚類	シノブゴケ科	ホソハリゴケ	*Claopodium gracillimum* (Cardot & Thér.) Nog.	DD					○			○	林内	土上、岩上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
蘚類	コウヤノマンネングサ科	フロウソウ※	*Climacium dendroides* (Hedw.) F. Web. & Mohr	CR+EN	VU				○	○		○	林外	湿土上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	クジャクゴケ科	ヒメソテツゴケ	*Cyathophorella kyusyuensis* Hor. & Nog.	CR+EN					○			○	渓谷	樹幹	本州・四国・九州

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
蘚類	クジャクゴケ科	キジノオゴケ※	*Cyathophorum asiantum* (Griff.) Mitt.	VU	CR+EN	CR+EN		NT	○		○	○	渓谷	樹幹	本州・四国・九州・琉球
蘚類	クジャクゴケ科	コキジノオゴケ※	*Cyathophorum hookeriana* (Griff.) Mitt.	NT			NT	NT	○			○	渓谷	樹幹、岩上	本州・四国・九州・琉球
蘚類	イトヒバゴケ科	カワブチゴケ※	*Cyptodontopsis leveillei* (Thér.) P. Rao & Enroth	NT	CR+EN	CR+EN		NT	○		○	○	渓流	樹枝	本州・四国
蘚類	ハイヒモゴケ科	キヌヒバゴケ	*Dicladiella trichophora* (Mont.) Redf. & B. C. Tan	DD	NT		VU		○			○	林内	樹枝・岩（下垂）	本州・四国・九州
蘚類	シッポゴケ科	ヘリトリシッポゴケ	*Dicranodontium uncinatum* (Harv.) A. Jaeger	VU					○			○	林内	土上、岩上	本州・四国・九州
蘚類	シッポゴケ科	ナスシッポゴケ	*Dicranum leiodontum* Cardot	DD					○			○	林内	腐木、樹幹	北海道・本州・四国・九州
蘚類	シッポゴケ科	コカモジゴケ	*Dicranum mayrii* Broth.	DD		CR+EN	VU		○			○	林内	腐木、土上、岩上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	イクビゴケ科	ミギワイクビゴケ	*Diphyscium chiapense* D. H. Norris ssp. *unipapillosum* (Deguchi) T. Y. Chiang & S. H. Lin	CR+EN				CR+EN	○			○	林内	土上、岩上	本州・四国・九州
蘚類	イクビゴケ科	カシミールクマノゴケ※	*Diphyscium kashmirense* (H. Rob.) Magombo	CR+EN	VU			VU	○		○	○	渓谷	湿岩上	本州・四国・九州
蘚類	アブラゴケ科	ヤクシマツガゴケ	*Distichophyllum collenchymatosum* Cardot	NT					○			○	渓谷	岩上	本州・四国・九州・琉球
蘚類	ツヤゴケ科	オオミツヤゴケ※	*Entodon conchophyllus* Cardot	VU				VU	○			○	林内	樹幹	本州・九州・琉球
蘚類	ヒナノハイゴケ科	アオシマヒメシワゴケ	*Erpodium glaucum* (Wilson) I. G. Stone var. *trichophyllum* (Ångstr. ex Müll. Hall.) I. G. Stone	NT				VU	○			○	低地	樹幹	本州・四国・九州
蘚類	ホウオウゴケ科	ビルマホウオウゴケ	*Fissidens beckettii* Mitt.	VU					○			○	低地	土上	本州・四国・九州・琉球
蘚類	ホウオウゴケ科	イリオモテホウオウゴケ	*Fissidens bogoriensis* Fleisch.	VU					○			○	林内	土上	本州・四国・九州・琉球・小笠原

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
蘚類	ホウオウゴケ科	マルバホウオウゴケ	*Fissidens diversifolius* Mitt.	DD					○			○	林外	湿岩上、土上	本州・四国・九州
蘚類	ホウオウゴケ科	オウギホウオウゴケ	*Fissidens flabellulus* Thawites & Mitt.	NT					○			○	林外	岩上、土上	本州・小笠原
蘚類	ホウオウゴケ科	ヒロハチャイロホウオウゴケ	*Fissidens ganguleei* Norkett ex Gangulee	NT					○			○	林外	土上	本州
蘚類	ホウオウゴケ科	ジョウレンホウオウゴケ	*Fissidens geppii* M. Fleisch.	VU	VU	CR+EN	CR+EN	VU	○			○	渓谷	湿岩上	本州・四国・九州
蘚類	ホウオウゴケ科	ニセチャイロホウオウゴケ	*Fissidens guangdongensis* Z. Iwats. & Z. H. Li	NT					○			○	林内	湿岩上	本州
蘚類	ホウオウゴケ科	ハネホウオウゴケ	*Fissidens involutus* Wilson ex Mitt.	VU			VU		○			○	渓谷	湿岩上	本州・四国・九州
蘚類	ホウオウゴケ科	ホンコンホウオウゴケ	*Fissidens oblongifolius* Hook. & Wilson	DD					○			○	低地	土上、岩上	本州・九州・琉球・小笠原
蘚類	イトヒバゴケ科	ヒメスズゴケ	*Forsstroemia cryphaeoides* Cardot	DD					○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州
蘚類	シッポゴケ科	ニセタマウケゴケ（シバゴケ）	*Garckea flexuosa*（Griff.）Marg. & Nork.	VU				CR+EN			○	○	草地	土上	本州・四国・九州・小笠原
蘚類	マルダイゴケ科	フガゴケ※	*Gymnostomiella longinervis* Broth.	CR+EN				VU	○		○	○	林内	岩上	本州・九州・琉球
蘚類	シノブゴケ科	ケアサゴケ	*Haplocladium perparaphyllum* R. Watanabe	DD					○			○	林内	根元、土上	本州・四国
蘚類	ナガハシゴケ科	ミヤマクサゴケ	*Heterophyllium affine*（Hook. ex Kunth）M. Fleisch.	NT					○			○	林内	倒木、腐食土上	北海道・本州
蘚類	ナガハシゴケ科	イトクサゴケ	*Heterophyllium nematosum* Broth. ex P. Varde & Thér.	DD					○			○	林内	岩上	北海道・本州
蘚類	ハイゴケ科	ホンダゴケ（コアオギヌゴケ）	*Hondaella caperata*（Mitt.）Ando	NT					○			○	林内	樹幹、岩上	北海道・本州・四国・九州

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
蘚類	イワダレゴケ科	イワダレゴケ	*Hylocomium splendens* (Hedw.) Bruch & Schimp. in B. S. G.	DD		VU			○				林内	林床、岩上、腐木上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	クジャクゴケ科	シナクジャクゴケ(ヒナクジャクゴケ)	*Hypopterygium tamarisci* (Sw.) Brid. ex Müll. Hal.	NT		VU		NT	○			○	林内	岩上、腐木	本州・九州・琉球・小笠原
蘚類	コモチイトゴケ科	コモチイチイゴケ※	*Isopterygium propaguliferum* Toyama	NT				CR+EN	○		○	○	林内	倒木、腐木	本州・四国・九州
蘚類	イタチゴケ科	ヨコグライタチゴケ	*Leucodon sohayakiensis* H. Akiyama	DD				CR+EN	○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州
蘚類	ナガハシゴケ科	マムシゴケ※	*Meiothecium microcarpum* (Harv.) Mitt.	CR+EN				CR+EN	○		○	○	林内	樹幹	本州・九州・琉球
蘚類	ハイヒモゴケ科	オオミミゴケ	*Meteoriella soluta* (Mitt.) S. Okam.	DD		CR+EN			○				林内	樹幹	本州・四国・九州
蘚類	ハイヒモゴケ科	イバラヤエゴケ	*Meteoriopsis undulata* Horik. & Nog.	VU	NT	CR+EN			○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州
蘚類	ヒラゴケ科	トサヒラゴケ※	*Neckeropsis obtusata* (Mont.) M. Fleisch.	NT	VU	NT	CR+EN	NT	○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
蘚類	トラノオゴケ科	ケサガリゴケ	*Neobarbella comes* Nog. var. *pilifera* (Broth. & M. Yasuda) B. C. Tan, S. He & Isov.	VU	CR+EN				○			○	渓谷	樹枝(下垂)	本州・四国・九州
蘚類	ナワゴケ科	ヤクシマナワゴケ※	*Oedicladium rufescens* (Reinw. & Hornsch.) Mitt. var. *yakushimense* (Sak.) Z. Iwats.	CR+EN	CR+EN	CR+EN		VU	○			○	林内	岩上	本州・九州
蘚類	ナワゴケ科	オオキヌタゴケ	*Oedicladium serricuspe* (Broth.) Hog. & Z. Iwats.	VU					○			○	林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州・琉球
蘚類	アオギヌゴケ科	キノクニオカムラゴケ	*Okamuraea plicata* Card.	NT	NT				○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州
蘚類	チョウチンゴケ科	タチチョウチンゴケ※	*Orthomnion dilatatum* (Mitt.) P. C. Chen	VU	VU	CR+EN	EX	CR+EN	○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州
蘚類	タチヒダゴケ科	コゴメタチヒダゴケ(ヒメタチヒダゴケ)	*Orthotrichum erubescens* Müll. Hal.	NT					○			○	林内	樹枝	本州・四国・九州

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
蘚類	ナワゴケ科	キノクニキヌタゴケ	*Palisadula chrysophylla* (Card.) Toyama	NT	NT		VU		○			○	林内	岩上	本州・四国・九州
蘚類	ナワゴケ科	カトウゴケ	*Palisadula katoi* (Broth.) Z. Iwats.	NT	NT		VU	NT	○			○	林内	岩上	本州・四国・九州
蘚類	ナガハシゴケ科	ハシボソゴケ※	*Papillidiopsis macrosticta* (Broth. & Par.) W. R. Buck & B. C. Tan	VU				VU	○			○	渓谷	樹枝	本州・九州・琉球
蘚類	キンシゴケ科	ヤマトキンチャクゴケ	*Pleuridium japonicum* Deguchi, Matsui & Z. Iwats.	VU							○	○	林外	土上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	イワダレゴケ科	タチハイゴケ※	*Pleurozium schreberi* (Brid.) Mitt.	DD		VU			○			○	林内	土上、腐木、岩上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	ハリガネゴケ科	ホソヘチマゴケ	*Pohlia leucostoma* (Bosch & Sande Lac.) M. Fleisch.	DD					○				渓谷	土上	本州・四国
蘚類	ハイヒモゴケ科	トサノタスキゴケ※	*Pseudobarbella laosiensis* (Broth. & Paris) Nog.	NT	NT			VU	○		○	○	渓谷	樹枝（下垂）	本州・四国・九州・琉球
蘚類	ハイゴケ科	ヒゴイチイゴケ	*Pseudotaxiphyllum maebarae* (Sakurai) Z. Iwats.	NT					○			○	林外	土上	本州・九州
蘚類	スナゴケ科	ナミカワスナゴケ	*Racomitrium aquaticum* (Schrad.) Brid.	CR+EN			CR+EN		○			○	林外	湿岩上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	シッポゴケ科	ナメハヤスジゴケ	*Rhabdoweisia crispata* (With.) Lindb.	DD					○				林内	岩上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	ハイゴケ科	コフサゴケ	*Rhytidiadelphus squarrosus* (Hedw.) Warnst.	NT			NT		○			○	林内	腐植土	北海道・本州・四国
蘚類	ヤナギゴケ科	ササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）※	*Sasaokaea aomoriensis* (Par.) Kanda	CR+EN		CR+EN	EX	CR+EN	○		○	○	湿地	湿土上	本州・四国・九州
蘚類	ミズゴケ科	ホソバミズゴケ	*Sphagnum girgensohnii* Russ.	DD	VU				○	○		○	湿地	湿岩	北海道・本州・四国・九州
蘚類	ミズゴケ科	コバノホソベリミズゴケ※	*Sphagnum junghuhnianum* Dozy & Molk. ssp. *pseudomolle* (Warnst.) H. Suzuki	NT	VU				○	○	○	○	渓谷	湿岩	本州・四国

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
蘚類	ミズゴケ科	オオミズゴケ	*Sphagnum palustre* L.	NT	VU	VU	VU	NT	○	○	○	○	湿地	湿土	北海道・本州・四国・九州
蘚類	カタシロゴケ科	イサワゴケ※	*Syrrhopodon tosaensis* Card.	NT				VU	○			○	林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州・琉球
蘚類	ハイゴケ科	ユガミタチヒラゴケ	*Taxiphyllum arcuatum* (Bosch & Sande Lac.) S. He	NT	NT		CR+EN		○			○	林内	根元、土上・岩上	本州・四国・九州・琉球
蘚類	ヒラゴケ科	キツネノオゴケ	*Thamnobryum alopecurum* (Hedw.) Nieuwl.	DD					○			○	渓谷	岩上	北海道・本州・四国・九州
蘚類	センボンゴケ科	ハナシセンボンゴケ	*Tortula truncata* (Hedw.) Mitt.	DD	NT				○			○	低地	土上、岩上	本州・九州
蘚類	ナガハシゴケ科	リュウキュウホソエゴケ	*Trichosteleum lutschianum* (Broth. & Paris) Broth.	NT	NT		VU	CR+EN	○			○	渓谷	樹枝	本州・四国・九州・琉球
蘚類	タチヒダゴケ科	ヒログチキンモウゴケ	*Ulota eurystoma* Nog.	NT	NT			VU	○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州
苔類	クサリゴケ科	ヨシナガクロウロコゴケ	*Acanthocoleus yoshinaganus* (S. Hatt.) Kruijt	NT	CR+EN		VU		○			○	渓谷	湿岩	本州・四国・九州
苔類	ムチゴケ科	フタバムチゴケ	*Bazzania bidentula* (Steph.) Steph. ex Yasuda	VU					○			○	林内	腐木上	本州・四国・九州
苔類	ムチゴケ科	タマゴバムチゴケ	*Bazzania denudata* (Torr. ex Lindenb.) Trevis.	CR+EN					○			○	林内	倒木、樹幹	北海道・本州・四国・九州
苔類	ムチゴケ科	フォーリームチゴケ	*Bazzania fauriana* (Steph.) S. Hatt.	VU					○			○	林内	林床、岩上、樹幹	本州・四国・九州・琉球
苔類	ムチゴケ科	ヤマムチゴケ	*Bazzania pearsonii* Steph.	VU	VU				○			○	林内	岩上	本州
苔類	ムチゴケ科	ヨシナガムチゴケ	*Bazzania yoshinagana* (Steph.) S. Hatt.	NT					○			○	林内	腐植土上、岩上	北海道・本州・四国・九州
苔類	ウスバゼニゴケ科	シャクシゴケ(ミドリシャクシゴケ)※	*Cavicularia densa* Steph.	CR+EN	VU		NT		○			○	林外	土上	北海道・本州・四国・九州

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
苔類	クサリゴケ科	ヒメシロクサリゴケ	*Cheilolejeunea japonica* (Horik.) W. Ye & R. L. Zhu	NT	NT				○			○	林内	樹幹	本州・九州
苔類	クサリゴケ科	キタガワシロクサリゴケ	*Cheilolejeunea kitagawae* W. Ye & R. L. Zhu	NT	CR+EN				○			○	林内	樹幹	本州・九州
苔類	クサリゴケ科	ツクシシゲリゴケ	*Cheilolejeunea obtusilobula* (S. Hatt.) S. Hatt.	CR+EN					○			○	渓谷	樹幹（枝）	本州・九州・琉球・小笠原
苔類	ハネゴケ科	ムチハネゴケ	*Chiastocaulon dendroides* (Nees) Carl	CR+EN	CR+EN				○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州・琉球
苔類	ウロコゴケ科	スケバウロコゴケ	*Chiloscyphus pallescens* (Ehrh. ex Hoffm.) Dumort.	NT	NT		DD		○			○	渓谷	湿岩上、倒木	北海道・本州
苔類	クサリゴケ科	イボケクサリゴケ	*Cololejeunea denticulata* (Horik.) S. Hatt.	CR+EN					○		○	○	渓谷	葉上	本州・琉球
苔類	クサリゴケ科	ホリカワキララゴケ	*Cololejeunea horikawana* (S. Hatt.) Mizut.	VU					○		○	○	渓谷	樹幹、葉上	本州・九州・琉球
苔類	クサリゴケ科	オオスミヨウジョウゴケ	*Cololejeunea lanciloba* Steph.	CR+EN			DD		○		○	○	渓谷	葉上	本州・九州・琉球
苔類	クサリゴケ科	ミヤジマヨウジョウゴケ	*Cololejeunea planissima* (Mitt.) Abeyw.	VU	VU		CR+EN		○		○	○	林内	樹幹、葉上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
苔類	クサリゴケ科	ヨシナガキララゴケ	*Cololejeunea yoshinagana* (S. Hatt.) Mizut.	CR+EN					○			○	林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州
苔類	クサリゴケ科	ボウズムシトリゴケ※	*Colura meijeri* Jovet-Ast	CR+EN		EX		VU	○			○	渓谷	樹枝、葉上	本州・九州・琉球
苔類	クサリゴケ科	ナガバムシトリゴケ※	*Colura tenuicornis* (A. Evans) Steph.	CR+EN				CR+EN	○			○	渓谷	樹枝、葉上	本州・四国・九州・小笠原
苔類	ヒシャクゴケ科	シロコオイゴケ	*Diplophyllum albicans* (L.) Dumort.	NT					○			○	林内	土上、岩上	北海道・本州・四国・九州
苔類	ヒシャクゴケ科	マルバコオイゴケモドキ	*Diplophyllum andrewsii* A. Evans	NT					○			○	林内	土上	北海道・本州・四国・九州

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
苔類	クサリゴケ科	サンカクゴケ※	*Drepanolejeunea teysmannii* (Gottsche) Steph.	VU	CR+EN				○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州
苔類	ヤスデゴケ科	カミムラヤスデゴケ	*Frullania brotheri* Steph.	NT	CR+EN				○			○	林内	岩上	本州・四国
苔類	ヤスデゴケ科	オニヤスデゴケ	*Frullania nepalensis* (Spreng.) Lehm. & Lindenb.	NT	VU		VU		○			○	林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州
苔類	ヤスデゴケ科	オキナワヤスデゴケ※	*Frullania okinawensis* Kamim.	CR+EN				DD	○			○	林内	樹皮	本州・琉球
苔類	ヤスデゴケ科	サカワヤスデゴケ	*Frullania sackawana* Steph.	VU		NT		VU	○			○	林内	岩上、樹幹	本州・四国
苔類	ヤスデゴケ科	オンタケヤスデゴケ	*Frullania schensiana* C. Massal.	NT					○			○	林内	樹幹、岩上	本州・九州
苔類	ヤスデゴケ科	タラダケヤスデゴケ	*Frullania taradakensis* Steph.	VU			VU		○			○	林内	岩上	本州・四国・九州
苔類	ヤバネゴケ科	エゾヤバネゴケ	*Fuscocephaloziopsis connivens* (Dicks.) Váňa & L. Söderstr.	VU					○			○	林内	腐木上	北海道・本州・四国
苔類	ミゾゴケ科	コアミメミゾゴケ	*Gymnomitrion commutatum* (Limpr.) Schiffn.	NT					○			○	林内	岩上	北海道・本州・四国・九州
苔類	チヂレヤハズゴケ科	エゾヤハズゴケ	*Hattorianthus erimonus* (Steph.) R. M. Schust. & Inoue	VU	NT				○			○	渓谷	岩上、腐食土上	北海道・本州・九州
苔類	タカサゴソコマメゴケ科	タカサゴソコマメゴケ	*Jackiella javanica* Schiffn.	NT		VU			○			○	林内	土上	本州・四国・九州・琉球
苔類	クサリゴケ科	ヒメコミミゴケ	*Lejeunea curviloba* Steph.	NT					○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州・琉球
苔類	クサリゴケ科	コダマクサリゴケ	*Lejeunea kodamae* Ikegami & Inoue	VU	CR+EN				○			○	渓谷	樹幹	本州
苔類	ウロコゴケ科	ホリカワトサカゴケ	*Lophocolea horikawana* S. Hatt.	NT					○			○	林内	湿岩上	本州・九州
苔類	ウロコゴケ科	ナカジマトサカゴケ	*Lophocolea nakajimae* S. Hatt. & Inoue	VU			NT		○			○	林内	腐木上	本州・四国・九州

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
苔類	クサリゴケ科	ヤマトクロウロコゴケ	*Lopholejeunea zollingeri* (Steph.) Schiffn.	CR+EN					○			○	林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州・琉球
苔類	タナネイチョウゴケ科	フォーリーイチョウウロコゴケ	*Lophozia guttulata* (Lindb. & Arnell) A. Evans	NT					○			○	林内	倒木、腐植土	北海道・本州・四国・九州
苔類	ミゾゴケ科	チャボミゾゴケ	*Marsupella disticha* Steph.	NT					○			○	林内	岩上（隙間）	本州
苔類	オオサワラゴケ科	オオサワラゴケ※	*Mastigophora diclados* (Brid. ex F. Weber) Nees	CR+EN				VU	○			○	渓谷	岩上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
苔類	クサリゴケ科	コクサリゴケモドキ	*Metalejeunea cucullata* (Reinw., Blume & Nees) Grolle	CR+EN					○			○	林内	樹幹	本州・九州・琉球
苔類	フタマタゴケ科	コオイフタマタゴケ	*Metzgeria crassipilis* (Lindb.) A. Evans	CR+EN	VU				○			○	林内	樹幹	本州・九州
苔類	フタマタゴケ科	カギフタマタゴケ	*Metzgeria leptoneura* Spruce	VU					○			○	林内	岩上	本州・四国・九州
苔類	サワラゴケ科	サワラゴケ	*Neotrichocolea bissetii* (Mitt.) S. Hatt.	CR+EN					○			○	渓谷	湿岩上	本州・四国・九州
苔類	キウロコゴケ科	キウロコゴケ※	*Notoscyphus paroicous* Schiffn.	CR+EN					○			○	林外	岩上、倒木	本州・四国・九州・琉球
苔類	ハネゴケ科	チチブハネゴケ	*Plagiochila flexuosa* Mitt.	VU	NT				○			○	渓谷	岩上	本州
苔類	ハネゴケ科	ヤハズハネゴケ	*Plagiochila furcifolia* Mitt.	VU			VU		○			○	渓谷	樹幹	本州・四国・九州・琉球
苔類	ハネゴケ科	オオハネゴケ	*Plagiochila magna* Inoue	CR+EN					○			○	稜線	岩上	本州・四国・九州
苔類	ハネゴケ科	マキノハネゴケ	*Plagiochila nepalensis* Steph.	CR+EN	NT				○			○	林内	岩上、根元	本州・四国
苔類	ハネゴケ科	ヒメマルバハネゴケ	*Plagiochila orbicularis* (S. Hatt.) S. Hatt.	NT	NT				○			○	渓谷	湿岩上	北海道・本州・四国・九州・琉球

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科　名	和　名	学　名	和歌山県 2022	近隣府県			国 2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県 2016	三重県 2015	大阪府 2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
苔類	ハネゴケ科	アツメハネゴケ	*Plagiochila peculiaris* Schiffn.	CR+EN					○			○	林内	岩上、樹幹	本州・四国・九州
苔類	ハネゴケ科	ヒメハネゴケ	*Plagiochila porelloides* (Torr. ex Nees) Lindenb.	VU					○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州
苔類	アミバゴケ科	アイバゴケ	*Plicanthus birmensis* (Steph.) R. M. Schust.	NT					○			○	林内	岩上	本州・四国・九州
苔類	アミバゴケ科	トゲアイバゴケ※	*Plicanthus hirtellus* (F. Weber) R. M. Schust.	VU					○			○	林外	岩上	本州・四国・九州
苔類	クラマゴケモドキ科	ケクラマゴケモドキ	*Porella fauriei* (Steph.) S. Hatt.	NT					○			○	林内	樹幹	北海道・本州
苔類	クラマゴケモドキ科	タカキクラマゴケモドキ	*Porella oblongifolia* S. Hatt.	NT	VU				○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国
苔類	ケビラゴケ科	ヨウジョウケビラゴケ	*Radula acuminata* Steph.	NT		CR+EN			○			○	林内	樹幹、岩上	本州・四国・九州・琉球
苔類	ケビラゴケ科	シゲリケビラゴケ	*Radula javanica* Gottsche	NT		CR+EN			○			○	渓谷	岩上、樹幹	本州・四国・九州・琉球・小笠原
苔類	ケビラゴケ科	オカムラケビラゴケ	*Radula okamurana* Steph.	VU					○			○	林内	樹幹	本州・四国・九州・琉球
苔類	スジゴケ科	ヒメテングサゴケ	*Riccardia planiflora* (Steph.) S. Hatt.	DD			DD		○			○	林内	腐木上	北海道・本州・四国・九州
苔類	ウキゴケ科	ミヤケハタケゴケ	*Riccia latifrons* var. *miyakeana* (Schiffn.) Furuki	DD			DD		○			○	低地	土上	本州・四国・九州・琉球
苔類	ウキゴケ科	イチョウウキゴケ※	*Ricciocarpos natans* (L.) Corda	NT		NT	DD	NT	○		○	○	水田，湿地	浮遊、土上	北海道・本州・四国・九州・琉球
苔類	ヒシャクゴケ科	ムカシヒシャクゴケ※	*Scapania ornithopoides* (With.) Waddell	DD	CR+EN			VU	○			○	渓谷	湿岩上	本州・四国
苔類	ヒシャクゴケ科	タマゴバヒシャクゴケ	*Scapania subnimbosa* Steph.	CR+EN					○			○	林内	湿岩、腐木	本州・四国・九州
苔類	ヒシャクゴケ科	ムラサキヒシャクゴケ	*Scapania undulata* (L.) Dumort.	VU			VU		○		○	○	渓流	湿岩～水中	北海道・本州・四国・九州

植物（蘚苔類）の一覧表

上位分類	科名	和名	学名	和歌山県2022	近隣府県			国2020	選定理由				生育環境	生育基物	国内分布
					奈良県2016	三重県2015	大阪府2014		環境悪化	採取	特殊環境	希少性			
苔類	ヒシャクゴケ科	オヤコゴケ※	*Schistochilopsis cornuta* (Steph.) Konstant.	NT					○			○	林内	土上、倒木上	北海道・本州・四国・九州
苔類	ソロイゴケ科	ホウキゴケ	*Solenostoma comatum* (Nees) C. Gao	DD					○			○	低地	土上	本州・四国・九州・琉球・小笠原
苔類	ソロイゴケ科	タチツボミゴケ	*Solenostoma erectum* (Amakawa) C. Gao	NT					○			○	渓谷	湿岩上	本州・四国・九州
苔類	ソロイゴケ科	ホリカワツボミゴケ	*Solenostoma horikawanum* (Amakawa) Váňa, Hentschel & Heinrichs	CR+EN					○			○	林外	岩上	本州・四国・九州
苔類	ソロイゴケ科	オチツボミゴケ	*Solenostoma otianum* (S. Hatt.) R. M. Schust.	VU	VU		VU		○			○	低地	土上	本州・四国・九州
苔類	ソロイゴケ科	ハネツボミゴケ	*Solenostoma plagiochilaceum* (Grolle) Váňa & D. G. Long	VU	CR+EN		VU		○			○	林外	湿岩上、湿土上	本州
苔類	ソロイゴケ科	オオツボミゴケ	*Solenostoma radicellosum* Mitt.	CR+EN					○			○	渓谷	岩上	本州・四国・九州
苔類	ソロイゴケ科	アカツボミゴケ	*Solenostoma rubripunctatum* (S. Hatt.) R. M. Schust.	VU	CR+EN				○			○	低地	土上	本州・四国・九州
苔類	ソロイゴケ科	ゴマダラツボミゴケ	*Solenostoma tetragonum* (Lindenb.) R. M. Schust. ex Váňa & D. G. Long	CR+EN					○			○	低地	湿岩、土上	本州・九州・琉球
ツノゴケ類	キノボリツノゴケ科	キノボリツノゴケ※	*Dendroceros japonicus* Steph.	CR+EN		CR+EN		CR+EN	○			○	渓谷	樹幹	本州・四国・九州・琉球・小笠原

主な植物（蘚苔類）の解説

フウリンゴケ　*Bartramiopsis lescurii* (James) Kindb.　蘚類　スギゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

亜高山の針葉樹林下の土上に群落を形成する蘚類である。針金のような茎の下半分には葉がない。葉は乾燥すると強く巻縮する。葉鞘部の縁に数本の長毛が並ぶのも特徴である。葉身部の断面は 2 細胞層で、薄板は中肋の腹面側にのみ数列あり、高さは 3~8 細胞ある。蒴は風鈴のような形をし、蒴歯がなく、帽も無毛である。

紀南の大塔山系の渓谷に生育しており、しかも標高の低い場所でのみ記録されている。本来ならば山地上部の樹林帯で大きな群落として見られ、奈良県では千数百 m を超える場所では普通である。亜高山帯のない和歌山県の照葉樹林内での生育は珍しく、本種の南限域としても貴重である。今後の詳細な調査が待たれる。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．1990．照葉樹林にフウリンゴケ見つかる．植物地理・分類研究，38 (1)：21.
2　岩月善之助 編．2001．日本の野生植物　コケ．355pp．平凡社，東京.
3　Noguchi, A. 1987. Illustrated moss flora of Japan Part 1. 1– 242. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

ウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）　*Buxbaumia aphylla* Hedw.　蘚類　キセルゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

緑色の配偶体は退化し、葉がない。胞子体の蒴がよく発達していて、一見するとコケには見えない。針葉樹林帯の腐植土上等に散在し生育しているが、高さが 15 mm ほどと小さい。蒴は成熟すると赤褐色で、傾いてつき、上面は平らになり、側部は明瞭な稜がある。また、蒴柄は密に乳頭で被われている。

和歌山県内でも護摩壇山や果無山脈等、標高の高い場所に限定され、記録されている。中部地方以北の亜高山帯では稀ではないが、本県では生育の条件は狭められているであろう。上述のようにコケとして目立つ存在ではないため、見逃されている可能性は否定できないが、今後も詳細な調査が必要である。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史・山本誠二．1994．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅰ．南紀生物，36 (1)：15–20.
2　Noguchi, A. 1987. Illustrated moss flora of Japan Part 1. 1– 242. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
3　山本誠二・土永浩史．1993．紀伊半島に新たに見つかったキセルゴケについて．日本蘚苔類学会会報，6 (1)：5.

写真：土永浩史撮影

クマノチョウジゴケ　*Buxbaumia minakatae* S. Okam.　蘚類　キセルゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

同属のウチワチョウジゴケと同様に配偶体は退化していて、葉が見られない。発見者の南方熊楠は「葉ナシゴケ」だと記している。熊楠もキノコの一種と思い採集したが、キセルゴケ属の１種で、同郷の岡村周諦により新種記載された。蒴柄が短いので、ほとんど目立たない。発達した蒴はほぼ円筒形で側部に稜がないのが特徴である。

最初に見つかった紀南での記録は、国内での分布からすると南限域にあたる。熊楠は熊野地方の植物調査で、本種を熱心に採集していて、国立科学博物館に標本が保管されている。和歌山県を代表する植物の一つと言えるが、当時の自然林がない現在、極めて貴重な記録である。山地の腐木上に稀に生育するが、コケのイメージとはかけ離れているので、調査も容易ではない。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　Noguchi, A. 1987. Illustrated moss flora of Japan Part 1. 1– 242. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
2　Okamura, S. 1911. Neue Beiträge zur Moosflora Japans. I. Botanical Magazine, 25（288）: 30–34.
3　太田耕二郎．1976．南方熊楠と蘚の考証．田辺文化財，(19)：1–4.
4　太田耕二郎．1988．和歌山県の蘚類おぼえがき．13pp.（自費出版）

写真：土永浩史撮影

ヤリノホゴケ　*Calliergonella cuspidata*（Hedw.）Loeske　蘚類　ハイゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

湿地や放棄水田等に黄緑色から緑色の群落を形成する。茎は羽状に分枝し、枝先では覆瓦状に葉をつけて、真っ直ぐに尖る。茎葉は卵形から楕円状卵形で凹み、先端は丸いが、ときに短尖頭である。葉は全縁で、中肋は２本で短く、ときに欠く。葉身細胞は線形で、薄壁である。翼細胞は方形で膨らみ薄膜、やや透明で明瞭な区画をつくる。

和歌山県に少ない湿原と類似した生育環境として、近年増加しつつある放棄水田で、その生育が見られた。植物体の大きさも手のひらサイズであるが、他の蘚類と混生していれば、詳細に調べないと野外で判断は難しい。今後新たな生育環境として放棄水田に注意を払う必要があり、更なる調査に期待したい。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62（1）：40–44.
2　岩月善之助 編．2001．日本の野生植物　コケ．355pp．平凡社，東京.
3　Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743–1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

フロウソウ　*Climacium dendroides* (Hedw.) F. Web. & Mohr　蘚類　コウヤノマンネングサ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



湿った土上や腐植土上等で樹状に分枝して立ち上がって生育する。一次茎は匍い、5 cm ほど二次茎が起き上がるが、同属のコウヤノマンネングサほど大きくない。主茎はまっすぐに伸びて湾曲せず、枝先もあまり細くならないという違いがある。また、枝の表面には毛葉が多く見られる。枝葉は幅広く、先端は広く尖り、中肋の背面は平滑である。

近年、紀南で新たに見つかったので、和歌山県内の実態は不明である。植物体が伸び上がり大きな群落を形成するので、目立つ存在であるにも関わらず記録がなかった。もともと県内に生育している個体自体が少量なのかも知れないので、広く調査を進めて実態を把握する必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62（1）：40–44.
2　岩月善之助 編．2001．日本の野生植物　コケ．355pp．平凡社，東京.
3　Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013–1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

カシミールクマノゴケ　*Diphyscium kashmirense* (H. Rob.) Magombo　蘚類　イクビゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

渓流の岩場に生育する小形の蘚類である。配偶体の葉は黒緑色で、幅広い基部から細いひも状に伸びる。中肋背面には線形の透明な細胞が葉の先端近くまで並ぶのが特徴である。乾燥すると葉は強く巻縮する。

同属のクマノゴケと似た環境に生育するが、水が滴る岩上にクマノゴケが見られるのに対して、本種は、やや乾燥気味の岩上に生育している。本種の和歌山県内産地は極めて限定されていて貴重である。同様の生育場所を再調査すれば、本種の実態が得られる可能性も高く、今後の調査に期待したい。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24–37.
2　Magombo, Z. 2003. Taxonomic revision of the moss family Diphysciaceae M. Fleisch. (Musci). The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (94)：1–86.
3　太田耕二郎．1988．和歌山県の蘚類おぼえがき．13pp．（自費出版）

フガゴケ　*Gymnostomiella longinervis* Broth.　蘚類　マルダイゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

石灰岩や石灰質を含む岩上に生育する 5 mm ほどの小形の蘚類である。茎の頂端に楕円形で多細胞の無性芽をつける。葉はまばらにつき、倒卵形からへら形で、葉先は円頭をしている等の特徴がある。葉縁は平坦であるが、上部の縁にパピラがある。葉身細胞は四角形から六角形で、2~4 個の小さいパピラがあるが、下部の細胞は平滑である。中肋は葉先から少し下で終わっている。

紀南の産地は石灰岩ではなく、一部石灰質を含んだ岩上に少量生育していた。道路拡張に伴い生育地は影響を受け、詳細な調査が望まれる。県内には石灰岩地域が少ないので、稀少性に富む種とみられる。全国的にも本種は記録が少なく、また環境の変化に対して大きく影響を受けやすいとみられる。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．1997．千葉県におけるフガゴケの新たな産地．蘚苔類研究，7（3）：81-82.
2　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，（45）：24-37.
3　岩月善之助 編．2001．日本の野生植物　コケ．355pp．平凡社，東京.
4　環境省 編．2015．レッドデータブック　2014 －日本の絶滅のおそれのある野生生物－ 9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．580pp．ぎょうせい，東京.

写真：土永浩史撮影

マムシゴケ　*Meiothecium microcarpum*（Harv.）Mitt.　蘚類　ナガハシゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

樹幹に着生する黄緑色をした中形の蘚類で、一見ハシボソゴケに似ている。茎は樹皮に密着し、あまり分枝しない。葉は卵形から狭卵形で短く尖る。葉面は凹み、縁は全縁で中肋を欠く。葉身細胞は長菱形で、翼部には 3~5 個の大形で透明な細胞が並ぶ。蒴柄は短く 1~2 mm ほどで、蒴は小形でやや傾くか、ほぼ相称である。

紀伊半島以南に分布するが、産地は極めて限られている。生育地は国立公園内に含まれていることから、樹木が伐採される危険は少ない。しかし、谷間周辺の環境が変化することでダメージを受けやすいので、継続して見守るとともに、新たな生育地の調査や確認が必要である。

執筆者（土永浩史）

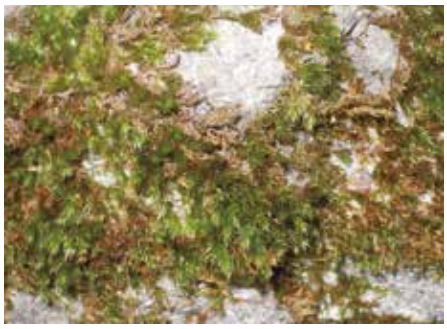
参考文献・情報

1　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24-37.
2　土永浩史・山本誠二．2013．紀伊半島産のマムシゴケ．蘚苔類研究，10（10）：355-356.
3　Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013-1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

ヤクシマナワゴケ　*Oedicladium rufescens* (Reinw. & Hornsch.) Mitt. var. *yakushimense* (Sak.) Z. Iwats.　蘚類　ナワゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

渓流近くの岩壁等に生育する暗い黄緑色をした大形の蘚類である。植物体は赤褐色の光沢を持ち、他の緑色の蘚苔類とは異なるマットを形成する。葉は密につけ、3~4 mm の長さで、乾燥しても縮れない。卵形から倒卵形で葉縁は内曲して凹み、先は急に細く針状に尖る。葉身細胞の壁は厚く、ところどころくびれがある。中肋はほとんどなく、葉基部の翼細胞は褐色の明瞭な区画をつくる。

基本種は熱帯地方に広く分布し、紀伊半島は北限域にあたる。今のところ産地も限られ、多産しないことから注目すべき種群に含まれる。生育していれば、野外でも肉眼で確認できるほどの大きな群落を形成するので、今後も詳細な調査から実態を把握する必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24–37.
3　土永浩史・山本誠二．1997．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ．南紀生物，39（1）：9–13.
4　Iwatsuki, Z. 1979. Re-examination of *Myurium* and its related genera from Japan and its adjacent areas. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (46)：257–283.

写真：土永浩史撮影

ササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）　*Sasaokaea aomoriensis* (Par.) Kanda　蘚類　ヤナギゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

湿原や湿地、水中にも生育する鮮やかな黄緑色をした大形の蘚類である。茎は長く 10 cm 以上にもなり、羽状に分枝する。大きな特徴として、茎には、先が分かれた細長い毛葉が多数見られることがあげられる。茎葉は卵状披針形で凹み、鋭頭で鎌状に曲がり、葉先には小歯がある。中肋は 1 本で長く、3／4 以上になり、翼細胞はあまり分化しない。胞子体が数年前に国内で見つかった。和歌山県内には雌株の個体が多いが、胞子体はまだ知られていない。

近年になって紀南で生育が確認された貴重な種である。よく日の当たる湿った場所に限られる。最近、増加している放棄水田の一部に繁殖している産地もあるが、周囲が草本で覆われると生育が妨げられ、他種との競争に負けるようである。今のところ紀南に点在しているが、明るくて湿った環境が維持されていないと姿を消してしまう種とみられ、調査が急がれる。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史・鵜沢美穂子・秋山弘之．2020．紀伊半島南部のササオカゴケ．蘚苔類研究，12（5）：130–132.
2　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62（1）：40–44.
3　Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743–1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

シャクシゴケ（ミドリシャクシゴケ）　*Cavicularia densa* Steph.　苔類　ウスバゼニゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

山地の湿った土上や崖面に生育する暗緑色の葉状体で、純群落を形成する。同科のウスバゼニゴケ属と同様に小さな点状にラン藻が２列に並び、共生するという特徴を持つ。葉状体は匍匐し、先端で二叉状に分枝する。翼部は細かく切れ込んでいる。葉状体の先端部には半月形の凹みがあり、金平糖状の無性芽をつける。日本固有種である。

比較的日本海側に分布し、近畿では北部に多いとされていて、和歌山県内の産地は限定されている。上記の生育環境はどこにでもありそうであるが、これまで記録されていなかった。葉状体内の腔所にある黒色のラン藻や特異な形態をした無性芽の存在で、野外でも同定することが可能な種である。詳細な調査が望まれる。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62（1）：40–44.
2　井上　浩．1976．続・日本産苔類図鑑．193pp．築地書館，東京.
3　児玉　努．1972．近畿地方の苔類（第二部），大阪市立自然科学博物館収蔵目録第４集．132pp．大阪.

写真：土永浩史撮影

ボウズムシトリゴケ　*Colura meijeri* Jovet-Ast　苔類　クサリゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

渓流沿いや常緑樹林内の樹幹や樹枝、生葉上に着生する微小な苔類である。淡緑色で、５ mm 足らずの茎でほとんど分枝しない。葉は著しく背側に偏向し、背片は接在して、卵形で全縁である。腹片の上部は膨らみ、楕円形で鈍頭の袋状になる。葉身細胞は薄膜だが、トリゴンが大きく、円形である。腹葉は葉１枚につき１枚ずつあり、深く２裂する。葉の先端には円盤状の無性芽をつける。

紀南の高湿度の谷間に生育する貴重種だが、現地で見分けるのは困難である。同環境にはクサリゴケ科が多産するので、顕微鏡下で詳細に調べることで判明するが、森林の伐採等で乾燥が進めば、すぐに消えていく種群である。生育環境の維持が大切である。

執筆者（土永浩史）

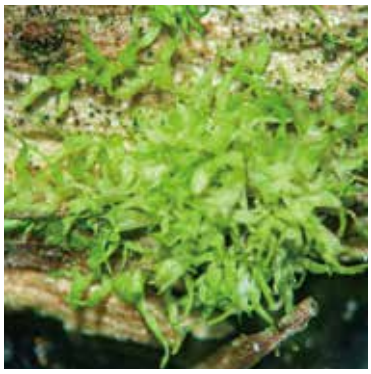
参考文献・情報

1　土永浩史．1991．北海道大学和歌山地方演習林産蘚苔類２種．南紀生物，33（2）：97–99.
2　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　土永浩史・山本誠二．1997．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ．南紀生物，39（1）：9–13.
4　児玉　努．1972．近畿地方の苔類（第二部），大阪市立自然科学博物館収蔵目録第４集．132pp．大阪.
5　Mizutani, M. 1961. A revision of Japanese Lejeuneaceae. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (24)：115–302.

写真：土永（1991）典拠

ナガバムシトリゴケ　*Colura tenuicornis* (A. Evans) Steph.　苔類　クサリゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

湿度の高い渓流の灌木や常緑樹林内の樹幹に着生する微小な苔類である。淡緑色で 5 mm 足らずの茎に、著しく偏向する葉を接在させる。葉は全縁で、腹片は背片より長く円筒形で、上部が膨らみ細長い牛の角状の袋となる。葉身細胞は薄膜でトリゴンがない。袋状の内側の上端に小さい開口部があり、透明で円形の弁がある。また腹葉は葉 1 枚につき 1 枚ずつで、深く 2 裂し、円盤状の無性芽をつける等は同属のボウズムシトリゴケと同じ特徴である。

熱帯から亜熱帯に分布する両種は、紀伊半島が北限域で和歌山県内の産地も限定されている貴重な種である。繊細で微小な植物体なので、わずかな環境の変化に影響を受けやすい。個体が減少しないように、より広い範囲の生育環境を維持していくことが求められる。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史・山本誠二．1997．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ．南紀生物，39（1）：9–13.
2　土永浩史・山本誠二．2008．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅴ．南紀生物，50（2）：222–226.
3　児玉　努．1972．近畿地方の苔類（第二部），大阪市立自然科学博物館収蔵目録第 4 集．132pp．大阪.
4　Mizutani, M. 1961. A revision of Japanese Lejeuneaceae. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (24) : 115–302.

写真：土永浩史撮影

オキナワヤスデゴケ　*Frullania okinawensis* Kamim.　苔類　ヤスデゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	情報不足（DD）

選定理由

樹幹に着生する淡緑褐色から褐色をしたヤスデゴケ属の一種である。植物体は 20 mm 程度で不規則に分枝する。茎葉の背片は広卵形から円形、全縁で先端は丸く、背片の基部は耳状に発達する。葉身細胞の細胞壁は薄いが、中間部が肥厚し、トリゴンは大きい。腹片は帽状で嘴がよく伸びる。腹葉は円形でゆるく重なり合い、茎の 4 倍ほどの横幅があり、1／6~1／4 まで 2 裂する。花被の表面は平滑である。

近年、沖縄のタイプ標本以外で記録された稀少な種で、本土で初めての記録である。1964 年に採集された標本から見出された。現状は不明である。カラヤスデゴケに似ている点から、これまで同定された標本を再調査する必要も出てきた。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　細井啓子・山田耕作．2010．オキナワヤスデゴケ（ヤスデゴケ科，タイ類）が和歌山県で見つかる．蘚苔類研究，10（2）：50–52.
2　Kamimura, M. 1982. Some addenda to the *Frullania* of Japan and neighboring area Ⅲ. Miscellanea Bryologica et Lichenologica, 9 (4) : 87–93.

オオサワラゴケ　*Mastigophora diclados* (Brid. ex F. Weber) Nees　苔類　オオサワラゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

山地の岩上や樹幹に黄褐色のマットを形成する大形の苔類である。茎は直立から斜上しており、1~2 回羽状に分枝し、枝の先は鞭枝状に伸びる。葉は重なり偏平に展開し、1／2~1／3 まで 3 裂する。葉裂片は三角形で尖り、背片ほど大きく全縁、基部に裂片状の突起がある。葉身細胞は薄壁で、トリゴンが極めて大きい。腹葉は楕円形で、1／2 まで 2 裂する。

熱帯地域に普通に見られる本種は、屋久島では旺盛な生育が見られる。紀伊半島南部は

選定理由

その北限域にあたり、貴重な生育地であるが、産地は限定されている。他の地域では、森林伐採等、生育地の乾燥化により消失したという報告もされている。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　環境省 編．2015．レッドデータブック　2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．580pp．ぎょうせい，東京．
2　児玉　努．1968．紀州産苔類雑記．南紀生物，10（1・2）：15．
3　児玉　努．1972．近畿地方の苔類（第二部），大阪市立自然科学博物館収蔵目録第４集．132pp．大阪．
4　太田耕二郎．1989．和歌山県の苔類おぼえがき．10pp．（自費出版）

キウロコゴケ　*Notoscyphus paroicous* Schiffn.　苔類　キウロコゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	－

選定理由

低山地の土上や腐木上に生育する 10 mm 程度の黄緑色をした小形の苔類である。分枝は少なく、仮根は無色で、腹葉の基部から出る。葉は斜めについて、広く開出し、舌形で円頭・全縁、背縁は茎に流下する。葉身細胞は薄膜でトリゴンが大きく、表面にベルカがある。油体は各細胞に 2~8 個、球形から楕円体、微粒の集合である。腹葉は茎幅より狭く、1／2~1／3 まで 2 裂する。花披が痕跡的で鱗片状であるのが特徴である。

東南アジアから琉球や四国まで分布していて、本州では紀伊半島南部が北限域となっている。常緑広葉樹林内に生育し、小形の蘚苔類と混生することもあるので、注意が必要である。和歌山県でも産地が限られている貴重な種で、紀南地域を中心に詳細な調査が望まれる。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　井上　浩．1976．続・日本産苔類図鑑．193pp．築地書館，東京．
2　岩月善之助 編．2001．日本の野生植物　コケ．355pp．平凡社，東京．
3　太田耕二郎．1989．和歌山県の苔類おぼえがき．10pp．（自費出版）

キノボリツノゴケ　*Dendroceros japonicus* Steph.　ツノゴケ類　キノボリツノゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）	旧県	2012	－	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）

選定理由



渓流沿いの樹幹や枝に着生する暗緑色のツノゴケの一種である。葉状体の長さは 2~3 cm、幅は 1.2~2 mm で、不規則に二叉状に分岐する。中肋部と翼部に明瞭に分かれ、翼部は全縁で、単細胞層で著しく波打つ。翼部の細胞壁は薄く、トリゴンは大きくて孔がある。葉緑体は大きく各細胞に 1 個見られる。胞子体は円柱状で 1~2 cm、蒴に気孔はなく、胞子は淡緑色の多細胞性で 120 μm ほどである。

高湿度な環境を維持している紀南の渓谷に限定し生育している。本属が唯一の着生性のツノゴケで、森林の伐採や渓谷への土砂の流入により環境が変化することで消滅する可能性が極めて高い種である。近隣の県では生育の確認されていない所が増え、和歌山県内の同様の生育地を早急に調べておく必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史・山本誠二．1994．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅱ．南紀生物，36（2）：120-122．
2　土永浩史・山本誠二．1999．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅳ．南紀生物，41（1）：11-14．
3　Hasegawa, J. 1980.Taxonomical studies on Asian Anthocerotae II. Some Asian species of *Dendroceros*. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory,（47）：287-309.
4　環境省 編．2015．レッドデータブック　2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．580pp．ぎょうせい，東京．
5　太田耕二郎．1989．和歌山県の苔類おぼえがき．10pp．（自費出版）

写真：土永浩史撮影

キジノオゴケ　*Cyathophorum asiantum* (Griff.) Mitt.　蘚類　クジャクゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



渓流沿いの樹幹や岩上に着生する比較的大形の濃い緑色した蘚類で、二次茎がほとんど枝分かれしない。長さは 4~5 cm で、先端は尾状に尖り、線状の無性芽を多くつける。側葉は狭楕円状卵形で非相称、葉縁に鋭い刺状の長い歯がまばらにある。舷は不明で、中肋は短い。葉身細胞は狭い六角形で厚壁、くびれがある。腹葉は倒卵形から楕円形で中肋を欠き、先端は急に尖る。蒴は極めて稀である。

紀南の渓谷に生育しているが、産地は少なく、限定的である。同属のコキジノオゴケよりも生育範囲は狭く、より貴重な種である。林道の拡張工事から生育地の湿度が保てずに姿を消している場所もあった。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50（1）：6–14．
3　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，（45）：24–37．
4　土永浩史・山本誠二．1997．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ．南紀生物，39（1）：9–13．
5　Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743–1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

オオミツヤゴケ　*Entodon conchophyllus* Cardot　蘚類　ツヤゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由



山地、特に山頂やそれに近い尾根筋の樹幹に着生する蘚類である。光沢のある鮮やかな黄緑色から褐色を帯びた緑色の植物体で、胞子体をよくつける。葉は茎に密につき、卵形から楕円状卵形で、深く凹み、先端は急に細く尖る。葉は先端を除き全縁である。中肋は 2 叉して短く、葉身細胞は線形である。蒴は短くて卵形から球形に近く、胞子の長径が 35~55 μm と著しく大きいことが特徴である。

和歌山県内の標高 1000 m を超える山地の樹幹に数箇所生育しているが、ブナ等が残されている僅かな場所には、今後も見つかる可能性はある。森林の伐採で消失してしまうので、早急に調べておく必要がある。他県でも、その生育が確認できていないという報告がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50（1）：6–14．
2　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，（45）：24–37．
3　土永浩史．2009．紀伊半島大塔山山頂におけるオオミツヤゴケの生育状況．蘚苔類研究，9（12）：395–396．
4　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62（1）：40–44．
5　環境省 編．2015．レッドデータブック　2014 －日本の絶滅のおそれのある野生生物－　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．580pp．ぎょうせい，東京．
6　Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013–1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

タチチョウチンゴケ　*Orthomnion dilatatum* (Mitt.) P. C. Chen　蘚類　チョウチンゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

やや濃い緑色をした匍匐茎が樹幹に着生する大形の蘚類である。茎は不規則に分枝し、褐色の仮根を密につけ、直立茎の先端に胞子体をつける。他のチョウチンゴケとは異なり、蒴柄は短く、楕円状円筒形の蒴は、直立して曲がらない。匍匐茎の葉は偏平につき、円形から広楕円形で、先端は円頭、ときに微凸頭となる。葉縁に２細胞列の舷があるが、全縁で、中肋は葉先よりかなり下でなくなる。葉身細胞は六角形で厚壁である。

紀南の山地で記録されているものの、生育地は限定されていて、森林伐採等による乾燥地化が進めば生育を維持していくことは困難である。国内でも群落が消滅していたという報告もなされ、注視する必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50 (1)：6–14.
3　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24–37.
4　環境省 編．2015．レッドデータブック　2014 −日本の絶滅のおそれのある野生生物−　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．580pp．ぎょうせい，東京．
5　中嶋徳一郎．1966．大塔村蘚類目録の追加．南紀生物，8 (2)：65–66.
6　Noguchi, A. 1989. Illustrated moss flora of Japan Part 3. 493–742. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

ハシボソゴケ　*Papillidiopsis macrosticta* (Broth. & Par.) W. R. Buck & B. C. Tan　蘚類　ナガハシゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

暖地の渓流沿いの灌木や樹枝に着生し、光沢をもった黄緑色の群落を形成する。茎は匍い、枝をたくさん上方へ伸ばす。葉は丸くついて、乾燥しても展開したままである。枝葉は楕円形で基部が少し狭く、先端はやや鈍頭または短く広く尖る。また深く凹み、中肋は短い。葉身細胞は狭菱形から線形で厚壁、背面側の中央に１個の大きなパピラがある。翼部の細胞は大きくて細長く、厚壁である。雌雄同株なのでよく胞子体をつける。

本州では紀伊半島南部のみで、渓谷等、湿度の高い環境は本種の生育には最適の場所と言える。人為的でなくても災害等土砂崩れにより渓流が埋まり、乾燥化による生育環境の悪化が大きく懸念される。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50 (1)：6–14.
3　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24–37.
4　土永浩史・山本誠二．1997．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ．南紀生物，39 (1)：9–13.

参考文献・情報
5　Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013–1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
6　太田耕二郎. 1973. 小口観察会で得た珍しい蘚類. 南紀生物, 15 (2) : 30.
写真：土永浩史撮影

サンカクゴケ　*Drepanolejeunea teysmannii* (Gottsche) Steph.　苔類　クサリゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−

選定理由

霧がかかるような山地の樹幹に着生する黄緑色の微小な苔類である。糸くずのような5 mmほどの茎が不規則に少なく分枝し、葉は披針形で斜めに開出して、背片は離在する。先端は三角形状で、あまり鎌状にならず、鋭頭でやや内曲するのが区別点とされる。縁は鋸歯状で、基部には眼点細胞が1~2個ある。腹片は背片の約1／2の長さで卵形、キールは円錐形の細胞で歯状となる。葉身細胞は薄壁でトリゴンは大きい。腹葉は茎幅とほぼ同じ、1／2まで広く2裂し、裂片基部は1細胞幅で、長さは2~3細胞である。

熱帯アジアの山地に広く分布する本種は、紀伊半島が北限域となり、貴重な存在である。植物体が極めて小さいので、詳細に樹皮を調べないと見逃す恐れもある。現在のところ、紀南の山間部でのみ記録されている。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報
1　土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47–63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
2　児玉　努. 1971. 那智の苔類. 杉野久雄教授停年退官記念誌, 41–48. 大阪.
3　児玉　努. 1972. 近畿地方の苔類（第二部）, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第4集. 132pp. 大阪.
4　Mizutani, M.1961. A revision of Japanese Lejeuneaceae. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (24) : 115–302.

トゲアイバゴケ　*Plicanthus hirtellus* (F. Weber) R. M. Schust.　苔類　アミバゴケ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



山地の岩上でマットを形成する緑褐色から黄褐色の苔類で、茎は3 cmほどである。斜上し、分枝も仮根も少ない。葉は重なって、ほぼ横につき、斜めに開出して基部近くまで不等に3裂する。背側の裂片が最も大きく、各裂片の先端は細く尖り、両側が外曲し、縁には細長い歯があるのが特徴である。葉身細胞は長方形で、波状に肥厚した細胞壁でトリゴンが大きい。また、表面にベルカがある。腹葉は小さく、茎幅とほぼ同じで、深く2裂する。

紀南で数箇所記録されている程度で、産地は多くない。生育していれば、純群落をつくることが多いので、葉が3裂する点にも着目すれば、野外でも見分けがつく。今後の詳細な調査が待たれる。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報
1　土永浩史. 2002. 大塔山系の蘚苔類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. 47–63. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
2　土永浩史・山本誠二. 2008. 紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅴ. 南紀生物, 50 (2) : 222–226.
3　Kitagawa, N. 1965. A revision of the family Lophoziaceae of Japan and its adjacent regions. I. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (28) : 239–291.
4　児玉　努. 1971. 近畿地方の苔類（第一部）, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第3集. 116pp. 大阪.
写真：土永浩史撮影

コキジノオゴケ　*Cyathophorum hookeriana* (Griff.) Mitt.　蘚類　クジャクゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



渓谷や林内の樹幹や岩上に散生する黄緑色の蘚類である。同属のキジノオゴケよりも小さく、二次茎は2 cmほどで柔らかい植物体である。側葉は卵形で非相称、先端は短く尖る。葉縁には舷があり、上部の縁に微歯があるか、ほぼ全縁。葉身細胞は六角形で厚壁、くびれがある。腹葉は円形から卵形で、先端は細く尖り、中肋は中部以下で終わるか、稀に欠く。茎の先端は尾状に尖り、葉腋に線状の無性芽をつける。

キジノオゴケ（VU）は主に樹幹に着生しているが、本種は岩上にも見られ、より生育範囲は広い。やはり湿度の高いことが条件で、紀南地域の山間部でも生育地の乾燥化を促す要因は、生育の妨げとなり、また消滅につながる恐れが大きい。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24–37.
3　Noguchi, A. 1991. Illustrated moss flora of Japan Part 4. 743–1012. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

カワブチゴケ　*Cyptodontopsis leveillei* (Thér.) P. Rao & Enroth　蘚類　イトヒバゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由



増水時には水に浸る渓流沿いの岩場に生育するサツキやヤナギ等の枝に着生するという生態をもつ蘚類である。枝には強く固着しているので容易には流されない。長いものは数10 cmにもなる。不規則に枝分かれし、葉は茎に密につけ、乾くと枝に接する。葉は卵状楕円形で凹み、先端は狭い円頭から鈍頭で、中肋は葉頂下に終わる。葉身細胞は不規則な方形であり、やや厚壁で、1個のパピラがある。雌雄同株でよく蒴をつけるが、蒴柄は短く苞葉の間に沈生して見られる。

紀南の渓谷の淵のある岩場等で、容易に近づけない場所に注目すると、今後も産地は増える可能性はある。ただし、河川改修や護岸工事等で知らぬ間に生育環境は確実に狭められているので、早急に実態を把握しておく必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50 (1)：6–14.
2　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24–37.
3　土永浩史・山本誠二．1997．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅲ．南紀生物，39 (1)：9–13.
4　太田耕二郎．1988．和歌山県の蘚類おぼえがき．13pp.（自費出版）

写真：土永浩史撮影

コモチイチイゴケ　*Isopterygium propaguliferum* Toyama　蘚類　コモチイトゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）



選定理由

山地の腐木や倒木に生育する白緑色で一部緑色が混じることもある。匍匐性の蘚類で、しばしば大きなマットを形成する。茎はやや羽状に分枝するが、細い枝を立ち上げて、その上部に棍棒状の無性芽を多数つけるのが特徴で、この仲間では特異である。無性芽は 10 個足らずの細胞がほぼ 1 列に並び、長さは 40~100 μm 近くまである。葉は卵形から卵状披針形で、先端部は急に細くなり尖る。葉身細胞は線状で薄壁、平滑である。中肋は欠き、翼部の細胞は長方形から長楕円形で少ない。

全国的には極めて稀で国のカテゴリーでは絶滅危惧Ⅰ類（CR + EN）に属しているが、紀南の山間では点在して分布していることが判明してきている。しかし、同じ腐木上でも他の種が優占していることが大半で、稀少な種である。繁殖や分布の拡大にはこの無性芽の生産が重要な役割をもっていると考えられる。無性芽に着目すれば、野外でも容易に同定することは可能で、引き続き注目し、調査を重ねていく必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24-37.
2　土永浩史・山本誠二．2008．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅴ．南紀生物，50 (2)：222-226.
3　土永浩史・山本誠二．2013．紀伊半島南部のコモチイチイゴケ．蘚苔類研究，10 (12)：413-414.
4　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62 (1)：40-44.
5　環境省 編．2015．レッドデータブック　2014 －日本の絶滅のおそれのある野生生物－　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．580pp．ぎょうせい，東京.
6　Noguchi, A. 1994. Illustrated moss flora of Japan Part 5. 1013-1253. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

トサヒラゴケ　*Neckeropsis obtusata* (Mont.) M. Fleisch.　蘚類　ヒラゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）

選定理由

暖地の樹幹や岩上に生育する薄い黄緑色の蘚類で、同属のセイナンヒラゴケによく似る。本種は茎が短く、分枝も少なく、葉の先端は円頭で角張ることはない。また葉の横じわがやや弱く、葉の配列もあまり偏平でないことで区別される。葉身細胞は楕円形から細長い菱形で、厚壁で途中にくびれがある。蒴は苞葉の間に沈生する。

紀南の大塔山系でも産地は少ない。近年、隣の三重県大宮町のスダジイの樹幹で再確認されたが、各地での森林の伐採等の影響で、生育量の減少が報告されている。今後の詳しい調査から新たな産地が得られることを期待したい。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　芦田喜治・木村全邦．2005．三重県のトサヒラゴケ．蘚苔類研究，8 (11)：373-374.
2　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50 (1)：6-14.
3　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，(45)：24-37.
4　土永浩史・立石幸敏．2016．北海道大学和歌山研究林で観察された蘚類数種．くろしお，(35)：52-83.

トサノタスキゴケ　*Pseudobarbella laosiensis* (Broth. & Paris) Nog.　蘚類　ハイヒモゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由



暖地の渓谷の樹枝や灌木から下垂する黄緑色の蘚類であるが、古くなると茶色を帯びてくる。このツヤススキゴケ属の他の種が、茎や枝先まで葉が偏平につくのに対して、本種は小形の葉を丸くつけて紐状となることが特徴である。また、二次茎の葉も小形で上部の縁が波打ち、葉身細胞は線状で、中央に 1 個のパピラが見られる。中肋は 1 本で葉の半分で終わる。

熊野川や古座川等、紀南の渓流沿いの湿度の高い環境下に、他の下垂性の蘚類と生育している。東南アジアから北上し、国内では近畿地方以西に分布するとされている。近年の豪雨等で、渓谷が土砂等で埋まり、十分な湿度が得られず、乾燥している場所も見受けられる。今後も継続して生育環境への影響を調べておく必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50（1）：6–14.
3　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，（45）：24–37.
4　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62（1）：40–44.
5　Noguchi, A. 1989. Illustrated moss flora of Japan Part 3. 493–742. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.

写真：土永浩史撮影

コバノホソベリミズゴケ　*Sphagnum junghuhnianum* Dozy & Molk. ssp. *pseudomolle* (Warnst.) H. Suzuki　蘚類　ミズゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−

選定理由



黄緑色から淡緑色をしたやや大形のミズゴケで、山地の水がしみ出す岩棚や岩壁に生育している。茎葉は三角形から舌状三角形で、先端は狭い切形で鋸歯がある。舷は基部で 3~5 細胞列あり、ほとんど広がらない。透明細胞には、らせん状の肥厚が見られ、表面の孔は腹面で明瞭である。枝葉はまばらにつき、卵形から卵状披針形で凹み、先端付近で縁は著しく内曲する。

紀南の崖地や切り通しの高所に白っぽいマットを形成するのを見かけるが、生育環境は限定的で貴重な存在である。本種に限らずミズゴケ類の需要は高く、盗掘により減少しているのは事実である。湿原生でない本種が生育できる環境を注意深く見守り、公園内では管理体制も対策として必要である。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺．
2　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，（45）：24–37.
3　松田行雄．2017．ミズゴケ類 Sphagnaceae の絶滅危惧種の指定について．長野県植物研究会誌，（50）：101–112.
4　太田耕二郎．1988．和歌山県の蘚類おぼえがき．13pp.（自費出版）

写真：土永浩史撮影

イサワゴケ　*Syrrhopodon tosaensis* Card.　蘚類　カタシロゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）



選定理由

山地の樹幹基部や岩上に灰緑色の群落を形成する小形の蘚類である。茎は 10 mm ほどで、葉は乾燥してもあまり縮れない。葉は披針形で、2~3 細胞列の透明な舷があり、先端を除き全縁である。中肋は葉先に達し、葉先の背面には大きな鋭い刺が集まってつく特徴がある。葉身細胞は四角形から六角形で薄壁、高くて先端がいくつかに分かれたパピラがある。また、葉先には紡錘形の無性芽が集まってつくことが多く、野外では葉の先端が丸く見える。

国のカテゴリーでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）であるが、和歌山県内では比較的産地が多く、危険度は少ないのではないかとみられる。しかし、森林伐採等で直ぐに状況は悪化するので注視する必要がある。無性芽による繁殖が多いとされるが、胞子体が大塔山系の渓谷で近年記録されていて貴重である。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50（1）：6–14.
2　土永浩史．2018．広瀬谷（すさみ町）で観察されたイサワゴケ．くろしお，（37）：52.
3　樋口正信・土永浩史・山本誠二．2007．和歌山県大塔山系のイサワゴケとカトウゴケ．蘚苔類研究，9（7）：234–235.
4　Noguchi, A. 1988. Illustrated moss flora of Japan Part 2. 243–491. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
5　太田耕二郎．1975．大塔山系の蘚苔目録．23pp.（自費出版）

写真：土永浩史撮影

イチョウウキゴケ　*Ricciocarpos natans*（L.）Corda　苔類　ウキゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	準絶滅危惧（NT）



選定理由

水田や池の水面に浮かび、水がなくなってもその土上に生育するユニークな苔類である。葉状体は濃い緑色で、秋から冬には赤紫色を帯び、長さ 1~1.5 cm で二叉状に分枝し、真にイチョウの葉に似た形となる。気室は数層、気室孔は小さく単純である。腹鱗片は多数つき、リボン状をなし紫色で、縁に微鋸歯がある。

近年増加している放棄水田で見られることもあるが、毎年継続して生育しているとは限らない。生育地は多くはないが、条件が良ければ、水面を広く埋め尽くすこともある。平地に多いので、容易に宅地等の開発により、急に姿を消してしまうこともある。水面に浮遊する生態をもつので、注目していく必要がある。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，（45）：24–37.
2　土永浩史・山本誠二．2008．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅴ．南紀生物，50（2）：222–226.
3　土永浩史・山本誠二．2020．紀伊半島産の興味ある蘚苔類Ⅵ．南紀生物，62（1）：40–44.

写真：土永浩史撮影

オヤコゴケ　*Schistochilopsis cornuta* (Steph.) Konstant.　苔類　ヒシャクゴケ科

県カテゴリー	準絶滅危惧（NT）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

山地の腐木上や岩上に黄緑色の小さな群落を形成する。茎は匍い約 10 mm で、葉はゆるく重なる。葉は不等に 2 裂し、2 つに折れキールに翼がある。背側の裂片は小さく不定形、1~2 個の歯があり、腹側の裂片は舌形で鋭頭、数個の歯がある。葉身細胞は薄壁で、トリゴンはないか小さい。腹葉はない。油体は球形で、30~60 個ある。卵形から多角形の無性芽が葉先につく。

ブナ帯以上の山地に見られる本種は、本県では稀な存在である。野外でも大きな群落は形成しないので、見過ごされている可能性はある。今後も注視していくことが必要である。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．1990．照葉樹林にフウリンゴケ見つかる．植物地理・分類研究，38（1）：21.
2　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　Kitagawa, N. 1965. A revision of the family Lophoziaceae of Japan and its adjacent regions. I. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory, (28)：239–291.
4　北川尚史．1971．大塔山系の注目すべき苔類．大塔山系の自然Ⅱ：7–8.

写真：土永浩史撮影

ヒカゲノカズラモドキ　*Aerobryopsis parisii* (Card.) Broth.　蘚類　ハイヒモゴケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

森林内や渓流沿いの樹幹や灌木の枝から下垂する大形の蘚類である。植物体は柔らかく黄緑色だが、古い下部は黒褐色になる。同属のミズスギモドキの葉が横に広がるのに対して、本種は茎や枝に弱く圧着する。また葉は卵形で葉先が短く尖るのに対して、本種は狭卵形で葉先が長く曲がりくねり、強くしわ寄る。葉身細胞は長い菱形で 1 個のパピラがある。中肋は 1 本で上部まで達する。

熱帯地域に分布の中心をおく本種は、紀南の大塔山系でも記録されているが、分布の北限域にあたり、貴重な存在である。紀伊半島にも広く分布しているミズスギモドキとして同定されている標本の中に本種が含まれている可能性もあり、見直す作業が必要であるとともに、新たな生育地の調査も急がれる。

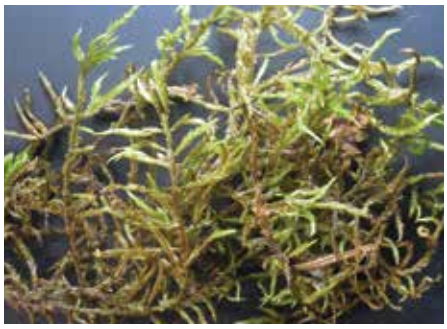
執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　岩月善之助 編．2001．日本の野生植物　コケ．355pp．平凡社，東京.
2　Noguchi, A. 1989. Illustrated moss flora of Japan Part 3. 493–742. Hattori Botanical Laboratory, Nichinan.
3　立石幸敏・木口博史・芦田喜治．2011．大塔山系（和歌山県田辺市）の蘚類．岡山コケの会ニュース，（31）：12–18.

タチハイゴケ　*Pleurozium schreberi* (Brid.) Mitt.　蘚類　イワダレゴケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	−



選定理由

亜高山の針葉樹林の林床に大きな群落を形成する蘚類である。葉は黄緑色で、茎は赤っぽく、やや羽状に分枝する。岩上や地上、腐木上等を被うように生育する。茎葉は卵形から倒卵形で、広い円頭、ときに小さく凸頭状、葉面は凹む。葉先を除き全縁で、中肋は２本で短い。枝葉は茎葉より小さく長卵形、上部の縁が内曲し、折りたたまれ鋭頭に見えることもある。枝葉の葉身細胞は線形で厚壁、表面は平滑である。翼部の細胞は丸みのある方形から長方形で、厚壁で褐色の明瞭な区画をつくる。

本種が生育するには標高は低いが、和歌山県の標高の高い地域にはブナ林が成立しているので、数箇所での記録がある。今後の詳しい調査からその実態が明らかになるだろうが、森林自体を開発から保全しないと、その生育も維持していくことは困難である。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．1990．照葉樹林にフウリンゴケ見つかる．植物地理・分類研究，38（1）：21.
2　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺.
3　太田耕二郎．1988．和歌山県の蘚類おぼえがき．13pp.（自費出版）

写真：土永浩史撮影

ムカシヒシャクゴケ　*Scapania ornithopoides* (With.) Waddell　苔類　ヒシャクゴケ科

県カテゴリー	情報不足（DD）	旧県	2012	−	国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由

山地の湿岩上や腐植土上に生育する苔類で、ヒシャクゴケ属では７ cm ほどの大形の種である。灰緑色から緑褐色の茎葉状で、葉は接在し、基部まで２裂して、キールがないのが特徴である。腹片は卵形で、縁には狭三角形の細胞からなる歯がある。背片は腹片の１／2~3／５の長さで、同様に歯で縁どられる。葉身細胞は薄壁でトリゴンは大きい。

大塔山系の渓谷で記録されているが、他での分布はよく分かっていない。国内では落葉広葉樹林から亜高山の針葉樹林帯に多いとされているが、森林の伐採などの環境変化で、減少傾向にある。今後の調査に期待したい。

執筆者（土永浩史）

参考文献・情報

1　土永浩史．2002．大塔山系の蘚苔類．大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集．47–63．和歌山県自然環境研究会，田辺.
2　土永浩史．2008．紀伊半島大塔山系における蘚苔類の絶滅危惧種．南紀生物，50（1）：6–14.
3　土永浩史．2009．紀伊半島における蘚苔類の絶滅危惧種群の現状．和歌山県高等学校理科研究会会誌，（45）：24–37.
4　岩月善之助 編．2001．日本の野生植物 コケ．355pp．平凡社，東京.
5　環境省 編．2015．レッドデータブック　2014 －日本の絶滅のおそれのある野生生物－　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．580pp．ぎょうせい，東京.

第２部　保全上重要なわかやまの自然環境

１．選定の考え方

(1) 植物群落

植物群落の選定にあたっては、次の基準に基づき抽出を行った。この選定基準は、環境庁（当時）が昭和 53 年度（1978 年度）に実施した「特定植物群落調査」において用いられたものである。

① 原生林もしくはそれに近い自然林
② 国内若干地域に分布するが、極めて希な植物群落または個体群
③ 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等、分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
④ 砂丘、断崖地、塩沼地、河川、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
⑤ 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
⑥ 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等、手が入っていないもの
⑦ 乱獲その他人為の影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
⑧ その他、学術上重要な植物群落または個体群

(2) 地形・地質

文化財目録に記載されている国、県、市町村指定文化財のうち、「貴重な地形および地質」と考えられる記念物及び自然景観資源調査報告に記載されているものを基本項目としてリストアップした。更に、諸資料の調査や南紀熊野ジオパークのジオサイトを含む現地調査を踏まえて追加・整理等を行い、次の基準によりまとめた。

① 地形や地質の成り立ちを示す典型的なもの
② 我が国で初めて記載、説明されたもの
③ 学術的に貴重なもの
④ 自然環境と人との関わりを密接に示すもの
⑤ 分布が限られた希少なもの、形状や分布がユニークなもの

(3) 生物多様性保全上注目すべき地域

貴重な動植物種が多く生育・生息し、生物多様性上重要な地域について、以下の基準により、原生的自然及び二次的自然によらず、各分類群からの観点で、候補となる生態系を抽出し、連続性のある複数の生態系を一つのまとまりとした範囲として 37 箇所を選定した。

①『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』における絶滅危惧種（Ⅰ類及びⅡ類）及び準絶滅危惧種が生育・生息する
②『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』における学術的重要種が生育・生息する
③ 原生的及び二次的自然によらず、多様な生物が生育・生息する
④ 特異性のある地形・地質において生態系が成立している
⑤ 良好な自然が維持されているが、人為の影響による改変が危惧される

2. カテゴリーの設定

(1) 植物群落

次に示すカテゴリーの定義の基本概念に基づき、選定作業を進めた。

区　分	基　本　概　念
① 良　好	本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれている
② やや良	本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれているが、一部良くないところがある
③ 不　良	本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれているとは言えないが、一部良い状態が残っている
④ 劣　悪	本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態が質的、または量的に劣悪化している
⑤ 壊　滅	群落が壊滅状態にある

(2) 地形・地質

区　分	基　本　概　念
A ランク	国際的に貴重なもの
B ランク	全国的に貴重なもの
C ランク	和歌山県として貴重なもの
D ランク	地域的（市町村単位）に貴重なもの

(3) 生物多様性保全上注目すべき地域

複数の生態系を内包した範囲を選定したため、設定しなかった。

3. 自然環境分類群別の掲載数

『和歌山県レッドデータブック』における分類群ごとのカテゴリーの内訳を選定結果一覧表に示した。

(1) 植物群落の掲載数

『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー					
	①良好	②やや良	③不良	④劣悪	⑤壊滅	合　計
植物群落	75	43	14	2	0	134

【参考 1】『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー					
	①良好	②やや良	③不良	④劣悪	⑤壊滅	合　計
植物群落	75	43	13	3	0	134

【参考 2】『和歌山県レッドデータブック 2001 年版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー					
	①良好	②やや良	③不良	④劣悪	⑤壊滅	合　計
植物群落	94	32	7	2	1	136

(2) 地形・地質の掲載数

『和歌山県レッドデータブック 2022 年改訂版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー				
	A ランク	B ランク	C ランク	D ランク	合　計
地　形	1	6	33	223	263
地　質	2	14	13	43	72

【参考 1】『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー				
	A ランク	B ランク	C ランク	D ランク	合　計
地　形	1	6	33	211	251
地　質	2	10	10	34	56

【参考 2】『和歌山県レッドデータブック 2001 年版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー				
	A ランク	B ランク	C ランク	D ランク	合　計
地　形	1	5	31	205	242
地　質	2	10	7	27	46

4. 掲載項目の解説

分類群ごとの掲載項目の解説は次のとおりとした。なお、植物群落一覧表については、表の前に別途、より詳細な凡例を示す。

(1) 植物群落一覧表の解説凡例

植物群落名	呼称を記載した。
市町村名	該当群落の市町村名を記載した。
所在地	当該群落の所在地を記載した。
植生のタイプ	相観群落名を記載した。
植生の種類	相観群落名を記載した。
単一・複合	該当群落が単一群落であるか、複合群落であるかを記載した。
カテゴリー	該当するカテゴリーを略号で記載した。
選定基準	選定基準を略号で記載した。
保全制度	該当群落地に設定された保全制度を記載した。
特記事項	群落にとって重要な植物名等、特記すべき事項があれば記載した。

(2) 地形・地質一覧表の解説凡例

整理番号	整理番号を記載した。
名称	呼称を記載した。
カテゴリー	該当するカテゴリーを略号で記載した。
地形・地質項目	地形では山地地形、侵食地形、堆積地形、マスムーブメント地形、海岸侵食地形、海岸堆積地形及び海岸変動地形についての区分を記載した。 地質では地層・堆積岩、変成作用・変成岩、火成活動・火成岩、地質構造、化石、温泉・湧水及び鉱床についての区分を記載した。
地形・地質分類	地形・地質項目の詳しい分類を記載した。
所在地	位置を行政区画等で記載した。
概要及び特徴	地形学的、地質学的な概要や特徴等を記載した。
備考	補足事項、文化財指定、国・県立公園指定等を記載した。

※地形・地質に係る位置図は、口絵に示した。

(3) 生物多様性保全上注目すべき地域一覧表の解説凡例

名称	地域の名称を記載した。
主な生態系	「自然林」、「干潟」、「農地」等、地域を構成する主な生態系の種類を記載した。
概要	地域の説明を記載した。
市町村	地域の範囲内にある全ての市町村名を記載した。

※生物多様性保全上注目すべき地域の位置図は、口絵に示した。

11

植物群落

植物群落の概要

植物・植物群落専門部会

(1) 森林植生

和歌山県の人工林面積の割合は61 %に達し、現在の森林景観からは本来の森林植生を推定することが難しい。しかし、島嶼や社寺林、植林不適地等には伐採を免れた天然林がわずかに残存する。ここでは、主に気候条件による分類に基づき、森林植生及び植物群落について概要を述べる。

(ア) 冷温帯森林植生

紀北地域では、標高800 m付近から上部が冷温帯に属し、この地域の代表的なブナ群落は「紀州の尾根」と呼ばれ本県の最高の標高域となる護摩壇山（田辺市）周辺に最も広く残されている。冷温帯と暖温帯の境界は果無山脈を越えて南下するに従い高度を上げ、大塔山系では標高1,000 m付近に達する。本州南限域に発達するこれらのブナ群落は、アカガシ等の常緑広葉樹を伴う点で特筆されるものであるが、その多くは皆伐によって姿を消し、残された林分が山頂付近や稜線部に散在しているのが現状である。

(イ) 冷・暖温帯移行部森林植生

移行帯とも呼ばれるこの植生には、主にモミ・ツガ等の針葉樹を高頻度で交えた森林が存在し、これらの森林は中間温帯林とも呼ばれる。標高1,000 m前後の山々が東西に連なる紀伊山地を広く覆い、地域性の高い植生構造を示している。

紀北地域では高野山（高野町）、白馬山脈（有田川町･日高川町）、西ノ河国有林（日高川町）、亀谷国有林（田辺市）、京都大学和歌山研究林（有田川町）にみられる他、紀南地域では果無山脈、大塔山系（田辺市・古座川町・新宮市）、笠塔山（田辺市）、白見山（新宮市）、四ノ谷国有林（北山村）に分布する。針葉樹ではコウヤマキやトガサワラ、広葉樹ではフサザクラ等、遺存的な分布を示す我が国の固有種が構成種としてみられることも特筆すべき点である。

(ウ) 暖温帯森林植生

シイ・カシ、タブノキ、ヤブツバキ等、ブナ科やクスノキ科及びツバキ科の常緑広葉樹が優占するこれらの森林は、その葉の特徴から照葉樹林とも呼ばれる。歴史的に人間活動の影響を最も強く受け続けてきた地域であり、その大部分が代償植生に変貌し、本来の自然植生は、社寺林や島嶼等にごくわずか残存するのみである。シイ林には、沿海地に発達するスダジイ群落と、平野部の丘陵地や山地に発達するツブラジイ（コジイ）群落とがある。現存するまとまった林分としては、紀伊大島（串本町）、太地海岸（太地町）、江須崎（すさみ町）のスダジイ群落があり、ツブラジイ（コジイ）群落では、笠塔山、坂泰国有林、水上の民有林（田辺市）、那智原始林（那智勝浦町）、古座川支流の成見川流域（古座川町）等がある。

(2) 地形・地質的条件と関わりをもつ植生

(ア) 尾根上岩角地の植生

尾根や稜線上の急傾斜地や岩角地では、貧栄養や乾燥に強いコウヤマキ、トガサワラ、ヒメコマツ、ツガ、ヒノキといった針葉樹が生育し、構成種としては中間温帯林と同様であるが広範囲にまとまったものはほとんど存在しない。低木の植生構成種としてアケボノツツジ、ホンシャクナゲ、アセビ等のツツジ科の樹木が出現する他、ウバメガシの混生が認められる場合がある。

(イ) 特殊岩石地植生

龍門山（紀の川市）、黒沢山（海南市）に代表される蛇紋岩地は、土壌の乾燥と貧栄養、重金

属イオンの影響で森林が発達せず、アカマツ群落やツゲ等の疎林、イネ科植物を主とした草地からなる。龍門山の山頂付近ではバラ科の落葉低木イワシモツケ（キイシモツケ）が群落を成している。霊巌寺（湯浅町）、立石（有田川町）に局所的に存在する石灰岩地ではウバメガシ群落が優占する。これらの特殊岩石地にはイワツクバネウツギ等、特有の植物がみられる。

(3) 水環境と関わりをもつ植生

(ア) 渓流辺植生

紀伊山地の渓谷や峡谷等の美しい自然景観は河川の浸食作用によって生み出されたものである。渓流の岩場にはサツキの低木群落が発達し、ホソバノギク、ヤシャゼンマイ等に代表される渓流沿い植物がみられる。岸壁の岩上や岩隙にはラン科植物やシダ植物等の集団が見られるが、趣向性の高いものは盗掘されて絶滅の危機に瀕している。これらの植生は、古座川峡の一枚岩（古座川町）、熊野川の支流、小口川の静閑瀞（新宮市）等に代表される。河川の増水や渇水がもたらす撹乱作用を強く受けて成立する渓流辺植生は自然環境の影響を受けて変動が著しい。

(イ) 湿地植生

黒沢山（有田川町）の沼池は県内唯一の天然池で、周囲の植生とともに水生動物の生息地としても重要であるが、近年、遷移の進行とともに乾燥化が認められる。海岸付近には、入江の一部や河口が砂州によって封鎖されてできる海跡湖や潟湖にヨシ群落等が発達しており、友ヶ島の深蛇池（和歌山市）、阿尾湿地（日高町）が代表的である。

(ウ) 海浜植生

河口付近の感潮域や入り江の湾奥には塩性湿地植生が成立し、ヨシ群落とともに塩分耐性を持ったキク科植物、ウラギクの草本群落が見られる。日高川・王子川河口（御坊市）、太田川河口（那智勝浦町）に成立するハマボウ群落は全国有数の面積を持つものであり、ゆかし潟の河口付近にみられるハマサジ、フクド等の草本群落は、県内唯一のものである。田辺湾（田辺市）には、周囲の低山から湾奥に流れ込む小河川の河口付近に小規模な塩性湿地が点在し、ハマサジを伴うヨシ群落が存在する。これらは小規模ではあるが、塩性湿地特有の植物群落として貴重なものである。

海岸域には、強い日射や潮風、波浪といった植物にとってより一層過酷な環境条件の下に特有の群落が発達する。代表的なウバメガシの海岸林に続き、イブキ、ハマヒサカキ等が風衝樹形となって生育する。海岸の砂礫地や崖地には、厚手の葉や直根をもった草本植物群落が発達する。岩隙にはキキョウランや紀伊半島固有種であるキノクニシオギクが、礫浜や砂浜には、ハマゴウ、ハマオモト、ハマダイコン、ハマナタマメ、ハマエンドウ等、海浜植生を特徴づける植物が出現する。

(4) 半自然植生

(ア) 里山林

里山林を構成する植物群落は、本来の自然植生だけでなく、地域の生業と強い関わりを持つ場合が多く、薪炭材や林用特産物の生産、肥料としての落ち葉かき等、農林業と密接に関わって森林資源が持続的に利用されてきた。コナラやクヌギ、アラカシやウバメガシといったブナ科樹木を中心としたこれらの植生は二次林、薪炭林とも呼ばれ、特に、日高川町、みなべ町、田辺市等においては紀州備長炭に代表される製炭業が伝統的に続いている。一方、人為撹乱によって林床植物の生活史にも適合した生育環境が保たれ、絶滅危惧植物の保全環境が副次的に成立している。光環境が適度に保たれた林床にはキンラン、シュンラン等ラン科植物の自生もみられる。

防風・防潮林の役割を併せ持ったものとして、アカマツ・クロマツ群落（美浜町・御坊市）がある。この他、日高地方の海岸域を中心に分布するアコウ群落（湯浅町・由良町・日高町・美浜町・御坊市）は植栽起源とされるがその歴史的背景は興味深い。

（イ）草原植生

採草地や牧草地として利用されてきた草原は「茅場」といい、かつては広い面積を有していたと思われるが、茅の需要低下や管理放棄に伴って草原が縮小・消失しつつある。県内でまとまった面積を持って残されたものは生石高原（紀美野町・有田川町）が唯一である。ここはスミレ類をはじめマツムシソウ等の草本植物の生育地としても重要であり、地域住民等による山焼き、草刈りといった植生管理が定期的に行われ、良好な自然景観が保たれているが、レクリエーション的利用の増加がもたらす外来植物の侵入や盗掘による影響が強く懸念される。

（ウ）湿地植生

降水量の少ない紀北地域を中心として、灌漑用のため池が県内各所に残っており、ヨシやガマ類等の抽水植物、オニバスやヒツジグサ等の浮葉植物、ミズオオバコやミズニラ等の沈水植物等、生育型を異にする湿地性の水草が水位に応じて同所的に生育している。湿地性の植物群落を豊富に有するものとして、紀の川市貴志川町のため池群、有田川町沼田のため池群、田辺市～日高郡ため池群がある。

平野部の少ない紀南地域では、かつて、谷間の深田や低湿地を利用した粗放的な稲作が行われていた。このような水田跡地に付随したものとして、田辺市本宮町皆地、白浜町笠甫、串本町田原、那智勝浦町下里・八尺鏡野、太地町夏山・河立の湿地植生がある。特に、串本町田原地区の湿地は、近畿地方でも広範な面積を持った湿地として注目される。これらの湿地では周囲からの流入水や湧水の停滞により湿地性植物の生育に適した水位が保たれているが、休耕によって遷移の進行がみられる他、場所によっては流れ込む土砂によって埋没しつつある。

（エ）スギ植林

植栽された人工林であっても、長期にわたり育成管理された森林においては、適切な光環境と生育空間が確保されることにより、林内に多様な低木や草本植物が混生する。特に、シマユキカズラ群落（田辺市）、リュウビンタイ群落（太地町）は保全上注目されるものである。

植物群落の選定結果

●カテゴリー：①良好

大年神社のホルトノキ林
日前宮の社寺林
春日神社のコジイ林
天王神社の社寺林
楊柳山の自然林
奥の院の大杉林
高野山コウヤマキ希少個体群保護林
高野山のツガ林
高野山のコウヤマキ林
春日神社のコジイ林
宇賀部神社のコジイ林
黒沢山沼池の湿地及び蛇紋岩地植生
有田川町沼田のため池群
加茂神社のコジイ林
長保寺の社寺林
立神社の社寺林
宮崎ノ鼻の海岸植生
立石の石灰岩地植生
田殿丹生神社のコジイ林
白馬山のブナ林
亀谷の自然林
西ノ河の自然林
霊厳寺の石灰岩地植生
蟻島のタブノキ林
御霊神社のイヌマキ林
日高川河口の湿地植生
川又観音の社寺林
真妻神社のコジイ林
切目神社の社寺林
三所神社の社寺林
日神社のコジイ林
高瀬川河口のハマボウ群落
笠甫の湿地植生
岡川八幡のコジイ林
春日神社の社寺林
要害森山のトガサワラ林
坂泰山の自然林
笠塔山の自然林
大杉谷・黒蔵谷の自然林
大塔山の自然林
法師山の自然林
将軍山・大森山の自然林
稲積島の自然林
沖ノ黒島の自然林
里野八幡神社の社寺林
樫野海岸のスダジイ林
潮岬・紀伊大島の海岸植生
重畳山のスダジイ林
八坂神社のコジイ林
尾崎神社の社寺林
成見川の自然林
浦神半島のウバメガシ林
太田川河口の湿地植生
下里の池の谷湿地植生
八尺鏡野の湿地植生
太地海岸のスダジイ林
河立の湿地植生
夏山の湿地植生
ゆかし潟の塩性湿地植生
那智原始林・那智山国有林の自然林
久嶋（孔島）鈴島植物群落
新宮蘭沢の浮島植物群落
千穂ヶ峯の自然林
白見山国有林の自然林
高田のトガサワラ林
大雲取山のアカガシ林
静閑瀞の崖地植生
大倉畑山のウラジロガシ林
和田川峡の崖地植生

中下番のシマユキカズラ群落
平治ノ滝の崖地植生
三里神社のコジイ林
瀞八丁のコジイ林
嶋津の森のコジイ林
四ノ谷の自然林

●カテゴリー：②やや良

友ヶ島の自然林
友ヶ島の深蛇池湿地帯植物群落
和歌山城公園の緑地
紀伊風土記の丘のコナラ林
龍門山の蛇紋岩地植生
摩尼山の自然林
矢立の墓地林
生石神社の社寺林
生石山の草地植生
京都大学和歌山研究林の自然林
若藪山のブナ林
鷹島のスダジイ林
黒島の暖地性植物群落
衣奈八幡神社のスダジイ林
阿尾の湿地植生
日ノ山のウバメガシ林
龍王神社の社寺林
松原王子神社の社寺林
上阿田木神社のスギ林
御滝神社の社寺林
畑峰地蔵社のウバメガシ林
切目川河口のハマボウ群落
小殿神社のイスノキ林
鹿島のタブノキ林
神島の自然林
住吉神社の社寺林
果無山脈の自然林
東ノ川の自然林
水上の自然林
安川のヒノキ・コウヤマキ林
安宅八幡神社のコジイ林
江須崎の自然林
大島のマテバシイ群落
大島のハドノキ群落
通夜島のスダジイ林
九龍島の自然林
串本町田原地区の水田・湿地
古座川峡の岩上・岩隙植生
太地のリュウビンタイ群落
那智山旧参道のスギ並木
宇久井半島の海岸植生
阿須賀神社のスダジイ林
白見山民有林の自然林

●カテゴリー：③不良

紀の川河口の湿地植生
紀の川市貴志川町のため池群
船岡山のコジイ林
箕六弁財天社のアカガシ林
有田川河口の湿地植生
護摩壇山の自然林
西部海岸域のアコウ個体群
煙樹ヶ浜のマツ林
御坊市・日高郡・田辺市のため池群
須佐神社のコジイ林
白浜のオオミズゴケ群落
琴の滝の自然林
苗我島のスダジイ林
皆地の湿地植生

●カテゴリー：④劣悪

角間木谷のツガ林
伏羊のシリブカガシ林

植物群落の一覧表の凡例

1. 植物群落の位置に関する情報は、市町村名、所在地を記述した。

2. 植物群落の類型表（表 1）に基づき、植生のタイプ、植生の種類、単一群落・群落複合のいずれかについて記述した。

植生のタイプ（群系）：気候や地形等、無機的環境の類似した場所に、生活型が類似した植物が複数生えることによって構成されており、相観を決定付ける要素となる。

植生の種類（単一群落）：ある場所を面的に覆っている植生が、均質的な相観を見せる優占種によって決定される群落をいう。植生の最上層において最も優占している種をもって、その群落名称を決定する。

群落複合：水位や潮位の変動、標高や気温、地形や地質等、異なる無機的環境の立地に対し、複数の群系または単一群落が連続または近接して成立することにより、植生の相観が決定される植物群落をいう。

3. 植物群落の状態について 5 段階評価を行い、カテゴリー別に示した。

植物群落のカテゴリー

①：良好（本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれている。）
②：やや良（本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれているが、一部良くないところがある。）
③：不良（本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態がよく保たれているとは言えないが、一部良い状態が残っている。）
④：劣悪（本来の自然の状態、または評価されるべき優れた状態が質的、または量的に劣悪化している。）
⑤：壊滅（群落が壊滅状態にある。）

4. 植物群落の選定基準について、以下の 8 項目に基づき、評価・検討を行った。

植物群落選定基準

A：原生林もしくはそれに近い自然林。
B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群。
C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等、分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群。
D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地及び蛇紋岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの。
E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの。
F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの。
G：伐採その他人為の影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群。
H：その他、学術上重要な植物群落または個体群。

5. 国、県、市町村が定めた保全制度について記述した。

6. 植物群落の保全上重要な事項については、その詳細を特記事項に記述した。

表 1　植物群落の類型表

自然資質	立地環境	群落複合名称	植生のタイプ	植生の種類
自然植生	山地	冷温帯森林植生	落葉広葉樹林	ブナ群落 ミズナラ群落
		冷・暖温帯移行部森林植生	常緑広葉樹林 落葉広葉樹林 針葉樹林	アカガシ群落 ブナ群落 モミ群落 ツガ群落
		暖温帯森林植生	常緑広葉樹林	スダジイ群落 ツブラジイ（コジイ）群落 アカガシ群落 ウラジロガシ群落 イチイガシ群落 シリブカガシ群落 マテバシイ群落 ウバメガシ群落 タブノキ群落 ホルトノキ群落 イスノキ群落
		尾根上岩角地の植生	針葉樹林 岩角地・風衝低木林	ヒノキ群落 コウヤマキ群落 トガサワラ群落
		特殊岩石地植生	常緑広葉樹林 針葉樹林 岩角地・風衝低木林	ウバメガシ群落 アカマツ群落 ツゲ群落 イワシモツケ（キイシモツケ）群落
	河川	渓流辺植生	渓流辺低木林 岩上・岩隙草本群落	サツキ群落 イワヒバ群落 岩上・岩隙草本群落
	湿地	湿地植生	湿地植物群落	テツホシダ群落 ヒトモトススキ群落 ヨシ群落
	海岸	塩性湿地植生	塩性湿地植物群落	ヨシ群落 ハマボウ群落
		海崖植生	常緑広葉樹林 海岸低木林 海岸崖地草本群落	ウバメガシ群落 イブキ群落 キキョウラン群落 キノクニシオギク群落
		海浜植生	海浜草本群落	ダンチク群落 ノアサガオ群落 ハマオモト群落
	島	暖温帯森林植生 海崖植生	常緑広葉樹林 海岸低木林 林縁性つる植物群落	スダジイ群落 ウバメガシ群落 ハドノキ群落 ハカマカズラ群落

表 1　植物群落の類型表

自然資質	立地環境	群落複合名称	植生のタイプ	植生の種類
半自然植生	里山林	(単一群落)	常緑広葉樹林 落葉広葉樹林	ウバメガシ群落 コナラ群落
	草地	草原植生	ススキ草原	ススキ群落
	湿地	湿地植生	湿地植物群落	湿地植物群落
		池沼植生	池沼植物群落	オニバス群落 池沼植物群落
	植林	(単一群落)	針葉樹林	スギ群落 コウヤマキ群落 クロマツ群落 アカマツ群落 イヌマキ群落
		(単一群落)	常緑広葉樹林	アコウ群落
		(単一群落)	シダ植物群落	リュウビンタイ群落
		(単一群落)	林縁性つる植物群落	シマユキカズラ群落

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
友ヶ島の自然林	和歌山市	友ヶ島（沖ノ島）	常緑広葉樹林 海岸低木林	スダジイ群落 ウバメガシ群落	群落 複合	②	E	国立公園	クリハラリス・タイワンジカ等の食害が植生に与える影響が著しい。
友ヶ島の深蛇池湿地帯植物群落	和歌山市	友ヶ島（沖ノ島）・深蛇池	湿地植物群落	テツホシダ群落 ヒトモトススキ群落	群落 複合	②	D	国立公園 県指定天然記念物	水質汚濁等の環境悪化により湿地性植物の減少が著しい。
大年神社のホルトノキ林	和歌山市	木本・大年神社	常緑広葉樹林	ホルトノキ群落	単一群落	①	E		
和歌山城公園の緑地	和歌山市	一番丁・和歌山城	常緑広葉樹林	緑地	単一群落	②	E		ホルトノキの枯死によりムクノキ、ケヤキ、エノキ等落葉高木が目立つ。
日前宮の社寺林	和歌山市	秋月・日前宮	常緑広葉樹林	ホルトノキ群落	単一群落	①	E		
紀伊風土記の丘のコナラ林	和歌山市	岩橋・紀伊風土記の丘	落葉広葉樹林	コナラ群落	単一群落	②	E		大日山山麓に位置するコナラ群落で林床性植物の重要な生育地である。
紀の川河口の湿地植生	和歌山市	紀の川感潮域	湿地植物群落 塩性湿地植物群落	ヨシ群落	単一群落	③	D		環境省選定の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（以下重要湿地）」である。
春日神社のコジイ林	紀の川市	東三谷・春日神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E		
紀の川市貴志川町のため池群	紀の川市	貴志川町長原 平池・作兵衛池	池沼植物群落	オニバス群落	単一群落	③	D		浮葉・沈水植物の重要な生育地である。 オニバスの発生年は著しく変動する。
龍門山の蛇紋岩地植生	紀の川市	杉原・龍門山	針葉樹林 岩角地・ 風衝低木林	アカマツ群落 イワシモツケ（キイシモツケ）群落	群落 複合	②	D	県立自然公園	イワシモツケ（キイシモツケ）群生地については県指定天然記念物。
船岡山のコジイ林	伊都郡 かつらぎ町	西渋田・船岡山	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	③	E		林内にミミズバイが多数生育する。紀の川流域ではここより東側には見られない。
角間木谷のツガ林	伊都郡 かつらぎ町	白口峯・角間木谷	針葉樹林	ツガ群落	単一群落	④	A	国定公園	周囲の森林伐採や山崩れ等の影響で縮小された残存林である。
天王神社の社寺林	橋本市	矢倉脇・天王神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E	国定公園	
摩尼山の自然林	伊都郡高野町	高野山・摩尼山	針葉樹林	モミ・ツガ群落	単一群落	②	A	国定公園	山頂部にブナの残存木が見られる。
楊柳山の自然林	伊都郡高野町	高野山・楊柳山	落葉広葉樹林	ブナ群落	単一群落	①	A	国定公園	山頂部にブナの残存木が見られる。
奥の院の大杉林	伊都郡高野町	高野山・奥の院付近	針葉樹林	スギ群落	単一群落	①	F	国定公園 林野庁指定特別母樹林 県指定天然記念物	参道沿いに林立するスギ並木である。

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
高野山コウヤマキ希少個体群保護林	伊都郡高野町	高野山・女人堂付近	針葉樹林	コウヤマキ群落	単一群落	①	H	国定公園 林野庁指定学術参考保護林	コウヤマキを主体とする林分である。
高野山のツガ林	伊都郡高野町	高野山・大門付近	針葉樹林	ツガ群落	単一群落	①	A	国定公園	近年、周辺の森林景観が整備された。
高野山のコウヤマキ林	伊都郡高野町	高野山・弁天岳西部	針葉樹林	コウヤマキ群落	単一群落	①	H	国定公園 県指定天然記念物	コウヤマキを主体とする森林である。
矢立の墓地林	伊都郡高野町	花坂・矢立付近	針葉樹林	モミ群落 タブノキ群落	単一群落	②	E		タブノキがややまとまって混生する。
春日神社のコジイ林	海南市	大野中・春日神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E	市指定天然記念物	
宇賀部神社のコジイ林	海南市	小野田・宇賀部神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E		
黒沢山沼池の湿地及び蛇紋岩地植生	海南市 海草郡紀美野町 有田郡有田川町	黒沢山山頂部・沼池	針葉樹林 岩角地・風衝低木林 湿地植物群落	アカマツ群落 ツゲ群落 湿地植物群落	群落複合	①	D	県立自然公園	山頂部の蛇紋岩地植生とともに草地性・湿地性植物の重要な生育地である。沼池は町指定天然記念物及び環境省選定の重要湿地である。
有田川町沼田のため池群	有田郡 有田川町	沼田周辺のため池７ヶ所	池沼植物群落	池沼植物群落	群落複合	①	D		多様な生育型を示す浮葉・沈水植物群落の重要な生育地である。
加茂神社のコジイ林	海南市	下津町下・加茂神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E		
長保寺の社寺林	海南市	下津町上・長保寺	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E	県指定天然記念物	ナナミノキなど混生する。
箕六弁財天社のアカガシ林	海草郡 紀美野町	箕六・箕六弁財天社	常緑広葉樹林	アカガシ群落	単一群落	③	E	県立自然公園	カツラの大径木は県指定天然記念物である。
生石神社の社寺林	有田郡 有田川町	生石ヶ峰・生石神社	常緑広葉樹林	アカガシ群落	単一群落	②	E	県立自然公園 県指定天然記念物	
生石山の草地植生	海草郡紀美野町 有田郡有田川町	生石ヶ峰	針葉樹林 湿地植物群落 ススキ草原	アカマツ群落 湿地植物群落 ススキ群落	群落複合	②	E	県立自然公園	草地性・湿地性植物の重要な生育地であり、保全と公園利用の両立が課題である。
立神社の社寺林	有田市	野字御殿山・立神社	常緑広葉樹林	スダジイ群落 ウバメガシ群落	群落複合	①	E	県自然環境保全地域	バクチノキ、ヤマモガシを混生する。
宮崎ノ鼻の海岸植生	有田市	女ノ浦・宮崎の鼻	常緑広葉樹林 海岸崖地草本群落	ウバメガシ群落 キキョウラン群落	群落複合	①	D	県立自然公園	海崖の岩隙地に特化して生育する草本植物の重要な生育地である。

表 2　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
有田川河口の湿地植生	有田市	有田川感潮域	湿地植物群落 塩性湿地植物群落	ヨシ群落	単一群落	③	D		塩性湿地性植物の重要な生育地である。 環境省選定の重要湿地である。
立石の石灰岩地植生	有田郡 有田川町	立石	岩角地・ 風衝低木林	ウバメガシ群落	単一群落	①	D		石灰岩地に特化して生育する草本植物の重要な生育地である。
伏羊のシリブカガシ林	有田郡 有田川町	伏羊	常緑広葉樹林	シリブカガシ群落	単一群落	④	G		道路工事に伴う伐開により一部消失した。
田殿丹生神社のコジイ林	有田郡 有田川町	出・田殿丹生神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E	町指定天然記念物	カンザブロウノキを混生する。
京都大学和歌山研究林の自然林	有田郡 有田川町	上湯川・京都大学和歌山研究林	針葉樹林 落葉広葉樹林	モミ・ツガ群落 ブナ群落	群落複合	②	A	国定公園 県立自然公園	京都大学和歌山研究林として管理される森林である。
若藪山のブナ林	日高郡 日高川町	若藪山	落葉広葉樹林	ブナ群落	単一群落	②	A E	県立自然公園	周囲の伐採・伐開により縮小された残存林である。
白馬山のブナ林	有田郡 有田川町	白馬山	常緑広葉樹林 落葉広葉樹林	ブナ・アカガシ群落	単一群落	①	A		山頂部に残るブナ群落の残存林でアカガシ、ヒメシャラ、モミ、ツガを混生する。
亀谷の自然林	田辺市	龍神村・城ヶ森山・亀谷	針葉樹林 落葉広葉樹林	モミ・ツガ群落 ブナ群落	群落複合	①	A	県自然環境保全地域	モミ・ツガを主体とする林分で稜線部分にブナ群落の残存林がある。
護摩壇山の自然林	田辺市	龍神村・護摩壇山	針葉樹林 落葉広葉樹林	モミ・ツガ群落 ブナ・ミズナラ群落	群落複合	③	A	国定公園	冷温帯森林植生を代表する自然林が残る。 ニホンジカの食害による林床性草本の消失が著しい。
西ノ河の自然林	日高郡 日高川町	寒川・西ノ河	針葉樹林 落葉広葉樹林	モミ・ツガ群落 ブナ群落	群落複合	①	A	県自然環境保全地域	
霊厳寺の石灰岩地植生	有田郡広川町	霊厳寺	岩角地・ 風衝低木林	ウバメガシ・ツゲ群落	単一群落	①	D		石灰岩地に特化して生育する草本植物の重要な生育地である。
鷹島のスダジイ林	有田郡広川町	鷹島	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	②	E	県立自然公園	
黒島の暖地性植物群落	日高郡由良町	黒島	常緑広葉樹林 林縁性つる植物群落	ウバメガシ群落 タブノキ群落 ハカマカズラ群落	群落複合	②	C	県立自然公園 県指定天然記念物	暖地性植物の生育地であるとともにハカマカズラ等の分布北限域として重要である。
衣奈八幡神社のスダジイ林	日高郡由良町	衣奈・衣奈八幡神社	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	②	E	県立自然公園	
西部海岸域のアコウ個体群	有田郡湯浅町 日高郡由良町 日高郡日高町 日高郡美浜町 御坊市	西部海岸域	常緑広葉樹林	アコウ群落	単一群落	③	C E	県立自然公園（一部） 町指定天然記念物（一部）	近年、開発に伴う大径木の伐採が目立つ。

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
蟻島のタブノキ林	日高郡日高町	蟻島	常緑広葉樹林	タブノキ群落	単一群落	①	A	県立自然公園	
御霊神社のイヌマキ林	日高郡日高町	小浦・御霊神社	針葉樹林	イヌマキ群落	単一群落	①	F	町指定天然記念物	植栽起源と思われるイヌマキの大径木がまとまって生育する。
阿尾の湿地植生	日高郡日高町	阿尾	海浜草本群落 湿地植物群落	ハマオモト群落 ダンチク群落 ヨシ群落	群落複合	②	D	県立自然公園	海跡湖に発達したヨシ群落である。北側海岸部に海浜植生を隣接する。
日ノ山のウバメガシ林	日高郡美浜町	三尾・日ノ山	海岸低木林	ウバメガシ群落	単一群落	②	D	県立自然公園	ウバメガシが純林状に生える小規模な海岸林である。
龍王神社の社寺林	日高郡美浜町	三尾・龍王神社	常緑広葉樹林 海岸低木林	スダジイ群落 ウバメガシ群落 イブキ群落	群落複合	②	E	県立自然公園 県指定天然記念物	
煙樹ヶ浜の松林	日高郡美浜町	煙樹ヶ浜	針葉樹林	クロマツ・アカマツ群落	単一群落	③	F	県立自然公園	防風・防潮林として育成管理されたもので海岸性植物の生育地として重要である。
松原王子神社の社寺林	日高郡美浜町	吉原・松原王子神社	針葉樹林	イヌマキ群落	単一群落	②	E	県指定天然記念物	イヌマキが純林状に生える小規模な社寺林である。
日高川河口の湿地植生	御坊市	塩屋・王子川及び日高川河口	海岸低木林塩性湿地植物群落	ハマボウ群落 ヨシ群落	群落複合	①	D		ハマボウ群落については市指定天然記念物。環境省選定の重要湿地である。
上阿田木神社のスギ林	日高郡 日高川町	平・上阿田木神社	針葉樹林	スギ群落	単一群落	②	F		多数のスギ巨木からなる社寺林で低木層にルリミノキのまとまった群落がみられる。
御滝神社の社寺林	日高郡 日高川町	大滝川・御滝神社	常緑広葉樹林	ウラジロガシ群落 ウバメガシ群落	群落複合	②	E	県自然環境保全地域	
川又観音の社寺林	日高郡印南町	川又・川又観音	常緑広葉樹林 針葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落 ウラジロガシ群落 トガサワラ群落	群落複合	①	A H	県自然環境保全地域	トチノキの大径木は県指定天然記念物。トガサワラを密度高く混生する部分がある。
真妻神社のコジイ林	日高郡印南町	田ノ垣内・真妻神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E		ツゲモチが高密度で混生する。
畑峰地蔵社のウバメガシ林	日高郡印南町	椀川・畑峰地蔵社	常緑広葉樹林	ウバメガシ群落	単一群落	②	E		
切目神社の社寺林	日高郡印南町	西ノ地・切目神社	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	①	E		ホルトノキの巨木は県指定天然記念物である。
切目川河口のハマボウ群落	日高郡印南町	島田・切目川河口	海岸低木林	ハマボウ群落	単一群落	②	D		一度伐採された後に萌芽更新した群落である。

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
御坊市・日高郡・田辺市のため池群	御坊市 日高郡日高町・日高川町・みなべ町・印南町・田辺市	6 市町におけるため池 27 ヶ所	池沼植物群落	池沼植物群落	群落複合	③	D		多様な生育型を示す浮葉・沈水植物群落の重要な生育地である。環境省選定の重要湿地である。
小殿神社のイスノキ林	日高郡 みなべ町	晩稲・小殿神社	常緑広葉樹林	イスノキ群落	単一群落	②	E	県指定天然記念物	イスノキが純林状に生える小規模な社寺林である。
鹿島のタブノキ林	日高郡 みなべ町	鹿島	常緑広葉樹林	タブノキ群落	単一群落	②	E	国立公園 町指定天然記念物	
須佐神社のコジイ林	田辺市	中万呂・須佐神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	③	E		
神島の自然林	田辺市	新庄町・神島	常緑広葉樹林 海岸低木林	タブノキ群落 ウバメガシ群落	群落複合	②	A	国立公園 国指定天然記念物	ハカマカズラが生育する。バクチノキが多く混生し、林床にはキノクニスゲ、タキキビなどが生育する。
三所神社の社寺林	西牟婁郡 白浜町	瀬戸・三所神社	常緑広葉樹林 海岸低木林	スダジイ群落 ウバメガシ群落	群落複合	①	E	国立公園 県指定天然記念物	ホルトノキ、イヌマキ、オガタマノキの巨木を混生する。
白浜のオオミズゴケ群落	西牟婁郡 白浜町	白浜半島中央部	湿地植物群落	オオミズゴケ群落	単一群落	③	C		
日神社のコジイ林	西牟婁郡 白浜町	十九渕・日神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E		
高瀬川河口のハマボウ群落	西牟婁郡 白浜町	富田・高瀬川河口	海岸低木林	ハマボウ群落	単一群落	①	D		
笠甫の湿地植生	西牟婁郡 白浜町	笠甫	湿地植物群落	湿地植物群落	群落複合	①	D	国立公園	近年、周辺からの土砂流入により湿地が陸地化しつつある。
岡川八幡のコジイ林	西牟婁郡 上富田町	岡・岡川八幡神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E	県指定天然記念物	
住吉神社の社寺林	田辺市	鮎川・住吉神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	②	E	県指定天然記念物	オガタマノキの巨木は県指定天然記念物である。イチイガシ、ヤマモガシを混生する。
春日神社の社寺林	田辺市	中辺路町大内川・春日神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)・シラカシ群落	単一群落	①	E		高木層に紀南地域に少ないシラカシが見られる。
果無山脈の自然林	田辺市	中辺路町、本宮町果無山脈安堵山以東	針葉樹林落葉広葉樹林	モミ・ツガ群落 ブナ群落	群落複合	②	A		県境をまたがる稜線沿いに連なった残存林である。
要害森山のトガサワラ林	田辺市	本宮町・要害森山	針葉樹林	トガサワラ群落	単一群落	①	B		トガサワラが密度高く混生する。

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
東ノ川の自然林	田辺市	本宮町・東ノ川	針葉樹林	モミ・ツガ群落	単一群落	②	A H		植林地帯に二分されて残された残存林でトガサワラが部分的に優占する。
坂泰山の自然林	田辺市	中辺路町兵生・坂泰山 富田川源流域	常緑広葉樹林 針葉樹林	ツブラジイ(コジイ)・ツガ群落	単一群落	①	A		
笠塔山の自然林	田辺市	中辺路町温川・笠塔山	針葉樹林	モミ・ツガ群落	群落複合	①	A	県立自然公園	モミ・ツガを主体とする林分で山頂部分にブナ・アカガシを混生する。下部はツブラジイ（コジイ）が混生する。
水上の自然林	田辺市	中辺路町水上	常緑広葉樹林 針葉樹林 落葉広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落 モミ・ツガ群落 ブナ・アカガシ群落	群落複合	②	A	県立自然公園	自主的に保護された民有林でトガサワラが密度高く混生し多数の巨木を含む。
大杉谷・黒蔵谷の自然林	田辺市	本宮町・大杉谷・黒蔵谷 大塔川流域 野竹法師山山頂部	常緑広葉樹林 落葉広葉樹林 針葉樹林	ウラジロガシ・アカガシ群落 ブナ群落 ツガ群落 ヒノキ群落	群落複合	①	A H	県立自然公園 林野庁指定森林生物遺伝資源保存林	ウラジロガシ・アカガシを主体とする常緑広葉樹林で尾根部にツガ、ヒノキを交えた紀南地域を代表する特色ある森林である。
大塔山の自然林	田辺市 東牟婁郡古座川町 新宮市熊野川町	大塔山山頂北側尾根部 中小屋谷 前ノ川流域 古座川源流域 奥山谷和田川支流域	常緑広葉樹林 落葉広葉樹林 針葉樹林	ウラジロガシ・アカガシ群落 ブナ群落 ツガ群落 ヒノキ・コウヤマキ群落	群落複合	①	A	県立自然公園 林野庁指定大塔山モミ・ツガ・ブナ・植物群落保護林（山頂部北側斜面の大塔山国有林）	紀南地域を代表する森林植生であり、位置的に次の５つに大分される。 ①山頂北側斜面のブナ群落 ②中小屋谷のツガ群落 ③前ノ川流域のウラジロガシ・アカガシ群落 ④古座川源流域のウラジロガシ群落 ⑤熊野川町奥山谷のブナ・アカガシ群落 山頂周辺においては森林再生を目的とした植生状況調査が実施されている。
法師山の自然林	田辺市	法師山	落葉広葉樹林	ウラジロガシ・アカガシ群落 ブナ群落	群落複合	①	A	県立自然公園	本州南限域のブナ群落であり尾根部岩崖地にはヒノキ・コウヤマキが生育する。
安川のヒノキ・コウヤマキ林	田辺市	下川上・安川渓谷	針葉樹林	ヒノキ・コウヤマキ群落	単一群落	②	D	県立自然公園	渓谷の尾根部岩崖地に特化して生育するヒノキ・コウヤマキの群落である。
将軍山・大森山の自然林	西牟婁郡白浜町 東牟婁郡古座川町	将軍山・大森山	常緑広葉樹林 針葉樹林	ウラジロガシ群落 モミ群落	群落複合	①	A	県立自然公園	スダジイ・アカガシを混生する常緑広葉樹林である。北海道大学和歌山研究林として管理される大森山保存林を含む。

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
安宅八幡神社のコジイ林	西牟婁郡 白浜町	安宅・安宅八幡神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ（コジイ）・イチイガシ群落	単一群落	②	E	県指定天然記念物	境内にイチイガシの巨木がある（県指定天然記念物）。
琴の滝の自然林	西牟婁郡 すさみ町	広瀬谷・琴の滝	常緑広葉樹林	スダジイ群落 ウラジロガシ群落	群落複合	③	A H	県自然環境保全地域	コバンモチ、アラカシ、ヤマモガシを混生する。
稲積島の自然林	西牟婁郡 すさみ町	周参見・稲積島	常緑広葉樹林 海岸低木林	スダジイ群落 ウバメガシ群落 イブキ群落	群落複合	①	A	国立公園国指定 天然記念物	イヌマキ、イスノキ、タブノキ、ホルトノキ等を混生するスダジイ林である。
沖ノ黒島の自然林	西牟婁郡 すさみ町	沖ノ黒島	常緑広葉樹林 海岸低木林	ウバメガシ群落	単一群落	①	D E	国立公園	海崖に特化して生育するイブキ群落がみられる。
江須崎の自然林	西牟婁郡 すさみ町	江須崎	常緑広葉樹林 海岸低木林	スダジイ群落 ウバメガシ群落 イブキ群落	群落複合	②	A C	国立公園 国指定天然記念物	イヌマキ、タブノキ、ホルトノキ等を混生するスダジイ林で林縁にハカマカズラ、シマサルナシが見られる。
里野八幡神社の社寺林	西牟婁郡 すさみ町	里野・里野八幡神社	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	①	E	町指定天然記念物	ホルトノキ、ハマセンダン、オガタマノキ、バクチノキを混生する。
苗我島のスダジイ林	東牟婁郡 串本町	苗我島	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	③	A	国立公園	紀伊大島架橋工事に伴う伐開により一部消失した。
大島のマテバシイ群落	東牟婁郡 串本町	猪喰鼻周辺	常緑広葉樹林	マテバシイ群落	単一群落	②	C	国立公園	海岸部に野生状態で生育しているが本来の自生かどうか定かでない。
大島のハドノキ群落	東牟婁郡 串本町	大島	海岸低木林	ハドノキ群落	単一群落	②	C	国立公園	
樫野海岸のスダジイ林	東牟婁郡 串本町	樫野	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	①	A C	国立公園	
通夜島のスダジイ林	東牟婁郡 串本町	通夜島	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	②	A	国立公園	
潮岬・紀伊大島の海岸植生	東牟婁郡 串本町	潮岬及び紀伊大島	海岸低木林 海岸崖地草本群落	ウバメガシ群落 イブキ群落 キノクニシオギク群落	群落複合	①	D	国立公園	海崖の岩隙地に特化して生育する草本植物の重要な生育地である。
重畳山のスダジイ林	東牟婁郡 串本町	重畳山	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	①	A		
九龍島の自然林	東牟婁郡 串本町	九龍島	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	②	A C G	国立公園 町指定天然記念物	
串本町田原地区の水田・湿地	東牟婁郡 串本町	田原	湿地植物群落	湿地植物群落	群落複合	②	D		多様な生育型を示す湿地性植物の重要な生育地である。環境省選定の重要湿地である。

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
八坂神社のコジイ林	東牟婁郡 古座川町	池野山・八坂神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	G	町指定天然記念物	
尾崎神社の社寺林	東牟婁郡 古座川町	西赤木・尾崎神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E H	県立自然公園 町指定天然記念物	
成見川の自然林	東牟婁郡 古座川町	成見川流域	常緑広葉樹林 針葉樹林	ツブラジイ(コジイ)・ツガ群落 モミ群落	群落複合	①	A	県立自然公園	湿崖に特化して生育する草本植物等の重要な生育地である。
古座川峡の岩上・岩隙植生	東牟婁郡 古座川町	古座川峡・一枚岩	常緑広葉樹林 岩上・岩隙草本群落	ウバメガシ群落 イワヒバ群落	群落複合	②	G	県立自然公園	岩上・岩隙に特化して生育する草本植物等の重要な生育地である。
浦神半島のウバメガシ林	東牟婁郡 那智勝浦町	浦神半島	海岸低木林	ウバメガシ群落	単一群落	①	D E	国立公園	
太田川河口の湿地植生	東牟婁郡 那智勝浦町	下里・太田川河口	海岸低木林 塩性湿地植物群落	ハマボウ群落 ヨシ群落	群落複合	①	C		日高川河口に次ぐ県下二番目の規模のハマボウ群落である。環境省選定の重要湿地である。
下里の池の谷湿地植生	東牟婁郡 那智勝浦町	下里・池の谷	湿地植物群落	湿地植物群落	群落複合	①	D		湿地性植物の生育地として重要である。
八尺鏡野の湿地植生	東牟婁郡 那智勝浦町	八尺鏡野	湿地植物群落	湿地植物群落	群落複合	①	D		湿地性植物の生育地として重要である。
太地海岸のスダジイ林	東牟婁郡 太地町	太地・太地海岸	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	①	A C G	国立公園	ハマセンダンの巨木が見られる。
太地のリュウビンタイ群落	東牟婁郡 太地町	太地	シダ植物群落	リュウビンタイ群落	単一群落	②	G		スギ植林地の林床は南方系シダ植物の重要な生育地である。
河立の湿地植生	東牟婁郡 太地町	河立	湿地植物群落	湿地植物群落	群落複合	①	D		湿地性植物の生育地として重要である。
夏山の湿地植生	東牟婁郡 太地町	夏山	湿地植物群落	湿地植物群落	群落複合	①	D	国立公園	湿地性植物の生育地として重要である。
ゆかし潟の塩性湿地植生	東牟婁郡 那智勝浦町	湯川・ゆかし潟周辺	海岸低木林 塩性湿地植物群落	ハマボウ群落 ヨシ群落	群落複合	①	D	国立公園	塩性湿地に特有な植物の重要な生育地である。環境省選定の重要湿地である。

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
那智原始林・那智山国有林の自然林	東牟婁郡 那智勝浦町	那智山・一の滝・二の滝・三の滝・陰陽の滝周辺	常緑広葉樹林 針葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落 ツガ群落 スギ群落	群落 複合	①	A E F	国立公園 国指定天然記念物 (一部)	紀南地域を代表する暖温帯森林植生で位置的に２つに大分される。 ①一の滝から陰陽の滝周辺はホルトノキ、イスノキ、イチイガシを交えるツブラジイ（コジイ）林。 ②一の滝周辺はスギ群落、滝上部はツガ群落から成る。
那智山旧参道のスギ並木	東牟婁郡 那智勝浦町	那智山・熊野那智大社	針葉樹林	スギ群落	単一群落	②	F	国立公園 県指定天然記念物	大門坂から一の滝にかけての参道沿いに林立するスギ並木が、石畳の古道と調和した景観を形成し、森林性植物の重要な生育地となっている。
宇久井半島の海岸植生	東牟婁郡 那智勝浦町	宇久井・宇久井半島	常緑広葉樹林 海岸低木林 海岸崖地草本群落	スダジイ群落 タブノキ群落 ウバメガシ群落 キノクニシオギク群落	群落 複合	②	C D E	国立公園	岩崖地の海岸植生と水底神社のスダジイ群落、蛭子神社のタブノキ群落から成る。
久嶋（孔島）鈴島植物群落	新宮市	三輪崎・孔島・鈴島	海浜草本群落	ノアサガオ群落 ハマオモト群落	群落 複合	①	D	国立公園 市指定天然記念物	
新宮蘭沢の浮島植物群落	新宮市	蘭ノ沢	針葉樹林 湿地植物群落	スギ群落 テツホシダ群落	群落 複合	①	D	国指定天然記念物	浚渫、地下水導水工事により湿地の環境保全対策が施されている。 環境省選定の重要湿地である。
阿須賀神社のスダジイ林	新宮市	阿須賀・蓬莱山	常緑広葉樹林	スダジイ群落	単一群落	②	E	市指定天然記念物	
千穂ヶ峯の自然林	新宮市	千穂ヶ峯	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落 ウバメガシ群落	群落 複合	①	E	国立公園	
白見山国有林の自然林	新宮市	白見山	常緑広葉樹林 針葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落 ツガ群落	群落 複合	①	A	国立公園	
高田のトガサワラ林	新宮市	高田・白見山	針葉樹林	トガサワラ群落	単一群落	①	B		トガサワラが高密度で生育する。
白見山民有林の自然林	新宮市	白見山	常緑広葉樹林 針葉樹林	アカガシ・ウラジロガシ群落 モミ・ツガ群落	群落 複合	②	A	県立自然公園	アカガシ・ウラジロガシを主体とする照葉樹林で上部はモミ・ツガ・トガサワラが混生する。
大雲取山のアカガシ林	新宮市	大雲取山	常緑広葉樹林	アカガシ群落	単一群落	①	A H		

表２　植物群落の一覧表

植物群落名	市町村名	所在地	植生のタイプ	植生の種類	単一・複合	カテゴリー	選定基準	保全制度	特記事項
静閑瀞の崖地植生	新宮市	熊野川町鎌塚・静閑瀞	常緑広葉樹林 岩上・岩隙草本群落	ウバメガシ群落 イワヒバ群落	群落複合	①	B D	県自然環境保全地域	湿崖に特化して生育する草本植物の重要な生育地である。
大倉畑山のウラジロガシ林	新宮市	熊野川町小口・大倉畑山	常緑広葉樹林	ウラジロガシ群落	単一群落	①	A	県立自然公園	ウラジロガシを主体とする常緑広葉樹林で尾根部にはトガサワラが生育する。
和田川峡の崖地植生	新宮市	熊野川町・和田川峡	常緑広葉樹林 針葉樹林 渓流辺低木林 岩上・岩隙草本群落	ツブラジイ(コジイ)・ツガ群落 サツキ群落 イワヒバ群落	群落複合	①	B D	県立自然公園	湿崖や渓流沿いに特化して生育する草本・木本植物の重要な生育地である。
皆地の湿地植生	田辺市	本宮町皆地	湿地植物群落	湿地植物群落	単一群落	③	D		移入された動植物の影響により本来の湿地環境が失われている。
中下番のシマユキカズラ群落	田辺市	本宮町中下番	林縁性つる植物群落	シマユキカズラ群落	単一群落	①	B C	市指定天然記念物	スギ植林地の林内・林縁部に生育するつる植物群落である。
平治ノ滝の崖地植生	田辺市	本宮町下平治・平治ノ滝	常緑広葉樹林 岩上・岩隙草本群落	ウラジロガシ群落 ウバメガシ群落 岩上・岩隙草本群落	群落複合	①	G		湿崖に特化して生育する草本植物の重要な生育地である。
三里神社のコジイ林	田辺市	本宮町切畑・三里神社	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	E		
瀞八丁のコジイ林	新宮市	熊野川町・瀞八丁	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	A	国立公園	断崖地に発達したツブラジイ（コジイ）群落が自然景観資源として重要である。
嶋津の森のコジイ林	新宮市	熊野川町嶋津	常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	単一群落	①	A	国立公園 市指定天然記念物	北山川にできた中州の船頭部分に残った森林である。
四ノ谷の自然林	東牟婁郡北山村	茶臼山・四ノ谷	常緑広葉樹林針葉樹林	ウラジロガシ群落 モミ・ツガ群落	群落複合	①	A		尾根部岩崖地にトガサワラ・ヒノキを混生する自然林である。

植物群落　参考文献一覧

赤井龍男．1979．高野山国有林学術参考保護林の群落構造と植生遷移．39pp．大阪営林局，大阪．
福嶋　司　他．1995．日本のブナ林群落の植物社会学的新体系．日本生態学会会誌，45：79–98.
後藤　伸．1996．紀伊半島におけるウバメガシ林の注目すべき昆虫Ⅱ　紀伊半島のウバメガシ林の分布について．南紀生物，38（1）：13–18.
後藤　伸・吉田元重・山本佳範・津村真由美．1994．天然記念物神島の緊急調査　田辺湾神島におけるウ類による糞害の生態学的研究．田辺文化財　自然編．37：3–50.
Hara, Y., Oki, S., Uchiyama, Y., Ito, K., Tani, Y., Naito, A. and Sampei, Y. 2021. Plant Diversity in the Dynamic Mosaic Landscape of an Agricultural Heritage System. The Minabe-Tanabe Ume System. Land, 10（6）：559.
服部　保．1983．日本の照葉樹林の群落体系について．神戸大学教育学部研究集録，71：123–157.
服部　保．2002．種生物学会編．保全と復元の生物学　野生動物を救う科学的思考．照葉樹林の植物地理から森林保全を考える．203–222．文一総合出版，東京.
法眼利幸．2008．和歌山県におけるカシノナガキクイムシの被害と調査．林業と薬剤，183：1–7.
石崎厚美．護摩壇山ワイルドライフ施設整備事業に係る動物、植物等調査報告．160pp．和歌山.
海南市教育委員会．1995．春日の森調査報告書．132pp．海南.
環境省自然環境局生物多様性センター．第６回・第７回自然環境保全基礎調査植生調査情報提供ホームページ．http://www.vegetation.jp/index.html
関西自然保護機構編．1983．友ヶ島学術調査．296pp．和歌山.
佳山良正．1956．和歌山県生石山高原の地勢並びに植生調査．兵庫農科大学研究報告　畜産学編，2（2）：48–52.
紀の川自然に親しむ会．1986．紀の川下流域（那賀郡粉河町）における氾濫原の植生．南紀生物，28（2）：77–83.
木下慶二．1969．西の河原生林の植生（Ⅰ）．南紀生物，11（1）：13–22.
木下慶二．1969．西の河原生林の植生（Ⅱ）．南紀生物，11（2）：47–50.
木下慶二．1971．西の河原生林の植生（Ⅲ）．南紀生物，13（1）：25–28.
木下慶二．1971．西の河原生林の植生（Ⅳ）．南紀生物，13（2）：61–64.
木下慶二．1972．大塔山原生林の植生　第１報．南紀生物，14（2）：33–37.
木下慶二．1973．大塔山原生林の植生　第２報．南紀生物，15（1）：15–20.
木下慶二．1973．大塔山原生林の植生　第３報．南紀生物，15（2）：41–44.
木下慶二．1975．太地海岸天然林の植生．南紀生物，17（2）：47–53.
木下慶二．1980．紀伊半島最南端の樫野と通夜島のシイ・タブ林について　Ⅱ．南紀生物，22（2）：88.
木下慶二．1982．日高川河口におけるハマボウ群落の分布と地下部の構造について．46pp．和歌山県土木部港湾課，和歌山.
木下慶二．1982．紀北地域の植生 紀北地域自然環境調査報告書．55pp．和歌山.
木下慶二．1984．和歌山県における石灰岩地植生についてⅠ．南紀生物，26（2）：86–92.
木下慶二．1985．和歌山県における石灰岩地植生についてⅡ．南紀生物，27（1）：55–60.
木下慶二．1991．田原湿地（和歌山県古座町）の植生について．南紀生物，33（2）：112–118.
木下慶二．1992．田原湿地（和歌山県古座町）の植生について　補遺．南紀生物，34（2）：120.
木下慶二．1996．河立湿地（太地町）の植生について．南紀生物，38（2）：90–96.
木下慶二・山元　晃．1983．和歌山県の蛇紋岩地植生について．植物地理・分類研究，31（1）：58–67.

国際湿地保全連合日本委員会．2002．日本の重要湿地 500（平成 13 年度重要湿地普及啓発業務報告書）．382pp．環境省自然保護局，東京．
栗生　剛・中森由美子．2011．健全な森林づくりに関する研究　病虫獣害防除手法の確立（第二報）．和歌山県農林水産総合技術センター林業試験場業務報告，68：6–9．
真砂久哉・後藤　伸・玉井澄夫．1988．神島の生物　和歌山県田辺湾神島　陸上生物調査報告書．89pp．田辺市教育委員会，田辺．
松下　弘・後藤　伸．1991．古座川の自然Ⅰ．40pp．古座川町教育委員会，古座川．
松下　弘・後藤　伸．1991．古座川の自然Ⅱ．61pp．古座川町教育委員会，古座川．
みくまの総合資料館研究委員会．1996．熊野の自然と歴史．83pp．新宮市教育委員会，新宮．
宮脇　昭　他．1971．熊野枯木灘県立自然公園の植生．熊野枯木灘自然公園学術調査報告書．47–82．日本自然保護協会，東京．
宮脇　昭　他．1984．日本植生誌　近畿．596pp．至文堂，東京．
水野泰邦．1970．和歌山県日高郡由良町衣奈付近の暖帯林植生．南紀生物，12（1）：11–15．
水野泰邦．1985．和歌山県のシイ型自然林について（県南部のシイ林）．和歌山県立熊野高等学校紀要，10：54–76．
中村正寿　編．1976．和歌山公園および岡公園の植生等調査報告書．70pp．和歌山．
中村正寿．1979．和歌山市中・北部の社叢．和歌山文化財総合調査報告，2：46–81．
小川由一．1950．紀伊黒沢山の蛇紋岩地植物．植物分類・地理，12（4）：187–188．
小川由一．1952．ヒモヅルは紀州にも産する．植物分類・地理，14（5）：163–164．
大塔山系生物調査グループ．1971．大塔山系の自然Ⅰ．40pp．大塔山系生物調査グループ，田辺．
大塔山系生物調査グループ．1971．大塔山系の自然Ⅱ．69pp．大塔山系生物調査グループ，田辺．
大塔山系生物調査グループ．1972．大塔山系の自然Ⅲ．86pp．大塔山系生物調査グループ，田辺．
大塔山系生物調査グループ．1974．大塔山系の自然Ⅳ．71pp．大塔山系生物調査グループ，田辺．
新宮藺沢浮島植物群落調査委員会．1991．国指定天然記念物　新宮藺沢浮島植物群落　調査報告書．157pp．新宮．
末松四郎・木下慶二．1982．根来寺寺域および周辺地域植生調査書．129pp．新義真言宗　総本山根来寺，岩出．
末松四郎・木下慶二・水野泰邦・乾風　登・新谷育生．1982．御坊発電所新設に係る植生特別調査報告書（昭和 57 年度）．44pp．和歌山県自然保護調査会植生特別調査グループ，田辺．
管沼孝之・水野泰邦・後藤　伸．1994．吉野熊野国立公園及びその周辺地域の植生．35–47．吉野熊野国立公園学術調査報告書日本自然保護協会 関西支部，大阪．
高橋和也・藤田大和・白波瀬卓哉・吉安勇介．2005．紀の川におけるウラギクの生育環境特性に関する考察．日本緑化工学会誌，31（1）：39–44．
田村雅弘．1995．和歌山城の森　近況報告（1）．紀州生物，24：19–24．
田村雅弘．1996．和歌山城の森　近況報告（2）．紀州生物，25：31–42．
田村雅弘．1997．和歌山城の森　近況報告（3）．紀州生物，26：12–16．
田村雅弘．1998．和歌山城の森　近況報告（4）．紀州生物，27：25–30．
田村雅弘．1999．和歌山城の森　近況報告（5）．紀州生物，28：16–20．
田村雅弘．2000．和歌山城の森　近況報告（6）．紀州生物，29：4–9．
田村雅弘．2001．和歌山城の森　近況報告（7）．紀州生物，30：56–58．
田村雅弘．2003．和歌山城の森　近況報告（8）．紀州生物，32：9–12．
田辺高校生物部・後藤　伸．1965．紀伊半島南部における極相林の研究［Ⅰ］稲積島．南紀生物，7（2）：54–64．
田辺高校生物部・後藤　伸．1966．紀伊半島南部における極相林の研究Ⅲ［Ⅵ］九龍島．南紀生物，

8 (2)：72–74.
田辺高校生物部・後藤　伸．1968．紀伊半島南部における極相林の研究Ⅳ［Ⅴ］那智山南斜面の森林．南紀生物，10 (1-2)：45–48.
田辺高校生物部・後藤　伸．1969．紀伊半島南部における極相林の研究Ⅶ［Ⅺ］那智山上部の森林．南紀生物，11 (2)：60–67.
田中みち代・高須英樹．1981．紀ノ川下流域氾濫原の植生．植物地理・分類研究，29 (1)：51–59.
我が国における保護上重要な植物種および植物群落の研究委員会植物種分科会．1989．我が国における保護上重要な植物種の現状．320pp．財団法人 日本自然保護協会・財団法人 世界自然保護基金日本委員会，東京.
我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会．1996．植物群落レッドデータ・ブック．1344pp．財団法人 日本自然保護協会・財団法人 世界自然保護基金日本委員会，東京.
和歌山県．1974．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　大杉大小屋黒蔵谷天然林，西の河及び亀谷天然林．70pp．和歌山.
和歌山県．1974．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　箕六弁天社寺林，琴の滝，川又観音社寺林，立神社社寺林，水上天然林．51pp．和歌山.
和歌山県．1975．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　笠塔山原生林．11pp．和歌山.
和歌山県．1976．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　大滝川地域，大塔山奥山谷，白見山天然林，四ノ谷原生林，立神社々寺林．124pp．和歌山.
和歌山県．1977．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　坂泰山天然林．76pp．和歌山.
和歌山県．1978．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　東ノ川地域．16pp．和歌山.
和歌山県．1978．特定植物群落調査報告書．222pp．和歌山.
和歌山県．1979．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　将軍山地域，大倉畑山，平治ノ滝地域，和田川峡，前ノ川天然林．142pp．和歌山.
和歌山県．1981–1983．和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書　古座川下流域，安川渓谷，成見川天然林，龍門山．338pp．和歌山.
和歌山県．1987．植生調査報告書．103pp．環境庁，東京.
和歌山県．1988．特定植物群落調査報告書．189pp．環境庁，東京.
和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課．2021．令和３年版環境白書．158pp．和歌山.
和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室．2012．保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－ 2012 年改訂版．442pp．和歌山.
和歌山県教育委員会．1999．和歌山県文化財ガイドブック　上巻．202pp．和歌山.
和歌山県教育委員会．1999．和歌山県文化財ガイドブック　下巻．202pp．和歌山.
和歌山県林政課．1993．紀の川の森林植生．126pp．林野庁，東京.
和歌山県自然環境研究会．2002．大塔山系　大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林　自然環境調査報告集．225pp．和歌山県自然環境研究会，田辺.
和歌山県自然保護調査会．2005．高野町石道・熊野古道の植生と動植物相の調査．56pp．和歌山.
山田直利．1996．日本地質図体系６近畿地方．126pp．朝倉書店，東京.
山中二男．1972．蛇紋岩地帯の植物群落学的研究ⅠⅩ　和歌山県の蛇紋岩地帯の植生．高知大学教育学部研究報告，24 (2)：27–33.
山中二男．2001．日本の森林植生（補訂版）．223pp．築地書館，東京.
矢頭献一．1975．和歌山県西牟婁郡日置川町森林植生調査報告書．日置川町動植物調査報告書，18pp．田村技術士事務所.
吉田元重．1994．ふるさとの自然　沼池－金屋町－．5pp．SAWAYAKA 委員会，金屋.

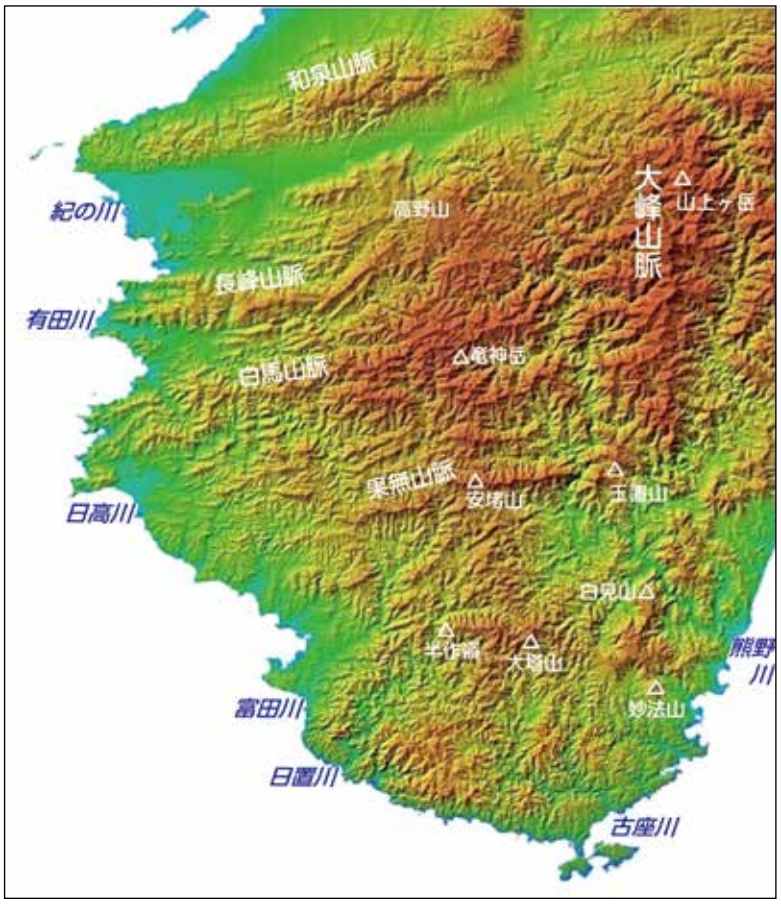
12

地形・地質

地形の概要

吉松敏隆

紀伊山地は、山上ヶ岳（1,719 m）から八経ヶ岳（1,915 m）、釈迦岳（1,800 m）を経て玉置山（1,077 m）に連なる大峰山脈を軸に、その東側の台高山脈と、その西側で高野山から護摩壇山・龍神岳（1,382 m）、安堵山（1,184 m）に延びる山列からなり、それらはほぼ南北方向に延びる。和歌山県の位置する紀伊半島西部は、高野山から安堵山にかけての南北性の山列と、この山列から東西方向に延びる長峰山脈、白馬山脈、大峰山脈から東西に延びる果無山脈を主体とする。長峰山脈は、三波川変成岩地帯、白馬山脈や果無山脈は四万十付加体の地層からなる。また、南部では近露スラストを境にして、大塔山（1,122 m）や法師山（1,121 m）、入道山（1,010 m）が独立峰的にまとまって存在し、更に大塔山から法師山、百間山（999 m）、半作嶺（894 m）にかけて東西性の山列が見られる。この地域は、牟婁付加シークエンスの合川複向斜や打越背斜部にあたる。



紀伊半島の地形図（国土地理院の色別標高図を使用）

このように、和歌山県内北部には南北性の山脈と、そこから延びる東西性の山脈が見られる。これらの直交する２つの山列は、新生代第四紀以降の太平洋プレートの運動による東西圧縮と、フィリピン海プレートの運動による南北圧縮の応力による。白馬山脈や果無山脈が所々で北西－南東方向の軸をもって屈曲しているのは、南北方向に加えて東西方向の圧縮が紀伊半島に加わっているためと考えられている。峰山（879 m）や妙法山（749 m）から大雲取山（966 m）、白見山（926 m）にかけての山列は、熊野酸性火成岩類の地帯である。

紀の川の北側を東西に走る中央構造線を境にして、その北側にはこの断層運動に伴って隆起した和泉山脈が東西方向に延びる。その標高は、東部の岩湧山の南の 909 m を最高峰に、西部の四国山（241 m）に向かって次第に低くなる。

大峰山脈を源流とする紀の川は、和歌山県内ではほぼ中央構造線の南側の沈降域を西流し、紀伊水道へと注ぎ、下流部には県内では最も規模の大きい粉河付近の河岸段丘や和歌山平野を形成する。粉河の河岸段丘は、標高 80~90 m の段丘面を持ち、南流する開析谷が発達する。高野山から安堵山にかけての山列を源流とする有田川、日高川等が東西性の山列をぬって紀伊水道へと注ぎ、果無山脈を源流とする富田川、日置川や、大塔山系を源流とする古座川、太田

川が太平洋へと注ぐ。これらいずれの河川も、上・中流部は急流をなし、著しい曲流（穿入蛇行）や環流丘陵が見られるとともに、支谷には多くの滝が形成されている。また、有田川、日高川、富田川等では、中・下流部に河岸段丘、沖積平野が発達する。

有田川の河岸段丘は、有田川町内で標高 60 m、50 m、35 m の段丘面を持ち、下流方向に傾斜する。富田川の河岸段丘は、下鮎川付近では、標高 80 m、70 m、60 m の段丘面、市ノ瀬付近では 60 m、50 m、40 m の段丘面を持ち、いずれも小規模な開析谷が発達する。

大峰山脈の山上ヶ岳を源流とする熊野川は、大峰山脈と高野山から安堵山にかけての山列の間を南へ曲流しながら太平洋へと注ぐ。

海岸段丘は、日高地方以南によく発達し、紀伊半島南端部の潮岬に向かって段丘面の高度が高くなる。串本付近では、段丘面は高・中・低位の 3 段からなり、高位段丘面は標高 100 m 程度であるが、侵食作用による開析が進み、平坦面は尾根筋にわずかに残っている程度である。中位段丘面は標高 50~60 m、低位段丘面は標高 25~30 m で、潮岬に代表されるようによく残っている。日高以南の海岸線には海岸段丘や波食棚、岩石海岸が発達するのに対し、日ノ御埼付近を境にしてその以北にはわずかな波食棚を伴うリアス海岸が発達している。

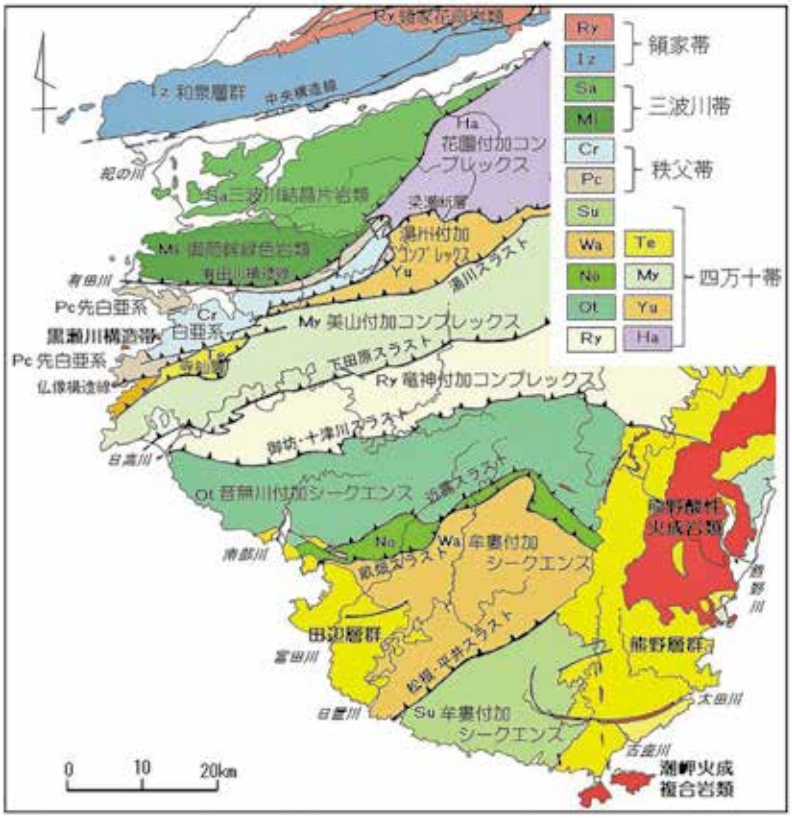
南海トラフに沿って発生する巨大地震の際には、紀伊半島の南端部が隆起し、田辺付近は沈降域になる。また、東南海地震の時には、新宮付近が沈降域になる地殻変動が見られる。

こうした地質や地殻変動の特性を反映して、和歌山県には山地地形及び河川水や海水による侵食地形、堆積地形等が数多く形成され、これらの地形や自然景観は、それぞれの地域のシンボル的存在であり、全国的に広く知られる観光資源等になっている。

地質の概要

吉松敏隆、小泉奈緒子

紀の川の北側をほぼ東西に延びる中央構造線を境にして、その北側には上部白亜系の和泉層群が分布する。和泉層群は、主に砂岩、頁岩、砂岩頁岩互層からなり、凝灰岩層を挟む。本層群は、海底の混濁流によって形成されたタービダイトという地層を主とする主部相と、非タービダイト性の堆積物からなる北縁相及び南縁相に区分されている。主部相は、上方への岩相変化によって、下位より順に加太累層、信達累層、岩出累層、粉河累層に区分され、北縁相は六尾累層、南部相は名手累層と呼ばれる。和泉山脈西部では、向斜軸が東へ傾斜した大規模な向斜構造（地層が谷型に曲げられ、上位の地層が中心部に見られる状態）をなす。



和歌山県内の地質概略図（紀州四万十帯団研 G 編：2012，吉松ほか：1999 等から作成）

中央構造線の南側には、三波川帯が分布し、この地帯を構成する変成岩は、塩基性片岩や砂質片岩、泥質片岩等からなる三波川結晶片岩類、及び主に苦鉄質岩類等からなる弱変成の御荷鉾（みかぶ）緑色岩類に区分され、その南限は有田川構造線である。三波川変成帯の源岩の多くは付加体（海洋プレートの沈み込みによって、陸側に逆断層で付け加わった海底堆積物）の地層で、これらが沈み込み帯で高圧低温型の変成作用を受けてできたと考えられている。

有田川構造線の南側には秩父帯が分布し、その南限は仏像構造線である。秩父帯は、主にジュラ紀の付加体からなる北帯及び南帯、変成岩類や約 4 億年の放射性年代を示す火成岩類、シルル～デボン紀の石灰岩や凝灰岩等からなる黒瀬川構造帯、それらを不整合に覆う白亜系の中帯に区分される。北帯は、主にチャートや緑色岩類、砂岩、泥岩からなる清水層や、主に泥岩や緑色岩類からなる毛原層等に区分されている。南帯は、砂岩、泥岩等の砕せつ岩を主とし、チャート、緑色岩類、石灰岩等のオリストリス（異地性の岩体）が含まれる中紀層群からなり、大引層、由良層、神谷層等に区分されている。

中帯の白亜系は、主に礫岩、砂岩、泥岩及び砂岩泥岩互層等からなり、下部の湯浅層、有田層、西広層、及び上部の外和泉層群（三尾川層、上松原層・北谷層、松原層・井関層、二川層、鳥屋城層）に区分され、各地層からはアンモナイト、イノセラムス等多数の動物化石やシダ、ソテツ類等の植物化石を産出する。近年、湯浅層からカルノサウルス類やスピノサウルスと考えられる恐竜の歯の化石が、鳥屋城層からは海棲は虫類のモササウルスの骨格化石が発見されて

いる。

仏像構造線の南側には、上部白亜系の花園付加コンプレックスからなる高野山帯、湯川・美山・竜神各付加コンプレックス、寺杣層からなる日高川帯、及び第三紀暁新統～中部始新統の音無川付加シークエンス、中部始新統～下部中新統の牟婁付加シークエンスからなる四万十付加体が広く分布する。

日高川帯の地層は、頁岩、砂岩及び砂岩頁岩互層からなる陸源の堆積物に加え、凝灰岩、海洋性のチャートや緑色岩類を伴う。

御坊－十津川スラストの南側には音無川付加シークエンスが分布する。本シークエンスは、泥岩、フリッシュ型砂岩泥岩互層（海底の混濁流による堆積物で、特徴的な級化や内部たい積構造をもつ砂岩、泥岩が交互に重なった地層）、砂岩、礫岩、緑色及び赤色泥岩からなる。海溝充填堆積物である下部の瓜谷層と、海溝付近に形成された海底扇状地堆積物からなる上部の羽六層に区分される。暁新世～前期始新世の堆積物と考えられている。

近露スラストの南側には、牟婁付加シークエンスが分布する。本シークエンスは、海底扇状地堆積物で、フリッシュ型砂岩泥岩互層、泥岩、砂岩及び礫岩からなる。近露スラストと畝畑スラストの間には、中期始新世の野竹構造ユニットが分布し、下位から上三栖層・武住層、西谷層・大瀬層に区分される。畝畑スラストと松根－平井スラストの間には、中期始新世後半～後期始新世の狼屹山構造ユニット・市鹿野構造ユニットが分布し、下位から安川層、打越層、合川層に区分される。それより南は、中期始新世～前期中新世の周参見構造ユニットが分布し、小節川層、佐本川層、田並川層、枯木灘層に区分されている。枯木灘層は、主に含角礫泥岩や泥岩からなり、前者からなる地層は「サラシ首層」と呼ばれ、海底土石流堆積物と考えられている。

南部から日置にかけての地域には、牟婁層群を不整合に覆い、前弧海盆堆積体である第三紀中新統の田辺層群が分布する。本層群は、主に礫岩、泥岩からなる下部の朝来累層、及び砂岩、礫岩、砂岩泥岩互層を主とする上部の白浜累層に区分される。後者の地層には、浅海性を示す堆積構造や生痕化石が多く見られる。また、本層群中には、含礫泥岩からなるダイアピル（地下の物質が割れ目にそって上昇し、上の岩相を押し上げてできたドーム状の構造）及び泥岩岩脈が見られ、その形成は弧状岩脈の貫入と関係が深いと考えられる。

串本から那智勝浦、本宮にかけての地域には、牟婁層群を不整合に覆う第三紀中新統の熊野層群が分布する。本層群は、主に礫岩、砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層からなり、岩相により下位から順に下里累層（大沼累層）、敷屋累層（小口累層）、三津野累層に区分される。本層群は、田辺層群とほぼ同じ時代の前弧海盆堆積体であるが、陸域からの位置が異なると考えられる。

潮岬や紀伊大島には、中期中新世の噴出岩及び貫入岩からなる潮岬火成複合岩類が分布する。この岩体は、枕状溶岩を含む玄武岩質溶岩や斑糲岩等の苦鉄質岩類や流紋岩類、グラノフィアー等の珪長質岩類からなり、組成的な多様性が特徴である。潮岬火成複合岩類の活動の初期には、流紋岩質火砕岩を形成した珪長質マグマの噴出があり、その後、しそ輝石流紋岩の貫入、潮岬ではこれに玄武岩類、グラノフィアー、石英斑岩等の活動が続いた。潮岬に見られる斑糲岩類は、ブロックとして玄武岩類に伴われたと考えられている。

那智勝浦から三重県尾鷲にかけては、熊野酸性火成岩類が分布し、神ノ木流紋岩、流紋岩質火砕岩、流紋岩（花崗斑岩）に区分されている。中期中新世の時代、長径が 40 km にもおよぶ巨大な熊野カルデラが形成される火山活動があった。先に神ノ木流紋岩の活動があり、その後大量の流紋岩質火砕岩が噴出、更にカルデラ内部の流紋岩質火砕岩に地下のマグマだまりから流紋岩（花崗斑岩）が貫入し、それがゆっくり冷え固まってラコリス（餅盤）を形成した。これらの火山活動に伴って、古座川弧状岩脈は弧状断層に沿う火道から流紋岩質火砕岩と流紋岩（花崗斑岩）が噴出してできたと考えられている。

また、この後期中新世の火山活動に伴い、熊野酸性岩類の周縁部に、妙法鉱山に代表される銅を主とする金属鉱床が形成された。更に、那智勝浦や湯の峰、川湯、渡瀬、白浜等の高温泉も、これらの火成活動に関連していると考えられている。

紀南地域には、橋杭岩のように南北に直線上に延びる流紋岩質の岩脈群が見られる。また、これらの南北性の岩脈群や大峯花崗岩類と密接に関連し、四村川上流から古座川上流にかけての八丁涸滝変質帯と呼ばれる南北性の熱水変質帯が形成されている。

和歌山県では、このように古生代シルル紀から新生代第四紀までの約４億年にわたる地層・岩石が分布し、各時代における様々な地層の堆積や地殻変動、火成活動の痕跡をとどめ、学術的に貴重なものも数多く見られる。そして、それらが和歌山県内各地域の特有な地形や自然環境を醸し出している。

地形の選定結果

●カテゴリー：A ランク

001　那智大滝

●カテゴリー：B ランク

002　百間山渓谷
003　清閑瀞
004　煙樹ヶ浜
005　白良浜
006　円月島（高嶋）
007　潮岬

●カテゴリー：C ランク

008　和泉山脈
009　紀伊山地
010　高野山
011　千穂ヶ峰
012　烏帽子山
013　妙法山
014　大雲取山
015　那智山
016　粉河の河成段丘
017　和田川
018　大塔川
019　古座川峡
020　滝の拝
021　皆地のふけ田
022　黒淵
023　千里の浜
024　王子ヶ浜
025　片男波
026　和歌浦・雑賀崎
027　鷹の巣（上人窟）
028　紀伊大島南東部の海食崖
029　九龍島
030　三段洞窟
031　忘帰洞
032　天神崎
033　すさみ海岸（枯木灘）
034　友ヶ島
035　勝浦・湯川海岸
036　深蛇池
037　阿尾湿地
038　湯川ゆかし潟
039　高森・広角台地
040　紀伊大島の海成段丘

●カテゴリー：D ランク

041　長峰山脈
042　白馬山脈
043　果無山脈
044　葛城山
045　龍門山
046　護摩壇山
047　龍神岳
048　西山
049　高雄山（高尾山）
050　大塔山
051　重畳山
052　生石高原
053　四木山（撞木山）
054　蓬莱山
055　ゴトビキ岩
056　沼池
057　見草の大池・小池
058　八丁平
059　金剛寺の大規模地すべり跡
060　奥番の大規模地すべり跡
061　伏菟野の大規模地すべり跡

062　滝尻の大規模地すべり跡
063　熊野の大規模地すべり跡
064　玉川峡
065　達磨石峡谷
066　臼谷川渓谷
067　明恵峡
068　小森谷渓谷
069　奇絶峡
070　救馬渓
071　安川渓谷
072　前ノ川渓谷
073　将軍川
074　田長谷
075　九里峡
076　奥山谷
077　七色峡
078　四ノ川渓谷
079　那智山渓谷
080　太田川渓谷
081　平井川渓谷
082　成見川渓谷（成見八丁）
083　七日ぬめり（滑床）
084　黒蔵谷
085　大杉谷
086　高田川渓谷
087　有田川の河成段丘
088　富田川の河成段丘
089　押手付近の有田川
090　清水付近の有田川
091　安井下流の日高川
092　五味付近の日高川
093　川原河付近の日高川
094　高津尾付近の日高川
095　市鹿野下流の日置川
096　下木守から串にかけての前ノ川
097　上野下流の日置川
098　佐本川渓谷
099　北山川
100　小川峡
101　日高川殿原の環流丘陵地形
102　太田川の環流丘陵地形
103　押回
104　大淵
105　国主淵
106　庄司ヶ淵
107　相須ヶ淵
108　釜滝の甌穴
109　鎌滝の甌穴
110　奥山の甌穴
111　舟岡山（川中島）
112　昼嶋
113　河内島
114　五光の滝
115　不動滝（手水の滝）
116　丹生ノ滝
117　嵯峨の滝
118　文蔵の滝
119　三重の滝
120　稚児の滝
121　岩谷権現の滝
122　新田の滝
123　秘文の滝（雄滝・雌滝）
124　裏見の滝
125　不動の滝
126　赤滝
127　金剛の滝
128　さがりの滝
129　銚子の滝
130　五段の滝
131　不動の滝
132　カガマリの滝
133　油滝

134　鮎返の滝
135　七滝
136　虚空蔵の滝（黒蔵の滝）
137　次の滝
138　白馬滝
139　釜中滝
140　姥ヶ滝
141　不動ノ滝（青蛇の滝）
142　藤滝
143　衛門嘉門の滝
144　越戒の滝
145　恋小袖の滝
146　曼陀羅の滝
147　万歳の滝
148　塔ノ島の滝
149　白馬の滝
150　鷲の川滝
151　大滝川御滝
152　蛇尾の滝
153　鈴川の滝（松瀬の滝）
154　水滝不動滝
155　菱の滝
156　救馬渓観音お滝
157　夫婦ノ滝（観音滝）
158　湯川川の滝
159　不動ノ滝
160　分嶺ノ滝
161　牛屋谷のお滝さん
162　八草の滝
163　一の滝（ドン谷滝）
164　祝の滝
165　西大谷の百間滝
166　かやの滝
167　雨乞の滝
168　地蔵の滝
169　犬落ちの滝
170　百間の滝
171　木守の滝（A, B, C）
172　夫婦の滝（A, B）
173　細尾の滝
174　牛鬼の滝
175　修験ノ滝
176　雫の滝
177　琴の滝
178　大鎌の大滝
179　吐生の滝（お滝さん）
180　才助滝
181　便田の滝
182　お滝さん
183　平治の滝
184　神首ノ滝（滝ノ首）
185　黒蔵滝
186　カンタロウ滝
187　高山谷の滝
188　鮎返滝
189　大塔川の鮎辺滝
190　大杉谷の滝
191　大塔川上流の滝
192　大杉滝（A、B）
193　逢合滝
194　中小屋谷の滝
195　ヒツボノ滝
196　雨泊滝
197　ながしまの滝
198　モミジ滝
199　市老滝（鎌山滝）
200　雷の滝
201　五郎滝
202　のの滝
203　ナカ滝
204　ガマ滝
205　宝竜滝

206　白滝
207　ヘヤ滝
208　鼻白滝
209　仙人滝
210　陰陽滝
211　姫川の滝
212　神水瀑
213　中津谷の滝
214　張尾の滝
215　植魚の滝
216　まぼろしの滝
217　玉ノ谷滝
218　妙呂寺滝
219　大滝（大桑大滝）
220　白見の滝
221　一つ落ちの滝
222　鳴谷一の滝
223　鳴谷二の滝
224　タキワケの滝（大越滝）
225　桑ノ木の滝
226　高滝
227　ぶつぶつ川
228　男浦・宮崎鼻・高田海岸
229　日ノ御埼
230　切目崎
231　見草崎
232　江須崎
233　太地海岸
234　城ヶ崎海岸
235　番所の崎
236　千畳敷
237　椿海岸
238　志原千畳敷
239　和深～二色海岸
240　津荷海岸
241　地獄の釜
242　弁天島・お蛇浦
243　蜑取島
244　紀伊大島のタカノ巣礁・舟ゴラ礁
245　荒船海岸
246　塔島洞門
247　潮吹岩
248　二里ヶ浜
249　塩屋海岸
250　扇ヶ浜
251　那智の浜
252　切目浜
253　佐野の浜
254　中大浜（富田浜）
255　日置大浜
256　太田川河口
257　黒島
258　臨海海岸
259　串本海岸
260　宇久井の浜（上地ノ浜）
261　西浜
262　鹿島
263　田辺湾

地質の選定結果

●カテゴリー：A ランク

01　天鳥の褶曲
02　橋杭岩

●カテゴリー：B ランク

03　白崎石灰岩
04　サラシ首層
05　鳥屋城山
06　瀞八丁（瀞峡）
07　潮岬の火成岩
08　古座川の一枚岩
09　戎島
10　名南風鼻
11　市江崎の含礫泥岩ダイアピル
12　田の崎
13　白浜温泉
14　川湯・湯の峰・渡瀬温泉
15　勝浦温泉
16　龍神温泉

●カテゴリー：C ランク

17　蟾蜍岩（ひき岩群）
18　天皇山から白木の海岸
19　丸山
20　栗栖川亀甲石包含層
21　浮島
22　泥岩岩脈
23　白浜の泥岩岩脈
24　弁天島・お蛇浦
25　小松の不整合
26　根来断層
27　勝真山・白山山
28　樫野崎
29　嶽ノ森山

●カテゴリー：D ランク

30　戸津井の鍾乳洞
31　保呂の虫喰い岩
32　白浜の化石漣痕
33　赤滑の漣痕
34　御所本の化石漣痕（漣痕岩）
35　谷口の石炭層
36　大倉岩
37　餘倉岩
38　茶臼山の天狗巌
39　オトノリ
40　不動山の巨石（不動岩）
41　御衣干岩
42　粟生の巌
43　乳岩
44　円座石
45　孔島・鈴島
46　門前の大岩
47　押分岩
48　オン崎
49　伴待瀬海岸
50　笠石
51　狼岩
52　押し上げ岩
53　夫婦岩（立巌）
54　重ね岩
55　龍門山の磁石岩
56　須江崎
57　高池の虫喰岩
58　牡丹岩
59　浦神の虫喰岩
60　天柱岩（薬研岩）
61　飯盛岩（玉筍峯）
62　少女峰

63　侍岩
64　宇久井半島外の取
65　大狗子半島
66　坊主岩
67　猪岩
68　椋呂の火成岩
69　高田峡一枚岩
70　大越の一枚岩
71　釣鐘岩
72　清水鉱山跡

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
001	那智大滝	A	侵食地形	滝	那智勝浦町	第三紀中新世の火成活動によって形成された熊野酸性岩類の流紋岩（花崗斑岩）が、比高 133 m の瀑布をなす。下流側は熊野層群三津野累層の砂岩や泥岩の地層からなり、火成岩と堆積岩の硬軟の違いから、後者が那智川侵食作用によって削られ形成されたものである。	国指定文化財（名勝）、吉野熊野国立公園、日本の滝百選、日本の音風景 100 選、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66、南紀熊野ジオパークジオサイト
002	百間山渓谷	B	侵食地形	渓谷	田辺市	日置川支流熊野川支谷の渓谷で、主に牟婁帯打越層の礫岩、砂岩、砂岩泥岩互層が分布する。滝、淵等が連続し、河床には流水の侵食作用でできた円形の穴のポットホール（甌穴）も観察できる。渓谷沿いには遊歩道が設けられている。	県指定文化財（名勝・天然）、県立自然公園、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
003	清閑瀞	B	侵食地形	瀞	新宮市熊野川町	大倉畑山の東麓を北流する小口川の渓谷で、瀞をなす。河岸には、熊野層群小口累層の砂岩泥岩互層ないし成層泥岩が露出する。延長約 2.5 km。	県自然環境保全地域
004	煙樹ヶ浜	B	海岸堆積地形	礫浜	美浜町	日高川の河口に形成された円礫の浜で、延長 4.5 km、幅 600 m である。暴風時に汀線より一段高い位置にできたストームベンチや海に向かって三角形状に突き出したカスプが観察できる。	県立自然公園、日本の白砂青松百選、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
005	白良浜	B	海岸堆積地形	砂浜	白浜町	北原白秋をして「まこと白きかも」と感嘆せしめた砂浜で、90 %を越える石英粒からなる。後背地をなす田辺層群の石英粒の多い砂岩の風化によってできた砂が、ポケットビーチに集積して白良浜が形成された。延長 0.5 km、幅 90 m。	日本の渚百選、快水浴場百選、町指定文化財（名勝）、県立自然公園、吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
006	円月島（高嶋）	B	海岸変動地形	島	白浜町	第三紀中新世の田辺層群白浜累層を傾斜不整合で覆う塔島礫岩層からなる。この礫岩は、おもに中～大礫の亜角～亜円礫で、礫の大部分は砂岩である。島の中央部は、海食によって貫通している。	町指定文化財（名勝）、県立自然公園、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
007	潮岬	B	海岸変動地形	海成段丘	串本町	潮岬は、陸けい島をなす。粗粒玄武岩、珪長質半深成岩のグラノフィアー、石英斑岩等からなる潮岬火成複合岩類を基盤岩とし、高位段丘（標高 80 m）及び低位段丘（40~60 m）が発達する。	吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
008	和泉山脈	C	山地地形	山脈・山地	橋本市・かつらぎ町・紀の川市・岩出市・和歌山市	中央構造線の北側に位置し、後期白亜紀の砂岩泥岩互層を主とする和泉層群からなる。東に傾斜した向斜構造をなし、地層は東方ほど新しくなる。標高は岩湧山の南の 909 m を最高峰に、西に向かって次第に低くなる。	一部金剛生駒紀泉国定公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
009	紀伊山地	C	山地地形	山脈・山地	北山村・田辺市・高野町・かつらぎ町・有田川町等	紀伊半島東部を南北に延びる大峰山脈や台高山脈等と、東西に延びる長峰山脈、白馬山脈、果無山脈等が複合し、半島の脊梁部をなす山地で、護摩壇山や安堵山等は両者の交差した高峰である。	
010	高野山	C	山地地形	高原	高野町	紀伊山地の北部に位置し、標高約 800 m の高位平坦地形面をなす。一帯は、白亜系日高川帯花園付加コンプレックスの砂岩、頁岩からなり、チャート、緑色岩類、酸性凝灰岩を伴う。	高野龍神国定公園
011	千穂ヶ峰	C	山地地形	孤峰	新宮市	標高が 253.4 m で、基盤は熊野酸性岩類の流紋岩からなる。山腹に「ごとひき岩」と呼ばれる流紋岩の巨石があり、神倉神社の御神体になっている。その直下の断崖は「天の磐楯」と呼ばれる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
012	烏帽子山	C	山地地形	孤峰	新宮市・那智勝浦町	標高が 909.5 m で、基盤は熊野酸性火成岩類の流紋岩からなる。頂上付近に「烏帽子岩」と呼ばれる岩柱がある。	一部吉野熊野国立公園
013	妙法山	C	山地地形	孤峰	那智勝浦町	標高が 749.1 m で、基盤は標高約 550 m 以上の部分が熊野酸性火成岩類、その下位は熊野層群三津野累層からなる。熱水鉱床が多数分布し、かつては妙法鉱山として稼行された。	吉野熊野国立公園
014	大雲取山	C	山地地形	孤峰	新宮市・那智勝浦町	標高が 965.7 m で、基盤は熊野酸性岩類の流紋岩等からなる。赤木川、高田川、太田川等の源流をなす。	
015	那智山	C	山地地形	その他	那智勝浦町	那智大滝より上流の那智川流域一帯の名称であり、一つの山体を指さない。基盤は熊野酸性岩類の流紋岩等からなる。一部に、国指定天然記念物の原生林が茂る。	吉野熊野国立公園
016	粉河の河成段丘	C	侵食地形	河成段丘	紀の川市	鮮新世の菖蒲谷層からなる丘陵地を覆い、開析が進んだ高位段丘（標高 100 m ±）、さらに紀の川とその支流河川沿いに発達する中位段丘層（80 m ±）、低位段丘層（50 m ±）が顕著に見られる。	
017	和田川	C	侵食地形	渓谷	新宮市熊野川町	熊野川支流、赤木川上流の支谷で、主に熊野層群小口累層の分布域を流下する穿入蛇行河川。途中に断崖絶壁や瀬、瀞が醸し出す渓谷美をなす。	一部県立自然公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
018	大塔川	C	侵食地形	穿入蛇行河川	田辺市	熊野川の支流で、音無川付加シークエンス及び牟婁付加シークエンスが分布する地域を著しく曲流する。延長 19.5 km、屈曲数 35、標高差 250 m。	一部県立自然公園
019	古座川峡	C	侵食地形	穿入蛇行河川	古座川町	真砂から一雨にかけての 18 km で、屈曲数 12、比高 390 m。牟婁付加シークエンス及び熊野層群を貫く古座川弧状岩脈にほぼ沿って曲流する。	県立自然公園
020	滝の拝	C	侵食地形	ポットホール	古座川町	古座川支流の小川付近に分布する、第三紀中期中新世の熊野層群下里累層の砂岩がち互層からなる河床が、河水及び砂礫によって円形ないし舟底型、溝型、壺型に侵食されたもので、その分布と規模は大きい。	県指定文化財（名勝・天然）、県立自然公園、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66、南紀熊野ジオパークジオサイト
021	皆地のふけ田	C	侵食地形	環流丘陵	田辺市本宮町	熊野川支流四村川に形成された環流丘陵を取り巻く旧河道の湿地で、多数の動植物が生息・生育し、自然観察地として利用されている。	
022	黒淵	C	侵食地形	瀞	北山村	北山川の小森ダム下流にみられる峡谷で、両岸の断崖絶壁には、日高川帯竜神付加コンプレックスの頁岩、砂岩頁岩互層が露出する。	吉野熊野国立公園
023	千里の浜	C	海岸堆積地形	砂浜	みなべ町	延長 1.5 km、幅約 110 m の砂浜で、周辺には田辺層群朝来累層が分布する。アカウミガメの産卵地でもある。1331 年の地震によって、沖合が隆起して陸続きになったとの記録がある。	県指定文化財（名勝・天然）、県立自然公園、吉熊国公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、和歌山の親しめる水辺 66
024	王子ヶ浜	C	海岸堆積地形	礫浜	新宮市	熊野川河口から南西方向に延長 3.2 km、幅 50 m で広がる礫浜で、一部砂州を形成する。	吉野熊野国立公園、朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
025	片男波	C	海岸堆積地形	砂州	和歌山市	砂州で、面積 8.1 ha、延長 1.3 km。国指定名勝和歌の浦の一部をなす。砂州の内側には、貴重な干潟生物が多種類生息する干潟が広がり、万葉の時代から広く知られる景観美をなす。	和歌山県の朝日・夕陽 100 選、快水浴場百選、国指定文化財（名勝）、海岸保全区域
026	和歌浦・雑賀崎	C	海岸侵食地形	海食崖	和歌山市	雑賀崎から新和歌浦まで延長 1.6 km、比高 50 m、基盤岩は三波川変成帯の結晶片岩類で、緑色の塩基性片岩や白黒縞模様の泥質片岩等が断崖に彩りを添えている。	瀬戸内海国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
027	鷹の巣（上人窟）	C	海岸侵食地形	海食洞	和歌山市	三波川変成帯の結晶片岩からなる海食崖に形成された海食洞で、高さ約 13 m、幅約 5 m、奥行き約 15 m である。	県指定文化財（天然）、瀬戸内海国立公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
028	紀伊大島南東部の海食崖	C	海岸侵食地形	海食崖	串本町	須江から樫野崎にかけて比高 50 m の海成段丘と入り組んだ海食崖、岩礁が続く。潮岬火成複合岩体の紫蘇輝石流紋岩や流紋岩質の火砕岩からなる。海金剛は流紋岩の岩礁。	吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
029	九龍島	C	海岸侵食地形	海食崖	串本町	延長 0.8 km、比高 20 m。熊野層群敷屋累層と考えられる砂岩及び礫岩からなる。南側に岩礁状に突き出た部分は鯛島と呼ばれる。海食洞に石灰岩が見られ、地質学的研究の価値が高い。	吉野熊野国立公園、町指定文化財（名勝・天然）、南紀熊野ジオパークジオサイト
030	三段洞窟	C	海岸侵食地形	海食洞	白浜町	第三紀中新統田辺層群白浜累層の厚層砂岩層からなる海食崖の三段壁に形成された海食洞である。地上からはエレベーターで降りることができる。	県立自然公園、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
031	忘帰洞	C	海岸侵食地形	海食洞	那智勝浦町	新第三系熊野層群敷屋累層の砂岩、砂岩泥岩互層からなる狼煙山の海食崖に形成された海食洞で、太平洋を見渡す露天風呂として利用されている。	
032	天神崎	C	海岸侵食地形	海食台	田辺市	天神崎一帯には、新第三紀中新世の田辺層群朝来累層が分布する。主に礫岩からなり、礫は中～大礫の亜円～円礫で、大部分は砂岩礫からなり、稀に石英やチャートの礫も見られる。	県立自然公園、吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、日本の自然百選
033	すさみ海岸（枯木灘）	C	海岸侵食地形	岩　礁	すさみ町	小石ノ鼻から三崎まで延長 27 km の岩石海岸で、稲積島、沖ノ黒島等がある。牟婁付加シークエンスの田並川層や佐本川層、小節川層の砂岩、砂岩泥岩互層、泥岩等からなる。また、一部に弧状岩脈が見られる。	県立自然公園、吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
034	友ヶ島	C	海岸変動地形	島	和歌山市	地ノ島、沖ノ島、神島、虎島からなる。白亜系和泉層群友ヶ島累層の砂岩頁岩互層、礫岩層からなり、地層の傾斜を反映したケスタ地形をなす。アンモナイト、イノセラムス、コダイアマモ等の化石を産出する。	瀬戸内海国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
035	勝浦・湯川海岸	C	海岸変動地形	多島海	那智勝浦町	第三系熊野層群敷屋累層の砂岩、砂岩泥岩互層からなる狼煙山の東側は断崖が続き、周辺には中ノ島、筆島、鶴島、乙島、ラクダ島等の諸島が点在し、「紀の松島」と呼ばれ、高温泉が湧出する。	吉野熊野国立公園、紀の松島：朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
036	深蛇池	C	海岸変動地形	湖沼	和歌山市	友ヶ島の沖ノ島にある海跡湖で、面積約 2.5 ha、水深 0.5 m の淡水湖沼である。抽水植物、湿地性植物、浮遊植物等が密生する。	瀬戸内海国立公園、和歌山の親しめる水辺 66

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
037	阿尾湿地	C	海岸変動地形	湖沼	日高町	馳出の鼻と阿尾の間にあり、北に開いた小湾が砂州によって封鎖された汽水性の湿地である。面積は約 14.6 ha、水深は 5 m である。	県立自然公園
038	湯川ゆかし潟	C	海岸変動地形	湖沼	那智勝浦町	那智勝浦町湯川にある潟湖（ラグーン）で、2 つの河川の河口が封鎖されてできたものである。北東の湖岸には湯川温泉が湧出する。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
039	高森・広角台地	C	海岸変動地形	海成段丘	新宮市	標高が 125 m、113 m、95 m、76 m の高位段丘面と 60 m の低位段丘面が発達する。前者の礫層は、赤褐色の粘土・シルトの基質に、淘汰のやや良くない円～亜円礫を含む。後者の砂礫層は 60 m 以上ある。	
040	紀伊大島の海成段丘	C	海岸変動地形	海成段丘	串本町	海岸段丘は、標高 125 m、70~100 m、55 m の 3 段に区分でき、前者 2 面は高位段丘に、後者 1 面は低位段丘に対比される。基盤岩は、潮岬火成複合岩類の流紋岩類及び流紋岩質火砕岩からなる。	吉野熊野国立公園
041	長峰山脈	D	山地地形	山脈	高野町・かつらぎ町・紀美野町・有田川町等	天狗岳を最高峰に、西方へ低くなる。主に三波川変成帯の堂鳴海山層、生石層の結晶片岩類等からなり、南麓の一部に秩父累帯の先白亜系、白亜系が分布する。	一部県立自然公園
042	白馬山脈	D	山地地形	山脈	有田川町・田辺市龍神村・日高町等	城ヶ森山を最高峰に西方へ低くなる。白亜系日高川帯美山付加コンプレックスや寺杣層の砂岩、砂岩頁岩互層、頁岩からなり、前者にはチャートや緑色岩類を伴う。	一部県立自然公園
043	果無山脈	D	山地地形	山脈	田辺市龍神村及び中辺路町・みなべ町	東部では 1,000 m 級の山々が連なる。音無川付加シークエンスの瓜谷層、羽六層の砂岩、砂岩泥岩互層、泥岩、礫岩からなる。山脈の主稜線は、東西圧縮による屈曲が顕著である。	一部県立自然公園
044	葛城山	D	山地地形	孤峰	紀の川市	標高 858 m で、基盤は中生代後期白亜紀の和泉層群岩出累層からなり、主に砂岩優勢の砂岩頁岩互層である。	一部金剛生駒紀泉国定公園
045	龍門山	D	山地地形	孤峰	紀の川市	標高 755.9 m で、紀州富士とも呼ばれ、基盤は三波川変成帯の結晶片岩及び超塩基性岩からなる。頂上近くに磁石岩、明神岩の風穴洞（奥行 32 m）がある。	県立自然公園
046	護摩壇山	D	山地地形	弧峰	田辺市龍神村	標高 1,372 m で、基盤は四万十付加体の日高川帯美山付加コンプレックスの地層からなる。高野・龍神スカイラインが通じ、展望塔が建てられている。	高野龍神国定公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、水源の森百選

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
047	龍神岳	D	山地地形	弧峰	田辺市龍神村	標高 1,382 m で、県内最高峰。基盤は四万十付加体の日高川帯美山付加コンプレックスの地層からなる。国土地理院が 2000 年に調査、2009 年に田辺市が名称を公募で決定した。	高野龍神国定公園
048	西山	D	山地地形	孤峰	美浜町・日高町	標高 328.7 m で、四万十付加体の日高川帯美山付加コンプレックスの地層からなる。	一部県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
049	高雄山 (高尾山)	D	山地地形	孤峰	田辺市	標高 605.9 m で、基盤は四万十付加体音無川付加シークエンスの羽六層からなる。	一部県立自然公園
050	大塔山	D	山地地形	孤峰	田辺市・古座川町・新宮市	標高 1,121.8 m で、基盤は四万十付加体の牟婁付加シークエンス安川層からなる。	県立自然公園
051	重畳山	D	山地地形	孤峰	串本町	標高 301.8 m で、基盤は新生代第三紀中新世の熊野層群下里累層からなる。	町指定文化財（名勝・天然）
052	生石高原	D	山地地形	高原	有田川町・紀美野町	標高 870.1 m の生石ヶ峰を中心に、面積約 8.9 ㎢の中起伏山地で、基盤は三波川変成帯の結晶片岩類からなる。頂上付近の表土に黒ボク土が見られる。	県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
053	四木山 (撞木山)	D	山地地形	岩峰・岩柱	新宮市熊野川町	相須付近に見られる岩峰・岩柱で、熊野層群小口累層に貫入する大峰酸性岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなり、柱状節理が発達している。	吉野熊野国立公園
054	蓬莱山	D	山地地形	弧峰	新宮市	熊野川河口付近にあり、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなる標高 48 m の小さな弧峰。古代より神が降臨した霊山とされてきた。	南紀熊野ジオパークジオサイト
055	ゴトビキ岩	D	風化侵食地形	コアストーン	新宮市	千穂ヶ峯の南南東、標高 87 m にあり、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなる巨大なコアストーンで、信仰対象となっている。	南紀熊野ジオパークジオサイト
056	沼池	D	マスムーブメント地形	湖沼	有田川町	黒沢山（標高 509.4 m）の東斜面、標高 465 m にある面積約 2,000 ㎡の淡水自然沼で、水深 1.2 m。沼底の腐植泥層は 4.5 m あり、冬期は結氷する。	県立自然公園
057	見草の大池・小池	D	マスムーブメント地形	湖沼	白浜町	見草川支谷に形成された凹地で、尾根の崩壊による小規模な堰止め湖的地形で標高 90 m。大雨の時、一時的に貯水される。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
058	八丁平	D	マスムーブメント地形	崖錐	新宮市	白見山東麓口高田にある崖錐地形で、比高は 120 m、面積は 52 ha あり、崖錐をなす岩塊のすき間から涼風が吹き出し、霧を発生させるので霧穴群とも呼ばれる。	
059	金剛寺の大規模地すべり跡	D	マスムーブメント地形	崖錐	かつらぎ町	昭和 28 年の有田川水害時に、金剛寺の北側の山の斜面が崩壊し、一時、有田川をせき止めた。山は四万十付加帯日高川帯の湯川付加コンプレックスの地層からなる。	
060	奥番の大規模地すべり跡	D	マスムーブメント地形	崖錐	田辺市本宮町奥番	平成 23 年台風 12 号の豪雨により発生。張安スラストの破砕帯をなす音無川付加シークエンス羽六層下部の泥質優勢互層が崩壊し、崩土が三越川を堰き止め湖を形成、環流地形の旧河道を溢流、侵食して新たな河道を形成。崩土は、ローブ状崩壊堆積物を形成。	
061	伏菟野の大規模地すべり跡	D	マスムーブメント地形	崖錐	田辺市伏菟野	平成 23 年台風 12 号の豪雨により発生。四万十付加体音無川帯の屈曲構造をなす古屋谷スラストの破砕帯が、流れ盤崩壊を起こし、ローブ状崩壊堆積物と移動土塊を形成。スラストの下盤は音無川付加シークエンス羽六層の泥質互層、上盤は瓜谷層の泥岩層。	
062	滝尻の大規模地すべり跡	D	マスムーブメント地形	崖錐	田辺市中辺路町滝尻	平成 23 年台風 12 号の豪雨により発生。牟婁付加シークエンスの厚層砂岩・礫岩層が崩壊、ほぼ流れ盤をなす。源頭部には大規模な移動土塊が見られる。富田川本流に向かって門谷で土石流が発生、本流に堰き止め湖ができ、その後決壊した。	
063	熊野の大規模地すべり跡	D	マスムーブメント地形	崖錐	田辺市熊野	平成 23 年台風 12 号の豪雨により発生。牟婁帯合川複向斜の八丁坂向斜の北翼にあたり、牟婁付加シークエンス打越層の厚い砂岩層とその上位の合川層の泥岩層が流れ盤崩壊を起こす。崩土は、大量の崩壊堆積物と移動土塊からなり、土石流は百間谷に達した。	
064	玉川峡	D	侵食地形	峡谷・渓谷	九度山町・橋本市	紀の川支流丹生川の渓谷で、日高川帯花園付加コンプレックスの分布域を流下する。河床には八葉石、猿飛石、淵が続く碧淵等がある。	県立自然公園
065	達磨石峡谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	紀美野町	紀の川支流貴志川の渓谷で、一帯は三波川変成帯の結晶片岩からなる。河床にある大岩は達磨石と呼ばれ、結晶片岩の巨礫である。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
066	臼谷川渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	かつらぎ町	有田川支流臼谷川の渓谷で、花園付加コンプレックスからなる日高川帯を流下するため、河床にはチャートや緑色岩の礫が見られる。途中に赤滝がある。	
067	明恵峡	D	侵食地形	峡谷・渓谷	有田川町	有田川本流の峡谷で、両岸には秩父累帯白亜系の松原層の砂岩や頁岩、礫岩が露出する。	町指定文化財（名勝）
068	小森谷渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	田辺市龍神村	日高川支流で小森から護摩壇山頂上まで延長約 10 km。日高川帯美山付加コンプレックスの分布域を流下する渓谷で、途中に衛門嘉門の滝、越戒の滝、お万ヶ淵、赤壺白壺がある渓谷。	高野龍神国定公園
069	奇絶峡	D	侵食地形	峡谷・渓谷	田辺市	右会津川が高尾山の西を流下する所にある。四万十付加帯の音無川付加シークエンス羽六層の厚層粗粒砂岩が峡谷をなし、絶壁に磨崖大石仏が刻まれている。	県立自然公園、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
070	救馬渓	D	侵食地形	峡谷・渓谷	上富田町	田辺層群朝来累層の粗粒砂岩、礫岩層が断崖をなし、岩屋の部分を利用して観音が祀られている。救馬渓観音お滝、女郎淵がある。	お滝：紀の国の名水、南紀熊野ジオパークジオサイト
071	安川渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	田辺市	日置川支流の安川流域で、支流の又井川との合流点付近の景観が良い。砂岩泥岩互層や泥岩からなる、牟婁帯の安川層の分布域を流下する渓谷である。	一部県立自然公園
072	前ノ川渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	田辺市	大塔山を源流とする日置川の支流で、主として牟婁帯の打越層の砂岩、砂岩泥岩互層の分布域を曲流する渓谷である。	
073	将軍川	D	侵食地形	峡谷・渓谷	白浜町	高尾山、大森山を源流とする日置川の支流で、牟婁帯の打越層の砂岩、砂岩泥岩互層の分布域を曲流する渓谷である。	
074	田長谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	新宮市熊野川町	白見山の西側を半周するように流下する、熊野川支流の渓谷である。熊野酸性火成岩類の分布域のため、滑床をなす部分も多い。下流部に鼻白の滝がある。	下流の一部は吉野熊野国立公園
075	九里峡	D	侵食地形	峡谷・渓谷	新宮市	田長から新宮にかけての熊野川で、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）が侵食された峡谷域をいう。河岸には柱状節理が発達した岩壁や奇岩が見られる。	吉野熊野国立公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
076	奥山谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	新宮市熊野川町	熊野川支流赤木川支流和田川支流で、大塔山、足郷山を源流ととする渓谷で、絶壁、滝、釜が続く。牟婁帯の安川累層、打越層、合川層を流下する。	一部県立自然公園
077	七色峡	D	侵食地形	峡谷・渓谷	北山村	北山川の七色ダムから下流 2.1 km の峡谷で、流域には日高川帯竜神付加コンプレックス及び熊野層群大沼累層が露出する。	吉野熊野国立公園
078	四ノ川渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	北山村	笠捨山、茶臼山等を源流とする北山川の支流をなす渓谷で、落差数 m ～十数 m の滝が多数ある。日高川帯の竜神付加コンプレックス、熊野層群大沼累層の分布域。	
079	那智山渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	那智勝浦町	烏帽子山を源流とする那智川の上流部にあたる渓谷である。大滝をはじめ、「那智四十八滝」の多くはこの谷にある。主に熊野酸性火成岩類が分布する。	吉野熊野国立公園
080	太田川渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	那智勝浦町	出合から太田川支流の熊瀬川、小匠川、更に高野川に達する。各河谷には、穿入蛇行が発達して枝状の谷をなす。熊野層群小口累層及び三津野累層の分布域。	
081	平井川渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	古座川町	古座川支流で大塔山を源流とし、玉ノ谷から七川ダムまでの渓谷で、牟婁帯打越層の分布域を南にやや直線状に流下する。	県立自然公園
082	成見川渓谷（成見八丁）	D	侵食地形	峡谷・渓谷	古座川町	古座川支流の小川から小森川付近までの渓谷で、上流部は枝状になり、下流部は直線状に流下する。熊野層群小口累層の分布域である。	県立自然公園
083	七日ぬめり（滑床）	D	侵食地形	峡谷・渓谷	古座川町	足郷山西方の古座川で、延長 600 m、滑床幅 20 m、水路幅 2 m。牟婁帯安川層の熱水変質を受けた砂岩泥岩互層からなる。	
084	黒蔵谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	田辺市本宮町	熊野川支流、大塔川の支谷で、打越背斜の北翼に分布する牟婁帯の打越層及び合川層を流下し、黒蔵滝やカンタロウ滝等多数の滝を形成する。	日本の谷百選
085	大杉谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	田辺市本宮町	熊野川支流、大塔川の支谷で、打越背斜の北翼に分布し、砂岩泥岩互層や泥岩からなる牟婁帯の安川層を流下する。流域には大杉滝等が見られる。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
086	高田川渓谷	D	侵食地形	峡谷・渓谷	新宮市	熊野川の支流で大雲取山、烏帽子山を源流とし、熊野酸性火成岩類、一部は熊野層群を流下する。流域には滝が多い。	紀の国の名水
087	有田川の 河成段丘	D	侵食堆積地形	河成段丘	有田川町	有田川左岸の有田川町吉原から下津野及び右岸の歓喜寺から糸野にかけて、標高 50~60 m、35~50 m、25~35 m の段丘面を持ち、各段丘面は下流へ傾斜、段丘礫層を有する。	
088	富田川の 河成段丘	D	侵食堆積地形	河成段丘	上富田町	富田川右岸の下鮎川及び左岸の市ノ瀬に発達、前者では 3 段のうち第 2 段の標高 65 m 面が広く分布、後者は幅 550 m、延長 1 km にわたり分布する。開析谷が発達する。	南紀熊野ジオパークジオサイト
089	押手付近の 有田川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	かつらぎ町～ 有田川町	梁瀬～杉の原にかけて、延長 8.5 km、屈曲数 15、比高 180 m である。日高川帯湯川付加コンプレックスの分布域を曲流する。	
090	清水付近の 有田川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	有田川町	久野原～打井原にかけて、延長 4 km、屈曲数 6、比高 220 m である。外和泉層群二川層の分布域を曲流する。	
091	安井下流の 日高川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	田辺市龍神村	安井～甲斐ノ川にかけて、延長 16.5 km、屈曲数 17、比高 627 m である。日高川帯竜神付加コンプレックス及び音無川付加シークエンスを曲流する。	
092	五味付近の 日高川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	日高川町・ 田辺市龍神村	大瀬～小滝浦にかけて、延長 10 km、屈曲数 14、比高 432 m である。日高川帯竜神付加コンプレックスの分布域を曲流する。	
093	川原河付近の 日高川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	日高川町	小滝浦～下越方にかけて、延長 16 km、屈曲数 15、比高 717 m である。日高川帯竜神付加コンプレックスの分布域を曲流する。途中に椿山ダムがある。	
094	高津尾付近の 日高川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	日高川町	上田原～坂本にかけて、延長 20 km、屈曲数 15、比高 376 m である。竜神付加コンプレックスの分布域を曲流する。	
095	市鹿野下流の 日置川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	白浜町	市鹿野～安宅にかけて、延長 32 km、屈曲数 24、比高 420 m である。牟婁帯の合川層及び田辺層群朝来累層の分布域を曲流する。	県立自然公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
096	下木守から串にかけての前ノ川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	田辺市	下木守～串にかけて、延長 19.5 km、屈曲数 30、比高 300 m である。牟婁帯打越層及び合川層の分布域を曲流する。	
097	上野下流の日置川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	田辺市	上野から向山にかけて、延長 7.5 km、屈曲数 16、比高 300 m である。牟婁帯打越累層の分布域を曲流する。	県立自然公園
098	佐本川渓谷	D	侵食地形	穿入蛇行河川	すさみ町・古座川町	古座川支流、佐本川の佐本根倉から本流との合流付近にかけて、延長 6.8 km、屈曲数 12、比高 350 m である。牟婁帯周参見構造ユニットの地層分布域を流下する。	県立自然公園
099	北山川	D	侵食地形	穿入蛇行河川	新宮市熊野川町	熊野川の支流北山川で、延長 16.5 km、屈曲数 6、比高 345 m である。日高川帯竜神付加コンプレックス及び熊野層群大沼累層、小口累層分布域を流下する。	吉野熊野国立公園
100	小川峡	D	侵食地形	穿入蛇行河川	古座川町	古座川支流小川の直見から小森川にかけて、延長 31 km、屈曲数 50、比高 340 m である。熊野層群下里累層、一部牟婁帯周参見構造ユニットの地層を流下する。	県立自然公園
101	日高川殿原の環流丘陵地形	D	侵食地形	環流丘陵	田辺市龍神村	日高川支流丹生ノ川の殿原付近で、直線上の川が曲流したために元の河床が平地になり、小さな孤峰が形成された。小森は更に古い時代の環流丘陵である。	
102	太田川の環流丘陵地形	D	侵食地形	環流丘陵	那智勝浦町	太田川下流域の外ラ地、庄、下和田のほか、上流の小匠川の小匠やその上流部、上流の熊瀬川にも形成されている。	南紀熊野ジオパークジオサイト
103	押回	D	侵食地形	瀞	新宮市熊野川町	熊野川支流北山川流域の嶋津付近にあり、水深 13 m、延長 100 m である。基盤岩は、熊野層群小口累層である。	吉野熊野国立公園
104	大淵	D	侵食地形	瀞	北山村	熊野川支流北山川流域の小松付近にあり、水深 10 m、延長 40 m である。基盤岩は、熊野層群の大沼累層からなる。	吉野熊野国立公園
105	国主淵	D	侵食地形	淵	紀の川市貴志川町	紀の川支流貴志川の国主付近にあり、水深 2 m、下流端は井堰で、右岸は公園として整備されている。基盤岩は、三波川帯の結晶片岩である。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
106	庄司ヶ淵	D	侵食地形	淵	田辺市中辺路町	富田川流域の真砂付近にあり、砂礫が堆積して深くないが、清姫伝説の地として淵の岸が整備されている。基盤岩は、牟婁帯安川層の砂岩泥岩互層である。	市指定文化財（史跡）

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
107	相須ヶ淵	D	侵食地形	淵	北山村	熊野川支流、北山川にあり、水深 15 m。日高川帯竜神付加コンプレックスその上に不整合に重なる熊野層群大沼累層との境界部にあたる。	吉野熊野国立公園
108	釜滝の甌穴	D	侵食地形	ポットホール	紀美野町	三波川変成帯の結晶片岩からなる真国川の河床に、径 0.5~1.0 m の多数の甌穴が形成されている。浅い舟底状のものも見られる。	県指定文化財（天然）
109	鎌滝の甌穴	D	侵食地形	ポットホール	紀美野町	三波川変成帯の結晶片岩からなる貴志川の河床に、径 0.6~1 m、深さ 0.7~2 m の多数の甌穴が形成され、2 つが連結したものも見られる。	
110	奥山の甌穴	D	侵食地形	ポットホール	田辺市	名喜里川源流で田辺層群朝来累層の砂岩層からなる河床にあり、径 2~5 m 程度の甌穴が数十個ある。現在はすぐ上流部に道路が横切り、開発が進んでいる。	県指定文化財（天然）
111	舟岡山 (川中島)	D	侵食地形	川中島	かつらぎ町	紀の川の川中島で、周囲は約 1 km、比高は 20 m。三波川変成帯の中では船岡山岩体と呼ばれ、飯盛ユニットとは組織や鉱物組成の異なる結晶片岩からなる。	県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
112	昼嶋	D	侵食地形	川中島	新宮市	熊野川の川中島で、流紋岩（花崗斑岩）からなり、頂部に草木が茂る。熊野川の川船下りの道中にあり、熊野権現にまつわる伝説がある。	吉野熊野国立公園
113	河内島	D	侵食地形	川中島	古座川町	古座川河内祭りの祭祀の中心となる川中島で、古座川弧状岩脈の流紋岩からなる。	
114	五光の滝	D	侵食地形	滝	橋本市	紀の川支流丹生川支谷。一文字状、落差 20 m、滝口幅 1 m、滝壺有り。弱変成の珪質頁岩からなる。	県立自然公園、和歌山の親しめる水辺 66
115	不動滝 (手水の滝)	D	侵食地形	滝	橋本市	紀の川支流山田川支谷。一文字状、落差 10 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	金剛生駒紀泉国定公園、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
116	丹生ノ滝	D	侵食地形	滝	橋本市・九度山町	紀の川支流丹生川支谷。多段型、落差 25 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	県立自然公園、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
117	嵯峨の滝	D	侵食地形	滝	橋本市高野口町	紀の川支流嵯峨谷川。一文字状、落差 6 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	
118	文蔵の滝	D	侵食地形	滝	かつらぎ町	紀の川支流穴伏川支流堂川。一文字状、落差 12 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
119	三重の滝	D	侵食地形	滝	かつらぎ町	紀の川支流穴伏川枝谷。多段型、上段から聖宝の滝、不動の滝、潮の滝と呼ばれる。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
120	稚児の滝	D	侵食地形	滝	高野町	紀の川支流不動谷川上流御殿川。	
121	岩谷権現の滝	D	侵食地形	滝	紀の川市桃山町	紀の川支流貴志川支流柘榴川支谷。	
122	新田の滝	D	侵食地形	滝	紀の川市桃山町	紀の川支流貴志川支流真国川支流深山谷。流域には他に滑り滝、竜巻き滝、二条の滝等がある。	深山渓谷：和歌山の親しめる水辺 66
123	秘文の滝 （雄滝・雌滝）	D	侵食地形	滝	紀の川市桃山町	紀の川支流貴志川支流柘榴川の渓流と淵多段型、落差 1 m 程度、所々に甌穴が見られる。	和歌山の親しめる水辺 66
124	裏見の滝	D	侵食地形	滝	海南市下津町	加茂谷支谷、福勝寺本堂の西側。多段型、落差 20 m、滝口幅 8 m、滝壺なし。	市指定文化財（名勝）
125	不動の滝	D	侵食地形	滝	紀美野町	紀の川支流貴志川支流真国川支谷。一文字状、落差 15 m、滝口幅 2 m。	
126	赤滝	D	侵食地形	滝	かつらぎ町	有田川支流臼谷川。多段型、落差数 m、滝壺なし。	
127	金剛の滝	D	侵食地形	滝	かつらぎ町	有田川本流。分散型、落差 12 m、滝口幅 2 m、滝壺なし。	高野龍神国定公園
128	さがりの滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流湯川川支谷。多段型、落差 25 m、滝口幅 1.5 m、滝壺あり。	県立自然公園
129	銚子の滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流湯川川支谷。多段型、落差 15 m、滝口幅 1.5 m、滝壺なし。	県立自然公園
130	五段の滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流湯川川支流中股谷川。多段型、落差 20 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。下流部に砂防堰堤あり、土砂埋積。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
131	不動の滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流四村川上流。多段型、落差 30 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	
132	カガマリの滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流四村川支流南古谷川支流中尾谷川。一文字状、落差 8 m、滝口幅 2 m、滝壺なし。下流部に砂防堰堤あり、土砂埋積。	
133	油滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流四村川支谷。一文字状、落差 13 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
134	鮎返の滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流四村川支流南古谷川。一文字状、落差 2 m、滝口幅 1.5 m、滝壺あり。	
135	七滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流四村川支流南古谷川。多段型、落差 7 m、滝口幅 1.5 m、滝壺あり。	
136	虚空蔵の滝 (黒蔵の滝)	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流早月谷川支谷。一文字状、落差 30 m、滝口幅 1 m。	
137	次の滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流早月谷川支谷。一文字状、落差 46 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	町指定文化財（名勝）、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
138	白馬滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流修理川上流。多段型、落差 40 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。	町指定文化財（名勝）
139	釜中滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流玉川支谷。多段型、落差 12 m、滝口幅 0.5 m、滝壺なし。	
140	姥ヶ滝	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支流賢谷川上流。分散型、落差 15 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	町指定文化財（名勝）、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
141	不動ノ滝 (青蛇の滝)	D	侵食地形	滝	有田川町	有田川支谷田口谷川上流。一文字状、落差 6 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	
142	藤滝	D	侵食地形	滝	広川町	広川支谷。分散型、落差 12 m、滝口幅 2 m、滝壺なし。	紀の国の名水
143	衛門嘉門の滝	D	侵食地形	滝	田辺市龍神村	日高川支谷小森谷上流。多段型（3 段）、落差計 11 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	高野龍神国定公園
144	越戒の滝	D	侵食地形	滝	田辺市龍神村	日高川支谷小森谷上流。一文字状、落差 10 m、滝壺幅 2 m、滝壺あり。	高野龍神国定公園
145	恋小袖の滝	D	侵食地形	滝	田辺市龍神村	日高川支流古川上流。多段型、落差 12 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	高野龍神国定公園
146	曼陀羅の滝	D	侵食地形	滝	田辺市龍神村	日高川支谷　湯本東方 300 m。多段型、落差 14 m、滝口幅 0.5 m、滝壺なし。	高野龍神国定公園
147	万歳の滝	D	侵食地形	滝	日高川町	日高川支流寒川支流朔日川。多段型、落差 13 m、滝口幅 1.5 m、滝壺あり。	
148	塔ノ島の滝	D	侵食地形	滝	日高川町	日高川支流初湯川。一文字状、落差 5 m、滝口幅 3 m。滝口周辺に甌穴あり。下流 200 m は渓谷。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
149	白馬の滝	D	侵食地形	滝	日高川町	日高川支流愛川。多段型、落差 14 m、滝口幅 4 m、滝壺あり。	
150	鷲の川滝	D	侵食地形	滝	日高川町	日高川支流鷲の川。分散型、落差 10 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
151	大滝川御滝	D	侵食地形	滝	日高川町	日高川支流江川。一文字状、落差 10 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	県自然環境保全地域、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
152	蛇尾の滝	D	侵食地形	滝	日高川町	日高川支谷。一文字状、落差 7.5 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	
153	鈴川の滝 (松瀬の滝)	D	侵食地形	滝	日高川町	日高川支谷。一文字状、落差 7 m、滝口幅 0.4 m、滝壺あり。	
154	水滝不動滝	D	侵食地形	滝	日高町	日高川支流西川上流大谷川。多段型、落差 11 m、滝口幅 1.2 m、滝壺なし。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
155	菱の滝	D	侵食地形	滝	印南町	切目川支谷。分散型、落差 14 m、滝口幅 2 m、滝壺なし。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
156	救馬渓観音お滝	D	侵食地形	滝	上富田町	富田川支流。一文字状、落差 10 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66、南紀熊野ジオパークジオサイト
157	夫婦ノ滝 (観音滝)	D	侵食地形	滝	田辺市中辺路町	富田川支流中川支流内井川上流。多段型、落差 7 m、滝口幅 1.5 m、滝壺あり。	市指定文化財（名勝）、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
158	湯川川の滝	D	侵食地形	滝	田辺市中辺路町	熊野川四村川支流湯川川上流。一文字状、落差 20 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	
159	不動ノ滝	D	侵食地形	滝	田辺市中辺路町	熊野川支流四村川。多段型、落差 7 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。滝の上半分は堰堤で下半分のみ自然状態。	
160	分嶺ノ滝	D	侵食地形	滝	田辺市中辺路町	富田川支流内ノ井川支流。多段型、落差 40 m、滝口幅 2 m、滝壺なし。	
161	牛屋谷のお滝さん	D	侵食地形	滝	白浜町	富田川支流庄川支谷牛屋谷。一文字状、落差 5 m、滝口幅 1 m。江戸時代から雨乞いの滝として知られる。	
162	八草の滝	D	侵食地形	滝	白浜町	日置川支谷八草谷の西側の谷下流。一文字状、落差 40 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。	日本の滝百選、県立自然公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
163	一の滝 （ドン谷滝）	D	侵食地形	滝	白浜町	日置川支谷ドン谷下流。多段型（2 段）、落差 7 m、滝口幅 4 m、一段目に滝壺あり。	県立自然公園
164	祝の滝	D	侵食地形	滝	白浜町	日置川支流三ヶ川上流。分散型、落差 15 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	
165	西大谷の百間滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支谷西大谷。一文字状、落差 12 m、滝口幅 1.5 m。	市指定文化財（天然）
166	かやの滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流熊野川支谷百間谷。一文字状、落差 10 m、滝口幅 1 m。	県立自然公園
167	雨乞の滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流熊野川支谷百間谷。一文字状、落差 10 m、滝口幅 0.5 m、滝壺あり。	県立自然公園
168	地蔵の滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流熊野川支谷百間谷。一文字状、落差 15 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	県立自然公園
169	犬落ちの滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流熊野川支谷百間谷。一文字状、落差 12 m、滝口幅 0.3 m、滝壺あり。	県立自然公園
170	百間の滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流熊野川支谷百間谷上流。多段型、落差 40 m、滝口幅 3 m、滝壺なし。	県立自然公園
171	木守の滝 (A, B, C)	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流前ノ川支流中川。 A：一文字状、落差 12 m、滝口幅 10 m。 B：多段型、落差 13 m、滝口幅 0.5 m。 C：多段型、落差 26 m、滝口幅 5 m。	県立自然公園
172	夫婦の滝 (A, B)	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流安川支谷又井川上流。 西側（A）：一文字状、落差 17 m、滝口幅 3 m。 東側（B）：一文字状、落差 10 m、滝口幅 2 m。 いずれも「夫婦の滝」と呼ばれる。	
173	細尾の滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流安川支谷小鮫谷。一文字状、落差 25 m、滝口幅 1.5 m、滝壺あり。	
174	牛鬼の滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流安川上流。一文字状、落差 15 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	
175	修験ノ滝	D	侵食地形	滝	田辺市	日置川支流安川支谷宗小屋谷。多段型、落差 27 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	県立自然公園
176	雫の滝	D	侵食地形	滝	すさみ町	周参見川上流。多段型（2 段）、落差 15 m、滝口幅 10 m、滝壺 3 m。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
177	琴の滝	D	侵食地形	滝	すさみ町	周参見川支谷広瀬谷。分散型、落差 15 m、滝口幅 1 m、滝壺あり、下流に「元服の滝」、「朝虹の滝」等があり、谷沿いに遊歩道が整備されている。	県自然環境保全地域、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
178	大鎌の大滝	D	侵食地形	滝	串本町・すさみ町	古座川支流三尾川支流比曽原川。多段型、落差 5 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。	
179	吐生の滝 (お滝さん)	D	侵食地形	滝	串本町	有田川支谷。分散型、落差 18 m、滝口幅 2 m、滝壺なし。	紀の国名水、和歌山の親しめる水辺 66
180	才助滝	D	侵食地形	滝	串本町	有田川支谷才助谷上流。分散型、落差 27 m、滝口幅 5 m、滝壺なし。	
181	便田の滝	D	侵食地形	滝	串本町	田子川支谷。多段型、落差 15 m、滝口幅 1 m。	
182	お滝さん	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支谷請川谷。一文字状、落差 17 m、滝口幅 5 m、滝壺あり。	
183	平治の滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流四村川支谷奴田谷。多段型、落差 40 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
184	神首ノ滝 (滝ノ首)	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流四村川支谷奴田谷の下流。一文字状、落差 3 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。規模は小さいがいくつかの滝が連続。甌穴あり。	
185	黒蔵滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支谷黒蔵谷。一文字状、落差 8 m、滝壺あり。	
186	カンタロウ滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支谷黒蔵谷。一文字状、落差 35 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	
187	高山谷の滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支谷高山谷。多段型、落差 20 m、滝壺あり。	
188	鮎返滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支谷黒蔵谷下流。多段型、落差 10 m、滝口幅 3 m。滝の北側上方に「餘倉岩」あり。	
189	大塔川の鮎辺滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川中流。一文字状、落差 7 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。周辺には小滝、甌穴が多い。	県立自然公園
190	大杉谷の滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支谷大杉谷。一文字状、落差 40 m、滝壺あり。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
191	大塔川上流の滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川上流。多段型、落差 40 m、滝口幅 1 m、滝壺なし。	
192	大杉滝（A、B）	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	大塔川支谷大杉谷入口に A（上）、B（下）2 つあり。 A：一文字状、落差 13 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。 B：一文字状、落差 16 m、滝口幅 0.5 m、滝壺あり。	
193	逢合滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川中流。一文字状、落差 5 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。通称「カタマンボ」と呼ばれる渓谷で、小滝、甌穴あり。	県立自然公園
194	中小屋谷の滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支谷中小屋谷の上流。多段型、落差 25 m。	
195	ヒツボノ滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支流笹ノ瀬川。多段型、落差 10 m、滝口幅 1.5 m、滝壺あり。上流には小滝が連続し、廊下状になる。	
196	雨泊滝	D	侵食地形	滝	田辺市本宮町	熊野川支流大塔川支流笹ノ瀬川。多段型、落差 18 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	
197	ながしまの滝	D	侵食地形	滝	北山村	熊野川支流北山川支谷竹原谷。多段型（2 段）。落差は上段約 15 m、下段 3 m、滝壺あり。	
198	モミジ滝	D	侵食地形	滝	北山村	熊野川支流北山川支谷市老谷。2 段状、落差 45 m、滝口幅 5 m、滝壺あり。	
199	市老滝 (鎌山滝)	D	侵食地形	滝	北山村	熊野川支流北山川支谷市老谷。一文字状、落差 25 m、滝口幅 5 m、滝壺あり。上・下流に数 m~25 m の滝が連続する。	
200	雷の滝	D	侵食地形	滝	北山村	熊野川支流北山川支谷。一文字状、落差 30 m、滝壺あり。凝灰質砂岩泥岩互層からなる。	和歌山の親しめる水辺 66
201	五郎滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川支流赤木川上流和田川支谷奥山谷。一文字状、落差 25 m、滝壺あり。	
202	のの滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川赤木川上流小口川支谷ガマ谷。多段型、落差 63 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	
203	ナカ滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川赤木川上流小口川支谷ガマ谷。一文字状、落差 35 m、滝壺あり。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
204	ガマ滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川支流赤木川上流小口川支谷ガマ谷。多段型、落差 35 m、滝壺あり。	
205	宝竜滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川赤木川上流小口川支谷滝本本谷。多段型、落差 65 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。	紀の国の名水
206	白滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川支流赤木川上流小口川支谷滝本本谷。落下型不明、落差 50 m、滝壺あり。	
207	ヘヤ滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川支流赤木川上流小口川支谷滝本北谷。一文字状、落差 20 m、滝口幅 1 m、滝壺あり。	
208	鼻白滝	D	侵食地形	滝	新宮市熊野川町	熊野川支谷田長谷。多段型、落差 90 m、滝口幅 5 m、滝壺あり。熊野酸性火成岩類の岩相差の部分に形成されている。	市指定文化財（名勝）、県立自然公園、紀の国の名水、和歌山の親しめる水辺 66
209	仙人滝	D	侵食地形	滝	那智勝浦町	太田川支流熊瀬川上流。一文字状、落差 30 m、滝口幅 4 m、滝壺あり。	
210	陰陽滝	D	侵食地形	滝	那智勝浦町	那智川支谷。分散型、落差 10 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。	吉野熊野国立公園
211	姫川の滝	D	侵食地形	滝	串本町	姫川の北方。一文字状、落差 8 m、滝口幅 2 m、滝壺なし。	
212	神水瀑	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川支流の柳小谷。一文字状、落差 10 m、滝壺あり。地元住民の飲用水として用いられている。	
213	中津谷の滝	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川支流小川支谷。多段型（6 段）、落差計 30 m、滝口幅 3 m、滝壺あり。	
214	張尾の滝	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川上流の張尾谷。一文字状、落差 24 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	
215	植魚の滝	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川上流の弓矢谷。多段型、落差 18 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。滝の後退により最大比高 18 m、川幅 6 m、延長 37 m の蛇行廊下を形成。	
216	まぼろしの滝	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川支流平井川支谷栃ノ谷。一文字状、落差 60 m、滝口幅 5 m。	
217	玉ノ谷滝	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川支流平井川上谷風呂の谷。多段型、落差 10 m、滝口幅 5 m、滝壺あり。	県立自然公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
218	妙呂寺滝	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川支流小川支流宇筒井川支谷妙呂寺谷。一文字状、落差 35 m、滝口幅 2 m、滝壺あり。	
219	大滝 （大桑大滝）	D	侵食地形	滝	古座川町	古座川支流小川支流宇筒井川支谷大桑谷。一文字状、落差 20 m、滝口幅 10 m、滝壺あり。	
220	白見の滝	D	侵食地形	滝	新宮市	熊野川支谷、一文字状、落差 20 m、滝口幅 4 m。	吉野熊野国立公園
221	一つ落ちの滝	D	侵食地形	滝	新宮市	熊野川支流高田川支谷。一文字状、落差 50 m、滝口幅 5 m、上流に「栂戸滝」、下流に「出合の滝」、「ナマズ口の滝」がある。	
222	鳴谷一の滝	D	侵食地形	滝	新宮市	大雲取山東部。一文字状、落差 10 m、滝口幅 4 m、滝壺あり。	
223	鳴谷二の滝	D	侵食地形	滝	新宮市	大雲取山東部。一文字状、落差 40 m、滝口幅 10 m、滝壺なし。	
224	タキワケの滝 （大越滝）	D	侵食地形	滝	新宮市	熊野川支流高田川上流西高田川。一文字状、落差 10 m、滝口幅 8 m、滝壺あり。	
225	桑ノ木の滝	D	侵食地形	滝	新宮市	熊野川支流高田川支谷桑ノ木谷。一文字状、落差 15 m、滝口幅 8 m、滝壺あり。	日本の滝百選
226	高滝	D	侵食地形	滝	新宮市	熊野川支流高田川下流。一文字状、落差 50 m、滝口幅 4 m、滝壺あり。	
227	ぶつぶつ川	D	侵食地形	その他	那智勝浦町	粉白川の支流で、本流の伏流水を水源とし、延長 13.5 m の日本一短い 2 級河川。右岸は石垣になっている。	南紀熊野ジオパークジオサイト
228	男浦・宮崎鼻・高田海岸	D	海岸侵食地形	海食崖	有田市	男浦から高田にかけて延長 8.5 km で、秩父累帯の先白亜系の砂岩、頁岩、チャート、緑色岩類等からなり、三畳紀コノドントやジュラ紀放散虫を産出する。	県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
229	日ノ御埼	D	海岸侵食地形	海食崖	美浜町・日高町	延長 3.1 km で、白亜系の日高川帯美山付加コンプレックスの砂岩、頁岩、砂岩頁岩互層等からなる。日ノ山の標高は 201.5 m で、中腹に国民宿舎、灯台がある。	県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
230	切目崎	D	海岸侵食地形	海食崖	印南町	延長 1.7 km で、音無川付加シークエンス羽六層上部の粗粒砂岩、砂岩フリッシュ、礫岩等を主とする岩石海岸で、生痕化石を豊富に産出する。	

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
231	見草崎	D	海岸侵食地形	海食崖	白浜町	延長 6.4 km、比高 38 m。田辺層群白浜累層の礫岩、成層砂岩、砂岩泥岩互層からなり、葉理（ラミナ）や海底の谷地形を埋めた堆積構造のチャネル構造が発達する。二枚貝、巻き貝、甲殻類、生痕化石等を多産する。	県立自然公園、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
232	江須崎	D	海岸侵食地形	海食崖	すさみ町	標高 38 m の島が陸繋島になっている。牟婁帯佐本川層の砂岩及び砂岩泥岩互層からなる。崎の付け根の所に弧状岩脈が貫入している。	県立自然公園、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
233	太地海岸	D	海岸侵食地形	海食崖	太地町	延長 4.7 km、比高 38 m。鷲ノ巣崎周辺は熊野層群敷屋累層の泥岩層、燈明崎、梶取崎周辺は下里累層の砂岩層及び砂質互層からなり、一部泥質互層をはさむ。	吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
234	城ヶ崎海岸	D	海岸侵食地形	海食台	和歌山市	面積 1.1 ha。和泉層群加太累層の砂岩頁岩互層からなり、頁岩部が侵食されて凸凹の洗濯板状をなす。イノセラムスやウニ化石を産出する。	瀬戸内海国立公園
235	番所の崎	D	海岸侵食地形	海食台	白浜町	面積は 4 ha。田辺層群白浜累層の砂岩泥岩層及びその上に不整合で重なる塔島礫岩層からなる。	県立自然公園、吉野熊野国立公園
236	千畳敷	D	海岸侵食地形	海食台	白浜町	瀬戸崎から崎ノ湯にかけて、面積は 2 ha。田辺層群白浜累層の砂岩層、砂質互層、礫岩層からなる。	和歌山県の朝日・夕陽 100 選、県立自然公園、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
237	椿海岸	D	海岸侵食地形	海食台	白浜町	烽火鼻から伊勢ヶ谷にかけて、面積は 4 ha。田辺層群白浜累層の砂質互層及び泥質互層からなる。	県立自然公園、吉野熊野国立公園
238	志原千畳敷	D	海岸侵食地形	海食台	白浜町	志原から市江崎にかけての波食棚、面積は 5 ha。田辺層群白浜累層の砂質互層、泥質互層からなる。海食崖には数個の海食洞が見られる。	県立自然公園、吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
239	和深～二色海岸	D	海岸侵食地形	海食台	串本町	枯木灘海岸の南部にあたり、海食台は断続的に分布。面積は計 160 ha。牟婁帯周参見構造ユニットの田並川層、枯木灘層、熊野層群下里累層からなり、化石を産出する。	県立自然公園、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
240	津荷海岸	D	海岸侵食地形	海食台	串本町	津荷から田原にかけて、面積は 90 ha。熊野層群敷屋累層の砂岩及び砂岩泥岩互層からなる。	吉野熊野国立公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
241	地獄の釜	D	海岸侵食地形	海食洞	串本町	紀伊大島須江地区の流紋岩質火砕岩地帯。上部直径約 70 m、深さ約 40 m にも及ぶ円錐形のタテ穴が海食洞窟（延長約 25 m、幅約 5 m、高さ約 6 m）でつながる。	吉野熊野国立公園
242	弁天島・お蛇浦	D	海岸侵食地形	海食台	那智勝浦町	面積は 3 ha。熊野層群敷屋累層の砂岩及び砂岩泥岩互層からなる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
243	蜑取島	D	海岸侵食地形	岩礁	美浜町	面積は 0.5 ha。最高岩礁高は 21.5 m、最大岩礁の面積は 3,700 ㎡。美山付加コンプレックスの砂岩頁岩互層からなる。	県立自然公園
244	紀伊大島のタカノ巣礁・舟ゴラ礁	D	海岸侵食地形	岩礁	串本町	紀伊大島の南東部海岸で、面積は 4.4 ha、最高岩礁高は 29 m。タカノ巣礁は、「海金剛」とも呼ばれる。主に潮岬火成複合岩類の紫蘇輝石流紋岩からなる。	海金剛：町指定（名勝・天然）吉野熊野国立公園、日本の自然百選、南紀熊野ジオパークジオサイト
245	荒船海岸	D	海岸侵食地形	岩礁	串本町	田原～荒船にかけて面積 92 ha、最高岩礁高 10 m（池島）、最大岩礁面積 500 ㎡（鉄島）。熊野層群下里累層の砂岩泥岩互層からなる。	吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
246	塔島洞門	D	海岸侵食地形	岩門	白浜町	臨海の西方にあり、橋状、比高 16 m、穴径 17 m。田辺層群に不整合で重なる塔島礫岩層の砂岩を主とする中～大礫の亜角～亜円礫からなる。	吉野熊野国立公園
247	潮吹岩	D	海岸侵食地形	潮吹岩	美浜町	本の脇にあり、吹上高 15 m。日高川帯美山付加コンプレックスの砂岩頁岩互層からなる。	県立自然公園
248	二里ヶ浜	D	海岸堆積地形	砂浜	和歌山市	砂浜で、延長 1.1 km、幅 125 m。	海岸保全地域
249	塩屋海岸	D	海岸堆積地形	砂浜	御坊市	砂浜で、延長 1.9 km、幅 160 m。	県立自然公園
250	扇ヶ浜	D	海岸堆積地形	砂浜	田辺市	砂浜で、延長 1 km、幅 25 m、全体コンクリート護岸。	
251	那智の浜	D	海岸堆積地形	砂浜	那智勝浦町	砂浜で、延長 1.2 km、幅 80 m。	吉野熊野国立公園、快水浴場百選、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
252	切目浜	D	海岸堆積地形	礫浜	印南町	礫浜で、延長 1.3 km、幅 170 m。	
253	佐野の浜	D	海岸堆積地形	礫浜	新宮市	礫浜で、延長 1 km、幅 50 m。	吉野熊野国立公園

地形の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地形項目	地形分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
254	中大浜 (富田浜)	D	海岸堆積地形	砂浜・礫浜	白浜町	砂浜で、一部礫浜、延長 3.2 km、幅 100 m。	県立自然公園、吉野熊野国立公園
255	日置大浜	D	海岸堆積地形	砂浜・礫浜	白浜町	砂浜で、一部礫浜、延長 2.8 km、幅 120 m。	県立自然公園、吉野熊野国立公園
256	太田川河口	D	海岸堆積地形	砂州	那智勝浦町	かぎ状砂州で、面積 7 ha、延長 600 m。	
257	黒島	D	海岸堆積地形	陸けい砂州	すさみ町	陸ノ黒島と沖ノ黒島からなり、陸ノ黒島と海岸の間で婦夫波が陸繋砂州を形成しつつある。すさみ八景の一つ。	吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、南紀熊野ジオパークジオサイト
258	臨海海岸	D	海岸堆積地形	陸けい砂州	白浜町	陸けい島、砂州面積 2 ha（南北両側計）、延長 0.5 km。陸側は田辺層群白浜累層、番所の崎は白浜累層及びその上に不整合で重なる塔島礫岩層からなる。	吉野熊野国立公園、海岸保全地域、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
259	串本海岸	D	海岸堆積地形	陸けい砂州	串本町	陸けい島、砂州面積約 40 ha、延長 1.8 km。自然海岸少なく、砂浜も極めて少なくなっている。陸側は熊野層群、潮岬は潮岬火成複合岩類からなる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
260	宇久井の浜 (上地ノ浜)	D	海岸堆積地形	陸けい砂州	那智勝浦町	陸けい島、砂州面積 40 ha、延長 1 km。陸側は牟婁帯の田並川層、島側は田並川層及び熊野酸性火成岩類からなる。周辺には鍋島、赤島等多島海をなす。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
261	西浜	D	海岸堆積地形	砂丘	和歌山市	薬種畑から水軒にかけて延長 2.8 km、比高 15 m で、平安時代頃までは二里ヶ浜から続いていたと考えられている。高松から砂山、吹上にも古砂丘が見られる。	
262	鹿島	D	海岸変動地形	島	みなべ町	南部湾にある周囲約 1.5 km の島で、音無川付加シークエンスの羽六層からなる。	県立自然公園、町指定文化財（天然）
263	田辺湾	D	海岸変動地形	多島海	田辺市・白浜町	湾内には元島、丸山、神島、畠島、藤島等の他、岩礁の小島が多数ある。田辺層群朝来累層及び白浜累層の礫岩、砂岩、泥岩等からなる。また、小規模な内湾には干潟が見られ、多様な生物が生息する。	吉野熊野国立公園、県立自然公園

＊ ポット・ホール：河床に形成された円形の深い穴、甌穴

＊ マスムーブメント地形：地滑りや土石流等、重力によって山体斜面が移動してできた地形

＊ コアストーン：風化の過程で形成される未風化の岩塊

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
01	天鳥の褶曲	A	地層・堆積岩	未固結層の変形	すさみ町	口和深南東方の海岸に発達する、第三紀中期始新世～前期中新世の牟婁付加シークエンス佐本川層中に見られる。砂岩がち砂岩泥岩互層が、未固結時に海底斜面を南東から北西へ二次移動してできた褶曲である。軸部には、砕屑岩岩脈が多数発達する。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
02	橋杭岩	A	火成活動・火成岩	岩脈	串本町	第三紀中新世の熊野層群敷屋累層の泥岩層に、北北西―南南東に貫入した流紋岩（石英斑岩）の岩脈である。岩脈を取り巻く敷屋累層の泥岩層が侵食され、更に岩脈も所々で侵食、崩壊したために、あたかも橋脚が並んでいるように露出する。	国指定文化財（名勝・天然）、吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、和歌山の親しめる水辺 66、南紀熊野ジオパークジオサイト
03	白崎石灰岩	B	地層・堆積岩	オリストリス	由良町	秩父帯ジュラ系の中紀層群大引層に含まれる巨大オリストリス（異地性岩体）の石灰岩体で、古生代ペルム紀後期のフズリナやウミユリ等の化石を多数産出する。小規模な鍾乳洞やカレンフェルド（石灰岩が墓石状に林立した地形）も見られる。岩体の東部ではジュラ紀層がこの石灰岩を不整合に覆う。	県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、日本の渚百選、和歌山の親しめる水辺 66
04	サラシ首層	B	地層・堆積岩	含角礫泥岩層	串本町	田子付近の波食台に発達する第三紀後期漸新世～前期中新世の牟婁付加シークエンス枯木灘層の含角礫泥岩層で、名前は侵食による礫の産状に由来する。礫は、径数 cm ～ 15 m の砂岩、泥岩、礫岩等の角礫で、牟婁付加シークエンスの堆積末期に、同一堆積盆内の下位の地層が崩落して堆積したと考えられている。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
05	鳥屋城山	B	地層・堆積岩	化石	有田川町	中生代後期白亜紀鳥屋城層の砂岩、泥岩等からなり、アンモナイトやイノセラムス等の化石を多産し、古くから研究され、広く知られている。イノセラムスの中には、亜種名に鳥屋城の地名が付けられたものもある。近年、滄竜の骨格化石が発見された。	
06	瀞八丁（瀞峡）	B	変成作用・変成岩	変質帯	新宮市	新第三紀中新世中期の花崗岩体からなる大峰酸性岩類の活動によって、熱変質を受けた上部白亜系の日高川帯竜神付加コンプレックスの隆起とともに、北山川の下刻侵食によって形成された峡谷で、特に瀞峡一帯の両岸は、奇岩絶壁をなす。	国指定文化財（特別名勝・天然）、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
07	潮岬の火成岩	B	火成活動・火成岩	火成岩	串本町	玄武岩溶岩、粗粒玄武岩、斑糲岩、グラノフィアー、石英斑岩、フェルサイト、流紋岩等からなる潮岬火成複合岩類が分布。火成活動を示す絶対年代は 15~13 ma とされる。紀伊大島の火成岩類や熊野層群との関係等は、更なる調査研究を要する地域である。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
08	古座川の一枚岩	B	火成活動・火成岩	岩脈	古座川町	相瀬の古座川左岸に見られ、第三紀中期中新世の熊野酸性岩類の活動期に形成された古座川弧状岩脈の一部である。流紋岩質の結晶質凝灰岩及び流紋岩（花崗斑岩）からなる複合岩脈で、放射性絶対年代は、13.8±0.4 ma を示す。	県立自然公園、国指定文化財（天然）、和歌山県の朝日・夕陽 100 選、日本の地質百選、南紀熊野ジオパークジオサイト
09	戎島	B	火成活動・火成岩	岩脈	串本町	枯木灘弧状岩脈の一部で、牟婁付加シークエンスにほぼ垂直に貫入した含角礫凝灰岩及び細ないし粗粒の凝灰岩からなる。主岩体の中心部では流理構造が認められる。副岩体の含角礫凝灰岩には泥岩、砂岩泥岩互層のクラストが含まれる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
10	名南風鼻	B	地質構造	火成岩・変成岩・堆積岩	広川町	火成岩類や変成岩類、蛇紋岩、非変成ないし弱変成の凝灰岩等からなる黒瀬川古期岩体が、中生代白亜系の中にレンズ状に分布する。この火成岩に捕獲された石灰岩中からシルル紀のクサリサンゴの化石等、凝灰岩からシルル紀の放散虫化石が発見されている。	県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
11	市江崎の含礫泥岩ダイアピル	B	地質構造	泥ダイアピル	白浜町	市江崎に見られ、田辺層群白浜累層中の砂岩泥岩互層中に貫入するドーム状の砕屑性貫入岩体で、150~160 m の楕円状の水平断面をもつ。朝来累層の未固結泥が上昇したもので、紀南地方では大規模なものである。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
12	田の崎	B	地質構造	不整合	串本町	岬の南端部で、熊野層群下里累層が牟婁付加シークエンスの田並川層を傾斜不整合で覆っている。不整合面の上位に薄く不整合礫層が重なる。田の崎の東側では、断層で不整合面がずれている。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
13	白浜温泉	B	温泉・湧水	温泉	白浜町	日本最古の温泉のひとつで、枯木灘弧状岩脈・ダイアピル（地下の物質が上昇してできた地質構造）群上に位置し、炭酸水素ナトリウムを主要成分とする高温泉である。掘削井の増加と動力による過剰揚湯のため、近年は一部で海水の進入による食塩泉化が見られる。なお、南西方には椿温泉が分布する。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト、日本百名湯湯崎半島：温泉保護地域指定崎の湯：町指定文化財（史跡）

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
14	川湯・湯の峰・渡瀬温泉	B	温泉・湧水	温泉	田辺市本宮町	いずれも第三紀始新世の音無川付加シークエンスに貫入した流紋岩（石英斑岩）岩脈に伴って湧出する高温泉。泉質は、いずれも重曹泉であり、湧出量が豊富。湯の峰温泉は、多くの硫化水素を含む。湯の峰及び川湯温泉は、自然湧出である。	吉野熊野国立公園 湯の峰：日本百名湯 川湯温泉：和歌山の親しめる水辺 66
15	勝浦温泉	B	温泉・湧水	温泉	那智勝浦町	主に熊野層群敷屋累層から湧出する温泉で、200 を超える源泉がある。狼煙山から夏山にかけての背斜に沿って高温泉が分布する。炭酸水素及びナトリウムイオンを主要成分とするものが多い。陰イオンの組成から、食塩泉タイプ及び重曹泉タイプとがある。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト、日本百名湯
16	龍神温泉	B	温泉・湧水	温泉	田辺市龍神村	泉温は 42~49 ℃、泉質は、ナトリウム、カリウム、炭酸水素の各イオンを主成分とする重曹泉で、泉源はボーリング泉及び自然湧出である。日高川帯の竜神付加コンプレックスから湧出し、火成岩岩脈は見られないが、本宮－阿田和弧状岩脈の延長線上に位置する。	高野龍神国定公園、日本百名湯
17	蟾蜍岩 （ひき岩群）	C	地層・堆積岩	砂岩・泥岩互層	田辺市	第三紀中新世の田辺層群に見られる侵食地形である。北西―南東の走向、南傾斜の砂岩泥岩互層が、その硬軟の差による侵食を受け、東西方向から見ると鋸歯状の地形が形成された。砂岩層の形が天空を仰ぐカエルの姿に似ているところもある。	県指定文化財（名勝）、吉野熊野国立公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
18	天皇山から白木の海岸	C	地層・堆積岩	堆積構造・化石	広川町	天皇山は黒瀬川構造帯の火成岩類や変成岩類、白木にかけては中生代前期白亜紀の湯浅層、西広層からなる。湯浅層は典型的なファン・デルタ堆積物（扇状地ないし三角州成堆積物）、西広層はアルコース砂岩（石英、長石からなる砂岩）を特色とする。最近、湯浅層から肉食恐竜（獣脚類）の歯の化石が発見されている。	県立自然公園
19	丸山	C	地層・堆積岩	生痕化石	印南町	音無川付加シークエンス瓜谷層及び羽六層下部層の泥岩、砂岩泥岩互層からなり、これらの地層は本付加シークエンスの鍵層をなす。本層中に典型的なフリッシュ型生痕化石群集が見られ、学術的な研究価値が高い。	県立自然公園
20	栗栖川亀甲石包含層	C	地層・堆積岩	生痕化石	田辺市中辺路町	北郡に見られる、クイアルキアト群集を構成する生痕化石の一種で、*Palaeodyction*（属名）と命名されている。古第三系牟婁付加シークエンス西谷層の砂質フリッシュの砂岩層裏面に観察される。音無川帯の羽六層中からも、同様の群集が発見される。	国指定文化財（天然）

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
21	浮島	C	地層・堆積岩	泥炭層	新宮市	熊野川河口に形成された沖積平野に見られる。縄文海進後の海退に伴って形成された沼沢・湿地帯にできた泥炭層からなる。上位の泥炭層（層厚 30~57 cm）と粘土層を挟在する下位の泥炭層との間には、8 cm 程度の水層があり、前者が浮遊した状態にある。	国指定文化財（天然）、吉野熊野国立公園、和歌山の親しめる水辺 66、南紀熊野ジオパークジオサイト
22	泥岩岩脈	C	地質構造	砕屑岩脈	田辺市	鳥ノ巣半島に見られる、第三紀中新世の田辺層群白浜累層中に下位の朝来累層の未固結の泥が、周りの砂岩を角礫として取り込みながら貫入してできたもので、その形成は、熊野酸性岩類の活動による弧状岩脈と深く関わっていると考えられる。	国指定文化財（天然）、吉野熊野国立公園、県立自然公園、和歌山県の朝日・夕陽 100 選
23	白浜の泥岩岩脈	C	地質構造	砕屑岩脈	白浜町	権現崎に見られ、第三紀中新世の田辺層群白浜累層中に下位の朝来累層をなす未固結の泥が、周りの砂岩を角礫として取り込みながら貫入してできたもので、その形成は、熊野酸性岩類の活動による弧状岩脈と深く関わっていると考えられる。	国指定文化財（天然）、吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
24	弁天島・お蛇浦	C	地質構造	泥ダイアピル	那智勝浦町	弁天島は波食棚に囲まれた海食残丘の島で、波食棚には泥ダイアピルが露出。岩体は砂岩や泥岩、稀に石灰岩の角礫を含む。また、高角度の流理面やロート状の流理構造が見られる。お蛇浦では東西性の砂岩岩脈が見られ、海食崖は熱水で硬化している。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
25	小松の不整合	C	地質構造	不整合	北山村	日高川帯竜神付加コンプレックスを熊野層群大沼累層が傾斜不整合で覆っている。大沼累層からは巻き貝化石が産出する。不整合の見られる河床には甌穴（ポットホール）が形成されている。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
26	根来断層	C	地質構造	活断層	岩出市	根来菩提峠付近に見られる中央構造線系の活断層で、更新世中期から右横ずれの活動が始まったと考えられている。水平方向の変位速度は、0.9~3.1 m ／千年と推定されてる。断層沿いに、明瞭な変位地形が発達している。	
27	勝真山・白山山	C	地質構造	断層	有田川町	田口～船坂にかけて、ほぼ東西にのびる有田川構造線沿いに見られる断層変位地形である。長峰山脈の各尾根が構造線に直交、その交差部分が侵食を受けて窪みになったケルンコルと、尾根の先端部が高まりになったケルンバットが形成されている。	

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
28	樫野崎	C	火成作用・ 火成岩	火砕岩	串本町	我が国初の洋式石造り灯台の下には、流紋岩（花崗斑岩）及び角礫泥岩や亜角礫の花崗斑岩を含む火砕岩が露出する。角礫泥岩を含むことから、火砕流が熊野層群の泥岩を削りながら取り込んだと考えられる。火砕流は北東からの流れを示している。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
29	嶽ノ森山	C	火成岩・ 火成活動	岩脈	古座川町	雄岳（376 m）と雌岳の双耳峰で、古座川弧状岩脈の一部、流紋岩（花崗斑岩）及び流紋岩質火砕岩からなり、一枚岩とは古座川を挟んで一体のもの。西側の沢には流紋岩質火砕岩が侵食されたナメトコ岩がある。雌岳の頂上部は柱状節理の模様が人の横顔に似るところから、巌の巨人とも呼ばれる。豆腐岩も柱状節理である。	南紀熊野ジオパークジオサイト
30	戸津井の鍾乳洞	D	地層・堆積岩	風化・ 侵食作用	由良町	中紀層群大引層立巌部層に含まれるオリストリス（異地性岩体）のペルム紀石灰岩体に形成された県内最大の鍾乳洞で、東北東へ約 40 m 延びる。	県立自然公園
31	保呂の虫喰い岩	D	地層・堆積岩	風化・ 浸食作用	白浜町	田辺層群白浜累層の厚層砂岩～砂質互層からなり、本層に挟在する礫岩部に発達する。1~10×20 cm 程度の楕円ないし円形の半球形をなし、上部の砂岩層では直径 1 m 程度の虫喰い風化が見られる。	県指定文化財（天然）、南紀熊野ジオパークジオサイト
32	白浜の化石漣痕	D	地層・堆積岩	堆積構造	白浜町	江津良海岸の海食台で見られる、田辺層群白浜累層の砂岩泥岩互層の砂質部上面に発達する波浪リップル・葉理であるが、風化と侵食が進んでいる。	国指定文化財（天然）、吉野熊野国立公園
33	赤滑の漣痕	D	地層・堆積岩	堆積構造	田辺市	牟婁付加シークエンス打越層の泥質フリッシュ（海底の混濁流による堆積物）が大規模に露出し、その砂質部上面に発達するリップルマーク（漣痕）である。	県指定文化財（天然）
34	御所本の化石漣痕（漣痕岩）	D	地層・堆積岩	堆積構造	新宮市熊野川町	熊野層群小口累層最上部の砂岩泥岩互層の砂岩層上面に発達する波浪リップル・葉理で、さざ波状の模様をなす。	県指定文化財（天然）、南紀熊野ジオパークジオサイト
35	谷口の石炭層	D	地層・堆積岩	石炭層	新宮市熊野川町	熊野炭田の一つ三熊炭鉱と同じ位置の石炭層（層厚 20 cm ±）。熊野層群三津野累層中に狭在する。石炭層は、暗灰色ないし黒色の泥岩層に挟まれて 2 層あり、泥岩層は厚い砂岩層に挟まれる。	南紀熊野ジオパークジオサイト
36	大倉岩	D	地層・堆積岩	砂岩	田辺市本宮町	皆地の南西方、四村川沿いにある、比高 60 m、延長 120 m の断崖・岩壁で、牟婁付加シークエンスの安川層からなる。	

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
37	餘倉岩	D	地層・堆積岩	砂岩	田辺市本宮町	大塔川支流黒蔵谷下流にある、比高及び幅がそれぞれ100 m余りの砂岩の岩壁で、牟婁付加シークエンスの合川層からなる。	
38	茶臼山の天狗巌	D	地層・堆積岩	砂岩	北山村	比高 80 m、延長 50 m の断崖・絶壁で、中新世の熊野層群大沼累層からなる。	
39	オトノリ	D	地層・堆積岩	付加体	北山村	筏流しの役は、次男が担ったところから名付けられた地名。右岸は日高川帯竜神付加コンプレックスの地層からなり、砂岩、泥岩に混在して緑色岩類も見られる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
40	不動山の巨石(不動岩)	D	地層・堆積岩	礫岩	橋本市	杉尾にあり、和泉層群北縁相にあたる滝畑互層の礫岩層の巨大転石で、直径 20 cm 程の礫が抜けた穴から、紀の川の流れの音が聞こえるという。	金剛生駒紀泉国定公園、日本の音風景 100 選
41	御衣干岩	D	地層・堆積岩	砂岩	高野町	幅 3 m、高さ 1.5 m、厚さ 1.5 m 程度の砂岩の巨転石からなる。日高川帯花園付加コンプレックスの岩石。弘法大師にまつわる伝説がある。	
42	粟生の巌	D	地層・堆積岩	砂岩	有田川町	有田川支流太田谷川河口にあり、ローモンタイト（濁沸石）脈の発達する日高川帯湯川付加コンプレックスの厚層砂岩からなる。地域のランドマーク的存在。	
43	乳岩	D	地層・堆積岩	砂岩	田辺市中辺路町	牟婁付加シークエンス合川層の礫岩ないし塊状極粗粒砂岩からなる長さ 15 m、幅 5 m、厚さ 5 m 程度の岩屋の下に、粗粒砂岩からなる地蔵尊が祀られれている。藤原秀衡の伝説がある。	市指定文化財（天然）
44	円座石	D	地層・堆積岩	砂岩	新宮市熊野川町	平行葉理の発達した粗粒砂岩の転石で、幅 5 m、長さ 8 m、厚さ 2.5 m 程度、熊野層群三津野累層のものである。円座は、藁等を渦巻き状に平たく編んだ敷物の意。	南紀熊野ジオパークジオサイト
45	孔島・鈴島	D	地層・堆積岩	不整合	新宮市	孔島の南端に広がる波食棚に、牟婁付加シークエンス田並川層と熊野層群小口累層との不整合が見られる。鈴島は、平行やコンボリュートラミナの発達する砂岩優勢互層からなり、貫通した小規模な海食洞が見られる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
46	門前の大岩	D	地層・堆積岩	石灰岩	由良町	門前にあり、中紀層群由良層の泥岩優勢層中に挟まれたジュラ紀の鳥巣式石灰岩で、シダリスやサンゴ、層孔虫の化石が豊富に含まれる。	国指定文化財（天然）

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
47	押分岩	D	地層・堆積岩	砂岩礫岩互層	田辺市	秋葉神社にあり、田辺層群の砂岩礫岩互層からなる幅 5 m、長さ 20 m、高さ 10 m の 2 つのブロックが 1.5~2 m の隙間を作り、そこが参道になっている。	市指定文化財（天然）
48	オン崎	D	地質構造	付加体 スラスト	すさみ町	牟婁付加シークエンス打越層と小節川層を画する松根－平井スラストが露出する。付加体が形成される典型的な低角の逆断層である。北西側には枯木灘弧状岩脈の一部も露出する。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
49	伴待瀬海岸	D	堆積構造	泥ダイアピル	太地町	伴待瀬の海岸には泥ダイアピルからなる波食棚が広がる。岩体は角礫岩を主とし、泥岩角礫から牟婁付加シークエンスと同じ放散虫化石が発見されている。泥ダイアピルの形成時期は、熊野層群の褶曲時期と考えられている。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
50	笠石	D	変成作用・ 変成岩	石英片岩	紀美野町・有田川町	生石山の頂上近くにある石英片岩の岩塊で、比高 9 m、延長 38 m。付近一帯は、三波川変成帯の生石層からなる。	県立自然公園
51	狼岩	D	変成作用・ 変成岩	石英片岩	紀美野町	下底部の長さ 8 m、幅 4 m、高さ 6 m 程度の石英片岩の巨転石で、狼にまつわる伝説がある。	県立自然公園
52	押し上げ岩	D	変成作用・ 変成岩	砂質片岩	紀美野町	幅 4.5 m、高さ 2 m、厚さ 1.5 m 程度の砂質片岩の巨転石で、弘法大師にまつわる伝説がある。	
53	夫婦岩（立巌）	D	変成作用・ 変成岩	石英片岩	海南市下津町	立神神社本殿北側に、高さ約 15 m、幅 5~8 m の岩柱が 10 m 間隔で 2 本そびえ、その間にツツジが生い茂る。泥質片岩薄層を多数挟む石英片岩からなる。	市指定文化財（名勝）
54	重ね岩	D	変成作用・ 変成岩	塩基性片岩	紀の川市桃山町	段にあり、約 4×2 m の菱形で高さ約 2 m。珪質片岩の薄層をはさむ点紋塩基性片岩。厚さ約 1 m の同質岩がその上に重なる。道路拡幅で一部が削られている。	
55	龍門山の磁石岩	D	火成作用・ 火成岩	超塩基性岩	紀の川市	標高約 700 m の稜線にあり、三波川変成帯飯盛ユニットの飯盛向斜軸付近に分布する超塩基性岩類で、一部蛇紋岩化している。周囲約 17 m、高さ約 4 m。	県指定文化財（天然）、県立自然公園
56	須江崎	D	火成作用・ 火成岩	火砕岩	串本町	紀伊大島には、主に流紋岩質火砕岩及び流紋岩が分布する。須江崎周辺は、水中火砕流で堆積した、成層した流紋岩質火砕岩や凝灰岩、それを覆う流紋岩からなる。火砕岩の一部では、熱水の洞で晶出した瑪瑙が見られる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
57	高池の虫喰岩	D	火成作用・火成岩	貫入岩	古座川町	黒雲母流紋岩、ザクロ石・黒雲母凝灰岩及び軽石凝灰岩からなる古座川弧状岩脈の一部で、凝灰岩の部分が風化作用を受けて蜂の巣状になったものである。	国指定文化財（天然）、南紀熊野ジオパークジオサイト
58	牡丹岩	D	火成作用・火成岩	貫入岩	古座川町	月野瀬の西にあり、黒雲母流紋岩、ザクロ石・黒雲母凝灰岩及び軽石凝灰岩からなる古座川弧状岩脈が風化作用を受けて蜂の巣状になったものである。	県立自然公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
59	浦神の虫喰岩	D	火成作用・火成岩	貫入岩	那智勝浦町	黒雲母流紋岩、ザクロ石・黒雲母凝灰岩及び軽石凝灰岩からなる古座川弧状岩脈が風化作用を受けて蜂の巣状になったものである。	吉野熊野国立公園、町指定文化財（天然）
60	天柱岩 (薬研岩)	D	火成作用・火成岩	貫入岩	古座川町	平田の南にあり、黒雲母流紋岩、ザクロ石・黒雲母凝灰岩及び軽石凝灰岩からなる古座川弧状岩脈の一部が侵食されて岩柱状になったものである。	県立自然公園
61	飯盛岩 (玉筍峯)	D	火成作用・火成岩	貫入岩	古座川町	立合の北にあり、黒雲母流紋岩、ザクロ石・黒雲母凝灰岩及び軽石凝灰岩からなる古座川弧状岩脈の一部が侵食されて岩柱状になったものである。	県立自然公園
62	少女峰	D	火成作用・火成岩	貫入岩	古座川町	月野瀬の南にあり、黒雲母流紋岩、ザクロ石・黒雲母凝灰岩及び軽石凝灰岩からなる古座川弧状岩脈の一部が侵食されて岩峰状になったものである。	県立自然公園
63	侍岩	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩	那智勝浦町	比高 40 m、延長 60 m で、洞穴あり。ザクロ石・黒雲母花崗斑岩からなる熊野酸性火成岩類の一部である。	
64	宇久井半島外の取	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩・柱状節理	那智勝浦町	宇久井半島は、牟婁付加シークエンスの田並川層中に熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）が貫入した岬で、外の取では火成岩の柱状節理が発達する。マグマの冷却固結に伴う均質な張力によって、4~6 角形の亀裂（節理）が生じたもので、マグマの貫入面が傾斜していたため、節理が海側に傾斜している。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
65	大狗子半島	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩・泥岩	那智勝浦町	熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなる。この岩体は、ラコリス岩体と考えられている。貫入時に取り込まれた泥岩が含まれる部分や流理構造も見られる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
66	坊主岩	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩	那智勝浦町	峰山中腹に見られる、第三紀中期中新世の熊野酸性火成岩類が侵食作用を受けてできたドーム状の岩塊で、延長 150 m、比高 60 m である。	

地質の選定結果一覧表

整理番号	名　称	カテゴリー	地質項目	地質分類	所 在 地	概要及び特徴	備　　考
67	猪岩	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩	新宮市熊野川町	田長付近にある、比高 160 m、延長 250 m の断崖・絶壁で、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなる。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
68	椋呂の火成岩	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩・柱状節理	新宮市熊野川町	熊野酸性火成岩類と同時期に活動した大峰酸性岩類（花崗岩類）が、熊野層群小口累層中にシート状に貫入し、山腹に緩く傾斜して露出する。マグマの冷却時の収縮による柱状節理が発達する。	吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパークジオサイト
69	高田峡一枚岩	D	火成作用・火成岩	流紋岩	新宮市	西高田の西、標高 200 m 付近にあり、比高 40 m、延長 2.2 km の断崖・絶壁で、熊野酸性火成岩類の黒雲母流紋岩、ザクロ石・黒雲母凝灰岩等からなる。	吉野熊野国立公園
70	大越の一枚岩	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩	新宮市	熊野川支流高田川支谷大越谷の谷口にあり、熊野酸性火成岩類の流紋岩類からなる一枚岩。	
71	釣鐘岩	D	火成作用・火成岩	花崗斑岩	新宮市	熊野川の河岸の岩壁に見られ、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなる。名称は､その形状に由来する。	吉野熊野国立公園
72	清水鉱山跡	D	鉱床	裂か充填鉱床	上富田町	市ノ瀬にあり、牟婁付加シークエンス打越層上部の砂岩優勢互層中に胚胎した裂か充填鉱床で、方鉛鉱、閃亜鉛鉱、方解石脈に磁硫鉄鉱、黄鉄鉱、黄銅鉱等を伴っている。	町指定文化財（史跡）

＊ オリストリス：堆積物中に含まれる異地性の岩体

＊ ケスタ：地層が緩やかな同斜構造をなす地形

＊ 泥ダイアピル：地下の泥が高間隙水圧で割れ目に沿って上昇する現象

＊ 付加体スラスト：付加体の形成に伴う低角の逆断層

荒巻重雄・羽田忍．1965．熊野酸性火成岩類の中部および南部の地質．地質学雑誌，71：494–512.
地質調査所．1994．構造図 9 中央構造線活断層系（近畿地方）ストリップマップ.
原田哲朗．1974．紀伊半島の生いたち．吉野熊野国立公園学術踏査報告．日本自然保護協会 関西支部資料，No.5：27–34.
原田哲朗．1980．和歌山県の温泉の湧出機構について 白浜町編．第 1 回温泉講演会集，3–31.
原田哲朗代表編著．1988．紀の国石ころ散歩．236pp．宇治書店，和歌山.
原田哲朗．1997．私たちのふるさと本宮 その生い立ちと地下資源．123pp．本宮.
はてなし団体研究グループ．1980．紀伊半島四万十累帯，音無川帯の研究－層序と 構造の総括－．和歌山大学教育学部紀要 自然科学，29：33–70.
廣田善夫．1991．紀伊半島西部の三波川変成帯の地質．Mem. Fac. Sci. Shimane Univ.，25：131–142.
久富邦彦．1981．紀伊半島南東部の熊野層群の地質と堆積．地質学雑誌，87 (3)：157–174.
久富邦彦・三宅康幸．1981．紀伊半島・潮岬地域の隆起運動と火成活動．地質学雑誌，87（10）：629–639.
石川憲一．1997．紀伊半島西部龍門山地域の三波川変成帯．Mem. Fac. Sci. Eng. Shimane Univ. Series A，31：201–216.
環境庁．1989．第 3 回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査報告書（和歌山県）．166pp．和歌山.
柏木健司・八尾昭．1997．紀伊半島西部黒瀬川帯の名南風鼻とバベ鼻レンズ状部の地質関係．大阪微化石研究会誌，特別号 10：47–53.
紀州四万十帯団体研究グループ．2006．和歌山県中西部の日高川帯の地質－紀伊半島四万十累帯の研究（その 13）－．地球科学，60 (5)：355–374.
紀州四万十帯団体研究グループ．2011．紀伊半島，中新統熊野層群の泥ダイアピル，特に前弧海盆南縁の巨大分岐断層群との関係について－紀伊半島四万十累帯の研究（その 15）－．地球科学，65 (1)：1–16.
紀州四万十帯団体研究グループ編著．2012．紀伊半島における四万十付加体研究の新展開．地団研専報，59pp．地学団体研究会.
小板橋淳．2001．紀州の滝 340．287pp，紀伊民報，田辺.
小泉武栄・青木賢人．2000．日本の地形レッドデータブック 第 1 集－危機にある地形－．210pp，古今書院，東京.
公文富士夫．1985．紀伊半島の四万十帯研究の現段階と課題．地球科学，39 (1)：57–75.
栗本史雄．1986．和歌山県美里地域の毛原層－三波川帯と秩父累帯の境界に関連して－．地質調査月報，37 (7)：381–389.
栗本史雄．1986．和歌山県清水－美里地域の秩父累帯北帯．地質学雑誌，92 (10)：737–748.
前杢英明・坪野賢一郎．1990．紀伊半島南部の完新世地殻変動．地学雑誌，99 (4)：43–46.
Miura D. 1999. Arcuate pyroclastic conduits, ring faults, and coherent floor at Kumano caldera, southwest Honshu, Japan. Jour. Volcanol. Geotherm. Res., 92：271–294.
三浦大助・和田穣隆．2007．西南日本弧前縁の圧縮テクトニクスと中期中新世カルデラ火山．地質学雑誌，113 (7)：283–295.
三宅康幸．1981．和歌山県潮岬火成複合岩体の地質と岩石．地質学雑誌，87 (6)：383–403.
宮田隆夫・牧本博・寒川旭・市川浩一郎．1993．地域地質研究報告 5 万分の 1 地質図幅 和歌山及び尾崎地域の地質．68pp．地質調査所.
中屋志津男．2006．紀伊半島四万十帯奇絶峡地域の古第三系音無川付加体の屈曲構造．地球科学，

60 (2)：113–129.
中屋志津男・浜田好弘．2009．紀伊半島南部の下部中新統田辺層群の古期泥火山．地学雑誌，118 (3)：472–491.
中屋志津男．2011．2011 年台風 12 号の降雨による田辺市の大規模斜面崩壊と崩土．関西地盤環境センター センターニュース，11 月号：11–20.
中屋志津男・鈴木博之 ほか．2013．2011 年台風第 12 号による紀伊半島南部の斜面崩壊の地形・地質特性．日本地質学会第 120 年学術大会講演要旨.
中沢圭二代表研究者．1984．DESK 総研報告 近畿地方を中心とする後期古生代～古第三紀の堆積盆の変遷．127pp.
日本地質学会編．2009．日本地方地質誌 5 近畿地方．453pp．朝倉書店，東京.
日本の地質「近畿地方」編集委員会編．1987．日本の地質 6 近畿地方．297pp．共立出版，東京.
日本の地質増補版編集委員会編．2005．日本の地質 増補版．371pp．共立出版，東京.
太田陽子 ほか編．2004．日本の地形 6 近畿・中国・四国．383pp．東京大学出版会，東京.
清水博行．1985．紀伊半島田辺層群中の含礫泥岩ダイアピル．地質学雑誌，91 (10)：691–697.
新エネルギー・産業技術総合開発機構．1994．地熱開発促進調査データ処理報告書．No.37 本宮地域（2 次）.
新宮山の会編．1987．増補改訂 南紀の山と谷．278pp．新宮山の会，新宮.
鈴木博之・原田哲朗・石上知良 ほか．1979．地域地質研究報告 5 万分の 1 図幅 栗栖川地域の地質．54pp．地質調査所.
Shinjoe H., Y. Orihashi and R. Anma. 2019. U-Pb ages of near-trench granitic rocks of the Southwest Japan arc：implication for magmtism related to hot subduction. Geol. Mag., 158 (1)：47–71.
高市志友 ほか．1996．紀伊國名所図會 熊野篇．版本地誌大系 9．臨川書店，京都.
立石雅昭・別所孝範・原田哲朗 ほか．1979．地域地質研究報告 5 万分の 1 図幅 江住地域の地質．65pp．地質調査所.
田辺団体研究グループ．1984．紀伊半島田辺層群の層序と構造．地球科学，38 (4)：249–263.
田辺団体研究グループ．1993．下三栖ファンデルタ堆積相と堆積環境－田辺層群朝来累層の研究（その 2）－．地球科学，47 (1)：1–16.
徳岡隆夫・原田哲朗 ほか．1981．地域地質研究報告 5 万分の 1 図幅 龍神地域の地質．69pp．地質調査所.
和歌山県教育委員会．2007．和歌山県文化財ガイドブック．197pp．和歌山県教育委員会，和歌山.
Yao A. 1984. Subdivision of Mesozoic Complex in Kii-Yura Area, Southwest Japan and Its Bearing on the Mesozoic Baisn Development in the Southern Chichibu Terrane. Jour. Geosci. Osaka City Univ., 27 (2)：41–103.
吉倉紳一・吉田勝．1979．紀伊半島西部の黒瀬川構造帯．加納博教授記念論文集，319–340.
米倉伸之．1968．紀伊半島南部の海岸段丘と地殻変動．地学雑誌，77 (1)：1–23.
吉松敏隆・中屋志津男 ほか．1999．特集－紀伊半島の地質と温泉．アーバンクボタ第 38 号．56pp．クボタ，大阪.
吉松敏隆．2015．ネイチャーランド田辺．田辺市文化財，51：1–18.
吉松敏隆．2018．和歌山県の小森地形（環流丘陵）．紀南・地名と風土研究会会報，58：3–8.

13

生物多様性保全上注目すべき地域

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
1	加太沿岸域	島嶼 海岸 森林 自然林	本地域は、中生代白亜紀後期の和泉層群からなり、東に傾斜する向斜構造の北翼にあたる。 磯ノ浦から深山にかけての海岸には、本層群下部の加太累層が分布し、フリッシュ型の砂岩泥岩互層や凝灰岩層からなる。本累層中から、イノセラムスやウニ、コダイアマモ等の化石が産出し、底痕が顕著である。 友ヶ島は、地ノ島、沖ノ島及び近接の虎島、神島で構成される。本層群最下部の友ヶ島累層が分布し、主に成層砂岩、砂岩優勢互層、礫岩層からなる。本累層中から、イノセラムスやアンモナイト等の化石が産出する。友ヶ島にある深蛇ヶ池の堆積物には、津波堆積物が挟まれている。 加太沿岸域全体にわたって、ウバメガシを主とした海岸風衝林が成立している。沖ノ島の２ヶ所の湿地には、湿地性植物群落が発達し、テツホシダとヒトモトススキの北限群落が形成されている他、ハンゲショウの大規模群落がある。一方で、かつて生育していたサンショウモとアカウキクサは消滅した。沖ノ島のトサムラサキも貴重である。地ノ島および大川峠には県内で唯一、オオカラスウリの生育が認められる。 また、自然海岸が残り、礫底から砂礫、砂底といった底質の変化が多様であるため、多様な魚類が生息している。この地域は、瀬戸内海の冷たく栄養分を含んだ海水が友ヶ島以北から供給されることで藻場が形成されるため、幼魚の成育場として貴重である。更に、マダイやマアジ、マサバ等の水産重要種の漁場であるとともに、クサフグ等の産卵場所としても知られる。 貝類では、加太周辺の海岸から、137 科 731 種（多板綱：8 種、腹足綱：544 種、掘足綱：5 種、二枚貝綱：173 種、頭足綱：1 種）の干潟・汽水域産貝類（ウミヒメカノコ、ウネボラ、フジナミガイ、シグマクダマキ等）の記録がある。この地域は種類数から考えれば、海産貝類相が豊かであると言える。 また、岩礁海岸の動物として、ウメボシイソギンチャクやスズメガイダマシ等、この地域に特異的に出現するものがある。ヒメイソギンチャク、ヒラトゲガニ、カモガイ等も、県内の他の海岸では少ないが、当地では個体数が多い。 哺乳類では、和歌山市友ヶ島で 1955 年にニホンカワウソの死体 1 頭、1954 年と 1955 年に足跡の確認記録があり、本州では最も遅くまで生息が確認できた地域である。 鳥類では、加太周辺はタカ渡りコースの一つとなっており、春と秋に多数のタカ類が通過する。他には、小鳥類の中継地にもなっており、多数が通過する。 爬虫類では、この地域の建物にニホンヤモリが生息する。大川峠下の海岸林は、かつてタワヤモリの生息地として知られていたが、近年、確認できていない。 昆虫類では、加太の海岸林を基産地とする地下浅層性のゴミムシとして、カダメクラチビゴミムシ、タカモリメクラチビゴミムシ、キタヤマメクラチビゴミムシがある。また、レッドデータブック掲載種として、ニシキキンカメムシ、ヨツボシカミキリ、アヤムネスジタマムシ等が記録されている。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	和歌山市

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
2	和歌山城公園	緑地 森林 里山林	和歌山市の中央部にある標高 48 m の丘陵性の虎伏山は、暖帯性の常緑樹と落葉樹が混生した森林に覆われ、自然環境も豊かである。本地域には、かつて、良好なホルトノキ林が成立していたが、そのほとんどは枯死し、また、ムクノキの大木の多くが空洞化しており、危険防止のために伐採整理されている。一方で、エノキ、ケヤキ、クスノキ、カゴノキ（常緑樹）等が目立つようになってきた。ツメレンゲ及びマツバランの生育は貴重である。 菌類では、クモタケの発生が確認されている。 鳥類では、この地域は都市の中に孤立した緑地があるため、野鳥の種類が多く、身近な野鳥観察地として適している。 昆虫類では、この地域は過去の和歌山市における昆虫相を残している貴重な存在である。レッドデータブック掲載種としては、クロツバメシジミ、オオサカスジコガネ、コカブト 、オオヒョウタンゴミムシ、クロマダラタマムシ等が記録されている。 貝類では、この地域において 19 種の陸産貝類が報告されている。中でもイトカケギセル等、キセルガイ科貝類は 4 種が報告されており、イトカケギセルはこの地域がタイプ産地となっている。他にクチマガリマイマイ、ギュウリキマイマイ等が生息している。 【鳥類（沼野正博）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹・谷関俊男）】	和歌山市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
3	紀伊風土記の丘及び大日山周辺	里山	本地域は、クヌギ、コナラ等からなる遷移の進みつつある里山林であり、最近はツブラジイ（コジイ）、アラカシ、シラカシ、ヤブニッケイ等、常緑広葉樹が目立つようになってきている。大径木の増加に伴って、ナラ枯れの被害が拡大しつつある。 また、菌類では、過去にニイニイゼミの幼虫に寄生するセミタケが大量発生していたこともあったが、最近では発生が確認されていない。その他、シロテングタケ、コトヒラシロテングタケ等の発生が確認されている。 【菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）】	和歌山市

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
4	根来山げんきの森及び春日神社周辺	里山 自然林 森林	本地域は、中生代白亜紀後期の和泉層群の信達累層が分布し、泥岩優勢もしくは砂岩優勢の砂岩泥岩互層からなる。東に傾斜した向斜構造（孝子向斜）の南翼にあたる。森の南には、中央構造線の鳴滝断層及び根来断層がほぼ東西に延びる。 この地域は、昭和 40 年代の大規模な山火事後に成立した、コナラ、ヤマザクラ、エノキ等を主とする遷移途上の里山林である。近年はクスノキの侵入が著しい。春日神社にはツブラジイ（コジイ）林が成立している。 菌類では、オオセミタケ、カゴタケ、ソライロタケ等の発生が確認されている。その他、南方熊楠が発見した変形菌のアオウツボホコリの数少ない発生地である。 鳥類では、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ等、森林性の野鳥が多く生息する。 昆虫類では、根来山げんきの森には、ミズイロオナガシジミやアカシジミ等の里山を代表するシジミチョウが生息し、オオムラサキも安定してみられる。土仏峠はハスジゾウムシの数少ない生息地でもある。 なお、根来山げんきの森は、市民グループと行政の協働による保全活動が行われている。 【鳥類（沼野正博）、昆虫類（的場　績）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	岩出市 紀の川市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
5	紀の川流域	河川 河川敷 湿地 里山 森林 干潟 砂浜 海岸 河畔林 氾濫原 草地	紀の川は、県内においては橋本市隅田から和歌山市湊にかけて、中央構造線の南側に沿って西流し、紀伊水道へと注ぐ。中央構造線の活動は、後期白亜紀の和泉層群の堆積時期まで遡り、第四紀完新世まで続く活断層である。 紀の川の歴史もこの中央構造線の活動と深く関係し、大阪層群相当層の菖蒲谷層は、中央構造線の北傾斜の逆断層による下盤側の東西方向の凹地（古紀の川）に堆積した。更に、更新世になると、古紀の川の河床堆積物が河岸段丘を、完新世には沖積平野を形成した。 紀の川右岸の粉河付近では、3 段の段丘面をもつ河岸段丘が発達し、低位段丘は和歌山市園部付近まで続く。いずれの段丘面も、和泉山脈から南流する支谷による開析が進んでいる。左岸側では、河岸段丘の発達は乏しい。岩出市以西では沖積平野が発達する。 なお、中央構造線を境にして、その北側の基盤岩は和泉層群の堆積岩、南側は三波川変成帯の結晶片岩類である。 流域内には、流域内人口の半数が集中する和歌山市があり、国道 24 号、26 号、42 号等の基幹交通施設が交わり、古来より盛んに開発行為が行われている場所である。そのため、希少生物の生息域が開発等によって分断されやすく、生息地が孤立あるいは消滅しやすいという問題点がある。 本地域では、県内の主要河川の中で唯一、ジャヤナギ、アカメヤナギ等のヤナギ類、エノキ、ムクノキ、ニワウルシ等からなる河辺林が発達している。下流域にはタコノアシ、ウラギク、カワヂシャ等の生育が認められる。中流域の中州、船岡山には発達したツブラジイ（コジイ）林が成立しており、カンザブロウノキの北限地となっている点でも貴重である。 菌類では、今から 30 年前に、植物の残骸や腐葉土から発生するカワリコシワツバタケが発生した記録がある。 哺乳類では、丹生川流域にカワネズミの生息が確認されている。規模は小さいが急峻な地形の森林内には、ニホンウサギコウモリ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ヤマネ、ニホンリス、アカギツネ、ミズラモグラ等の生息が確認されている。 鳥類では、この地域にはカモ類が多数渡来して、越冬する。年により、ナベヅルが越冬することもある。河川敷では小鳥が多数越冬し、それを餌とする猛禽類も多い。 紀の川流域は、水田・畑・果樹園等で利用され、都市化も進んでいる。その中で、水田・湿地・池等にトノサマガエル、ツチガエル、ニホンイモリ等が生息し、それらを捕食するヘビ類も棲む。 また、この地域は草地性昆虫の貴重な生息地であり、氾濫原に依存する昆虫類や水生昆虫の貴重な生息域である。レッドデータブック掲載種としては、シルビアシジミ、ツマグロキチョウ、カワラハンミョウ、カワラゴミムシ、セアカオサムシ 、ダイミョウアトキリゴミムシ、ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種、エサキアメンボ、ナニワトンボ、ヒメゴマダラオトシブミ等が記録されている。 紀の川は河口域に広大な汽水域を持つ一級河川であり、かつては和歌浦湾へ注いでいた経緯を持つ河川である。汽水域には、干潟が形成され、そこにはシオマネキが数多く生息する他、トビハゼやマサゴハゼ、アカメ、サツキマス（アマゴ）等の希少な種を含む、多くの魚類が生息している。また、貴志川をはじめとした支流を数多く持ち、人為的攪乱を受けつつも、コイ科、ドジョウ科魚類に見られるような琵琶湖・淀川水系の影響が色濃く残る淡水魚類相が形成されている。外来魚の影響を受けて非常に危機的ではあるが、和歌山平野のため池等にはタナゴ類やハゼ類等の希少な淡水魚類が辛うじて生き残っている。 和歌山市南西部に位置する和歌川河口干潟は、旭橋付近より下流域に形成される 35 ヘクタールの面積を有する県内最大の干潟である。貝類では絶滅危惧種Ⅱ類のワカウラツボ、ウミニナ、ヒナユキスズメ、カニノテムシロ、サザナミツボ、イボウミニナ、コメツブツララ等が生息する。 和歌川の河口部付近では、日本の他地域からも記録の少ないミサキギボシムシ、ムラサキガイ、ヤドリカニダマシの生息が見られ、河口域奥部にある干潟には県内の他地域では極めて稀なオサガニ、マメコブシガニが数多く見られる。 そのため、紀の川河口域、和歌川河口域ともに、国の重要湿地に選定されている。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	和歌山市 岩出市 紀の川市 かつらぎ町 橋本市 九度山町 高野町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
6	平池周辺	ため池 湖沼 湿地 里山 草地	平池は、中世に灌漑用として造られた人工池で、和歌山県三大用水池の一つとされている。 本地域は、浮葉植物や沈水植物等の水生植物の貴重な生育地であり、かつてはマコモ、ショウブ、ガマ、クサヨシ、アシカキ等の大群落が成立していた。また、以前に見られたオニバスは近年確認されていない。ジュンサイ、ガガブタ、スイラン、ミミカキグサ、サワギキョウ等の植物も既に絶滅した。 この地域には、カモ類が多数渡来して越冬する。ミコアイサ等、和歌山県では数少ない種類の出現頻度が高い。 また、人為的攪乱の大きい水域であるが、ハゼ科等の希少な淡水魚類がわずかに残っている。 更に、周辺には田畑等の耕作地やそれを取り囲む里山が広がる等、爬虫類・両生類の生息に好適な環境が残されている場所と言える。 【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、魚類（平嶋健太郎）、植物（高須英樹）】	紀の川市

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
7	龍門山	森林 草地	標高 756.3 m の龍門山は、三波川変成帯の結晶片岩類からなる地帯に位置し、紀州富士とも呼ばれる。主に塩基性片岩と泥質片岩からなり、石英片岩を挟む。また、山頂周辺には超苦鉄質岩体が見られ、ダン橄欖岩の他、単斜輝石橄欖岩、斑糲岩等を伴い、多くは蛇紋岩化している。山の北斜面には蛇紋岩からなる風穴洞があり、古くは養蚕に利用されたと言われている。 本地域では、地質学的な特性から、アカマツのやや疎林的な群落が成立していたが、アカマツの枯死に伴って遷移が進みつつある。山頂部の蛇紋岩露出地はイネ科草原となっており、リンドウ、ヤマラッキョウ、ムラサキセンブリ、タムラソウ、ヒメノダケ等、貴重な草原性植物の生育が見られるが、近年、草地の衰退が認められる。イワシモツケ（キイシモツケ）の大きな群落が成立していることも貴重である。 また、この地域は、ギフチョウの県内唯一の生息地であった。それ以外にも、カマアシムシの未記載種やリュウモンザンツチゾウムシ等の固有種が生息している。レッドデータブック掲載種では、オオミドリシジミ、セアカオサムシ、エゾゼミ、マエモンシデムシ、ミゾムネアカコメツキ等が記録されている。 なお、龍門山は、市民グループと行政の協働による保全活動が行われている。 【昆虫類（的場　績）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	紀の川市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
8	高野山周辺	森林	楊柳山（標高 1,008.5 m）の北側は紀の川水系の、南側は有田川の源流になり、その源流の支谷に形成された狭小な緩傾斜地に寺院が建つ。 高野山周辺には四万十付加体の高野山帯が分布し、上部白亜系の花園付加コンプレックスの砂岩泥岩互層及び泥岩や緑色岩類等からなる。本地域には北東―南西に延びる北傾斜のスラストが発達する。 本地域の弁天岳南西面と摩尼山南西面にはモミやツガを主とした貴重な中間温帯林が残存している。高野山が唯一の生育地であったサクラソウは絶滅したが、多くの絶滅危惧種の生育が認められ、極めて貴重である。人為管理下の森林ではあるが、奥の院のスギ林、女人堂北面のコウヤマキ林も貴重である。また、草本では、コウヤカンアオイ、コウヤシロカネソウ、コウヤハリスゲ、コウヤハンショウヅル、コウヤワラビ、ミヤマエンレイソウ、ヤマトグサ等、多くの絶滅危惧種の生育が認められたが、その多くがニホンジカの食害によって大きく数を減らしている。 菌類では、主にブナの倒木に群生する発光性のあるツキヨタケや針葉樹（モミ類）と菌根を作るウスタケの発生地である。 哺乳類では、市街地を取り巻く森林は大木が多く管理が行き届いているため、コウモリ類や樹上棲の齧歯類の良い生息場となっている。ニホンウサギコウモリ、ノレンコウモリ、テングコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ等の生息が確認されている。奥の院に林立するスギの大木にできた樹洞は、ムササビのねぐらとなっている。周辺の森林内では、ニホンモモンガ、ヤマネ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、アカギツネ、ニホンリスの生息が確認されている。また、草原性のカヤネズミも生息する。 鳥類では、キバシリやキクイタダキ等、和歌山県では希少な種が繁殖している。これら以外にも、アカショウビンやミソサザイ等、自然度の高い森林に生息する種が多く見られる。 高野山は宗教上の聖地であるため、照葉樹林帯上部から落葉樹林帯に生息する様々な爬虫類・両生類の環境が維持されている。特に、モリアオガエルは高野山の湿地や寺院の庭池、用水池等で産卵している。 更に、この地域には古くから関西地方の昆虫採集家が訪れ、多くの昆虫類が記録されている。コウヤナナフシ、コウヤハダカササキリモドキ、コウヤケアブラムシ、コウヤホソハナカミキリ、コウヤコバネナガハネカクシ等、高野山の名を持つ昆虫類がいくつか知られている。レッドデータブック掲載種としては、ルリボシヤンマ、オオコオイムシ、キンイロネクイハムシ、ミヤマナカボソタマムシ、ヒゲブトハナカミキリ、イガブチヒゲハナカミキリ、タケウチホソハナカミキリ、ヤマトモンシデムシ、ツシマキモンチラシ、ムラサキシタバ、オオウラギンスジヒョウモン等、多数が記録されている。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、昆虫類（的場績）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	高野町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
9	生石高原周辺	森林 湿地 草地 自然林 草原 牧場	標高 870 m の生石ケ峰は長峰山脈の主峰で、付近には準平原状の地形が広がる。 周辺には、三波川変成帯の塩基性片岩や泥質片岩、珪質片岩等、結晶片岩類が分布する。北西方の黒沢山には、超苦鉄質岩体が見られ、南側の中腹以南には、結晶片岩や緑色岩類、千枚岩等からなる御荷鉾帯の生石層が、更に有田川構造線を挟んで秩父帯の先白亜系が分布する。 本地域のススキ草原には、多くの貴重な草原性植物が認められる他、湧水の生じる湿地にはウメバチソウ、サワギキョウ等も生育している。生石神社周辺のアカガシ林も最近の台風によってやや損傷を受けたが、貴重な林である。沼池にはカキツバタ群落が見られ、当池は国の重要湿地に選定されている。 菌類では、黒沢山周辺から生石高原付近にコウボウフデやバカマツタケが発生し、和歌山県北部では貴重な地域である。 陸産貝類としては、生石高原近くには本県で３ヶ所しか記録がされていない絶滅危惧種・シロモリサキギセルが生息する。他にオオギセルも観察できる。面積の小さい林叢（アカガシ群落）であるが、陸産貝類の生息地としては貴重である。 哺乳類では、生石神社周辺の森林内でアカギツネ、ツキノワグマ及びニホンカモシカが、ススキ草原内でカヤネズミが、生石高原北側の植林内ではニホンモモンガ等の生息が確認されている。 また、生石高原とそこから流れ出す水系及びその下流域にはため池が形成されており、その水系やため池周辺には、ニホンイモリやカエル類が生息し、ニホンイシガメや各種のヘビ類が棲む等、爬虫類・両生類の生息環境が維持されている。 この地域にある大規模なススキ草原は、草原性昆虫の貴重な生息地になっている。ヒョウモンチョウ類が多種記録されていて、レッドデータブック掲載種としては、セアカオサムシ、ヒメビロウドカミキリ、クニミシモフリコメツキ、フタコブルリハナカミキリ、ヒサマツミドリシジミ、ダイミョウアトキリゴミムシ、ヒメゴマダラオトシブミ、ヒメカツオゾウムシ、コカタビロゾウムシ、オオシロオビゾウムシ等、多くの種が記録されている。ムネアカセンチコガネやホソクチゾウムシ科の未記載種、オオダイセマダラコガネ等、多くの希少種も記録されている。黒沢山はニシキキンカメムシの多産地として重要であり、沼池にはクロゲンゴロウ、イネネクイハムシ、コオイムシ、キオビシギゾウムシ等の希少種が生息している。また、現在では絶滅したが、この地域はハッチョウトンボの多産地でもあった。 なお、生石高原は、市民グループと行政の協働による保全活動が行われている。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（竹中利明）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	海南市 紀美野町 有田川町

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
10	有田川流域	河川 湿地 里山 森林 干潟 河口域	有田川は、高野山の山域を源に、かつらぎ町、有田川町を南西に流れて有田市で紀伊水道に注ぐ。上流域では林業が、中流から下流域ではミカン栽培が盛んで、川沿いの平地には果樹園や水田、畑地が見られる。有田川はアユ釣りでは全国的に有名で、中流部に位置する二川ダムより下流域で全国大会が開かれたこともある。 有田川町上湯川近井には、ブナ林が残されている。最下流域にはまとまったヨシ群落が成立し、ウラギク、ミゾコウジュ、タコノアシ等の絶滅危惧種が生育する。氾濫原には県内では少ないトキワススキの生育が見られる。 哺乳類では、流域の森林内にツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。 上流部では、マホロバサンショウウオ等が生息し、中・下流部ではニホンイシガメやカジカガエルが、里山周辺では、ニホンイモリ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル等が生息している。 昆虫類では、下流域にシルビアシジミ、クロツバメシジミ、ツマグロキチョウ、ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種をはじめ、ヨツボシツヤナガゴミムシ、クロカネコメツキ、セグロツヤテントウダマシ等の希少種が記録されている。二川ダム周辺では、カワラゴミムシが発見されている。源流・上流部ではアイヌテントウやコホソクビゴミムシ、アイヌハンミョウ、コセスジダルマガムシ等が記録されている。 また、河口域は、国の重要湿地に選定されており、トビハゼやタビラクチ等の希少な魚類が数多く生息している他、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、コゲツノブエ、タケノコカワニナ等の希少カニ類・貝類が生息する。一方で、周辺や河川の護岸等の開発も進んでおり、環境への影響が懸念される。淡水域では、外来魚も見られるが、支流や源流には比較的良好な状態が保たれた水域が多く、ナガレホトケドジョウやアカザ等の希少な種が生息している。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）】	有田市 有田川町 かつらぎ町 高野町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
11	白馬・護摩壇山系	森林 自然林 河川	標高 1,372 m の護摩壇山から西に標高を減じながら白馬山脈が延びる。 これらの地域には、四万十付加体の白亜紀の日高川帯が分布し、主に上部白亜系の美山付加コンプレックスの砂岩、泥岩、礫岩、チャート、緑色岩類からなる。護摩壇山の北側には湯川スラストを境に下部～上部白亜系の湯川付加コンプレックスの砂岩、泥岩、緑色岩が、また南側の下田原スラストを境に、上部白亜系の竜神付加コンプレックスの砂岩、泥岩、珪長質凝灰岩、緑色岩類が分布する。 白馬・護摩壇山系は、和歌山県内最高峰の龍神岳を擁する山域で、有田川・日高川の源流域である。この山域では、国有林で和歌山県自然環境保全地域に指定されている西ノ河原生林と亀谷原生林や、京都大学和歌山研究林、若藪山のブナ林、白馬山のブナ林、護摩壇山の自然林が含まれ、冷涼地に生育する落葉広葉樹や針葉樹林が広がっており、生物多様性保全上極めて重要な地域である。 護摩壇山上部には、県内最大のブナ・ミズナラ林が成立している。林内にはアカガシやウラジロガシが点在し、太平洋型ブナ林の特徴をよく示している。この林は白馬山系の尾根部にもわずかに残されている。かつて林床を覆っていたスズタケは、ニホンジカの食害によってほぼ壊滅状態であり、草本植物もほとんど見られず、シカ食害防護柵の内部でハスノハイチゴ等の希少種が生育している。谷部には小規模なシオジ林が見られ、林内には県内で唯一、クロカンバの生育が認められる。 菌類では、ヌメリツバタケモドキ、ツキヨタケ、ムキタケ、オアオムキタケ、ウスキブナノミタケ、ナメコ、ブナシメジ等のブナ林帯でしか見られない種が多く発生している貴重な地域である。 陸産貝類では、ツガ、ブナの自然林が残されている高野龍神国定公園地区の林内で比較的豊富である。樹上性のマルクチコギセル、カギヒダギセル、ニクイロギセル、コンゴウクリイロベッコウ（タイプ産地は大阪府：金剛山）が記録され、多様性に富む。 哺乳類では、護摩壇山において、ヒメヒミズ、クロホオヒゲコウモリ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンリス、スミスネズミの生息が確認されている。ニホンジカの食害により林床の多様な生態系が損なわれ、クロホオヒゲコウモリ等の森林性コウモリの餌となる昆虫類が減少し、豊かな森林環境に依存するツキノワグマやニホンカモシカ等の生息が危機的な状況にある。また、白馬山周辺では、ヒメヒミズ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンリス、アカギツネ、ヤマネ等の生息が確認されている。 鳥類では、クマタカ、コノハズク、ジュウイチ、コルリ、オオアカゲラ等、希少種が多く生息している。また、和歌山県内でも有数の野鳥の生息地である。特にクマタカは、縄張りが連続して存在する等、生息密度は県内有数である。沢筋には、アカショウビンが生息する。 また、この地域は標高の高い山地であり、マホロバサンショウウオ、ナガレヒキガエル、モリアオガエル等が生息し、ヘビ類等の爬虫類も多い。 更に、護摩壇山はゴマダンと名の付く昆虫を始め、多くの甲虫類のタイプ産地になっている。吉田元重の調査によると、約 1,500 種の昆虫が記録されており、ヒサマツミドリシジミ、ウラキンシジミ、ルリクワガタ、ツヤハダクワガタ等、多くのレッドデータブック掲載種の生息地である。護摩壇山から白馬山へと続く白馬山脈の稜線部は、護摩壇山からの多くの昆虫類の移動のための回廊として重要な存在である。従って、ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ、ヒサマツミドリシジミ、クモガタヒョウモン、フタコブルリハナカミキリ等、護摩壇山に生息する多くの希少種やレッドデータブック掲載種が生息している。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、昆虫類（的場績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	田辺市 有田川町 日高川町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
12	西有田～煙樹海岸	海岸 島嶼 湿地 里山 森林 自然林 砂浜 干潟 磯浜	宮崎ノ鼻から日ノ御埼にかけての海岸は、概略的には沈降性のリアス海岸で、大小様々な入り江が見られる。煙樹ヶ浜は、カプスとストームベンチが発達した礫浜で、和歌山県内では最大規模である。 宮崎ノ鼻から白崎南の神谷までは秩父帯の先白亜系の堆積岩類や緑色岩類及び白亜系の堆積岩類が分布するが、鷹島と黒島を含む名南風鼻周辺は黒瀬川構造帯の火成岩類、変成岩類、チャート、石灰岩が狭く分布する。一方、仏像構造線を挟んで神谷から比井にかけては、四万十付加体日高川帯の下部～上部白亜系湯川付加コンプレックスの堆積岩類が、また、小鶴谷スラストを挟んで三尾までは、日高川帯の上部白亜系美山付加コンプレックスの堆積岩や緑色岩類が分布する。 本地域は、都市圏から離れた地域に点在する島嶼及び海岸と地域に根差した耕作地と、それを維持する里山及び湿地、灌漑用ため池が広がる地域である。そのため、古くから人間の社会生活と共存することができる在来の爬虫類や両生類が今も数多く生息する。河川や池にはニホンイシガメが生息し、湿地にはセトウチサンショウウオ、ツチガエル、トノサマガエル等の両生類が生息する。 昆虫類では、海浜性のシロヘリハンミョウやイソジョウカイモドキ等、レッドデータブック掲載種の貴重な生息地であり、宮崎ノ鼻はハスジゾウムシの数少ない生息地である。また、西有田～煙樹ヶ浜かけての海岸林は、オチバアナアキゾウムシの主要な生息地である。馳出の鼻の海岸は、ナカグロケシツブゾウムシのタイプ産地であり、確実な産地は全国でもここだけである。 この地域には自然海岸が多く残っており、人為的攪乱も少ないため、沿岸性の魚類が多く見られる。基本的に間隙の多い礫海岸であるため、間隙性のハゼ科魚類が非常に多く見られる。沿岸域には、小河川がいくつも流入して小さく浅い湾を形成するため、藻場やアマモ場が点在し、多様な魚類の幼魚にとって重要な成育場となっている。 広川町の西広海岸は、県内で最も広大な前浜干潟を擁する海岸である。同干潟にはムラサキガイ、マテガイ、ウミニナ、イボウミニナ、コゲツノブエの他、ツバサゴカイ、オフェリアゴカイ、テナガツノヤドカリといったベントス種の生息が見られる。干潟域周囲にある転石海岸には、マメアカイソガニも数多く生息している。 特に貝類においては、江上川の河口域において、腹足類 31 種（タケノコカワニナ、イボウミニナ等）、二枚貝類 17 種（ムラサキガイ等）の生息が記録されている。 鳥類では、日ノ御埼周辺はタカ渡りコースの一つとなっており、春と秋に多数のタカ類が通過する。他に、小鳥類の中継地にもなっており、多数が通過する。なお、鹿尾菜島や白崎周辺は、ウミネコの集団繁殖地となっており、学術的に重要である。 煙樹海岸は植栽によるものであるが、クロマツ、アカマツの森林で、幅約 500 m、延長約 6 km に及んでおり、近畿最大の防潮林である。周辺にはタイキンギク、ノアサガオ、キキョウラン、イワタイゲキ、オオハマグルマ、アゼトウナ、キノクニシオギク等、多くの海岸性植物の生育が見られる。阿尾湿地にはアイアシ群落が見られ、ウラギクの生育も確認されている。 【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（竹中利明）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場績）、貝類（湊　宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（高須英樹）、地形・地質（吉松敏隆）】	有田市 湯浅町 広川町 由良町 日高町 美浜町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
13	日高川流域	河川 河川敷 湿地 里山 森林 農地 干潟 河口域	日高川は、護摩壇山系から果無山脈が源流域である。流域は広く、奈良県十津川村から田辺市・日高川町・日高町にまたがり、御坊市で熊野灘に注ぐ。和歌山県内を流れる河川では最も長く、複雑に蛇行し、支流となる河川数が多い。 源流部の森林は県自然環境保全地域、国定公園特別保護地区として保護されている。中流域の矢筈岳は、ホンシャクナゲの群生地として知られる。河口域にはハマボウやヨシの群落が広がり、ウラギクの生育も見られる。 哺乳類では、流域の森林内にツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。 鳥類では、本地域にはカモ類が多く渡来し、越冬する。ナベヅルが渡来したときには、中州がねぐらになっており、ナベヅルの越冬に重要な役割を果たしている。なお、ナベヅルは和田不毛（美浜町）、日高町高家、御坊市塩屋町の農耕地を餌場としている。 爬虫類・両生類では、日高川の上流域にマホロバサンショウウオ等が生息し、中・下流部にカジカガエル、ニホンイシガメ、里山周辺にセトウチサンショウウオやヤマアカガエルが生息する。 魚類では、淡水域にダムが建設されて外来魚も見られるが、支流や源流は比較的良好な状態が保たれ、サケ科魚類の希少な在来集団が残っている。 河口は王子川と西川が合流し、塩性湿地を豊富に残した景観的にも貴重な干潟海岸が広がり、国の重要湿地に選定されている。当該干潟は、ハゼ科やサケ科、カジカ科の希少な魚類はもちろん、水産魚種の重要な生息地や成育場となっている。塩性湿地内にはシオマネキ、ハクセンシオマネキ、クシテガニ、ミナミアシハラガニといったカニ類の他に、県内では他に記録の少ないカワアイ、ナラビオカミミガイ、クリイロコミミガイといった巻貝も生息している。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）】	御坊市 美浜町 日高川町 日高町 田辺市
番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
14	切目川河口域	河川 湿地 礫浜 干潟 河口域	切目川の河口域には南に延びる砂州及び中州が形成されている。砂州は、切目川が運搬してきた砂礫が沿岸流によって寄せ集められた地形である。中州は宅地化している。 本地域は、河口に形成された砂州によってやや閉塞気味であるが、その内側にはウナギ類やハゼ科魚類が生息している。また、砂浜部では淡水の染み出しが見られ、クサフグ等、沿岸性魚類の産卵場や採餌場として利用されている。 更に、河口域の護岸付近に自生するハマボウ群落は貴重である。この群落は、伐採後に再生してできた二次林である。その群落下の干潟には、シオマネキやハクセンシオマネキの生息が見られる。 【魚類（平嶋健太郎）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】	印南町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
15	御坊市・日高郡・田辺市のため池群	湿地 里山	本地域のため池群は、主として農作業のために造られた人為的環境であり、攪乱の起こりやすい水域であるが、ミナミメダカ東瀬戸内集団等の魚類が生息している。 また、この地域では、爬虫類では、ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポンが、両生類では、ニホンイモリ、トノサマガエル、ツチガエルが見られ、池の浅い場所では、セトウチサンショウウオやニホンヒキガエルが産卵する。一方で、そのほとんどの池には外来種であるウシガエルとミシシッピアカミミガメが定着している。 植物では、多くの水生植物の重要な生育地である。国の重要湿地に選定されているが、近年、県内のため池は全体的に環境が悪化しており、水草も激減している。ヒシ、スイレン類、外来水草等の繁茂による影響も懸念される。 【爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、植物（北野一夫・内藤麻子）】	御坊市 日高町 日高川町 印南町 みなべ町 田辺市

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
16	ひき岩群	里山	本地域の地形は、付近に分布する第三紀中新世の田辺層群に見られる侵食地形である。北西―南東の走向を持つ南傾斜の砂岩泥岩互層が、その硬軟の差による侵食を受け、東西方向から見ると鋸歯状の地形ができた。砂岩層の形が天空を仰ぐカエルの姿に似ており、ヒキガエルの群れに例えられることから、「ひき岩群」と呼ばれる。 この地域は、吉野熊野国立公園の陸域に属し、東西 1.5 km、南北 1 km にわたり、標高 100 m 程の岩山群が並ぶ。市街地に近く、古くからハイキング等によく利用されている。かつて南方熊楠が、今では希少な植物を数多く採集しているところである。 植物では、ネズミサシ、アカマツ、ヒカゲツツジ、イブキシモツケといった岩角地に生える樹木の他、コモウセンゴケ等が生育している。また、この地域一帯は、アカマツやタイミンタチバナ等の疎林であるが、一部にコジイやクロバイ等の照葉樹も見られる。 爬虫類・両生類では、ニホンイシガメやニホンスッポンが生息する他、セトウチサンショウウオ、ニホンイモリ、ヤマアカガエル、タゴガエルが生息している。 更に菌類では、ヌメリアシナガイグチの発生が確認されている。 【爬虫類・両生類（弓場武夫）、菌類（菌類専門部会）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】	田辺市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
17	田辺湾周辺	海岸 島嶼 砂浜 干潟 湿地 森林	トラフ型の大地震の際には、田辺と新宮を結ぶ線をほぼヒンジラインとして南側が隆起、その値は串本にかけて大きく、田辺湾付近の隆起量は小さい。大地震の後は、隆起量を下回る程度に沈降している。 みなべから芳養、天神崎にかけての海岸地域には、新生代新第三紀中新世の田辺層群下部層（朝来累層）が、新庄から瀬戸、梶原にかけては、田辺層群の上部層（白浜累層）が分布する。また臨海の西では、田辺層群を不整合に覆う塔島礫岩層が波食棚をつくる。神島、畠島等、湾内の島は、白浜累層の地層からなるが、元島は朝来累層の地層である。なお、白浜累層が分布する鳥ノ巣半島西側の泥岩岩脈及び江津良のリップルマークは、国の天然記念物に指定されている。 本地域は、吉野熊野国立公園内にあり、田辺湾は西に開いた湾で、湾内の海岸地形及び海底地形は非常に複雑である。湾の奥には多くの枝湾があり、生物の生息には適した環境となっている。田辺湾の前を黒潮の枝流が北流し、この地域は熱帯・亜熱帯系の生物相が豊富である。 自然豊かな場所としては、番所崎、畠島、神島（国の天然記念物）、鳥ノ巣、天神崎、元島等がある。天神崎は田辺湾の一角で、海岸林と周辺の広い磯からなる。海岸林（照葉樹林）は里山であるが、市民がナショナル・トラスト運動で保全を進めている。なお、天神崎は、ナショナル・トラスト運動の発祥の地である。 この地域は海の生態系、陸域の生態系ともに、非常に優れていて、しかも、残存する海岸林が海岸（磯）や海洋の自然維持に大きな役割を果たしている。 また、天神崎と白浜半島に囲まれた多島海で、ハカマカズラやキノクニスゲといった希少な植物の自生地として知られる。田辺市新庄周辺の海岸にはコアマモの藻場が出現し、みなべ町千里の浜にはネコノシタやハマゴウといった海浜植物が群生する。 更に、変形菌では南方熊楠が発見したミナカタホコリやアオウツボホコリのタイプ産地になっている。 哺乳類では、白浜町の千畳敷海蝕洞が、ユビナガコウモリの近畿地方における最大の繁殖洞とされ、毎年夏に３万頭を超える数の繁殖雌が集まり、出産・育仔が行われている。千畳敷海蝕洞は、近畿地方のユビナガコウモリにとって極めて重要な位置づけであることから、「ユビナガコウモリの繁殖洞」として白浜町指定の天然記念物となっている。 鳥類では、この地域にある鹿島や畠島でウチヤマセンニュウが、円月島等でクロサギが繁殖する。なお、森の鼻は、和歌山県有数のシギチドリ類の渡来地である。 昆虫類では、みなべ町鹿島がウルシゴキブリとマメクワガタの生息地となっている。神島にはチビクワガタが生息し、マメクワガタとの生息関係が興味深い。また神島には、マルモンタマゾウムシが多産する。 天神崎には、海岸林が二次林ながら残っていて、その中の湿地にはハンゲショウ等の湿地性植物群落があり、セトウチサンショウウオが産卵する。広くて平らな磯は亜熱帯・熱帯系の生物相が豊かで、自然観察に最適の場所である。なお、みなべ町千里の浜は、本州では最大のアカウミガメの産卵地であり、和歌山県指定天然記念物となっており、また、国の重要湿地にも選定されている。 この地域は水域の多くが市街地に隣接するものの、自然海岸が保護されている地域もあり、沿岸部の状態は良好である。岩礁海岸や砂浜、会津川や芳養川といった河口汽水域等、変化に富むため、アカメやウナギ類、ハゼ科等の希少な魚類を含めて、多くの魚種が生息し、良好な漁場になっている。また黒潮の影響を強く受けるため、ボラ科やヨウジウオ科等の南方系の魚種も見られる。 田辺湾内一帯の海岸線は、岩礁、転石、砂浜、干潟と多様な基質を備え、更に外海から内湾奥部までの地形上多様な海岸線を成すことで、多様な海岸生物種が見られる。湾内中央部に位置する畠島には、それらの海岸生物種が集約しており、ここから新種として記録された海岸生物種も数多い。畠島の砂干潟に見られるワダツミギボシムシはその生息数も多く、潮間帯で本種が見られるのは日本の海岸線では他に知られていない。湾口部の海岸からは、ムラサキオカヤドカリ、ミナミスナガニ、カクレイワガニ、タイワンタマキビといった日本本土では稀な南方系の種が記録される。内湾奥部にある内之浦の干潟域には広大な泥質干潟に加え、コアマモが生えた海草帯もあり、底生動物相が豊富である。とりわけ、海草帯で見られる二枚貝のハボウキガイ、シオヤガイ、コゲツノブエ、スジホシムシモドキヤドリガイ、チゴイワガニ、泥干潟部で見られるシオマネキ、カワアイ、マングローブテッポウエビ、タビラクチ等は貴重である。貝類では、ミヤコドリ、カノコガイ、シラギク等、122 種の干潟の貝類の記録がある。天神崎に隣接する元島では、ナマコ類やナメクジウオ類等、本県の海岸ではここだけにしか知られていない種もいくつか確認されている。また、田辺湾内の小島神島は、地名を冠した貴重種カシマイボテカニムシとカシマセスジアカムカデのタイプ産地である。なお、南紀白浜～南紀田辺の海岸線は、干潟、藻場、サンゴ礁の湿地タイプを持つ国の重要湿地に選定されている。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】	みなべ町 田辺市 白浜町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
18	富田川流域	河川 湿地 里山 森林 干潟 河口域	富田川は果無山脈を源に、中川・鍛冶屋川・内の井川・生馬川・庄川等が合流し、河口部汽水域で高瀬川が出合う。流域は、田辺市（中辺路町・旧大塔村）・上富田町にまたがり、白浜町富田で太平洋に注ぐ。 上流域では谷底平野は発達せず両岸に山裾が迫る渓谷であるが、中流域では河岸段丘に平地が現れ、鮎川地区から下流域では流れに沿って狭い平野が続いており、果樹園や水田地が見られる。河口部の南岸は岩崖が迫る地形であるが、北側には延長約 2 km、幅約 100 m の礫浜が続いており、吉野熊野国立公園の域内である。 河口付近には、ハマボウ群落が残存している。かつて、イセウキヤガラが生育していたが、近年発生が確認されていない。また、移入由来のレンリソウが生育している。 哺乳類では、流域の森林内にツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。 上流域では、ニホンイモリやツチガエル、里山付近では、セトウチサンショウウオ、富田川本流等では、ニホンイシガメやカジカガエルが生息している。更に、河口部から北方向に広がる中大浜では、アカウミガメが産卵する。 昆虫類では、上流部でアイヌハンミョウ、下流域でキバナガミズギワゴミムシ等が確認されている。また、砂礫中に生息するミズギワゴミムシ類、ゴマダラチビゲンゴロウ、キボシツブゲンゴロウ、ルイスツブゲンゴロウ等、清流や湧水中に棲むゲンゴロウ類も発見されている。 河口では、高瀬川が合流して豊かな汽水域が形成され、アカメやハゼ科等の希少な魚類はもちろん、水産魚種の重要な生息場となっている。淡水域は、支流や源流は比較的良好な状態が保たれ、カジカ科やサケ科等の希少な魚種が残っている。なお、本河川の河口より 18 km は、「オオウナギ生息地」として国の天然記念物に指定されている。 富田川は上流にダムを持たない貴重な河川であり、水質も良好で、多様なエビ・カニ類の生息が見られる。中流域の支流からは、紀伊半島で他に記録のない淡水紅藻のカワモズク属 2 種が記録されている。本河川は、紀伊半島南部に局限して分布するエビヤドリミミズの分布限界河川でもある。汽水域には、カワスナガニ、アリアケモドキといった低塩分を好む貴重種が多産する。また、シオマネキの記録もある。 貝類では、河口付近に汽水性のフネアマガイ、タケノコカワニナ、ヤマトシジミ等が生息している。また、谷奥では陸産貝類のミツクリギセルが比較的多く生息している他、ホラアナミジンニナのタイプ産地であることでも著名である。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）】	田辺市 上富田町 白浜町

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
19	笠甫の湿地植生	湿地 海岸	この地域では、海岸に近い谷川沿いに開かれた水田地が放棄されて湿地帯となっている。この湿地帯の長さは約 600 m、幅は広い部分で約 100 m である。周囲は海から続く標高 100 m 程の丘陵地に囲まれて、湿地内を細流が下る。かつての水田はこの細流が水源で、今も湿地を潤し続け、湿地の植生が維持されており、県内において産地が限られるヒメカンガレイの生育が見られる。 地域内の小河川ではツチガエルが見られ、湿地内部の開けた場所ではヤマアカガエルやニホンヒキガエルの産卵場所となっている。 入り組んだ沿岸の奥にある湿地では、近年陸地化が進む傾向にあるが、ミナミメダカ東瀬戸内集団をはじめ、通し回遊魚の陸封個体群や黒潮の影響を受けた南方系の魚種が見られる。 【両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、植物（北野一夫・内藤麻子）】	白浜町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
20	果無山脈	森林 自然林 河川	果無山脈は、四万十付加体の音無川付加シークエンスが分布する。第三紀漸新世から前期始新世に堆積した本シークエンスは、下部の泥岩や赤色・緑色泥岩、緑色岩類からなる瓜谷層、及び上部の砂岩泥岩互層や砂岩、礫岩からなる羽六層に区分される。瓜谷層は、笠塔山の北側において、日高川帯との境界をなす栃谷スラストの屈曲部、及び福定の北でわずかに露出する。同山脈は、和歌山県のほぼ中央部にあり、東西に長くのびる山脈で、奈良県と和歌山県の境界となっている。 本地域では、和田ノ森、安堵山、冷水山といった標高 1,000 m を超える山が和歌山県と奈良県の県境付近に東西に連なっており、稜線付近にブナやミズナラといった落葉広葉樹林が残存している。谷沿いにはモミ、ツガ等の針葉樹林が見られる。 特に笠塔山、水上には面的にまとまった自然林が良好な状態で保存されている。また、水上の原生林にはトガサワラの大木が混交している。 菌類では、コウボウフデ、バカマツタケが、北部でも発生しているが、南部では果無山脈周辺が発生地である。また、ニセマツタケはこの周辺で発生が見られる。 昆虫類では、キリシマミドリシジミやヒサマツミドリシジミ、ルリクワガタ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、オオダイオオナガゴミムシ、ルイスヒゲボソゾウムシ等、多くのレッドデータブック掲載種が記録されており、その他、ニセコルリクワガタ、オオトラカミキリ、ハラダチョッキリの色彩変異個体群が知られている。 陸産貝類では、マルクチコギセル、コシボソギセル、カギヒダギセル、ケハダビロウドマイマイ等の希少種が生息している。 哺乳類では、日置川と三越川の上流域にカワネズミ、ツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。 鳥類では、尾根筋でクマタカやオオアカゲラ、コルリ等が、沢筋でヤイロチョウやアカショウビンが生息する等、希少種が多く見られる。 爬虫類・両生類では、この地域に、マホロバサンショウウオやハコネサンショウウオ等が生息する。水がたまる窪地ではニホンイモリやニホンヒキガエルが産卵し、川の上流域ではナガレヒキガエル、カジカガエルが生息する。下流域ではニホンイシガメが棲み、広く浅い止水域ではヤマアカガエルが産卵する。 また、この地域はいくつかの水域の源流を持つため、サケ科魚類やナガレホトケドジョウ等の上流域に見られる希少な魚種の生息地となっている。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】	田辺市

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
21	要害森山	森林	三越峠から要害森山周辺は大半がスギ・ヒノキの人工林であるが、斜面にトガサワラが密度高く生育し貴重である。 【植物（内藤麻子）】	田辺市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
22	大塔山周辺	森林 自然林 河川	大塔山及び法師山を源流とする安川は、修験の滝等、支谷の滝や本流の雨乞滝等、多数の滝を作りながら、法師山の北側を西流し、打越で日置川に合流する渓谷美あふれる支流である。大塔川は、大塔山や野竹法師を源流にして大塔山の北側を北流し、請川で熊野川に合流する。その間、本流の落合滝のみならず、大杉滝、鮎返滝、カンタロウ滝等、多数の支谷の滝を形成している。 大塔山や法師山周辺は、四万十付加体牟婁付加シークエンスを構成する中期始新世後半から後期始新世の安川層及び打越層が分布し、西に傾斜し北東―南西方向に延びる合川複向斜と北西―南東方向に延びる打越背斜の交点に当たる、褶曲構造の複雑な地域である。野竹法師の北には、畝畑スラストを挟んでその北側には、牟婁付加シークエンスを構成する中期始新世の武住層及び大瀬層が近露スラストまでの間に分布する。 本地域には北ないし北東－南ないし南西方向の流紋岩（花崗斑岩）脈や凝灰岩脈が多数見られる他、黒蔵谷の八丁涸滝変質帯もあり、新第三紀中期中新世の熊野酸性火成岩類の火成活動に伴う岩脈や変質帯が分布する。 この地域は、紀南の最も奥地で、大塔山を中心として法師山、百間山等、峻険な山々が並ぶ山系であり、自然植生が残っている場所も多い。その中で、黒蔵谷については林野庁が「森林生物遺伝資源保存林」とし、この一帯は県立自然公園になっている。 大塔山系には各種の貴重な動植物が多く見られ、自然環境として特筆すべき地域である。 周辺の法師山や足郷山も含めた大塔山系の一大山塊には、本県南部を代表する森林植生が残り、位置的に次の５つに大別される。 ①山頂北側斜面のブナ群落 ②中小屋谷のツガ群落 ③前ノ川流域のウラジロガシ・アカガシ群落 ④古座川源流域のウラジロガシ群落 ⑤熊野川町奥山谷のブナ・アカガシ群落 山頂部分には森林再生を目的としたシカ食害防護柵が設置され、植生調査が継続的に実施されている。 この地域の山系からは 46 種の陸産貝類が記録されている。例えば、この地域の本州最南端のブナ林の林床からはニクイロギセル、マルクチコギセル、シロバリギセル等が記録されている。また、大塔山系の冨里地区からはカギヒダギセル、ミツクリギセル、キイオオベソマイマイ等３種がタイプ産地になっていることも特徴である。なお、ヤマキザコは大塔山系が本県で唯一の産地となっており、特筆に値する。 菌類では、ブナ林の倒木に発生するツキヨタケの県内での南限地にあたる。 哺乳類では、大塔川支流の黒蔵谷上流域において、クロホオヒゲコウモリ、ノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、テングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ等の生息が確認されている他、ヤチネズミ、ツキノワグマ、ヤマネ、ニホンリス、ニホンカモシカ等の生息も確認されている。 鳥類では、この地域には、クマタカやアカショウビン等の希少な鳥類が多く生息する。なお、クマタカは、和歌山県内有数の生息密度である。 昆虫類では、オオトウメクラチビゴミムシやオオトウヒメコバネナガハネカクシ、オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ、オオトウザイノキクイムシ等、大塔山に因んだ名の付く昆虫類の他、ナンキシマアツバ、ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種、マトバチビマメコメツキ、ナンキオチバメダカハネカクシ等、大塔山系をタイプ産地とする昆虫類も多い。レッドデータブック掲載種としては、ナンキセダカコブヤハズカミキリ、タマヌキオニゾウムシ、ウスグロボタル、トラハナムグリ、キンスジコガネ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、キリシマミドリシジミ等、数多く生息している。 両生類では、マホロバサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ナガレヒキガエル等が生息し、爬虫類ではヘビ類の多くの種が生息する。 魚類では、この地域がいくつかの水域の源流を持つことで、サケ科魚類やナガレホトケドジョウ等の上流域に生息する希少な種の生息地となっているが、土砂による谷の消失などの影響が懸念される。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（水野泰邦・内藤麻子）・地形・地質（吉松敏隆）】	田辺市 古座川町 新宮市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
23	大森山周辺	森林 河川	大森山周辺は、白浜町と古座川町にまたがる山系で、標高はあまり高くない。古座川町平井には北海道大学和歌山研究林がある。林内はよく整備され、スギやヒノキの大木が林立し、蘚苔類が繁茂した谷地が多い。 本地域では、大半が人工林であるが、一部にアカガシ、ウラジロガシ林が残る。大森山の稜線には、自生とみられるコウヤマキが生育している。 哺乳類では、森林内にヒメヒミズ、ヤチネズミが生息していることが特徴的である。研究林および周辺地域には、ノレンコウモリ、テングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ツキノワグマ、ニホンモモンガ、カワネズミ、ヤマネ、ニホンリス、ニホンカモシカ等の生息が確認されている。 この地域は大塔山系と昆虫相が類似しており、キリシマミドリシジミ、ウスグロボタル等、多くの共通種が生息している。また、チクゼンビロウドコガネ、クロアシヒゲナガヒラタミツギリゾウムシ、タケウチホソハナカミキリ、クロソンホソハナカミキリ、ナンキセダカコブヤハズカミキリ、ミヤマナカボソタマムシ、ムネアカツヤケシコメツキ等が生息している。 爬虫類・両生類では、源流域にマホロバサンショウウオ等が生息し、中流ではニホンイモリ、ナガレヒキガエル、カジカガエルが棲み、下流の農耕地周辺ではニホンイシガメ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエルが生息している。 魚類では、この地域がいくつかの水域の源流を持つことで、サケ科魚類やナガレホトケドジョウ等の上流域に生息する希少な種の生息地となっている。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（玉井済夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、植物（内藤麻子）】	白浜町 古座川町

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
24	日置川流域	河川 森林 湿地 里山 干潟 河口域	日置川は特に上流部で流域面積が大きい。流域は、奈良県十津川村・田辺市（中辺路町・旧大塔村）・白浜町・すさみ町にまたがる。果無山脈や大塔山系を源に、中流部に位置する合川ダム（殿山ダム）では熊野川・前ノ川・将軍川が合流し、蛇行を繰り返しながら白浜町で太平洋に注ぐ。中流部以降は河川の傾斜は緩くなり、蛇行の内側の平地に集落や農耕地が造られ、河原が発達している。 本地域では、大半が人工林であるが、百間山渓谷等の谷沿いには、トチノキが点在している。 哺乳類では、源流域にヤチネズミが生息し、本種の分布西限となっている。谷筋にはカワネズミが、流域の森林内にはツキノワグマ、アカギツネ、ニホンカモシカ等が生息する。 爬虫類・両生類では、上流域にマホロバサンショウウオ、ハコネサンショウウオ等が、中流域以降や里山一帯にニホンスッポン、ニホンヒキガエル、カジカガエル等が生息している。 貝類では、中流域に、コシボソギセル、ミツクリギセル、ヒラマキビロウドマイマイ等、他地域では少ない種類の陸産貝類が観察できる。 魚類では、淡水域にスナヤツメ科やカジカ科魚類、ナガレホトケドジョウ等が見られる。近年は山林の荒廃が進み、流出した土砂が支流や源流の谷を埋めており、淡水魚への影響が懸念される。 河口には広い汽水域があり、ハゼ科やカジカ科等の希少な魚類が数多く生息している。また、河口域には礫が中心の干潟域が広がるが、そこにはカワスナガニが極めて数多く生息している。なお、河口部のヨシ原周辺は、ヨドシロヘリハンミョウの生息地として、県の天然記念物に指定されている。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、貝類（湊宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）】	田辺市 白浜町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
25	琴の滝周辺	森林 河川 里山	本地域には、四万十付加体の牟婁付加シークエンスを構成する中期始新世末期ないし前期中新世の佐本川層が分布する。本層は、砂岩泥岩互層や砂岩、礫岩からなる。また、滝の南側の周参見背斜の軸部に、砂岩泥岩互層や泥岩からなる小節川層が露出する。この地域周辺は、熱水変質を受けて岩石が硬化や白色化し、琴の滝変質帯と呼ばれている。複雑な地形と豊富な種類の植物が観察できる広瀬渓谷には、1 年を通して豊富な水量をたたえる周参見川支流がある。琴の滝は、周参見川支流の広瀬渓谷に位置する名瀑である。 この地域には、シイ・カシ林にホルトノキ、ミミズバイ、コバンモチ、ヤマモガシといった常緑樹、カギカズラ等のつる植物が見られる。 爬虫類・両生類では、この地域の河川にニホンイモリやカジカガエルが生息しており、支流周辺では繁殖行動も観察できる。渓谷周辺にはマホロバサンショウウオやニホンヒキガエルが生息する。ヘビ類も多く生息し、タカチホヘビ、シロマダラ、ジムグリ等が観察できる。 一方、魚類では、放流等の人為的攪乱によってサケ科の在来個体群は消失し、他の希少な魚種の生息も脅かされている。 昆虫類では、サツマニシキ、ウスグロアシブトゾウムシ、ミスジツブタマムシ、キュウシュウチビトラカミキリ、キンモンナガタマムシ等が確認され、琉球列島との共通種が非常に多い地域である。ミミズバイサルゾウムシ、スサミオビモンヒョウタンゾウムシ、スサミコバネナガハネカクシ等、タイプ産地となっている種もいくつか知られている。また、オオツノクモゾウムシは四国・九州との共通種で、本州ではこの地域にしか生息していない。レッドデータブック掲載種としては、ウスグロボタル、ミツギリゾウムシ、ネジロツブゾウムシ等が生息している。 更に、この地域では、陸産貝類の多様性が高く、県内を代表するヒラマキビロウドマイマイ、コハゲギセル、ミツクリギセル等が記録された。 哺乳類では、モモジロコウモリの記録がある。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（平井厚志）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】	すさみ町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
26	すさみ町～串本町西岸域	海岸 砂浜 島嶼 河川 里山	枯木灘海岸は、隆起海岸のため、基本的には岩石海岸で、海岸線は断崖を形成したり、大小の岩塊が点在したりする所が多い。 潮岬は、串本側の陸域と砂州で接続した、トンボロ（陸繋島）である。 稲積島の北側の松根－平井スラストを境として、この地域には、周参見から南へ順に四万十付加体の牟婁シークエンスを構成する中期始新世ないし前期中新世の周参見構造ユニットが分布する。本構造ユニットは、砂岩泥岩互層や砂岩、礫岩からなる佐本川層、及び泥岩や砂岩泥岩互層、砂岩、礫岩、岩礫泥岩からなる田並川層に区分される。 田子周辺の波食棚には、海底土石流堆積物と考えられている後期漸新世ないし前期中新世の枯木灘層（サラシ首層）が分布する。 田の崎では、田並川層を前弧海盆堆積体の熊野層群下里累層が不整合で覆い、ここから植松付近までは同じ地層が続く。下里累層は、砂岩泥岩互層や砂岩からなり、凝灰岩を挟む。 本地域は、吉野熊野国立公園内の海岸で、複雑な海岸線は海と山が近く、海岸沿いに湿地や池が点在する。 枯木灘に面した海岸域には、いくつかの島嶼が見られ、特に稲積島、江須崎は暖地性植物の貴重な生育地であることから、国指定天然記念物になっている。 本州最南端に位置する潮岬には、望楼の芝と呼ばれるシバ群落が広がっている。このエリアでは芝生管理を目的とした芝焼きが行われており、ワレモコウ等、草原性植物の貴重な生育地となっている。 菌類では、シイ林に発生するシイノトモシビタケが 1951 年に八丈島で発見され、長い間八丈島特産種とされていたが、1995 年に本種がすさみ町周辺で初めて確認された。その後、九州、四国、三重県、兵庫県等でも確認されている。 爬虫類・両生類では、砂浜や海岸のすぐ近くには湿地や池があり、ニホンイモリやニホンヒキガエルが繁殖する。海岸に流れ込む河川周辺の水田ではトノサマガエルが生息、繁殖している。沿岸域には周年を通してアオウミガメが生息し、海藻を主食とする本種の重要な餌場となっている。 鳥類では、黒島周辺において、ウチヤマセンニュウやアマツバメが繁殖する。 昆虫類では、黒潮の影響を強く受け、琉球列島から海流により運ばれてきた種が多く発見されている。マメクワガタ、アヤモンチビカミキリ、アヤムナビロタマムシ、アヤムネスジタマムシ、ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ、マダラツツヒゲナガゾウムシ、モモビロヤサクチカクシゾウムシ等、いずれも枯れ木に依存する種である。また、レッドデータブック掲載種のタイワンクツワムシやウルシゴキブリ等も海流により運ばれてきた種であろう。 陸産貝類では、すさみ町江住の江須崎の海岸地域は、海浜性の微小種・ヤマモトゴマオカチグサのタイプ産地になっている。更に本種は、同町里野の三崎からの潮間帯における飛沫帯上部のハマオモト、ツワブキ、ハマアザミの茂る湿り気のある生息環境から確認された。串本町田子の双島からは、日本初記録種としてソウジマミジンマイマイが記録されていることも特筆すべきである。 また、すさみ町江須崎周辺の海岸は黒潮の強い影響下にある一方、風浪からよく守られた岩礁、転石、砂浜を備えており、海岸生物相は豊富で、本県の海岸ではここしか知られていない種も魚類、棘皮動物、ホシムシ類で確認されている。 潮岬西岸の植松海岸は、広大な砂浜に岩礁が混じる海岸で、砂浜の水際にはキンセンガニやフジノハナガイが普通に見られ、潮上帯付近には、ツノメガニ、ナンヨウスナガニ等南方系のスナガニ類の巣穴が多数見られ、オカヤドカリ類の這い跡も見られる。なお、串本町西岸一帯はサンゴ礁を擁する国の重要湿地に選定されている。 更に、この地域は黒潮の影響を強く受ける岩礁性海岸が続き、小河川の流入も見られるため、ボラ科やヨウジウオ科等の南方由来の多様な通し回遊魚が見られる。また、造礁性サンゴ群体周辺には熱帯性の魚種も多く、近年は越冬の報告も多い。なお、串本沿岸海域は、ラムサール条約湿地に登録されている。 【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（平井厚志）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（内藤麻子）、地形・地質（吉松敏隆）】	すさみ町 串本町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
27	紀伊大島周辺	海岸 島嶼 森林	紀伊大島は、通夜島、茗荷島を含め、新第三紀中新世の火成活動で形成された潮岬火成複合岩体の流紋岩及び火砕岩からなり、北端部にはわずかに熊野層群敷屋累層の泥岩及び砂岩泥岩互層が分布する。流紋岩には節理が発達し、海食洞のような切り立った景観をなす。 紀伊大島は面積およそ 9.68 km^2、周囲約 28 km、県内最大の島嶼である。沿岸部全域と陸域の一部が吉野熊野国立公園に属している。島内最高地は大森山（171 m）で、一帯はスダジイ優占の照葉樹に被われている。島の西側や大森山北側方面は急傾斜地であるが、南部東部方面はなだらかである。谷川沿いの低地では、水田地が点在している。なお、串本沿岸海域はラムサール条約湿地に登録されるとともに、国の重要湿地に選定されている。 この地域の島の北東部では、スダジイが優占する森林が発達している。他に、イスノキ、タブノキ、モチノキ等が高木層を占める。本島の南西側にある通夜島にも発達したスダジイ林が見られる。スダジイの樹幹にはシラタマカズラが着生、林床にはアオノクマタケランが自生している。また、大島港付近や島の西端には、紀伊半島唯一のハドノキ自生地がある。海岸の崖地にはビャクシンが自生し、岩隙地ではキノクニシオギクやタマムラサキが見られる。 菌類では、シイノトモシビタケが 1995 年に八丈島以外の国内記録として和歌山県すさみ町周辺で発見されたことから、県内南部のシイ林を調査したところ、紀伊大島周辺でも発生が確認された。 昆虫類では、本州最南端の温暖な気候により、マメクワガタ、ケアカサルゾウムシ、モモビロヤサクチカクシゾウムシ、イチハシチビサビキコリ、ニホンホオビロコメツキモドキ、セスジケブカサルハムシ、エノキミツギリゾウムシ等、多くの南方系の種が生息している。 近年は耕作放棄地となってしまった場所が見られるが、このような水湿地ではトノサマガエルやニホンヒキガエルが、また、谷川ではニホンイモリやニホンイシガメが生息している。 この地域は、黒潮の影響を強く受ける本州最南端の島嶼的環境で、岩礁性海岸に複雑な海流が影響して南方由来の魚種以外にも多様な魚種がみられる。例えば、水深 100 m 近い海域が隣接しており、漸深海性や冷水性の種も遇来する。 陸産貝類は、紀伊大島が 1859~1861 年の英国船 Acteon 号によって調査されており、41 種が記録されている。このうち、キイツムガタギセル、ジェイギセル、シロバリギセル等の 5 種が、当地をタイプ産地としている。 鳥類では、この地域内にある臼島がアマツバメの集団繁殖地になっている。 【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	串本町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
28	串本町東岸域～下里・太地町沿岸及びゆかし潟	海岸 島嶼 湿地 干潟 里山 河川 汽水湖	紀伊半島の南東部にあり、熊野灘に面したこの地域一帯は、海岸線に沿って小河川、湿地、池が点在し、海岸域は吉野熊野国立公園になっている。 下里は、太田川の下流部にあり、庄等は環流丘陵をなし、旧河床部は水田に利用されている。また、太田川河口には、小規模な砂州が形成されている。湯川のゆかし潟は、ラグーン（潟湖）で、河口域の堆積物による閉塞によるが、現在も汽水性を保持しており、太田川河口とともに国の重要湿地に選定されている。 串本から田原にかけての海岸には、泥岩や砂岩泥岩互層からなる熊野層群の敷屋累層が露出する。 田原から太地の燈明崎にかけての海岸には、砂岩泥岩互層や砂岩、凝灰岩からなり、敷屋累層の下位にあたる下里累層が露出する。また、森浦湾岸には、敷屋累層が露出する。 浦神には、流紋岩（花崗斑岩）及び流紋岩質凝灰岩からなる古座川弧状岩脈の西端部が露出し、後者の岩石はいわゆる虫喰い岩になる場合が多い。伴待瀬付近の下里累層中に、泥ダイアピルが認められる。 植物では、潮岬でカゲロウランとメジロホウズキの生育が確認されている。古座沖の九龍島は、かつて見られたイヌマキ、タブノキ、スダジイ等の自然林が台風の強風やカワウの糞害等で多くの高木が被害を受けている。林床植物では、アオノクマタケラン、キノクニスゲ、ハチジョウシダ等が見られる。浦神半島の南斜面では、ウバメガシ林が成立しており、海岸近くでシタキソウの他、ホウライカズラ等が見られる。田原から浦神にかけての湿地は陸地化が進み、テツホシダのみが繁茂している。また、太田川河口、江川周辺にはハマボウ群落が発達している。池の谷湿地では、周辺住民によって定期的に草刈りが行われているため、希少植物がごく狭い範囲に生育している貴重な場所である。天満海岸の干潟では、シバナやウシオツメクサが生育している。太地町内では、昭和 30 年代に植林されたスギ林の林床でリュウビンタイが繁殖し、大きな群落を形成している。そのうちの 1 ヶ所では、ヘゴやクサマルハチ、ヒロハノコギリシダの生育も確認されている。燈明崎から梶取崎にかけての半島の周囲は、スダジイ林を主とする照葉樹林で、モチノキやヤブニッケイ、イスノキ等の常緑樹の他、ハマセンダンも随所で見られる。シマサルナシが樹冠まで達しているものも見られる。ゆかし潟に続く塩沼湿地には、ハマボウ、ハマナツメの他、ハマサジ、フクド等の塩性湿地植物群落が見られる。ただ、かつて確認されたシバナは、ここ数年、見られなくなった。 鳥類では、串本町内の海岸や九龍島などでウチヤマセンニュウが繁殖し、橋杭岩などではアマツバメが繁殖する。 昆虫類では、九龍島のマメクワガタを始め、ニホンホホビロコメツキモドキ、カグヤヒメキクイゾウムシ、モモビロヤサクチカクシゾウムシ、アヤモンチビカミキリ、ベーツヒラタカミキリ等、多くの南方系種が生息している。更に、田原の湿地は、オオコオイムシ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ガムシ、コガムシ等、多くの水生昆虫の生息地であり、全国的にも希少種であるハッカヒメゾウムシの生息地でもある。加えて、荒船海岸ではイチハシチビサビキコリやムネモンヤツボシカミキリ等が記録されている。 海岸線に点在する砂浜では、アカウミガメの産卵が確認されており、市民による調査活動も長年にわたり継続されている。また、田原湿地や周辺の水田では、ニホンイシガメ、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ツチガエルが生息し、ヘビ類の種類も多い。 この地域は、熊野灘の冷水塊と黒潮枝流の影響を受ける海岸が続き、小河川の流入も見られるため、多様な魚種が見られる。特に、ゆかし潟は温泉が自噴し、南方由来の小型ハゼ科魚類やウナギ科魚類を中心とした独自の生態系を示す。太田川の河口域は、干潟を含め広大な汽水域を持ち、ハゼ科やカジカ科魚類が多く生息するが、近年災害対策工事による河川環境の改変が目立つ。荒船海岸と玉ノ浦を持つ浦神半島は、多様な生物を育む地域として重要であるが、近年の開発の影響が懸念される。淡水域では、ミナミメダカ東日本集団が生息しており、集団の境界となる重要な地域である。 また、九龍島では、ノミガイ、キイゴマガイ、アナナシマイマイ、ミジンマイマイ等の貝類が記録されている。田原の湿地では、ナガオカモノアラガイが生息しているが、年々陸化の傾向が強く、個体数は多くはない。 更に、ゆかし潟では、ミナミアシハラガニ、ウモレベンケイガニ、フジテガニといったカニ類やカワタレカワザンショウ、イガカノコ、ウミニナ、ホソウミニナ、フトヘナタリ、トガリユウシオガイ等の貝類も豊富である。転石下からはヒナユキスズメ、ミヤコドリ、カワスナガニ等が見つかる。太地町の森浦湾には礫を伴った泥質の干潟が広がるが、そこには県内では記録が少ないムツハアリアケガニが見られ、他にはチゴイワガニ、コゲツノブエ、ウミニナ等の希少ベントスが豊富である。 【鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（平井厚志）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場績）、貝類（湊　宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	串本町 那智勝浦町 太地町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
29	古座川流域	河川 森林 里山 湿地	古座川本流の源流は、標高 1,121.8 m の大塔山で、張尾の滝や植魚の滝等、支谷の滝も含めて多くの滝を形成しながら穿入蛇行し、途中の七川ダムを経て三尾川まで南流、そこからほぼ東に流下して熊野灘に注ぐ。支流の小川は、大倉畑山（774.5 m）の南の尾根沿いにある標高 771.3 m の山を源流とし、激しく穿入蛇行をしながら南流し、滝の拝では河床にポットホール（甌穴）を形成、川口で本流に合流する。また、支流の比曽原川は、コカシ峠付近を源流とし、蛇行しながらほぼ西流して三尾川で本流に合流する。 こうした古座川流域には、牟婁付加シークエンス、及びそれを不整合で覆う前弧海盆堆積体の熊野層群、更に熊野酸性火成岩類の火成活動に関連する古座川弧状岩脈等が分布する。 牟婁付加シークエンスの分布域は、相瀬の少し下流から上流側で、佐本川層や田並川層が、更に松根付近から周参見に延びる松根－平井スラストを挟んで安川層や打越層からなる。 熊野層群の分布域は、ほぼ小川沿いであり、下里累層や敷屋累層からなる。 古座川弧状岩脈は、南側の流紋岩（花崗斑岩）と北側の流紋岩質凝灰岩からなり、三尾川付近より西では断層として認められる。東方への延長は、古座川の宇津木を経て浦神へと連続する。これらの地層岩石の他、流域には南北性の流紋岩（石英斑岩）の岩脈が、大塔山の方向に雁行状に見られる。 古座川は、大塔山系を始め、紀南の山岳から流れる河川で、多くの支流を擁し大小さまざまな滝があり、巨岩・奇岩も多く、景観としても見事な場所が多い。観光地として、この地域には多くの人々が訪れる。古座川は、1 年を通して豊富な水量をたたえ、熊野灘に流れ込んでおり、流域には自然林も多い。 上流部のツブラジイ（コジイ）林には、樹幹に着生するマメヅタラン、ムギラン、ミヤマムギラン等が見られる。中流部は火成岩の岸壁が多く、クルマギクやウナヅキギボウシ、キイジョウロウホトトギス、キイイトラッキョウ、ウチョウラン等の着生が見られる。また、支流の立合川の岸壁でタキユリの自生が確認された。オオママコナはキノクニスズカケ植林地の林縁で見られるが、ニホンジカの食害を受けて個体数が減少している。明神の休耕地にあった広大なチョウジソウの群落は、砂利の集積地が谷の入り口から奥へと拡大したことで大きく縮小した。 哺乳類では、この地域の谷筋にカワネズミ、森にヒメネズミ、ヤチネズミ、ヤマネ、ツキノワグマ、ニホンカモシカが生息している。また、廃坑等の洞穴ではキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ等が確認されている。 支流の小川に「滝の拝」という場所があり、河床の地形が特異である。その周辺等ではニホンイモリやカエル類が観察でき、繁殖も確認されている。周辺の森林・湿地にはニホンヒキガエルも多数生息し、ヘビ類も多くの種類が生息する。流域の水田・湿地・池等やその周辺では、ニホンイシガメ、トノサマガエル、ツチガエル、ヤマアカガエル等が生息する。 貝類では、古座川流域は、クロズギセル、ヒラマキビロウドマイマイ、キヌツヤベッコウのタイプ産地であり、紀南地域の那智とともに、陸産貝類の多産地でもある。これらの種は、礫の多いスギ林が主な生息地である。 更に、古座川は上流から下流まで比較的濁りの少ない数少ない河川であり、魚類や十脚甲殻類が豊富に生息している。中流域のヌマエビから見つかるエビヤドリミミズや、汽水域から見つかるカワスナガニ、アリアケモドキは貴重である。 河口には広い感潮域があり、サケ科やアユ、カジカ科、ハゼ科等の通し回遊魚が非常に多く、豊かな生物相が見られるが、近年の開発の影響が懸念される。ユウスイミミズハゼやカマキリ（アユカケ）等、希少な魚類も数多く生息している。淡水域では、本流にダムが建設されて外来魚も多く見られるが、支流では比較的状態の良い自然環境が残り、観光資源にもなっている。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（平井厚志）、魚類（平嶋健太郎）、貝類（湊宏）、その他無脊椎動物（和田恵次）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	古座川町 串本町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
30	那智山周辺	森林 里山	那智山周辺の山の上部には、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）が分布し、山麓には砂岩、礫岩、砂岩泥岩互層からなる熊野層群の三津野累層が分布する。山の上部は火成岩であるため、下部の堆積岩に比して侵食力に強く、従って、上部は急峻な地形になり、那智の滝の形成もこのような差別侵食による。また、付近には火成活動に伴う妙法鉱山等、いくつかの銅鉱床があり、かつては稼行していた。 本地域は、大雲取山（966.2 m）・烏帽子山（909.5 m）・妙法山（749.5 m）にまたがる山域で、それぞれ分水嶺となって北方向に熊野川支流高田川が、南東方向に那智川、南方向に太田川支流熊瀬川が流れ始める。日本有数の多雨地で、地形は急峻であり、切り立つ岸壁に挟まれた廊下状の峡谷が所々に形成されている。烏帽子山から妙法山一帯は吉野熊野国立公園の一部であり、国指定天然記念物那智原始林や那智の滝は著名である。 この地域は、那智の滝の東側、標高 120~548 m の南向き斜面に位置する森林で、標高 400 m 付近ではツガやスギが混じるが、大部分は照葉樹林である。標高約 200 m には東西に発電用水路があり、水路を境に上下で植生が異なる。上部森林は主にツブラジイ（コジイ）やウラジロガシからなり、下部はクスノキ、ホルトノキ、イチイガシ、バクチノキ、ヒメユズリハ等、樹種も豊富で大径木も多い。湿度が高いため、シダ植物やつる植物、着生ランも多い。シダではリュウビンタイ、ヤワラハチジョウシダ、ナンカクランが、つる植物ではウドカズラ、サカキカズラ、カギカズラ、着生ランではマメヅタラン、ムギラン等である。 菌類では、シイノトモシビタケが 1995 年に八丈島以外の国内記録として和歌山県すさみ町周辺で発見されたことから、県内南部のシイ林を調査したところ、那智山周辺でも発生が確認された。 哺乳類では、ヤチネズミ、ニホンリス、ニホンカモシカ等が生息している。更に、廃坑等の洞穴ではキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ等が確認されている。 昆虫類では、ナチグロコナジラミ、ナチキシタドクガ、ナチアオシャチホコ、ナチセスジゲンゴロウ等、那智の名を冠する昆虫類のタイプ産地であり、ナンキセダカコブヤハズカミキリやミツギリゾウムシ等も生息する。 那智山は、陸産貝類にとって紀南の代表的な生息地で、ここをタイプ産地とする種が多い。ナチマイマイ、マルクチコギセル、アナナシマイマイ、キイゴマガイ、ベニゴマガイ等が挙げられる。 爬虫類・両生類では、那智山周辺の源流域にハコネサンショウウオ等が生息し、那智川上流部にニホンイシガメ、ニホンイモリ、カジカガエル等が生息する。 魚類では、急傾斜に広がる棚田周辺のため池等にミナミメダカ東日本集団が残る。しかし、近年は耕作放棄地が増え、外来魚の侵入もあり、影響が懸念される。 【哺乳類（細田徹治）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、菌類（菌類専門部会）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	那智勝浦町 新宮市

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
31	宇久井半島	海岸 森林	この地域は、砂州によって標高 57.9 m の島が宇久井の陸側と接続したトンボロ（陸繋島）の地形をなし、北側の浜は砂州の原形をとどめている。 目覚山から駒が崎にかけて、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）が、地玉の浜には牟婁付加シークエンスの田並川層が分布する。外の取の流紋岩は、きれいな柱状節理が発達する。地玉の浜の田並川層の礫岩層中には、オルソコーツァイト礫が含まれている。 半島全体には、スダジイ、タブノキ、ヤブニッケイ、ヤマモモ、モチノキ、ホルトノキ等の照葉樹林が広がり、オガタマノキやハマセンダンが多いのも特徴と言える。また、アオノクマタケラン、ヒロハテイショウソウ、ハルザキヤツシロラン、リュウビンタイ、ヘゴ等が確認されている。 菌類では、シイノトモシビタケが 1995 年に八丈島以外の国内記録として和歌山県すさみ町周辺で発見されたことから、県内南部のシイ林を調査したところ、宇久井半島周辺でも発生が確認された。 昆虫類では、この地域は、本州唯一のルイスツノヒョウタンクワガタとトゲウスバカミキリの生息地であり、他にもカグヤヒメキクイゾウムシやネジロツブゾウムシ、キイロミヤマカミキリ、コヒラタホソカタムシ等の南方系甲虫類が多く生息している。 【昆虫類（的場　績）、菌類（菌類専門部会）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	那智勝浦町

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
32	王子ヶ浜及び孔島・鈴島周辺	海岸 島嶼 森林	王子ヶ浜は、熊野川の河口から南西方向に延長 3.2 km、幅 50 m に広がる礫浜で、一部砂州を形成する。ストームベンチやカスプが発達する。鈴島には小規模な貫通した海食洞があり、孔島には波食棚が広がる。 鈴島、孔島は牟婁付加シークエンスの田並川層の砂岩泥岩互層や砂岩、及びそれを不整合で覆う熊野層群の小口累層が分布する。両者の不整合は孔島の波食棚で観察できる。 王子ヶ浜には、ハマボウ、ハマアザミ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ等の海浜植物群落が見られる。広角台地中央部の谷沿いは、リュウビンタイ、クサマルハチの大群落等があり、大変貴重である。広角から三輪崎に続く高野坂でもリュウビンタイ等の自生地がある。孔島は、ハマオモトの群生地として知られているが、数少ないノアサガオの自生地として貴重である。 また、王子ヶ浜はアカウミガメの産卵地である。地域の人々が長くその上陸・産卵の調査・記録を行い、保護活動を続けている。 鳥類では、孔島・鈴島において、ウチヤマセンニュウが繁殖する。 【鳥類（沼野正博）、爬虫類（玉井済夫）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	新宮市
番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
33	新宮藺沢浮島の森	湿地 森林	浮島の森は、縄文海進後の海退に伴って形成された沼沢・湿地帯にできた泥炭層からなる。上位の泥炭層と粘土層を挟在する下位の泥炭層との間には水層があり、島の西側では上位の泥炭層が浮遊した状態にある。下位の泥炭層中には、7,300 年前に降下したアカホヤ火山灰層が挟まれている。 昭和の初めに天然記念物に指定された当時は、高木のスギが 337 本記録されていて、島全体をスギが覆っていたと考えられる。最近の調査では、スギの本数が減少し、現在では移植スギを合わせて 150 本程になっている。ヤマモモやクスノキ等の常緑樹が増加して林床は暗くなり、陽樹であるスギの幼木が生育できない状況となっている。林床では、耐陰性の強いミミズバイやトウゴクシダが増加しているのが現状である。林床を明るく保ち、いかにして遷移を遅らせるかが課題と言える。なお、希少種であるマツバランやテツホシダは増加傾向にあり、ヤマドリゼンマイは 13 ヶ所で生育が確認されている。また、本地域は国の重要湿地にも選定されている。 【植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	新宮市
番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
34	千穂ヶ峯	森林	標高 253.4 m の千穂ヶ峯は、熊野酸性火成岩類の流紋岩（花崗斑岩）からなる。山体の西側は、熊野川の浸食により急崖をなす。 植物では、多くの絶滅危惧種が確認されている。リュウビンタイやクサマルハチ、ムカゴサイシンの他、シロシャクジョウやモウセンゴケ等、ごく狭い範囲にこれだけ多くの希少植物が見られるのは大変珍しい。 また、哺乳類では、ニホンカモシカやアカギツネ等が確認されている。 【哺乳類（細田徹治）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	新宮市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
35	白見山	森林	白見山周辺は、古くから林業施業地として利用されてきた地域である。しかし、自然林も残されていて、田長谷は独特の地形を有し、下流部には立派な鼻白滝があり、貴重な生物が多く残っている。 本地域では、白見山から大雲取山まで、ほぼ南北に標高 900 m の稜線が続いている。西側の大部分は植林地だが、東側の一部と稜線部には自然林が残り、下部はツブラジイ林、次いでモミ・ツガ林、最上部はアカガシ林となっている。急峻な崖地にはアケボノツツジが自生し、ブナも数本見られる。また、植林地の林床で、シコクスミレやバイケイソウの生育が確認されている。 哺乳類では、この地域の周辺において、ヒメヒミズ、カワネズミ、ヤチネズミ、ヤマネ、ニホンカモシカが生息し、廃坑等の洞穴ではテングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ等が確認されている。 また、両生類では、マホロバサンショウウオ等が生息し、かつてはハコネサンショウウオもいた。田長谷にはナガレヒキガエルやニホンイモリが生息する。 更に、昆虫類では、ナンキセダカコブヤハズカミキリが記録されている。 【哺乳類（細田徹治）、両生類（玉井済夫）、昆虫類（的場　績）、植物（瀧野秀二）】	那智勝浦町 新宮市

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
36	和田川峡	森林 河川	和田川は、熊野川の支流赤木川の支谷で、源流は足郷山、小口で赤木川に合流する。和田川峡は、下流部で支谷の鳴谷から白谷までの間を指し、浸食作用による渓谷美を醸し出す。一部に長瀞と呼ばれるところもある。 付近には、泥岩や砂岩泥岩互層からなる熊野層群小口累層が分布する。 この地域は、足郷山（889 m）を源とする和田川峡と、那智勝浦町大野地内の峯山（879 m）を源とする静閑瀞に挟まれた大倉畑山（774.5 m）を擁する峡谷と山域である。 和田川峡、静閑瀞ともに複雑に蛇行する峡谷で、独特のゴルジュ帯（V 字谷）を形成しており、比高の大きい切り立つ岩崖が独特の景観を呈している。いたるところに険しい支谷が合流し、優れた崖地植生が残されている。 和田川両岸の断崖部は、ツブラジイ（コジイ）やウバメガシが優占する二次林で、上部の尾根筋はツガ、ゴヨウマツ、ヒノキ等の自然林が残存する。県道沿いの岸壁にはクルマギク、川沿いの岸壁にはラン科植物の他、キイジョウロウホトトギス等の生育が確認されている。 両生類では、源流域に、ハコネサンショウウオやナガレヒキガエル等が、流域中部のやや開けた流れに、ニホンイモリ、ニホンヒキガエル、カジカガエル等が生息している。 昆虫類では、上流部にナガサキクビナガゴミムシ、ヨツモンカタキバゴミムシ、タマヌキオニゾウムシ等の希少種が記録されており、足郷山付近では、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、ルイスヒゲボソゾウムシ等のレッドデータブック掲載種や希少種のヘリハネムシが記録されている。 哺乳類では、和田川沿い県道の隧道において、ノレンコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリが確認されている。また、森林内にはニホンカモシカやヤチネズミが生息する。 魚類では、ナガレホトケドジョウやサツキマス（アマゴ）の生息が確認されている。特に、人の影響が少ないため、サツキマス（アマゴ）等のサケ科魚類等の繁殖が確認されている。ただし、過去にアユやサケ科の放流も行われており、これらの在来の個体群は既に失われていると考えられる。 【哺乳類（細田徹治）、両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	新宮市

生物多様性保全上注目すべき地域一覧表

番号	名 称	主な生態系	概　　要	市町村
37	熊野川流域	河川 森林 里山	この地域には、熊野川の河口から田長にかけて、熊野酸性火成岩類が分布し、河岸が断崖をなすことが多く、九里峡と呼ばれ、畳岩や釣鐘岩、陽石、なびき石、葵の滝、布引滝等の景観をつくる。田長の猪岩は、右岸に張り出す流紋岩（花崗斑岩）の断崖である。また、田長谷は、流紋岩、一部流紋岩質凝灰岩の分布域の西側の縁を流下し、下流部に鼻白の滝をつくる。 また、日足付近には流紋岩質凝灰岩が分布する。日足から請川付近には、熊野層群の小口累層や三津野累層が、請川から本宮にかけては音無川付加シークエンスの羽六層が分布する。熊野川左岸の椋呂付近では、大峰酸性岩類の火成活動に伴う岩脈が低角で熊野層群中に貫入している。 北山川は、穿入蛇行をくり返しながら、七色ダムから下流で峡谷（七色峡、北山峡、瀞八丁）や淵（相須ケ淵、黒淵）、瀬、中州（大沼）、河岸段丘（下尾井）を形成しながら流下し、宮井で本流と合流する。 七色ダムから玉置口付近の東西に延びる板屋断層までは、日高川帯の竜神付加コンプレックスの地層が分布する。そこから宮井までの間には熊野層群の小口累層や三津野累層が分布し、右岸側の山の中腹には大峰酸性岩類の火成活動に伴う流紋岩（花崗斑岩）の岩脈が低角で貫入している。 熊野川は、大峰山脈・台高山脈・護摩壇山系・果無山脈・大塔山系等、紀伊山地を流域とする紀伊半島最大の河川である。奈良県山上ヶ岳（1,719 m）を源に十津川渓谷を南に流れる十津川と、大台ヶ原山一帯を源に七色峡、瀞峡を経て南西に流れる北山川が熊野川町宮井地区で合流し、新宮市で熊野灘に注ぐ。優れた自然環境として、大台ヶ原山から大峰山地、北山川流域、熊野川河口部にかけて広く吉野熊野国立公園の陸域に指定されている。 和歌山県では田辺市（本宮町）、新宮市、北山村が熊野川流域となる。中でも、北山村（飛地）から新宮市熊野川町、新宮市田長谷にかけては熊野川の浸食によって険しい岩崖地が形成され、独特の峡谷景観を呈している。 流域の森林は、ほぼスギ・ヒノキの植林地であるが、一部にはツブラジイ（コジイ）等の常緑樹林が残る。河岸の植物ではキイイトラッキョウ、カワゼンゴ、ドロニガナ、ドロノシモツケ等の多くが七色峡から下流域まで分布している。また、北山川支流の四の川上流部の湿岩上にはセンダイソウが見られ、ミヤマムギラン等の樹幹への着生も見られる。 哺乳類では、森林にツキノワグマ、ニホンリス、ニホンカモシカが生息し、流域に点在する廃坑等の洞穴ではキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリが確認されている。 鳥類では、瀞峡周辺に、ヤイロチョウやアカショウビン等、希少種が繁殖する。 爬虫類・両生類では、流域にマホロバサンショウウオ、ハコネサンショウウオ等が生息し、本流やその周辺の里山にニホンイシガメ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、カジカガエル等が生息している。 昆虫類では、熊野川下流域にトラハナムグリやアイヌハンミョウ、アイヌテントウ等、和歌山県では山地性の種と思われる昆虫類が記録されており、モリモトシギゾウムシ、ナラノチャイロコガネ、カワラバッタ等の希少種も記録されている。田長谷は、コルリクワガタの分布南限であり、紀伊半島固有種のホングウオビモンヒョウタンゾウムシとスサミオビモンヒョウタンゾウムシの分布境界でもあり、谷の下流域ではホングウオビモンヒョウタンゾウムシ、上流部ではスサミオビモンヒョウタンゾウムシがそれぞれ分布している。 陸産貝類では、ミツクリギセル、シリブトギセル、サドヤマトガイ等、多くの種が記録されている。また、ナチマイマイ等も生息している。 一方で、河口は常時閉塞気味であり、河川敷の改修等が頻繁に行われているため、通し回遊魚への影響が懸念される。淡水域は、ダムからの放水で濁度が高いが、北山川や赤木川等の支流は透明度が高く、生物量も多い。アユ、スナヤツメ科、サツキマス（アマゴ）等の魚類が生息している。 【哺乳類（細田徹治）、鳥類（沼野正博）、爬虫類・両生類（弓場武夫）、魚類（平嶋健太郎）、昆虫類（的場　績）、貝類（湊　宏）、植物（瀧野秀二）、地形・地質（吉松敏隆）】	北山村 田辺市 新宮市

おわりに ― 生物多様性和歌山戦略推進調査会からの提言 ―

高須　英樹

「はじめに」でも触れたように、前回の「保全上重要な和歌山の自然－和歌山県レッドデータブック－」（2012 年改訂版）は、レッドデータブック改訂に特化した委員会が設置されて作業を進めた。しかし、2016 年 3 月に「生物多様性和歌山戦略」が策定されたことを受けて、同年に「生物多様性和歌山戦略推進調査会」が発足し、2019 年には「和歌山県の外来種リスト」をまとめた。今回の「和歌山県レッドデータブック」2022 年改訂版もこの推進調査会が中心となって改訂作業を行った。

「外来種リスト」では、それまでのレッドデータブックでは取り上げてこなかった「その他無脊椎動物」に加えて「菌類」も検討分類群に加え（しかし、菌類で該当するものはなかった）、選定のための体制が改善されたことを受けて、2022 年改訂版では、海水・海岸域の魚類、汽水・海岸域の貝類、刺胞動物、紐形動物、環形動物等を含む無脊椎動物、そして植物における蘚苔類など、扱う分類群とその範囲を大きく増加させることができたことは大きな前進である。さらに、「生物多様性保全上注目すべき地域」、いわゆるホットスポットの項目を設けて、個別分類群の観点だけでなく、全体として守るべき生物多様性の高い地域の選定と評価も行うことができた。一方で、依然として当該分類群の専門家の不在のため取り上げることのできなかった多くの分類群が存在することも事実である。

レッドデータブックで取り上げる種の選定は、基本的にその種の希少性に基づいている。これは環境省によるレッドデータブックが IUCN（国際自然保護連合）の新カテゴリーに準拠しているからである。評価基準としては、個体数減少の速度、分布域、個体群内における成熟個体数、存続可能性分析などが採用され、種がその内の一つの基準でも設定された値に該当する場合は、そのカテゴリーに含められることとされている。しかし、絶滅危惧種に該当するような種は、個体数や生息・生育地点も少なく、状況を正確に把握することが難しい場合も多い。そのため環境省版のレッドデータブックでは、定性的な基準も設けられている。

とはいえ、今後のレッドデータブックにおいては、実際的で有効な保護・保全対策に役立てるためにも、数量的な情報とそれに基づいた評価が必要である。この点に関しても残念ながら今回も多くの分類群でこうした評価は行うことができなかった。このためには研究者の確保は勿論、継続的な調査と標本の蓄積が欠かせない。早急な体制の構築を進める必要がある。「情報不足」として選定せざるを得なかった多くの種についても同様の課題が指摘できる。2012 年改訂版では、改訂委員会からの提言として、将来に向けての課題を整理すると共に、保護・保全に向けての取り組みをまとめた。10 年を経た今回の改訂にあたって、この提言を検討してみると、いくつかの課題に対してはその解決が図られたものもある一方で、具体的な取り組みについてはあまり進展したとは考えにくい。従ってかなり重複することになることは承知の上で、改めて推進調査会からの提言としてまとめておきたい。

① 環境改変・開発行為からの生息・生育地の保護と保全

人為による「自然の開発」という名の環境の破壊や改変は、生物の絶滅の最も主要な要因である。従って自然環境に対するあらゆる働きかけにおいて、絶滅危惧種の生息・生育地は努めて保護されるべきである。その際、重要なことは、その生物が生息・生育している地点のみを保護するのではなく、周辺地域を含めて保護・保全が図られる必要がある。このことは湿地や沼地あるいは塩性湿地を含む干潟環境の保護を考えても明白である。事業主体の如何を問わず、また規模の大小を問わず、このレッドデータブックの情報を十分周知してもらいたい。

② 乱獲および盗掘防止策の検討及び強化

特に植物の場合、心ない人々による観賞のための採取が絶滅の危機を高めている。昆虫や両生・爬虫類、魚類等でも様々なルートを通して商品として野生生物を売り買いしている現実がある。このことを踏まえると、希少種の産地情報の取り扱いについては十分配慮すべきであるが、土地所有者をはじめ関係市町村との連携のもとに、適切な対策が取られることを望みたい。具体的には、監視体制の強化や立入禁止区域の設定、自然環境保全地域の拡大および新規指定を含めた見直しや継続的な検討、種の保存条例の制定や整備、あるいは様々な生物販売業者に対しての保護のための協力要請や入手・取引・販売に対する適切な指導等である。

③ 生息・生育地における増殖および施設等での保全

遺伝子汚染や国内移入の課題には十分配慮しつつ、「野生絶滅」種や一部の「絶滅危惧ⅠＡ類」の種については、例えば「生物多様性センター」や「自然保護センター」等の施設における、生息・生育地外保存や増殖、また、精子や種子、花粉等の保存のための検討が図られることを望みたい。

④ 移入種に対する対策

2019 年に「和歌山県の外来種リスト」がまとめられたが、特に動物の場合、「特定外来生物」による在来種への直接的、間接的影響は看過できないものがある。また、植物においても移入種による遺伝子汚染が明らかにされている。しかし、現状ではこれら「特定外来生物」に対する除去等の具体的な対策が十分図られているとは言い難い。広く県民に対する情報の公開・提供を含めて、具体的な捕獲や除去等の対策の検討をお願いしたい。

最後に

「絶滅危惧種」の生息・生育状況は絶えず変化している。しかもこの変化の殆ど全ては悪化への変化である。「今日の普通種は、明日の絶滅危惧種」といわれる所以である。こうした状況を考えると、レッドデータブックとそこに記載された生物種の現状が意味のある情報となり続けるためには、常に新しい状況を取り込むための改訂を継続して行う必要がある。しかし、部会によって違いはあるものの、「推進調査会」自身が委員の高齢化や若手研究者の不足によって「絶滅」の危機に瀕しつつある現状に対しての早急な対策が求められている。

索　　引

名称は標準和名で記載しています。

●動物

ア

アイヌテントウ……240
アオアシナガハナムグリ……236
アオウミガメ……121
アオギス……142
アオサギガイ……422
アオサナエ……219
アオバズク……101
アオハダトンボ……203
アオヤンマ……195
アカウオ……177
アカウミガメ……121
アカエゾゼミ……204
アカギツネ……82
アカゲラ……111
アカザ……153
アカサビザトウムシ……498
アカジマトラカミキリ……258
アカショウビン……96
アカヘリミドリタマムシ……257
アカホシマメガニ……492
アカマダラセンチコガネ……257
アカマダラハナムグリ（アカマダラコガネ）……235
アカメ……155
アゴヒロカワガニ……490
アサヒキヌタレガイ……335
アシガイ……392
アシベマスオ……409
アズマヒキガエル……136
アダムスタマガイ……360
アツカガミ……307
アナジャコ……483
アナナシマイマイ……334
アブラハヤ……179
アブラボテ……145
アマツバメ……116
アマハゼ……161
アヤムネスジタマムシ……210
アヤモンチビカミキリ……270
アユ……170
アラウズマキ……318
アラゲコナダニモドキ……471
アラハダヒロベソマイマイ……420
アリアケモドキ……457
アリアケヤワラガニ……485
アリソガイ……338
アワジチガイ……422
アンチラサメハダホシムシ……470

イ

イオウハマグリ……340
イガブチヒゲハナカミキリ……241
イカルチドリ……108
イザナミツノヤドカリ……485
イシダコシビロダンゴムシ……479
イセシラガイ……304
イソカゼガイ……308
イソジョウカイモドキ……239
イソタナグモ……474
イソチドリ……296
イソハマグリ……397
イソマイマイ……318
イタボガキ……303
イチハシシギゾウムシ……271
イチモンジタナゴ……145
イチモンジミミズハゼ……175
イチョウシラトリ……305
イッシキキモンカミキリ……202
イッセンヨウジ……170
イツツメクモヒトデ……494
イトカケギセル……419
イトカケゴウナ……373
イトヒゲモジャハゼ……166
イドミミズハゼ……155
イトメ……467
イトモロコ……153
イノウエヤマトガイ……415
イボイボクルマカギナマコ……496
イボイボナメクジ……332
イボウミニナ……314
イボキサゴ……345
イリエツボ……290
イワカワトクサ……324

ウ

ウキゴリ……165
ウスイロオナガシジミ……260
ウスイロシマゲンゴロウ……256
ウスグロボタル……269
ウスコミミガイ……383

ウズザクラ……389
ウスハマグリ……307
ウズマキキセワタ……415
ウズラ……92
ウチノミカニダマシ……447
ウチノミクモヒトデ……495
ウチノミツボ……317
ウチヤマセンニュウ……103
ウツセミガイ……414
ウツセミカジカ……149
ウネイトカケギリ……377
ウネナシイトカケ……321
ウネナシトマヤガイ……394
ウネボラ……294
ウネムシロ……295
ウマノオバチ……216
ウミコハクガイ……319
ウミタケ……342
ウミニナ……352
ウミネコ……115
ウミヒメカノコ……311
ウミヒメカノコ近似種……312
ウミホソチビゴミムシ……207
ウミミズギワゴミムシ……255
ウメボシイソギンチャク……442
ウモレベンケイガニ……450
ウモレマメガニ……487
ウラカガミ……308
ウラキンシジミ……202
ウラギンスジヒョウモン……203
ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種……273
ウラナミジャノメ……194
ウラミスジシジミ……260
ウルシゴキブリ……262
ウロコガイ……401

エ

エサキアメンボ……205
エゾエンマコオロギ……254
エゾトラカミキリ……214
エゾトンボ……221
エゾミドリシジミ……247
エドイトカケギリ……374
エドガワミズゴマツボ（ウミゴマツボ）……359
エドハゼ……152
エビヤドリミミズ……497
エボシダニ……474

オ

オウギウロコガイ……309
オオアカゲラ……112
オオアシナガサシガメ……254
オオアリツカコオロギ……263
オオイトトンボ……218
オオウスバカゲロウ……198
オオウナギ……159
オオウラギンスジヒョウモン……216
オオウラギンヒョウモン……193
オオカミ……71
オオキトンボ……196
オオギホソダニ……472
オオクチブトカメムシ……198
オオコオイムシ……205
オオコノハズク……101
オオサカスジコガネ……235
オオサンショウウオ……128
オオシイノミガイ……378
オオシマドジョウ……179
オオシロオビゾウムシ……215
オオシロシタバ……261
オオズウミハネカクシ……234
オオダイオオナガゴミムシ原名亜種……266
オオダイガハラサンショウウオ……128
オオダイナガゴミムシ……266
オオダイルリヒラタコメツキ……239
オオタカ……100
オオチャバネセセリ……251
オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ……270
オオトラカミキリ……215
オオトリガイ……395
オオネズミガイ……319
オオノガイ……404
オオハサミコムシ……217
オオヒョウタンゴミムシ……200
オオヒライソガニ……456
オオヒラベッコウ……419
オオホソコバネカミキリ……241
オオミドリシジミ……247
オオミミズハゼ……162
オオムツボシタマムシ……257
オオムラサキ……250
オオモモノハナ……390
オオヨシゴイ……89
オオヨシノボリ……158
オオルリボシヤンマ……219
オガイ……294

オガサワラクビキリギス……263
オガタザラ（オガタザクラ）……305
オカミミガイ……288
オカメハゼ……179
オカメブンブクヤドリガイ……425
オカモトツヤアナハネムシ……240
オキナガイ……425
オキナワヤワラガニ……448
オグマサナエ……220
オサガニ……459
オサガニヤドリガイ……404
オシドリ……105
オダマキ……364
オチバアナアキゾウムシ……272
オチバガイ……392
オツネントンボ……217
オニサザエ……368
オニヌマエビ……480
オニボラ……172
オフクマスホガイ……343
オマセムシロ……323
オヨギカタビロアメンボ……228
オリイレシラタマガイ……363
オリイレボラ……324
オロチヒモムシ……464

カ

カイウミヒドラ……462
カエデノヘリグロハナカミキリ……213
カキウラクチキレモドキ……375
カギヒダギセル……418
カクレイワガニ……487
カジカ……143
カジカガエル……135
カシパンヤドリニナ……366
カシマイボテカニムシ……499
カシマセスジアカムカデ……475
カスガコギセル……299
カスミゾウムシ……271
カタマメマイマイ……302
カチベニジムカデ……499
カッコウ……107
カニノテムシロ……368
カニモリガイ……412
カネコスズカゴ……292
カネコトタテグモ……439
カネヒラ……146
カノコガイ……410
カハタレカワザンショウ……321
カブトガニ……439
カマキリ（アユカケ）……148
カマツカ……168
カマヒレボラ……172
カマヒレミミズハゼ……176
カミスジカイコガイダマシ……327
ガムシ……234
カモジガイ……395
カヤキリ……223
カヤネズミ……81
カヤノミカニモリ……350
カワアイ……315
カワグチツボ……356
カワスナガニ……458
カワテッポウエビ……482
カワネジガイ……297
カワネズミ……75
カワバタモロコ……168
カワヨウジ……170
カワラゴミムシ……199
カワラバッタ……225
カワラハンミョウ……190
ガンギハマグリ……400
カンムリウミスズメ……114

キ

キイオオベソマイマイ……420
キイオビヤスデ……500
キイキビ……408
キイギボウシヤスデ……477
キイコナダニモドキ……471
キイゴマガイ……416
キイツムガタギセル……416
キイフキバッタ……262
キイホラワラジムシ……478
キイロサナエ……204
キイロヤマトンボ……196
ギギ……160
キクガシラコウモリ……78
キサゴ……345
キシノウエトタテグモ……445
キトンボ……222
キヌイトカケ……365
キヌタアゲマキ……393
キヌタレガイ……384

キヌツヤベッコウ……381
キノボリトタテグモ……445
キバシリ……104
キバネアシブトマキバサシガメ……230
キバネセセリ……194
ギフチョウ……192
キベリクロヒメゲンゴロウ……233
キボシケシゲンゴロウ……232
ギボシマメガニ……492
キュウシュウナミノコ……391
キリシマミドリシジミ……248
キンイロネクイハムシ……242
キンスジコガネ……210
キンランカノコ……348

ク

クイナ……106
クシケマスオガイ……405
クシテガニ……441
クチナガコオロギ……226
クチバガイ……397
クチマガリマイマイ……382
クツワムシ……224
クニミシモフリコメツキ……211
クビレクガビル……469
クボハゼ……151
クボミテッポウエビ……483
クマタカ……94
クモガタヒョウモン……249
クモマトラフバエ……272
クラエノハマイトカケギリ……374
クリイロカワザンショウ……359
クリイロマンジ……371
クレハガイ……365
クロサギ……97
クロサワヒメコバネカミキリ……213
クロシジミ……249
クロズギセル……330
クロゾウヨシダヒメヤスデ……500
クロソンホソハナカミキリ……212
クロツグミ……113
クロツバメシジミ……202
クロツヤコオロギ……224
クロバアカサシガメ……230
クロヒカゲモドキ……250
クロヒバリモドキ……264
クロヒメヤスデ……476
クロブチボウセキウロコムシ……468
クロホオヒゲコウモリ……74
クロホソコバネカミキリ……214
クロマダラタマムシ……237
クロマドボタル……269
クワヤマハネナガウンカ……227

ケ

ケタスケチビイブシダニ……473
ケナガコシビロダンゴムシ……479
ケハダビロウドマイマイ……301
ケフサヒライソモドキ……490
ケマンガイ……399
ゲンゴロウ……200

コ

コアジサシ……90
コウヤササキリモドキ……263
コウヤスベザトウムシ……444
コウヤナナフシ……264
コオイムシ……229
コオキナガイ……310
コオロギガイ（コベルトカニモリ）……411
コガタガムシ……201
コガタカンタン……226
コガタノゲンゴロウ……255
コガタノサビコメツキ……237
コカタビロゾウムシ……245
コガネチワラスボ……157
コカブト……236
コガムシ……233
コキクガシラコウモリ……78
コゲツノブエ……351
コサナエ……262
コサメビタキ……114
コシアカツバメ……113
コシビロザトウムシ……498
コシボソギセル……331
コスジギセル……417
コヅツガイ……400
コテングコウモリ……84
ゴトウヒサゴナガカメムシ……265
コノハズク……95
コハギガイ（ガタヅキ）……409

コハゲギセル……417
コバネアオイトトンボ……195
コバンムシ……197
コブシアナジャコ……484
コマイハナゴケ……463
ゴマオカタニシ……382
ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ……270
ゴマツボ……316
コマドリ……92
コマハゼ……161
ゴマハゼ……164
ゴマフダマ……293
ゴマフホラダマシ（ナガゴマフホラダマシ）……323
コミミズク……95
コメツブツララ……326
コモリヒラタゴミムシ……267
コヤスツララ……379
コルリ……104
コンゴウクリイロベッコウ……331
コンジンテナガエビ……481

サ

サクラガイ……387
ササゴイ……97
サザナミツボ……357
サザナミマクラ……385
サシバ……111
サツキマス（アマゴ）……147
サツマニシキ本土亜種……252
サドヤマトガイ……333
サナギガイ……298
サナギモツボ……313
サナダユムシ……469
ザラテテナガエビ……480
サンコウチョウ……103
サンショウクイ……112

シ

ジーコンボツボ……355
シータテハ……193
シイボルトコギセル……300
ジェイギセル……417
シオマネキ……440
シオヤガイ……398
シグマクダタマ……327
シゲオマイマイ……421
シゲヤスイトカケギリ……376
シタゴコロガニ……488
シダスケバモドキ……227
シダレイトゴカイ……467
シチクガイ……372
シマクイナ……115
シマトラフヒメシャコ……477
シマヒレヨシノボリ……180
シモヤマミズギワゴミムシ……199
ジュウイチ……99
シラオガイ……398
シラギク……357
シラスウオ属の一種……178
シラタエビ……481
シラハマナガゴミムシ……266
シリグロナカボソタマムシ……201
シリブトギセル……330
シルビアシジミ……261
シロウオ……150
シロウズツヤケシコメツキ……258
シロスジコガネ……236
シロスジナガハナアブ……259
シロチドリ……108
シロバリギセル……418
シロヒレタビラ……167
シロモリサキギセル……300
ジンガサウニ……495

ス

スカシエビス……344
スジウネリチョウジガイ……316
スジゲンゴロウ……191
スジホシムシモドキ……470
スジホシムシヤドリガイ……402
スズキナガハナアブ……260
スズメガイダマシ……466
スダレハマグリ……399
スナウロコムシヤドリガイ……310
スナガニ……460
ズナガニゴイ……159
スナヤツメ（南方種）……143
スネナガイソガニ……489
ズベタイラギ……386
スミスネズミ……84

セ

セアカオサムシ……207
セキモリ……364
セグロイナゴ……226
セグロホソクビゴミムシ……232
セスジイトトンボ……218
セトウチサンショウウオ……130
セムシマドアキガイ……311
セワケガイ……340

ソ

ソウジマミジンマイマイ……416
ソトオリガイ……426

タ

タイコウチ……229
ダイダイイソミミズハゼ……162
ダイミョウアトキリゴミムシ……208
タイワンエンマコオロギ……264
タイワンオオヒライソガニ……502
タイワンキサゴ……346
タイワンクツワムシ……224
タイワンツバメシジミ……192
タイワンヒライソモドキ……455
タガソデモドキ……394
タカノケフサイソガニ類似種……502
タガメ……197
タケウチホソハナカミキリ……212
タケノコカワニナ……315
タシナミオトメマイマイ……420
タニシツボ……355
タビラクチ……150
タマシギ……93
タマシキゴカイ……466
タマヌキオニゾウムシ……245
タワヤモリ……123

チ

チクゼンハゼ……166
チクチクツボ……407
チゴイワガニ……458
チゴマテ……342
チドリマスオガイ……424
チビハネアシダニ……473
チビマキギヌ（シロヒメゴウナ）……372
チャイロフタナシシャジク……371
チャイロマルハタ……173
チュウガタスジシマドジョウ……146
チュウサギ……105
チュウヒ……100
チリメンイトゴカイ……467
チワラスボ（チワラスボＢ種）……156

ツ

ツガイ……362
ツキノワグマ……77
ツシマキモンチラシ……261
ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種……268
ツチガエル……133
ツツドリ……107
ツツミガイ……362
ツノアカツノカメムシ……207
ツノコナダニモドキ……472
ツノホラワラジムシ……478
ツバサゴカイ……443
ツバサコハクカノコ……313
ツブカワザンショウガイ……291
ツボミ……344
ツマグロキチョウ……246
ツマグロコメツキ……237
ツミ……110
ツヤガラス……421
ツヤヒラタコメツキ……238
ツヤマイマイ……334

テ

テリザクラ……336
テングオオヨコバイ……205
テングコウモリ……76
テングニシ……367
テングヨウジ……171
テンジクカワアナゴ……180

ト

ドウンケルクチキレ（エバラクチキレ）……377
トカシオリイレ……296
トクナガヤドリニナ……367
トゲアシヒライソガニモドキ……454
トゲウスバカミキリ……258
トゲツノカメムシ……231
トゲトゲツボ……406
トゲナベブタムシ……198
トゲミズギワカメムシ……228
ドジョウ……169
トノサマガエル……134
トビハゼ……157
トモエガモ……96
トラツグミ……113
トラハナムグリ……210
トラフカミキリ本土亜種……214
トリウミアカイソモドキ……454
ドロアワモチ……326
ドンコ……160

ナ

ナガエンドウガイ……413
ナガオカモノアラガイ……382
ナガツヤヒラタゴミムシ……267
ナガナタネガイ……408
ナガヒナミルクイ……423
ナカボシカメムシ……206
ナガホラアナヒラタゴミムシ……267
ナガミミズハゼ……174
ナガレカマツカ……169
ナガレヒキガエル……132
ナガレホトケドジョウ……147
ナキオカヤドカリ……501
ナギツボ……358
ナチセスジゲンゴロウ（トモクニセスジゲンゴロウ）……268
ナチマイマイ……302
ナニワトンボ……221
ナベヅル……98
ナベブタムシ……229
ナミノコ……391
ナンキセダカコブヤハズカミキリ……269
ナンセンハゼ……174
ナンヨウボウラ……173

ニ

ニクイロギセル……298
ニクハゼ……178
ニシキキンカメムシ……265
ニセゴマツボ……356
ニセヒロクチカノコ……348
ニッポンオフェリア……466
ニッポンバラタナゴ……168
ニッポンフサゴカイ……468
ニッポンマメアゲマキ……401
ニッポンモモブトコバネカミキリ……213
ニトベベッコウハナアブ……246
ニホンアカガエル……129
ニホンアシカ……72
ニホンアミカモドキ……259
ニホンイシガメ……122
ニホンイモリ（アカハライモリ）……131
ニホンウサギコウモリ……73
ニホンカモシカ……82
ニホンカワウソ……71
ニホンカワトンボ……217
ニホンスッポン……123
ニホンヒキガエル……132
ニホンモモンガ……77
ニホンリス……81

ヌ

ヌカルミクチキレ……375
ヌノメチョウジガイ……354
ヌノメホソクチキレ……325

ネ

ネアカヨシヤンマ……204
ネコガイ……361
ネジロツブゾウムシ……271
ネンジュヤスデ……477

ノ

ノジホトトギス……421
ノミガイ……329
ノレンコウモリ……74

ハ

バイ……370
ハイガイ……288
ハイタカ……110
ハウチワヤリミミズハゼ……176
ハクセンシオマネキ……461
ハコネサンショウウオ……135
ハザクラ……393
ハシボソテッポウエビ……482
ハシリイワガニモドキ……487
ハスジゾウムシ……244
ハチクマ……109
ハチザクラ……423
ハチモドキハナアブ……246
ハツカネズミ……292
ハッチョウトンボ……223
パツラマイマイ……331
ハナガスミカノコ……411
ハナグモリ……337
ハナビラガイ……309
ハネナシアメンボ……228
ハネビロエゾトンボ……221
ハブタエセキモリ……366
ハベキビ……407
ハボウキガイ……386
ハマガニ……451
ハマグリ……339
ハマスズ……254
ハマチドリ……424
ハマベツチカメムシ……230
ハヤブサ……102
ハラグロオオテントウ……239
ハラビロハンミョウ……191
バラフマテ……405
ハリサシガメ……206
バン……106
ハンミョウ……232
ハンレイヒバリガイ（カラスノマクラ）……303

ヒ

ヒガタヨコイトカケギリ……407
ヒクイナ……98
ヒゲジロホソコバネカミキリ……241
ヒゲブトハナカミキリ……212
ヒゲワラスボ種群……177
ヒゴキンウワバ……274
ヒコナミザトウムシ……497
ヒサゴクサキリ……225
ヒサマツミドリシジミ……248
ヒシガイ……336
ヒトエグモ……475
ヒトエシモフリボヤ……497
ヒトツメアオゴミムシ……255
ヒトハリザトウムシ……444
ヒナイソマイマイ……287
ヒナコウモリ……75
ヒナツボ……413
ヒナミルクイ（ヒナミルガイ）……338
ヒナユキスズメ……350
ヒメアカイソモドキ……488
ヒメアカガイ……289
ヒメアシハラガニ……452
ヒメアマツバメ……107
ヒメエガイ……289
ヒメオオクワガタ……209
ヒメカクオサガニ……491
ヒメカツオゾウムシ……244
ヒメカニモリ……412
ヒメカノコ……346
ヒメギボシムシ……493
ヒメクロナガコメツキ……238
ヒメケフサイソガニ……489
ヒメゴウナ……373
ヒメゴマダラオトシブミ……243
ヒメシオマネキ……503
ヒメタイコウチ……197
ヒメタマゴマイマイ……381
ヒメテナガオウギガニ……486
ヒメヒカゲ……193
ヒメヒミズ……72
ヒメヒライソモドキ……456
ヒメビロウドカミキリ……242
ヒメビロウドマイマイ……335
ヒメマスホガイ……343
ヒメミズスマシ……233
ヒメヤカタ……414
ヒモイカリナマコツマミガイ……322
ヒモハゼ……163
ヒラザクラガイ……388
ヒラドサンゴヤドリ……295
ヒラマキビロウドマイマイ……301
ビリンゴ……178
ヒロクチカノコ……347
ヒロクチコギセル……301

フ

フウライボラ……172
フクロウ……102
フサヒゲサシガメ……190
フジタニコハクノツユ……341
フジテガニ……449
フジナミガイ……306
フジノハナガイ……390
フジミドリシジミ……216
フタコブルリハナカミキリ……240
フタスジサナエ……220
フタツトゲササキリ……225
フタテンツノカメムシ……231
フタハピンノ……493
フタボシツチカメムシ……254
ブッポウソウ……91
フトヘナタリ……352
フネアマガイ……312
フロガイダマシ……320

ヘ

ベッコウイモ（キラベッコウ）……325
ヘナタリ……353
ベニイトトンボ……218
ベニゴマオカタニシ……287
ベニゴマガイ……328
ベニシオマネキ……504
ベニシタバ……273
ヘリトリオカガニ……486

ホ

ホシキカイウツボ……167
ホソイソギンチャク属の 1 種……463
ホソコオロギ……290
ホソタマゴガイ……379
ホソヒメギセル……380
ホラアナミジンニナ……415
ホンコンマメガニ……492
ホンサナエ……253

マ

マイコアカネ……222
マキトラノオガニ……448
マキモノガイ……297
マクラガイ……370
マゴコロガイ……403
マサゴハゼ……163
マダラナニワトンボ……190
マツイガイ……425
マツカサガイ……427
マツムラハラブトハナアブ……245
マツモトウロコガイ……402
マホロバサンショウウオ……130
マメアカイソガニ……452
マメクワガタ……268
マメコブシガニ……447
マルクチコギセル……299
マルコガタノゲンゴロウ……191
マルタニシ……328
マルチビゲンゴロウ……256
マルテンスマツムシ……293
マングローブテッポウエビ……446

ミ

ミサキギボシムシ……494
ミサゴ……108
ミジンゴマツボ……317
ミジンマイマイ……383
ミズヒキナガミミズハゼ……175
ミズラモグラ……83
ミゾゴイ……89
ミツギリゾウムシ……243
ミツクリギセル……329
ミツハシテングスケバ……227
ミドリシャミセンガイ類似種……465
ミナカタハヤシワラジムシ……479
ミナミアカイソガニ……502
ミナミアシハラガニ……453
ミナミオオヘリカメムシ……265
ミナミオカガニ……486
ミナミスナガニ……503
ミナミトラノオガニ……449
ミナミメダカ東瀬戸内集団……154
ミナミメダカ東日本集団……154
ミヤカワハナゾウムシ……259

ミヤケミズムシ……206
ミヤコドリ……349
ミヤマアカネ……222
ミヤマサナエ……220
ミヤマセセリ……251
ミヤマダイコクコガネ……209
ミヤマチャバネセセリ……252
ミヤマツヤハダクワガタ……208
ミヤマナカボソタマムシ……211
ミルクイ……339

ム

ムカシヤンマ……253
ムギワラムシ……443
ムシモドキギンチャク属の１種……464
ムシロガイ……369
ムツハアリアケガニ……442
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ……200
ムネアカセンチコガネ……235
ムネアカツヤケシコメツキ……238
ムラクモキジビキガイ……378
ムラクモスジホシムシモドキ……470
ムラサキオカヤドカリ……501
ムラサキガイ……337
ムラサキシタバ……253
ムラサキヒモムシ……464
ムロマイマイ……419

メ

メナガオサガニ……491
メンガタスズメ……252

モ

モートンイトトンボ……219
モトシマクルマカギナマコモドキ……496
モモジムカデ……476
モモジロコウモリ……79
モモノハナ……389
モリアオガエル……134
モリアブラコウモリ……73
モリモトシギゾウムシ……243
モロハタマキビ……354
モンナシボラ……173

ヤ

ヤイロチョウ……91
ヤケヤスデ属の１種……500
ヤセフタオビツマミガイ……322
ヤタノカガミ……340
ヤチネズミ……76
ヤチヨノハナガイ……306
ヤドリカニダマシ……447
ヤマアカガエル……133
ヤマキサゴ……332
ヤマシギ……99
ヤマセミ……90
ヤマトイワナ（キリクチ）……142
ヤマトウシオグモ……475
ヤマトオサムシダマシ……201
ヤマトキバサナギガイ……380
ヤマトシジミ……406
ヤマトナガヒラタムシ……231
ヤマトモンシデムシ……256
ヤマドリ……104
ヤマネ……80
ヤマホトトギス……384
ヤマモトゴマオカチグサ……333
ヤミノニシキ（アワジチヒロ）……304
ヤリタナゴ……144
ヤリミミズハゼ……175

ユ

ユウシオガイ……388
ユウスイミミズハゼ……149
ユキガイ……396
ユビアカベンケイガニ……451
ユビナガコウモリ……80

ヨ

ヨコヤマヒゲナガカミキリ……242
ヨシゴイ……93
ヨシダカワザンショウ……360
ヨタカ……94
ヨツコブサビコメツキ……211
ヨツボシカミキリ……215

ヨツボシヒラタシデムシ……208
ヨドシロヘリハンミョウ……199
ヨモギホンヤドカリ……485

リ

リシケタイラギ（タイラギ）……385
リュウキュウマテ……406

ル

ルイスツノヒョウタンクワガタ……209
ルイスヒゲボソゾウムシ……272
ルーミスシジミ……273
ルリクワガタ……234
ルリボシヤンマ……195
ルリヨシノボリ……165

レ

レモンカノコ……347

ワ

ワカウラツボ……290
ワカミルガイ……396
ワスレナグモ……441
ワダツミギボシムシ……462
ワニグチボラ……171
和名なし（*Phreatoasellus minatoi*）……478

●菌類

ア

アオイヌシメジ……523
アオウツボホコリ……536
アカイカタケ……533
アカモミタケ……521
アケボノアワタケ……520
アミガサタケ……534
アメリカウラベニイロガワリ……529
アヤメイグチ……520

イ

イカタケ……533

ウ

ウスキブナノミタケ……518
ウツロイモタケ……535

オ

オオセミタケ……515
オオヤシャイグチ……531
オオワライタケ……528
オソムキタケ……517

カ

カエンタケ……535
カゴタケ……533
カワリコシワツバタケ……528

キ

キタマゴタケ……525
キヌガサタケ……514
キヒダマツシメジ……524

ク

クギタケ……529
クモタケ……523
クリフウセンタケ……519
クルミタケ……535
クロカワ……522

ケ

ケシボウズタケ……511

コ

コウタケ……522
コウボウフデ……513
コトヒラシロテングタケ……526

サ

サザナミイグチ……530

シ

シイノトモシビタケ……513
ショウロ……521
シロツルタケ……525
シロテングタケ……518

ス

スジチャダイゴケ……527
スナジクズタケ……510

セ

セイタカイグチ……531
セミタケ……514

ソ

ソライロタケ……529

ト

トガサワラショウロ……532
トキイロラッパタケ……521
ドクササコ……524

ナ

ナメコ……519

ニ

ニオイドクツルタケ……525
ニセマツタケ……516

ヌ

ヌメリアシナガイグチ……531
ヌメリタンポタケ……515
ヌメリツバタケ……512

ハ

バカマツタケ……512

ヒ

ヒメスッポンタケ……534
ヒメヒガサヒトヨタケ……527
ヒョウモンウラベニガサ……526

フ

ブクリョウ……522
ブナシメジ……512
フユヤマタケ……523

ホ

ホンシメジ……511

マ

マイタケ……510
マツタケ……516
マントカラカサタケ……527

ミ

ミナカタホコリ……536
ミミブサタケ……534

ム

ムキタケ……517
ムラサキヤマドリタケ……530
ムレオオフウセンタケ……528

モ

モミタケ……517

ヤ

ヤシャイグチ……532

ル

ルリハツタケ……532

●植物

ア

アイコハチジョウシダ……552
アイナエ……580
アイバゴケ……629
アオシマヒメシワゴケ……621
アオネカズラ……556
アオノクマタケラン……566・608
アオフタバラン……563
アオベンケイ……573
アオホオズキ……582
アカウキクサ……551
アカツボミゴケ……630
アカハナワラビ（ウスイハナワラビ）……550
アキザキナギラン……561
アキザキヤツシロラン……562
アギナシ……557
アキノハハコグサ……587
アケボノシュスラン……562
アケボノツツジ……580
アコウ……576・612
アサザ……586
アサノハカエデ……577・595
アシタバ……590
アゼオトギリ……576
アツイタ……555
アツギノヌカイタチシダマガイ……555
アツメハネゴケ……629
アミシダ……553
アリマグミ……575
アワボスゲ……567
アワムヨウラン……563

イ

イイヌマムカゴ……564
イケマ……581
イサワゴケ……625・646
イシモチソウ……578
イズハハコ……587
イズヤブソテツ……554
イセアオスゲ……567
イセウキヤガラ……566
イソフサギ……579・596
イチョウウキゴケ……629・646
イチヨウラン……561
イトクサゴケ……622
イトスズメガヤ……569
イトトリゲモ……558
イトモ……558
イヌカメゴケ……620
イヌクログワイ（シログワイ）……568
イヌセンブリ……581
イヌノフグリ……583
イヌハギ……574
イバラヤエゴケ……623
イブキ……556
イブキシモツケ……575
イボケクサリゴケ……626
イリオモテホウオウゴケ……621
イワオモダカ……556
イワギリソウ……582
イワシモツケ（キイシモツケ）……575
イワダレゴケ……623
イワダレソウ……586
イワチドリ……560
イワツクバネウツギ……590
イワナシ……580
イワヤシダ……553

ウ

ウエマツソウ……559
ウキシバ……570
ウシオツメクサ……579
ウスギムヨウラン……562
ウスゲミヤマシケシダ……554
ウスバヒョウタンボク……589
ウチョウラン……563
ウチワチョウジゴケ（キセルゴケ）……620・632
ウドカズラ……573
ウナズキギボウシ……565・611
ウメバチソウ……576
ウラギク……589
ウンヌケモドキ……569
ウンラン……583

エ

エゾヤハズゴケ……627

エゾヤバネゴケ……627
エビガラシダ……552
エビネ……560
エンコウソウ……571
エンシュウムヨウラン……563
エンレイソウ……559

オ

オウギカズラ……584
オウギホウオウゴケ……622
オオアカウキクサ……551
オオアブノメ……583
オオウミヒルモ……558
オオカグマ……553
オオカラスウリ……576
オオキヌタゴケ……623
オオキヌタソウ……581
オオクグ……568
オオクボシダ……556
オオサワラゴケ……628・638
オオシロガヤツリ……568
オオスミヨウジョウゴケ……626
オオタニワタリ……552
オオツボミゴケ……630
オオナンバンギセル……585
オオヌマハリイ……568
オオハイホラゴケ……551
オオハシゴシダ……553
オオハネゴケ……628
オオハマグルマ……588・606
オオバジャノヒゲ……566
オオバミヤマノコギリシダ……554
オオバヤドリギ……578
オオヒキヨモギ……586
オオヒナノウスツボ……583
オオママコナ……585
オオミクリ……566
オオミズゴケ……623・625
オオミツヤゴケ……621
オオミミゴケ……624・640
オオヤマサギソウ……564
オカムラケビラゴケ……629
オキナグサ……572
オキナワコクモウクジャク……554
オキナワヤスデゴケ……627・638
オクタマシダ……552
オグラコウホネ……556
オグラノフサモ……573
オグルマ……588
オケラ……587
オサラン……561
オシダ……555
オシャグジデンダ……556
オチツボミゴケ……630
オチフジ……584・592
オトコシダ……554
オナモミ……589
オニシバ……570
オニノヤガラ……562
オニバス……556・593
オニビシ……573
オニヤスデゴケ……627
オヒガンギボウシ……566
オミナエシ……589
オヤコゴケ……630・647
オリヅルシダ……555
オワセベニシダ……535
オンタケヤスデゴケ……627

カ

カガシラ……568
ガガブタ……586
カギフタマタゴケ……628
カキラン……561
カゲロウラン……565
カザグルマ……571
カジカエデ……577
カシノキラン……561
カシミールクマノゴケ……621・634
カシワバハグマ……588
カセンソウ……588
カタスゲ……567
カツラ……572
カツラギグミ……575
カトウゴケ……624
カノツメソウ……590
カミガモシダ……552
カミムラヤスデゴケ……627
カヤラン……564
カラクサシダ……556
カラタチバナ……579
カリマタガヤ……569
カワゼンゴ……590・610
カワヂシャ……583

カワチスズシロソウ……577
カワチブシ……570
カワツルモ……558
カワブチゴケ……621・643
カワミドリ……583
カワラサイコ……574
カワラボウフウ……590
ガンゼキラン……564
カンラン……561

キ

キイイトラッキョウ……565・601
キイウマノミツバ……590・597
キイジョウロウホトトギス……560・607
キイセンニンソウ……571
キイハナネコノメ……572
キイムヨウラン……562
キウロコゴケ……628・639
キエビネ……560
キガンピ……577
キキョウ……586
キキョウラン……565・610
キクアザミ……589
キクシノブ……556・599
キジノオゴケ……621・640
キシュウナキリスゲ……567・612
キシュウネコノメ……572
キジョラン……581
キタガワシロクサリゴケ……626
キツネノオゴケ……625
キツネノカミソリ……565
キナンカンアオイ……557
キヌタソウ……580
キヌヒバゴケ……621
キノクニオカムラゴケ……623
キノクニキヌタゴケ……624
キノクニシオギク（キイシオギク）……587・614
キノクニスゲ（キシュウスゲ）……567・611
キノクニスズカケ……583・604
キノボリツノゴケ……630・639
キバナチゴユリ……559・600
キバナノアマナ……559
キバナノショウキラン……565
キビヒトリシズカ……557
ギボウシラン……563
キヨスミウツボ……585
キリシマエビネ……560
キンバイザサ……565
ギンバイソウ……579
キンラン……560
ギンラン……560
キンレイカ……589

ク

クサナギオゴケ……581
クサマルハチ……551
クマガイソウ……561
クマツヅラ……586
クマノギク……589・610
クマノチョウジゴケ……620・633
クモノスシダ……552
クラガリシダ……556
クリンソウ……579
クルマギク……605
クルマバアカネ……581
クロウメモドキ……575
クロカンバ……575
クロホシクサ……566
クロムヨウラン……563
クロヤツシロラン……562
クワガタソウ（コクワガタ）……583

ケ

ケアサゴケ……622
ケクラマゴケモドキ……629
ケグワ……576
ケサガリゴケ……623
ケホシダ……553
ゲンカイモエギスゲ……567

コ

コアマモ……558
コアミメミゾゴケ……627
コウボウ……569
コウホネ……556
コウヤカンアオイ……557・599
コウヤグミ……575
コウヤシロカネソウ……571・602
コウヤハリスゲ……567・594

コウヤハンショウヅル……601・571
コウヤミズキ……572
コウヤワラビ……553
コウライブシ……570
コオイフタマタゴケ……628
コオロギラン……564
コガネネコノメソウ……572
コカモジゴケ……621
コキジノオゴケ……621・643
コキンバイザサ……565
コクサリゴケモドキ……628
コケイラン……563
コゴメカゼクサ……569
コゴメタチヒダゴケ……623
コショウノキ……577
コタニワタリ……552
コダマクサリゴケ……627
コナミキ……585
コバナノワレモコウ……575
コバノチョウセンエノキ……575
コバノヒルムシロ……558
コバノホソベリミズゴケ……624・645
コハリスゲ……567
コフサゴケ……624
コフタバラン……563
ゴマクサ……585
ゴマダラツボミゴケ……630
コマツカサススキ……569
ゴマノハグサ……583
コモウセンゴケ……578
コモチイチイゴケ……623・644

サ

サイカチ……574
サイコクヌカボ……578
サイコクヒメコウホネ……557
サイゴクホングウシダ……551
サガミトリゲモ（ヒロハトリゲモ）……558
サカワヤスデゴケ……627
サギソウ……564
サクラソウ……579・592
ササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）……624・636
ササバモ……558
サツマイナモリ……581
サツマスゲ……567
サデクサ……578
サルマメ……559
サルメンエビネ……560
サワオグルマ……589
サワラゴケ……628
サワルリソウ……582
サンカクゴケ……627・642
サンカクホングウシダ……551
サンショウモ……551

シ

シオガマギク……585
シオジ……582
シゲリケビラゴケ……629
シコクスミレ……577
シコクフクジュソウ……571
シシンラン……582
シズイ……569
シソクサ……583
シソバウリクサ……583
シソバタツナミ……585
シチョウゲ……580・613
シナクジャクゴケ（ヒナクジャクゴケ）……623
シナノキ……577
シノブカグマ……554
シバナ……558
シマイヌワラビ……554
シマエンジュ……574
シマサルナシ……580・609
シマシロヤマシダ……554
シマヒメタデ……578・603
シマユキカズラ……597・596
シモバシラ……584
シャクシゴケ（ミドリシャクシゴケ）……625・637
シャクジョウソウ……580
ジャコウソウ……584
ジュウニヒトエ……584
ジョウレンホウオウゴケ……622
シラタマカズラ……581・609
シラネワラビ……555
シラン……560
シロコオイゴケ……626
シロシャクジョウ……559
シロバナハンショウヅル……571
シロヤマゼンマイ……550
シンエダウチホングウシダ……551
ジングウスゲ……568
シンジュガヤ……569

ス

スイラン……588
スエヒロアオイ……557
スギラン……550
スケバウロコゴケ……626
スジヒトツバ……551
スズコウジュ……585
スズサイコ……582
スズメノハコベ……585
スダレギボウシ……566
スナビキソウ……582
スブタ……557
ズミ……574

セ

セイタカイワヒメワラビ……552
セイタカハリイ……568
セキショウモ……558
セッコク……561
センダイスゲ……567
センダイソウ……572

ソ

ソハヤキミズ……576・595

タ

タイキンギク……589
ダイサギソウ……562
タイワンカモノハシ……569
タイワンヒデリコ……568
タカキクラマゴケモドキ……629
タカサゴソウ……588
タカサゴソコマメゴケ……627
タカネハンショウヅル……571
タキキビ……570
タキミシダ……552
タキユリ……559・593
タコノアシ……573
タシロラン……561
タチカモメヅル……581
タチチョウチンゴケ……623・641
タチツボミゴケ……630
タチハイゴケ……624・648
タチバナ……577・596
タチモ……573
タニウツギ……589
タニジャコウソウ……584
タヌキマメ……574
タマゴバヒシャクゴケ……629
タマゴバムチゴケ……625
タマムラサキ……565
タムラソウ……589
タラダケヤスデゴケ……627

チ

チチブハネゴケ……628
チャボシライトソウ……559
チャボハナヤスリ……550
チャボホトトギス……560
チャボミゾゴケ……629
チョウジカズラ……581
チョウジソウ……581

ツ

ツクシカンガレイ……569
ツクシクロイヌノヒゲ……566
ツクシシゲリゴケ……626
ツクシナルコ……568
ツクシヤブソテツ……555
ツゲ……572・608
ツゲモチ……586・614
ツチトリモチ……578
ツメレンゲ……573
ツリシュスラン……562
ツルカコソウ（ケブカツルカコソウ）……584
ツルギキョウ……586
ツルシロカネソウ……571
ツルホラゴケ……550
ツルマオ……576
ツレサギソウ……564

テ

テツホシダ……553・598

テバコモミジガサ……588
テリハキンバイ……574
デンジソウ……551

ト

トウゴクサバノオ……571
トウササクサ……570
トガサワラ……556・606
トキソウ……564
トキワシダ……553
トゲアイバゴケ……629・642
トゲカラクサイヌワラビ……554
トサノタスキゴケ……624・645
トサヒラゴケ……623・644
トサムラサキ……584
トチカガミ……558
トネハナヤスリ……550
トラノオジソ……584
トラノハナヒゲ……568
トリゲモ……558
ドロニガナ……588・614
ドロノシモツケ……575・612

ナ

ナガエミクリ……566
ナガサキシダ……555
ナカジマトサカゴケ……627
ナガバイラクサ……576
ナガバノキソチドリ……564
ナガバノスミレサイシン……576
ナガバムシトリゴケ……626・638
ナガボテンツキ……568
ナガホノナツノハナワラビ……550
ナカミシシラン……552
ナギラン……561
ナゴラン……564
ナスシッポゴケ……621
ナツエビネ……560
ナツツバキ……580
ナベナ……589
ナミカワスナゴケ……624
ナメハヤスジゴケ……624
ナヨナヨカガミゴケ……620
ナンカクラン……550
ナンゴクウラシマソウ……557・607
ナンゴククガイソウ……583
ナンバンハコベ……579

ニ

ニシキゴロモ……584
ニセタマウケゴケ（シバゴケ）……622
ニセチャイロホウオウゴケ……622
ニセヒロハノコギリシダ……554
ニラバラン……563
ニリンソウ……571

ヌ

ヌカイタチシダマガイ……555
ヌカボシクリハラン……556
ヌカボタデ……578

ノ

ノアサガオ……582・604
ノシラン……566
ノダケ……590
ノタヌキモ……586
ノニガナ……588

ハ

ハイキビ……570・594
バイケイソウ……559
ハイノキ……580
ハガクレツリフネ……579
ハカマカズラ……574・602
ハクウンボク……580
ハシボソゴケ……624・641
ハシリドコロ……582
ハスノハイチゴ……575
ハチジョウイチゴ……575
ハチジョウシダ……552
ハドノキ……576・603
ハナシセンボンゴケ……625
ハナゼキショウ……557
ハネツボミゴケ……630

ハネホウオウゴケ……622
ハバヤマボクチ……589
ハマウツボ……585
ハマオモト……565
ハマカンゾウ……565
ハマクワガタ……583
ハマサジ……578
ハマセンダン……577
ハマナツメ……575
ハマニガナ……588
ハマビシ……573
ハマボウ……577・613
ハママツナ……579
ハルザキヤツシロラン……562・600
ハルニレ……575

ヒ

ヒカゲノカズラモドキ……620・647
ヒキノカサ……572
ヒキヨモギ……586
ヒゴイチイゴケ……624
ヒコサンヒメシャラ……580
ヒツジグサ……557
ヒトツバハギ……576
ヒトツボクロ……564
ヒトリシズカ……557
ヒナチドリ……563
ヒナノカンザシ……574
ヒナノシャクジョウ……559
ヒナラン……560
ヒメイワカガミ……580
ヒメウラジロ……552
ヒメオニヤブソテツ……555
ヒメカンガレイ……569
ヒメコウモリ……588
ヒメコヌカグサ……569
ヒメコミミゴケ……627
ヒメシャガ……565
ヒメシロアサザ……586・605
ヒメシロクサリゴケ……626
ヒメシロネ……584
ヒメスゲ……567
ヒメスズゴケ……622
ヒメソテツゴケ……620
ヒメテングサゴケ……629
ヒメナエ……580
ヒメナミキ……585
ヒメニラ……565
ヒメノハギ……574
ヒメノボタン……573・595
ヒメハッカ……584
ヒメハネゴケ……629
ヒメハマナデシコ……578
ヒメヒゴタイ……589
ヒメビシ……573
ヒメフタバラン……563
ヒメホウビシダ……553
ヒメマルバハネゴケ……628
ヒメミクリ……566
ヒメミズワラビ……552
ヒメユリ……559
ヒモヅル……550・592
ヒモラン……550
ヒュウガシダ……554
ビルマホウオウゴケ……621
ビロードキビ……570
ヒログチキンモウゴケ……625
ヒロスジツリバリゴケ……620
ヒロハアツイタ……555
ヒロハコンロンカ……581
ヒロハチャイロホウオウゴケ……622
ヒロハテイショウソウ……587
ヒロハノコギリシダ……554
ヒロハノハネガヤ……570
ヒロハヒメウラボシ……556
ヒロハフサゴケ……620

フ

フウラン……563
フウリンゴケ……620・632
フォーリーイチョウウロコゴケ……628
フォーリームチゴケ……625
フガゴケ……622・635
フクド……587
フサタヌキモ……586
フサモ……573
フジキ……573
フタバムチゴケ……625
フナバラソウ……581
フロウソウ……620・634

へ

ヘゴ……551・593
ベニシュスラン……562
ヘリトリシッポゴケ……621
ベンケイヤワラスゲ……567

ホ

ホウキゴケ……630
ボウズムシトリゴケ……626・637
ボウラン……563
ホオノカワシダ……555
ホザキノミミカキグサ……586
ホソバショリマ……553
ホソバシロスミレ……576・603
ホソバニガナ……588
ホソバノギク……587・605
ホソバノヤマハハコ……587
ホソバヒメトラノオ……583・597
ホソバミズゴケ……624
ホソハリゴケ……620
ホソヘチマゴケ……624
ボタンボウフウ……590
ホツツジ……580
ホリカワキララゴケ……626
ホリカワツボミゴケ……630
ホリカワトサカゴケ……627
ホロテンナンショウ……557
ホングウシダ……551
ホンゴウソウ……559
ホンコンホウオウゴケ……622
ホンダゴケ（コアオギヌゴケ）……622

マ

マイヅルソウ……566
マキエハギ……574
マキノハネゴケ……628
マキハハリゴケ……620
マダイオウ……578
マツカサススキ……569
マツバニンジン……576
マツバラン……550
マツムシソウ……589
マツラン……561
マネキグサ……584
マムシゴケ……623・635
マメヅタラン……560
マヤラン……561
マルバコオイゴケモドキ……626
マルバサンキライ……559
マルバダケブキ……588
マルバチシャノキ……582
マルバヌカイタチシダモドキ……555
マルバノサワトウガラシ……582
マルバハダカホオズキ……582
マルバホウオウゴケ……622
マルミスブタ……557
マンサク……572

ミ

ミカワタヌキモ（イトタヌキモ）……586
ミギワイクビゴケ……621
ミギワトダシバ……569
ミクリガヤ……568
ミコシガヤ……567
ミシマサイコ……590
ミズアオイ……566
ミズオオバコ……558
ミズキカシグサ……573
ミズタガラシ……577
ミズトンボ……562
ミズニラ……550
ミズネコノオ……585
ミズマツバ……573
ミスミイ……568
ミスミソウ……571
ミゾコウジュ……585
ミゾシダモドキ……553
ミチシバ……570
ミツバコンロンソウ……577
ミツバベンケイソウ……572
ミドリカナワラビ……554
ミドリワラビ……554
ミミカキグサ……586
ミヤケハタケゴケ……629
ミヤコアザミ……588
ミヤコオトギリ……576
ミヤコミズ……576
ミヤジマヨウジョウゴケ……626
ミヤマウコギ……590
ミヤマエンレイソウ……559

ミヤマクサゴケ……622
ミヤマコナスビ……579
ミヤマジュズスゲ……567
ミヤマツチトリモチ……578
ミヤマトベラ……574
ミヤマナミキ……585
ミヤマハコベ……579
ミヤマハリゴケ……620
ミヤマムギラン……560
ミヤマメシダ……553
ミヤマヨメナ……587
ミヤマワラビ……553

ム

ムカゴサイシン……563
ムカゴソウ……562
ムカゴツヅリ……570
ムカゴトンボ……564
ムカゴニンジン……590
ムカシヒシャクゴケ……629・648
ムカデラン……561
ムギガラガヤツリ……568
ムギラン……560
ムチハネゴケ……626
ムヨウラン……562
ムラサキ……582
ムラサキセンブリ……581
ムラサキヒシャクゴケ……629
ムラサキベニシダ……555

メ

メグスリノキ……577
メジロホオズキ……582
メヤブソテツ……554

モ

モウセンゴケ……578
モミラン……561
モリアザミ……587
モロコシガヤ……570
モロコシソウ……579

ヤ

ヤガミスゲ……567
ヤクシマアカシュスラン……562・594
ヤクシマウラボシ……556
ヤクシマツガゴケ……621
ヤクシマナワゴケ……623・636
ヤクシマヒメアリドオシラン……562
ヤクシマホウビシダ……553
ヤシャビシャク……572
ヤチマタイカリソウ……570
ヤナギスブタ……557
ヤナギヌカボ……578
ヤハズハネゴケ……628
ヤブサンザシ……572
ヤマオダマキ……571
ヤマカシュウ……559
ヤマサギソウ……564
ヤマジソ……584
ヤマシャクヤク……572
ヤマソテツ……551
ヤマタツナミソウ……585
ヤマトウミヒルモ……558
ヤマトキソウ……564
ヤマトキンチャクゴケ……624
ヤマトグサ……581
ヤマトクロウロコゴケ……628
ヤマトミクリ……566・601
ヤマドリゼンマイ……550
ヤマナシ……574
ヤマヒヨドリバナ……587
ヤマホオズキ……582
ヤマムチゴケ……625
ヤリテンツキ……568
ヤリノホゴケ……620・633
ヤワラハチジョウシダ……552

ユ

ユウコクラン……561
ユウスゲ……565
ユガミタチヒラゴケ……625
ユキモチソウ……557
ユキワリイチゲ……571
ユクノキ……573
ユノミネシダ……551・598
ユリワサビ……577

ヨ

ヨウジョウケビラゴケ……629
ヨウラクラン……563
ヨコグライタチゴケ……623
ヨコグラノキ……575
ヨコグラブドウ……573
ヨシナガキララゴケ……625
ヨシナガクロウロコゴケ……625
ヨシナガムチゴケ……626
ヨツバヒヨドリ……587

ラ

ラショウモンカズラ……584

リ

リュウキュウコケシノブ……550
リュウキュウホソエゴケ……625
リュウノヒゲモ……558・600
リュウビンタイ……550・597

ル

ルイヨウショウマ……570
ルイヨウボタン……570
ルリハコベ……579

レ

レンゲツツジ……580
レンリソウ……574

ワ

ワチガイソウ……578

●植物群落

ア

阿尾の湿地植生……665
阿須賀神社のスダジイ林……670
安宅八幡神社のコジイ林……668
蟻島のタブノキ林……665
有田川河口の湿地植生……664
有田川町沼田のため池群……663

イ

稲積島の自然林……668

ウ

宇賀部神社のコジイ林……663
宇久井半島の海岸植生……670
浦神半島のウバメガシ林……669

エ

江須崎の自然林……668
衣奈八幡神社のスダジイ林……664
煙樹ヶ浜の松林……665

オ

生石山の草地植生……663
大雲取山のアカガシ林……670
大倉畑山のウラジロガシ林……671
大島のハドノキ群落……668
大島のマテバシイ群落……668
大杉谷・黒蔵谷の自然林……667
太田川河口の湿地植生……669
大塔山の自然林……667
大年神社のホルトノキ林……662
岡川八幡のコジイ林……666
沖ノ黒島の自然林……668
奥の院の大杉林……662
尾崎神社の社寺林……669
御滝神社の社寺林……665
小殿神社のイスノキ林……666

カ

角間木谷のツガ林……662
笠塔山の自然林……667
重畳山のスダジイ林……668
笠甫の湿地植生……666
樫野海岸のスダジイ林……668
神島の自然林……666
鹿島のタブノキ林……666
春日神社のコジイ林……662・663
春日神社の社寺林……666
上阿田木神社のスギ林……665
亀谷の自然林……664
加茂神社のコジイ林……663
川又観音の社寺林……665

キ

紀伊風土記の丘のコナラ林……662
紀の川河口の湿地植生……662
紀の川市貴志川町のため池群……662
京都大学和歌山研究林の自然林……664
切目川河口のハマボウ群落……665
切目神社の社寺林……665

ク

久嶋（孔島）鈴島植物群落……670
串本町田原地区の水田・湿地……668
黒沢山沼池の湿地及び蛇紋岩地植生……663
九龍島の自然林……668
黒島の暖地性植物群落……664

コ

高野山コウヤマキ希少個体群保護林……663
高野山のコウヤマキ林……663
高野山のツガ林……663
古座川峡の岩上・岩隙植生……669
河立の湿地植生……669
琴ノ滝の自然林……668

御坊市・日高郡・田辺市のため池群……666
護摩壇山の自然林……664
御霊神社のイヌマキ林……665

サ

坂泰山の自然林……667
里野八幡神社社寺林……668
三所神社の社寺林……666

シ

潮岬・紀伊大島の海岸植生……668
四ノ谷の自然林……671
嶋津の森のコジイ林……671
下里の池の谷湿地植生……669
将軍山・大森山の自然林……667
生石神社の社寺林……663
白浜のオオミズゴケ群落……666
白馬山のブナ林……664
白見山国有林の自然林……670
白見山民有林の自然林……670
新宮藺沢の浮島植物群落……670

ス

須佐神社のコジイ林……666
住吉神社の社寺林……666

セ

静閑瀞の崖地植生……671
西部海岸域のアコウ個体群……664

タ

太地海岸のスダジイ林……669
太地のリュウビンタイ群落……669
鷹島のスダジイ林……664
高瀬川河口のハマボウ群落……666
高田のトガサワラ林……670
立石の石灰岩地植生……664
立神社の社寺林……663
田殿丹生神社のコジイ林……664

チ

千穂ヶ峯の自然林……670
長保寺の社寺林……663

ツ

通夜島のスダジイ林……668

テ

天王神社の社寺林……662

ト

友ヶ島の自然林……662
友ヶ島の深蛇池湿地帯植物群落……662
瀞八丁のコジイ林……671

ナ

中下番のシマユキカズラ群落……671
那智原始林・那智山国有林の自然林……670
那智山旧参道の杉並木……670
夏山の湿地植生……669
成見川の自然林……669

ニ

西ノ河の自然林……664
日神社のコジイ林……666
日前宮の社寺林……662

ハ

畑峰地蔵社のウバメガシ林……665
果無山脈の自然林……666

ヒ

東ノ川の自然林……667
日高川河口の湿地植生……665
日ノ山のウバメガシ林……665

フ

船岡山のコジイ林……662
伏羊のシリブカガシ林……664

ヘ

平治ノ滝の崖地植生……671

ホ

法師山の自然林……667

マ

松原王子神社の社寺林……665
真妻神社のコジイ林……665
摩尼山の自然林……662

ミ

三里神社のコジイ林……671
水上の自然林……667
皆地の湿地植生……671
宮崎ノ鼻の海岸植生……663
苗我島のスダジイ林……668
箕六弁財天社のアカガシ林……663

ヤ

八坂神社のコジイ林……669
安川のヒノキ・コウヤマキ林……667
八尺鏡野の湿地植生……669
矢立の墓地林……663

ユ

ゆかし潟の塩生湿地植生……669

ヨ

要害森山のトガサワラ林……666
楊柳山の自然林……662

リ

龍王神社の社寺林……665
龍門山の蛇紋岩地植生……602

レ

霊厳寺山の石灰岩地植生……664

ワ

若藪山のブナ林……664
和歌山城公園の緑地……662
和田川峡の崖地植生……671

●地形・地質

ア

相須ヶ淵……698
阿尾湿地……691
粟生の巌……715
赤滝……699
赤滑の漣痕……714
油滝……699
雨乞の滝……702
蜑取島……708
天鳥の褶曲……710
餘倉岩……715
雨泊滝……704
鮎返滝……703
鮎返の滝……700
荒船海岸……708
有田川の河成段丘……696

イ

飯盛岩（玉筍峯）……717
雷の滝……704
和泉山脈……687
市江崎の含礫泥岩ダイアピル……711
市鹿野下流の日置川……696
一の滝（ドン谷滝）……702
市老滝（鎌山滝）……704
犬落ちの滝……702
祝の滝……702
岩谷権現の滝……699
陰陽滝……705

ウ

植魚の滝……705
上野下流の日置川……697
浮島……713
宇久井の浜（地ノ浜）……709
宇久井半島外の取……717
牛鬼の滝……702
牛屋谷のお滝さん……701
臼谷川渓谷……694
姥ヶ滝……700
浦神の虫喰岩……717
裏見の滝……699

エ

江須崎……707
越戒の滝……700
戎島……711
烏帽子山……688
衛門嘉門の滝……700
円月島（高嶋）……687
煙樹ヶ浜……687

オ

逢合滝……704
生石高原……692
扇ヶ浜……708
王子ヶ浜……689
男浦・宮崎鼻・高田海岸……706
大鎌の大滝……703
狼岩……716
大狗子半島……717
大雲取山……688
大倉岩……714
大越の一枚岩……718
大杉滝（A、B）……704
大杉谷……695
大杉谷の滝……703
太田川河口……709
太田川渓谷……695
太田川の環流丘陵地形……697
大滝（大桑大滝）……706
大滝川御滝……701
大塔川……689
大塔川上流の滝……704
大塔川の鮎辺滝……703
大塔山……692
大淵……697
奥番の大規模地すべり跡……693
奥山谷……695
奥山の甌穴……698
御衣干岩……715
押し上げ岩……716
押手付近の有田川……696
押回……697

押分岩……716
お滝さん……703
オトノリ……715
オン崎……716

カ

カガマリの滝……699
笠石……716
重ね岩……716
重畳山……692
樫野崎……714
鹿島……709
片男波……689
勝浦・湯川海岸……690
勝浦温泉……712
勝真山・白山山……713
葛城山……691
ガマ滝……705
釜滝の甌穴……698
鎌滝の甌穴……698
釜中滝……700
神首ノ滝（滝ノ首）……703
かやの滝……702
川湯・湯ノ峰・渡瀬温泉……712
川原河付近の日高川……696
カンタロウ滝……703

キ

紀伊大島南東部の海食崖……690
紀伊大島の海成段丘……691
紀伊大島のタカノ巣礁・舟ゴラ礁……708
紀伊山地……688
奇絶峡……694
北山川……697
清水鉱山跡……718
切目崎……706
切目浜……708

ク

孔島・鈴島……715
串本海岸……709
国主淵……697
熊野の大規模地すべり跡……693
九里峡……694
栗栖川亀甲石包含層……712
九龍島……690
黒島……709
黒蔵滝……703
黒蔵谷……695
黒淵……689
桑ノ木の滝……706

コ

恋小袖の滝……700
河内島……698
高野山……688
小川峡……697
粉河の河成段丘……688
虚空蔵の滝（黒蔵の滝）……700
五光の滝……698
古座川峡……689
古座川の一枚岩……711
御所本の化石漣痕（漣痕岩）……714
五段の滝……699
琴の滝……703
ゴトビキ岩……692
護摩壇山……691
小松の不整合……713
五味付近の日高川……696
小森谷渓谷……694
木守の滝（A, B, C）……702
五郎滝……704
金剛寺の大規模地すべり跡……693
金剛の滝……699

サ

才助滝……703
嵯峨の滝……698
さがりの滝……699
佐野の浜……708
侍岩……717
佐本川渓谷……697
サラシ首層……710
三段洞窟……690

シ

潮岬……687
潮岬の火成岩……711
潮吹岩……708
塩屋海岸……708
猪岩……718
雫の滝……702
地獄の釜……708
地蔵の滝……702
四ノ川渓谷……695
志原千畳敷……707
清水付近の有田川……696
四木山（撞木山）……692
下木守から串にかけての前ノ川……697
修験ノ滝……702
城ヶ崎海岸……707
将軍川……694
庄司ヶ淵……697
少女峰……717
白崎石灰岩……710
白浜温泉……711
白浜の化石漣痕……714
白浜の泥岩岩脈……713
白馬山脈……691
白馬滝……700
白馬の滝……701
白見の滝……706
白良浜……687
白滝……705
深蛇池……690
神水瀑……705
新田の滝……699

ス

須江崎……716
救馬渓……694
救馬渓観音お滝……701
すさみ海岸（枯木灘）……690
鈴川の滝（松瀬の滝）……701

セ

清閑瀞……687
千畳敷……707
蟾蜍岩（ひき岩群）……712
仙人滝……705
千里の浜……689

タ

太地海岸……707
高池の虫喰岩……717
高雄山（高尾山）……692
高田川渓谷……696
高滝……706
高田峡一枚岩……718
高津尾付近の日高川……696
鷹の巣（上人窟）……689
高森・広角台地……691
高山谷の滝……703
滝尻の大規模地すべり跡……693
滝の拝……689
タキワケの滝（大越滝）……706
嶽ノ森山……714
田長谷……694
田辺湾……709
谷口の石炭層……714
田の崎……711
玉川峡……693
玉ノ谷滝……705
達磨石峡谷……693

チ

稚児の滝……699
乳岩……715
千穂ヶ峰……688
茶臼山の天狗巖……715
銚子の滝……699

ツ

津荷海岸……707
次の滝……700
椿海岸……707
釣鐘岩……718

テ

泥岩岩脈……713
天神崎……690
天柱岩（薬研岩）……717
天皇山から白木の海岸……712

ト

塔島洞門……708
塔ノ島の滝……700
戸津井の鍾乳洞……714
友ヶ島……690
鳥屋城山……710
瀞八丁（瀞峡）……710
富田川の河成段丘……696

ナ

中大浜（富田浜）……709
中小屋谷の滝……704
ながしまの滝……704
ナカ滝……704
中津谷の滝……705
長峰山脈……691
那智山……688
那智山渓谷……695
那智大滝……687
那智の浜……708
七色峡……695
七滝……700
七日ぬめり（滑床）……695
名南風鼻……711
鳴谷一の滝……706
鳴谷二の滝……706
成見川渓谷（成見八丁）……695

ニ

西大谷の百間滝……702
西浜……709
西山……692
丹生ノ滝……698
二里ヶ浜……708

ヌ

沼池……692

ネ

根来断層……713

ノ

のの滝……704

ハ

橋杭岩……710
八草の滝……701
八丁平……693
果無山脈……691
鼻白滝……705
吐生の滝（お滝さん）……703
張尾の滝……705
万歳の滝……700
番所の崎……707
伴待瀬海岸……716

ヒ

日置大浜……709
菱の滝……701
日高川殿原の環流丘陵地形……697
ヒツボノ滝……704
一つ落ちの滝……706
日ノ御埼……706
秘文の滝（雄滝・雌滝）……699
姫川の滝……705
百間山渓谷……687
百間の滝……702
平井川渓谷……695
昼嶋……698
便田の滝……703

フ

藤滝……700
ぶつぶつ川……706
不動滝（手水の滝）……698
不動の滝……699
不動ノ滝……701
不動ノ滝（青蛇の滝）……700
不動山の巨石（不動岩）……715
伏菟野の大規模地すべり跡……693
舟岡山（川中島）……698
文蔵の滝……698
分嶺ノ滝……701

ヘ

平治の滝……703
蛇尾の滝……701
ヘヤ滝……705
弁天島・お蛇浦……708・713

ホ

忘帰洞……690
坊主岩……717
蓬莱山……692
宝竜滝……705
細尾の滝……702
牡丹岩……717
保呂の虫喰い岩……714

マ

前ノ川渓谷……694
まぼろしの滝……705
丸山……712
曼陀羅の滝……700

ミ

三重の滝……699
見草崎……707
見草の大池・小池……692
水滝不動滝……701
皆地のふけ田……689
明恵峡……694
妙法山……688
妙呂寺滝……706

ム

椋呂の火成岩……718

メ

夫婦岩（立巌）……716
夫婦ノ滝（観音滝）……701
夫婦の滝（A, B）……702

モ

モミジ滝……704
門前の大岩……715

ヤ

安井下流の日高川……696
安川渓谷……694

ユ

湯川川の滝……701
湯川ゆかし潟……691

リ

龍神温泉……712
龍神岳……692
龍門山……691
龍門山の磁石岩……716
臨海海岸……709

ワ

和歌浦・雑賀崎……689
鷲の川滝 ……701
和田川……688
和深～二色海岸……707
円座石……715

●生物多様性保全上注目すべき地域

ア

有田川流域 ……727

ウ

宇久井半島 ……742

オ

生石高原周辺 ……727
王子ヶ浜及び孔島・鈴島周辺 ……743
大塔山周辺 ……735
大森山周辺 ……736

カ

笠甫の湿地植生……733
加太沿岸域 ……722

キ

紀伊大島周辺 ……739
紀伊風土記の丘及び大日山周辺……723
紀ノ川流域 ……724
切目川河口域 ……730

ク

串本町東岸域～下里・太地町沿岸及びゆかし潟…740
熊野川流域 ……745

コ

高野山周辺 ……726
古座川流域 ……741
琴の滝周辺 ……737
御坊市・日高郡・田辺市のため池群 ……731

シ

白馬・護摩壇山系 ……728
白見山……744
新宮藺沢浮島の森 ……743

ス

すさみ町～串本町西岸域 ……738

タ

田辺湾周辺 ……732

チ

千穂ヶ峯 ……743

ト

富田川流域 ……733

ナ

那智山周辺 ……742

ニ

西有田～煙樹海岸 ……729

ネ

根来山げんきの森及び春日神社周辺 ……723

ハ

果無山脈 ……734

ヒ

ひき岩群 ……731
日置川流域 ……736
日高川流域 ……730
平池周辺 ……725

ヨ

要害森山 ……734

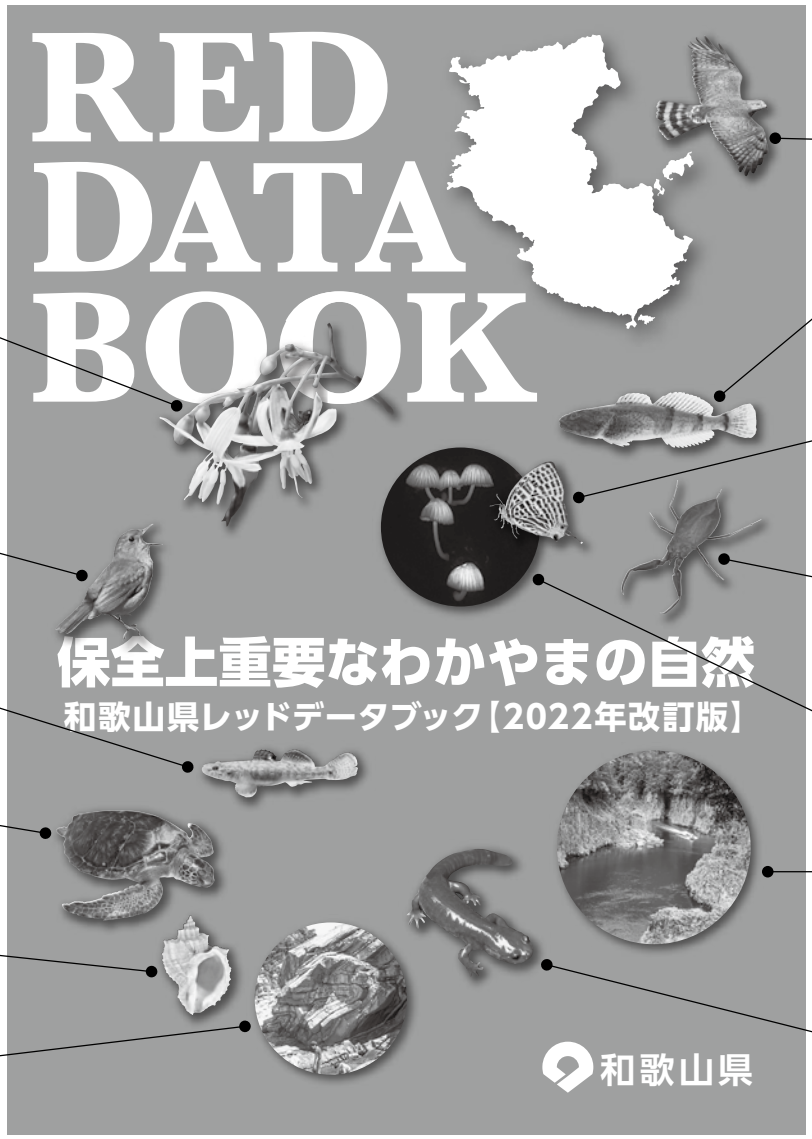
リ

龍門山……725

ワ

和歌山城公園 ……722
和田川峡 ……744

表 紙 写 真



サシバ
（準絶滅危惧）
P111
写真提供：沼野正博氏

カマキリ（アユカケ）
（絶滅危惧Ⅰ類）
P148
写真提供：國島大河氏

ウラナミアカシジミ
紀伊半島南部亜種
（学術的重要）
P273
写真提供：大橋弘和氏

ヒメタイコウチ
（絶滅危惧Ⅰ類）
P197
写真提供：松野茂富氏

シイノトモシビタケ
（絶滅危惧Ⅱ類）
P513
写真提供：菌類専門部会

瀞八丁（瀞峡）
（地質：Bランク）
P710
写真提供：吉松敏隆氏

オオダイガハラ
サンショウウオ
（絶滅危惧Ⅰ類）
P128
写真提供：玉井済夫氏

キキョウラン
（準絶滅危惧）
P565・610
写真提供：
和歌山県立自然博物館

コマドリ
（絶滅危惧ⅠA類）
P92
写真提供：沼野正博氏

ウキゴリ
（準絶滅危惧）
P165
写真提供：平嶋健太郎氏

アオウミガメ
（準絶滅危惧）
P121
写真提供：平井厚志氏

トカシオリイレ
（絶滅危惧Ⅰ類）
P296
写真提供：三長秀男氏

天鳥の褶曲
（地質：Aランク）
P710
写真提供：吉松敏隆氏

本書には、令和４年７月31日現在の情報を掲載しています。

保全上重要なわかやまの自然

― 和歌山県レッドデータブック ―

［2022年改訂版］

令和４年11月発行

編集・発行　和歌山県環境生活部環境政策局
環境生活総務課自然環境室
〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目１番地
TEL 073（432）4111（代表）

許可無く転載・複製を禁じます。

この印刷物は地球環境に優しい
ベジタブルインキを使用しています。



RED DATA BOOK

保全上重要なわかやまの自然

和歌山県レッドデータブック【2022年改訂版】

和歌山県